教育・保育施設等における事故情報データベース【令和６年６月10日更新】

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9000	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									1	1	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	常時は4歳児27名を2名の保育教諭で見ているが、当時はコロナで休んでいた保育教諭の補助に１名が回っていたため、当日在籍の４歳児23名を保育教諭1名で見ていた。	・当児の予想される動きを見据え、注意喚起をする。 ・普段より配置が薄くなる場合は、特に遊びの環境を考慮する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・園庭ににぬかるみがみられ、靴の裏が滑りやすくなっていた。 ・着地点にぬかるみはなかったので、当児も保育者も滑りやすいことに気付かなかった	・遊具だけでなく、園庭全体でぬかるみがみられる場合は特に気を付ける。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	・動きの活発な児童を把握し、見守り及び声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2～3メートル離れた位置からほかの児童と話しながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ていたのは4歳児23名・教諭1名のみ	常時と異なる職員配置であった。	担任であっても、常時と異なる職員数で保育する場合は特に気を付ける。	
9001	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左耳鼓膜損傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	該当なし	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	該当なし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	手にせんだんの枝を持って遊んでいたことが怪我に繋がる要因の一つとも考えられる。	園児たち自身が発想した遊びを否定したり、自然物を除外することは不可能であるが、園児たちの行動や様子に気を配り、様々なリスクを想定した見守りと必要に応じた声掛けを丁寧にしていく。	1.いつもどおりの様子であった	体調面に変わりはなくいつも通りであったが、寝転んでいた。そこに他児が現れ寝転んでいたために、本児の耳の穴があらわになっているのを見つけて枝を入れてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は、本児達の存在や遊んでいる様子は知っていたが、他児の行動には予測が出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には3歳児クラスのみで2人の職員がいたが、一方の職員はその他の子どもの対応をしていた。	特になし	子どもの動きを予測し、職員間でさらに連携をしていく。	
9002	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	全職員に事故発生の状況を伝え、原因分析、対策を考えていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	隣同士が近くなっていた。	環境を広くできるように、棚などの配置を見直す。	1.集団活動中・見守りあり	—	子どもと子どもの間隔をあけて座ようにする。	1.いつもどおりの様子であった	両手を床につけ正座をし絵本を見ていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	前で絵本の読み聞かせをしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	座っている子どもの後ろから座って見守っていた	絵本をみんなで見るために集まって座っていた為。	子どもの間隔をあけて座っているか確認する。	
9003	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	5			2	2	1				1	1	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3～4	2.基準配置	周りの子の走るスピードや方向転換する予測に欠けていた（職員も同等に走ってしまった）。報告・連絡・相談のタイミングを逸している。	職員は子どもに接近して走ると足を踏む可能性があること、職員の靴の配慮をすること。報告・連絡・相談は必須事項であり、再度周知徹底する。	2.不定期に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	—	園庭、室内外含めて数人の目で安全確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	小人数であったがケガをさせてしまった。注意欠損。	職員は、靴を脱いで走る。	1.いつもどおりの様子であった	いっぱい走り活発であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に走って遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は雑用業務をしていた。	5名の園児対応であったので、保育教諭は1名で適時。	全員共有で、靴の重みで子どもが骨折する可能性があることを再認識する。	
9004	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									2	2	15.3歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇裂創、右上顎A 脱臼、左上顎A陥入	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	1.基準以上配置	コロナ禍により、事故予防に関する研修に参加することができなかった。	今後、研修の機会があれば参加し、職員一人一人の安全意識を高めていきたい。	1.定期的に実施	–	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	295	特になし	遊具の周囲に屋外用マットを置く	1.集団活動中・見守りあり	降園前には、子どもの目が行き届くよう落ち着いて過ごせるような活動をする。遊戯室で遊ぶ時の運動遊具の数を減らす。安全に遊べるように遊び方の約束をする。	子どもの姿を予想して、サーキットの作り方や組み合わせ方をよく考える。危険だと思う場所や遊具は使用しない。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	巧技台と平均台の組み合わせの手前で子供を見守っていたが、対象児がマットで足を滑らせた瞬間、手を差し伸べようとしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	フープやボールで遊ぶ他児の様子を見守っていたため、すぐに対応できなかった。	遊戯室で子どもたちが自由に遊ぶには広範囲で目が行き届かない。	遊戯室で運動遊具を出して遊ぶ時には、十分目が行き届き援助できる職員がいる時に遊ぶようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9005	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	52				14	15	23			4	2	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	預かり保育時間中で異年齢児で過ごす。本児も室内を走っていて、保育教諭が注意をしようとした際に他児とぶつかった。	5月という時期で園生活にまだ慣れていない園児もいるため、室内での遊び方やルールを丁寧に指導する。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	295	特になし	机の配置を変える又は片付ける	3.個人活動中・見守りあり	特になし	未然に事故を防ぐためにも、職員が約束事を伝え危険な状況にならないよう配慮する。室内を玩具の種類ごとにコーナー割し、走ったり大きく動き回らないような状態を作る。	1.いつもどおりの様子であった	室内を走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児とぶつかるところを目撃した。首から肩にかけて痛みを訴えたため、すぐに冷やして様子をみた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていたり、お迎えの保護者の対応等をしていたり、担当の仕事をしていた。	室内を走っていることに早く気付くようすべきだった。	事故を予測し、未然に防げるように強化していく。	
9006	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									1	1	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	常時は4歳児27名を2名の保育教諭で見ているが、当時はコロナで休んでいた保育教諭の補助に１名が回っていたため、当日在籍の４歳児23名を保育教諭1名で見ていた。	・当児の予想される動きを見据え、注意喚起をする。・普段より配置が薄くなる場合は、特に遊びの環境を考慮する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・園庭ににぬかるみがみられ、靴の裏が滑りやすくなっていた。・着地点にぬかるみはなかったので、当児も保育者も滑りやすいことに気が付かなかった	・遊具だけでなく、園庭全体でぬかるみがみられる場合は特に気を付ける。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	・動きの活発な児童を把握し、見守り及び声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2～3メートル離れた位置からほかの児童と話しながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ていたのは4歳児23名・教諭1名のみ	常時と異なる職員配置であった。	担任であっても、常時と異なる職員数で保育する場合は特に気を付ける。	
9007	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	33				10	23				3	2	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	第５指基節骨、第４指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	–	2.基準配置	階段の上から手すりを持って降りるように声を掛ながら見守っていたが、左手に巾着袋を持っており、転倒した際に上手く手をつけなかった可能性がある。	階段を下りている間は、中央付近での見守りを１名増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	–	—	階段の滑り止めの見直し。	3.個人活動中・見守りあり	—	階段の昇り降りの指導を強化する。	1.いつもどおりの様子であった	片手に荷物を持ち、手すりを握りながら降りていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	階段の一番上から声をかけながら見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	階段下の少し離れたところで、他の園児の対応をしていた。	—	見守りの人数を増やす。職員が道具類を降ろし、手をつける状態にする。	
9008	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									4	4	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左足中そつ骨　骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	はっきりした原因は特定できないが、保育教諭の気づかない所があったかもしれない。	子どもから目を離さないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	当園の一時預かりを利用していたので慣れているところはあったが、一時保育の保育室と違っていた	ぶつかりそうなところ、落としたら重たいおもちゃを確認する。	1.集団活動中・見守りあり	保育初日ということもあり気持ちを落ち着けるような場所や遊びを考える。	他の保育教諭と連携をとって死角を作らないようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体で見ていた。いろいろな保育教諭が関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス別保育に入っていたのでクラス内の保育教諭で保育していた	もう少し個別に対応するべきだった。	手薄になっている時間があったか、もう一度確認していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他			年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9009	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	47								5	5	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	芝マットの砂の量が多く、マットのクッション性が低減していた。	骨折予防で常時敷いている芝マットの砂を取り除き、より安全に遊べるように環境整備を行った。今後は定期的に砂を取り除いていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	園庭あそび中、うんていにぶら下がってあそんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	うんていの補助についていた。（一人でうんていにぶらさがったり進むのが難しい場合は、身体を支えたり危険がないように見守りを常に行っている）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各遊具の補助についていた。（全体が見渡せる場所にいた）	特になし	今後は、年齢に合った取り組み内容であるか、よく検する。補助が必要な児童はすぐ傍につき、すぐに体を支えることができるように配慮する。	
9010	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	43				8	10	25		6	6	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足ふくらはぎ部分骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	ロッククライミングの裏側が死角になりやすく、職員の目が行き届かないことがあった。	ロッククライミングの裏側を閉鎖し、職員の目が行き届くように改善した。	1.集団活動中・見守りあり	ロッククライミングに登っていた他児が上から降りようとしていることに気付かず、その下を走り去ろうとしてしまった。	ロッククライミング付近は走って通ったりしないよう、また遊び方について約束事を再度子ども達に知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ロッククライミングに登っていた子どもが降りてくるのを見守っており、対象児がその下を通っていることには気付かなかったが、転倒する瞬間は見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にはいたが、他児と関わっていた為本児に気付かなかった	総合遊具付近は走らないよう声を掛け、遊んでいる間は職員が総合遊具のそばについて常時見守るようにする。	総合遊具の近くでは職員がそばについて、走ったり危険な動きがないか見守る必要があった。	
9011	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	3								4	2	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首の剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	固定遊具や用具で遊ぶときの見守り方を繰り返し研修し、実践する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全点検は十分しているので、改善することは特になし。	3.個人活動中・見守りあり	—	もう一度、クラス全体で遊び方の確認をする。	1.いつもどおりの様子であった	あまり出していない遊具に興味を持ち、友達と一緒に集まって遊んでバランスを崩してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守っており、本児がバランスを崩した後足の痛みを訴えたため保冷剤で冷やした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊びをしている子どもについて見守っていた。	—	けがをしないように他の職員も絶えず全体を見渡して、さらに声掛け合うようにする。	
9012	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10								1	1	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	研修等を実施し、職員数も基準内であるが、危険予測が不十分であった。	常に危機管理意識をもち、保育に当たる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	オニごっこをしている範囲内に、障害物（滑り台）があった。	活動内容によって、遊ぶ場所の限定をする等十分に安全を考慮する。	1.集団活動中・見守りあり	オニに集中しすぎて、周りが見えずに走ってしまった。	活動内容や時間帯を考慮したり、障害物がない広い場所で遊ぶよう安全指導したりする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちや保育者と一緒にオニごっこを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	オニごっこを始めた直後で、他児と一緒にオニから離れたところだった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	5歳児ということもあり子どもたち同士で遊び始めていたため、少し離れた場所から遊びの様子を見守っていた。	子どもの行動予測や怪我につながる可能性を予測できていなかった。	今後、遊び始める前に周囲の様子をよく見ながら逃げるように知らせていく。	
9013	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	55					12	43		6	3	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	遊ぶ前に子ども達との安全な遊び方の確認・指導を行っていたが、その場にふさわしい遊び方を再確認していく必要がある。	子ども達の動きを予測し、どのような場面が考えられるか話し合い、援助・安全確認をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	日常的に利用している園庭での遊具であるが、安全点検・遊び方を職員・園児とその都度再確認する。	子ども達の動きを予測し、どのような場面が考えられるか話し合い、援助・安全確認をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	いつも遊んでいる遊具だったが、手を滑らせてしまった。	子どもの行動を予測して安全点検・遊び方の再確認をする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯での遊び、上手になった様子を先生にみてもらおうとして、早い動きで雲梯を渡った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は少し離れたところにいたが、支援ヘルパーがその場に一緒にいて本児の様子を見ていた。動きが早く危険を感じ声をかけたが、その瞬間に落下してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれのクラスの保育、職員室での業務を行っていた。	園庭での解放感を感じながら、子ども達の活発な動きの遊ぶ子どもの動きに気をつけながら援助する。	意欲的に遊ぶ姿を認めながらも、子ども達の活発な動きに、どう対応するか、職員の立ち位置・分担を再確認していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項			
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9014	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	29								5	5	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨・尺骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	—	あらゆる可能性を考えて観察を行う。職員間で今回の事故の情報を共有し、事故の分析を行い再発防止に努める。	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	—	今回の事故に関して、施設・設備の影響はなく、改善の必要なし。	3.個人活動中・見守りあり	動的な環境が多く、動き回る園児の姿があった。	絵本を読んだり落ち着いた環境を設けるなど、環境の見直しを行う。動的遊びと静的遊びの環境を分けて設定する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1名は電車あそびを見守りながら他児の促しもしていた。もう一名は着替える園児の見守りをしながら本児の様子も確認していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	食事をしている園児の見守り片づけをしていた。園児の寝かしつけをしていた。	様々に動き回る園児が他児を踏んでしまう可能性を予測できていなかった。	危険を予測した保育環境の設定を行う。園児への言葉かけを適宜行う。	
9015	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	60			20	20	20			7	7	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	職員それぞれの危機管理の違い	全職員が同じ危機管理意識を持てるように会議等で話し合う	2.不定期に実施	3～4	2.不定期に実施	3～4	2.不定期に実施	3～4	園内外を仕切っているフェンス株の固い部分はそのままだが、段差になっている部分はクッションあり。	下腿部分にもクッション性のあるものを使用するかは検討する。	1.集団活動中・見守りあり	友だちと元気よく園庭を走り回っていた。	ハイテンションとなった気持ちに身体が追い付かず、バランスを崩したと考えられるため、日頃の体力強化や身体の使い方を考える。	1.いつもどおりの様子であった	いっぱい走り活発であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ピードが出ていたり、危ない状況には言葉がけを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	その日の子どもの状態、気分が高揚していたと考えられる。	小まめに言葉かけをしたり、危ない状況を認めたりした場合は止めるようにする。	
9016	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16								4	4	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左手裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	研修やマニュアルで学んではいるが、日常の保育に活かされていないところがみられる。	事故発生時の状況や要因を職員間で共有し、事故防止の対策に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	ゲームボックスを使っての遊びの様子や危険を把握できなかった。	遊びの様子を見守りながら危険を防ぐことができるよう、遊びの内容を見直す。	1.集団活動中・見守りあり	台から飛び降りる部分にマットを敷いていなかった。	遊具を使用する際は高さにかかわらず、マットを使用する。	1.いつもどおりの様子であった	ゲームボックスを並べて作った道の上を歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	平均台見守り、梯子見守り、遊具の位置修正、列になった子どもの見守り。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた。	子どもの運動能力、普段の様子から危険を予想することが不十分だった。	事故の要因、職員配置など安全管理の見直しを行う。	
9017	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								2	2	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2,3	2.基準配置	普段の遊びや場所であることで、危機感を持ちにくかった。	職員の危機管理意識を高めるとともに怪我の発生状況について職員周知を行ない、同じような怪我が防げるようにする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	3	安全点検は定期的に実施している。床面に問題はなかった。	子どもの遊びに合わせて環境の再構成をする。	1.集団活動中・見守りあり	保育者は一緒に遊んでいたが、着地した時の足の状況ははっきり見られていなかった。	保育者は子どもの姿に気を配り、咄嗟の対応ができるようにするとともに怪我が起きた時には状況を正確に確認する。	1.いつもどおりの様子であった	ジャンプしていた際、着地に失敗し、足首をひねる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児のそばにいたが、着地した時の怪我の部位となる所の動きは把握していなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れた場で他児の遊びを見ていたため、対象児の様子は見ていなかった。	規定通りの人数で保育に当たっていたが、いつも遊んでいる安全な場であったため危機意識が持ちにくく、ケガの部位となる所の動きが見られていなかった。	どんな状況であっても危険がないか常に危機意識をもって見守る。	
9018	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	31	0	3	10	1	8	9	0	9	8	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	園庭遊び時の危険の認識について差がある	園庭遊び時の危険状況の再確認	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	他の園児が使用した後、片づけられずにおいてあった三輪車があった。普段園児が片づけるように声掛けをしているが、職員が片づけることもあった。	三輪車を園児だけで片づけるには三輪車置き場が狭いため、一時的に園児が片づける場所を決めておく	7.その他	園庭に使用していない三輪車があった。ぶつかった三輪車とは別に２台ほど三輪車が出ていた。	使用しない三輪車は片づけるように声掛けをし、放置されている場合にはすぐに職員が片づけるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで逃げる際、追いかけてくる鬼の方を見ながら走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が鬼ごっこをしているところを見て「ぶつからないように」「前見てね」と声かけをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭でその他の園児の保育を行っていた	—	鬼ごっこを行う際には安全な環境が整っているかを確認してから行う。鬼ごっこと三輪車・ボールなどは一緒に行わない。こども主導で始めた場合には環境を整えるまで違う遊びへ誘う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9019	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20									2	2	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	本児の体づかいの不器用さ・体幹の弱さがある。	体を使った遊びをより多く体験させていく。	1.定期的に実施	261	1.定期的に実施	265	1.定期的に実施	211	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	—	支度をする場所を明確にし習慣化させていくよう指導していく。支度をすませてからから遊ぶ場所を決めておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもと違い、気持ちが落ち着かず、興奮してしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	担任が遅番のため不在。他の職員が対応に当たる直前の出来事だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育者2名で子どもを見ていた。（他の園児の対応をしていた。）	—	担任がいない場合には、他の職員が早い時からフォローに入るようにする。	
9020	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	54			14	12	16	12			3	3	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	他園児と遊んでいる際に楽しくなり気持ちが高ぶってしまっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他園児のお迎えなどにより目を離したため、怪我をした瞬間を見逃してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他園児をみていたり、お迎えの対応などもあり見ていなかった。	—	怪我の瞬間や状況が把握できるように、引き続き園庭全体に注意を向けていく。	
9021	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右人差し指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2,3	2.基準配置	園児の危険と予想される動きに対する危機意識が欠けていた。	職員の危険予知と転倒等した時の処置への判断能力を高め、同じような怪我が防げるようにする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	3	廊下には特に障害物などなく問題はなかった。	日頃から、通路となるところは整理整頓しておく。	1.集団活動中・見守りあり	後ろ向きの歩行をするにあたっての安全な環境や状況ではなかった。	状況を見極め、安全な場でするように促す。	1.いつもどおりの様子であった	周囲の友だちや職員と歩く際、本児だけが後ろ向きに歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が後ろ向きに歩いていることは認識していたが、転倒する際距離があり受けとめることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場で保育をしていたため、本児の動きを見ていなかった。	園児の危険が予想される動きに対する危機意識が低かった。	危険と考えられる行動を職員間で周知し、職員全体の危機意識を高める。	
9022	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	11	8	11	10	11	14	0	0		11	11	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	–	2.基準配置	—	マニュアルに沿った保育を心掛けるよう再確認	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭が広いため、ある程度子どもたちに活動範囲の限界を認知させる必要がある。	三輪車などの乗り物の使用制限	1.集団活動中・見守りあり	—	マニュアルに沿った保育を心掛けるよう再確認	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	三輪車に乗っている事実は確認していたが、転倒を阻止する手立てはなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	スピードを出しすぎた本児の運転操作ミス	乗り方の指導	
9023	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14									7	7	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	—	子どもにかかわる人を増やし、教師が集まらず全体を意識して子どもの動きを見るようにした。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	—	園庭、室内外含めて数人の目で安全確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	—	子どもが自由に楽しく遊んでいるから安心ではなく、子ども一人ひとりの心の様子、友だちとの動きなどよく見て教師間での情報の共有をするようにした。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	親友との追いかけっこで捕まりたくないという思いが、慌てて走る大きな要因になった。年長児だから大丈夫だと思わず目を離さないようにする。	引き戸のレール上に滑り止めのシートを置いた。室内、廊下は走らないようにした。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9024	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25				9	8	8			4	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	配置は適切であったと思われる。研修等で安全意識を高め、定期点検以外のときでも危ない箇所を発見できるようにしていく必要がある。	立ち位置を工夫しり広い視野で見守るようにする。雨風や園児の動きによって摩耗したりずれたりする道具や遊具を把握し、早期に異常を発見するよう努める。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	マットの下の土壌に凸凹（1cm前後）生じて、マット同士の隙間が少し浮いていた。	事故後すぐに(当日中に)、マット下の土壌を均し、マットの隙間が浮かないように改善した。	1.集団活動中・見守りあり	年長児の鬼ごっことしては使用範囲は適切であったと思われる。遊びの特性上、影や追いかけられにくい場所に行くことは予想すべきであった。その範囲にあるマットの状態の保守に至らない点があった。	保育者がより広い視野で見守るようにする。定期点検以外も職員が異常に気づくよう努める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段通り、活発であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児のいる位置については把握していたが、遊びの特性上、すぐ近くにいたわけではない。転倒するその時の動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこをしていたため当該児が一人離れた状況にだった。	鬼ごっこをしていたことは把握していたが、対象児の動きそのものは見ていなかった。	各職員が、より広い視野で見守るようにする。	
9025	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37				12	12	13			3	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特にありません	人員配置を満たしており、特にありません	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特にありません	定期的な安全点検をしており、特にありません	1.集団活動中・見守りあり	園児はそれぞれ好きな遊びとしていた。職員は、一人でボール遊びをしている本児を離れた場所から見守っていたが、近くにはいなかった。	ボール遊びをしたい園児は、担当職員に声を掛け担当職員がボールを用意し、近くで見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	担当職員と少し離れた場所で、1人でボール遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が1人でボール遊びをしているところを離れた所で見ながら、他の園児の補助(ターザンロープ遊び)をしていた。泣き声で転んでいる本児に駆け寄る。倒れた瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の至近にいたり、降園児の引き渡しを行っていた。本児の鳴き声は聞こえたが、担当職員が対応したため、他の園児の保育を継続した。	ボール遊びをする園児には、担当職員はボール遊びを行う園児につくようにする。	園児がころぶことを未然に防ぐことは難しいが、ボール遊びをする際は、時間や場所を指定して職員を配置することで、事故が起きた後の対応を素早く行うことができると思われる。	
9026	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12				4	5	3			2	2	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	事前に子どもと危険を確認し、阻止することができなかった。	実際に事故の起きた場所で、子どもたちと危険の確認と約束をする。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	12	—	柵なので遊具ではないが、子どもたちが遊んでしまった場合を想定し、転倒した際のケガ防止のクッション等を下に敷く。	1.集団活動中・見守りあり	危険防止の柵も遊具として扱われてしまった。	実際の場所に立ち会い、危険箇所や注意事項を子どもたちと確認する。	1.いつもどおりの様子であった	学年も大きくなり、活発になると共に危険な遊びもできるようになった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見る中で危険に気付き、園児に注意喚起をするが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見てはいたが、危険には気付かなかった。	対象児は以前にも注意をされたことがあったが、その遊びに慣れてしまっていた。	職員も園児も慣れてしまわないよう、定期的に危険箇所や危険事項の確認を行う。	
9027	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	75									4	4	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足くるぶし付近の軟骨骨折（骨端線損傷）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	2.不定期に実施	300	築山での怪我が他児でも続いている。	危険個所がないか、再度確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	他児と鬼ごっこをしていて、急いで築山を下り降りた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡したり、他児と遊んだりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭を全体的に使って、通常通りに遊んでいたため、特別に至近距離で見守るということはしていなかった。	築山で走ったり、急いだりしたことで、足を怪我したり、転んだりすることが多い。	坂によりバランスを崩しやすくなるため、全体を見渡す際も築山の近くにいたり、興奮状態の時や、走ったりする際は手を差し伸べたり声かけを積極的に行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9028	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	70				19	28	23			8	8	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	公園で走って遊ぶ中で転んでしまうことはあるが、転び方や手のつき方により大けがにつながった。また、公園での遊びの時間ではしゃぎすぎた面もあった	子どもたちの楽しい気持ちの中に安全面を考えられるように、機会あるごとに指導していく。運動面においても様々な体の動きを経験できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	地域の公園で過ごす中での怪我だった。よく整備されていた。	今後も下見に行き安全面の確認をしていく	1.集団活動中・見守りあり	公園で遊ぶことがられしく、注意力散漫であった。	子どもたちの楽しい気持ちの中にも安全について考えられるように、機会あるごとに指導していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	公園で楽しく遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ながら近くにいる子に声をかけたり関わったりしていたが、本児が転んだ時には、見ておらず、泣き声で気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内に散らばり、それぞれ全体を見ながら子どもたちと関わっていた。	—	事故発生について状況を把握し、予測・予防ができるようにする。	
9029	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	51				26	25				3	3	16.4歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指開放骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	自立のために自分のことは自分で行うようにしていた。その一環で布団も片付けていた。	園児に自分の布団はたたむだけにすることを知らせ、職員も周知する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	施設や設備には特に関連はない	3.個人活動中・見守りあり	4歳児は自立のために出来ることは自分で行うようにしており、布団を片付ける習慣があった。	子どもの自立のための行動を見直し、布団の片付けは職員が行うことになった。	1.いつもどおりの様子であった	クラスでも最後の方に起床した。いつものように布団を片付けにいった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもを見ながら、ベッド及び布団の片付けを行っていた。普段と違う様子は感じなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じようにベッドと布団の片付けを行っていた。	園児が布団を運ぶ行為は自分のことは自分で行う一環で、普段から行っていたことだったので事故の予測に欠けていた。	安全管理マニュアルを職員全員で再確認した。	
9030	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	124	0	4	9	33	35	43			23	23	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕骨上顆骨欠損	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	緊急マニュアル読み合わせは年度当初に計画しているが、職員会議参加者中心であること、想定が一般的な例だけで実際の対応に即していなかった。通常保育では給食後の保育者は3人態勢だったが当日は2人だった。	緊急マニュアル読み合わせは年度当初だけでなく外部講師を交えた園内研修を計画し、実際の対応に即して行動できる内容にする。保育態勢の人数を確保すると同時に、どこまでの時間園児の行動範囲をカバーするかきめ細かな計画を週案立案の段階で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具入れ棚の近くに、滑り台などがあり、棚に上れる環境があった。保育者の死角を減らすような環境設定が不十分だった。	遊具入れ棚に上がれないよう滑り台等を別の場所に移動した。防犯カメラからの死角をなくす位置の工夫、枝の選定をする。万が一保育の目から漏れて一人で過ごしても重大事故につながらない遊具、園庭、舎内設備であるか、全職員の目や保護者の声を活かした環境設定をする。高さが1m以下でもリスクがある遊具の周囲には緩衝材を設置する。	6.食事(おやつ)中	個別支援が必要な園児に対して、適切な支援が行われなかった。保護者との日常の連携が不十分で心配事に応えきれなかった。	発達相談、支援アドバイザーなど専門的な見地からも園児の様子を観察してもらい、日常保育に生かす。どの子もストレスなく、やりたいことができる環境をハードとソフトの両面から考える。必要に応じて保護者相談にも応じて保育指導や保護者支援に生かす。	1.いつもどおりの様子であった	給食後、他の園児と室内にいたが、飽きて園庭に出て歩き始めた。一度は保育者と室内に入るが再度出たくなって勢入れに乗ったり降りたりして遊んだ。注意した男児と揉めて物入から地面に落下した。部屋に戻ろうとしたが、再度男児に倒されて負傷し動けなくなっていた。落下した時点で骨折をし、さらに男児が圧力を加えたため重傷化したと推測される。	4.対象児の動きを見ていなかった	給食後の個別指導で、食事の介助、絵本の読み聞かせ、トイレ指導等をしていた。被災児が園庭に出たので、連れ戻して絵本の読み聞かせ等をした。しばらく室内にいたが飽きてしまい2回目の外出をした。2人で18人の園児を保育していた為、被災児の外出とそれを追って出た男児の動きに対応できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	未満児クラスの職員が給食のカートを返却した時には園庭に園児の姿は見なかった。返却後、適りかかったら被災児の脇に男児が立っていたので「どうしたの？」と尋ねると男児は走って部屋に戻った。泣いている対象児を抱えて職員室に運んだ。	幼稚部職員は欠員があったが、保育部職員を含めた人員は基準以上にいたが、手薄なクラス、時間帯に適切な人員配置がなされなかった。	シフト作成時、週案立案時、当日とどの段階でも園児数に対する適切な職員配置がなされているか、担当職員だけでなく園長も確認して応援が必要な保育態勢には数日単位から、時間単位まできめ細かく配慮する。クラスごとの保育の様子を時間帯によって適切に園児主体になれているか。観察してその都度保育者の声も聞く。	
9031	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									2	2	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折、左橈骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	適宜	1.基準以上配置	特になし	上記のとおりの予防策を今後も実施	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	上記のとおりの予防策を今後も実施	1.集団活動中・見守りあり	特になし	上記のとおりの予防策を今後も実施	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	跳び箱を跳ぼうとする、本児の気持ちが高揚して助走に拍車がかかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児が跳び箱から落ちないよう、跳び箱の横で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具で遊んでいる子どもたちを見守りながら、跳び箱付近にいる子どもたちも見守りができるよう配置	特になし	子どもたちの気持ちを考慮し、声掛けなどをして危険回避を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9032	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	0	0	0	2	17	6			4	4	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯根破折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	掃除用モップは子ども達が掃除を目的に使用するのは許可している。片づけの時間で周りの職員がモップを取り合う状況に気づけなかった。	子どもの動きに注意をはらう。	1.定期的に実施	毎朝	1.定期的に実施	毎朝	1.定期的に実施	毎朝	掃除用具は子どもも使用するため、いつでも手の届くところにある。	このような状況の際に思わぬことで事故になることがあるので、遊具以外の道具を使用しているときは保育教諭は特に注意をはらう。	3.個人活動中・見守りあり	外でも遊んでいたため、着替えなど担当職員の動きも流動的な時間帯であった。	無線を活用し、子どもの状況を伝えあいながら全体で行動を把握する。	1.いつもどおりの様子であった	片づけをしたいという気持ちが大きかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにいて泣き声がしたので声の方を見たら泣いていた。どうしたか尋ねると2人でモップの取り合いをしていて、歯にぶつかったという事であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、柱などがあり事故が起きた場所は死角となっていた。	日頃の子どもの友達関係において、物の取り合いが見受けられていた。	友達関係の把握を職員間で共有する。	
9033	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									1	1	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左内股骨折（ひび）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	勉強会や安全委員会を通して事故の検証を行い改善・予防に努めているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	床に躓くものがあったり、滑りやすい状況ではなかった。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの出入りが多いタイミングで床にしゃがんでいることが事故につながるかもしれないという意識が欠けていた	危険な場面を想定し、日々の保育環境を整える。出入りの多い場所・人の多く集まるところの動線に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	トイレから戻ってきた本児が床にしゃがんでいたが、どうしてしゃがんだのかは不明。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス内で子どもたちの様子を見ながら机の上にあったシールを片付けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内に他の職員はいなかった。	しゃがんでいる様子を見て危険だという認識に欠けていたため声をかける等対応が遅れた	他児とぶつかる可能性のある場合には、既往歴がある本児を別な安全な場所に移動を促す	
9034	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									5	5	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨頚部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	登ってはいけない場所（大型遊具の屋根）に登り座っていた。	園児に登らないように周知確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	下に敷いてあるマットの高低差を定期的に確認しチェックする。	マットの高さに偏りがないか念入りに確認する。	1.集団活動中・見守りあり	大型遊具付近に子どもが密集していた。	密にならない程度の人数に遊ぶ場所（位置）を分けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	保育者一人が別の子の手当てをしていて、全体を見ていなかった。	なるべく子ども全体が把握できる場所に保育者一人は必ず立ち、子どもを見守る。	
9035	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									2	1	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	—	遊具の使い方によっては怪我に繋がるため、事故に直結するような場合はすぐに止め使い方を伝える。広いホールでも常に園児の遊びの状況を把握している。困難な場合は、遊びの環境を目の届く範囲にする等も含め、今後の事故防止研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	遊具、玩具の使い方によっては、怪我につながるため職員間で把握、研修をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	担任が片付けを呼び掛けていたが、本児は気付かず遊び続けており、担任も保育補助も本児の遊びを見ていなかった。	片付けの最中でも保育職員どちらかは、全体を把握しておく必要があった。今後の職員間での確認と子どもの遊びの環境設定の工夫と判断をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの対応	4.対象児の動きを見ていなかった	ホール半面でドッチボールをしていた子に片付けの呼び掛けと子どもと一緒に片付けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールの半面で大型積み木で遊んでいる子に片付けを呼びかけ、積み木を積んでいる壁のところで子ども達が持ってきた積み木を重ねていた。	担任が片付けを呼び掛けていたが、遊びを続けており、担任も保育補助も本児の遊びを見ていなかった。	片付けの最中でも保育職員どちらかは、全体を把握しておく必要があった。そこを意識して子どもの遊びを見守れるよう職員間で検証しながら確認をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9036	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									3	2	13.1歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	末梢骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	オンラインや少人数での研修など、事故防止への意識啓発の機会を設ける。毎日「その日にあったヒヤリハット」を終礼で確認。(実施中)	2.不定期に実施	数回	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	約300（毎日）	対象児が登ったり触ったりしないように棚の位置を変えた。	児童が登ったので棚が倒れた。	1.集団活動中・見守りあり	手を伸ばしたらぶらさがることができ、軽い棚を仕切りとして設置していた。	棚の位置を変え、壁にくっつけて使用する。	1.いつもどおりの様子であった	ブロックで遊んでいたが、そのうち歩き出し棚に両手をのばしてよじのぼろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と少し離れた所で他児と遊んでいた。対象児がぶらさがろうとしたのを見て声をかけた瞬間に棚が倒れ、すぐに棚を起こそうとしたが倒れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	間仕切りの向こう側でままごと遊びをしていた職員、トイレについていた職員、３人それぞれわかれていた。	対象児が両手をかけた瞬間に、棚が倒れてくると予測できず職員がかけつけることが遅れた。	危険な行動はすぐに止め、注意深く見守る。	
9037	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	77		20	20	18		19			11	9	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	—	職員会議や園内研修でよりしっかり話し合いを行い、情報共有を行う。	1.定期的に実施	270	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	270	—	職員会議や園内研修でよりしっかり話し合いを行い、情報共有を行う。	1.集団活動中・見守りあり	周囲の園児との関わりの中で少し目を離してしまったこと。	保育者が周辺の危険性を十分に配慮して見守る必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り自分のしたい遊びに見つけたいろいろな友だちと関わりながら遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	周囲にいた子どもたちの見守りをしていたことで、疎かになってしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周囲にいた子どもと遊びを見つけるために話をしたり、トラブルになっている子の仲立ちをしていた為、落下の瞬間を見ていなかった	周囲の子どもたちの見守りに集中していたことから、固定遊具に職員が連携を図りながら配置が疎かになってしまっていた。周辺にいたものの目配りができていなかった。	戸外遊びの際には園児がたくさん出てきていることもあるので、子どもの行動を保育者同士が確認連携を図りながら全体を見渡せるように場所ごとに職員を配置して見守る。	
9038	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指第一関節骨折・切り傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	給食の準備をするのに、保育教諭が机を出している時は定位置で待つように子どもに指導しておいてもよかったのではないか。	職員が机を出す時は、絶対に近づくことのないように、机を出し終えるまで子どもに定位置で待機させいるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	遊具に乗って遊んでいる時に発生した事故ではないので、改善点はない。	1.集団活動中・見守りあり	友達より先に座りたい思いがあり、手を触れることで本児が友達より先に座ることをアピールしていたかもしれないかと思われる。	周囲に子どもがいないか、机に手を触れている子どもがいないか安全確認を必ず行うようにする。職員が机を出している時は危険なこともあるので、近くに来ないよう定位置で待つように徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	給食の準備中で、保育教諭が机を出している時に、机の足を開いている時に、本児が無意識に机の上に手を置いていた様である。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は２名。１名は他のクラスに欠員が出たため他のクラスの補助に入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員室および保育室でそれぞれの業務をしていた。	対象児に背を向けており、目を配ることが足らなかった。	今後、机を出す時は周りに子どもがいないか、手を触れていないか必ず確認してから机の脚を開脚するようにする。	
9039	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	27									3	3	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	予測できない動きを止めることが出来なかった。	リスクマネジメントにて検討を行い、職員に周知を行う。	1.定期的に実施	31	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	36	なし	棚のキャスターに破損はなく、足に当たっても安全な状態であるため改善点はない	1.集団活動中・見守りあり	なし	保育室内には１５人程度の３歳児に対し１人の保育教諭が保育していた。室内の子の人数に対しての保育教諭の数は足りていた。	1.いつもどおりの様子であった	保育室で遊んでいる際オムツの中に排便したことを近くの保育者に伝えにきた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の側について遊びを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ランチルームで昼食の様子を見守りながら片付けていた（担当１人）	ズボンを膝まで下ろして近寄ってくる姿を見つけることが遅かった	普段とは違う姿にはやく気づき、保育者が声掛けをしたり、側に行き視診を行い、異変を確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9040	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29									2	2	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第4趾骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	職員間で今回の事故の情報を共有、事故原因の分析を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	—	環境の見直し（机の配置の変更）を行った。	1.集団活動中・見守りあり	—	環境の見直し（机の配置の変更）を行った。	1.いつもどおりの様子であった	事故発生より前に本児が室内を歩いている様子を視認。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内全体を見渡しながら、室内を歩き回り保育していた。事故発生は「担当職員」の背後で起こったいた。「対象児」が痛みを訴えたことで事故に気付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児1名が廊下で電車を見ていたことから「他の職員」も落下などの危険に備え廊下にて保育を行っていた。	室内で走る・跳ぶなどの子どもの姿	担当職員より、残っている子どもたちを集め室内で走る・跳ぶなど危険な行動についての指導を行った。	
9041	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12									4	4	13.1歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1～	1.基準以上配置	—	職員間で今回の事故の情報を共有、事故原因の分析を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	—	環境の見直し（机の配置の変更）を行った。	1.集団活動中・見守りあり	—	環境の見直し（机の配置の変更）を行った。	1.いつもどおりの様子であった	事故発生より前に本児が室内を歩いている様子を視認。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内全体を見渡しながら、室内を歩き回り保育していた。事故発生は「担当職員」の背後で起こったいた。「対象児」が痛みを訴えたことで事故に気付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児1名が廊下で電車を見ていたことから「他の職員」も落下などの危険に備え廊下にて保育を行っていた。	室内で走る・跳ぶなどの子どもの姿	担当職員より、残っている子どもたちを集め室内で走る・跳ぶなど危険な行動についての指導を行った。	
9042	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	41									7	7	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	新年度が始まったばかりで、気持ちが落ち着いていない。	事故検証を行い、使い方の指導を行う。また、職員配置などの見直しをかけた。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	落下時の対策。	雲梯下のマットなどを定期的に確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	職員の配置の仕方。	職員配置を再度確認をして、隙間がないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はないが、進級を喜んでいる様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭を見渡しながら、雲梯について見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遅番保育の時間帯の為、職員が配置について、見守っていた。	遊具の使い方の周知、職員の体制など。	遊具の使い方を再度確認し実際に行ってみる。職員の見守りの場所などを確認し、連携をとって行っていくように再度話し合う。	
9043	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27	0	0	0	0	0	0			2	2	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	施設・遊具・玩具の安全点検は定期的に実施しているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動前に守るべき約束を子どもとともに確認する。	1.いつもどおりの様子であった	追いかけっこをして芝生の上で走って遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見守っていた	ぶつかった他児は後ろを見ながら走っていた。	再度遊ぶ前に守るべき約束をしっかり話してから活動を開始する。活動中に危険を感じた場合はその都度声を掛ける。	
9044	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	2	0	0	1	6	0	0	0		1	1	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指の付け根の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	—	保育者は一人ひとりの園児が何をどうしようとしているのかを注意深く観察する。	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	12	マットの上では牛乳パック遊具が滑りにくく動かなかった。	手作り遊具のサイズや重さ、必要性を使用方法により考えていく。	1.集団活動中・見守りあり	—	一人で保育を行う場合は、瞬時に動けるよう立位またはすぐに動ける姿勢で保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	気持ちの高まりや大きい動きは見られなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	クラスの子ども達は、机上遊び、世話遊びのコーナーで遊んでいたので、全体の見える場所に座り見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡中に満3歳児が降園したため、7名の園児を1名の保育者が保育を行なう。そのため他の職員はいなかった。	—	日々子ども達の遊んでいる道具や使い方、何を喜びにしているのかなどを保育者同士で話をしておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9045	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62	0	0	3	38	21	40	0	12	12	18.6歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	—	幼児、乳児ミーティング（週1～2）で毎回ヒヤリハットの項目を設ける。こどもの段階を見て遊び方を伝えていく。	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	12	—	落下しても衝撃の少ない、安全マットを敷くこと。	1.集団活動中・見守りあり	—	一人ずつ進むルールを子ども達に伝えて使用していく。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこをしていた。その後雲梯を始め２，３本目で手を離し着地し、左端からスタートするを繰り返し行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児は左端から雲梯を始めている中、右端の園児の傍にいたため、離れたところからの見守りになっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の他の空間の遊びを見ていたため。	雲梯は同時に複数の子ども達が利用することがある中で、同時に援助が必要な場面があること。	引き続き保育者が見守りを行う。	
9046	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	33								4	4	16.4歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	職員の配置は基準を満たしているが、園児の予想外の行動にすぐに対応ができなかった。	高さのある遊具を使用している場合は特に監視を怠らないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園児が転落した芝山の下の地面に、クッションとして人工芝が敷いてあったが、摩耗して薄くなってきている上に砂が混じり硬くなっていた。	新しいウレタンマットをクッション材として追加購入し芝山の下に敷いた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	大丈夫だろうと過信せずに細心の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	もともと多動傾向がある園児であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	側で見守りはしていたが、転落した時に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には、他にも約30名の園児がいたので、見ていなかった。	多動傾向があるため、注意はしていたが予想外の動きであったので、声掛けなど不十分であった。	子供に安全な遊具の使い方を再度指導する。	
9047	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11	0	0	0	0	0	0	0	2	2	15.3歳	1.男児	－	2.室内活動中	1.負傷	－	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	上顎両側乳中切歯歯根破損・上顎両側乳側切歯不完全脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	—	担当保育者は活動時の配慮および連携の仕方について、主幹保育教諭等より指導を受ける。	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	—	施設や設備の異常はないため、特に改善点はありません。	1.集団活動中・見守りあり	担当職員の配慮不足。	保育者の補助や保育者間の連携の仕方について再確認するとともに、全体を見通しやすいよう遊具の配置や構成を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで遊びの様子を見ていたが先に飛び降りた園児がいることに気付かず、本児が飛び降りるのを止めることができなかった。もう1名は同ホール内にはいたが、他の園児と別の遊びをしていて様子を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	活動前に保育者間で園児への配慮および援助の仕方について確認し、各自の役割を明確にする。	
9048	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29			16		13			2	2	17.5歳	1.男児	－	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折・脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	プール事故・事故防止(予測できる事故)・災害発生時未然防止等に関する事故予防のための園内研修は毎年定期的に行っています。	事故予防に関する研修だけではなく、職員会議等でも事故防止につながる案件等がある場合には、意見として取り上げ職員全体で改善するようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	遊具の後ろにはボールを設置し、園児が入らないように注意し見守る。	1.集団活動中・見守りあり	本児はやんちゃで元気がよいものの、大型遊具等は怖がり遊ぼうとしないが、他児との鬼ごっこ等は大好きで、当日も遊具の後ろにまで入り込んでいき走り回っていました。	年長児なので、園庭においての遊び方等、その都度言葉かけを重視し、職員間で全共通の意識として持つ。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で、他児と楽しくあそび走り回っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	複数のこどもと一緒に対象児童と遊ぶが、急な転倒に支えが間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児を含まない複数のこどもと一緒に遊ぶ。	自信の無い所が多々あり、人前での発表等も苦手であるが、園庭での外遊びになると、元気に走り回り突発的な事態に対応が遅れてしまったものと考えられる。	園庭での遊び方等を、クラス全体にて再指導の徹底を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9049	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13								10	10	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	1.基準以上配置	—	怪我発生当日はお休みのお子様もいた為いつもより少ない人数のお子様の保育にあたっていたが、想定外の出来事であった為対応しきれなかった。お子様の行動を更に注意して対応していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	積み木を積む位置が壁に近かったためジャンプする時に十分に踏み込めず、バランスを崩し怪我につながった。	壁から少し離した位置に積むようにし、怪我を防いでいけるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	—	片付けを一緒に行う中でもお子様の様子に集中する。	1.いつもどおりの様子であった	使っていた玩具を片付け終え、もう少し遊びたい気持ちから積んだ積み木の上からジャンプをして転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他玩具の片付けを行っていた為、転んだことは分かったが転ぶ前の状況は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１３名程度だった為、担当職員１名で見ていた。	普段安全に片付け、上からジャンプをして遊んでいる玩具だった為安心していた。	全体が見られる位置にはいたが目を離す時間もあったため、出来るだけ目を離さないようにする。怪我をした時は他職員の目でもお子様の様子を確認してもらう。	
9050	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18								3	3	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右上A歯牙破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	コートを一人で脱ぐことに関しては毎日一緒に声がけをしながら指導していたので、一人で出来るように見守っていたが、本児の想定外の転倒に保育者がとっさに防止できなかった	子どもが日頃指導している行動とは違う動きに対しても必ず目を離さずに一人ひとりを見とる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	保育室の床がフローリング加工で、靴下を履いていると滑りやすい	フローリングの床の保育室に入る時は、まずコートを脱ぐ前に靴下を脱ぐ事を指導して転倒防止する	1.集団活動中・見守りあり	園庭で遊んでいた時間が１時過ぎだった為、その後保育室入ってきたが少し眠さがあったかもしれない	３歳児に進級すると、午後の活動もある為少しずつ午睡時間を短くしていたこともあったが、子どもの様子を見ながら個々に対応していく	1.いつもどおりの様子であった	保育室の中では「走らない」という約束をしていたが、活動的なので走ってしまう事が多かった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	部屋に入ったら帽子・靴下とコートを脱いでロッカーにかけましょうと、担当職員が声をかけていた。いつもの生活習慣なので、本児一人に１名の職員はつけず６対１で子どもたちの身支度を指導した	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員３名はそれぞれの子どもたちのコート・靴下を脱ぐ様子をみた	職員３名の配置が一箇所に集中していなかったか？きちんと自分たちの持ち場で子どもたちを見守っていたか？	その場にいる保育者３名で、必ず声をかけながら玄関から子どもたちを保育室に誘導する者、着替えを援助する者、手洗いを見る者と分担していたが、より細かく声がけをして連携する	
9051	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	72				26	22	24		6	4	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	当該園児が自ら飛び降りてしまったことが要因である。	利用する園児に対する注意喚起（声掛け）の徹底と臨機応変に対応可能な見守り体制をとる。改めて危険行為に対する園児指導の徹底と職員研修を実施する。	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	毎週月曜日	2.不定期に実施	週１回	2mの石垣を這いあがるなど、体づくりや挑戦心の芽生えを狙いとしているものである。	飛び降りを未然に防ぐため職員を石垣のそばに配置し、声かけ等の見守り体制をとる。	1.集団活動中・見守りあり	—	危険行為の未然防止策を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	自ら飛び降りる行為を行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	飛び降りる瞬間を目視したが、注意喚起（声掛け）が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の園児に対する見守り活動中である。	—	飛び降りを未然に防ぐため、職員を石垣のそばに配置し、声かけ等の見守り体制をとる。	
9052	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	51	0	0	0	20	11	20	0	2	2	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	トランポリンの使用にあたっては、マニュアルに則り適切な人数で、ルールに従い通常使用していた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	事前の安全点検では破損等はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	ホールの中でいくつもの遊びが混在しており2人の職員で見きれていない部分があった。	コーナー遊びの数を厳選し安全に遊べるよう組み合わせを考えてコーナーの計画をたてる	1.いつもどおりの様子であった	通常通りホールで好きな遊びをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホールに職員を配置し、立ち位置や見守りを指示していたため、全体を把握できる位置で本児の遊んでいる様子をみていたが、怪我の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的にそれぞれの遊びを見ていたが、トランポリンで怪我が発生していた様子などは見ていなかった。	ホールの職員は2人で全体を見ていたが、トランポリンの側には誰もついていなかったこと。	トランポリンの傍に専任で職員を配置しルールを守るように指導したり、何があった時にすぐに対応できるようにする。	
9053	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10								2	2	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	楽しくなり体を大きく動かした際バランスを崩して椅子から転倒	椅子の座り方を知らせる	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守っていたためすぐにかけより様子をみた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちをみていたため本児をみていなかった	自由遊びの際の遊び方	自由遊びの際の遊び方について改めて見直す	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9054	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	8									1	1	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	けがはいつでもどこでも起こりうることを常に頭に置いておかなければいけない	ヒヤリハット等で事故の起きやすい遊び、場所、時間帯等を共有していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	移動型のコート掛けが置いてあった	ドッジボールの動きを考え、物を置かず、ぶつかりにくい広々とした場所に整える	1.集団活動中・見守りあり	遊戯場で8名の人数で遊んでいたので混んでいる様子ではなかったが、動きも激しく衝突を防ぎきれなかった	ぶつかりそうになったらブレーキをかける、体をかわすなどの運動機能が身につくような遊びを日頃から取り入れていく	1.いつもどおりの様子であった	先に負傷していた箇所の痛みは無くなってきていたが湿布、包帯をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールの様子全体をコート脇から見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯場には担任一人で、他の職員は部屋で遊ぶ子どもを見ていた	遊びが盛り上がるにつれ動きがさらに活発になっていった	一人で見守られる人数ではあったが、遊びが活発になったら見守る職員を増やしていく	
9055	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	84	0	13	23	26	22		0		18	16	14.2歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	マニュアルを読んだり研修を受けたりしているが、転倒に対して認識が薄かった。	転倒の場合、骨折を疑いながら早めに対応する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭とグラウンドが続いていて広いため、低年齢児は行動範囲を限定すれば良かった。	遊んでいる人数によって、先へ行けないように柵等を設け遊び場を限定する。	1.集団活動中・見守りあり	クラスがわかりやすいように色違いの帽子をかぶっているが、広い範囲の中であちこちと動く子ども達をすべて把握しきれなかった。	個々の動きがわかりやすいように時間差をつけて園庭に出るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	調面でも特に変わりはなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	大勢がいたため、本児を終始、目で追うことが出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の担当児や声をかけてくる子の対応をしていた。	個々の対応をしながら全体の状況も見ていくようにすればよかった。	保育者の見守り位置を職員間で決め、全体を見ていくようにする。	
9056	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	1	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折、右肘関節捻挫、右手関節痛	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	屋上遊具では時々の利用で慣れていない為、職員が子どもの状態や遊具について把握するのが十分でなかった。	事前にこども達と安全な遊び方について話し合い確認する。遊んでいる際にも注意喚起の声かけや見守りをする等具体的な内容を話し合えるよう検討会の充実を図る。	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	毎回	ゆらゆら動く網状のロープの遊具の特性を把握する等の確認や、遊べる他の固定遊具の設置や遊びの種類に応じたスペースが十分でなかった。	ロープ状の遊具の点検を行うと共に遊具の特性を考慮し、遊べる固定遊具の数や余裕をもって園児が遊べるスペースを確保する。	1.集団活動中・見守りあり	遊び慣れていない遊具のため、降りようとした際に、足下のロープ状の網の部分が見えにくくわかりにくかったことも考えられる。	ロープ状の段の部分に色テープ等を巻き付けることで、段に気づきやすくして、注意して降りようとするための改善を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段よりも屋上の遊びで、開放的になって活発になっていた様子もあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の援助をしながら、離れたところで対象児が降りている様子を見ていたので、ゆっくり気をつけて降りるように声かけをしようとしたところであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで、他児の援助をしていて、対象児の様子に気がついたが、間に合わなかった。	安全面への配慮などの見守りを行いながら、普段より園児の様子がハイテンションだと感じる時は保育者間で声を掛け合ったりする事が十分でなかった。	活動に合わせた援助の仕方など職員で共有し再検討を行い共通理解を図る	
9057	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	25	0	0	0	11	10	4	0		2	2	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	導入したばかりの遊具の為、ルールの徹底が出来ていなかった。	新しい遊具で遊ぶ際のルールの周知やマニュアル化をする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	特になし	玩具に破損などの不備はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちが広く分かれて遊んでいたので、保育教諭も広く分かれて子どもたちの遊びを見守っていた。	危険が想定される場所への職員配置を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と室内大型遊具で遊んでいた。遊具をぐっったり登ったりしていたが、その後遊具に立ち上がり転落した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故発生時、他の園児と遊んでおり、対象児が転落する瞬間、距離が遠く間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故発生時、担当職員と異なった場所でほかの園児と遊んでおり対象児が転落する瞬間に間に合わなかった。	園児が遊具に立ち上がった際にすぐに保育者が駆け寄ることが出来なかった。	大型遊具や使い慣れていない遊具で遊ぶ際はいつもより多めの職員配置を行い、常に声を掛け合い安心して遊べるようにする。	
9058	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	5									1	1	14.2歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	複数担任クラスだが、当日は行事へ一部の園児が参加するため担任は分散していた。	慣れてきた遊びや職員であっても複数の目が届くような配置を検討していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	6～8	—	遊具の故障に起因しないため。	4.個人活動中・子どものみ	遊びの様子から慣れてきた様子から、危険に対する意識が低下していたと思われる。	改めて遊具や園児、遊びによって危険な行為となりえることを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	雨天のため屋外での活動ができなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児が遊具で何度か遊ぶ状況を確認し危険な様子が見られなかったため、別の園児に対して意識が向いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他の園児と一緒に活動していたため。	—	園児や遊びの状況が変わっていく見極めや複数の担任の見守りを持ち余裕を持った配置をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9059	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	44				16	15	13	0		5	5	15.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	—	遊び方のルールについて話し合う際は、進級直後や合同保育等いろいろな状況や場面を想定した話し合いを行っていく。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施	4	—	引き続き、チェックリストに基づき定期的に点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	進級しての喜びで子ども達の気持ちが大きくなっており、好きな遊具等で自由に開放的に遊んでいた。	合同保育時でのジャングルジムの制限をする。各年齢毎に登る段数を決め、各クラスの活動で取り組み、慣れてから合同保育時にも使用できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	興味ある事は自分の能力以上の事にも挑戦する。他児がジャングルジムにぶら下がっている様子を見て真似ようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャングルジムの周囲から対象児を含む5人が登っていた。他児が4段目に乗せている足を離しぶら下がる姿が見られた為、すぐに足を乗せるよう言葉掛けをした。下にいる児が危ないと言って泣く姿があり、対応していた際、対象児がジャングルジム中央から転落した。手を伸ばしたが体を抱き止めることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で5人の職員が朝の受け入れをしながらそれぞれ離れ、子どもの保育に当たっていた。	ジャングルジムに登る子どもの人数制限をしなかった為、周辺から自由に登り目が行き届かない状況になった。	職員一人でみる際の約束事を子ども達にも知らせ、順番に交代で登り危険のないようにしていく。	
9060	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	129				45	41	43			28	28	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2～3	1.基準以上配置	新入園児だったので、遊び方に慣れていない面があった	研修の回数を増やして意識づけをすると共に、内容を充実させる（ビデオの活用等）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	—	点検回数を増やす（毎月）	1.集団活動中・見守りあり	新入園児だったので、遊び方に慣れていない面があった	園児に対しての安全教育の充実を図る	1.いつもどおりの様子であった	同じ遊具で遊んでいた子が足を滑らせたことに気を取られ、体をねじった際にバランスを崩した	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる場所にいたため、対象児の遊具近くにはいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外に出る準備中の子が室内にいたため、そちらの援助をしていた	朝の受け入れ時だったため、園全体が慌ただしい状況だった	年長児だからと気を抜かずに、けがが予想できそうな箇所には、職員を配置する	
9061	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足下腿骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	園外へ出かける時は特に職員配置を考慮し、必ずヘルパーと共に出かける。園外へ出かける時は特に職員配置を考慮し、必ずヘルパーと共に出かける。救急セット、着替えを用意し、携帯を持ち常に園と連絡が取れるようにする	事故発生時は担任２名のみの引率だったが、今後は引率人数を増やす予定。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	—	近隣の公園を確認し、遊具の使い方、危険な箇所を確認する	1.集団活動中・見守りあり	入園以来遊び慣れている公園なので担任のみで出かけた。しかし進級したばかりだったので、補助教諭のサポートが必要だった。	再度、遊具の使い方、公園内でのルール、困った事があったら先生に声をかけるなど、子ども達と約束していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に登園していた。公園でもいつもどおり遊んでいたが、他児に押されてしまい事故になった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は他児のトイレに付き添っていたため事故の瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ５歳児担任の他の教員は、プランコで他児の安全の見守りをしていたため、事故の瞬間を見ていなかった。	—	園外へ出かける時は特に職員配置を考慮し、必ずヘルパーと共に出かける。救急セット、着替えを用意し、携帯を持ち常に園と連絡が取れるようにする	
9062	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17									3	3	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	事故園児の様子（興奮状態にある、不安定など）で担任が気づいていたことを互いに共有し、保育補助者もその点に気をつけながら保育にあたれるように配慮すべきであった。（共有はしていたが注意が足りなかった）	時間帯によっては（早朝、夕方）担任以外の保育者がかかわることもあるので、気になる園児についての様子を今まで以上に全職員で共有することを確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	今回対象となったソフト積み木は重ねて上に乗ると不安定であった。	子どもたちの発想も受け止めつつ、危険がないか子どもたちと一緒に考える姿勢で遊びを共有するよう再確認した。	1.集団活動中・見守りあり	ソフト積み木からジャンプ、バランスをくずした。	遊びの内容を把握し、使用しているものや場所が安全かどうかを確認する（すべてを禁止するのではなく）ことを意識的に行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	飛んだり走ったりすることを好み動きまわっていることが多い。２月頃から特に気持ちがたかぶっていることが多くなっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の他２名の子がいて、二人を膝にのせ絵本を読んでいた。本児の動きも目に入れていたが、バランスを崩した本児の動きに対応しきれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生場所が死角になっているスペースなので見ることはできなかった。	各コーナーごとに遊んでいても全体を見渡す担当が必要であった。	外あそび・水遊びに限らず、保育室の遊びでも「全体に目を配る担当」を再認識しあう。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面							環境面				人的面									
							発生時の体制	人数								教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						対象児の動き	理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9063	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	60				30	30			4	4	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	12	2.基準配置	—	事故予防のための会を開催し、対策を考え記録に残しているが、事故予防マニュアルがない。直ちに作成する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	点検時、遊具ばかりではなく、園庭全体の環境を見直す。	1.集団活動中・見守りあり	—	代替の保育士はいたが、年齢の担任同士、休憩時間をずらし、2人ともいない時間を作らない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも活発で、活動的である。足が速い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	仲の良い友達とかけっこをしていることは把握していたが、転んだ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒、砂場、大型遊具、鬼ごっこ等それぞれ近くの子ども達を見ていて全体を見れていない。	年長2クラスの担任は休憩中で、休憩代替の保育士が保育を行っていた。	担任は子どもの動きを予測できる可能性が高いと思われるので、年齢の担任同士、休憩時間をずらし、2人ともいない時間を作らない。かけっこは運動会のトラックのようにしておき、その場所で競争したくなる環境にしておく。大人数で遊んでいても全体を見られるよう立ち位置等を職員同士で連携し合う。	
9064	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	155	0	16	24	37	42	54	0	31	30	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	危険があると考えられる障害物を設置した場所に、保育教諭がいなかった事から園児の規範意識が薄れ、競争心があおられてしまった。	競争心が見られ始めたことから、危険が予知できる場所には職員の配置を行い、無理に先に出ようとする行為を抑えられるようにする。目に見える怪我だけでなく、身体内部への観察や落ち着いた聞き取りを行う。担任ができない場合は園護教諭が代わって時間を掛けて行う。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	—	・引き続き、点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	ソフト面と同様	ソフト面と同様	1.いつもどおりの様子であった	事故前はいつもと変わらなかったが、事故後の様子をもっと気に掛けると良かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	かけっこには参加し、一緒に走るなどしていた。たまたま他のグループの園児の動きに付き添って走っていたため、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んだところは見ていなかったが、近くにはいた	今年度より担任となったが、4月早々学級閉鎖があったり、コロナ感染によりクラス全員がそろうことが遅れたりしたことで、園児ひとり一人の把握がしっかりとできていなかった。	何か起きたとき、信頼関係を持ち、遠慮せずに何でも話せる関係を園児との間に作る	
9065	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3	2	1		0	0	0	0	1	1	13.1歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足腓骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	滑り止めの靴下を履くなどし、滑らないように注意する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	午睡中は滑り台に仕切りをし、使用しないようにする。	5.睡眠(午睡)中	—	午睡時間は、絵本などを読み、静かに過ごせるように工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	慣れ保育中で午睡が短く、すぐに起きてしまった。慣れ保育期間で保育教諭や園での生活に慣れ始めの頃であった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児が滑り台を登ろうとしたところに他児が上から滑ろうとしたため、保育教諭が抱っこをし階段に移動した。階段に下ろそうとした際保育教諭が滑って転倒した。その時に足が滑り台の淵に当たったと考えられる。保育教諭は頭を守ろうと必死で、ぶつけた箇所をはっきり見ることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	隣の0歳児室にいた保育教諭2名が、転倒時の保育教諭の声や本児の泣き声を聞き、すぐに駆け付けた。（0歳児室と和室は柵で仕切られていて見通せる環境である）	—	事故発生時は午睡明けで保育教諭１名が園児３名に関わっていたが、普段は同じ空間に２名の保育教諭がいるので、危ないときは声掛けし、迅速に対応する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9066	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33				10	7	12	4		4	2	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	職員間で連携し、子どもの活動の把握を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	落下しやすい場所や怪我に繋がりやすい場所を子どもたちと確認し合う。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯を渡っていて、棒を掴みきれず落下し、左腕を強く打ち骨折。	4.対象児の動きを見ていなかった	延長保育担当者の一人は近くにいたものの、他の園児の対応をしていたため、対象児が雲梯から落下した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の延長担当者は、各担当場所にいて他の子どもを見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。	特記事項なし	他学年の職員とも連携し、園児の細やかな観察を行う。	
9067	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28									3	3	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2,3	2.基準配置	職員の立ち位置と連携が不足していた。園児への指導が十分でなかった。	職員の危機管理意識を向上し、同じような怪我を防げるようにする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	国内の危険箇所の点検及び、危険箇所を把握し改修・修繕する。	ビオトープは水がなく大きな石も多いため、ビオトープ内に入らないようにする。	3.個人活動中・見守りあり	橋の幅もそれほど狭くなかったので予想しにくい状況だった。	ビオトープにかかる橋を通らなくても行き来できるためビオトープを使用しないようにし、職員の危険箇所の把握や指導の徹底を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子で、ビオトープにかかる橋を走って渡っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児と一緒に保育室に向かって走ってくる様子を少し離れた所から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人は担当の児に関わり、もう一人は他の園児と別の場所で関わっていた。	人数の配置はあったが、子どもの行動の危険予測をもっと大きくもつ必要があった。	クラス間や学年間で連携をとり、危険箇所の共有や体制作りを強化する。	
9068	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	53				23	11	19			3	3	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右ふくらはぎ骨折 全治１～2か月	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	2クラス以上遊ぶときは発達段階を考慮してルールを設定して遊ばせる。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	年長組などの鬼遊び等、園庭の範囲の設定をしっかりとする。	1.集団活動中・見守りあり	大きいクラスの園児と遊ぶのが、まだ不慣れだったと思う。	園庭を共有して異年齢で遊ぶときはコーナーやルールをわかりやすく設定。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びができる嬉しさもあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	3クラス合同の人数が多い状況で遊んだ。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	異年齢で遊びをしていた。	—	職員の見守りの範囲を意識し、年齢や発達段階に応じながらしっかりと行う。	
9069	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	31									2	2	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	危険個所についての検討が十分ではなかった。	ヒヤリハットマップを再度検討しなおし、危険箇所の洗い出しを行う。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	250	地面が湿っていて靴底に砂がつき滑りやすい状態であった。	靴の底をはらうようなマットを置いて、滑りにくいようにする。	1.集団活動中・見守りあり	地面が湿っていて靴底に砂がつき滑りやすい状態であった。	靴底に砂がついている状態で遊具に登らないよう声かけはしていたが、声掛けだけでなく見て確認をさせるなど意識付けをさせる。	1.いつもどおりの様子であった	靴底が湿っている状態で登ると滑るという事に意識がいっていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見渡せる位置に立っていた。手を離さないよう言葉掛けをしていたが、本児の靴が滑りやすくなっていた事に気付いていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒をやっている子の側で見守っていた。	環境面についての対応の意識が十分ではなかった。	遊具を使う際のルールは守れていたが、環境面の対応も必ず意識することを全職員で共有した。	
9070	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	56			13		22	21			8	8	14.2歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	危険個所点検に「転びやすいところはないか」という項目はあるが、具体的な記載がなかった。	危険予測ができるよう、項目に具体性をもたせる。	2.不定期に実施	60	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	園児がよく通る遊具近くの地面の状態までは確認ができていなかった。	園庭の地面の状態（滑りやすくないか、石が落ちていないかなど）を確認し、危険が考えられる場合にはその都度対処していく。今回、滑り台近くに人工芝を敷き滑りにくくした。	1.集団活動中・見守りあり	滑り台を滑ってきたところは確認していたが、再び階段に向かうところは追視していなかった。	階段に向かう園児に気を付けるような言葉かけをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段から転びやすい。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	階段を上る園児と滑ってきた園児を確認することができる位置（滑り台中央）で、園児の動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢で遊んでいたことから、それぞれの箇所で保育を行っていた。	滑り降りてから、階段に向かうまでの短い距離で、転ぶであろうという予測をしなかった。	常に危険性があることを意識しておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9071	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	2	0	0	0	0	1	1	0		3	3	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	—	2号の時間（夕方）の時間は子どもの体力面を考慮して遊びの内容を考える	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	—	遊具の安全な使い方を常に知らせ、危険な使い方をしていないか見守る	3.個人活動中・見守りあり	—	時間帯や子どもの人数に応じて安全に遊べる環境を整える	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	晩御飯を外食することが楽しみで、気持ちが高揚していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園長、副園長は、新入園児の親子面談の対応をしていた	—	安全に遊んでいるか常に見守り、危険な場面では声をかけ安全面に配慮する	
9072	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	77				28	32	17			4	4	15.3歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	雲梯のそばに職員がついていなかったため	雲梯には職員がそばにつく	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	—	雲梯の破損などではないのでなし	3.個人活動中・見守りあり	子どもとの遊びに夢中になり雲梯が視界に入っていなかった	常に危険な場所は視界に入れる	1.いつもどおりの様子であった	１回目は雲梯を渡りきることができたが、２回目はできなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が落下する瞬間にそばにいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしていたため見ていなかった	いつもはできていると安心していたためそばにいなかった	雲梯には職員がそばにつく	
9073	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	跳び箱指導に対して、担当保育士の理解が足らなかった	担当保育士が体操指導の仕方をきちんと理解する。体操指導のマニュアルを作成し、独自の事故対応マニュアルに追加し研修を実施する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	本児が使用した用品には、破損もなく不備がなかったと考えられる	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱指導に対して、担当保育士の理解が足らなかった	担当保育士が、体操指導の仕方を十分理解する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、意欲的に参加し跳び箱の練習をしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の練習中、担当保育士が側についていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員の配置は無い	跳び箱指導に対して、担当保育士の理解が足らなかった	担当保育士が、体操指導の仕方をきちんと理解する	
9074	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10		10							2	2	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	48	2.基準配置	—	色々な人の目で見ることが出来るよう、配置に気を付けていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	—	１歳児クラスは広く走りたくなる環境である為、走らないよう声掛けをしていく。	3.個人活動中・見守りあり	—	玩具が散乱していた為、こまめに片づけるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り遊ぶ姿があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいた。転倒後すぐに近寄り声を掛けた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	視線には入っていたが意識的には見ていなかった。	—	近くにいたが転倒を防ぐことは出来なかった。子どもの動きを予測して対応する。	
9075	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	4		2		1	1				2	2	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上前歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	怪我発生後はマニュアルにはほぼ沿いながら臨機応変に対応できた。	今後もマニュアルの改善等繰り返し迅速に対応できるように進めていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	144	動きが突発的または衝動的な児に対して、情報交換を職員間で行っていく。また、保育者の手の届く位置で見守ることが必要であった。	室内では座って遊べる環境を提供し、遊びの内容は年齢に応じた飽きない時間となるよう、工夫していく。	1.集団活動中・見守りあり	玩具に飽きてしまい、立つ・走る等の動きが目立っていた。	児の気持ちの変化に気付き遊びの内容や環境設定を工夫し、適切な保育を提供する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	担任以外の職員が保育を担当する土曜保育中に起きた。日頃よいい、動きが多く、よく転ぶ児であることを職員間で情報交換し、共有していくべきであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	突発的に動く児であることを意識し、手の届く位置で見守ることも必要であった。机と椅子のある環境設定も保育環境の選択肢として考え、状況や預かる子どもの年齢に応じ様々な保育を提供していくことが必要であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遅番保育の時間帯であり、２人制であった。他職員は他児の迎え対応中であったが、動きの多い児がいる際は迎え担当職員の立ち位置も考慮し、複数の目で見守っていく。	職員間での情報交換やあらかじめ保育のイメージを持ち準備していく。迎えを待つ自由時間だったことで飽きたず児や疲れが出始める児もいた。子どもが安全活動できる環境への配慮が足りなかった。	預かる子どもの特質や年齢に応じて保育内容や環境設定に考慮していく。また、子どもたちを活動させるのに危険がないか予測する。ケース会議を行い、改善策を見出し全職員に周知する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9076	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	49				20	13	16			5	4	17.5歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	常に広い視野で見渡せる保育教諭、保育従事者がいなかった	日頃のヒヤリハットの見直しと、事故防止マニュアルの見直しをする	3.未実施		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	295	特になし	遊具の周囲に屋外用マットを置く	1.集団活動中・見守りあり	予想が出来にくい行動だった	足首を引っ張った園児への安全指導する。全園児への遊具の使い方を指導する。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	高い遊具（すべり台等）の見守り等をしていて、対象児から離れたところで、見ていたため、転落した瞬間に間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児のうんていの補助をしながら見ていたため、間に合わなかった。	固定遊具のそばに保育教諭がいなかった。遊具での遊び方の指導が充分にできていなかった。対象児と足首を引っ張った園児が兄妹ということもあり、遊びがエスカレートしたと思われる。	園庭で遊ぶ時の保育教諭の配置を考え全体に目が行き届くようにする	
9077	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	71	11	14	10	11	16	9			12	12	15.3歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	園庭の非常階段付近を見守っている保育者がいなかった。	園庭であそびを展開する保育者は視野を広く持ち、子どもの危険行動にすぐに気づいて対応する。常に分散し連携して配置につく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	—	木枠の状態や周りの環境整備を行う。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の非常階段付近を見守っている保育者がいなかった。	保育者は、常に分散し、連携して配置につく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭を走っていた本児は、非常階段前でバランスを崩し転倒し、木枠に左腕を打ちつけた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は本児を含めた他児と築山裏のフェンス沿いで虫探しをしていたが、その後の本児の行方まで意識していなかった。別の保育者が離れた所から本児の様子を見ていたが、転ぶ瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭遊びの見守り、排泄する子どもや送迎者の対応をしていたため、見ていなかった。	園庭、非常階段付近を見守っている保育者がいなかった。	保育者は、常に分散し、連携して配置につく。	
9078	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	68				21	25	22			7	5	16.4歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折左橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	遊びの異変に気が付ける様、特定の遊びをさせるときは設置の向きを考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	現在も着地場所にはマットを敷いており、引き続き徹底する	1.集団活動中・見守りあり	高所（１m）からの着地失敗による事故	高所（１m以上）で遊んでいる場合は目を離さない。事故にすぐに気づけるよう着地面は職員の多くいる方を向いて遊びを行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友達と飛び降り遊びを何度も繰り返し遊んでいた。負傷後も職員へ伝えることなく、他の園児と一緒に遊んでいた。痛みが増し、しゃがみ込んでいたところに職員に話しかけられ泣き始める。	4.対象児の動きを見ていなかった	特定児は同じ遊びを何度も繰り返しており、遊びに問題はないと思い目を離した。また、着地失敗時に泣いたり動けなくなったりもせず、職員へも伝えてこなかったため子供の様子の変化に気づくのが遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	あそび周辺に職員がおり、また園児の変わった様子が見られなかったため気づけなかった。	高所（１m）からのジャンプあそびの場所に職員がついていなかった。子供が自分の体調の異変を伝えなかった。	高所（１m以上）からのジャンプあそびには職員が付くようにする。また、職員がついていないときは、低所（50cm）からのみの遊びにする。遊びの異変に気が付ける様、特定の遊びをさせるときは設置の向きを考える。	
9079	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									3	3	17.5歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	13	1.基準以上配置	園庭遊具の遊び方はあるが、3連鉄棒を使用する人数の決まりがマニュアル等にはなかった。	鉄棒等遊具を使用する際の人数と職員の配置について検討しマニュアルに記載するとともに、職員に伝達し実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	特記なし	3.個人活動中・見守りあり	3連鉄棒の一番低い（高さ90cm、幅165cm）所で使用し、鉄棒の下にはクッションマットを敷いてあったが、転落時の体勢により手に負荷がかかったことも考えられる。	園庭自由あそび時の危険予測を職員間で話し合い、状況に応じてあそびの種類を決める等安全に見守れる体制をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	先生に見てもらいたい気持ちから、予想外に全身に力が入り手が鉄棒から離れてしまったのかもしれない。（手が滑った可能性もあり）	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人で対象児とその横の二人の園児を見ていた。転落直前までうまく回っていたので安心して見ていた。対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	大縄跳びの担当職員は見ていたが転落は一瞬のことであった。	3連鉄棒の低い所で本児、中央の所で2人が使用して、同時に鉄棒をする園児3人を一人で見ていた。	本児は入園で他児に比べて鉄棒の経験が少なかったこともあり、職員は園児の発達や経験に沿って１名で実施する等の援助ができるように改善を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9080	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス										2	2	15.3歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	捻挫 うっ血 骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	不定期	2.基準配置	—	職員全員で遊びにおけるヒヤリハットの共有・監視の仕方の再確認、職員の再配置	1.定期的に実施	１２回以上	1.定期的に実施	１２回以上	1.定期的に実施	１２回以上	—	職員全員で安全意識の再確認	3.個人活動中・見守りあり	—	年齢に見合った遊具への促し・子ども達への遊び方指導、遊び時のルールの再確認	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で戸外遊びに出掛けたものの、対象児が何で遊んでいたか把握出来ていない。	4.対象児の動きを見ていなかった	外監視2名は対象児の側におらず、対象児の怪我の様子を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外監視の職員以外は園庭にはおらず、気付く事が出来なかった。	—	監視の在り方の再検討	
9081	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	48				24	24				4	4	17.5歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	散歩、小学校の予行練習見学、公園での遊具、リレー遊び等、進級２か月目の活動量としては多過ぎたのではないか。	子どもの活動量を考え、無理な活動をしない。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	公園の地面に起伏があり硬かった。	園外での環境に応じた遊びの提供をする。	1.集団活動中・見守りあり	注意を要する遊具に重点をおき、全体を見渡し、子ども達の活動を把握するようにしている。	保育教諭の人数に応じ、活動数の制限をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達がリレーをしようとし、本児が最後に来て混ざった。本児の前の走者がとても遅く、本児が泣きながら最後にゴールした様子は見ていた。保育教諭がリレーの終始を見ていなかった為本児の転倒の様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具や他児の遊びを見ていた。	リレーは日頃より園庭で行っており子ども達の身近な活動であった。子ども達だけで進めて楽しんいたが、園庭との環境の違いから事故が起こる想定をしていなかった。	身近な活動であっても、環境により事故が起こり得ることを予想し注視するとともに、活動の中止の判断をする。	
9082	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				8	30				5	5	17.5歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上膊骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	事故発生防止のための指針は作成されているが、「安全な保育環境を確保するための配慮」について再確認する必要がある。	「安全な保育環境を確保するための配慮」について職員間で話し合いを行い、必要な配慮を話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	築山の砂が流れて斜面がなだらかになっていたので、子どもが転げ降りやすくなっていたかもしれない。盛り土をすることで一歩ずつ踏みしめて上り下りしたかもしれない。	土のう袋に土を詰め、築山の両側に階段状に積み重ね、一歩ずつ上り下りするように階段状の段差を作った。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの場面で、築山を駆け下りるとスピードが出て危険であることは知らせているが、当該児を含めて遊びに夢中になるとつい忘れてしまう子どもも見られる。	戸外遊びの際は、子どもたちと約束事を再確認し、慌てずに安全に築山の上り下りすることが身に付くようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子で、友達と鬼ごっこをしていた。鬼から逃げようとして築山から駆け降りたため、スピードがつき何もない地面で手をついて転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭内にいた保育士５名のうち、一緒に鬼ごっこをしていた１名は、鬼から逃げる様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内にいた保育士5名のうち、本児と一緒に鬼ごっこをしていた１名以外は見ていなかった。それぞれ、鉄棒、ブランコ、砂場についていた。	築山から駆け降りるとスピードがついて危険なことを、戸外遊びの前に再確認していたら、気をつけて築山を降りることができたのかもしれない。	戸外遊びの前には、園児と安全な遊び方の約束事を再確認するようにする。	
9083	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									1	1	16.4歳	1.男児	－	2.室内活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	職員の立ち位置、園児の遊び方や扱い方等を更に探り見直していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	—	破損や部品の紛失等がある場合は即対応をしている。職員に対しては安全チェックリスト表を回覧し全体周知を徹底いていく。	3.個人活動中・見守りあり	廊下に設置した鉄棒の所に職員がついてなかった。	遊具がある所は、必ず職員がつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	3歳児保育室前の廊下に設定した鉄棒で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は保育室にいた他児を見ていたため、対象児が落下したところを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担当の保育室にて保育中	本児の朝の行動の把握が不十分であった。	職員間で更なる連携をとり、子どもの行動を把握する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9084	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	42				16	26			6	6	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	ヒアリハット事例を毎月会議で取り上げ、改善策実施後どのように変わったか報告している。	引き続き研修会報告は全体会議の時に全体に周知。ヒアリハット報告があった事例に関しては、毎月の会議で事故後の取り組みについてうまく機能しているか検討。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	なし（安全な設備環境を保つための点検は確実に実施されているため）	3.個人活動中・見守りあり	—	今回は禁止事項を行っていたわけではなく、十分に下見した場所において体を使って遊んでいた最中であり、不可抗力な面が大きい。	1.いつもどおりの様子であった	園外保育（遠足）中で、段ボールで草滑りをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	そばで草滑すべりをする子どもたち全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	草すべり以外の遊びをする子どもに付いていた。	—	体を使った遊びをする上でケガは避けられないが、ケガをしにくい体作りや自分の能力に合った動かし方ができるよう、これからも十分に外遊びを楽しんでいく。また、視野を広く持ち、子どもたちの動きを見ながら一人一人が無理ない動きを選択できるよう声をかけていく。	
9085	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17				8	9			4	2	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右眼瞼裂創、右眼瞼炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	–	2.基準配置	—	より様々な事故を設定し、適切に対応できるようにその場に合わせた対応を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	ほぼ毎日	—	ブランコに柵は設置されているが、前面、後方などから園児の出入りは自由にできる状態なので、視覚的に進入禁止のテープ等を設置する。	1.集団活動中・見守りあり	—	改めて園児と正しい遊具の使い方について確認し、一人一人が安全に遊ぶ方法を理解して約束を守って遊べるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	戸外遊びの前に室内で製作活動に集中し、完成させた満足感や達成感を味わっていたため、戸外でも積極的に体を動かして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、リレーごっこやケンケンパー等ができるよう4、5歳児と共に環境を設定していたため、ブランコが設置してある遊具の場所から離れた所にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他クラスの保育者が、遊具の近くで遊ぶ園児を見守っていた。	—	園庭の遊具で遊ぶ際は職員を配置し、近くで遊びを見守る。担当するクラスだけでなく、他クラスの園児を含めて職員一人一人が園児全員を見守るようにする。	
9086	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	27								32	23	15.3歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	—	片付けに取り組む時間での安全管理について確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	—	施設及び遊具等の安全点検は今まで通り毎月実施する他に、幼児の活動前に安全点検の実施を強化する。	1.集団活動中・見守りあり	—	片付けをする場合は危険のないよう焦らずゆっくり物を運んだり、他児とぶつかったりしないよう伝え、その確認を継続する。	1.いつもどおりの様子であった	保育室から廊下へ出る付近で片付けを眺めていた。走り回ったり動き回る様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室と廊下を行き来しながら、幼児と一緒に片付けをしたり、の様子を見守ったりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が保育室内で皆の片付けの様子を眺めている姿は把握していたが、普段通りの姿であった為、他児らと一緒に片付けをしていた。転倒した瞬間は目撃していなかった。	—	常に幼児らの動きを把握し、危険な動きをしていないか確認する。	
9087	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	35	0	0	0	0	0	0	0	8	7	14.2歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	36	2.基準配置	職員配置等に問題はなかった。	園児の動きを把握しておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	人工芝生でクッション性があり環境等に問題はなかった。	走るのに十分な広さがある分等の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし。	あそびの中で、転んだ際のてのつき方等伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	あそびの中で元気よくかけっこをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を見ており、転倒の際も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で、それぞれの担当園児を見ていた。	普段より歩行にふらつきがあり転倒も多い園児だったため、かけつこの際に転倒しうまく手がつけなかった。	手足を強くするための運動遊びをするなど、当児の体力向上を促していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9088	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス				9					28	25	14.2歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右の脛骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	人数的な職員配置は問題ないが、園児の動きの全体を見られていなかった。	保育教諭同士が連携をとり死角のないように立ち位置を考える。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	3歳未満児専用の遊具・芝生を備えてはいるが、3歳以上児とも園庭を共有しており、見守り範囲が広く見きれていなかった。	見守り範囲を限定できるように、柵を設置する。	1.集団活動中・見守りあり	３歳以上児用の遊具もたくさんあり、視覚的にも興味をそそられる環境であった。	３歳未満児遊具から部屋に戻るまでの動線の見直しと柵設置による安全確保。	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊び後、片付けをし部屋に戻る途中、低雲梯に行き遊んでいた。その際、手をすべらせ落下したものと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	3歳未満児遊具で遊んでいる際は見ていたが、片付けをし部屋に戻るため全体に声をかけ誘導をしていた。その際、本児が部屋ではなく遊具の方に行ったことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員に同じく、他児を誘導しており、本児の行動に気が付かなかった。	保育教諭同士が声をかけ合い見守り分担を明確にする	保育教諭の監視不足	
9089	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33			10	7	12	4		4	2	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	職員間で連携し、子どもの活動の把握を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	落下しやすい場所や怪我に繋がりやすい場所を子どもたちと確認し合う。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯を渡っていて棒を掴みきれず落下し、左腕を強く打ち骨折。	4.対象児の動きを見ていなかった	延長保育担当者の一人は近くにいたものの、他の園児の対応をしていた為、対象児が雲梯から落下した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の延長担当者は、各担当場所にいて他の子どもを見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。	特記事項なし	他学年の職員とも連携し、園児の細やかな観察を行う。	
9090	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス			2	15	16	11			3	3	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	–	1.基準以上配置	—	慣れている環境であっても、職員の複数の目が届くように配置していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	4	手すりや持つ部分が少ない所を渡ろうとしたため、他の所よりも滑りやすかった	遊具それぞれの部分の特色や危険箇所を子どもたち・職員が遊びや活動の中で知り、安全に遊べるようにする	1.集団活動中・見守りあり	異年齢が混じり活発に遊んでいる状況である	活発に遊びながらも、落ち着いて安全に遊べるように声を掛けて指導していく	1.いつもどおりの様子であった	活発でいろいろな遊びに挑戦することが好きな子どもである。いつも通り元気に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにおり対象児が遊具で遊んでいるのはわかっていたが、他児と関わっており見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのエリア内で他児と関わっており、対象児は見ていなかった	職員は全体を細やかに見ながら園児と関わっているが、どうしても常に全体を把握できない場合もある	個別の園児と関わりながらも常に全体を把握しておけるよう、意識を強くするとともに、他エリアに移動しても子どもたちの様子を見ていけるようにする	
9091	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	4								4	4	15.3歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上前歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	歩行の際の前後の間隔をしっかり把握し園児の安全歩行確認に問題があったのではないか。	個々の歩行状態や歩くペースを考慮して手をつなぐペアを組む。歩き方がぎこちない園児は保育教諭が手をつないで歩く。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし	散歩経路の確認や事故防止のため、出発時に歩道の歩き方（列を乱さない･広がって歩かない･手をつないで歩く等）を園児に伝える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	着用しているズックのサイズが合っているか確認する	1.いつもどおりの様子であった	行き慣れた公園へ散歩に出かける	2.対象児の至近で対象児を見ていた	先頭と最後尾につく	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時間差での散歩に出かける	特になし	引き続き先頭と最後尾に職員が配置につく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9092	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30									3	3	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	職員１名が遊具の傍について見守りを行っていたが、対象児が手すりを一本飛ばしで雲梯を行っている姿から危険を察知することが出来なかった。	子どもの様子から危険な行動を予測して声を掛けていく。普段から遊具を使用する際のルール等を子どもたちにもしっかり伝えていくようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雲梯の手すりを一本飛ばしで渡る方法が、対象児にとってはまだ難しかった。	使用する遊具やその遊び方が子どもたちの年齢や発達に合っているか確認し、危険だと判断した場合は使用を中止していく。	3.個人活動中・見守りあり	雲梯で遊ぶことに慣れて、普通の方法よりも少し難しい方法でやろうとしていた際に起きた事故であった。	遊具等に慣れた頃に事故は起きやすいので、意識して子どもたちに注意を促す声かけを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	毎日の戸外遊びの中で雲梯を必ず行うため、他の子どもと一緒に一本飛ばしで雲梯を渡ることに挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の傍で見守りを行っていたが、雲梯の反対側にいたため対象児が落下する瞬間には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他2名のうち1名は公園全体を見渡しており、発生時は遊具側ではなく反対の広場の方で鬼ごっこをしている子どもの見守りを行っていた。もう1名は他に転んで擦り傷が出来た子の対応を行っていた。	職員２名で遊具の見守りを行っていたが、発生時は他の子の怪我の対応のための場を離れてしまっていた。	職員がその場を離れるときは他の職員にも伝え、一時的に遊具の使用を停止するようにしていく。	
9093	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス					18	17				3	3	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	—	事故予防マニュアルを作成する。事故予防の職員研修をする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	–	—	遊具の配置場所を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	—	子ども達と遊具の安全な遊び方について考える。	1.いつもどおりの様子であった	当日朝の家庭での検温は36.2度で、受け入れ時の家庭からの連携も特になかった。園でも体調不良を訴えることもなくいつもと違う様子は見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばで見ていてすぐ駆け付けたが、本児が足をすでに抜いた後だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各保育教諭の近くで遊んでいる子どもを見ていた。	—	職員は近くにいる子だけでなく、常に遠くで遊んでいる子にも留意し、職員同士連携しながら全体の遊びを見ていく。	
9094	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9				9					19	18	15.3歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足小指の骨のずれ	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	怪我当時の状況を共有した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	どんな場合にでも怪我につながる事がないよう、今後も充分に配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	—	転倒があった場合にでも怪我のないよう環境を考えながら設定していく。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本人の遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭あそび等それぞれの持ち場で保育を行っていた。	—	バランスを崩し、転倒・怪我をすることも十分に考えながら声掛けをしていくことが必要であると考える。	
9095	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	23									4	4	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折、左足甲骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	当日の出席児童は24人、その時点の対応職員が４人であり不足はないが、遊びの設定が４ヶ所と多かったこと。落ち着かない子等がいた為対応できなかった。	事前に把握出来たことであるが、認識が足りなかった。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	特になし	高い所から飛び降りる際の高さ、着地点の安全性を確認して実施する（発達年齢にあわせた安全性）	1.集団活動中・見守りあり	子どもの発達段階に合わせた設定に無理があった	２歳児の発達段階に合わせ、安全に楽しめるようにするためにどうするか共通理解を深めていく。	1.いつもどおりの様子であった	飛び降りた時にバランスを崩し、左足に重心がかかり捻挫	2.対象児の至近で対象児を見ていた	傍にいて手を出したが、間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの設定場所についていたが、自由に動き回る子どももいて落ち着かない状況であった。	現時点での子どもの状態に合わない設定が事故に繋がった。	子どもの発達段階に合わせること、さらに職員体制に併せて臨機応変に対応する。	
9096	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	9				2	7				2	2	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	ガイドライン、マニュアルの周知徹底と研修の定例化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	—	ゆとりのある保育室環境の整備	1.集団活動中・見守りあり	—	保育室で大きく身体を動かして遊ぶことのないよう指導するとともに、子どもの状況に応じて遊戯室を使用するなど柔軟な対応を図る。	1.いつもどおりの様子であった	平時に比べるとやや落ち着きのない様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守りはしていたが、事故に対し即対応できる距離にはいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じ保育室内で他の子どもにかかわっていた。	—	室内での遊びに飽きてきた故の子どもの行動と考察されるので、保育者が静かな遊びに誘うなど積極的に働きかけて、事故を未然に防ぐようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9097	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10	0	6	1	3				4	4	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	骨折に関しては、患部を痛がり動かそうとしない、腫れや内出血がある等の時は骨折が疑われると記載があり、そのような状況が診られなかった為、見逃ししまった可能性もある。	実際には、ひびからの骨折なのか等わからないこともあるが、判断に迷ったには時には受診をするようにしていく。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	294	1.定期的に実施	294	雲梯の向きが園舎側に向いていた。遊具の状態は問題ない。構造上下部に地面から30センチ程度のところに鉄棒があり、その部分がうまく跨げず転倒した。	雲梯の向きを含め、配置の検討が必要と考え向きを変更した。雲梯の使い方として登り下りの順序を決めいていた為、位置を動かすことで職員の立ち位置が変わり、違った配慮が必要になるなどの意見もあった。	3.個人活動中・見守りあり	土曜日保育中園庭での出来事	職員配置など問題はなかったが、子どものとっさの行動に、声掛けなどが間に合わなかった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	2階から職員が下りてくる際に、妹を発見し自分の方へ呼び寄せた。本児は雲梯近くにおり、職員1名が至近距離にいたが目の前にあった雲梯の横棒をまたぐことが出来ず、突っかかり転ぶ際に手が先に地面についてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯近くに2名の職員がいた。1名は乳児が園庭に出てきたことにより、乳児用の滑り台の方へと身体を向けた。雲梯には別の職員がいたが、本児のとっさの動きに声掛けが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	乳児と共に降りてきた職員は、至近距離にはいたが、乳児を見ていた。	土曜日の保育は通常と違い、人数も少ないため、自分の妹の存在を確認すると嬉しくなり、早く近くに行きたいという想いに至るのではないかと想像すべきであった。	移動する際、走る際には周囲をよく見ることなどを繰り返し、本児に知らせていく必要があるが、雲梯に調き足を取られてしまうということが実際にあったという点を検証し、雲梯の向きを変える。職員がしっかりと付ける状態で、遊具を開放できるようにしていく。	
9098	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18							0	4	4	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	ボルタリングの突起部分や脚をかけたり抜いたりして使う部分の使用方法が理解できていなかった。	使用方法を再確認していく。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	自分自身はできると思っていた。	挑戦する力を持つことは大事でありつ事を加味しつつ、安全に配慮した環境を整えていく。	1.集団活動中・見守りあり	本児が登り始めたのに気が付きすぐに近寄ったが、その瞬間落下してきたため頭を守ったが間に合わなかった。	使用方法確認していく。	1.いつもどおりの様子であった	常に周りをみて声をかけ合っている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭全体を確認して声をかけ合っている。確認した際には声を出しながら職員も側に行く。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が登っているのをお互いに確認して近づいた。	本児自身は出来ると過信していた部分がある。	挑戦する力を持つことは大事であるが過信しすぎない様にし、挑戦する時は保育教諭を呼ぶ。	
9099	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	88	5	11	16	19	19	18			18	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	給食時間ということで、職員の目が行き届いていなかった。	早く食べる児童などの対応ができるよう、職員の行動の取り決めを話し合った。	1.定期的に実施	数回	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	ソフト面、環境面、人的面に要因を記載したため、未記入。	1.集団活動中・見守りあり	食後、室内からテラスへ出る。しかし、園児がテラスに出ていることを職員が把握できていなかった。テラスへの窓も換気の為開けていた。	給食が終わった子はテラスには出ず、静かに室内で過ごすよう園児に話す。職員に関しては、子どもの動きに合わせて行動できるよう給食も時間差で食べる様対応している。	1.いつもどおりの様子であった	早くに食事が終わったため、テラスに出て遊び始めてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内とテラスとを行き来していたため室内で過ごすよう話をし、職員は食事が終わっていない他児のところに戻った。しかし、園児はテラスへ再度出ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の食事援助や他児の対応をしていたため、園児を見ていなかった。	テラスに出る窓が常に空いている状態である為、自由に行き来可能である。そのため死角になる場所で遊んでいると確認しづらくなる。	テラスへ続く窓を見れるような職員配置をとる。職員の給食は時間差でとり常に対応できる配置をとっておく。	
9100	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	37									3	16.4歳	2.女児	–	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじを骨折。	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	昼食を終えた子から順に遊びだし、一方ではまだ食べている。遊びだしている子たちの声がだんだんと大きくなっていったり、動き出す。	ある程度の子が食べ終えるまでは着席していて、ごちそうさまを一緒にしてから遊びだすようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施		1.定期的に実施	毎日	廊下からテラスの段差は20cmくらいで、危険な高さではない。急いで拾おうとして焦ったため転んでしまったのではと思われる。	注意して降りるということを、繰り返し伝えていき、段差を改善する予定はない。	1.集団活動中・見守りあり	段ボールコーナーは段ボールを固定してなくて不安定であり、中の様子も保育者から見えずらいところがある。	段ボールコーナーはやめて、テーブルと椅子を用意し、着席して活動できる製作コーナーとする。	1.いつもどおりの様子であった	食事を食べ終わり、段ボールコーナーで数人とはしゃいで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	連絡帳のチェックをしながら、クラスから廊下で遊ぶ子たちの様子を部屋から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事を食べ終えていない子たちの様子を見ながら、食事の片づけに取り掛かっていた。	職員3人はそれぞれに○○しながら、遊びの見守りをしている。	ある程度の子が食べ終えるまでは着席していて、ごちそうさまを一緒にしてから遊びだすようにする。その際は年中の職員の1人は廊下で見守るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9101	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	27									3	3	15.3歳	1.男児	–	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	–	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	職員配置を検討する	椅子の座り方の指導を行う。職員全員で声を掛け合いながら、隙のない保育を行うようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	椅子の座り方の指導が十分行えていなかった。本児の座り直きに対して声掛けがなかった。もっと全体に目配りをすれば良かった。	椅子の正しい座り方を徹底し、なかなかうまく座れない場合は、肘付きの椅子を使って指導していく。	1.集団活動中・見守りあり	椅子の座り方の指導が十分行えていなかった。本児の座り直きに対して声掛けがなかった。もっと全体に目配りをすれば良かった。	椅子の座り方の指導を行う。職員全員で声を掛け合いながら、隙のない保育を行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	昨年度から在園していたが、椅子のサイズが変わり椅子の座り方が上手でなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	4月初めで入園したての子どもに給食の介助をしつつ、対象児を含めて全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任の他に2名いたが、それぞれ個別に給食の介助を行っていた。	椅子の座り方の指導が十分行えていなかった。本児の座り直きそうとした動きに対して声掛けがなかった。もっと全体に目配りをすれば良かった。	椅子の座り方の指導を行う。職員全員で声を掛け合いながら、隙のない保育を行うようにする。	
9102	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	5				5					2	1	15.3歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左頬部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	支援児がいる場合は職員の増員をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	–	タオル掛けを使用していない時にもかかわらず、使用時と同じ位置においていた。	タオル掛けを壁面に固定をする。	1.集団活動中・見守りあり	通常の加配保育教諭ではなく、代替職員がそばについていた為、対象児の動きの予測が難しかった。	日頃の対象児の支援状況を職員全員が把握するとともに、正職が対象児の支援につくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	椅子に座って絵を描いていたが、突然席を立ちタオル掛けに向かって走り出した。タオル掛けの向こう側に本児の好きな金魚の水槽があったので、それに向かって行ったと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が絵を描いて落ち着いていたのでその場を離れても大丈夫だと思い他の幼児のトイレの付き添いの為、本児から目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びのコーナーについていた為、見ていなかった。	特になし	対象児から離れる際は、他の職員に声をかけ常に保育教諭がそばにつくようにする。	
9103	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	35	0	0	0	10	25	0	0		4	4	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折（左鎖骨部）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5～6	2.基準配置	特記する事項なし	引き続きマニュアル等に基づき配慮する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	滑り台に勢いがつきやすく、着地が上手くできなかった。	遊具での遊び方、注意点など事前に伝える。	1.集団活動中・見守りあり	これまでも外遊びで利用している広場だったが、集合の声かけにより遅れまいと急いでしまった可能性がある。	集合時には広場内を回りながら、慌てないように声かけもしていく。	3.いつもより活発で活動的であった	遊んでいたすべり台は、前回遊んでから少し経過していたので、本児も楽しく何回も滑っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すべり台の他にブランコや回旋塔もあるので、それらが見渡せる場所にいて、けがが無いように声をかけながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集合の声かけにより、数名集まってきていたので、周りを見ながら集合地点付近にいた。	久々に園庭を訪れ遊具で遊んだため、子ども達も開放感があり活発に遊んでいたので、子どもの遊びを尊重しながら様子を見ていた。	遊び慣れている場所ではあったが、遊ぶ間隔が空いている場合は、遊具についての遊び方を再度子どもたちと確認し合うなど、遊び方を伝えていく。	
9104	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	83				28	27	28			5	5	15.3歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	なし	３歳以上児職員で今回の事故について、原因分析、是正についての話し合いを行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	200	雨天ではあったが室内は滑りやすい状況ではなかった。また、玩具が散らかっている状況ではなかったが、片付け前で少し騒がしかった。	床に玩具が散らかっていることがないように、他の遊びに移るときに片付けをするよう園児に声を掛ける。	1.集団活動中・見守りあり	朝の体操を行うため、片付けをしている子、遊びを続けている子、他の部屋から移動してきた子と少し騒がしい状況であった。	３歳以上児が一部屋に集まってきていて騒がしい状況であったため、体操の為に集まってきた子たちの待機場所を決めておく。	1.いつもどおりの様子であった	慌てて片付けをしている様子はなかったが、片付けを行っている際に玩具の入っている箱につまづき転倒し、左腕が身体の下に入ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くで園児と一緒に玩具を片付けていた。転倒した際、すぐに本児に駆け付けた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで遊んでいる子どもたちに片付けを促しながら、一緒に片付けを行っていた。	職員の配置がはっきりしていなかったため、片付けにつく職員と体操を行うために集まってきた子どもたちを集める職員間で声を掛けながら連携を図る。	職員の動きを明確にし、片付けをする職員、片付けの終わった子どもたちを集める職員と職員間で声を掛けながら連携を図る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	事故発生の要因分析 その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9105	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	3									1	1	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	–	1.基準以上配置	特になし	担任指導の下でのみ跳び箱を使用する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	基準日だけでなく、使用する際は支援員なども含め必ず確認し使用する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	担任指導の下でのみ跳び箱を使用する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの行動	2.対象児の至近で対象児を見ていた	自由遊びの中で跳び箱を出したので安全のため跳び箱の傍に有資格者が立って見守っていた。本児の手の付き方が変だったため注意しようとしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にはいたものの、廊下にいあた園児の対応をしていた。	特になし	担任指導の下でのみ跳び箱を使用する。	
9106	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9									2	2	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	6.その他	–	不詳	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	危機意識の高揚を図り、研修をより充実させる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	原則毎日	階段の踊り場が保育者から死角となっている。	園児が死角となるよう場所に行かないよう、柵などを設けた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもから目が離れないよう保育者の数を増やすようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	体調不良なのか朝から泣いている様子があった。声がけをしてもあまり反応していなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	トイレ指導中、二人の保育者がトイレ指導や泣いている子の対応をしていたため、本人から目が外れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発見後、園長、教頭に連絡すると同時に救急車を要請した。	病名ははっきりしないが、「てんかん」或いは「熱性けいれん」の疑いがあるようだが、発病の瞬間を確認できていなかった事が課題である。	体調不良が疑わしい児童に対しては、更に注視するよう意識改善を行う。	
9107	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	31									4	2	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	特になし	職員配置には問題はないが、職員間で園外活動を行うときは危機意識をより持つこと、緊急連絡の仕方を再度確認した。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	–	雑草	事前に施設の状況を把握する	1.集団活動中・見守りあり	コロナ禍で外出に制限があり、運動面での問題があったのかもしれない。	運動面の成長を促す方法の模索を体操の先生を交え検討していく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこに楽しそうに参加していた。健康面もいつも通り元気	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集合の合図をして、こちらに駆け寄る対象園児は目に入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は少し離れた場所でほかの園児たちに対応していた。	特になし	職員間で園外保育を行うときは危機意識をより持つこと、緊急連絡の仕方を再度確認した。	
9108	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	24									2	2	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	小さい子どもでも遊べる置物だったので特に注意することがなかったが、子どもはどんな些細なことでも事故につながることを肝に銘じたい	子どもたちとも一度遊具の使用方法を話し合っていく。事故はどんなときにも起こることを皆がもう一度再確認する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	遊具の周りの土壌に凹凸と樽の根がある。	遊具の周りの整備（凹凸のある地面を平らにならす等）	1.集団活動中・見守りあり	職員間のコミュニケーションをしっかり行う	園庭での自由遊びの時の職員配置をもう一度検討しあい、事故の防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつも通り元気で遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	特に危険な遊具でないこと、4歳児であることなどから、離れたところから見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの子どもたちも遊んでいるので、対象児を見ていなかった	特に危険な遊具ではなかったので、大丈夫という気持ちがあったと思う	どんな時のどんなことにも注意を怠らないこと	
9109	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12									1	1	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨下端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	子どもの身体についての認識かつ確認不足であった。	活動する際に自分で危険予測が意識できるよう呼び掛けたり、安全に活動できるよう見守ったりする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	特になし	施設・設備としては特に問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	本児は遊びのつもりだったがソフト積み木に不安定な状態で座っていた為咄嗟の対応ができなかったのではないか。	ソフト積み木で遊ぶ際に適切な扱い方ができるよう保育者も一緒に遊びながら伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任2人のうち1人が実習生と保育を交代するタイミングだった為、十分児の動きが把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育に入るタイミングだった為、児の動きを把握できていなかった。	保育者と実習生が室内にいたが、本児の動きがそこまで危険と感じるほどの動きではなかった。	保育者は常に全体を見ながら安全に遊べるよう見守り怪我につながりそうな遊び方をしている時は声をかけるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9110	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	24					24			3	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指中手骨亀裂骨折 右前腕挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2～3	2.基準配置	園外保育で1列で歩いている体制で、前方・中間・後方に職員が付き、歩いていたが前の子との間隔が空いたので、つめるために走ってしまい躓いて転倒してしまった。	様々な歩道の歩き方を身につけられるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	普段とは違った環境で子どもたちもテンションが上がり油断しやすい。	その都度マップなどで危険箇所や歩く時、注意する事をみんなで確認する。	1.集団活動中・見守りあり	お散歩などには数回出かけた事はあるが、まだ園外を歩き慣れていない。	散歩を通じて交通ルールを知りながら自分で意識して歩けるように援助していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝からテンションが高く歩いている時も危険な行動をとることがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	間隔をあけて気になる園児の近くに付き、分かれて見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	道幅も狭く1列で並んでいたので職員同士は少し離れていた。	本児は普段から活発な子で、その時も何度か職員が気をつけて歩くように声かけをしていた。	園外保育に出かける時はいつも以上に緊張感を持って交通安全の意識を高めれるように普段のお散歩に行く時から気をつける。又、足に合った靴を履くように保護者にも協力をお願いする。	
9111	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	38								2	2	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折 右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	子どもの行動を予測できるような研修を取り入れる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし	引き続き適正な環境整備に努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	部屋の大きさや人数に見合った計画を立案する。	1.いつもどおりの様子であった	平均台の使用を他児が職員に確認中に待ちきれず上って遊んで転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	3つの運動遊び（縄跳び･ブロック･鬼ごっこ）をしていて、職員は全体的に視野を広げて子どもの安全を確認していた。危険予測が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	縄跳び遊びを中心に子どもの安全を確認していたため、気がつかなかった。	遊戯室で3つの運動遊びをしていたのにさらに遊びを増やすことは危険につながると予測できなかった。	子どもが遊ぶ際は、物を出しっぱなしにせず収納しておく。もしくは、子どもの待てない特性を理解して職員の配置を変更する。	
9112	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	93	1		12	15	21	21	23			24	22	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近端骨折・右橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルの点検と職員への周知徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時	特になし	特になし	6.食事(おやつ)中	配置された机の間を通って配膳台に食器を片付けに行き、机上の弁当箱やコップ等をしまった鞄をロッカーに片づけてから、自由に遊ぶために慌てたのかもしれない。	机と机の間を広く取るようにする。片付けをする際は一方通行にするなど保育室環境・導線の見直し	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊べるため早く園庭に出たくて配膳台に食器を片付けたあと、席に戻る際少し慌ててしまったのかもしれない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2名の担当職員と2名の実習生がいた。それぞれ子どもの様子を見ながら片付けや掃除の手伝いに入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々各教室で、担当クラスの活動を行っていた。	他クラスの参観日で通常とは違う雰囲気に気分が高揚し、いつもより早く外へ行こうとしていたのかもしれない。	室内では走らないという約束を常に確認する。危険が予想される場面では都度声をかけ注意を促す。	
9113	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9								2	2	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	高く積み上げたブロックの上から飛び降りようとしたため。また，保育者が十分に見切れていなかったため。	高い場所を登ろうとする園児が多いので，安全に遊ぶことができるように環境を整えたり保育者が側について見守ったりする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具（ソフトブロック）の危険性を把握仕切れてなかった。	危険予測をしっかり行う。	1.集団活動中・見守りあり	遊具（ソフトブロック）の危険性を把握仕切れてなかった。	危険予測をしっかり行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	高いところから跳び降りることが楽しくなり，園でも家庭でもそのような姿が見られる。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児がトラブルをし，それに対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気持ちが不安定で泣く園児の対応をしていた。	園児全体の様子をきちんと把握できていなかった。	トラブル等を対応しながらも，全体の様子を気にかけて把握しておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9114	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	62			22	19	21			7	7	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手 中指 骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	特になし	園全体で今回の怪我について周知し、戸外遊びを安全に楽しむために、保育者の立ち位置や子どもの発達や育ちに見合った遊び方の提案等が出来るようにしていくことを話し合い、保育実践していく。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	245	特になし	引き続き２カ月に１回施設内・遊具の安全点検チェックリストで点検を行い、遊具の周りに危険な物を置かない、危険な遊びになっている場合には情報共有していく。	1.集団活動中・見守りあり	石を投げて遊んでいたが、保育者が最後まで関わることができなかった。	引き続き無線を使用し、保育者の立ち位置を工夫する、子どもの遊びや姿を情報共有しながら保育を行っていく。今回の怪我について話し合い、どのような環境でも大怪我に繋がる意識を持って保育し関わり方の工夫、環境への配慮に十分気を付けていく。	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友だちと「石の中を見てみたい」と思い、石を割ろうとしていた。固い石畳のテラスに打ち付けて割ろうとしていたが、他児が投げた石が本児の手に当たってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	戸外遊びには子どもの人数に応じて保育者が付いていた。（系列のこども園、小規模保育園職員も戸外についていた）本児たちが石を投げていた姿を確認していたため、安全に遊べるよう声を掛けていたが、怪我に繋がってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	サッカーをしていた他児についていた為、本児らの姿は確認していたが、関わりや声掛けはできていなかった。	特になし	子どもたちの遊びに応じて様子を見守ったり、遊びに介入しないことも多かった。子どもの遊ぶ姿や動きを保育者間で必ず把握できるような連携を図り、怪我や事故の防止に努めていく。	
9115	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	16				16				2	2	16.4歳	2.女児	–	6.水遊び・プール活動中	1.負傷	–	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	熱性けいれん	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	研修でプール時の安全対策周知と事故発生時の対応についての徹底を周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	設備等の不備はなし	1.集団活動中・見守りあり	プール活動前の園児に対しての体温を測る等の健康チェックを徹底していなかった	今後、保護者からの体調の連絡と合わせてプール活動前(入水前)に体温を測る等、体調管理の徹底に努める	1.いつもどおりの様子であった	家庭からの連絡では熱など体調不良はなかったため、プール活動に参加する。プール活動直前の様子も普段どおりであった	4.対象児の動きを見ていなかった	プール活動中の際、担当職員が対象児の反対方向にいる多数の子ども達の方へ進み、視線もその方向に向いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任の進行方向に子どもが集中し、あそびがダイナミックになった為、危険がないか視線をそこに集中させてしまった。	担当職員も監視職員も同じ方向に視線が向いていた為、対象児の転倒に気づけなかった。	担当職員も監視職員も視野を分散させるように心がけたり、監視職員は全体を視野に入れて監視するよう徹底する。	
9116	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17								3	3	14.2歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	リスクマネジメントに対する意識を更に高められるようにし、予見可能性に基づく結果回避に努める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	毎日	特になし	外遊び中は芝生シートを敷く	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き立ち位置に気を付けて、全体に目を配る様にする	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子だった為、普段通り見守る	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が走って転倒したのを見ていた。転倒後、駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が転倒したのを見ていた。対象児から離れた所で対象児の動きを見ていなかった。	特になし	引き続き、怪我のない様に見守る	
9117	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	36	2	6	5	5	9	9		8	5	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	マニュアルはあるが、玩具一つ一つの形状（丸形や四角）や遊びの仕方に注視するといった配慮が足りなかった。	園児一人一人の遊びの様子や趣向、行動を職員間で伝え合っておく。行動パターンを知り、適切な声掛けをしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	積み木のまわりが欠けていないか、形状（丸、四角）により危険度が違うことを認識する。	積み木の上に乗る際には中央に乗るなど、慌てず確認しながら遊ぶことを促していく。	1.集団活動中・見守りあり	十分注意して本児の様子を見ていなかった。	全体に絶えず目を配り、他の職員と連携をとり慎重に行動する声掛けや落ち着いて遊べる環境をつくっていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも遊んでいる積み木であり、高さも20cmくらいでこれまで転倒することはなかったが、今回、転倒時にバランスを崩し受け身が取れなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の近くにいたが、転倒するとは思わず本児の動きを見ていることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしていた。	安全を過信し、声掛けや注意を促す配慮に欠けていた。	保育者は危険な場面をあらかじめ想定し言葉掛けや全体が見える位置取りをするなど、職員間で共通認識をする。	
9118	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10		3	3	2	2			4	1	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第2・3・4中足骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	棚の足にコーナークッションがついていなかった。	棚の足にコーナークッションをつけ、ケガの防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	気分が高まり、勢いよく滑り込んでしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ピアノを弾きながら本児の動きは見ていたが止めることはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別室にて、他児の検温、排泄介助をしていた。	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9119	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	職員間で対応を共通理解し、再発防止に務めた。	1.定期的に実施	203	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	203	特になし	ホールの床面に危険なものは無かったが、側転をしようとしている様子が見られた時にはマットを準備する。	3.個人活動中・見守りあり	他児もホールで遊んでいたので、ザワザワした雰囲気だった。	自由遊びの時間でも側転に挑戦しようとする子がいる場合には、マットがすぐに使えるように体育倉庫から出して準備しておく。	1.いつもどおりの様子であった	側転をしている友達を見て真似したくなり、同じようにやってみていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児がどこにいるかは把握していたが、怪我が起きたときはドッジボールをしている子を見ていたため、側転をしようとする様子に気付けなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で遊んでいる子たちの見守りをしていたためホールにはいなかった。	個々の運動発達面の理解をもっと深めておくことで、怪我につながりやすい子（可能性として）を把握し、必要な手立てができたのではないか。	対象児たちが側転遊びをすることが予想できていなかったので、運動遊びへの興味関心が高まってきていることを共通理解し、必要な環境（マットを出す、周りに危険なものが無いか確認するなど）を準備しておく。	
9120	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	88			42		46				5	5	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	事故についての意識の持ち方	事故（防災）防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	240	なし	施設・設備には問題なし	7.その他	登り棒での遊び方	職員や子どもたちに正しい遊具の遊び方について改めて伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	2本の登り棒を使って両手両足でつかまって登っていた。その際、上方から手を滑らせてしまい落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は居たが他の園児の保護者対応を行っていたため、落下を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の別の危険個所で他の園児の様子を見ていたため、見ることができなかった。	危険を伴う遊具への保育教諭の危機管理不足。	危険が伴う遊具という事を改めて伝え、監視の仕方を考えていく。	
9121	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12				5	7				1	1	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	特になし	雲梯や鉄棒で遊ぶ際の危険性の再確認をするとともに、遊んでいる子どもの運動能力や、遊具への取り組みの状況を考慮しながら活動の見守りや支援を行う。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	12	特になし	降りたり落ちたりしたときの衝撃を和らげられるよう、雲梯の下に砂を敷く。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	鉄棒、雲梯で遊ぶ際に、保育者が必ず傍につき、目を離さないようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	いつもの通り、雲梯での遊びに取り組んでいたが、保育参観で保護者が園に入り始めた時間で、本児も周りの子どもたちも少しそわそわしている様子があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	いくつかの遊びが展開されており、他の遊びにも目を向けていたため、落下を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児と年中児が、少しずつ外に出始めたところだったので、他クラスの保育者は、遊具の付近にはまだいなかった。	特になし	一人一人の特性や、遊具への取り組み状況を保育者間で伝え合い、連携して見守っていく。	
9122	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	9					9				2	1	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	事故発生防止のための指針は作成されているが、「安全な保育環境を確保するための配慮」について再確認する必要がある。	「安全な保育環境を確保するための配慮」について職員間で話し合いを行い、必要な配慮を話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	本来ジョイントマットの上ではままごと、絵本、ブロックなどの遊びをしているが、マットが敷かれていることで挑戦してみたくなったかもしれない。前転をするマットではないことを知らせておく必要があった。	前転をする際は、運動ができるような状況（運動マット）で挑戦することを約束する。	3.個人活動中・見守りあり	その場所で前転など体を動かすことは、危険であるということを知らせていたが、薄いジョイントマットがあったことでつい挑戦してみたくなってしまった。	マット遊びをする際の約束事を子どもたちと再確認した。前転をする際は周りをよく見て慌てずに前転することを約束する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子で友達と絵を描いて遊んでいた。その後、片付けとなりジョイントマットの場所が広くなったことにより前転に挑戦。直後に右手に痛みを訴えた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室で子どもたちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレにいた子どもについていたため、その場にはいなかった。	片付け後は、トイレに行ってから広場に行く予定だったため、保育者は前転をすることを予想していなかった。もっと子どもたちの動きに注視しておくべきだった。	園児と安全な遊び方の約束を再確認する。職員間で連携を図り、子どもの動きによく注意していくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9123	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								1	1	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手第3指、第4指基折骨骨折 ・ 左手第4指、末折骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特になし	子どもへの跳び箱を行うときの注意指導。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	跳び箱に指をぶつけたためのもので予防は難しい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもに対する注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その場に担当職員しかいなかった。（人員配置基準上は問題なし。）	傍についての跳び箱であったが、その場で痛がる様子もなく、骨折等には気付かなかった。	跳び箱を行うときの指導の徹底。	
9124	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス						29			1	1	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特記事項無し	研修、職員配置も十分に行っていた為改善点なし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特記事項無し	点検は十分に行っているため改善点なし	1.集団活動中・見守りあり	年齢的にまだ危険かどうか判断できない部分があり今回の行動をとってしまった	どのようなことが危険行為になるのかその都度伝える	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子なく普段と変わらない様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が居る場所は把握していたが、全体の見守りも行っていた為、落ちる瞬間には気付かず落下後に別職員が通りがかり、職員間で情報共有と速やかに処置、連絡をおこなった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当時、29人だったため担任2名のうち1名は休憩をとっていた。他部署の職員が通りかかりに様子を見たり声をかけたりと協力して見守っていた。	1人での見守りの際には、危険度に応じて使用遊具を制限するなどの対策があっても良かった。	危険行為だと分からずに行動することがあるので十分に気をつけながら見守りや声かけをする。	
9125	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	65								4	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折（親指側） 左手首の骨のずれ（小指側）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	幼児の遊んでいる様子を職員間で連携をとりながら把握するとともに、危険な遊び方や姿があった場合には、その都度指導していく。また、園庭での遊具の遊び方を学年、学級で確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	設備に特に問題はない。	安全点検の結果の周知やヒヤリハットの見直しを行うとともに、遊具の危険な使い方に発展しないよう園児が興味の持てる遊び場の設定を考えていく	1.集団活動中・見守りあり	遊具（滑り台）の使い方に、誤りがあったため事故につながった。	クラスで園庭での遊び方を考える機会を設け、安全に遊べるよう指導していく。また、友達が危険な遊び方をしている際には、注意をし真似をすることがないよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から体を動かす遊びを好み、当日も好きな友達の後を追ってジャングルジムに登ったり、砂場や滑り台などして動き回っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で、友達と駆け回って遊んでいる時の姿は把握していたが、動きの激しい子や遊びの見付からない子とかかわっていたため、対象児が滑り台で遊んでいる姿や落ちる瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムに登っている子を見守った り、動きのある加配児とかかわっていたため本児の動きを見ていなかった。	担任ではなくても、周りの幼児が安全に遊べているか、職員全体で幼児を見れると良かった。危機管理意識が薄かったのではないか。	園庭で遊ぶ際に、保育者の立ち位置や職員間の連携も密に図れるよう、再度クラスや学年で動きを整理していく。	
9126	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	5								1	1	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性の歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	1.基準以上配置	子どもの発達に応じた具体的な配慮事項が徹底できなかった。	年齢に応じた保育内容の中で身体発達を促せるようにする。その為に担任間で活動における子どもの育みたい姿を具体案を出しながら共通理解をし、保育をしていく。また、研修を通じて職員の保育の質や危機管理能力の向上を図る。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	294	1.定期的に実施	294	特になし	子どもが活動する場所は事前に保育者が危険物はないか、広さや遊具は適切かなどを点検後活動することを徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	本児は日頃から転びやすかったり、走り方も身体を左右に振りながら走ったりと不安定な部分があるが、保育の中で身体の使い方を促せる遊びが不十分だった。同じ場所に配慮が必要な児童もおり、突然他児を押す行動や不快な時には噛みつく行動があったためそちらにも意識を向け、注意散漫になってしまっていた。	保育者1人で子どもを保育するときには子どもの様子を踏まえ保育内容を計画し実施していく。事故後、検証委員会を踏まえ、グループ編成の見直しを行い配慮児と対象児を分け、一人ひとりに合わせた関わりができるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	他児が追いかけっこしているのを見て走り出した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が走っているのを確認して、本児含め近くにいた子と一緒に走っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	バランスボールにまたがって跳ねる遊びを子どもと一緒にしながらその場を見守っていた。	子どもの身体面の発達について把握していたが、配慮に欠けてしまった。	子どもの発達について日頃から担任間で共有していき、保育の中で適した関わりができるようにして本児の発達を促す。具体例としては戸外活動時、タイヤを引っ張ることや転がす遊びをしたり、保育者と手を合わせて押し合う遊びを取り入れた。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9127	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22				62					12	9	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	雲梯が最近できるようになってきたところで、まだ慣れていないところもあった。個の力量に合わせた見守りと援助ができていなかった。	危険な遊具には保育者がそばに付いて見守る。子どもへ遊具の使い方の再確認をする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	雲梯の下には人工芝が敷いてあったが、雲梯中に手を離し、足で着地できなかった。	気になる行動をしている時には注意を促すようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	本遊具のみ人工芝であったので他の遊具と同じソフトマットを敷くようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもは戸外へ出る準備が最後で担当の保育士と一緒に2階から階段で下りていたが、発生日は用意もスムーズでいつもより早く園庭へ下りた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任と職員①は他児対応、職員②は体操をするための機械の準備中であったため、本児の落ちる瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３歳児園児と職員も戸外で遊んでいて近くにはいたが、対象児の落ちる瞬間は見ていない。近くに居た他児から事故の状況を聞き取り、怪我の確認を行った。	外に出てきた直後のことで遊びの態勢ができていない環境であったため、十分な見守りができていなかった。他学年も園庭に出ていたが、他児対応をしていた。	学年は違っても園全体の見守りができる態勢で遊び始めるように安全監視に努めたい。	
9128	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	6									1	1	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	マニュアルには、今回の事故に対応する内容は無かった。	骨折に至る要因として、今回の事例を記載し、職員に周知する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特に無し	周りの環境には問題が無かった。	4.個人活動中・子どものみ	特に無し	いつも通りの行動であったため、問題がなかった。	1.いつもどおりの様子であった	クラスに入室後、本児が一度床に置いた荷物をとろうとしゃがんだ時、顔に右鎖骨をぶつけた。	4.対象児の動きを見ていなかった	早朝預かり担当教諭は、本児が入室するまで見守っていた。その後、担当教諭は他のクラスの子どもが各クラスに入室する姿を守っていたため、本児のしゃがんだ瞬間を見てはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の教諭は、他のクラスの誘導をしていた。	子どもだけで入室したため、的確な声掛けが出来なかった。	早朝預かりから各クラスへ園児が移動する時は、クラス教諭は先に入室するようにする。朝の身支度を整える時は、落ち着いて行動するように声をかける。	
9129	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18				7	11				3	3	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	子ども達の基礎体力の向上にむけて、危機回避能力等について研修等を行う.	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	床が滑りやすくないか日常点検で点検する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ドッチボールなどを行う時はストレッチ等準備運動を行ってから始める。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどうりで変わったようすはなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボール中職員のすぐ近くにいた。「ボールを投げるよ」と声をかける。他児とおなじく逃げて転倒する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３歳児は隣のスペースで遊具に乗っていたので転倒した状況は見ていなかった。	特になし	現在感染症対策の為出来るだけ、混合保育をさけてクラス単位の活動をしている。時間帯によってはクラスの職員が一人という場面もある。密ならない状況で混合保育にして運動遊びなどを行い複数の職員体制を取る。	
9130	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27				13	14				3	3	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の肘と手首の間の橈骨骨折・尺骨の若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	園庭の広さからみて、子ども達の人数は多すぎる事はなく、職員も３人配置していたが、途中で登園してきた園児を受け入れながら２クラスの合同保育を行っていた。	砂場を開放せず広場と固定遊具だけで遊ぶようにしたが、広場でかけっこをして遊ぶ子が多かった。職員の配置人数を考えることに加え、子どもの動きや遊び方を見て砂場を開放するなど臨機応変に対応をしていく。	1.定期的に実施	1回/年その他、職員が、日々実施。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	職員が、日々実施。	特になし	今後も安全点検を行いながら、危険個所があれば事前に対応できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	回避がうまくできない３歳児と動きがダイナミックな５歳児が園庭全体を使ってかけっこ（鬼ごっこ等）をしていた。広場や芝の築山と固定遊具だけでの遊びになっており、走る子どもが様々な方向に向かって走っていた。	異年齢で遊ぶ場合、かけっこ等を行うのは広場のみにする等年齢に応じて園庭での使い方にルール付けを行う。職員が３名いたが広場と固定遊具のみで遊んでいた為、砂場も開放する等座って遊べる環境も準備をする等、活動を考える。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、園庭に出て遊び出した。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ている職員、固定遊具につく職員、畑などを観察する子ども達につく職員と分かれていたが、それぞれが他の園児を見ており、事故の瞬間は見れていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ている職員、固定遊具につく職員、畑などを観察する子ども達につく職員と分かれていたが、それぞれが他の園児を見ており事故の瞬間は見れていなかった。	何人もの子どもが様々な方面に動いて転倒で、それぞれが他の園児を見ていたことで、瞬間を見れていなかった。	朝の受け入れをしながらの戸外遊びだということで、途中で園児が増える状況ということあり、職員を３人配置していたがそれぞれが別の園児を見ており、事故の瞬間を誰も見ていないという状況になってしまった。全体を見る職員は、個別対応も大切だが、もっと広い視野で子どもを見れるよう意識していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事											ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷	診断名				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
																							死因	負傷状況	受傷部位																													
9131	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	37	0	0	0	0	0	0			3	2	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎部裂傷・下顎部擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特になし	マニュアルがあり研修実施、職員配置を満たしているため特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	施設・遊具・玩具の安全点検は定期的に実施しているため特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	移動時は走らず落ち着いて歩くことを再度指導してから活動するようにする。転倒しやすい園児は、担任の目が届きやすいよう、並び順を前にする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと手をつないで歩いていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見守っていた	特になし	環境面と重複するが、友だちと手をつないで歩いている時は転倒した際に手をつきづらくなるため、急に走り出さない・お互いに歩幅を合わせ声を掛け合って歩くなどの約束事を指導してから活動するようにする。	
9132	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	12									15	14	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	3.火傷	2.顔面(口腔内含む)	背部第２度熱傷 左上肢第２度熱傷	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	6	2.基準配置	嘔吐処理の際　応援の要請の習慣がなく担任だけで処理をしていた。	嘔吐処理の仕方を再確認し担任以外の職員にも応援を要請するようにする。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	嘔吐処理に熱湯を使った。その置き場所が適切でなかった。	嘔吐処理に熱湯は使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの動線上に熱湯が入ったバケツがあった。	熱湯はいかなる状況であっても使用しない。	1.いつもどおりの様子であった	着替えが終わったあと　いつも通りに上靴を取りに行った動線にバケツがあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室にはいた が嘔吐した子どもの検温や保護者への連絡をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保育をしていた。	嘔吐処理の際　他の職員を要請しなかった。	何かあったときは　他の職員に声掛けや応援の要請をする。	
9133	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20				9	11				3	3	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	中履きを履いて練習を行なう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	ホールで行う場合は、子どもの人数を減らし衝突のリスクを減らす。	1.集団活動中・見守りあり	裸足でソフトボールでサッカー練習を行なっていた。	他児との衝突について声がけの徹底を行う。	1.いつもどおりの様子であった	他児との衝突についての声がけの徹底をしていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	衝突前に防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	衝突時、他児を見ていたため防げなかった。	見守り、声がけが不十分だった。	いつも以上に見守り、声がけを徹底して行う。	
9134	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									1	1	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	園庭での遊びの中で築山という広い範囲内での行動を把握する能力が乏しかった。また、段ボールを使っての危険度も予想出来なかった。	その場で保育教諭が1人の時は、無理な遊びはしない。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	築山という事で斜面があり物を使っての遊び方のハードルが高かった。	物を使っての遊びの際は、監視のもと1名ずつとする。	1.集団活動中・見守りあり	自由に園庭で遊ぶ時間に日頃使っていない段ボール板を使っての遊びの危険性や遊びの約束を再確認しなかった。	通常使わない物を用いての遊びの際は、補助職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気で活発に遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と至近距離に居合わせたが、想定外の出来事であり手が出ず防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の保育教諭や職員は園庭にいなかった。	園児の遊びの展開に予想がつかなかった。	1人ひとりの遊びの行動を見る必要がある。また、広い園庭で保育教諭が１人の場合は、補助職員を配置する。	
9135	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									2	2	14.2歳	1.男児	–	4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷	–	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	熱性けいれん	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	–	2.基準配置	特になし	ひきつけのマニュアルについて全職員で見直しや確認をした。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		特になし	特になし	5.睡眠(午睡)中	特になし	特になし	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	午睡前の検温の時は熱は無かった事を確認している。午睡中の急な熱発によるひきつけ。具合が悪くなってきたことで泣き出し、職員も気づいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ひきつけの様子などひきつけチェックシートを元に園児の様子を確認していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員室への連絡　クラス内の他児の対応など	午睡中の睡眠チェックで常に子どもの様子を見ていたことで迅速な対応ができた。	睡眠チェックの大切さを改めて職員間で共有した。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所											教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	事故の転帰 負傷 負傷状況	事故の転帰 負傷 受傷部位	事故の転帰 負傷 診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9136	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27	0	0	0	6	13	8	0		2	2	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	なし	一斉に行動することは控え、時間に余裕をもって園児が行動できるように改善し、一人足洗いに必ずつく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	テラスの発泡ウレタンタイルの粘着性が落ち、タイルが浮いて動き、足を滑らせやすかった。	浮いたタイルは撤去した。	1.集団活動中・見守りあり	夕方涼しくなった頃から外で遊ぶようにしているが、夏の疲れが出やすく、何気ない事で大きな怪我になった。	夏の夕方は疲れが出やすいことを意識し、小さなことにも注意を払う。足を洗う場所を段差の上から下へと変更する。	1.いつもどおりの様子であった	2日前に家庭で左腕をひねって痛がっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	足を洗う園児を介助していた。本児が走ってきて転ぶところを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	足を洗う介助をした後、水分補給の準備をするため、その場を離れていた。	足を洗うよう声をかけた際、他の子が列に並んでいる様子を見て、本児が慌ててしまったと考えられる。	落ち着いて行動できるよう声を事前にかける。	
9137	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	77									6	5	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中手骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	突発的な事故の為特になし	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	水分補給をする際、水筒のある場所へ交差して一斉に走った為、子ども同士の衝突から転倒が起きた。	混雑を避け順番に行動できるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	水筒のある場所へ周りを見ず走り出してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	整列場所から子どもについていったが間に合わず事故が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスに担任はついていたが子どもの動きが速く対応ができなかった。	練習終了後の勢いのある声掛けに子どもたちが一斉に動いてしまった。	走らず歩いていなどの声掛けを必ず行う。	
9138	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	98	0	0	0	0	0	98	0		5	4	18.6歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	–	1.基準以上配置	特になし	突発的な事故の為特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	雲梯下の地面が固くなっていた。	雲梯の下にクッション材として人工芝を敷く。	1.集団活動中・見守りあり	遊具に保育士がついていなかった。	戸外遊びでの保育士の連携の図り方について再度見直し、危険が伴う遊具には保育士がつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り元気な様子で戸外あそびをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭での戸外あそびでの場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭での戸外あそびでの場所にいた。	園児の握力（指の怪我完治後すぐのため）	子どもの健康状態から怪我が想定される場合は職員が補助につき見守るようにする。	
9139	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	99	8	14	17	20	21	19	0		30	28	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	不明	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	特になし	どんな単純な事故でも骨折に至る場合があることを職員が十分に認識する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	使う前に点検	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員も一緒に掃除をしているが、子どもの行動には十分に注意を払って見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近で対象児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	廊下で他の園児の見守りをしていた。	特になし	担任が雑巾の使い方・拭き方を丁寧に見せ、注意を払いながら雑巾がけを行えるようにする。	
9140	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									4	4	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	凶自然脱落	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	子どもの人数に対しての職員数は揃っていたので、今後も役割分担をして保育にあたるとともに非常勤職員対象の事故予防研修の実施。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	ホールの床が堅いので、子ども達が集合する場所など、目印も兼ねてマットを敷いて対策する。	7.その他	特になし	活動を終えて、一斉に片付けをしたり部屋に戻るために誘導ロープを準備したりしていたので、片付けを終えたら一度落ち着かせて、部屋に戻る準備をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活動から次の活動への切り替えが難しいところはある。体調等変化なし。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	部屋に戻るために、誘導ロープの前後に配置していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動の片付けをしたり、戸締りをしたりしていた。	特になし	子どもの様子を見守る職員、片付けなど環境を整える職員など役割を決めて保育にあたっている。今後も役割分担をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9141	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス									4	4	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	未満児（2歳児）も園庭にいたため、1名は2歳児を重視していた。他3名での実施中のこと。	人数の見直しも検討していく	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検実施の結果を職員に提示しているがきちんと実施しているかができていない。	全職員が周知(把握)しているかチェックをする	1.集団活動中・見守りあり	雲梯には何度も登って遊んでいただが、友達との会話等で夢中になっていた為、本児の注意力がかけていた	園庭に出た時の特に預かり保育時は担当職員間で全体を見られる、声かけなどに行なうことの徹底を確認した。	1.いつもどおりの様子であった	いつも友達とごっこ遊べ等を活発にしているので遊具や遊び方に慣れ過ぎていいつもの通りにあそんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	預かり保育時はその日の担当職員で実施する為平常時以上に全体を見るようにはしていて近くにはいただが、すぐに手が出せる位置ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体把握ができるように見ていただが、他の子の対応で瞬間は見落としていた。	保護者の迎え等があると一人の職員はその場から外れることになってしまい。子どもを見ている人数が一瞬でもすくなくなってしまう。	自分たちが見ているつもりでもお迎え対応やけが対応時にはどうしても周知できなくなる時があるので職員同士で声をかけ合いながら把握できないときを少なくしていく。	
9142	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1								1	1	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大５趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特にありません	子どもの人数に対して職員の配置は問題がなかったと考えられる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	近隣の方からのご厚意でプリンセスのドレスをいただいた。ドレスは子どものくるぶしほどの丈だった。	子どもの身丈に合わない物は子どもが踏みやすいため着用は避けたり、丈を詰める等の対応をする。今回はこのドレスを排除し、玩具等の点検は毎日行い、子どもに合わない物や欠けている物などがあった場合は排除していく。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの身丈に合わないドレスをコーナー遊びに取り入れてしまったこと	子どもの身丈に合わないドレスは排除した	1.いつもどおりの様子であった	手足口病が流行っていたため本児の手足を確認したところ発疹のような物があったためプール遊びを見学させた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	プール見学者（年長児２名年中児４名）と保育者１名で室内遊びをしていた。発生時、保育者は本児に背を向け他児と関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	プール実施のため監視員とともにプールで活動していた。	特にありません	子どもの人数（６人）に対して職員（１人）の配置は問題がなかったと考えられる	
9143	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	77			28	21	28			8	8	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	落下時の衝撃緩衝材を敷設した。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危険個所として職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの元気さで機嫌も良く遊びにも普段通りの活動であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段と変わらずクラス全体の把握と指導教育、養護に携わっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当クラス児童と園庭全体の活動状況に対応していた。	慣れ親しんでいる遊びに油断ができた事やコロナ対策の為外遊びの回数が少なくなったことも影響していると思える。	注意喚起の声掛けを更にしっかりする。	
9144	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								1	1	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	切り傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	–	2.基準配置	「いつ、何時、どこでも、子どものケガは起こりえる」の職員意識が薄かった。	ヒヤリハットマップに追記し、職員会議等で全職員に周知し、共通理解を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	日頃からの整理整頓を心掛ける。	室内では走らず、歩くことを再度知らせていく。	1.集団活動中・見守りあり	午前中、梅もぎで園外に出ているため、疲れが溜まっていたことが、予想される。	午前中の活動内容や子どもの様子によって、疲れが考えられる際は体操を避け、室内でゆっくり過ごせる活動を取り入れるなど、安全面に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に体を動かす。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児15人を１人で保育していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午前中の活動から、疲れが出ることが予想される時は、2人で保育をしていく。	日頃から保育教諭の立ち位置や全体を見る目を養う必要性がある。	保育教諭は子どもの様子から危険を感じた時は、速やかに言葉をかけ、注意を促すようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9145	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	0	4	2	4	3	1			5	5	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ 顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	ホールでの遊びが長時間になり、遊びの設定が魅力的でなくなった。本児はソフト積み木からジャンプすることがあると把握していたが、他の職員へ共有できていなかった。片付けになり、職員2名はそれぞれ離れた位置におり、本児の動きに対応できなかった。	・ソフト積み木の使い方や遊び方による危険性等、職員間で遊具マニュアルについて検討、具体的に作成、見直しを行う。 ・職員の配置については、当日の子どもの姿を踏まえ職員同士が声を掛け合い、連携する。	1.定期的に実施	276	1.定期的に実施	276	1.定期的に実施	276	園児達は、基地ごっこで基地を作るため、ソフト積み木で囲いを囲う為に置いていた。その中には小さい積み木も含まれていた。事故発生時、基地ごっこで遊んでいる園児たちもおらず、本児が積み木からジャンプをした際、小さい積み木が動き、バランスを崩し転倒した。	・遊んでいる園児がいないコーナーがあれば遊びの状況に合わせ環境設定を見直す。 ・ソフト積み木など段差のある遊具にはジャンプや転倒に備えて脇にマットを敷く。 ・不安定な遊具は安定するよう支えを置く。	1.集団活動中・見守りあり	・職員にはソフト積み木を使った遊びへの危険意識がなかった。	・遊具や遊び方に対するヒヤリハットを園内で検討し、危機意識を高める。 ・土曜保育における異年齢保育の環境構成や役割分担について、改めて見直す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	・日頃よりソフト積み木や平均台からジャンプするなど活発な遊びを楽しんでいる児である。この日は土曜で、いつもと環境が異なっており、普段より興奮していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・全体が見える位置に立ち、子どもたちの様子を見ていたが、一瞬の行動に対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・音響の操作のため、一時的に離れてしまった。	・片付けの時間となり、保育士２人のうち、１人は音響の操作へ向かった。片付けを始めた直後で、中にはまだ元気に遊んでいる園児もいた。もう１人の保育士の死角で事故が発生した。	・保育士が少ない場合、音響操作など、現場を一時的にでも離れる作業は、緊急でない限り行わず、子どもたちとやり取りを行いながら片付けへと移行する。	
9146	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	21									6	3	18.6歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折（単純骨折）ギプス固定で3週間様子観察	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	転倒防止のため、予め靴下を脱いで走ることとしている。改善は難しい。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	特になし	床は滑り止めワックスが効いており良好な状態であった。自分の足に引っ掛かり転倒したため、改善は難しい。	7.その他	特になし	2人ずつで走るが、距離を置いてまっすぐ走ることを指導していた。一生懸命に走って転倒した。改善は難しい。	1.いつもどおりの様子であった	25M走の練習を2本実施し、本番時に転倒した。とても一生懸命に走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタートラインで、ほかの園児を整列させていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴール付近で、走り終わった園児を整列させていた。他記録係2人、スターター1人、扇風機設置1人	特になし	転倒防止のため声掛けを徹底する。	
9147	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	17.5歳	2.女児	–	8.その他	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右前歯歯茎打撲、内出血	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	保育教諭の見守りを強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	机付近で立姿勢で着替えを行った。	着替えを行う際は転倒、事故防止のため机などは付近に設置しないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	バランスを崩し、転倒。机で打撲。	スカートに着替える際は、座って行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	立姿勢でスカートへの着替えを行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	着替えができているか見守っていたが、対象児がバランスを崩した瞬間手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の着替えを見守っていた為、対応できなかった。	特になし	スカートに着替える際は、座って行うように声掛けをしていく。	
9148	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	45				15	15	15			4	4	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	研修以外においても、教職員同士で日頃から情報交換を行っているため、ソフト面において問題はないと考える。	今回は、教師の配置基準を満たしていたが、子供の接触・転倒の瞬間を見ることができていなかったため、今後の研修にはさらに力を入れていく。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	ホールにて発生したが、ハード面において問題はないと考える。	ホールに破損や劣化は見られず、問題はないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	通常預かり保育の流れであり、他学年との交流もあるが、環境面において問題はないと考える。（雨のため、事故当日は屋内で遊んでいた。）	子供の接触・転倒の瞬間を見ることができていなかったため、広い場所で集団で遊ぶ際は、教師同士の連携をとり、危ない場面での子供への声掛けを十分行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	ホールを追いかけている時に転倒する際、他園児との接触を避けようとしたか接触があったため転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	午後の預かり保育中、ホール(屋内遊戯室)にて自由遊びをしていた。常時3～4名の教師を配置していた。事故発生時、45名程度の園児全体を見ていた。転倒した時、教師は園児の転び方等を見ていなかった。しかし、対象園児の訴えもありすぐに処置を施している。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールには複数の教師を配置していたが、事故の様子は見ていなかった。	子供同士の接触による転倒だが、今回のように骨折につながる事故に発展する場合があり、園児がどのように接触、転倒したのか、どこを負傷したのかよく見ることが必要である。常日頃、教師は危ない場面を見かけたら声掛けや止めに入る等の対応をしているが、今後も充分注意して保育を行う。	日頃行っている声掛け等を今後も変わらず行っていく。子供の怪我につながるような接触には、十分気を付けていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面							改善策	環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検	遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項		
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9149	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	49	0	0	0	0	0	0	0		3	2	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折、左橈骨頭部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアル通りの配置で死角なく監視することができていた。十分な数の職員を配置していたのですぐ対応することができた。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	3	特になし	明らかに危険な造形や、滑りやすいものでもないことからハード面での不備はないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特に疲れたり体調不良ということもなく元気に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一瞬の出来事であったため事故の瞬間は見逃したが、近くにいたのですぐに対応することができた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当エリアを見ていた。	友だちは親切心からの補助のつもりだったが、当該児童にとってはバランスを崩す要因となった。	子どもたちに、鉄棒をしている友だちの補助をすることなく距離をとるように指導する。	
9150	令和5年3月8日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10	0	0	0	10	0	0	0		1	1	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	保育環境の見直しの園内研修はしたが、事故予防研修が十分でなかった。	保育環境の見直しに加え事故防止の研修をして、安全に遊べる環境作り、人員配置をする。	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	ほぼ毎日	グラグラしやすいソフト積み木を見直し、使い続けるのなら倒れにくいように２個貼り合わせるなど対策する。	ソフト積み木を見直し、使い続けるのなら倒れにくいように２個貼り合わせるなど対策する。	1.集団活動中・見守りあり	保育者は見守ってはいたが、事故予測を怠った。	自由遊びを保障しながらも安全に遊ぶことを第一に考え、危険な時は防ぐことのできる立ち位置で見守るようする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子で自由遊びを楽しんでいたので、見守っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	約１０名の活発な子どもたちが遊んでおり、あちこちを見守る必要があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で遊んでいる子どもたちと一緒に遊んだり、見守ったりしていた。	その場を担当していない保育士も時々は子どもの様子を見にきて、事故予測をするべきだった。	見守りが十分できるような範囲内で遊びを展開するようにする。事故予測をして、危険を感じた時は、その遊具を使わないようにするなどする。	
9151	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	1	1	3	3	3	2	0		4	4	16.4歳	2.女児	–	8.その他	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	(数)回/年	1.基準以上配置	子どもの動きを把握していなかった	子どもたちの行動を常にしっかり把握しておく	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	—	–	1.集団活動中・見守りあり	職員の背後の確認不足	常に子どもの行動を把握しておく	1.いつもどおりの様子であった	いつも乗りなれた三輪車に乗り進み始め二漕ぎしたところで、接触する	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が保育士の後ろから進んできたため、気づかなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、室内にいた。	子どもたちがいる場面で、カートのカバーを片付けようとしていた	子どもたちがいるときには、子どもたちの行動に集中する	
9152	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34	0	0	4	9	9	12	0		6	5	14.2歳	2.女児	ギプスで肘を固定している為、激しい運動はしない。公園に行くときは常に一人保育者が手を引いて行動する。	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	２歳児の為走るのに安定性がなく転んだ。	事故防止に関する研修に積極的に参加し、職員間の会議で安全面やヒヤリハットについて話し合う。	1.定期的に実施	24回/年	3.未実施	–	1.定期的に実施	24回/年	外遊び事故の為なし。	ゴミ、棒きれや石が落ちていないかを確認する。	1.集団活動中・見守りあり	2歳児の為、見守りながらも転んだ時に助けられるよう距離を縮めておくべきであった。	広い場所を選び、年齢ごとにエリアを分けて遊ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	外に出た開放感で、芝生の上を走り回っていた。いつものように元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は担当クラスの園児全体を少し離れたところで全体的に見ていた。転倒したことに気が付き、当該園児に駆け寄り抱きかかえ、大丈夫か尋ね泣くことなくまた遊びに戻って行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外の職員も転倒に気付き駆け寄ろうとしたが、担任がすぐに抱き抱え大丈夫か尋ねていることと、当該園児が泣くことなく遊びに戻ったことを見届けたので、自分の担当エリアに戻った。	人員配置に問題はなかった。全体を見まわしていたので、注意は怠っていない。２歳児であったため走るにはまだ安定はしていない。	遊び始める前にゆっくりと体を動かすような柔軟体操やリズム体操から導入し、年齢にあった遊びを提案する。	
9153	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9			8	1					3	3	14.2歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2回/年	2.基準配置	—	–	1.定期的に実施	365回/年	2.不定期に実施	–	1.定期的に実施	365回/年	—	公園で発生した人的事故のため、ハード面での改善なし	1.集団活動中・見守りあり	–	ブランコにつく職員を増やす、もしくはブランコに同時に2人は乗らないようにする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ブランコに乗っている時テンションが高くなっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコの中央に立って、本児と他児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ブランコの近くで順番待ちの園児を見ていた。	ブランコに乗っている時、他児とアイコンタクトをして楽しそうにテンションも高かった。楽しさからついて手を離してしまったように思える。	遊具で遊ぶときのルール、正しい使い方を常に子どもたちへ声がけしていく。楽しくなると、気持ちが高ぶったり予期せぬ行動を取ることを心に留め、テンションが高いと感じたら一度落ち着くよう声かけしている。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9154	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	42			14	9	13	6		8	4	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨下部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置	ヒヤリハットの活用、スタッフ間の周知	現在行っている瞬時に送るヒヤリハット報告（LINE）にてスタッフで共有。記録用に保存している。全スタッフが確認できる保育マニュアルへの追加（転倒時に考えられる怪我等）。定期的にマニュアルの見直し。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	床は土よりも固い、子どもたちとも再度確認を行う。	地面の硬さや衝撃を子ども達と確かめ、子どもたちの自衛につなげる。園に合わせた点検リストを作成し、日々の点検状況の記録をとる。	1.集団活動中・見守りあり	—	転倒時に起こりやすい怪我について理解を深める。遊び方によっては、重大な事故につながることを常に頭に置き、子どもの動きにアンテナを張る。	1.いつもどおりの様子であった	特に気になる様子なし。特段、おんぶを頻回にしていることはない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	廊下の見守りをしながら、トイレで更衣している他児も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員の立ち位置は分かっていたが、転んだ瞬間は見ていなかった。（玄関対応）	担当場所を離れる際は、職員間で声を掛け合う。事故発生時は数名で確認する。本児はバランスを崩したとき、背中にいる子も落ちてしまうと考え、転ぶ時に踏ん張った可能性もある。	事故発生時の職員連携を図り、声掛けの習慣をつける。休憩等でスタッフ配置が手薄になる時は、遊ぶ場所を選択し、見守り体制が十分とれるような配置を判断する。園児の泣き方に注意を払う。スタッフの立ち位置を把握しておく。	
9155	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23			7	7	4	5		6	4	14.2歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	顎関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	12回/日	3.未実施	—	1.定期的に実施	48回/日	—	—	1.集団活動中・見守りあり	普段行き慣れた公園ではなく遠足で少し遠い公園に行っており、保育者も遊具の危険性を把握しきれていなかった。また、園児の身体能力等を鑑み、遊べる子どもと遊ぶのが難しそうな子どもを分けて活動させる等の対策を取れておらず、大人数が1つの遊具で遊んでいた。	遠足等を行うときは必ずチェックリストを用いて危険個所の洗い出しを行い、園児一人ひとりの発達に合った遊びを行う。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	—	
9156	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	6			5	1				2	2	15.3歳	1.男児	療育による巡回相談該当児	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2～3回/年	2.基準配置	・コロナによる休園、休校等の事由で出勤できない保育士が一時的に急増し、当日は急遽園長や看護師を加えての職員6人体制であった。 ・散歩の時間や距離など詳細な様子を園長が把握しきれておらず、確認しながらの付き添った	・翌週から時間短縮措置を取ると共に家庭保育の協力要請により園児数が緩和した ・出発前に職員配置に対し安全保育ができる時間配分や距離や保育内容の見直しを全職員で行った	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	使用都度	・当日本児が普段履き慣れていない靴を使用しており、サイズが合わず度々躓いていることに歩行中に気が付いた。その靴で様子を見つつも長距離や段差などを遊ばせていたことにも油断があった。	・保護者に靴が合っていないことを別の機会に伝え、履きなれた靴での登園をお願いした。また、保育者は認識した段階で、危険リスクを予測し、引き返すなどの対応を視野に入れることと再確認した。	1.集団活動中・見守りあり	週末であるにも関わらず盛り沢山な散歩コースを歩き遊ばせてしまった。年齢の体力に対し欲張った散歩コースの選択であった。保護者との連絡帳に食事や睡眠時間の記載があったが、事前に職員間で周知できておらず個別配慮が十分に対応できていなかった。	直ちに職員会議を行い、変化のある週初めや週末のお伝えを十分に考慮した週の保育計画を立て、状況に合わせて柔軟に調整を行うこと。年齢の発達に見合った時間や距離やコースの取り方を改めて見直すこと。受け入れ時の視診問診や連絡帳の記載内容の確認を主活動開始前に全体で周知することを徹底し、個別配慮を十分に考えた活動を工夫することとし、以降実行している。	1.いつもどおりの様子であった	気持ちのコントロールが難しく活動の切り替え時にパニックがある。生活リズムが日々不規則で、前夜は24時就寝であった。特に休み明けに激しいが日常的に登園時から午前中にかけ機嫌が悪いことが多い為、当日も普段と同様な丁寧な関わり方で戸外活動に出たが、本児にとっては体力的に集中が切れてきていたことが十分に考えられる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故時、本児を含めた5名が園長から見える範囲に分散しており、全体を見つつも動きの危険度の高い本児に園長が付き、遊具が無い中でペンチに上ってジャンプを楽しむことを把握していたが、他児に視線を移したと同時に踏み外し園長とは反対側に転落した為瞬時に手が届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2歳児の別の配慮の必要な児にマンツーマンで接し、他とかなり離れた場所にいてしまった。大きな声で呼ばれるまで事故に気付かず、まとまって遊びながら他児も一緒に見ているべきだったと反省する。	①保育者数が少なく配置もイレギュラーな中で通常の園外保育を行った。②園長は保育のハードさがよぎりながらも保育の様子を見て合わせてしまった。	①保育者数に余裕が無い場合等に"いつもと同じ活動"をしようとするのではなく、子どもの要求に応えたいと葛藤があったとしても安全保育優先の選択を行う。②園長は子どもの安全を一番に考え、保育者の意向や熱意を受け止めつつも流されずに状況を冷静に見極めて保育を進めるようしっかりと発信を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷						実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
																								死因	負傷状況	受傷部位																											
9157	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16			10	4		2			3	3	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	第五中足骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4回/年	2.基準配置	配置人数は足りていたが、子どもの午睡中に職員が休憩で抜けていて、早く起きた子どもへの対応が十分ではなかった。	再発防止策を話し合い、コットの敷き方の周知徹底。早く起きた子どもの対応職員を確認し配置する。エリアリーダーから客観的にみた再発防止の助言をもらい周知徹底を行う。	1.定期的に実施	週1	1.定期的に実施	週1	1.定期的に実施	毎日	早く起きた子どもがすごせる場所の確保が足りなかった。	早く起きた子どもが過ごす場所の環境設定（子どもたちの玩具を用意する、絵本を読む、コットの片づけなど）。部屋移動を行う。	5.睡眠(午睡)中	早く起きた子どもが過ごす場所作り が設定できなかった。	早く起きた子どもが過ごす場所の環境作り、保育の提供と見守りの徹底。（絵本コーナー・座って遊べる環境設定等）	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に過ごし、食事も食べ、午睡もしっかりとっていた。午睡後、早く起きた友だちと、走ったり机に登り降りをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コットの周りを走っていたり、机の上り下りをしていたため、遠くからの声掛けを行うが、職員は側についていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	入力・製作準備を行いながらの保育を行っていた。遠くからの声掛けだけで、職員が側についていなかった。	声掛けだけで、早く起きた子どもの側で保育を行っていなかった。	何かをしながらではなくしっかりと子どもの側について保育を行う事の徹底。職員同士の動き、報連相の徹底。	
9158	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24	5	6	7	2	3	1			9	8	13.1歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	乳歯と口腔内の外傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	1.基準以上配置	職員配置数は基準以上ではあったが、怪我をした児のそばに職員はいなかったため怪我を防ぐことができなかった。遊具に書かれていた対象年齢に達していない年齢で使用してしまった。遊具自体が新しく滑りやすいものであった。	遊具を使用する際は対象年齢を確認し、必ず保育者が側についていく。怪我や事故発生の事例やリスクマネジメントについて話し合いや研修に取り組む。	2.不定期に実施	48回/年	1.定期的に実施	144回/年	1.定期的に実施	144回/年	特になし	設備等における改善策は無し	1.集団活動中・見守りあり	屋外の環境は日頃変化していくため、活動の際には都度状況と安全の確認を行う必要がある。	職員の配置や子どもの様子の把握などに加え、遊ぶ場所として安全であるか、適しているのかこれまで以上の確認と職員間での検討を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	事故にあった1週間前から甘えが強く、保育者と一対一での関わりを求める場面が多かった。この日も、他児の中には混ざらず、保育者と一対一で遊ぶことを求め、常に全体の動きとは反対の動きをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集まってお茶を飲んだ後、帰園の準備をしていた。子どもが分散した際に本児の側へ動くことが遅れてしまい、転倒時に側に付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お茶を飲み終えた子どもを見ていたが、子どもが散ってしまい車道側に行った子を見に動いていた。	普段から活動の中で遊具を使うことが少なく、子どもの動きの予測が足りなかった。又、活動場所はいつも行っている場所を選ぶなど無理のない活動方法を考えるべきであった。	今回、帰園準備の際に事故が起きてしまったので、常に子どもを優先した動きを取ることを改めて意識し、帰園準備などは安全が確保されてから行うようにする。又、保育者間で声を掛け合い敏速に動き合うよう確認をし合う。	
9159	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10		6	4						3	3	14.2歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯脱臼 上歯肉裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	8回/年	1.基準以上配置	特になし	緊急時対応、職員連携を確認する。	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	3回/年	1.定期的に実施	12回/年	床に出したブロックで遊んでいた際、移動しようと立ち上がり両手にブロックを持ったまま深さ7センチのおもちゃ入れを踏んで転倒。	玩具入れは中身を取り出し棚に入れ元に戻す。コーナー遊びの見直し。	1.集団活動中・見守りあり	園児が転倒することを予測できず近くにいたが支える手が出なかった。	咄嗟の転倒にもすぐ動ける態勢で保育する。	1.いつもどおりの様子であった	保育室内でいつもどおりの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児を囲みそれぞれの動きを見ていたが咄嗟の行動に追いつかなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児以外の園児と個々と遊びながら周りの様子も見ていた。	保育士が対象児の近くにいたが転倒を予測できなかった。玩具が床に散らばっていた。	職員間で連携を取り、保育室の環境を見直す。玩具入れは中身を取り出し棚に閉まっておく。	
9160	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	2	2	1						4	4	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	2.基準配置	—	–	1.定期的に実施	50回/年	1.定期的に実施	–	1.定期的に実施	240回/年	—	–	1.集団活動中・見守りあり	本児が絵本を見終わったときに、本棚に戻さず床に置いてしまった。戻していれば、その上に足をのせて滑ることはなかった。近くにいた保育士が片付けること促す又は声を掛ける等の対応ができなかった。	床の上に玩具等を出したままにしない、保育士か、子どもへの片付けの指導を徹底するとともに、気が付いた時には即座に片付け、常に安全な環境を整えいておく。絵本を足で踏んではいけないという子どもへの指導をする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	普段から活発な子だが、前日に風邪で欠席していたこともあってかいつもより大人しく感じた(担当保育士の見解)。絵本をかいた本児が床に絵本を置き、次の絵本を取ろうとして床の上の絵本の上に左足を置いた瞬間、左足を滑らせ尻もちをついた形になった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども3名と保育士1名がいた。本児の至近距離で一人の子どもを間に挟んで絵本を見せていた。本児が絵本を床に置いたことに色踊を感じ、左足で絵本を踏んだ瞬間踏のと不安になった。一瞬目を離した時には、足を滑らせて尻もちをついた状態だった。すぐに本児を抱きかかえ様子を見ていたところ担当保育士が戻ってきた為、状況を報告し本児を引き渡す。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任2人のうち1人は、保護者対応のため室外に出ていた。戻って事故の報告を受けた為本児の様子を見る。保育ではあったが室内動いたのでは右足を着くことができず、膝のと2度ちずでいた。主任・本児の様子を伝え事故報告する。主任は本児の状態から受診した方が良いとの判断をし保護者へ電話連絡する。	傍にいた保育士が危険を察知しながら救えなかった。子どもの動きを予測して、絵本を拾うなど素早く対応していきたかった。現場で見ていた保育士が1人しかいなかった。	普段から活発な子どもに対する指導をし、怪我に繋がるような危険をできるだけ回避する保育をする。クラス全体が落ち着かない雰囲気であることを再度見直していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9161	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62	5	5	10	19	10	9	4		22	17	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2回/年	1.基準以上配置	—	安全マニュアルの中で新たに購入したキックボードの安全上の使用についての記載が不足していた。ヘルメット、肘宛の着用が必要だと感じた。	1.定期的に実施	365回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	—	アスファルトの上でのキックボードの使用を禁止(転倒時の衝撃が強い為)	1.集団活動中・見守りあり	–	夕方の戸外遊びでは体力面からもケガに繋がるケースが多い為、影しい遊びは控え固定遊具等で遊ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児もこれまで何度も使用回数のある遊具(キックボード)で慣れた様子で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	キックボード使用時は子ども同士の衝突を防ぐ為に必ずすぐ側に保育者を配置している。すぐ側にはいたが転倒を防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	–	–	–	
9162	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	5		5							2	1	13.1歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿下1/3骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置	救急車を呼ばず、直接保護者に迎えを頼んでしまった。	マニュアルの徹底	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	1回/年	1.定期的に実施	常時	—	今回は、施設・遊具・玩具の安全性には問題はなかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	–	–	1.いつもどおりの様子であった	フープから出るために足を上げたがうまく上がらずひっかけてしまった。体調などいつもと変わったところは見受けられなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	5人の園児を2人の職員で見ていた。1人の職員は別の園児を抱っこしながら目視で残りの園児を見ていた。もう1人の職員も他の園児を見ながら保育していた。2人の職員の間に4名の園児が遊んでいる状態だった。(1名は抱っこ中)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	デッキは2階にある。2階の他の園児はクラスで遊んでいて気付かなかった。残りの園児は1階にいたので見ていない。	フラフープを1人で遊んでいた為、保育者が直接補助出来ていなかった。開園して間もない為、マニュアルの徹底が出来ていない部分があった。	遊具・玩具等を使う時は1人で遊ばせない。必ず直接補助する。マニュアルの徹底・職員間の連携の徹底・園児1人では玩具等を使用させない。	
9163	令和5年3月8日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	4	1	2	1	1				6	5	15.3歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨基部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.2回/年	1.基準以上配置	他園児の昼寝・職員の休憩時間が重なる時間で、以上児への意識が薄れてしまった状況。（見守り不足）しかし、今回の事例については一人遊びを抑止・制限し過ぎる事は適切な保育とはいえない。	左記を踏まえ、ソフト面としては遊んでいる子がいる際には、監視役を１名配置を原則とし、可能な限りの事故予防を再徹底する。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	当施設のフロアは、コンクリート造のため非常に硬くなっている。保育施設用の多少柔らかい素材のシート貼りとなっているが、転倒し打ちどころが悪ければ今回のような事象が発生する可能性がある。	園児が遊ぶ際には、クッションフロアのエリアに限定し、対応する。また、クッションフロアのエリアについても拡張を検討する。→クッションフロアエリア拡張済み	3.個人活動中・見守りあり	–	–	1.いつもどおりの様子であった	一人遊びで激しく暴れている様子ではなく、気分よく、動いていた程度。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他職員のシフトの入れ替わり時間帯にて、引継ぎ作業を行なっていた。そこまで離れていた距離にいたわけではなく、園児を見ながら引継ぎ作業を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児の近くにいたが、転倒は予測できなかった。	偶発的な事故ではあるが「骨折」という事象を考えると、結果的に転倒及び事故発生の目測を誤っていた。	軽微な転倒でも、骨折する可能性を再度認識する。転倒を100%防ぐことは難しいが、個々の危険予測の認識を上げる事及びハード面の安全強化の視点で再検討を行なう	
9164	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22									4	4	15.3歳	1.男児	–	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	–	3.火傷	4.上肢(腕・手・手指)	右手首熱傷（仮）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	熱い時には冷ましてから配膳することを職員間で共通理解し、徹底することができていなかった。	熱いものを配膳するときは冷ましてから配膳するよう職員間で徹底していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	配膳した際に子どもたちに声がけし、見守るだけになってしまった。	熱いものを配膳するときは別テーブルなどで冷ましてから配膳するよう職員間で徹底していく。	6.食事(おやつ)中	一人一人の状態を把握できていないい部分があった。	全体が落ち着かない状態であることを把握し、4名中1名は全体を見守るなど対策するべきであった。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	４月から新しい環境になったことで、多少興奮気味であったことが考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見渡しながら汁物を盛り付け、声がけ、確認しながら配膳していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見渡しながら盛り付け、声がけ、確認しながら配膳をしていた。	職員が汁物の熱さを把握しながらも触らないように子どもたち全体に声がけして注意するだけで大丈夫だと過信してしまった部分がある。	調理室から搬出する時に確認し、熱い状態のものは別の机などで冷まし、複数の職員で確認しながら冷めた時点で配膳するようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9165	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	186				51	63	62		21	20	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第2・3中足骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	34	1.定期的に実施	204	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	雲梯にぶら下がったまま気の合う友達と遊ぶ中で足を絡ませていた。	必ず教師がつくようにする。危険と感じる行動は他クラスであっても教師が必ず声をかけ制止する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活発に雲梯に挑戦していた	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が雲梯をしていたことは把握していたが、すきな遊びの中でほかの子どもとかかわりをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	子どもが雲梯から落下することも想定し人員を配置しておく必要があった	子どもが遊んでいるときは必ず教師がつくようにし、場を離れるときは担当クラスに限らなくても近くの教師に必ず声をかけるようにする	
9166	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	141				50	39	52		16	16	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	34	1.定期的に実施	204	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	からだをゆすり前進しようとしたときにバランスを崩し落下	特に雲梯やのぼり棒、滑り台など落下する恐れがある遊具は教師がつけないときは「今は遊びません」のプレートをかけ、子どもにも徹底する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活発に雲梯に取り組んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が雲梯をしていることは把握していたがすきな遊びの中、他の子どもとかかわっていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	雲梯の側には必ず教師がつくようにし、つけない時にはプレートをつけるなど対策はしていたが不十分であった	再度全クラス子どもたちにも話をする機会を設け徹底できるようにする	
9167	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20								2	2	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	–	2.基準配置	—	危険な場所を見つけ、共有し、改善できそうな場所は改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	本棚は現状の位置の方がみんなが使いやすい。	1.集団活動中・見守りあり	–	保育室の外に出る時は保育士に声を掛けてから出るというルールを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から本棚へ自由に本を取りに行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室で遊ぶ子どもを見守り、朝の身辺整理の補助が必要な子どもに付き添う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助が必要な子どもに付き添いながら遊びを見守る。	–	廊下は走らないように指導する。	
9168	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	23								5	5	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	走っている対象児には常に注意をしていたが、他児とぶつかる時に対応できなかった。	事故事例を全職員で共通理解する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	4	—	毎月点検を行っており、室内遊具ともに異常はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	ままごと遊びをするコーナー等を明確に決めていなかった。	座って遊べる玩具を用意するなど環境構成を改めて考え、遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段も室内で走り回って遊ぶ姿がよく見られ、この日も同じような様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで、全体の動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園の時間だった為、他の園児の対応をしていて近くにいなかった。	対象児が座って、落ち着いた状況で遊べる玩具が用意できていなかった。	室内での遊び方や環境構成を再検討し、職員配置を決めた。	
9169	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57				21	22	14		9	9	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	1.頭部	頭がい骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	0	1.基準以上配置	マニュアルの職員周知が徹底されていないこと、さらに細分化された園独自のマニュアルが必要であったと思われる。	職員に対してのマニュアルの徹底周知と、さらに細分化されたマニュアルの作成と研修の開催。	2.不定期に実施	5	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	20	手作り遊具であるため、園児の状況等鑑みて都度改修の余地があった	該当遊具の使用禁止	1.集団活動中・見守りあり	朝は順次登園という形式の中、園児は朝の一連の流れを行うとともに、自身の判断で園庭に出て、遊ぶことから、必ずしも同じ場所に留まるということは難しい。	園児の遊んでいる状況を職員各々が瞬時に判断して、見守るべきところを見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	保護者が送りの際に、特に体調不良であることを伝えてはなく、普段通りの受け入れの状態であった。該当園児も、日頃と同じように、身辺整理や身じたくを整え、遊びに入っていった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭当番が遊んでいる子ども達を見守るが、特に職員の具体的な配置が決まってはいない。危険な箇所に注視して子どもたちを見守る事に配慮が薄かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭当番が遊んでいる子ども達を見守るが、特に職員の具体的な配置が決まってはいない。危険な箇所に注視して子どもたちを見守る事に配慮が薄かった。	職員同士の声の掛け合いの不足（どこに誰がいる。場所を離れる時など）	子どもたちを見守る際に、子ども達に背を向けることのないよう配慮したり、全体を見渡せる場所にいたり、ヒヤリハットの報告書を作成したりする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制										教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所											うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9170	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	70									5	5	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腥骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	45	2.基準配置	本児は日頃から体が機敏で運動遊びも積極的に参加していた。いつもは上り棒をすることが多かったが事故当日は雲梯遊びに取り組んだ。	色々な場合を想定し、すぐに子どもに手が添えられるように注意して見ていく。一人ひとりに雲梯のスタート地点でバーに手をしかっり握っているかの確認の声掛けをして行く。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	雲梯下のマットや土が少し硬かった。	遊び開始前にマットの位置や土の状態などを含め、安全な環境であるか確認する。雲梯下に敷いてあるマットをクッション性のある安全な物に変更する。定期的に土を掘り起こし柔らかくする。	1.集団活動中・見守りあり	比較的運動遊びの得意なお子さんだった為、雲梯もスムーズにできると安心して見守りをしていた。	色々な場合を想定し、すぐに子どもに手が添えられるよう子どもに合わせて立ち位置を変えていく。雲梯のバーをしっかり握っているかの確認をし、最後まで子どもの傍について対応出来るようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	運動神経の良い お子さんで、いつもは上り棒で遊ぶことが多かったが、当日は同じクラスの友達と雲梯遊びに取り組んだ。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接した）	雲梯のスタート地点からゴール迄、職員1名が傍について子どもたちの取り組みに関わっていたが、落下の際にすぐに手を添えることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭では他にも各担当箇所（雲梯、総合遊具、滑り台、ブランコ、上り棒）の近くに立って子どもたちを監視していた。	日頃から運動遊びが得意なお子さんで、当日も活発に雲梯遊びをしていた。その際にスタート地点でバーを握ったかの確認がができていなかった。	重点ポイントを中心に看護職員を配置していたが、今一度遊ぶ前に子どもたちにバーの握り方、着地の仕方を一人ひとり確認していく。	
9171	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	27									1	1	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	室内での遊び方のルール徹底の欠如	危険な遊びに対する考察と園児への指導	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	設備上では問題ないと判断したため、ハード面での改善策は特に無し	1.集団活動中・見守りあり	–	危険な遊びはしないように子どもたちに指導する。誕生児の撮影はクラスに補助が入ってから行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登園後に行う準備をし、室内で過ごしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	毎月１回行うお誕生児さんの写真撮影のために教室と廊下を行き来していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お誕生児さんの撮影は各クラスごと順番に行っていた。隣のクラスの担任は撮影を終え活動の準備をしていた。反対のクラスの担任は次の撮影のための準備をしていた。	担任の危機管理意識の欠如	担任が目を離すような時間があった場合には、教室に戻った後に変わったことがなかったか必ず園児に確認する。担任がクラスから席を外す様なシチュエーションの場合には、他の先生に協力や応援を依頼する。	
9172	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	36									3	3	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	５０センチの高さの上に不安定なブロックを並べその上を歩いた時の危険度の判断が甘かった。	子どもたちは、アドベンチャー的にスリルのある遊びを喜んでいたが、床にマットを敷いたり、保育者がもっと近くで見守っていく。	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	80	2.不定期に実施	240	—	使用前後に安全点検を継続する。	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わった様子はなく、通常通りの様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2,3日前からアドベンチャーごっことして遊んでいたが、よりスリルを出す為にブロックを不安定な置き方にして使用していた。日頃のから子どもたちをよく理解している担任が見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離にいたが、他の子どもたちと遊んでいて怪我が起きた時は、見ていなかった。	–	遊具を適切に使用しているかを確認し、情報共有しながら声掛けを行う。	
9173	令和5年3月8日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26									5	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	6.その他	5.下肢(足・足指)	右第４趾関節脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	—	跳び箱をする際の危険について具体的に、全員で確認して改善していく	1.定期的に実施	297	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	297	—	安全のため、靴を着用する	1.集団活動中・見守りあり	活動前の指導が十分ではなかったこと	跳び箱活動への取り組み方の確認と安全管理の徹底	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会前で本児の気持ちの高まりや意欲があった。いつも以上に跳び箱に近い位置での踏切となってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の横につき、安全管理をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱1台につき1名が横で安全管理をし、他の職員は皆で応援をしていた。	–	子どもの跳び箱への意欲を認めた上で、安全に取り組むことができるようにする。靴を着用する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9174	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	6								2	2	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	事故対応のマニュアルにそって対応をした。職員配置は十分だった。	引き続き、事故対応マニュアルを活用するとともに対応の仕方について職員間で話し合うとともに危機管理意識をもつようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	固定遊具の危険個所の再確認を実施。幼児の身体能力や発達に合わせた遊具の使い方について職員間で話し合うとともに危機管理意識をもつようにする。	3.個人活動中・見守りあり	午睡後のおやつを済ませた後で、開放感を感じ行動が大胆になりがちな時間帯であった。	幼児の行動を予測し、把握することに努める。	1.いつもどおりの様子であった	体調もよく、機嫌よく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の様子は見ていたものの、とっさの出来事で、けがを防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の幼児と関わりながら、対象児の動きにも目を配っていた。	–	幼児が固定遊具を使用する際は、とっさの出来事が起きた時でも支えることが出来る距離で幼児の動きを見守ることが出来るように職員の立ち位置を再確認し徹底していく。	
9175	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5			2	2	1			8	8	15.3歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	なし	マニュアルや職員配置に問題はない。コロナ禍により応急処置の研修が実施できていないが、特に改善が必要な現状でないと考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	玄関を入ってすぐ滑ったため、上履きをまだ履いてなかった。	上履きを履く場所を表示しているので、そこで履くように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	月曜日のため、手荷物が多くあり、上履きをすぐに出せなかったと思われる。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	朝の受け入れを、本児を見守りながら他児を受け入れていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれのクラスの子どもの受け入れをしていた。	なし	職員配置も問題なくできていたが、転んだ瞬間手を差し伸べられる位置に職員が居ければ防げたかもしれないので、様々な想定を考え配慮を怠らないようにする。	
9176	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41			4	13	5	19		4	4	15.3歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	0	2.基準配置	職員間では、情報のやり取りをこまめに行ってはいたが、事故防止研修に参加できていなかった	以後、タイヤを地面に置かないことと雲梯に職員が必ずつくこと	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	雲梯の下に足踏み台のようにタイヤを２個重ねていたので、着地がスムーズではなかったと思われる	タイヤを置かないようにする	1.集団活動中・見守りあり	対象児が、いつも一緒に遊ぶ雲梯仲間がおり、トラブルも起きない関係にあったので、他の声かけの必要な子どもの方を中心に職員が関わっていた	他園児に手がかかる場合は、担当職員以外の応援も頼むようにする	1.いつもどおりの様子であった	園庭遊具の中で雲梯が１番好きで毎日取り組んでおり、日々上手にこなしてはいたが、着地が不安定だった	4.対象児の動きを見ていなかった	他園児の対応をしており、雲梯そばの対象児の所にはいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児と遊んでおり、対象児のそばには一緒にいなかった	雲梯で遊んでいるメンバーが雲梯を得意とする子だったこと、対象児はいつも異年齢の友だちの中で順番に雲梯を使って遊び、トラブル等も起きないでいたことに過信してしまった。	雲梯には、必ず職員がつく体制にする	
9177	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6			2	4				1	1	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	0	1.基準以上配置	—	園児への指導の実施。職員へ事故に関する周知と保育環境の再検討	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	不可抗力による事故のため改善策は特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	体を動かした遊びの充実により身体諸機能の発達と、園児を対象とした安全指導を実施し周囲の状況把握や安全な遊び方が身につけられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段の様子と変わらなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	異年齢児で鬼ごっこをしていた。対象児、他の園児ともに普段と変わった様子はなく。担当職員も遊びに加わり全体の様子を把握していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員以外は、それぞれの場で保育等を行っていたため発生時の様子は見ていなかった。	遊びに夢中になっていたこともあり、相手の不注意や状況に応じた教師の声掛けが必要であったと考える。	相手の園児に対し個別で安全指導を行った。また、教師間で事故発生に関する共有を行い、指導に関して再確認を行った。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9178	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15			9	6				1	1	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨端線損傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	鬼ごっこをするときに十分な声掛けと見守りはあったのか 注意がたりなかったのではないか	激しい動きをする遊びの時の十分な事前の声掛けと見守りの強化	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施	12	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをするのに適した環境であったのか、エリアを分ける必要があったのではないか	鬼ごっこに必要な、十分なスペースを確保する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊戯室を走り回り興奮状態で遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこが活発化したため一度お片づけを促した矢先の怪我だった。トラブルが起こったあと、他児の訴えにより気づいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当時は春季預かり担当の職員が担当。担任が隣室にて仕事をしていた為、すぐ呼び一緒に患部を確認した。数分冷却したが痛みと腫れが治まらない為、主幹教諭に相談し（園長不在のため）保護者に連絡した。	遊びの前にルール等、安全にゲームをするための約束が足りなかったのではないか	遊びの内容によっては中断することになっても安全確認ができるような体制を整える	
9179	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23			2	12	9			1	1	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじの骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	未然防止について職員間において共通認識や意識をさらに高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	上靴を脱ぐ環境があったことで、靴下のまま行動することとなった。	室内遊び(ままごとコーナー)では、上靴を脱がずに遊べる環境への見直しを行う。	1.集団活動中・見守りあり	上靴を脱いだまま、他の遊びの場へ移動しないことを園児へ徹底できていなかった。	環境の見直しとともに、職員の子どもへの声かけについて再度確認した。	1.いつもどおりの様子であった	上靴を脱ぎ、ままごとコーナーで遊んでいたが、ほかの遊びに興味をもち、上靴を履かずに移動しようとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達全体の様子を見守りながら、身支度を整えるほかの園児の援助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラス担任は１階テラスにて園児の受け入れ、保護者対応を行っていた。その他職員は他のクラスにて子どもの見守りを行っていた。	特になし	特になし	
9180	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	41								5	3	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肩骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	子どもの動きの常時監視と定期的な声かけ	園外保育、遠足等での危険が生じる可能性がある遊具を使用しない（日頃遊び慣れていない遊具の危険性）	–	–	–	–	–	–	特になし	このたびの事故は公園遊具であり、公的な安全点検等は行われているため遊具自体の問題はないと考える	1.集団活動中・見守りあり	日常環境外の保育活動において、心の高揚など子どもの心の動きを制御することが必要	園外保育、遠足等での危険が生じる可能性がある遊具を使用しない（日頃遊び慣れていない遊具の危険性）	1.いつもどおりの様子であった	体調も良く普段通りの様子	2.対象児の至近で対象児を見ていた	バランス遊具のため、入れ代わり、立ち代わりに遊ぶ子どもを監視	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は近くにある大型遊具の子どもの動きを監視	遊具広場のため数種類の遊具があり、子どもの活動範囲が広がってしまった	遊具広場で遊ぶ場合など1つの遊具に絞って遊ばせ、利用にあたって人数制限などを行う必要がある	
9181	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12			4	5	3			10	10	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折、右腥の打撲、両足首の打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	職員間でジャングルジムの黄色い筒（事故のあった箇所）に関して危険であるといった認識はなかった。	遊びの時間の職員の配置を変更し、事故の危険性の高い遊具の周りに職員を増やす。今回の場合、ジャングルジムの筒の滑り具合の点検は必要と思われるが、マニュアル・研修に不具合はない。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	ジャングルジムの黄色い筒（事故の起きた園児の座っていた場所）の塗装が剥げてきて、滑りやすくなっていた。	黄色い筒を滑りにくい塗装にする、あるいは筒の上部に滑り止め防止シートを貼る。あるいは危険性の少ないジャングルジムに交換する。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びが多い。	外遊びで一度に外に出る園児数を制限し、職員の目が行き届きやすくなるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	日常的にジャングルジム等の体を使った遊具を好んで使用しており、当日も変わらずジャングルジムの上り下りを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故の一部を観察した職員は、当時ジャングルジムから10m程度離れた砂場にて10名程度の園児の様子を見ており、砂場にいる園児の状況を見つつジャングルジム方向にも目を向け瞬間的に観察した。園庭にも10名位の職員が散らばっていたが、事故を観察した職員はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故の起きた時刻は、それぞれ担任ごとに自身のクラスの園児の様子を見ている状態であり、事故現場付近にいた職員であっても事故のあった園児の状況は見ていなかった。		使用方法を誤ると事故の生じやすい遊具（ジャングルジムやブランコや高所へ上がる遊具等）付近には、必ず専任の職員を配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9182	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									2	2	17.5歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	－	2.基準配置	—	幼稚園より空欄で提出されたため、県より園児の危険行為について適宜マニュアルを作成し研修および情報共有を行うよう指導した。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	土管というアナーキースペースが幼児には危険が生じる可能性がある。	土管スペースに立ち入り禁止し、土管で遊べないようにした。	3.個人活動中・見守りあり	見通しが悪い場所であった。	全園児において土管で遊ぶことを禁止した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段はあまり使わない土管で遊ぶことで子どもが興奮状態になっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	クラスの担任1人が土管の下で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣き声が聞こえて、すぐに駆け寄った。	1人の保育者では、本児の動きを見落としがちであった。	裏庭に出る際の保育者の人数を多くした。	
9183	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8		1	1	6					3	3	16.4歳	1.男児	－	2.室内活動中	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折（左肘）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	—	危機管理マニュアルについて、内容の再確認をし、必要に応じて内容の変更を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	—	引き続き目視による点検を行い、改善の必要な箇所がある場合は職員間で共通理解を図り、速やかに対処する。	1.集団活動中・見守りあり	大型ソフト積み木での階段が1列で作られていたため、不安定であった。本来の使い方ではなく、子どもたちが走って遊ぶ場所内に置かれていた。	少しでも危ないと感じた時には、大丈夫と過信せず安全な環境を整える。遊びの場が年齢や個人の発達に合っているかよく確認する。玩具の遊び方について改めて確認し、どこまでを許容するかなど、共通理解が図れるよう園内研修を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り活発な様子で、年中児の男児数名とおにごっこをしていた。おにごっこの最中に、ホールにできていた積み木の階段に上り、転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	先に遊んでいた男児2名（本児含まず）に声をかけた後、保育室で製作をしていた複数名の子どもたちに呼ばれ、保育室に行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ホールには3名の職員がいたが、1名は未満児と一緒に遊んでいた。2名は、現場から少し離れたところで全体を見守りながら、子どもに関する連絡事項を伝え合っていた。うち1名は、流動的に積み木の階段で遊ぶ子ども達の近くに行き声をかけたりもしていた。	ホールにも職員がいたが、大丈夫と思わず、危機意識を持ち、積み木遊びのすぐそばで見守り、見届けるべきだった。	子どもの年齢問わず、園での様子について教職員が把握できるよう話し合いの時間を設け、職員の配置は、子どもの導線や遊びの内容に合わせて臨機応変に対応できるよう職員間で話し合い、共通理解を図る。子どもたち自身も危機意識が持てるように、日頃から遊び方や注意点などを繰り返し伝えていく。	
9184	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48			24		24				5	4	15.3歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷	－	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	年齢や育ち、遊びの種類別に起こりうる事故や怪我のリスク管理が不十分であったと思われる。	年齢や育ち、遊びの種類別に起こる可能性のある事故や怪我をマニュアルに盛り込む。また年齢や育ち、遊びの種類別に起こりうるリスクを回避した園庭の環境設定について園内研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	園庭の小石、ゴミ等は常時用務員が整備し、更に月に一度「園安全の日」として園児と職員で小石などを拾っていたため、安全な環境は保たれていたと思われる。	今後は安全点検を行う際の職員数を増やし、安全な環境を常時保つように努めていく。	1.集団活動中・見守りあり	ボールが遠くに転がり、追いかけて勢いよく転んでしまった。	年齢に応じて空気の圧を調節し、扱いやすく工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	幼稚園が始まって間もなく様々な遊びに興味を持って遊んでいた。バランスよく体を動かすことが難しく転んだ際に手が出ず胸を打ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭ではクラスカラーの帽子を目印に居場所を確認しながら、状況に応じて一緒に遊んだり、個別に対応したりしていたが、転んだ際の一瞬をどの職員も見つけられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	そばにいた職員は転んだ瞬間は捉えられなかったが、すぐに体を起こし、本人に痛みがあるかを確認した。	4月いっぱいは年少児に危険がないよう、園庭には年少児と年長児のみが出ていて、年中児は時間をずらし人数を調整して対応していた。	年少児がそばにいるときの遊び方等を学級ごとに話し合った り、その都度声をかけたりしながら、安全に保育するとともに、職員全員で園児を見守る体制を更に強化していく。	
9185	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55		9	10	18	18				10	9	17.5歳	1.男児	－	8.その他	1.負傷	－	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	園児がブランコで手を離すと危ないという意識が欠けていた。新入児(2・3歳児)の見守りばかりに職員の目が集中し、全体の見守りが足りなかった。	園児に対して、遊具利用の注意点を再度指導する。職員が遊具で遊んでいる全園児への見守りの徹底と声かけを頻繁に行うよう確認を行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	毎月、チェックを行っておりブランコ自体には問題はない	3.個人活動中・見守りあり	園児が遊具で遊ぶ際の職員の見守りにちょっとしたスキがあった。	園児が遊具で遊ぶ際には、職員の担当を再度確認し、注意深く見守るよう指導を行った。	1.いつもどおりの様子であった	保育前の自由遊びの時間にブランコで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	自由遊びの時間での事故であり、職員達は園庭内で遊ぶ年少から年長まで(55名）の遊ぶ様子を、一定の間隔を置いて見守っていたが、当該事故については見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由遊びの時間での事故であり、職員達は園庭内で遊ぶ年少から年長まで(55名）の遊ぶ様子を、一定の間隔を置いて見守っていたが、当該事故については見ていなかった。	園児がブランコに乗っている最中に、マスクの不具合のため触ろうとしてブランコから手を離してしまった。	園児にマスクの不具合等ある場合は、いったんブランコを止めてからマスクを調節するよう指導を行った。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9186	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28			6	13	9			9	5	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘捻挫 左手関節捻挫 左上腕骨顆上骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	負傷園児は要支援で、日常的に多動のため落ち着きに欠ける傾向にあったと思える。教諭の配慮は行き届いていたが、園児の咄嗟の行動で身体を支えることができなかったようだ。	これまで以上に園児の行動に同行したり、動きを予測した声掛けが必要かと思える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	点検後に修理等が必要な場合はその都度行っている。	1.集団活動中・見守りあり	–	遊び中の園児数に対する職員の数は遠している。	1.いつもどおりの様子であった	毎朝やっている身支度であるが、負傷園児は注意力が散漫になる傾向があり、椅子から立ち上がって保育室に入る際、はやる気持ちが先に立ち足の動きが追いつかなかったと思える。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	負傷園児は日常的に落ち着きがなく、予想がつきにくく、他園児もいる中、瞬間的な援助ができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他園児の保育中であり、負傷園児との距離があった。	園児の咄嗟の動き	園児に落ち着いて行動するよう声掛けしたり、園児の近くで見守る	
9187	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35			10	10	15			4	4	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	事故発生時は、落下した本児の近くに教師がいなかった。	遊具の上に登ったり、ぶら下がったりしている際は、その園児の近くにいて危険がないように見守り、すぐに手助けができるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故当時、雲梯の下には、落下してもケガがないようにマットを敷いていたが、雲梯の周りにまではマットを敷いていなかった。	マットの枚数を増やしたり、敷く向きを変えたりして、下部分だけでなくもう少し広範囲にも敷くようにする。	1.集団活動中・見守りあり	–	順に園庭へ出る園児が増えていくので、教師も順に園庭へ出てたくさんの目で園児を見守れるようにしていく。また、危険がないように特に遊具に登ったり、ぶら下がったりしているところには、近くで見守り手助けができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に、雲梯の２本とばしを頑張って練習していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	部屋の中で登園して来た子の受け入れや朝の用意を見ていたため目の届くところにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、対象児の近くにはおらず、落下時には助けることができなかった。	—	戸外遊びの際は、戸外に出られる教師の人数が増えてから出るようにする。また、遊具で遊ぶ園児の近くで危険がないように見守るようにする。	
9188	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								4	4	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	1.頭部	左側頭部骨折、左顔面麻痺、内示の耳小骨（脱臼）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	危険を予測される遊具周りの職員配置不足	危険が予測される遊具の周りには必ず職員を配置する遊具の点検を徹底する	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	遊具の下に敷いているラバーマットが硬かった	ラバーマットを敷く面積を広げ、必要に応じてマットの上に芝生を敷く予定登り棒を撤去	1.集団活動中・見守りあり	本人も一人で高い所から登り棒伝って降りることが出来ていた為、慣れがあり手がすべった	個々の運動能力を十分見極め、安全第一の援助をする登り棒の遊び方について再確認	1.いつもどおりの様子であった	真っ先に外に出て、階段を使って遊具の上まで行き、柵を伝って登り棒の上から降りる	4.対象児の動きを見ていなかった	園児に製作物を配り、靴を履いて園庭に出ようとしていたので、本児の様子を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各教室で園児と帰りの準備をしていた	外に出ている子、制作物を鞄に直している子、外に出ようとしている子、それぞれ活動が違っていた為全体の把握が出来ていなかった	職員が外に出るまでは園児は土間で待機する職員間の連絡を密にとる	
9189	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70				35	35			5	5	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外果遠位骨端線離開	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	–	1.基準以上配置	—	職員にケガのことを報告し、今後ケガ、事故のないように園庭管理など気を付けるように周知する。また園児に対しても遊び方について再度確認をする。安全管理に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	日々園児が遊具の誤った遊び方や故障・破損などないか安全管理に努める。	1.集団活動中・見守りあり	–	園児たちに各遊具の遊び方など再度伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ケガをする直前まで元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところで見ていたので、落下するのを助けられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で他の園児の対応をしていたので、対象園児の動きを把握していなかった。	–	安全な保育環境を確保するため、場所・活動内容に留意し、ケガ・事故発生防止に取り組む。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9190	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	保育室での過ごし方の指導、注意喚起が足りていなかった。	保育室内での過ごし方を指導すると共に、職員間で保育室内での危険な箇所の確認、ヒヤリハット事例を挙げ確認・共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	製作遊びが終わり、床で絵本を読んでいた際、急に走り出した。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れた場所で、他児の対応をしていたため、本児の転倒を防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れた場所で、他児の対応をしていた。	教師が全体を見届けられていなかったため、気付くのが遅く本児が走り出した際に声を掛けて止めることができなかった。	教師が常に保育室全体を見届けられる配置をとり、早めに声を掛けていく。	
9191	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	192				44	68	80			24	22	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇裂傷と右上乳中切歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	—	園児の怪我について教職員が情報共有を行い、安全指導や安全教育に努める	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		年3回の定期点検の他、日々の目視により危険個所をいち早く見つけ、安全な状況を整えるように努める	1.集団活動中・見守りあり	–	子供の監視には限界もあるため、子供や家庭にも安全に対する意識を持ってもらえるよう安全教育の発信を行う	1.いつもどおりの様子であった	2学期に入り登園を嫌がること日があったが、昼食後保育者やクラスの友達とジャングルジムで楽しそうに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャングルジムの傍で園児たちを見ていたが、抱っこをせがむ子を抱いていた状況ではあった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登園渋りがあったため、本児にはよく声を掛け、一緒に過ごすことも多くなっていた。	–	安全教育として教職員が一緒に遊ぶ中で、扱い方や回避の仕方を伝えられるよう教職員の質の向上に努める	
9192	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				24		18			7	7	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	雲梯の遊具を正しく使用するのではなくて、横からぶら下がっていた。	遊具を正しく使用するように子ども達に指導していく。遊具使用中は、近くで見守る。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	園庭の地面が固すぎるのでケガをしやすい。	園庭全面を人工芝を入れるようにする。雲梯は撤去する。	1.集団活動中・見守りあり	この時期、園庭で遊んでいる時には、熱中症のことを気にするように指導していた。	遊具で遊んでいる子どもも注意深く見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらぬ様子で、活発に遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見ていたが雲梯が得意な子どもだったので安心していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年少と年長が遊んでいたので、満遍なく見るようにしていた。	–	遊具遊びが得意な子ども程、変わったことをしやすいので、注意して見守るようにする	
9193	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18				6	6	6			3	3	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足踝の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	いつも遊んでいる安全な場所であることで、危機感をもちにくかった。	職員の危機管理意識を高める。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	25	1.定期的に実施	12	安全点検は定期的に実施する。	引き続き、安全管理に努めていく。	7.その他	保育者は園庭に出て、それぞれの遊びの場を見守っていたが、当該児への目が届きにくかった。	職員で連携をとり、子どもの様子に目が届くような配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	園庭での遊び中、保育者の元へ向かおうとした際、他に気をとられながら歩いていると足首を捻った。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者は園庭のそれぞれの場にわかれて子どもを見守っていたが、事故発生時は、当該児の側にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者は園庭のそれぞれの場にわかれて子どもを見守っていたが、事故発生時は、当該児の側にはいなかった。	いつも遊んでいる安全な場所であることで、危機感をもちにくかった。	慣れている場であっても危険がないか常に危機意識をもって見守る。	
9194	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32									3	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	いつも遊んでいる安全な場所であることで、危機感をもちにくかった。	「いつ何が起こるかわからない」と職員の危機管理意識を高める	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	25	1.定期的に実施	12	安全点検は定期的に実施する。	引き続き、安全管理に努めていく。	3.個人活動中・見守りあり	保育者は園庭に出ていたが、他の子どもとかかわり当該児への目が届きにくかった。	職員で連携をとり、子どもの様子に目が届くような配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	毎日している鬼ごっこを友達と楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者は園庭に出ていたが、他の子どもとかかわり、事故発生時は、当該児から離れた場にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育者は、室内で遊ぶ子にかかわっていた。	いつも遊んでいる安全な場所であったため、危機意識がもちにくかった。	慣れている場や遊びであっても、危険がないか常に危機意識をもって見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事										事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																														
9195	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19								2		2	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	遊具で考えられる事故を想定し、遊び方、扱い方の研修を行う	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	1	—	遊具点検を再度行い、配置についても運動場の地面の状態（固いグランド状からやや芝生の上に変更するなど）がより安全なところ見直す。	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びの時間帯であり、見守るべき範囲が広かった。	運動遊びに興味が高まると同時に、慣れによる危険な行為を見逃さず、子どもの様子を見ながら、定期的に遊具指導（着地の仕方等ポイントを押さえて具体的に）を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとあまり変わった様子は見られず、当日も好きな雲梯で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故が起きた雲梯の遊具に担任が付いていたが、対象児がぶら下がっていた雲梯の高い方側ではなく、反対側の低い方側にいた園児の補助に付いており、対象児の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配教諭は、雲梯付近にはいたが、別の遊びをしている支援児の様子を見守っている状態であった。	園庭での自由遊びの時間帯は、広範囲であること、運動遊びに興味が高まる時期であることから、保育者はどの子がどこでどんな行為をしているか目の前の子どもに関わりながら視野を広くすぐに対応できるように意識する。	複数職員での見守り位置の再確認。できる限りフリー職員を配置し、園庭遊具の見守りをする。	
9196	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22								2		2	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員配置等に問題なし。	研修の中に今回の怪我の例を取り入れ、環境の事前点検や遊びのスペースの作り方等を取り入れていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	毎日	施設設備等に問題なし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	運動会に向けて、クラスでリレーを行なっていた。接戦になったときには、体が接触するなどのリスクはあった。	体の接触や転倒などのリスクがある為十分なスペースを確保したり、地面に躓くような物がないか等、保育前の環境点検を徹底して。	1.いつもどおりの様子であった	活動意欲も高く、勝つために夢中になって走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	待機している子どもたちの側で援助をした。走っている子どもの様子を見つつ、次に走る子どもや走り終わった子どもの誘導を行なっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員２名以外は、その空間にいない状況。	活動時間や職員の位置や援助は適切だったと考えられる。怪我のリスクを減らせるように環境面を課題としたい。	保育を行う前の環境への意識や活動中の教師の援助等、適切に行えるように再度指導。	
9197	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	86				28	28	30		11		11	16.4歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	粉砕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	0	2.基準配置	—	職員会議を開き園庭で子供達が遊ぶ時には、どの様に職員を配置するか又は、危機管理マニュアルをもとに子供達の安全な遊びについて再確認をする	3.未実施	0	1.定期的に実施	202	1.定期的に実施	202	—	子供達の遊ぶ様子を一挙一動全て見る事は、出来ないので監視カメラを設置すると共に画像を見返して問題点を見直し更なる安全な遊び方を考えて行きたい	1.集団活動中・見守りあり	–	走って遊ぶ時は周りを見て行動するように指導する	1.いつもどおりの様子であった	先生と「かくれんぼ」をしていて隠れる為走って向かう途中に違う方向から走って来た園児と衝突した。周りの状況が目に入っていなかったと思われる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	先生が鬼となり対象園児に背を向けた瞬間に泣き声がした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他の業務に携わり職員室に園児が来た時複数の職員で様子を見る	–	遊ぶ時には（特に走る時）周りをよく見てぶつからない様行動する事を指導していく	
9198	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16								1		1	17.5歳	2.女児	–	8.その他	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	ケガに至るような事故を未然に防ぐための配慮不足	ケガに及ぶ危険の可能性がある遊びに対して監督指導する	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	積み木自体は安全性の高い物である	積み木そのものが危険を及ぼす物でないため、遊び方に指導配慮が必要である	1.集団活動中・見守りあり	積み木を壁に寄せ、積み上げて片付けていたので、子ども達が乗って遊びたくなるような環境だった	箱に収納し、自由遊び時間のみ遊べるようにした	1.いつもどおりの様子であった	登園時、朝の健康状態について特に連絡もなく、友達と元気に遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２メートル程度離れたところから見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外は別室で園児をみていた	–	遊び方に指導配慮が必要である	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面												
							人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9199	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	99				39	60			7	7	17.5歳	2.女児	–	8.その他	1.負傷	–	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折（足首）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	子どもたちの健康観察についての意識付けを徹底する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	—	公園及びその岐路の状態に問題が無かった為無し。	1.集団活動中・見守りあり	–	公園及びその岐路の状態に問題が無かった為無し。	1.いつもどおりの様子であった	ふざける事もなく、泣いた り痛がったりする様子もなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	整列して子どもたちの状態を確認しながらゆっくりと歩いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	整列して子どもたちの状態を確認しながらゆっくりと歩いていた。	子どもの様子がいつもと変わらなかった為、教諭が怪我に気付く事が出来なかった。	子どもたちの健康観察をより一層行う。	
9200	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14			6	4	4			13	13	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	普段の園生活に潜む危険を予知して防止していくと共に、環境の改善をしていく。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	絨毯は保育室の角に置いてあったが、その周りの環境設定が適切でなかった。	絨毯は使用頻度が少なく、保育室に置かない様にする。	3.個人活動中・見守りあり	置いてある絨毯の近くに、園児が入れる場所があった。	絨毯は、クラス全員で紙芝居の読み聞かせの時等に使用していた。今後は使用しない様に変更して、クラスから撤去した。	1.いつもどおりの様子であった	数名の園児がキッチン棚の前でままごとの道具を出していた時に、籠に入れて保育室の角に置いてあった絨毯が倒れ、対象園児の左肩に当たったと推察される。対象園児は下を向いていたので、絨毯の置いてあった場所は死角になってよけることも出来なかったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	絨毯が倒れた時、担任、副担任は直ぐに気付き駆けよる。対象園児が肘を押さえ座っていたので絨毯を元に戻す。担任も駆けつけ何が起きたか尋ね、対象園児が左肘を押さえ痛いと訴えていたので急いで事務所につれていく。園長判断で、近くの整形外科と母親に連絡を入れる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	副担任は直ぐに気付き、駆けよる。対象園児が肘を押さえて座っていたので、絨毯をもとに戻す。	絨毯を立てかけている保育室の角は、普段遊ばない場所であったが、事故当日は絨毯の近くに園児が数名立っていた事は認識していた。副担はテーブルで他の園児と遊んでいた。担任は以前休んでいた園児の課題を行っていた。両担任とも、対象園児の方を向いていたが、危険を予知することは出来なかった。	自由時間の、環境設定の再検討、先生配置の再検討、危険な場所の検証と改善	
9201	令和5年3月8日	1.認可	5.幼稚園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23								3	2	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷	–	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	日頃から遊んでいる遊具であるが移動時にバランスを崩し落下、左側方に手をつき体重がかかってしまった。	遊び方や園児の様子など状況に応じて、職員の配置を考えたりすぐに手を差し伸べられるようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検の更なる徹底	これからも引き続き定期的に安全点検を行う	3.個人活動中・見守りあり	幼児の遊具の扱い方や注意力または回避力が弱い	遊具使用上のルールや注意点の更なる指導の徹底	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り遊んでいた遊具だが手がすべってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで全体を見ていたが、他児に声を掛けられ対応をしていたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他児と対応中で直接的には見ていなかった。	戸外遊び時の職員人数	戸外遊び時の職員の数や配置を見直す。	
9202	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	21								6	3	18.6歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折（単純骨折）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	–	転倒防止のため、予め靴下を脱いで走ることとしている。改善は難しい。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	–	床は滑り止めワックスが効いており良好な状態であった。自分の足に引っ掛かり転倒したため、改善は難しい。	7.その他	–	2人ずつで走るが、距離を置いてまっすぐ走ることを指導していた。一生懸命に走って転倒した。改善は難しい。	1.いつもどおりの様子であった	25m走の練習を2本実施し本番時に転倒した。とても一生懸命に走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタートラインで、ほかの園児を整列させていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴール付近で、走り終わった園児を整列させていた。他記録係2人、スターター1人、扇風機設置1人	–	転倒防止のため声掛けを徹底する。	
9203	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	84				43	41			12	12	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	–	道場の使い方について、注意点を研修で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	活動により、場所やスペースが十分に確保できているか随時検討。道場ではカーブのあるようなリレーやかけっこを行わない。	1.集団活動中・見守りあり	–	活動により場所やスペースが十分に確保できているか随時検討。道場ではカーブのあるようなリレーやかけっこを行わない。活動によって使用人数を調整する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会のリレーの練習で張り切っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該園児のすぐそばで見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	リレーのコースに沿って職員が見守っていた。	–	リレーの練習でもあり、ケガを伴う可能性を考慮し、複数の見守り人員を配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9204	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16				6	6	4			4	4	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	–	保育の中の運動機能を発達させる活動についての学びの機会を研修に取り入れて増やしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	遊具についてより安全なものに改修を行う	1.集団活動中・見守りあり	–	マットに飛ぶ遊びでも低い高さから慣らしていくよう声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	下を注意深く確認しながら飛んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該園児のすぐそばで見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周囲の遊具ごとに担当職員がついて見守っていた。	–	飛ぶ遊びを繰り返して慣れてきていても疲れ等で不意なケガにつながることも含め声掛けを行いながら注意深く観察する。	
9205	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	45				15	15	15			2	2	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左前頭部刺創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	特になし	事故発生の際には再発防止に向けた検討を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	曲がり角で見通しが悪くなっていた。	表示を増やして、走らないように働きかける。	4.個人活動中・子どものみ	見通しの悪い曲がり角でも歩かず走っていた。	各部屋で改めて約束をして、表示も増やす。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と変わらず、他児と元気に遊戯室内を走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室には他児も遊んでいた為、事故発生時は本児をみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他職員は各クラスにて他の園児の朝の受け入れを行っていた。	遊戯室と廊下の間である為、職員２名では目が行き届いていなかった。	遊戯室監視の職員を増やし、死角が無くなるよう配慮する。	
9206	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	6										6	14.2歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼 口唇裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	特になし	事故発生の際には再発防止に向けた検討を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	敷いていたソフトマットに隙間が空いていた。	その都度、敷いてあるものや室内の設備に不備が無いか気を配る。	3.個人活動中・見守りあり	他児もいたため、本児への注意がそれていた。	特性のある園児なので特に注意して関わる。	1.いつもどおりの様子であった	自分の思い通りにいかず癇癪を起した。	4.対象児の動きを見ていなかった	片付け中で、他児の対応にあたり本児への注意がそれていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同様に、片付け中であり他児も幼い為、他の援助を行っていた。	活動の切り替えができず癇癪をおこしてしまった。	活動の節目には園児が次の活動に切り替えがしやすいよう配慮していく。	
9207	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8				2	4	2			1	1	15.3歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕橈骨・尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	特になし	事故発生の際には再発防止に向けた職員配置、ルールの検討を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	職員が少ない中、ソフト積み木を出して遊んでいた。	降園バスを待つ際は大きい玩具は出さず、静かに待てるように環境設定する。	3.個人活動中・見守りあり	職員による見守りの不足	大型の玩具は出さず、事前に園児へ安全に遊ぶための説明をする。	1.いつもどおりの様子であった	ソフト積み木を重ね、上から飛び降りる遊びを一人で行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児の遊びは把握していたものの、他児への対応の為、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当時、職員は一人しかいなかった。	玩具の使い方の明確なルールを決めていなかった。	事前にルールを説明し、危険な行動をしない様、声掛けを行う。	
9208	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	28	0	4	6	6	8	4	0		13	13	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	厚底シューズを履いていたため下りの際、躓きやすかった。	園児の履いているシューズに配慮して遊びを見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園外保育のため遊び慣れた環境ではなかった。	園外保育ではより一層の注意が必要	1.集団活動中・見守りあり	–	普段から転びやすい園児には専任の職員を配置する配慮する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	土曜日の預かり保育で異年齢児との活動。しかも園外保育だったので嬉しくてテンションマックスになっていた。下りで加速し踏み留まれなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	山の下で担当職員１名が見守っていたが、数回上り下りを上手にしていたので、転倒の予想がつかず気づいた時には転倒していて防ぐことが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	総合遊具に危険が多いと考え2名の職員を配置。全体を１名の職員が見ていた。	–	総合遊具での遊び方に注意喚起を促していたが、山の上り下りにも注意喚起する。	
9209	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	45				15	15	15			2	2	17.5歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	特になし	事故発生の際には再発防止に向けた検討を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	降雨により少し地面が濡れていた。	雨で滑りやすい旨を表示する。	7.その他	保護者と手をつないでいなかった。	降雨の際、マットを敷くなど滑りにくいように配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	保護者の手をふりはらい走り出していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園後ということもあり、他の残っていた園児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後だったため担当職員以外はその場にはいなかった。	降園の際は保護者と手をつなぐが、守っていなかった。	再度、声掛けを行い約束を守る。保護者にも周知する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9210	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19	0	0	0	4	6	9	0		2	2	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	前歯骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	–	全体的に危険行動は見られず落ち着いて遊んでいたが、いつでも安全に気を配り保育にあたる。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	–	ハード面の改善は難しいため、児童への注意喚起を重点的に行う	1.集団活動中・見守りあり	–	活動時間、場所に対しての担当職員等の配置は適していたので、より一層安全に気を配るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	前を見ながらスキップしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が見えるところで見守っていたが、突然に起こった事故だったので防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象時以外にも園庭で遊んでいる園児がいたため、そちらの方の見守りをしていて対象児は見ていなかった。	突然遊具から出てくると予想できず事故に至った。	周りをよく見て遊ぶことを指導するとともに、いつ何時でも安全に気を配り保育にあたる。	
9211	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	4									1	1	13.1歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	戸外での活動の中で見守りが十分ではなかった	戸外での活動だったので、保育教諭がもう１人いればよかった	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	避難用に設置した物だが、安全面に対する配慮が足りなかった	衝突時の安全性を考え、安全クッションシートを貼る	1.集団活動中・見守りあり	保育に適した場所ではなかった	段差がある場所なので遊ばせない	1.いつもどおりの様子であった	座ろうとした時にバランスを崩し頭をぶつけた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児の後方から見守りながら歩いていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見守っていたため、近くにいなかった	座るべき所でない場所に座らせた	園児の行動予測して見守る	
9212	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13				4	4	5			2	2	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	打撲（骨折の可能性も有り）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	戸外での活動の中で見守りが十分ではなかった	落下することも考えられた為、すぐに手を添えられる位置に保育教諭がいるべきだった	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	いつも遊んでいる遊具ではあったが、安全面に対する配慮が足りなかった	落下時の安全性を考え、クッションになるようにマットを配置する	1.集団活動中・見守りあり	いつもより少し活発に遊んでいた	落下する可能性のある遊具で遊ぶ際の遊び方、注意事項など入念にする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	前後に体を掘らし遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	隣りに配置している雲梯をしている園児の補助をしながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見守っていたため、近くにいなかった	遊具での遊び方が正しくなかった	なぜ危ないのかを確認しながら正しく遊ぶよう注意する	
9213	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	14									4	4	14.2歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右上顎部裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎日	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に実施しているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	本児の手・口を拭き終わり、他児が拭いてもらっている間、椅子に座って待っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の傍にいたが、同じ机に座っていた他児の援助をしていた為本児のことは見ていなかった。本児が椅子から滑り落ちる瞬間が目に入ったため、すぐに手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の２つのグループの援助をしていた（保育士２人）本児のグループを手伝おうと机まで来る途中だった（保育士１人）	給食後、個々に拭き取りをしている間、担当の児童や全体への見守りが不十分であった。また、座位が安定していない児童を（短時間ではあるが）椅子に座って待たせ、目を離してしまった。	職員は給食中を含め常に臨機応変に対応できるよう、他の職員と役割を分担し連携し保育を行う。個々の発達状況により、どのような援助が必要か職員同士で話し合い、共通認識を持って関わる。給食後の手、口の拭き取りが終わった児童については、椅子から落ちないよう床に降ろすなど、個々の発達に応じて配慮する。	
9214	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	61	0	0	12	17	16	16	0		6	6	15.3歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	–	事故内容を職員間で共有し、対策について再確認し、共通理解していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	子どもと遊具の使い方を確認し、遊具の点検を継続していく。	3.個人活動中・見守りあり	遊具の下に敷いてある衝撃吸収マットの上に砂が溜まっていたため、着地時に滑ってしまったのかもしれない。	遊具で遊ぶ前に毎回、衝撃吸収マットの上の砂を掃く。	1.いつもどおりの様子であった	普段はネットを登る際、スムーズだった本児。怪我の直前に耳が痒くなり、咄嗟に片手を放して掻こうとしたところ落下。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児と離れた場所で全体を見ていた。本児が落ちた瞬間を目撃したためすぐにそばに行き、本児の怪我の様子を見る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の空間を4人で分担して見ていた。	–	引き続き大型遊具を遊ぶ際には保育教諭が危険な動きがないか、職員同士で連携しながら見守りすぐに動けるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9215	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									2	2	15.3歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	–	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	園児の人数に対して職員数は足りていたが、配置場所や全体把握に問題があったと考えられる。	園児を把握する職員は全体を見回せる場所に配置し、園児の様子から目を離さないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	ベンチがそばにあったことで、乗りたくなる気持ちになってしまった。	保育者がそばについていられない時は、ベンチ等は使用せず、マットなどを使用する。	7.その他	職員は他児の対応や清掃をしており本児の様子に気づき声をかけた時には事故が起ってしまった。ベンチが近くにあり立ち上がってしまった。友達も本児に誘発され乗ったことで体が触れてしまった。	着替えや絵本を読む場所を安全な場所で行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもは動きも落ち着いている。自らベンチの上に立ち上がったのは初めてである。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで清掃しながら様子を見ていたものの、声かけだけで注意をうながしてしまった。すぐに対応すべきだった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の着替えを補助しながら様子は見ていたものの、すぐに立ち上がって対応することはできなかった。	本児のみならず、他児も立ち上がろうとしたことに気づきながら動きを止めることができなかった。	着替えコーナーには椅子やベンチなどを置かずにマットを敷いて座るようにする。	
9216	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									4	3	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	–	児童に危険な行動についてわかりやすく丁寧に説明をし、事前の注意喚起を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	–	危険を想定し、職員間で事故につながりそうな物品がないか改めて確認する。	1.集団活動中・見守りあり	予想のできない動きが事故につながることを念頭に置いて注意を促す必要がある。	職員間で想定される危険な状況等をシミュレーションする。また、園児の動線を予測し対応について職員同士で情報共有する。	1.いつもどおりの様子であった	登園し遊んでいた。何気なく近くにあった椅子に足をかけた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の園児も含めて遊んでいる様子をすぐ近くで見ていたが、対象児が転倒する瞬間には間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童も含めて遊んでいる様子を見ていた。	5歳児で動きが活発なため、固定の児童のみを注視できない。	危険に繋がりそうな物品について、確認し必要に応じて撤去する。	
9217	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨の頭骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	跳び箱を援助する職員も側についていたが、本児が跳び箱を跳んだ際勢い余って体制が崩れて左手をマットに付いて着地して痛がった。	体制が崩れた際は咄嗟に援助ができる（手を出す）体制を取る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	週6	跳び箱やマットの破損はなかった。跳び箱の傾きもなくしっかりと設置してあった。跳び箱を使用する際近くに危険な物は無かった。	跳び箱やマット等が事故の要因ではない。使用する際の場所にも問題は見られなかった。	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱を使用する際の十分な広さは確保出来ていた。保育教諭1名に対して園児は17名と保育教諭の人数に不備は見られない。担当教諭は全体を見渡せる場所にあり、立ち位置にも問題はない。	環境面にも不備は見られなかった。	1.いつもどおりの様子であった	ふざけて遊ぶ様子もなく真剣に取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の横に付いていたが、園児の勢いが余り援助が遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故当時、事故が起きた教室には担当職員のみで他の職員はいなかった。	「跳べるだろう」との思いがあり、跳び箱を援助する職員が咄嗟に手が出なかった。	跳べる跳べないに関わらず、援助に入る職員は咄嗟に援助が出来る体制を整える。	
9218	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13					8	5			5	5	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	0	1.基準以上配置	–	怪我発生時間帯は夕方のお迎え時間帯の為、少ない人数のお子様の保育にあたっていたが、お迎え対応と重なり対応しきれなかった。お子様の行動にさらに注意し、お迎え時間帯の過ごし方をもう一度見直していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	積み木が不安定だった所に立ち上がってしまい、バランスを崩して転倒し怪我につながった。	積み木の積み方が不安定にならない様に確認しながら危険のないよう、様子に注意する。	3.個人活動中・見守りあり		お迎え対応時の過ごし方を見直し、検討する。	1.いつもどおりの様子であった	積み木を車に見立てて、お友達との遊びを楽しんでいた。楽しくて積み木に立ち上がってしまったが、不安定で揺れていたので、ジャンプをした際に踏み込めずバランスを崩して転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	お子様の様子を見ながらお迎え対応も行っていた。転倒の前の遊びは車に見立てた積み木に座って床に足をつけて遊んでいた。積み木が揺れていたので立ち上がることはないと考えていた。転倒時の状況は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１３名程度だったので、担当職員１名で保育を行った。	積み木が揺れていたが足がつく状態で座って遊んでいたため積み木の上に立ち上がるとは考えていなかった。	怪我発生時間帯は、夕方のお迎え時間帯の為、少ない人数のお子様の保育にあたっていたが、お迎え対応と重なり対応しきれなかった、お子様の行動にさらに注意し、お迎え時間帯の過ごし方をもう一度見直していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9219	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	31									2	2	17.5歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折・右橈骨頭脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	－	事故発生時の情報を職員間で共有し、事故が起きた場所について検証を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	－	つまづきによる転倒が起きた箇所の下の砂を整備しマットを補強する。	3.個人活動中・見守りあり	－	砂をやわらくほぐし、元々敷いていた緑マットを補強すると共に職員が側で見守り声を掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、登園して朝の身支度を終え、自分の好きな遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大型遊具付近で子ども達全体を見守りながら声を掛け、保育室に入る時間である事を伝えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の担当場所にて、対象児以外の子ども達を見守っていた。	－	慌てて遊具から降りようとしたときなどの転倒を防ぐため、落ち着いて保育室へ戻れるように声を掛け、注意深く見守る。	
9220	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	51									5	5	18.6歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右指示指基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	－	固定遊具の利用の仕方や注意点について、職員・園児共に再度確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	－	特になし	3.個人活動中・見守りあり	新しい遊び方に挑戦しようとして起きた事故	安全な遊び方について繰り返し指導する	1.いつもどおりの様子であった	慣れてない動きをした	4.対象児の動きを見ていなかった	数名の園児が鉄棒で遊んでおり職員はすぐ近くにいたが、別の園児の補助をしていた際に転落し起きた事故であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が鉄棒で遊んでいた園児に対応していることが分かっていたため、他児と一緒に活動していた。	－	個別に対応が必要な遊びである場合ではあるが常に他児の行動に注視し、不安要素がある場合は遊びを待たせ順番に対応するようにする	
9221	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37									3	3	18.6歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折、脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	特になし	日頃から安全対策についての話し合いを行っており、職員の配置も適切であった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	点検等の実施を適切に行っていた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	保育者の立ち位置は適切であった。	1.いつもどおりの様子であった	友達数名とサッカーで遊んでおり、ボールを蹴ろうとしてバランスを崩し転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児の動きは見ていたが、咄嗟のことで防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの遊び、動きを見ており対象児を見ていなかった。	事故直前に運動会練習を行い、疲れがあったと思われる。	子どもの様子を見て、活動を早めに切り替え休息を取る等の対応をとる。	
9222	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	4									1	1	14.2歳	1.男児	－	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折、右尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	未満児は体の動かし方が未熟な為、手のつき具合で骨折につながることもある。	マニュアルにある「乳幼児の特性から起こる事故」を園内研修で再度理解を深め事故防止に努めていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	その他の要因なし	今回はなし	1.集団活動中・見守りあり	その他の要因なし	今回はなし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	病欠から１週間ぶりの登園で戸外遊びを喜んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	１名の保育者は対象児以外に靴下をはかせながら至近で対象児をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は戸外に出るため水分補給の準備をしていた。	１歳児の特性である何でもやってみたい、動きたいがある。	少人数でも危険があると認識し、全職員で共通理解を図る。	
9223	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8						8			1	1	17.5歳	1.男児	－	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右基節骨亜脱臼、右中足骨剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	－	マニュアルには、室内で危険につながるような行動は慎むように言葉掛けを行う等の明確な記載がなかったため、見直しを行う。	2.不定期に実施	4	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	36		子どもたちの行動を可能な範囲で予測しつつ、床の状態を整えるなどの対応を行う。	7.その他		室内では歩いて移動するなどの注意点を、子どもたちに伝えていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保育室内で歩かず、走った勢いのまま、自らサッカーのスライディングのような形で滑った結果、小指を引っ掛けてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児も含めた子どもたち全員に話をするため、保育者の近くに来るように指示した際に、事故がおきた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は現場にいなかった		突発的に起きた事故であったが、即座に怪我の対応にあたることはできていた。室内で過度な動きをすると怪我につながることを、子どもたちに伝えていく必要がある。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9224	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24									3	2	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第４指骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	職員に任せてしまった為、子どもの動きが予測できていなかったと考えられる。	職員同士で事前に、周りをよく見て気を付けるように声掛けをしておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	テーブルの脚を開く場所を子どもの手が届かない場所でやる事とする。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	職員による安全確認と子どもに対して安全に気を付けるように促す。	1.いつもどおりの様子であった	職員を手伝おうとして手を出してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員が机の準備をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	配膳台の準備をしていたため、見ていなかった。	特になし	他の職員も安全確認に努め、危険が予測される場合は注意を促す。	
9225	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22				11	11				4	–	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	ボールを使った活動を行う際の注意点・声掛け事項・指導法を研修に取り入れる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	年齢に応じ、やわらかめのボールを導入する。	1.集団活動中・見守りあり	–	ボールを使った活動を行う際の注意点・声掛けを行う職員を近くに配置する。	1.いつもどおりの様子であった	庭で活動を行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	、数メートル離れたところで全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離で見守っていた。	—	硬いボールを使ってバスケットをするときは、ゴールの真下には入らずに、必要に応じワンバウンドしてからキャッチする等の説明を行っていく。	
9226	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24										–	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	日々終礼でヒヤリハットや医療事故に関して、職員間で情報の共有化を図っているが、講師を招いての研修は近年行っていない。	今後講師を招いてのヒヤリハット研修、リスクマネジメント研修を行ったり、外部の研修に積極的に参加を行い、安全に関する知識を深める。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	事故が起こった屋外では、転んだ時の衝撃を吸収するゴムチップが敷き詰められていて怪我の防止や軽減をしているが、固定遊具（未満児用）が４個設置されている。	固定遊具の位置の確認を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	衝突や接触の危険性がある場所で鬼ごっこを行ったことで、起きた事故である。	広い芝生で身体をおもいきり動かすよう指導を行ったり、前を向いて走る、手をついて自分の体を守る等指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	おにごっこをしている際友達と接触、転倒する。転倒した際に右ひじをつく。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体把握は行っているが、他児が砂場にいて、対象児が友達とぶつかった瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体把握は行っているが、他児と話しをしていた為泣き声で転倒に気づく。対象児が友達とぶつかった瞬間は見ていない。	事故の生じやすい場所を職員間で共有して事故の認識、危険に対する予知能力の向上を図る必要性があった。	自己および現場に潜む危険を鋭く予測する為の危険予知力を高め、瞬時に問題解決能力を身に付ける。	
9227	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16									3	2	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯槽骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	担任一人がその場から離れ、残っている職員に「危険な遊びに展開したら遊びを止めて下さい」と伝える事が出来ていなかった。	その場から離れる場合には他の職員へ声を掛ける。危険な場合はすぐに遊びを中断する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	点検を行い破損部分は修理も完了している。遊具の遊び方に問題があると思う。	対策を考え・意見、改善会議も設けて全職員で話し合う場を設けた。	1.集団活動中・見守りあり	遊びが展開してしまい気持ちが舞い上がり抑える事が出来なく、その場にいた職員も危険予測ができなかった。	保育教諭だけが注意や遊びを止めるのではなく、保育助手も同じように予測をしながら遊ばせるように話し合った。	1.いつもどおりの様子であった	他児の真似をして平均台をまたいでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育教諭①はその場から離れる。保育教諭②は鉄棒に付く。保育助手③は園庭全体を見守っている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは出ていなく、3名以外いない	遊ぶ時に危険がある事や約束事をしっかり伝えていなかった。保育教諭や保育助手も危険の予測をする事ができなかった。	担任同士、他の職員で声を掛け合い、子ども達へわかりやすく説明を行えるようにしていく。必ず、危険予測をし誰がでも注意、阻止できるようにしていく。	
9228	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	4				1	3				2	2	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	なし	マニュアルの周知、職員の危険予測強化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	なし	落下防止マットはあるが、弾力性のあるマットに変更する	1.集団活動中・見守りあり	遊び慣れた環境、遊具での怪我	危険行動、危険を予測し対応。約束事、遊具の遊び方の再確認	1.いつもどおりの様子であった	雲梯棒も得意であるが、落下し着地時バランスを崩す。落下と同時に痛みを訴え泣いていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の様子に危険を感じ体を支え（行動を止めよう）ようと近づくが間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びの様子も見守っていた	遊び慣れた遊具だったため、安全管理が不足していた	職員とマニュアルを再度周知し事故防止に努める。また、遊具の環境整備を見直す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9229	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	18									2	1	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右上腕骨顆上）	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	0	2.基準配置	–	未実施だったため今後職員研修を行う。（年2回）	1.定期的に実施	0	1.定期的に実施	0	1.定期的に実施	0	–	設置間もない遊具の為劣化等によるものではない。	1.集団活動中・見守りあり	–	活動前に園児へ考えられる事故・箇所を伝え使い方のルールを決める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達がいる事で、やや興奮気味だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	為、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落下の瞬間は対象児を見ていなかった。	–	遊具による事故が予測される個所に職員を配置する。	
9230	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	22	5	17							6	6	13.1歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	保育者の不注意。	保育者が周囲の子どもの動きに十分注意を払う。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	特になし	床に凹凸や綻びはなく、ハード面での改善策はない。	1.集団活動中・見守りあり	発生時刻に2名のお迎えがあり、2名の保育者が対応したため、室内の見守り体制が希薄になった可能性がある	お迎え対応と室内の見守り体制のバランスを考え、対応方法を再度職員会議等で検討していく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内でも活発に動きまわる様子があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の姿や周囲の様子を確認していなかった中で、動いてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同室にいた他の職員が離れた場所で他児と遊び、目の届く範囲に対象児がいなかったことも発生を抑制できなかった原因である	不規則な動きをする児童に職員が注意を払っていなかった。	周りの職員も含め、興奮気味動く児童には細心の注意をもって見守る。	
9231	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14									2	1	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指基節骨不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	–	跳び箱の横で転倒、衝突に備える	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	–	転倒に備えて跳び箱の脇にマットを敷く	1.集団活動中・見守りあり	–	跳び箱を飛ぶ前に手のつき方をその都度確認する	1.いつもどおりの様子であった	6段に挑戦中。順番に並んで自分の番で飛んだが右手人差し指を突いてしまう。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	突いた後痛がった事もあり動作確認をするが動かせず看護師と視診。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていた	–	飛んできたときに介助できるように跳び箱の脇に立つ	
9232	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	146				46	52	48			7	5	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	戸外遊び担当の監視場所に偏りがあり園庭全体の見守りができていなかった。子どもの思いもよらぬ行動や転倒について予見できなかった。	園児が転倒しないよう普段から体力づくりができるよう保育活動をする。園児の行動に注意し目を離さないよう見守り（援助）について徹底する。戸外遊びのけが等について、園児、職員に注意喚起し徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭の芝生の整備を定期的に行っていたが、芝生に足をとられ転倒してしまった可能性がある。	園庭の遊具の安全点検の強化と芝生の整備や石拾いの実施により、園児の転倒や怪我を未然に防げるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	戸外遊びの時間に監視担当の職員の立ち位置が偏っていた。	戸外遊びについて怪我につながらないように、遊び方や監視の仕方を園児と職員に呼びかけ徹底する。戸外遊びの監視主担当の職員が、全体が把握できるよう他の職員配置を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	本児はいつも通り戸外で走り回っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が園庭で遊んでいるところは確認しているが、走り出して近くにいた他児と衝突したところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他の園児を監視しており対象児を見ていなかった。	園庭で走っている際に、他児と衝突し転倒するとは予期していなかった。	園内外ではあらゆる危険があることを認識し、保育教諭や園児、保護者に事前に周知する。	
9233	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	32				4	4				4	4	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第２第３第４中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	–	現在と同様に園児がいる場所ごとに見守り担当を配置する。怪我等の共有システムを活用しているが、教職員の手が空いたときに入れるようにしているため、少しタイムラグが発生してしまうため、口頭確認も合わせて行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	できる限り鋭角な備品は使用しないように配慮しているが、鋭角な場合はカバーする等ぶつけた際の衝撃を減らすような工夫を今まで通りしていく。	7.その他	–	廊下に危険物は無い。移動の仕方も危険は無かった。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子。ぶつけた後も痛みを伝えたがその後もいつも通り過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守り担当はいたが、ぶつけた瞬間は見ていなかった。ぶつけた音や本児が泣く等の様子も見られなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室、食堂と担当に分かれ園児連を見ていた。	–	痛みを訴えた後にいつも通り過ごしていたため、すこしぶつけただけかと思ってしまい、そのまま保護者に引き渡してしまった。足を痛がったことを保護者に伝える、降園前に再度痛がる箇所を確認する等すれば良かった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9234	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	43									22	19		17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	0	1.基準以上配置	ゴールで待機している保育教諭を目印にして走っていた。	ゴール中央に子どもが集中しないよう各レーンのゴール前に職員を多めに配置する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	初めての場所である小学校体育館での行事だった	場所に慣れるためにもリハーサル等で使用していく。体育館使用時のマニュアルを作る。	1.集団活動中・見守りあり	ゴール直前、中央に集まりコースが狭くなっていた。大きめのズックを履いていた。	自分が走るコースがわかるように目印のラインを引く。足に合ったズックを用意してもらう。	1.いつもどおりの様子であった	他児の後ろを走っており、ゴール前で転んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタート位置で子どもの名前を言いホイッスルをならしていた。転んだ姿を見てすぐ駆け寄り、園児席後ろに待機していた看護師に怪我の状況を確認し手当してもらった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴールテープを持っていた職員、走り終わった子を待機場所にて見守る保育教諭は、他の子どもたちが不安にならないようにそのまま子どもの傍にいた。	保護者が見ている嬉しさから気持ちが高ぶっていた。ゴールに向かう際に、先に走っている子を目印にしていた。	ゴールで待つ保育教諭を数名配置し、ゴールに向かう際の目印にする。	
9235	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									3	2		18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	担任が不在の為、日常的に入っている幼児フリーが当日の保育を担当した。担当職員の技能不足。	児童13名に保育教諭2名・子育て支援員1名が付き指導を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	毎日	特になし	跳び箱・マット・跳び板には問題なし	1.集団活動中・見守りあり	職員の経験不足	補助の仕方・保育の進め方について再度職員間で確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	跳び箱は大好きな活動で、意欲を持って取り組んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱の援助の仕方については事前に確認していたが、タイミングが微妙にずれたため臨機応変に対応できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	順番を待つ児童をタイミングをみながら送り出していた。跳び終えた児童に次の指示を行っていた。	常時クラスに入っているフリー職員ではあるが、指導の経験が浅かった。	体育指導を行う保育教諭の技術・知識の向上を図る。	
9236	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	31	0	0	0	0	16	15	0		3	3		17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨遠位骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	保育者の立つ場所によってはジャングルジムや滑り台、ネットで見えにくかった。	常に全体に目を配れる位置に移動する。当番保育者の連携が大切であることを自覚する。	1.いつもどおりの様子であった	総合遊具で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊ぶ子ども達を見守ったり、迎えに来た保護者の対応をしたりしていた。総合遊具の太鼓橋下にうずくまる当該園児を見つけてすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊ぶ子ども達を見守ったり、迎えに来た保護者の対応をしていた。	先に別の児が同じ場所から飛び降りたことを他児から聞いた時に、飛び落ちた児には危険であることを伝えたが、周りの子どもに伝えたり見守るためその場に留まったりしなかった。	「他の子供も飛ぶかもしれない」と予想して周囲の子ども達に伝え、その場にとどまって見守る。	
9237	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									21	15		17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	全体を見渡せる位置で見守っていたがおままごとをしている椅子に上がる。足を掴むという思わぬ行動で対応できなかった。椅子に登ったところで危険予測をし声をかけると良かった。	思いがけない行動もあることを頭に入れて、危険予測をしながら見守り再発防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	椅子の使い方がクラスによって曖昧だった。	椅子の使い方の確認。ジャンプ台にする時とおままごとをする時で分けて使う。（おままごとをしている時は登らない）	1.集団活動中・見守りあり	全体を見渡せる位置で見守っていたが、椅子を重ねるなど道具を使った遊びには特に気を付けて近くで見守ると良かった。	お子さんの遊びの様子から危険を予測し、より注意が必要な遊び、お子さんを注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	かけっこをしたりと走り回っていた。椅子を使った遊びに気が向き登って話しかけた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる位置で目を配っていた。椅子に上がったのを確認したが止めるのが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別な場所で全体を見ながらクラスの園児と関わっていた。	見守っていた職員は点在していたが、対象児を中心にみる職員がいなかった。	お子さんの遊びの様子から危険を予測し、より注意が必要な遊び、お子さんを注意して見守るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9238	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	48	4	6	9	12	17				17	7	16.4歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	13	2.基準配置	－	全職員で危機管理マニュアルを再確認し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年※確認は毎日行っているが、書面でのチェックは月１回。	－	遊具で遊んでいる時の事故でないため	1.集団活動中・見守りあり	園庭へ避難しようと、急いでいた。	保育者の指示を聞き、落ち着いて行動するように促す。	1.いつもどおりの様子であった	避難訓練に参加し、靴を持って園庭へ避難していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	避難訓練中だったため、子ども達を先導し園庭へ避難をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当個所の確認や、子ども達を避難させていた。	急いで避難していたため、転倒した時に、手に強い力がかかった。	状況を見て、靴を履いて避難したり、落ち着いて行動するよう声かけをしたりする。	
9239	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24				7	5	12			4	3	17.5歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	－	園庭での活動するうえで、子どもの動きを予測し危険な箇所に気づいたら情報を伝え合ったりすぐに改善する。	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	12	－	園内の環境について現行の点検項目に加え、子どもの動きを予測し危険な箇所はないかを今一度確認、情報共有する。また早急に改善するよう努める。今回、マットと地面に段差があり怪我に繋がったため、段差を土で埋める。	3.個人活動中・見守りあり	－	子どもが遊んでいる場所の把握をし、危険予測に努める	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊びで鬼ごっこ（ケイドロ）をしていた。警察役になっており、友だちにタッチすることができ嬉しくなってその場（マットの上）で「いえい」と飛び跳ねた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児とは離れた場所におり、雲梯をする子どもを見守っていた。もう一人の担当も本児より離れた場所で他児の遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具のそばで子どもの遊びを見守る、室内に入る時間になったので子どもに入室を促す。	－	鬼ごっこをする時には遊具や砂場のあるところではなく、広い場所でするよう子どもに働きかける	
9240	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10									1	1	18.6歳	1.男児	－	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上開放骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	－	ヒヤリハットの内容、改善策の共有を再度徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	－	施設内の安全及び使用する遊具・おもちゃの日常的な点検を今後も継続し、不備に迅速に対応する。	1.集団活動中・見守りあり	－	体操教室の内容を再検討する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が見れる場所で鬼ごっこの指示を出していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	指導者の他に担当職員1名がついていた。	－	施設職員や指導者の位置に注意する。	
9241	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12									71	51	17.5歳	2.女児	－	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩付け根若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	－	ソフト面に問題はなく、特に対応は無し。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	数十	－	ハード面に問題はなく、特に対応は無し。	3.個人活動中・見守りあり	最低基準は満たしているものの、子ども達の自由な活動を保証するために保育室が狭い。	出入り口付近で座り込んで活動しないよう子どもたちに指導する。	1.いつもどおりの様子であった	後方への注意無く他児の進路に急に座り込んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の様子を見ていた	－	急に座り込むと危険であることを子どもたちに周知する。	
9242	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27									2	2	16.4歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	事故が発生するかもしれないという意識が弱かったと思われる。	園児の気持ちが高揚している状況を察知して、より安全な方法を工夫する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	フィニッシュ後の走り抜ける距離が不十分だった。	フィニッシュ後に走り抜ける十分な距離をとり、走り抜けるコースを明確に知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	一組7人走る人数は適正だったか。	年齢を配慮して一組に走る人数や足の速さを調整し、走者同士の間隔を空ける。	1.いつもどおりの様子であった	運動会を控えて、自分のコースをまっすぐ走る練習をしていた。楽しんで参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ゴール位置に居たため、まっすぐ走っていた子が担任の方へ集まりがちになっていた。また、ゴールから壁までの距離が短くなっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	スタート位置におり、間隔を空けてグループ毎にスタートさせていた。事故の様子を遠目に確認していた。	ゴール側にいた保育者の立ち位置に考慮が必要であった。	ゴールは保育者（点）ではなくコーン等で示し、人と人の重なりを避けるように配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9243	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	21	0	0	0	6	8	7			5	5	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	危険箇所に対する日々の職員間での情報共有が出来ていなかった。	定期的にヒヤリハットを提出し、職員会議ミーティングを活用し全職員で共有していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	毎日	遊具周りの地面が固かった。	安全マットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	–	ヒヤリハット・危険予知を職員間で共有していく。	1.いつもどおりの様子であった	遊び慣れた遊具で、怖がる様子もなくいつも通り遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が一人で登っていた為近づいたが、一歩間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園した園児達は園庭に出る時間で、職員はそれぞれ登園直後の園児の対応や園庭にいる園児の動きを見ていた。	子どもたちの次の動きを予測して、援助、指導をしていく必要がある。	子どもたちの活発な動きにどう対応していくか、職員の立ち位置、分担を再確認していく。職員間で声かけをし合い連携を取る。	
9244	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32									2	2	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	一人ひとりのバランス感覚の成長が要因と考えられる。	ソフトブロックの近くにマット等クッション性のものを置く。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	293	一人ひとりの成長、発達を掌握しておく。	ソフトブロックの近くにマット等のクッション性のものを置く。	1.集団活動中・見守りあり	年長児ということで大丈夫と思わないようにして見る。	ソフトブロックの近くにマット等のクッション性のものを置く。	1.いつもどおりの様子であった	バランス感覚の発達が鈍く、あまり活発ではない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いる園児を見ており、バランスを崩して倒れた後もすぐに痛がらなかったので様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2Fホールと保育室に分かれて見ていた。	決められた場所から離れてブロックを使用していた。	一人ひとりの成長発達を観察しておくことが大事。	
9245	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	34									3	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手尺骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	–	職員間で事故の状況について情報共有し、活動中の子どもの見守りの仕方について再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	普段行くことが少ない公園であった。	不慣れな公園では状況をよく確認し、子どもの動きに特に注意するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	園庭やよく利用する公園より広い公園であった。	通常よりも活発に活動することを想定し、さらに慎重に見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	公園での活動であり活発な動きであったが、特にいつもと変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員は離れたところから対象児を見守っていた。接触の直前まで予測ができず、近くにいても防ぐことが難しかったと考えている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の担当場所にて、対象児以外の子ども達を見守っていた。	本児が周囲をよく確認せず走っていたことも一因であると思われる。	他の園児の動きに気をつけ、お互いに周りをよく見ながら走るよう、園児全体に注意を促す。	
9246	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22									3	3	15.3歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	事故対策のための研修は行っているが、園庭の同じ場所に人数が集まってしまっていた。そこに対策は講じていなかった。	園庭で遊ぶ場合、遊ぶ場所が集中しないよう、場所を砂場やみかん広場に変えるなど、状況を見て移動するようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭は十分な広さで人工芝もはられており、過密にならなければ問題はないと思われる。	ハード面での改善策はないと考えます。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の同じ遊具付近で遊ぶ園児の人数が多くなってしまったことが一番の要因と思われる。	各クラス担任と安全について再確認し、同じ時間帯に同じ場所で遊ぶ園児が集中しないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具そのもので遊ぶ園児に特に目を配っており、園庭で遊ぶ対象児の姿は注視できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣いていたところに駆け寄った状況であり、事故を直接は見ていなかった。	園児の人数に対する教諭の人数は適切であったと思われたが、実際に事故が起こり対象児も見れていなかったことを考えると教諭の人数と配置に問題があった。	遊具も利用可にして自由に遊ぶ時は、いつも以上に注意を払う必要がある。フリーで動ける補助教諭にもついてもらい、園児ひとり一人に目が行き届くようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9247	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	6									4	4	13.1歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折 (9月30日 診断)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	シャワーを一人の保育教諭で行っていた	シャワーの際、必ず2人以上につき危険のないようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	歩行が不安定であり、滑りやすい浴槽内での自立は難しい	シャワーの際、マットを敷くようにした	7.その他	ベットの中に入り落ち着いて過ごしていたことで細目に目を配ることを怠り、下痢をしていたことに気付くことに遅れてしまった。	細目に子どもの様子に目を配り、様子等を把握する	1.いつもどおりの様子であった	シャワーをしている際、激しく動くことはなく、身を任せていた	1.対象児とマンツーマンの状態 (対象児に接していた)	保育教諭が一人でシャワーを行った。浴槽内の床が滑りやすく、本児が転倒しないように脇や体を支えながら向きをかえシャワーを行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ベット布団の処理3人、休憩3人、睡眠チェック1人、作業2人、シャワー1人	職員間の連携不足	具体的な指示を出したり、協力体制がとれるようにする	
9248	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス		7	14	13	16	16	16			21	16	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨下骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	–	園内研修において、事故防止マニュアルを再確認し、再発の防止に努める。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	–	通路等に障害物等を発見した際には速やかに取り除き、転倒等を誘発しない様に努める。	1.集団活動中・見守りあり	–	玄関の出入りの際において、慌てないよう園児に声かけや見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子で園庭で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員も近くにいたが突発的な動きであった為、転倒する際に手を差しのべることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見ており、この様子を見ていなかった。	防犯カメラでは、当該園児が単独で玄関を出た後になだらかな傾斜地で歩き始めの一歩から突然ジャンプする素振りを見せた次の瞬間バランスを崩して前のめりに転んでいる姿を確認している。	特に次の活動を始める際には、落ち着いて行動するよう促すとともに普段の様子をよく観察し、いつもとの違いや園児の訴えに早急に気づけるようにする。	
9249	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	6	0	1	4	1	6	1			6	6	14.2歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	48	1.基準以上配置	動きの違う以上児、未満児が戸外に一緒の時間に出ていた。配置人数はこどもに対し十分に足りていたにも関わらず、全体を見る職員が居なかった。	子どもの人数に関わらず、全体を見る職員を置くこととする。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	280	1.定期的に実施	280	最近人工芝による三輪車ロードができたためまだ慣れていなかった。	雲梯が移動できるため、三輪車ロードとの距離を離して配置する。	1.集団活動中・見守りあり	土曜保育であったため平日よりは職員の人数が少なかった。	土曜保育の戸外遊びについて園内研修を行い職員と共有する。	1.いつもどおりの様子であった	３台連結した三輪車を友だちと一緒に乗っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人の職員がすぐ近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちが園庭全体に散らばっていたため職員もそれぞれの配置に付いていた。	近くで居たものの、一瞬の出来事で止められなかった。	子どもの人数に関わらず、全体を見る職員を置くこととする。	
9250	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	5				3	2				9	9	17.5歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	職員がマット運動時に傍についていない。	転倒等の恐れがある活動時は必ず職員が傍につく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	週4	–	転倒等の恐れがある活動時は必ず職員が傍につく。	1.集団活動中・見守りあり	職員がマット運動時に傍についていない。	転倒等の恐れがある活動時は必ず職員が傍につく。	1.いつもどおりの様子であった	活動前はいつもと変りなく落ち着いた様子で過ごすが、活動が始まると気持ちが高まりはしゃいで遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じ室内にいたが職員がお便り帳を確認している際に対象児が転倒する。近くにいた園児から対象児がうずくまっていると報告を受け、子どもの様子を見に行く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動遊びで必要なマットを準備し子どもたちが安全に遊んでいるのを確認後、書類作業をしに部屋を離れる。	運動遊び中に目を離し、傍を離れる。	運動遊びでは転倒などの恐れがある為、傍につき見守る。活動中の子どもたちから目を離さない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9251	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	0								2	2	15.3歳	2.女児	－	2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	脳震盪	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	直後の避難訓練に気を取られ園児の動きを注意深く見ていなかった。	保育者は危険行為を発見した時点で声掛けし、静止する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	直後の避難訓練に気を取られ、安全管理を怠っていた。	どのような状況においても保育者は園児全員の行動を把握し、安全管理を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	事故直前まで元気に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯指導中に２名が倒れる様子を確認したが１人の園児がすぐに起き上がった為、重大性を認識せず声掛けのみ行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	避難訓練やミーティング等の優先してしまった結果、園児への注意が薄れ、危険行為に気付くことができなかった。	避難訓練の準備やミーティング等で出入りしていた。	園児の動きを注意深く観察する。危険行為があった場合は静止し、安全に配慮する。転倒等、事故が発生した場合はすぐに園児の状態を確認する。	
9252	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	31								3	3	17.5歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	鉄棒の側に１名はついていたが、走ってきた園児に話しかけられ鉄棒に背を向けた為、その場を見ていなかった	園児への対応が鉄棒に背を向けずに対応すべきであった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	本児がぶら下がった際、しっかり鉄棒を掴んでいなかった。	鉄棒の遊び方は指導していたが、しっかり掴んで遊ぶ事を指導する。	1.集団活動中・見守りあり	日頃から自由に鉄棒で遊びを楽しんでいる。	再度鉄棒での遊び及び鉄棒の掴み方を指導したい。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から活発で元気がよい。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の側について遊びを見守っていたが、走ってきた園児が話かけてきた為、鉄棒に背中を向け対応をしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員２名は、園庭中央部分と、ゲーム遊びについていた。	今回は鉄棒に自分でぶら下がり友達とたのしんでいたが、鉄棒から手が滑ったのが要因と考えられる。	園児の遊びは見守っているが、再度危険な遊びにならないよう指導していきたい。	
9253	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	26			9	7	10			2	2	17.5歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指先の骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	年２回	1.基準以上配置	－	遊具の使用制限・正しい使用方法	1.定期的に実施	園外施設のため未入力	1.定期的に実施	園外遊具のため未入力	1.定期的に実施	園外玩具のため未入力	－	園外施設のため未入力	1.集団活動中・見守りあり	健康遊具に両足を乗せ強く動かしてしまい、反動で持ち手の指を強打する。	健康遊具の正しい使い方の説明。職員見守りの配置の検討。	1.いつもどおりの様子であった	いつも以上にテンションが高くなり、様々な場所で大きく遊具を動かす、友達とふざけあうなどしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が傷みを訴え泣いて来た為水道で患部を冷却するが痛みが激しく号泣するので園に報告し本児のみ帰園。保護者に連絡をし通院してもらう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児も遊具等で遊んでいた為他児の様子みる。	健康遊具付近の職員配置が定まっておらず、挟まれる様子まで近くでは確認できなかった。	職員配置の定めと年齢に応じた遊具の使用、正しい使用方法の理解。	
9254	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29								3	2	18.6歳	2.女児	－	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	事故防止対策は、日常のルーティーンとして確認する。	様々なパターンでの事故防止対策を怠らず検討していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	事故現場に、特に障害物、不具合はなかった。	安全点検を怠らずに行う。	1.集団活動中・見守りあり	相手のいる運動遊びだった為、気持ちの高揚も多少あり集中力の欠如が見られたとも考えられる。そのような状況下では、特に注意が必要であった。	競技を終えた後は、落ち着いて戻り並ぶように毎回伝えていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	２人組になりヒコーキ運びをして、スタート位置に戻る際に転倒	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任：マット前転の補助	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任：ヒコーキ運びの補助、体育講師：鉄棒の補助	対象児付近に保育教諭１名がいたが、スタート地点の様子に目集中しゴールまでの姿に視野が行き届かなかった。日常的な慣れ感があった為、声掛けを怠った。	一連の動きを見届け、次の幼児を出すようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9255	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	49									4	4	17.5歳	1.男児	－	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指爪下骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	鼻血を出した女児の対応に苦慮した保育者が、他の保育者に伝えるためその場を少し離れた際に起きたと思われる。午睡に入るため部屋にいるはずの男児2人が勝手にホールに出ていったことから起きたと思われる。	ホールに入ろうとする男児2人に保育者は声かけて静止したがホール内に行ってしまう。ルールを守ることを伝えていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	戸は勝手に開け閉めしないことになっていたが、追いかけられないように咄嗟に戸を閉めようとしたと思われる。閉めたこどもはそこに本児の手があるとは気づいていない。	戸を閉めてもストッパーやクッションがあれば本児の指を挟むことはないため、早急にクッションを設置する。	3.個人活動中・見守りあり	スリッパを置く場所とズックをはく際は、戸と板の間との幅が狭いため、柱で身体のバランスをとり支えてズックを履こうと手を置いたのではないかと考える。	身体を支えるため柱に手をついても戸に挟むことがないようなストッパーやクッションが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	トイレ内で遊んでしまうところがあるため、なかなか排泄を済ませられないことがある。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者はトイレ前で排泄が終えるのを注意して見守っていたが、鼻血を出した女児を部屋に連れていくためその場を少し離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、紙芝居を見ようとしている子どもたちの側にいた。	鼻血を出した女児の手当てを他の職員にゆだねて、トイレでのトラブルを回避する必要があったのではないか。	その場を数分でも離れたことは死角に繋がるため絶対に離れてはいけない。急を要する場合は横との連携をとり援助を要請する。	
9256	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	18.6歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	・左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2回以上/年	2.基準配置	－	職員間で今後も研修を重ね検討し情報を共有し、子どもの行動を注意深く見守り、子どもが安全に活動に集中できるようにする。	1.定期的に実施	毎日・1	1.定期的に実施	毎日・3	1.定期的に実施	毎日	－	今後も点検を継続していく	1.集団活動中・見守りあり	－	職員間で個々の子どもの発達を確認し、活動の中でぶつかりそうな時はよけられる危機回避能力をつけられる活動をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	本児は園庭で自然物収集のためビニール袋を片手に持ち歩いていた。園庭の真ん中あたりで立ち止まった際、鬼ごっこをしていたAが本児の左肩後ろにぶつかった。本児は両手をついて転倒し左おでこあたりを地面で打った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育者は本児が園庭に出ていたことを知っていたが、他の幼児と話しをしておりぶつかったところを見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	10人程度であったため、もう一人の同じクラスの保育者は保育室にいた。また、他のクラスの保育者も園庭に２～３人出ていたが、それぞれクラスの子どもがいる場所にいたため、すぐ転倒した場所にかけよることができなかった。	－	子どもが活動している時の保育者の立ち位置や連携の取り方について園全体でも周知し、日頃の遊びの中で子どもの体幹が強化できる活動の取り組みについて検討していく。	
9257	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26									3	2	17.5歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2回以上/年	2.基準配置	－	職員間で今後も研修を重ね検討し情報を共有し、子どもの行動を注意深く見守り、子どもが安全に活動に集中できるようにする。	1.定期的に実施	毎日・1	1.定期的に実施	毎日・3	1.定期的に実施	毎日	－	今後も点検を継続していく	1.集団活動中・見守りあり	走って遊ぶような場所ではないところへ、鬼ごっこの流れから走り込んでしまったことに、これまでにも注意の声掛けはしていたものの、十分ではなかった。	目立って危険な行為ではないことでも、花壇をまたぐ、込み入っているところを走るなど、これぐらいと思えることでも危険につながることを普段から伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	つまずいた後、近くにいた保育教諭が大丈夫？と声をかけると「大丈夫」と一言いい、自ら起き上がって夢中になって鬼ごっこを継続した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	教育活動後のひと区切りついた時間で存分に体を動かして遊ぶ時間であった。他の園児と遊んでいる時に、目の前の花壇につまずいた本児を見て大丈夫？と声をかけたが、鬼ごっこに夢中になり鬼ごっこを継続しており大したことがないと確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で保育をしていて気付かなかった	転んだところを目撃して声をかけ対応したが、本児も大丈夫であるかのように鬼ごっこを継続したため、30分後に迎えに来た保護者に伝えなかったことから、怪我していたことへの対応が遅れた。	思わぬ動きがあった場合は、怪我がないか、遊びを中断してでも確認することや普段の子どもたちの遊び方で危険につながることはないかと、園内でも共有して見守ったり子どもたちに話をして気づかせていくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9258	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									3	3		17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	–	職員同士声を掛け合いながら安全面に配慮して保育をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	靴底に砂がついた状態で丸太に乗ると、滑りやすい。	雨上がりの園庭では、遊具の遊び方の約束を確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	丸太でバランスをとって遊ぶ幼児が多いため、安全面に配慮していく必要があった。	安全に遊べるよう、傍につき見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	不意に友達に名前を呼ばれて、集中力が切れて落下したのではないか。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と砂場遊びをしていた。本児がうずくまって泣いていたことで気が付き患部を確認する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児がスクーターを走らせる姿を見ていた。	保育教諭が傍についていなかったため、事故を事前に防ぐことができなかった。	保育教諭が視野を広く持ち幼児の遊び方や遊ぶ様子を把握していく。危険な場合は傍につき安全に遊べるようにしていく。	
9259	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.異年齢構成	19			6	7	6				2	2		18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	10	1.基準以上配置	危険が予測される遊具が複数あり、それぞれについていたため全体の状況を見る職員がいなかった。	発達に応じた遊具の設定や職員の立ち位置について共有した。今後は見守り必要な遊具を設定する時には設定でつける職員の他に全体を見る職員も配置し、子どもの活動状況を把握し、何かあった時には速やかに対応できるようにする。保育中におこった怪我や危険時間に状況が出ていたことについて経過を終えると情報記入シートを作成する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	294	1.定期的に実施	294	特になし	子どもが活動する場所は事前に保育者が危険箇所はないか、広さや遊具は適切かなど引き続き点検活動を徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室の環境設定や遊具をどう活動に取り入れていくのかについての打ち合わせが不十分だった。バランスボールの対象年齢を確認していなかった。また、両職員がどちらもバランスボールにつき全体の状況を見る職員がいなかった。	遊具について扱う際にどのような危険性があるかやどのような環境設定の配慮が必要かを共有した。今後は保育に取り入れる玩具や設備については対象年齢を確認するとともに見守りが必要な遊具を設定する時には設定でつける職員の他に全体を見る職員も配置し、子どもの活動状況を把握し、何かあった時には速やかに対応できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	歩きながら両手でバランスボールを転がしたり、保育者の見守りがある場でバランスボールに乗って跳ねたりしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児と同じ場所で転倒した園児の怪我の状況等確認をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	バランスボールにまたがって跳ねる遊びを子どもと一緒にしながらその場を見守っていた。	過去に家庭で転倒し手をつき不全骨折をしたことがあるが個別の配慮はしていなかった。バランスボールを使用するにあたり保育者がついた方が良いと判断し、保育者2名がバランスボールの場所につき全体を見る職員がいなかった。	身体の発達を促していくための段階的な保育計画を立てる。ハイハイや鉄棒にぶら下がる等の遊びを乳児期から積み重ね、自分の身体を支える力が育まれるようにしていく。保育者配置により、全体を見れる職員を立てられないのであれば使用する遊具の数を減らすなど、配置されている職員で見られる環境設定をする。	
9260	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.異年齢構成	36			2	10	24				4	4		16.4歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	職員同士の連携と声掛けが足りなかった	研修だけでなく担任会議やエリア会議等で周知、確認する	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	机に破損はなかった	テーブルは安全な場所にあったがさらに配置を工夫する	7.その他	移動する時間が15分過ぎてしまったため職員が焦って移動を開始した	時間の確認をきちんと行なう。落ち着いて行動する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	雨天時いつも使用している保育室に違うクラスが合流してきたこと、保育者が慌てていたことで本児も落ち着きがなくなり、他児と違うドアを小走りで出ようとしたときに手前にある机に左手人差し指をぶつけてしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	時間が過ぎてしまっていたため、少し焦っていて本児の動きに気付かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	移動せず部屋に残る子どもを見ていた	2クラスが合同したことにより何時もの時間の移動が出来ず職員が焦ってしまった	子どもの動きを予測し広い視野で見守りを行う職員同士声を掛け合う	
9261	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	47	0	0	0	10	16	21	0		4	4		18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	運動能力の高い児童が鬼ごっこをする場合の行動予測が不足していた。	運動能力の高い児童の行動予測及び観察を強化する。川をジャンプして越える行為を禁止することを検討する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	バランスをくずしそうな不整地であった。	バランスをくずしそうな不整地を整地する。また、川に覆いをかけることを検討する。	1.集団活動中・見守りあり	運動能力の高い児童が鬼ごっこをする場合の行動予測が不足していた。	鬼ごっこエリアの限定等を行う。	1.いつもどおりの様子であった	運動能力の高い児童であり、鬼ごっこの際に川をジャンプして飛び越えようとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で見守っていたのは職員計４名、事故現場のエリア担当職員は１名であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ただし、バランスをくずし、木に手をぶつける瞬間は見ていない。	–	それぞれの児童の特性等を職員内で共有することが必要。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9262	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25	0	0	0	0	0	25			3	3	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	–	園児同士の接触等を防ぐため間隔を広く取り、保育教諭の見守りをさらに強化する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	園児同士の接触等を防ぐため間隔を広く取り、保育教諭の見守りをさらに強化する	1.集団活動中・見守りあり	–	園児同士の接触等を防ぐため間隔を広く取り、保育教諭の見守りをさらに強化する	1.いつもどおりの様子であった	移動をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・全体を見守り、援助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守り援助をしていた	–	見守りや援助等を強化する	
9263	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									3	3	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右拇趾基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	子どもたちが自身で太鼓を運ぶ際に、一人ひとりに対する職員の配慮がもっと必要であった。また、その後の園生活での細かな変化に職員が気付くことができなかった。	園児一人ひとりの様子を注視すること、活動の場面によっては今以上の配慮が必要なことを職員間で再確認、共有をした。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	–	施設に破損箇所などはなくどこでも起こりうることなので、施設的には改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	園庭からテラスにあがって片付けたため裸足であった。	園庭から室内に入る際、テラスからの入室ではなく下駄箱に周り、上靴を着用してから次の活動に移るようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に太鼓の片付けをしていた。太鼓を足に落としてしまった後も園ではそこまで痛みを感じなかったらしく、普通に歩くことができ普段どおりの園生活を送っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと一緒に太鼓の片付けをしていたが、該当児が太鼓を足に落としてしまったことに気付けなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発達的に配慮の必要な子に対しての支援を行っていたため、該当児が太鼓を足に落としてしまった場面に気付けなかった。	太鼓を足に落とすかもしれないなど、考えられるリスクについて考慮すべきであった。また、職員配置を考えるべきであった。	職員配置の再確認・再検討	
9264	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	5	0	0	0	1	1	3	0		4	4	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	危機管理について周知徹底を図っていたが、予知についての認識に温度差があった。	研修会を通じて職員に対して危険予知を徹底するとともに、園児に対しても危険予知トレーニングを取り入れていく。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	ボール遊びとしてバランスボールほか大小のビニールボールを使用していた。本児はバランスボールを他児から投げられ、柵に足をぶつける原因となった。	バランスボールの使用については安易に取り入れるのではなく、園児の数、メンバー構成等をみて、慎重に検討の上使用する。	1.いつもどおりの様子であった	ボール遊びをすることで、園児同士がお互いボールをぶつけあうことに、熱くなってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児は5名であったが遊戯室で活動中であった為、本児が激突する瞬間は他の園児を見ていたため気が付かなかった。その後本児の泣き声で知った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は、以上児5名であったため保育は担当職員に任せ事務作業をしていた。	–	園児の人数だけでなく、保育中どのような活動を取り入れるかにより、臨機応変に職員配置を検討する。	
9265	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26					12	14			2	1	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	職員が近くにいたが瞬時の対応が出来なかった。	危ない時は職員が補助対応をできるようにしておく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	–	縄跳びをする時の注意や予想される怪我などを伝えておく。	1.集団活動中・見守りあり	成長発達に合ったあそびの提供。	近くにいて危ない時は補助対応できるようにしておく。	1.いつもどおりの様子であった	走り縄跳びをしていて転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転倒する瞬間すぐに対応が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近距離にいたがクラス活動をしていた。	走り縄跳びに挑戦していた際の事故で、経験不足だった。	個々への声掛け	
9266	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20	0	0	0	0	0	0			2	2	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手首ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	–	遊具の約束を、再確認し、子ども達に伝える。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	–	常に子どもの動きに気を配るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	–	すべり台の周りに人口芝を敷く。	1.いつもどおりの様子であった	すべり台の側面から、登っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象時のそばにいたが落下を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援を必要とする子を見ていたのでその場は見ていなかった。	–	遊具の周りには、必ず保育教諭がつく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面							改善策	環境面		改善策	人的面							改善策	
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9267	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24								1	1	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	–	事故（防災）防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	240	なし	施設・設備には問題は無し	7.その他	室内で走っていた。	子どもたちに室内での過ごし方を改めて伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	両手でおもちゃを抱えていたため、転んだ際すぐに手をつくことが出来なかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	走っている本児へ何度か声掛けをしていたが、職員は他の園児の片づけを行っていたため本児に寄り添うことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ学年のクラスが隣にあり、給食の片づけを行っている職員がいた。	保育室の環境整備の管理不足。	室内での過ごし方を改めて伝え、監視の仕方と環境整備の整え方を考えていく。	
9268	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	102	8	15	19	20	20	20		15	15	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	園庭での遊び方の確認と声掛けを行う。	1.定期的に実施	週1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	遊具に登っての鬼ごっこはしないルールとなっていた。	遊具に登っての鬼ごっこはしないルールになっていたため、遊具の使い方のルールを子どもたちとまわりながら再確認を行った。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	滑り台で遊んでいるときには見守りながら、必要に応じて声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	5歳児数人と鬼ごっこをしており、遊具にのぼって滑り台を滑り逃げていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員は滑り台について見守りを行っていたが、危険を感じ動いた時には間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	反対側が見えづらく咄嗟に動くことができなかった。	特になし	職員がついていても反対側が見えづらいため、人数に応じて2人体制で見守りを行っていく。	
9269	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23	3	4	9	31	30	23		16	15	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折（右手首3㎝上）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	速足で総合遊具のネット上を渡っていた。	慌てず足元を見てゆっくり歩いて渡る。両脇の手すり部分を持って渡るなど、遊具の安全な遊び方について身に付くまで幼児に繰り返し指導をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日1	ネットの網目に足先が入ってしまったが、安全既定の範囲である。	園児への遊具の正しい使い方の指導日を定期的に設け、全園児(外国人、未満児）が理解できるように絵表示での明示をする。	7.その他	園児の体力や集中力、運動能力も減退する時間での戸外での遊具遊び	戸外での遊び方の限定（遊具の使用を禁止、室内遊びの時間を増やすなど）	1.いつもどおりの様子であった	午睡をし起床した後（15時30分頃）、親が迎えに来るまで戸外で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近距離で総合遊具で遊ぶ様子を見ていたが、他児に呼ばれ振り向いた際に事故が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2人中1人が他児の対応で室内に入ることになったため、対象児を見ていた職員以外の職員にその場を頼み離れた（15人の園児に対し常時二人体制での保育を行っていた。）	遊具の安全な遊び方について園児自身の理解が十分でなかった。	総合遊具の危険箇所や怪我に繋がる使い方を職員間で洗い出し共通理解する。点検の仕方について職員間で再度確認し合い、危険箇所以上のための安全指導を実施する。園児に対する安全指導日を設け、安全な遊び方や生活の仕方について園児に指導する。遊具の正しい使い方、安全な遊び方を外国語の子どもたちにも分かるようイラスト付きで明示する。遊具の正しい使い方について担任が園児に再度指導する。ヒヤリハットの職員間の共有を今後も徹底する。	
9270	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	–	ヒヤリハット等を積極的に実践し危険予知等に心がける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	机や椅子・棚等の位置等を確認し、園児の動線上にある場合は置き場所を変更する等、安全な環境作りを心がける。	3.個人活動中・見守りあり	本児が職員の足の間に入り職員を持ち上げようとしたため、職員もやめるように注意し自分の体が倒れないようにするのが精一杯で、近くにいた他児が足を引っ張ることを予想できなかった。	本児の行動は危険であることをしっかり伝え、他の子どもたちにもこのような場合どうしたらよいか問いかけて考えたり、言葉で伝えることを確認する。	1.いつもどおりの様子であった	保育室でブロック遊びを一人でしていた。職員が他児と話をしているのを見てふざけて足の間に入った。他児に足を引っ張られて転び方を打ち痛がって泣く。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室内で他の子どもの話を立って聞いていた。対象児に背を向けていたため動きに気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出た他の子どもたちの様子を見守るため、園庭にいた。	–	できる限り保育室内の園児を意識して見守るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9271	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	43									4	4	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	210	2.不定期に実施	210	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	用具の正しい扱い方が守られていないことに対する注視および注意を怠った。	保育者は子どもたちの遊びを常に見守り、危険を感じたり怪我に繋がると思われる行為は直接、繰り返し声を掛け注意を促していく。担任にも状況を伝え情報共有するなどの連携を図る。	1.いつもどおりの様子であった	今回は柄の長いスコップを右手側に抱えるように持って走っていたところ、スコップの先端が地面に引っ掛かり、その反動で右鎖骨辺りを強打しながら転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	各所に散らばり園児たちを見守っていた。また注意喚起の声掛けや園児たちと一緒に遊んだりしていた。今回の様子もいつもの光景で事故には繋がらないだろうという気の緩みがあったのかもしれない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	単独クラスで遊んでいたため、同じ場所にはいなかった。	–	危険と思われる行為、光景を目にした際にはその後に起こりうる状況を予測し、躊躇なく対象児に声をかけ回避できるようにしたい。	
9272	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10	0	0	0	5	3	2			4	4	16.4歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	今後も人員配置の基準を満たし、事故対応の研修を定期的に開催する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	保育室内は机と椅子が並んでいた状況にあり、整理整頓され障害物もなかった。今後も整理整頓を心がけ、危険個所がないか常に確認する視点を持つ。	3.個人活動中・見守りあり	少人数での静かな遊びの保育中であり、特になし	夕方の合同保育中（個人活動）で落ち着いた環境であった。１保育室における園児の人数は適切であった。園児には落ち着いて行動するように常々声かけをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	椅子に座って机上遊びをしていたところ、絵本コーナーに移動しようとした。遊びに集中でき、基本的なルールはしっかり守ることができる児童である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育教諭は保育室全体を見渡し（18時の人数確認を行うため園児の状態確認をしていた）、転倒現場を目撃していたため、直ちに対応することができた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育教諭は、他の園児と絵本を見る、おままごとコーナーで遊ぶ、折り紙をしていた。これらの職員3人は児の転倒に直ちに気づいた。	対象児は好奇心旺盛のため、突発的な（急な）行動をすることがある。子ども全般に言えることではあるが、特に注視して保育していくことが必要だと考える。	合同保育における保育教諭の人数や保育、事故対応は適切であったが、対象児の発達段階、好奇心旺盛な特徴を踏まえ、今後はより注視して保育にあたる。	
9273	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス		0	0	0	0	40	45	0		11	9	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	–	突発的な事故のため、防ぐことは難しいと思われる	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	–	落下した時の衝撃を抑える対策をしていたが、少し硬くなっていた	遊具の下に人工芝を敷いた	3.個人活動中・見守りあり	慣れている遊具だったため注意力が足りなかった	子どもに注意喚起する	1.いつもどおりの様子であった	ぶら下がって遊んでいたが、着地の際バランスを崩してしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス担任は別の場所で子ども達と過ごしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具の近くで安全のための見守りをしていた	降りた時にバランスを崩して、腕の上に体がのってしまった	普段なら手を離してもうまく着地するが、この日はバランスを崩してしまった。遊具を禁止にはできないので、見守りの強化をしていく	
9274	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	34									2	2	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	–	活動を始める時は子どものぶつかり、転倒を予測して落ち着いた状態で声をかける。また、転倒しないように体幹を鍛えていけるような活動を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	–	ヒヤリハット等は、すぐに全職員に伝え各クラスで環境の見直しをする。	3.個人活動中・見守りあり	–	床に転倒するような危険な物がないか常に確認しておく。活動を知らせる時は、同じ場所で集まらず色々な方法で集まるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	担任よりドッジボールをすると聞いて、早く遊びたいという思いが強く走って移動した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	注意しながら側で見守っていたが、突然ズックの先につまずき転倒したため、すぐに駆け寄ったが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	出席児童の人数を記入するため、事務所に行っていたため、見ていなかった	–	慌てやすいという子どもの特性を理解し、落ち着いて行動できるよう保育教諭が側につき、走ったり急いだりしなくても良いことを繰り返し知らせる。また、声掛けも工夫していく必要がある。毎日の保育の中で体幹を鍛えることが出来るような活動を増やす。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9275	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	18									6	6	13.1歳	2.女児	－	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	－	子どもの成長発達に合わせて、側について安全面の見守りを実施しているが引き続き注意していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	－	安全な場所だからと過信せず、常に子どもの動きに気を配る。	3.個人活動中・見守りあり	散歩から帰ってきた時、通常使用する出入り口ではなく正面玄関から園舎に入った。（散歩のルート上それが最短であった）	散歩のルートを決める際に、距離以外の要因も考慮するなど安全を第一に考え決定する。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	いつもより長い距離を歩いていたので疲れていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の後方から歩いている様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関に到着してから職員が数人ずつ連れて部屋に入ってい	園児が靴を片付けるために靴を持って廊下を歩いていた。玄関で靴を脱いで保育室まで歩いていたが、対象児はもともと歩行のバランスがよくなく靴下を履いていたため滑りやすかったので転倒したと考えられる。	靴を持たない。室内シューズを履く、素足になるなどの対応をする。	
9276	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									3	3	18.6歳	1.男児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷左小指若木骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	活動場面が多く、個々の把握ができにくい状況にあった。	全体が把握できるように努める。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	事故が発生しないように、引き続き点検整備に努める。	1.集団活動中・見守りあり	リレーや虫捕り等それぞれ好きな遊びをしており、対象児を見ていない場面があった。	全体が把握できるように努める。	1.いつもどおりの様子であった	友達数人とリレーや虫捕り、固定遊具など好きな遊びをしていて指の痛みを訴える。指を動かすことができ、リレーをしてから痛くなったが原因はわからないと話す。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ており対象児を特定して見ていなかった。話を聞くと、リレー後痛くなったが原因はわからないと話す。指を動かすことができたため冷却し湿布を貼り経過観察をする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児にかかわっていた。	痛みは訴えたが友達に指を反り返されたことは話さなかった。	痛みがある等、体に不調を感じた時は必ず知らせるように再確認・再指導する。	
9277	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	90				30	30	30			8	8	17.5歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨園医端骨折（若木骨折）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	－	事故について職員間で共有し、けが防止のための意識を常に持つように心がける。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	－	地面の状態は物が落ちていたりなどの障害となるものはなかった。とはいえ本児の様子から事前に声をかける等の関わりが必要であったかもしれないという視点を忘れないようにしたい。	1.集団活動中・見守りあり	－	周りの遊びの状況や園庭（地面等）の状況等安全に遊べる状況であるかを見極め必要に応じて判断し対策・実行していく。	1.いつもどおりの様子であった	当日、登園の様子や遊び始めの様子は普段とは変わらなかった。走っている様子も楽しんでいる様子だと認識していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばを走り抜けた対象児の様子を見守っていたが、その先で転び、いつものように立ち上がった対象児から痛みを訴えられた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も当該園児の走る様子は見ており、転んだ際近くにいた職員の傍に行ったことも確認している。	－	周りの遊びの状況や、子どもの体の使い方や動きを極め必要に応じて判断し声をかけるなどの対応を実行していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9278	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	40								3	3	15.3歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左拇指打撲傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	–	事故について職員間で共有し、けが防止のための意識を常に持つように心がける。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	–	水筒の置き場所を個人ロッカーから机に変えた。しばらくは担任が見守り子どもたちがスムーズにお茶を飲み、次の活動に向かえるよう必要に応じて手助け等しながら関わっていった。	1.集団活動中・見守りあり	–	保育室の環境等については、事故だけでなく子どもの動線を十分に考え、興味関心そして遊びの充実のための配慮ができているかという視点が必要で、職員の気付きや改良に向けての実行が必要である。	1.いつもどおりの様子であった	登園してからの様子は普段と変わらず、設定保育が始まるという職員の声掛けにも反応し、自ら水筒のお茶を飲もうと行動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員は当該園児が声掛けに反応しながらもその意味が分かって、次の行動の前に水分補給しようとする姿を信頼して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れたところにクラス担任もおり、園児とその傍に職員がいることを認識していた。	–	子どもの動きを細やかに見ながら、自主性と達成感を十分に確保しながらもケガや事故につながらないよう必要に応じて関わっていく。	
9279	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19								3	3	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	室内での遊びに夢中になり、気持ちが高揚していた。	気持ちが高揚し、室内で走る等の姿が見られた場合はこまめに声をかけるなど遊び方を気にかける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	簡易的な乗り物や粗大遊び用の段ボールなど、多くの玩具が室内に出ていた。	子どもたちに声をかけ保育教諭自身も使用していない玩具を整頓し、室内のスペースを確保する。	1.いつもどおりの様子であった	積み木や段ボールを使用し遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と絵本を読み関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わり、ままごと遊びに参加したり保護者対応を行ったりしていた。	職員は室内の各所に配置していたが、事故当時各職員が周囲の子のみに意識が集中してしまっていた。	子どもと関わる保護者と対応をする際にも、全職員が室内全体を常に意識し危険がないか注視する。	
9280	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス					12	24	20		3	3	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	–	2.基準配置	基本的な職員配置数は問題ないと思われるが、事故が発生した状況・時間帯を考慮すると全ての園児を見守れる職員配置状況ではなかった。事故予防マニュアル及び事故予防研修の欠落	その時々の環境に応じた柔軟性のある職員配置を事故予防マニュアルに反映する。事故予防研修等を実施しリスクマネジメントについて全職員間で共通理解を図り、事故防止に向けた取り組みを強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	使用後にその都度実施	遊具が要因となるものは無いものと思料する。	可能であれば、遊具周りに緩衝材になり得るラバーマット等の処置、または遊具等の撤去を検討	1.集団活動中・見守りあり	見守りのための職員は規定数配置はしているが、お迎えの時間であるため、配置職員は保護者対応に追われていた。	固定遊具への確実な職員配置による見守り体制の強化、及び活動内容によっては見守りが出来なくなるような場面を各種考察し、園長を核心として、組織全体でリスクマネジメントに取り組む。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来られた保護者の対応中	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来られた保護者の対応中	自由遊び前の園児への安全な遊具使用法・約束事項等の周知不足。園児の危険な行動を予測しきれなかった（すべり台滑走面を下から登る等）。園児の発達段階に応じた見守り体制の不備	活動範囲や活動内容に配慮し、常に園児の動きや様子を把握できるよう職員間で連携し同種事故再発防止を図る。	
9281	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	36					36			2	1	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	戸外遊びの中で、全体的な見守りが職員間で不足していた	子供の動きを見ながら立ち位置に気をつける。（特に大型遊具の危険箇所については職員が注意を払い見守りを行って行く）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	地面から遊具上までの高さが165cm。登った上部箇所が円状の斜面になっており足場の安定が図れなかった。	高さがあり、足場が安定しない箇所は登らないように、園児に説明し園庭内でも声掛け注意を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	普段の遊びの中で木製遊具の上部に登る子はいたが注意を促す程度の声かけであり、上部までは登ってはいけない等の約束はしていなかった。対象児が競い合いながら登っていた最中の動きを職員がみていなかった	戸外遊びの約束に木製遊具の上部には登らない事を加える。子供の動きを見ながら職員の立ち位置に気を付ける。	1.いつもどおりの様子であった	友達と競い合いながら木製遊具の上部へ登る。後方にいた友達の頭が臀部にあたり前方へ転落。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭内にはいたが対象児より少し離れた場所に居た為、対象児の動きを見ていなかった。木製遊具付近を通りがかり対象児の転落を発見した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにはいたが、別の園児の対応中であり、対象児の動きに気づいていない。	戸外遊びの中で、全体的な見守りが職員間で不足していた	子供の動きを見ながら立ち位置に気をつける。（特に大型遊具の危険箇所については職員が注意を払い見守りを行う）	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9282	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	33								6	5	16.4歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	袖を下ろそうとブランコから手を離したため。	遊具の使い方を子ども達と確認し、安全に使えるようにする。	1.定期的に実施	毎日確認	1.定期的に実施	毎日確認	1.定期的に実施	毎日確認	ブランコの使い方	ブランコに乗っている時は手を離さない等、ケガにつながりそうな行為を予測し伝えたり職員の見守りの位置の確認をする。	3.個人活動中・見守りあり	遊びが終わり片付けの時間となり、子ども達も片付けや部屋に帰ろうとするなど様々な行動をし始めていた。	ケガにつながりそうな行動をしている時は、声を掛けケガを防げるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子の外遊びの様子も一緒に見ながら、ブランコ近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具の場所で子どもの遊びの様子を見守っていた。	子どもの様子を見守りつつも給食の時間になり、片付けることを子ども達に伝えたり片付けたりしていたため。	遊びが終わることを伝えながらも、子どもが使用してる遊具から離れたことを確認する。	
9283	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								3	2	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	–	当該事故の要因とは考えにくい。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	当該事故の要因とは考えにくい	1.集団活動中・見守りあり	コートが丸く小さかったため逃げる場所として子どもたちの動きがバラバラになってしまうことにつながってしまった。	コートを円ではなく四角に、またもう少し広くとればよかった。	1.いつもどおりの様子であった	転がしドッジボールの円のコートにいて、他児と一緒に外部講師が転がすボールから逃げていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コートを丸く描き自分は外野でボールを投げていた。中にいた子はボールや友だちを見て、避けるように声掛けをしていたが転んでしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児は目の前にいて、逃げる様子が視界に入っていた。外部講師がどこにボールを投げるか予測がつかなかったため、外部講師の動きに集中していた。	ドッジボールだったため、子どもたちをせかしてしまった。	本児はもともとドッジボール等体を動かして遊ぶのが苦手なため、普段の遊びの時から無理なく誘っていく。また、補助に入る際は外部講師との事前の打ち合わせが必要。	
9284	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	49					25	24		5	4	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	でこぼこした歩き慣れていない道を歩いていたが、先頭職員の歩くスピードが速かった為、本児が追いつこうと走ってしまった。	時間に余裕を持ち、全体の歩く速さを考えながら歩く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	園外保育	園外保育前の現地事前確認の際の危険箇所のチェックの徹底。	1.集団活動中・見守りあり	先頭職員の歩くスピードが速くなってしまった。	全体の歩く速さを考えながら歩く。	1.いつもどおりの様子であった	登園時や行きのバスの中では普段と変わらない様子。現地では、ぼこぼこした道や急な斜面等歩き慣れていない道を歩いた為、転ぶ姿が何回か見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と後ろを歩いていた職員との距離は5mほどあいていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児よりも先に転んで泣いていた園児がいた為、そちらに注目していた。	職員同士の伝達不足があったかもしれない。	職員同士が声を掛け合いながら歩く。	
9285	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								3	3	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折（左脱）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員配置は基準以上であったが、児童の行動範囲（畑と中央園庭）が広く職員の監視体制に曖昧な部分があった。	児童の遊んでいる場所を明確に把握し、職員の配置・監視体制をしっかり整え安心安全に遊ぶ。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	遊具に危険箇所はなかったが、デッキからジャンプして飛び降りた為安全な遊び方ではなかった。遊び方が間違っていると大きな事故や怪我につながることも児童にしっかりと伝えられていなかった。（危険予知と危険回避）	児童の意欲や興味をくみ取りながらも怪我や事故に繋がる危険な行動については臨機応変に対応する。場合によっては別の遊び方を促す等安全な環境の下で遊べるよう配慮したり、事前に園庭遊びでの約束事等を伝えたりしておく。	1.集団活動中・見守りあり	複合遊具のデッキ部分からジャンプして飛び降りたため、遊具本来の遊び方とは違う形となり怪我につながったと考えられる。	危険箇所・危険行動を予測し、安全で正しい遊具の使い方を再度見直していく。子どもの年齢、発達等を考慮したうえで子どもたちに危険性を伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	高所（遊具のデッキ）からジャンプをして飛び降りることが楽しく「先生、見ててね」と声をかけ、できることを認めて欲しい気持ちがあった。友だちと一緒に繰り返しジャンプすることを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具には１名の職員が監視としていていたが、ネットをはさんで反対側にいたため落下を防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	中央園庭の隅にある畑で作業をしていたため、見ていなかった。	畑で冬野菜の種まきをし、終わった子から園庭にて自由遊びだったため、曖昧な監視体制のもと遊ぶことになってしまった。	活動の切り替え場面でも、声を掛け合いながら職員の配置を明確にする。子どもの動きを予想し転落等を考慮した立ち位置につく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9286	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	18								5	5	14.2歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	戸外から帰ってきて入室していた時間の為、付近にいた職員が少なかった。また近くにいた職員も床に座っていて咄嗟に動くことができなかった。	今後はクラス内に職員が２人以上いて、１人は滑り台から手の届く距離につける時のみ滑り台を使用することとする。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	滑り台や押し車なども常に使えるようになっていたため、室内で走り回ったり他児を追いかけようとしたりすることが増えていた。	職員が配置できないときは滑り台を使用できないようにした。園児の様子としては、広くなって見通しがよくなったことで机上の遊びに興味を持ったり、落ち着いて遊べる姿が見られるようになっている。	3.個人活動中・見守りあり	先に降りた他児の後についていきたい気持ちが強く、急いでいたように思う。	近くで見守る職員を配置し、足元に十分注意するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	クラスにある滑り台にのぼって遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員が座って保育していたため、すぐにかけつけられる状況ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の保育をしていて滑り台の方に目が行き届いていなかった。	滑り台から落ちる事例は今までもあったため、対策のためにカバーをつける話は出ていたが、他業務を優先していて間に合わなかった。危険という意識が低かった。	早急に滑り台カバーを完成させ設置。当事故を元に詳しく話し合い、遊具の危険や保育の体制についても見直した。今後も定期的に話し合いをすることを決め、怪我に対しての意識を変えていく。	
9287	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	39								2	2	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	午前中、保育室内での活動だったため、園外に出た時活動が活発になった。	保育活動の時間配分に配慮する。援助の必要な個所(特に固定遊具)には保育者の配置を考慮する。マニュアルの改善に取り組む。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	毎日	落下地点が砂地であり、年長児の中でも雲梯を渡る園児が少ないため下にクッション等を敷いていなかった。	マットを敷く、遊びの前に毎日、固定遊具を点検する。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯が上手に渡れるようになり挑戦する気持ちが強く、園庭へ出るとすぐに雲梯を渡りはじめたが、保育者が気持ちを落ちつかせる必要があった。保育者の静的活動と園庭の動的活動の時間配分を考慮しなければならない。	保育者が園児に「ゆっくり、しっかりつかまって」など落ちついて活動できるように言葉かけをし手を添えられる位置にいる。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から楽しんでいる雲梯を2回3回とくり返し挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のいたはんとう棒ジム付近の鉄棒で逆上がりをしていた他児の補助をしつつ、対象児に「すごいね！上手だね」と声をかけていたがすぐに援助できる位置にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園舎入口付近の砂場にて遊びに入りつつ、全体の動きを監視していた。	対象児とやりとりをしつつも、鉄棒の危険性の方を重要視し個別に支援していたため、補助に入れなかった。	鉄棒の補助に入っている時は、他固定遊具の遊びの使用を限定し、保育者が手を添えられる状況で遊ぶよう声掛けをする。	
9288	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	50	2	8	9	16	15			10	9	15.3歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	初診では左腕捻挫、再受診で左橈骨遠位端骨折と診断される。	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	バランスを崩したときに、すぐに対応できるように対象児に触れていなかった。足がつかない高さでぶら下がっていた。	運動をすることに慣れていない3歳児が遊ぶ時は、マンツーマンで動きを見るようにする。ぶら下っている時にはすぐに支えられるように体に触れているようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	慣れていない高さにぶら下がった。	年齢や運動神経に応じてぶら下がる高さを決める。腕力のない3歳児以下は足がつく高さにぶら下がるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	仲良しの友達が淡々と繰り返しこなして遊んでいる様子に、懸命について行っていた。	友達のペースに合わせていたら、慣てることのないように動きを緩めるよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	最近は、体をくぐらせてぶら下がることを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	そばにいて対象児と他児を見ていたが、ぶら下がっていた対象児が着地する瞬間には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる他児に怪我やトラブルがないか対応していたため、間に合わなかった。	マンツーマンの対応ではなかった。	腕力がない園児が遊ぼうとする時は、いつでも支えられるように体に触れているようにする。一人ずつぶら下がって降りるようにする。	
9289	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	72					41	31		4	4	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	部屋に入る声掛けをしており、鉄棒の所に目がなかった。	片付けの際は、最初に鉄棒を片付ける。鉄棒を行う時は寄り添うようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鉄棒やマットには問題はなかった。	鉄棒やマットを出す時に安全性を確認する。	2.集団活動中・子ども達のみ	近くで見守る保育教諭がいなかった。	鉄棒を行う際は、寄り添うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	前回りをする時、手を離してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもたちに部屋に戻るよう声を掛け、全体を見回っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋に入るのを見守りながら園庭環境の点検を促していた。	側に保育教諭がいなかった。	部屋に入る際は、鉄棒を最初に片付ける。鉄棒の際は、近くで見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9290	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス						19			2	2	17.5歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	ボールを追いかけて交差してしまった。	ボールをとるときに滑り込まないよう指導する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	ボールの取り合いの際のルールが決まっていなかった	ボールの取り合いの際のルールを決める	1.集団活動中・見守りあり	ボールに集まりすぎないよう声掛けをするべきだった。	交差しないこと・ボールに集まりすぎないよう声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも集団遊びに参加していないが、集団遊びに参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コートから離れた所でボールの取り合いをしていたため近くにいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	コートから離れた所でボールの取り合いをしていたため近くにいなかった。	ボールに集まりすぎないよう声掛けをするべきだった。	交差しないこと・ボールに集まりすぎないよう声掛けをする。	
9291	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15				27				3	3	16.4歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	見守りの現場を離れる時に他の職員に声をかけないでその場を離れてしまった。	必ず声をかけ相手の了解確認が取れてからその場を離れるようによる。	1.定期的に実施	14	1.定期的に実施	14	2.不定期に実施	12	–	鉄棒の下に衝撃を和らげるマットが敷いてありハード面でのこれ以上の改善策は考えていないが、ソフト面の強化を図る。	3.個人活動中・見守りあり	同じ環境の中で遊ぶ時の職員の見守り体制	他クラスとの協力的見守りが必要	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に腰を掛ける遊びを本児が希望し職員の補助のもと行っていた。一人で行わない約束わ守らず、一人で挑戦した。	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭内で園児のトラブルが起こり対応するために、本児に一人で鉄棒をしない約束を再確認し、その場をはなれた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の対応のため対象児をみていなかった。	対象児が約束を守り鉄棒をしていないと思いこんでしまった。	思い込みだけで行動を予測するのではなく、思いがけない行動をすることも考え、見守りが特に必要な場所ならその場を離れる時は、他の教諭に声をかけをし見守りを交代してもらう	
9292	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23	0	0	0	0	23			2	2	17.5歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	–	事故予防の研修をする。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	2.不定期に実施	293	–	階段の終わりがわかるように、一階にカラーテープを貼る。	1.集団活動中・見守りあり	–	階段の一番下の段には手すりがないので最後まで気をつけて降りるよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	階段下で対象児が階段を降りてくるのを見ていたが、転倒を止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	列の最後尾から対象児の動きを見ていた。	–	階段の一番下は手すりがないので気をつけるよう伝える。	
9293	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	23								2	2	15.3歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	保育教諭の配置基準は満たしていたものの、保護者対応と他児の対応が重なり見守りに抜けが出来てしまった。また園児の突発的な転倒が予測困難であった。	保育教諭の役割分担と配置について検討、見守りが欠けない体制づくりをしていく。子ども達へ室内での過ごし方を指導していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	特になし	ハード面に起因する事故ではないため、記入事項なし	1.集団活動中・見守りあり	見守り職員の配置場所と環境設定に検討の余地あり	自由遊び中、保育教諭の目が行き届く体制づくり園児への玩具遊び指導　椅子の座り方の指導をしていく	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児対応中であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えにきた保護者対応中であった	保育教諭の役割や配置について検討の余地あり	見守り職員の役割や配置を明確化し、配置から離れる場合には他の保育教諭へ声をかけるよう、見守りが欠けない体制づくりをしていく	
9294	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10				8	2			2	2	15.3歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	同じことを起こさないよう再度リスクマネジメントについて話し合い、屋上園庭での遊び方について対策を講じる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	施設・遊具・玩具の安全点検をしっかり行い、修繕の必要があれば業者に連絡して早急に修繕してもらう。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	延長保育の際、保育教諭が普段担当しているクラスの子以外も見守ることがあるので、普段から子どもの性格や特性なども把握しておく。	1.いつもどおりの様子であった	運動会を経験し、トラックを走ることに興味を持ち、かけっこをしていました。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の後ろから走っていたが、対象児が転ぶ瞬間に近くまで駆け寄ったが間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他の子ども達のことも見守っていました	対象児が両手を広げて走っていました。	走る時は手を広げて走らないこと・手を広げて走る際は直線を走り、隣の子と距離をとって走ることを確認しました。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事				発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面												
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
9295	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	2			2					1	1	15. 3歳	2.女児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	随時	1.基準以上配置	子どもの姿を予測し、職員が園児の移動前に移動する際は走らずに歩くことを伝えられなかった。	子どもの姿を予測し、怪我に繋がるような行動を事前に止められるように、終礼や会議など定期的に議題にあげ園内で話し合うようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	7.その他	保育士が園児の移動前に、移動する際は走らずに歩くことを伝えられなかった。	移動する際は走らずに保育士と一緒に歩いて自分のクラスに戻るようにしっかり伝える。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り元気な様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児と共に移動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスへ移動中であった。	保育士が園児が移動前に、移動する際は走らずに歩くことを伝えられなかった。	園児に移動する際は走らずに歩くことを伝えるとともに、各クラスでも子どもたちに移動時の行動について話をする。今後も子どもの姿を予測し、怪我に繋がるような行動を事前に止められるようにする。	
9296	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40								5	4	18. 6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折、左手関節挫傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	事故防止に関する研修内容の不足	事故防止に関する研修内容の更なる充実	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	遊具の破損等に起因する事故ではないが、定期的な点検は必要	遊具点検に係るチェック項目表に基づき、照合しながら点検を実施	3.個人活動中・見守りあり	園庭の広いエリアで遊んでいたため、職員の見守りや声掛けが不十分	遊ぶエリアを限定するなど、適切な見守り等ができるよう配慮	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒にぶら下がったりしながら、いつもどおりの遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くにある別の遊具で他の園児の補助をしながら、当該園児の遊びの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内で遊んでいる園児の状況に応じて、分散して園児の補助をしながら様子を見守っていた。	園庭の広いエリアで遊んでいたため、職員の見守りや声掛けが不十分	職員の配置人数を増やすなど、適切な見守り等ができるよう配慮	
9297	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								2	2	18. 6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	–	保育者の位置の確認	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	板やゴム丸太、タイヤやペンチなど動かせる教材等の使い方の確認。	担任と支援員間で連携を取り、固定されていない上記のような教材が安全に使われているかを園児の動きや位置が確認できる配置を取る。	3.個人活動中・見守りあり	–	担任と支援員間で連携を取り、園児の位置や動きが見える配置を取る。	1.いつもどおりの様子であった	友達と体を動かして遊ぶのが好きである。	4.対象児の動きを見ていなかった	お楽しみ会のパート練習を子ども達としていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外にいた子ども達全体の遊びを見ていた。	–	担任と支援員間で連携を取り、園児の位置や動きが見える配置を取る。	
9298	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	89	1	4	1	29	27	27		9	8	17. 5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中足骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	なし	なし	7.その他	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	親子遠足のため保育教諭は全体を見廻っており、ふわふわドームで遊んでいた姿は見ていた。保護者が少し離れたところから見ていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	親子遠足のため保育教諭は全体を見廻っており、ふわふわドームで遊んでいた姿は見ていた。保護者が少し離れたところから見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	親子遠足のため保育教諭は全体を見ていた。ふわふわドームで遊んでいる姿は見ていた。事故発生時は少し離れたところから保護者が見ていた。	なし	なし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9299	令和5年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27				5	22			2	2	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左の肘と手首の間の尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	–	これからも子どもの人数や動き、発達、活動内容等に合わせ、職員のつく人数を考えていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	–	今後も安全点検を行いながら、危険個所があれば事前に対応できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	前回転んだ際に骨折した事もあり、その箇所をかばい手がつけなかった可能性がある。また、普段から転びやすいお子さんである。	跳び終えた後も縄の位置を意識し抜けれるよう声掛けをしていく。転んだ際に手が出るよう骨折が治ったら四つ這いや高這い等で移動する遊びや前回り等手をつく遊びを取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく、大縄を飛んでいたが、周りで子どもたちが応援している中、引っ掛かったことにより、恥ずかしさからか、急いで出ようとする様子があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大縄を回していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	大縄を回していた。	本児が転ぶ際、縄は止まっており全体的に床についている状況であったが、職員が縄を持ったままだったことにより職員側（園児が抜けていく方向）が引っ掛かりやすい状態になっていた。	本児が引っかかった際、すぐに縄を離せば、今回のような転倒は防げた可能性がある為、子どもがひっかかった際はすぐに縄を離すようにしていく。	
9300	令和5年3月30日		13.子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)										援助会員１名	援助会員１名	17.5歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨顆状骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2回/年	2.基準配置	久しぶりのサポートの為子供の成長が著しく、子供の成長に合わせた危険予知の意識が不足していた。	危険予知意識を常に持てるよう、自転車送迎時の手順書を作成する。	–	–	–	–	–	–	週明けのサポートの為荷物が多かったこと、子どもの体重が自転車のチャイルドシートの適用体重よりも超過しており重量が耐えられなかった為。	今後自転車を使用する場合には手順書に沿って対応する。自転車での対応ができない場合は徒歩での送迎を行う。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの体重と荷物の重さに考慮した上での自転車の危険の意識が不足していた。	自転車送迎時の危険意識を高めていく働きかけを会員へ行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	活動的な男の子であり援助会員が転倒しない様必死に支えていたが、支えきれず転倒してしまい背もたれの部分と左腕を挟んでしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に授していた）	援助会員の自転車の子乗せ部分に子どもを乗せた際、転倒しないよう支えていたが、支えきれず転倒してしまった。その後すぐに保護者に連絡し病院に同行した。	–	–	なし	援助会員は体力に不安があるようであれば無理に自転車での送迎は行わず徒歩での送迎を提案するよう保護者と連携していくことや、子どもや荷物を載せる際の注意点を手順書に記載し安全対策を徹底していく。またセンターは安全意識を高めるためのフォローアップ研修を定期的に行う。	
9301	令和5年3月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	27				12	6	9		4	3	16.4歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	–	てんかん	–	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	2.基準配置	その当日の朝にけいれんを起こしていたことを担任に保護者から伝えてもらえなかった。	保護者へもう一度ご家庭の様子を担任に伝えて頂く事と、職員からも朝にお受け入れの時に声をかけるように改善する。	1.定期的に実施	1回/年	2.不定期に実施	1回/年	1.定期的に実施	毎日	活動によって玩具のロッカーの位置を変えていた。	着替えの場合は着替えている場所を必ず固定して決めておく。	1.集団活動中・見守りあり	体操服から普段着に着替える場所が他の年齢とかぶっていた。	他の年齢と違う活動だったので、3歳児だけ固まって別の場所での着替えを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの登園で特に保護者の方から申し送りなどなく普段と同じように過ごした。	4.対象児の動きを見ていなかった	着替え中、男の子女の子分かれて着替えていたため、担当職員は女の子の着替えるスペースで子どもたちを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員（男性職員）を含め当該園児の近くで見守り、もう一人の職員は同じ部屋で配膳を行おうとしていた。	–	–	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因		事故予防研修 実施頻度【回/年】					施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】		玩具の安全点検 実施頻度【回/年】						対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか		他の職員の動き 具体的に何をしていたか				
9302	令和5年3月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		1	4		1			4	4	17.5歳	1.男児	本児は偏食があり、園でも家庭でも白米・うどん・鮭・から揚げ・ポテトなどしか食べず、病院でも5歳児の骨折にしては栄養不足であると言われたとの事。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨・尺骨骨幹骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	1.基準以上配置	新規入社職員がいた。(本児とは初対面)	特性を理解し関わる職員を配置する。本児と関わる担当を決める(正規職員)	1.定期的に実施	1回/週	3.未実施	固定遊具なし	1.定期的に実施	1回/週	午睡中の未満児が別室にいた為、広い空間の部屋で遊んでいたことで勢いよく走ることができスピードに乗って滑った。床が滑りやすかった。	落ち着いて遊べる玩具や環境を整える。床にクッション性のあるマットを敷き詰める。	3.個人活動中・見守りあり	未満児が午睡をしている間、本児も座って遊べるように働きかけをしていたが、2名ほど起きてきたため嬉しくなり走り出してしまった。	室内での過ごし方を工夫すると共に、本児に対しての働きかけ方を職員間で統一していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ブロックで本児が作成した「剣」を手にしたことによってゲームの世界に入り込む。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児を見守り、特に働きかけることが無かった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	午睡チェック	レゴブロックで剣を作り戦いごっこが始まった際に、室内を走るだろうと予測があったにも関わらず遊び方に誘わなかった。本児は発達特性を持っていると思われ場面の切り替えが難しい。気持ちが高揚し抑えられなくなると走り出す。	本児の特性について職員間で再度共有をしていく。気持ちが高揚しやすい児であるため、戦いごっこになりそうな時には違った遊び方を提供していく。職員が本児の特性を理解し、状況に応じた働きかけをする。	
9303	令和5年3月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8				5	2	1		1	0	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6回/年	2.基準配置	特になし	ヒヤリハット報告書を活用しながら室内遊びでも起こりうる事故やけがを予測し、ミーティングを通じてスタッフ全員で共通認識を持つ。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	床がクッションフロアであること、十分広さを確保した上で室内の体を使った遊びを行った。	着地の位置に転倒することを予測して、クッションを用意しておく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ジャンプする際は走って助走をつけたりせずに、立ち止まった状態で勢いを付けずにジャンプするように約束する。	1.いつもどおりの様子であった	本児の順番になりやる気になっていた。勢いよくジャンプしたことにより、両足で着地したが勢いが止まらず左腕をついてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が跳んだゴムひもを持っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は電話対応、2名は乳児の部屋にいた。	特になし	バランスを崩した際、子どもを受け止められるように、スタッフを配置しておく。	
9304	令和5年3月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	21	2	5	5	3	4	2			10	5	17.5歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4回/年	1.基準以上配置	新人職員に任せた	集団活動、多数の園児さんとの触れ合いは園内で実施してから園外活動に参加してもらう。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	–	鉄棒から飛び降りるなど危険性伴う遊びはなくべく止めさせる。少なくとも職員が転倒フォローできる位置に配置する	1.集団活動中・見守りあり	新人職員が当日から勤務開始	園児が新人職員を見てそわそわすることが多いので、落ち着くまで園外活動を中断するか新人は園内のみとするべきであった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	新人職員に対して、日頃やらない行動をして怒らないと思ったか気分が上がっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の上に座ってから飛び降りるという行動をいつもやらない行動とは考えられなかった。静止しなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	新人を見つつも園内を掛け走る園児たちを見失わないよう見ていた。	–	園児さんには落ち着くように話をするか時間をずらす工夫をすべきだった。	
9305	令和5年3月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	8			1	3		4			2	0	18.6歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	6.その他		1.意識不明	1.頭部	先天性血管障害から来る脳内出血	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	数回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	数回/年	2.不定期に実施	数回/年	2.不定期に実施	数回/年	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	特になし	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特になし	遅滞なく最速最善の方法にて対処しており、特に問題ないと理解している。保護者にも随時詳細を連絡しており「園に対応の問題はない」とコメントいただいている。	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9306	令和5年3月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5			4	1					2	2	15.3歳	2.女児	環境の変化に敏感で、時にパニックに陥る事がある。翌日から引っ越しの予定があり、いつもと違う状況であった。	2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	–	熱性けいれん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	14回/年	1.基準以上配置	急激な熱の上昇による熱性けいれん。また、本児が環境の変化に敏感でご家庭が引っ越しの前日であったことも関係するかと思われる。	いつもと違う環境がある時は特に注意を払い、体調の変化に気を付け様子をみながら適宜検温し配慮する。37.5℃以上熱があればすぐに保護者に連絡を入れ、判断してもらう。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	特になし	電話回線が一つだけのため、救急車を要請する間保護者との連絡が取れなかった。双方との連絡を取りやすくするため、保育室に１台は携帯電話を常備する。	1.集団活動中・見守りあり	当該児が環境の変化にとても敏感であり、後々保護者から当日の朝体温が高く感じたが検温しても熱がなかったので登園したということ、また家庭で引っ越しの準備をしていたとのことでいつもと違う環境ではあった。	ご家庭との連絡を密にとり、いつもと違う環境や様子が見られた際には特に気を付けて見るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	保護者は登園前いつもより体温が高く感じたそうだが、検温しても熱がなかったため登園。保育園入室時にも熱はなく、普段と変わらずおやつを食べたり体操をする。けいれんの起きる直前にはいつも通りにトイレで排泄も見られていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちを見ながら本児がトイレに行った時間を書いていたため、椅子から落下する瞬間に間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	机を挟んで対面で座っていた。	熱の上昇にいち早く気付いていれば早めの対処（保護者のお迎え等）ができた可能性もある。	子どもへの触診様子の観察に注意を払う。熱性けいれん持ちのお子さんを改めて確認・熱性けいれんの概要と対応策についての再度の確認と職員会議での周知を行う。	
9307	令和5年3月30日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	8	2	1						8	5	14.2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3回/年	1.基準以上配置	–	保育士の配置を、制作に2名ボール遊びに2名だったが制作を1名にして、ボール遊びの方に保育士を多くつけておくとより良かったと思う。	1.定期的に実施	12回/年	2.不定期に実施	使用前	1.定期的に実施	毎日	–	玩具の点検は毎日行っているが遊具や施設の点検は不定期なため、点検の頻度を決める。	1.集団活動中・見守りあり	気分が高まった本児の気持ちを受けそのままで遊びの移行をしてしまった	室内を走ると危険であることを知らせていくとともに、はしゃぐ気持ちを受け止めつつも少し落ち着いてボール遊びに移行できるよう声をかけるべきであった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	隣でボール遊びをしていたお友達の様子を見ており、早くボール遊びがしたかった様子で、制作を終えてボール遊びができる事を喜んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じ空間にはいたがすぐに手の届く範囲に職員がいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体的な動きを見ていた職員や小さい子の相手をしていた職員がいた。配置は分担できていたが手が届かなかった。	ボール遊びのボールの数が多めに出ていた。	制作活動をしていた保育士とボール遊びをしていた看護師が交代するなど、ボール遊びの方に多くの保育士を付けておくとよかった。ボールを多めに準備していたが、多めに出さずにも少し床が見えるように減らしておくとよかった。	
9308	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8							8		5	3	21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(開館日)回/年	2.基準配置	本児童は久々の来館であった為、ボール遊びでの体のコントロールがうまくいかなかったこともあって予想外の事故が起こってしまった。	支援員等相互が、状況判断力や児童自身の危険回避能力や防衛力が高まる関わり方について事例研究を行い、支援力をより高めていく。	1.定期的に実施	実施都度	1.定期的に実施	実施都度	1.定期的に実施	実施都度	使用するボールの硬さや種類について	状況や参加者によって、使いやすいボールを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	久しぶりの活動参加の児童に対して、声掛けが不十分であった。	普段から危険が及ばぬよう声掛けをし、久しぶりに来館する児童に対しては一層注意の声掛けをするように徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、遊びに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室全体を見渡せる位置に配置し、集団活動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で、活動を見守っていた。	久しぶりの活動参加の児童に対して、声掛けが不十分であった。	事故状況及び安全対策情報を、職員全体で共有し事故防止に努める。	
9309	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37							37		5	3	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(開館日)回/年	2.基準配置	前日の運動会の疲れが残っている中、午前中からの活動だった為、体のコントロールがうまくいかなかったこともあって予想外の事故が起こってしまった。	支援員等相互が、状況判断力や児童自身の危険回避力や防衛力が高まる関わり方について事例研究を行い、支援力をより高めていく。	1.定期的に実施	実施都度	1.定期的に実施	実施都度	1.定期的に実施	実施都度	使用するボールの硬さや種類について	状況や参加者によって、使いやすいボールを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	運動会の振替休日だったこともあり、普段とは違った活動の中で声掛けや準備運動が不十分であった。	普段から危険が及ばぬよう声掛けをし、普段とは違った活動に入る場合は一層注意の声掛けをするよう徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、遊びに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室全体を見渡せる位置に配置し、集団活動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で、活動を見守っていた。	運動会の振替休日だったこともあり、普段とは違った活動の中で、声掛けや準備運動が不十分であった。	事故状況及び安産対策情報を、職員全体で共有し事故防止に努める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9310	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	53						53		16	13	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	自身による咬み傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事故発生時、遊戯室の職員体制は２名だったが、状況によってはそれ以上必要な場合もある。	遊戯室で見守る職員は2名以上必要な事を改めて共有した。	1.定期的に実施	実施頻度(　毎日）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(臨時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	滑りやすいところや危険な箇所がないか、より注意してみる。	1.集団活動中・見守りあり	両手を繋いでいた為、手をつくことができなかった。	集会を開き、遊戯室ではどんな遊びでも靴下を脱ぐことを、子ども達にも再度話をする。	1.いつもどおりの様子であった	女児数名と花いちもんめを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	アルバイト1名と一緒に遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れた場所でマットで遊んでいる子どもたちを中心に見ていた。	走り回る遊びではなかった為、靴下を必ず脱ぐように声を掛けていなかった。	金曜日だけではなく、木曜日もより注意が必要。夕方はテンションが上がり過ぎないように声がけ等工夫する。	
9311	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	3						3		4	2	21.9歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１０)回/年	1.基準以上配置	児童クラブ終了と祭りの時間が交錯したので、児童の気持ちが昂ってより児童の普段見せない動きが出ていた。	児童クラブから祭りへ安全に移行できるように利用設定で部屋にいる時間等を調整し、交錯しないよう保護者へ引き渡しができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	テーブルが棚に寄っていたため、登りやすさや児童が棚に登りたくなる気持ちを刺激した可能性がある。	登りやすさを誘うような設置を取らない。	1.集団活動中・見守りあり	祭りで興奮し普段と違う動きになっていたが、出勤回数が少ない補助員が配置されていたため変化に気づかなかった。	普段の動きから異常性を推測できるような職員配置を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	祭りが始まる、保護者が迎えにきているという状態で気持ちがはやっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2名とも急な出来事に対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	行われる祭りの対応を行っていた。	預かりが終わろうとする時から祭りへと移行していく中で、支援への緊張が別なところに発揮された。	普段登らない所へ登れが、落ちてしまうという可能性もあるという認識を児童自身に持たせる。その為に普段の関わりの中で危険性を指摘していく。	
9312	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55						55		7	6	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲　永久歯の欠損	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	配属されたばかりの職員もいて事故予防対応が徹底されていなかった。	マニュアル確認や見守りの仕方等を全員で再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	クラブチームの子たちが集まり始め混在していた。	クラブチームの活動がある日は、校庭遊びを早めに切り上げる。	1.集団活動中・見守りあり	新年度で全体的にザワザワして落ち着かない様子がある。	校庭に出す際に危険な遊び方等を子どもたちと確認し、落ち着かせてから連れ出す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	大好きなサッカーを上手な子とできて気持ちが高ぶっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	3名の職員が校庭に散って全体の見守りをしていたが、遊具で危険な様子があったり一輪車で遊んでいる児童の見守りなどに手をとられていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館内対応の職員は、館内に残った児童対応や電話対応、迎えの保護者対応等に回っていた。	あまり経験豊富な職員がいなかった。	–	
9313	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21						21		7	6	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	人気が高い遊具でありその上に乗りたい子供が多い。安全を確保する上で，人数制限を設けることが必要と考えられる。	遊具での事故はヒヤリハット研修などを通し他館での事故の情報も入ってくる。そういった事例を参考にしたりハンドブックを読み込んだりして事故を未然に防ぐようにしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(55)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(55)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(55)回/年	特になし	週一回安全点検を必ず行っており，前回の安全点検では遊具に不備はなかった。今回の事故を受け今後安全点検には注意を払いながら行っていきたい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員を複数配置し，方向を変えて見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場の道具を出すため一旦遊具付近を離れたが，人が多く集まってきた為，遊具の近くに戻る最中での出来事だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りフリーの職員を配置しているが，事故時は遊戯室の見守りを行っていた。	館庭での遊具遊びは日頃から注意していたが，遊具での遊び方の危険性について注意が足りなかったと感じた。	子供に対し，普段から危険を予知する能力を高めていくように支援していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9314	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	49							49		16	13	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右眼球打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事故発生時、児童クラブ室の職員体制は１名だった。状況によってはそれ以上必要な場合もある。	春休み中で長時間利用利用の日は特に見守る職員は２名以上必要な事を改めて共有した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	座卓の間隔の取り方、滑りやすいところ危険な箇所がないかより注意してみる。	1.集団活動中・見守りあり	早く校庭に行こうと気持ちが焦り、狭い所を慌てて通ろうとした。	集会を開き、移動の際の歩き方や周りの状況について意識的に気をつけるように子供達にも再度話しをする。	1.いつもどおりの様子であった	校庭で遊んだ後、休憩も兼ねて児童クラブ室でお絵描きしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員１名が子ども達の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と一緒に遊んでいて、そこを中心に見ていた。	子どもの動きを察して早めに声掛けする等しなかった。	長期休みの日の午後は特にテンションが上がり過ぎないように気持ちに余裕が持てるよう声掛け等工夫する。	
9315	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	42							42		7	5	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首の剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特に無し	階段は危険なエリアであることは職員全体でも確認はしていただが、なお注意して見守るよう再確認をした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特に無し	すべりやすい箇所がないか再確認をした。	1.集団活動中・見守りあり	まだ小学校入学したてで、上の学年と遊ぶのに慣れていなかった。	全体への声がけはしていたが、なお階段は危険なエリアであることを児童全体に呼び掛けた。	1.いつもどおりの様子であった	ふざけて過ごす様子は見られず、鬼ごっこ中においても活発な動きをしている方ではなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこ全体を見守りしていたため、転倒の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のドッジボールやなわとびの集団を見ていた。	特に無し	特に無し	
9316	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	53							53		6	4	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	頸椎捻挫	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	各部屋に職員がそれぞれ見守っていたため、特記事項なし。	職員会議やヒヤリハット集に基づきその都度事故予防の共有を図っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	常に安全点検を行い、今回はハード面の要因は該当しない。	職員会議やヒヤリハット集に基づきその都度事故予防の共有を図っている。	1.集団活動中・見守りあり	トラブルが起きそうな時は、早めに子どもたちに声掛けし未然に防いでいく。	主に毎月の安全点検を行っており不具合など生じた時はその都度修理・改善をしている。今後も継続していく。	1.いつもどおりの様子であった	注意をしないと１年生がみんなが外や体育館が使えなくなると思い、加害者に本児が注意をした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りをしていたが、突発的なことで対応が難しかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りをしていたが、突発的なことで対応が難しかった。	日々の遊びの中でのルール確認はしていたが、再度声掛け等必要だった。	遊びの前にみんなでルールの確認をしている。守らない時は、遊びを中断し遊び方を考えていく。	
9317	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	85							85		8	5	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前額部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(６)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１００)回/年	施設について破損等の異常は見られなかったが、活動目的を考え、より確かな安全対策を実施した上で活動する必要があった。	棚の仕切りに緩衝材を取り付けたり、凹凸をなくす対策をとる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに準備運動を行い、ゲームに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の動きがよく見える所で、全体の動きを確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童は４つの部屋に分かれて活動していた。その他に外での活動も行っており、職員それぞれが担当場所に分散していた。	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9318	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40						40		4	2	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	外傷性剥青	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	2.基準配置	児童クラブが登館するピークの時間帯だった為、受付に職員２名配置で児童見守り職員が１名。見守り職員が各部屋（図書室、創作活動室等）を見回っていた為少しの間事故発生場所から目を離す形となってしまった。	少ない職員数で児童の見守りをする際には、部屋の開放を制限する。確実に各部屋に職員１名配置できることを確認した上で部屋の開放を行う。職員が揃うまでは鉛筆の使用をせずに、読書のみとする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	並んで座った時の距離が近かった。	鉛筆を使う時、先の尖った部分が人に向かないように気を付けさせる。座る時に間隔を空けることを職員で共通理解し、更にキャップを外す時は人から離れた職員に依頼するよう指導を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	宿題等で鉛筆を使用していた。芯とは逆側にはめていたキャップを外そうとした加害時の動きで、隣に座っていた対象児の手の甲に鉛筆の芯が刺さってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の部屋の見回りの為短い時間だったが目が離れる形になってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	冬休みに入り朝早くから多くの児童クラブ員が来館しており、受付と出席確認をしていた。	冬休みで多くの児童クラブ員の登館しており、コロナ禍の中密を避けるために複数の部屋を開放していたが、各部屋に職員配置が手薄になってしまった。	なし	
9319	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	60						60		6	6	18.6歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部の骨のひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	登館途中のけがで、職員が見守る事も難しい。	車や周囲の状況に気を付けながら、ルールを守り来館する声掛けを繰り返し伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/日	通り道の横に小山や雨が降ると滑りやすくなる場所がある。	ハード面の改善は難しい。各自が危険を認識する必要があり、声掛けを続ける。	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	道をそれた児童がいたため、そちらに気を取られ前を見ずに歩いてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	登館途中の出来事で、けが後の対応しかしていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登館途中の出来事で、けが後の対応しかしていない。	入学後すぐの1年生で、道を外れた児童へ関心がない。荷物を背負い歩くことも不慣れ。	特になし	
9320	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	88						88		7	7	22.10歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	危険な遊び方と思われる際は、すぐにやめるよう声かけをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	安全点検では、これまで以上に注意する。	1.集団活動中・見守りあり	転倒や友達との軽い衝突が多発していたため、職員の見守りが全体に届くことができない時間が発生してしまった。	転倒やけがで子どもの対応をする際は、職員同士でも声を掛け合う。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこに参加。友達とピブスを投げ合ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室全体と鬼ごっこ参加児童の見守り。転倒等の対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室全体と助木やピアノ等、鬼ごっこをしない児童の見守り。転倒等の対応。	移転後初日であった為、久しぶりの遊戯室ということもあり、子どもたちの高揚感があった為、全体的に少々落ち着きのないところがあった。	職員自身も全体や周りを意識して見守るように、職員同士でも声を掛け合う。	
9321	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38						38		7	6	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	春休み初日で、全体的に子どもたちのテンションが高かったと思われる。	春休み初日ということで、常に行っている遊びも職員と子どもたちとでルールの確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	朝８時から利用し、遊び続けて気持ちは高揚するが、身体が疲れてくる時間帯だった。	春休み初日ということを心得、テンションが高くなってくる前に、休憩をいつもより多く入れるなどの対応をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中はボード遊び等して過ごし、午後は、運動遊び等して過ごしていた。ゴム跳びが楽しくなり過ぎて、能力以上の動きをしつつあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人は、ゴム跳びの様子を見守っていた。。もう一人は縄跳びをしている子どもたちの方に入って縄をまわしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事務室、廊下、図書室、トイレ（一人で行けない子どもに付き添い）玄関（お迎え保護者対応）	運動能力の高い児童なので、危険は伴わないと過信してしまった。	転ぶときは先に手をつくよう常に声掛けする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9322	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	139						#	8	7		21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	児童クラブの人数に対し職員配置人数が基準を満たしていない、職員の大規模異動後の初日ということもあり、児童館の業務を把握し対応できる職員が限られていた。	職員一人一人が業務を理解し、情報を共有しながら臨機応変に対応できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	施設の活動スペースが児童クラブの人数に見合っていないため、館内のいたるところに子どもがあふれている。	子どもたちの学年やあそびの内容により、住み分けを工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	一人で帰る子どもの対応や、お迎えの多い時間帯で保護者の対応に追われていた。新年度初日だったため個々に対応を要する新入生親子が多かった。	職員一人一人の業務の理解を図り、それぞれが全体を把握しながら動くことを心掛けるよう周知した。	1.いつもどおりの様子であった	日中、制限の多い中で過ごしていたこともあり、いつも以上に心待ちにしていたと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判をしていたため全体をみており、手を差し伸べるなど突発的な個人の動きに対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室以外の児童の見守りと保護者対応をしていた。	日中は制限の多い中で過ごしていることを受け、本館の遊戯室を使用。審判と見守りを行うため職員１名がついていた。	特になし	
9323	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	67						67	9	5		18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性色素沈着症	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１～２)回/年	1.基準以上配置	–	鉛筆のキャップを外す際は周りに誰がいるかを確認してから、机より下で外すようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/日	周囲への気遣い、配慮が足らなかった。	自分のいる周囲に気遣い、配慮をした上で鉛筆のキャップを外すように伝える。	3.個人活動中・見守りあり	–	鉛筆のキャップを外す時は周りに誰がいるかを確認してから、机より下で外すようにする。	1.いつもどおりの様子であった	筆箱を出して友達と遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員は児童クラブ室に常駐していたが、至近では見守りをしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	筆箱で遊んでいたため、まさかこんなことがという怪我に至る(予測をすることができなかった)	–	–	
9324	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	52						52	6	5		18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	事故発生時は外遊びを開始して間もない時間帯で，外には職員が2名（園庭に1名，隣接する公園に1名）いたが，園庭に行く児童が多かったことを受けて他の職員も移動を始めていたところだった。	外遊びを始める時間を職員間でその都度明確にし，児童の動きに合わせて職員の見守り体制が十分になるよう整える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	折りたたみ式滑り台の小学生の利用を中止する。	3.個人活動中・見守りあり	当日は気温が高いことに加えて，児童全体の様子も落ち着きがなかった。	気温の高い時は登館してから室内で休憩する時間を確保し落ち着かせてから行動させる。	1.いつもどおりの様子であった	普段から，周囲の状況を見すに自分の思いを通そうとして，時折他児とトラブルになることがあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児（要支援児）が児童センターの玩具を敷地外に持ち出そうとしており，それを引き留めていたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外に移動する児童が多かったことを受けて，室内から園庭へ移動中だった。	本児の滑る順番がきても一緒に遊んでいた児童に注意されてもなかなか滑ろうとしなかった。また，児童Bも自分の言ことを聞いてくれなかったため，滑り台の上にいた本児を押して転落させてしまった。	被害者児童、加害者児童およびその保護者に誠意を持ってあたる。	
9325	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106						#	10	8		19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	—	担当者は，常に一人一人の動きを注視し安全確保に努める。遊びの特性を改めて確認し、事前の声がけを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	—	うんていを始めとする遊具について、子どもたちとその使い方を具体的に確認する。	1.集団活動中・見守りあり	—	安全面への事前の働き掛けを積極的に行い、児童の安全に対する意識を高めていく。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	うんてい担当職員が落下した様子を見ており、直ちに駆け寄り介抱した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当場所を見守っていたため、対象児を見守ることはできなかった。	—	遊具の安全な使い方について、児童と一緒に振り返り、事故回避能力の育成に努める。	–	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事			発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面													
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																								
9326	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	65						65		5	4	18.6歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	今後も継続して安全に係る研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	小学校から児童館までの登館経路について定期的に安全点検を行うとともに，子どもたちに対して歩き方の指導を行う。	4.個人活動中・子どものみ	不可抗力による転倒であった。（障害物等はなく，わき見をしていた様子もなかった。）	安全な歩行の声掛けを今後も続けていく。	1.いつもどおりの様子であった	学校から児童館へ普段通り登館している最中であった。友達とトラブルになったり走りながら帰ってきたわけではなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	特になし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	特になし	特になし	
9327	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	61						61		10	10	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	–	児童の動きを見て危険を予測する	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	–	危ないので鉄棒に立たない事を再度声がけする	1.集団活動中・見守りあり	–	晴れていて天候には問題なかったが鉄棒はしっかり握るよう声がけする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	仲のいい友達と帰って来ておしゃべりが止まらずいつもより落ち着きがなかった。外遊びへは走って出て行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	登館時からいつもよりおしゃべりが多く宿題に集中できていなかったので動きが気になっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童が遊んでいる遊具ごと見ている、全体を見ている職員がいるため	「危ない」と注意されても止めなかったので当該児の鉄棒遊びを止めさせることも検討する。	児童の遊び方により使用する遊具を制限することも必要になる。	
9328	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10						10		4	3	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	刺傷(経過観察)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	普段は本館とサテライトに分かれて過ごしているために、1年男児と3年男児の関りはほとんどなく関係性ができていなかった。	イベント開催の日の担当や連携の仕方をもう少し詳細に詰めておく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	イベント参加児童と児童クラブ児童が混在していた。	イベント開催の日は、参加者と児童クラブ児童を混在しないように配置を考える	3.個人活動中・見守りあり	言葉で気持ちを表現するのが苦手な子たちなので、近くで見守りが必要だった。	日頃から気持ちを言葉で表現できるように働きかけを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもよりテンションは高めであった。イベントがあるという雰囲気で気持ちが高ぶっていたと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	イベントの準備に回る職員が準備のため部屋を出るということもあり、全体を見守るために対象児から離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	イベント準備の手伝いに走り回っていた。	久しぶりのイベント開催で、職員も子どもたちも不慣れであることを考えるとも少し職員を増員したほうが良かった。	研修を重ねたり、イベント開催の前には詳細について、職員同士の動きの確認や連携について打ち合わせをしておく。	
9329	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	114						#		16	11	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	他児とケンカをした直後で興奮していた。	児童同士が揉めている時は、安全な場所で落ち着いて話し合いをするなど配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具の高さ	高さのある遊具を安全に使用する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	トラブル対応の際、必ず安全面を確保して対応に当たる。	1.いつもどおりの様子であった	来館するとすぐに外に出て遊んでいた。職員と楽しそうに話をする様子もあった。その後、木の棒をめぐって他児とケンカになりそのまま滑り台まで上った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険な様子が見えたため、けんかを止めた。１度落ち着いたため、対応は終えたが近くにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの際は、高さのある遊具など危険箇所に職員は分かれて配置していた。	滑り台から移動する際、滑るのではなく後ろ向きに逆走してしまった。	遊具の安全な使用について注意喚起する。高所の遊具を使用している際の他児と関りについて見守り、危険な場面に気づき遊び方を工夫できるよう声かけをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所											教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】		玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9330	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		4	3	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	配置基準に合わせて人員を配置しているため、特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	施設や設備等に関するものでは無いため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊具での遊び方をもう一度再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯で遊ぶことが大好きで、登園後もまもなく繰り返し遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	何度も雲梯で遊んでいたため見守りをしていたが、とっさに手をすべらせたため対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊んでいた児童の様子を見ていたため、対象児を見ていなかった。	特になし	上手に遊んでいる児童は、時に無理をしてしまうことがあるため、声かけなど気をつけて行うようにする。	
9331	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							34		6	5	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	未実施	2.基準配置	職員の見守りがあり注意の声かけを行っていたが、児童は遊びをやめれなかった。	職員が今まで以上の熱量を持って児童に危険性を伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	ハード面は問題がなかったと思われる。	今後も施設の安全点検を継続実施する。	1.集団活動中・見守りあり	コロナ対策により間隔を空けてテーブルを配置しており、体を大きく動かして遊べるスペースが十分になかった。	テーブルがある場所で相撲のような遊びはしないことを周知する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	下校時から大きな声を出していて、気分が高揚しているようだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員が見守りの配置に付き、対象児童たちにも注意の声掛けを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当場所の見守り配置についていた。	児童の年齢的特性によるもの。	職員が今まで以上の熱量を持って児童に危険性を伝える。児童全体に、テーブルがある場所で今回のような遊びはしないよう周知する。	
9332	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	9							9		4	1	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	職員間の連携を密にし、安全面に見落としがないよう職員配置に配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	遊具等の使用に際し、安全確認を毎回実施する。	1.集団活動中・見守りあり	早く遊具に乗りたいという焦りと過信があった可能性あり	下校後は解放感から注意散漫になったり油断、過信から事故につながりやすい事を確認した上で戸外での職員配置、活動内容を考慮する。	1.いつもどおりの様子であった	ジップラインを何度か乗り、また乗ろうとステージから登ろうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児をジップラインから降ろしていたところ、本児がステージから落下。すぐ駆けつけ応急処置をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭には３人の職員がトランポリン、ジップライン、畑に配置していた。ジップライン担当者が本児の事は見ていたが、一瞬で転倒し間に合わなかった。	特になし	ステージ下にマットを敷いた。支援員は、より安全性を強化し声掛け指導、安全確認をする。	
9333	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	127							#		12	8	23.11歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度（　）回/年	2.基準配置	無し	保育室は工作、折り紙等をして遊ぶことが多く、その日によって遊ぶ子たちの人数が異なるため指導員体制を１～２人にするなど臨機応変に対応する。	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	無し	今後も遊び方を見ながら安全に過ごせるように見守りと児童に声掛けをして行く。	1.いつもどおりの様子であった	ふざけてぬいぐるみを蹴ってあそんでいたので注意されたが聞かないで蹴っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室で他児と関わっていたので離れた所から声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で保育をしていた。	無し	無し	
9334	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		2	2	23.11歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	事故災害発生時のマニュアルだけでなく、予防のマニュアルを作成し指導員で共有する。	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	特になし	指導員や家具の配置を工夫し、過度な活動にならないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	指導員や家具の配置を工夫し、過度な活動にならないようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	感染症予防のため利用者が少なく施設を広く使うことができ、活動がより身体的になった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童の活動に対して、声をかけながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室でほかの児童の学習活動に対応していた。	特になし	児童には、楽しい遊びの中もケガにつながる危険がないかを考えさせ、お互いに注意しあえるように指導する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9335	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	49							49		5	0	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３５)回/年	2.基準配置	外遊び実施時の職員配置の見直し及び児童支援のポイント確認	児童の活動時に死角となる場面を出さないように職員を配置する。また、具体的な支援のポイントを明確にし、全員で共有しながら支援にあたる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	引き続き、安全点検を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	引き続き、支援員による見守りを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	久々の外遊びで活発に活動している中でバランスを崩して転んだことが骨折の原因となった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこをしていた複数の子ども達を支援していたため、坂を走って下る当該児童を止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で広範囲にわたり小集団または個別に活動をしていた為、支援員も分担して支援をしていた。そのため、支援員全員が当該児童の様子を見ることができなかった。	未然防止の指導や活動中の危機意識を高めた支援が必要である。	児童への指導を徹底し怪我の防止に努める。	
9336	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56							56		4	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしないルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者と同様の場所で全体の見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	
9337	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		3	3	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き支援員が適切に児童の遊びを見守るとともに、危険な遊びはしないなど、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて、再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	
9338	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	52							52		4	2	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしないルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて、再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9339	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59							59		5	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしないルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて、再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	
9340	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23		4	2	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折またはひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	遊びを始める前の注意喚起不足	遊びを始める前に、子ども達への注意喚起の徹底	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	ブランコ利用の際は手を離さないよう注意喚起する	1.集団活動中・見守りあり	無し	注意喚起の徹底	1.いつもどおりの様子であった	ブランコ遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守りしていたが、転ぶのを支えるのは間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童を見ていた。	無し	職員による注意喚起の徹底	
9341	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		3	2	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	股関節脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	朝の打合せ中であっても職員一人が全体を見守り、他の職員も様々な角度で子どもたちの様子をみることを職員全体に周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	本棚の上に乗らないように小さな本を並べた。危険防止の為貼り紙をし、本棚の上に乗ると危険である事を目で見て理解できるようにした。	4.個人活動中・子どものみ	朝の打ち合わせ中で目配りをしながらも、職員が集まってしまった。	打合せであっても、支援員が全体を見守っておくこと。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	–	4.対象児の動きを見ていなかった	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	高い本棚（1，2メートル）の上に児童が乗ってしまったこと	職員で危険箇所の確認と共有。子どもへの声かけをしっかり行うようお互いに声かけをする。	
9342	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	4	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	未実施のためなし	2.基準配置	特になし	事故予防マニュアルの作成	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ブランコの後ろの柵とタイヤ遊びができるようタイヤとの間隔が狭い。	遊具について気付いた点があったら、直ちに学校に連絡する。	1.集団活動中・見守りあり	ブランコの後ろの柵とタイヤ遊びができるようタイヤとの間隔が狭い。	ブランコ鬼をしない。ブランコをたくさんこがない。ブランコの周りで遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗り終わった後いきなり走り出した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコの方を見守っていたが、いきなり走り出し衝突したため、身動きができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭内のサッカー遊具等で遊ぶ児童を見守っていた。	ブランコを大きくこいでいたため、近くにいる児童とぶつかりやすい状況であった。	ブランコ遊びの見守りの徹底	
9343	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		3	0	23.11歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険性についてあらためて指導及び周知した	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	特になし	設備等が原因でないため、改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	小学校の校庭での活動のため、敷地が広く目が届きにくい場所がある	全体の見守りを意識し、危険のある行動は早急に止めさせる	1.いつもどおりの様子であった	水筒を振り回した1年生男児に追いかけられ、逃げようとして転倒してしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	低学年を室内へ移動させる支援中であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３名の内１名は高学年と先に室内へ移動していた	原因の児童は以前から危険な行動をとる傾向の児童であった	支援員は安全管理を意識し、児童に対しても改めて危険のある行動の禁止を指導する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷	診断名				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9344	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		4	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	今年度は1～2年生の利用児童が多く支援員の目が届かなかった。遊具の使用についての約束や扱い方についての指導が徹底されていなかった。	配慮が必要な児童への対応を強化するとともに、子ども自身が危険を回避していけるよう約束事や遊具の扱い方について、日常的に声掛けをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回発生した遊具（固定施設高鉄棒）は、低学年は使用されない遊具であった。	遊び場に使用禁止札を下げたり、支援員の見守りを怠らないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの遊びの種類が分散され、支援員の見守りに限界があった。	子どもの実態を認識し、配慮が必要な児童に対して支援員の見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子で来所した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童の至近で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児童の動きを至近距離で見ていた。	支援員の周辺には他の子どもたちもいたため、対象児童とマンツーマンの状態で見守ることはできなかった。	特になし	
9345	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24						24		4	2	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指小骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	–	特になし	体を動かすあそびを取り入れ、健康増進を図っていく。	
9346	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46						46		4	4	22.10歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘・前腕不全骨折と靱帯捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(100)回/年	2.基準配置	GW明けや週末付近であったこと、腕を使う日々の習い事も頑張っていたこと等から、目に見えない体力の低下や身体的疲労もあったと思われる。	児童自身の体調も考慮して、遊びの種類を考えるよう呼びかけていきたい。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	なし	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	事故発生時は70名以上の児童が外遊びをしており、各々が好きな遊びを行う中で校庭全体を広範囲に見守れるような配置を心がけていたが、事故発生の瞬間は当該児童の傍に職員がいない状態であった。	怪我のリスクが高い遊びを察知し職員が常に全体を見渡せるな配置を考えながら保育を行う。また特に外遊びの際は、事故に気を付けるよう児童への呼びかけを徹底し、児童自らの判断でもリスク回避ができるよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	タイヤ跳びを熱心に練習していたが、混雑の為一旦丸太渡りへ移動した。	4.対象児の動きを見ていなかった	直前まで丸太渡りを直接見守っていたが、一緒に遊んでいた他の児童が横のタイヤ跳びに移動したタイミングで、その場を離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭に分散して、大勢の児童らの遊びを全体的に見守っていた。	当該児童が毎日のように遊ぶ得意な遊びのため、油断していた部分もあった。	児童が遊びに夢中になり過ぎると、周りが見えなくなる事もあると思うので、支援員が定期的に声をかけ、適宜休憩を取りながら遊ぶよう指導していきたい。	
9347	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	42						42		3	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	始業前の職員会議で話し合いを持つなどして職員間での意識啓発を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの時など広範囲の見守りを必要とする状況下において、児童の転倒・衝突やボール遊び等による事故発生の可能性を予見し、児童に対し注意するよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	健康面等、普段と変わった様子は特になく、他の児童達とドッチボールをしていた。本児は1人で外野を守っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボールには1名支援員がついていた。ボールを受ける際のけがの発生を見ていたが、瞬間的な事故となったため防止できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別グループの保育にあたっていたり、お迎えの対応などをするため、事故の瞬間を見ていなかった。	児童に対し、けがのリスクについてや安全面への声掛け等の配慮が不十分であった。	特になし	
9348	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71						71		7	3	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	指導員等の配置人数に問題はなくソフト面のみ考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	施設等に問題はなく、ハード面を考慮すると発生しない事故であた。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	支援員等が子どもたちをより目配りしやすい場所に配置する。	1.いつもどおりの様子であった	フラフープを使っておままごとをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	特になし	指導員は静かな遊びでも注意をして見守っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事									事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位	診断名							実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9349	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54							54		5	4	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	支援員、補助員ともに危機管理に関する研修を定期的に行う。	代表者の会議において事故報告を確実に行い、危機管理を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	活動中の児童の動きを想定し、事故発生前に注意喚起が必要であった。	室外保育の配置を状況によって見直し、常に最善の環境を整える。	1.集団活動中・見守りあり	人数、場所など、さらなる工夫して活動を行うことが必要。	室外保育で起こりうるケガ等の具体例を職員が共有し、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	通常のバスケットボール遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒にすぐに気が付き、駆け寄り状況確認を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の保育中であった。	あらゆるケガ・事故を想定し、活動前に児童への注意喚起が必要。	活動前にケガに結び付く危険な行為への注意喚起。	
9350	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	119							#		10	8	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	腓骨剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	足を引きずっていたため、痛みを訴えていなくても聞くべきであった。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	危険個所を点検し支援員同士で共有し確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	利用児童に応じた職員配置をこれからもしていく。	1.いつもどおりの様子であった	校庭で走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遠くから見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが個人的には見ていなかった。	特になし	周りの児童く様子をよく見ておく。	
9351	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	51							51		3	3	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は鉄棒・ブランコ・ジャングルジム等、遊具付近を特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたが一瞬の事なので補助する事ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日、児童数が多く他の遊具についていたので見ていなかった。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。また危険な行動がないよう児童に声掛けをする。	
9352	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		4	2	23.11歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	学年に見合った活動の提供ができなかった	活動の提案（選択肢を増やす）	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	階段に入らないようにチェーンをかけていたが登れる状態であった	仕切り（フェンス）等の設置を検討	3.個人活動中・見守りあり	階段に入らないようにチェーンをかけていたが、登れる状態であった	仕切り（フェンス）等の設置を検討	1.いつもどおりの様子であった	室内でのボール遊びを職員に注意され、他の活動が見つけられずにいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	繰り返し注意したことで頑なになった本児を少し距離をおいて様子をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童2名がトラブルになっていたため、そちらの対応をしていた	本児の課題（ルールを守らない、危険な行動が見られる）	本児発達への支援、保護者支援	
9353	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11							11		3	3	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員で危険個所と環境設定、立ち位置などの再確認を行い、ケガや事故防止に向けよりいっそう意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	緊急時の応急処置の対応について、三角巾、添え木を購入する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	部屋の中で静的遊びと動的遊びで分けるようにして、動的活動の時には支援員が傍で見守るように心がけている。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	あそび（ちゃんばら）を提案して、意欲的に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1対1でちゃんばらをしていた。本児は休息中であったが別のものに興味を示し移動したところを支援員が目で追う。その際ちゃんばらをしていた2人から視線が外れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室にて育成支援をしていた。	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9354	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	42							42		5	4	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0～1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	今回の事故については、施設、設備等の不備その他明らかな原因があるものではなく、不測の事態が重なったことで発生したものと思われる。	校庭に足がつまずくような物や穴等は見られなかった。	1.集団活動中・見守りあり	児童はいつ足をくじいたりがなく、ドッジボール前にすでにケガをしていた可能性もある。	外遊びの前に軽い準備運動を行い、ドッジボール等の運動ができる状態であるか見極めてから育成支援を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子でドッジボールをしていたが、急に足が止まり痛みを訴えた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボール中は2名がコートの両側に分かれ児童の様子を注意深く見守っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所から1名が時々様子を見て、全体を見渡せる位置から1名が見渡していた。	ドッジボールについて2名で見守っており、児童の異変にも気付くことができているため、放課後児童支援員等の状況は適正であった。	児童は蹴いたり転倒した訳ではないため、異変に気付くのが足を止めてからとなったが、もう少し注意深く様子を見ることにより、もっと速く異変に気づけたかもしれないため、普段から児童の仕草についても注意深く見守っていく。	
9355	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48							48		6	4	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	特になし	これまでは掲示物や口頭で職員に事故予防に関することを伝えてきたが、マニュアルという形でしっかり整備しなおす必要性がある。	2.不定期に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年学校で実施しているため。	2.不定期に実施	実施頻度(200)回/年	特になし	児童が使用していたサッカーボールは空気の漏れや破損等はなく問題はなかった。また、事故を誘発しそうな遊具・破損に関しては見つけ次第適宜対処している。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員は基準通りに配置できており、屋外にも十分に配置できていた。また、ぬかるみ等もみられなかった。	1.いつもどおりの様子であった	普段から落ち着きがなく、怪我の多い児童であった。体調不良等もなく、元気に校庭を走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをやっていた4.5人を数メートル離れた位置から見守っていた。対象児童が着地に失敗した際も見ており、転倒した直後に駆け寄り対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児童が転倒した瞬間は見ていないが、職員が駆け寄る様子は見ていた。	特になし	事故予防に対するマニュアルを作成し、職員間で周知。また、事故事例の検討を行っていく。	
9356	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		2	1	21.9歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	児童たちは施設玄関を出ると学童門まで走っていた。	玄関から学童門まで職員が見守り、歩いて学童門を出るよう声掛けをする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	狭い学童門を走って通過しようとした際、児童同士がぶつかり反動で1人が学童門横コンクリート壁に肘をぶつけてしまった。	施設周辺は走らないで歩くよう子どもたちに話していたが、職員が見守り周知徹底していく。	4.個人活動中・子どものみ	施設玄関を出た後、走って学童門を通過する児童が数名いた。	施設玄関を出たら走らずに学童門を通過することを子ども達と確認した。	1.いつもどおりの様子であった	5時の降所時間前までは帰りの会に参加し、過室する際は子ども同士で挨拶を交わし、職員とも挨拶を交わして施設玄関を出た。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	5時で「さようなら」をした後、職員が施設玄関を開け子どもたちは外へ出る。全員玄関を出るとお迎えに来た保護者対応を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の子ども対応やお迎え対応児の声かけを行っていた。	処置をする際、傷めた箇所を特定する為、触れようとするが痛みが強く動かすことができなかった。すぐに保護者へ連絡を入れ病院受診を打診した。	5時1人帰りの児童は施設玄関で挨拶をした後、職員が学童門を出るまで見守る。その際児童には歩いて帰るよう声かけを行う。	
9357	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		4	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	新年度が始まり支援員の動きに落ち着きがない中、児童が行っている危ない遊びに気が付くことができなかった。	児童が怪我を起こしそうな場所は、特に、支援員の配置を強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	児童が怪我を起こしそうな場所を支援員全体で把握する。	支援員間で、情報を共有をする機会を設ける。	4.個人活動中・子どものみ	児童に対して、危ない遊びをしないように周知をすることが行き届いていなかった。	支援員の危険個所の把握、見守りの強化。	1.いつもどおりの様子であった	遊びの一環とし、低い階段の中断から飛び降りる遊びをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	校庭で別の児童の対応をしており、十分に見守りができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所におり、十分に対応ができていなかった。	支援員の中で十分に本児の怪我の共有ができていなかった。	危険個所の見守りの強化、児童への声掛け、支援員間での情報共有の強化を心掛ける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9358	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	52						52		14	11	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	校庭遊びを見守る職員の適正配置があり、職員も怪我が起きやすい場所を意識しながら見守っていた為、ソフト面の問題は特になかったと考える。	子どもたちにも、怪我が起きやすい場所・怪我が起きやすい状況について伝え、意識させる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	校庭に大きな凹凸等はなく、ハード面の問題はなかったと考える。	天候によっては校庭の状態が滑りやすかったり、ぬかるみがあったりするため注意喚起する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	季節によって日暮れが早く、外遊び時に足元や遠くが見えづらくなるので、日ごとの天候に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	本児はサッカーをしたりバスケットや鬼ごっこをしたり、活発に遊んでいる。当日もいつもどおり活発に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラスを担当している職員は外遊び全体の見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の近くで活動を見守っていた職員が転倒に気づき、肘の状態を見て室内へ連れてきた。	見た目では赤みがなく、腫れも比べれば確認ができる程度だったため添え木はしていなかった。	サッカーを行う前に児童に軽く足を動かす等、準備体操の声掛けをする。	
9359	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41						41		5	5	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	腱板断裂	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル順守・研修実施・職員体制を基準配置は行えているため、ソフト面に関しての改善策は特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	使用しているサッカーボールの硬さに要因がある可能性がある。	低学年がサッカーボールを使用する際は、柔らかめのボールを使用できるよう遊具の用意をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員の目もあり遊び方についてもサッカーのルールを守りながら行えていた為、改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	サッカーをする際、ゴールキーパーをやりたいと本児から希望がありゴールキーパーをする。一緒に遊んでいた児童が打ったシュートを止めるために手を出す。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と一緒にサッカーをする。対象児がボールを止めようと手を出し、指を痛めた際に駆け寄り室内へ一緒に戻る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の集団あそびに入ったり、校庭での職員配置関係上だったりと、各配置場所で児童を見ていたため。	対象児は1年生で、他学年児童の打ったシュートを止めることについて、蹴る力や受け止める力の点で差があったと思われる。また体の発達の部分で、勢いあるシュートが手・指に良くない形で当たってしまった場合の影響が低学年児童へは大きいと考えられる。	人的面の部分が今回のケガの主な要因であったため、その他項目は特になし。	
9360	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30						30		9	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの再確認。職員研修の積極的な参加の見直し。職員間で普段の児童の情報の共有。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	学校との連携の見直し。学校設備遊具など変化があった時はすぐに情報を提供。今回は設備に不備はなし。	1.集団活動中・見守りあり	本児はのぼり棒などでたくさん腕を使った後にうんていを行い、腕が疲れていた。	外遊び前の準備運動の強化。基礎体力向上のプログラムの検討。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯で遊んでいて手が滑ってしまい落下してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで対象児や周辺の児童を見ていたが、落下時は周辺の児童に目を向けていた。落下した時の他児の声で対象児が泣いていたので駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭の他の場所で遊んでいた児童を見ていたり、室内でおやつを食べている児童を見ていた。	今回は児童本人による怪我だったが、事故が起こった際に職員同士ですぐに連絡が取れるようにするとスムーズに対応ができると感じた。	上記に記載した改善策を職員で共有して安全対策を行っていく。	
9361	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	95						95		12	11	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	雲梯付近にも職員を配置していたが、雲梯、ドッジボールなど他の遊びの見守りも担当していた。他の児童の対応をしていた。	雲梯、上り棒、鉄棒など、より安全への配慮が必要な遊具で遊ぶ際は、その遊具専属の職員を配置する。児童対応の際は、他の職員に声をかける。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(100)回/年	特になし	遊具の安全点検はされており、特に問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	これまで通り準備運動などをしっかりと行う。遊び中も職員が子ども達の動きを予測し、声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	学童、ひろばの時間帯、雲梯の使用は2年生以上となっており、あまり使ったことがなかった。普段それほど積極的に運動遊びをしていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯付近配置の職員は他児の対応をしていたため、事故の瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自配置箇所付近の児童の見守りをしていたため、事故の瞬間を見ていなかった。	新年度で職員の入れ替わりがあり、各児童の特性（普段から運動をしているか、苦手な動きはあるか等）を把握していなかった。	子どもたち、職員共に遊具の使い方や注意点などを再確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9362	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	89							89		11	7	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指の骨折および創傷	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(0～1)回/年	2.基準配置	事前に危険を予測し、声かけや別の場所への誘導ができなかった。	常に児童の行動の予測をし、危険が考えられる際は事前の声かけや行動を制限するように する。また、職員同士で危険が伴う遊具や遊びがないかを日々検討し、対策等を共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(100)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(100)回/年	事故前の定期的な点検や事故直後の点検でもフェンス、ホッピング、地面等に不具合はなかった。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ホッピングで遊ぶ場所が特定されていなかったこと。また、フェンスに寄りかかったりその近くで行うことを良しとしていた。	ホッピングで遊ぶ場所を白線で囲い、その中でのみ遊ぶよう限定した。また周囲にフェンスなど他の物が無い場所に設定した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は室内にいることが多かったが、友達に誘われて外に出てやり慣れていないホッピングで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は特につけておらず、近くにいた全体を見守る職員が周囲の児童たちの異変に気付きすぐに駆けつけ、状況を聞くと同時に本児の怪我の様子を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	初めに本児の怪我を確認した職員から状況説明を受けて本児の対応を引き継ぎ、本児と共に怪我の対応のため室内へ移動し手当を行う。その後保護者へ連絡した。	普段あまり外遊びをしない児童が慣れていない活動的な外遊びをした際、注意深く見守れなかった。	特になし	
9363	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		4	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険予知に関する研修を増やす	3.未実施	実施頻度(０)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	特になし	危険個所を発見した場合にはすみやかに指導員間で共有し、必要に応じて学校側にも相談する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	指導員が見ていない状況をできるだけ作らなくする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	対象児は１年生として入所して間もない時期で、他の児童に対してやや強引に話そうとしたり輪に交ざろうとする行動が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	移動中の事故であり指導員全員で子どもたちを誘導していたが、事故の起きた駐車場は曲がり角で死角になりやすい場所だった。後ろから来た指導員によって怪我をした対象児が発見されたが事故の瞬間は目撃していない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	移動を先頭側で引率していた他の指導員は、撮影場所で子どもたちを整列させるために声をかけていて、後ろから来る児童の様子までは見ていなかった。	特になし	学年が上の子たちには体格差について自覚させ、体の小さい子を押したりすることのないよう、日頃から指導する。	
9364	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		4	2	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	–	1.基準以上配置	特になし	マニュアルの確認及び事故予防に関する研修を年間２回実施する。	3.未実施	–	3.未実施	–	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒に異常はなかった。	施設及び遊具の安全確認について、年１２回（月１回）程度の点検を行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	見守りの範囲が広く、瞬時に対応しきれなかった。	屋外で活動する場合は、活動範囲をこれまでより狭くすることで、十分な見守りができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で遊んでいたが、危険な様子はなかった。（２連鉄棒。メーカー名等不明）	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	５m程度離れた場所で他の児童を含めて見守っていたが、児童が転落した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で遊ぶ児童を見守っていたため、事故を確認できなかった。	見守りの範囲が広く、瞬時に対応しきれなかった。	屋外で活動する場合は、活動範囲をこれまでより狭くすることで、十分な見守りができるようにする。	
9365	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	61							61		5	3	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第５指基節骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	児童の遊び方から事故となるような危険があることを予見できなかった。	些細な事でも重大な事故につながる事、また過去の事故例などを職員間で再度話し合う。	3.未実施	–	3.未実施	実施頻度(0)回/年※実際には利用時に毎回簡易な確認等はしているが、当該実施場所はクラブの管理対象外施設であり、定期点検は実施していない。	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	床張りのため、衝撃緩和ができないことから些細な事でも事故発生に繋がりやすい環境であることを職員間で再確認し、注意を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	児童全体がドッジボールで興奮しており、周りが見えていない状況であった。	遊んでいる時も周りの児童にぶつかったりしないようにに気を付けるという声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	体育館遊びで他児童と共にドッジボールをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童が見渡せる位置で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館以外の部屋で他児を保育していたため見ていなかった	特になし	既に記載したソフト面、ハード面、環境面及び人的面での改善策により、充分改善できるものと見込まれる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9366	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	子どもの遊びについて注意点をまとめ、再発防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	使用上のルールの徹底を図る	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもへの注意喚起の徹底（子どもたち自身が気を付けられるように声をかける。）	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭で遊ぶ数人の児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は室内で遊んでいた児童の見守りがあり、校庭にいた支援員は1名であった。	特になし	職員間の連携を密に行い、事故防止に努める。子どもへの声かけを積極的に行う。	
9367	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		2	1	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	子どもの遊びについて注意点をまとめ、再発防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	使用上のルールの徹底を図る	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもへの注意喚起の徹底（子どもたち自身が気を付けられるように声をかける。）	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭で遊ぶ数人の児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は校庭の別グループで遊んでいた児童の見守りがあり、怪我をした児童の近くにいた支援員は1名であった。	特になし	職員間の連携を密に行い事故防止に努める。子どもへの声かけを積極的に行う。	
9368	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	64							64		5	3	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節外顆骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	普段から注意していたが、かかとを踏んで歩いていたため。	かかとを踏んで歩いていた場合きちんと履くように声掛けをする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	特になし	7.その他	上履きのかかとを踏んでいたことでバランスをくずしたのではないか。	上履きききちんと履くように声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	特にかわりない様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	部屋の中で歩いていた際のことで、本人からの訴えでけがをしたことに気がついた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋の中で歩いていた際のことで、本人からの訴えでけがをしたことに気がついた。	特になし	上履きききちんと履くように声掛けをする。	
9369	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35							35		9	3	21.9歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	体育館にてドッチボールをしている際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし	児童に対しては、けがをしないよう気をけけて遊ぶよう注意を促し、職員間で情報共有と見守りの際の注意点を再度確認した。	
9370	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		10	2	22.10歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘脱臼骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	校庭にてタイヤ跳びジャンケンをしている際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし	校庭で遊ぶときの注意事項を周知し、遊ぶ前は準備運動を徹底する。	
9371	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		3	2	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首 ひび及び骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	なし	見守りの徹底	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	なし	毎日見守り 遊具の点検	1.集団活動中・見守りあり	外遊び時に遊ぶ範囲を定める	支援員全員での情報共有の徹底	1.いつもどおりの様子であった	特にかわりない様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員配置を毎回確認	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこをしている付近には支援員も配置していたが転んだ瞬間の動きは見ていなかった。	なし	特定の児童なら大丈夫と思わず全員で緊張感を持ち見守る	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
9372	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	93						93		10	4	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右くるぶし剝離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	なし	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	転んだ場所がタイル面になっており、地面と違って滑りやすくなっていた。	児童、職員ともに危険があることを周知する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	友達といつものように遊んでいたが、鬼ごっこをしていたので走っていることが多かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員がすぐ近くで見ていてすぐに動いたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ケガをした児童を含めて、広場全体を見ていた。	特になし	特になし	
9373	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24						24		2	1	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	より多くの児童を見守ることができる場所で支援を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	事故誘因は自らの落下によるものであるため、ハード面における特段の改善策はない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員体制は適正であり、特段の改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発な児童である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びの見守りでグラウンドで支援を行っていたが、当該児童から離れていたために落下するのを防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援室内で他の児童の見守りを行っていた。	特になし	遊具を安全に使用して遊ぶことができるように、声かけするよう努める。	
9374	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25						25		4	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手前腕部尺骨骨折及び左肘脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故当日より職員全員に事故の内容を説明し、この様な事故が今後起きないよう指示を行った。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	公園を歩いている途中でつまずいて転倒したが、他の児童と話しながら歩いており足下などに注意がいっていなかったと思われる。	歩いていての事故とは言え、児童がバランスを崩した場合に備えて児童に注意を促し見守る。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	歩いていての事故とは言え、児童がバランスを崩した場合に備えて児童に注意を促し見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり楽しく遊んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	痛めた後、直ちに、応急処置を行い病院へ連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐ近くで見守っていた。	児童がつまずいてバランスを崩したとき、すぐ近くに職員が居たが咄嗟のことで間に合わなかった。	特になし	
9375	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	67						67		8	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	迅速な対応はできたが日々マニュアルを振り返りいつ何が起きてもいいように一人一人が準備しておく必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	怪我につながる場所がないか、ケガにつながる動きをしていないかを確認し安全に過ごせる環境を作ることが必要。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外は広く子ども同士の接触も室内よりは少なるが常に注意を払い、事故が起こる前に防げる声掛けが必要。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	最終日ということもあり良い姿を見せようと頑張っていた気がする。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	突発的に走りだしこけないように声掛けをしたが間に合わなかった。こける瞬間も手を差し伸べることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子ども達の保育をしていてこけた後に駆け付けた。	特になし	その時の状況や子どもの心境を考え、先に予測をたて、事前に声かけをして促す必要があった。	
9376	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	9						9		2	1	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左撓尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	職員2名体制の中で施設に保護者のお迎えがあり、職員一人が一時的に施設へ戻っていた。	見守りの職員の人数により遊びの内容を変える等、児童全員が安全に過ごせるようにクラブ全体で工夫をしていく。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	逆上がりの補助台の使い方が間違っていた。（補助台の上から鉄棒へジャンプしていた）	間違った使い方をするとケガにつながる旨を指導。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒本来の遊び方とは違う、誤った使い方をしていた。	子どもたちに正しい遊び方を伝え、職員への見守り指導も行った。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体操を習っていることもあり、得意気な様子でチャレンジしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守ってはいたが、事故現場を直接は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えの対応により、１名一時帰所	お迎えの対応により、一時的に1名体制	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事											ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死亡	負傷	診断名				実施頻度							実施頻度		実施頻度		実施頻度						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																							死因	負傷状況	受傷部位				【回/年】						【回/年】		【回/年】		【回/年】															
9377	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25						25	4	2		20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手前腕部尺骨骨折及び左肘脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故当日より職員全員に事故の内容を説明し、この様な事故が今後起きないよう指示を行った。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	他の児童と話しながら歩いており足下などに注意がいっていなかったと思われる。	歩いていての事故とは言え、児童はバランスを崩しやすいため、児童に注意を促し見守る。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	歩いていての事故とは言え、児童はバランスを崩しやすいため、児童に注意を促し見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり楽しく遊んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	痛めた後、直ちに、応急処置を行い病院へ連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐ近くで見守っていた。	児童がつまずいてバランスを崩したとき、すぐ近くに職員が居たが咄嗟のことで間に合わなかった。	特になし	
9378	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11						11	3	1		18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘 ヒビ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	ケガにつながりそうな遊びについて改めて洗い出し、指導員間で共有する。	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	特になし	ケガにつながりそうな場所について改めて洗い出し、指導員間で共有する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	危険性を感じられる遊びをしている子に対し、早めに指導員だけでなく子供たち同士で声掛け合う意識を持たせる。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に登所し、元気に遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当児童の動きを見守りつつも、瞬時のことに対応できず。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1名は2Fにて他児童の宿題を見る。1Fは1名子どもを見守り、１名は見守りと同時に事務処理のためPC操作	特になし	定期的に、児童全員にどういったことが危険につながるかを考える時間を設け、学童全体で共有しあう。	
9379	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	22						22	3	2		18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折（治療期間：1か月） 診断書なし	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	注意喚起の声掛けはしていたが、新一年生という事もあり何度も注意喚起する必要があった。	事前の声掛けの徹底、事故防止に関する研修会への参加。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	十分な距離は取っていたが、想定外の事が起きる場合も想定すべきであった。	今回も十分な距離は取っていたが、バットが飛んでいくことも想定し、観戦する場合はかなりの距離をとる。	1.集団活動中・見守りあり	なし	今回の経験で想定外なことが起こることも伝えて必要以上に距離を取り、児童にも毎回意識させる。	1.いつもどおりの様子であった	元気に遊んでいた。野球が好きで高学年の野球を距離を取り観戦していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一緒に遊びにも参加し、見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児を含め野球の様子を見ていた。	注意喚起の声掛けはしていたが、新一年生という事もあり何度も注意喚起する必要があった。	遊びの場だけでなく、落ち着いた環境（室内）で注意喚起する。	
9380	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28	4	1		20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	児童館のトラブルや小さな怪我が起こった場合、職員1名が対応に当たるため見守りが手薄になる。集団活動を苦手とする児童に1名関わる場合も同じように手薄となり得る。	見守りが手薄となる場合は、目の届く範囲に児童を集め遊ばせたり、皆で同じ遊びを行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	毎日	児童は大人が考えもつかない行動をとることがある（本来の使い方ではない遊び方）また、遊びに夢中になると周りが見えなくなる。	遊具や道具は本来の使用の仕方があり、誤った使用をすると危険なことがあることを知らせ、声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	活発な性格であり運動神経もいいため、外での活動が得意であると思っていた。	運動神経がいいと言えども、じっとしていられず調子に乗りやすい児童については、行動から目を離さないことが大切である。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達数名と鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	低学年の児童と関りながら、全体の把握をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に残る児童の見守りのため、1名保育室に残ていた。外では、一人遊びの児童に関りながら見守り。	集団遊びの苦手な児童に関わり、注意がそちらにそれてしまいがちになる。	些細なことでも、職員が気付かなかったことは児童が伝えれるような環境づくりをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9381	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	35							35		5	4	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故はソフト面以外の要因で起こったので改善策なし。	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	今回の事故はハード面以外の要因で起こったので改善策なし。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	今回の事故は環境面以外の要因で起こったので改善策なし。	1.いつもどおりの様子であった	遊んでいる時に友達と喧嘩をしてふてて近隣の体育館の方に行き、体育館の階段でつまずいて捻挫	2.対象児の至近で対象児を見ていた	捻挫をした後、腫れなどもなく本人も大丈夫と言っていたので、怪我の直後は特別な処置はしなかったが、その後また足に痛みがあり歩いて帰れそうになかった為、保護者に連絡をする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていた。	ふてていて、周りを見ていなかった為	遊ぶ場所以外の場所に行っていた為、他の事故や怪我にもつながるので、決められた場所以外に行かないように注意喚起をした。	
9382	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		5	4	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	事故についてのマニュアルを作成する。支援員間での周知徹底。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	学校の空き教室を使わせてもらっているので、積極的な点検があまりできていない。	サッカーなどボールを使う遊びでのルール作り。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	いつも通りの遊びだったので子どもに任せていたが、いつでも介入する姿勢も必要だった。	1.いつもどおりの様子であった	大きな声をあげながら、ゴールを守っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ゴールの横にいて、様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離に1人いたので、一人は全体を確認できる距離にいた。	みんなのためにボールを受けてあげたい、と思っていた。	子ども同士の関係性や特性について、よく理解しておく。	
9383	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	124							#		13	7	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	落下の可能性のある遊具のそばには必ず職員が付く。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	遊具については特に問題なしのため、改善実施なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	子どもたちに決まりを守ることが身を守ることにつながると指導する。	1.いつもどおりの様子であった	うんていのところに走って行ってあわてて掴んで落ちた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見守りしていた。子どもを追いかけたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りしていた。	特になし	グラウンド入口で注意事項を伝えてグラウンド内に入れる。	
9384	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		6	4	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修を行い、児童の遊びについて改善点があるか考えていくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	3.未実施	実施頻度(36)回/年	3.未実施	実施頻度(36)回/年	特になし	日々の点検を行う中で、事故が起こらないようより意識をして点検をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	慣れた場所でも安全にすごせるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全員が4班にわかれて、リレー形式でかけっこをした。支援員は担当の場所で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全員同じ遊びだったので、近くで見守っていた。	特になし	可能な限り職員は全体を見渡せるよう配置をする。また、声掛け等も同時におこなっていく。	
9385	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	92							92		6	4	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	未実施	1.基準以上配置	人員配置的には人数はいるが、事故・怪我の予測が必要	月の職員会議で、全ての職員で事故・怪我等の危険性ついて再度見直しをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動に夢中になり、周囲の状況が見えなくなっているようであれば、適宜声かけを実施する	1.いつもどおりの様子であった	健康状態などは特に問題がなく、グラウンドで遊べるという気持ちで気がはやっていたと思われる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	１対１での対応ではなく、複数職員でグラウンドで遊ぶ児童を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児童だけでなく、グラウンドで遊ぶ児童全体を見ていた	園庭を利用する際、児童に理解できるように注意喚起をする。	新しい環境に慣れるまでは、しっかりと活動時の注意点・危険性などを十分に説明していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳															死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9386	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		4	2	22.10歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右手首右橈骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	未実施	2.基準配置	特になし	事故予防を重点においた研修を行う。	2.不定期に実施	使用都度	2.不定期に実施	使用都度	2.不定期に実施	使用都度	特になし	日々使用しながらの点検にとどまっているため、年度初めや学期末に安全面をより意識して点検を行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊んでいる児童に細やかに声掛けなどをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段の保育室内よりも広い場所で風船遊びをして、他の遊具を置いているところまで移動してしまい、足元も見ていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童が風船遊びをしていることは認識していたが、他の児童の遊びを見守っており、転倒した場所まで移動していったことは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育児童数が7名のため、その場にいたのは担当職員1名であった。	特になし	職員は可能な限り全体を見渡すよう心がけるとともに、児童にも遊びによって十分なスペースを取るように指導する必要がある。	
9387	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		3	1	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危険予測が十分でなく、本来であれば配置の必要がある場所に職員がいなかった。	危険が予想される遊具（丸うんてい、ジャングルジム、ぶらんこ、鉄棒）については、必ず職員が付き添う。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	入学したばかりで初めて遊ぶ遊具だった為慣れていなかった。遊具に問題はなかった。	危険個所の確認と共有を月に１度は行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	個別対応になりすぎないように配慮し、危険個所の再確認と配置についてその都度確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	本児はグラウンドで補助員と児童４人（ケガをした児含む）で、ボール遊びをしていた。本児は、グループで遊んでいる途中にグループから抜けて一人で丸うんていに向かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	ボール遊びをしている児童を見守っている中、本児が反対側の丸うんていに向かったため、丸うんていで遊ぶ本児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	10メートル程離れたグラウンドの別の場所でサッカーの見守りをしていた為、丸うんていに児童が行った事に気が付かなかった。	特になし	運動場全体を見る見守りの職員も配置し、丸うんていやブランコ、ジャングルジムに児童がいる場合は、近い距離で見守りを行う。外遊び時には、誰がどこで見守りをするかの確認と、危険と考えられる場所に児童がいる場合は、職員同士での声掛けを行う。	
9388	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		3	3	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員の安全への再確認と子どもへの注意喚起。	1.定期的に実施	実施頻度(開所日毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	鬼ごっこや遊んでいる場所の範囲に階段があった。	階段から飛び降りるような遊びはしないよう注意する。	1.集団活動中・見守りあり	遊び場所の範囲である。	階段から飛び降りないよう注意する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていて鬼から逃げようとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ちょうど見守りの場所から見えない位置で、足をひねったと言ってきたので対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で見守っていたり、ほかの子の対応をしていた。	子どもが見えなくなる死角があった。	怪我をする子どもが増えていることを念頭に置きながら、支援員も見守りの対策を施す必要がある。	
9389	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	170							#		15	4	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右前距腓靭帯裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(–)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	体育館から室内に戻る途中であり、対象児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館から室内に戻る途中であり、対象児童の動きを見ていなかった。	体育館遊びの後は、勢い良く走りながら部屋に戻る傾向にある。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9390	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							#		12	8	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首2か所骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(–)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の，事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9391	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	51							51		6	3	19.7歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(–)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9392	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	86							86		10	3	19.7歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折2か所	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	両手に荷物を持っていたため、転倒時に手をつくことができなかった。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9393	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	96							96		12	4	23.11歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折、右前腕皮膚欠損創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	走って下校していた。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9394	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	210							#		12	6	21.9歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	事故者が傘を2本持った状態で走っていたため発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9395	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	162							#		15	6	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9396	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		6	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指季節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9397	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	118							#		9	3	18.6歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘内障、若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	登下校中のため支援員の見守りなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登下校中のため支援員の見守りなし	遊びながら下校していた。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9398	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	77							77		6	3	18.6歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足第2，3関節足裏裂傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	登下校中のため支援員の見守りなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登下校中のため支援員の見守りなし	車道ギリギリで信号待ちをしていた。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
9399	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	81							81		7	3	21.9歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上1番（中切歯）歯牙破折・歯髄炎	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	登下校中のため支援員の見守りなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登下校中のため支援員の見守りなし	下校中にふざてあっていたため発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9400	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	88							88		6	3	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9401	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	124							#		9	4	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	下腹部裂傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	手術後であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	棚の前で、2人とも支援員に背を向けてのことだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	棚の前で、2人とも支援員に背を向けてのことだった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9402	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34							34		7	3	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9403	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	90							90		9	4	19.7歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節捻挫血種	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため支援員の見守りなし。	タブレットなど、ランドセルの荷物が重かった模様。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9404	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77							77		5	3	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲の軟骨損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9405	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		4	1	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9406	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		12	6	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨端線離開	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9407	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		3	1	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9408	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72						72		10	7	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9409	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	123						#		12	6	23.11歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右肩打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9410	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53						53		3	2	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9411	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	69						69		9	9	22.10歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨端損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9412	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77						77		7	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肩鎖骨の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で起きた事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9413	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32						32		6	2	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で起きた事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
9414	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	49						49		7	5	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、当該児童を見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
9415	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		2	1	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	くるぶしの剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特になし	日常的な危機管理能力を高めていく指導する	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	特になし	今回の事故は、ハード面に要因はないと考えるが、定期的な安全点検を継続していく	3.個人活動中・見守りあり	特になし	泥遊びをしたあとは支援員が穴が埋まっているか確認を行い、そのまま場合は支援員で整備する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	外で鬼ごっこをしているときにテンションがあがっていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童を見守りながら声かけを行っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と一緒に見守りをしていた。	特になし	日常的な危機管理能力を高めていく指導する	
9416	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		4	1	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	安全対策や危機管理が十分ではなかった。	今回の事故を職員全体で共有し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(30)回/年	ゴムマットの老朽化により事故につながった。	ゴムマットの張替えを行う。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	出入口などは慌てず落ち着いて歩くよう児童に声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児も含めた庭で遊んでいる児童複数名の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、室内の児童の見守りをしていた。	特になし	すのこ板にタオルマット等を敷き、指が挟まらないよう防止する。	
9417	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	227							#		14	7	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首上部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9418	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	95							95		12	4	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9419	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	147							#		13	8	19.7歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9420	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							34		3	1	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	第5中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9421	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	96							96		9	4	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折（第2関節）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9422	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	104							#		10	4	19.7歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指第一関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9423	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	91							91		9	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9424	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	175							#		14	7	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	永久歯の欠け	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9425	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	218							#		16	6	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9426	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	161							#		12	4	18.6歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9427	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	140							#		11	4	23.11歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	児童の側で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9428	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		4	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	–	事故予防に関する研修の実施	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	–	問題はなかったが、今後も遊具の安全確認を必ず行う	3.個人活動中・見守りあり	–	見守りを徹底する	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッチボールだったのでコートの端から全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッチボールだったのでコートの端から全体を見ていた	ボールを取る時に地面に指をついてしまった時と考えられる	外遊び前や後に一旦集めて、怪我をしている児童を確認する	
9429	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59							59		6	2	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特に無し	遊具の見守りを強化する	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特に無し	特に無し	1.集団活動中・見守りあり	支援員によっては、児童と一対一での見守りがあった	全体の児童を見守るように、支援員同士が声かけあって見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく外遊び（サッカー）をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカー・ブランコ・アスレチック・鉄棒などを４人の職員で見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内遊びを２人の職員で見守りを行っていた	１年生は高鉄棒に登らないよう決めていたが、本児がルールを忘れて登るところを遠くから見守っていた職員の声掛けが出来なかった。	校庭を見守る職員の動きを再確認し、全児童を見守ることができるようにする。児童へ遊具の使い方を再指導する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9430	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		2	1	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	–	横にいても瞬時におきた事故だったため、更に見守りに気を配る。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２８０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２８０)回/年	–	ブランコを囲む66ｃｍの低いものではあるが、見守りに注意が足りなかった。	1.集団活動中・見守りあり	ブランコでの事故が多い為注意を払い見守っていたが、囲いで事故が起きると思ってなかった。	子どもたちの行動については、更に注意を払い見守ること。	1.いつもどおりの様子であった	とてもおとなしい子。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコの前で見守っていたが、横を向いた際にはすでに転んでいた。すぐに抱き起した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での見守りをしていた。当該児童が戻ってきた際は、すぐに冷やし落ち着かせた。	–	近くで見守りを行っていたので、瞬時の事故にも対応できるように気を配る。	
9431	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		2	1	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指（第２関節）骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	支援員の急な体調不良のため、見守りの体制が通常に比べて手薄となった。	遊具使用時は特に注意を払い、正しく安全な使用ができるよう指導をし、更に見守りにも気を配る。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２８０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２８０)回/年	–	施設・設備に問題なし。ブランコから降りるタイミングが悪かった。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の数が少なく順番を待つ児童が多く、当該児童が焦った感じがある。	遊具使用時は、正しく使用することを遵守させる。	1.いつもどおりの様子であった	慌てたり、転んだりすることが多く、この日もブランコが止まる前に降りようとして落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコの前で見守っていたが、瞬時のことで間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童の世話やお迎えの対応、おやつの準備などを行っていた。	–	学童保育支援員の急な体調不良時の代替職員の確保を図る。	
9432	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		3	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		現在マニュアルを作成中である。また、福智町のフローチャートを利用する。	1.定期的に実施	実施頻度(２８０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２８０)回/年	学童クラブでは必要のない手すりだった	事故の起きた手すりは所有者（福智町）へ確認後、撤去した。（経年劣化も見られた為）	1.集団活動中・見守りあり	突然の事であったため、注意が間に合わなかった。	危険な行動に対して、通常時からの児童に対しての声かけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	体調は普段通りであった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びの集団が二手に分かれていたので、各集団を見守る形をとっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びに職員が2人、室内遊びに職員1人が見守っていた。	玄関前（スロープで手摺あり）では遊ぶ事を日頃より禁止にしているが、遊びに夢中になってしまって上級生とその場所に入ってしまった。	翌日子どもたちと危険個所や遊び方について全体確認をおこなった。	
9433	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	46							46		3	3	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足リスフラン関節靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	学校とは違い、座卓の為視界に入りずらかった	見守り・声掛けの強化・机の配置間隔	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	座卓の高さなど	通常の状態でも起こりうる事故を先に考える	3.個人活動中・見守りあり	教室内の座卓の位置	見守りの強化	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	–	座卓の高さ・位置など	見守り・声掛けの強化	
9434	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		6	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に来所した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	利用児童がサッカー遊び・遊具遊びなどいくつかの遊びにわかれて遊んでいたため、少し離れた場所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事										事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷						実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																														
9435	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		5	5	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	唇の下を2針縫う、上前歯(右)抜ける、下前歯(4本)グラつく、下歯茎内側に上の歯が貫通	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	アスファルトや段差のある所を走っていたので、注意をしようと思っていた時に転んでケガをした。	早めに声掛けをして、注意を促せばよかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に来所し、外遊びで楽しそうに鬼ごっこをした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達と一緒に鬼ごっこをしていた。事故発生時、鬼から逃げていたため、対象児から離れた所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具で遊んでいる子ども達を見ていたので、事故に気付かなかった。	子ども達が広範囲に動いていたため、1人1人の行動を把握できていなかった。	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
9436	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		4	4	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の完全脱臼・顎歯肉裂傷 / 頭部打撲	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で来所。本人も登ってはいけない事を理解していたが学校の昼休み、クラブの外遊びで登り降りを繰り返していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見ながら対象児の動きも見ていたが、見守りの中で他児のトラブルの対応をしており、倉庫要は普段から行ってはいけない場所で、遊びのスペースから離れていたため最終的には対象児を注意して見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
9437	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20							20		3	3	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨端線骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	特になし	ケガの可能性がある場合には、その都度注意をしやめさせる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	机のそばや物の近くでは遊ばないように声掛けをおこなっていく	3.個人活動中・見守りあり	特になし	危ないと感じた時に声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	宿題で難しいところがあったため、一人遊びを行っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童のそばで宿題の様子を見守りながら全体の様子も見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の児童を検温しながら受け入れを随時行っていた。	特になし	危険な行動がみられた場合に瞬時に考察しやめさせる。同じ空間にいる職員同士で見る範囲を事前に決め役割分担を行う。	
9438	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		6	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識して確認するようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びで鉄棒で遊んでいる時、着地した際にバランスを崩し前方に手をつき負傷する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒のそばで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びに対応していた他の支援員３名は、他の児童の見守りをしていた。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度	【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9439	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	7						7		8	1	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	3.基準以下	指導員一名では、児童七名の突発的な行動に対して対応が手薄になった。何度も訪問していた場所であり、いままで問題行動がなかった。	2次災害を防ぐためにも事前に十分な想定訓練を準備しておき、引率可能な支援員（２名以上）に応じて外出する児童数を決定していく。	2.不定期に実施	実施頻度(開所日毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(利用毎対応)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(開所日毎)回/年	平日で来訪者が少なく、職員に連絡し児童の行動も把握していたが、全てにおいて配慮が不十分だった。衝動的な行動をとるとは予知しなかった。	安全に過ごす為には集団生活のルール見通しを持った過ごし方を子ども達に示し理解させる。	1.集団活動中・見守りあり	気になる児童については突発的、衝動性な行動でトラブル等を引き起こす事があり遊び方によって危険となることを、再度伝えるべきであった。	安全に過ごす為集団生活のルール見通しを持った過ごし方を子ども達に示し理解させる。	1.いつもどおりの様子であった	3年生女児は同じクラブ活動の先輩と一緒に行動できて楽しそうにしていた。穏やかな表情で落ち着いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童をベンチに座らせ見守っていた。突然児童たちが走り出したので全員静止するよう伝えたが、児童達は突然階段方向へ向かった。職員が追うとすでに足を引きずりながら本児が男児と2人で階段を上がってきた。階段を踏み外し足首をひねったと話す。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	–	コロナ禍で自粛が多く、学童外での活動に解放感	子どもたちに危険な遊び、症例など理解させる。また突発的、衝動的な行動をとる児童の安全管理についての研修をおこなう。	
9440	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	30						30		3	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	安全対策マニュアルに保護者へ病院へ受診するよう促すという指示があったが促すことができなかった。	もう一度支援員全員でマニュアルを確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	使っていたボールが新品で空気がたくさん入っており硬かったかもしれない。	購入した際にきちんと硬さなど確認する。	1.集団活動中・見守りあり	2～6年生までの異年齢児でサッカーをしているなか当該児童はキーパーをしていた。	異年齢児でサッカーをするときは高学年にキーパーをしてもらう。	1.いつもどおりの様子であった	サッカーゴール前に立っている。	4.対象児の動きを見ていなかった	配置についた時にはすでにうずくまっていたため、周りの児童に状況を聞き部屋へ一緒に戻る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が点在して遊んでいたため、そちらの見守りをしておりボールが当たった瞬間は見ていなかった。	休憩時間の前から2年生男子児童がゴールキーパーをしていたが声をかけただけで止めようとはしなかった。	十分に予測されるケガは声掛けを行うだけだなく遊びを中断させてでも止めるようにする。万が一を想定し、保護者へ病院へ受診するような促しをする。	
9441	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38						38		4	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨遠位骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員の見守りの仕方。	児童の揉め事に対応中でも他児を見られる向きで頻繁に様子を目視確認する。見晴らしの良い場所かつ危険なことが起こりうる場所をしっかり判断し、その場所で見守りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	今回の件では、遊具に不備はなかった。そのためこの点での改善策は特にない。	1.集団活動中・見守りあり	真偽は不明だが、その場にいた他の児童から飛ぶように指示されたという情報もある。対象児のみならず、周囲の児童の思考力、判断力の低さも考えられる。	様々な行動にてどのような危険があるかを考える時間を確保する。また、危険と判断し、自分がしないと決めたことを他児に指示しないように話をする。	1.いつもどおりの様子であった	室内遊び、戸外遊びどちらかに偏ることはなく、どちらも好きという児童で、当該日は室内遊び後に戸外遊びへと移った。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の至近にはいたが、背を向ける形で別の児童と接しており、落下した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラブも含め、約40人の児童が戸外で遊んでいる状況で、他児を見ており、対象児を見ていなかった。	対象児は、日頃職員の話をしっかり聞かない、聞いていても理解していないような表情を見せており、対象児の思考力、聴解力、運動能力の低さも要因となっている。	今回の事故の要因については、上記ソフト面、環境面及び人的面における再発防止策により対応可能と考えており、その他については特にない。	
9442	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	18						18		4	4	18.6歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	小学校～クラブの帰り道に見守りの支援員はいなかった。	小学校～クラブの帰り道に見守りの支援員を２名配置させた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	遊具から落ちる、ぶつかる。	遊具、玩具を使用前に点検する。遊具のある場所に支援員を配置する。	1.集団活動中・見守りあり	建物の壁、柱、花壇のブロック、フェンスなどにぶつかる。	安心クッションを巻くなどする。	–	事故前の児童の様子は見てないのでわからない。	4.対象児の動きを見ていなかった	施設に帰る前のことなので支援員は見ていない。他の児童の知らせで支援員ひとりが事故現場にかけつける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設で他の児童の対応をしていた。	学校～クラブ 帰り道見守りの支援員がいなかった。	なし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9443	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	69						69		9	3	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	ブランコ遊びの時には、今後も必ず支援員が見守りをし、ブランコに乗っている児童のそばに他の児童が近づかないように見守りをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ブランコの乗り方や周囲での遊び方について考える	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ブランコ遊びのルールを確認し、徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、好きなブランコ遊びを楽しんでいた。立ちこぎをしており、少し手を緩めた時に他の児童がブランコに触れてしまい、落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くに立ちブランコ遊びを見守っていた。他の児童が担当職員に話しかけブランコに駆け寄ってきたため止めようと振り向いた間に、もう一人他の児童がブランコに触れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は屋内外の違う場所で見守りをしていた。児童の泣き声や担当職員の呼びかけにすぐ気づき、園主幹教諭に報告、園の保健師がけがをした児童の手首を冷やしながら、連絡した保護者の迎えを待った。	特になし	子どもの活動状況に応じて職員の配置を考え、見守りの強化を図る。	
9444	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6						6		2	1	21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外科頸骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	遊びとして行う時間帯ではなかった。	見守りの支援員がしっかりいる場合にさせる。子どもの要望を断るべきだった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱を使用せず、人の体を使って行った。	跳ばせ方を考える。	3.個人活動中・見守りあり	1人ずつ順番に跳ぶことをきまりとしていたにも関わらず、支援員の「もう終わり」の言葉を聞かず、走って行き、跳んだ。	ルール、決まりごとを確認し、徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	順番を守っていたものの、終わりと言われもう一度跳びたい気持ちがわき、慌てて勢いを付けて走って跳んでしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	跳び箱の土台として体を丸めていたが、終わりと知らせたので体を起こそうとしたタイミングと児童が手をついたタイミングが一緒でバランスを崩し右肩から床に落下した。その後、慌てて抱き起こした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	洗い場で、使用済みコップを洗っており、他支援員の落下児童への「大丈夫？」という言葉で気付いた。	確認不足	活動内容や、活動時間を考え、見直す。必ず「見守る」立場の職員を配置する。	
9445	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童									2	1	19.7歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	下校途中の為、子どもの受け入れ態勢に問題はなかったと考えられる。	下校から児童クラブ事業所までの往来について、定期に指導を行うことを記載するようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年	下校途中の為、事故要因はなかった。	なし	7.その他	下校途中の為、事故要因はなかった。	なし	1.いつもどおりの様子であった	注意散漫になっていたと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中の為、見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中の為、見ていない。	下校途中の為、事故要因はなかったが、本児も含めて利用児童の交通安全意識の低さがあったと考えられる。	本児も含めて、児童に登下校時の安全な往来をするように注意喚起する。	
9446	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17						17		3		18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	危機管理対応マニュアルを再度、確認し、事故防止に取り組む。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	遊具に問題なし	大人数で遊んでいる場合は自分の番がくるまで時間的余裕があるため休憩もできるが、1人しか遊んでいない時は連続して遊んでしまうので、○回したら休憩を促すようにする。	1.集団活動中・見守りあり	自己流での遊びや危険行為をしがちな児童に目がいきがちである。	遊具で遊ぶ児童たちには危険行動や間違った使用方法は絶対に行わないように念押し。その他の遊具で遊んでいる児童にも時間配分を考えながら声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	常に活発である。6名の児童がうんていで遊んでいたがそのうち5名は他の遊具へ移動したため、対象児童が1人で使用することになり上達するために練習を行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	雲梯近くにブランコや鉄棒があり、危険行動や好奇心から違った遊具での遊び方をする児童がいて注意していた。鉄棒で前回りをする児童から見てねと言われ、そちらを振り向いていたら該当児童が雲梯から落ちて泣いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にいる児童への対応と要支援児童に対応する職員がいた。	1年生には特に目配りが必要。ただし、あちらこちらから声をかけられたら見ないといけないので振り向いてしまう。	室内はせまく遊ぶ場所がないので毎日外で遊んでいる。今回の事故は単独によるものではあるが、1人で遊具の遊びをする際は、必ず、1度は近くまで行き様子を確認するようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9447	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	4					4		2	1		20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修を実施する	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	ほうき保管場所の側に大きな木があり、根が地面より上がってデコボコしているため、足元が不安定であったと思われる。	・足元が不安定な場所では、十分に気を付けるよう児童への声掛け・定期的な安全点検の実施	1.集団活動中・見守りあり	特になし	転倒等の危険がある場所では足元に注意するよう、見守り中にも児童への呼びかけを徹底する	1.いつもどおりの様子であった	身体面では体調不良、ケガなどなく良好であった。精神面についても、いつもと変わらず元気な様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当時利用児童数は4名で、皆の様子が見渡せるように活動場所を中庭に限定していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者との面談をしていたため、見ていなかった。	特になし	ある程度の見守り範囲を声掛け等で意思疎通する。児童クラブを利用する高学年の低学年に対する声掛けや協力を得て、遊びの内容や範囲を利用児童で共有する。	
9448	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		4	4	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	特になし	声かけや目が行き届くようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	うんていの鉄部分が滑りやすくなっていないかなども注意していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	うんていなど落下する恐れがある遊具の把握	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員2人で見守っていたが、当該児童が落下した時は他児童との関りで手が離せず直接監視することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	特になし	特になし	
9449	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31							31		7	4	23.11歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指第2関節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/年	1.基準以上配置	支援員の配置の仕方や子どもの遊び方に問題はなく、ボールを故意に当てたわけでもない。偶発的な事故であるため要因を特定できない。	職員一同共通理解のもとで安全対策に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	当施設内及び施設回りについては定期的に点検できるが小学校の施設については小学校の管理のもと点検が行われる。	自施設については危険個所等無いよう常に点検し安全に気を付ける。小学校の点検報告を聞いたり使用している際に気づいたことを報告する等小学校と連携をとる。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	ボールを使って遊ぶときに注意をすることや危険な行為など、子どもたちが自ら危険を回避できるよう学習する機会を設ける	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	週に一度の校庭あそびの日だったので、とても楽しみにしていて嬉しそうだった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボール遊びをしていることは確認していたが、特に危険な行為もなく注意をする場面はなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は他の児童集団の見守りをしていた	特になし	遊具・玩具の点検管理を徹底する	
9450	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55							55		8	5	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	粉砕骨折	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	加害児童が、鉄棒をしていた被害児童を後ろから押した。	マニュアルの作成。	2.不定期に実施	実施頻度(十数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(十数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(十数)回/年	鉄棒の横に支援員を配置	鉄棒に座らせない	1.集団活動中・見守りあり	加害児童が、鉄棒をしていた被害児童を後ろから押した。	押さない、叩かない、言葉で伝えることを児童に伝える	1.いつもどおりの様子であった	楽しく園庭、鉄棒で遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員は全体を見守り観察していた、落下後状態を確認、室内に戻す	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援員は全体をみつつ、加配児童に付いていた	叩かない、押さない、言葉で伝えること	児童全体に伝える、鉄棒の横に支援員配置	
9451	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40							40		5	1	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度1回/年	2.基準配置	１６時以降の職員体制が手薄だった。	職員体制の見直しを行う	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	安全点検を定期的に行っているため	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危険物等はなく環境は整っていたため	1.いつもどおりの様子であった	職員に甘えたく、体によじ登った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危ないから降りなさいと口頭で注意をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登らないように口頭で注意を行った。	児童の行動予測が不十分だった	上記以外の要因はなした	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9452	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	70							70		5		4	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	なし	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修の開催を検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(–)回/年	特になし	点検は定期的に実施しており、ハード面の安全対策は既に十分であると考えられる。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	遊具の使い方・遊び方の注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	館庭前提を把握する必要があるため、当該児童からは離れたところで見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館庭で発生した事故であるため館内にいた他の職員からは事故発生が見えず、館庭に出ていた職員も他の児童を注視していた。	特になし	遊具の使い方・遊び方の注意喚起を行う。	
9453	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50							50		7		5	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折（全治未定）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	複数の遊びをするため、いつもより多い指導員の配置にしていた。	改善策なし。指導員の配置人数としては、適切な人数と思われるため。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	ブロックを4段積み上げ、ブロック跳び（跳び箱のような遊び）をしていた。他の遊びでマットを使用していてため、マットをしていなかった。	マットを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	ウレタンブロックを積み重ねていて跳び箱遊びをしていたため不安定である。	ホールという空間での激しい遊びを複数同時にすることを控える。安定しないウレタンブロックでの跳び箱遊びは行わない。	1.いつもどおりの様子であった	卓球で遊んでいたが他の子ども達が跳び箱をして遊んでいたため、元気に参加してきた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	激しい遊び（マット運動、跳び箱）の中間点で見ていたが、他の子に声をかけられ対応していたため、落下時に手を差し伸べられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の問いかけに対応していたため見ていなかった。大きなブロックで遊んでいる低学年の動きを見ていた。少し離れていた。	激しい遊びのため何度も声がけをしていた。（周りの確認や注意を促していた）	ホールでの遊びの種類の内容を再確認して、スペース等を考慮し、利用時間の見直しをした。	
9454	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	105							#		12		8	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	–	担当者は常に一人一人の動きを注視し安全確保に努める。どんなことでも気軽に話せる関係をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	–	廊下歩行は右側をしっかり前を向いてゆっくり歩くことを全児童と確認し合い、声を掛け合う。	1.集団活動中・見守りあり	—	見守りの徹底を図り，安全な歩行とそれを妨げるような人の行動や物の配置を絶えず確認する。必要に応じて除去する。	1.いつもどおりの様子であった	元気に登館し、友達と一緒に行動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	廊下担当職員は転倒した様子を見ており、直ちに駆け寄って声を掛けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当場所を見守っていたため、対象児を見守ることはできなかった。	—	安全なルールを児童自らが考える機会を設け、同時に事故回避能力の育成を図る。子どもから気軽に話や相談を受けられるよう日頃からの関わり合いを大事にする。	
9455	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3		2	22.10歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折・左尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故防止のための活動の工夫・職員全員でマニュアルを改めて確認するほか、市内各クラブ、職員へ共有し、再発防止を図る。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	月に一度実施する施設内点検において、外遊びで使用する場所の安全点検も行うこととする。	1.集団活動中・見守りあり	学校校地内のため、外遊びの際の危険個所についての点検や把握が不十分だった	月に一度実施する施設内点検において、外遊びで使用する場所の安全点検も行うこととする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中他児とトラブルがあり外遊びについて話合いをした。仲良く遊ぶことを約束してから午後の外遊びに出かけた際、他児と一緒に植え込み内に入り込んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこを1名で見守っていたが、本児が鬼ごっこから抜けて他児と2名で植え込み内に入っていったため、遊び場所に戻るように声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッチボールコートにて、他の児童6名とドッチボールをしていたほか、室内で過ごすことを希望する児童の見守りをしていた。	児童に対し植え込みに入らないことや、外遊びでは決められた場所で過ごすことなど注意喚起が徹底されていなかった	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9456	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		2		2	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	亀裂骨折打撲　爪の損傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	スチール製の下駄箱を倒れやすい場所に置き、かつ固定していなかった	壁面に移動し、固定金具で固定した	7.その他	早く外に出たい気持ちが強い児童がいた	ゆっくり焦らずに外へ出るよう声掛けをする	1.いつもどおりの様子であった	人より先に出たい気持ちは強くない児童なので、落ち着いて順番を待っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	室内にいた職員は閉館業務等で児童の様子を見ていなかった。外にいた職員は外のスペースで整列の声がけをしていたため室内の様子は把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本館にて勤務していたため、状況は報告を受けて知った。	児童の見守りの徹底	特になし	
9457	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		3		1	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	両手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	職員ひとりひとりの児童への対応・見守りを改善する。	職員から児童への声がけをこまめにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	他の危険な行動をとっている児童をみていて、対象児を見ることができなかった。	見守りの職員を増やしたり，児童の遊び方を変えるなどの対応をとる。	1.いつもどおりの様子であった	楽しく鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見つつ、危険なことが起きそうな場所の近くにいたため気づくことが遅くなってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館内にいる児童の見守りと、保護者対応、電話対応をしていた。	週末ということと、外遊び後半ということもあり疲れがたまっていたのではないかと考えられる。	特になし	
9458	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43							43		9		8	22.10歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	–	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	–	1.集団活動中・見守りあり	特になし	–	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり友だちと元気に遊んでいた。ボール遊び中、相手のボールを避けようと後ずさりした際に、後方にうつ伏せの状態でいた児童に気づかず躓いて転んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボール遊びでアウトになった児童は、転んだままなかなか立たなかったり、寝転んだままでいたため、それらの児童には危険を感じ注意していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室には担当職員以外にも時々他の職員が見守り、転んだままなかなか立たなかったり、寝転んだままでいたりした児童に対して危険を感じ注意していた。	特になし	–	
9459	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38							38		8		6	21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1 0 0)回/年	施設について破損等の異常は見られなかったが、活動目的を考えより静かに過ごすことができる対策を実施したうえで活動する必要があった。	読書やゲーム的な内容ばかりでなく児童の興味を持続させるよう活動の種類を増やしていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り友達とボードゲーム等で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の動きがよく見える所で、全体の動きを確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童は４つの部屋に分かれて活動していた。また、その他に外での活動も行っており、職員それぞれが担当場所に分散していた。	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9460	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	119							#		9	7	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	職員配置の周知徹底を定期的に実施していなかった。	定期的に職員研修を行い、職員配置を見直す。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	段差の境界がわかりづらい。	階段に段差が分かるようにテープを貼る工夫をする。	1.集団活動中・見守りあり	動きが活発な児童だったので、注意が必要だった。	日常的に階段付近では走らないよう指導をする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児の動きは普段と変わった様子は見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室の準備をしながら安全に配慮して見守っていた。本児がステージ上にいることは把握していたが，転倒を防ぐために手を差し伸べることは難しい立ち位置だった。転倒後すぐに傍に行きケガの状況を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室以外で他の児童の対応，電話対応，事務作業等を行っていた。	児童へ注意喚起できる距離に立っていなかった。	なし	
9461	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	56							56		6	6	20.8歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端骨折，右腕橈関節脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	道路が下り坂であった。電気工事のため車両や工事関係者がいた。	走らずに登館するように継続して声掛けする。道路の点検等も行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	点検、巡視を強化する。	日常点検と月１回の安全点検を引き続き必ず行う。	1.集団活動中・見守りあり	職員の目の届かない登館途中であった。	状況に応じて登館途中の見守りなども行う。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	走って転倒し、顔色も悪く痛みがある箇所を動かすと痛がり泣いていた。（右肘）	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	痛みの箇所を確認しつつ患部を冷やして対応した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	けがの状況を確認しつつ他児の登館も対応した。また登館時刻が近かった他児より状況の聞き取りを行った。	当日は中学生の職場体験の受け入れ中で1年生は「ホール」を遊ぶ場中であった。職員2名は移動していた。児童館には4名が在館していた。	配置の余裕がある場合は登館途中の見守りも行う。	
9462	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	114							#		16	11	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	他児とケンカをした直後で興奮していた。	児童同士が揉めている時は、安全な場所で落ち着いて話し合いをするなど配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具の高さ	高さのある遊具を安全に使用する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	トラブル対応の際、必ず安全面を確保して対応に当たる。	1.いつもどおりの様子であった	来館してすぐに外に出て遊んでいた。職員と楽しそうに虫の話をする様子もあった。その後、木の棒をめぐって他児とケンカになりそのまま滑り台まで上った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険な様子が見えたため、けんかを止めた。１度落ち着いたため、対応は終えたが近くにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの際は、高さのある遊具など危険箇所に職員は分かれて配置していた。	滑り台から移動する際、滑るのではなく後ろ向きに逆走してしまった。	遊具の安全な使用について注意喚起する。高所の遊具を使用している際の他児と関りについて見守り、危険な場面に気づき遊び方を工夫できるよう声がけをする。	
9463	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37							37		6	1	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１2)回/年	2.基準配置	–	各部屋に職員を１～２名配置し，児童の見守りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年、（２）回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年、（２）回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年、（２）回/日	湿度が高く床が滑りにくくなっていた。	気温や湿度を随時確認し，遊びの内容を検討し柔軟に対応する。	1.集団活動中・見守りあり	湿度が高く床が滑りにくくなっていた。	スタート地点が児童で混雑しないようにルールを工夫して，複数個所のスタートにする。	1.いつもどおりの様子であった	体を動かして遊ぶことが好きで運動能力も高い活発な児童。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室での集団遊び鬼ごっこに審判役で職員が見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各職員は，各部屋に配置していた。	–	特になし	
9464	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	82							82		8	4	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	夏休みということもあり、子ども同士で過ごす時間が長く、普段よりスキンシップをとる行動も多く見られる。	部屋だけでなく、廊下での様子も見守るよう複数の職員間で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	それぞれ児童の重さや力加減が違うが年下の児童を可愛がる行為でもあり、禁止行為にはしていなかった。	廊下他で子ども同士のおんぶ、だっこはしないよう声がけをしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夏休みが始まって間もなく、楽しい気分が年下の児童へのスキンシップを招いていたと想像する。	4.対象児の動きを見ていなかった	図書室、集会室には支援員がいたが廊下に注意がいかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員、補助員は他の部屋の児童の見守りをしていた。	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9465	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37							37		6	1	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	–	各部屋に職員を１～２名配置し，児童の見守りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年、（２）回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年、（２）回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年、（２）回/日	湿度が高く床が滑りにくくなっていた。	気温や湿度を随時確認し，遊びの内容を検討し，柔軟に対応する。	1.集団活動中・見守りあり	湿度が高く床が滑りにくくなっていた。	スタート地点が児童で混雑しないように，ルールを工夫して，複数個所のスタートにする。	1.いつもどおりの様子であった	体を動かして遊ぶことが好きで運動能力も高い活発な児童。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室での集団遊び「鬼ごっこ」に審判役で職員が見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各職員は，各部屋に配置していた。	–	特になし	
9466	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		17	12	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	事故発生時、校庭の職員体制が３名だったが、状況によってはそれ以上必要な場合もある。	特に１年生は、遊具の使い方についてその都度確認してから使用させる事を改めて共有した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	滑りやすい所や危険個所がないか、より注意してみる。	1.集団活動中・見守りあり	シーソーのバランスについて、急に降りたらどのようになるかまで理解できなかった。	集会を開き、再度校庭での遊び方について話し合い、実際に遊具を使って留意点等確認する。	1.いつもどおりの様子であった	１年女児数名とシーソーをして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	シーソーをしていた傍らで、様子を見守っていたが、他児の仲裁で後ろ向きになってしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊びをしていた児童を、シーソーから離れた場所で見守っていた。	シーソーの使い方について学年集会を行ったが一度では足りなかった。普段のあそび方を把握し、どのようなサポートが必要なのかスタッフで共有できていなかった。	その日の子どもの状態を把握し、必要に応じたサポートを行う。	
9467	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15							15		2	2	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	職員間で段差の存在と危険性を認識していなかった。	段差の存在と危険性を職員間で情報共有した。	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/日	遊んでいる場所に段差があった。	段差のある事を児童に周知し、気を付けるよう促す。	1.集団活動中・見守りあり	そこに段差があるという認識が無かった。	遊びに入る前に気を付けるよう声掛けする	1.いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	瞬間は見ていたが「あっ」という瞬間に手助けする位置にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている児童に対応していた。	段差のある事の児童への周知が不十分であった。	段差のある事を児童に周知し、気を付けるよう促す。	
9468	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	8							8		2	2	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル等は無いが、職員配置に問題はない。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	玩具、施設等関することではないため問題はない	1.集団活動中・見守りあり	夢中になり、ボールを投げた際勢いが付き転んでしまう。	ボール遊びでの約束などを改めて知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	相手チームで一緒にドッチボールをあそんでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしていた児童がおり、そちらを見守っていた。	夢中になっていたため、落ち着いて遊べるよう声かけもしていたが、とっさのことに対応ができなかった。	夢中になりすぎているときには、休憩を入れるなど、落ち着きを取り戻せるようにする。	
9469	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20							20		3	1	23.11歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	特になし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/日	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	準備体操の内容が不十分であった。	異年齢による遊びの為ゴム製ボールを使用していた。防ぎ用がない事故であった。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールを一生懸命やっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見ながら、共に活動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で活動していた児童に対応していた。	児童の運動能力や身体の強さが、事故の要因と考えられる。	児童の運動能力や身体の強さに関わると考えられるので、準備運動を行うことで、ケガや事故の防止が期待できる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																															
9470	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	146							#		12	11	18.6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度（　）回/年	2.基準配置	無し	遊戯室はドッジボール、跳び箱，マット使用等同時に遊んでいる。職員配置は３人で適正だったが、怪我をしたことに対し会議等で事故未然防止のための学習や話合いを行なった。	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	登録児童が増加したため施設が過密状態になっている。	保育室、遊戯室、グランド、体育館等での活動を多くし、過密にならないように工夫して行く。	1.集団活動中・見守りあり	無し	今年度は登録児童数が増加し１２人の職員体制では、安全を守れない危機感があるので職員の増員の検討をする。	1.いつもどおりの様子であった	女子２人と一緒に遊んでいたので、準備は自分たちでしていた。危険な遊び方はしていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室での職員体制は通常だったが、遊びの近くで見守りをしていなかったので事故の場面を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他児の見守りや一緒に遊んでいたので対象児の動きを見ていなかった。	無し	無し	
9471	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	78							78		10	5	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫左腓骨遠位端裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.基準以上配置	特になし	毎日行っている打ち合わせにて職員全員へ報告。見守りの際の注意点や改善策について話し合いを行った。	1.定期的に実施	実施頻度（８）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（４）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（５０）回/年	特になし	なし（広場の遊具等の施設や設備を利用してのケガではないため）	1.集団活動中・見守りあり	４月に入所したばかりで、広場に慣れていない環境の中、遊びに夢中になってしまい転倒した。	スタッフが可能な限り、細かな観察をし、声掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になり、地面の状態等、周りが見えていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	広場全体の見守りをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当ポジションにて見守り中	特になし	集団生活での守るべきルールや見通しを持った過ごし方を示し理解させる。保護者・小学校・今後受診予定の医療機関との連携を密にしていく。	
9472	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31							31		5	3	19.7歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	下校時の危険に関する子どもたちへの危険予知トレーニングがあまりできていなかった。	事故予防に関する研修に積極的に参加する。事故予防マニュアルについても早期に作成する。下校時の危険について下校路の写真を見せながら独自の危険予知トレーニングを実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	特になし	なし	7.その他	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	下校途中の出来事であり、当日の児童の様子についてはわかりません。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中の出来事であり、学童から児童の様子は見えず、同学年の子が男児が転んだことを教えに来てくれて、すぐに駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同学年の児童から知らせを受け、指導員１名が現場に向かう。その他２名は児童が続々帰所してくるため、学童で保育、子どもたちを迎え入れていた。	転倒した場所が小学校敷地内で、学童までにはまだ少し距離があり、対応するまでに少し時間がかかってしまった。	指導員1人で現場に駆け付けたが、早い段階で、施設内の指導員1名を応援に呼ぶべきであった。	
9473	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31							31		5	3	19.7歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	下校時の危険に関する子どもたちへの危険予知トレーニングがあまりできていなかった。	事故予防に関する研修に積極的に参加する。事故予防マニュアルについても早期に作成する。下校時の危険について下校路の写真を見せながら独自の危険予知トレーニングを実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	特になし	なし	7.その他	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	下校途中の出来事であり、当日の児童の様子についてはわかりません。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中の出来事であり、学童から児童の様子は見えず、同学年の子が男児が転んだことを教えに来てくれて、すぐに駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同学年の児童から知らせを受け、指導員１名が現場に向かう。その他２名は児童が続々帰所してくるため、学童で保育、子どもたちを迎え入れていた。	転倒した場所が小学校敷地内で、学童までにはまだ少し距離があり、対応するまでに少し時間がかかってしまった。	指導員1人で現場に駆け付けたが、早い段階で、施設内の指導員1名を応援に呼ぶべきであった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9474	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	52							52		4	2	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き室内での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	
9475	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59							59		5	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら、危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き、屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて、再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	
9476	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		5	3	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	ブランコが止まってから降りるよう声かけをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ブランコに乗る前に、危険な乗り方をしないように子どもたちへ伝える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊具の危険箇所の確認と子どもたちへの危険箇所の周知を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	いつものとおりのグループで遊んでおり、その流れでブランコに乗って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	目に入る位置で補助員が見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はそれぞれの違う担当の児童を見守っていた。	遊ぶ範囲が広く、職員の目が届かない所もあった。行動を起こす前の注意の声かけが必要と感じた。	職員配置の確認と職員一人ひとりが全体を見るよう心がける。	
9477	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		3	1	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折、右尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特に無し	無し	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特に無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	無し	1.いつもどおりの様子であった	常時、数人の子どもたちと木登り等の遊びをしている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	特になし	見守り職員は立ち位置を考えて行動できるようにする。子どもたちの動きに細心の注意を払う。	
9478	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	67							67		10	8	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	戸外遊びでは職員が児童を見守る範囲が広く、全体の児童の見守りができなかった	戸外遊びでは、遊びをいくつか指定して職員が見守れるように改善した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	雲梯は本人ができるようになっていて、学校でも1年生は使用して良いことになっていたが、一番高いところが2メートルの高さがあった	学校では雲梯の使用許可が出ているが、安全面を考慮してクラブでは使用しないこととした	1.集団活動中・見守りあり	本人ができるようになって少し気の緩みもあった	どんな時も職員は必ず児童を見守る	1.いつもどおりの様子であった	雲梯ができるようになったので得意になって往復していた	4.対象児の動きを見ていなかった	雲梯をする様子を見ていたが、他の児童に話しかけられ振り向いて目を離した時、本人が雲梯から落下した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落下した児童と職員のそばに行き、鼻血の止血手伝う。トランシーバーで緊急を知らせる。	戸外活動で児童の把握ができる遊び方をしていなかった	児童の安全確認ができる職員を配置する	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9479	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6						6		2	1		21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	全支援員等へのマニュアルへの再共有（支援員等全員に事故対応マニュアルを配布）、更にミーティングにて事故事例の検証を行う。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	配置支援員の再検討（補助員の配置時は経験のある支援員を組ませる）	1.いつもどおりの様子であった	朝から元気で、宿題を終わらせると、外遊びが待ち遠しくて仕方ない様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラブ室を出ようとした所、学校長に呼び止められ話をしている間に事故が発生した。子ども達の声は聞こえていたが、姿は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ室内で遊び児童を見守っていたため、見ていなかった。	特になし	今後は手の離せない支援員がいた場合、他の支援員等に子どもたちを引率してもらう。子どもたちだけで外遊びに行かせないようにする。	
9480	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27						27		5	2		23.11歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	登り棒の遊び方について上部で座る子もいる為、注意喚起はしていたが、自信と気の緩みもあったように思われる	遊びかたの注意喚起を徹底する。連続して登る時は、休憩等少し休ませる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ただ登るだけでなく、ぶら下がって飛び降りたり遊びを発展していたため、そこに無理や気を抜いたことが重なり不意に落ちたと考えられる。	のぼり棒についての危険性の共有のため、遊び方の確認をする。	3.個人活動中・見守りあり	成長と共に遊びを発展させていたが、無理したり、ふと気を抜いた時に疲労もなかったか。	児童の成長に応じて遊びを発展させることは認めながらも、注意喚起が必要	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの時間になり、登り棒で頂上まで行っては、飛び降り、揺れを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	登り棒の隣で対象児となる2人の児童を声かけしながら見ていたが、同時にサッカーをする児童に目をやったときにドスンと音がして振り向くと、対象児が地面に倒れており落下する瞬間の対応に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の行動を見ていたため、見ていなかった。平行棒・一輪車・砂場	登り棒が流行しており、それぞれが上まで登ったり、技を磨く子もおり、楽しむ一方で無茶してしまうことがある。	高所での遊びとなるため、得意であっても気を抜かないように適時声がけを行うと共に、外遊びの指導員配置も可能な限り3人以上の配置を行う。	
9481	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	81						81		6	3		21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関して職員会議などで話し合っていきます。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	施設の安全点検に関しても定期的に実施し、事故予防に努めていきます。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ドッヂボールの時には柔らかいボールを使う。キャッチするときに指ではなく腕でキャッチするように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に友達と遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボールが指にあたったことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところでほかの児童の様子を見ていた。	ボールが指にあたることを防ぐことは難しいが、事前に注意喚起はできたと思う。	ボールをキャッチするときに手で取りに行こうとすると指にあたってけがをすることがあると注意喚起するべきであった。	
9482	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71						71		7	5		18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	遊びの種類や、経験年数によって職員配置のバランスを考える。	代表者の会議において事故報告を確実に行い、危機管理を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	活動中の児童の動きを想定し、事故発生前に注意喚起が必要であった。	室外保育の配置を状況によって見直し、常に最善の環境を整える。	1.集団活動中・見守りあり	遊具での遊び方について繰り返しの注意喚起が必要であった。	室外保育で起こりうるケガ等の具体例を職員が共有し、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	通常の遊具遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒に気が付くことが出来ず、また痛みの訴えもなかった為処置をしなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の保育中であった。	あらゆるケガ・事故を想定し、活動前に児童への注意喚起が必要。	室外活動前に職員間の配置、動作確認を徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9483	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77							77		5	3	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びから帰るときは、遊具だけでなく、事故発生の可能性のある階段なども含めて注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当日、玩具の片付けや別の児童に対応しており、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日、電話対応をしていたため、見ていなかった。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。また危険な行動がないよう児童に声掛けをする。	
9484	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		6	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手 小指剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事例を全員で共有し、軽い準備運動の徹底を促していく	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	軽い準備運動の徹底を図る	1.いつもどおりの様子であった	普段通り遊んでいたが上級生のボールが早すぎて動きについて行けず、キャッチが上手くいかなかったため小指にあたってしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボールをする児童全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ等間隔で他の児童の遊びを見守り中だった	特になし	痛みなどを日頃から支援員にしっかり伝えられるよう支援する	
9485	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56							56		7	5	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	屋外の場合の天候や遊具及び地面のコンディションも環境要因として記入する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	学校が事故発生場所での遊びをしていない事を鑑み、クラブでも遊ばない事とした。	学校が○○の森での遊びをしていない事を鑑み、○○の森でも遊びをしない事とした。	3.個人活動中・見守りあり	雨天が続いていて、レンガ等が湿っていたため滑りやすくなっていた。	学校が事故発生場所での遊びをしていない事を鑑み、クラブでも遊ばない事とした。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように他児らと冒険ごっこと称して校庭中を伝い歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が転んでいるのを発見したと同時に一緒に遊んでいた児童らが報告に来た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児らを見守っていた。	本児が普段している遊びだったため、職員が気を付けて見守っていなかった。	雨天が続いている時の校庭遊びについて滑りやすい所で遊ばないよう、遊ぶ前に滑りやすい箇所を子どもたちに周知する。	
9486	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	0							0		8	5	19.7歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脳震盪、直後痙攣、左肺座礁、左気胸、肝挫傷、打撲、擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	障害児2名ないし3名につき指導員1名を加配することができる。	基準以上の配置を行っているため、改善点なし。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(日々)回/年	特になし	引き続き、児童が利用する環境にあるものを適宜点検を行っていく。	7.その他	特になし	交通ルールについて児童と話す時間を設け、安全に登所・降所できるよう支援を行う。	1.いつもどおりの様子であった	児童クラブに登所後、室内で過ごし、お誕生日会にも参加。おやつを食べ、降所まではいつも通りの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降所時の事故であったため見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降所時の事故であったため見守りなし」。	事故状況によると、横断歩道のない道を渡ってしまった。	通学路の確認をし、危険個所について周知徹底する。	
9487	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	53							53		7	2	21.9歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	室内で過ごす際は、落ち着いて行動することを指導した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	初めての取り組みあったので、ややはしゃいでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが本児が転んだ場面を見ていなかった。また本児からも訴えがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ部屋で保育の見守り中の職員も気づいていなかった。	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9488	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		4	4	24.12歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の強打(骨折)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	色々な遊びを分散して行っている為、指導員の目が届きにくい状況なので、連携がより一層必要。	配置及び目配り・気配りを広い範囲で向けるよう注意していきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	日々の保育前後の環境整備時に、玩具の破損等の点検・修理を行う。	学校や地域・指導員間で随時点検し、安全に配慮する	1.集団活動中・見守りあり	集団活動全体を把握できるような、目配り・気配りを徹底する	体育館は、滑りやすいので、靴を必ず履くように注意していく。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	数日前に足を捻り痛めてシップを貼っていた。家の用事で長距離キックボードで移動をし疲労もあった。急遽学童へ来所し上履きを履いていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	靴を履くように声を掛け促したが、履かず見守ってしまった。バスクをー緒にやっている支援員はいなく、滑って転倒してから気づき担当支援員が急いで体育館の外へ誘導した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は母親にすぐに連絡し、状況説明を行い、対応可能な病院を探した。他の児童を学童へ誘導。	普段から、体育館履きを脱いで遊ぶ子も多いので、注意を以前からしていたが、履かない子に対して履くまで見守る対応が出来ていなかった。	保護者・児童と共に、保育中の安全管理に関しての確認や点検についての話し合いを行い、情報共有や安全対策の改善等に取り組んでいく。	
9489	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		4	2	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	玄関とは反対側で見守りを実施していたが、段差部分で女児がつまずいたところは見えなかった。	出入口にある玄関付近では遊ばせない。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	段差が原因	建物の周りは走らない	1.集団活動中・見守りあり	玄関の反対側で玄関側も見ていたが洗い場に近いので女児がつまずいたところは見えなかった。	走らせない。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをして捕まえられないよう下を見ていなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	玄関の反対側で玄関側も見ていたが、洗い場に近いので女児がつまずいたところは見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	建物から離れたグラウンドの端にある雲梯にいる児童の見守りを実施	外遊びに出る際はいくつかの約束をしているが、段差については特にしていなかった。	注意箇所として、階段と洗い場の1箇所にペンキを塗る。	
9490	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		3	2	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右ひざ下骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	予測できない動きを止めることが出来なかった。	リスクの検討を行い、職員に周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(31)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	うんていに破損個所はなく、下にマットが引いてあった。	注意書きの張り紙をする。	1.集団活動中・見守りあり	園庭にて保育中好きな遊びをしていた。	園庭全体を見渡せるような職員配置を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園庭のうんていをしていた。勢いをつけて身体を前に振り出し、次の鉄棒をつかもうとしたところつかみ損ね落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童と一緒に除草していて、対象児童に気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の側について遊びを見守っていた。	特になし。	特になし。	
9491	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72							72		11	3	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折、尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	校庭にてはしご登り鉄棒跳びをしている際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし	遊具から降りるときには十分注意するよう声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面			人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9492	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		6		3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	コロナ禍で密集を防ぐため、室内遊びと庭遊びに児童を振り分けて遊びの時間を取るが、職員も分散したことにより見守りが手薄となったことが要因として考えられる。	遊びの時間配分や配置する職員数に注意する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(数)回/年	外遊びの際、庭が狭く十分に遊べるスペースがない。	事故が起きた箇所周辺について、滑りやすい・躓きやすい等の状況がなかったか確認することに加え、事故が起きにくいスペースの配分と遊びの内容を考慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員が他の対応をする際には、他職員に一時代わりに見守りをお願いする等、子どもだけの活動とならないよう注意する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びに夢中になりすぎて周りが見えにくくなっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の迎えに来ていた保護者対応をしていた為、対象児から目を離していた。事故発生後は応急措置を行い、痛がる児童に寄り添い安心できるよう声掛けをした。その後、より早く家族に知らせる方法を取り正確に伝えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の外遊びの子どもたちを見ていた。事故発生後は他の児童たちの生活に影響が出ないよう、配慮した。	事故当時、他児のお迎えに来ていた保護者への対応をしている職員もいたため、人的に少ない面があった。	児童に関わる（見守る）職員数をしっかりと確保する。児童が遊びに夢中になっており、周りが見えにくくなっている際は、けがをしないように注意を促したり、少しクールダウンするように声掛けしたりする。	
9493	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		4		2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘　骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	なし	1.基準以上配置	ソフト面では問題なし	再度、放課後児童クラブ事故・災害対応等マニュアルを全員確認し、事故が発生した経緯や再発防止策について職員間で情報共有を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	天候不順と熱中症警戒による限られた外遊び時間の為、早く遊びたいという気持ちが強かったこともあり、普段と比べると積極的に外遊びに参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が把握できる所にいたので、本児の手が届くところにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた為、離れた場所にいた。	鉄棒の上に登るということを想定していなかった。	遊具の安全な使い方、遊び方の指導を行う。	
9494	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		6		3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折（右上腕外顆骨折）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	清掃時間中にも転倒などして大きなけがをする可能性があることを認識できていなかった可能性がある。	一般的に危険が少ないと思われる活動内容であっても想定外の事故が起こりうる可ことを再度認識し、情報共有して危機意識を高め、児童全体にも声掛けを行うようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊具等を使用しない屋外清掃活動でありハード面での問題はなかった	活動時のグラウンドの状態から想定される危険性の確認を行い、支援員間で情報共有を行うとともに、児童全体に声掛けを行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後は清掃場所や作業内容により、想定外のけがをすることを考えさせ、思わぬけがにつながる事故が発生することを理解させる。	1.いつもどおりの様子であった	天候も良好だっため、おやつが終わった後、グラウンドで草取りを実施した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童を目視できる場所で見守りながら一緒に草取りをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見守っていたため、事故発生時は見ていなった。	当日は屋外の清掃を実施していた児童２０人に対し、支援員３人で見守りを行っていた。	清掃活動での見守りポイントを再確認するとともに、危険が想定される場面について重点的に見守りを行うようにする。	
9495	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		5		4	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	数名の児童が順番に適切に遊んでおり、指導員もその場にいたが、突発的な事故であり、受け止めるのは容易ではないと思われる。	これからも遊具には指導員が付き、落下の危険などより注視してみていく	3.未実施	なし	3.未実施	なし	3.未実施	なし	特に無し	高さのある遊具の為、落下すると大きな事故になることを認知・共有する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子供たちのに注意喚起をしていく	1.いつもどおりの様子であった	腹痛を訴えてはいたが時々起こることであり、顔色や体調はいつもと変わりなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	指導員がついており、把握していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの遊具に指導員が分散して配置されており、主任も違うところで他児を見ていた為、落下の報告をう受け、駆けつけた。	特になし	得意なこともあり何度も、何度も繰り返し行っていた。児童の疲れ具合をみて、休憩を促すことも必要。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	事故の要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9496	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77						77		7	4	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	–	毎日のミーティング時に、安全について確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	施設、設備の不備による怪我ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり	–	育成支援の状況が原因ではなかった。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は館内及び、戸外で他の子どもの見守りをしていたため、担当職員以外本児の動きを見ていた者はいなかった。	–	危険な行為や危険個所について、子どもと確認。	
9497	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	77						77		7	4	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	–	支援を必要とする児童の関りについて、職員で学ぶ機会を持つ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	施設、設備の不備による怪我ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり	–	育成支援の状況が原因ではなかった。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は、別の部屋及び戸外で見守りをしていたため、担当職員以外本児の動きを見ていた者はいなかった。	–	職員の専門性の向上のため、研修実施。	
9498	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	94						94		8	4	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	2.基準配置	特になし	引き続き研修を通して事故の予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	特になし	引き続き安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	改善策なし。 理由今回の怪我は環境面が原因でないため。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	加害児童は、外遊びをしていたため、テンションが高かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	児童が戻ってくる時は見守るようにしているが、保護者対応で見守りが手薄になり気付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グラウンドの児童の見守りをしていたため、見ていなかった。	特になし。	児童の様子や周りの状況に気を付けながら、怪我の予防に努める。	
9499	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	49						49		8	3	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕から関節部にかけて骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	施設使用のルールの見直し	1.定期的に実施	実施頻度(２６０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２６０)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	通常通り鉄棒付近で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にいたが転落の瞬間は見ていない。他の職員の報告を受け様子を確認し室内に連れ帰り対応を協議し保護者に連絡する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	偶然に至近距離にいて転落を見ている。その後、駆け寄り、様子を見て即座に異常であると判断し、担当に連絡報告する。	特になし	特になし	
9500	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	12						12		4	3	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位部骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	指導員間で危険だった状況や事例を共有し子ども達へ声掛けを行う。学童全体で誰かが危険なことをしていると注意できる環境をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	年１回	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に「大縄跳び」の活動中	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動場にいる他の児童の見守り	大縄跳びの順番待ちで寝転がっていた	今まで以上に「ふざけない」「寝転ばない」など危険と思われるときに声掛けしていく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9501	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		1	4	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手手首骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険な可能性が有る場合に声掛けを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故については特に問題なかったと考える。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	近距離でボールを投げたり蹴る場合には、力をセーブするように声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもの動きとボールの動きを追っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具や他の子どもを見持っていた。	特になし	活動中の子どもをしっかりと見守り、事故につながらないように声掛けを積極的に行っていく。	
9502	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		4	1	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	不定期	2.基準配置	特になし	ソフト面における改善策はなし。	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	特になし	ハード面における改善策無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	環境面における改善策は無し	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	全員体育館で各々動き回り遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	直前まで対象児を見ていたが他に目をやった数十秒の間の出来事だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見守っていた為確認をしていない。	特になし	各々がボールで遊んでいる為、ボール遊びのルールを決める	
9503	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23							23		3	2	22.10歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2年に1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故防止マニュアルの見直しを今年度内に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	遊具や玩具の点検の回数を増やす。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の人数に合わせたスペースの確保と支援員の配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	同学年の男児と一緒にキャッチボールをし、互いの間隔は空いており至近距離ではなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険な行動をする様子はなく、楽しくボールを投げ遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	キャッチボール以外で遊んでいる児童の様子を見守っていた。	特になし	特になし	
9504	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足 脛骨 剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	怪我防止に関する声掛けが足りなかった。	遊具を使う際にはどんな危険が起こるか分からないので、事故防止の観点から児童を見守り、適切な声掛けを行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	今回は学校の遊具であったため、学童での安全点検は行っていなかった。	子どもたちが遊ぶ学校の遊具も定期的に点検をする。学校の遊具は学校での遊びの決まりを確認し、学童でも同様に遊ばせることとする。	1.集団活動中・見守りあり	複数の部屋で合同の外遊び時間だった為、他の部屋の児童や支援員との関わりあいながら遊んでいた。	複数の部屋で合同の外遊びをする場合は、いつも以上に見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りの様子で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の部屋の支援員と補助員2名で、対象児童も含め見守りや声掛けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋の支援員と補助員2名で、対象児童以外の児童の見守りや声掛けをしていた。	離れた場所から見守っていた為、遊びの中での危険に気づけず、適切な声掛けが出来ていなかった。	一度事故が起こった遊具や遊び場については、子ども達にも危険性を認識させ、自己防衛を学ばせる。	
9505	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足 脛骨 剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	怪我防止に関する声掛けが足りなかった。	遊具を使う際にはどんな危険が起こるか分からないので、事故防止の観点から児童を見守り、適切な声掛けを行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	今回は学校の遊具であったため、学童での安全点検は行っていなかった。	子どもたちが遊ぶ学校の遊具も定期的に点検をする。学校の遊具は学校での遊びの決まりを確認し、学童でも同様に遊ばせることとする。	1.集団活動中・見守りあり	複数の部屋で合同の外遊び時間だった為、他の部屋の児童や支援員との関わりあいながら遊んでいた。	複数の部屋で合同の外遊びをする場合は、いつも以上に見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りの様子で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の部屋の支援員と補助員2名で、対象児童も含め見守りや声掛けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋の支援員と補助員2名で、対象児童以外の児童の見守りや声掛けをしていた。	離れた場所から見守っていた為、遊びの中での危険に気づけず、適切な声掛けが出来ていなかった。	一度事故が起こった遊具や遊び場については、子ども達にも危険性を認識させ、自己防衛を学ばせる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9506	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		6	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足くるぶし 剥離骨折・骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	児童の半数は外遊びに出ていなかったため、外遊びの支援員の見守りが手薄になった。	支援員の見守りの人数をできるだけ増やしたい。	1.定期的に実施	実施頻度(約250)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約250)回/年	太い木の根が地面に出ていた。	児童が移動するときに、足元に気を付けて歩くよう声掛けをする。	1.集団活動中・見守りあり	アップダウンのある地形の為、事故が起きた場所は支援員の死角となり対象児の様子を見ることができなかった。	死角のないように支援員の配置をしっかりと決め、子どもたちの活動全体をも守ることができるようにしたい。	1.いつもどおりの様子であった	他児が横に並んで歩いていたため、足元を意識していなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故が起きた場所が、最寄りの支援員の死角となっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びの様子を見ていたため見られなかった。	特になし	事故を未然に防ぐため、日常の管理・点検に努める。	
9507	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		5	3	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎右側内切歯外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	研修、協議をする時間を定期的に確保し、対応の仕方や話の聞き方、伝え方を支援員同士でも共有しスキルアップを図る。	1.定期的に実施	実施頻度(約250)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約50)回/年	特になし	児童クラブ室の外（学校敷地）で起こった事故であり、学校側に共有を図った。	1.集団活動中・見守りあり	注意しても聞かず、手が出たり力も強いため対応できる支援員が限られる。	支援員として注意の仕方や接し方の知識を深める。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発な傾向だが当時は普段と変わらない状態であった。児童同士の叩き合いや口喧嘩は日常的であり、ケガや問題行動をした日は保護者に伝え支援員が協力して見守り活動を行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者のお迎えが一番多い時間を重なり他の児童と保護者の対応で目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者の迎えや電話対応により対応できる支援員がいなかった。	特になし	支援員の数を確保し、配慮を要する児童に対応できる人員を増やす。	
9508	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		5	3	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修を行い、児童の移動時の声掛けをして転倒を防止し、安心クッションをつけるなど改善していく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	使用前に点検する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ロッカーに安心クッションをつける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもがロッカーへ折り紙を片付けに行っていたので、移動中は近くにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	５人の支援員が分かれてロッカーに折り紙を片付ける子どもを見ていた。	特になし	慣れている場所でも安全に過ごせるように指導する。	
9509	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		5	3	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修を行い、児童の移動時の声掛けをして転倒を防止し、安心クッションをつけるなど改善していく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	使用前に点検する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ロッカーに安心クッションをつける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもがロッカーへ折り紙を片付けに行っていたので、移動中は近くにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	５人の支援員が分かれてロッカーに折り紙を片付ける子どもを見ていた。	特になし	慣れている場所でも安全に過ごせるように指導する。	
9510	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	76							76		7	5	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	当日外遊び時、鉄棒周辺に支援員1名がついていたが発生が突発的な状況であった為、未然に防ぐ事が出来なかった。発生後の処置対応は迅速に行う。	外遊び時の支援員配置を増員し、見守りを行う。（3名→4名）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設面での要因はなし。	鉄棒使用時の安全ルール見直しを行う。（腰を掛けない、上らない等）	1.集団活動中・見守りあり	集団行動時の目視確認不足。	支援員配置増からより細やかな目視確認を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	日常で行っている施設内戸外保育中に生じた事故であった。児童の様子はいつも通り。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	日常で行っている施設内戸外保育中に生じた事故であった。支援員も日常通りの保育を実施。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	日常で行っている施設内戸外保育中に生じた事故であった。支援員も日常通りの保育を実施。	今回の事故を想定した人員配置の見直し。危機意識の是正と継続性を持たせる。	事故事例を踏まえた支援員全体Mtgを翌日実施済み。危機管理意識の再啓発を行った。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9511	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3		1	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	鼓膜の損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	校庭での外遊びは見守る範囲が広いので遊ぶ範囲は半面としているが、どうしてもサッカーなどとなると範囲が広くなり見守りに限界がある。	外遊びでサッカーなどのゲームをしていても、動く範囲が広がらないよう、職員で声かけなどして調整する。けんかなどはトラブルになる前にできるだけ止める。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	遊具付近の地面が濡れていたところがあり、靴が濡れたと言ってきた児童に対応していたため、叩いた瞬間を見ていなかった。	外遊びは、ブランコなど遊具で遊ぶ児童とサッカーなどする児童とで別れる。サッカーなどをしていても動く範囲がたがらないよう、職員で声かけなどして調整する。喧嘩等はトラブルになる前にできるだけ止める。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であるが、外遊びとなると、さらに活発になる。	3.対象児から	当該児童のサッカーグループとブランコ付近を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外の他の遊具付近を見ていた職員1名、室内の児童を見守りしていた職員1名	地面が濡れていたところがあり、靴が濡れたと言ってきた児童に対応していたため、叩いた瞬間を見ていなかった。	外遊び に出る際、配慮が必要な児童を中心に、全体を見守る必要がある。外に出るとさらに動きが大きくなるため、特に注意が必要である。	
9512	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		4		1	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	–	2.基準配置	安全対策や危機管理が十分ではなかった。	今回の事故を職員全体で共有し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	随時	3.未実施	随時	1.定期的に実施	随時	ゴムマットの老朽化により事故につながった。	ゴムマットの張替えを行う。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	出入口などは慌てず落ち着いて歩くよう児童に声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児も含めた複数名（庭で遊んでいる児童）の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、室内の児童の見守りをしていた。	特になし	すのこ板にタオルマット等を敷き、指が挟まらないよう防止する。	
9513	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	5.おやつ時（学童）	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		2		1	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	低学年はジャングルジムの利用を禁止した。また、事故発生時にはすぐに必ず保護者に連絡を入れるとともに、教育委員会に報告するよう指導した。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	学校側と協力し、安全点検等を実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事故が起こりうることを児童にも伝え、危険のないように遊ばせる。	1.いつもどおりの様子であった	通常どおり校庭のジャングルジムで遊んでいて落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	校庭で30名程度の児童を見守っていたが、対象児の事故の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で30名程度の児童を見守っていたが、対象児の事故の瞬間は見ていなかった。	特になし	低学年児童がジャングルジムで遊ばないように注意する。	
9514	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	4.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	121							#		13		10	18.6歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	7.その他	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	登校中のため支援員の見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登校中のため支援員の見守りなし。	横断歩道ではない場所を渡っていた。	必ず横断歩道を渡る、青信号であっても必ず左右の確認すること等交通ルールについて定期的に話して聞かせる。	
9515	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	140							#		10		5	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9516	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							#		8	4	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第４趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9517	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71							71		7	4	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	B1脱臼下唇・朴ガイ裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9518	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	74							74		6	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯茎の裂傷、外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9519	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	120							#		15	7	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯肉裂創、歯冠破折、舌裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9520	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35							35		4	2	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに，事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	–	特になし	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
9521	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	94							94		10	4	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	–	具の使用方法について明確なルールを見直す。遊具の高さに応じて使用学年を定める等の基準を定める。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	–	引き続き安全点検を継続的に実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	支援員が声かけをしながら近く見守っていたが、咄嗟の落下に対応出来なかった。	雲梯をしている際は出来る限り児童に近づいて見守りを行い、声をかけながら危機管理の意識を持たせた状態で使用するように促す。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯時もいつもどおりの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童の付近で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各支援員が配置について離れて見守りを行っている。	–	今後も体調面を確認しながら見守りを継続する。遊具を使用する際は気持ちが高揚した状態ではなく精神的に落ち着いた状態で使用させるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9522	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20							20		4	3	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上1番外傷性歯牙亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１１)回/年	1.基準以上配置	–	室内での適切な遊び方の再確認	1.定期的に実施	実施頻度(１１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	–	活動する前には、注意点を入所児童に説明	1.集団活動中・見守りあり	–	活動する前には、注意点を入所児童に説明	1.いつもどおりの様子であった	友達と様々な遊びを展開。事故発生時は、卓球をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内で複数の遊びが展開されていたことから、他児童の対応等で事故を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同室にいたものの、他児童の対応等で目撃していなかった。	–	支援員は視野を広く保ち、全体を見渡しながらも個々の児童対応をすように支援員全員で確認。	
9523	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	46							46		3	2	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右指示中節骨骨幹端損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	打ったその後もしばらくメンコで遊んでいた	保冷剤対応後の支援員の周知	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	めんこの遊び方のルールを決めていなかった	ルールに則った上で、距離を保ちながら安全に行う	1.集団活動中・見守りあり	声掛け・見守り	怪我の対応方法（申し送り）の見直し	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体に片づけや準備の声掛け中であった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体に片づけや準備の声掛け中であった	遊びに夢中になりすぎて自分で床面との距離を上手くつかめていなかった	声掛け・見守り	
9524	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39							39		4	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	右足靭帯損傷 両ひざ挫創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故防止に関する研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	なし 十分に対策は行っている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし 十分に対策は行っている。	1.いつもどおりの様子であった	元気にサッカーをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをコート外で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々好きな遊びをしている児童たちを見守っていた。	特になし	なし 十分に対策は行っている。	
9525	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		6	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方について話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びで鉄棒で遊んでいる時、着地した際にバランスを崩し前方に手をつき負傷する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒のそばで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びに対応していた他の支援員３名は、他の児童の見守りをしていた。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
9526	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		2	1	21.9歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故防止に関する研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	なし 十分に対策は行っている。	7.その他	特になし	なし 十分に対策は行っている。	1.いつもどおりの様子であった	登所途中だったため、見守りできなかったため、本人の訴えがないと把握できないところだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	登所途中だったため、見守りできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登所途中だったため、見守りできなかった。	特になし	気を付けて登所するよう全体に声掛けを行う。	
9527	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		4	1	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブの過ごし方について話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びでサッカーをしている時、他の児童の足が当たり、バランスを崩し足をひねる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びの中、サッカーを中心に全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びをしているサッカー以外の遊びを見守っていた。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																															
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上	5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9528	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17								17		4	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.基準配置	—	職員間で事故防止マニュアルの再確認や活動時のヒヤリハット事例の共有をこれまで以上に密に行う。施設周辺の危険個所等について定期的な確認を行い、事故予防に務める。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	ロープが見えにくい位置に張ってあったため、児がロープに気づくのが遅れたことに要因があると思われる。	事故の翌日、見えにくかったロープに目立つ色のテープを貼ろうと考えたが、ロープは既に撤去してあった。	1.集団活動中・見守りあり	支援員、児童ともに、すぐそばにロープが張ってあると気付いていなかった。	見た目には危険と感じない事（物）が、思わぬ怪我の要因となった為、周囲の状況をより一層慎重に確認するようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	同級生のお迎えがあり、車に乗って帰る友人に手を振ろうと走り出したときに、ロープに引っ掛かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走り出す直前まで対象児を含む児童2名と支援員の3名で話をしていたが、対象児が友人が乗っている車を見て走り出した途端に転倒し、即座に動くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外に出ていた他2人の支援員は、それぞれに別のグループに付いていたので、目撃していない。	児童2名を1名の支援員で見ており、支援の状況としては十分なものと考えられるが、突発的な事故であったため、即座に対応することができなかった。	児童が少数であっても各児童の動きを注視し、急に走り出す等の突発的な動きがあった場合は声掛けする等、注意喚起を行うようにする。日常的なヒヤリハット事例や施設周辺の危険個所等、常に職員間で共有する。	
9529	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23								23		3	2	18.6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折ギプス固定	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	–	今ある事故予防マニュアルをより詳しい内容を記載する。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度(遊具なし)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	今回の事故はハード面に起因するものではない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	小さな動きでも怪我の可能性を考えて見守る。他の児童が使った物は置きっぱなしにせず、気づいた時点で片づける。または片づけを促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達と戦いごっこをしていて、職員に注意をされ、戦いごっこをやめた。そのあとに怪我をした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	戦いごっこの注意をしたあと、少し離れた所から見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応や別の児童の対応をしていて、別の場所にいた。	特になし	一時的に部屋に補助員１人の状況を極力無くし、支援員が部屋にいるようにする。遊びで使用した後は元の場所に片付けるように指導を行う。また、職員も目配りを行い、置きっぱなしの場合は片づける。	
9530	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	5.おやつ時（学童）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	63								63		6	4	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	おやつを食べ終わった後の行動についても各班担当で把握する	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	食事中のマナーや決まりについて、事前に充分な指導を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	机を置く位置に空間の余裕をもって配置する	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	自分の班にいて、本児の行動は把握できていない状況であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ちょっかいを出している様子は見ていたが、様子を観察していただけであった。	特になし	おやつを食べ終わった後の行動についても各班担当で把握する。	
9531	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20								20		5	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	三角ジムから落下のため、防御しようがなかった。	1年生は高い遊具を使用しない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	足と手の位置関係の確認	本人と職員に注意を促すよう指示	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	本人と職員に注意を促すよう指示	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	落下のスピードが速い為、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落下のスピードが速い為、間に合わなかった。	特記事項なし。	発達段階に応じた遊具の使用方法について声かけを行う。	
9532	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	14								14		3	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕下部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特記事項なし	職員配置については問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし	遊具に問題があったわけではないため、特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	特記事項なし	1.いつもどおりの様子であった	他の児童と共に平均台を渡って遊ぶことを楽しんでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	高さのある平均台の遊びということで、すぐ近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	第二児童クラブも同時に外遊びをしており、全体的に見守っていた。	児童が1人で渡るのに十分な運動能力があると認識していた。	特記事項なし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9533	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		3	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足膝下骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険な場所に行くことのないように見守りながら声かけを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	用途とは違う遊びをしてしまうことがある。	安全点検をしっかりして遊ばせたい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危険な場所や階段などに気をつけて見守りながら声かけを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで追いかけられて足を蹴った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が見守っていたが走るのに夢中になり転んだ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童のけがの手当てを行っていたので見ていなかった。	特になし	支援員同士が細心の注意をはらい気を付けて保育を行っていく。	
9534	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		4	4	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折扱い	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	事故発生時、全ての支援員が対象児童と加害児童を見ておらず気がつかなかった。	全体を見る係を平時から決めているが、事故時は他児童に関わっていたこともあり、さらに支援員同士の連携を図り管理を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(310)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(310)回/年	—	—	1.集団活動中・見守りあり	集団生活における過ごし方で、お互いに仲良く過ごすための指導が足らなかった。	帰りの会など機会を捉えて指導を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	10：40ごろまではビーズで作品を作っていた。その後、同級生と2人で遊んだ後、加害児童からうるさいと言われ、いきなり右腕をつかまれて右ひじ下に力を加えられた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は全体を見守る係であったが、発生時、別の児童の対応をしていて見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの支援員が、何がしら児童の対応をしており事故発生に気づけなかった。	特になし	特になし	
9535	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		4	4	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折（前回報告より変更）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	遊びの分散により、管理不行き	遊びの統一、状況から推測しての注意声かけ。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	支援員連携の不足と、管理体制の不足。	その都度、子ども達の行動を観察し周囲の支援員への周知。	1.集団活動中・見守りあり	連携不足と、他児童の対応時の管理不足。	連携の強化と、遊びの状況把握。	1.いつもどおりの様子であった	遊びを転々としており、最終的に落ち着いて遊びが雲梯棒になり、一緒に遊んでいた子と決めたルールの下で安全管理が出来ていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童の近くにいたが、丁度他の児童の行動を注意していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで、別の子の遊びの支援を行っていた。	逐一児童の行動の状況を確認し、共有していなかった。	遊具の使い方と、遊びのルールの再確認を行う。	
9536	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		2	2	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（手首）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	2.基準配置	特になし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	喧嘩をしている時点で支援員が異変に気付き仲介に入るべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	近くにいたが、喧嘩をしていたことに気付いていなかった。	一人での見守りが困難な場合は周囲の支援員に声をかける。特定の場所だけでなく、児童の動きに合わせて自分の立ち位置を都度変更する。	
9537	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18							18		6	4	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指亀裂骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	見守りや遊びに入る職員が上靴を履いた状態であった。接触した時点や帰宅の際に患部を確認しなかった。	遊びに入る職員は子どもと同じ状態（裸足）で参加する。接触があった場合は必ず患部の確認を行い，保護者へも連絡をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちは裸足で遊んでいたが職員は上靴を履いたまま参加した。	遊びに一緒に入る時には，子どもたちと同じ状況（裸足）で参加する。	1.いつもどおりの様子であった	接触直後に痛いところはないか声をかけるが「大丈夫」との返事だった。その後も遊びを続けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が「大丈夫」と答えたため，患部の確認はせず，そのまま一緒に遊びを続けながら様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていた	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9538	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	45						45		2	2	19.7歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	登下館途中に走らない等，安全に留意するよう定期的にミーティング等で児童に伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	「児童センターに行くとき、自宅マンションの階段でぶつけたから足が痛い」と訴えがあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	登館途中に起きたため、発生時は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登館途中に起きたため、発生時は見ていない。	時になし	特になし	
9539	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27						27		4	2	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左人差し指 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	職員が児童の様子をより注意深く見守るべきだった。	遊びに熱中している児童のクールダウン等含め，職員会議等で全職員が見守り時のポイントを掴めるようにし事故を防ぐようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段通りに過ごしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	居室にいる児童全体の見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の居室にて対応していた	特になし	特になし	
9540	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50						50		5	5	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ先端部を骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	なし	一輪車遊びをする際に，子供たち へ一輪車の事故について事前指導を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	頭・肘・膝等へのプロテクターを配備する。	1.集団活動中・見守りあり	なし	改善策なし。環境面に関して問題点・改善策はないと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	精神的にも安定しており，普段と変わらない様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童が落下時，見守りの職員の視野に入っていたが，大きな事故になるとは思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びを見守る職員は，該当児童の一輪車で転ぶところは見ていない。	なし	改善策なし。その他項目において問題点・改善策はないと思われる。	
9541	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	14						14		2	2	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右 第二趾基部骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	児童が遊んでいた近くに座卓があった	当該の遊びはしないよう指導する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	当該の遊びはしないよう指導する	1.いつもどおりの様子であった	自分の興味のある遊びを次々としていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児や他児童の遊びの様子を全体的に見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	６校時限で登館する児童の対応や来館していた児童の対応にあたっていた	特になし	特になし	
9542	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	124						#		12	6	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度12回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度毎日2回	1.定期的に実施	実施頻度1回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日1回	外遊びの範囲が広く，職員が全範囲を網羅するのが難しい状況であった。	児童の人数や職員の人数を考慮し，遊びの種類や範囲を限定する。	1.集団活動中・見守りあり	他の児童に対応していたため，本児が間違ったすべり台の使い方をしていることについて声かけができなかった。	正しい遊具の使い方を全体に指導し，都度声かけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	間違った遊具の使い方をした。すべり台のふちを後ろ向きに滑り，更に途中で止まり「落下しようかな」と言った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くにいたが，他の児童の対応と重なってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援が必要な児童や制止が効かない児童が多数おり，他の職員はそちらの対応に追われていた。	押してしまった児童は要支援児であるが比較的落ち着いて見えていた為個別に対応せず，他の支援が必要な子どもの見守りを中心に行っていた。	特になし		

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか						
9543	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55							55		5		5	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	オトガイ挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	本児はいつも通りの様子であったが、週の終わりであった為全体として子ども達に落ち着きがなく、また行事の前日であった為職員もいつもより慌ただしくなっていた。	子どもの様子を適切に把握して、その様子に即してデイリープログラムの変更を行い、１日を安全に過ごすための配慮をする。	1.いつもどおりの様子であった	学校終了後来館し、自由遊びとなるまでは友達と宿題をしたり折り紙をしたりして普段通りの様子で過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故当時、本児が怪我をした場所とは遠く離れたところで別の児童たちと鬼ごっこ遊びをしていており、対象児の動きを直接確認できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その時間にいた職員5名のうち3名が館内、名が上記担当職員。もう1名が担当職員と同じく校庭に出ていたが、担当者や対象児とはまた別の場所で児童の見守りを行っていた。	通常時は外遊びに出た児童数に合わせて職員も校庭へと出ているが、当日は館内にて保護者対応等行っており、いつもよりも外遊びの人員が不足していた。	事故後、都度児童クラブでの利用や保護者迎えの場面もあったため、その後の様子等について声がけを行い互いに情報を共有していく。	
9544	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							#		12		7	22.10歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足根骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	なし	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	昼食後行事（スポーツタイム）に参加したが、いつも通りの元気な様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	行事の講師の指示通り子ども達は動いており、特段怪我につながるような異常な動きは見られなかったため、注視はしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	行事に参加している児童以外の児童達の見守りを行っていたため、対象児を注視していなかった。	行事中での動きが要因となった怪我だったが、行事中・行事後とも対象児に変わった様子が見られなかったことと、本人からの訴えもなかったことから、通常通りの一人帰りを促し、習い事へ向かった。	遊びが楽しくなればなるほど、痛みを我慢したり隠したりして続けて行うことがある。遊びが楽しいからこそ大きなけがにならないように、どんな軽微なことでも気軽に伝えてほしい、ということを行事の前に伝える。	
9545	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		6		6	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	今回の事故における改善点はなし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	今回の事故における改善点はなし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今回の事故における改善点はなし	1.いつもどおりの様子であった	外遊びが始まった頃から、20名程度の集団遊びに参加。いつも通り元気よく走っていた。事故時は勢いよく走り、缶（プラスチック容器）を蹴ろうと走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	缶けりに一緒に参加し、事故時は缶の付近にいた。右側から本児が走ってきて、左側からきた男児が同じタイミングで走ってきたので、止めようとしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りを各場所で行っていた為、見ていなかった。	本児と接触した男児、両者とも前からくるお互いが見えていなかった。勢いよく走っていた為、止まることが難しかった。	–	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9546	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35							35		10	7	22.10歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１～２)回/年	1.基準以上配置	ソフトバレーボールのような大き目のボールへの慣れが足りなかった。	ソフトバレーボールのような大き目のボールで遊ぶ機会を定期的に設け、順応性を身に着けられるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	–	ボールの不備等は見られなかったが、遊ぶ際の諸注意など子どもたちと考え話し合いまとめていく。	1.集団活動中・見守りあり	やわらかめではあったが、あまり使用しないソフトバレーボールの大きさのボールで遊ぶ機会が少なかった。	ソフトバレーボールのような大き目のボールで遊ぶ機会を定期的に設け、順応性を身に着けられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ボール遊びが好き。自由時間になり自分たちの学年が遊戯室で遊ぶ時間になると真っ先に遊戯室へ向かう。この日は大雨だったので外遊びはせず、体を動かす遊びは遊戯室のみ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ冷やしたが30分程度で痛みが引いたとの事だったため、骨折しているとは思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で工作イベントをしていたため。	2日後当該児童校外学習があり、その際不自由だろうと保護者公認の上ギプスを外して活動をした。医師の診断が骨折しかけているということもあった為の判断だったということ。	–	
9547	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		4	2	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	打ち合わせの時に、事故防止の確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	足元には障がい物はなにもないため、ハード面での改善はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	足元には障がい物もなにもないため、環境面での改善はなし	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に過ごし、友達を遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	突発的な事故で、咄嗟に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1階の遊びを見守っていた。	子ども達へ声がけが足りなかっ	遊びに熱くなりすぎないように声がけし、配慮しながら見守る。	
9548	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17							17		3	2	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	保育理中、床に遊び道具が転がっている際の意識のあり方を改善する。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	身体を動かして遊ぶ部屋には、極力床に物が置かれていないように配慮して行動する。	1.集団活動中・見守りあり	遊び中に足元に事故を誘発するものがないか、確認の意識が薄かった。	指導員は子どもの動きに目配りすると共に足元に事故を誘発するものがないか常に気をかける。児童へ周囲の危険に関する声掛け、玩具は一時置きでも床に置かず脇の棚などに置くよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	他児童と普段通りにホールで遊んでいた。転倒後も痛む様子もなく普段通り遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡していたが、怪我の瞬間は目撃できなかったため、怪我に気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学習中の児童と遊んでいる児童が混在しており、双方の児童に対応していたが当該児童の動きが確認できていなかった。	学習の時間が終えた児童から自由時間となる為、学習中の児童、遊んでいる児童に対応するため指導員が手薄になる。	指導員は子どもの動きに目配りすると共に、足元に事故を誘発するものがないか常に気をかける。児童へ周囲の危険に関する声掛け、玩具は一時置きでも床に置かず脇の棚に置くよう指導する。また物を持ち上げる際にも、周囲に人がいないか気を付けるように指導する。	
9549	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		2	1	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	打ち合わせの時に、事故防止の確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	体操ごっこの際には、転倒しても怪我をしないようにマットをしく。	1.集団活動中・見守りあり	バランスボールの事故誘因の可能性を考慮した指導が足りなかった。	指導員の目配り及び周囲の危険に対する声がけの徹底。	1.いつもどおりの様子であった	早朝に民衆登山に参加。いつも通り元気に来所して友達と楽しく遊ぶものの、疲れているのか、昼食後は昼寝していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる位置に立って見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故は２Ｆで発生し、他の職員は１Ｆで保育をしていた。	２Ｆ担当者が補助員であり、当日が初めての勤務だった。	遊びに熱くなりすぎないように声がけをし、配慮しながら見守る。	
9550	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9							9		4	1	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	くるぶし骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	職員間の連携を密にし、安全面に見落としがないよう職員配置に配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	鬼ごっこに夢中で、足元を見ていなかった。	安全確認を毎回実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	下校後は解放感から注意散漫になったり油断、過信から事故につながりやすい事を確認し職員配置、活動内容を考慮する。	1.いつもどおりの様子であった	数名と鬼ごっこを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこ、トランポリンをする児童を二人体制で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室で他の児童の宿題をみていた。１人は施設内で他の児童と活動していた。	特になし	トランポリン下にはマットは必要不可欠なため、より安全性を強化し声掛け指導、安全確認をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9551	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地内(園外保育先・公園等)	8.学童	127							#		12	10	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度（ 1 ）回/年	2.基準配置	無し	グランド使用の職員配置体制は3人で適正だった。支援員の立ち位置や広い視野での見守り、全体把握をすることの大切さを全体職員会議で話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	登録児童数が多く、施設内が過密状態になっている。	過密にならないように分散して遊べるように保育内容を工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	無し	１支援内の人数が多く、支援単位増加の検討が必要	1.いつもどおりの様子であった	グランドで友達と楽しく遊んでいた時に自分でケガをしてしまい、恥ずかしさもありすぐに支援員に知らせることが出来なかったことを母から聞いた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友達と２人で楽しそうに靴飛ばしをして遊んでいる所は、遠くから見守っていたのが、ケガをしてしまったことに気づかなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	３人体制で見守っていたが、分散して他の子どもと関わり保育していたので気づかなかった。	無し	無し	
9552	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15							15		2	1	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（３）回/年	2.基準配置	外遊び中にお迎えの保護者対応中であった為、トイレの児童が声をかけずに行った。	指導員が保護者対応中であっても、児童に声掛けしてもらう事。	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	学校施設内は、滑りやすいため上靴を使用している。	必ず、上靴を履いてトイレを利用する。	1.集団活動中・見守りあり	学校施設内は、靴下では歩かないように上靴を使用している。	必ず上靴を履いて利用する。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びから室内に戻り、吐き出し口から廊下を走ってトイレに行こうとしてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達を見守りながら、保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応していた。	外遊び中にトイレに行きたくなり、急いで戻りたいため廊下を走ってしまった。付き添い声掛けしていなかった。指導員は保護者対応中であった。	室内外でもトイレは余裕をもって行くように指導する。トイレに行く時は、上履きを履き廊下も走らず慌てずに歩く。指導員に声掛けと付き添いをする。専用室は支援員が常駐しているので専用室のトイレを使用するよう促す。	
9553	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		4	2	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4回/年	2.基準配置	学年や体格に応じた遊び方における、職員の知識・理解が不十分だった。	ルールの確認を行う	2.不定期に実施	1回/年	2.不定期に実施	1回/年	2.不定期に実施	1回/年	遊具の破損はなかった。	遊具の破損はなかったが、引き続き定期的に点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	職員が見守りを行っていた。	学年に応じた遊具での遊び方を再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	一瞬の出来事で、児童の落下を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一瞬の出来事で、児童の落下を防ぐことができなかった。	職員の介助が不十分だった。	学年に応じた遊具での遊び方を再確認する。	
9554	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10							10		3	3	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	滑り台をしているときは指導員が必ず見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	滑り台の正しい使い方を伝える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	滑り台を逆走しない。追いかけっこ中は、滑り台に透けないとルールを決める。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑り台の隣の遊具で別の子と関わっていた。追いかけっこをしているのは見ていたが、滑り台を逆走した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子と関わっていたので、逆走した瞬間は見ていなかった。	特になし	特になし	
9555	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	12							12		2	1	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	クラブ独自の外遊びについてのマニュアルは作成してあったが、徹底的に周知ができていなかった。	クラブ独自の外遊びについてのマニュアルを職員・子ども達に徹底的に周知し、誰もが確認できるように掲示しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	クラブ室前のスロープ・階段で走ることは危険	クラブ室前の玄関・スロープ・階段で走ってはいけないことを子ども達に徹底的に注意を呼びかける。	3.個人活動中・見守りあり	各々好きな遊びをしていたことにより場所の整理が不十分だった	子ども達に声を掛けながら遊び場所の整理を職員が行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、上級生との鬼ごっこを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故発生前は対象児を見ていたが、他児の一輪車介助をしていた為すぐに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋へ入る時間だった為、他児へ片付けを促し部屋へ入るように誘導していた為。	職員は各々子ども達の様子を確認していたが、鬼ごっこをしていた子ども達に気が付かなかった。	子ども達と話し合い、遊びの中での危険なところを確認していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																														
9556	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		3	2	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨小頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	毎年4月にすべての児童に遊具の使い方や遊び方のルールを説明し、その後も定期的に話しているが、より徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	晴れており遊具は濡れていなかった。また遊具の塗装の剥がれはなし。	雲梯で安全に遊べるよう、遊具安全管理点検を今後も行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	当日も雲梯で遊ぶ児童を都度確認し、危険な場合は声掛けを行っていた。本児は普段からのルールを守り遊んでいた。	職員会議で戸外遊び時の見守り方法、危険個所がないか、立ち位置などを確認し、職員全員で事故防止に対応していく。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良等の様子なく、普段どおりに外遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯で遊ぶ時のルールを守って遊んでいることを確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んでいる児童の見守りをしていた。お迎えに来た保護者の対応をしていた	特になし	職員会議で戸外遊び時の見守り方法、危険個所がないか、立ち位置などを確認し、職員全員で事故防止に対応していく。児童に対しても遊具の遊び方の注意を定期的に行っていく。	
9557	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		4	1	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル等、運営委員と協議のうえ作成する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの時など広範囲の見守りを必要とする状況下において、児童の転倒・衝突等による事故発生の可能性を予見し、児童に対して声掛け注意等の指導をする。	1.いつもどおりの様子であった	外ではサッカーやドッチボール、鬼ごっこなどをしている。当日は10名ほどで鬼ごっこをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した瞬間は目撃していないが、異変に気付きすぐに駆け寄った。本人や周囲の児童から転倒したことを聞き、室内への移動に付き添った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他にも多数の児童が外で活動していたため、担当職員に任せ、校庭での見守りを継続していた。	児童に対し、けがのリスクについてや安全面への声掛け等の配慮が不十分であった。	特になし		
9558	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		4	4	22.10歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首上部 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	全支援員等へのマニュアルへの再共有（支援員等全員に事故対応マニュアルを配布）、更にミーティングにて事故事例の検証を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	園庭には落ち葉やどんぐりなど足が滑るものがあり、転倒しやすい状況にあった。	落ち葉やどんぐりなど足が滑るものはよけておく等、転倒しやすい状況にないか、事前に確認・対策した上で、外遊びを行う。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	身体を動かす遊びをあまり好まないが、この日は、友達や年下の子に誘われ張り切っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大人数の子どもたちが園庭で遊んでいたので、支援員同士が様々な角度から見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	大人数の子どもたちが園庭で遊んでいたので、支援員同士が様々な角度から見守っていた。	普段以上に活発に遊んでいた中、足元によく注意して遊ぶように伝えていなかった。	遊びを開始する前に、しっかりと足元に気を付けて遊ぶように周知徹底するとともに、無茶な行動はしないように伝える。	
9559	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	80							80		7	6	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首の靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	2.基準配置	特になし	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(44)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(45)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(44)回/年	土のグラウンドと敷地の舗装面に段差があった。	安全点検に努め危険箇所を発見し修繕等を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	屋外で遊んでいて、迎えに気付き屋内に荷物を取りに行く際に事故が起きた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	屋外で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラブ室や遊戯室で児童を見守っていた。	特になし	ソフト面、ハード面、環境面、人的面を改善することで、その他については記載なし。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9560	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		4	4	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足くるぶしの下剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	全支援員等へのマニュアルの再共有を行う。更に打ち合わせで事故事例の検討を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	落ち葉などにより足元が転倒しやすい状況にないか、事前に確認・対策した上で外遊びを行う。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	外遊びが好きであり、色々な遊びに挑戦していた。この日は小学校が早帰りだったため、外遊びの時間が増えいっぱい遊べると喜んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大人数の子どもたちが園庭で遊んでいたので、支援員同士が様々な角度から見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	大人数の子どもたちが園庭で遊んでいたので、支援員同士が様々な角度から見守っていた。	特になし	遊びを開始する前に、足元に気を付けて遊ぶように声掛け等をしっかりとする。また、自分の力を試すことは良いことだが、無理はしない事を伝える。痛みがある時は休んでいようねとけがをしてしまった時はどのような過ごし方をしたら良いのか提案する。	
9561	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	139						#		9	6	23.11歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手人差し指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関して職員会議などで話し合っていきます。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	施設の安全点検に関しても定期的に実施し、事故予防に努めていきます。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	戦いなどのけがにつながりそうな遊びは注意する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに過ごしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童から指をぶつけたと申告があり、すぐに冷やした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた。	特になし	けがにつながりそうな遊びを職員で共有し、注意していく。	
9562	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15						15		2	1	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員間の連携、常に職員が全体を見る意識を持つ。	児童の行動を予測して、声掛けをし危険を回避する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	児童の走るスピードや体の大きさを考慮せず、ホールで走る遊びをした為。	児童の行動を予測して、ホール内で走るのではなく広い戸外で走るようにする。	3.個人活動中・見守りあり	ホール内で10人位の児童が鬼ごっこして走り回った。	ホールでコーナーを作って遊んだり、鬼ごっこの遊び方を工夫し怪我を防げるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	天候も悪く早帰りだった為、おやつの時間まで余裕があり児童からホールで鬼ごっこをしたいとの要望があった。鬼ごっこでは逃げるのに夢中で前を見ていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員は2人いたが、1人は教室で児童を見守り1人は園の活動に入っていた為、ドライバーにホールの見守りを依頼した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時は支援員1人だった為、ドライバーにホールの見守りをしてもらった。	ドライバーに児童の見守りを依頼し、支援員が付いていなかった。	園の職員に声を掛け見守りを依頼するか、支援員が戻るまで教室またはホールの一ヵ所にて遊び、支援員がいる中で児童を見守る。	
9563	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35						35		3	1	19.7歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	配慮が必要な児童に対して、適切な支援を行うことが不十分だった。	発達の個人差や児童の特性を理解し、一人ひとりの行動を予測する。また、児童のちょっとした変化などの気づきを常に共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２５０)回/年	ホールの死角となる見えにくい場所で他児に押されてしまった。	活動内容や人数、児童の導線等に合わせた環境設定を適宜行う。	3.個人活動中・見守りあり	児童の活動を２つに分けていたことで、結果として支援員の視点も偏ってしまった。	プログラムを見直し、動的な活動の後にゆったりと落ち着いて過ごす時間を設けたり、配慮の必要な児童が集中して取り組める遊び等を取り入れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児と加害児は普段から一緒にいることが多く、発生当日も一緒に遊ぶ姿が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他のプログラムを担当し、怪我があったホールの英語のプログラムが先に終了していたので、ホールの様子を見守ることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員も同様のプログラムの補助に付いていた為、ホールの見守りがドライバーのみとなった。	普段からトラブルが多い児童にも関わらず、その児童を見守る意識が薄かった。	支援員同士の声の掛け合いや連絡、確認といった日常のコミュニケーションをしっかりと図り、連携して児童を見守っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9564	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	69							69		8	4	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	応急処置研修（今年度実施済み）	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし（施設・遊具等でのケガではないため）	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし（環境面での要因ではないため）	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り外遊び時にドッチボールを行う	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボール付近で他の外遊びも含め見守りを担っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	立ち位置表に基づき外遊びの見守りを担っていた。	特になし	ボールのキャッチの仕方やけがの可能性について周知	
9565	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		3	2	19.7歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	見守り時の職員配置や校庭での遊び方など，職員間で再度ルールの確認・見直しをし，今後同様の事案が発生しないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	外遊びから入室移動に意識が集中してしまい，子どもたちひとりひとりの動きへの注意換気が不十分であった。	支援員の見守り体制の見直し（状況時に必要とされる配置・声掛け）	1.集団活動中・見守りあり	特になし	校庭で遊ぶときは，遊ぶ前に必ず危険箇所や遊び方など注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童をみながら，他児童の入室移動をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担当エリアの見守りをしていたため，対象児童がけがをしたときは見ていなかった。	特になし	怪我を未然に防げるように，子どもたちと一緒に外遊び前や外遊び後の過ごし方や待ち方について，話し合いを行う。	
9566	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37							37		4	2	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上の歯（中切歯（左側）打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	指導員等の配置人数に問題はなく，ソフト面のみ考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	施設等に問題はなく，ハード面のみ考慮すると発生しない事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	最後に外へ出た１年生が，玄関から走って出てきたため，ぶつかった際の衝撃が大きかった。	玄関から外に出る時の流れを見直し，並んで待つ時間を減らした。児童には，外に出る時に走らないよう注意した。	1.いつもどおりの様子であった	決められた場所で待っている間に，他の児童に脇腹をくすぐられて，身体が前のめりに傾き，走ってきた１年児童と衝突した。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くに指導員はいたが，衝突の瞬間を見ていない。周囲の子どもに泣いているよと言われ，初めて気が付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が外に出る時，玄関の段差で転ばないよう足元に注意を向け，声かけをしながら見守っていた。	玄関の段差を気にかけ見守りをしていた指導員が，所定の位置に走っていく児童まで注意が向かず，走らないでねと声かけをしなかった。	外に出る時に走らないこと，並んで待っている間にふざけないことなど，外遊びのルールを児童と再確認する。指導員同士が連携をして声をかけ見守りを行う。	
9567	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		2	2	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は、遊具付近やボール遊びを特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見て見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具にいる他の児童を見守りしていた。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。また危険な行動がないよう児童に声掛けをする。	
9568	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		4	2	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は、遊具付近やボール遊びを特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見て見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具にいる他の児童を見守りしていた。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。また危険な行動がないよう児童に声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9569	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		3	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	外遊びはケガやトラブルが起こる可能性が高い上に久しぶりの外遊びだったので，児童のテンションが上がっていた。事前に外遊び前に危険箇所の確認をしていたが，走り回る子ども達に気を取られてしまい，未然に防げなかった。	校庭内の危険個所や遊具等で起きうるケガや事故について，見守り時の職員配置や校庭での遊び方など，児童と一緒に再度ルールの確認をし，今後同様の事案が発生しないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	安全点検は定期的に行っており，設備などでのケガではないため	1.集団活動中・見守りあり	特になし	校庭で遊ぶときは，危険箇所や遊び方など事前に注意喚起する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りに気を取られており，対象児童の見守りが疎かになってしまった，	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当エリアの見守りをしていたため，対象児童がけがをしたときは見ていなかった。	–	職員と児童一人ひとりが外遊びの遊び方や危険性があることを意識するため，子どもたちと一緒に外遊びについて，話し合いを行う。	
9570	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		8	8	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	体を慣らしていく為に少しづつ外遊びの時間を延ばしていく。また、遊具使用の際は職員による危険回避・注意喚起の為の声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具及びその周辺の安全確認や遊び方を事前に注意喚起する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び前に、子どもたちに校庭での危険個所・ケガの事例等を話し注意を呼び掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発に行動するため、よく転んでけがをすることが多い。少し無茶な事をするときも見受けられる。	–	対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体把握の為、支援員を子どもが集まるそれぞれの場所に配置していた為、遠方の職員からは距離の関係でみることができなかった。	–	日頃慣れた動作であってもケガに繋がることを意識し、遊具等使用の際は子どもが注意散漫とならないよう声掛けをしながら見守りをする。	
9571	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	105							#		12	12	19.7歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	開始時の注意喚起が不十分であった。	職員は一輪車の危険性を声掛けし注意喚起する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	施設・設備に異常がないか、点検を強化する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	遊びを決めるジャンケンで一輪車に決定し喜んでいたが、特に感情的になってはいなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	窓施錠の安全対策をしながら部屋中央部に意識を向け、全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋にて、他児の育成支援にあたっていた。	職員は遊び開始時の空気感を必ずしも把握していなかった。	職員は、児童のテンションが上がりすぎないよう配慮するなど、気持ち面の変化を敏感に捉えるよう努める。	
9572	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	47							47		11	6	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	法人での研修はあるが、施設内独自の研修は出来ていないので校庭で考えられるヒヤリハットを共有し、対応を検討しておくべきだった。	上記にも記載があるように、施設内独自の研修をし、校庭での配置や危機管理の対応についての学びの場を作っていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的な安全点検もあるため、特に問題なし	引き続き、安全面の点検を定期的に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	同学年の友人と鉄棒にぶら下がり遊んでいた様子があった。鉄棒を握っていた部分から、落ちてしまったのは手が湿っていて、滑らせてしまったのが要因である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒以外の場所にも各々で遊んでいるグループがあった。そこへ支援員を配置していたため、本児の怪我に気がつくのが遅くなってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭の各々の場所での対応があり、本児の遊ぶ様子に目が届いていなかった。	本児のぶら下がる鉄棒が本児の身長より高い物であった為、自分より高い物にぶら下がったり、回ったりしようとする場面で遊び方の声かけが足りなかったことも要因だと感じる。	鉄棒を使って遊ぶ際に、慣れていない児童には補助具の使用を推奨し、高さも自分に合った物で遊べるように働きかけをしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9573	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	14						14		2		1	19. 7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員配置が職員2名、登録アルバイト2名であったにも関わらず外遊びに出た。外に出たのがメンバーさんと登録アルバイトのみで常勤がいなかった。	職員が少ない日は外遊びに出ない。職員配置を確認してから外遊びの有無を判断する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	室内に戻る前にケガしている児童がいないかの確認をおこなっていなかった。	職員と合わせて全体の見守りができるように職員配置をしケガにすぐ気づけるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊びからクラブへ戻る際に当該児童が足を捻ったことを職員に伝えにきた。その時点で初めてケガをしたことが発覚した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が危険な遊び方をしていたら注意できる配置になっていたが当該児童が足を捻ってケガをしたことは気づいていなかった。	児童が足を捻ったことに職員が気づけずすぐに対応ができなかった。児童が職員に足を捻ったと伝えた際にすぐ話を聞かなかった。	小さなことでもすぐに口頭、共有ノート、保育日誌に記録し共有する。保護者からトラブルに関する質問を受けた際、どの職員でも状況を把握し回答できるよう連携を図る。お迎えの際に日々の小さな事でも毎日保護者に共有する。	
9574	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33						33		3		3	20. 8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折骨がくっついた状態	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	全体を見守る職員と、他児童の対応を行う職員で当該児童を見れていなかった。児童たちを自由に遊ばせていた。	対応が必要な児童に対して正しい過ごし方を伝えたり、なぜそのような行動となるのか聞き取りを行い、落ち着いて過ごせるようサポートする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	場所によって死角となる所におもちゃを置いていた。	和室の使用をなくす。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童の気持ちが高まってしまった所に対応することが出来なかった。	落ち着ける様話したり、場所を変えて気持ちが落ち着ける様な対応をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	周りから注意される事をし続け、周りの児童や支援員が声をかけても止めることができない状況だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童につられて気持ちが高まってしまっていた児童を対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童につられて気持ちが高まってしまっていた児童を対応していた。	本児を筆頭に気持ちの高まりが周りにも伝わり全体的にヒートアップした状態だった為、話を聞ける児童から順番に話をしていた状況だった。	職員間で成功体験の共有をしたり、児童それぞれに合う声掛けを職員個人個人が模索し、自分とその児童の中で話ができる関係性を築いていく。職員全員が同じ対応をする。	
9575	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33						33		3		2	20. 8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	室内での過ごし方を児童と改めて確認する。職員は各々の役割ごとに動いており事故発生時に全体を見守る職員がいなかった為、落ち着いて過ごす児童にも目配りと声掛けを行なう。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	当該児童の証言より、クラブで床置きで使用していたサーキュレーターのコードに躓いたため転倒した可能性がある。	サーキュレーターの設置場所を見直すこと、また登所児童数にあわせて長机の台数を加減し児童の同線や活動スペースにできる限りゆとりを確保する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	室内での過ごし方を児童と改めて確認する。職員は各々の役割ごとに動いており事故発生時に全体を見守る職員がいなかったため、落ち着いて過ごす児童にも目配りと声掛けを行なう。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童は普段から落ち着いている児童であり、事故発生時も危険行為等はなかったが、室内の狭いスペースで早歩きをしたため、足がもつれて転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	当日のイベント準備のため、各役割に分かれて動いていた。事故発生の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日のイベント準備のため、各役割に分かれて動いていた。事故発生の瞬間は見ていなかった。	室内での過ごし方(どのような過ごし方が怪我や事故に繋がるか)を児童含めて確認できていなかった。	室内での過ごし方(どのような過ごし方が怪我や事故に繋がるか)を児童と改めて確認する。また、職員は各々の役割ごとに動いており事故発生時に全体を見守る職員がいなかったため、落ち着いて過ごす児童にも目配りと声掛けを行なう。	
9576	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26						26		7		5	18. 6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	職員全員で発生事故について共通理解を持ち、事故予防マニュアルをもう一度見直す。	2.不定期に実施	実施頻度(1，2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1，2)回/年	特になし	ハード面の点検を定期的に行うよう見直す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びをする時は、児童がばらばらに動いたりせず落ち着いてまとまって行動するように指導を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、いつも活発に活動する傾向にあり特に縄跳びが好きなので、慌てた様子で動いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	縄跳びをする児童が複数人いたので、全体を見ながら、最後のほうの児童と一緒に行動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で活動している児童の見守りをしていた。	日ごろ活発な児童に対しては、活動場面が変わる際は注意を向ける必要があった	児童一人ひとりの活動の特性を見極め、言葉がけなど対応を工夫する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9577	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40						40		6	3	19.7歳	1.男児	–	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	普段とは異なる場所であったため、児童も普段と異なる行動をとる可能性があった。	児童が普段と異なる行動をすることを想定の上、事故防止に努める。	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	事故が発生した施設はスポーツ施設であるため、施設管理者により必要な点検は実施されている。	なし	1.集団活動中・見守りあり	レクレーションなどでの事故回避には特に注意はしていた。	今回の事故を参考にして、児童にケガに注意するよう事前に呼びかけるなど今後の事故防止について再確認した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	元気いっぱいにゲームをしていたが、転んで左足首を骨折。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見学者２名（うち発達障がい児１名）が居たため、２階から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ゲーム指導員を２名依頼していたが、ゲーム指導員は転倒に気が付いていなかった。	いつもと違う場所、広くクーラーも効いていて好環境の為、当該児童は頑張りすぎたかもしれない。	児童一人一人の動きに目を配ることが大切。	
9578	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39						39		7	3	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	風をきり、漕いでいる気持ちよさに気を取られることがある。	遊具で遊ぶ際、気を付けて遊ぶように話す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事故につながるような危険行為がないよう、見守りを徹底するとともに、児童への注意喚起をおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	–	特になし	児童への見守りを強化していく。	
9579	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15						15		4	1	22.10歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折及び眉間部裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	児童が遊びに夢中になっている間に門の方へ寄っていった。	本児がぶつかった門側に支援員を配置と見守りの徹底	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	ハード面に関しては問題なし	ハード面に関しては問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員の見守る中一人の児童が転倒したが一瞬の出来事で防ぐことが出来ず門に顔面をぶつけ、鼻・眉間を負傷した。受診し鼻を骨折と判明	敷地内の危険個所を再チェックし支援員全員に周知することで見守りの強化を行い、児童にも注意喚起を促す	1.いつもどおりの様子であった	自由遊びの外遊びで支援員と一緒にだるまさんがころんだを行った後、足がもつれ門にぶつかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童と一緒に遊んだり見守りをしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の支援員を見守りながら子どもたちと遊んでいた	門に近い場所で足がもつれることを想定していなかった。	構造物の場所を確認し、児童が近寄らないように注意を促す。	
9580	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20						20		3	2	21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第4指基接骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	成長過程や、広い場所への移動などで気持ちが高揚していた。	その日の子ども達の様子を見て、クールダウンする時間をとる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	施設については問題なし	施設については問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員の見守る中一人の児童が転倒したが、一瞬の出来事で防ぐことが出来ず右足を骨折	施設内の危険個所を再チェックし支援員全員に周知し見守りの強化と児童にも注意喚起を促す	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	久しぶりのホール利用で気分が高揚しているように感じた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	部屋の奥とドアの近くに配置していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童を見守っていた。	該当児童以外も久しぶりのホール利用だったため、全体的に興奮しているように感じた。	特になし	
9581	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16						16		7	7	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	なし	遊びに熱中しすぎて気持ちが高ぶりすぎないよう声をかける。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	子どもが体勢を崩し転倒する動きが察知できなかったため、手を差し伸べられなかった。	今後も子どもの予想する姿から注意すべき点や危険察知をさらに意識し、未然に怪我を防いでいく。	3.個人活動中・見守りあり	なし	子どもの動きから危険を察知し、職員配置の改善を図る。	1.いつもどおりの様子であった	ボールをキャッチした際、体勢を崩し転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども全体の様子と遊びの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の保育室におり、気づけなかった。担当職員の呼びかけがあり、すぐにかけつけた。	なし	職員間で連携し合い、再度危険が想定できるようにし事故防止に務める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
9582	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		3	1	19. 7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	カーブの時の見る位置を知らせる。	慌てず前を向いて鬼ごっこをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	逃げる子が死角に入らないように、見晴らしの良い所でする。	鬼ごっこをする時、場所の範囲を設定する。	1.集団活動中・見守りあり	支援員が児童を見守る位置を考える。	活発な遊びを中心にして見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼から逃げていて砂場の近くまで来た時、前方に児童がいたため止まれず転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一瞬の事で手助けをすることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で縄跳びをする子と鬼ごっこをする子を見ていた。	学年が1年生と6年生だったので、1年生だけにする。	異年齢での外遊びはなるべくしない。	
9583	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	57							57		5	4	18. 6歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	–	職員会では毎回、怪我や病気等子どものことについて話し合う機会を設ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	湿度が高く床がべたつく時は、遊ぶ前に子どもたちへ声をかけると共に職員そのことを踏まえ子どもたちの様子を見守る。	1.集団活動中・見守りあり	–	子どもの人数で職員配置を決めるのではなく子どもの様子や状況を見て職員間で声を掛け合い見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友達と自分の好きな遊びで気持ちが高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	あそびの全体が見れるように遊戯室東側中央で見守っていた。対象児が転びらずくまった為、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	工作室では、親子対応や玩具の貸し出し対応、図書室で騒いでいる児童への対応をしていた為、見ていなかった。	–	子どもたちと、もう一度「天下」の遊び方の確認をすると共にとっさに起きた時の対応、方法などを話し合ったり知らせた。	
9584	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9							9		2	2	20. 8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上前歯折れ、左上前歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	–	医療関係の連絡先を職員が早急に対応できるよう職員室に設置。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	–	今回、転ぶ要素となるものは無かったが、より一層気をつけて点検していく。	1.集団活動中・見守りあり	–	見守る位置や意識を職員会で繰り返し確認・共通理解していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	２人体制で当該児童に近い職員は動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童に遠い場所にいた職員には見えなかった。	–	怪我の対応、遊びの見守りの体制・意識について職員間で繰り返し確認していく。	
9585	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	72							72		5	2	18. 6歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	子どもが傷みを訴えた場合は、見るだけでなく触って痛みを確かめること、経過も確認することを、職員全員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	子ども同士の衝突が原因で、施設の不備ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室利用の人数が多くなり過ぎないように、気を付けて声をかける。	天下の参加人数が多きときは、分けて行う。	1.いつもどおりの様子であった	–	2.対象児の至近で対象児を見ていた	–	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室に職員は一人であり、他の職員は別の場所で見守りをしていたため、他の職員は対象児の動きを見ていなかった。	患部を触らず確認しなかった。また、本児が足を痛めたことを共有できていなかったので、他の職員が気にかけられなかった。	子ども同士の衝突事故が原因で、他の要因はない。	
9586	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		3	1	20. 8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨開放性骨折	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	園庭で児童が遊ぶ際に、見守り体制を維持しつつ遊ぶ方法を考慮する必要があった。	児童が遊ぶ際は支援員の見守り場所を随時変更しながら支援員全員で見守りに配慮する。ヒヤリハット報告書を幹部して事故発生の予防策として活用に努める。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	見守りにおいて備品等で死角になるところがあった。	視認範囲を広げるため、備品等の配置を変更する。	4.個人活動中・子どものみ	支援員が一瞬その場を離れたときに事故が起きてしまった。	支援員が不在となる時間をつくらないよう、支援員全員へ周知を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になりお互いの位置を確認せず遊んでしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守り配置変更時、交代支援員を待たずにその場を離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの配膳の準備、保護者のお迎え対応をしていた。	遊びが激しくなった時の注意喚起の声掛けが遅かった。こどもたちの周囲への状況把握が薄く夢中で木材を振り下ろしてしまった。	支援員はより近くで見守り、危険な状況では即座に注意喚起の声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9587	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36							36		5	4	22.10歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	遊具使用ルールの確認	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りのようす	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童と会話中につき目撃せず	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた	特になし	サンダルを着用して遊ぶ危険性を改めて児童全体に伝え、職員・児童互いに注意し合える環境を整備する	
9588	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59							59		8	4	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の上 尺骨、橈骨（とうこつ）の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	特になし	事故対応について改めてシュミレーションなどを行い、保護者や事業者への報告等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	保育開始前に、危険箇所がないか指導員による点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今回の事故に関して施設・設備の影響はなく、改善の必要なし。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり、ドッジボールを楽しんで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にいたが咄嗟のことで転倒を防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守りをしていた	特になし	各支援員がより広い視野で見守るようにする。	
9589	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	9							9		2	1	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左撓尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	職員2名体制の中で施設に保護者のお迎えがあり、職員一人が一時的に施設へ戻っていた。	見守りの職員の人数により遊びの内容を変えるなど、児童全員が安全に過ごせるようにクラブ全体で工夫をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	逆上がりの補助台の使い方が間違っていた。（補助台の上から鉄棒へジャンプしていた）	間違った使い方をするとケガにつながる旨を指導。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒本来の遊び方とは違う、誤った使い方をしていた。	子どもたちに正しい遊び方を伝え、職員への見守り指導も行った。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体操を習っていることもあり、得意気な様子でチャレンジしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守ってはいたが、事故現場を直接は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えの対応により、１名一時帰所	お迎えの対応により、一時的に1名体制	特になし	
9590	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		5	2	22.10歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左手首)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	鬼ごっこ等の動きが激しい遊びをする際は広いグラウンドで行う	1.定期的に実施	実施頻度(日々点検)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用時に点検)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(日々点検)回/年	今回活動していたのは、学校の敷地内だったため設備面については確認していなかった。	施設の敷地だけでなく、児童が活動する範囲の確認を行う。遊びに危険がないかどうかの判断も職員全員ができるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	階段や段差の多い場所で、走ることや激しい運動をすることに適していなかった。	鬼ごっこ等の激しい遊びは広いグラウンドで行う。	1.いつもどおりの様子であった	当日までの2～3日も同じように鬼ごっこをして遊んでいたため、下校後の遊びの定番化していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鬼で複数の児童を追いかけていたため、はっきりと見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くで他の児童の保育をしていた。対象児童の付き添いをしていた児童からの報告を受け、処置を行った。	特になし	事故が起きそうな場所や遊びは複数職員が目を配れるように配慮する必要があった。	
9591	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	73							73		12	6	21.9歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指付け根骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	的確な処置を行わず、軽度の判断を行ってしまった。	怪我の処置の仕方の統一性	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	学校側による	学校側による	1.集団活動中・見守りあり	軽度の怪我と判断し、処置を怠った	怪我の報告を全体で共有、独断で判断をしない	1.いつもどおりの様子であった	最後の一人になり頑張って逃げていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	審判をしながら応援をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	最後の一人のため体育館にいた職員は見ていた。	ボールが少し硬かったことと、軽度の怪我と判断し処置を怠った	空気圧を確認しておき、軽度の怪我でも万が一のことを考え処置を行う。	
9592	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	5							5		2	1	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	見守る支援員が近くにいなかった。	遊ぶ場所を決め、支援員の目が届く範囲にする。大人の人員を増やすよう努める。	2.不定期に実施	実施頻度(６)回/年	3.未実施	なし	1.定期的に実施	ほぼ毎日	特になし	遊ぶ前に、公園の状況や遊具の使い方を確認する。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	外出前、遊ぶ前の確認を具体的な内容にし、支援員を適切な場所に配置することで、事故の未然防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった	自由に遊具を使って遊んでいた。らせん状になったのぼり棒を１ｍほど上ったあたりから落下し、左腕を地面にうった。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員２名は、他の児童と一緒に遊びながら見守りをするような状況であったため、落下したところを見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員２名は、他の児童と一緒に遊びながら見守りをするような状況であったため、落下したところを見ていない。	特になし	国外保育を行う前に支援員が注意事項を共通理解し、児童の動きが把握できるように支援員を配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9593	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		5	3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	当日の職員配置において人数的には問題ないと考えられるが、配置が適正であったか検証が必要と考えられる。	職員の配置に関して、クラブ全体で話し合うと共に、不測の事態に対応できるように、事故予防の研修を実施する。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	今回の事故に関しては、ハード面の要因はなし。	遊具使用前に安全確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	手が滑りブランコの持ち手を放したが、遊具そのものに問題はなかった。	使用前に安全確認、特に雨上がり等は濡れている場合があるため注意する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発な児童で、当日も変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	突然の出来事だったため、対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていたため、気づかなかった	外遊びは2組が合同となるため職員の配置が適正だったか、慣れによる危機意識の低下はなかったか等話し合いが必要。	外遊びは2組が合同となるため、職員の配置や見守りに関してクラブ全体で話し合い、危機管理意識の向上を図っていく。	
9594	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	52							52		5	5	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員配置はできていた。	もう一度ヒヤリハットの場面を職員間で考え、話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	何もない壁に手をぶつけた。異常・破損なし	異常・破損危険・がないか日々確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	見守りはしていたが、瞬間は確認できていなかった。	死角になる所もあるので、職員が移動し確認・声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、おやつを食べた後、いつもどうりテレビを見たりして静かに遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応していたので見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れたところで、他の子どもの対応をしていた.。	特になし	–	
9595	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		4	3	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	未実施	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルの作成を検討するとともに、事故予防に関して理解を深めたい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	使用中や片付け時に玩具の状態を常にチェックしている。	特になし	遊びに必要な玩具であり、一般的な物より柔らかく軽量なものを使用している。引き続き適切な環境づくりに努めたい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今まで以上に注意深く見守りたい。	1.いつもどおりの様子であった	運動が得意で、活発な児童である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをする児童6，7人全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを別の場所で見守っていた。	特になし	子どもの遊びに必要な動きであるので、今まで以上に注意深く見守りたい。	
9596	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	90							90		8	5	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	職員の配置に問題があり死角が出来ていたため、木登りを注意することができなかった。	子ども・職員がどこにいるか常に把握し、死角のないよう支援員を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	木登りをしており、掴んだ枝がもろく折れてしまったこと。	遊具で遊ぶ歳のルールを再度、確認指導する。	1.集団活動中・見守りあり	支援員の配置に問題があり、死角になっていた。支援員交代の際に情報の共有がうまく行われていなかった。	再度支援員の配置を再検討する。支援員交代の際に情報の共有を行う。	1.いつもどおりの様子であった	木に登って蝉取りをする。左手で蝉を取り右手で枝につかまり降りようとするが、枝が折れ落下。右から転落し骨折する。	4.対象児の動きを見ていなかった	１０ｍほど離れた場所に担任がいたが、ブランコで遊んでいる子ども５・６人を見ていて意識が向いていなかった。また、木で子どもの姿がはっきりわからなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	交代前までは支援員は配置していること気づいていたが、支援員が交代のタイミングで情報の共有が十分に行われておらず、支援員がいないことに気づくことができていなかった。	副担任と担任が外の見守りを交代するタイミングの時に何人子どもが遊んでいるか情報交換をするべきだった。	子ども・職員の配置を確認することと、交代のタイミングで情報交換をする。	
9597	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	66							66		9	5	20.8歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	状況的に軽傷であると思われる場合でも最悪の事態を考え行動するように改善をした。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	外遊びの際は地面にケガに繋がるようなものが落ちていないか確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	鬼ごっこなど衝突の恐れがある遊び中は支援が見守りを強化し衝突前に防ぐ声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	転倒後も何事もなく走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	持ち場に立ち複数の児童を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	監視はしていたものの咄嗟の出来事で対応できなかった。	手を突いた際に体重が一転にかかり骨折をしてしまった。	日頃から「転び方」についても児童たちに伝えていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9598	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	44						44		6	2	22.10歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修は実施。保育室での動きのある遊びについて見直し。室内での事故を想定した訓練を実施するよう改善した。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	事故が起きたプレイルームは適度な広さ、家具の設置も問題ないため、引き続き点検を実施していく。	3.個人活動中・見守りあり	プレイルームで接触による事故が起きる遊びを容認していて、事故に至っている。	室内での遊び方を見直し、接触により事故が起こる可能性のある遊びを禁じる対策を講じた。	1.いつもどおりの様子であった	布ボールの蹴り遊びに興じて、興奮気味だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	プレイルーム に１名配置していたが、全体を見ており、児童が棚を蹴り上げるのは静止できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童から離れた場所にいたため、児童の動きを見ていなかった。	特になし	児童を見守る場合、怪我を起こすかどうかではなく、興奮する起因となるものの察知するよう指導。毎回の朝礼で確認。	
9599	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31						31		4	2	21.9歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	児童本人が遊びに夢中になって注意を怠った	外での冬休みの遊び方について具体的に声掛けをする	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	3.未実施	–	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	–	改善策はなし	3.個人活動中・見守りあり	鬼に捕まらないよう必死で逃げていたところ、バランスを崩して転倒した。	コンクリートや建物周辺は危険なので、走り回る遊びをしないよう声掛けが必要	1.いつもどおりの様子であった	外遊びで鬼ごっこをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊びを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担をして、見守りを行っていた	–	冬休みの遊び方について、子どもたちに具体的に声掛けをする。日頃も伝えてはいるが、さらに一日保育を意識し、声掛けを行う	
9600	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18						18		3	2	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第3指骨 骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.基準配置	–	マニュアルを再度確認する	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(－)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(260)回/年	–	児童との遊びの中で点検をする。児童が使用する前に安全か確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	–	死角ができないように見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り外遊びに行く	2.対象児の至近で対象児を見ていた	運動場の全体を見守る。ブランコは注意深く見守り声かけをしていたが、突然の出来事に注意・対応が間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の児童の遊ぶ付近を見守っていた	–	外遊びにおける支援員の見守る位置の再検討を行う。外遊びでのルールの確認をする。	
9601	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59						59		7	4	18.6歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	–	外遊びの決まりごととして築山は走らないことを決めているため、再度走るとどうなるか全児童に対して学習させ、危険察知能力を高めるように声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	–	活動する前には、注意点を入所児童に説明	1.集団活動中・見守りあり	–	活動する前には、注意点を入所児童に説明	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで。いつもどおり外遊びをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の目のとどく範囲におり、全体的に危険が行動をしていないか目配りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	活動する前には、注意点を入所児童に説明	
9602	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		4	2	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第五趾中指骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１) 回/年	1.基準以上配置	–	遊具の適切な遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている際は、声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	–	活動する前には、注意点を入所児童に説明。	1.集団活動中・見守りあり	–	活動する前には、注意点を入所児童に説明。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで、いつもどおり外遊びをしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児童は、支援員の目がとどく範囲におり、全体的に危険な行動をしていないか目配りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	支援員は視野を広く保ち、全体を見渡しながらも個々の児童対応をするように支援員全員で確認。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
9603	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41						41		4		3	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位端線損傷	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故では不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように元気に登所し、直ぐに木登りを行う。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	木から２ｍぐらい離れた所で見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は別の遊びの見守りをしていた。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
9604	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	70						70		7		3	20.8歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	職員間での事故防止のための話し合いを行うとともに、安全管理マニュアルの再確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	木登りをしている部分の組木を外す。雑木林で遊んでいる児童がいる際は必ず近くに職員を配置する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童全員に対してグラウンド・雑木林で遊ぶ際の危険箇所の指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	複数の友達と一緒に雑木林にて遊んでおり、木登りを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	虫捕りをしている児童と木登りをしている児童に分かれていたため、対象児が落下する際には雑木林にはいたが間近にはおらず、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の外担当の職員は少し離れたグラウンドにいて児童を見守っており、室内担当は掃除やおやつの片付け、室内の児童の見守り等を行っていた。	特になし	児童の人数に応じて、外遊び担当職員の人数を増員して安全確認に努める。	
9605	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		4		1	19.7歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	職員は基準以上に配置しているが外遊びしている児童への注意が足りていなかった。その他、怪我の状況認識が足りず初期対応が不適切であった。	外遊びの注意事項を再確認し、職員への指導を強化するとともに児童への注意喚起を怠らないようにする。怪我による初期対応は、処置を優先する必要性を本人に理解してもらい、例外なく直後に処置を施す必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	当クラブの敷地内には段差の多い箇所も存在する。	段差を無くすことは現状では難しく、段差がある場所での駆けっこ遊びをしないよう注意喚起をおこなうことを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	敷地は広く支援員からの死角もできやすい。	児童へ向けて、外遊び中は視界が開けた場所での遊び方を指導する。また支援員は死角が発生する場所は避けて見守る必要があり、それを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	–	4.対象児の動きを見ていなかった	事故が起きた瞬間は、職員は児童から死角に当たる場所にいたために見過ごしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	–	特になし	児童や職員の判断ではなく、例外なく初期対応を行う必要がある。	
9606	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27						27		2		2	20.8歳	1.男児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	なし	なし	なし	なし	特になし	戦いごっこ自体に危険性が伴う遊びであることから、戦いごっこを禁止し、危険性の低い遊びを検討する。	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	同学年の男児2人が楽しそうに戦いごっこをしているのを見て一緒に遊びたくなり、急に蹴りを入れて仲間に入ろうとしたところに、蹴り帰されて負傷した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	フロア担当の者が戦いごっこをしているのに気付き仲よく遊んでいたがエスカレートしないよう注意しながら見守っていたが負傷の瞬間は壁が死角となり見ていなかった。寝転がり元気がない事に気付き手当をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び担当の者は室内の事は分からなかったので、室内に入ってきてからフロアー担当の者に説明を受けた。	男女共に全体的に活発で、羽目を外し易い学年である。	激しい行動にならないように気を付けさせる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9607	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		4	3	21.9歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨（とうこつ）遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎日回/年	2.基準配置	外部から講師を招いての専門的な研修等は行っていない。	今後、事故防止、予防に関する専門的な研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	特になし	引き続き、安全点検を定期的に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	風が強く砂が舞っていた。	外の様子を注視しながら危険回避に努めていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ボールに向かって積極的に走って取りにいった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボールの流れを目で追って児童の動きを見ていたが瞬時の出来事に対応することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と関わっていたため見ていなかった。	積極的にボールを取りにいきたいという気持ちが事故に繋がったと考えており、遊び方について注意するべきであった。	児童の特性をとらえて児童にあった声かけをおこなっていく。	
9608	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		6	3	18.6歳	2.女児	–	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	支援員・補助員を対象。霧島市消防局員指導の普通救命講習（心肺蘇生法、AED使用方法、その他応急処置）の受講。	1.基準以上配置	少し大きめの一輪車に乗っていた。	身体に応じたサイズの一輪車に乗るよう声をかける。サドルの高さ調整を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(３～４)回/週	2.不定期に実施	実施頻度(１～２)回/週	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/月	特になし	定期的な点検が行えるようにする。些細な気づき等も職員間で共有し、設備点検への意識をさらに高めていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊ぶ前に留意点など伝える。子どもたち自身でもケガや気を付けること等を意識していけるように場面を通して知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	一輪車に乗れるようになったことが嬉しく、当日も支え無しに一人で乗ることを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一輪車に乗っている姿からは危険な乗り方をしている様子は見られなかった。遊んでいる様子を気にかけると同時に、行事の進行状況や高学年の下校等の様子にも意識を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員はイベントを進めたり各部屋で他児童の見守りをするなど、それぞれで対応していた。	特になし	遊具・玩具などの点検をこまめに行う。 一人一人の子どもの遊び方を把握し、職員間で共有する。	
9609	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23		3	3	22.10歳	1.男児	–	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右股関節水腫	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	毎日点検をしている。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	毎日消毒をかねて点検をしている。	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特になし	4.対象児の動きを見ていなかった		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	翌日、痛みを訴えたので保護者へ状況を報告。	特になし	小さな怪我でも報告するように、全児童へ口頭指導を行う。	
9610	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	33							33		4	2	23.11歳	2.女児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指の裂傷及び関節部の軟骨の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	法人内で交通安全研修を実施（1回/年）	1.基準以上配置	担当支援員の明らかな不注意により起きた事故	敷地内外問わず、運転に際しては十分に注意を払うこと。同じルートの運転に慣れてしまわないように。 日々緊張感をもって運転する事。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	3.未実施	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	–	1.対象児の動きを見ていなかった	他の児童クラブの車が次々と入ってきている中で、スペースを作ろうと動いてしまい、当該児童が乗り込んでいるのを目視できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なし	なし	敷地内外問わず、運転に際しては十分に注意を払うこと。同じルートの運転に慣れてしまわないように、日々緊張感をもって運転する事。	
9611	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		4	2	19.7歳	1.男児	–	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３～４)回/年	2.基準配置	送り出すときに児童の持ち物や状況を確認せず見送った。慌てずかえるよう声かけができなかった。	帰宅時は時間に余裕をもって送り出す。送り出す時に持ち物の持ち方など事故になる可能性はないかチェックする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	地面に物がないか確認する。（つまずいて事故につながらないように）	7.その他	送り出すときに児童の持ち物や状況を確認せず見送った。慌てずかえるよう声かけができなかった。	時間に余裕をもって送り出す。見送り時、走らないように声掛け。持ち物の持ち方など事故につながる可能性はないかチェックする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子。普段から走りまわることが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	玄関先で見送り、帰宅するところを室内から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他の児童を見ていた。	帰るときに一緒に帰るはずだった兄弟が先に出てしまった。兄弟に待つよう声かけできなかった。	自分で帰る児童については特に送り出す際、持ち物の持ち方や靴の履き方などを確認する。帰宅時間に余裕をもって声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9612	令和5年3月30日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	1	20.8歳	2.女児	–	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ドッチボールよりも柔らかいボールを使用	もう少し柔らかいボールにする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	近くから力いっぱい投げないように距離の確保・声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じように大好きなドッチドッチに参加	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判と副審二人体制。何かあったら対応できるようにしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関やその他の子ども達の見守り	当てるのに夢中になって近くから当ててしまった	活動に入る前に全体でルール確認・ストレッチや準備運動(怪我しない体作り)に努める	
9613	令和5年7月28日		13.子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)											援助会員1名	援助会員1名	21.9歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指の骨折	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	年5回	2.基準配置	事故予防に関する研修は実施していたが、交通安全や交通事故に関する研修を実施していなかった。	交通安全や交通事故に関する研修を実施する。							事故が発生した現場は見通しの悪い交差点で、道幅も狭かった。	自家用車で送迎を行う際には、見通しの悪い交差点を通らないよう周知する。また、事前に走行経路について確認するよう周知する。	7.その他	直進車を認識できないまま右折してしまった。	見通しの悪い交差点でも、安全を確認してから走行するなど基本的な交通ルールを徹底するよう周知する。	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	後部座席に児を乗せていた。			送迎は初めてではなく、何度も送迎をしたことがある道での事故発生だった。	慣れている依頼内容でも、毎回注意を徹底して活動をするよう周知する。	
9614	令和5年7月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	軽く相手の足が本児の胴に当たりバランスを崩して転んだ。	該当なし	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	特になし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	該当なし	1.いつもどおりの様子であった	保育中、本児のクラスのみが園庭で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は、23名の園児が人工芝の園庭でサッカーや固定遊具で遊ぶ姿が見える位置に立ち全員の様子を見ていた。事故が起きた瞬間には、直ぐに対象児に寄り添う事が出来た	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員のみ園庭におり、6人の男の子のサッカーの様子を遠くより見ていた。		特にないがサッカーの遊びのルールをみんなで話し合う。	
9615	令和5年7月28日	1.認可	5.幼稚園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	当日は年長組25名に対して3名の教諭で外遊びを見ていた	行事の練習が多い時には特にけがに注意する	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	3	園庭が全面砂なので転んでもけがは少ない	砂の段差はなかったがこれからも十分に注意する	3.個人活動中・見守りあり	学芸会の練習が多い時期のため、外遊びの際に遊びが活発すぎたと考えられる	外遊びの時間を十分にとると共に普段より多く注意を呼び掛ける	1.いつもどおりの様子であった	お友達数人と鬼ごっこをしていたが鬼に捕まらないように周りを見ずに走ってしまった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は園児全体を見ていたので対象園児の転倒にすぐ気づくことはできたが、子供たちの細かい動きまでは予測できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人は園児と遊んでおり、もう1人は園児と話をしていた。		全体を見る先生の配置を確実に確保する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9616	令和5年7月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	206	0	0	0	54	74	78	0		21	21	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘骨骨折（左側）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置		見守りの範囲や注意事項をわかりやすくルール化し、適宜終礼等で確認する。複数で手をつないだジャンプ禁止の注意喚起を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	234	1.定期的に実施	12	単独でジャンプすることは禁止していないが、複数で手をつないでジャンプすることは禁止している場所である。	砂場付近の木に、複数で手をつないでのジャンプ禁止の掲示を行う。	1.集団活動中・見守りあり	3～5歳の園児が園庭に出て遊んでいた。園庭が混雑していたうえ、対象児が年長児の姉と一緒に遊んでいたことに職員が安心してしまい、見守りが行き届かなかった。	けがの危険性がある箇所（背丈の高い遊具等）で遊ぶ子どもにつくだけでなく、園庭全体を見守る職員を配置し、見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりはなく、元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任が他の園児を見守っており、砂場に背を向けていたため、園児がジャンプしているところを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスの園児の見守りをしていた。		引き続き、見守り中はクラスや学年に関わらず、子どもたちに適宜声掛けをして危険な遊びをしていたら注意する。	
9617	令和5年7月28日	1.認可	5.幼稚園	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									5	4	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	0	2.基準配置		怪我に繋がる行動を予測し、注意喚起をする。一人一人の観察の共有。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3		跳び箱の欠陥、亀裂などは無かった。危険防止に敷くマットを今よりも広範囲に敷いて対策。	1.集団活動中・見守りあり		子供の目線に立ち、複数の職員での危険予測。跳び箱補助の強化。	1.いつもどおりの様子であった	体育ローテーション中に、跳び箱を跳んで、着地に失敗する。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱で補助をしていた職員がその瞬間を見ていて、声をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱、マット、鉄棒など、各場所を担当し、補助していた。		一人一人が広い視野で子どもを見る。子供の様子をよく観察し、少しの気づきでも他の職員に伝え、共有する。	
9618	令和5年7月28日	1.認可	5.幼稚園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									3	2	16.4歳	1.男児	対象児は、体の動きがぎこちなく、バランスを崩しやすい。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	本児は朝から腹痛があり、登園した。登園後に「お母さんに会いたい」と泣いていた。	リスクの高いシチュエーションとタイミングについて共通理解を図った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	担当教諭は要支援児で動きの激しい子の方に注意がいっており、本児には目を届いていなかった。	活動を行う時間帯の精査が必要である。	3.個人活動中・見守りあり	集会時に帽子の色を変えて活動し、終わった後に帽子の色をそのままにして遊び始め。本児を含め、園庭で遊んでいる子の帽子の色が学年色ではなかったため、本児がどの辺りで遊び始めたのか、分かりにくいところがあった。	帽子の色を学年色に戻すことを忘れずに行い、子供たちがどの位置で遊び始めるかを見届け、子供たちが安全に遊んでいるか把握できる環境となる配慮をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	登園時には腹痛を訴えていたが、元気になり、集団活動に参加して体を動かす様子が見られたので安心して見守っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラスの子供たちがどの辺りで遊び、どのような動きをしているのか、できるだけ把握するように、園庭全体を見守る。また、支援を必要とする子供たちの動きは特に注意して見守ることができるようにする。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近距離にいながら、他の園児を見守っていた。	担任は朝から腹痛を訴えていた本児の様子を、時々見て、声を掛ける必要があった。全学年の子供たちとそれぞれの教師、キッズサポーターが園庭に出て、大勢の目で見守っているため、誰かが見てくれているという安心感をもっていた。	朝から腹痛を訴えていた本児には、教師が丁寧に見守り、声を掛けたり、様子をうかがったりする。	
9619	令和5年7月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									2	2	16.4歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	15	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	190	1.定期的に実施	190	特になし	特になし	7.その他	オルガン横に固定した机付近で転倒した。怪我につながるものは避けてあるが、走ったことが要因の一つである。	走れるスペースを作らないような環境づくりをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	身の回りの玩具を片付けていた。後半になると周りの様子が気になってしまい、やることが見出せず動き回って落ち着きがない様子が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室内での片付け中であったため、全体の様子を見ながら玩具が広がっていたところの対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援児と関わっていたため、対象児の動きは見ていなかった。	室内は歩く、という約束になっているが徹底できていなかった。また、玩具の片付け状況よりも子どもの動きに注視すべきだった。	絵表示をしておくことで、注意の言葉を掛けなくても見て分かるようにする。片付け後半は持て余し気味であるので、次の目的をもたせる促しをしたい。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9620	令和5年7月28日	1.認可	5.幼稚園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51	0	0	0	13	17	21	0	0	5	4	18.6歳	2.女児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	周りをよく見て走る事を伝える	1.いつもどおりの様子であった	健康状態について特に問題はなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにいたがその場は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいたがその場は見ていなかった	特になし	より周りに気を配るように心がける	
9621	令和5年7月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	206	0	0	0	54	74	78	0	0	21	21	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯神経損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置		見守りの範囲や注意事項を分かりやすくルール化し、適宜終礼等で確認する。●棟を走らないように注意喚起を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	234	1.定期的に実施	12	通常、●棟は雨の日の登降園に使用しているが、園庭・遊具の一部として子ども達が使うこともある。	●棟の柱に、「走らない」と注意喚起の掲示を行う。	1.集団活動中・見守りあり	友達と鬼ごっこをしており、本児が転んだ。	けがの危険性がある箇所（死角となる場所等）で遊ぶ子どもにつくだけでなく、園庭全体を見守る職員を配置し、見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりはなく、元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任が他の園児を見守っており、他の園児につく加配職員と遊んでいたため、転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスの園児の見守りをしていた。		引き続き、見守り中はクラスや学年に関わらず、子どもたちに適宜声掛けをして危険な遊びをしていたら注意する。	
9622	令和5年7月28日	1.認可	幼稚園型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	200			10	70	63	57			35	33	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上肢骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年1回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	月に1度	1.定期的に実施	年3回	1.定期的に実施	年300回	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	子どもが遊具にぶら下がっている場面を見守ることができなかった	職員の見守り配置を分散する	1.いつもどおりの様子であった	活発に戸外遊びを楽しんでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保護者に連絡病院同行	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守り	特になし	特になし	
9623	令和5年7月28日	1.認可	幼稚園型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	61			9	15	17	20			33	33	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	2.負傷		3.骨折	5.下肢(足・足指)	下肢骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年2回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	年2回	1.定期的に実施	年2回	1.定期的に実施	年278回	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	友達とボール遊びを楽しんでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守り	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守り	特になし	特になし	
9624	令和5年7月28日	1.認可	幼稚園型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	35		12	12	49	63	53	#		35	29	18.6歳	1.男児	特別支援児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	下肢骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年3回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	年3回	1.定期的に実施	年45回	1.定期的に実施	年89回	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	友達に足が引っ掛かり転倒	4.対象児の動きを見ていなかった	見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守り	足を注視しなかった	様々な可能性を考え全身状態を確認する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9625	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	18							18		4	2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(20)回/年	2.基準配置	特になし	遊具での事故が多いことについて、定期的に職員間で研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	公園内及び、周辺の危険個所の確認や注意喚起が不十分だった。	初めて遊びに来る公園で、大型遊具に子どもたちは興奮していた。遊具での事故が多いため、初めて遊ぶ公園では事前に職員同士、また子どもたちに注意喚起を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこの特性上子どもは逃げることに一生懸命になっており、遊具上がやや渋滞していた。また、滑り台から立った状態で降りようとしており、遊具の正しい使用方法ではなかった。	正しい遊具の使い方をしなければ危険であることを日頃から指導し、公園に入る際にもあらためて注意喚起を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員が鬼となって鬼ごっこをしており、児童を数人を追いかけていた。大型遊具とその周辺を使用していたので、児童の動きを見渡せる範囲にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内は遊具が4か所に分かれており、支援員はそれぞれ各遊具の傍で見守っていた。事故があった大型遊具の傍には支援員が2名、その他の場所に1名ずつ配置していた。	特になし	職員は遊びに夢中になりすぎず、全体を見まわせるように役割分担、配置をしていくよう改善する。	
9626	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		2	1	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右膝の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ボール遊び中、ボールを避け足がついた際に右膝をひねったため。	指導員の見守り方法を改めて確認していく。 適度に休憩させ運動に熱くなりすぎないよう気持ちを落ち着かせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	小学校の体育館を使用しており、普段より児童一人ひとりの活動範囲がたかったため、児童一人に対しての見守りがあまりできていなかった。	活動範囲の広さに対しての児童の人数を制限し、見守り体制を整える。	1.集団活動中・見守りあり	普段から児童同士の気持ちが盛り上がりすぎてしまう遊び内容であり、いつもより見守りが必要だった。	遊びの内容について、気持ちが盛り上がりけがにつながってしまうのであれば内容の検討が必要である。ストレッチ等で十分身体をほぐしてから遊ぶよう指導する。気持ちを落ち着かせるよう休憩時間を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	女の子の中では、活発である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体と特に１年生の見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	除菌作業をしていた。	新型コロナウイルス感染症対策として除菌作業を行っていた。	児童がいる時間帯は見守りを最優先し、特別しなければいけない作業がある時は専門の職員を配置する。	
9627	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42							42		5	3	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左眼窩底骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	遊戯室にて活動を見守っていたが、遊戯室外から支援の必要な児童が走って入って来てしまい、予想外の事故が起きてしまった。	支援の必要な児童に対して、気持ちが落ち着くまで支援員1人を配置する。また、職員全体で支援の必要な児童の対応について事例研究を行っていくことで支援力を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	人的事故であり、施設・設備等に問題はない。	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室にて活動を見守っていたが、遊戯室外から支援の必要な児童が走って入って来てしまい、予想外の事故が起きてしまった。	遊戯室の出入りのルールを徹底する。 また、支援の必要な児童がクールダウンできる環境作りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、遊びに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室全体を見渡せる位置に配置し、集団活動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で、活動を見守っていた。他の場所で、支援の必要な児童の対応を行っていた。	遊戯室にて活動を見守っていたが、遊戯室外から支援の必要な児童が走って入って来てしまい、予想外の事故が起きてしまった。	事故状況及び安全対策情報を、職員全体で共有し事故防止に努める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9628	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	112							#		11	8	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		安全管理に関する研修を受講する機会を積極的に設けるとともに、職員の安全に関する意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度毎日	密を避けるため一つのテーブルに座る人数を2名までとしていることで、テーブルの数を多めに配置していた。	部屋の広さと利用人数、活動の状況によって常に設備の見直しを図る。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	利用人数や活動の状況によって机の配置等環境を再構築する。	1.いつもどおりの様子であった	自由来館利用の友達と遊ぶため、図書室を利用していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	座卓の足に自分の左足の小指をぶつけたと本児から訴えがあったので、冷やそうかと伝えたが本人がしいと言ったため、軽い打撲程度と思い込み、けがをした足を確認しないでしまい、担任にも伝えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	けがをしたことを知らなかったため、予定通り一人帰りの声掛けのみを行い、見送った。	特になし	図書室なので静かに過ごす場ではあるが、けがにつながる事もあるという意識のもと、児童一人ひとりの動きに十分に目を配る。ぶつけたと児童から訴えがあった場合には、必ず患部を確認するようにし、その時点で目視できるけがの状態がない場合でも、時間が経過してから症状や痛みが現れる場合もあるので保護者へ報告する。	
9629	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	72							72		6	4	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	まだ確定していない	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	活動の合間に落ち着けるよう声掛け等をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	通常通り帰ってきて,宿題をしてから遊びに入る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	１人は鬼ごっこの審判をしながら全体把握をし,もう一人も全体を見守りながら何か起こった場合の対応をすぐにできる体制を整えている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの職員が児童の受け入れや遊びの見守りを行っていた。	特になし	けがをした際は2.3日は本児及び保護者へケガの状況を確認する。	
9630	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59							59		5	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	冬休み中ということもあり、いつもより子どもたち全体のテンションが高い状態であった。	外遊びをする際、玄関前の集合時に一呼吸おく声掛けを入れる。子どもたちと館庭での遊び方について話をし、危険がどこにひそんでいるか考えさせる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	怪我をした部位を冷やし、痛みなどはないか声をかけるが「大丈夫」との返事だった。その後も保冷剤で冷やしながら遊びを続けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が「大丈夫」と答えたため、職員間で怪我をした情報を共有し、様子を見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の対応をしていた。	特になし	特になし	
9631	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		7	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	1.基準以上配置	学芸会前で疲れていた様子が全体的にみられた。	子どもの様子をみて遊びの範囲を狭める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	—	3.個人活動中・見守りあり	活動の範囲を広げ過ぎて、目が行き届かなかった。	全体の遊びを把握し、目が行き届かない場合は職員の人数を増やすか、遊びの範囲を狭める。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯にて児童館クラブの児童数名と二段飛ばしに試みたところに失敗し転落。	4.対象児の動きを見ていなかった	泣いているところを職員が見つけ室内に連れてくる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の児童の見守りをしていた。	支援児やその他の児童と関わっていて目が行き届かなかった。	全体の遊びを把握し、目が行き届かない場合は職員の人数を増やすか、遊びの範囲を狭める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9632	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童							29		3	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	—	不慮の事故に対し、職員間での情報共有や対応策は日々話し合っている。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(－)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	借りている施設なので、変形や壊れている箇所がないかは毎日確認している。	1.集団活動中・見守りあり	舗装されているとはいえアスファルトの駐車場の為、転倒の衝撃が地面に吸収されず大きくなりやすい。また、端に生えていた雑草が１本長く伸び、駐車場までせり出していた。なお、駐車場に車がある時は外遊びに出ないようにしている。	・怪我に十分気をつけることを子どもたちに伝える。 ・外遊びの前に職員が危険なもの（石や蔦など）がないか確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段も外遊び（鬼ごっこ）によく参加しており、運動神経が悪いわけではない。本児もいつも通りのつもりで走っていたが、この日は雑草に足を取られて転んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこの人数が20名を超え普段より多かったため、補助として駐車場の中ほどで様子をみていた。対象児童の位置に近かったため、転倒後はすぐに声をかけ近寄り、怪我の具合を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補助の職員から少し離れた道路側から駐車場全体を見ていた。対象児童が転倒後、原因の雑草を確認。除去を行った。	鬼ごっこの参加人数が普段より多く、子どもたちは注意力が散漫になり興奮していたかもしれない。	対象児が怪我をした際は注意して対応し、保護者への説明もより丁寧に行う。	
9633	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45						45		11	11	19.7歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	転ばぬように前を見て登館する意識の希薄さが疑われる。	呼名の際や帰りの会などで＜登下館の際には足元に気を付ける＞ようさらに注意喚起を促していく。	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り小学校の昇降口から児童館に歩いて向かっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	登館後，いつも通りロッカーにランドセルを入れた後に本人から職員に対し左腕の痛みを訴えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	早速患部を保冷剤で冷やす処置を施した。保護者迎え時に患部の様子について伝え病院受診を勧めた。	特になし	職員が個人的に被災児に対しより一層注意喚起を促すことで未然防止に努めたい。	
9634	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	67						67		5	5	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首（橈骨骨端骨折）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	落ち着いて遊べるよう、個別に注意喚起の声がけをする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	各自好きな遊びをしている子どもの近くで見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同室に2名の職員を配置し、他の児童の対応をしていた。	特になし	特になし	
9635	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24						24		5	4	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	狭い空間の中での活動において,抑制を促す声掛けが不足していた。	狭い遊戯室での活動について,ルールを確認し,徹底したい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	冬場でもあり,室内でボール遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児ともう一人の児童が接触したのは確認し,応急処置はしたが,骨折までは考えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守りのため,別室である図書室にいた。	狭い遊戯室での活動であることからケガにつながることに関する予見予知が足りなかった。また,保護者への報告も怠っていた。	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
9636	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40						40		4	4	20.8歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	当該児童はスポーツ少年団でバスケットボールに所属しているため、運動慣れていると過信していた。	予め児童にスポーツを行う際の注意喚起を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	小学校体育館を利用しての活動であった。	普段と違う場所であることと、広い場所での運動であることを考慮し、職員はケガの発生を考慮して指導体制をとる。	1.集団活動中・見守りあり	予想のできない動きが事故につながることを念頭に置いて注意を促す必要がある。	職員間で想定される危険な状況等をシミュレーションする。また、児童の動線を予測し、対応について職員同士で情報共有する。	1.いつもどおりの様子であった	クラブに登所し、いつもどおり元気に活動していた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児童と他の児童1名も含めて、1名の支援員がマンツーマンで対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童（38名）をそれぞれ他3名の支援員が対応していた。	動きが活発なため、固定の児童のみを注視できない。	体育館などで運動するということは、事故やケガが発生する可能性が高くなると念頭に置いて支援する。	
9637	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11						11		2	2	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折（右手中指第２関節）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	長期休みの打合せと共に、再度事故防止の確認を行う	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	風船遊びであるため、ハード面では問題はない。	1.集団活動中・見守りあり	朝登所して間もない時間での体を使っての遊びだったので、注意声掛けをもっとするべきだった。	間隔を空けてぶつからないように遊ぶよう声掛けする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当日本人が一番始めに登所し、冬休みということもあり朝からテンションが高めだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	フロアで全体が見渡せる位置に立ち、子どもたちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の畳部屋で登所の受け入れをしていた。	特になし	周りの状況を見ながら落ち着いて遊ぶよう声掛けする。	
9638	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	108						#		13	13	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首じん帯と軟骨の損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	特になし	児童に準備運動の重要性を繰り返し指導し、外遊びの開始前には準備運動の時間を設けけが防止のために入念に準備運動を行うようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(2　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	特になし	安全点検行っていく中で修理等が必要なものについて早急な対応に心がける。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員や児童に、ゲームに夢中となりケガをした事例を紹介し、未然防止に心がけた外遊びに心がける。	1.いつもどおりの様子であった	サッカーが好きで、当日も活動的だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	審判をしながら見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自、担当箇所の見守りをしていた。	特になし	今回の事故を分析し、今後の事故防止の参考とする。	
9639	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	13						13		2	2	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	他職員と連携し、児童だけにならないようにする。	児童全体への声掛けや保育室で行ってはならない事項を改めて伝える。	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	特になし	床にマットを敷き、危険な怪我につながらないように対策する。	3.個人活動中・見守りあり	側転を日々練習し上達している楽しさや嬉しさにより、禁止されている場所でも練習をしたくなってしまったのではないか。	学童の園庭の広い場所や、体育館等で練習するように声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	保育室内に本児童合わせて児童３名がおり、宿題及び本児童はソファー横になってくつろいでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	おやつの準備をする為、隣の保育室へおやつを取りに出入りしながら、本児童及び他児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外（園庭等）で、他児童の外遊びの見守りを行っていた。	職員がおやつの準備の為、保育室を出入りしている合間に側転の練習をする。	おやつの準備の際の支援員等の人的配置や児童への声掛けについて見直しを行なう。	
9640	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59						59		7	5	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	配置人数に問題はなかった	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	今回、使用の仕方に問題があり施設面では改善点はない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	遊具の正しい使い方を指導。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子はなかったが、振替休日で１日保育で行事（ハロウィンイベント）を行った後であり、心身ともに疲労があったと推測される。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くではあったが別の児童と関わりつつ、対象児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見守りする職員が離れた場所から目視していた。	見守りを遠近ともに行っていたが、ジャンプして雲梯を掴もうとする行為に、児童・職員ともに危険性を感じていなかった。	遊具の正しい使い方を指導。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9641	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童							23		3	1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	研修内容を周知徹底させて運営をおこない、マネージャー巡回時に都度状況確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	特になし	一輪車が正常かを確認する。また、一輪車で遊ぶスペースが十分にあるところを把握する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危機管理マニュアルを理解し、様々な場所に潜在的な危険が潜んでいることを把握して、見守りを実施するよう育成していく。	1.いつもどおりの様子であった	おやつ後の16：00から学校の校庭で外遊びを実施。被災児童は活発な子で、最近上達し始めた一輪車を楽しみに練習していた。慣れてきたことが、油断になり災害発生に繋がったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体的に児童の様子が確認できる場所で見守り活動をしていた。全体を見渡す中で災害直後の児童を発見し、現場に赴き対応した。状況から応急処置が必要と感じ、被災児童とともに学童に戻り学童内の主任に連携した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び時の見守りは常時2名。全体を見渡せる位置で見守り活動をしていた。残り1名の指導員は室内で見守りを実施。被災児童が極度に痛みを訴え処置できる状態ではなかったので、安静の姿勢で保護者のお迎えを待った。保護者には骨折が懸念される旨を伝えた。	特になし	指導員の経験などを加味して、配置を工夫する。	
9642	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15						15		3	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	職員研修（外出時のケガの対応について）	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし（ハード面がケガの原因ではないため）	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外出前に危険行為・注意事項の周知、活動中随時注意喚起	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であったが、兄の行動の真似をしようとした	4.対象児の動きを見ていなかった	うんていの所にいたが、他児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていた	対象児童の兄の行動を真似	身体の発達に応じた遊びができるよう、できること・できないことの周知、現場での声掛け	
9643	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33						33		2	2	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘内側骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	本事例において、ソフト面との関連性は薄いと思われる。	引き続き事故事例の振り返りを行い、現場レベルにおいて情報の共有を行っていく。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	当該児童と隣に座っていた児童により、座ろうとした際に転倒したとのことであり、事故後椅子についての確認を行ったがくつろぎ等不備は見つからなかった。椅子に座る際に目視での椅子の確認を行っていなかったため、座りそこねて転倒。ついた腕に負荷がかかったと思われる。	引き続き施設、施設内外の定期的な安全確認を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	椅子の危険使用によるものではなく、座る際に目視での確認を行わなかったことによる事故と思われる。	職員による目視と声掛けの徹底、机や椅子の正しい使い方の指導による児童自身の注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	学習や読書の時間であり、特に目立った言動、行動はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	下校後すぐの出席確認、また学習や読書の時間であり、職員は出席確認を行いながらクラス全体の児童を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	下校後すぐの出席確認、また学習や読書の時間であり、職員は検温を行いながらクラス全体の児童を見ていた。	本事例において、人的面との関連性は薄いと思われる。	引き続き、児童の見守りに注力していく。	
9644	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	38						38		3	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	脳挫傷・脳震盪	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	研修内容を周知徹底させて運営をおこない、マネージャー巡回時に都度状況確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	特になし	遊具・施設等の確認は、毎日指導員が実施する。また、児童が遊ぶにあたり、危険な場所はないかを確認しながら、見守りを実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危機管理マニュアルを理解し、様々な場所に潜在的な危険が潜んでいることを把握して、見守りを実施するよう育成していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもより活動的でスローブの上を走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	スローブの近くで見守りをしていたが、別の児童のお迎えがきたため、事故の時は見ていませんでした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童や違う範囲を見ていた為、対象児童の動きは見ていなかった	特になし	指導員は基準配置していたものの、お迎え等で目を離す際は指導員同士で声を掛け合い連携をとり、全体を見守りをできる体制を整える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9645	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39							39		7	4	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	あらゆる場面を想定し、事故予防について職員間で確認、対応する。研修等に積極的に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度293回/年	1.定期的に実施	実施頻度52回/年	1.定期的に実施	実施頻度293回/年	校庭での自由遊びになるため、範囲等は決めているが、複数の児童が走って活動するため、場所、広さは適切だったのか。	活動人数に対する環境設定を見直していく。	2.集団活動中・子ども達のみ	ルールの確認、活動前の準備体操等、適切に行われたのか。	準備体操の実施。児童へ遊びのルール確認等、引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	勉強時間の後の自由遊びだったためか、準備体操の後、外で思い切り体を動かして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこをしたいと児童から申し出があった為、他の活動と交差しないよう白線で場所を指定した。児童が走っている時に足を気にしている様子だった為、声をかけ室内で様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の活動の見守りを行っていた。怪我の処置については申し送りがあり他の職員が確認、処置を行った。	活動に対しての支援員の見守り体制は適切だったのか	活動前の準備運動、日頃から怪我予防に関することを子どもたちに伝えていく。	
9646	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		12	12	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	通常のキャンディーボールではなく、硬さのあるゴムボールを使用していた。	開始前に突き指防止の柔軟体操を行い、逐次「突き指に気をつけるよ」等の具体的な注意喚起をする。また、柔らかいボールへの切り替えも検討する。	1.集団活動中・見守りあり	学年の差があった。	開始前に「強いボールがくるから気をつけるよ」などの注意喚起や、実力差が甚だしい場合にはゲームを分けるなどの対処をする。	1.いつもどおりの様子であった	対戦の条件が整っており、ゲームを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	審判と見守りを兼ねてコート中央に立っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋にて、他児の育成支援にあたっていた。	特になし	開始前に、突き指防止を含め全身をひろく柔軟体操を行なう。	
9647	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	86							86		9	9	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	児童が集団で注意事項を聞く際に、多角的に児童の様子を捉え、見守りをするよう職員のスキルアップを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(359)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	公園は土の地面で平面ではなく、石が落ちていたり軽い凹凸がある。	遊ぶ際や足首を回したりする際の足元に十分注意するよう児童に指導する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守り職員は集中できていない児童に気を配り、職員の話を聞くように声かけ等をする。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	対象児は集団のほぼ真ん中あたりにおり、足元を含め職員には見えづらかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児は集団のほぼ真ん中あたりにおり、足元を含め職員には見えづらかった。	特になし	特になし	
9648	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	7							7		3	2	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	多様な事態に備えて改めて研修資料等を見直す	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	特になし	学校内であるので施設の撤去などはできないため、職員による見守り強化等で対応する	3.個人活動中・見守りあり	特になし	外的要因が考えにくく、本児にとっても不可抗力と思われる	1.いつもどおりの様子であった	午前中から、外遊びを含め自由に遊んでいた。昼食やおやつも通常通りに食べていた。特別に注意する事柄はなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が木の棒をもって所定の位置に戻り、振り返る際に足を捻った。本児はその場で倒れ込んだため、本児を抱えて育成室に戻りRICE処方を行った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は土曜日だったため職員の数は限られていた。また、体調不良の児童がいた為、育成室内にて職員が対応、見守りをしていた	特になし	学童クラブの育成中に外遊びを行う際は、全員にストレッチを行うようにした	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面									環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		事故予防研修 実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9649	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		4	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	高い鉄棒にぶら下がっており、危ないと察知していたものの止めなかったことが原因。	危ない遊具は事前に注意して、危険を回避させること。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	低学年が高めの鉄棒をつかったことが要因として考えられる。	低学年は低い鉄棒を使い、高い鉄棒は使用しないことを徹底。鉄棒で逆さ時のルールを再確認。子どもたち全体に鉄鉄棒を使う時のリスク（手を滑らせると骨折等の事故になりかねない）を説明した。クラブ内でまずも会議を実施し、子ども達自身に危険性を認識してもらう時間を設けた。職員の補助なしでは、自分の胸よりも大きい鉄棒は使用しないことを決定した。	1.集団活動中・見守りあり	高い鉄棒にぶら下がっており、危ないと察知していたものの止めなかったことが原因。	危ない遊具には事前に注意して、危険を回避させること。	1.いつもどおりの様子であった	高学年と遊ぶ頻度が増えており、高学年が使っている鉄棒を、そのまま自分も使ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒をしているところを、見守りをしていたが、危険を予測できたものの、声掛けが足りなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	違う場所で見守りながらも、他の職員がどこの遊具にいるかは把握しており、どのような様子だったかも覚えている。	転んでしまったら、もしも、等のヒヤリハットへの意識が低く、大丈夫と過信した。	最悪の状況を踏まえたうえで、職員が止めるか他の遊びへ移行することを徹底する。	
9650	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	33							33		3	1	22.10歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	送迎支援利用なしの下校途中に事故発生したため該当なし。	送迎支援利用なしの下校途中に事故発生したため該当なし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	送迎支援利用なしの下校途中に事故発生したため該当なし。	送迎支援利用なしの下校途中に事故発生したため該当なし。	7.その他	送迎支援利用なしの下校途中に事故発生したため該当なし。	送迎支援利用なしの下校途中に事故発生したため該当なし。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	先に歩いていた友達を追いかけて走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	送迎の利用がない児童だった為、一人でクラブに向かっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	送迎の利用がない児童だった為、一人でクラブに向かっていた。	送迎支援利用なしの下校途中に事故発生したため該当なし。	該当なし。	
9651	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24							24		3	1	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	路面が凍結されることが予想される場合は、子どもたちに事前に注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	遊具ないため点検なし	遊具ないため点検なし	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	特になし	本件は道路での転倒事故のため、ハード面での改善点はない。	7.その他	特になし	児童に対し下校時に走らないよう注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	下校中のため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため	特になし	特になし	
9652	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		5	3	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	なし	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	登録児童数に合った指導員等の配置であった。今後「事故予防マニュアル」については作成を検討していく。	1.定期的に実施	実施頻度(260)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	本棚の縁がが露出している部分へのけが防止対策がされていなかった。支援員の目が行き届かない奥のスペース付近に児童が滞留してしまった。	遊戯室等で転倒し接触が見込まれる本棚等のとがった部分について、緩衝材等を添付するなどけがの発生を防止する。	1.集団活動中・見守りあり	長期休暇期間で受け入れ時間が長いため、支援員の勤務がシフト制になっていた。	受け入れ後の児童の流れ、本棚周辺への児童の滞留がなくなる工夫を検討する。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良等の様子はなく、いつもの通り元気であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ふざけ合っている児童に気づいた支援員が、注意したことで行動を改めようとした際の転倒となってしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内で、他の児童の受け入れのための業務にあたっていた。８時からの受け入れ開始で、現在はコロナ感染拡大防止のため、検温や体調確認を保護司者から聞き取るなど業務が多くなっている	特になし	遊戯室の広さは十分なので、入口から目につきにくい場所で児童が滞留しないようビデオの上映や遊び道具を配置するなど、児童が分散し落ち着く体制などをとる。支援員の目が行き届くよう体制を整える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳															死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9653	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		5	5	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足課骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	慣れていない靴を履いていた（新しいハイカットスニーカー）	児童の変化に気が付いた時には、事前に呼びかけを行ったうえで対象児童を注意深く観察する。	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	つまづいた場所のグランド状態は常に点検し、改善すべき場所はその都度学校と連携を取り対応する。	引き続き、サッカー等で使用する周辺のグランド状態は常に点検し、改善すべき場所はその都度学校と連携を取り対応する。	1.集団活動中・見守りあり	冬季休業に入り子供たちも浮足立っている様子だった。長期休業初日に支援員からの全体への声掛けが必要だった。	長期休業初日、子供達に向けて１日の過ごし方、注意する点の確認をする。	1.いつもどおりの様子であった	クラブ利用が少なく、集団遊びに慣れていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをしている児童全体を見渡していた。外遊びの前に、履きなれていない靴だったので声かけをしている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童が転倒後、そのまま遊び始めたので、問題がないと判断し、そのまま見守った。	サッカーでは他の子供たちも、同じ様に転んでいた。また、本人も転倒後変わらず遊んでいたので大丈夫と判断してしまった。	事故対応に係る研修を計画し、支援員全体に周知する。	
9654	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	32							32		4	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節捻挫・右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	ビーチバレーボール遊び中の事故は大きなケガを予想できなかった。	事故の起こる可能性が低いと思われる遊びでも、始める前にケガに注意して遊ぶよう児童に声掛けをする。	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	芝生で転んでも大きなケガはしないであろうという認識があった。	普段と異なる場所で子供達のテンションが少し上がり気味だった。少し落ち着かせてから外遊びを行うように指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	通常行かない公園に行ったため、当該児童は普段より興奮している様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ横でビーチバレーボールでの遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他児童を見守っていた。	突発的な事故だったため、防ぐことができなかった。	特になし	
9655	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃）	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	3	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第五指中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	障害物のない平面での活動でも事故が起こりうることを予測できていなかった可能性がある	一般的に危険が少ないと思われる活動内容であっても想定外の事故が起こりうる可能性があることを再認識し、情報共有して危機意識を高めるとともに児童全体にも声掛けを行うようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	事故当日は晴天であり、ハード面では問題がない。	アスファルト舗装された中庭での活動から想定される危険性の確認を行い、支援員間で情報共有を行うとともに、児童全体に声掛けを行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後は活動場所の状況により、想定外のけがをすることを考えさせ、おもわぬケガにつながる事故が発生することを理解させる。	1.いつもどおりの様子であった	天候も良好だったため、おやつが終わった後、中庭で外遊び（鬼ごっこ）を開始した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている児童全体の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見守っていたため、事故発生時は見ていなかった。	当日は外遊びを実施していた当クラブ児童３１人に対し、当クラブの支援員等４人で見守りを行っていた。	特になし	
9656	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		4	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左さう背近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	ソフト面は問題なし	ソフト面は問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	円柱型積み木を横にした状態で乗って遊ぶことを想定していなかった。	ケガが想定される玩具を日頃確認し、処分するようにする。遊び方次第でケガをする可能性がある玩具については、児童に遊び方を指導するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	環境面は問題なし	環境面は問題なし	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	友達が休んでおり、１人で遊んでいることに退屈していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	午前と午後の支援員等交代時の引継ぎを行いながら見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午前と午後の支援員等交代時の引継ぎを行いながら見守りを行っていた。	引継ぎに想定よりも時間がかかり、目を離した際に事故が発生した。	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面			人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9657	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		5	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	順番を守るように児童に声掛け。	外遊びの前に外遊びのルールを支援員等と児童で復唱する。	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	遊具の遊び方について周知が行き届いていなかった	この遊具の本来の使い方や、このように使ったら危険など、どのように使うべきかについて児童に伝える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	事故の直前、遊具に早く登りたいという気持ちが表れていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故現場から３ｍ程離れたところで見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所にいたため見ていなかった。	外遊びの時間を楽しみにしていたことで興奮状態になっていた。	特になし	
9658	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65							65		8	6	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第5中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	感染予防及び熱中症対策のため、身体を使って遊ぶ機会が減少し、児童自身が身体をうまく使えなかった。	児童に運動能力に年齢差、個人差があることを話す。職員間で情報交換をして、遊びの状況に応じて、個人個人に声掛けできるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２４)回/年	地面（特に遊具付近）に小石があり、走ったりすると足元が滑りやすい可能性がある。	遊具付近の小石を掃き掃除等で取り除く。	3.個人活動中・見守りあり	児童遊園にある遊具を避けながら走っていた。また鬼ごっこの鬼から逃げようと心理的に焦っていたように思われる。	児童全体に向け、集団で遊ぶ時の危険性を知らせ、危険から自分の身を守ることの大切さについて話した。	1.いつもどおりの様子であった	鬼の児童から逃げようと慌てて走った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる位置から鬼ごっこをする様子を見守っていた。走っていた対象児が立ち止まったため、異変を感じ声掛けをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊びをしている児童を見守っていた。	児童遊園全体を使って鬼ごっこをしていたため、見守る範囲が広かった。	危険なく、楽しく元気に遊ぶためにはどうしたらよいかを子供たちと話し合った。	
9659	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	64							64		6	4	23.11歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	放課後児童クラブのモデルマニュアルの復習、令和２年度スポーツ庁委託事業　学校における体育活動での事故防止対策推進事業「体育活動中における骨折事故の傾向及び事故防止対策」を参照していくこと。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具なし	遊具なし	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	玩具の定期的点検を実施すること。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り中にも時間と共に変化する子どもの様子に気を配ること。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と共に他にも数人の児童がドッチボールに参加していたので、参加しながら全体を見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館での見守りのため、担当職員と現場を二分割する形で、別の個所で他の遊びをしている児童たちの見守りをする。	特になし	ボール遊びを始める前等に安全に遊ぶためのポイントを伝えていこと。	
9660	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36							36		5	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	遊具使用ルールの確認	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りのようす	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童と会話中につき目撃せず	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた	特になし	サンダルを着用して遊ぶ危険性を改めて児童全体に伝え、職員・児童互いに注意し合える環境を整備する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9661	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27						27		4	3	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度2回/年	2.基準配置	特になし	引き続き研修を通して事故の予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度6回/年	3.未実施	遊具なし	1.定期的に実施	実施頻度292回/年	特になし	チェックリストを活用した点検を実施	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守りの体制を再検討する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	走りまわってた、普段からも走りまわる傾向がある	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走り回っている対象児にもっとはやい段階で声をかけるべきだった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と接していたため気づかなかった	特になし	室内の過ごし方の再度見直し、職員が全体を見、声を常にかける	
9662	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	45						45		6	4	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(各１)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段どおり一輪車に乗って遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が一輪車で遊んでいるのを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見守り、対応していたため見ていなかった	特になし	一輪車の使用可能場所を限定する。一輪車を使用する際は必ず肘・膝のプロテクターを着用する。	
9663	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	44						44		6	3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(各１)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段通り外で遊んでいた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児を含む４名と一緒に鬼ごっこをしており、支援員が鬼をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の遊びを見守り、対応していた	特になし	特になし	
9664	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	85						85		10	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	特になし	特になし	4.個人活動中・子どものみ	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの過ごし方をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動場にて他の児童をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設にて他の児童をみていた	特になし	特になし	
9665	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	51						51		6	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(各１)回/年	2.基準配置	特になし	特になし（職員配置は基準であり、研修で学んだ対応をしている）	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	特になし（ハード面による事故ではない）	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし（いつものように活動を見守っている）	1.いつもどおりの様子であった	普段通り外で遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちだけで遊びが成り立っており、支援員は入らず、離れたところから見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の遊びを見守り、対応していた	特になし	特になし（その他考えられる要因・分析がない）	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																															
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位										実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
9666	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		5	5	20.8歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	運動する際には、事前にストレッチを行うなどの声掛けを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	運動遊びをする際、室内の広さを十分確保する。	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	子どもたちの様子を支援員が必ず見守り、危険回避につながる援助を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	静かに宿題をして待機するというクラブのルールは知っていたが、１名の児童がボールで遊び始めたのを見て、キャッチボールを始めてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	送迎車へ１名の支援員が添乗していたが、小学校教諭に後便の児童の見守りを任せて先便の児童と共に一旦クラブへ向かった為、待機中の児童の様子は見ていない。事故後も車の乗降、車内での様子を見守っていたが児童の異変には気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は別所送迎、クラブでの迎え入れをしていた。児童迎え入れ後、支援員５人で活動中の児童を見守ったが、異変に気付かなかった。	送迎車が来る迄、事故の無いように静かに宿題をして待つというルールに対して①児童へ定着させられていなかった②学校と共有できていなかった③違えた時に注意する支援員がいなかった。	静かに宿題をして待つように再指導し、待機児童を見守る支援員を１名追加する。	
9667	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38							38		7	4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指第二関節骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	運動する際には、事前にストレッチを行うなどの声掛けを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	運動遊びをする際、室内の広さを十分確保する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもたちの様子を支援員が必ず見守り、危険回避につながる援助を行う。	1.いつもどおりの様子であった	1～5年生男女混合でドッチボールをしようと声がかかり参加した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ホールで７名の支援員等が見守り、そのうちコート周りには３名の支援員等が見守っていた。ボールを受け損ねていたのは見ていたが、怪我を負っているようには見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は自分の周りの児童を見守っており、見ていなかった。	ドッチボールは安全を考え布と綿で出来た柔らかいボールを使っている。当該児童は体正面でボール受けず指先を突き出して手先で取ろうとする癖がある為、芯を外したボールが左手小指を引っ掛けたと思われる。	ボールを受ける時には体正面で受けるよう声をかける。激しい運動をする前にはストレッチをするように指導する。	
9668	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4							4		2	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	転落の危険性に対する支援員側の認識が甘くなっていた。	危険につながる行為については、全体の場だけでなく個々の児童にわかりやすく説明し、該当する行為を見つけた場合は厳しく注意する。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	そもそも押入れに上れる状態になっているのがよくなかった。	物理的に上れないよう、押入れの幅、奥行きいっぱいに物を設置して、隙間をなくした。	3.個人活動中・見守りあり	学習に対して気乗りしない子が、片づけに積極的になれず、ふらふらしていたずらをしてしまう状況が作り出されていた。	１日の生活の流れを児童が身に付けられるようしっかり援助する。児童と同じ活動ができるよう学習用課題は予め用意しておくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	学習に移行する気持ちになれず、片付けも気が乗らず、何をしようかと考えているようだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	押入れに上っている対象児を視野に入れながら、至近距離にある扉で遊んでいた児童に指詰めの危険について説明し、取っ手に巻き付けた紐を外していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学習時間に移行するため、使用したものの片付けを手伝っていた。	ほぼ同時に危険につながる２つの行為があり、場所も至近距離だったため、１人の支援員で対応しようとしたが事態に対処できなかった。	学習のような児童の気が乗りにくい活動については、楽しみながら実施できるよう、教材や内容を検討していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9669	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17						17		2	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	週に1度職員会議にて、危険な箇所を確認し合い改善を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	ソフト面での事故なので、ハード面での改善については予定していない	1.集団活動中・見守りあり	作りかけの製作物や看板用の模造紙をひとまとめに置いており、子ども達が取りに行く際に混みあう状況を作り出していた。	当該事故においては、取りに行くタイミングを分散させる。日頃から安全な環境づくりを意識し、片付けや掃除の際に床に危険な物がないか確認する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	縁日遊びを楽しみにしており、準備物を運ぶのにグループのリーダーに付いて行き、はしゃいでしまっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	準備物を取りに行く高学年たちが落ち着いていたため、待っている低学年たちを見守りながら準備物を用意。同時に他の職員に次のおやつの準備を促していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と声を掛け合いながら、手作りおやつ用のホットプレートを危険のないようセッティングするために子どもたちから離れていた。	特になし	職員の1人は全体を見渡せる位置にいることを共有し、声掛け等で実践を徹底する。おやつの準備は子どもたち全員の着席を確認してから行うようにする。	
9670	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36						36		11	6	19.7歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	集団下校中寄り道しないように指導。	集団下校中寄り道しないように指導。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	集団下校の帰り方の指導徹底	7.その他	特になし	集団下校の帰り方の指導徹底	1.いつもどおりの様子であった		対象児の動きを見ていなかった	子どもたちの動きを見てる先生、部屋の中で見ている先生、別々で見守っている。※児童クラブ終了後の下校時の事故であるため	担当者・対象児の動きを見ていなかった		特になし	今回の事案は、集団下校中の在り方の指導。	
9671	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	100						#		12	8	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	順番を抜かれたことにより、転落に至ったことから	遊び方のルールの確認。ハザードマップの再度確認と指導（支援員と児童）	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	ジャングルジム滑り台より順番の横入りがあり、滑ろうとし揉みあいになり、滑り台より落下。	ジャングルジム滑り台を利用する際、支援員が付き添いで行う。	1.集団活動中・見守りあり	順番を抜かれたことにより、転落に至ったことから	遊び方のルールの確認。ハザードマップの再度確認と指導（支援員と児童）	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	短縮授業でいつもより元気があった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童グループには元気があり過ぎていたため、声掛けは行い、他のホッピングで遊ぶ子どもたちとともに様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体は見ていたため、３０ｍほど先からだった落下の瞬間は目視できた。	全体的に気分が高い状態で外遊びに向かったため、事前の声掛けで注意喚起を促し、落ち着いて遊びに行かすこと。	全体遊びの場合は、必ずこれからの予定のあと、事故、怪我によるハザードマップを利用し、子どもたちに指導後外遊びにしている。	
9672	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	51						51		10	6	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前房出血	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故が起こった時に職員が連携して対応ができるように話し合い研修をしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	指導員の死角を減らす。何でどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	何でどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.いつもどおりの様子であった	普段どおり元気に入室しおやつを食べて、戸外遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童が遊んでいるのを確認しつつ、サッカーをしている子どもたちの遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる児童を各場所で見守っていた。	特になし	子ども達がどのような動きに発展しているかをよく見守る。遊び方について日頃から意識できるように話をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所											教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡死因	負傷負傷状況	負傷受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9673	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	50							50		14	11	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	他の特別支援児への対応、見守りが必要で、目が届き難い状況がある	ヒヤリハットの研修を行う。外遊びのマニュアル、注意事項の共有	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	小学校の先生方と協議する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特別支援児の担当、あそびの見守りが兼任しないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊んでいるところを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のあそび、特別支援児の様子を見ていたり、直接保育を行っていた	経験の浅い先生が増えている。全体を見守る先生が少ない。	準備運動を行う。注意喚起の声掛けを行う。	
9674	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		11	9	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員の配置をしているが、常に確認のためにマニュアルを作成する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	雨の後などは滑りやすくなっていないかを確認し、場合によっては使用を見合わせるなどの対応をとる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの前には、準備運動や定期的な声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	友達と遊具を移動していて、遊具（石段）から降りるときに足を滑らせて転倒する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大きな遊具のため、遊具付近で複数人の子どもを見守っていたが、落ちるタイミングは見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々の見守りの場所で外遊びの子どもを見守っていた。	特になし	事故の状況を周りで見ていた子どもがいたか確認して、より一層状況を把握できるようにする。	
9675	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		3	2	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	児童全員を見渡せるよう支援員を各個所に配置する。児童との遊びに集中しすぎないように他の児童への気配りができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	机と机の間隔を広くとったり、椅子が通りを塞がないように椅子を使わない時は机に入れることを児童にも徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	偶発的に起こった事故であるが、椅子が机の中に入っていなかったのかもしれない。（走っていたわけではない）	椅子は机の中に入れることを日頃から指導する。	1.いつもどおりの様子であった	偶発的に起こったことで、走っていたわけではないが左足小指をぶつける。児童もどうしてぶつけたか分からず返答に困っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	児童の表情がいつもと違うので話を聞く。すぐに患部を冷やし湿布薬を貼り、保護者に連絡をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１番に気づいた支援員と一緒に話を聞く。安心させるような言葉かけをした。	特になし	今まで以上に注意深く見守りたい。	
9676	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		2	1	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	近くに相手がいる状態で早いボールで狙ったためおきた	ドッジボールの時のケガをしないルールをもう一度子どもと話し合い、また距離をとるためコートの広さを考える	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊び中でのボールがうまく取れなかったことなので施設等の改善点はないが、引き続き適切な管理を行う。	1.集団活動中・見守りあり	ドッジボールの時上手く取れなかった	ドッジボールの時のけがをしないルールをもう一度子ども話し合う	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールで仲良く遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールと遊具遊びの子を近距離で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋遊びの子どもの見守りをしていた	特になし	遊びの中でのボールがうまく取れなかったことなので上記以外の改善点が見つからない	
9677	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		7	4	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	怪我をする可能性を想定し、支援員全員で把握する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	安全の為、床の一部にマットを敷いているが転倒した際の怪我は想定していなかった	室内に於いての激しい運動は、より一層制限をしていきたい	1.集団活動中・見守りあり	以前は、柔軟体操等体を動かす際は靴下を脱いでいたが、コロナ感染の対策で靴下をはいていた為、足が滑りやすかった	床にマットを敷き、机をのけて広さを確保していたが滑りにくい場所に移動し今まで以上に見守る	1.いつもどおりの様子であった	当時、気温が低く十分に外遊びが出来なかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転倒をして怪我をするような激しい遊び方ではないと判断し他の児童にぶつかったり怪我をしないように周囲に気を配っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当時、室内の児童の数が多かった為他の児童への対応をしていた	支援員が近くに二人いたが、危険は無いと判断し見守っていた	改めて注意深く見守るよう周知する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9678	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23						23		2		1	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	鬼ごっこをしている時に狭い場所に逃げてきて段差で捻った	鬼ごっこなど走り回るときは広い場所でするようにする	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設等の瑕疵はなかったが引き続き安全管理に努める	1.集団活動中・見守りあり	縄跳び台の近くで走り回っていた。	鬼ごっこなど走り回る遊びは、運動場の真ん中の方で遊ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ケガをする前は縄跳びをしていた。鬼ごっこで挟み撃ちをされそうになり縄跳び台の方に来て段差につまづいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くに支援員はいたが狭い場所を走り回る子供に注意することが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子供のボール遊びや遊具遊びなどの見守りや見送りするため部屋の近くにいた。	狭い所を走っているにも関わらず注意することが出来ていなかった	引き続き安全管理に努める	
9679	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18						18		2		1	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	子供同士がぶつついて逃げていた為	なるべくバラバラになるように声を掛ける	2.不定期に実施	実施頻度(280)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(280)回/年	特になし	毎日の点検を行い、危ないものは即取り除くようにする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	学童の室内、室外でけがにつながるものがないようにする	1.いつもどおりの様子であった	ボールに当たらないよう逃げ回っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コートの外で、両チームの様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童に残っていた子供もいた為、運動場には来ていない	特になし	いつも全体をみるように心がける	
9680	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	122						#		12		6	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯槽骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故予防に関する研修が未実施だった。	事故予防に関する研修を実施するとともに、緊急時対応に関するマニュアルを再度職員間で周知し、定期的に確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	点検は定期的に実施している。	1.集団活動中・見守りあり	高さが４段階ある鉄棒のなかで２番目に高い鉄棒をしていて落下する。	安全に活動できるよう、児童への声かけを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	数人の友達と鉄棒をしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒以外の遊具で遊んでいる子ども達も見守りをしていた為、落下した所は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は、別の担当範囲内での子ども達の見守りをしていた。	対象児童の身長より高い鉄棒を使っていたが、いつもその鉄棒を利用していたので支援員の危機意識が低かった。	遊具の安全な使いかたを再確認し、子ども達に適切に伝えられるようにする。	
9681	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30						30		2		1	20. 8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守り、声掛けの強化をしっかりと行う	1.いつもどおりの様子であった	タイヤで遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところから全体を見守り。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れたところから全体を見守り。	上手くタイヤに手をつけず、全体重が指にかかってしまった	日頃から、安全な遊び方を子ども達と再確認する	
9682	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15						15		3		1	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯未端破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員会議内でリスクとハザードについて研修し、またリスクマネジメントについて再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	一輪車の安全点検を使用前に毎回行う。また、活動する前に注意点を入所児童に説明する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	手すりを用いて一輪車の練習をするときは、より危険度が低い鉄棒を使用するように声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	学校の休み時間の練習をしていたが、早く一輪車に乗れるようになりたいため学童でも練習をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャングルジム全体を視野に入れて見守り。対象児がバランスを崩した様子には気づいたが、手を差し伸べて届く距離ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内遊びや外遊びを児童それぞれが選び取って遊んでいた。支援員は室内に1名、屋外に２名。屋外では至近で見守りながらも、時折全体にも目を配りながら対応していたため見ていなかった。	特になし	支援員は視野を広く保ち、全体を見渡しながらも個々の児童対応をするように支援員全員で確認。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9683	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22	3	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ関節付近の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	古タイヤを使った遊び方を工夫し、危険のリスクが少なくなるようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(51)回/年	特になし	学校敷地内にある遊具の埋め込み式タイヤのため、学校と安全対策を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの時に運動場のどの位置に支援員を配置するのか事前に確認をしておく。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	そばで支援員が見守っていたのが咄嗟のできごとで支援員がケガを防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各児童が好きな遊びをしているため支援員が分散しており、担当者、対象児の近くにいない状況だった。	特になし	学校とも協議を行い、古タイヤの遊び方を工夫し、少しでも危険のリスクがないように努める。	
9684	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	47							47	5	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	日常的な危機管理能力を高めていく指導する	1.定期的に実施	実施頻度(286)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(286)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(286)回/年	特になし	ハード面の改善といえるより、児童や指導員の日常的な危機管理能力を高めていくこと	1.集団活動中・見守りあり	特になし	日常的な危機管理能力を高めていく	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	一年生十数名で鬼ごっこを始めたのでそばで見守る。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこを始めたので1名そばで見守り、1名は近くで見守る。	特になし	遊ぶ前に児童へ声掛けと準備運動を行う。	
9685	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18	2	1	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	放課後児童クラブの規約では児童の送迎について保護者が玄関まで送り届けることが決まっている。通常はこの規約通りにしていたが、事故発生日は急用のため本児を駐車場で降ろしたことにより発生した。	事前に保護者より連絡があれば、支援員が特別措置として、学校の校門まで児童を迎えに行くことも可能	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	特になし	学校と連携し、門扉が開閉しやすいよう周辺の清掃等を定期的に行う。	7.その他	学校の門扉は重く、低学年が開閉するのは困難な面があり、規約通り保護者が同行しての門扉の利用の徹底を保護者に伝える。	児童クラブとして、児童へ門扉の危険性を理解・周知させる。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に登園していた	4.対象児の動きを見ていなかった	学童に到着する前のことであり、学童から校門まで距離があったため、対象児を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童に到着する前のことであり、学童から校門まで距離があったため、対象児を見ることができなかった。	支援員は、児童クラブ玄関前に出て児童を迎えているので、保護者から呼びかけていただけたら対応できると思える。	今回の事故は学校の門扉によるものであり、改善は難しいため、保護者同行のもとの門扉利用を徹底する。	
9686	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27	4	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	ソフト面の改善は困難であるが、児童及び支援員に対し事故を防ぐための指導を継続していく。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回以上/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	ハード面の改善は困難であるが、児童に対し事故を防ぐための指導を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守り方だけでなく、遊び方の工夫等の改善を検討していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッヂボールの様子を見守り、危険を察知したらその都度注意をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各児童が好きな遊びをしているため、支援員が分散して見守っていた。	特になし	上級生に対し、下級生が対応できるよう力加減をする等ケガの危険性が低くなるよう工夫をする。	
9687	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23	3	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ関節付近の骨折（ひび）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	古タイヤを使った遊び方を工夫し、危険のリスクが少なくなるようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(51)回/年	特になし	学校敷地内にある遊具の埋め込み式タイヤのため、学校と安全対策を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの時に運動場のどの位置に支援員を配置するのか事前に確認をしておく。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	そばで支援員が見守っていたのが、咄嗟のできごとで支援員がケガを防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各児童が好きな遊びをしているため、支援員が分散しており、担当者、対象児の近くにいない状況だった。	特になし	学校とも協議を行い、古タイヤの遊び方を工夫し、少しでも危険のリスクがないように努める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面												
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9688	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	99							99	11	11	21.9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折 左手首	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	集団下校時に子どもたちを門の所まで見送る。その前に急いで帰らない様に、等の声かけをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	引き続き点検を実施する。	7.その他	特になし	今回は施設外だったが、施設内、外遊び時でも子どもたちに気を付けて歩く、急がずに行動する等の注意喚起をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校中のため、指導員は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため、指導員は見ていなかった。	特になし	集団下校時に子どもたちを門の所まで見送る。その前に急いで帰らない様に、等の声かけをしていく。	
9689	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19	4	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	左後頭部骨折 背部打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	放課後児童クラブを利用する児童は、小学１から６年生までと発達の状況が異なっていることから、低学年の利用遊具や立ち入れる場所について制限を設けて事故防止に努めている。	再度、遊具の利用方法等を見直し、子供たちの利用を制限していくことにした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	今回の事故については、子供の服装が滑りやすい服地の服を着ていて、通常であればお滑ることが無いところに座っていたにもかかわらず滑って落ちた。	冬場は温かい服装で利用するので、服地についての制限を設けることはできないと思われることから、該当の遊具の利用を制限することとした。	1.集団活動中・見守りあり	全体を見守るためには遊具の近くで見守ることはできないため離れて見守っていた。	支援員の配置場所を決めて人を配置するとともに、子供隙の利用遊具や敷地の中の利用を制限していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように元気に来所し、他の子供達とも仲良く過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	該当児童担当という支援員はいない、通常と同じく、外遊びと室内遊びに分かれて子供たちの見守り支援を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員という考え方が無く、出勤している支援員等の全員が通常と同じく利用児童の支援を行っていた。	利用児童数に対して見守る支援員の数が不足しているとも考えられるが、今回の事故については、ありえない状況が重なって偶発的に発生して事故であり、支援員を増員しても防げる事故ではないと思われる。	遊具の利用基準や場所の制限など検討したい	
9690	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23	3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節腓骨遠位骨端線離開	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	特になし	怪我に繋がりそうな動きについては、気づいたときに指導をする	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	危険個所がないか確認、また職員間で共有の徹底を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	低学年でもあるため、指導員が近くに立ち、見守り声掛けの徹底	1.いつもどおりの様子であった	定められた範囲で遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒に徒歩で移動をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童たちもいたので、それぞれの受け持ちエリアに分散していた	移動の際は落ち着いて行動するよう声かけが出来ていなかった	落下物や破損個所などないか外遊び前に職員で目視で確認をする	
9691	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	8							8	3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	特になし	こまめな声かけや目配りを怠らない。事前に職員側で危険予知をおこないながら指導をしていく	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	危険個所がないか確認、また職員間で共有の徹底を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特に身体を使った遊びの際は、近くに職員が必ず見守る。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	学校で友達とトラブルになり落ち込んでいたが、宿題が終わり元気になったようで、その後は普段通りに過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	カンファレンスのためのミーティングを行っていたため、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に落ち着いていたので、カンファレンスのミーティングを行っていた。そのため、見守りが手薄になっていた	特になし	安全に活動をするためのルールの共有、また大人が先に危険予知をし、見守りの徹底をおこなう事	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面									環境面				人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																															
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9692	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24								24		2		2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首成長軟骨骨折（全治8週間見込み）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	児童本人の転倒による受傷であるため、ソフト面での改善点はないものと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	庭の地面が芝のため、縄跳びが芝で跳ね返り、その縄に引っ掛かって転倒した可能性もある。	縄跳びをする際に芝でない場所で行う。芝の手入れの頻度を増やし、芝が短い状態を保つようにする。	1.集団活動中・見守りあり	自由時間のため遊ぶスペースが入り乱れていた可能性もある。	鬼ごっこをするゾーン、縄跳びをするゾーンなど、ゾーン分けを行うと接触による転倒の危険は防げる。	1.いつもどおりの様子であった	普段から身体を動かして遊ぶことを好み、いつもと変わらぬ様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びをしている児童、全体の見守りを行っていた。普段から児童と一緒に縄跳びを跳ぶことはほとんどなく（逆に危険なので）防ぎょうがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で過ごす児童の見守りを行っていたため、受傷後の児童の応急処置を対応。	特になし	特になし	
9693	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35								35		5		4	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右冠指末節骨開放骨折）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	コミュニティセンター案内板に対する危機管理がなかった。	コミュニティセンター職員へ相談し、児童クラブ開設時間帯は収納させてもらう。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	備品による怪我であるが、安全性について話し合う必要があった。	児童クラブ開設中は、案内板を収納させてもらうことにした。	1.集団活動中・見守りあり	施設利用者に対するコミュニティセンター案内板の設置について、コミュニティセンター側と相談しておくべきであった。	今後児童クラブ開設中は案内板を収納しておくことをコミュニティセンター側の同意をもらい、改善策として共有した。	1.いつもどおりの様子であった	トイレに一人で向かったが、後方で首がしたため振り返った拍子に案内板がぶつかり児童に倒れた。	4.対象児の動きを見ていなかった	廊下には特に担当の職員はおらず、室内の見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	育成室にて室内の見守り・支援を行っていた。	トイレに行く児童に対し、気を付けるよう注意喚起を行っておけばよかった。	育成室を出てトイレ等に行く児童には声掛けし、必要に応じ見守りをする。	
9694	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25								25		4		4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修も取り入れながら安全対策に取り組む。	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	特になし	これからも定期的に安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びが広範囲・多様化して一人一人に目が行き届かない。	外の遊びを支援員の人数で決めて1つの遊びに1名の支援員が付いて、よりしっかり見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	外遊びの終了時間で児童に声掛けをしていて、対象児から目を離したときに転んだ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの終了時間で他の児童に声掛けをしていた。	終了の声掛け後も縄跳び/リレーの途中で走っていた。	児童の特性をとらえて、児童にあった遊び道具を選ぶよう指導する。	
9695	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19								19		4		2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩鎖骨骨折・頸椎回旋固定	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	特になし	事前に施設の安全点検、外遊びのルールの徹底	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週２～３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	事前に施設の安全点検、外遊びのルールの徹底	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事前に施設の安全点検、外遊びのルールの徹底	1.いつもどおりの様子であった	運動会前で他の児童とかけっこしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	全員で見守りはしていたが、目を離した瞬間の出来事であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全員で見守りはしていたが、目を離した瞬間の出来事であった	特になし	特に無し	
9696	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30								30		4		4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	2.基準配置	特になし	気を付けることは毎日話をしているが、毎日児童が登所する前にしっかりとミーティングを短時間でもつようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	石壁なので蹴ったり、わざと当たったりしないよう声掛けする。	他にクラブの庭に危険なところがないか再度点検する。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ鬼から逃げるのと早く壁に着くためにスライディングした。	危険な行為をしないように常に声掛けと、遊びのルールに危険がないか考える	1.いつもどおりの様子であった	運動が得意な児童なので元気にゲームに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	スライディングをしたときに注意をした。その時は痛がる様子はなかったので、壁に当たっていないと思っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は離れたところで他の児童を見ていた。	ゲームの時など当たったら危ないと思うところに支援員は立つようにする。	特に無し	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上	5歳	学童	その他																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所												教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9697	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15								15		3	1	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ドッチボールよりも柔らかいボールを使用	もう少し柔らかいボールにする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	近くから力いっぱい投げないように距離の確保・声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じように大好きなドッチドッチに参加	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判と副審二人体制。何かあったら対応できるようにしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関やその他の子ども達の見守り	当てるのに夢中になって近くから当ててしまった	活動に入る前に全体でボールを確認・ストレッチや準備運動（怪我しない体作り）に務める	
9698	令和5年7月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16								16		3	1	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首付近の前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	なし	マニュアルを備え、職員研修も実施しており、職員配置基準も満たしていることからソフト面の問題はない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	園庭に張られたロープに引っかかったことが要因。引っかかった場所付近に張られたロープは固定が甘く、足に引っかかりやすい状態になっていた。	当該ロープについて、杭を複数個所増やして固定し直し、足に引っかかる危険性を少なくした。	1.集団活動中・見守りあり	園庭で遊ぶ際のルールについて、園庭に張られたロープで転倒することを想定していなかったことが要因の一つである。	園庭のロープ付近での鬼ごっこ等走る可能性のある遊びをする際は、十分注意するように園庭の遊びルールを変更し、児童たちに周知した。	1.いつもどおりの様子であった	登所後、普段通り宿題を済ませておやつを完食し、他の児童と共に園庭で元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児とその付近の子を離れた場所から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内活動の児童の対応をしていた。	なし	児童の様子を視認できる場所へ職員の配置が出来ており、危険行為については制止することが可能であったため、人的面での問題はない。	
9699	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28										2	2	18.6歳	1.男児	滲出性中耳炎、チューブ挿入	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	中耳炎	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	プールノートにプールに入る際の配慮事項の欄がなく、口頭での申し送りとなった。	誰が見ても分かる引継ぎの書式(入園から年長組まで)職員間の共有すべき事項の書式を作り、保育園の安全管理のあり方を改善していきたい。プールノートにプールに入る際の配慮事項の欄を設ける。プール活動をする前に子どもひとり一人の健康状況を職員集団で把握共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、整備面では特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	プールあそびは大好きで楽しんでいる。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者から耳栓をしてほしいと言われていたが、担任は保護者から手渡してもらえると思い耳栓を使用することを忘れていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同上	耳栓の必要性を理解していたら、耳栓なしでプールに入ることはなかった。プールノートに耳栓着用など記入する欄があれば、ノートをチェックする際に気が付けた。	保護者から年度初めに健康記録表を提出してもらっている。健康状況をプール前に保護者と確認することを徹底する。プールノートに配慮欄を設けて見落としがないようにする。	
9700	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11										1	1	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置に問題はないため、改善策はなし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	特になし	ハード面には問題がないため、改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	保育士はテラスで保護者対応をしており、保育室の様子を確認できていなかった	保護者対応の際も保育士は子どもの様子を気にかけ、保育室全体を見守り把握することを職員間で再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	本児と他児１人が席を立ち保育室の中を歩き始めた。その際、本児が机の脚につまずいて転んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	テラスで、迎えに来た保護者の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で担任保育士が1人で保育しており、他の職員は周りにいなかった。	特になし	保護者対応の際も保育士は子どもの様子を気にかけ、保育室全体を見守り把握することを職員間で再確認する。	
9701	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25										20	18	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員全体で情報共有の機会を作り、事故防止について検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	施設、設備面での改善が必要な事故ではなかったため。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの動きを想定した移動の方法を取るべきであった。	整列して移動するなど、落ち着いて行動できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	準備体操をするため、自分の席から園庭に移動。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達に声をかけ、見守りながら指示を出していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子ども達の動きを見守っていた。	特になし	人的な面での改善が必要な事案ではなかったため。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9702	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	16									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	ジャングラミングで園児が遊んでいる時は保育者が側で見守る体制をとっている。	普段にしている遊び方だったため落下するとは予測しにくかったこともあった。常に色々な状況を考え行動できるよう研修等で共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	遊具のまわりにはマットをしいているので衝撃は緩和されたと考えられる。	マットの状態を遊ぶ前に確認する。またマットの上に砂がたまりがちなので定期的に取り除く。	3.個人活動中・見守りあり	普段通り登り棒で降りようとした瞬間に落下しており、普段の遊びを通して身体づくりをしていく必要がある。	子どもたちが自分に身を守れるような運動遊びを計画的に取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった	ジャングラミングで普段からよく遊んでおり、登り棒を使っての滑り降りは何度もしていた。当日も保育者の見守りのもと普段通りに登り棒から滑り降りようとしたが、本児が登り棒をしっかり握れていない状態で降りようとしてしまい落下した。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	ジャングラミングには該当園児しかいなかったので、保育者はすぐ側で本児の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員がすぐに看護師を呼びに行き、本児の状態を確認する。	普段している動きだったので、園児にも危機意識が低かったかもしれない。	ジャングラミングでの遊び方、注意事項を子どもたちに再度徹底する。	
9703	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62	9	10	9	12	14	8			14	14	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員の見守り配置には、更に工夫の余地があったと思われる。	急激な動きを伴う遊具での活動場面では、より一層見守りに注意を払うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		当該遊具に構造上の問題等はなく、引き続き定期的な点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの予測される動きに応じた見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	４歳児の姉と一緒にあそんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の活動エリアに居た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた位置から園庭全域を見ている職員しか居なかった。	年上児と一緒の場面では、より大きな力や速度が加わることもあるので、留意が必要である。	事故はいつでも起こり得るいう意識を持って保育にあたることを、職員間で再確認していく。	
9704	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34				12	11	11			5	3	15.3歳	1.男児	事故以前より本児の聞こえについて担任が気になる点があったが、未検査の状態であった。事故後に検査し左難聴と診断。事故との関連性は不明とされていたが、経過観察後事故が理由ではないとの判断に至った。	8.その他	1.負傷		6.その他	1.頭部	頭部外傷、左鼓室内血腫、左外耳道異物	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	担任数はそろっていたが、朝の受け入れの時間帯であり他の保護者等への対応の為、園庭での子供の見守りに不十分な部分があった。	受け入れの時間帯で園庭の見守りを徹底するよう内容確認と周知を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	壁面が登れるようになっており、壁にまたがった状態でいたところ他の園児が接触した。同じ遊具に複数の園児が遊んで密になっていた。	密にならないように声がけをするなど職員への周知を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	タクシー通園の子どもの受け入れと重なり、見守りの職員が手薄になった。	受け入れの時間帯には見守りを重点的に行うよう周知確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り朝の荷物の片づけを終えて、友だちと園庭で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の朝の受け入れをしながら、離れたところで本児やその他の子どもたちの遊ぶ様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児の竹馬練習の対応をしていたため本児の動きを見ていなかった。	朝の受け入れの時間帯で保護者や他児への対応にあたっており、園庭で遊んでいる子どもへの見守り安全対応が足りなかった。	受け入れの忙しい時間帯には子どもの活動に合わせて、他クラスの職員とも声を掛け合うなど連携して対応していく。	
9705	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	14									3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	危険な要素がある時は速やかに状況を見守れる位置に移動して配慮する必要があると思われる。	発生した事故について、再発防止策を職員間に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	危険の要素がある時は速やかに状況を見守れる位置に移動して配慮する必要があると思われる。	外部施設である為、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	ネット上でわざとバランスを崩して倒れるという事も楽しんでいる様子であった。	気持ちが高ぶりすぎる事で事故や怪我などに繋がらないようにこまめな声掛けや遊び方を伝える等、配慮する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	バス遠足という事で普段よりも気持ちが高ぶっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	集団行動が難しい子や遊具を怖がって遊べないでいる子の傍に付いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大型ネット遊具で14名の子どもが遊んでおり、保育者は分散して子どもの様子を見守っていた。日頃から危険な行動を取る子ではなく、事故当時も危険な遊び方をしていなかった為、対象児の動きを注視していなかった。	日頃から、危険を伴うような遊びをする子ではなく、注視して見守るような状況ではなかった。	気持ちが高ぶりすぎる事で事故や怪我などに繋がらないようにこまめな声掛けや遊び方を伝える等、配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9706	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	0	0	0	9	12	7	0	3	3	18.6歳	1.男児	R●年●月に左上腕（今回と同じ個所）を骨折。家庭での事故による。年度内に完治。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		園庭での職員の立ち位置やチェック項目について保育所の安全管理マニュアルで定めているが、今回の事故を踏まえ改めて児童一人ひとりの遊びの状況についての把握をしっかりと行い、子ども自身にも安全に遊ぶための注意事項について、わかりやすく知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		点検で不具合が見つかった遊具は修繕が終了するまで使用を禁止し、児童が使用しないよう、取り外したりする。	1.集団活動中・見守りあり		安全管理マニュアルで職員の立ち位置は決まっているが、その日の職員配置や状況により、職員間で声を掛け合い、臨機応変な対応を心掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	友だち4名と雲梯横でごっこ遊びをしていた。その際に暴走したりするような動的な動きはなく、集団でおしゃべりを楽しむ姿が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場付近から園庭全体を見守っており、対象児を含む子どもたちの遊ぶ姿を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他2名の保育士は、それぞれ滑り台、雲梯の介助を行うために遊具で遊ぶ子どもたちに付き添っていた。		その日の職員配置、その場の状況により、必要な職員数が揃うまで遊ぶ遊具を限定したり、子ども達にも時間を決める等してその時々で約束をわかりやすく伝え、安全に遊べるよう配慮する。	
9707	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		事故の原因を分析し、再発防止に向けて職員間での情報共有、注意喚起を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	子どもたちが遊びだす前に固定遊具からの落下クッション材として鉄棒下にマットを敷き対応していた。マットの高さで段差ができたり、ずれてしまう可能性がある。	マットの高さで段差ができたり、ずれてしまう可能性があることも考慮し、人工芝を地面固定した。	3.個人活動中・見守りあり	軽マットのため運びやすいが、表面はつるっとしている。	運動遊びは保育士が側についていられる時に行うようにする。また、その際の環境設定は保育士が行う。	1.いつもどおりの様子であった	好きな場所に移動し、遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数名をみていた、対象児の居場所の確認はしていた。また、本児の遊び方も日常であり、歩いて移動していたため特に本児の直近で寄り添う見守り方ではなかった。離れた場所で他児の遊びの対応をしていたので、すぐに駆け付けることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育倉庫に用具の片づけをしていた保育士2名で対象児が鉄棒近くにいることに気づいたが、転倒した際手を差し伸べることができなかった。	各場面での遊び方や危険に対する判断について職員で共有しあい、子どもへの働きかけや援助の仕方を同一にする。	担任１名は子どもたちが遊ぶ様子の見守りを行うが、子どもの活動に合わせて立ち位置に留意する。	
9708	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				33	20			16	16	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	遊びが活発になったり、気のゆるみから注意力がなくなってきた。	子どもたちに安全に気を付けて遊ぶよう声をかけた。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	雲梯下にクッション性のあるマットが敷いてなかった。	雲梯下にクッション性のあるマットを敷くようにした。	1.集団活動中・見守りあり	担任がそばにいなかった。	担任以外の保育士も気にかけてみるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯で遊んでいる途中	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれ自分近くの子を見ていた。	雲梯のそばに職員がいなかった。	雲梯が見える場所に職員に職員が立ち、意識的に見るようにした。	
9709	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40				12	12	16		10	8	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故防止マニュアルには骨折の判断項目が記載されていたが、当該児童が運動会競技中に転倒した際、痛がる様子や見た目の異常が見られなかったため、競技を続行した。	常に園児の行動を予想し、安全だと思われる場所においても目を向け、安全確保を怠らないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	運動会中、児童が遊具に触れることはなく、遊戯室の床も滑りやすい状態ではなかった。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	運動会のリレー競技練習中は、当該児童、他の児童も転倒することはなかったため、予定通り競技を行った。	園児にも内ズックを履く意味を繰返し伝え、園児自身もケガの予防の意識を高める。保育士も、今行われている活動の中でどこに危険要因があるかを見極め、子どもの動きに応じた、事故予防のための声がけをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	体調面等特に問題がなかったため、運動会へ参加した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リレー競技中、当該児童の中ズックが片方脱げ転倒した際、担当職員が補助に入ったが痛がる様子もなかったため、競技を続行した。再び転倒した際は、児童が自ら立ち上がり走り出した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	運動会へ参加した職員全員で競技を見ていたが、当該児童が転倒した際は最も近くにいた担当職員が対応した。	事故発生時、当該児童が履いていた中ズックのサイズが不適当であった。	競技前、ズックのゆるみを確認するとともに、保護者には子どもの足に合ったサイズのズックの着用を依頼する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面								ハード面							環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9710	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								1		1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨のひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	昼食後、休憩を挟んだものの体がついていけなかった。	舞踊戯の練習するにあたり、場所の環境設定や子どもの状況をしっかり把握し取り組むべきであった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	机や椅子などは片づけて行っていた。	今後も、施設の安全に配慮して活動する。	1.集団活動中・見守りあり	戦いのシーンの練習だったので、子どもの動きの危険を想定するべきであった。	保育室での活動の為、他の職員はいなかった。練習を伴う活動には特に配慮が必要であり、環境を整え考慮すべきであった。	1.いつもどおりの様子であった	舞踊戯の戦いのシーンで、他児とすれ違う場面の行動	2.対象児の至近で対象児を見ていた	その一場面の練習をするため、その役の子ども達のみに指導にあたり、対象児が転倒するところは少し離れていたので配慮が必要であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室の活動のため、他の職員は見ていない。	動きのあるシーンだったので、危機感を持って練習すべきであった。	焦らずに、ゆとりを持って指導を行っていく。	
9711	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65			14	16	17	18		5		3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(15)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故について、再発防止のため、また今後どのように居残り保育を運用していくか職員で話し合いを行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	毎月１回の点検だけではなく日々の点検を行い、事故に繋がることが予想される場合はすぐに改善できるようにする。鉄棒の下にマットを敷き怪我の予防に努める。	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒で回るだけでなく、座って周りを眺めている子もおり、座ると転落の危険性はあった。	危険性を考えて、鉄棒の使い方を確認する。鉄棒の上に座らないよう周知する。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒の水平部分に座って所庭の様子を眺めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	迎えに来たほかの保護者への対応をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くに保育士が１名いたが、タイヤ遊具で遊んでいる２、３歳児を見守っていて、本児が鉄棒から落ちて気づいた。	本児が怪我をした際、頭部の痛みを訴えていたため、鎖骨の怪我だろうことに気が付かなかった。	保育士が自己判断せず、病院を受診してもらうようにする。	
9712	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10								1		1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨・尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	●月から入園した園児であったので大型遊具等で遊ぶことに慣れていなかったが、挑戦する気持ちがあり他児のように2階部分から座ってロープネットにぶら下がったが、すぐに手を離し落下して手首を骨折した。	近くに保育士はいたが本児の遊具に対しての能力が理解できていなかった。また、担任が本日休みということはわかっていたので日頃から運動能力について共通理解が必要であった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもたちが楽しんでよく遊ぶ遊具であるが、子どもたちも慣れてきて次に挑戦しようとする気持ちがあったように思う。	しっかりと子どもの動きを見る必要があった。	1.集団活動中・見守りあり	今回の様な怪我を想定し、危ないこともあると子どもに伝える必要がある。	子どもの動きを想定し、個々の子どもの能力により怪我のおそれがある箇所を職員間で共通理解をする。	1.いつもどおりの様子であった	危険な姿はなく遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大型遊具の近くにある畑に動物が糞尿をしていたため、大型遊具で遊ぶ子どもたちを気にしながら取り除いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの子どもたちと一緒に遊び見守っていた。大型遊具からは離れた場所で保育をしていた。	周りの職員に声をかけ、動物の糞尿処理か見守りをするべきであった。	大型遊具での危険な場所を再度確認し、遊具での遊びからは目を離さないようにする。本児の挑戦欲は大事にしながら過信しないように配慮していく。	
9713	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19			9		10			3		1	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指付け根骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		日々の子供の活動等について情報共有をする。安全管理マニュアルの確認。環境構成の配慮、子どもへの注意注意喚起（3歳以上児）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	環境の整備が甘かったと思う。注意喚起不足	事故状況の共有と何故発生したかを深堀し環境設定配慮の徹底 段差のある場所の確認と対応	1.集団活動中・見守りあり	事故が起きた場所に園児が行くのを確認しただけだったので、子どもの姿の予想が不足していた。	活動前の環境設定や子どもの予想される活動がしっかりと保育に活かされるようにしていかなければいけない	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は良好。未満児さんがテラスから園庭に出てくる様子を見て園庭から走って迎えに行き顔面から転倒してしまう。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体が見えるよう園庭の真ん中に立ち、遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は呼びかけで戸外の園児を見守る。事務所の先生は、本児を安静にし看護師を呼び対応をしてもらう。	なし	保育するうえで職員の立ち位置、配置	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制															発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9714	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	128	8	20	18	31	26	25			33	32	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	本児が今回のけがの前にも、一週間のうちに二回程、転倒などで擦り傷の治療をするなど、少し落ち着かない状況はあった。	現状を踏まえ、遊び方への配慮や精神的な安定を図ることが必要。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	自由に使用できる梯子を使用しての事故であったため、職員の対応も含めの自由に使用できる梯子の使い方の周知の仕方に要因があったと考えられる。	子ども達が主体的にいろいろな用具を利用できる環境を目指し、対応していたがその利用の仕方について周知する。	1.集団活動中・見守りあり	保育士はほぼ園庭で子ども達と一緒に遊んでいたが、梯子を立てかけ遊ぶ場面に気づけていなかった。	園庭であそぶ時の全体が把握できる職員を声掛けなどの連携を深める必要性。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	創意工夫するあそびのできる本児だけに、危険をイメージできる状況判断に至っていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は他の子ども達とじっぱ取りあそびをして遊んでおり、本児の様子を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのあそびにはついていたが、全体をみている職員がいなかった。	職員が梯子をいろいろな使い方で遊ぶことに慣れすぎていたため、危険を察知する力に欠けていた。	危険個所の点検だけではなく、遊び方への支援とともに危険なあそび方への配慮と注意を日々の振り返りの中で身に着けていく。	
9715	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9				3	5	1			2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足代4指骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		研修の内容を職員全員で周知する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度毎日		遊具等の安全についてさらに注意深く確認する。	1.集団活動中・見守りあり		保育職員がさらに子どもと近い距離で見守る。子どもにも遊具の使用方法や注意点について説明する。	1.いつもどおりの様子であった	お友だちが滑り台をしたのでそのあとにつづきすべった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の横で見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各遊具を保育士が見守っていた	スピードがつきすぎ本人が側面に足をぶつけた	滑り台の横で見守り常に手を差しのべるように配慮する	
9716	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	69	0	0	0	21	21	27			8	8	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	本児がよく遊んでいる遊具なので「大丈夫であろう」と思った。	慣れた遊具でも、保育士の言葉がけが必要であった。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	マットが薄手であった。	マットを交換する。	1.集団活動中・見守りあり	他児は遊び始めて30分が経過していたが、本児は登園して直ぐだった。	固定遊具で遊ぶ前に準備体操をしたり、遊びの確認をするべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	登園したばかりであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じ固定遊具にいたが、年中児の登り棒の支えをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他に7人職員はいたが対象児から離れた園児と関わっていた。	園児が危険意識を持って遊ぶような声掛けをして活動するべきであった。	登園したばかりの園児も危険意識を持って遊ぶような声掛けを活動前にする。	
9717	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	3									1	1	17.5歳	1.男児	骨形成不全症のため、極端に力がかかりすぎると骨折しやすい。常時保育士がそばにつき必要時は手助けしたり、戸外遊び時は歩行器や散歩時はバギーを使用している。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	週末で午前中にも体を動かす活動が多かったため、疲れが溜まった午後からの当番活動だったため、負荷がかかりやすかった。	当番活動の内容を再考し、本児が上雑巾担当となる場合はバケツ係を増員し、たくさんの雑巾を担当しないようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	午前中の活動の疲れが出ていたかもしれないが、当番活動をやる気で張り切っていた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	担当保育士ではなくフリー保育士がついていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各職員は自らの担当の仕事をしていた	年長になり半年過ぎて、本児がさまざまな経験から自信を持って意欲的になっていたところで、なんでも自分でしようとする傾向があった	無理をすると危険が伴うと少しでも感じた時は積極的に本児に声をかけ、スピードを緩めたり、本児が用心するようにしていく	
9718	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									1	1	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	特になし	話し合いの中で、今回のケースで骨折に至ることもあることを周知し、意識しながら保育できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4 8)回/年	木の根が出ていることは把握していたが、太くて切れず、取り除くことができなかった。	木の根を取り除くことはできないため、マットを敷いてつまづきにくくする。	3.個人活動中・見守りあり	夢中になっていたため、木の根をよけることができなかった。	木の根が出ていると ころでは気を付けて遊ぶことを子ども達にも知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	夢中になって走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ちょうど担任が休憩をとるために引継ぎをする時間であり、現場を見ていた保育士がいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの保育士も戸外に出ていたが、他クラスの子どもと遊んでいたため気付くことができなかった。	木の根が出ているところは園庭の隅のため、死角になることがある。	木の根が出ているところは踏きやすいことを意識し、木の根の近くで子ども達が遊んでいるのを見かけたら、自分の担当でなくても声をかけて注意を促す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面				その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策		
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置				施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9719	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	8								1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	登り坂遊具で園児が遊ぶ場合は必ず職員が見守る・登り坂には自分の力で登る・友達を押さないなどのルールを作り、職員や園児にも伝えてあった。当日も遊具のすぐ横で他児の援助したり見守ったりしていたが、他児が本児の腕をはずすような行為をすることを想像していなかったため、間に合わなかった。	遊具で遊ぶ場合、どんなことが想定されるのか職員間で話し合い、想定される内容を周知しておく。また、園児にも危険な遊び方や行為をしないようもう一度話しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	降りる場所にはマットを敷いていたが、手の付き方によっては怪我につながってしまう場合もある	厚さのあるマットに変える。	3.個人活動中・見守りあり	遊具に登っていた園児を見ていた為、遊具の上で起きていた本児と他の園児との思いに気づくことが出来なかった。また、何度も遊んでいる遊具で今回のようなことがなかったので、安心していた。	登っている園児の援助をしながらも、他児の様子に気を配るようにする。普段からやっていて慣れている遊びでも、何があるかわからないという危機管理意識を持ち見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	運動会で登り坂遊具に登る競技があったので、一人で登れるよう挑戦を続けてきた。当日も友達と一緒に挑戦し登っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は登り坂遊具に登っていた子を援助していた。本児が自分の頭、肩から滑り棒に倒れる形で肘をつく姿をみた。上からごめんね、ごめんねという声を聞き近くにいた本児の側に行った。職員が近くにいたので看護師に見てもらい保護者に連絡をした。その後謝ってくれた他児どうしたのか聞くと「押し、ちがった」と言った。本児が「押された」と教えてくれた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊ぶ等していたので、本児と職員の動きには気づいていなかった。	本児の腕を外した園児は、ごめわりが強く自分が思ったことはやり通す面が普段から見られている。今回も早くどいてほしい気持ちが優先されてしまった。保育士が遊具に登っている園児の関係性や気持ちに寄り添えていなかった。	園児一人ひとりの気持ちに気づけるような関わりを持ち、園児の行動の見通しが持てるようにしていく。	
9720	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			21	19	20			5	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこで遊んでいる状況は把握・見守りをしていたが本児の行動は予測できず、転倒時に対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の対応、見守りをしていたため対応できなかった。	ボックスは遊具エリアとの境界のために設置されており、飛び越えて遊ぶ目的で使用するものではないが、鬼ごっこで逃げている状況で咄嗟にジャンプをしたと思われる	幼児クラスに向け戸外遊びのルールの再確認をする	
9721	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16								3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左棟トウ骨遠位端骨折 左尺骨遠位骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	固定遊具での過去の事故例を（自園他園に限らず）職員で共有し、知識の蓄積が不足している。	職員体制に余裕があれば、フリー保育士が散歩時に引率する。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	ウンテイは高さがあったため、途中で怖くなる場合を考えて、取り組む前にその都度怖くないか等こどもと確認することも必要と思われる。	保育士が補助につくべき場所を、その子の実力によって変えるべきだった。	1.集団活動中・見守りあり	ウンテイの対象年齢が6歳へであり、園児は10月に6歳になったばかりであるが、ウンテイに対応する体力はついていなかったと考えられる。	高さのあるウンテイなどは、公園での遊び方で使用を控えるということも選択する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもの本児よりも積極的で、いつもはやろうとしないウンテイにチャレンジしようという姿だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ウンテイに取り組む子に、個別についていた。対象児にも個別で対応していた。ウンテイに両手で飛びついたと思ったらすぐに落下し、手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園に戻る時間だったため、公園内の集合場所に園児を集めていた。	普段の活動では、運動面に自信のあるお子さんではなかったが、ウンテイにいきなり両手でつかまってしまい、自分の体重を支えきれなかったと思われる。	本児がウンテイに取り組むことは初めてのことだったので、事前に手の使い方などを伝えるようにする。落ちた時に受け止められる位置に居るべきだった。	
9722	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28								2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故予防については、他都市や他園での事例もミーティング時に周知するなどしているが、自園での対応も同時に確認していくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		今回の事故については、施設的に不十分な点は見受けられない。	1.集団活動中・見守りあり	いつもと違う環境（畑）での活動という事で、子どもの気持ちに高揚感があった。	高揚感を感じたり、興奮したりすることが見受けられる時は、いつも以上に子どもの様子にきを配って見守りをしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	楽しみにしている畑での活動で高揚感が見られていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	畑の場所はそれほど広くないので、近くで見守ることができていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	畑の場所はそれほど広くないので、近くで見守ることができていた。	いつもと違う環境（畑）での活動という事で、子どもの気持ちに高揚感があった。	高揚感を感じたり、興奮したりすることが見受けられる時は、いつも以上に子どもの様子にきを配って見守りをしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時期			発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9723	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61		9		30	22			9	9	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	座っても良い場所ではないところに座っていた。側に他の年齢の保育士はいたものの、目付はさりげ離れた場所にいて、柵に座っている姿を把握していなかった。柵に座っているのを見た時点で、安全に降ろられるよう見守りながら、すぐに降りさせることで、事故は防ぐことが出来たかもしれない。	危険な様子を見かけた場合は、すぐに知らせて安全な状態にする。園児にも危険が及ぶ行動について、安全指導をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	ブランコの近くに寄らないための柵であるが、子どもにとって登って座りたくなるような高さでもある。座ることは想定内であったものの、そこから落ちるかもしれないということについては、想定外であった。	落ちるかもしれないという想定のもと、下にマットを敷くなど、落ちたりケガが軽減されるような対策をとる。	1.集団活動中・見守りあり	近くにいたのは、担任以外の職員で、座っている姿を見た時に、危険性を察知する感覚が薄れていたことも考えられる。	全職員が全園児に対して、危機意識を持って安全を確認し見守るという意識を持って保育にあたる。危険な様子を見た場合は、安全が確認できるまで最後まで対処するという意識を持つ。	1.いつもどおりの様子であった	柵に座って、ブランコが空くのを待ちながら、ブランコの様子を見ていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で、全体の様子を見守りながら、本児とは少し離れたところにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１歳児の担任が、1歳児の子どもと遊び、様子を見守りながら、本児の姿も確認していた。		柵に座っている姿を見かけた時点で、降りるように伝えたり、安全に降りられるように見届けることで事故は防ぐことができたかもしれない。	
9724	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13								2	2	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の使い方を職員で再度確認する。ヒヤリハット事例集などをもとに、様々なことが起こりうることを想定できるよう危機管理をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	特になし	太鼓橋の下にはクッションマットが敷いてあったため、改善策はない。	3.個人活動中・見守りあり	太鼓橋を登って降りる際、体の向きが変えられなかった。	太鼓橋を降りるのが難しそうな時は、近くで手を添えながら安全な降り方を知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	いつもは向きを変えて降りられるのだが、この日は向きを変えずに降りようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	太鼓橋の近くで見守り、体勢がおかしいと感じ、向きを変えるよう何度も声をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当保育士と太鼓橋を挟んだ反対側におり、本児が遊んでいる様子を目にしていた。	普段から、保育士の促しを素直に受け入れられず、自分の思いを通そうとすることが多い。	体勢がおかしいと感じたら、注意を促すと共に、すぐに手を添えて援助する。	
9725	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11								2	2	15.3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.基準配置	基準配置は満たしていた。何もない芝生の上で転んだため、安全な配慮はできていた。	何もないところで不意に転んだため、できるだけ見守りの職員配置ができると良い。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	園庭は芝生化していて、転んでも怪我が少ない対応はとっていた。	できるだけ芝生の状態を確認し、整備を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	うまく手をついて転ぶことができなかった。	日々の生活の中で、ハイハイ等の動きを取り入れ体幹を鍛えているような遊びを取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に戸外で遊んでいて、芝生の上で突然転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	歩いていたが突然何もないところで転んだのを見ていたため、すぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う子どもと巧技台で遊んでいた。	特になし	芝生の状態を常に観察し危険場所がないか確認したり、子ども達の近くで見守ったりできるよう職員場所に留意しながら保育をする。	
9726	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21								2	1	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘内障(●●内科整形外科)、左上腕骨顆上骨折(●●病院)(●●整形外科クリニック)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特に無し	特に無し	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特に無し	特に無し	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	特に無し	1.いつもどおりの様子であった	園庭にて戸外遊び中、園庭を思い切り走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭に分散して、クラスの児の様子を見守ったり一緒に遊んだりしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応をしながら、本児の様子を見守っていた。	転倒した児と押した児は仲がよく、一緒に遊びたいがためにそのような行動になったのではないかと思われる。押した児は体が大きいため、走りながらの接触はかなりの衝撃だったと思われる。	友達を誘いかける際には気付いてもらえるようにまずは声をかけるようにすることを園児に伝えるとともに、危険だと思われる園児の動きを職員は察知および予測し、怪我を未然に防げるようにしたりすぐに対応できるようにしたりする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9727	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29									3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左人差し指の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置		保育者の動きを確認し、子どもの遊び方を確かめたり、遊んでいる様子を見て必要に応じて子どもと確かめ、未然に防げるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(常時)回/年		園庭の環境の見直しをする。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ（ケイドロ）の牢屋の場所がよくなかった。	遊ぶ場所や遊び方について子どもと確認する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ(ケイドロ)をしておりロープジム周辺を牢屋にしていた。捕まった友達をタッチし、自分も捕まらないように急いで逃げようとしたため、足元が見えずタイヤにつまずいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園時の受け入れをして保護者と話していたり、他児と遊んでいたり、支援児と関わるなどしており、対象児から離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時差出勤のため、4名中１名はまだ勤務していなかった。	鬼ごっこ（ケイドロ）の牢屋にしていた場所で起こりそうな事故の予測が低かった。	担任間で振り返りをし、再発防止に努める。	
9728	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	5									2	1	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	1.基準以上配置	個人連絡票の受け渡しもあるため、子どもの人数は少ないが複数名で保育をしている。	長時間に渡る保育を視野に入れた、遊びや環境の見直しを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	六角椅子は牛乳パックで手作りしたしっかりした椅子であり遊具でもある。ぐらつきもなく破損もない。絨毯がある場所で安全にも留意していた。	安全点検の大切さを全職員で共有する。各クラスの保育環境を、色々な目で見て意見交換を行い改善に繋げる機会を持つ。	1.集団活動中・見守りあり	六角椅子は、普段から遊んでいる物であり発達年齢にも合った大きさであると考える。遊びの幅広がって、保育の組み立てを再考する等の工夫が必要な場面もある。例えば、夕方の時間帯にあっては１日の疲れを考慮する。雨天時等発散仕切れない状況にあっては、静と動のバランスを配慮して保育内容を組み立てる等。１日トータルで子どもの見立てや配慮が必要となる。	子どもの様子や状況に応じて、静と動の遊びの組み立てを意識的に行い、保育環境設定の工夫を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく、落ち着いた様子であった。保育時間も通常通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２m先の当該児を視野に入れながら、他児のお迎えの対応にあたった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児を含めて、全体の子どもの様子や安全を見守っていた。	持ち場を離れるときは声を掛けることになっていたが、同室で保育している職員に特には声掛けをしていなかった。伝え方の際には相手にきちんと伝わっているかどうか、実際の状況を検証し、伝達の仕方や内容を改めて見直す必要がある。	持ち場から離れる時、必ず一緒に保育している職員に声掛けしてから離れることを徹底する。職員間でその場の状況を共有するにあたり、必要性と優先順位を明確にし安全保育への意識を高めていく。	
9729	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	8									2	2	14.2歳	2.女児	保育室で体操をしていて、他児とぶつかり転倒して手が出ず、床に顔面をぶつける。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	『事故防止と事故対応』マニュアルの読み合わせは実施していたが、実際の保育にいかされていなかった。	事故防止と事故対応マニュアルをミーティング等を活用して、身近なマニュアルになるように事あるごとに触れて、保育に活かしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	安全点検は毎日やっていたので、ども同士がぶつかって転ぶことを想定していなかった。	危険なのは遊具や玩具だけではなく、何もないところでも転んでけがをすることがあるということを意識して保育を行っていく。物があるところでは一層注意を図る。	1.集団活動中・見守りあり	テーブルやおもちゃ棚は端に寄せて、体操する空間を確保していた。動く方向も一方向にしてぶつからないよう配慮していた。園児の人数も8名と少なく、見守りの保育士もいた。園児は楽しそうに保育士Aの真似していたので、逆方向に動く児童がいることは想定していなかった。	動きが大きくなる体操は、外で行う。	1.いつもどおりの様子であった	楽しそうに体操に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	こどもと一緒に体操をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守りながら、動きの大きい子にはそばに行って保育士Aの真似をするように声をかけてこどもの安全には配慮していた。	こっちにいくよと言って、動く方向を指差ししてから動いたが、こどもにその声がとどいていなかった。	室内ということを考慮して移動や大きな動作は控える。危険なお状況を止められるような職員配置にする。	
9730	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				8	2	9			2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	第４中足骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(0.5)回/年	1.基準以上配置	特になし	慌てず対応できるように、年数回会議等で見直す。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	現状通り実施。その都度報告する。	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室で遊ぶ園児の人数や遊び方等によって、保育士を１名から２名で見守る。	あそびの人数、遊び方によって保育士が声をかけ合い、見守り人数を考えながら保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに登園、活動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	楽しそうにごっこ遊びをしていたので、遊戯室全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で子どもの制作の見守り等をしていた。		危険なあそびがないよう声をかけたり見守る。ごっこ遊びや、遊具の遊び方をクラスで確認する。物で人をたたかないことを約束する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳											うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
9731	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	0	0	0	2	8	6		2	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	16：30以降遊戯室で異年齢で過ごしている中、２名の職員がいたが他の子の対応をしていてその場面を見ていなかった。掴った事の訴えも無くそのままにしてしまった。	保育者間で連携を回り役割分担をし、声を掛け合い全体を把握できる立ち位置を確認していく。変化があった場合は情報を伝え合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	平らな面でも体の動かし方によってはケガにつながる可能性がある。	普段危険がない場所でも遊び方によって怪我をすることがあること意識して保育に当たる。	1.集団活動中・見守りあり	夢中になり自分が動きたい体勢と違った動きになってしまい、動き出す時に足を捻ってしまった。	午後は、一人一人の体力によって動きにも差が出るので夕方の保育の内容と環境の見直しをしていく。動きのある遊びをする時は、活動中やその後の体調や体の動かし方の変化に留意する。	1.いつもどおりの様子であった	仲間を誘い鬼ごっこをリードしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしていた子どもの対応をしていて本人の動きの変化を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしていた子どもの対応をしていて本人の動きの変化を見ていなかった。	職員は年長児が遊びをリードしていたことで、他の子の対応をしており捻った場面を見ていなかった。また、その子の動きの変化に気付かなかった。	職員同士声を掛け合い、遊びを見ながらも危険に繋がらないように声をかけたり、子ども達とコンタクトをとったりして常に状況把握に努める。	
9732	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	0	0	0	16	21	19	0	31	26	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	庭に出ている職員間で声がけを行いながら固定遊具には1人保育士がつくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回事故の起こった遊具のロープ登り部分は上り下りに時に砂ですべる可能性があるため、スポンジマットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	異年齢で遊んでいる時はクラス関係なく庭の必要と思われる個所に職員がつくようにしているが、再度職員間で確認し、実際の場面ではお互いに声がけを行っていくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	1週間の欠席後の登所だったため、他児と関わって遊ぶのが楽しい様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具と砂場の間に立ち、遊具と砂場にいる子ども達に対応できる位置にいた。事故発生場所からは２m～３mの距離の位置だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者、担当児の動きが視界に入っていた職員はいたが、それぞれ庭の必要な位置に立ち、活動をしていた。	特になし	職員間で情報共有し、固定遊具での遊び方を再確認。そいの内容を他職員に周知しながら、子ども達ともルールを再確認する。	
9733	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8								3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	座って遊んで入れる児童と動きのある児童の居場所を分けていなかった。	児童の遊び方によって居場所を分ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	保育室は死角となる場所もなく，部屋の端まで見渡せる構造となっている。	設備面での不備は見当たらない。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの動きに合わせた環境設定ができていなかった。	カーペットやパーテーションを活用して居場所を分ける。	1.いつもどおりの様子であった	玩具を両手に持って歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの人数に合わせて職員体制を整えるため，子どもの様子に目配りしながら保育の引継ぎをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの人数に合わせて職員体制を整えるため，子どもの様子に目配りしながら保育の引継ぎをしていた。	玩具を両手に持つことで転倒した際，手が出ないかもしれないという見通しが持てなかった。	移動時は玩具を持たせないようにする。	
9734	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	21								3	3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨粉砕骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(４)回以上/年	1.基準以上配置	担任1名研修のためフリー保育士が代替で保育にあたっていた	ヒヤリハット事例も含め随時報告し合い、様々なリスクについて理解を深め、さらに安全意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12) 回以上/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		デイリーや活動の見直しを行い、無理のない保育を計画・実践する。落ち着いた雰囲気を作れない場合等には職員間で連携して対応する	1.いつもどおりの様子であった	友だちの様子を気にして布団から出て行った。保育者のかかわりが丁寧でないため、布団に戻されることに納得をしていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	早く落ち着いた状況にならなければと焦っていたため、かかわりに丁寧さが欠けていた。本児の足がどうなっていたかも確認せず布団に降ろし、いつもより制止する力も強くなっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	落ち着いた状況になるよう他の子にかかわっていた	担任1名研修のためフリー保育士が代替で保育にあたっていた	職員一人ひとりが感情のコントロールを意識する。保育や職員の状況をみて、サポートし合える職員集団づくりをさらに強化する	
9735	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15								2	2	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘外果骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置		今後も子ども達の人数に応じてしっかりと職員配置をし子ども達を安全に見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		園庭が狭いので、現状も行っているがクラス毎に時間配分をしながらのびのび遊びを楽しめる工夫をする。	1.集団活動中・見守りあり		かけっこ等を行う際は、隣のお友達との距離をある程度とる。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、所庭にてお友達とかけっこ遊びをして楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	１５名の子どもたちを所庭で自由遊びを楽しませ、２名の保育士で見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もう一人の保育士と重ならない場所で子ども達の見守りを行っていた。		今後も職員同士重ならない位置に配置し、子ども達を安全に見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9736	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	167	0	0	0	54	56	57	0		12	10	18.6歳	1.男児	衝動的であり、我慢が難しい児であるため加配対象である。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	片付けの際は、加配対象の重い子についてしまい、本児の動きの追跡が足りなかった。	担任や傍にいる保育者に声をかけ加配対象児の動きを把握できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	業者による遊具点検も年3回実施しているが、衝撃吸収マットの性能について基準があるのかわからない。	衝撃吸収マットの寿命について調べ必要であれば交換要望していく。	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒が使えないことが視覚的にわからなかった。	傍にいた保育士も目が離せない状況だったので、声をかけ動きを少しでも止めれるようにする。また、「今日はお休み」看板をつけることにした。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	4.対象児の動きを見ていなかった	片付けの時間であったため担任は他児に声をかけに回っていた。加配担任は、配慮の必要な他の対象児のサポートをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が走って鉄棒に向かったが、ちょうど年少児が滑り台に登っていたので、そのサポートをしていた。	遊び出す前に「今日は鉄棒は禁止」と言われ、思い通りにならずモヤモヤしていたと思われる。	定期的に対象児は目で追い、気持ちの整理ができていないようなら丁寧に対応する。	
9737	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46			16		14	16			19	17	17.5歳	2.女児	身体的発達状況については、とくに問題はみられない。コミュニケーション能力、発語に軽度の障がいがみられる。パニックを起こすことがある。A園やB病院での言語指導に通っている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	受傷児の障がいの特性として、皆の行動について行けないことがよくある。よそ見をしながら歩いたり走ったりする。	障がいの特性に応じた見守りを強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭内に松の大木が数本あり、それが視界を妨げることになったことも一因と思われる。	除去するには神社と国(文化庁)の許可等が必要なため事実上除去は不可能である。	3.個人活動中・見守りあり	同じクラスの他児童から遅れて遊びに参加しようとした。	他の児童と同様に遊びをスタートさせるよう促していく。	1.いつもどおりの様子であった	ほかのことを考えながら、前をよく見ず走ることがよくある。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャングルジムの傍で他児の見守りをしていたが、衝突した瞬間は見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年長担任も事故の瞬間を見ていた。	クラスの中で２つの遊びに分かれて遊ばせた。	今後はクラスの中で複数か所で違う遊びをさせないようにする。	
9738	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13				7	6				1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	フリーが多い日だったので、戸外遊び時はフリー保育士が一緒に戸外にでていべきだった。	職員配置、見守り体制について再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	安全点検はきちんと実施している。	今まで通り、定期的に安全点検を行う。	3.個人活動中・見守りあり	園庭に出る前に体を少し動かしておけば、転んだ時にうまく回避できたかもしれない。	戸外で遊ぶ前に準備運動などをして、体をほぐしておく。	1.いつもどおりの様子であった	●月●日にサッカー教室があり、その後は、サッカーに興味をもってボール遊びで遊ぶことが多かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	友達と二人でボールを蹴って遊んでいたが、担任は友達側にいて、本児の蹴る様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ケガした時間帯は担任1名しか園庭に出ていなかった。（他のクラスは室内で過ごしていた。）	4歳児6名5歳児5名の計11名の●●組だけが園庭で遊んでいた。子どもは保育士が予期しない行動をとることがあるので、担任1名だけでは限界がある。	フリー保育士がいる場合は、一緒に戸外に出て見守ってもらう。フリー保育士がいない場合は他のクラスに声をかけて戸外へ誘い、他のクラスの保育士と数人で見守る体制を作る。	
9739	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(各1)回/年	2.基準配置	職員が対象児の転倒に気がついていなかったことで、怪我の把握が遅くなってしまった。	園庭が広いため職員の立ち位置を再検討し、全体が見渡せるよう意識して見守っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭の状態が、土が乾ききっていて硬くなっていた事に加え運動会後に好んでリレー遊びをしており、その部分だけ硬い土がめき出しになり滑りやすくなっていた。リレーを行う際の円が小さめに設定してあった為、コーナーが急な角度になっており、より滑って転びやすい状況を作り出していた。	使用前に必ず園庭の状態を確認し、危険な状態を修正してから遊ぶよう にする。（滑りやすい部分に軽く水をまく等）リレーに適した大きさの楕円を再考していく。	1.集団活動中・見守りあり	今回の事故については、場所が園庭と言うことで広い範囲での見守りとなったが、担当していた職員の目（意識）が自身と一緒にいた子に集中してしまっていた恐れがあり、常に全体を見渡す意識が足りなかったと思われる。	職員間で話し合い、全ての職員が全体を見渡す意識を持つことや、自身の立ち位置、補助職員との声かけ・連携の大切さを再確認し、具体的に改善方法を見つけて共有していく。	1.いつもどおりの様子であった	リレー遊びは好んで行っており、事故当日もいつものように友達と一緒に誘い合ってリレーを楽しんでいた。怪我について、対象児自身が我慢をしていたのか、担当職員に言い出せなかったことで発覚がより遅れてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は、30mほど離れた場所で他の園児とボール遊びをしており、対象児の事故（転倒）に気がついていなかった。対象児は担当職員に怪我の事を伝えに来なかったが、その後の対象児の様子で少しでも異変があったら気がつけるよう、職員が意識することも大切だったと思われる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我の判断として、腫れや赤みが無かったとしても、少しでも骨に影響がありそうな事故の場合は、速やかに受診して医師の診断を得る必要があったと思われる。	リレー遊びについては、運動会を経て子ども達が自分達で遊びを行えるようになってきているため、職員が見守りを行う意識にかけている部分があったと思われる。	子ども達が慣れている遊びとは言え、見守りを怠らないことを全職員意識していく。子ども達が自身の痛みや違和感を言い出しやすい雰囲気を、園全体で常日頃から意識し、実践していく。怪我の判断については複数で確認し、一人でも、また少しでも不安材料があったら迷わず受診を選択し、医師の診断を受ける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面									環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9740	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				30	15			2	2	17.5歳	1.男児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特記事項なし	危機管理マニュアル見直し	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気で動きも活発に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	落下時は離れたところでいたが、本児がタイヤを縦にまたがって鉄棒で遊んでいた様子に数回注意したが、遊び続けて落下してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。	特になし	危険な行為に繋がらないかを常に意識し保育していくようにする。職員間で連携を連携を図り、声をかけあうようにする。	
9741	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	11	0	0	0	3	8	0	0	2	2	16.4歳	1.男児	普段から遊んでいた場所だったが、異年齢保育と土曜日保育外の在園児が遊びに来ていた事によりテンションが上がり、ジャンプしようとする本人の意識が欠落していたことによる事故と推測される。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.基準以上配置	散歩マニュアルが整備されていなかったことによって、散歩先の危険・ヒヤリハット箇所の把握が徹底されていなかった。	今後、散歩マニュアルを作成し、散歩先の危険・ヒヤリハット箇所の把握を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	日頃遊んでいる場所だったので事前に下見をしていなかった。	今後、散歩マニュアルを作成し危険・ヒヤリハット箇所の把握の徹底に取り組んでいく。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発に動き、じっとしている事より身体を使った遊びを好む。屋外でも走り回って遊んだり、ジャンプや土手を上がったり下がったりする事を好んで遊ぶ事が多い。事故発生時も、色々な所で走り回っている姿があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見渡しつつ、怪我がないかを見守りながら子どもの動きを観察していた。異年齢児の保育だったので、どちらかというと年齢の低い子に目が行く事もあった。2人体制だったが、一人は足が痛いと言っていた女児の対応でベンチに座っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2人体制の一人は、同時に足を痛がっていた子がいた為、ベンチで個別に対応していた。	それほど広い場所ではなくいつも遊んでいる所だったが、園児以外の方が遊びに来ていたことによる注意力が欠落したことが要因になったと考えられる。	いつもと違う状況の時は、普段できている事にも細心の注意を払い声掛けを重視していく。又、地域の人がR1山いる場合は遊ぶ場所も考えていくようにしていく。	
9742	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67				4	63			3	3	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(7)回/年	2.基準配置	特になし	職員は傍について対応したが、今後も目の届く場所で職員が連携を図り、安全面に配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	円形の支柱が遊び箇所だと思い込んでいたのではないか。(子ども) 敷いたマットの用途が違った。	遊び箇所ではないところは表示し意識づけできるようにした。いつもと違う子どもの動きを見逃さないように常に注意深く見ていく。人工芝もしくはマットを敷く場合は地面と段差がない大きめのマットにする。	1.いつもどおりの様子であった	気をつけながら登っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	登り棒の傍で様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は違う遊び場に分かれて子どもの様子を見守ったり、一緒に遊んだりしていた。	職員は傍について安全に目を配っていたが、他児の一瞬の動きに気をとられて、円形の支柱に子どもが移ったことに気づけなかったのではないか。他職員は職員が傍にいたので、注視が甘くなってしまったのではないか。	傍についている職員だけではなく、どこにいても全体を注視し、声をかけ合いながら連携して対応する。	
9743	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51				17	15	19		3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故当時、けがの程度について軽度と認識した職員がいた。どのような場合でも重大事故につながることがあるため、処置や見解を誤らないよう職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年		雲梯の下にはけが防止のためのマットが敷いてあったが、砂がついて滑やすくなっていた。砂を掃いてから遊ばせるようにする。	1.集団活動中・見守りあり		普段から本児が遊び慣れている、ということでできると過信して見ていた。子どものとっさの行動予測を常に行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	一人ずつ順番に雲梯をさせており、本児の番の時にもそばについて声がけし見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子供たちの様子を見ていた。		いつもと変りなく元気に見えたが、暑さや週末の疲れなどがあったとも考えられるので、子どもの状態をよく診てから遊ばせるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9744	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	9								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	1.基準以上配置		日々の保育の中で安全面で気づいたことを伝え合い、改善や意識し合い職員間の連携をより強めることが必要と思われる。話し合いだけではなく、事故を想定した訓練も行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年		気づいた時点で、すぐ対応できるように点検の時間やタイミング、回数を見直す。	1.集団活動中・見守りあり		複数担任での役割の確認、立ち位置や援助の仕方を振り返り、適切な対応について見直していく。	1.いつもどおりの様子であった	活動であったルーを好み、リーダーシップをとり、張り切って参加していた。アンカーで勢いがついていた様子は見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒地点がゴール直前の場所であり、ゴール地点に担任が待機していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数担任であり、もう一人はスタート地点で他児とゴール方面を見守っていた。		適切な人数、配置での活動であったと思われるが、子どもの気持ちや安全面の確認など活動時の配慮を確認することが必要と感じる。	
9745	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105			39	34	32			7	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	鉄棒を使って遊ぶ際のルールの見直しをした。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	特になし	鉄棒をしっかり握ることができる発達を見極めた上での取り組み。	3.個人活動中・見守りあり	個々の力量に合わせた適切な援助をする。	着地まで手を離さないよう繰り返し伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	足掛け回りを何度も行っており、着地が乱れることも何度かあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒３つの中央で６名程の子どもを見ていたが、落下時すぐに手を出すことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児が園庭全体で遊んでおり、７名の職員がそれぞれの遊びや固定遊具についていた。その中の１名の職員は、少し離れた別の遊具の場所から対象児の動きを見ていた。	事故発生当日の午前中に習得したばかりの技であり、半周回ると親指を上に戻す癖があった。	新しい技を行う時は、その子の力量を理解している担任保育士と一緒に行うというルールにしていく。	
9746	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21			2	10	9			2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足薬指の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	子ども達同士の関わりの中で、衝突・叩かれた・踏まれた等の出来事があった場合は、保育者に伝えることを話しておくべきだった。	体調の変化や痛み等がある場合は、保育者に話をするよう指導していく。帰りの会で、その日の出来事を振り返り、安全に遊べていたか、危険なことをしている姿はなかったか等話し合う場面を設け、子ども達なりに危険予測ができるようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	改善策は特になし	1.集団活動中・見守りあり	2名の保育者は、お互いに声を掛け合いながら見守っていたが、２人が衝突した場面に気付くことができなかった。	お互いの立ち位置を考え動くようにする。全体を見る保育者、活動に携わる保育者と分担を明確にし、見落としがないようにする。また、保育者の人数によっては、活動場所（保育室・ホール）を制限する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り歩いて絵本を返却していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ホールで持ち物の始末をしている子に援助していたため、２人が衝突した場面に気付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で製作活動をしていたため、２人の様子に気付くことが出来なかった。	各保育室（２部屋）とホールでの活動を２人の保育者で見ていたが、ホールは広く目が行き届かない所もあるため、持ち物の始末の援助をしながらの見守りでは不足があった。	ホールは動的に活動するため、活動状況に合わせ保育者数を増やす等し、複数の保育者で見守る体制を整える。	
9747	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27	0	0	0	16	11	0		4	4	15.3歳	1.男児	低身長、低体重	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折、胸部挫傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	2.基準配置	定期的に打ち合わせ等で子どもの姿を共有したり、マニュアルの確認をしたりする機会が少なかった。	全職員で、子どもの様子に合わせた遊び方の確認をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	3歳児にとっては遊具の高さがあった。	マットは敷いてあるが、今後も点検をしていく。	3.個人活動中・見守りあり	リングトンネルは本児の経験が浅かった。	発達状況やクラスの様子等、子どもの情報共有をする。リングトンネルで遊ぶ際は、間隔を空けるよう伝えたり見守ったりする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り友達と一緒に好きな遊びをしていたが、リングトンネルはあまり経験がなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リングトンネル中央付近で子どもを見ていたが、保育士の傍にいた子に話しかけられ対応していたため対象児が落下した瞬間は見ておらず間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具につき、見守っていた。	リングトンネル内で、他児との間隔が狭かった可能性がある。	リングトンネルで遊んでいる時は、保育士が傍につき目を離さない。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
																											ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
						発生時の体制																													施設の安全点検			遊具の安全点検		玩具の安全点検															
							人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																							
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																					死亡	負傷						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
																					死因	負傷状況	受傷部位																																
9748	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45	0	0	12	7	14	12	0	5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	マニュアルが周知されておらず、戸外遊びの際の留意事項などが徹底されていなかった。	マニュアルを再度読み合わせるとともに、戸外での危険個所を出し合い、安全策を話うことで、戸外遊びの際の留意事項を徹底した。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	ジャングルジムの下に敷いているマットが所々隙間があったりクッション性の低い物であった。	ジャングルジムの周りに隙間なくマットを敷くとともにクッション性のあるものに交換する。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が戸外遊びの場の設定に手を取られ、子どもから目を離してしまったこと。	遊びの選定をし、安全に遊べる環境を作るようにする。職員の体制が整わず安全が確保できない場合は、遊びを中止するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友達と追いかけごっこをして遊んでいた。本児は追いかけられることを楽しみ、必死で逃げて捕まらないようにジャングルジムに駆け上がった際に手が滑ってジャングルジムの上から落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコの設定をするためにブランコの場所にいた。本児が追いかけごっこを楽しんでいる様子は確認していたが、本児がジャングルジムに登っていく落下する瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	●●組（２歳児）担当保育士がジャングルジム周辺で２歳児の遊びの見守りをしていたが、本児がジャングルジムに駆け上がることを制止できなかった。	遊びの場の設定をする際に子どもから目が離れてしまったこと。	遊びの場の設定をする際も子どもから目を離さないことを徹底する。また、子どもの安全を確保できない時は、遊びの種類を限定するようにする。	
9749	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				20	27			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	1.基準以上配置	予期しない事故が起こることもある。	事故報告・ヒヤリハット報告を丁寧に考察し、事故防止につなげていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	それぞれの遊びに対して、保育士が見守ることができていない箇所があった。	ルールのあるゲームをする時は保育士が近くで見守れるような場所で行う。	3.個人活動中・見守りあり	トラブルの後、怒った子が追いかけ対象児は逃げていたが、見かけた職員は二人が追いかけっこをしていると思っていた。	子どもの動きを常に把握し、異変があれば声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	活発で戸外に出るとサッカーやドッジボール、友達と追いかけっこをしるなどして体を動かして遊ぶことが多い。当日もドッジボールを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	トラブルの瞬間を見ていなかったので、二人がドッジボールをやめて走って遊んでいると思っていた。もつれあって転んだ瞬間はちょうど見ていなかったが、怒った子が対象児を叩いているのを見て声をかけに行った。（後に防犯カメラの映像で確認すると、二人で転んだ時に膝が右鎖骨あたりにあたっていた。）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体が見渡せる場所で遊びを見守っていたが、自分の担当クラスの子どもたちと関わっていたため事故が起きた瞬間は見ていなかった。	年長児はドッジボールのルールを理解し、子どもたちだけで楽しめることが多いので、担当保育士はしばらく様子を見た後、他の遊びのグループの所で見守りを行っていた。また、子ども同士でトラブルが起きていたが、追いかけっこをして遊んでいるとの思い込みがあった。	何度も経験しているが、子どもたちだけでは自分勝手なルールになってしまうこともあるので、ルールのあるゲームをする時は保育士が近くで見守るようにする。	
9750	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27	2	4	5	5	5	6		9	6	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置		職員配置は基準内で特に改善点はないと思われるが、今後の課題としては、事故防止に関する研修を実施することが必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		遊び方について子ども達と確認をしたり、職員間でもより一層安全面に配慮したりするよう周知した。	3.個人活動中・見守りあり		環境面での改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	赤い家の中に入ったり屋根に登ったりして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くに保育士はいたが、本児が突然屋根から飛び降りたため、止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は遠くから対象児の位置を確認していたが、落下する瞬間は見ていなかった。	子どもの予期せぬ行動を想定できていなかった。	子どもと遊ぶ中であらゆる危険を想定しながら関わっていたり、職員同士連携を取り合いながら保育をしていく。	
9751	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右網膜震盪	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	職員は、園児の人数に対して十分に配置できていたが、保護者対応で十分な見守りができていなかった。	追いかけっこ等、遊びで起こりうる危険を全体で再度確認して、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	追いかけっこをしている時に遊び小屋に入ろうとした事が要因と考える。	追いかけっこ等、走るような遊びの際、遊具へは近づかない様に指導していく。	1.集団活動中・見守りあり	追いかけっこをしている時に遊び小屋に入ろうとした事に気がつかなかった。	走りながら遊具に近づいていないか注意して見守る。子ども達にも注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	打撲した後も一日、保育園で過ごしていたが、特に変わった様子は見られなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭での活動中で、本児も打撲したことを保育者に伝えなかったので、気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	いつもと変わらない様子だった為、気が付かなかった。	職員は、十分に配置できていたが、子ども１人１人の動きは把握できていず、ぶつけたことに気がつかなかった。	職員も再度遊びの危険な状況を確認すると共に、怪我やどこかで、ぶつけた等、何かあった時に必ず職員へ伝えるように子ども達に指導して行く。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9752	令和6年3月21日	1.認可	7.小規模保育事業	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	6									2	2	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇小帯裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	事故やけがが発生した際に、誰もが直ぐに対応・判断ができない。又、その判断をするためのフローチャートがない。	事故やけがをした時の役割や流れを見直し、新たにフローチャートを作成。皆が直ぐに確認できるところに掲示またはファイリングする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	ワンフロアでの異年齢保育の難しさと子どもの特性や発達面での申し送りができていなかったこと。	16時以降、午後から出勤の職員が保育に当たるため配置基準より多く配置する。また、職員間で子どもの特性や発達面での育ちの共有や申し送りを行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの発達に合った遊びの提供や準備ができていなかった	全体を見ている指揮権保育士が、環境設定の準備または確認を行いながら、子どもの様子によって変化させていく。また、玩具の購入をし、遊びが分散できるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	段ボールの囲いが気に入り、中に入って楽しんでいた。独占欲が強く人のものが欲しい年齢であるため、本児は近寄ってきた子に対し反発し、側に来た子はほしいという想いがぶつかった様子	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	その他の子どもも同じ玩具を欲しがり、同じものを取りに本児の側から離れ、動いた瞬間に事故が起こったため、すぐには防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児のいる近くにもう一人の保育者がいた為、他の子どもと関わっていた。	保育者同士、互いに動きを確認しあえていなかった。それぞれ近くにいる子どもしか見ていない。	保育室での指揮権者を明確にし、子どもの発達に合った環境を整え、確認して夕方の保育にあたる。互いに相手の動きを見ながら、保育にあたる。	
9753	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48				15	15	18			4	4	15.3歳	1.男児	落ち着きのなさ、集中力が短い、人との距離感が近い、友達の気持ちに気づけない等気になる姿がある。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆間部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	補助が必要な年少児が、2か所に分かれて鉄棒をしていたこと。	年少児は握力が弱い子もいるため、鉄棒は1か所に限定して必ず保育士がついて行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	3種類（大中小）ある鉄棒の使い分けをして、職員・園児で周知する。	1か所に1人ずつ使うようにする。次の子が待つ線を引いておく。保育士がついている時に使う。年少児は「小」のみに限定する。「あり」マークをつける。	4.個人活動中・子どものみ	補助が必要な年少児が、2か所に分かれて鉄棒をしていたこと。	年少児は握力が弱い子もいるため、鉄棒は1か所に限定して必ず保育士がついて行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児が落下した鉄棒は、3種類あるうちの最も低いもので、片足をかけるのは難なくでき、対象児は普段から鉄棒に来るとそのような行動が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	連結している3つの鉄棒（大・中・小）の「中」で、別の3歳児の前回りの補助をしかけたが体勢でしていて、滑り台から鉄棒「小」に移ったさた体勢の姿に気づくのが遅れた。気づいて咄嗟に手を差し伸べたが、対象児の位置が離れており、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	●●組も戸外にいたため、△△組が遊ぶ固定遊具を３つに限定しており、職員は木製遊具（木の家）と滑り台の間で、両方を見ていた。	対象児が鉄棒から落ちそうになったことは過去にもあり、必ず補助につくようにしていたが、他児の補助についていたため対応が遅れ防げなかった。	年少児は握力が弱い子もいるため、鉄棒は1か所に限定して必ず保育士がついて行うようにする。	
9754	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	1	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	年長児ということもあり、保育室から遊戯室には一人で移動しており、保育者は事故時には本児と一緒にはいなかった。	見守りが不十分だったため、声掛け等を含め、行動が衝動的である本児に対しては十分に見守っていく必要があった。	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	保育室前廊下から遊戯室に行くには1度戸外に出なければならない。その際、建物間（保育室と遊戯室間）に段差があり、そこを勢いよく走ったことで足をくじいた。	段差をなくす工夫が必要	4.個人活動中・子どものみ	声掛け等を含めた見守りが必要	見直しを行う	1.いつもどおりの様子であった	常に動きが激しいく衝動的に行動する姿がある。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児への対応をしていた	特になし	職員間で連携をとりながら子どもの様子をしっかり見守り対応していく。	
9755	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11	0	5	3	0	2	1	0		5	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	特になし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	ごっこ遊びの最中に発生しているが、子どもの遊びの中に危険と思われる行動があった際の声かけが不足していた。ハウス周辺での行動について、職員の認識が不足していた。	危険が予測される遊びや子どもの行動に関する職員の対応について研修を行う。子どもたちに事実を伝え、安全についての話し合いを行い、危険な遊び方について再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	衝突の未然防止のための声かけは行っていたが、ハウスを使用していることについては、十分な危険予知ができていなかった。	職員間で状況の共有を行い、園舎内外の遊具の安全点検を全職員で行う。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達の中でハンターごっこと称する鬼ごっこがブームとなっており、時折ハウス周辺の１階園庭（土の広場）を走り回る姿があったため、小さい子を がいることを何度か注意する場面があった。しかし、屋根の上で遊ぶことに対して、制限をかけていなかった。	翌日、●●組（3～5歳児異年齢クラス）を中心に話し合いを行い、子どもたちは「ハウスの屋根には登らない」という結論を出している。安全に楽しく遊ぶ環境を整え、子どもたちの発達を促していけるよう定期的なカンファレンスと環境の見直しを継続する。子どもと遊ぶ は、週１～２回程度、定期的に安全について話し合いを行う。	1.いつもどおりの様子であった	気の合った友だちと追いかけっこをして、捕まらないようにとハウスの屋根に登る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育者Aは、屋根から飛び降りて左足を痛がる本児を抱いて、事務所の医務コーナーにいる看護師のもとに搬送する。保育者B、C、Dは、他の子ども達の遊びの見守りを継続する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	看護師は、本児に寄い他所を母は患部を確認し、アイシングを行い全身状態を観察する。少しの動きでも激しく痛がるため、オンライン「子どもの救急」窓口「保育・教諭」等で確認した上で整形外科医への受診を判断する。看護師が保護者に電話連絡し、怪我の状況等の詳細を伝え、受診の許可を得るとともに病院にて保護者と合流する旨を確認する。	職員は、担当クラスの子どもに限らず、目の前にいる子どもや周辺で遊んでいる子どもを含め、園全体の子どもを見るという意識が十分ではなかった。	子どもの見守り方、発達に応じた行動予測、適切な言葉かけ等について再確認する。職員間の連携を強化するために、ケース会議や研修を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9756	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25									3	3	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置		キックバイクに乗って遊ぶ際に、広い場所で乗るようにに声をかけたり、スピードを出しすぎないようその都度声を掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	遊具が密集していてキックバイクを乗るには狭い場所もある。	広い場所でキックバイクに乗ることをその都度知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	他児と狭い場所でキックバイクに乗っていた。	広い場所でキックバイクに乗ることをその都度知らせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	キックバイクを倉庫から職員に出してもらい、園庭でキックバイクに乗って遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児がキックバイクから転倒したとこを目撃しすぐに怪我等の確認をする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊ぶ子どもの様子を側で見守っていた。		職員の人数的なものに不備はなかった。	
9757	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55		9	8	12	12	14			11	11	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨頭にひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.基準配置		引き続き定期的に所内研修を行い、注意喚起を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		引き続き定期的に点検を実施し、不具合がないか確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	運動器具の使い方、遊び方の周知と、子供が十分にそれを習得しているか把握が不十分であり、複数の子どもが同時に行う場面で保育士１名の見守りで十分ととらえた注意不足が要因と考える。	年齢に合った鉄棒の使い方や、遊ぶ際のルールをきちんと知らせ、見守る保育士が目の行き届く状態で行うよう、職員での周知徹底をする。	1.いつもどおりの様子であった	本児が鉄棒を両手でにぎり足を鉄棒にかけようとした際、片手が鉄棒から離れてしまう。こらえきれず、もう一方の手も離してしまい落下する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士は本児から１mくらい離れた場所で、本児含め５名が鉄棒で遊んでいる所を見守っていたが、落下した際、すぐに本児を支えられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	所庭にはいたが、他児のグループを見ており、本児は見ていなかった。		常に子どもの動きに気を付け、ケガの無いように声掛けしていく。複数の職員で声を掛け合い、連携して全体に目を配っていく。	
9758	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									4	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置	リレー遊びはこの日が初めてだったが、バトンの受け渡し方や気を付けることを子どもたちに周知していなかった。	初めての遊びをする時はあらかじめ注意することを伝えておく必要があった。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	園庭を確認したが、特に凹凸等はなかったため、特別な改善は行わない。定期的な点検は引き続き実施する。	1.集団活動中・見守りあり	リレー遊びはその日初めてだった。	初めての遊びでは、子どもが予想できない動きをすることも想定し、安全に遊べるようより注意していく。	1.いつもどおりの様子であった	身体を動かして遊ぶことが好きな本児なので、この日もルーを友だちと一緒に楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リレー遊びが初めてだったため、子どもたちがバトンの受け渡しをきちんとできるかどうかの確認も含め、安全面に考慮しながら声をかけるなどしながら近くで見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具やサッカーなど他の遊びをしている子についていた。	リレー遊びは2チームあり、しかも初めての遊びだったので、職員が2名で対応するべきだった。	初めての遊びは予想される危険などを職員で共通理解し、状況に応じて2名以上の職員がその遊びにつくようにする。	
9759	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	16									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置		改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年		改善策なし	3.個人活動中・見守りあり	折り紙をやっている所にソフトブロックを持ち込んだ時、声を掛けなかった。	おもちゃの使い方のお約束をしっかりと伝えどう使っているか（状況）を把握していく。	1.いつもどおりの様子であった	円の中にいたが1人円柱のソフトブロックにまたがり加わっていて体勢を崩す。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	円のすぐ後ろにいて、全体を見ながら目を配ってはいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人担任で他のクラスの担当者は見ることができません。		どういう状況かまで細かな所まで目を配る。	
9760	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26				1	14	11			2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯脱臼、一部欠損歯	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置		子どもがけがをするであろう動きを察知し、未然に防げる位置で声を掛けられるように気をつける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		スムーズに移動できるように、通る場所の見通しをよくする	1.集団活動中・見守りあり	広い解放感のある遊戯室からの移動の為、走りたくなったものと考える	移動の際には、走らないことを子ども達に話し、徹底する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午睡中眠れずに起きており、自分の布団に横になって休んでいた。午睡時間が終わり起きて午睡中眠れずに起きており、自分の布団に横になって休んでいた。午睡時間が終わり起きて動けることを喜んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体に対して走らないように声をかけたが本児に声が届いていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先にトイレに向かった子ども達を見守っていた為		保育士は子ども達の移動の様子や室内での過ごし方に気を配り、すぐに対応できるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																													
9761	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置		毎朝の朝礼において、安全面に留意して保育にあたるよう意識統一を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週		活動前にも園庭や固定遊具の安全点検を強化して行う。	3.個人活動中・見守りあり		活動の前には、手足を柔軟に動かせるような遊びを意識して取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	走りながら滑り台に向かっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	好きな遊びをする様子を近くで見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの園児及び職員は保育室で活動中		児童の動きに危険性が伴わないか、予測して職員配置を適切に行う。	
9762	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									1	1	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特に無し	特に無し	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(200)回/年	特に無し	特に無し	1.集団活動中・見守りあり	ドッジボールに慣れてきてボールを投げたり受けたりする行為が上達してきたことで、コートの大きさがレベルに合っておらず、至近距離でのボールのやり取りが骨折につながったのではないかと考える。	子ども達のレベルに合わせてドッジボールコートの大きさを変更する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭にてクラスの友達とドッジボールをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭にて、クラスの児全体の様子を見守ったり一緒に遊んだりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラス担任および職員は室内にて保育をしていた。	体が温まっておらず、動きが鈍くなっていた。ボールの受け方が安定していなかった。	行う前に準備運動などで体を温めるよう促したり一緒に行ったりし、体を整えておく。ドッジボールの以外の場でボールの受けたり投げたりする遊び方を取り入れたり、体の正面でボールを受け取るやり方をやって見せたりする。	
9763	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18				17		1			2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	職員の動きの連携が取れていなかった。	おやつ後、夕刻前の活動に職員が分かれる所で、要支援の子ども2人に対応できる職員の確保。要支援児の対応を優先し、おやつの片付けは、別の職員に依頼する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	床（フローリング）に損傷などない為、特に改善は必要ないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	職員の動きの見直し必要。	要支援児の対応を優先し、片付けは後回しにする。	1.いつもどおりの様子であった	対格差のある５歳児とぶつかり合い転倒	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士一人だった為、ボールから逃げる２人がぶつかるのを止めきれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の子の対応中だった。	体格的に相手が大怪我に繋がってしまうリスクあり。	体格の差がある児が関わる場面では、相手に及ぼす影響を頭に入れて見守っていく。	
9764	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10									3	3	15.3歳	1.男児	自閉症スペクトラム症、朝食未摂取	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	前頭骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(隔)回/年	2.基準配置	特になし	園内で、事故予防について環境面、保育士の動きについて話し合う機会を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年 毎日	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年 毎日	総合遊具が2m以上と高く、遊具の隙間も大きめ。特に円柱部分には保育士は入ることができない。遊具基礎コンクリート部分が出ていたり、安全マットも劣化している状況。以前より危険であると報告していた。	担当課と総合遊具の使用について、話し合う機会を作る。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	子どもの発達や特性に合わせた対応を検討する。	1.いつもどおりの様子であった	気になる友達と同じ動きをしたり、一緒に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は、ビールケースを積み上げて遊んでいる子どもたちに関わっていた。加配保育士はもう1名の障がい児と一緒に発表会の道具を作っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対応したフリー保育士は、この2名に配慮が必要と判断し関わっていた。	特になし	フリー保育士の判断で戸外遊びの状況を見て、見守りをしていた。保育士間の連携について検討したい。	
9765	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	74				37	37				6	6	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折 脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	転んでも簡単には骨折しない体をつくる	普段も気を付けているがさらにボール遊びをしている子どもに目を配るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	土の上で起こった事故であり、環境としては特になし	今回の場合は防ぎきれない事例だが同じことが起きないように保育士全体に気を付けるように話をする。情報の共有。	3.個人活動中・見守りあり	環境としては特になし	周りに何もなかった。	1.いつもどおりの様子であった	ボール遊びが好きである。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	泣き声がしたため他児が駆け寄って保育士も本児のところへ行き、腕を動かさないよう看護師に見せた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者への連絡。	一人で集中して遊んでいたが、保育士の目は届いていた。	再度全体に申し送りを行い、園庭にももっと目を配らせる必要があることを伝える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9766	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44				12	32			4	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故予防マニュアルに基づいた対応の再確認と徹底について、職員会議において共有を図った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		各種安全点検を継続する。	1.集団活動中・見守りあり		集団活動中の見守りを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	スタートとゴール地点に担任が1名ずついた。ゴール付近で転んだように見えたため、まずゴール地点にいた担任が児童の元へ駆けつけ様子を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	スタート地点にいた担任も児童の元へ駆けつけ児童の様子を確認した。他の組の担任はその他の児童の活動を見守っていた。		本件に係るその他考えられる要因については特段無いが、対象児に限らず、各園児の動きや表情を把握し、いつもと違う様子はないか確認しながら、今後の事故防止に努めていきたい。	
9767	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8		5	3					3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折（疑い）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	職員間の伝達不足。	休暇対応の保育士には、要所要所で子どもの状況を伝え安全を守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	リスク回避の為のマットの数を使用していなかった。	必要と思われる部分に敷くマットの数はある為、転倒のリスクを考慮しマットを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	マット山には保護用マットを敷いていたものの必要と思われる部分全てには敷くことができていなかった。遊びに入る前に休暇対応保育士へ用の情報が不十分だった。	安全な環境を徹底して遊ばせる。複数の保育士で安全を確認し合う。転倒した場合は、ぶつけた部位のみではなく全身を丁寧に観察する。	1.いつもどおりの様子であった	まだ運動発達的に不安定さがある	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のオムツ交換で傍を離れてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れたところで、他児を含め全体を見守りをしていたので至近距離にはいなかった。	オムツ替えで離れる際に、もう一人の保育士にも声を掛けたが伝わっていなかった。転倒し頭を打ったがすぐ泣き止んだ為、報告ができていなかった。	保育士が付く場所をよく考え、意識して声掛けをする。病状を勝手に判断せず、転倒や打撲等あった時はすぐに報告する。	
9768	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77				25	29	23		6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	園庭での遊び方に注意が必要だったと思われる。子どもへの投げかけはしていたが、子どもの突然の行動も予測しておく必要がある。	園庭での遊び方や活動内容に伴う場所・範囲・空間などについて、職員間で声をかけあい安全面を考慮して共有しあう。子ども達にも戸外に限らず周囲にも目を向けながらの安全行動について話をする。全園児が園庭で遊ぶ際には、密度が高くなるため時差で戸外に出る等の工夫は引き続き行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)		タイヤ飛びをやっている園児がいるときにはその周辺をゾーニングし、他園児の遊び場と重複しないようにする。	3.個人活動中・見守りあり	追いかけっこ遊びに夢中になってしまった。	園庭で自由に遊んでいるが、安全行動について子どもたちにも再度話をした。また、園庭全体をみる職員の配置も引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	クラスの友達とタイヤジャンケンをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は対象児を含めた数人とタイヤジャンケンで一緒に遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	タイヤジャンケンをし、全て飛び越え、元の列に戻ろうと立ち止まっていた。一緒に遊んでいた担任の後方だったため、衝突を防ぐことができなかった。	各場面での遊び方や危険に対する判断について職員で共有しあい、子どもへの働きかけや援助の仕方を同一にする。	担任は子どもたちが遊ぶ様子の見守りを行うが、子どもの活動に合わせて立ち位置に留意する。子どものの危険な行動を常に予測し、声掛けを行う。	
9769	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15								1	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故発生時雲梯で見守っている保育士が1人だった。	雲梯等手が滑って落ちてしまう事もあるので、マットなど数を大きな怪我にならないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		落下した際の怪我防止の為、アネビーマットを下に敷くよう業者に依頼中	1.集団活動中・見守りあり	雲梯ができるようになって、まだ時間が経過しておらず、できるようになった事が嬉しく少しはしゃいでいた。	1人1人の達成度を把握し不安定な子にはマンツーマンでの対応を心がける。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯が出来きるようになった事が嬉しく、少しはしゃいだ様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1人でみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分のクラスの子どもたちに対応していた。雲梯をしていない子の対応をしていた。		安全マットを敷く。	
9770	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	6	9	10	6	13	6		11	9	13.1歳	1.男児	その日のうちに手術および入院し、翌日に退院。ワイヤーをつける手術となり、完治に１ヶ月程かかる見込み。●月●日に病院を再度受診し、とりつけたワイヤーを外す予定。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	上顎歯槽骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	１つの遊具に１人の職員を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	撤去することにした ※事故後、使用禁止。令和●年●月中に撤去	1.集団活動中・見守りあり	特になし	１つの遊具に１人の職員を配置する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、楽しく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の対応をしていた。	特になし	１つの遊具に１人の職員を配置する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9771	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15								1	1	16.4歳	2.女児	無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	全体的に途中入園児はケガをしやすく、気にかけてはいるつもりであった。	継続して途中入園児には特にかけ、また一階から二階の生活に代わり気持ちが高くなる三歳児クラス。またコロナ禍での規制と緩和の間で緊張感が抜けないようにしたい。また、遊具の近辺には注意したい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	この日、同階の異年齢児がスイミングに出かけるなど流動的だったことも全体的に見れない要因となったように感じる。	万が一を考え、想定できるときは縦割り的な毎日の中、環境範囲を限定して無理なく全体が見れる様に出来たら良い。大型遊具の周りの安全も確認する。	3.個人活動中・見守りあり	いつもある大型遊具だったが、十分に目が行き届いていたかと考える。	担任の目が行き届く広さの中で、あそびを見なければいけない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室であそぶ子とホールであそぶ子を見ながら片付けに移行していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1 人担任	同上	大型遊具の捉え方を、今の子どもの現状を捉え話し合いたい。	
9772	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21			5	9	7			2	1	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首捻挫 ●/●骨折と診断名変更 ●/●再骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	充分に子どもを見守れる職員の数がいなかった。	幼児を連れて階段を昇り降りをする際、子どもの様子が確認できる最後尾に職員が付く。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	階段の境目が見えずらかった。	階段のふちに、色付き滑り止め使用。	1.集団活動中・見守りあり	最後列の子への配慮が十分ではなかった。	子どもを連れて階段を昇り降りをする際に、声掛けを行い子どもの様子を確認しながら進むようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児の階段を降りる際の、注意する意識が薄かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者が先頭を進んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	最後の子を部屋から送り出していた。	夕刻保育の為、充分に子どもを見守れる職員の数がいなかった。	幼児を連れて階段を昇り降りをする際、子どもの様子が確認できる最後尾に職員が付き子どもの様子を確認しながら進むようにする。	
9773	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16								2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指側中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置		定期的にマニュアルを読み合わせたり、子どもたちの動きから予想できる対応を職員会議等で考えていく	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		引き続き安全確認チェックを行う環境を整えていく	3.個人活動中・見守りあり		安全に遊べるように声を掛けたり見守りを続けていく	1.いつもどおりの様子であった	8：30過ぎに登園。身支度を済ませホールにてロールマット（全身のマッサージ）を担任にやってもらう。ロールマットを済ませてから縄跳びをやりたい子数人と順番に一人ずつ縄跳びをして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ホールで縄跳びをやりたい子の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児のみ（全員ではなくクラスにも数人いたので）だったのでホールでは一人で見ていたので他の職員はいなかった。		子どもの動きにすぐに対応できるよう引き続き見守る	
9774	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	73	5	9	15	13	16	15		15	11	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指中節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置		環境、ハザードマップの見直しと職員の立ち位置を話し合いを行う。職員間の声の掛け合いが足りなかったため、持ち場を離れる際には声掛けを伝わるまで行う。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	背面板無しの玩具棚の為については両サイドから玩具を取ることができ、空間を圧迫しないことから最段から保育室中央部に配置し、該当の玩具棚については固定していなかった。棚には玩具が常に置いてある状態であったが、事故発生時玩具はすべて使用しての棚は空の状態であった。そのため玩具棚が軽くなり倒れやすくなったのではないか。	玩具棚を背合わせに配置、または棚の下部に重いものを配置し転倒を防ぐ。	1.集団活動中・見守りあり	棚で囲われていた場所にブロックコーナーを設置していた。ブロックコーナーで遊んでいた子どもが棚にぶつかり棚が転倒したため、もう少しコーナー設定を広く設けていればよかったのではないか。	室内環境の見直し、コーナーを区切る際には子どもの心情や遊び方に考慮し、日々環境の改善を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと保育室の中を歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くにいた職員は床に落ちている玩具を広い環境を整えていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	②保育室の反対側にいた為、見えていなかった。③お迎え対応中であった。		片付け等の環境設定を行う際は、他職員へも声掛けを行い全体把握の職員を配置したうえで始める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9775	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１４)回/年	2.基準配置		マニュアルを職員全体で再確認する。また、今後も研修等も積極的に受け、資質向上に努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週６)回/年		安全な環境の下で、子どもたちが遊べるように、今後もより声がけをするとともに、点検をしっかり行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒をする際には、職員が必ずついてから行うことになっている。本児が鉄棒をしようとしたため、職員が声がけをしたが鉄棒を一人で行い、態勢が崩れて落下してしまった。	園児と遊具で遊ぶ際の約束を再確認する。今後も、固定遊具で遊ぶ際には職員間でも声がけなどを行いより一層連携を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒を行うことに意欲的な様子があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当保育士は、クラスの園児を鉄棒の所まで連れていき、鉄棒を行う前に園児に話をし、鉄棒を行う所だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の排泄に対応していた。		職員がしっかり配置され見ていた中での事故ではあったが、集団遊びをする際にも、子どもたちが安全な環境で遊べるよう、今後も職員間の連携をしっかり行っていく。	
9776	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	幼児用の遊具であり、使い慣れた遊具であったので近くにはいるが、傍につき見守ることをしていなかった。	側につき、不安のある子には見守りや声がけをしていくようにする。事故の可能性がある遊具を使用する際は、担任の目が分散されないよう、使う遊具を指定していく。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	幼児用の遊具で、高さはないので、遊具下にセーフティマットを敷いていなかった。	万が一に備え、セーフティマットを引くようにする。	1.集団活動中・見守りあり	セーフティマットが引かれていない状態であった。	安全点検を行い、事故や怪我につながる事例がある場所や物に関して、職員で話し合い、安全に使用できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	この頃うんていができるようになったことを喜んでおり、この日も園庭に出るとすぐにうんていに向かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールの白線を引いている途中で、他児のトラブルの仲立ちをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3歳児クラスが同じく園庭に出ており、3歳児クラスの園庭での自由遊びを見守っていた。	幼児用の遊具であり、使い慣れた遊具であったので、近くにはいるが、傍につき見守ることをしていなかった。	遊具を使う際は観指も使って握りこむ、体勢が崩れた際は無理せず着地するよう子ども達に伝えていく。危険が予想される遊具を使用する際は、保育士の目がしっかり向けられるようになってから使用するよう配慮する。	
9777	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	37	0	3	2	8	9	15			3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	危険を予知して行動する力の育成不足	どこでどのような事故が起きやすいか、これまでの事例をもとに子どもたちに考えさせる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	遊びのチェック	改めて子どもの姿を注意深く見守り、危険が予測される場合は、なぜ危ないのかを子どもに考えさせ、事故が繰り返されないようにする。	1.集団活動中・見守りあり		なし	1.いつもどおりの様子であった	友だちと楽しそうに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	なんらかのトラブルがあったわけでもなく、故意に相手を落下させようとする行動はなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	どのような状況で落下したのか確認し、今度から気をつけるよう周りの子にも指導した。	「もしかしたら」の想定不足。	「もしかしたら」という、事故に繋がりそうな動きを想定した指導。	
9778	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									2	0	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	毎朝のミーティングにて、本児の状況を周知する時間を設け、全職員で対応。職員の見ていない時間がないようにする。バスの添乗員も共有できるようにしている。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	防ぎようのない事故だった	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭から教室に入るよう子どもたちを促した。子どもが普通に歩いていて横向きに転倒した瞬間を目撃したが、転倒を防ぐことは出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	教室の入口で靴を履き替える子どもたちの対応をしていた。	特になし	防ぎようのない事故だった	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9779	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	21									3	0	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	初めて使用する施設のエリアだったため、職員は多く配置したが、予測外の子どもの動きがあり、転倒を予測できなかった。	来年度も使用予定の施設なため、今回の事例を踏まえて、子どもや職員間で事前説明を実施するとともに、施設職員とも連携をとって対応する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	外部施設での遊具	実施頻度(2)回/年	外部施設での遊具	実施頻度(2)回/年	事故の状況と経過を報告。今後の事故予防の分析をお互いに実施。	来年度も使用予定の施設なため、その際には重点的に対応策を講じる。	1.集団活動中・見守りあり	初めて遊ぶ遊具で、遊び方に慣れていなかった	自由あそびの前に遊び方のルールをクラス毎に確認した。バルーンエリアが特に配慮が必要な場所という認識はあったので、園内での徹底した事前指導をすべきだった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外活動ということもあり、いつもより活発に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	本人が落ちたところはどの職員も見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本人が落ちたところを見ていた職員はいなかった。	子どもを自由に遊ばせる体験のエリアだったため、保育者の配置の固定はせず、子どもが多くいるところに例に付き添うなどしていたため、全員を見ていることができなかった。	防ぎようのない事故ではあったが、事故を見逃さないよう全体を見渡せる位置に保育者を1名置くべきだった。	
9780	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16			1	9	4	2			3	2	15.3歳	2.女児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	年長児が転倒の際、年少児に体重をかけてしまった。体格差があった。	同等の体格同士で手をつなぐ。歩行中、道路の小さな項目や周囲の状況を細かく周知する。足腰、腕を使った運動の頻度を増やす。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	歩き慣れた道だったため、ペアの年上の児にリードを任せていた。	慣れた道であっても細かく周囲の状況を周知する。職員が前を歩きながら、前もって段差を声に出して周知し転倒を予防していく。疲れが見られている児は、年下の児とのペアにせず体格の同じ位の児にする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	安全を確認し横断歩道を渡っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	安全を確認し横断歩道を渡っていた。	年長児に対して安全な歩き方の周知不足だった。異年齢保育なため年上の児と年少児とのペア行動としているが、今回のようなデメリットが起きることも職員全体で共有して、事故の再発を防いでいく。	小さい子と一緒に歩く時の年長児に対して注意事項を細かく伝えていく。安全な歩き方や転び方を伝える。足腰、腕を使った運動の頻度を増やす。	
9781	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									2	2	17.5歳	2.女児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨近位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	危機管理マニュアルを見直す。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年毎日	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年 毎日	特になし。	移動の仕方、安全面での配慮を確認し取り組む。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	職員間で子どもの動きを確認し連携を取ることを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	上着、カラー帽子など身支度を調えて移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	階段の中央の踊り場で降りる状況を見守ったり、鍵をあけたりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に残っていた子ども（加配児も含む）の戸外へ出る準備を見守り、最後に室内を出た。	階段の中央の踊り場で担任が見守っていたが、踊り場付き折り返し階段なので、一度に前後の様子を把握することができなかった。	子どもの予想される動きを想定して階段の前後が見守れるような配置をする。	
9782	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				23	16				4	4	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	鉄棒の側で職員1名が遊びの様子を見守っていたが2人同時に遊んでいたため、2人を一緒に補助するということができなかった。	鉄棒をする時は一人ずつ行うなど保育士が補助できる状況で遊ぶようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	戸外遊びをする際には鉄棒の下にはマットを敷いている。	施設としては問題はないように思うが鉄棒の使い方や遊び方を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	2か所が同時に使用できる状態であり、先に遊んでいる子の姿を見て真似てみようと取り組んでいた。	同時にではなく、保育士が側に来てから交互に遊ぶことを伝え、安全に遊ぶことができる状況を整えるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	一緒に遊んでいた女児が鉄棒で足を掛けてぶらさがるコウモリ遊びを上手にしていた。それを見て自分もやりたいと取り組む。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の側で対象児ともう一人の園児を見ていたが、対象児が遊び始めてすぐに落ちてしまったので手を差し伸べるなどの対応が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外遊び中であり、他児の対応をしていたので対象児が遊んでいることや職員が側にいることは分かっていたが遊びの様子は見ていなかった。	他児がしている遊びに興味を持ち、意欲的に挑戦しようとする気持ちは認められるが、ぶらさがり遊びは危険が伴うのできちんと保育士が補助ができる状況になってから遊ぶことを園児に伝える必要があった。	遊び方や遊ぶ時の約束などを日々園児と確認し、保育士がすぐに対応できる状況で遊ぶようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9783	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	9									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	戸外ということで広い範囲を職員で協力してみていたが高い所に登る遊具は特に気を付けて付く必要があった。	順に戸外で出る時は常に職員同士で連携をとり、高さのある遊具は特に注意して側につき、気をつけて見ていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	雲梯下にマットが敷いてあったが硬めのものであった。	雲梯下にマットをクッション性のよいものにし衝撃を和らげるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	担当保育士は順番に靴を履く子の手伝い・見守りをしていた。	他の保育士で協力し合いながら、特に高い場所に登る遊具は目を離さない様に近くでみていくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	室内から喜んで戸外にでて、雲梯で遊びだした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は他児の靴履きの手伝いをしていたため少し離れた場所におり、落下したことに気付いたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにはいたが、他児もいたため手は届かなかった	保育士が連携して全体を見ていたが広範囲のため、防ぐことができなかった。	高い所に登る遊具に関しては特に注意して見ていようにし、手の届く場所で見守るようにする。	
9784	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30	0	0	0	12	9	9	0		3	3	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	保育士に見守られながらブランコに乗っていた。普通に鎖を持っていたが、降りる時に鎖に指が引っかかってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコの後ろ側にあり時々押してあげたりしながら見守っていた。本児が降りた後のブランコが本児の頭に当たってはいけないと思い、ブランコを止めた。本児が指の異変を訴えたため対応し近くの保育士に伝えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は砂場で遊んでいる子どもを見ていた。１名は長縄跳びを回しながら、降園する子どもの対応をしていた。	ブランコから降りる時に、鎖に指が引っかかることがあるということを予測できていなかった。	ブランコの鎖に指が引っかかり事故につながる可能性があることを保育士自身が常に意識し、ブランコが止まってから降りることを含めた安全な遊び方について、児に繰り返し知らせていく。	
9785	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105	14	14	16	21	22	18	0		27	24	14.2歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員の園児の見守りについて、子ども達の遊んでいる様子が満遍なく見える位置に立つ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		あらかじめ転倒の原因になるものがないかよく確認する。	1.集団活動中・見守りあり		凋からの飛び降りやテラスを走る子との衝突など、二次的な事故の可能性も含め、声がけなどの安全配慮の予防をする。	1.いつもどおりの様子であった	単独で座っており、偶然臀部が凋から外れて上体が傾いた。側にいた職員が本児の身体の傾きに気が付き、地面に落ちないように右手を引っ張ったが間に合わず左腕を下に地面へ転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒後しばらくすると痛みの訴えなく転倒前と同じように遊び、外見上変化がなかったので様子観察していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児以外の園庭の遊びの見守りをしていた。		痛みや外見上の変化がなくても、受傷時の状況によっては外傷のことを念頭に受傷部位を確認し、必要に応じ安静や受診をする。	
9786	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	91		9	12	18	20	32			17	14	18.6歳	1.男児	発熱とコロナ自粛の為１ヵ月程の長期欠席後３日目の登園	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置		職員間にてマニュアルについて再確認。子どもの様子に十分留意して安全に過ごすことができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日		屋内、園庭等施設全てにおいて、危険個所の再確認実施（ヒヤリハット表使用）	3.個人活動中・見守りあり		引き続き戸外活動中は、随時保育士が対応できるよう配置を行う	1.いつもどおりの様子であった	発熱とコロナによる自粛による長期欠席で、通常通りの動きが困難であった可能性有	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士は他児と集団遊びを行いながら、離れた場所で対象児の姿を把握	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援担当職員が、発生場所付近で他事と一緒に遊びながら対象児の姿を把握		遊ぶ前に、危険箇所（園庭の地面の様子など）を確認。安全に遊ぶための注意事項を子どもと確認してから、活動を開始	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面												
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9787	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第３中足骨骨折左足部擦過創	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（３）回/年	2.基準配置	大太鼓を設置すると、スタンド等にずれがないか確認したが、合奏練習中は再度の確認はしていなかった。	子どもたちが楽器を扱う際、危険な行為を行っていないか、スタンド等にずれがないか等を繰り返し確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	楽器、スタンドは使用前に点検したが、事故発生後にスタンドの太鼓を置く部分にゴム製のすべり止めが4カ所ついているが目視確認のみであった。事故発生後に手ですべり止めを動かしてみたところ動いたため、太鼓を打っている時に太鼓とスタンドに多少のずれが発生し、何らかの負荷がかかったタイミング等が重なり落下したとも考えられる。	スタンドのゴム製のすべり止めを、手で動かしても動かないようにしっかり固定する。また、使用前点検ではすべり止めを動かして動かないことを確認する。	1.集団活動中・見守りあり	大太鼓担当園児を横一列の一番端に配置していたため、他の園児への指導時に視界に入らないこともあった。事故発生当日の園児のテンションから考えると、常に視野に入るよう配置の工夫が必要だったかもしれない。	その時の園児の状況に合わせ、配置を変更したり、個別指導等を取り入れる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	はじめての合奏の練習でとても喜んでいて、はしゃぎながら大太鼓を打っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	はしゃぐ園児に注意をしていたので、正しい扱いができるものと思い込んでいた。また、大太鼓がスタンドから落下したことはなかったため、園児の扱いでは落下しないと思い込んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児はふたつのグループに分かれ、少し離れたところから練習をしていない園児が合奏練習園児を見ていたので、合奏練習を見ながら、待機園児たちを見守っていた。	はしゃぎながら太鼓の練習をしていたので、危険であることを伝えながら指導を進めていた。繰り返し当該園児の様子を確認し、必要に応じて「危ないよ」と注意をした。完全な個別指導ではなかったため、当該園児が落ち着いてから続けるべきであった。	楽器を扱う際は色々な場合を想定して、事前に園児への指導、安全点検を徹底する。	
9788	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	特になし	上記事項に関しては問題ないと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	上記事項に関しては問題ないと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	ボランティアの来訪（いつもと違った環境）	ボランティアの方々、子ども達ともども、いつもと違った環境であっても、落ち着いて過ごせるように指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ボランティアの方々が来たことによって、いつもよりテンションがあがり、落ち着きがなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	目的がボランティアの方々との交流なので、遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも児童がいたため、見ていなかった。	ボランティアの方たちが子どもたちとの遊び方に不慣れ（加減がわからない）だったこと。	事前に、ボランティアの方々に子どもとの遊び方に関する指導をしっかりとする。子どもたちにはいつもと違う環境でも落ち着くように話をしておく。	
9789	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14								1	1	16.4歳	1.男児	気分が乗らないとぐずつき、かんしゃくを起こしパニックになる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	特になし	上記事項に関しては問題ないと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	上記事項に関しては問題ないと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	本児の心理状態に気を付け、なるべく気持ちを落ち着かせるよう配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じように整列しようとしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	整列し外へ行く準備をするよう促していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他に職員はいなかった。	特になし	上記事項に関しては問題ないと思われる。	
9790	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23				5	10	8		2	2	17.5歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	以前子ども達に、トランポリンの使い方や降り方（飛び下りない等）は伝えていたが、当日遊びの前に再確認をしていなかった。また、飛び下りなくても降り方によってはケガをする事が予想出来なかった。	遊具を使う前に、子どもに遊具の安全な使い方や降りるときの注意等について再度伝える。	1.いつもどおりの様子であった	サーキット遊びでトランポリンをして降りた際に、バランスを崩した。	4.対象児の動きを見ていなかった	平均台についていたため見ていなかった。ドンという音で気付きすぐに本児に対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	水分補給のためのお茶を取りに行っており見ていない。遊戯室に帰り本児の様子に気づき他児の保育等を行った。	全体の把握が出来ていなかった。	保育全体が把握できるようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9791	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45			11	18	16			5	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	園庭中央でドッチボールをしていたが，園庭横のスペースを確保していたので遊びには大丈夫だと思っていた。	遊んでいる子どもの人数が多い時や手押し車・三輪車などが出ている時は，片付け遊びに応じた活動スペースを十分に確保する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	スペースを確保していたので，大丈夫だという思いがあり，手押し車・三輪車などが置きっぱなしになっていたことに意識がなかった。	園庭に手押し車・三輪車などの置きっぱなしがないように，また危険が伴うことを一人一人が意識する。	1.集団活動中・見守りあり	広いスペースが必要な遊びの為の場所の確保が不十分であった。（他のクラスもドッチボールなどを行っていた為）	他のクラスとの園庭利用の方法（時間帯など）を考える。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず保育者や友達と笑顔で鬼ごっこを行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちと一緒に鬼ごっこをしていた。保育者が鬼役で子どもたちを追いかけていた。対象児や他児は保育者の前を走っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいた職員に対象児と周りにいた子どもたちを見てもらい窓より所長に知らせる。（事務室は園庭向きにあり園庭全体を見渡せる）	遊びに夢中になり周りが見えなくなっていたこともあり手押し車があることに気づけなかったこと。広い場所の確保ができていなかったこと。	置きっぱなしの手押し車・三輪車などが遊ぶうえで危険と思われる場所にある時は，意識しながら保育者が片付け，常に安全面を考えるようにする。	
9792	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	36		3	6	7	8	12		5	5	15.3歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.2歳児クラスの床には、ウレタンマット等を敷き、怪我を防ぐようにしているが転倒した際に、右腕を下にしていたため、園児が怪我をするに至った。	改善策なし	1.集団活動中・見守りあり	今回怪我をした園児が牛乳などの乳製品が苦手で普段からあまり食べようとしなかったため、カルシウムが不足し他の園児に比べ骨折をしやすかったのかもしれないと医師から指摘があった。	園からも少しずつでも牛乳が飲めるようになるよう指導していく。また家庭でも栄養面で偏ることのないよう牛乳以外でもボーロなどカルシウムが摂れるような食品をおやつなどに取り入れるよう指導・お願いをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	ウレタンマットの上で、玩具を使って遊んでいたが、他の玩具で遊ぼうと２～３歩走りかけたところでつまずき、右腕を下にして転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	１歳児３名と２歳児６名、合計９名の園児を２名の保育士で保育していた。(朝の合同保育中)室内は落ち着いており、ゆったりと子どもを見ることが出来ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１歳児３名と２歳児６名、合計９名の園児を２名の保育士で保育していた。(朝の合同保育中)室内は落ち着いており、ゆったりと子どもを見ることが出来ていた。	職員で協力しながら、子ども一人一人の動きを把握するように努めている。	静かな活動の際は、室内は歩くよう声をかける。	
9793	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外・保育先・公園等)	3.2歳児クラス	11								3	2	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置		ヒヤリハット事例より、事故防止の意識の充実を図る。	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年		日々の点検、修理の実施。	1.集団活動中・見守りあり		できうる限りの職員配置。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童全体の様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	突然の転倒で対処ができなかった		できうる限りの職員配置。	
9794	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49			24	25				4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	気になる子が多いこと、長時間時の疲れ等からの安全確保の為、基準値よりも多い人数を配置	職員会議を実施し、園のきまりについての確認、また職員配置等での保育士の不安やヒヤリハット等を反省時に伝え合うようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	畑を掘り起こした状態で固まっており、足場が不安定であった。子ども達が入らない約束になっていたが、区切りや表示もなく、分かりづらい環境であった。	子ども達に分かりやすいよう、植物を植える等し入りにくい環境を整えた。また、まわりにブロックの枠があり危険であった為、掘り起こした。（塩ビ管等リスクの少ない材質を選び囲いを作る予定）	3.個人活動中・見守りあり	保育士の立ち位置と声かけの不足	職員会議を実施し、子どもの様子が見える位置や体の向き、声かけ等の必要性の再確認と現状の振り返りから個々意識できるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	集中して遊ぶものが見つからないことが多く、動きも多い。保育士の仲立ちにより、他児と関わることができる。	4.対象児の動きを見ていなかった	怪我の前まで、他児１名と本児と担当保育士で追いかけっこをして遊んでいたが、他児の怪我の対応により、遊びが中断したことで本児の動きが把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの遊びの入りこみ、全体の動きを意識して見ることができていなかった。	担当の持ち場を離れる際に、周りの保育士に声かけをするなど、適切な連携が図れていなかった。	室内外問わず、持ち場を離れる際の声かけや連携を図ること、また持ち場を離れる際の人員が不足する等の状況の場合は、職員室にいる保育士または副園長、園長に声をかけ、人員を補うなど無理をせずその場に応じた判断をする。	
9795	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	91	0	0	0	26	31	34		4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルを踏まえて、職員で話し合いをする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/日	特になし	施設や遊具の危険箇所を共有し、すぐに改善する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊具の側で遊びを見守り、事故のないようにする	1.いつもどおりの様子であった	柵に登ろうとして手が滑り、歯茎が柵に当たってしまった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた所で全体を見ており、対象児の動きを見て「危ない！」と声を掛けたが間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と死角ができないように、違う場所で全体を見ていた	特になし	柵の形状が園児がのぼりたくなるような形なので、変更できないか話し合う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事					死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9796	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	12									2	2	15.3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇小帯挫創、上前歯脱落	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	基準配置は満たして安全な配慮はできていた。本児が横を見て走っていた時に、保育士が危険であることを知らせることができると良かった。	基準配置は満たしていたが、できるだけ見守りの職員配置を増やせると良かった。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	園庭は芝生化にしていて、転んでも怪我のリスクは少なくなる対応をしていたが、転んだ場所に総合遊具の滑り台があり、口を強打した。	できるだけ子ども達にも、周りをよく見て動くことを話し、職員も見守りが増やせる時は、増やしていきたい。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが前を見ずに横を向いて走っていたため、危険を察して声をかけれる職員がいると良かった。	戸外遊びをする前に、横を見て走ると危険であることを常に話し、気をつけて遊ぶように伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気で遊び始めたが、横を向いて走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	勢いよく横を向いて走っていたため、近くにいた保育士が止めようとしたが、止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子の靴を履かせていた。	見守りが増やせるときは、増員して対応できると良い。	職員の見守りが増やせる時は増やしていくが、人数が増やせない時には、職員の配置場所に気をつけ、職員が連携をとって見守りできるようにする。	
9797	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	34									3	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	階段昇降時は、職員を追加配置する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	階段が滑りやすくないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	階段の昇降時は手摺を持つことになっているが、手摺を持っているかを必ず確認する。	1.いつもどおりの様子であった	登園時も、点呼時もいつも通りであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもたちを先導していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	後ろから子どもたちを見守っていた。	特になし	上からも登ってくる子供を見守る。	
9798	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	13									3	3	13.1歳	1.男児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼・上顎骨骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	全職員に対し遊具の使用マニュアルの周知徹底が出来ていなかった	園児の発達・遊具の特性・安全に遊ぶためにはどのような働きかけが必要であるのか等について園内での学習会を毎年年度初めに行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	遊具の構造上の問題ではなく児の年齢にあった使用方法や安全への配慮が足りなかったことで起きた事故であると考える	上記考えの為遊具に対しての改善は不要とした	3.個人活動中・見守りあり	遊具に掛かっている梯子の一番上の段の幅が広く1歳児が一人で登降するには危険な環境である	3歳児以上の使用する遊具とする（遊具の周りに柵を設置後使用可とする）	1.いつもどおりの様子であった	梯子を登り上に上がりたがり、本児含め3名を上部に上げた。2名が続けて降りようとし支えがなかった本児が転落してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人目を支えており続けて降りてこようとしていた本児を止めようとしたが間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当遊具から20m程離れた砂場で他児と共にいた為見ていなかった	当遊具の最適対象年齢は3歳以上6歳未満ではないかと考える	3歳以上であっても上段に上がっている人数は2人までとする	
9799	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				10	13	15			4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節捻挫　右肘部不顕性骨折の疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	遊び方の説明（通せんぼしない）については日頃より行っているが、遊びに夢中になってしまっていた。	危険予知が不十分な年齢であること、遊びに夢中になると忘れてしまうことを想定し、活動の前に園児の理解を再確認する。職員は活動中も頻回に目で確認する。	1.定期的に実施	月に1回	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	本事例は、遊具に不備はなく、遊び方に問題があったと考える。	ハード面においては特になし。	1.集団活動中・見守りあり	見守りの範囲について、あらかじめ決めていたわけではないため、見守り場所もそれぞれになって、場所によっては同じ濃さで見守れていない可能性はある。児の特徴について４人全員が把握できていなかった可能性がある。	多年齢児が活動する場合、それぞれの担任がクラスの特徴や注意すべき点について、お互いに情報交換を密にすること。園庭など広範囲の見守りを行う場合、見守りの責任範囲を決めておく。	1.いつもどおりの様子であった	本児も上から下りてきた児も特に体調不良などはなく、いつも通りの動きであった。おにごっこを楽しんでいたため、夢中になりすぎて、つい通せんぼをしたようだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡していたため、衝突の瞬間は見れていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内の他の範囲を見守りしていたため。本児の動きは見ていなかった。	見守りの範囲について、あらかじめ決めていたわけではないため、見守り場所もそれぞれになって、場所によっては同じ濃さで見守れていない可能性はある。児の特徴について４人全員が把握できていなかった可能性がある。	多年齢児が活動する場合、それぞれの担任がクラスの特徴や注意すべき点について、お互いに情報交換を密にすること。園庭など広範囲の見守りを行う場合、見守りの責任範囲を決めておく。	
9800	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	3.昼食時・おやつ時	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	2									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置		チーフ会等でヒヤリハットについて確認し、改善策について話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		大型遊具の正しい使い方を園児に伝えていく。	1.集団活動中・見守りあり		担任の中で見守り等の役割分担をはっきりさせる。	1.いつもどおりの様子であった	園庭にある大型遊具の斜面板をよじ登っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大型遊具の全体が見える場所で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	内で昼食の片づけをしながら室内にいる子どもを見守っていた。		危険が予測される対象児の側で見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他		年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9801	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	17.5歳	1.男児	発達面にやや多動性が見られる。日頃から危険予測がしづらい様子がある	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	子ども自身にも正しい使用方法を教える	遊具の使用について、職員間で共通認識を持つ。遊具使用の際には、常に人員を配置することとした	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	高さについては改善の必要はないものと考えるが、落下した際に怪我をしないように地面を改良する	地面を、砂地から70mmのゴムマット舗装を施工	1.集団活動中・見守りあり	運動面について劣る児童が多数見受けられる。落下時の受け身、転倒時の受け身がとれない事が多い	活動に運動面の促進を図るプログラムの追加（マット運動、朝の積極的なラジオ体操）	1.いつもどおりの様子であった	登り棒は使用しないことを話していたが、登ってしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	直前に、他児から話しかけられ対応し、横で本児が遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応にあたっていた	職員を配置していいたが急なことに対応しきれなかった	各担当職員の動き方、声がけの仕方を確認し合う、常に危険予測を行うこととする	
9802	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	121				37	38	46		11	11	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂創、CBA＋AB歯の亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園の行事である焼き芋を同園庭でしていたため、焼き芋の方に職員が集中した。	行事がある場合は、職員間で更に連携を密にする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	三角ピラミッド下の緑マットに砂があり、滑りやすかった可能性がある。	緑マットを定期的に掃く。マットは着地の衝撃を和らげるものなので、走らないように園児に伝えた。三角ピラミッドのふちをやすりで削り、ペンキを塗った。	1.集団活動中・見守りあり	遊んでいた園児をみる職員が手薄だった。	行事に参加できる当日の職員の人数を確保する。他（年中・年長）クラスの職員とも、連携を密にする。	1.いつもどおりの様子であった	当日は体調もよく、元気だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りの職員は、三角ピラミッド近くの滑り台で鬼ごっこをしていた園児達に、危ないよとを声掛けしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年少クラスの職員は、畑に2人、道具の片づけに2人、滑り台付近に1人ついており、全体の把握ができていなかった。	本児とぶつかった園児は、鬼ごっこの鬼をしていて、夢中になっていた。	園庭を走る際は、前を向いて走るように伝えた。	
9803	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	6								2	2	17.5歳	2.女児	テラスの荷物置き場がもともと狭く、躓きやすい環境設定だった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	なし	これまで通り、マニュアルを参照し、早期対応・早期治療に繋げる。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	なし	4.個人活動中・子どものみ	テラスの狭いスペースに籠を数個設置し、荷物を置くようにしていた。	籠を設置したことで、より狭い環境となり、取り出しにくさがあったため、籠を除去し、ござシートの上に荷物を置くように環境を改めた。	1.いつもどおりの様子であった	描いた紙を鞄に入れようとして慌ててしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	自分で描いた紙を鞄に入れに行こうとしていたが、慌てなくていいことを伝えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が児に声をかけていたので、見ているものと過信してしまい、他の子どもとかかわっていた。	幼児のため、目的意識が先行してしまい、注意散漫となりがちなため、幼児の特性をしっかり理解しておく。	児が移動する前には、必ず、「慌てず走らない」と声かけをする。	
9804	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36		14	22					7	7	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右側口唇挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	保育士は基準を上回る人数で保育を行っていた。	怪我が起きた際のフローチャートを掲示しているが、すぐに確認できるよう保育室の外のに持ち出すリュックの中にも入れておき定期的に研修を行う。怪我の大小に関わらず、すぐに事務所に報告を行うよう再度周知した。健康安全会議の中でフローチャートの見直しを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(18)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(294)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(294)回/年	園庭で遊ぶ際のルールを確認する。砂場の縁がわかりづらかった。	砂場やハウス周辺の整備、散らかった玩具を片付ける。ハウスの移動を行う。遊び方の工夫が完全に行えていなかったため再度安全管理と怪我の際の対応をしっかり共有する。砂場の砂を増やす又は砂場に柵をつけるなど検討する。	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ前に、砂場や園庭の環境整備や確認をしっかりと行う。園児に向けて、約束事を伝える。	乳児クラスの園庭遊びの内容を考える。職員全員で子どもたちに共通した約束事を伝える。乳児クラスと幼児クラスで、曜日を分けて遊ぶ。乳児クラスと幼児クラスで、園庭を分けて遊ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子だった。怪我の際も泣いたりはしていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故の際、担任職員は傍で対象園児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故の際、隣の畑で幼児クラスがお芋ほりを行っていた。園庭にいた他の職員は怪我の瞬間は見ていなかった。担任はクラスの子と対象園児を見ていた。	怪我が起きやすい場所であるため、配置の場所を確認し合うよう配慮が必要だった。	砂場で遊ぶ際に、足場が不安定なため、躓くことも想定内で職員の配置を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9805	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14								1	1	15. 3歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	好きな遊びに夢中になり、お互いに相手がいることに気づいていなかった	朝の受け入れ時、一人担任のクラスをできるだけ気がけられる体制をとっておく	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	好きな遊びに夢中になり、お互いに相手がいることに気づいていなかった	子どもたちに、安全な遊び方など声がけていく。朝の受け入れ時、一人担任のクラスをできるだけ気がけられる体制をとっておく。	1.いつもどおりの様子であった	朝の荷物を片付け、好きな遊びを楽しんでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	複数担任ではない為、朝の受け入れの時間帯であり、ちょうど他の子どもが登園し、受け入れしているときであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員も、各配置場所で保育にあたっていた。	一人担任であり、受け入れ時は部屋の前の廊下で受け入れる為、部屋の子どもたちから目を話してしまう時があった。	朝の受け入れ時、一人担任のクラスをできるだけ気がけられる体制をとっておく	
9806	令和6年3月21日	1.認可	7.小規模保育事業	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	6								2	2	15. 3歳	2.女児	特になし	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷誌歯または着色歯 と診断	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	事故やけがが発生した際に、誰もが直ぐに対応・判断ができない。又、その判断をするためのフローチャートがない。	事故やけがをした時の役割や流れを見直し、新たにフローチャートを作成。皆が直ぐに確認できるところに掲示または、ファイリングする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	ワンフロアでの異年齢保育を行っていることで、職員間で互いに頼り、目を離してしまう。同じ空間に2クラスが別々の活動をするために動いたいるため、人の無駄な動きが目立つ。	仕切りをうまく利用して、クラスを分ける。(可視化する) トイレ内の整備	1.集団活動中・見守りあり	毎日の生活の流れが構築されていなかった(習慣化されていない)。子ども理解にかけていることから、子どもファーストになっていなかった。	保育に必要な物は、事前に準備をしておく。むやみに室内から出ない。トイレ内は狭い為、人数を制限して一人ひとりの排泄を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	排泄後手洗いに待つが、手洗い場付近にものが置いてあり、いつもと違う場所で使器(手前)壁によりかかりまつ。その時に入ってきた子どもが本児の方にぶつかり、その反動で後ろに半回転して後部にあった男児便器に顔をぶつける。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児と他の子どもがトイレに行く援助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下へ物を取りに行っていた。	9時～朝の集まりを行い、その後排泄のため、トイレは促している。前回の事故の振り返りが活かされず、保育士1名でトイレ援助とその他の子どもを見ていた。前回の事故の改善ができておらず、保育者同士、互いに動きを確認しあえていなかった。	トイレ援助の際は、子ども達をトイレ前まで誘導し、2人体制で行う。一人はトイレ援助、一人はトイレ後の子どもの散歩準備の場所で待つ。2人の保育士の間に子どもがいるようにする。子供の前から離れる際は、リーダーへ確認する。リーダーは、離れて良いかを瞬時に判断して指示をする。	
9807	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	20								3	3	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明		誤嚥性肺炎	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	砂が口の中に入ったことで本児がパニックになり、吸い込んだり飲み込んだりしたことにより、気道が塞がったのではないかと思われる	緊急時対応マニュアルに沿って対応できるように徹底した実践訓練（心肺蘇生法・通報・記録等）を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	見守りのカメラが1台のため全てを確認できなかった。	カメラの設置台数を増やす。AEDを設置する	3.個人活動中・見守りあり	お家ごっこをしていた友だちの遊びに興味を持ち、中に入り、寄って行ったがそこでトラブルになり、口の中に砂が入ったと思われる。	安全柵を増やすことで、行動範囲を決める	1.いつもどおりの様子であった	戸外では機嫌も良く、安定して遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の行動の把握をして、安定して遊ぶ姿の確認を行い、少し離れたところで他の子どもたちと遊ぶ。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他クラスの保育者が自分のクラスの子どもの遊びの見守りをしている中で対象児と他児がトラブルになっていることに気付き仲裁をする。その時に口内に砂が入っていることを発見し、口から砂を掻き出すとともに担任保育士に声を掛ける。	対象児が安定して遊んでいる姿は確認していたが、トラブルになった時、すぐ傍には担任がいなかったため、事故の状況把握が出来なかった。	保育中、一人ひとりの行動の記録を取る。（遊んでいる場所や遊びの内容の把握）	
9808	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8								2	2	13. 1歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部創傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	ベンチの置き方や使い方を考える。	ホールの入口付近にベンチを置くときは、薄手のマットを置いかぶせておく。また、保護テープを貼ってあるベンチを使う。	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ブロックで遊んでいたが、動きまわりだしたので片づけを知らせると入口に走っていった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児と他の児童が入口付近にいったため保育士も側について行くが、走って戻って行きつまづいた時てを伸ばしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	片づけることを知らせると、3名が入口に走っていくのが見えたので戻ってくるよう声をかける。	職員間の伝達はどうだったのか。	その日の子どもの様子や友だちとの関わりから、少人数分けの行動も考える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9809	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	17								4	4	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯外傷性脱落歯	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	室内で制作をしている子どもを待つ間、カートに乗せて移動しようとしたところ、対象児は嬉しさからか突然ジャンプした。子どものとっさの動きを防ぐことができなかった。	カートに乗る前に子どもに囲い部を持つように伝える。子ども一人一人の特性を職員間で共有しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度乳児－毎日、幼児－週1回	カートは木製で、うちつけた側面上部は固い素材の状態であった。移動時にバランスを崩して打ちつける恐れがあるにもかかわらずクション素材などでガードしていなかった。	カートの側面上部は、クッション材をしく。	1.集団活動中・見守りあり	終わっている子どもは、部屋から出て遊ぶことができるうれしさから気持ちがたかぶりジャンプしたのではないか	制作の続きを行う等わかれて保育する場合、落ち着いて遊べる環境をつくり対応する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、カートに保育者の抱っこで乗った。乗ったところで突然ジャンプした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	カートに6人の子どもを乗せ、対象児は、保育者に一番近い右側手前に乗っていた。対象児のとっさの動き（突然ジャンプする）を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの制作の対応をしていた。カートに乗っていない児の帰りの身支度を行っていた。	対象児がカートに乗れたうれしさからか、帰りの時間帯だからかたかぶってジャンプしたのではないか。	カートに乗ったときは、囲い部を持つよう促す。飛び跳ねないよう見守る。	
9810	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	74			8	20	46			6	6	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右頭骨近位端骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ジャンプをして遊んでいる時、保育者がそばにいなかった。対象児の後ろから押した子どもは、気持ちが高揚すると普段から友だちを押すことがある。押すと友だちを押してしまう。子どもの特性を把握していたにもかかわらず、見守りが不十分であった。	人を押すと危険で怪我につながること、友だちとのかかわりの方、園内外の遊具や玩具等の使い方・遊び方の約束事を各クラスで話をする。遊ぶ前に約束事を繰り返し伝える。段差からジャンプする時は必ず保育者が傍で見守る。保育士が傍にいない時は、高いところにあがらない約束をしたうえで上がろうとした場合は声をかける。子ども一人一人の特性を職員間で共有しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度乳児－毎日、幼児－週1回	いつも行き慣れた公園であるため、危機管理が緩んでいた。	遊ぶ範囲や遊び方を事前に子どもに話しておく。保育者は、事前に見守りの範囲を決めておく。見守りが行き届きにくい場所は、声をかけあう。	1.集団活動中・見守りあり	公園の広い敷地で子どもたちは自由に遊んでおり保育者同士見守りの範囲を確認しておらず、活動中も声かけ等が行き届いていなかった。公園は頻繁に散歩に行っているため、慣れた場所という油断があった。	遊ぶ範囲を決めて、保育者の見守りが行き届くように する。保育者同士で声を掛け合い、安全への留意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	公園到着して、かけっこをしたりしていた中で、他の子どもが水路沿いの上段（1m程度）からジャンプしているのを見て対象児は押した。子どもと一緒にジャンプをして遊んでいた。対象児の隣側になりのジャンプしようとした時に後ろにいた他児が押しても手をついて転落した。対象児は押した子どもと一緒に遊んでおり、押した子どもは気持ちが高揚する友だちを押すことがあり、楽しさから対象児を押してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	公園に到着した直後に、水路沿いにある段差（1m程度）の上から飛ぶ子どもがジャンプをして遊びはじめ、保育士一人が傍で見守りをしていた。途中、他の場所に移動し、ジャンプをして遊ぶ子どもが一人になり、その子どもが（がまの穂をとりたいと言ったため、一緒に池のほとに移動した。その後、対象児を含む数名の子どもが水路沿いの段差からジャンプをして遊びはじめたが見守ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んでいる子ども、ままごと遊びをしている子ども、木の実等を集めている子ども、池のほとりでガマの穂をとっている子ども、特別支援の子どもの担当と銘々で遊んでいる場所での対応をしており見れていなかった。	対象児は、いつもどおりの様子で遊んでいたが、対象児を後ろから押した子どもは、遊びが楽しく気持ちが高揚していた。	子どもの特性を把握し、気持ちが高ぶっている時にはクールダウンできるようかかわる。	
9811	令和6年3月21日	2.認可外	7.小規模保育事業	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	1		2		2	3		2	2	25.学童（認可外）	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手 第5指 基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	学童の研修をしていなかった為意識が欠けていた。	学童における事故等の研修をしっかりと周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	施設、玩具の不備が躯歓の事故ではないため	1.集団活動中・見守りあり	乗用玩具の対象となる児童ではなかった。本来の使用用途ではない遊び方をしていた。	年齢・耐荷重等を再確認するとと共に、正しい使用法を今一度見直し手児童に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	友達と乗りあって遊んでいた時の勢いのまま車を押しながら走ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	注意するよう促し見守っていたが、転倒したときに間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他事の様子を見ていたため見ていなかった。	年齢を過信してしまった。	未就学児のお手本という意識を持たせ、室内遊びのルールを再確認する。学童は活発的な遊びが多くなる為、より一層留意して見守っていく。	
9812	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52	0	0	0	18	19	15	0	3	2	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	基準配置ではあったが、広い園庭である為人の目が不十分になりやすく、急な変化に気付きにくい	その日のこども達の様子や突発で起こるイレギュラーな対応も視野に入れて、その時の状況により乳児クラスや事務所への応援をお願いする体制を整えておく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	現在の実施内容に対してマンネリ化することなく行う必要あり	現在の実施内容をより強化する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	異年齢児が合同で遊ぶ場合は、いつも以上に注意をし全体把握を強化する ま た、全園児が安全に遊べる内容にする	1.いつもどおりの様子であった	普段通りであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体へ目が十分に行き届いていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体へ目が十分に行き届いていなかった	特になし	年齢が低い園児に目が行きやすい、また手もかかる傾向がある為、園庭では意図して保育士の配置を分散し役割を持って保育をする	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9813	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11								3	2	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		今回の事故の検証、マニュアルの再度の周知を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎日の安全点検の実施と危険と思われる個所等の報告や改善	1.集団活動中・見守りあり		屋外保育等においてまだ体が動いていない活動開始時や疲れが出てくる活動修了時等は特に子供の動きに注意しながら保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、転倒した瞬間は他の園児が転倒しており、その対応をしていたため、本児の泣き声で転倒に気づき、転倒時の細かな状況把握ができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいるクラスが少なく子どもたちも分散して遊んでいたため、他のクラスの職員もその時の状況把握ができなかった。	少し前に転倒してしまった子どもの対応に気をとられていた。分散して遊んでいる子どもたちを把握するための職員の立ち位置が適切だったか。	職員間で声を掛け合いながら、広い視野で様子を把握できるようにする。	
9814	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	4	20	0	8	24	0	0	8	8	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		園児全体の体力や筋力など発達の保育の内容や家庭環境の背景などを含めて、園で出来る体力づくり遊びをもっと取り入れていきたい。（本児は令和●年●月●日午前に家の外階段で転倒し、右足首を捻挫、顔打ばれギプス固定をした。）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		点検者を交代しながら、気づきや対応策が見つけられるようにしていきたい。	1.集団活動中・見守りあり		園庭で遊ぶことにより、気持ちが開放的になりやすいので、自由に遊ぶ中でも約束事を増やしていきたい。	1.いつもどおりの様子であった	妹がいる為なのか、本児より小さい友達にも関心があり追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当クラスは勿論、他のクラスの園児も一緒に遊んでいたので、園庭で遊ぶ園児全体が見れる場所にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他職員も、担当クラス以外の園児も気にしながら保育をしていた。		担当クラスは勿論、同じスペースで遊ぶ他クラスの職員と連携をしっかりと取り、見守りだけでなく声掛けもしっかりとしていきたい。	
9815	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				14	17	11		3	3	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	太鼓橋の下にマットを敷いた。必ず保育士が傍につく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	太鼓橋の一番高い所から向きを変えようとした際に落下。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	傍についており、危険な状況でもすぐ安全な対応が出来る位置についていた。本児が落下する瞬間に両手で抱きかかえた。そのため、頭や体を地面（芝生）に打つことはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該遊具に保育士がついており、危険はない状態だったため、他の子どもの対応に当たっていた。	特になし	特になし	
9816	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43				9	18	16		8	8	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	朝登園後すぐの戸外遊びで、寒さが厳しくなってきて体が温まらないまま遊具につかまり起こったと考えられる。	朝の戸外活動では、気温、子どもの状況を考慮しながら遊びを進める必要があることを再確認した。特に、固定遊具はそれ自体が冷たくなっていることも踏まえ、子どもにも遊び方等を伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具自体が冷えていた。	遊具は、気温や子どもの体内温度がある程度上昇してから使用する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	気温に応じて固定遊具の使用時間を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発で、運動的な遊びや固定遊具が大好きである。危険認知力に欠けるところがあり、自分の体の大きさとイメージするの体の動きにズレがありながらも様々な事に挑戦する。	4.対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで大縄を回していた。本児が太鼓橋にいることは気づいていたが動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で戸外遊び中であったために、分散して園児の保育にあたっていた。	遊具を見ている職員が少し離れた間におきた。	事前に体が温まっていない状況であるため、気を付けるよう側で声を掛け知らせる必要があった。	
9817	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48			18	16	14			6	6	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	舌裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		朝の打ち合わせで死角や、気づかないことなどを話をして、職員同士で声を掛け合う	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		定期的な点検を続ける	3.個人活動中・見守りあり		登園と共に子供の人数も増えてくる為、広く視野をもって見守るよう心がけ、子どもたちにも危険なことについて更に伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	できるようになった雲梯で保育士に見てほしくて遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯を行っている園児がいた為、そちらの補助をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの立ち位置で園児の様子をみていた		遊具の使い方、待ち方を確認し合い、各クラスで話したり、その都度声をかける	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面							ハード面							環境面			人的面										
								人数																					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9818	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剝離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	マニュアルに、走っておりないと記載されているが、職員の意識に欠ける。また、話し合いや研修を行っているが、自分事として捉え、危険予知をしようとする意識に欠けるのではないかと考えられる。	過去のケースを理解したうえで、マニュアルを確認し実践していく。様々なケースや、研修内容を自分事としてとらえ、危険予測、素早い対応をとっていく。	1.定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日１)回/年	斜面の傾斜がある、登るときには力が必要であり、下るときにはスピードがつきやすい。鉄棒や雲梯と築山は離れた位置に設置されている為、とっさの時に対応が難しい。	築山は斜面でバランスを崩しやすいため、常に子どもがどのように遊んでいるかを把握する。雲梯や築山はどちらも落下等の恐れがあるため、保育者が対応できる範囲、遊び方をする。	3.個人活動中・見守りあり	築山に鬼ごっこで走って逃げる。	築山では鬼ごっこをやらない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と離れたところにいて、雲梯や鉄棒の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの職員がいたが、自分の担当クラスの園児を見ていたため、対象児の様子はみていなかった。	園児の様子を見て、どうしたのかゆ様に、怪我の程度（高さ・山を走って飛び下りすることが多かった。）、怪我の箇所（頭・足）などに職員が気付き、園児全体の把握ができていなかったのではないかと考えられる。	事故を受けてできた防止策を、職員一人一人が意識し、防止に努める。園児のとっさの行動に対応できないような状況、心時は遊ぶ場所の範囲やあそびを選定する。常に園児全体を把握するように目を向ける。	
9819	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	3.施設敷地外(園外・保育先・公園等)	4.3歳児クラス	74									14	14	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１～２)回/年	2.基準配置	安全に活動ができるよう落ち着いた生活を心掛けていたため、園外での活動において急な指示への対応、安全配慮に欠けていた。	道路を横断する際のマニュアルの再確認と渡る時は走らず早歩きで渡りつないだ手を放すようにし、横断歩道を渡り切った後の安全確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	園外において起きた事故。横断歩道を渡りきったところが少し段差があり大きめの砂利となっていたため転びやすい場所だった。	段差の注意喚起をして渡るようにするべきだった。また、芝生の方で渡り切った園児を待機させるべきだった。	1.集団活動中・見守りあり	横断歩道を渡る前の待機場所が狭く、待たせるよりも早く横断したが安全と考え、車の通りが多い場所だったため急いで渡るように声掛けをしたため、道路と広場の段差にコンクリートと砂利がある事への安全に対する配慮が欠けていた。	歩行する時に手を繋いで歩く場所か手を離して歩く場所かが自分でわかるような習慣付けを行うとともに、保育士はその場所に応じた適切な声掛けを行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	日頃より活発な本児は歩行中もいつもと変わらない様子で、職員の声掛けにより横断歩道を渡り切ったが、急いだため手を繋いだまま転倒してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	先頭の園児の手を繋いで引率。少し先で渡った園児と待機。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	最後尾の他児と一緒に横断歩道を横断中だった。横断歩道に立ち園児を誘導していた。	３人の職員が引率していた。それぞれが自分の役割を理解し動いていたが、手をつないでいたこと、小走りで渡ったこと、道路と広場の段差とそのコンクリートと砂利の形状に対応しきれなかったためだと考えられる。	横断歩道を渡る際はしっかりと止まって落ち着いて走ることなく早歩きで手を放して渡るよう練習をしていく。	
9820	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(８)回/年	1.基準以上配置		職員の研修も行い、職員配置基準も満たしているため改善策はない	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		遊びのスペースも確保しており、職員配置基準も満たしているため改善策はない	1.集団活動中・見守りあり		片付け中に発生しており、保育内容には問題がないため改善策はない	1.いつもどおりの様子であった	普段より注意力散漫である。他児と一緒にブロックの片付けをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具の片づけをしており、本児が転倒した瞬間を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具の片づけをしており、本児が転倒した瞬間を見ていなかった	担任２人の動きが同じだったため、全体を見るなどの役割分担をして未然に防げればよかった	それぞれの活動に合わせて子どもの姿を想定し、職員は役割分担について話し合い、確認をして、再発しないように保育をしていく	
9821	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	1	1	3	4	1	5			4	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置		普段の子どもの様子や当日の様子、時間帯などを考慮し安全面に配慮する。保育者同士や子どもたちに声掛けをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	ホールは広く、子どもは走ってしまいやすい。	活動内容により保育室を選択することが必要である。	1.集団活動中・見守りあり		児童数、個々の児の特性、当日の様子などを考慮し、椅子や机の配置を考慮するなど安全な環境づくりをしていく。また、ホール以外の保育室の利用も検討していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は日頃から落ち着きがない行動、注意力に欠ける面行動がみられること、土曜日の夕刻という こともあり集中力にかけていた。また、午睡をしなかったことでいつもより気持ちが落ち着かなくなっていた。走り回らないような環境設定をしていたが、突然本児が座卓を飛び越える行動を取った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	テーブルの横に座って落ち着いて遊べるよう言葉がけをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児との遊びに入りながらも本児の動きにも気を配っていた。	座卓を飛び越える行動は、以前他児が行っている姿を本児が見たことがあった。危険な行動であるため、やってはいけないこと、と常に伝えていく必要がある。	気持ちが高ぶっている時は落ち着ける遊びに誘っていく。（座って楽しむ遊びお絵描き・カードゲーム等）座卓を飛び越える行動は危険であるため、やってはいけないこと、と常に伝えていく必要がある。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9822	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29	0	0	0	0	0	0	0		1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指基節骨骨折・右母指挫傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	サッカー用ボールであったため、手で受けるには硬かった。	サッカーのゲームを行う時やゴールの練習をする時は、クッション性のあるボールを使用するようにした。キーパーは素手をはめてキャッチをする事を職員に周知。子ども達にも知らせた。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも活発で、活動的な遊びを好む男児である。この時も自らサッカーがやりたいと言い、同じクラスの友達５名、担任保育士と一緒にサッカーを始め、ゴールキーパーをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は、本児の相手チームだったため、本児がいるゴールに向けて２メートルほど手前からシュートをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当園児の遊びの見守りをしたり、関わったりしていた。	特になし	特になし	
9823	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	地面に置いてあったボールを、２ｍほど離れた場所から走っていき、蹴ろうとしたところ足がボールの上にのってしまい、バランスを崩し倒れ右肩を地面で打った。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児がサッカーボールを蹴って遊んでいたことは把握していたが、他児が遊んでいるのを見守っており、本児がバランスを崩し転んだことには気付けなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外には他学年担当者が3名いたが、自分の担当学年の子どもの遊びを見守っており、気付くことができなかった。	特になし	特になし	
9824	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45					22	23			4	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルや研修、職員配置に特に問題はなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	施設・設備面に特に問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	サッカーや鬼ごっこ、三輪車やスクーターの遊びが、空間も分けずに混在していた。	ホースの水を用い地面に線を描き、遊ぶ場所を区切るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	休み明けではあったが、特にいつもと変りなかった。午睡がなくなり、午後の外遊びは初めてだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子を見ており、一緒にいた職員が伝えた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	倒れて泣いた本児に対応し、担当職員に伝えた。	特になし	職員4名体制で見守っており、特に問題は無かった。	
9825	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37					18	19			6	2	17.5歳	1.男児	眼鏡使用。日頃から転倒することが多い。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上ＡＢ外傷性の不完全脱臼歯	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	職員配置は充分であったが、走ると危険との認識のもと、走らない約束のある場所に子どもが入っていく様子に気づいて止める者がいなかった。	ヒヤリハットの検証にほとんど参加のない無資格・短時間職員の危機管理に対する意識の向上のために、保育をする際に何を見てほしいか、何をしてほしいかを具体的にリストアップする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	園庭の砂が雨や風で流され減っているところがあった。また逆にマットの下は砂が減らず盛り上がったりしていた。	はがすことができるマットはいったんはがし、地面を均す。	1.集団活動中・見守りあり	ブランコエリアでは鬼ごっこ等走って遊ばないというルールはあったものの、これまでも走り込む子どもが必ずいた。物理的に入れない工夫はされておらず、また、ブランコ下のマットがわずかではあるが段差となっていた。	ブランコを使わない時は子どもが走って入らないように三角ポールを置くなど、入れないことが分かるようにする。マットは平らになるよう整備する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも一緒に遊ぶ友だちと、いつも楽しんでる遊びを始めたところだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ながら直前までの対象児の様子は確認したが、遅番職員と交代するタイミングで目を離した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具についていたり、他の子どもと遊んでいるなどして対象児が走ってはいけない所に入ったことを見ていなかった。落ち葉掃除の方に意識が集中する職員もいた。	コロナの影響で３歳児が不在で職員数が十分だったこともあり、落ち葉掃除を優先してしまったり、それを手伝おうとすることで子どもの動きから目を離してしまっていた。	園の独自のマニュアルを全職員が再確認し、命を守る責任と、そのための行動、保育の仕方について一人ひとりが考え直す（意見収集）。	
9826	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	18									4	2	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	運動遊びをしている中の事故で、個人の体格や個々の様子に合わせて補助や介助をする必要があった。	個々の運動能力を過信せず、すぐに補助・フォローできるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ホールの中で運動遊びをする際、低い段差の所にはマットを敷かなかった。	バーの飛び越え（１０～３０ｃｍ）の所にも、マットを敷いた方がよい。	1.集団活動中・見守りあり	体格が大きく、棒を飛び越えることはできたが、バランスを崩した時に体重が胴にかかり骨折してしまった。	簡単な設定から始めて、徐々に設定を上げるように変えていくなどの工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	特に問題なく棒の飛び越えに挑戦していたが、バランスをくずしてしまい転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	各コーナーにはひとりずつ職員がいたが、転倒を予測していなかったので、咄嗟には受け止める事ができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各コーナーに1人ずついていた。	朝の受け入れ後に、ホールで行ったため、身体がまだ動きにくかったと思われる。	準備体操をするなどして、身体をほぐしてから運動遊びをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9827	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52			15	24	13			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	下唇内側裂傷、下唇外側(下部分）裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		職員の事故防止意識が向上できる研修の機会を作ることや、子どもたちへの安全教育を実施する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊具を使った遊びを行う際に保育士の目が行き届くよう、安全に遊ぶことが出来る区分けを必要に応じて行い、職員間で連携を図る	1.集団活動中・見守りあり		職員の状況把握（ヒヤリ・ハット）のスキルアップにより、危機管理意識の向上を図る	1.いつもどおりの様子であった	通常通りに登所、特に変わったことはなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具ゾーンにはいたが、その瞬間は5歳クラスの他児の遊びに対応し、本児の鉄棒活動には注視できていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3歳クラス・4歳クラス担当者は子どもと園庭芋畑で芋ほりをしており、担任は室内で子どもと制作活動をしていた		複数の保育士が分散した立ち位置で保育するなど保育の内容と安全確保とを同時に考えられるよう、今回の事案を職員へ周知し、安全意識の強化を図る	
9828	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	114	10	14	17	19	27	27			27	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第５指々骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	5歳児クラス保育士1名は園児対応（ドッチボール参加）し、もう1名の保育士は休憩中だったため、見守りが十分にできていなかった。	屋外活動中の見守りが不十分になる可能性がある場合（遊び内容による）の職員の休憩時間帯再検討。もしくは活動内容を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	ドッチボールに使用していたボールの硬度が要因として挙げられる。	使用するボールの硬さを柔らかいもの（ゴムボール等）に変更する。	1.集団活動中・見守りあり	コートの上を高く通過するボールだったので、キャッチをするのが難しかった可能性がある。	遊び始める前に、準備体操を取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボールのゲーム中に外野でボールが来るのを待っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士1名も一緒にドッチボールに参加していたため、外野での様子がしっかり見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担当保育士は休憩中だったため、事故発生時その場にいなかった。他の年齢の保育士も園庭にいたがドッジボールの様子は見ていなかった。	ボールを受けれなかった様子から、大丈夫と思っても、その場で確認を行う必要があった。	確認後、子どもが痛みを訴えた場合は、ゲームを中断し看護師に診てもらう。	
9829	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	96	6	11	16	19	24	20			27	24	17.5歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/月	2.基準配置	その日は給食の準備の時に２Fの部屋から飛び出していき１Fのプレイルームまで走って行ってしまったため、追いかけたが側に行く前に落ちてしまった。	使用していないプレイルームは鍵をかけるなど、対応策を職員で話しあい共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	太鼓橋は移動できる遊具で、入口近くに置いてあった。	遊具の場所を変更した。	1.集団活動中・見守りあり	担任３人のうち１人休みだった。代わりの保育士が入っていた。本児には担任がついていた。	代わりの保育士が入っていていつもと保育士の動きも違っている部分もあったかと思うので、しっかり声を掛け合うよう話合い対応する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつもついている担当保育士が本児が部屋から出ていくのを見てすぐについていく。遊具に上り手をつく所は見えたが担任保育士が手を伸ばして本児を支える距離までは近くではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４歳児は全員保育室にいて、食事の準備をしており、保育士２人も食事の準備をしていた。	近くには担当保育士はいたが、本児が部屋を出ていく際、本児にもう少し早めに、もっとそばにいき食事の準備を手伝うなどすればよかった。	本児からこれまで以上に目を離さず、職員間でも声を掛け合って見ていく。	
9830	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									3	3	17.5歳	1.男児	とくになし	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯左右A外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	2.基準配置	巧技台が危険物という認識はなかった	巧技台は座って使用する以外は危険物と認識し、未使用時は所定の位置へ片付ける	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	巧技台が滑りやすいか検証したが特に問題がなかった	とくになし	3.個人活動中・見守りあり	子どもの歩く動線上に障害物となるようなものがあった	子どもの歩く動線上に障害物となるものが無くなるよう、巧技台の配置を変え、環境を見直す	1.いつもどおりの様子であった	いつもの場所へカゴを戻そうとカゴを両手で持って移動した（目の高さ）。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士１は、泣いている園児の対応に当たろうと移動中。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士２はおやつの配膳、保育士３は、手洗い場の子どもの見守り	安全を確保するための注意喚起が不十分だった	巧技台が出ているときは巧技台の位置を子どもへ伝え注意喚起する	
9831	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	14			2	6	6				1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故対応について、事例をもとに危険予知の幅を広げられるように職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ロープが重みで緩み、地面についているタイヤが少し傾いていたため、座る際にバランスが悪くなっていたことが考えられる。	ロープを巻き直し、タイヤが地面に垂直に立つようにした。着地面にマットを敷いた。	1.集団活動中・見守りあり	自由に取り組める状況。	側で見守りのできるよう遊び場所の制限	1.いつもどおりの様子であった	タイヤブランコ（固定）に乗りロープにつかまり、登って、立ったり、座ったり、降りることを繰り返していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭を行き来しながら対象児の動きも確認していたが、この時は他児の傍についていたため対象児が落下する瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内と戸外に分かれて遊んでいたため戸外には他の職員はいなかった。	何度も楽しんでいることから、遊び方が大胆になっていた。危険な動き（上の棒に手をかけるなど）は注意していたが、座っていて落下するという事態も予測できていなかった。	一人ひとりの動きに丁寧に関われるように　一人ずつ取り組むようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事											ソフト面							ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
																							死因	負傷状況	受傷部位																												
9832	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40									4		3	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットで事故怪我については共有しているが、予測できなかった	事故が起きそうな場面の意識を高め周知徹底した。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	サッカーボールを蹴って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に活動をしていたため、見守りながら活動を進めていたが瞬間の児の動きはわからなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に活動していたため、遊んでいることは知っていたが見ていなかった。	動きの柔軟性に欠ける。	外遊びに行く前は、簡単なストレッチをする。	
9833	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				14	11				2		2	18.6歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外果骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	特になし	7.その他	降園時は遊ばずに帰る約束になっているにもかかわらず、保護者同士で話し出すと子どもが遊びだしてしまうことがよくあったが、黙認してしまっていた。	降園時は遊ばずに帰ると いうことを保護者と子ども に再度しつかり伝え、掲示や園により を通して降園時の安全 について意識をもってもらうようにした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	母親が迎えに来て、テンションが上がっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園時間中で、他の保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園時間中で、他の保護者対応をしていた。	保護者が会話に夢中になり、子どもが離れて遊びだし、危険かもしれないと気づきながらも、保護者に引き渡したという認識で、声をかけることはしなかった。	降園時は身体が疲れており、不注意になってけがをしやすいことや、降園時間は日中のように安全用マットが敷いていないため危険であることを、保護者に引き渡した後でもしっかり声をかけるようにする。	
9834	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52				24	28				4		4	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	新しい遊具なので保育士が事前に遊具を確認して安全に遊べるようマニュアルを作成していたが、遊び方の約束が子どもにはまだ浸透していなかった。	実際の子どもの遊び方を見ながら、マニュアルの内容を見直したり戸外遊び中の職員配置を検討する。（補助を付ける）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	始めの一週間は一つ一つの遊具について丁寧に遊び方を教えていたので、4，5歳児なら大丈夫だと過信し、全部の遊具を開放してしまったこと。	保育士がそばにつけない状況の時は、遊具に看板を付けて子どもだけでは遊ばないようにした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から活発で活動的なところがあったが、新しい遊具がうれしくてより張り切っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が目による距離で、他の子どもたち数人と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊んでいる子を中心に見ていた。	できるだけ遊具のそばにつくようにしていたが、他の子も同時に見ていたため手薄になってしまった。	遊べる遊具を限定して保育士が必ずそばにつけるようにした。	
9835	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31	0	0	0	0	12	19	0		4		4	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	新年度間もなく、新しい環境の中子どもたちの動きへの配慮不足であった。	動きが激しくなくてもケガにつながることを想定し危機感の意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	人数に対してコートの広さが狭かったと思われる。	子どもの動きを想定し、コートの広さやボールの大きさ等都度確認、見直しをしていく。	1.集団活動中・見守りあり	本児を含め慣れない遊びだったため、予期しないことが起こるという想定が甘かった。	簡単なルールであると過信せず、遊びながら体をほぐしたり体の準備を行うこと。子どもたち自身にもケガを防ぐために分かりやすく伝えることを必要。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で元気に遊び、転がしドッジにも喜んで参加、意欲的にボールを取ろうとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所からドッジボール全体を見ていた。ボールを取ろうとした児の様子も見ていたが、指の状況まで予測できず止めたり防いだりはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ分散していたため、他の遊びをする子や、遊びに誘われ一緒に遊ぶなどしていたため見ていなかった。	子どもの動きや危険予測、ケガにつながる可能性を予想することができていなかった。	どんなことにも、思いもよらぬケガにつながることを意識し、活動の前には指の先まで体をほぐすことなど行っていく。	
9836	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	5									1		1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		基準は満たしていたが、職員間の連携を図り、声をかけ合いながら、安全面に十分注意し保育を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし	今後も定期的に点検を行い安全に配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	本児は転倒の際、手で体を支える事が出来ず、顔（口）から床にぶつかった。	転倒の際は、手で体を支え防御できるように、保育の中で十分体を動かしながら、体幹が鍛えられる遊びの工夫や、危険な状況、判断力が身につくように保育を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	登園時、水筒を忘れた事から、気持ちが落ち込んでいたが、すぐに切り替えて普段通りの姿で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス13名中、室内で片付けを行っていた子、片付けを済ませテラスで待つ子もいた。担任は全体を見ながら未児が靴を取りに行くところを瞬下で見守っていた。(まる様子ないと、歩いていたので安全と判断していた)未児が瞬下の角を曲がり、見えない場所での転倒であり、どのように転倒したかが担任のいる場所から確認することが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3，5歳児は戸外活動中であり、3，5担任は園庭にて園児と一緒に活動していた。0～2歳児もクラスにて保育中であった為、4歳児担任保育士以外は見ていなかった。	普段も子どもたちがそれぞれ靴を取りに行き、事故なく過ごしていたが、本児はこの時、周囲の安全に気が向いていなかったとも考えられる。	靴を取りに行く際の廊下の歩き方等、子どもたちと安全について確認する。時には職員もついてそばで見守り、声をかけ、安全に配慮していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9837	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39		8	1	21	9			5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨・腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	自分のクラスの子の発達はわかっていても、ほかのクラスの子の特徴やかかわり方など理解できていないこともあったのではないか。	子どもの年齢的な発達や、個が持つ行動や情緒の特徴を、担任だけでなく園全体で共有して保育に当たる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	花壇、砂場など固定された場所では、遊具に比べると危険性を低く考えてしまいがちになる。	花壇や砂場は動きが少ない場であるが、子どもたちにとっては障害物的な場所にもなっているのかもしれない。見守りの位置や玩具の出し入れする位置の工夫も必要	1.集団活動中・見守りあり	活動の変わり目では、保育者の意識が、目の前の子どもに意識が行きがちになってしまう。	活動の変わり目や、移動の場面ではなお一層、視野を広く持ち、声掛けや、子どもの行動予想を行う。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	つかず離れずの距離を保ち、対象児が自ら興味を持ったことに動き出せるようにしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片づけの時間になり、自分のクラスの園児の方に意識が言っていた。	対象児の突発的な動きを予測できなかった。	対象児の特徴を理解して、行動の予測をたくさん想定しておくことが必要。	
9838	令和6年3月21日	1.認可	10.事業所内保育事業（認可）	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6	0	0	0	1	0	5	0	1	1	15.3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	以上児クラスで流行っている遊びを全職員が把握していなかった（園庭にある大きな玩具を重ねてコースを作る遊び）。	危険予知トレーニングに取り入れ、事故に至った経緯、対策を全スタッフで検証、共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3 6 5)回/年	丸太の片付け場所が決まっておらず、子どもに任せていた。	事故の要因となった丸太の片づける場所を子どもとスタッフで周知。使用の仕方を子ども達と確認する。	3.個人活動中・見守りあり	物の使い方、重さ、変化の仕方等、子どもの経験、体験の場を設ける。	安全教室を設け、子ども達に参加してもらう。	1.いつもどおりの様子であった	５歳児の遊びを真似て、同じように丸太を重ねたいと思った	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近（２m）先で他5歳児5名の話を聞いていた。本児の動きは把握しており、本児にも声を掛けていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他保育士１名は室内遊びをしている以上児（11名）の見守りをしていた	砂場近くではなく、もう少し広い場所に誘導すべきだった。	ひとりひとりの子どもの好きな遊び、動きの傾向を把握し、安全に遊べるように側に付く。	
9839	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	26	0	0	0	11	15	0	0	2	2	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	基準値以上の職員配置がなされ、人数については問題はなかった。	職員の人数配置に関しては問題がなかった。今後、子どもの遊びを保証していく為に、検証結果を職員へ報告し、周知徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	遊びに使用した木や地面に関しては、濡れているなどの危険要因は見られず、特に問題はなかった。	安全に過ごせるように広場内の事前確認を今後も行い、安全対策に努めていく。	1.集団活動中・見守りあり	日頃より遊び慣れている場所であったが、木に乗っている際に対象児が、バランスを崩し転落した。本児は自分で登れるが、乗ると足が届かない位置となる為、活動前に注意事項を伝えておくべきだった。	慣れている場所であるからこそ、環境面による子どもの怪我が発生しないように、活動前に毎回、気を付けるべき留意点（足が届かない為バランスを崩しやすくなること、その他手を離さない、押したりしない等）について子どもに声掛けし、注意を促すべきであった。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は木の太い幹に跨って腹ばいの状態で遊んでいた。本児の前後に子どもがいて、８名が並んで乗っていた。前に進もうと、両手を前に置こうとした際にバランスを崩し、転落した。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が木に乗って遊んでいた際に、傍に保育士が付いていたが、その際に保育士は全体が見える位置にいなかった。保育士が後ろを振り向き後方の様子を確認した時に事故が起きてしまい、転落を防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場内では、鬼ごっこやままごと遊びをしたり、縄の片方を木に結んで子どもが大縄跳びで遊んだりする様子が見られていた。他職員は、子どもが車道にはないように見守ったり、他園の子ども達と混ざり合ったりしないように留意しながら子どもの遊びを見守っていた為、全体が見える位置に立っていた。	木の場所に立っていた担当保育士の立ち位置が広場全体を見る位置に立っておらず、後方が気になり後方を確認しようとした際に、事故が起きてしまった。また、８名の子ども が木に乗っており、担当保育士が注視していたとしてもアクシデントがあった時に手が届く範囲ではないため、人数を制限すべきであった。	木に乗って遊ぶ際には、子どもの遊びが終わるまで注視し、また子ども全体が視野に入る位置に立ち子ども達の遊びを見守っていく。木に乗る子どもの人数を保育士の手が届く範囲に減らし対応できるようにする。	
9840	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21								2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位骨髄線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	子どもたちが行事に向けて気持ちが高まっていた時期であることを考慮し、より注意を払って活動の様子を見守ることが必要な状況であった。	行事に向けての活動や戸外遊びの際はフリー保育士が加わるなど、より安全な体制で活動を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(32)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６０)回/年	トラックに破損等はなかったが、砂が堆積していた可能性があったものと推察される。砂があると滑りやすくなることに注意が必要であった。また ゴムチップのトラックの為、走り方によっては靴で思いがけずブレーキがかかってしまうことがあることにも気を付ける必要があった。	小まめにトラック上の砂を除去するように努めると共に、破損等について、これまで以上に細かい部分まで点検し、安全対策に留意する。スニーカーは、しっかりとマジックテープやベルトが締まっていることを確認する。また トラック上の砂がたまらないように管理する。	1.集団活動中・見守りあり	運動会を2日後に控え、また練習前ということで張り切って走っていた様子が考えられる。	日程的に子どもたちの気持ちが少し高揚している時期だったと考えられる。、戸外に出てすぐ自由遊びにするのではなく遊びの種類を確認するなど、一度落ち着ける時間を持つようにする。	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向けて、とても張り切って取り組んでいたので、当日も園庭に出てすぐに走り出した	4.対象児の動きを見ていなかった	砂場遊びも行う予定で、カバーを外していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トラックの端にいて全体を見守っていたが、鼻水が出たと訴えてきた子の対応をしていた	それぞれの職員が個別に園児に対応しており、対象児が活動していたトラック周辺を確認できていなかった。	砂場のカバーは事前に外しておくなど、より広範囲に注意を向けられるような準備を事前にしておくことが必要。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
9841	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	10								2	2	15.3歳	1.男児	令和●年●月●日に園内のテーブルに口元をぶつけた際に、上の前歯１本がぐらつく事故があった。その際も受診したが特段の処置はされていなかった。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A|A外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（２）回/年	1.基準以上配置	自由遊びで走っている子どもの動作予測が不足していた。	今回の事例を取り上げて危険予知のあり方を職員間で話し合い共有し、幼児は時に突発的な行動を行い事故を招いてしまう可能性があることから、保育に当たっては、その行動に十分配慮することが必要であることを再確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	特になし。	事故発生場所は平坦なゲートボール場であり地面の凹凸なども確認したが、問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	公園のゲートボール場で落ち葉拾いや虫探しなどを行う「自由遊び」の設定自体は適切であったことから、環境面での問題ははなかった。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は落ち葉拾いや虫探しをしていたが場所を移動するたび立ち上がり走り出した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から約５メートルのところに位置し、他児の方向に向かって走っている対象児を目視しており、対象児と他児との接触の瞬間を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じゲートボール場にいた保育士は、他児を見守っており対象児の動きは見ていなかった。	走っている子どもに関する危険予知が出来ず、その子に対応しなかった。	多少でも危険につながりかねない行動に対しては、常に注意してこれを制限するなどの対応に務めていく。	
9842	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	25								3	3	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	日頃より、園外活動時の歩道の歩き方や横断歩道の安全な渡り方を指導してきている。本件時も、職員の配置を含め、安全への意識はきちんと考えていたと思われる。	日常的に指導を行い、安全に対する意識をした動きはできていて、ソフト面では問題なし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	横断歩道、信号に特に問題なし（普通に歩けば時間的にも安全にわたれる）。	横断歩道、信号、ハード面に問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	横断時、前の子どもと少し間があいたため、本児はあせって走ってしまった（安全に歩くために手をつないでいたことがケガにつながった）。	道路では、車に注意しつつ、走らないよう指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかったが、前の子どもとの間隔ができ、あわてて走って、転んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ後ろにいた保育士は、本児を含め、後方から全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先頭の保育士は、前方に危険がないか確認するとともに、安全に渡れる速度で全体を横断させていた。中ほどの保育士は、車等の安全確認をしつつ、全体を見ていた。	道路を渡る際、車に気をつけることは言っていたが、今回、「走ると危険」ということまでは声掛けしていなかった（日頃は指導をしている）。	安全確保のため、手をつないで歩きつつ、かつ速度や全体の動きにも気を配る。車等の安全確認とともに、安全な歩き方ができるよう、事前に声掛けをしっかり行う。	
9843	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	21								2	2	15.3歳	1.男児	入所までコロナの状況もあり家庭では室内でほぼ過ごしていた。外遊びの経験がない。弟が0歳の診断をされているので母の判断で兄（本児）もそうでないかという。また、入園してからの一年間は、転ぶことが多かった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕手首ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	なし	今後も引き続き、遊具の確認点検を怠らずに努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	なし	活動にあたり遊具に問題はなかった。今後も継続的に安全点検を怠らずつとめる。	1.集団活動中・見守りあり	高さのある遊具ならば、落下時の速度による怪我の損傷が大きくなる。	経験による遊具の選択を見極めてあげる。	1.いつもどおりの様子であった	本児の性格は慎重な面と臆病な所があり、今回の丸太の遊具も自信がない中ではあったが、挑戦したいという気持ちが芽生え楽しさと恐る恐る丸太にしがみついて移動した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた網の遊具にも子どもが遊んでいたので、丸太の遊具から3mほど離れた場所から、保育士も子どもの動きに合わせ移動しながら声も掛け合いながら見守っていた。落下の瞬間は見ていない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具にも園児がいる中全体を見て確認（少し離れた場所にけいていた）。本児が落下の瞬間も確認した。すぐに駆け付け処置をした。	友達と遊ぶことはなく単独で遊具に登る。本児は少々怖がってはいたが、周りのお友達が楽しく遊んでいるのを見て挑戦した。保育士も身体能力の低さを理解していたので充分注意をして声がけを行っていた。本児もそれを聞きうんと返答をする。	本児の挑戦意欲を損わず、すぐ近くで見守っていくようにする。	
9844	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	4								4	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～5)回/年	2.基準配置	特記事項なし	環境面・人的面が要因と考えられる為、記載事項なし。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特記事項なし	環境面・人的面が要因と考えられる為、記載事項なし。	3.個人活動中・見守りあり	特記事項なし	環境面・人的面が要因と考えられる為、記載事項なし。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、竹馬（高さ70㎝）の練習をしていたが、身体がかゆくなったと言って急に手を放してしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	パート保育士が約50㎝斜め前に立ち竹馬の補助をしていたが、後ろに転んだ為、補助が間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス担任は、自分のクラスが使用した、竹馬の台を近くで片付けていた為、パート保育士に任せていた。隣のクラスの2名は少し離れたところで、3名の子どもと一緒に竹馬の練習をしている。その為、急な事態には間に合わない状態であった。	子ども自身に危機管理の把握の難しさがある。	毎回、竹馬に乗る前に約束を確認していく。（声をかける）	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事						発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位				マニュアルの有無	実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9845	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									3	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～5)回/年	2.基準配置	特記事項なし	環境面・人的面が要因と考えられる為、記載事項なし。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特記事項なし	特記事項なし	3.個人活動中・見守りあり	特記事項なし	特記事項なし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、昼食後パジャマに着替え、ウレタンマットの上で広告を使い、くるくる丸めて棒を作っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	食事の片付けをしながら、食べ終わった子ども達が各自午睡の準備をしたり、自由に遊んでいるのを見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他２名の職員は、自由に遊んでいる子どもの見守りをしながら、食事と着替えに分かれ対応をしていた。	いつも遊んだり、生活したりするスペースではあったが、立ち上がった際、厚さ２.５㎝のウレタンマットで足を捻ったようである。	ウレタンマットでの立ち上がりの際には気を付けるように、注意喚起をする。	
9846	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28		1	11	16					4	4	15.3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	園外保育で使用する公園の危険箇所等の確認を職員全体で行っていなかった。	以前作成した近隣の公園マップ（危険箇所含む）を再度見直し全体で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	事故があった築山について、日頃から使用していることもあり、事前に点検しなかった。斜面には複数の凸凹が見られ、本児はこの凸凹に足を取られた可能性もある。	公園の築山や固定遊具は、子どもが遊び始める前に保育士が確認することになっているため、実際に登るなどして必ず確認する。	1.集団活動中・見守りあり	普段合同で保育することが少ないため、互いのクラスの子どもの様子を把握していなかったり、職員間の連携が取りづらかった。	合同で活動する場合は、事前に保育士間で打合せを行い、同行する保育士全員が配慮事項等を共有する。	1.いつもどおりの様子であった	「遊んでいいですよ」の声かけで築山に走っていき、頂上に着くとすぐに走り下りる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	築山の下あたりにおり、本児が山を下り始めてまもなく転倒するのを見たが、補助できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊び始めたばかりで、保育士は周りにいる子どもたちを遊びに促しているところだった。	保育士が同じ動きをしており、危険箇所に保育士配置ができていなかった。	保育の職員配置を見直すとともに、職員間で声をかけ合いしっかり連携し、子どもたちが安全に活動できるようにする。	
9847	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									2	2	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.基準配置	子どもを２歳児クラスと廊下、３歳児クラスの水飲み場に分散させることに対するけがのリスクへの意識が薄かった。	子どもを分散させることによってどんなリスクが生じるかを常に意識して考えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	確認したが、特になし	1.集団活動中・見守りあり	子ども達が走って水飲み場に向かったことが要因と分析した。	走らず、歩いて水飲み場に向かうよう、事前に声を掛ける。水飲み場で飲ませず、大人が紙コップに水をよそって渡す。	1.いつもどおりの様子であった	部屋にいたうちの数名が、２歳児クラス以外の水飲み場に走って行くのを見てついていった。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が廊下に向かって走り出したのが目に入ったので、後を追いかけたが、相手の子と衝突した時には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	２歳児クラスで水飲み場で水を飲んでいた本児以外の数名の子どもを見ていたため。	安全を守れない体制であったのに子どもを２歳児クラス保育室と廊下、３歳児クラスの保育室に分散させたことが要因となったと分析した。	子どもが複数の場所に分散する時に、子どもや大人の人数を把握した上で安全を守れる状態にあるか十分に吟味する。子どもが移動する時には必ず大人が先導する。	
9848	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2									1	1	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		特に変更の必要なし。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特に変更必要なしと考える。	1.集団活動中・見守りあり	廊下の水分補給する場所で足を延ばして休んでいた児と、帰りを焦る児がお互いを気にしていなかった。	周りを見て行動することをしっかり自分で行う事を、それぞれが意識する様に教育が必要である。子どもは突発的な行動をとることも多いため、見極めが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	母が来たうれしさあまりのあせりがあったうえでの突発的行動であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員の見通しも甘かったのではないかと考える。行動予測として各児の行動を見極める事を怠ってはならない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児大勢を見守りしていたので、この場では必要はない。	行動予測がまだ、担任が変わったばかりでできていなかったことは否めない。新学期だったからこそ起こった事故かと思う。	今後しっかりと、子供たち一人一人を理解し適切な促しをしていかなければならない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9849	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		9	1	2					5	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	今回は保育室内のスペースを移動しようとした時に遊んでいた足元の玩具を踏んでバランスを崩し転倒したものであり、玩具の配置や保育スペースの見直しなどの物的な側面と保育者の立ち位置や配置、目線などの人的な側面の両方に留意する。	室内で遊ぶ時の玩具の量と保育室内の遊ぶスペースの見直し（ベビーサークルを利用したスペースの見直しとそれに併せた職員配置の見直し）、1回1回の使用した玩具の整理の徹底、在園の高年齢児（3歳児）の動作の把握の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回は保育室内のスペースを移動しようとした時に遊んでいた足元の玩具を踏んでバランスを崩し転倒したものであり、玩具の配置や保育スペースの見直しなどの物的な側面と保育者の立ち位置や配置、目線などの人的な側面の両方に留意する。	室内で遊ぶ時の玩具の量と保育室内の遊ぶスペースの見直し（ベビーサークルを利用したスペースの見直しとそれに併せた職員配置の見直し）、1回1回の使用した玩具の整理の徹底、在園の高年齢児（3歳児）の動作の把握の徹底	3.個人活動中・見守りあり	おもちゃで遊ぶ子の導線が入り混じっていた。また、こどもの人数に対し、保育スペースが広すぎた。	走る子とおもちゃで遊ぶ子の区画を分けて環境を設定する。また、おもちゃの特性にも留意してスペースの区分けを見直す。	1.いつもどおりの様子であった	対象児が使おうとしていた玩具を隣にいた児童が待って違うスペースへ行こうとした為、返してもらおうと後を追おうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	突然の転倒であり、距離的に手を差し伸べて支える等の行為が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	突発的な行動などの特性はなく、また3歳児であるため、他の児童に比べて注意の度合いが低めであった。	保育者が真横に居た場合はとっさに手を出してあげた可能性があることから、保育者と子どもの距離を改善することも事故防止につながるため保育スペースの見直しを検討した。また、事務的な作業の時間帯の再検討も事故防止の確率を高めると考えた。	事務的な作業の見直し（おむつ替えなど見守り以外の作業を含む）と保育スペースの見直しを行い保育者がより子どもと近い距離で保育できる環境を検討する。	
9850	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	靴のサイズが足に合っていなかった。	保護者に靴選びについてお伝えしたり、園内でも子どもの靴サイズを確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎朝	園外の畑については安全点検を行ってはいるいが時期によっては土が固くなったり凸凹になっていることも予想できた。	活動前に安全かどうか確認し、子どもたちにも場所の状態を事前に伝える。	1.集団活動中・見守りあり	靴のサイズが足に合っていなかったが、適切な靴とするよう、保護者に伝える。	配置基準通りだったが、園外活動時は担任以外にも配置する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない健康状態で戸外遊びをした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	バランスを崩した瞬間は見ていなかったが、本児や周りの潮来からの訴えで怪我に気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園内にいて現場（畑）には同行していない。		予想していない動きがあることも視野に入れておく。	
9851	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30				10	11	9			2	2	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯のぐらつき・上唇の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	前方を歩いている子どもと離れていた為、声を掛けた所、慌てて走り出し、接触、転倒してしまった。	子ども同士、接触すると転倒につながるということを子どもたちに周知していく。職員間でも再確認する。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(常時)回/年	よく歩いている道であり、歩道の状態も問題なし。	なし	1.集団活動中・見守りあり	靴を左右反対に履いていた。	本人に任せっきりにせず、確認をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	靴を左右反対に履いていた。慌てて走り出してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の誘導をしながら、全体の子どもを見ている為、転倒した瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の誘導をしながら、全体の子どもを見ている為、転倒した瞬間は見ていない。	前方を歩いている子どもと離れていた為、声を掛けた所、慌てて走り出してしまった。	列になって歩いている時に、子ども同士の距離が出来てしまい、保育士が声を掛けたことで子どもたちが慌てて走り出すということになった。子ども同士の距離が出来ないよう歩く速度を調整する。また、距離を縮める際も落ち着いて、前方の子どものそばに行くよう声を掛けていく。	
9852	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	21				10	11				2	2	16.4歳	2.女児	事故の３か月前に左腕を骨折しており、治療終了して経過観察中だった。負荷がかかった場合の耐性が弱いと思われた。5歳児クラとの合同保育であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	公園での遊びが、氷鬼と自然観察に分かれた。自然観察に誘い、保育士が近くにつくべきであった。	全体の安全を見ながら個別の状況に配慮する（今回は骨折が治って日が浅かったことに、もっと配慮すべきだった。安全な遊びへの誘導、職員増など）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	戸外の広々とした場所で、開放的な気持になり、走ってしまったと思う。	本児と全体の子ども達の気持ちが開放的になり、より活発になることを見越して、植物や昆虫の様子など穏やかな動きの中で戸外を楽しめるように働きかけをするべきであった。	1.集団活動中・見守りあり	散歩での往復は必ず保育士と手をつなぎ転倒を防ぐように心がけていた。気を付けて保育を進めつつも、活動の制限までは行わず、鬼ごっこも制限していなかった。	安全に不安がある時は安全な遊び方に誘う（対象児は骨折が治って日が浅いので、氷鬼より自然観察に誘う）。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもとともに動いていたが、本児とは別の遊びのメンバーの近くにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広く芝生全体を見ており、対象児の動きもみていたが、転倒した瞬間は見ていなかった。	本児に保育士が一人、そばに付けるような体制をとるべきであった。	対象児が骨折が治ってから日が浅いこと、プールがなくなり久しぶりの園外保育であること等、もう一人保育士を増やし安全策をとるべきだった。	
9853	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11									1	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	鉄棒設置時に遊具の使い方を乳児会議と幼児会議で話し合いをしたが、具体的な補助の仕方の周知が徹底していなかった。	体育講師による鉄棒の補助の仕方の講習を受ける。年齢にあわせた鉄棒の使い方を話し合い、全職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	鉄棒の下に屋外用敷マットを敷いていた。	敷マットがあるからと安心せず、子どもが落下しないように必ず補助をする。	1.集団活動中・見守りあり	他児が鉄棒で遊んでいるのを見て「やってみたい」と言い、対象児童がどこまで出来るか把握が十分でない中、鉄棒に乗せてあげた後補助から外れた。	出来る出来ない関係なく必ず手や身体を支え、落ちないように補助をする。	1.いつもどおりの様子であった	他児が鉄棒で遊んでいるのを見て、一緒にぶら下がって遊ぶ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童が小鳥のポーズをしたいと言うので身体を抱えてお腹が棒につくように乗せ、対象児童が一人で前回りが出来ると勘違いし、身体から手を離し右側に移動する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人で見ていた為、他の職員はいなかった。	1人担任の為、全体を見守ることに気持ちがいってしまっていた。	鉄棒の補助をする時は全体（他児の動き）が見える位置で補助をする。鉄棒の補助に付けない時は使用しない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面							環境面			人的面												
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・発成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】			【回/年】		【回/年】		【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9854	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24								1	1	16.4歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨端線損傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	８月迄は週替わりでフリー職員（３名）が幼児クラスに入っていたが、体制上の問題もありクラスごとの固定となっていた。	フリー職員も含め毎日の打ち合わせや会議をしているが、そのクラスの子ども達の状況を再度報告しあえるようにする。このようなトラブルがあるという事を再認識する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	今回は子ども達同志のトラブルの為、ハード面に関しては特になし	同上	7.その他	おやつ後下膨している児、帰り支度をしている児、絵本を読んでいる児と様々な動きがあった	今後は何か終えれば各自の席に戻るよう声かけをし、流れが落ち着いたら次の動きへ行くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	支度を終えていない状況で支度後絵本読みをしている児の元へ行き絵本を巡ってトラブルになった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	おやつ後の拭き掃除をしつつ、他児の帰り支度の確認や声掛けを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス内には職員１名のみであった。	子ども達の動きがおやつの下膳、帰り支度、絵本読みと様々な動きがあった。又、室内が賑やかだったこともありトラブルにすぐ気づけなかった。	支度までの流れをその年のクラスに合ったその都度改善していく。クラス内には職員１名であったが、隣のクラスに職員もいる為、子どもたちが賑やかだったり、職員が大変そうであれば声を掛け合う等連携を再度取れるよう心がける。	
9855	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	7								2	2	13.1歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇の切傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	園長・主任・事務員…計３名 ０歳児…保育士３名 １歳児…保育士４名 ２歳児…保育士４名 ３歳児…保育士2名 ４歳児…保育士１名 ５歳児…保育士１名 ４．５歳児の加配児フリー保育士１～２名	2.基準配置	保育者と子どもの配置人数１：３以上の児童が起きている場合は、作業を一度中断し、保育を優先的に行うようにする。	実施頻度(2－3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	普段午睡スペースには用意されていなかった机があり、状況を判断して環境を変えずに過ごしていた。	危険だと感じた事は言葉にして伝えるようにし、第三者の意見を尊重して全体で安全な環境をつくっていく。	午睡中であるが、７名中4名は起床していた。その中で午睡スペースに机を用意し、1名の保育者が連絡帳を記入していた。	5.睡眠(午睡)中	午睡スペースで連絡帳等の記入を行う際は机ではなくソフト積み木等、当たっても衝撃を和らげられるものを活用していく。保育者間で声を掛け合い、環境の整備もしていくことで危険のリスクを和らげられるようにする。	自立を楽しむ様子が普段の保育の中で見られる児童だが、まだ安定した起立はできていなく、転倒等に注意していた。	1.いつもどおりの様子であった	午睡スペースに用意していた机で連絡帳の記入を行いながら、起床している4名の様子を伺っていた。連絡帳を書き終え目を離した際に転倒した為、事故を防ぐことが出来なかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	食事スペースでＰＣの事務作業を行っていて、目視で状況を確認できたが距離もあり、防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4名の児童が起きている中、環境を変えずに机を用意したまま連絡帳を書き続け、保育に戻らなかった為、事故を防ぐことが出来なかった。	子どもから目を離す際は保育者間で声を掛け合い、常に十分に保育者の目が行き届いている環境をつくる。	個々の発達段階に合わせた環境整備が十分に行われていなく、十分な安全体制が保育者間で共有出来ていなかった。	
9856	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				11	12			3	3	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫、右腓骨遠位端剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事故予防の研修など実施している	研修などの実施があり改善点なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用前)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1回以上)回/年	施設・遊具・玩具は適切に点検している。	施設・遊具・玩具の破損による怪我ではないので、改善点なし。	1.集団活動中・見守りあり	限られた広さの園庭で複数の遊びを行っていた。	走る遊びの時は園全体を使って走ることができるようにし、子ども同士の距離が近くならないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく他児と一緒に鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこを見守りながら鍵を開けようとする園児の対応をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	計4名（保育士3名、実習生1名）が園庭にいた。個別配慮の必要な子に1名、他活動（大縄跳び）に1名、鬼ごっこ全体1名（対象児をみていた）実習生は一緒に走っていた。	他児の足に当たり転ぶかもしれないという予測ができなかった。	子ども達の運動量・発達を踏まえ、限られたスペースでの活動の予測を予め共有する	
9857	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34				18	16			4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルに沿った行動をとるにあたり、子ども達への指導や声掛けが不十分であった。	マニュアルについて再度、確認・周知を行い事故予防を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	遊具、地面共に破損や濡れ、汚れ等はない状態であった。	怪我防止の為、園庭にはゴムチップを敷設している。	1.集団活動中・見守りあり	見守りの保育士数に対して、子ども達が遊ぶ遊具の設定数が多かった。	状況に応じて、使用する遊具を限定し見守りの強化を行う。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に座っている様子は落ち着いていた。降りようとしたところ、体勢を崩し右肘を立てた状態で倒れた。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くで見守っていたが、他児のトラブルを対応していた為、目をはなしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具の見守りや介助についていた為、対象児の動きを見ていなかった。	保育士が他のトラブル対応や介助の際に、全体を視野に入れることができていなかった。	見守りの徹底。鉄棒からは手を放さずに降りるよう声掛けを行う等、注意喚起を行う。	
9858	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38			9	8	11	10		5	4	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼、外傷性歯肉裂創、外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置		十分な人員配置で見守っていた。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		地面の凹凸もなく、蔽遮するものもなかった。	1.集団活動中・見守りあり	動線が分かりづらかった。	子どもたちへの遊び方の確認をする前に事故が起きてしまったため、園庭に出る前に遊び方を周知するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ボールを追いかけていたため、周りに気を配る余裕がなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員そばのすべり台の子どもたちに注意をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが一定距離を置いて、それぞれの場所にいた子どもたちの安全を見守っていた。		職員の立ち位置、視線の方向を再検討する。常に全体が見える方向に体を向ける。時間やスペースで区切って、園庭を使用するようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9859	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		平面地を通常歩行している状況で、けがの要因、改善策がない	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		平面地を通常歩行している状況で、けがの要因、改善策がない	1.集団活動中・見守りあり		平面地を通常歩行している状況で、けがの要因、改善策がない	1.いつもどおりの様子であった	点呼の後、２分くらいでお迎えが来て帰った	2.対象児の至近で対象児を見ていた	名前を呼び、園児を確認していたが、異常があったとは気づかなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	13名全体を見ていたが、異常があったとは気づかなかった。	けがをした瞬間がわからなかったため、対応できなかった。	痛いところがある場合は大人にすぐに伝えることを子どもたちにわかりやすく話していく。	
9860	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	42							0		2	2	18.6歳	1.男児	関連はありません	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	本人の前方不注意により前にいた子供にぶつかり転倒	前方を見て歩くことを注意する。	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	歩道から公園へ入る際、階段が4段ある（上がる）	スロープがあるので、スロープから入るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	保育士の人数が少なく、監督不足であった。	公園入口に監督する保育士を配置し、安全確認する。	1.いつもどおりの様子であった	毎朝の流れで公園の外周を走りその後公園内を歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	2列で並んで歩いており、前方の子供に気を取られており気付いた時は転んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたが転倒の瞬間は対象児を見ていなかった。	日頃から転びやすい（家庭でも）児童だが、前方にも注意が足りない、登園時刻も遅い。	当園時刻を早くしてもらい、体が整った状態で運動する。前を見て走る・歩くよう注意をする。	
9861	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35	0	0	0	13	11	11	0		5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折（骨の変形）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	正しい遊具の使い方が、子ども達に伝わっていなかった	園児たちへの正しい遊具の使い方の再確認	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月		マークを付け、飛び降りて遊ばないことを目で見てわかるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	他児を援助していた際、視野が狭くなってしまった。	固定遊具には職員が必ず側につき、全体を見る職員も１人いるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	前の子が飛び降り、それを見て真似をしたため	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジャングルジムの反対側で、他児の援助をしていたため、対象児が飛び降りるのに手を差し伸べられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちが降園し、人数が少なくなったため園庭の片づけを始めていた。	子どもの動き全体を見る保育士が必要であった。	園庭など屋外活動中は、子どもの人数が少なくても複数で保育をする。また状況に応じて、応援を頼む。	
9862	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	左眼球打撲傷・左結膜擦過傷・左網膜振盪・左結膜炎	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		遊具等を使った活動である場合は他の職員に補助に入ってもらう。安全が確保できない状態であれば活動の内容を変更する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	色水用のバケツが活動の場から少し離れていて、バケツまで筆を持ったまま移動した。	活動をしている子どものそばにバケツを用意し、道具を持って移動することがない設定にする。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの見守りをしていたが、すぐそばに（止められる距離）についていなかった。	筆（道具）を持っている子どものそばには職員がつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	色水を作るための容器を探して絵の具あそびをしている周辺を行き来していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	絵の具あそびをしているグループ全体が見える位置にいたが、たたかれた瞬間手の届く(距離にいなかった。（３ｍ程離れていた）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員同様、絵の具あそびを見守っていた。	人数的には基準を満たしていたが、道具を持つ子どもの行動を予測してすぐそばにいなかった。	１名は必ずすぐそばでトラブルを回避できる距離につく。	
9863	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52					32	20			4	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	母指基節骨骨折骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		職員配置は基準を満たしていたが、リレー前にまわりで遊んでいる子の遊びを制限することも必要だった	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		雨が降り、園庭の砂が削れている所もあったため、早めに砂を足してならす等、整備が必要だった	1.集団活動中・見守りあり		リレーの場合はコーナー等に職員がついて見守る。	1.いつもどおりの様子であった	リレー中、アンカーとして走行していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２０メートル程離れた所で、本児が走る姿を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任同様、リレー中の子どもを見守っていたが、本児を見てはいなかった	人数的には基準を満たしていたが、子どものすぐそばにはいなかった	各コーナー（カーブ）に見守りの人がつく	
9864	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	0	0	0	15	18	17	0		5	5	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上 前歯 抜ける	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	午後からの園庭遊び、固定遊具の遊び方が共有出来ていなかった。	園庭での遊び方の確認・共有をする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	午後の園庭遊び、13：30～14：15までの時間遊ぶ。園庭には、3、4、5歳児50人が遊んでいた。ブランコ、ジャングルジム、鉄棒が、三輪車、滑り台など。本児は鉄棒で14：00頃後追が始める。隣に年長児が足掛けまわり始める。豚の丸焼きにて、ぶら下がっていた本児の顔に足が当たる。本児一人で遊ぶよう声かけが必要であった。年長児には本児が戻ってきたら、遊ぼう待っとくにすると良かった。	豚の丸焼きなど、鉄棒全体を使用する遊びは、隣で遊ぶ事はせず、終わってから遊ぶようにしていく。鉄棒や園庭での遊び方を確認していく。	3.個人活動中・見守りあり	遊び方の確認がしっかり行えてなかった。	園内ルール、遊び方の確認、保育士の援助配慮の確認をする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で豚の丸焼きをしたかった為	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	鉄棒の反対側で対象児の様子を見ていた。そこにもう一人園児が来て足かけまわりを始めた。足が滑りあがる瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具、その他の遊びを保育士が一人ひとりついていた。近くで滑り台にいた保育士がすぐに駆け付けるが、とっさの事だったので間に合わなかった。	固定遊具、園庭遊びにおいて、細かく遊び方の確認ができていなかった。	遊び方の細かい部分まで確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面									環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	状況	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		アルの有無	実施頻度【回/年】				【回/年】	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9865	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)		6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕頸上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置		事故予防について、研修を行う。今回は体育活動の中での事故だったので、体操教室の講師にも協力を求め、安全な補助あの仕方を学ぶ。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		今回の怪我については、跳び箱やその他体育用品の影響によるものではないが、今後も使用前に安全を確認することを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり		助走の距離を適切に取れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児の様子はいつも通りであった。上記の通り、普段より順番が来るのが遅かったため「早く跳びたい」と気が急っていたことが予想される。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の横につき、何かあったときには補助ができるよう待機していた。		担任が一人で保育していたため、他の職員はいない状況。	跳び箱は体操教室で主に取り組んでいた。体操教室では講師と担任の２人体制となる。その時には比べて多少待ち時間が長く、子どもたちは早く跳びたいという気持ちになっていたと考えられる。	体育的な活動をする場合は、何かあったときの対処のためにも複数で保育を行う。	
9866	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)		5.4歳児クラス	8									3	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.基準以上配置	本児はかなてよが跳び箱が上手であり4段をまず跳んだ。跳べない子がいたため段にしたことよりが本児は4段の勢いで跳んだのではと考えられる。低い段から高い段にしていたら事故は未然に防げたのではと反省し、段を低くしたときはしっかり今以上に伝える必要がある。	指導員と職員間で当日行う運動に関して起こりうる危険を予測し、今以上に共有のもと安全に配慮しながら行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		活動前の器具の安全点検を継続して行う。また一人一人の園児に対して、健康状態の把握・安全に配慮しながら職員共有のうえ保育を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	高い段から低い段にするのではなく、低い段から高い段にするか、跳べる子はそのまま待機して他児の活動を応援する。跳べる子はそのあと段を高くし練習する。	運動遊びをする上での安全対策について再確認し、子どもたちには行動が変わるたびにしっかり伝え落ち着き焦らず安全に活動できるように伝えていく。、	1.いつもどおりの様子であった	大好きな跳び箱でとても自信があり4段を跳ぶことができた。３段にしたとき1番初めに跳んだ。3段にすることは伝えたが、４段を跳ぶ勢いで跳んだことによる事故と考えられる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	体操指導員は、他の園児の指導に当たり、近くから本児の跳ぶのを見ていた。跳び箱のところにいた職員も一瞬のことで事故を未然に防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス担任は本児の至近距離で安全を図りながら対応していたが、跳ぶ勢いが強く着地したときにかばうことができなかった。他の職員も跳び箱の近くにいたが間に合わなかった。	跳び箱の段数を4段から3段に下げることにより、子どもたちには伝えたが、伝え方が足りなかったと考えられる。	高い段から低い段にするのではなく、低い段から高い段にするか、跳べる子はそのまま待機して他児の活動を見また跳べること跳べない子に分ける。	
9867	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)		6.5歳以上児クラス	16									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		子ども達の怪我をしやすい状況についての研修を行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	屋上園庭でリレーを練習していた。通常の園庭よりは狭く遊具の外側を回って走るようにしていた。	リレー活動は広い死角にない場所で行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達は競争心が煽られるので、走ることに一生懸命になってしまった。逆に保育士はバトンタッチの方に集中してしまっていた。	練習のねらいを明確にして走ることを目的とせずにバトンタッチの練習をメインに行うとよかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気いっぱいの上、リレーの競争心も強く芽生えていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋上園庭で運動会に向けてリレーの練習をしていた。バトンタッチの補助をしながら対象児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任保育士と一緒にリレー競技練習の補助をしていた。	バトンタッチの補助に保育士の意識が取られてしまった。	活動内容によっては保育士の人数を増やす配慮を行う	
9868	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)		5.4歳児クラス	28									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	跳び箱の高さを子どもに応じ検討したり、飛ぶ際の慎重さを、子どもたちに伝えていく等の対応を行う。	こどもたちに十分飛び方を説明し、ケガがないようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の跳び箱からのジャンプによる事故を受け、着地時の衝撃吸収のため、マットを厚くする対応を行った。	1.集団活動中・見守りあり	タンバリンの高さが高いと、子どもが興奮したり、気持ちがたかぶりやすいのではないか、タンバリンの高さはあまり高くない方が良いのではないかと考えた。	今回の跳び箱からのジャンプの際の事故を受け、飛んだあとに叩くタンバリンの高さを低くする対応をした。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず、元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児がタンバリンを叩けるような位置に待機していたため、つまずいた際に支えることは難しかった。		他の職員はいなかった。		子どもたちに慎重に飛ぶよう、一人一人に声かけをする。	
9869	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)		4.3歳児クラス	27									2	2	16.4歳	1.男児	特になし。天候：晴れ	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上Aの外傷による歯牙脱落	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	普通に歩いていただけだが、思いもよらない事故につながることがあるので、気を付けて子どもたちの様子を見られるようにしていく。	マニュアルはあるが、事故予防についての詳細なマニュアルがないので、今後作成していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12～16)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12～16)回/年		今回、床につまづくようなものを放置していた事故ではないが、床に不要なものを置くなどの行為はしない。	1.集団活動中・見守りあり		今回特に子ども達が、騒いでいたわけではないが落ち着いて行動出来るよう、その都度声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊び後、帽子をロッカーに入れ歩いて手洗いに向かっていた。途中でつまづき、その拍子に机の角に口が当たった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	戸外遊びから保育室に戻り、手洗い場に1名、入り口付近で子どもの対応に1名つく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外遊びから保育室に戻り、手洗い場についていた。入り口付近で子どもの対応に1名つく。	入室のもれがないよう、人数の確認しながら入室を促す入り口付近と、手洗い場についていたので、本児のすぐ近くに職員がいなかった。	入室を促す所と手洗いについていた為、本児のすぐ近くに保育士がいなかったことが、一因でもあると思うので今後気を付けるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面										ハード面								環境面				人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																							
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9870	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29								2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	朝の自由遊びの時間、子ども４～５人ボールを追いかけて他児と接触し転倒した。	朝の活動前に十分に体を動かすようにする。職員が危機感を持って複数名で見守ったり、園児に安全の知識が身につくよう指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		日頃の点検に加えて、園庭の地面の段差や砂の量等、園庭に出る度に危険が無いかを確認し安全点検をする。	3.個人活動中・見守りあり	他クラスの子どもは園庭におらず、子ども達は思い切り走り回る子もいた。	保育士がさらに、危険を察知したら声掛けをするなど、すぐに対応できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児は激しい動きではなかったが、友だち数名とボールを追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見渡しており、本児が転倒した時に側にはいなかったが、倒れた瞬間は見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体調がすぐれない子どもがいた為、保育室に戻っていた。		危険を感じたら、停止や注意を促すなど安全管理に努める。急な対応に備えて複数人で見守るようにする。	
9871	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10				2	4	4		2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	対象児の担任ではなく、未満児の担任が保育をしていた。	保育士が1名しかいない場合は全体を見るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	冬場の夕方戸外遊び中だった為、少し薄暗かった。	冬場の戸外遊びでは、薄暗くなったら早めに室内保育に切り上げるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこに集中し、全体を気にかけてみることができていなかった。	その場に保育士1名のみの場合は緊急時すぐに対応が出来るように全体を見れるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	対象児は保育士と他の園児とともに、園庭で鬼ごっこをしていて、やや気持ちは高揚していたと考えられる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭で5歳児数人と保育士で鬼ごっこをしていて、対象児を追いかけている状態だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には保育士1名しかおらず、他の保育者は室内保育をしていた。	対象児の担任ではなく、未満児の担任が保育をしていた。	保育者がその場に一名しかいない場合は全体を見るようにする。	
9872	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	5								3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足薬指第4指 甲を骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	その都度実施	1.基準以上配置	午後からの戸外遊びは担任以外の職員も保育を行うので、子どもの姿の捉えが弱くなる。	戸外で保育を行う職員間でよく連携し、分散して子どもを見守り、すぐに声かけや対応ができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	園庭に砂利や凸凹があるため、滑りやすかったり、つまづきやすかったりする。	定期的にトンボをかけたり、凸凹補正をして園庭整備をする。	1.集団活動中・見守りあり	午後の戸外遊びの玩具が少なくて、子どもがやりたい遊びを見つけることに時間がかかった。	子どもの姿を予想して、興味・関心がすぐに持てる環境構成の準備をする。	1.いつもどおりの様子であった	何をして遊ぼうか？と園庭を右往左往していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	運動器具で遊び始めている子に付き添っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたが、本児と近い場所にはいなかった	戸外遊びの始まりは、子どもの行動も定まっていないので、保育者も視野も定まらない。	保育にあたる保育士の役割分担を行い、ある程度子どもの遊びが定まるまでは、全体の子どもの動きを見渡す保育士の存在を作り、他職員や子どもへの声かけをする。	
9873	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	4	6	4	2	2	2		23	20	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	降園時間で、お友達も少なくなってきた為部屋が広く使え走ってしまった。	降園間際は、落ち着いて過ごせる遊びを工夫しなければならない	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年 程度 ※開園時は毎日確認している。		老朽化しているものについてはできるだけ更新をしていく。	3.個人活動中・見守りあり	常に事故を予想しながら行動を見守らなければならない。	保育士同士の連携を強化する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	降園前で、いつも以上にはしゃいでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びを提供した保育士がそばで見守っていたが、動きが早く手が出なかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐに駆け寄り、一緒に、介抱した。	常に元気のよい子ということはわかっていたので、想定した遊びを提供すればよかった。	事故を想定し遊びを工夫することを、クラス担任と、園全体でも話し合う。	
9874	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		2	10					3	3	14.2歳	1.男児	居残り保育時間に、10人程度で立ち上がってテレビに合わせて体を動かしていた。密になってはおらず体も当たっていなかったが、フローリングの上で、靴下をはいていた為滑りやすく、バランスを崩す原因になった。	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折 左足関節捻挫 左足部捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	立ってテレビを見ている場面での危機意識が弱かった。	園内研修を行い、日常の保育において、どの時間帯においても、危機意識を高めることができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(400)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	友だちと一緒にテレビを見、歌が流れることにより気持ちが高揚し、友だちの様子を感じながら、体を動かしたくなってしまった。	テレビを見る時は、必ず座ってみるよう習慣づけていく。	3.個人活動中・見守りあり		窓内では、靴下を脱ぐこと。テレビを付けている時は、座る位置を特定できるようにマットを敷き、座ってみるよう意識できる環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	10人程度が、立ってテレビをみながら体を動かしており、その場を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は、畳コーナーで遊んでいる園児を見ていた。もう1名は、1名の園児を保育室内にあるトイレに連れて行っていた為、対象児を見ていなかった。		職員が全体を把握しながら、事故の起きそうなところを予知しながら、常に立ち位置を考え保育していく、、	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9875	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29	2	6	6	4	4	7			9	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員間でヒヤリハット・事故報告書などの話し合いを共通認識できるよう時間を作っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	所庭の状態（固さや滑りやすさ）	建設業者と相談	1.集団活動中・見守りあり	陽が暮れるのが早くなり、それほど暗くはなかったが見えずらい点もあったのではないか	夕方の早めの入室を行っていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	部屋の前で手足を大きく振り、体を動かすことを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	側で転んだ様子を見ていた。すぐに対象児の声を聞き、痛みのある部位をチェックし、いつもの様子との違いを確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは入室中だったが、泣き声を聞き様子を見に来る職員もいた。	乾燥による所庭の滑りやすさと、足のもつれ	所庭の状態の改善。本児の足のもつれ方や転びやすさの原因を探る。	
9876	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				12	13	12			4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員配置の不備は見当たらない。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		施設、設備面での不備は見当たらない。	1.集団活動中・見守りあり	遊びが激しくなり、園庭のコンクリート部分を走ってしまい、転倒につながった。	遊びの様子をよく見て、状況に応じて声をかけ、安全に遊べるようにする。また、子どもと遊びの約束を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	自由あそび時、追いかけっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友達と一緒に楽しく遊んでおり、離れたところから遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その時間は合わせて37人の子どもがいたため、職員は分担しながら子どもの動きに目を配っていた。		引き続き、子どもの動きに常に目を配っていく。	
9877	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									3	3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲（前歯）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	加配児1名は、多動のため必ず1名の職員ついて指導にあたり、フリーの職員をも1名配置し安全確保は怠らない。	いかなる時も2名以上の複数担任を配置して安全対策を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(3 6 5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3 6 5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	英語教室で動きのある活動の際は、動く距離の予測等打ち合わせを密にして、最初からスペースを確保すべき配慮が必要となる。	園児が動くスペース確保の確認。バルーンに対する人数制限の配慮の必要性。	1.集団活動中・見守りあり	楽しさが盛り上がった際の動きの変化に早く気付いて動きを止める等、転倒を防ぐ手立てを図る。	年中としての成長発達の振り返り、動きが激しくなることの予測の再認識をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は、マイペースで給食などの進み具合は遅いが完食まで根気よく食べる。動きとしては、機敏さはあまり見られないが運動面は標準的に発達している。その活動の際は楽しさを味わいつつ動きの激しい児に押されてしまう。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	英語講師1名、担任2名、フリー1名で、見守りの体制は十分とされていた。スペースを開けるよう配慮はしたものの予測以上に大きな動きが起きてしまいパニングとなる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	フリーの先生の対応で、その場の園児を担任に任せて、怪我を起こした児を医務室まで移動させる手立てが図れる。	英語での学習で大きく動きを取り入れる際のスペースの再確認をする。	事前打ち合わせで、安全対策を図ることで実行に移す。	
9878	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～5)回/年	2.基準配置		午睡後の外遊びの時は主任保育士も見守るようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(約290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約290)回/年		今回の事故は施設設備等は特に改善の必要なし。	3.個人活動中・見守りあり	午睡後だったので、体の動きが不十分だったかもしれない。	午睡後は、激しい運動は控えるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	体調に変わりはなく、午睡後園庭で走り縄跳びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近で対象児童ほか、１５名を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	障害児加配のため、室内で着脱を手伝っていた。		見守るだけでなく、気を付けるように時々声をかけるようにした。	
9879	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105		20	10	26	25	24			11	11	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		園庭での見守りを継続	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		上記３点の安全点検表は現在無いので、法人会として義務付けが必要。	1.集団活動中・見守りあり		各遊具の見守り職員、子どもと遊ぶ職員等の差別化した配置が必要だが、法人としての義務付けが無いので今後は必要。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	瞬間的に起こった案件のため、事故後に対応をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭に105名の児童が遊んでいたため、対象児童を事故後に発見した。		各遊具の見守り職員、子どもと遊ぶ職員等の差別化した配置が必要だが、法人としての義務付けが無いので今後は必要。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9880	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4		2		1	1			2		2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指つけ根骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	職員の配置、立ち位置については問題ないと考えられる。	子ども４名につき問題なし	1.定期的に実施	実施頻度⇒毎日	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度⇒毎日	本児が回転して楽しんでいたので、転倒したときに物にぶつかったりしないよう周囲には何も置かないよう配慮した。	マットも敷いてあるので設備的には問題ないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	保育の状況に問題はないと考える。	床の上ではなくマットの上で回転するなど声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	天井を見てぐるぐる回り楽しそうにしていた。歩行も安定し、走れるようになったり体を動かすことを日々楽しんでいるので、成長の過程で回転を楽しんでいると考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	楽しそうに回っていたので少し離れたところから見守っていた。目が回りそうな際は声をかけ止めようとしていた。転倒した際、手を出し止められる場所ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児は4名だけだったので、掃除をおこなっていた。	転倒した際に止められる位置にいたほうがよかった。	楽しそうに体を動かしていたのでは無理に止めることはできないが、止めるタイミングについては個々に合わせて対応していく。転倒することも考え手を出せる位置で見守る。	
9881	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42	6	10	5	7	9	5	0	6		6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左下顎頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		転倒の際、自分の身体を支えられるよう、リズム体操や雑巾がけを行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	怪我発生時、今回の怪我に直結するような危険個所は無し。	日々の点検を継続し危険を確認した場合には、危険個所を封鎖する対応を行う。	3.個人活動中・見守りあり		引き続き、死角の無いように保育士の配置を行う。	1.いつもどおりの様子であった	追いかけっこをしていて、逃げようとした際にバランスを崩して転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見るスタッフが、本児から離れた場所から転倒した児を発見。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる他児と一緒に遊んでいた。	全体を見渡す監視役の職員、子どもに関わる職員で役割分担をして保育している。	引き続き、役割分担を徹底し保育を行う。また、職員同士の声掛けを増やす。	
9882	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18								3		3	17.5歳	2.女児	雲梯にて、右手で縄をつかみ、左手を離して移動しようとした際に、右手が滑り転落した。体が傾き、左ひじから手首にかけて地面につく。発育発達状況は良好。天候は曇りであった。担任が1名すぐそばにいたが支えきれなかった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(橈骨遠位端骨折)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	マニュアルには固定遊具で遊ぶときは職員が必ず付くとあるが、うんていに関する記載がなかった。	マニュアルの見直しを行い、全職員に周知をした。「マットを敷くなど、万一落下した場合でも大けがにつながらないよう環境を整える」「左右に体が揺られた状態で落下することがあるので特に気を付ける」を加えた。「応急処置簡内研修」（●月実施）の際にてマットを敷くこと」として改善したことを職員間で確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	固定遊具には不備はなかったので特になし	引き続き固定遊具点検や園庭遊具の安全点検は定期的に実施していく	1.集団活動中・見守りあり	職員配置人数及び配置場所にも問題なしと考えられるので特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	昨日は途中までしかできなかったうんていを「見てて」と言って行っていた。もう少しで最後までいかれるところだった（あと２本くらい）	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	当該児のすぐそばにいた。がバランスを崩した子を咄嗟に支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	雲梯には４，５人子どもがいて落ち着いて順番を待ち遊んでいたので他児が虫取りをしているところに付いていた。	あと少しで達成できるところまできていて、大人も子どもも気が緩んだのかもしれない。バランスを崩すと体が揺れる事も配慮しながら補助につできた。	固定遊具あそびは最後まで、しっかりと「補助につく」ことを、文書で職員に周知を行った。全体職員会議でも議題にする予定でいる。	
9883	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19	0	0	0	12	7	0	0	3		3	16.4歳	2.女児	幼児ｸﾗｽ担任保育士3名が運動会の下見のため外出していた。そのため、主任保育士とフリー保育士2名で子ども達を園庭で遊ばせていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園庭を使用する上限を幼児クラスは14名（1クラス分）としていたが、異年齢保育で人数を超えていた。園長不在のため主任が対応したが、職員の間では不安や混乱が生じた。	園長・看護師不在時の対応を園全体で確認する。また、職員が安全環境を常に意識できるよう、園内のルール及びマニュアルの周知を再度行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回はハード面で特に問題は無かったが、常に事故防止を意識出来ていなかった。	安全点検が形骸化しないよう、具体的な点検方法を確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	通常と違う人的環境で、子ども達が落ち着かなかった。	人的環境が変わった場合は保育環境を変えずに、室内での合同保育を実施し安全を確保していく。	1.いつもどおりの様子であった	前を見ずに走っていたため、他児とぶつかってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒につきながら、全体を見ていた。	担任保育士の不在、園庭での合同保育。	通常と違う人的環境でのリスク管理が出来ていなかった。	
9884	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	0	0	0	0	24	29	0	4		4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上肢骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	保育士の配置基準等みたしており、園内でもヒヤリハット事例などの話し合いを月に１度行っている為。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ビールケース等の可動遊具について、どんな危険性があるかなどの把握が職員によって様々であった。	職員全員で遊具に関しての危険度の共通理解	1.集団活動中・見守りあり	目が離れやすいことに関しての意識が薄くなっており、また周囲の子どもの動きの把握ができていなかった。	職員全員で環境の見直しをするとともに、危険な箇所、時間等の把握をする。	1.いつもどおりの様子であった	片付けの時間になったが、まだ遊び足らず色々な所で動き回っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くの砂場にいたが、玩具の片付けをする為本児に背を向けてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが色々な場所にある玩具を他児と一緒に片付けており、目が離れた。	各保育士がそれぞれ片付けをしており、お互いに声を掛け合ったり、周囲の子どもにも気を配ったりする意識が薄かった。	職員全員で怪我の経緯を共有する事で、それぞれが常に子供の動きを意識できるように話し合った。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9885	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	—	—									—	—	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎挫創、創傷感染症、下顎部皮膚潰瘍、下顎創傷感染症	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	特になし	まわりをよく見て行動するように伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	子どもたちが安全に過ごせるように、園内の怪我が起こりやすい場所を再確認し、職員間で共通理解をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外照明の向きを変えるなどし、段差があることがわかりやすいようにする。	1.いつもどおりの様子であった	保護者と手をつないで歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保護者に引き渡し後であったので、保護者と手を繋いで降園する様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡し後であったので、保護者と手を繋いで降園する様子を見守っていた。	特になし	保護者にも、安全に気を付けて登降園してもらうようにする。	
9886	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51				18	16	17			2	2	16.4歳	2.女児	全治４週間の剥離骨折（１週間の添え木固定と超音波治療、３週間のギプスでの固定）。患部（右足首）の足は床に着かないよう（体重が掛からないよう）、園生活で留意が必要。松葉杖を利用しての歩行となる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員は、常に子どもの全体の様子が見守られるよう お互いの配置場所を確認する必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(45)回/年	特になし	園庭に出る際には、危険個所、怪我に繋がる箇所がないかの確認が必要。	1.集団活動中・見守りあり	園児各々が自由に遊んでおり、個々の動きで無く、全体の動きを一定の場所で見守っていた。	危険や死角になりがちな場所に留意した見守りが必須。必要に応じては遊ぶ箇所を確実に見守れる範囲に限定したり、集団で決まった遊びを一緒に行う等、考慮する必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子が見られる。特筆すべき様子は無く、元気に友達と遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任保育士は休憩中であった為、保育から離れていた。1歳児担任保育士が見守りを行っており、園庭で園児全体の遊びや動きを見守っている状況だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他１名の保育士も上記同様、全体の園児の姿を見守り、一緒に遊んでいる状況だった。	園児から「骨が鳴った」と報告を受けた際に確認はしたが、担任や施設責任者への報告が遅れた事により、万が一の状況を想定した早急な処置を怠ってしまった。	園児全体を見守りつつも園庭で怪我が起こりうる場所や天候によっての地面の異常等を確認し、必要に応じて整備が必要。	
9887	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	73				19	27	27			5	4	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右 鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	地面で石でごつごつしておりたいらな場所ではなかった。	転ばないように平らな場所で遊ぶ。足元はしっかり気をつけるように声掛けする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと走っていたが特になく普段通り。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の子ども達の動きを見ながら近くの子どもの対応。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	上記と同様。	特になし	足元に石や木の枝などが落ちているので転びやすいことを事前に注意すべきだった。	
9888	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		跳び箱に取り組む際に気を付けることを、活動前に確認しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年		使用する前に再度その用具に不備なところなどないか点検する。	1.集団活動中・見守りあり		跳び箱、マットの位置、おき方など常に確認しているが、更に気をつけてみておく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず、跳び箱跳びに挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもが跳ぶ跳び箱の側に座って、跳んでくるのを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外は各クラスで保育をしていた。		普段の姿から気をつけた方がいいことがあれば、跳ぶ前にも声掛けをしておく。	
9889	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									3	1	18.6歳	2.女児	3歳までに熱性けいれん(2～3回)あり。●●病院・●●病院を受診している。以前通っていた保育園では、園を挙げていた。●●病院では就学までに熱性けいれんが起きれば、脳波の検査をした方が良いと言われていたが、その後は発作もなかった。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		1.意識不明		熱性けいれん疑い	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	6.食事(おやつ)中	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	おやつを残して、途中でやめた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	配膳台の前にいて、本児が配膳台へお皿を持ってくる様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしていた。	特になし	特になし	
9890	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	60				20	20	20			15	8	17.5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員へマニュアルを再度周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	使用するボールの大きさや硬さを適したものにして安全に活動できるよう注意する。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの動きの見極めをしっかり行う。	子どもは常に予想しない動きをするため、再度しっかり理解しておく。	1.いつもどおりの様子であった	対象児のしたい遊び（好きな遊び）をしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	一緒にやろうということで行う。対象児が「高く上げて」というので応じる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んでいて見ていなかった。	特になし	子どもは常に予想しない動きをするため、再度しっかり理解しておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																													
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他																																						
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所											教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9891	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	18.6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	該当なし	急がず、歩いて片付けに行くような声掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	本児好奇心旺盛で何事にも意欲的に取り組み、楽しんでいる。事故発生時も普段と変わらない様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	片付けの声掛けをし、遊戯室の中央あたりで全体の子どもたちの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ソフト積み木が片付けられている場所から全体の子どもたちの様子を見ていた。		該当なし	日頃から片付けなど活動の合間は急がず、ゆったりと行動できるように慌てさせず、言葉かけなどをしていく	
9892	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	50	0	0	10	10	15	15			8	6	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	重ねられた大型カラー積み木に1人で上った。	朝の自由遊び中は複数の保育者がいるため、全体を監視する、園児のそばで見守るなど、役割を明確にした監視体制を強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	重ねられた大型カラー積み木に1人で上った。	高く積み上げた積み木には上らない。	3.個人活動中・見守りあり	自由遊びは、解放感があって注意力が欠けることがある。	重ねた大型積み木に上ると転落の危険性があるため、十分に注意して遊ぶことを伝える。バランスが悪くなり危険なので高く積み上げすぎないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	高く積み重ねた大型積み木に上って遊んでおり注意されて下さされたが、その直後に別の積み木に上り落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児に声をかけ下ろしたあと、すぐそばで、他の園児の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内で、他の園児と遊んだり、他の園児を見守っていたり、登園してきた園児の対応を行っていた。	保育士は、一度高く積み重ねた大型積み木に上っていた本児に危険性を伝え下ろしたが、直後別の積み木に上り転落した。園児は少々危険でも好きな遊びは繰り返すことの認識が不足した。	園児は少々危険でも好きな遊びは繰り返すことを念頭に、園児の動きを想定しながら見守る。	
9893	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		現状通り職員間で安全管理対策マニュアルの周知徹底	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年		定期的安全点検の継続	1.集団活動中・見守りあり		児童の遊びの内容により変動するが、死角になる部分がないように保育士間で連携しながら常に立ち位置を考慮判断する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	追いかけっこをし、じゃれあいをした際の転倒。直ぐ側に居りその様子を見ていたので、靴下を脱がせ即足を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児以外の児童の行動、遊びの見守り。		保育活動中の転倒など、保護者への状況報告と帰宅後の様子確認。	
9894	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	5		1		1		3			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		全ての保育時間において、適正な職員配置を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		継続して環境面の安全点検を丁寧に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		常態的に子どもの動きを確認し、見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	日中は、すべての時間帯においていつも通り生活していた。普段から小動きをしたり、突然走り出す姿が見られた為周りには気を付ける行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士の選番2名体制で保育しており、その時間帯にいた子ども全員がまとまって遊んでいたため、保育士の視界に全員入っており、側で見守っていた状況であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	常勤職員（早出1名）は室内で退勤の準備をしていた。		異年齢で常に生活し遊んでいるので、子どもの様子や遊び方、状況に応じた声かけや指示、配慮が更に必要である。	
9895	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				6	13	5			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫・左足関節拘縮	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	目標物（カラーコーン）に向かって、必死に走ってきたため。	遊ぶ前は水をまいたり、つまずかないように平らにしたりして、転倒につながらない対策をとる	1.いつもどおりの様子であった	いつも遊んでいる場で遊んでおり注意されて下さされたが、その直後に別の積み木に上り落下した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で一緒に活動を行い、児との駆け引きのやり取りをして遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人の職員は児と一緒に遊び、園庭にいた２人の保育士は他の活動の対応をしていた。		特になし	人数によって遊び方や内容を工夫していく	
9896	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				13	16	16			5	5	16.4歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	安全面の徹底が不十分だった。	遊具の安全な使い方を具体的に確認し危機意識を高めていく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	スロープ内へ入りやすい環境であった。	乗り物で進入できないようにプランター等でガードする。	1.集団活動中・見守りあり	安全な乗り方、遊具の使い方の伝達指導が不十分だった。	定期的に安全指導を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	片付け時間ではあったが、遊びたい気持ちが強かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭の倉庫付近で他児の片付けの対応をしていたため、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の世話、トラブル、片付けに対応していたため、見ていなかった。	担当職員がクラス全体把握が十分ではなかった。	担当職員、その他職員の役割を再度確認していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
9897	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	園児達の行動を考え、声掛け等をこまめに行う	園児達との遊びのお約束や保育者が予測を持った子どもたちへの声掛けに配慮する	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	園庭の雪状況の把握	園庭に出す前に雪状況を把握し危険予測を行い、子どもたちと共有し戸外へ行くようにする（施設、遊具、玩具等については定期的に安全点検を継続する）	1.集団活動中・見守りあり	天候が良く他クラスも園庭に出て遊んでいた為、雪も硬くなり、滑りやすかった事	遊びの場と状況を確認しながら、子どもたちへの声がけを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちと一緒にそりあそびや雪だるま作りを行っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は園児達が見渡せる位置（園庭中心部）で保育を行っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	片付けの際に、フリー保育士が補助に入る	戸外で遊ぶことで気分も高揚し普段の行動より更に活発な動きを見せていた。また仲良く遊ぶ中での過剰な一面もあったように伺える	安全に遊ぶための指導を日常的に繰り返し行い強化していく	
9898	令和6年3月21日	1.認可	10.事業所内保育事業（認可）	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7	2	2	3					3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	特になし	保育士の人数、配置には問題なし。引き続き子どもの動きをよく観察して保育する	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	固定遊具については、配置・設置に特に問題はなし。	走り回るときは、引き続き園庭の広い場所（遊具がない所）へ誘導したり、固定遊具については安全点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	本児が止まろうとしても止まれず、バランスを崩したことが要因ではないか。	保育の中で体幹を鍛えられるような遊びを取り入れ、体の使い方を知る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	●日～●日が閉所で自宅待機だった。●日は突風で戸外へ出られず、●日は朝から落ち着かず、保育室内を走り回っていた。危険を感じたため戸外へ出て体を動かしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	戸外へ出た時、本児が砂場用玩具を持って走り出すことしばしばあり、その時、物を持たずに追いかけっこをしていた。狭い場所で走り、その時児もおの危険であったため広い場所へと誘導した。本児の気持ちが興奮気味でなかなか注意しても伝わらず、危険だと感じ保育士は追いかけずに様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の遊びを見守りながらも、全体に目を向けていた。	自分で靴を履くようになり、マジックテープが少し緩めになっていたのではないか。厚手の服を着ているので、少し動きにくかったのではないか。	靴を履いた後は、保育士がしっかり止まっていることを確認する。厚着になりすぎないよう、動きにくくないよう調整する。	
9899	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	職員会議や朝礼終礼にて	2.基準配置	園生活に慣れてきた頃に事故が起こりやすい。	朝礼終礼、職員会議で職員で共有するように努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	業者の遊具点検は異常なし	子ども達の様子を見ながら、遊び方が安全か見ていく。	1.集団活動中・見守りあり	本児の遊び方は担任が以前から注意をしていた。	慣れた頃にケガや危険な遊びをしてしまうことがある。職員に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	以前から、中階段の屋根には乗らないことは担任から言われていたが、つい羽目を外してしまった。巻き込んだ時に腕を痛めた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	年長児が友だちと遊んでいる状況だったので、少し離れた所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児の遊びなので、安全という意識で過信していたのかもしれない	午後からの自由遊びの時間は休憩交代になる、連携不足に注意する	子どもの姿で気になることは、対応職員にしっかり伝えるようにする。	
9900	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57				20	17	20		4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	登降棒で遊んでいることを把握、見守りをしていたが、子ども同士の接触を予測できず転落時に対応できなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登降棒で園児が遊んでいることを把握していたが各自他児の対応、見守りをしていたため対応できなかった		特になし	
9901	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37								2	2	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	毎月ヒヤリハットに関する報告書の作成し、保育者全体で共有している。	見守り体制の充実	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	転倒した形跡もなく、今回の怪我の要因となる不具合は確認できない。	大型遊具足場周りのクッション材の設置、地面の凹凸解消	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守り体制の充実（ソフト面の改善策と同様）	1.いつもどおりの様子であった	園児「足が疲れた」→降園時、足を引きずって帰宅	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭の総合遊具周りをぐるぐる回って走っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	正規担任保育士のほか、非常勤保育士も園庭の様子は確認していた。	特になし	見守り体制の充実（ソフト面の改善策と同様）	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面						環境面			人的面													
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9902	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16	0	0	0	0	0	0		2	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右下A完全脱臼右下B/左下AB不完全脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊び慣れた遊具であったが、足元を見る、遊具から手を放さずに持つ等して慎重に移動していた。遊び区切りをつけようとやや焦る気持ちがあった。	遊び慣れた遊具であっても、焦らず行動するよう注意喚起する。	3.個人活動中・見守りあり	足元をよく見るよう注意喚起し、本児が意識を向けていたか確認をする。	遊び時には慣れから気持ちが緩む、楽しさで気持ちが高揚する、周囲へ注意がそれる等の子どもの状況や特性を把握する。転落の恐れがある遊具では注意を促し子どもの意識が向いているか確認する。	1.いつもどおりの様子であった	遊びの区切りをつけようとしていた時の気持ちの高揚感や焦り、慣れからくる気のゆるみがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具下で対象児とも1人の子どもを見ていたが、対象児が足を滑らせた瞬間に手を差し伸べたが、支えきれず、遊具への衝突は防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	総合遊具から離れた砂場で他児の遊びの様子を見ていた為、本児の動きは見ていなかった。	遊具下での見守りでは落下は防げるが、遊具への衝突回避の咄嗟の対応が難しくい。	行動範囲が広い園庭での子どもの見守りには、状況に応じて職員配置増ができる体制をとる。	
9903	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	14			4	5	5			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		安全対策について園内研修を行い、事故に対する意識向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		事故に発展する可能性のある問題点を把握し改善する	1.集団活動中・見守りあり	子どもの遊ぶ動線から事故につながる可能性のある危険な箇所に入らないようにラインを引く。また、遊び前に約束事について子ども達と話し合い事故を未然に防げるようにする。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムで遊んでいる子どもに付き添いながら、園庭で遊んでいる子ども全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコに乗っている担当支援児に付き添いながら、園庭で遊んでいる子ども全体を見ていた		保育士間で子どもの状況や保育士の配置場所を確認し合い、子どもへの言葉かけや指導を行うと共に安全確認を行う	
9904	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39			12	15	12			2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第５趾骨折（骨折との診断は●/●）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	１人で全体を見る必要がある為、咄嗟に止めることが難しかった	危険な遊びをしている子ども達には、事前に使用方法を注意喚起する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	パイプ椅子使用時のリスクを考慮し周知する	1.集団活動中・見守りあり	色々な場所で様々な遊びが展開されている	遊びごとにスペースを分けるなど環境づくりに留意する	1.いつもどおりの様子であった	他児と椅子を使ってごっこ遊びをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	退勤職員と引継ぎをしながら全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の部屋で保育をしていた	子ども達の運び方で、椅子が倒れて当たるリスクあり	室内での遊びで椅子の使い方を再度子ども達に確認する	
9905	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				9	5			2	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指の亀裂骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(13)回/年	1.基準以上配置	ヒヤリハットの提出はあるが、十分に活かされていない。	今回の事故内容を全職員に周知し、事故防止に努める。ヒヤリハットや主管課から情報提供される事故例を十分に活かした研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	使用した手作りボールが45Lのビニール袋に新聞紙を詰めたものであった。手作りボールの袋にたるみがあり、指が絡まり怪我をした。	手作りボールにテープを巻くなどし、袋がたるまないように工夫する。手作り玩具を使用する際には安全に使用できるよう最善の注意をはらう。	1.集団活動中・見守りあり	手作りボールを使用し、いきなり激しい動きのある活動に取り組んだ。	投げる活動の前に、動きが緩やかな活動から始め、手作りボールに慣れさせる配慮が必要であった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動遊びが好きな児童であるため、活動に意欲的に参加し強く投げようと思い、力を入れて投げた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童の対角線上で、他の児童の補助をしながら、児童の動きも見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	配慮が必要な児童がいたため、個別対応をしていて、その場にいなかった。	手作りボールは軽くて柔らかいので、安心して使用していた。怪我に繋がる事を考えていなかった。	手作り玩具で遊ばせる際は、安全に遊ぶことができるよう最善の注意を払い、見守るようにする。	
9906	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32			6	13	13			3	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆粒骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	保育室の清掃が終わり、保育士と一緒に広場に向かうが、途中より一人で走って広場に向かって行った。	落ち着いて広場に移動するように指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き遊具等の安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	遊びへの気持ちの昂ぶりが抑えられなくなっていた。	当番の時は、広場に行かず午睡に入る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当番が終わり、遊びたくてウズウズしていた。急いで広場に走って向かい、友達が遊んでいた大型積み木に登りジャンプをする。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	広場で遊ぶ子どもたちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で、清掃をしてまうことが多い。約束事が守られないことも多い。	衝動的に行動してしまうことが多い。約束事が守られなかった。	目を離さず行動を見守るようにする。繰り返し約束事を伝えていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9907	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									2	1	14.2歳	1.男児	天候…晴	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上の歯の外傷・下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	事前に、椅子の付近では遊ばないように声をかける事も必要。	行動の気になる子に合わせて活動や対応に配慮する。	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	行動の気になる子に合わせて活動や対応に配慮する。	椅子を片付けている付近では遊ばないように声をかけたり、椅子を置いている所にクッションやカバーを付ける。	1.いつもどおりの様子であった	居残り保育中、室内で遊んでいる時に不意に本児が走り出し、転んで保育室隅に置いていた椅子の背もたれに口をぶつける。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が見渡せる位置にいたが、本児とは離れていた為、急に走り出した本児を止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	居残り担当保育士の指示のもと、本児とは別の場所で他児と関わっていた為、対応できなかった。	室内で走ったら危ないということを繰り返し子どもたちにも伝えていく。	不意に走り出してしまい防げなかったが、椅子を置いている所にクッションやカバーを置くなど改善していく。	
9908	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットや事故後の検討会は都度行っているが、予防に関する研修は園内では行っていなかった。	様々な要因を想定し、事故予防の園内研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	点検後の気付き等の情報共有に不足がある。	職員会等で定期的に報告し、気づきへの対応を確実に行う。	1.集団活動中・見守りあり	事故が起こった場所は、園庭の端にあり死角になる場所だったため、保育者の立ち位置に工夫が必要だったと考える。	園庭遊びの時は、保育者は死角になる場所がないように、園庭全体を見廻せる位置に立つようにする。	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友だちと数人で、ボールを軸にして体を廻して遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故後に泣き出したりする様子がなく、室内に戻りいつも通りに遊んでいた。そのため、保育者は本児が怪我をしていることに気が付くことがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には他のクラスの保育者も居たが、本児の異変に気が付くまでには至らなかった。	本児からの痛みの訴えが無かったため、怪我に気が付くのが遅れた。	いつもと変わった様子がないか、園庭から教室内へ移動した際に全園児を観察して、気になる時は声を掛ける。	
9909	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	4									1	1	14.2歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼、外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	引き続き安全点検を遂行しながら、園児が安全に過ごせるように職員が連携しながら保育をしていく。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	園庭の安全確認を改めて全職員で行った。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒が景色と同化して気づきにくかった	鉄棒に目印をつけて目につきやすくした。	1.いつもどおりの様子であった	普段の状態と変わりなく元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故発生時、園児確認ができる位置にはいたが、一瞬の出来事だったため防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者以外の職員は、クラスの子どもに気配りしながら全体を把握し見守りをしていた。1名は排泄の失敗をした子どもの対応をしていた。	なし	日頃から安全面に十分配慮し職員間で確認し合いながら事故防止に努める。	
9910	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30									4	3	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～5)回/年	2.基準配置	特記事項なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特記事項なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	いつもは、やっていない正座をして滑り降りていた。	滑り方の約束を再度確認する。	1.いつもどおりの様子であった	午睡がなくなり、午後の時間についても、通り公園にて自由に過ごし、友だちと大型遊具のテーマ台で遊んでいた。何回も最速に滑っていたのだが、その時初め正座をして滑っていた為、転げ落ち顔を地面に打ち付けてしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	すぐそばで遊んでいる子どもの見守りをしていたが、災害が起きた瞬間は、大型遊具とは反対の方角で遊んでいた子ども達の見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの場所に分かれて、子どもと遊んだり、見守りをしていた。	特記事項なし	なし	
9911	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				10	13	16			7	7	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	事故防止マニュアルはあるが、固定遊具の遊び方については職員が共通認識し年度初めに子どもたちにクラスごとに指導するだけになっており、文章化したものはない。	固定遊具の遊び方について文章化し、各ミーティングで職員が周知徹底し子どもたちに危険な遊び方を含めた安全指導を定期的に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	片付けの時間も鉄棒で遊べる状況になっていた。	お休みカードをぶら下げ、視覚的に使用してはいけないことを伝える。	1.集団活動中・見守りあり	年中組、年長組が一緒に片付けの時間になり、保育士も子どもたちと一緒に片付け始めたので鉄棒で遊んでいる対象児への見守りができなかった。	片付けの時間も保育士が園庭全体を把握し、子どもたちが片付け始めるまで保育士も遊んでいる子への見守りは止めないようにし、声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	対象児はいつも通りの様子で鉄棒で数人の友だちと一緒に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士はブランコを片付けた後、他の子どもたちと砂場あたりで一緒に片付けをしていたので、鉄棒にいる対象児に声をかけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片付けに集中し他の保育士や対象児を把握していなかった。	保育士が自分の周辺の片付けに集中し把握できていない場所や子どもがいた。	時間差で年少組が早めに片付け、入室する際固定遊具全てにお休みカードをぶら下げ、使用できないことを視覚支援する。子どもと一緒に片付けをせず、園庭全体を把握し子どもを見守る職員を配置する。この保育士は園庭全体が視野に入る場所に立ち、ベストを着用し他の職員からも役割が分かるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
9912	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24			7	7	10			4	4	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	積み木の置き方の再確認	子どもにも不安定になって転ぶ場合があることを伝える	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	雨が降っていたため、ゆうぎしつで体を動かして遊ぶ。特に普段と変わった様子はない。	4.対象児の動きを見ていなかった	迎えに来た保護者に子どもの受け渡しをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他にも子どもがいたので、ゆうぎしつを全体に見てたが、転ぶ瞬間は見ていた。	普段からポケットに手を入れて遊びよく注意されていた。	普段から手を出して遊ぶように徹底する。	
9913	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	2								2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		職員全員がマニュアルを再確認する。事前に、活動内容と現場での職員数や、見守り方法などについて確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(約48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約48)回/年		活動前に、活動内容にあった場所の設定ができているかどうか（不要なものはおいてないかなど）を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	遊びを行う範囲の遊具等の設定方法。	事故現場の環境の見直しをし、遊具や運動用具の設置の確認し直す。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていて、追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の場所で鬼ごっこ全体の見守りをしていたが、災害場所は死角だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所でボール遊びの園児の見守りをしていた。	職員の活動への参加方法（見守り方法、立ち位置等）死角がある立ち位置。	事故の内容を職員間で共有し活動への参加方法（見守り方法、立ち位置等）を確認し直す。	
9914	令和6年3月21日	1.認可	7.小規模保育事業	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2		1	1					2	2	14.2歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折（腿）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	定期的に事故防止等の職員会を実施しているため。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	転んだ際にけがをしないように柔らかい物を設置する必要があった。	ゲートにクッション性をもたせた。	7.その他	お迎えがきて興奮状態だったため気持ちと行動が一致せずころんだ。興奮しているのを知っていたが、ゆっくり行こうねや手をつなぐなどの対応がなかった。	ゲートを渡る際は手をつないで渡る。落ち着いて通過できるような声かけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	お迎えが嬉しくて、興奮していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児よりも先に通過し、ゲート裏で見守っていた。手の届く範囲で見守っていたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の園児の送り出しの為玄関でいた。	本児が転ぶことを予測せず、職員が先にゲートを通過した。本児が興奮していたので、歩いていて欲。手をつないでおく必要があった。ゲート付近で転んでも怪我をしないように柔らかい、物を貼りつけたゆっくり行こうねなど落ち着かせる声かけを行う。	歩行が不安定な年齢児が通過する際は手をつなぐ、子どもがぶつかそうなところには、柔らかい物を貼りつけたゆっくり行こうねなど落ち着かせる声かけを行う。	
9915	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	26								23	28	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指薬指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	一人机で安定はしているが事故が起きた時には立って活動していた。絵画活動だったので持ちあげたり、斜めにしない限り倒れないと思っていたが、予想外の行動に対応できなかった。	子どもの集中力や、同じ活動を長時間継続しないなどの時間的配慮を行う	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回以上/週	机を使っての指導が必要であったか	絵画活動は床に座ったり、椅子に座って行うことができるので、基本的には床で行う。	1.集団活動中・見守りあり	本児は机に向かい、活動に参加していたが集中が切れていた可能性もある	子どもの集中力や全体の活動参加の状況を踏まえ、同じ活動を長時間継続しないようにする	1.いつもどおりの様子であった	他児と同じように活動に参加していた	4.対象児の動きを見ていなかった	絵画活動中であったので、子どもたちへ絵の指導をしながら室内を巡回していたが、机が転倒した際は本児の近くにはいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名で保育対応	保育士がフルで出勤している際は人的にも余裕があるので、４歳児に２名職員を配置するが、事故当日は職員の勤務上４歳児は１名で対応していた	基本的に１名で対応するクラス人数ではあるが、保育士数に余裕を持ち、保育にあたる人員を増やす	
9916	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				5	10			2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	身体が未発達の園児がドッジボールで興奮し、前後左右等予測不可能な動きかつ激しく体を動かしていたため、起こってしまったと考えられる。	園児の予測不可能な動きになる遊びに対し、ヒヤリハット事案でなくとも、職員一人一人が事故の起こりうる可能性があることを念頭に保育するよう周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(295)回/年	特記事項なし。	その他に対する改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	事前のルールは話していたが4歳児も加わっていたことから少し興奮していた可能性があった。	落ち着いて遊ぶことを何度も声かけするべきである。	1.いつもどおりの様子であった	ボールが転がってきたとき、拾いに行ったり投げたりしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボールの動きを見ながら園児の動きを見て、主に審判を行い笛でアウトを知らせたり、声をかけたりしていた。その都度ルールについては声をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ボールの動きを見ながら園児の動きを見て、危険がないか見守ったり、声をかけたりしていた。	動きがある遊びであったが、遊びの途中で痛い所はないか全体で確認する場面がなかった。	遊びの途中で園児たちに声をかけ、ケガや異変の確認をし、園児たちの動きに細心の注意を払う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事										事故の転帰						事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																	死亡		負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位						実施頻度【回/年】					【回/年】		【回/年】		【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9917	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18	0	0	0	0	0	0	0		2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		見守り徹底とマニュアルを再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		安全点検を引き続き行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		配置等の安全確認を実施前に行う。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数の児童が縄跳びをしているのを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者の職員と対象児、縄跳びをしていない児童等全体を見守っていた。		引き続き、職員の位置にも気を付けながら見守りをしていく。	
9918	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	26									3	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首はくり骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		子どもに、足をぐねったり、転んだりしたときには骨折の可能性もあるので必ず保育者に伝えるように教えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園庭の安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり		行動の予測をし、危険箇所には側にいるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りに過ごしており、特に変わったことはなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で遊んでいる子どもたちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他の遊んでいる子どもたちを見守っていた。		場面の切り替え時などに怪我がないか確認していく。	
9919	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12									1	1	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年 常時	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭の芝生の状態（凹みや躓きの原因となりそうな箇所）もくまなく点検していく	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後も引き続き、運動あそびを積極的に取り入れ、転倒時に瞬時に手をつくことや、障害物を避けることができる瞬発力が身に付くようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌良く登園し、保育士や友達と引っ越し鬼をしたいと意欲的に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任保育士は「鬼」役として本児が視界に入る3m程離れた場所で、鬼ごっこ（引っ越し鬼）を一緒にしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には4歳児のクラスしか出ておらず、他の職員は保育室で保育をしていた。	特になし	適度な距離が保てているか、一人一人の動きをしっかりと見守るようにする。	
9920	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				24	15	16			10	10	18.6歳	1.男児	骨形成不全症のため、極端に力がかかりすぎると骨折しやすい。常時保育士がそばにつき必要。時は手助けしたり、戸外遊び時は歩行器や散歩時はバギーを使用している。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	打撲 骨折の可能性あり	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	予想が不足だった	職員の立ち位置の改善	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	スロープのある歩行器が片づけられる場所と靴箱の場所が離れている。	歩行器を降りるタイミングを担任間で連携をとる	1.集団活動中・見守りあり	いつもは列に並んでいる子達なのだが、遊びに夢中になったのか整列することが遅れ、早く戻らなければと焦ったためか走って（二人で競争しながら）戻ってきて最後尾に並ぼうとしたが勢いが止められなかった。	担任間で活動の予定を確認し合い、本児が列に並ぶ必要がなければ、先に保育室へ戻るようにする	1.いつもどおりの様子であった	クラスの子達と一緒に列に並び、次の活動への待機をしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	この日は集団遊び発せずにクラスへ戻る予定であったため、いつものように本児の横に付き添うように支えていたが、後ろから走ってきた子が勢いを止められないとは予想ができず、本児をかばうことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの子ども達を整列させている最中で、もう一人の職員は走ってくる子達の様子を把握できていなかった。	年度末近くで、子ども達の体格も大きくなり、走る勢いもよくなっている。	歩行器から降りるタイミングはしっかり図り、周りからの危険を回避できるように考える。	
9921	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	補助をした後、目を離すのが早かった。	安全対策の充実と保育士間の確認を毎回行う。個々の子どもの事をよく把握しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(月4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	跳び箱を飛び終えた後の着地までの見守りが出来ていなかった。	再発防止について園内で検討を充実させ、定期的に検討する。跳び箱マット運動の補助について子供の状態をよく知り、保育士が補助の仕方等共通理解する。	3.個人活動中・見守りあり	本児は、もう少しで跳び箱を飛べそうになり、積極的に跳び箱を越えようとしていたなかで、補助をしたが少し余裕がなかった。	こどもの能力を十分理解し、安全第一の補助をする。段階を踏んでいく等して、補助の仕方についても、保育士間で共有、理解しておく。	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	補助を行わない跳び箱から着地した後、目を離した間に転倒していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	そばで見守っていたが、瞬間に転倒し、手助けも間に合わなかった。	補助を行っていた際、本児の着地を最後まで見届けなかった。	もう一度、保育士間で補助の仕方をロールプレイする等、安全な方法を再確認する。保育士間で連携を密に取る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか					
9922	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15								1		1	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首（踝）剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年 常時実施	2.基準配置	特になし	職員配置に問題はなく、マニュアルに沿って対応しているため、改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭が砂地であり、乾燥すると滑りやすい。	特になし	3.個人活動中・見守りあり	朝、子どもが外に出てきたタイミングで一度水はまいたが、本児が転倒した際には園庭は少し乾いていた。	地面が乾いているときはこまめに水を撒く。園庭の砂地を定期的に平らにならすようにする。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で好きな遊びを選び遊んでいた。本児は日頃あまりサッカーボールでは遊んでいなかったが、この日は他児がボールを蹴って遊んでいる姿を見て興味を持ったようで、サッカーボールを左右の足の間で回うような形で交互に蹴って遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴールに向かってシュートをしている他児5名の様子を見守りながら対象児の姿も、時々視野に入れて保育していた。シュートをしている子の様子を見ていたため、対象児が転倒した瞬間は見ていなかった。本児が痛みを訴え保育者が対応をする時には、他の職員にその場を離れることを伝え移動した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1歳児担任1人は砂場で遊んでいる1歳児4人の子の保育をしていた。隣のクラスの5歳児担当及び支援児担当保育士は、長縄とドや砂場など他の子の様子を見ながら全体の様子にも目を配っていたが、対象児が転倒した瞬間は見ていなかった。	サッカー、長縄跳び等、少しずつ離れた場所でそれぞれの遊びをしてスペースの確保はしていたものの、園庭がそれほど広くはないため、一度に外に出て遊ぶ人数や遊びの種類など、安全に遊べる状況が職員間で常に気を配り、保育を進めていく。	それぞれの遊びのスペースの確保はしていたものの、園庭がそれほど広くはないため、一度に外に出て遊ぶ人数や遊びの種類など、安全に遊べる状況が職員間で常に気を配り、保育を進めていく。	
9923	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49			15	13	21			5		2	18.6歳	1.男児	●月●日の受診では骨折と判別できず、●日に再度レントゲンをとり、剥離骨折であろうとの診断であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(7)回/年	2.基準配置	特になし	職免で休んでいる保育士の代わりに8:30～12:30の時間補助員が出勤	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の状況（砂が溜まって転ばやすくなっていないか、滑りやすい箇所の確認等）を十分確認できていたか。	月に1度園庭を整地する、遊具の安全点検の項目に園庭の状況も加える	1.集団活動中・見守りあり	5歳児が入るために、十分なスペースが確保できたいなかった。	園庭を使用する時間をクラス毎に調整する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこやサッカーなど、全身を動かすことが好きである。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見渡し、子ども達がどのように過ごしているか把握する必要があるため。また、登園の時間で、保護者の対応も必要なため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担をし、他児の安全も守る必要があるため。	担任が遅番勤務の為、普段の様子を十分に把握できていなかった。	事前に代わりに入る保育士に、クラスの子どもの様子や現在の状況を詳しく伝える。		
9924	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9			2	4	3			2		2	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右遠位橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	今後も研修等を継続して行い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今後も、定期的な点検を継続して行い、事故予防に努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもの座る場所を考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	読み聞かせの絵本を見ていたが好きなものに目がいってしまい突然立ち上がり走り出してしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	とっさの動きに対し、止めようとしたが間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	居残り保育の為に職員の入れ替わりをしていた。り、お迎えにきた保護者の対応をしていた。	特になし	交代の際にも子どもに目を向ける。	
9925	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19								3		3	17.5歳	1.男児	サポート保育を申請し配慮を必要とする園児である。突発的な行動もあり、切り替えが難しいところがある。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折・骨折（上顎前）の疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	運動会の練習でいつもと違う環境という事で、事前に約束事を話してから小学校の体育館に行ったが、直ぐに興奮してしまい静止（話を聞けない）が聞けない状況となってしまった。配慮が必要な園児で、一度興奮状態になると落ち着くまでに時間を要する。	職員間での連携や声掛け合い、子どもたちの興奮状態をクールダウンさせてから、次の行動をする。子供達にも、繰り返し園外でのお約束をしっかりと伝えていく。特に、あまり行くことのない場所に関してはより、緊張感をもち対応する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園外活動での使用の仕方の確認（頻繁に行く場所でない時は、より綿密な確認をする）	1.集団活動中・見守りあり	日頃使用しない場所を借りての練習だった為、本児はもちろんのこと、他児も興奮してしまった。練習の環境作りに気がいってしまい、園児への配慮が出来ていなかった	日頃使用しない場所を借りる場合のルールを見直し、職員間での理解、連携がしっかりと取れるように声掛けをその都度行っていく。その上で、子ども達にも話をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児は、運動会の練習をしていたが、本児は、体育館中を走り回ったり、周りにある体育用具に登ったりしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	練習後、本児にお茶を飲むように促し、保育士と一緒に水分補給をしようとしていたが、急に立ち上がり走りまわり始めてしまい、他児との衝突を止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の動きは、気を付けて見ていたが、声掛けをしても静止が難しく、危ないと止めに入ろうとしたが間に合わなかった。他児にも危ないから、走らない様に声を掛けていた時だった。	事前に話をしていたが、日頃使用しない場所で本児以外の子ども達も興奮して落ち着きがなかった。	繰り返し子ども達には、園外でのお約束を伝えているが、日頃使用しない場所に関しては、いつも以上に子ども達にいつもと違う場所であるお約束事や約束事もしっかりと伝えていく。また、想定外の行動があることを職員間で意識しながら、立ち位置や声掛けをしっかりと行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事												ソフト面						ハード面							環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5以上歳	学童	その他																																							
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所											うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9926	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4			1	2	1			1		17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	子どもの発達、運動能力と運動器具の使用のさせ方のずれ、トランポリンの危険性の認識の甘さがあったのではないか。	今回の事故を受けて 話し合いをした。トランポリンに限らず、運動器具全般の危険性、使い方、決まり事も見直し共有した。園児管理システム再発防止策、事故防止・安全対策班のファイルに記入。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		安全点検も定期的におこなっており、トランポリンの裏のゴムも定期的に交換している。今後も継続していく。	1.集団活動中・見守りあり		職員の配置が足りないこともなく、園児の人数も少ない。職員が見守れる人数しか園児をホールには入れておらず、特に改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	活発であるが、動きが激しい訳ではない。いつも通りに遊戯室に入室しトランポリンをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室には4名しか子どもがおらず、目は届いていたが本児が年長児であることありトランポリンを跳んでいる様子を安心して見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員はいなかった	側にいた職員は、担任ではなく、年長児で途中入園で経験が少なったことを含め、本児と職員の想定する運動発達のずれがあったのではないか。座って立つを繰り返す跳び方の危険性の認識が甘かった。	運動器具使用方法を見直し、トランポリンは、立って跳ぶことのみにすると事を共有。担任でない職員が見るときもあるので普段から園児の情報の共有を意識して行う。	
9927	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19								2		15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	児童数・職員数を考慮して、活動場所や内容を決めたり、子どもの状況を見て保育内容や声掛けを配慮したりするなどして危機管理への意識を強く持つ。	環境設定の見直し、子どもの見守りの仕方の見直し、共通理解の確認。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		今後も現在行っている点検を継続して行い、事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり		転倒した園児について、転倒後の身体の状態をしっかりと確認する	1.いつもどおりの様子であった	かけっこでゴール地点まで走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	スタートの合図を出し、走る姿を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴール地点で待機し、転倒した子どもの所へ駆け付けた。	園児の靴がしっかり履けているか、マジックテープが止まっているかなどの確認を丁寧に行う	子どもの身体の痛みに速やかに目を向け、素早く保護者へ連絡し、病院受診を勧める。	
9928	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	38								3		16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		今後も研修等で保育士が実践的に事故予防や事故発生時の対応を身につけていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今後も安全点検チェックリストを用い、定期的に点検して施設・遊具等の管理を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		事故防止の為の園児に対する言葉かけ等保育士が工夫していく。	1.いつもどおりの様子であった	自分の場所に移動する際、友達の足に気づかなかった。走ることもなく普通に歩いて移動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くにいたが、他児の足につまずき転倒すると予測ができず、防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援が必要な他の園児についていた	他児が足をのばして座っていたため	園児に座る時は足はまげて体操座りをするようその都度声をかけ、事故を防止していく。	
9929	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	18								2		16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下腿骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	安全と思い込んでいて危険と隣り合わせであるという思いが軽くなっていた	事故防止の対応について、職員全員で確認し、共有していく	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	シートの点検を行えていなかった	今後はシートを使用せず保育を行っていく	1.集団活動中・見守りあり	食堂に敷いているシートの端（週末は棒に巻いて保管している）が、反っており、転倒の要因と考えられる	再発防止の為、シートの使用を中止した	1.いつもどおりの様子であった	次に行う排泄や手洗いを行おうとする事に意欲的だった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した際も見守りは行っていたが、手が届く範囲ではなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応で、見ていなかった	保育者が危険個所を保護するように立つことができておらず、子どもの導線を工夫できていなかった	子どもの目線に立ち、常に安全な状態を保てるよう導線や配置を考えていく	
9930	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				17	20			2		17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕前骨骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	子どもたちの遊び方が危険になっていないかの確認を行う	職員間で気付いたことがあればその都度話し合い情報を共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	安全が確認できないことがあれば使用禁止の措置を行う。	常に職員間での情報の共有	1.集団活動中・見守りあり		園庭の整備を行い、危険個所の再点検を行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中に節分の行事があり、気分がいつもより上昇していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ケガをする前に砂場で山を作って遊んでいるのは確認していたが、片付ける時間になったため、その場より移動し他の園児に呼び掛けていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	片付けるために砂場にワゴンをもっていった。その際に本児が転倒した。手をついた様子は確認できていないが、すぐに胸が痛いことを本児が伝えに来た。	砂場の中に危険な要素がないと確認していたためその場より離れた際に起きてしまった。	砂場は足元が不安定であることを子どもたちに伝えておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9931	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35				10	11	14			2		2	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	傍にいたが着地後バランスを崩すと予測していなかったため、立って見守っていた。	いろいろな動きを予測し、とっさの時でも子どもの援助ができるよう、動ける態勢でかかわる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	夕方、体が疲れている状態で、大型の遊具の高さのあるあそびを設定してしまった。	日中とは違う体の状態を想定して、あそびの環境をつくる。	1.集団活動中・見守りあり	友だちとあそぶ中で楽しくなり,ふざけてしまうと怪我をする危険がある。	あそび方を伝えたり、危険が伴うことを丁寧に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	広場で鉄棒に平均台を掛けて、登ってジャンプして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	広場で、鉄棒のあそびについていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場にはいたが、別のあそびをしている子どもについていた。	怪我をしたことを保育室にいる職員に伝えずにいた。怪我を知らない職員がいた。	どのような怪我でも居残りに入る全職員に伝え、複数の目で怪我を見て早期発見・早期対応ができるようにする。	
9932	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									1		1	16.4歳	1.男児	なし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	2.基準配置	特になし	特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(２９３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２９３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２９３)回/年	特になし	特になし。	6.食事(おやつ)中	本児の座る場所を保育士の見やすい場所にするかトラブルを起こした園児を本児の近くに連れていき、本児が見える場所で対応するべきであった。	トラブル対応をする場合も対応をする保育士の位置を常に他の園児も見ることができる位置で対応することを職員間で話し合い共通理解をした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	２週間ほど欠席をし、その後落ち着きがない姿が普段から見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児間でトラブルが起きたため、休憩対応の保育士はトラブルの対応をしていて、対象児を見ることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	他児に対応していて全体の園児の動きを把握することができていなかった。	視野を広げ、常に全体の園児の動きが把握できるように職員間で話し合った。	
9933	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23					0				2		2	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		階段を降りるときは、慌てず落ち着いて降りるように全員に声を掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週		怪我が発生した手すりは、壁とてすりとの間の幅が狭くなるよう工事を行った。	3.個人活動中・見守りあり		階段を降りるときは、慌てず落ち着いて降りるように全員に声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず階段を降りていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	先頭保育士は、下駄箱付近にいた為見ていなかった。もう一人の職員は最後の子と一緒に部屋をでており、階段付近は見えない場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	階段付近に職員は、いなかった。		部屋から出る時、双方の保育士は必ず園児が階段を降りている様子が見れるような位置に立つようにする。	
9934	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	16									3		3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2.基準配置	事故発生後、骨折が判明するまで日にちがかかってしまった。初めに受診、医師の診断を受けたという事実で大丈夫だと思い込んでいた。	平常の様子と異なる姿があったとき、保護者と情報を共有してよくすり合わせていく必要があった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	園庭の凸凹や小石など。園児数に対して十分な広さがない。	園庭整備を月に1回は行う。乳幼児など活動によって園庭を使用する時間を分ける。	1.集団活動中・見守りあり	追いかけあそびをしていた。楽しい気持ちが先立ち勢いがつきすぎていなかったか。	一人一人の子どもの発達や力を把握して遊びを展開する。	1.いつもどおりの様子であった	特に疲れがあるなどの変化は見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団遊びに子ども達を誘いながら、一緒に追いかけ遊びを楽しんでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団あそびに参加しない子どももいたため、それぞれの場所で保育をしていた。該当児が転倒した場面は見ていなかった。	転倒した児童が泣くこともなく、自分で立ち上がって遊び始めたため、けがないかの確認はしたが大丈夫だと思ってしまった。	園児の転倒があった際、他職員にも声をかけ児の様子を一緒に確認する。	
9935	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	5									1		1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		環境の見直し、時間のゆとり、空間のゆとりを考え予測できる行動についてシミュレーションしておく	1.いつもどおりの様子であった	環境整備された保育室の中で対象児は安心して過ごしていた。食事前の準備で座る場所について他児と思いが行き違いトラブルとなる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	２歳児クラス５名を見ながら給食準備を進めていた。子どもたちのトラブルにも気づき側で声をかけながら解決を促していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員の給食準備の手伝いをする職員はいたが他の保育室にも準備に回ったりするためトラブルの内容などの把握はしていなかった。		担任一人で対応することが多いため何かあるときには応援体制が取れるようにしておく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9936	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29		7	3	5	10	4			5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		園庭の環境がその都度変化することもあるので遊ぶ前には安全確認をする	1.いつもどおりの様子であった	園庭で対象児は探索行動をしていた。立てかけている竹に興味をもち、触ってみた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は園庭全体を見ていて対象児の異変には すぐに気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年少組担当職員が対象児が手を押さえているのを見て声をかけた後、手の状況を見るが特に異変は見られなかった。		園庭では広い範囲を見ているため職員の立ち位置などの確認やその場を離れる時などの声の掛け合いや応援体制を徹底する	
9937	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									1	1	16.4歳	2.女児	当日の天気は晴時々曇前日は雨で園庭は少し柔らかかった。（ぬかるみ等はなし）	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節軟骨損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	園庭に出ていた職員が一人だった。	園庭で遊ぶ時には、保育士は二人以上配置し、十分な見守りができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	雨上がりだったが、ぬかるんではいなかった。いつもより柔らかかったので、つまずいたのかもしれない。	雨上がりはいつも以上に気をつけておく。	1.集団活動中・見守りあり	１２人中９人が鬼ごっこをしていた。本児以外の２人は木製のベンチに座っており、本児は固定遊具付近を走っていた。本児は鬼ごっこには参加していなかったが、みんなが走っているのを見て一緒に走ったことが予想される。	今後の保育で、体幹づくり、体のコントロールなどの力を培っていきたい。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で砂場で遊んだり、固定遊具で遊んだりした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしていない別の子どもと話をしながら、全体の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	卒園記念撮影準備のため、園庭には保育士１名だった。	他に園庭に出ていたクラスはなく、見守りが不十分だった。	園庭に保育士一人になることのないよう、フリー保育士等に声掛けをし、フォローに入ってもらう。	
9938	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14									2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	本児と友だちどちらも今の遊びに飽きていていたため、部屋から出たい気持ちにもなっていた。	トラブルになりそうな時は子どもを扉から離すこと。友だちに対しても遊びの提供ができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	日常の中でも扉の開け閉めを子どもがする場面がある。	扉の開け閉めは保育者が管理すること。	1.集団活動中・見守りあり	本児が友だちに対して拒否した態度をとったことで、友だちも悲しい気持ちから扉を閉めた。	扉の開け閉めは保育者が管理すること。開け閉めの際には、周囲の状況をよく把握すること。	1.いつもどおりの様子であった	他児は、朝の集まりをしていたが本児は集まりに参加せずにブロック遊びを継続していた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児と一緒について遊んでいたため、本児の要求にはすぐに答えることが出来たが、扉に手を添えてしまっていたことを見逃していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の集まりをしていたため、本児については担当保育者に任せていた。	本児と一緒に遊びたかった友だちへの配慮が足りなかった。	友だちの気持ちも予測しながら、本児と気持ちよく関われるような働きかけをしていくこと。	
9939	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	38		8	9	10	11				4	3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	危険の要素がある時は速やかに状況を見守れる位置に移動して配慮する必要があると思われる。	発生した事故についての再発防止策として、危険と思われる遊びをしている場所に保育者が速やかに移動し、見守ることを職員間で話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	危険な要素がある時は速やかに状況が見守れる位置に移動し配慮する。	特に危険な状況ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり	本児は日頃より危険を伴うような遊びをする子ではなく、他に注視しなければならない子への見守りを行っていた。	特に危険な状況ではなかった。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室のステージ付近で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊びを見守っていた。	日頃から危険を伴うような遊びをする子ではなく、注視して見守るような状況ではなかった。	状況に合わせて職員間で連携を取りながら、子どもたちの様子を把握できるようにする。	
9940	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	9									3	3	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	後頭部裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.基準以上配置	特になし	園内外問わず、子どもの動きと危険についての予測をより注意して行い、子どもの動きを見守りながら、必要な声掛けや誘い掛けをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし（トイレの構造等に特段の問題はない）	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園児の動きを見ながら危険を予測して危険回避に応じた声かけをする	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく散歩を楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもが公衆トイレの通路に入り走り始めたため、場所を移動しようと声をかけたがタイミングが遅かった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	子どもを取り囲むように配置し、至近距離にいた。	特になし	子どもの動きと周りの環境から考えられる危険についてより注意していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
9941	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				4	29			4	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左目近くの顔面創傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	安全にかけっこできる場所を教師が生徒に指導、遊具の周辺で走らない	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	地面にくぼみやぬかるみはなく問題なかった。	危険と思われる遊具の突起部分を覆うか撤去するなど、安全を再確認する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	すべての生徒の動きをできる限り把握するよう努める	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気な様子だった	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ場所にいたが、該当の生徒を見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	生徒の転倒を目撃し、転倒を止めようとしたが間に合わなかった。	特になし	全生徒の安全と生徒の動きに常に目を配るよう努める	
9942	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60	0	0	0	16	25	19	0	6	6	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	保育士の立ち位置が近く、園庭全体を分担して見れていなかった。	戸外遊び時の保育士の配置を再度確認し、役割分担を行い安全に留意して子どもの遊びを見守る	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ブランコの周りに設置してあるので、使用が自由ではなく制限される	発達にあった遊び方をしているか検証し、年齢に応じた遊び方ができるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	タイヤの跳び方を再度、知らせ落ち着いて遊ぶようにする	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	特になし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応や他を見守っていたため、事故瞬間の対象児の動きは把握できていない	保育士の立ち位置について再度確認し、全体を見る保育士を立てる。ケガの経過をこまめに確認し、早期受診ができるようにする。	保育士の立ち位置について再度確認し、全体を見る保育士を立てる。ケガの経過をこまめに確認し、早期受診ができるようにする。	
9943	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45	2	8	7	12	8	8		7	7	18.6歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左小指爪剥離、裂傷、神経損傷	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	特になし	貼り紙や手紙などで保護者へ啓蒙をする	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	門柱と壁に子どもが通り抜けることができるだけの隙間があった	門柱と壁の間にフェンスを取り付け、通り抜けできないようにした。門を間違えて押しても開かないようにストッパーを設置し、門の押引の表示を大きくした。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	降園後なので気持ちが高揚していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園後のため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後のため	保護者が本児の行動を把握できていなかった。	保護者に降園時の注意事項を掲示し、再発防止に努めた。	
9944	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				17	16	17		4	3	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	本児が友だちの鉄棒での遊び方にあこがれ、模倣しようとしていたが、危険な遊び方をしようとしていることに十分配慮をしていなかった。	これまでの子ども達の遊び方の共通認識をしておく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	鉄棒をしている3歳児の状況を見守る職員の配置がきちんとできていなかったことが考えられる。	異年齢混合で遊んでいる時の職員の配置を確認する。全体を見る職員の配置、ケガがあることも想定し、鉄棒の下の土を柔らかくしておく。	1.集団活動中・見守りあり	本児が友だちの鉄棒での遊び方にあこがれ、模倣しようとしていたが、危険な遊び方をしようとしていることに十分配慮をしていなかった。	3才児であり、まだ十分な体の発達状況でない場合は、鉄棒での遊び方について、やり方を変えるなどの対応をする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りに登園し、いつもと変わらない様子で友達と元気に過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	3～5才児混合で自由遊びをしており。全体を見ながら、それぞれの遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3～5才児混合で自由遊びをしており、園庭に出ていた4人の保育士が全体を見ながら、それぞれの遊びを見守っていた。	異年齢混合で過ごしている時の職員の配置と連携が十分であったかが考えられる。	混合保育の場合の職員配置について、職員間の連携、配置の確認を事前にとっておく。	
9945	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	34								3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回程度/年	2.基準配置	特になし	安全保育についてのマニュアルの読み合わせをすることで再確認をしたり、引き続き、事故予防について話し合いの機会を持つようにしたりする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２００)回/年	特になし	手洗い場前はコンクリートになっており、転倒すると怪我をしやすいが、人工芝を敷くなどするとかえってつまずきやすくなり危険なので、特に改善策はない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	年中児２クラスで戸外に出ており、園庭で遊ぶ人数や保育士の配置状況も適切だったので、特に改善する点はないと思う。	1.いつもどおりの様子であった	毎朝登園が遅く、この日も９時３０分過ぎの登園だった。日頃から動きが大きく、落ち着きがない。注意力もあまりないため、けがをすることが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭でクラス全体の子どもの遊ぶ様子を見ており、部屋に入るよう声をかけた後に本児が走り出す姿を離れたところから見ていた。友達とぶつかって転んだため、すぐに本児のそばに来て状況を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近にいる子どもたちを見ていたり、加配担当児についたりしていた。	年度末の雰囲気や慌ただしさに職員にも気持ちの余裕がなくなっていた。園児も何となくふわふわした気持ちになっている子もいる。	慌てずに取り組めるように、また時期的にもけがが多い時期であることを意識し、保育にあたる。子どもたちも安定した気持ちで過ごせるように関わる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9946	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	9								4	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置	隣に一緒に後ろ向きで降りている子を見たりして周りに気を取られている様子も見られた。事故があった日は職員4名揃っていた。	降りることが不安定な子は一人ずつ降りられるように配慮をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	階段については、普通に昇り降りをする際の安全は確認できたので、改修等は行わない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	一人一人の発達を考慮し、安全に昇り降りができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	2階のホールでボールを追いかけたり、マットの山を昇り降りして遊んだ後階段を後ろ向きで降りていたところだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児ともう一人一緒に後ろ向きで階段を降りていたので安全面に配慮し手を添えたり声をかけるなどして一緒に階段を降りていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	階段を後ろ向きで降りている他児について一緒に降りていた。	後ろ向きで階段を降りられるようになってから日が浅かったので手をついた時にバランスを崩した。	階段を降りる時、降り方が不安定な子にはその子一人について一緒に階段を降りる。	
9947	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	0	0	0	15	13	8	0	3	3	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	なし	園庭で遊ぶ前は準備体操を行うことを職員間で統一する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	今回はハード面の改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	なし	ドッジボールの球の取り方を教え、手首や足首を回して準備運動を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりに活発に運動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と一緒にドッジボールに参加していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具の児をみたり、砂場で遊ぶ児をみたりしていた。	なし	保育士はこどもの遊ぶ様子を見守り異変にきづくようにする。また、子どもたちには身体に痛みや異常を感じた時点ですぐに保育士へ知らせることを徹底する。	
9948	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10(小規模2)			小規模1	小規模1	3	3	2	2(2)	2(2)	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	自由遊びの時間の遊び方について細かい規制がない	新園舎になり危険な箇所が減っているが季節ごと危険な箇所や危険な遊び方などをピックアップしてマニュアルを作成する予定	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	部屋からホールへ行く導線が９０度曲がる必要がある	机などを置く場所を検討し、狭くなる場所を減らす	3.個人活動中・見守りあり	部屋を出入りし追いかけていた	広い場所、ホールや園庭で鬼ごっこをする様に話す	1.いつもどおりの様子であった	土曜日で少人数で遊ぶ中追いかけっこになり逃げたり追いかけたりしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児と関わりながら本児の動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とかかわっていた。	年齢が高かった為に目を配るだけだった	一緒に遊び危険な時には声を掛ける	
9949	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18								2	2	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	年度末で職員も、子どもも気のゆるみがあったと考えられる。	危機管理の意識を常に持ち続けることができるよう、職員間で啓発し続ける。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	手を離さないことを約束していたが、鉄棒に慣れてきて、対象児も気持ちに余裕がでていた。	鉄棒をするときの約束事について、クラスで話し合い、確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は、鉄棒での遊びを経験していたため、他の遊びに気が散ってしまっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	１つの鉄棒に子どもが対象児を含めて３名おり、対象児と担当職員との間に距離があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒付近には、職員1名のみだった。	近くで見守っていた職員が他の子の鉄棒の補助をしており、対象児にすぐに対応することができなかった。	子どもが鉄棒を行う際には、必ず補助ができるように側に付き添う。	
9950	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	20								5	4	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	高い収び箱からジャンプして降りる事が出来るようになり、この日も55cmの高さの跳び箱からジャンプすることができるようになったが、保育士が手を添えてやってはいたものの、幼児クラスが使っていた運動器具をそのまま高さを変えずに使ってしまったことや、本児の体の発達や高さに不慣れだったことが怪我に繋がってしまった。	個々の発達を理解し、今後は跳び箱ジャンプをするときは２，３段という共通認識を持ち、子どもたちの意欲を受け止めながら適切な環境の提供に努めていく。	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児に手を添えてジャンプをする本児に寄り添っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士は子どもたちをに室内に誘導していた	55cmの高さを飛べるまでの発達に至っていなかったという認識が不十分だったこと、本児のやりたい気持ちに寄り添いすぎたことが原因としてあげられる	発達を理解し適切な援助をする	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事							死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
9951	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24								3		3	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(350)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	体調は良く、園庭遊びを楽しんでいた。遊びたかったブランコがやっと空いたので、ブランコに乗りたい気持ちがあり焦っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭で遊ぶ園児たちの様子を関わりながら見ていた。本児がブランコ前で転倒したので救護した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭でそれぞれ距離をおき分かれて、遊ぶ園児たちと関わりながら見ていた。	特になし	特になし	
9952	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21								1		1	18.6歳	1.男児	該当なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	該当なし	鬼ごっこを行う場所の状態や安全確認。活動中の危険を回避する声掛けも必要。	1.いつもどおりの様子であった	本児は好奇心旺盛で活発。何事も意欲的に取り組んでいる。事故発生時も変わらず友だちと過ごし変わった様子はなし。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室全体を見渡せる場所で、子ども達の活動を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこに参加し全体を見ていた。	該当なし	鬼ごっこ等の活動的な集団遊びは時には、転んだりぶつかったりすることもあるが、回避する方法や転倒した時防御の仕方なども、このような場面があった時には知らせていく。	
9953	令和6年3月21日	1.認可	7.小規模保育事業	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3	1	1	1					3		3	14.2歳	2.女児	●月に足の痛みで歩けなくなり単純性股関節炎と診断される。しかし、今回の事故で詳しく検査をしたところ単純性骨嚢腫と診断される。単純性骨嚢腫のため、骨がもろく折れやすくなっているとのこと。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	●/●単純性骨嚢腫、右大腿骨病的骨折、●/●大転子部骨折、単純性骨嚢腫	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	低年齢の突発的な動きなどに対しての防止策と認識が欠けていた。	低年齢(2歳児)の動きの特徴を踏まえマニュアルの見直しと研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	ロッカーを使用してのコーナー分けのため、面積が狭くなり保育室全体が見えにくくなる。	低年齢(2歳児)の動きの特徴を捉え、環境を整え、再度点検、見直しを行う。	3.個人活動中・見守りあり	狭い室内の床に座って遊び、複数の玩具が出ていたため、子どもの遊び場所に重なりがあった。	コーナーの場所や遊び方を変えるなどして、子どもの動線に重なりを少なくする。椅子に座っての遊びに変える。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は保育室ロッカーを背にして寄りかかり、両足を前に伸ばして座っていた。座ったままブロックで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れた場所で保育室全体が見渡せる場所に立っていた。対象児の足の上に友達が転倒することは予測できなかった。転倒した瞬間が目に入ったが止めることはできていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室内に、他の保育士2名がいたがロッカーで分けてあるコーナーの反対側にいたため気付いていない。	狭い場所の床に足を伸ばし、座っていた対象児に対して、担当職員は危険性を感じておらず声をかけていない。他の職員はロッカーで対象児が見えていない。	他の職員からも保育室全体が見えるようコーナー遊びの場所を変える。	
9954	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13								1		1	16.4歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折、左手関節挫傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(51)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	降園後に遊具で遊んでいた。	降園後の遊具使用をしないように注意喚起を行った	7.その他	降園時間は、保護者間の立ち話が多く、子どもに目が向けられていないことが多い。その間に子どもは遊び始めてしまうため、事故が起きやすい。	園長・主任が降園時間に見回りをし、素早い降園を促したり、子どもの安全状況を確保した。	1.いつもどおりの様子であった	活発な子供で、元気に「さようなら」をした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	「さようなら」の挨拶をし、母親に本児を託した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担任はクラスの子どもたちを保護者に引き渡し中であった。その他の職員は降園の様子を見守っていた。	「さようなら」を母親に託した後だったので、本児の見守りについては感覚が薄れていた。	園長・主任が降園時間に見回りをし、素早い降園を促したり、子どもの安全状況を確保した。	
9955	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	0	2	4	3	6	0		3		3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	なし	身体誘導を行う際に子どもの動きを予測し対応していく。職員間でも、動きの対応について、事例をあげ検討していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	なし	床も適度な硬さのカーペットのため、特に改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	なし	兄と一緒になると気持ちが高揚してしまうので、遊びを楽しめるように保育士がそばについて遊びに集中できるようにしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	兄と一緒になり、気持ちが高揚していた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児の気持ちを落ち着かせようと、対応していたが喃語の動きに対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていたので対象児は見えていなかった。	特になし	気持ちが高揚しやすく、動きが激しい本児の特徴を職員間でも共有していき、対応する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9956	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	6		5						3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもの動きの予想ができていなかった。	子どもの先の動きを見通しながら関わることを意識する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びの中で身体を動かして遊ぶことがあまりできていなかった。	体幹を鍛える遊びを意識して取り入れていく。	1.集団活動中・見守りあり	遊びのコーナーに集まった人数が部屋全体でみると偏りがあった。	遊びが分散できるよう興味が持てる遊びを状況に応じ環境の再構成をする。	1.いつもどおりの様子であった	椅子の座り方のバランスが悪かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児のそば(1m)にいて被災の瞬間をみていたが、瞬時のことで被災を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのコーナーにつき、対象児は見ていなかった。	椅子から滑り落ち床に手をついた際、つき方が悪かった。	いろいろな姿を想定して子どもと関わるようにする。	
9957	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	38									8	8	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		練習内容に応じた職員数と適切な位置に保育士を配置する。もしくは子どもの人数を調整し、個別の指導にする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)		特になし	1.集団活動中・見守りあり	一人乗りを始めたばかりのところであったので個々への安全に配慮が必要だった。	一人ずつ順番で行う、人数を制限して行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	練習中何度も一人乗りに成功していたが、転倒時はペダルに足をのせるタイミングが合わず、転倒の直前にとっさに手を出し、体を守ろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全児童の全体の動きを見る為、離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の他に5.1人乗りをしている子を見ていたが、対象児が転倒する瞬間に、防ぐには間に合わなかった。	個人差のある練習内容に応じた対応が必要。	練習内容に応じた職員数と適切な位置に保育士を配置する。もしくは子どもの人数を調整し、個別の指導にする。	
9958	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63			13	18	15	17			4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨端線損傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	2.基準配置	座った状態で遊んでいた為、手元まで目が届いていなかった。	子どもの動きを常に把握し、事故に繋がらないよう声を掛け見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもの視線や動線を考え、遊具配置を点検する。	子どもの居場所やスペースを確保する。	1.集団活動中・見守りあり	地面に座り手を着いて遊んでいた為、他児には手が見えない状況であった。	子どもの動きを常に見守り、子どもの行動を予測する。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友達と会話を楽しみ、楽な姿勢で座っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	決まった立ち位置から子どもの動きを見ていたが、踏まれた瞬間は確認していない。手の痛みを訴えて来て初めて気付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	決まった立ち位置から子どもの動きを見ていた。それぞれの位置からは踏まれた瞬間は遊具や他児に隠れて確認出来ず。	子どもが見えるよう移動しながら、職員間で連携する。	遊ぶ前には園庭の状況や遊び方などルールを確認し声掛け後、活動を始める。	
9959	令和6年3月21日	1.認可	7.小規模保育事業	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	7	3	4							3	3	14.2歳	1.男児	事故当日は霜が降りていて、それが解けて片側出入り口付近がぬかるんでいた。内また気味で歩いたり走ったりする為、頻繁ではないが転ぶことがたたある。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前額部裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	園内研修で、散歩先の広場や公園等の行き帰りを含めて危険箇所や遊びのルール等を確認したが、活かされなかった。感染症対策ガイドラインには素手での止血はよくないとあるのに、素手で止血をしてしまった。また応急処置のやり方が不十分だった。	既存の散歩マニュアルを見直し、危険箇所の再確認や救急用品の中身をどう使うのかやウガの処置のやり方、事故が起こったときのシミュレーションを園内研修で行っていく。また、事故発生時のフローチャートの見直しを行い、職員の役割分担や連携、保護者への連絡内容などを園内研修で再度確認して全職員で周知していく。	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	アルミの箱を始め、地面に埋められている境界標や排水の蓋など、つまずくような箇所が多い。またコンクリートの段差もあるので、注意しなければならない箇所がたくさんあった。	その日の子どもの状況によって行く場所を設定し、危険な箇所がないか常に確認をし全職員で把握していく。また使用する公園については、定期的に点検もしていく、毎回の公園利用時、遊具を使う前に公園内・遊具の点検をする。	1.集団活動中・見守りあり	危険な個所を把握して、その箇所に保育士が立っていたら、子どもが転んだ時に支えられたのでぶつけることはなかった。	危険な個所を把握して、その箇所には必ず保育士が立ったり、そばで見守るようにし、何かあったときに手が出る距離にいるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ボール遊びや走ることが好きで、普段から活発に動いている。当日もボール遊びをしたり、縄跳びの縄を持ちながら歩いたり走ったりしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ボール遊びなどがひと段落した後に、数人が散歩車の前後で縄跳び持使ってお力ンを入れる真似をして遊んでいたので、散歩車周辺で遊んでいた子どもと広場の中央で遊んでいた本児を見ていたが、本児が広場中央からアルミの箱へ走って行くところを見た後に、目の前にいる子どもが動き出したので本児から目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	目の前にいる子どもに対して体を向けていたが、時折広場の中央にいる本児に視線を向けていた。本児が走り出したあとに、目の前にいる子どもにも動きがあったので本児の動きをから目が離れてしまった。子どもの人数に対して保育士の人数にゆとりがあったので緊張感に欠けていた。	本児が移動したとき に、移動先にいた保育士が気づいているだろう思い、声をかけなかった。また他の保育士は広場の中央を気にして時折視線を向けていたが、広場の中央に背を向けた立ち位置だった。	子どもの位置を常に全員の保育士が把握し て、全体が見える位置に立つ。また子どもが移動したときには近くにいる保育士に声をかけて知らせる。	
9960	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14			3	5	6				4	2	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		子どものその日の状況や人数に合わせて対応できるよう職員の立ち位置に注意していく。子ども達に、困ったことや痛かったことなどがあった時は近くにいる大人にすぐ知らせてほしいことを伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		安全点検で不具合が生じた個所は、即対応し、安全対策をする。	1.集団活動中・見守りあり		常に全体にも目配るように気をつける。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り同学年の友達とごっこ遊びをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	玄関で迎えに来た保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特別に支援を要する子どもに保育士1名、静的活動の所に保育補助1名、動的活動の所に保育補助1名が配置。3歳児中心に関わっていたため、転倒の場面を見ていなかった。		常に全体把握をすることを意識して保育にあたる。保育士がその場から抜ける時は、他の保育士や保育補助に声を掛け合う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9961	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31			16		15				3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	年度当初と年度後半に、職員間でマニュアルの確認を実施して事故防止に努めているが、日頃の子どもの遊ぶ状況から起こる可能性のある事故についての把握が十分でなかった。	マニュアルの見直しを実施し、子どもへの対応を再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		今回の事故については、ハード面の不備等はなかったが、引き続き安全点検等に努める。	3.個人活動中・見守りあり	遊具には職員１名がついていたが、対象児の反対側にいた。	遊具の遊び方や職員配置について、再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭遊び中、同じクラスの男児１名に２歳児クラスの弟１名も加わり３名で追いかけっこをしていた。本児は逃げる他児を追いかけることを楽しんでいた。他児がジャングルジムに登った。の を追いかけて、本児もかけ上がり、３段目に立った途端、後ろ向きに飛び降りた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	固定遊具の傍で他の子が遊んでいるのを見守っていたが、対象児の反対側におり、気が付いた時には本児は飛び降りてしまったため、声掛けも間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊んでいる子の対応や、栽培物の水やりを他児と行っていたため、対象児が園庭を走っていることは認識していたが、直接的には見ていなかった。	本児が、気持ちが高揚しやすく、突発的に走り出すような子どもであるとの認識はあったが、ジャングルジムに登って、後ろ向きに飛び降りるなどの行動を予測できなかった。	子どもの行動の特徴を把握し、起こる可能性のある事故や、対応方法などを職員間で共有する。	
9962	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13		8	5						4	3	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲（打撲による矯正）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	園内研修を実施しており、各職員は事故対応についての知識はあるが、乗用玩具の扱い方や乗り方についての認識が不足していた。	乗用玩具の遊び方を、実際の場所において職員間で確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	乗用玩具は、走行中に前方に傾く場合があった。	乗用玩具の後方部分に、砂袋などを入れ、重みを付けて安定させる。	1.集団活動中・見守りあり	乗用玩具を多く出して、２階のだいスペースだけでなく、通路であるテラス前の狭いスペースまで使用していた。	通路では乗用玩具を使用しない。場所の広さに対して、乗り物の数を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	乗用玩具を好んで乗っていた。スピードを出してはおらず、安定して乗っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見ながら子ども同士の接触に注意し、見守っていた。本児の動きも確認し、至近距離にはいたもののとっさのことで、手を差し伸べるには至らなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員の立ち位置を確認し、全体を見ていた。	通路であるテラス前の狭いスペースも使用可として、見守りを行っていた。	通路を使用しないことを園児に伝え、見守りを行う。	
9963	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21									2	1	16.4歳	1.男児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折(●●整形外科)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特に無し	特に無し	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(200)回/年	特に無し	特に無し	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	特に無し	1.いつもどおりの様子であった	園庭にて戸外遊び中、園庭を思い切り走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児と一緒にドッジボールに参加して遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしながら、園庭全体の様子を見守っていた。	左腕を冷やしたのち、すぐに動かし始め痛がる様子がなかったので様子を見ることにしたが、その時点での保護者への報告をすると良かった。	けがをした際は、緊急を要しない場合も状況をまず電話で連絡してから様子を見るようにする。その際、受診のタイミングについても、保護者と相談する。	
9964	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72				37	35				4	4	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨端線離開・右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	しばらく晴天が続き、園庭の地面が非常に乾燥した状態だったため、滑りやすかった。	地面が乾燥している時は定期的に水をまくなどする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	卒園を間近に控え、気持ちが高まっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒に鬼ごっこをしながら、離れたところで子どもたちの様子を見たり、声をかけたりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当クラスの子どもの遊んでいる様子を見ていた。	特になし	特になし	
9965	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		担任は全体の様子を見るが、他のクラス職員の協力を要請する。玄関までの見送りで担任一人が抜けることもあるので、もう一人見守りの職員を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		どんな場面でも事故が起こりうることを想定し、危険が無いように見守る。遊具の正しい使い方を繰り返し伝えていく。	1.集団活動中・見守りあり		保育者は片づけを一緒にする係、子ども達を見守る係と役割分担をはっきりと決め、声を掛け合い連携をきちんと取るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	園庭に置いてあるタイヤの上を歩いていて、バランスを崩し転び地面に手をついた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	片付けの時間になったので、声をかけ子どもを部屋に入れようとしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	４歳児担任が遠くで本児が遊んでいる様子を見ていた。	夕方の迎えの時間と片付けの時間が重なると慌ただしくなる事もある。	玄関まで送りに行く(職員がいることを想定しもう一人職員を配置する。職員同士より一層声掛けをし、連携を図る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事																																		
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死亡	負傷		診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
9966	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16								4	4	15.3歳	1.男児	事故発生時は1階工事期間中のため1階保育室ではなく2階ホールで保育を行っていた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	右側頭部線状骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		特になし		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		環境面において特に危険な場所ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり	もともと活発ではあるが食事後の自由遊びの時間で気分の盛り上がりがあった。	室内であることも鑑み落ち着いた遊びを提供する。	1.いつもどおりの様子であった	食事後の自由時間において複数人でソファー周辺で遊んでいた。ソファーからジャンプをする行動があったため、保育士が声掛けをして一度は止めた。再度同様の行動をし、ソファーから落下。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一度声掛けをした後は、目の端でとらえるような角度で園児の転倒の様子を確認。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	落下の際の音で該当児童を目視。そのご複数担任で頭部の状態を視診。	活発な子であるため、再度同様の行動をする可能性があった。	子に対する声掛けの時点で別の興味のある遊びの提供をする。	
9967	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	2	4						3	3	14.2歳	1.男児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上Ａ左上Ａ歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットを活用した危険回避研修	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		乳児室の危険個所を再確認する。	3.個人活動中・見守りあり	木製トンネルの近くに布団を用意したことにより本児の予期せぬ動きを誘発したと思われる。	休息のスペースには遊具となりうるものを置かない。	1.いつもどおりの様子であった	布団に入ってもしばらく入眠できずにいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他担当児の食事の介助を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、他児の対応をしていた。		入眠を確認するまで傍につくか、入眠していない児に付き添う職員の傍で入眠するまで見守る。	
9968	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				18	22			3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足 外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	個々の園児の様子をよく観察し異変を見逃さないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	園庭の点検	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全体の様子がよくわかるように職員の立ち位置を考える。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友達と鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこをしている様子を見守っていた。	特になし	職員の立ち位置を考える。子どもの様子を注意深く観察する。	
9969	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	17								3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外踝骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	当日鉄棒が一番危険であると認識して職員が一番鉄棒で遊ぶ本児に気を配っていた。	遊具だけでなくその日の園児のテンション等様子にも十分に気を配って見守りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年		遊びの前に点検して遊具自体に問題はない。本児のやってみたい気持ちを大切に安全を見守る。	1.集団活動中・見守りあり	進級してからの使用が初めての公園でこども達も浮足立っていた面がある。	集団遊びに入る前に公園での約束事をこども達と確認をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	進級したことにより今までよりも意欲的ではしゃいでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで数人を見守っていたが本児が高い所へ上る前の1段目に足を置き、2段目に次の足を掛けたところでバランスを崩して落ちた為、助けが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人がすぐに駆け寄り、職員2名で怪我の様子を確認、もう1名が他の園児を集めた。すぐに園に連絡をして迎えの応援を要請した。	鉄棒を危険と重要視したため、持ち上がりの一番こども達の事をよく知っている保育者が鉄棒についていた。	こども達の様子を細目に保育者同士共有し、見守りのポイントを押さえて対応する。	
9970	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	1	4	2	3	5	5		4	6	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２４)回/年	2.基準配置		遊具を使う中で、予想できる子どもの姿を考え、危険かないかを再確認し、配置・使い方を職員間で統一する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		遊具の遊び方が慣れてきていたが、改めて遊び方を確認し、保育者の配置等にも気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり		職員間での配置や安全に楽しくできるという目標を共有する。遊びの内容や方法について再度園児と確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	登り棒を楽しむ中で興奮してしまい、活発だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	幼児乳児で１５名を保育士で見守っていたが、他の園児を見ており、目を離すことがあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を使いながら遊び、登園時間と重なり、既に園庭で遊んでいる園児たちに目が向けられていなかった。		大きな遊具を使用して遊んでいる園児がいる時十分に目を向け、遊具での事故を防ぐよう点検等を実施し、事故防止について職員間で共有する。	
9971	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	36				12	12	12		5	5	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	職員間で事前に配置を話し合い、適切な場所において目を離さず、園児の行動を見守るべきであった。	定期的に安全面について職員間で検討し共通理解する。また、園児の行動についての情報も職員間で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊ぶ場所の広さを確保。（周りに何もないか、転倒、転落等の恐れがないか）	高さがある場合や転倒の恐れがある場合にはマットなどを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	平均台の上にソフト積み木を置いていたため不安定であった。	高さやバランス等の危険性を保育者が察知し、危険な行動をする前に未然に防ぐ。	1.いつもどおりの様子であった	対象児が橋を作ろうと平均台の上にソフト積み木を置いた。その上を歩いた際、バランスを崩し転落した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ケガの現場であるホールには、担当者２名が配置されていたが、１名は他児の対応、もう１名は降園の対応をしていたため、対象児との距離があり、転落を防ぐには間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールに２名、保育室に２名、それぞれに分かれ保育をしていた。	降園時だったためその対応と、周りで起きた園児のトラブル対応と重なってしまい、保育士の目が行き届かなかった。	その場から離れる時は保育者同士声を掛け合い、連携を密にする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9972	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	55								3	2	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足節外踝骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	友達と追いかけっこをしていたこと	怪我をしないよう気を付けて遊ぶように言う。戸外遊び前に準備体操をしてから遊ぶようにしているが、更にしっかりストレッチをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(５２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５４)回/年	準備体操不足	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭が乾いていた	地面を湿らす	1.いつもどおりの様子であった	体調は異状なく、元気よく遊びだした	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒で遊んでいる子に付いていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は雲梯に付き、もう一人はドッジボールに付いていた	園庭を走っていた児を見ていなかった	その場だけでなく、園庭全体も見ながら保育をする	
9973	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13								2	2	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手中手骨骨折（人差し指、中指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	運動遊びの日は5歳児には担任の他に補助職員が1名付いていた。	運動遊びの留意点や指導の仕方を前もって確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	使用した体育遊具（跳び箱、マット）は担任が使用する前に安全点検済みであった為、遊具の問題無し。	マットの下に滑り止めを敷く、跳び箱を置いた時にガタつきがないかを確認し担任が一度跳んでいる。今後も継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	当日の跳び箱使用前に、練習段階が無く説明後はすぐ活動を開始した。	段階的に必ず本番前に練習をする時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	積極的に活動に参加していた。久しぶりの跳び箱だった為、いつもよりやりたい気持ちが強かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が跳んだ側から見て担任が跳び箱左斜め前の手が届く距離にいた。本児は跳び箱をつまずくことなく跳びきった為、特に手を差し伸べる必要が無かった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が跳んだ側から見て補助の職員が跳び箱右斜め後ろにいたが本児がつまづくことなく跳びきった為、手を差し伸べる必要が無かった。	本児が跳んだ時に本来なら両手にかかる重心が左手に傾いてしまった。補助職員に活動内容の詳細を伝えていなかった。	跳び箱を使用する前にマット等で手の付き方を段階を踏んで取り組む。担任が補助職員に活動前には必ず内容と配慮事項を伝える。	
9974	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	9	18	23					31	10	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	年齢にとって無理な活動ではなく、挑戦している姿を見ている保育者も傍にいながらの事故のため、保護者には説明を十分することができた。	年齢にとって無理なことではないという思い込みの改善を職員間でする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	尻もちを左肘をついた地面には、ウレタンのグリーンマットも敷いている所であった。	2歳児の遊び方について、再確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	保育士はほぼ園庭で子ども達と一緒に遊んでいたため、広範囲の見守りがより必要であった。	園庭であそぶ時の全体が把握できる職員を声掛けなどの連携を深める必要性。	1.いつもどおりの様子であった	特に問題なし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	0，1，2歳児が園庭に出て遊んでおり担任3名は他の子どもたちを見ていたが、他のクラスの職員が至近距離で見ていた時の事故であった。担任であれば本児の遊び方や運動能力的なものが分かり助言できたとも考えられる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見る役割の職員がいなかった。	本児の運動能力や身のこなしなどの情報共有が必要。	年齢に応じた遊びであったかの共通認識が必要。	
9975	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前)頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40	0	0	0	12	12	16		3	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	日が延びたので夕方に園庭で遊ぶ回数を増やしていた。お迎えの対応も同時に行っていたため、職員が不足していた。	各クラスに怪我が起きた際のフローチャートを掲示する。怪我の大小に関わらず、すぐに事務所に報告を行うよう再度周知した。外傷がなくても、痛みを訴えていたら即刻を休憩し、室内で安静にして過ごすように配慮する。時間帯に応じた職員配置の再検討をし16:00以降の職員体制を手厚く配置する。保護者の対応を行う職員の立ち位置に配慮し、役割や担当を決めておく。季節や時間に応じた夕方の保育を考えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	夕方に園庭で遊ぶ際のルールや遊び方、園庭の点検等の確認不足。	園庭の点検を行ってから遊ぶ。夕方、保護者対応で子どもを見守る職員の目が少なくなるので職員の配置や遊び方に工夫が完全には出来ていなかったため安全管理と怪我の際の対応をしっかり共有する。砂場やハウス周辺の砂の整備、散らかった玩具を片づける。安全に遊べるように環境を整える。	7.その他	定期的に砂の補充を行っていて、常に囲いは埋まっているが、遊ぶ前の砂場や園庭の環境整備が不十分だった。	週に一度、砂場の掘り起こしを行う。園児に向けて、約束事を確認してから遊ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子だったが、怪我をした後は少し気持ちが下がっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故の際保育士は保護者の対応をしながら、保育を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時保育士は子どもたちに声掛けを行っていた。事故後は本児に声をかけられて、「大丈夫？」と様子を伺っていた。	職員の役割分担がしっかりと行えていなかった。本児が足を挫いた時点で、足を使わずに遊べるよう配慮すべきだった。	砂場で遊ぶ際に足場が不安定のため、安全に楽しく遊べるように園庭遊びの前に砂場や園庭の点検をし毎回ルールの確認などの指導を行う。園庭で遊ぶ際の職員の配置を多めに行う。外傷がなくても、痛みを訴えていたら赤部を休憩し遊びを中断して室内で安静にして過ごすように配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
9976	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24			9	6	9			2	2	17.5歳	1.男児	療育手帳●●	8.その他	2.死亡	4.溺死			7.溺水によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(19)回/年	2.基準配置	園児行方不明時の捜索について、保育園近くの危険箇所である河川敷の捜索が一部の職員だったことや、警察への通報が発生から１時間経過していたことにより、対象児の発見に時間を要した。	危険箇所（河川区域）を優先した捜索体制や警察等への迅速な応援要請について、園児行方不明の対応マニアルの改正を行い、迅速に行動できるよう職員へ周知するとともに、ヒヤリハット事例から、職員の危機管理意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	生け垣の植え込みが枯れて隙間ができていた。フェンスや門の高さが低い。	施設を点検し、園児が園外へ出ることが可能と思われる箇所については、応急措置を施し、早急に施設改善を図る。	1.集団活動中・見守りあり	保育室へ入室する時間となり、保育士２名は子どもと一緒に戸外遊びで使用した道具を片付けながら、多様に動き回る園児を保育室へ誘導する必要があったことから、園児の見守り、安全面での配慮などが十分できない状況であった。	活動の切り替わりなど、安全面での配慮がより必要と思われる時間帯などにおける保育体制の見直しを検討する。	1.いつもどおりの様子であった	砂場で車で遊んだり、砂場のテーブルからジャンプしたり、鉄棒の上に立ち上がろうとしたり、太鼓橋、ジャングルジム等に登る等、園庭で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	外階段前にいた対象児をテラスに連れてきて座らせた後、他の子どもから声をかけられ、対象児から目を離した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちとともに片付けをしていた。対象児については担当職員とテラスに座っている所は確認していたが、その後は見ていなかった。	保育士２名のうち１名が対象児の見守りという役割は決まっていたが、片付けや動き回る他の園児の対応などで、当該役割のみに専念できる状況ではなかった。そういう状況下で、対象児の見守りについての職員間の声掛けが十分に行われていなかった。	対象児を見守る役割の職員が他の行動を起こさざるを得ないときには、一時的に他の職員に対象児を引き継げるように明確な声掛けを行うなど密接な連携を図る。	
9977	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱落	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	２名いる保育集金の回収は、本来は別の職員が行っている。	やむを得ず保育室を離れる場合は子どもたちに様子に注意し時機を逸び、同室の保育士に声をかける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	椅子が３つ裏返った状態で、園児に注意しながら順次元通りにしていただが、３脚中２脚の椅子を元通りにしたところ残りの１つを戻そうとしたところで事故が発生した。	ケガにつながりそうな要因は見つけ次第取り除く	3.個人活動中・見守りあり	事故発生時、クラス全体がやや興奮状態で、走りながら椅子を倒して遊んでいる子がいた。	子どもたちと一緒にケガにつながる危険な行動（椅子の正しい使い方、部屋の中を走らない、など）について話し合った	1.いつもどおりの様子であった	友達とじゃれ合って遊んでいたところ、押されてたおれた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２名の担任のうち１名は写真代の集金を事務所に預けるため保育室を離れており、もう１名は保育室の中央付近にいたが、倒れた椅子をすぐに元に戻したり、本児が倒れる前に止めることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内に、他の職員はいなかった。	２名いる保育士のうち１名が集金を提出するために保育室を離れた。	やむを得ず保育室を離れる場合は子どもたちに様子に注意し時機を逸び、同室の保育士に声をかける。子どもの行動や環境を含めて、危険が予測される場合はすぐに対応する。	
9978	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35		12		8	15			3	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置		子どもと遊んでいる最中でも常に全体が見渡せる箇所にいること。	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	園庭の段差等	目視では分かりづらい場合も、子どもたちが同じような場所でつまづくなどがあれば土をならすなど改善する。	7.その他		園庭の段差を確認し躓きがないようにならしていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児付近にも保育士がいたがんでいた為に事故を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の様子を安全に見守りつつ対象児の動きも見ていた。	本児は動きが普段から激しく良く走る。	園庭の不具合などにすぐ気づき、対応ができる事。	
9979	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								1	1	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	降園後、園庭などで遊ばずに家に帰るなど子どもや保護者と何度も約束していたが、守らず遊んでいた。	降園後のケガや事故が多いことを周知させ、保護者に危機意識を持たせる。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	なし	なし	4.個人活動中・子どものみ	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	降園後の園庭での遊びが禁止である約束を守れなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	降園の挨拶後で、園庭で遊んでいる児に気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	母親に引き渡したため、母親が約束事を守ってくれると安心していた。		なぜ約束事として降園後は園庭などでの遊びを禁止しているかを保護者・児共に継続的に注意喚起し、危機意識を持たせる。	
9980	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	133	8	20	18	31	31	25		33	32	16.4歳	2.女児	入園前にも骨折（令和●年●月頃）脱臼も何度か経験あり	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンデジア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	本人の身体能力や不器用さ、一年前も骨折をしている現状	現状を踏まえ、毎日の登園とあそびの中での体力作り	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	総合遊具の周りのクッションなどの整備（予算必要）	インシデント、アクシデント報告書での職員の振り返りと意識改革	3.個人活動中・見守りあり	見守りの片寄はなかったか。	園庭で遊ぶ時の連携、確認（声を出し合い確認）	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	母親が出産まじかであることと、コロナ禍であることもあり、欠席がちであった本児であったため不安定。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は本児から離れた場所にいて他の職員が転倒をみつけて抱き上げる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が泣いていたので、抱き上げて医務室に連れてくる。	脱臼の癖はある。本児の性格や今の現状を踏まえ配慮が必要であった。	危険な行動をしていたわけではない本児であるが、身体能力や心理不安のある子どもの対応を担任を含め情報交換をして見守る必要があった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9981	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18	0	1	5	3	3	6	0		7	7	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	危険予知の能力を高め、危険を回避できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	引き続き、施設、遊具、玩具の安全点検は毎日する。	7.その他	特になし	降園時、園庭で遊んでいる場合は繰り返し声をかけたり、保護者にも速やかに帰っていただくよう協力してもらう。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り母と一緒に降園していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士はそれぞれ延長保育の部屋で保育しており、母と共に降園中の本児の様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	勤務時間後で保育士の人数も少なく、降園中の本児の様子を見ていなかった。	遊具で遊ぶ時の約束事は分かっていても、保護者の前では気持ちが大きくなると言う、子どもの心の動きを想定すべきであった。	保育中は必ず保育士が側にいる時に行うこと。降園時、園庭で遊んでいる場合は繰り返し声をかけ、保護者にも速やかに帰っていただくよう協力してもらう	
9982	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	1	3	5						3	3	14.2歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足打撲傷、左第１中足骨骨折、左下腿打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～10)回/年	2.基準配置		改善策は特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年		改善策は特になし	3.個人活動中・見守りあり		遊び終えた玩具等は適宜片付け、安全な環境づくりを行っていた。引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	裸足で過ごしていた。ブロックで遊んでいたが、保護者が迎えに来たため笑顔で保護者の元に駆け寄った。保護者と保育士が話をする間保護者の傍にいた。話が終わり、保護者と降所準備を始める時にジャンプをした。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者との話を終え、挨拶をした後にその場を離れたところだったため、怪我をした場面を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3名の保育士が、室内の畳で遊ぶ子ども達（0歳児1名、1歳児3名、2歳児5名）についていた。その後、降所準備中に本児がぐずる様子がみり、上着を着る手伝いをしながらテラスに出るまでの見守りをした。		保育士が保護者と話を終えた後も、目を離さずに降所準備を側で見守るようにする。	
9983	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	4									2	2	13.1歳	2.女児	当該児童の現時点での特徴として、頭部の大きさと足の大きさのバランスが悪く（足が小さい）、普段から転倒することが見られていた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	活動内容によって保育士配置を増やす。その対応ができない場合は活動を変更する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	広い場所で走る際、スピードが出ないよう、走る場所を区切る	1.集団活動中・見守りあり	保育室と比べ、広い場所で走っていたので、スピードは出ていた。	広い場所を走る際、スピードが出ないよう、走る場所を区切るなど、広さを加減する	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発で走ることが多く、事故発生時も意欲的に走っていて、スピードがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士２名で保育していたが、１名はピアノを弾きながら子ども見守り、もう１名は子ども一緒にリズム運動の動きをしながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスは園庭で雪遊びをしていた。クラス担任以外の職員は各自、自分の業務にあたっていた。	事故発生時の活動内容が、当該児童の発達段階から見て、転倒することが予想できたのではないか。	活動内容によっては保育士配置を増やす。その対応ができない場合は活動を変更する。	
9984	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	16					16				3	3	16.4歳	2.女児	出産時に右大腿骨を骨折し、骨がねじれていた為、骨を切ってつけてあり月１回定期的に整形外科を受診する。２歳７ヶ月に風呂上がりに転び、再び右大腿骨骨折する。骨を切ってつけた部分はまだもろい為、転んだだけでも再折するとのことだった。その後も股関節脱臼の治療で左大腿骨にボルトを入れたり、入退院を繰り返す。令和●年●月●日にようやくボルト除去手術を行い●月●日に退院し、再入園して、まもなくの事故となる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿部骨転子部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置		なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)日		なし	1.集団活動中・見守りあり		ベビーカーから降りて活動する際は担当者が傍へつく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちを追いかけて、対象児のペースで土手を登り下りしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当になったばかりで対象児の運動能力を過信していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者が対象児を見ていると思い込み、他児の対応をしていた。	対象児への対応について共通理解がなされていなかった。	対象児の発達状況等をしっかり共通理解した上で、クラス運営や役割分担等を話し合っていく必要がある。	
9985	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									5	5	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1.2)回/年	2.基準配置	近くに担任はいたが、危険性を把握していなかった。	ブルーシートの上に水があると滑るということは予想されるので子どもと一緒には掃除しないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	子どもの行動を把握しきれてなかった。	職員がやるべきことと子どもが参加することを見極める。	1.集団活動中・見守りあり	安全に見える環境の中にも危険な場所が潜んでいることがある。	ブルーシートの上に水が溜まっていると滑りやすいので子どもたちは乗らないようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	楽しくなって走ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたが、止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	掃除をすることに集中していた。	危ないと思っていたが、掃除をすることを優先してしまった。	担任間で確認しながら子どもを見ていく必要がある。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9986	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	101	3	17	18	20	23	20	0	3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足下腿部螺旋骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	2.基準配置	特に無し	報連相の確認と現場検証及び職員への周知	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	特に無し	改善箇所がある場合の改善	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	危険な際の声掛けの充実	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭での全体的な確認	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭での全体的な確認	特に無し	危険な際の声掛けの充実	
9987	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29								2	2	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	近くには保育者もいたが、ステージに置いた園児服を取る時、本児が転ぶことを予想していなかった	1人ひとりの行動や様子を十分に見守り、とっさの動きに対応できるようにする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ステージの面が遊戯場に向けて少し前に出ている	ステージにはなるべく物を置かないようにする	1.集団活動中・見守りあり	次の活動があるため、遊ぶ時間が終わりだということを子ども達に伝えた	子ども達に遊ぶ時間をあらかじめ伝える	1.いつもどおりの様子であった	他の友だちが保育士のところに並び始めたので、園児服を取りに行く時に足早になっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児も含め、子ども達はたくさん体を動かして遊び、気持ちが高まっている様子だったので、集まる際にはおだちとどっからないように声をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士の声掛けに対して補足するような声掛けをしていた	園児服を取りに行く子どももいるということを把握していた	子ども一人ひとりが、集合する場所にくるまでの動きを予測する	
9988	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指中節骨骨折（右手小指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	当日は担任の休暇が入っており、事前に代替職員が担当することが分かっていた。	事故予防マニュアルに沿って安全保育に心がけていたが、職員の経験等に違いがある為、繰り返しヒヤリハット等の全体での把握、そして研修をしていきます。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		室内の床（フローリング）に凹凸やへこみがないか、水で濡れたりしていないかの点検をしてから子どもたちの活動を始める。	7.その他	当日出席の２０名が一度に動き混雑したことはあったか思う。	グループごとに移動したり人数の調節をすると混雑は防ぐことが出来た。	1.いつもどおりの様子であった	当日の健康状態は普段と変わりなく良好であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室から遊戯室へCDを持って移動しようとした。本児は先頭の辺りであったが、担当職員は列の最後だったため離れた場所にいたことになる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の後方で他の子どもの見守りをしていた。		保育の流れを事前に把握し、CDを遊戯室に事前に置いておくと子どもたちを前や横から見守ることが出来たと思う。	
9989	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27			8	6	13			3	2	17.5歳	1.男児	発生時の天候は晴れ。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士の子どもへの理解、潜在危険への理解と把握が不十分だった。	保育のチェック表を活用し、日々の保育の振り返りや評価反省しながら保育を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具の配置や遊び場の構図から職員の配置を考える必要があった。	場所移動する時は職員同士が声を掛け合い、見守りの死角をなくす。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の使い方は保育の始めだけでなく、その都度伝えることのできる立ち位置で遊びを見守る必要があった。	子どもへの的確な対応、指示や迅速な指導ができる立ち位置を確保する。	1.いつもどおりの様子であった	登所時から、いつもと変わった様子もなく元気に過ごしていた。所庭に出てからも、追いかけっこや砂で遊び、その後普段から遊んでいる雲梯に向かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ傍ではなかったが、視界に入る場所で対象児を含む子ども達の遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	総合遊具の傍に１人と、加配が必要な子どもに１人ついていた。	子どもの遊びを予測し、保育士間で声を掛け合ったり、見守りの立ち位置を子どもの動きに合わせて保育したりすることで、もっと丁寧な見守りができた。	子どもの動きを想像して、保育の流れを組み立てる。	
9990	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12								3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭頂骨骨折 硬膜外血種 帽状腱膜下血種	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	いつもより保育士が一人少ない中での事故で、3人の保育士の動きに課題がある。	活動の内容や職員の動きを振り返る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	ホールは独立しておらず、他のクラスの子が活動中突然入る可能性があること。また、床材が固いコルクであること。	施設的なことは変えられないが、職員が共通認識し、活動を進める。	1.集団活動中・見守りあり		動きのある活動はいつも以上に危険が伴うという事を自覚し、活動内容や職員の動きの確認をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	後ろから走ってきた子が日常の中で攻撃的な姿のある子のため、身構えて身体が硬直したと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	手を洗いに行った子の方に気を取られて2人に背を向けてしまう。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ピアノを弾く、おやつを取りに行くとそれぞれの役割があったが危険の回避への予測ができていなかった。	3人の担任での動きの確認と危険の予測ができていなかった。	職員は児から目を離さない、見切れないと思った時は他の職員に応援を頼む。ピアノを弾いている職員が危険を感じたら、ピアノを弾くのを止めて走って側に行き止める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制															事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
9991	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎乳中切歯における外傷	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	絵本を読んでいる場所が悪く、また、ふざけて遊んでいた子も居たりと、過ごし方を徹底出来ていなかった。	食後、おやつ後の保育室での過ごし方を子どもたちに徹底しておく。絵本を読む場合の座る場所や姿勢なども配慮する。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	友だちによる不意の衝突という普段と違った思わぬ動きに反応できず、普段なら打つはずのない場所にぶつかってしまった。	こういう事が起こるリスクも考えて、カバーできる箇所はカバーしていくよう気を付ける。	6.食事(おやつ)中	保育室の中で、静や動の色々な活動をしている児童が居た。	絵本も人数分用意し、安全な場所で姿勢よくじっくりと読むことが出来る環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べている子、食べ終わって帰る用意をしている子、絵本を見ている子等がおり、色々な活動に気を取られていたのでその瞬間が把握出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のお帰りの準備対応で廊下に出ていた為、把握できなかった。	特になし	職員同士の連携を取り、常に1名は全体が把握出来る位置に居て、子どもから視線を外さないようにしていく	
9992	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1.基準以上配置		段差は歩いて降りるように指導する	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		段差の周りに人工芝でガードしているが、痛んできたら取換える	1.集団活動中・見守りあり		段差があるので、気をつけるように声がけをするとともに、見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含めて、児童を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童全体を見守っていた。		落ち着いて歩くように指導する	
9993	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足 くるぶし骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置		楽しい気持ちが盛り上がっているときほど、子どもの動きにも注意が必要なため、職員で連携をとり、声を掛け合う。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２４)回/年		点検により、改善が必要な箇所はすぐに対策をとる。玩具は、毎日の消毒時にも点検をし、安全確認をする。	3.個人活動中・見守りあり		園庭に石や大きな穴等がないか確認し、なるべく平らになるよう環境整備する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見る職員と、遊びに入る職員と役割分担して動いていた。鬼ごっこという動的な動きのあそびだったため、離れた場所から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午前中の自由遊び中であったため、その他の職員は他のあそびに付いており、近くにはいなかった。		子どもと遊びながらも全体に注意を払い、常に安全配慮をする。	
9994	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45	2	10	13	5	10	5			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手の甲骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1、２)回/年	1.基準以上配置	特になし	園庭遊具に関して、再度職員と相談し、危険個所の点検や子供の見守り時の確認などを行った	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(264)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(264)回/年	特になし	遊具の中には滑りやすく、また、修理が必要なものもあったので、改善した。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	当該児童に関して、いつも通りの様子で日中も問題なく園生活を送っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭には35名の園児があり、職員は見守りも含めて、4名の職員がいた。遊具近くには職員はいなかったが、離れたところから見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には多くの園児がいたため、１人の園児を注視することが出来ていなかった。	特になし	特になし	
9995	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	3	4	7	8	6	5			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足の脛骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1、２)回/年	1.基準以上配置	特になし	本児は階段を上る際にしっかりと足を上げるように伝え、本児が意識できるようにしていく。階段での昇り降りの際には、一定期間傍で見守りを検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(264)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(264)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	当該児童に関して、いつも通りの様子で日中も問題なく園生活を送っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一階のクラスには20名の園児があり、職員は、１名の職員がいた。移動の際には3名の保育士で対応移動をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	移動の際、他園児の補助対応をしていた。	特になし	特になし	
9996	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16					16				2	1	16.4歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第4指末節骨剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	保育室に戻る際、右手を残したまま引き戸を閉めたものと思われる。	戸の開閉の仕方や怪我の危険があることを子ども達に伝え、職員も注意深く見守っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(日々)回/年		引き続き、施設設備等に不具合等がないか点検を実施し、不具合がある場合には都度対応していく	7.その他	見守り不足が考えられる	視野を広くもち見守るように心がけていく	1.いつもどおりの様子であった	対象児はいつもどおりで変わった様子はなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	随時登園してくる状況で、園児の受け入れやぐずって登園してきた園児の対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	随時登園してくる状況で、複数他児の所持品準備の見守り等をしていた	見守り不足が考えられる	視野を広くもち見守るように心がけていく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
9997	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16									4	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	遊び方を知らせながら年齢に応じた発達の遊びの提供する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	玩具を押して遊ぶ際には、遊戯室などで広い部屋にて遊ぶ。	1.集団活動中・見守りあり	手作り椅子を押した際に力加減がわからず、20cm高の牛乳パックで作った長椅子に強くあたる。	遊び方を知らせながら年齢に応じた発達の遊びの提供。	1.いつもどおりの様子であった	手作り椅子を押して遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	手作り椅子を押して遊んでいた本児を見守り様子をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に遊んでいた。	複数の職員で保育していたが、危険認知の甘さがあり想定していなかった。	子どもの行動を注意深く見て保育者同士の声掛け連携を強める。	
9998	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									2	2	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	頭部挫傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	歩くときは、前を向いて歩くことを繰り返し知らせる。	重大事故訓練だけではなく、危険予知トレーニングも定期的に行い、環境、子どもの動きから予想できる危険に対して、保育士が対応できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びに必要のものか、それらは危険ではないかを話し合っていくとよかった。	いつもあるものでも、その場所に必要なのか、子どもの動線の妨げになっていないかなど会議等で話し合っていく。	1.集団活動中・見守りあり	その場所に台がなくてもいいと感じていた保育士もいたので、声を掛け合い、考えていけるとよかった。	気が付いたときに声をかけあえるようにし、皆で話しえるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	保育士や友達と一緒に鬼ごっこや砂場で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は少し離れた場所で他児と遊んでいて が、視界には入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の方を見ていたため、対象児は見ていなかった。	特になし	注意力が散漫な子など子どもの様子を把握し、声をかけていく。	
9999	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左Aの外傷性歯の打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	職員配置は十分だったが、子どもの動きを予想しきれていなかった。	様々な体の動きを経験できる運動遊びを繰り返し行うことで、手足の力や体のバランスをコントロールする力をつけるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし	子どもたちが安全に過ごせるように、園内の怪我が起こりやすい場所を再確認し、職員間で共通理解をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	落ちてもクッションになるよう、マットを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	一人で太鼓橋を渡っていた。	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	太鼓橋の近くで、本児の様子を見ながら全体の見守りもしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	太鼓橋以外の固定遊具（ブランコや滑り台など）のそばについたり、子どもたちの遊びの様子の見守ったりしていた。	特になし	職員同士連携しながら、立ち位置や声掛けなどに配慮する。	
10000	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15									3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	職員配置の人数は十分だったが、立ち位置や担任同士の連携を図るべきであった。	子どもの動きを予測しながら、保育者同士の連携を図る必要がある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		遊具や玩具、施設については丁寧に点検していたが、園庭全体＝地面に対する意識は薄かった。	子ども達が安全に過ごせるように、引き続き定期的な安全点検を行うとともに、園内の怪我が起こりやすい場所を再確認し、職員間で共通理解をする。	3.個人活動中・見守りあり	安全点検以外でも、園児の遊びの見守り中にも園庭全体＝地面に対する意識は薄かった。	本児が転倒した場所は、深くはないが若干のくぼみがあった。園庭（特に雨天後）の状態を定期的に確認し、くぼみができているようならば、くぼみを埋めて平らになるようにしておく。	1.いつもどおりの様子であった	●月と●月に肘内障になっていたが、生活や遊びに制限はなかったため、他児と一緒に外遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員3名のうち1名は砂場付近で見守り、1名はブランコ付近に行った子どもたちの見守り、1名は排泄に行く子どもについて室内のトイレに行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	天候がよく、他クラスの子どもも園庭で遊んでいたため、そばにいた職員が転んで痛がっている本児のもとに駆け寄った。	園庭でいろいろなクラスの子どもが遊んでいる時、また当番勤務の職員が入れ替わる時間は、より意識して子どもの動きに目を配る。	広さのある園庭で園児が遊んでいる場合、担任が常に一人一人のそばで遊びながら事故などを防ごうとすることは難しい。（園児一人一人がどこでどのような遊びをしているかを常に把握しておくことは必須である）。そのため、園庭にいる他クラスの保育者やフリーの保育者も、自身のクラスは外の園児の動きにも意識を向けていく。	
10001	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13									3	3	14.2歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	右足小指切断	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	保育室内でおこりうる事故についての研修不足	園内を見直し、事故の起きやすい箇所、どのような事故・怪我につながるかを園内で定期的に話し合っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1歳児保育室の網戸が外れており、子どもの転落を防ぐために簡易のフェンスを設置していた。簡易のもので安定していなかったため、子どもの重みでフェンスが破損した。	網戸の修理(本日実施済）また網戸が外れてしまうことが想定されるため、網戸前に転落防止用のサークルを設置。(本日注文済）	1.集団活動中・見守りあり	子どもが興味を示し一度に押し寄せると予測した保育をしていなかった。	子どもの反応を想定した声掛け、見通しを持った保育のための研修を実施する。	1.いつもどおりの様子であった	広告あそびをしていたが、近寄ってきてくれた散歩中の犬に興味が向き他児と一緒に走って窓辺に押し寄せた。	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	先に犬に気づいた子どもと窓辺のフェンスに手をかけ座って犬を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	何人か残って広告あそびをしていた子どもを見ていた。	子どもの動きを予測しきれた声掛けをするべきだった。	子どもの反応を想定した声掛け、見通しを持った保育のための研修を実施する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10002	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									1	1	17.5歳	1.男児	R●.●.●自宅にて転倒し、今回と同様の箇所をぶつけていた（診断名：外傷性歯の亜脱臼）。左上Aの動揺はこの時よりずっと続いていた。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右上A歯根破折疑い、外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	園児の安全、けがの予測等については、日頃より確認しながら保育を行っているが、その日の子どもたちの様子、一人一人の運動能力や、気持ちの高ぶりなども配慮することを改めて認識する。本児については、転倒しても手で防ぐことが困難な状況があることを把握していたため、危険を防ぐ様なように保育でも取り入れていた。	転倒した際には、手で自分の身を守れるような体の使い方を身に着けられるよう、手を使う遊びや運動あそびを取り入れて柔軟に身をこなせるように指導していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	駆け足や走って遊ぶときは、遊具の散乱を防ぐ。	自由遊びの時間帯では、遊戯室での遊び方を、玩具を使って遊ぶあそびと体を使って遊ぶあそびは、使い分けてあそぶ。	1.集団活動中・見守りあり	４歳児１８名でサーキット遊びを行っていた。事前にけがにつながらないような約束指導を行ったが、本児はサーキット遊びに興味を持ち、元気に参加した。気持ちが高ぶり、転倒につながってしまった。	本児は、気持ちが昂るとすぐに行動に移すことがあり、転倒につながりやすいので周りをよく見て、スピードの加減や柔軟に行動するように練習していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活動を楽しめるので、活発に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転びやすいことを認識していたため注意しながら、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児１８名のため担任１名で保育にあたっていた。ほかの保育士は、ほかのクラスで保育中だったため、みていなかった。		駆け足、走るときのバランスを整えて転ばないように練習する。手を使う遊びや運動あそびを取り入れて柔軟に身をこなせるように指導していく。子ども一人一人の運動機能や、その日の状況などに配慮し、必要であれば、保育者のサポートを増やす。	
10003	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28	6	7	8	7					10	10	13.1歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	階段の昇降については園で怪我を未然に防ぐための決まりはあったが、園外保育については、その決まりごとを応用すべきという認知がされていなかった	新たに園外保育についても細かく怪我を未然に防ぐ事項を検討し、職員間で認知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育手順は年度始めだけの確認だったため,職員間での確認回数を増やし園内研修を行うべきである。	園外についても再度危険な所を洗いだし、その都度情報提供を求め職員間で共有する。	1.集団活動中・見守りあり	園外保育で、異年齢の保育であり安全に対する予測が不透明であった	園外保育における環境整備の徹底と安全に対する園内研修を実施する	1.いつもどおりの様子であった	普段から活動的で、高いところがあれば上り、飛び降りしても怪我にはつながらなかったため、過信していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近で対応していた職員はいつもこのくらいの高さから飛び降りても問題がなかったため過信があった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が持っていた木片を離すように声掛けした直後に飛び降りた	危険個所の点検が不十分であり、対象児の行動について過信があった また、職員の危険予測が未熟であった	危険個所の点検を十分に行い、対象児のみならず常に事象を想定し対応するよう園内研修を重ねる	
10004	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65					33	32			5	5	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯槽骨骨折、外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	周りの様子を見ることなく夢中で走り、友だちとぶつかってしまった。	子どもの動き、遊びの様子を把握する。必要に応じて声をかけたり、子どもたちと話し合ったりして安全な遊び方が身につけるようにする。また、全職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	石やマットなど、つまづいて転ぶ原因になる物はなかったか、園庭の整備はできていたか。	遊具の安全点検はしているが、園庭の状態まで把握できていなかったので毎週月曜日の遊具の点検に加え、園庭の状態を確認することを全職員に再度周知する。	1.集団活動中・見守りあり	固定遊具での見守りに集中していて、走っている子への配慮が足りなかった。	戸外遊びの際は、園庭全体に目を向けるようにし、保育士同士がお互いの動きを見ながら（把握しながら）連携をとるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	毎日、ずんで鬼ごっこをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の遊び（固定遊具）の見守りをしていたため、離れた場所から対象児の遊びを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士の動き、立ち位置を把握しつつ、固定遊具で子どもの援助をしていた。	保育士が、固定遊具以外の遊び（鬼ごっこ）は、大きな怪我につながらないだろうという気持ちになっていた。	どんな遊びにも怪我をする可能性があるということを認識し、ヒヤリハットなどを職員間で共有していく。	
10005	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49					24	25			4	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第3中手骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		ケガの状況や対応方法含め全職員で情報共有し、改善策を検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	鉄棒の下に落下防止マットは常時敷いてあるが、劣化も激しんので取り替えも検討できると良い。	用具の使い方を再度指導する。場合によってはマットを引くなど検討する。	3.個人活動中・見守りあり	外部からの要因がないのに大きなけがにつながった。	状況によってマットを敷くなどしてクッション性を高める。	1.いつもどおりの様子であった	運動神経はよく、ずり落ちた時も右手は鉄棒を握っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	そばについていたが、防ぜげれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2クラス一緒に４人体制での保育であった。	慣れで鉄棒の使い方が雑になっていた。	他の職員とも情報共有し、早めに保護者への連絡や受診の判断ができるとよい。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					ソフト面									ハード面							環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事					死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位				マニュアルの有無	実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
10006	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				5	7	10			3		3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右くるぶし骨折疑い	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	当日、5歳児クラスは、お別れ遠足に行かれなかった（コロナ状況を鑑み）ので、通常の保育の中で、楽しめる活動を取り入れていた。いつもは持参しない保護者手作り弁当もあり、5歳児の子どもたちはいつもより興奮している様子がみられた。玉入れは、時々保育の中で取り入れている活動であった。	子どもたちへの情緒のはたらきかけ、必要に応じたクールダウンを十分に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	玉入れのかご の高さが あることで、過剰なジャンプを誘発した可能性がある。両チームのかご台の位置が狭かったことにより、落ちたボールの密集度が高かった可能性が考えられる。	子どもの様子に応じた高さの設定をする。設定場所と参加人数によりボールの使用量と位置を調整する。	1.集団活動中・見守りあり	玉入れ台の高さはいつもと同じ高さで実施。玉も、使用頻度を重ねている。この日は、前日よりも気温が高かった。3人の保育者が3点ポジション（1人は全体の進行、2人は安全の保持、3人は常に死角のないように配置）をとり、かご台の安全に備えていた。	体を動かしやすい状態となり、体の細かい部位を意識した準備体操を取り入れて、大きな動きに備える筋力作りをしていく。クラ形もた本児は、日頃パレエを習っており、体は他児に比べ、柔らかさがある。今、コナ禍なので、今までとりも、活発な活動が少なくなっていることも考えられ、園では、意識して、テラスを使用し、体の動きの保障をしているが、より細かな準備体操を取り入れていくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	特別な日（お別れ遠足は中止となったが、保護者手作りのお弁当持参）を楽しみにしており、いつもの本児より、興奮している様子があった。また、玉入れに"勝とう！"と、説積極的に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	玉入れという同じ活動をしながら、見守りの中には、常に本児や他児を確認入していた。しかし、負傷の原因となる瞬間は確認していない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	玉入れという同じ活動をしながら、見守りの中には、常に本児や他児を確認していた。しかし、負傷の原因となる瞬間は確認していない。	子どもの人数に対する保育者の配置や、活動内容は問題なかったと思われる。	特別な日（お別れ遠足は中止となったが、保護者手作りのお弁当持参）であるということを踏まえて活動内容の精査をし、計画を立てる。異年齢で行う際は、それぞれの育ちにあった動きで行うようにする。	
10007	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				19	17				3		3	17.5歳	2.女児	発生時、雨上がりで園庭がぬかるんでいた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折（左足首）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	天候は良かったが、雨上がりで地面が滑りやすくなっていた。	外遊びは園庭の地面の状況をみて判断する。危険が予測される場合は外遊びはしない。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	園庭のデコボコなど、穴埋めしてもまたすぐに子どもが穴を掘ったり、砂場ではないところで砂遊びしたりしてしまうので、遊び方についても約束事を決める。	点検したら修繕が必要な箇所を早急に対応する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の一部に泥が残っていたことで、その場所にボールを追っていた本児が滑って転倒し怪我をした。	園児の様子をよく見て必要に応じて声がけなどを行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ボールを追いかけ、ボール遊びに夢中になっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭の全体的な子ども達の動きを確認しながら飛びこしている子ども達に声がけをしていた。本児がボールを追っている姿の後に他児に声がけし、その後本児を見たら転倒するところだった為、その後近くに行き状態を確認し、看護師に見せに行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児とボールを追いかけ遊んでいる姿を把握していた。ボールが保育者の後ろを通過し、見えなかった位置で対象児が転び、声を上げ気が付いた。	より多くの目で子ども達を見守る。	外遊びの様子を園長や他の職員も気にかける。	
10008	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40	0	0	0	12	15	13			4		4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上中切し歯脱臼(2本)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	入職間もない保育士にマニュアル等を伝えてはいたが、具体的には伝えきれていなかった。	今回の事例を職員間で共有し、相撲遊びの危険性を共通認識し、子どもが相撲遊びを希望したときには、子ども達にも危険性や約束の確認を都度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	園庭のコンディションを確認するべきだった。今思えば、乾燥して滑りやすくなっていたように思う。園庭遊びをする前に園庭に水をまき、滑りにくくしておくべきだった。	安全点検票による点検を丁寧に確実に行う。また、問題点が出た時には、早急に対応し安全の維持に努める。	1.集団活動中・見守りあり	夕方の子ども達が疲れてくる時間帯に適合しない遊びだった。	時間帯により子ども達にとって最適な遊びを考え提案していく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと誘い合って相撲遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	相撲遊びは危険な遊びと認識していたので、相撲遊びの集団を見守っていた。相撲遊びの砂の上に靴で描いた土俵の脇に立ち、相撲遊びの取り組みをする子ども達を見守っていた。取っ組み合いのようになったときには、離れるように声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊びを見守ったり、遊具の側についていた。	事故の起きた相撲遊びを子ども達が行う前に、相撲遊びの約束を確認しなかった。	この週は、クラスで相撲遊びが流行っており園庭での自由遊びの際によく行っていた。その際は、保育士が側につき、危険な時などにその都度声をかけていた。当該事故の際も同じように対応していた。今後は、都度相撲遊びを行う前に具体的に子ども達と行う時間、約束を確認する。	
10009	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2		2	18.6歳	2.女児	令和●年●月●日に同部位を骨折しているが、運動制限や配慮が必要な事項はないと医師から言われていた。	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首捻挫 ●/●骨折と診断名変更●/●再骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	打合せ対応中の保育で担任不在だった為、いつもと違う位置でのみまもりであった。	事故が起こる前に、声を掛け回避できるような立ち位置の検討。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	天候不良により土嚢が滑りやすかった	土嚢更新	1.集団活動中・見守りあり	再骨折のリスクがあるという見方で見守り出来ていなかった。	けがが完治していない時には、動きに制限がなくてもケガをしている状況であることを頭に入れて子どもの様子を見ていく。	1.いつもどおりの様子であった	骨折の傷が完治していない状況だが、いつも通り園庭で走りまわっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	特に制限されていなかった為、全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守る位置にいた為、転倒時は見ていなかった。	打ち合わせ対応中保育の為、充分に子どもを見守れる職員の数がいなかった。	全体を見守りながら、必要に応じて滑りやすくなっている状況を子どもたちに声をかける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10010	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	19									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故の再発がないよう防止策について話し合いを持つ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ダンボールを使って芝滑りをしていたが、友達と一緒に滑っていた時で、友達との接触があった事で、ケガにつながったと考えられる。	複数の園児が一緒に滑るダンボールの大きさによって、ケガにつながりやすい場合があるので、大きさは検討していく必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	友だちと一緒の芝滑りが楽しくなり、少し興奮気味になると、滑る時に注意散漫になった事もケガにつながったと思われる。	最初に滑り方の注意点を子どもに伝えるが、少し盛り上がったところでも、再度滑り方を見て職員が声をかける事が必要である。	1.いつもどおりの様子であった	普通通り登園し、体調等に変化はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	土手の上で、子どもたちが、危なくないよう見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス全体で芝滑りをしていたので、本児以外の子どもたちが危なくないようにも1人の担任と同じく土手の上で見守っていた。		子どもたちの体、身のこなし方が大変になってきている状況があるので、楽しく遊んでいる時も危険がないかしっかり見ていく事が必要である。	
10011	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	91		9	12	18	20	32			17	14	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置		職員間にてマニュアルについて再確認、子どもの様子に十分留意して安全に過ごすことができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	発生現場にて、危険個所は無し（平地）	屋内、園庭等施設全てにおいて、危険個所の再確認実施（ヒヤリハット表使用）	3.個人活動中・見守りあり	集団遊びをしていたので動きが激しかったのではないか	引き続き戸外活動中は、随時保育士が対応できるよう配置を行う	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士は集団遊びを行いながら、対象児の姿を把握	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な児童を注視していた		遊ぶ前に、危険箇所（園庭の地面の様子など）を確認。安全に遊ぶための注意事項を子どもと確認してから、活動を開始	
10012	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18			6	4	8				2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左側鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		今後も子どもの人数に対して適切な人数の職員配置を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具の一部が手が滑りやすくなっていた可能性がある。	遊具の安全点検を再度行う。	3.個人活動中・見守りあり	遊具で遊んでいる際、ロープをつかんでいる手がすべってしまった。	遊具で遊んでいる際は、手を離さないよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく活動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児を含む園児１８人がそれぞれ園庭で遊んでいた。対象児は園庭の大型遊具で遊んでいたが職員は少し離れた場所に配置していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を含む園児１８人がそれぞれ園庭で遊んでいた。対象児は園庭の大型遊具で遊んでいたが職員は離れた場所に配置していた。	遊具のすぐそばに職員配置をするべきだった。	園児の動きに留意し、高さのある場所で遊んでいる際は傍につく、またはその都度声掛けを行う。	
10013	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14									3	3	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	午睡前の排泄だったため素足手で洗いをしていた。手洗い場の床が濡れていて滑りやすかった。保育士も見守っていたが、手洗い場とトイレの２ヵ所を１人で見守っていた。	床をこまめに拭き上げる。午睡に入る直前まで来る下と上履きを履かせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	足をぶつけてしまったござ入れの位置が適切でなかった。	ござ入れを撤去し、保育室にござを置く。	3.個人活動中・見守りあり	濡れた床で滑って頭をうってしまうことも考えられる。	こまめに濡れた床を拭き上げる。	1.いつもどおりの様子であった	特段、普段と変化はなかったが、午睡前の絵本をみたい気持ちから急いでしまったことも考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	トイレと手洗い場の児童２名が見える位置から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士１名は、他児に絵本の読み聞かせを行っていた。もう１名は、加配児童についていた。		危険な箇所を共有し、職員が必ずそばにつくことにする。	
10014	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもの危険な活動については怪我につながる恐れもあることを察することができなかった。	けがの事例やヒヤリハットの事例を参考に危険予知をして未然に防げるよう職員の資質を向上させる。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	芝生化しているが、地面が硬い。	芝生とはいえ硬さがあったり、石が落ちていたりするので怪我につながらないよう整備する。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの動きが激しくなったことに気が付かず、声掛けできなかった。	子どもの動きに注意し、危険な行為は早く気付けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活動的に遊ぶことが多く、体の動きが大きく、汗をかきながら遊んでいることが多い。おやつの後友達や保育教諭とが一緒にボールで遊びひたらに気持ちが高揚していたと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育教諭も一緒に三角になってボールを回し蹴って遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少人数のため、担当職員のみで保育を行い、他職員は、保育室で新年度準備や職員室で事務を行っていた。	楽しさを共感しながらも危険な行動に注意喚起できなかった。保育教諭の経験が未熟で危険予知しにくかった。	先輩保育教諭の指導や自身の経験を重ねる中で子どもの行動の予測や危険予知ができる力をつける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
10015	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	90	5	15	16	19	18	17			18	16	14.2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨亀裂骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	フラフープを使って友達を引っ張る事を予測しなくてはいけない	園庭での玩具や子どもなりの遊び方を理解し、予測をおこない注意すべき点を見落とさないようにする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		施設整備の問題なし	1.集団活動中・見守りあり	屋外用のテーブルを移動して遊ぶときにトラブルがおきる	イスとテーブルの数や設置場所について決める	1.いつもどおりの様子であった	トラブルがあった様子はなく、遊んでいる際に起きてしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象時のそばで泣いている他児の対応をしていたため落ちる瞬間、間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の対応をしていたため見ていなかった	職員が近くにいたが、気づけなかった	子どもの次の行動を予測しながら見守る	
10016	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	34			10	14	10				3	3	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指第一関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	当園では裸足保育を行っており、当日も室内は裸足であった。	裸足である為、物を落としたりぶつけたりした場合は怪我に繋がりやすい。室内で気を付けることや物の落下には注意するように子ども達に伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。(施設、設備の面では問題ないと考えられるため。)	特になし。(施設、設備の面では問題ないと考えられるため。)	6.食事(おやつ)中	水筒がプラスチック製よりステンレス製で重さがあり落とした際に怪我をしやすかった。	ステンレス製の水筒にはクッション性のあるケースに入れるよう保護者に声を掛けたり、ステンレス製の水筒の危険性を伝え他の水筒の使用を促したりする。本児の動線を図にして確認する。	1.いつもどおりの様子であった	飲み残しの水筒の中身を捨てリュックにしまおうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園外から帰園して給食を食べる為、敷設えをしたり、水筒の中身を流したりするように５歳児全体を見ながら声を掛けていた。怪我をした本児の至近には居たが怪我の瞬間は見ていなかった。水筒が落ちる音や本児が痛がる様子は見られなかった。（保育士B	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3・4歳児の給食の配膳をしていた為、見ていなかった。（保育士C・保育士D	保育者が本児の変化に気付けなかった。	水筒を落としやすい子どもはリュックに入れる際に気を付けて見るようにする。入れずらい時はリュックを下に置いて出し入れするなどする。また、少しでも痛かったり、怪我をした場合は保育者に伝えるように話をする。	
10017	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				17	22				3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	園児の体の動かし方などをよく観察し、身体づくりの検討	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	園庭の点検	1.集団活動中・見守りあり	なし	職員の立ち位置を考えながら子どもの遊びを見守る	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友だちと鬼ごっこをして走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしているところを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこをしているところを見守っていた	なし	職員の立ち位置を考えながら子どもの遊びを見守る	
10018	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				12	15	9			2	2	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子どもの動線の交差。	動線への配慮	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	進級直後の、クラス移動による動線の変更。	動線の変更をする	1.集団活動中・見守りあり	なし	職員の立ち位置を考えながら見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子	4.対象児の動きを見ていなかった	入室した子どもへの対応	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	入室が遅れた子どもの対応	なし	職員の立ち位置を考えながら見守る	
10019	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	切り傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	園全体でも一度マニュアルの確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(247)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(247)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(247)回/年	フェンス下がコンクリートになっている。	コンクリート箇所にクッション材を付けて、けがを防ぐ。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	鬼ごっこなどの集団遊びは、広い場所で行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、鬼ごっこを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育中のため、担任１人が集団遊びに仲間入りをして、園児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助職員一人も、支援を要する園児を中心に園児の様子を見ていた。	特になし	どんな時でも怪我をすることがあることを念頭に置き、保育に努める。集団遊びをするときは、環境を考慮する。	
10020	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14									2	2	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	切り傷 打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	園全体でも一度マニュアルの確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(247)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(247)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(247)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	室内から出ている園児がいないか、常に確認していく。	1.いつもどおりの様子であった	登園時間は、室内で遊びをするよう指導していたが、絵本コーナーに出掛け、年長児の遊んでいる様子を見ていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	登園時間のため、所持品の始末の指導や室内遊びの子どもの様子を見ていた。しかし、本児がクラスから出て、絵本コーナーに行ったことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助職員一人も、支援を要する園児を中心に園児の様子を見ていた。	特になし	どんな時でも怪我をすることがあることを念頭に置き、保育に努める。園児に再度登園時間は室内で遊びをするよう指導する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10021	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	133				48	41	44			4		4	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		要因がソフト面ではないと考え、特になし・	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年		園庭も天然芝で土も柔らかく、要因がハード面ではないと考え、特になし。	3.個人活動中・見守りあり		要因が環境面ではないと考え、特になし・	1.いつもどおりの様子であった	朝から健康面でも問題なく普段通り活動していた。ホールでの誕生会（4・5歳児）に参加した後、自由遊びの時間に園庭で遊んでいて転んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児とは違う子のグループと遊びながら、クラス全体を見ていた。しかし対象児が転ぶ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任しているクラスの子どもと遊びながらクラス全体を見ていたが、対象児の動きはほとんど見ていなかった。	自由遊びの時間はクラスや学年が入り乱れて遊んでいる為、保育教諭の目が届きにくい。	自由遊びの時間は、クラスの子ども達と遊びながら、クラスではなくエリアを分担して見ていく。	
10022	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14									1		1	17.5歳	2.女児	集団の騒がしい中が苦手であった。	2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明		急性アルコール中毒	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	迅速な判断をしていく	乳幼児の事故に関する研修を受ける	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎月施設の点検を行う中で改めて児童にとって危険なものなどが、手の届くところにないか点検をする。	5.睡眠(午睡)中	子どもの手の届くところに消毒液があったため	子どもの手の届くところに消毒液を置かない。保育士の見守る中で使用する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに遊びをし、食事をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	午睡後で、職員はおやつの準備をしており本児から離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同様におやつの準備をしていた。		他の職員とも連携して、児童から目を離さないよう注意していく。	
10023	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									5		4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		布団敷きの時には、布団を出したり、敷く子ども達の見守りや援助が必要であるので、保育者の配置場所について改善していけるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日行っている。		幼児3クラスの内、1クラスは自室で午睡を行ない、2クラスはホールを使用している。全て分室となると狭さもあり、コロナ禍で密集を防ぐ為にもホールを使用しなければならない。	1.集団活動中・見守りあり		年長組になって始める当番活動の回数は少なく、子ども達に定着するには、時間がかかると思われる。その都度丁寧に方法を知らせていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	布団敷きをする事は分かっていたが、気持ちが高まって、目的の場所まで走り出した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達に布団敷きの援助をしていた為、視界の中には入っていたが、本児の行動を細かく把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３名の保育士は配慮が必要な子どもへの対応を他の保育室や園庭で行なっていた。もう1名は他の子ども達の布団敷きを援助していた為、側にはいたが本児の行動は捉えられていなかった。	子どもの行動予測を常に行なっているが、不十分であった。	今後は更に危機管理意識を高め、子どもの状況を把握し、保育を行う。	
10024	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30									3		3	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	特になし	常に園児の行動を予測し、安全な環境を整えることの大切さについて、意識をもつ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	小学校の陸上練習用のラインや、駐車スペース用のラインがあった。	園児が戸惑いそうな場合は、職員を配置する、または使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	コーンを置き、保育教諭が試走し走るコースを見せていたが、初めての場による緊張感やトラック以外のラインがあったこともあり、走るコースが分かりにくかった可能性がある。	初めての場所の場合、全員で試走し体で覚えるようにする。大きいコーンを多めに立てたり他職員の協力を受けたりして、コースを分かりやすくする。	1.いつもどおりの様子であった	体調面等、特に変わった様子はなかったが、小学校の運動場で走るのは初めてだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラスの園児全体の動きを見ていた。対象児が、転倒後立ち上がり、走ってゴールしたので、その後、体の様子を確認する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体が見える位置で園児を見ていた。本児のすぐ近くに保育教諭はいなかった。	特になし	職員3名の配置は適切であったと思われるが、（スタート1名、スタートの子を並べる1名、走り終わった子を並べる1名）予期せぬことが起きたことを念頭に置き、すぐに対応できる距離での配置に努め、園児の動きをしっかりと見ていく。	
10025	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	2	8	2	5	2	2			5		5	15.3歳	2.女児	無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(15)回/年	2.基準配置	無し	マニュアルに沿って保育が行われていた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	無し	ソフトブロック等、怪我をしたかもしれない可能性のある遊具等を確認したが問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	今回の事案は、何時・何処で・何で起きたのか原因が特定されておらず、そのこと自体が大きな問題点である。	遊び方の工夫・職員の配置など常に考えながら進める中で、死角や見落としが無いようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	登園時に母親と離れるのが寂しい と泣いての登園であり、いつもとは雰囲気が悲しそうにすることはあったがその後の保育（散歩）では楽しく過ごし、大きく変わった様子は見られてはいなかった。合同で遊び始めてから は、お昼寝に来る保護者を見て寂しそうにする様子もあった が、最初は定番のソフトブロックで遊んでおり、帰る直前に は積み木で遊んでいるところへ移動し、座って静かに見ていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内で分散して遊んでいた為、自分の近くで遊んでいる子は見ていたが、全体を見るには至っておらず、本児の様子に気が付いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	悲しそうにする様子をしていることには気が付いていたが、普段から見られる様子であった為、「もうすぐお迎えに来るよ」などと声がけをする程度の対応で、身体異常等の詳細の確認をしなかった。	発生したと考えられる時間帯は夕方の合同保育の時間で、体制的には十分な人員配置だったと思われるが、その場にいた保育者は、遊びの危険性がある状況や発生状況を把握していなかった。	十分な人員配置ではあったが、お迎えの保護者対応や他児に気を取られたりのさなかで起こったと思われるため、全体の状況を把握しきれて声を掛け合った方ならば、それぞれが適切な動き・対応をするように「見ていなかった」「気が付けなかった」ということがないようにする。また日頃から何かあった時には、どの保育士にでも伝えられるような子どもとの関係性作り、働きかけをしていくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷		診断名																													
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10026	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	2								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	新入園児対応がある中での、園庭での保育活動となるが、３歳児クラスの1名の職員は室内で作業を行っていた。	4月、5月は新入園児もいる中で余裕のある配置をする。事故防止の取り組み等の、事故予防に関する研修を1年に1回必ず受けるようにし、共有を図る。また、事故予防マニュアルを見直す。	1.定期的に実施	実施頻度6回/年	1.定期的に実施	実施頻度6回/年	1.定期的に実施	実施頻度12回/年		なし	1.集団活動中・見守りあり	各クラスの職員は園庭に出て見守りを行っていたが、職員同士が近づきすぎて園庭全体を連携を図って見ていなかった。	園庭全体を見るように配置を見直し、周知徹底する。また、園庭、各教室に防犯カメラの設置を今年度中に行い、危険な場所の確認など配置の改善につなげる。	1.いつもどおりの様子であった	汽車の遊具付近で友達と一緒に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は新入園児と手をつなぎ、他の遊具で遊びながら、他クラスの片付けの声掛けにまわってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分のクラスの園児を動きを見ていた。	職員一人一人が配置を意識した行動ができていなかった。危険な行動・行為等に対する声掛けが足りていなかった。	朝礼時、各職員に配置図を配布し配置の確認を徹底する。活動の前には、子ども達と危険な遊び方・危険な場所などを確認しあう。職員同士危険を察したときは声を掛け合う。	
10027	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44				11	16	17		5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折右手関節捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	全員そろっての確認をする時間は取れず、紙ベースでの周知が多くなっている。	グループごとにでも話し合いや確認し合いの場の設定を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	鉄棒下の地面が固くなっていた。	鉄棒下の土を午後に掘り起こしたが、今後は固くなる前に定期的に行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが挑戦して楽しんでいることを安心して見ていること	怪我をすることを心配ばかりしてさせないということは避けたい。ただし子どもたちの身のこなしが安定や向上するための保育を行っていくこと。	1.いつもどおりの様子であった	戸外に出て好きな遊びを始めた。鉄棒の上に座ることをこの頃楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児を含む6名の子と鉄棒の周辺にいて、近くにいた子どもに気を取られた瞬間だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれに保育士は散らばり、周りの子どもたちの遊びの様子を見ていた。	保育士は子どもたち全員を見ているが、トラブルが起きた時はそこに気がとられる。危険でない行為と思っている遊びでも事故は起きることもある。	出来るだけ固定遊具での見守りは十分に注意して見守るようにする。	
10028	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	16								1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	当日は、担任が保育要録記入時間の為、事前に代替職員が担当することが分かっていた。経験は担任よりもあり、これまでにも代替担当はしていた。	事故予防マニュアルに沿って安全保育に心掛けているが、子どもの動きには予測できない部分もあり、繰り返しヒヤリハット等を全体で共有し、そして研修を実施していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	定期的に実施	12		園庭点検は朝（子どもたちが活動する前）と夕方（活動後）に実施している。園庭に危険物はないか、不具合個所はないかを点検している。今後も見落としがないようにしていく。	7.その他		転倒したところが足洗い場に近い場所だった。今回の怪我が更につぐい怪我をする可能性もあったため、急がず上がるよう声がけもしていく。	1.いつもどおりの様子であった	当日の健康状態は普段と変わりなく良好であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	人数確認をしながらクラスの子どもたちが靴を脱ぐ場所で見守っていたところ、本児が手をつき転倒した。受け止めることは出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で全体の様子を見守っていた。		園児一人一人に行動の機敏さ等に違いはある為、個別の状況等も含み活動を最後まで見るよう、今後も目配りをしていく。	
10029	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22								2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	マラソン時にも転倒し事故が起こることが過去あったため、その引継ぎをし教職員がその意識をもったうえで活動をおこなう必要があるが、その意識が薄れていた。	過去の事故やヒヤリハットをみんなで共有していく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	グラウンド（ゴムチップコース）内に転倒の原因となる滑りやすい状況や小石などがあった可能性がある	グラウンド（ゴムチップコース）内の小石や砂等の除去をおこない、安全な環境整備をおこなう	1.集団活動中・見守りあり	マラソンの活動としての園児の人数が適正であったかどうか	マラソンの時の子供同士の距離や混雑加減にも配慮しておこなう	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はない	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と一緒にすぐ近くではないがマラソンの活動をおこなっていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見つつ全員の動きを見ていたため、対象児を注視してはいなかった	全園児の動きを把握するよう目配りする必要があるが、それができていなかった	常に全体を把握できるよう、一部に注視しすぎない配慮が必要	
10030	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置		けがが起こりやすい場所の認識を共有する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	園庭は起伏がある場所もあったり、木の根が盛上がっている場所もありつまづくことも考えられる	つまづきやすい場所の把握とその情報を職員で共有及び園児にも共有する	1.集団活動中・見守りあり	園児が夢中になり、注意散漫になる可能性が高まる	時々あそびの最中に教職員が園児に注意喚起等をおこなう	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はない	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児とあそんでおり、対象児の動きを離れて把握していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んでおり、対象者を見ていなかった	特に怪我が多く発生する場所ではないところで遊んでいたため、怪我に繋がる意識が少なかった	いつでもどこでも怪我が起こることを教職員が深く理解する必要がある	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳															死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10031	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	167	22	21	23	27	39	35		29	22	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	年中児が保育者に断ってボルダリングができるようになったばかりの時期であり、遊びの経験が浅いため、安全に遊ぶスキルが未修得な時期に発生した事故である。見届ける職員の目が不足していた事例と考えられる。	初めて体験する遊びの導入時は、一層細やかな安全指導が必要である。安全に遊ぶための約束事を各クラスで再指導した。年中児が安全に遊べるスキルが育つまで、●月いっぱい見届ける職員を増員し、安全を見守る体制を整える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	遊具の設置状況に不具合はなく、ハード面での要因とは考えていない。	遊具ネジの緩みや落下によるけが防止の安全マット等の安全確認を徹底し、不具合が生じた場合は速やかに改善を図る。	3.個人活動中・見守りあり	該当児童は、ボルダリングに挑戦しようという意識が強かった。安全に遊ぶことができる見守り体制を整えて、挑戦する気持ちを大切にした保育を進めていきたい。	安全点検と細やかな観察に尽きるが、起こり得る危険を察知し、「自分の命は自分で守る」という心を日頃から耕やす指導を推進することで、事故の未然防止に取り組んでいく。	1.いつもどおりの様子であった	複数の友だちとボルダリングを楽しんでおり、普段と変わらぬ様子であった。６０ｃｍ程度の高さから飛び降りようとして左肘頭を痛打、骨折に至った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室で遊ぶ児童１５名程度の動きを見守っていたが、ボルダリングをしている子ども達からは５．６ｍの距離があったため、児童の咄嗟の動作に危険を回避することができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	未満児の指導にあたっていた本園看護師（保育士）がすぐに駆け付け、初期治療にあたると同時に、担任は医療施設や保護者との連絡、他の職員は、周囲で遊んでいる子ども達の掌握に努めた。	通常２～３名の見守り職員を配置しているが、当日も同じ状況であった。	ボルダリングやすべり台は、落下する危険性のある遊具であることを再認識し、近くに常時見届け、注意を促せる職員を配置する。	
10032	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11								2	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指の若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	個々の発達状況の把握	年齢の発達や個々の発達状況を職員全体で情報共有する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	環境として安全な状態と判断したこと	「安全だろう」と思わず危険がないか随時確認する習慣をつける	3.個人活動中・見守りあり	状況的に安全な状態と判断したこと	「安全だろう」と思わず危険がないか随時確認する習慣をつける	1.いつもどおりの様子であった	トイレに行く子もいて、部屋のスペースが広くなったため、大きい動きをしたくなったのかもしれない	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	環境、状況的に危険がないと判断したため、見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	数人と一緒にトイレに行く	本当に安全な状態だったのか、丁寧な観察はされていたか	手の付き方は安全か細やかな観察をする。個人の発達を考慮し援助する	
10033	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19								1	1	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	重大事故が発生するリスクに対して要因分析を行い、事故防止策を講じる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	遊戯室(●●㎡)に対し１９名の園児が活動するには適していると思う。	1.集団活動中・見守りあり	内野の園児がボールに向かって走り園児とぶつかった。	全園児に対するルールの徹底指導	1.いつもどおりの様子であった	外野を一人で守っていたところに他児がボールを追いかけてきたため足が引っかかり転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	中央で審判をしながら子ども達の動きを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	５才児A組16名を１人保育、５才児保育室ＡＢ組の消毒掃除を1人行っていた。	体育教室や普段の活動で遊びこんでいるドッチボールだったので、楽しさも加わり勢いが増した。	危険に繋がる行為であることを指導し、安全に楽しむことを伝える。	
10034	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	46					25	21		25	18	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	4，5歳児の担任は、4名の配置だった。5歳児の園児2名が保育室に戻った為、ホールでは3名の保育士で見ていた。園児は、5歳児21名、4歳児25名であった。	職員人数に問題点はないが、今後、体育教室指導員より、再度跳び箱指導での怪我の傾向や防止のポイントを教えてもらい、職員で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	跳び箱4段をホールの中央に横向きに設置した。縦横30cm×60cm、高さは53cmである。最奥段の2マットは縦向きで、縦横180cm×90cm、厚さ5cmである。器具に破損などはない。助走は、3m程で後ろに並んで順に行っていた。体育教室と同じ設置の仕方をしていた。ホールのだったは十分で、園児が飛ぶ場所と見る場所の区別もしていた。跳び箱には、園児が飛べるように手を着く位置に、印を付けている。	今後の改善点は、マットの幅を広く設置することである。跳び箱を横向きに設置した時、敷いてあるマットの幅は、跳び箱に対して左右15cmずつ広いときである。園児の転倒場面を想定すると、マットはより広いカが安全対策になる。その為、マットの敷き方を工夫し、敷設を1枚分つ2枚に増やし改善する。	3.個人活動中・見守りあり	園児はこの会に楽しんで参加していた。「やりたい」という声も聞かれ、意欲的だった。しかし、跳び箱では年長年中みんなの前で披露ということもあり、普段よりも緊張感もあったのではないだろうか。	園児に対して、保育者たちは「出来るよ」という思いでみていた。保育者は飛べるように、危険のないように近すぎず離れすぎない位置でみていた。結果として、最他時に保育士と反対の方向に転倒し、手を思い様べることがは来なかったが、保育環境としては休を遥め、手順を踏んで行っていた。	1.いつもどおりの様子であった	初めての経験ではなく、これまでスイスイではないが飛べていた。本児も、みんなと一緒に楽しく活動に参加していた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	飛ぶときの手の付き方と着地を見るために、マットの横側にひとり（5歳児担当）と勢いよく飛んでくる子の為に正面（4歳児担当保育教諭）に一人ずつ（計2人の保育教諭）が見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その他の保育教諭(4歳児担当)は、飛び終えた園児と離れた場所で様子をみていた。もう一人の保育教諭(5歳児担当)は、保育室に残りたいという園児2名に付き合って、保育室戻っていた。	交流会という普段とは違う環境での体験。	本児は、たくさんの友達の前のプレシャーもあったかもしれない。近くには担任二人も待ちっていたが、跳び箱の横には、5歳児担当が待っていた。担任は園児なんベル を把握していることから、横には担任が付いていれば良かった。今後は、補助を行う者はクラスの担任が担当し、補助の仕方を体育教室の講師より学び援助を行う。	
10035	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	12								2	2	14.2歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足内側骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		保育室からベランダ、園庭へと出る際、遊び始めるまでの介助には最新の注意を払い、担当職員同士声を掛け合い確認し見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園庭の隅に置いてある三輪車の場所を検討し園児の出入りする近くには置かない。	1.集団活動中・見守りあり		靴を履いた子が順に園庭で遊び始めるのではなく、全員の子どもが靴を履き終わるまで所定の場所で待つ。	1.いつもどおりの様子であった	靴を履き終え、早く遊びたくて駆け出したのではないかと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	グループごとに靴を履く介助をしていた。履いた園児より、順に園庭へ誘導していた為、対象児が転倒した瞬間を見逃した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先に園庭に出た、園児を見守っていたため。		靴が履けた子どもから順に園庭に出ていたが、グループ全員が履き終わるまで、ベランダで待つようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5以上歳	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位																			理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10036	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3								2	2	8.7か月	2.女児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	職員は下や周りを確認せず座ってしまった。乗ってしまった後、手の確認をせずそのままにしてしまった。本児の布団の配置場所が職員の動線に近かった	座る前に指差し確認する。必ず確認をし情報を職員全体に周知する。職員の通りが多い場所の為、部屋の中心に配置する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	室内の配置(布団、テーブル)の位置が適切ではなかった。布団が隅、テーブル等が部屋の中心に配置されていた。	コロナ感染に配慮しつつ部屋の中心に布団を配置する	5.睡眠(午睡)中		布団の敷く位置をドア付近を避けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	仰向けになり寝ていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の寝かしつけや職員間の会話に気が行ってしまい真下の本児には気を気張っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の部屋で作業をしていた。	職員の座り方がよくなかった。	正座で座れば先に膝をついていたので本児の手の上に乗ることはなかった。	
10037	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17		6	11					3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇裂傷（擦過傷）、前歯部歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		普段から落ち着かない場面で、落ち着けるような言葉かけをする	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週１回)回/年		これからも引き続き点検を実施し、不具合が見つかれば改善する	1.集団活動中・見守りあり		ラバーリングも適度に離して設定してあり、環境的には改善する事はないため	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	発散できる活動であった為、気持ちが高揚して普段以上にジャンプしたり動き回ってしまった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2名は月齢が小さい1歳児や介助が必要な子の傍にいた。1名はCDを操作していたので本児の近くには傍につけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児よりけがをしそうなリスクの高い児童の傍らに付いていたため。		日々の子ども達の様子を把握するとともに、状況によって近くにいた方が良いと思われる園児の傍にいるようにする	
10038	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37	0	0	4	10	6	17		3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置		マニュアルに沿った研修を定期的に実施し、職員も基準を満たしているためソフト面に関する新たな改善策は講じない。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	三輪車が、転倒の衝撃でグリップに緩みが生じ、緩んだ状態のグリップを持ったままだったことが考えられる。	グリップ緩みの三輪車は廃棄。ほかの三輪車も、事故防止のためグリップを固定した。廃棄分の三輪車は、新規購入した。	1.集団活動中・見守りあり	児童数、保育士数、スペースともに確保されていたが、スピードを出して三輪車を漕いだことから生じたと思われる。	三輪車で遊ぶ際のルールを見直し、職員・児童に周知する。年齢に応じて、スピードを出してよいコースを作る。	1.いつもどおりの様子であった	特に日ごろと変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	南西側の鉄棒付近から、三輪車を漕いでいる様子を目視していたが、転倒を防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離で全体を見渡しながら、担当児童を見ていた。		児童の事故状況を担任がしっかりと見ており、すぐに駆け付けたため人的面において適切な状態であり、今回の事故発生状況における改善策検討の必要性はないと考える。	
10039	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								2	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓破裂	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	特になし	今回の事故は、子ども同士がぶつかり、その勢いでブランコの前のステンレス製の柵にぶつかったもので、園児のお互いの衝突防止の注意喚起、間隔をとるなどの声掛けが必要であるが、真剣に走る園児に届かないことが多い。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故の原因となったブランコの前のステンレス製の柵について、これまで２０年間全くこのような事故はなかったが、何か安全対策が講じることができないか検討中	ブランコの前のステンレス製の柵について、ブランコによる接触を防止するものであるため撤去はできない。そのため、耐久性があり、かつ柔らかな素材の柵について検討中	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	園庭で走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は、園児全体が見渡せるよう園庭をゆっくり動き回っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当クラスのもう一人の担当は、統合児を中心にみており、同年齢児のもう一つのクラスは、まだ園庭に降りておらず、そのクラスの担当はその誘導にあたっていた。	特になし	特になし	
10040	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	0	1	2	0	4	2	0	2	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折右尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		今回の事例は、事故当日の午後職員会で報告した後、今後の改善点をみんなで話し合った。また、毎月の職員会（ヒヤリハット報告）時に、もう一度確認し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		遊戯室で遊ぶ時は、何種類もの遊びを同時に行わないようにする。遊戯室で発砲樹脂の大型ブロックで遊ぶ時は、3段以上積み重ねたり、その上にあがったりしないよう子どもたちと約束をしてから遊ぶ。	1.集団活動中・見守りあり		異年齢クラスであるので、遊びによって、1.2歳児と4.5歳児を分けた保育を行ってきたが、4.5歳児でしかできない遊び等には、1.2歳児は参加させないなどの遊びの配慮を行う。	1.いつもどおりの様子であった	4.5歳児の遊ぶ様子を見ながら、遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士1名は、絵本借りの子どもの対応をし、離れたところから全体を見ていた。もう1名の保育士は、紙飛行機を飛ばす子がいた為、遊戯室中央で見ていた。。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	所長は事務室にて業務を行い、フリー保育士は所庭にて草取りをしていた。		異年齢全員での保育の場合は、未満児の方に保育士一人が必ず傍に付くよう配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10041	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21				12	9			2	1	17.5歳	1.男児	●年●月●日保育中に熱性けいれんのため救急搬送。●年●月●日午睡中14：25分手のかすかな震えの後、左足の震え2～3分続く。その後落ち着いたため、保育を継続。	4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		1.意識不明		てんかんの疑い	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	熱性けいれんの既往歴があるため、午睡前に毎日体温を測って気を付けていた。	令和4年度事故防止マニュアル作成	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	特になし	5.睡眠(午睡)中	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	静かに寝ていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児を寝かしつけていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周りの子どもをみていた	特になし	特になし	
10042	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19								3	3	17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	不全骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	なし	必ず、トイレでは前の人が出てから次の人が入るよう園児にしっかり指導し、職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	なし	待つことができる場所をしっかり確保し、園児にしっかり周知する。	7.その他	なし	必ず、トイレでは前の人が出てから次の人が入るよう園児にしっかり指導し、職員に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりに個室に入ろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたので対象児は見えていなかった。	次に待っていた子が悪気なく扉を閉めてしまったため。	他の子が扉を閉めることがないよう指導した。	
10043	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	0	0	0	7	11	7	0	2	2	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘脱臼骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	保育士の配置場所の見直し。遊具、器具はケガの恐れがある場所に関しては保育士が一人付き、見守りを行う	遊具・器具に保育士が付き、子どもの安全を見守っていく	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	その遊具・器具が子どもに合った大きさではなかった可能性がある	その遊具・器具が子どもの年齢に合った大きさかどうかを見直しする	1.集団活動中・見守りあり	保育者の人数に対して、出ている遊具・器具が多かった	保育者の人数に見合った遊具・器具を出す	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒をすることが好きなため練習を行っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	朝の受け入れや子どもへの声かけを行いながら、室内遊びの見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りつつ、登園する子どもの受け入れをしていた。	遊戯室で職員の立ち位置の連携がとれていなかったため転落を防げなかった	配置場所を確認し合い、常にどの位置からも子どもの姿を確認できるようにする	
10044	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				10	5	10		1	1	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	外の自由遊びでは、基準配置だけでは全体が見られなかった	外の遊具を使うときは基準配置以上(2名以上)の配置で対応する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	鉄棒の高さは一番低く高さ70ｃｍ、地面は人工芝で柔らかい	鉄棒の高さは一番低く（本児の身長より低い）、地面は人工芝で柔らかいため特になし	1.集団活動中・見守りあり	午前の活動（園外へお散歩）で疲れが見られる子どもがいたので、休息の時間が必要だった	午前の活動で疲れが見られる場合は、休息の時間を設けたり、保育室内の活動へ変更したりする必要がある	1.いつもどおりの様子であった	他児と鉄棒で足掛け足抜きをして楽しんでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	遠くから園庭全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で片付けをしていたり、子どもの対応をしていた	20mくらい離れたところから全体を見守っていたため、遊具を使用するときは保育者が近くでみまもるようにする	必ず遊具の近くに保育者が立ち、立てない時は遊具の使用を限定する	
10045	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20								2	1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	職員2名で対応していたが、まだ食事をしている子どももいた為、遊んでいる場所から離れて見守っていた。	遊びの様子を見て1名は遊びの場に関わるなど、保育士の位置等、保育士同士で確認して安全な対応が出来るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	食後、同じ部屋で午睡する為、準備の際、子どもの過ごす場所が限られている。	施設としては問題はないが、遊びの様子に合わせて安全な遊び場の確保をしていく。	6.食事(おやつ)中	活動の切り替え時で遊び場が限られていた。同じ場所での遊びを好む子が多かったため、密集度を下げていく必要があった。	遊びの様子を見て、場所を広げたり他の遊びに誘ったりして分散して遊ぶことができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	食後、他児と一緒にままごと遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	まだ食事をしている子どもの対応をしながら対象児と離れたところで遊びの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしており、対象児とは離れたところにいた。	本児は座って遊んでいたが、他児が友だちと遊ぶことで気持ちが高揚し、動きがダイナミックになってきたので職員が他児に座って遊ぶように声を掛ける必要があった。	常に遊びの様子を見守り、安全に遊ぶことができるよう保育士同士が連携を取り、繰り返し子どもに伝えていくようにする。	
10046	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	0	0	0	0	20	16		4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎挫創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	屋外プールとプールサイドの木の間が広くなないため、隠れようとした子どもが寄り添う状況になり、今回の怪我に繋がったと考えられる	プール傍では遊ばないように再度、子ども達に周知し、職員間でも確認と子どもの把握に努めていく	1.集団活動中・見守りあり	園庭で他児と一緒に遊んでおり、隠れている姿は把握していたが、傍にはいなかった	4・5歳児が園庭全体で遊んでおり、4人の職員がそれぞれの遊びや固定遊具についていた。対象児の動きは見ていなかった。	1.いつもどおりの様子であった	友達と遊んでいる中でいつも通りではあったが、急いで隠れようとする気持ちが慌てさせてしまった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で他児と一緒に遊んでおり、隠れている姿は把握していたが、傍にはいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4・5歳児が園庭全体で遊んでおり、4人の職員がそれぞれの遊びや固定遊具についていた。対象児の動きは見ていなかった。	一か所に複数の子どもが集まることが予想される時は声をかけたり、様子を見に行ったりする必要があった	遊び方を含め、子ども達のいる場所を把握するとともに、一人一人の子どもの様子を常に把握し、保育士の連携を図っていく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面									環境面					人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
																	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位																											
10047	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									1	1	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位端骨折・右尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	鉄棒等、使い方のルールを決め、職員間で話し合いを行っていたが、想定の甘さや、理解の不足があった。	ヒヤリハットの報告、検証を強化して実施。事故を未然に防ぐことができるように、園内のルールの見直しを定期的に半年に1回以上行う。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	遊具の点検を行う際に、鉄棒下のマットがないことにも気づいていたが、改善につなげることができていなかった。	鉄棒下のマットを設置。固定遊具の点検事項の強化。遊具の安全点検の際に実施。	1.集団活動中・見守りあり	職員が１名だったため、園庭全てのエリアで遊べる状況で、見えにくい部分があった。	職員数に応じて遊ぶエリアを区切り、見守りを十分に行うことができるようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	その日の朝、他児との関わりの中で困り感やイライラしている様子があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は全体を見ながら、主に総合遊具の見守りを行っていたが、見守りを行わなければいない範囲が広く、落下した際は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園長は整備のため園庭にいたが、見ていなかった。	担任の見守り位置から鉄棒は見えるが、その間に総合遊具のネットなどがあり見にくかった。	職員が一人体制の時は、総合遊具の使用は不可にする。子どもの心理的な状況に合わせ、必要な際は複数で保育を行う。	
10048	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20									2	2	15.3歳	1.男児	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		事故評価検討会より、ボルダリング遊具は3歳児クラスでは保育士を5:1人以上配置し、保育士が一緒に遊べる時に使用することにした。子供の発育・発達より、おおむね4歳以上から遊びに取り入れることを指導した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育士が見ていたが、高さがあったために、直ぐに支えることが困難だった。	ボルダリング遊具の登り、降り地面にゴムマットを敷いた。	7.その他	高さがあり、囲いがない遊具に保育士の手が届かなかった。	保育の状況により、遊ぶ遊具の範囲や環境を設定する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	けがをした男児を見ていたが、他の子も見ていて、男児にすぐに手が届く高さでなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じのクラスの保育士が駆け寄ってきた。ついていた保育士が、看護師まで男児を抱っこして運んだ。		高さのある遊具には、保育士が一緒に登ったり、降りたりして、遊び方を知らせてから遊ぶようにした。職員が一緒に遊べる状況時に活動するようにした。	
10049	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13				4	3	6			4	4	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾基節骨 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	昨年度、事故マニュアルの改訂し、看護師から通院判断の講習もしていたため触診をしたが、患部がわからなかった。本人が大丈夫と言い、父が待っていたため冷やす等、様子をみることができなかった。	手・足の末端まで注意深く観察・触診するよう、マニュアルに追加する。しゃがめるか、ジャンプできるか、まっすぐ歩ける等、足を痛めたときのチェックするものをマニュアルに追加する。	1.定期的に実施	実施頻度220回/年	1.定期的に実施	実施頻度220回/年	1.定期的に実施	実施頻度220回/年	実際に遊んでいた場所から片付ける場所の距離が小走りできるほどあった。（3m）	遊ぶ場所・片付ける場所等、コーナー配置を見直し、点検をしっかりと継続していく	1.集団活動中・見守りあり	進級したばかりの時期だったため、痛みや気持ちを言い出せなかった可能性があったかもしれない。また、落ち着いて遊べるよう設定していた衝立が隣のスペースにいた職員からの視界をさえぎっていたため、事前に走らないよう声がかけられなかったかもしれない。	自分の気持ちや、身体の状態を表現できるよう、クラスのミーティング等で発言する機会を増やす。衝立は撤去する。	1.いつもどおりの様子であった	父が足元に来た際、大好きなブロックで友だちと遊んでいる。作り終えるまで父には待ってもらい作り上げる。ブロック板を両手に持ち3mくらい離れている場所に小走りで片付けに行く途中で、躓き〇(状態で転ぶ、倒ぐ)に転職2名が近寄り、ズボンを持って膝や足首を確認するがえ、きく聞れや、赤みもなし。痛いところはないっていう回答に対象児も大丈夫と言ったため大きな怪我とは判断しなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.5mくらいの距離で全体を見守る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員①引き渡し担当：父のお迎え時、今日の様子を父へ引き続ぎ、次に来たお迎えの保護者対応職員④ 4mほど離れた場所で他の子と遊ぶ	父に口頭で本日の様子を伝達後の怪我だったため、転んだ様子は把握していたものの怪我の報告ができないまま、掃宅してしまった。ただ、父も転んだ様子を見ていたためか、本人が明らに泣き最くきに足が痛くと言ったため抱っこで駐車場まで行ったとのこと。	近くにいた職員は、転んだ対応をし、大きな怪我ではないと判断したが保護者引き渡し後だったため、引き渡し担当の職員が知らないままとなってしまったため、職員間の連携を密にとるよう、職員周知を行う	
10050	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	2.女児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	園児を把握できる状況にしておくべきだった。	いつもと違う活動の時は、常時担任２人がしっかり園児を把握できる状況にしておく。マニュアル内容を共有・徹底し、適宜個々の園児の情報共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	2.不定期に実施	実施頻度(使用時)	今回に関してはハード面の不備は考えられない。	安全点検を継続して、実施する。	1.集団活動中・見守りあり	順番を並んで待っている状況で、死角が生じた。	死角を作らず、保育者が常に見守れるような体制を作る。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他児の検診補助や誘導をしており、対象児と周囲の状況を十分把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上。	日常より気になる行動を取りがちな園児に対して、行動把握と配慮が欠けていた。	気になる園児の動きを把握できる体制にする。	
10051	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19				9	10				2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手前腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		事故防止マニュアルの作成 職員への周知、徹底	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		チェック項目による安全点検と共に遊具の使い方、安全な遊び方の徹底	1.集団活動中・見守りあり		広い場所でも、走る方向を子ども達にしっかり伝え、交わらないよう間隔もとる	1.いつもどおりの様子であった	クラスの子と共に広場の端から端へと向かって走っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども達が走っている前（先頭に立って）を走っていた為、気付いた時には転倒していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場等各学年で遊んでいた。２学年一緒に行動していたが、走る時は学年毎に走った為担任のみがついていた	子ども達同士の間隔をとって走るようにするべきであった	子どもの特性を踏まえた指示、援助、子どもに背を向けず必ず視野に入る場所にいる	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10052	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折（膝下から足首上）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	子どもの姿に関する共通理解が不十分だった。	トラブルになった際の行動が気になる子どもについて研修を行い、共通理解を図る。	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	床面が骨りやすかった。	転倒事故を減らすために床面にマットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	食事、トイレ、遊びの部屋３つ、手洗い場など多くの場所で活動していた。	子どもの姿を見ながら、現在３部屋の遊びの部屋を減らす。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	トラブルとなった際、保育士と話をし、一度保育室を出て行ったが、しばらくして保育室に戻り、相手を蹴ろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	廊下と保育室にいる子どもを見ていた。対象児が保育室に戻り、トラブルの相手を蹴ろうとしたことに気付き足が当たらないように間に入ったが、転倒してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事、午睡、トイレ、手洗い場、遊びの部屋などそれぞれの場所で子どもを見ていた。	複数の場所の見守りを行う必要があった。	遊びの部屋を減らすことで廊下の見守りを行う職員を配置する。	
10053	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	11	4	7						3	3	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル作成、職員配置等に不備ないため改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	遊具による怪我ではないため改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	基準に合った保育士の人数配置であったが、分散した遊具で子どもたちを遊ばせていたため、保育者の見守りが行き届いていなかった。	保育士の人数によって、遊具遊びに制限を持たせていく。遊具を使っての遊びではなく、自然に触れたり、集団遊びをするなど、遊びの展開に工夫していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児はシーソーを気に入り、日頃からこの公園ではシーソーを使って遊びを楽しんでいる。当日も自分遊び、上下に動く動作を楽しんでいた。シーソーが設置されている砂場前に金木犀の樹が植えられており、この日は花を咲かせていた。普段はシーソーの手すりから手を放すことなく乗っていたが、この日は踏んでいる最中に金木犀の花が視界に入り、そこに触れようとして手を離したと考えられる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	これまでは、座ること も不安定で、持ち手を放してしまうという予測があったため、必ず保育士が付き、1対1で遊ぶ方法を取っていたが、ここ1～2カ月は子どもたちの成長に伴い安定して乗れること、持ち手をしっかり握れていること等、本児が自分で乗りたいという意思の表れもあり、本児を一人で乗せた状態で向かい側に他児を座らせた。この園児は月齢が低く、安定していない子どもたちが多いため、担当保育者はその子どもについてシーソーのバランス台下の動きの速度に注意しながら、本児の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	この日は シーソーのは ず、弾力と砂場に分かれ、各所に保育士が一人づつついて園児のようすを見守っていた。公園内の中心にある広場には中学生くらいの子どもが数人でボール遊びをしてあり、時折その場所に近づく子どもいたため、砂場付近にいた保育士はその子どもに目を向けさ、こさを決めたり、迎えに行ったりしていた。	引率した3名の保育士が3か所に分かれた体制を取ったため遊具に一人の保育士しかついていない状況だった。	落下する危険性のある遊具には2人以上の保育士がついて見守る	
10054	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6		1	2		2	1		2	2	16.4歳	2.女児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	保護者へ引き渡しを行った時点で保護者の責任となるが、家庭環境に配慮すべきであった。	帰りの会終了後、園庭ではなく室内で遊ぶようにする。また、園児に園内での危ない箇所を伝えるとともに、遊ぶときのルールの確認と約束をした。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週１回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	-	引き続き、点検を実施する。	3.個人活動中・見守りあり	迎えに来た母親の子育て相談の対応中の事故であった。	当分の間、室内で遊ぶように し、職員の見守りが可能な場合は、園庭での自由時間を設ける。保護者へ降園時に園児が怪我等しないよう、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり、特に変わった様子はなし。（好奇心旺盛な子ども）	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者へ引き渡しを行った時点で、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の業務中（他の園児の保育・清掃業務など）のため、見ていなかった。	園児の家庭環境に配慮し、相談（話）が終わるまでは、園児に室内で待つように指示すべきであった。	環境面と同様。	
10055	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18			13		5			2	2	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	事故の状況について全職員に周知し、行動の再確認をする。子どもたちにも、保育室の移動や当番活動の際の行動について、意識啓発を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	特になし	特になし	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	保育士は、保育室全体が見渡せる所に立つ。または、クラス全体に常に気を配り様子を把握する。	1.いつもどおりの様子であった	年少児のお手伝いをすることが大好きであるため、年少児の部屋に行くことに期待し行動した。転倒後も、痛がる様子もなく、転倒したことをどの保育士にも伝えることがなかった。降園時も、同じ時間帯に帰る児と一緒に楽しそうに降園した。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は休憩中であり職員室にい た。代わりの保育士が年少児の部屋に行くように声を掛けたが、おやつ準備の時間であり、その対応をしていたため一緒についていくことができなかった。加配保育士は対象児に付き、片付けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年少の保育室には担任とフリー保育士がいたが、子どもたちの排泄とおやつ準備のため、年長児の動きを把握していなかった。	特になし	年長児が手伝いに行く時間帯を年少の保育士とともに再確認を行う。子どもたちには、部屋で歩くときには、前を向いて気を付けて歩くよう注意喚起するとともに、年少の保育室に入る時にはお当番に来ましたと声を掛け入室することを伝え継続的行っていく。また、転んだり怪我をした時、困ったことがあったときなど、保育士に伝えるよう繰り返し知らせていく。保育士は、日頃から何でも言える関係作りに心がける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10056	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	41				20	21			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの読み合わせ等、再度職員で共有していく。	3.未実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	危険個所についての見守りの欠如	公園先の遊具の使い方や危険個所について職員間で共有し、共通認識を持てるようにする。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	普段から通っている公園ではあったが、遠足時の出来事だったため、行事前の事前の職員同士の打ち合わせ等を徹底していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊具付近にて全身を使ってあそんでいた。体を動かすことが好きで、挑戦心もあることから手を伸ばした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	該当児の動きも把握しながら周りを見守る。普段からあそんでいる公園であることから、声を掛けたり、傍についたりすることが遅くなってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とあそんだり、全体を見守ったりしていた。	職員の立ち位置	大きなケガに繋がってしまう可能性のある遊びを予想し、立ち位置や援助を考える。	
10057	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12								2	2	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端性離開	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	保育教諭の見守りを強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	友だちの足に絡まり、転倒。立ち上がる際に足を外側に捻ってしまう。	立ち上がる際はゆっくりと立ち上がるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	転がったボールに夢中になり、友だちに気付いていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボールを取りに行く時に、友だちに注意するように声をかけもした。対象児から離れていたため、対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールをしている他児の見守りをしていた為、対応できなかった。	足が絡まった他児も、対象児を見ることができていなかった。	ボールを取りに行く際、ボールだけでなく周りもしっかり見るように声掛けをしていく。	
10058	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8								3	3	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	職員の配置面で、本児を見守れる位置にはいたが手のとどく位置にいなかった。	子どもの転倒等に対応できるように、傍にいられる職員を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	本棚の縁に緩衝材の設置がなかった。	少しでも危険と思える場所には緩衝材を設置して対応する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし（寝具は片付き、床の濡れもなかったため）	1.いつもどおりの様子であった	好きな玩具や絵本を探し室内を歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	着替えが済んでクッションで寛ぎながら絵本を読んだ0玩具で遊んだりしている子どもを見守りながら、午睡から目覚めた子どもの着替え等を行っていた。(保育士B,D)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	着替えが済んでクッションで寛ぎながら絵本を読んだ0玩具で遊んだりしている子どもを見守りながら、室内掃除をしていた。(保育士A)	好きな玩具で遊んだり絵本を見たりし、落ち着いた雰囲気だった為本児に一対一の関りはしていなかった。	本児の歩行が不安定だった為、本児の特徴を理解し、手を添えたり援助したりしていく。	
10059	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30				13	17			4	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	ブロック単体では軽いが、大きく組み合わせたことによって重くなってしまった。	子どものそばについて安全面を見守っているが、ブロックを組み合わせた際には大きさに注意して見守っていく	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	ブロックに問題はなかったが、組み合わせる大きさ、遊ぶ場所などの確認を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き、活動の見守りに注意する	1.いつもどおりの様子であった	机の上でブロックを組み立てていた	4.対象児の動きを見ていなかった	本児を含め全体の子どもの動きを見守ったり一緒に遊んだりしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離では見ていなかったが、本児の動きは把握していた	特になし	至近距離で遊びを把握していたが、遊びの様子によって更に見守っていく	
10060	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	28								2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	危機管理マニュアル見直し	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	使用前	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、順番を守ってあそんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	安全点検を使用前に行い、サーキットあそびの出発地点なので至近距離にいた。転倒してすぐ対応する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	あそびを中断し、至近距離にいた保育士が本児の様子をみて別の場所に誘導する。	特になし	職員間で連携をとりながら、子どもの特性に配慮した見守りを行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10061	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	9									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕前腕部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		様々な状況を想定し、適切に対応できるようにその場に合わせた対応を考えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	ほぼ毎日		園庭が広いため、戸外遊びで使用する範囲を活動によって考慮していく。	1.集団活動中・見守りあり		職員間で危険個所や危険回避対策の共通理解を図るとともに、園児に対しては安全に遊ぶ方法を知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ中に、園庭中央付近に立ち止まって落ち着いて鬼の位置を確認していたところ、勢いよく走ってきた男児が衝突し、転倒する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭を全体的に見守る位置にいたため、園庭中央で対象児と男児の衝突を防げなかった。（対象児が転倒する際に抱きとめられる位置ではなかった。）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児の見守り、対応をしていた。	衝動性の強い男児が鬼ごっこの楽しさで興奮状態にあり、前方不注意で走っていた。	安全に活動できるよう見守りをするとともに、興奮状態にある児童がいる場合には落ち着けるような関わりをしていく。また、職員が危険な場面を見逃さないように配置を工夫していく。	
10062	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45		10	5	9	10	11			6	5	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	引き続き、適正な職員配置を行い、事故予防に関する研修を都度実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ツリーデッキには危険性はないが遊びの見守り方について再度職員に周知した。	職員の配置や子どもたちには遊具の遊び方、使い方を再度伝えた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き遊びをしっかり見守るのと同時に職員の配置を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	桜の花びらに喜び、拾い集めるのに夢中だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ツリーデッキの上に１人職員配置し見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具、他の遊びの見守りを行っていた。	特になし	引き続き職員は、各配置で見守ること。園児にも戸外遊び前に、しっかり遊び方のお約束を話しているので引き続き園児に伝えていくこと。	
10063	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	11									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	骨折の疑い（鼻）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		保育担当者を申込保育だからこそいつも以上に明確に確認をする必要があった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		活動内容による活動スペースの適切さを検討する。	1.集団活動中・見守りあり	コロナ感染症により活動内容が今までと変わってきている。	十分に体を動かす遊びを新たに取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊び全体の進行を見ていた。危ない動きがないか、遊び全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの遊びを見守っていた。		保育担当が園庭での遊びの危険がないかしっかり責任をもって確認するべきだった。	
10064	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		なし	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	今回は雲梯下に敷いてあるマットに躓いている。マット自体に問題はなく、地面とマットに数cmの段差が生じていたためと思われる	事故後、すぐにマットの周囲に土を盛り平にした。今後の点検項目に「段差の有無」を追加	1.集団活動中・見守りあり	遊具点検は行っているが、マットの段差についてはチェック項目になかった	点検項目に「段差の有無」を追加	1.いつもどおりの様子であった	同学年の１人と追いかけっこのように走りはじめて数メートルのところで受傷した	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが本児を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが本児を見ていなかった	追いかけっこをしている児に対しては目が行き届かない	職員の配置を分散しエリアを決め全体を見るようにする	
10065	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22									2	2	17.5歳	1.男児	１才４か月頃、一晩にけいれん発作を２回起こしてA病院に入院したことがある。●年●月●日、保育園の午睡中、けいれん発作を起こし、B病院へ救急搬送。その後の検査でてんかんの疑いがあるとのこと。その後も何度もけいれん発作を起こしている。	4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		1.意識不明		てんかんの疑い	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/年	1.基準以上配置	保護者より入眠時にけいれん発作を起こすリスクが高いと聞いていた。園でも午睡時に何度かけいれん発作を起こし、救急搬送したことがある。午睡時に発作を起こすリスクが高いため気を付けていた。	てんかんでA病院を定期的に受診しているので、受診後は保護者にどうだったか詳しく聞き取り、職員間で情報を共有、確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	5.睡眠(午睡)中	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	のどの渇きを訴えていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	お茶を飲ませて布団に寝かせた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と一緒に対象児をみていた。	てんかんの疑い	午睡時にけいれん発作を何度も起こすので、保護者から園では午睡をさせないようにと相談があった。保護者との話し合いの中で、午睡時のけいれん発作のリスクを下げるため、園では午睡はせず、静かに休息をとるするようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10066	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	運動遊具を使用した遊びを行う中で、安全に行うための注意や指導方法が不十分であった可能性がある。	運動遊具を使用した遊びを安全に行うにあたっては事前に注意や指導方法について会議の中で確認・共有し実践する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	遊戯室は保育室も兼ねているため、机等を寄せて広さを確保したが不十分だった。	舞台の上に机を置くなどして安全な実施に必要なスペースを確保する。	1.集団活動中・見守りあり	休み明けの月曜日で、園児の健康状態や体調（前日の疲れ等）がつかみにくい状況であった。また、給食前で集中力が続かない時間帯でもあった。	休み明けは特に園児の体調等の確認を徹底し、場合によっては技術を要する遊びの実施を見合わせる。また、給食前は集中力が途切れやすいため実施の際は注意深く園児を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	対象児にとって初めて跳び箱であり最初は緊張感を持って挑戦したが、少し慣れて緊張感が薄れていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児の隣について補助をしている状況ではあったが、他の子どもの様子も気にかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	加配児に付き添いながら対象児の動きを見ていた。	担当職員は対象児だけではなく他の子どもの様子も見ながらだったため補助が不十分だった。他配児に付き添いながらだったため対象児の見守りが不十分だった。	技術を要する運動遊びの際は、補助に徹することができるよう他の子どもを見ている保育者を配置する。	
10067	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				25	28				5	5	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	その都度実施	2.基準配置	特になし	保育士一人ひとりがいつどんな時も危険なことは起こるかもという危機意識が持てるよう事故後の話し合いの中で確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭の掃き掃除をし、小石などが滑らないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	保育士が時間差で出勤し、担任がいないことも考えられるのでクラス間の子どもの状況、気を付けることなど共通理解できるよう話し合う。	1.いつもどおりの様子であった	友達の投げたボールがそれたため拾いに行こうとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	登園してきて不安定で泣き始めた子を迎えに行ったため傍を離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の固定遊具などについて他児を見ていたため。	特になし	登園時荷物の始末や情緒不安定な子に保育士が対応するため遊びを抜ける時には、どんな遊びであっても近くの保育士に声をかけてから抜ける。また、自分が見ている遊び以外の遊びの様子や子ども、保育士の動きにも気にかけ異変を感じられるようにしていく。	
10068	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				14		2			3	3	16.4歳	1.男児	該当なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	三人体制をとっていたが、急遽二人体制になった時の対応が不十分であった。年長児が二名が入室する際、保育室の職員が対応するなど、体制の状況判断や連携が課題。	園庭担当職員だけではなく、以上児保育者各々が自分の動きを振り返り、全体の職員配置を意識しながら体制をとっていくことを話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	遊具には、破損やさび等の問題点は見られなかった。	毎月1回の定期点検をしっかり行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	年長児の遊び方に興味を持ち、自分も挑戦したくなったと思われる。	一旦その場を離れた姿に安堵せず、危険性のある遊び方が見られる箇所には、常に目を配っておく必要があることを確認し合った。	1.いつもどおりの様子であった	異年齢保育の中で、年上児の姿に憧れたり、また、進級間近の時期で気持ちが大きくなり、行為が大胆になっていったのではないかと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	年長児二名が入室する際、対象児もその場を離れ誰もいなくなった為、年長児二名と共に保育室に向かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に向かう際に、奥にいた職員への声かけを怠った為、対象児の動きや、周りの遊具への意識が向けられていなかった。	二人体制になった時に、その場に子どもが遊んでいなくても、見守りを離れる声かけの必要性。	話し合いの場を持ち、3歳以上児保育者がそれぞれに自分事として振り返った時に、園庭担当者に入室を任せるのではなく、入室を呼びかけた側の配慮が欠けていたとの気づきがあった。	
10069	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	26									6	6	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第４指挫傷　末節骨剥離骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		今回の事故概要を全職員で共有し、危険な行為を見逃さないようにした。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		日々の点検を継続する。	1.集団活動中・見守りあり		手押し車は人を乗せるものではないことを周知する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と遊ぶことを好み、園庭で自由遊びを楽しんだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	手押し車が加速し、ジャングルジムの枠にあたるのを防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員を危険な場所に配置し、園児の動きを注視していた。	二人で楽しく遊んでおり、スピードも出ていなかったので止めなかった。	子どもの動きを想定しながら、未然に事故を防げるようにする。	
10070	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78				27	27	24			8	6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置		ガイドラインを参考にしていたが園独自の事故予防マニュアルがないため作成し園内研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年		高さのある遊具の下にクッション性のものを準備するなど検討する。	3.個人活動中・見守りあり		落下など危険予測ができる遊具のそばにはできるだけ保育士がそばにつく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登り棒で遊んでいることは把握していたが、年長児ということあり離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と違う遊びをしていた。		子どもの動きを把握し保育士間の連携、立ち位置確認など行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10071	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27			10	3	14			3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下肢脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		マニュアルを見直し、全職員に周知していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			定期的に点検や整備を実施しているため、改善を要しない。	1.集団活動中・見守りあり		再度遊び方について子ども達と話をしたり、年齢や個々の運動能力に合わせて怪我を予防できる声かけをしたりして、安全な活動を促していく。＊登り棒：手を離してジャンプするように降りず、必ず棒をつたっていくこと。1本の登り棒で遊ぶ。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	登りやすくなるため裸足になり、得意な登り棒に何度も挑戦し遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	好きな遊びをしている中、広範囲を担当保育士が全体を見ながら対応していた。登り棒から手を離し落下、泣いたときにすぐに駆け寄る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	誰が何をして遊んでいるか全体での様子を見ていたが、本児はいつも遊んでいる遊び方だったため保育士も過信していた。		保育士を固定遊具や遊びの中に配置し、常に危機感を持ち、危険が予見されるときには即時に対応できるようにする。	
10072	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19								2	1	17.5歳	1.男児	内股。小さな段差からの着地が出来ず倒れこんだり、つまづきやすい、バランスをとりにくい姿が見られA病院を受診。発達支援機関ではリハビリの必要性を感じているが、病院ではリハビリ不要とされている。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右下ＡＢ外傷性不完全脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	障がい担当を配置し様々な場面で危険予測をして対応をするようにしているが、クラス内でのトラブルが多発し対応が追い付かない場面がある。	子どもの姿、特性を職員間で共有し、配慮が必要な子どもには常に注意を向けながら保育することを職員が理解する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	木製の積み木のため硬かった。フローリングであり、靴下で遊んでいる状態は滑りやすかった。	おもちゃの破損や施設の不具合等認められないが、硬さを考慮し高く積む遊びはしない。フローリング部分では靴を履いて遊ぶ。	1.集団活動中・見守りあり	保育室の扉を開けていたことで出入りする子どもが複数おり、より多くの場所に目配りが必要だった。落ち着いて遊ぶ子もいたが終始保育室内を子どもが慌ただしく動き回っていた	子どもの興味を把握しそれぞれの子が落ち着いて遊び込める環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びを見つけ喜んで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	クラス全体とけがをした子どもの遊びの様子に目を配りながら、近くのテーブルで他の子どもと遊んでいた。ケガの瞬間は目を離したタイミングだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室の出入り口付近でクラスの様子を見守りながら遊んでいたが、子ども同士のトラブルが発生し、対応していた。	クラス全体でトラブルや大人が間に入って対応する必要がある場面が多い	どの職員も子どもの特性を理解し、子どもの様子や行動等から気持ちの動きを読み取りトラブル発生を未然に防ぐ。トラブル発生時も対応する職員、全体を見守る職員の役割分担をすることで見てない時間を作らないようにする。	
10073	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17								1	1	17.5歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故発生当時の現場での職員配置が適切でなかった。	職員会で話し合い、園庭での活動の際は複数の配置を原則とし、複数の配置が困難な場合は園庭での活動を控えるか、活動の内容を制限するよう周知した。また、鉄棒を使用する際の約束事や、注意事項を、前もってしっかり子どもに伝えることを徹底した。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	転落緩和マットが固く、厚みがなかったため、骨折に至ったと考える。	落下の際の衝撃を緩和するために、現在設置しているマットの上にさらに厚みのある安心やわらかマットを設置した。	1.集団活動中・見守りあり	年長児の担任がドッジボールの審判をしていたため、鉄棒をしている園児の様子を見ていなかった。	保育士1名で園庭で活動する際には、全体の活動が把握できる位置で見守る。ドッジボールなどの集団での活動をする際には保育士を複数配置するか、全員が参加できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は鉄棒の練習を最近頑張っており、ドッジボールには参加せず、逆上がりの練習をしていた。傍に鉄棒の得意な他児がいて、本児の手助けをしようと、足を持ち上げたため、バランスを崩し落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	ほとんどの園児がドッジボールに参加していたため担任は、審判をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児十数名(27名中1名欠席、数名は降園)のみ園庭で活動していたため、担任1名が保育していた。他の職員は園内で、保育を担当していたため誰も事故発生の現場は見ていない。	保育者が事故発生の様子を見ていなかったため、監視カメラで確認したところ、他児が不適切な援助を行ったため落下したことが判明した。	保育者が見ていれば、他児に対して止めることが十分できた。雲梯や、鉄棒など、落下する可能性のある遊具を使用している際には必ず、保育者が付き添うことを徹底する。	
10074	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64			22	18	24			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	異年齢児の園庭での遊びについて、決め事はあったが、ドッジボールに合わせたものではなかった。	異年齢児が一緒に園庭で遊ぶ中での集団遊びのエリアの確保、職員配置について全職員で共通認識する。	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）/年	1.定期的に実施	実施頻度(64)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	3～5歳児が一緒に園庭に出ている時に、5歳児がドッジボールをしていた。下の年齢にはドッジボールエリアが視覚的にわかりにくかったのかもしれない。	普段から園児にはドッジボールエリアは危険と指導しているが、白線をひくなど、視覚的にもエリア分けが分かりやすいようにする。	3.個人活動中・見守りあり	ドッジボールをしている子どもは常にボールを目で追っている為、周りをよく見ていない。	●月末までは3歳児に午睡があり、4、5歳児のみ園庭に出て、この時間帯にドッジボールを行っていたが、3歳児が共に園庭に出る場合の自由遊びや集団遊びの方法やエリアについて危険のないよう検討し改善する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気であった。特に配慮が必要な園児ではない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が休みで、他のクラスの職員が担当に入り見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名がドッジボールの見守り 2名が他の子どもの自由遊びを見守り	他クラスの職員が見守りに入った為、本児の動きが予測しにくかった。	園庭での見守りについて、職員間でその都度役割を明確にしておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10075	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	94	1	16	10	22	18	27	0		16	16	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	その都度実施	1.基準以上配置	特になし。	怪我が起こるたびに職員間で状態を確認し何ができたか、反省点は何かを振り返るようにしている。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	特になし。	引き続き安全点検を実施する。雲梯下に敷いているマットはより厚みとやわらかさのある物への変更を検討する。	3.個人活動中・見守りあり	バランスを崩した状態で落ちたので、とっさに手をついてしまったと考えられる。	振り返りをする中で、手をついてしまうと危険を伴うことがあることを知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯ができるようになり、得意げに遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児を対応中であり、全体を見ていた時であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	未満児担当職員が近くで対象児を見ていた。	特になし。	手をつく危険性について知らせていく。	
10076	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	30									4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ関節不顕性骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		腫れや変色などがなくても骨折の可能性を考え、通院も考えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		到着時に危険個所を確認する。	1.集団活動中・見守りあり		行動の予測をし、危険箇所には側にいるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りに登所、特に変わったことはなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	斜面を上がったところで、登ってくる子たちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先に公園へ上がった子の帰園準備に対応する職員と、ゆっくり上がる子に対応する職員にわかれていた。		危険箇所を予測し、役割分担をして、後から上がってくる子どもも危険のないよう職員の立ち位置に気を付ける。	
10077	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	6									3	2	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第五中足骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故防止マニュアルをよく理解していなかった。	園独自の事故防止マニュアル作成をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	玩具を取りに行く際に本児と手つなぎをしたため、転倒につながった	事前に玩具を持って来ておく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	日頃から歩行が安定せず、衝動的な行動が目立つ児で、あった為、保育者が一人が観察に対応することが多かった。保育者と手つなぎしながら歩行した際に本児が反方向に急に進みだしたため、バランスを崩し転倒した。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	帰りの会が終わり、室内遊びの準備をする為、本児と手をつないで玩具を取りに行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人の保育者は本児以外の園児を見ていた。もう1人の保育者はおやつを食べるのが遅い園児と一緒にいた。	保育者が分散していた為。	保育者が揃い次の活動の環境や対応が整うまで待つべきであった。	
10078	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8					3	5			2	2	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯2本外傷性歯の脱臼口唇外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		活動内容的にも、職員の配置的には問題がなかったと思う。改善策としてあげるとすれば、もう一人の担任が園児側に付いていたので、二人の中での役割分担をしっかり決め、近くに居れば安全なのではないか園児にしっかり目が届くように、どんな状況でも自分がどう動くべきか、子どもの安全を第一に対応できるように スキルを磨いていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		今回は静かに経診を待っているという時で、怪我が起こることはきえがれば、もう一人の担任が園児側に付いていたので、床に座らせる方法もあるが、コロナ対応として衛生面から床に直に座らないように、またソーシャルディスタンスを取る意図もあったので椅子に座らせたが、場に応じて使用の有無を判断する。	1.集団活動中・見守りあり	この時は、通常であれば午睡に入る時間だったが、内科健診受診の為に、起きて隣の部屋で診察を待っていた。園児、職員共に注意力が散漫になっている時間帯でもあったと思う。	普段の流れと違う場合、危険のない状況でも、何が起きるかわからないと思い、細心の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	本児の特性として、普段から衝動的に危険な行動が多くみられる子である。椅子の座り方も普段から何度もグラグラさせないように注意を受けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本を読み聞かせしている職員の他のもう一人の担任が、園児の並んでいる後方についていたので、少し前に位置をとり、園児をしっかり見渡せるようにし、小さな動きにも目が届くようにする。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	絵本の読み聞かせをしていたので、園児の方から目を離す時間帯があった。		園児がみんなすわっているからと安心せず、一人一人の子どもの行動を予想し、何をするかわからない・何が起きるかわからない事があるということを再認識し、注意を払うことを怠らないようにスキルを磨く。	
10079	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	8									2	2	13.1歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	その都度実施	1.基準以上配置	園児の人数が少なかったため、職員の気の緩みがあった。	園児の様子に気を付け、お互いに児の様子を声に出しながら伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1歳児がよじ登りを楽しむためには、積み木の高さが高い。	1歳児に適した高さの積み木等を準備し、毎回危険がないか複数の職員で確認する。	1.集団活動中・見守りあり	1歳児に対し、大型積み木の高さが高い、複数の児がどちらからも登っている状態にあった。	発達にあった環境の設定。同じ場で遊ぶ人数、進行方向等危険防止策の徹底。	1.いつもどおりの様子であった	よじ登りを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで本児の動きを見ていた。倒れる際に手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の動きを見ながら、他児と一緒にボール遊びをしていた。倒れる瞬間を見て駆け寄ったが間に合わなかった。	新入園児も環境に慣れ、保育士の中にも危険に対しての意識が低かった。	児がやりたいからやらせるでなく、発達に応じての環境の見直しと、児の特徴から行動の予測をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10080	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	6								2	2	13.1歳	2.女児	卵アレルギー	2.室内活動中	1.負傷		6.その他		アナフィラキシー疑い	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		マニュアル（第1版）完成。事故対応訓練を定期的に実施することを決定。日程や講師については検討中。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年		アレルギー児に対しては喫食するテーブルは分け、配膳の際はトレイを別にするなど既に対策は講じている。	1.集団活動中・見守りあり		喫食後は他児の食べこぼしに触れることがないよう、清掃を行っている。	1.いつもどおりの様子であった	朝から鼻水が流れていたが機嫌もよく、食欲もあり普段とほぼ変わらない体調であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任保育士が14：30に退勤し、たたの午睡中はフリー保育士が睡眠状態を見守り SIDSチェックを行う。14：50からは主任保育士が保育に加わり２名体制で排泄の介助、おやつの介助を行う。延長保育時間帯については0.1.2歳児11名を３人の保育士にて保育を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担当クラスにて事務作業（保育日誌の記載等）を行ったり、保育室及び玩具の消毒作業を行っていた。		担任保育士がいない時でも一人ひとりの特徴を把握し適切な保育が行えるよう情報共有をしっかりと行っておく。	
10081	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37			9	15	13			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	4月当初に遊びのルールの読み合わせを行っているが、実際の遊具を確認しながらのルールの確認をしていなかった。	早急に遊具の確認、職員のつき方、今後の遊具の遊び方を検討した。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	子どもが視覚的にわかるよう掲示物などを作成していなかった。	掲示物を取り付ける。	1.集団活動中・見守りあり	気持ちが高まった状態で大型遊具を使用していたが、声かけが不十分で遊びを止めることができなかった。	声がけの工夫、遊具への職員の配置を増やす。遊具を使える時間の設定。裏庭やホールの活用で園庭が密にならないようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこをしていたが、鬼に捕まりたくないと言いながら、捕まりそうになるたびに「やめた」と言い、遊びから抜け出し、遊具へ登ることを繰り返していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具についた職員が、鬼ごっこをしながら遊具は使えないことや大型遊具の骨格は使用禁止になっていることを何度か伝えたが、気持ちが高ぶっていた為伝わらなかった。対象児が落下する瞬間は一瞬のことで間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭それぞれに配置していたが、砂場付近にいた職員、保護者対応していた職員、他児のトラブル対応をしていた等、それぞれが自分の周囲のみを把握し全体を把握している部分が抜けていた。	他児も鬼ごっこをしながら遊具にも近付いて遊んでいた時点で遊び方を伝え制止すべきだった。	改めて遊びのルールの確認をし、全体を把握できるよう職員同士で声を掛け合い、園庭に付く時の配置の工夫をしている。	
10082	令和6年3月21日	2.認可外	15.その他の認可外保育施設	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	4				1	3			2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨の顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	散歩後の自由遊びで体力が伴わずに疲れていた。	鉄棒に座ることを制止するべきであった。個々の体力に見合った活動量を把握する必要があった。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	足が届かない高さの遊具に座ることを制止しなかった。	鉄棒に座らせないことや飛び降りないことを約束する。	1.集団活動中・見守りあり	児童数が少なく、見守ることができていても鉄棒の補助をしていなかった。	保育士の鉄棒補助が必要であった。できない場合は遊具の使用に制限するべきであった。	1.いつもどおりの様子であった	自宅にも鉄棒があり，鉄棒に座ることに慣れていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守れる位置に立っていたが，自由遊びだったため４人の行動がそれぞれ異なっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩終了後，児童から離れていた。	見守りの児童数が少ないことや，危険につながる遊びという緊張感に欠けていた。	常に児童の状況を観察し，ケガを予測しながら保育を行う。	
10083	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	17.5歳	2.女児	通院歴（３日間）現在は完治している。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨近位骨端線損傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもたちが日常的に遊んでいる場所であり、事故の発生を予測できなかった。	危険性など職員間で共有し、事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	日常的に遊んでいる場所だが、その場での安全、活動の内容を確認していく。	子どもの年齢や発達を考慮し、環境構成を行なっていく。	1.集団活動中・見守りあり	木の幹と幹の間に隙間があり、隙間に靴がはまってしまい事故が起きた。	子どもの活動の危険性を再確認し、見守りを十分に行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り園庭で遊び木登りを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところにいたため、手を差し伸べるまでに間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児クラス（担当職員１名）のみ園庭で遊んでいたため、他の職員はいなかった。	全体を見ていたため、個々への配慮が足りなかった。	木登りの際は、近くで見守る。木から降りる時も十分に気をつけるように声掛けを行う。	
10084	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			20	15	25			8	8	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	他の園児を避けようとして自分で転倒した程度なので、骨折と思わず対応してしまう。	自分で立てたり、痛くないと言ったりしたが、泣き止まない時点で、詳しく原因を調べるべきであった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年		自分での転倒で、園庭の状態も普通であった。特になし。	3.個人活動中・見守りあり		特に無し。	1.いつもどおりの様子であった	園庭での自由遊びの時間中、他の園児が近づいてきて、その子を避けようとして自ら転倒。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	少し、運動能力の低い子であるので、担任が注視していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭を広く、死角が生まれないように、それぞれに監視をしていた。		運動能力の低い子には、1対1でケアをする。	
10085	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	18.6歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	診断名なし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年		ロッカーのふちを保護するクッションをつける。	6.食事(おやつ)中	給食中の離席。前方不注意。	席に手をひいて戻すことをくり返す。	1.いつもどおりの様子であった	日常的に離席や退室をしてしまう園児である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	何度か近くに行き、着席するよう声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は昼休みの休憩に入っていた。		席に手をひいて戻すことをくり返す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面									環境面				人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																							
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10086	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72	2	16	10	0	19	25			10	10	14. 2歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右 鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	かけっこで並んだ時に園児同士の間隔をもう少し開けていれば、転倒時に接触を免れたとも思われる。	職員が声かけや見守りをするには、適切な距離であったと思われるが、2歳児という年齢と身体能力を考慮し、適度な間隔・走る方向を考慮する必要が考えられる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		園庭中央なども含め、安全面の整備を心掛けているが、小石など取り除いたり雨上がりの土のでこぼこなどには気をつけ、引き続き整備に努める。	1.集団活動中・見守りあり		走る園児の人数を減らす、間隔をとるなどの配慮に努める。	1.いつもどおりの様子であった	体調面等、特に変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラスの園児全体の動きを見ており、転倒時すぐに掛け寄り抱き起こした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれのクラスの園児を中心に見ていた。園庭中央付近にいた保育士3名は、担当職員や担当児の動きや状況（転倒時）を見ていた。		職員の立ち位置に関して、園庭中央やすぐに対応できる距離での配置に努める。	
10087	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									3	3	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	園庭で遊んでいたのは、５歳児のみで事故が起こる寸前まで保育士が側で見守っていたが、他児のトラブルで目を離した際の出来事だった。	職員で再度、マニュアルの確認をした。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	落下した場所は芝生や、緩衝材がなかった。	土管の周りに人口芝を敷いた。	3.個人活動中・見守りあり		クラス全体で遊具で遊ぶ際に気をつけることを確認し、安全に遊具で遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	土管の上によじ登れるようになり、繰り返し挑戦していた。３名ほどが先に上に登っており、空いている土管の端から登ろうとして落下した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	土管から少し離れた場所で対象児を含め４名を見守っていたが、アスレチックでの他児のトラブルに注意が向き、落下する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場で子どもと一緒にすわって遊んでおり、対象児を見ていなかった。加配児がプランコで遊ぶのを見守っており、見ていなかった。	事故が起こる寸前までは、対象児の側で見守っていたが、他児のトラブル対応でその場から離れてしまった。	遊具で遊ぶ際は、誰がどこを見守るか確認する。その場を離れる時には、他の職員に伝達し、必ず見守るようにする。	
10088	令和6年3月21日	1.認可	11.一時預かり事業	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	2	4	1	1					3	3	15. 3歳	2.女児	●/● 8：00～17：30 一時預かりで初めて保育園を利用していた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨遠位骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～２)回/年	2.基準配置	室内遊具で遊ぶ際の職員間での共有事項を決めていたが、事故発生時にはそれが守られていなかった。園児が落下した際や転落した際の対応マニュアルはあったものの活かされなかった。怪我などが起こった際の、対応の仕方、連携も明確でずんでいたが、実際に活かされなかった。研修での学び等を共有し、その後の定期的な繰り返しの再確認がなされていなかった。	室内遊具で遊ぶ際のマニュアルを作成した。怪我事故の対応の仕方を毎月１回は再確認時間を設けて職員全員が正しい知識で対応ができるようにする。怪我事故等が発生した際のフロー図を見直し作成、掲示を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具使用の対象月齢ではあったが、この日初めて利用した本児は遊具に慣れていなかった。保育園での生活リズムが整っていない状態での遊具遊びだった。帰り時間に差し掛かり一日の疲れが出る時間帯でもあった。	前の園児が使った後のボルタリングのパーツの確認をする。油分や汗等で滑りやすくなっていないか、確認後に必要に応じて清掃・消毒をするようにした。	1.集団活動中・見守りあり	本来なら片づけを終え、集まって絵本を見たりしながらお迎えを待つ時間であったが、普段の保育の時間設定とは異なり、自由遊びが続いていた。見守り時の死角への意識が薄かった。	誰でも分かるように、誰もが分かる位置にタイムスケジュールを掲示した。遊びの際に、常に園児の様子が視野に入るよう、声掛け確認を普段から意識するようにした。	1.いつもどおりの様子であった	本児は初めての保育園利用であった。120cm程登った後に下が始めた。100cm程の所で足をかけようとした際に踏み外して右足から落下。その直後に泣き始めた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所から２～３M離れた場所で本児が上がっていいのが目に入ったが、足を踏み外した瞬間は、死角となり見えていなかった。本児が落下直後にそばに行き、泣いている本児を後ろから抱き上げて座らせ触診を行ったがその際に、骨折しているかもしれないという認識に至らなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員Ａ：テラスの片づけを行っており、本児の様子は見ていなかった。職員Ｂ：他の園児のオムツ替えをしていた為すぐに対応できない状態だった。職員Ｃ：他保育室の掃除を行っていた。	ボルダリングに上がった際は後ろに職員がつく約束だったがそれが徹底されなかった。本児はこの日初めて保育園を利用した。一時保育利用児に対しては、特性や性格を把握して注意して動きを見る必要があったが、気をつけて見なければならないという意識が薄く、職員が補助につかなかった。	一時保育利用児については、登録担当者から登録時の子どもの様子等のシェアを必須とし、事前情報を確認し上上で保育にあたるようにした。	
10089	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	18. 6歳	1.男児	本園で掘り上げている畑（●m）が園庭横にあるため、子どもたちはよく遊びに行きます。畑は、粘土質で水分があると滑りやすく、当日も若干滑りやすかったかもしれません。先ごっこの為子どもたちは畑の中を自由に走っていた。なお、靴には泥がけき重く滑りやすくなっていたかもしれない。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	脛骨顆間隆起骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		園児をしっかり観察する。（なるべく密蜜をさける。）	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		本件事故はハード面の問題ではない。	1.集団活動中・見守りあり		子ども同士の触れ合いにルールを設け、楽しく過ごせるようする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園の裏の畑に出、広い場所であるのでテンションが上がり、友達と衝突してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児同士衝突したが、すぐに立ち上がり同様に行動した。外傷等があったならば分かったかもしれない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園長に報告し、保護者へ報告する。	衝突した園児の両者を確認することが大事である。	園児のケガについては、外傷がない場合も打撲傷などあるので十分に注意すると共に市への報告をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10090	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42		6	10	8	10	8			10	10	17.5歳	2.女児	無	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首くるぶし剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		事故防止や発生時の対応について職員間で周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年		今後も安全に留意し、確認や点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	スケーターに乗って遊んでいた際に、ハンドルを鋭角に切って曲がったためバランスを崩し転んだ。	遊具の安全な遊び方を知らせていく。危険な遊び方をしている際は注意を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	スケーターに乗って遊んでいた際に、ハンドルを鋭角に切って曲がったためバランスを崩し転んだ。その後他の遊びに移り走っていたが、足の痛みを訴え、安静にしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が転んだので、すぐにケガはないか確認をした。転んだときは痛がってたが、腫れなどはなく、本児も他の遊びに移り、走る様子を確認した。その後本児が足の痛みを訴えたので、安静にして過ごさせた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見ていた職員もいたが、降所する子どもの対応をしたり、園庭全体を見ながら、クラスの子ども達が園庭で遊ぶ様子を見守っていた。		遊びなれている遊具であっても、子どもの動きによりケガにつながることもあるので今後も注意して見守るようにする。	
10091	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足くるぶし骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	母親から木陰で遊ぶように言われていたが木陰に居たが、木陰にはは遊具が設定されていなかった。また、木陰がリレーをしている場所から離れていて、保育士の目が届きにくかった。	木陰でも遊べるような遊具を設定したり、職員も意識して他の場所にいる児の遊びの様子を把握する。	1.いつもどおりの様子であった	木陰で、友達のリレーをしている様子を応援しながら見ていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラスでリレーをしている子ども達についていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣のクラスと対抗でリレーをしていたため、隣のクラスの担任もリレーに付き添っていた。	リレーが盛り上がり、その遊びだけにしか意識が向けられなかった。また、リレーをしている場所と見学している場所が離れていたため、本児が転んだことに気づかなかった。	リレーをしている場所と見学している場所が離れていたため、保育士の視界に入るような場所で友達の応援ができるようにする。	
10092	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									4	3	18.6歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右眼球打撲傷・右網膜裂孔の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	給食時についてアレルギー等のマニュアルはあるが、机の配置等についての記載がない。	物の配置は配慮している事項であるため、マニュアルに追加すると共ともに職員への周知を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	テーブルを片付ける場所が通路となる所であった。	テーブルを片付ける場所を変更する。	6.食事(おやつ)中	特記事項なし。	その他に対する改善策なし。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	年末年始の長期休み明けであり、疲れが見えていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	給食のおかわり担当として給食の載ったテーブルの所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食後の片づけや歯みがきの見守り（1人）、食事中（1人）	年末年始の長期休み明けであったということ、仲の良い子どもが休んでいたということもあり、より元気がなかった。	子どもの変化に対応した保育をできるよう、様々な場面で必要な保育内容を保育士間で共有するとともに意見交流等を行う。	
10093	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	42	0	0	0	0	0	0			3	3	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置位置の再確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り通園してきて、過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	違うチームではあるが、一緒にドッチボールをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊ぶ様子の見守りをしていた。	特になし	保育中の子どもの動き、異変をいち早く察知する。	
10094	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				10	10	5			2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2～3	1.基準以上配置		日々の運動遊びで体を柔軟に使いこなせるよう工夫する	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48		登降棒の遊び方に関して職員で共通認識を持つ	1.集団活動中・見守りあり		夕方や土曜日等、通常の保育と違う状況では登降棒を使った遊びを制限する	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	登降棒のそばで見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場や他の遊具などに分かれ、他の子どもたちの遊んだり見守ったりしていた。		夕方の担当職員で担任保育教諭ではなかったので担任がいない時登降棒を使用しない	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
						発生時の体制																					ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
							人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
10095	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	14								3	3	14.2歳	2.女児	無し	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	マニュアルやチェックリスト、事例を基に職員が共通理解できるよう努めており、職員配置も基準配置であることから改善策は特にない	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	特になし	施設にも机にも問題は無く、定期的に安全点検を実施しており、改善策は特にない	1.集団活動中・見守りあり	通常は机を児の動線を考慮し余裕のある位置に配置するようにしていたが、交代でクラスに入る職員がいつもより少し動線の近くに机を配置していた。	交代でクラスに入る職員に対しても、こまめに声を掛け、配慮事項を共有したり確認し合ったりする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り変わりなく過ごしていた。戸外遊び後、小走りで保育室に入り、園児用机の脚で右足親指側面を打った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であり、担任は先に入室し、全体を見られる位置から他児の排泄の介助をしながら、入室する子どもを迎え入れていた。児が足を打ったのを見てすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は、保育室前の靴箱のあたり、一人は、園庭で最終児を確認しながら入室を促していた。	特になし	３人の職員が児の移動に合わせて保育室内と室外に分かれて対応しており、改善策は特にない。	
10096	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19								1	1	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨・尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	マニュアルはあり、年１回の園内研修も実施している。	マニュアルにそった対応を行っていた。今回の事故を契機としてマニュアルの見直しなども検討していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年以上	遊具については定期的に点検しており、不備はなかったと考える	今後も定期的な点検を実施し安全管理に努める。	1.集団活動中・見守りあり	４歳児クラスのみ屋外での活動中であった。	保育者が側で見守り危険を感知したら声掛けを行い回避させる。	1.いつもどおりの様子であった	太鼓橋が好きで、よく喜んで登っている。高い所からぶら下がり、体を揺らすことを好む	2.対象児の至近で対象児を見ていた	太鼓橋に登った姿は確認していた。職員が背中を向けたわずかな時間に落下した。すぐに抱き上げ、患部を確認し、看護師を呼ぶ	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	看護師が患部を三角布で固定し、病院へ運ぶ。保護者に連絡する。	通常２名配置で対応しているが、事故当日は１名休みであったため、見守りは普段よりは十分でなかった。	園庭など外での活動については、1名では目が届きにくくなるため、2名で対応するなどの体制を整える。	
10097	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39			10	15	14			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじの軟骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故発生時の対応や講習について職員に周知し徹底していたが、事故予防の講習やマニュアル作成は不十分だった。	事故予防マニュアルを作成し職員に周知すること。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	使用する玩具等の安全を管理していたが、配置する場所や使用の仕方についての安全面を考慮して使用する必要がある。	安全管理の意識を統一した安全点検を実施すること。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の南東側の園舎の陰になっているところ（園庭からは見えるが、保育室からは死角となっている。）で起こった事故だった。	事故のあった場所に危険因子となる物を持ち込まない。	1.いつもどおりの様子であった	検温は正常で、給食は食欲あり、午睡、おやつの様子に異常なく健康に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	二人の担当保育士が、他児の対応の為に対象児のそばから離れていた。職のクラスの担任との連携が不十分だった。事故発生時の園庭の合同保育は、3歳児以上43名を5名の保育士が見守り対応する配置にしたが保育士の人員配置について問題はないはずであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児担当者・対象児と至近距離にいなかったが、それぞれの位置は把握していた。	合同保育に入る前のあそびの時間であった。園庭に子どもたちが出た矢先の事故だった。	子どもの様子を至近で見守り、死角をつくらないようにする。	
10098	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	35								3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯（BAAB）：外傷による脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		なし	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/月	へやに戻る途中によそ見をしたことで、足元にあるプランターに気付くのが遅れ、躓いてしまった。	高さの低いプランターではなく、視覚に入りやすい高さのポール（簡易のもの）を立て、ロープを張った。➡ 業者に依頼する「安全柵」に関しては検討中	1.集団活動中・見守りあり	職員もいつもの動きと安心していたこともあり、園児の咄嗟の動きに対応しきれなかった。	普段から進行方向を見て歩くよう、そして周りをよくみて行動するよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように歩いてへやに向かっていたが、よそ見をしたことで足元がふらついた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	へやに入るため、他の園児たちと本児より後方を歩いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の少し後ろを他の園児たちとへや方向に向けて歩いていた。	前を見て園舎に向かって歩いていればプランターに躓くこともなかったと思われる。	プランターの間にポールを置きとロープを張った。園児（本児を含む）に現物を見せながら確認していく。	
10099	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48				11	35			3	2	18.6歳	1.男児	既往歴に骨形成不全があり、薬を服用している。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中手骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	既往症があることを配慮して保育していた。	配慮が不足していた。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	使用前の確認、使用後の消毒	ハード面での要因はなし。	園庭を使用する際は、つまずきや転倒の要因となる凹凸がないか事前に確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	ルールの確認を行って転がしドッチボールをするべきだった。	トラブルになった時に仲立ちして怪我しないようにすべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	既往症はあったが、いつも通りの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びの中にいたが、転んだ時にとめられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びに着いていた。	ルールの確認を行って転がしドッチボールをするべきだった。	トラブルになった時に仲立ちして怪我しないようにすべきだった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10100	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10									2	2	15.3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		集団で集まる際は並び順等を子ども達にも伝え、トラブルにならない工夫を行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	朝の会を椅子を使って行っており、座る順番も決められていなかった。	以上児クラスでは、立ったまま朝の会を行っており、並び順も名簿順になっている為２歳児クラスも同じ様に朝の会を行うようにする。	7.その他	朝の会を椅子を使って行っており、座る順番も決められていなかった。	以上児クラスでは、立ったまま朝の会を行っており、並び順も名簿順になっている為２歳児クラスも同じ様に朝の会を行うようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	椅子を高くもったまま、他児とトラブルになってしまった為、感情的になっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２人の園児のトラブルを回避させようと椅子を取り上げようとしたが、その際に、園児に椅子があたってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ後の片付けを行っており、担任が仲介に入っていた為見ていなかった。	朝の会を椅子を使って行っており、座る順番も決められていなかった。	椅子を使わずに朝の会を行うようにする。	
10101	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10				3	3	4			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折（切裂骨折）	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置		屋上園庭に出る際には、必ず複数の大人で見守ることを継続する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	フェンスの足の上履きのゴムに引っかかる可能性についての認識が不足していたこと。	フェンスの足の部分を保護し、隙間に上履きが入らないように対策を実施。	1.集団活動中・見守りあり		少しでも床が濡れている場合に屋上園庭で上履きを着用しない。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くで他児にかかわっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしていた。		今後も安全マニュアルの遵守を徹底し、安全管理に努める。	
10102	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故の様子を全職員で共有し研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	日頃から落ち着きがなく、体幹が弱く姿勢が悪い。衝動的な面がある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	その場所でいつものようにバトル（戦い）ごっこをしているのは知っていた。他児と鬼ごっこをしながら様子はみていたが、転倒した場面は見れていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3人でよくする戦いごっこをしていたのは知っていた。時々、様子は確認していたが転倒時は確認できていない。	対象児は普段と変わらない動きではあったが、冬休み明けということあり、普段より動きが鈍っていたことも考えられる。	子どもの状態、状況を十分把握し、それに応じた体制、配置を取る。	
10103	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									4	4	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折（肘の頂点部分）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故報告書を基に改善策を周知し実施してきたが、年度初めはもちろんのこと年4回、期ごとに研修を実施し職員全体に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	未満児・幼児クラスともに安全点検（玩具の大きさ等）をした上で、十分な見守りをしながら保育を行う。また、園庭遊びの際は事前に園庭等の状態をチェックする。	1.集団活動中・見守りあり	職員の見守りの不十分さが考えられる。子どもの行動を予測して職員が動けなかった。	帰りの支度後の園庭自由あそびにおいては、雲梯・のぼり望・鉄棒のあそびは見合わせる。	1.いつもどおりの様子であった	対象児の様子は、いつもと変りない状態だった。皆と一緒に雲梯にチャレンジし、ぶらぶらと体をゆすったところでマット上に落ちた。対象児の肘が先に付く状態で全身が覆いかぶさった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児がタイヤ飛び付近で嘔吐したためその対応をしていた。その途中で、対象児がこご痛いと腕を指して泣きながら伝えに来た。いつもより激しい泣き方だったため、異常を感じた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭にいる職員は、のぼり望・雲梯・タイヤ飛び・畑の草取り・保護者対応に携わりそれぞれのこども達に対応していた。	帰りの支度を終え、リラックスした状況だったこともあり、職員も子どもの動きを注視していなかった。雲梯下にマットを敷いてあるので安心と過信してしまった。	帰りの支度後の園庭での遊び方を見直す。雲梯等は、クラ毎に目的意識を持って取り組み子どもの状況に合わせて厚いマットを敷く。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10104	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	28									5	5	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折（しこんはせつ）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置		事故ヒヤリハット会議を開き、職員で原因や是正を話しあい職員全体で再発防止に努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	椅子とテーブルの間は、子ども達が座りやすいように間があいていたが、その間にて転倒をしたと考えられる。	戸外の砂場付近の木のテーブルや椅子の配置間隔に気を配り、どの年齢の園児が座っても危険を想定し見守りを行う。	1.集団活動中・見守りあり	クラス保育教諭は、近くの園児を見ており、お互いに本児より目をはなしてしまった。また、歩き始めの園児に対しての危険性を見極められていなかった。	歩き始めの園児には、必ず保育教諭が付き添いることができるように見守る。また、歩きたい気持ちや探索活動範囲が広くなることを予測しながら、保育していく。	1.いつもどおりの様子であった	食事、午睡など通常通り過ごし、午後のおやつ後に戸外あそびをしていた。砂場で遊んでいた。砂場横にある木のテーブルへ移動したと考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラスの保育教諭は、近くのすべり台を介助していた。別の保育教諭は砂場にいた。自分の周りにいる子ども達に目が向いてしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ後、自由あそびの時間のため、他の保育教諭もいた。自分のクラスの園児や各保育教諭の回りにいる園児を見守っていたことから、本児に対する直視ができていなかった。	保育教諭は、園児が、歩き始めであり、歩がおぼつかない様子は、分っていたがお互いに目を離してしまい、本児に対する危険性が見極められていなかった。	歩み始めの園児には、必ず保育教諭が付き添い保育教諭間で所在の声を掛け合う。危険性を感じながら保育教諭間で共有し、他クラス職員にも本児に対する周知を行っていく。	
10105	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	9									3	3	13.1歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	コンテナの出入りを注意して見守ることとし、撤去等の室内環境の改善は特に行わない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	コンテナの出入りで体重をかけた時に倒れる可能性があることを想定していなかった。子どもの動きやコンテナの性質、また見守りの指導を行った。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	機嫌がよく活発に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くに座り、周りの子ども見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの片付け等していて見ていなかった。	特になし	見守りが難しい時の玩具の選び方を検討する。担当以外の職員も目は全体の子どもに向けて保育する。	
10106	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	危険予知能力が低い	危険予知トレーニングをする	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６５)回/年		必要面積は満たしているので施設の改善は検討していない。	1.集団活動中・見守りあり	コートの広さに対して、子どもの人数が多かった。	コートの広さに対して、適切な人数で行う。	1.いつもどおりの様子であった	他児と同じように楽しく遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールは見守っていたが、職員も一緒に外野をやったり、大人数が一斉に動いていたので、ぶつかる瞬間は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守っていたが、子どもたちがまだドッジボールに不慣れなため、一緒に外野をやっていた。大人数が一斉に動いていたので、担当職員や、対象児がぶつかる瞬間は見えていなかった。	2クラス合同で活動していたので、1人ひとりの動きがよく見えていなかった。	1クラスごと少人数で行い、ぶつかるリスクを下げる。	
10107	令和6年3月21日	1.認可	7.小規模保育事業	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	3									3	3	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘下骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		ブランコについての注意喚起はあったが、鼻水を拭いて手を離すことの予想ができていなかった。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年		公共の公園であるため、設備点検については園では行っていない。	1.集団活動中・見守りあり		子どもが遊具を使うのに対象年齢があっているか、また、発達に合っているかを見極める必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	鼻水が出る程度の風邪症状があり、ブランコに乗っている際に鼻水が出ていることが気になり手を離した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコの場所に保育者がついていたが、突然手を離した為落下した時に支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具についていて近くにはいなかった。		子どもの行動を予測して遊ばせる、援助する必要があった。	
10108	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23					12	11			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	子どもの視線に対して障害物（この場合だとタイヤ）が低かったこと	ブランコに乗る子が移動しやすいように隙間を空けてあった箇所をアメリカ柵にて封鎖。目に入りやすい柵を設置。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	日頃の保育の中で、慣れている動きの箇所（タイヤの先を曲がる）を最短距離で通ろうとしたこと	ソフト面で記したが、柵を変えたり、人の配置もリスク箇所として把握しておく。	3.個人活動中・見守りあり	虫に気を取られていたことと本児の視野としては、タイヤの高さが低かったこと	タイヤの高さは変えられないのでその先の視野に入る範囲に柵を置くことで自然と気付けるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	虫探しが好きでその時も虫に気を取られ、普段は通らない箇所を通ろうとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	落ち着かないじっとしない動きが日頃から多く、目を離すと危険な動きをしていることがある為、必ず見えるところにいたが、この時は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで他の子と遊んでいた。本児が転んだのが分かって駆け寄った。	本児は目の前のことに気づかないことが多く、遠くに気持ちがいっていることがある。	本児の行動には予測できないことが多いので気を付けてみていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面									環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他																																							
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所											教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10109	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		園庭の適切な位置に保育士を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)		特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭で遊ぶ際の追いかけっこの速さについて配慮が必要だった。	コーナー付近で予測される事や走る速さに気をつける事を知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友だちと追いかけっこをしており、トラックのコーナー付近で転ぶ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全児童の全体の動きを見る為、離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が走っているのを見守っていたが、対象児が転倒する瞬間に防ぐには間に合わなかった。		園庭の適切な位置に保育士を配置する。	
10110	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	44									5	3	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置		保育者は、目の前の子どものみならず、視界に入る子どもの行動についても注意を図ることが大切。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		高い所や低い所など、普段視界に入りにくい所にも注意することが大切。	4.個人活動中・子どものみ	設定保育や集団活動では見守ることが出来るが、自由遊びの時間帯やタ方職員配置が手薄になる場合は、安全が保障できるよう声を掛け合うなどいつも以上に連携を図る。	1.いつもどおりの様子であった	午睡後、おやつまでの自由遊びの時間、友達と2人でホールから年長部屋の窓から中を覗いてみていた。その時中にいた年長の男児にふざけて手を引っ張っられ、急に泣き出した。	4.対象児の動きを見ていなかった	年長部屋からホールを挟んだテラスにロールマットを出して、クラスの子どもをマッサージしていた。1対1で行うので、対象児の泣き声で事態を知った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの準備のためホールにいた職員の1人が、泣き声を聞いて対象児のそばに駆け寄った。対象児が友達と年長部屋を覗いていたことは把握していたが、手を引っ張られている瞬間は見ていなかった。		設定保育や集団活動では見守ることが出来るが、自由遊びの時間帯やタ方職員配置が手薄になる場合は、安全が保障できるよう声を掛け合うなどいつも以上に連携を図る。	
10111	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	17									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折●月●日診断	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	事故防止マニュアルの事故発生時のフローチャートの周知、活用がされていなかった。散歩マップや公園の把握、見直しが不十分だった。	事故防止マニュアル、事故発生時のフローチャートを（園内・園外）の見直しをし、職員の役割分担などの確認を園内研修で職員全員に周知していく。怪我の状況によっては、救急車の要請をする判断も必要になる。散歩マップを見直し、道順、目的地などの危険箇所を全職員で周知・把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	散歩先の安全点検、危険箇所の把握が不十分だった。	散歩先の安全点検チェック項目を見直す。出入口の安全確認、危険物（葉・枝・物）の除去、危険箇所（植え込みなど）のチェック	1.集団活動中・見守りあり	遊具の対象年齢を確認せず、年齢に見合っていない遊具で遊ばせてしまった。(雲梯の高さ約2メートル)	散歩先の下見をして、年齢に見合った遊具であるか確認しておく。当日、現地では、年齢に見合った遊具を提供し、使い方もしっかりと伝える。遊びのルールを子どもたちと見直して、確認する。（子どもが一人でやってはいけない遊具など）	1.いつもどおりの様子であった	一度保育者に支えられて雲梯をやり遂げたので、一人でも出来るかな・やってみようかなと考えたのではないか。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一度自分で雲梯にぶら下がったが、止めて足を階段に戻したので、次にぶら下がった時も、できないと思ったら足を戻すだろうと、かってな思い込みをしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊具での遊びを見ていた。	対象児が雲梯にいるのに、帰園前の水分補給をしようと離れた所から見てしまった。落下の危険性がある為、その場を離れてはいけなかった。やむを得ない場合は他の保育士に声を掛け交代してもらう必要があった。「落ちる」ことを想定しておらず咄嗟の動きが取れなかった。	園外保育のマニュアルを作成し、保育士の行動（役割分担）を明確にする。危険箇所、遊べる範囲、遊具の使い方やマナー等を 保育士同士確認し、子どもに話をする。園外保育は水筒を持参し、園児を全員集めてから水分補給を行う。	
10112	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35				15	9	11			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		声かけに応じない子には特に注意を払い、目を離さない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		遊具には異常はなかったので、今後も引き続き点検をしていく。	1.集団活動中・見守りあり		今後も引き続き子どもたちの環境に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	声かけをしながら、掃除をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援を要する園児を中心に園児の様子を見ていた。		最後まで残る子どもたちから目を離さないようにする。	
10113	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	保育園事故対応指針に準じて対応した	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	床の状況、園児数と保育室の広さに対し、保育内容については適正であると判断する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	担任が遊びの内容の説明を直前に子どもたちへ行い、遊びを展開した。	1.いつもどおりの様子であった	担任が鬼となり、鬼ごっこをし、よーいドンと声をかけた矢先、本児が向きを変え走りだそうとしてバランスを崩して転倒し、床に手首を打ち付けた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が鬼役になり遊び始める。掛け声をかけた際に、対象児が転倒する状況が視界に入ったが離れていたので間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特別支援児対応保育士は、特別支援児の対応をしていたため対象児が転倒した後に気付いた。	特になし	通常保育児と特別支援児に対して、それぞれ職員を配置している	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10114	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30				16	14			5	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	担任と非常勤の職員がついていた。	足が弱く何もない所で転倒など、足の怪我の頻度が多いので、活動時職員が一人つく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/週	いつもと違う公園内で遊んでいた。長縄を使用すると機移動が発生する。	活動が無理そうな時は、本人の意思を確認した上で見学する。	1.集団活動中・見守りあり	長縄を７人で飛んでいたので、短くしてもう少し少人数にするべきであった。	児童の特性などを考慮し、環境の変化に対応できるように、職員同士の連携を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	長縄を飛び越えた後、横移動する際、バランスを崩す。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	長縄の傍につき見守っていたが、対象児がバランスを崩した瞬間止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	長縄を持っていた。	４歳児と５歳児、分かれて公園内で遊ぶ。５歳児に二人の職員がついていた。	４・５歳児同じ空間で遊ぶようにし、職員全体で園児を見守るようにする。	
10115	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	急性硬膜下血腫、頭蓋内開放創なし、右急性硬膜下血腫、痙性四肢麻痺、外傷性急性硬膜下血腫、急性硬膜下血腫外傷性脳浮腫、胃瘻造設状態、脳挫傷後遺症、びまん性脳損傷、急性硬膜下血腫後遺症、症候性てんかん	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(８)回/年	2.基準配置	職員配置は基準を満たしていたが、すべての子どもの動きの把握は十分とは言えない。	より安全性を高めるために、全体を見る保育士を基準配置以上でつける。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	遊ぶ前には使用する箇所の園庭の凹凸や石等落下物がないか担任が確認するが、1人の目であると見落としがあるかもしれない。	安全を確保するため施設や玩具の点検を複数の目で実施する。	1.集団活動中・見守りあり	本児の反対側からも他児が同じように走ってきたが、拡散モードで撒かれたホースの水に目がけて走るとぶつかるかもしれないという危険予測ができていなかった。	遊び の場や使用するものを事前に準備をしてから子どもが遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ホースの水に触れようと、水や水を撒く保育士の方を見ながら走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見ながら散水をしていた際、本児とＡ男が水や自分の方を見て走っていたので、ぶつかりそうだと気づき、「ぶつかる」と声をかけたが間に合わず止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ようと玄関付近におり、本児の動きを見ていなかった。	クラス全体の子どもの動きを把握しきれていなかった。	担任は子どもとかかわりながら遊ぶことが多いため、同時に担任以外の保育士が全体の子どもの動きを見守り、危険が予測される時にはすぐに制止する。	
10116	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79	0	0	0	26	32	21	0	4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育者の配置がしっかりと決められていなかった。	保育者の配置場所などの取り決めをする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊具の付近での見守り箇所の設定がなかった。	見守り箇所の設定を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちとのぼり棒を使って、上に上がったり下がったり、のぼっている近くを走り回ったり、棒を握って回ったりと激しく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	のぼり棒にのぼり遊んでいるのを見ていたが、他児に話しかけられ、そちらに目を向けたため、対象児が落下したところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は全体を見ながらも他児と集団遊びをしていて、対象児の様子は見ていなかった。1名は保護者の対応に当たっていた。1名はアスレチック遊具の様子を見ていて、対象児の様子を見ていなかった。	児童が危険な遊び方ということを理解していなかった。	保育者間で遊びの確認をしっかりしていく。	
10117	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23			10	13				3	2	15.3歳	1.男児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	通い慣れた場所でもあり、油断はあったと考える。	発達と想定させる事故、ヒヤリハットなど引き続き研修に取り組んでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	-	-	1.集団活動中・見守りあり	舗装面と土面との段差が少しあったり、土面には草が生えていたりしたため、バランスを崩しやすかったり、草に足がひかかったりした。	安全に歩くことができる場に誘導する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子もなく活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒後、近くにいた保育士がすぐに駆け寄り、けがの状況を確認する。外傷がなく、痛みの訴えもすぐになくなったので、大丈夫と思い、散歩を継続する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒に気付き駆け寄り、担当職員と共にけが状況と本児の様子を確認する。	足元に気を付けて歩くことを十分に伝えていなかった。	発達と対処方法等について、引き続き研修に取り組んでいく。	
10118	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40			17	11	12			4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5中手骨骨折、右手部挫傷、右小指PIP関節脱臼骨折疑	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	特になし	今後も研修の中で、いろいろなパターンを想定し、事故予防に努めていけるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	特になし	園庭に石や凸凹など子どもが躓く箇所はなかったため、改善策はない。	3.個人活動中・見守りあり	裸足で走ることに慣れていなかった。	裸足での遊びに慣れるまでは注意を促す声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	玩具を片付けてから、担任とシャワー遊びをしようと思っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は担当児が玩具を片付け、担任のしていたシャワー遊びの場所に走って戻って来ようとした途中に、何もないところで転んだところを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が遊んでいる所を見守ったり、一緒に遊んだりしていた。	走っている対象児の足があまり上がっておらず、地面で躓いた。	地面に躓くような大きさの石や凸凹などもなかったため、改善策は特にない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10119	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									2	2	16.4歳	1.男児	普段から活発に動き回っている。担当保育士が気にかけており声をかけているが、突発的に走り出すことも多い。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲と脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	複数人で保育・教育に当たる場合でも、職員間で声を密に掛け合い連携をとるようにする。	職員会議の議題にあげるなどして、定期的に事故予防に対する研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	保育室ドアサッシは既製品のゴムパッキンがつている状況であったが、強打した際は芯の固い部分にあたる可能性もある。	ドアサッシにクッション性のあるぶつかり防止ガードなどを挟むなう改善が必要。	1.集団活動中・見守りあり	全体を見守るように、職員間で見守る場所を決めて立っていたが、児童に付き添う保育者も必要であった。	状況に応じて、個別で付き添うなど、保育士の動きや立ち位置に改善が必要。	1.いつもどおりの様子であった	普段も急に走り出したりすることもあるため、気をつけてて見守っている児童である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体的に気をつけて見守り、「歩いていきましょう」「走らないよ」などと声をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任保育士と連携し、立ち位置を決め、全体的に見守っていた。	クラス全体でトイレに行く時間としてみんなが動いていたため、二人の保育士は立ち位置を決め、全体を見守っていた。	少人数単位でトイレに行くなど、改善が必要である。全体を見守る保育士・児童に個別で付き添う保育士など、状況に応じて役割を分担することが必要である。児童への声がけだけでなく、実際に児童へ付き添う保育士配置が必要である。	
10120	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	飼育物を見に行こうとして走った。	子どもが行動をするときに慌てないような声かけをする。室内やテラスでは走らない約束の再確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	テラスに飼育物を置いていた。	飼育物を置く場所の見直しを行う。	1.集団活動中・見守りあり	前日に捕まえたヤモリの尻尾が午前中に切れて、子どもたちの関心が集まっていた。	子どもたちの関心が高まっている飼育物等がある場合はクラス全体から見やすい場所へ保管し、慌てたり、走ったりせず過ごせるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	飼育物への関心が強く、午前中に尻尾が切れたヤモリへの関心も高かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	降園の身支度をしている子に関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの片づけをしていた。	子どもたちはおやつの片付け、降園の準備をする時間で、子どもの動きも多かった。	保育士は他のことをしながらも園児の様子を注意深く見ておく。	
10121	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	8									3	3	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙破折、外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	最近起こった小児に関する事故に対する情報が不十分である	色々な事故に関する情報収集と検証の機会を作る	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	テラス前のコンクリート部分に砂が溜まっており、滑りやすかった	毎朝、または風の強い日は随時砂を掃く	1.集団活動中・見守りあり	乳児が活動する際の、危険個所の洗い出しが不十分だった	全職員で危険個所を共有し、その場所で子どもを遊ばせない	1.いつもどおりの様子であった	保育士に追いかけられ、楽しくて興奮してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した場所が、滑りやすい場所だと認識していなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていた	職員は子どもが転倒することを想定して保育していなかった	子どもの個人差や発達の把握と職員周知を徹底する	
10122	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	18.6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	顔面外傷性皮膚欠損創、顔面挫創、顔面肥厚性瘢痕	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ぼっくりを使って斜めの斜面の側溝上を歩かないだろうという思い込みからの確認不足。	職員１名は必ず、園児の安全確認のため全体が見届けできる場に残る。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年		改善策なし	3.個人活動中・見守りあり	折り紙をやっている所にソフトブロックを持ち込んだ時、声を掛けなかった。	おもちゃの使い方のお約束をしっかりと伝え、どう使っているか（状況）を把握していく。	1.いつもどおりの様子であった	円の中にいたが1人円柱のソフトブロックにまたがり加わっていて体勢を崩す。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	円のすぐ後ろにいて、全体を見ながら目を配ってはいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の園児に対して、片付けを促す声かけをしていた。		子どもが遊んでいないだろうという先入観をもって見るのではなく、死角になる場も必ず確認を行う。また、担当保育士同士声掛け確認を行う。	
10123	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60	0	0	0	20	20	20	0		6	6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首、橈骨、尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		危険な遊具へ職員を配置、子ども達へ遊具の使い方を伝える	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		定期的な点検を続ける	3.個人活動中・見守りあり		登園と共に子供の人数も増えてくる為、広く視野をもって見守るよう心がけ、子どもたちにも危険なことについて更に伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	できるようになった雲梯で保育士に見てほしくて遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯を行っている園児がいた為、そちらの補助をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの立ち位置で園児の様子をみていた		遊具の使い方、待ち方を確認し合い、各クラスで話したり、その都度声をかける	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10124	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24			7	9	8				5	5	16.4歳	1.男児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼（左上前歯）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	「危ないよ」の声かけだけでなく、本児の側に行って、大型積み木を撤去すべきであった。	子どもは予期せぬ行動をとりやすいということを念頭に置き、一人ひとりが油断しないことと不要なものは片づけておく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊びに不必要なものの片付け、場所・管理方法の確認を職員間で見直しを行う。	上記のとおり	1.集団活動中・見守りあり	事故発生時に、すぐ側に職員がいなかった。玉入れの様子はよく見えていたものその場を離れていたのは事故の要因につながった。	遊びのコーナーを離れる際の職員間の声かけをかかさない。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	玉入れの玉がカゴの中に入らず、入れたいという思いで少しでも高くなるように本児なりに工夫した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びを盛り上げるためにCDを流していたが、そのCDの音量を上げるために担当者が場を離れていたのと、他の職員に子どもたちの遊んでいる状況を話していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びのコーナーで他の園児に対応していた。	玉入れコーナーであったので、大きなケガにつながる遊びではないという油断もあり、周囲の職員や子供たちへの声かけがなかった。	子どもたちの側を一瞬でも離れる場合は、他の職員に声かけを行ったり、遊びの状態によっては中断させて待たせる。	
10125	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16									6	5	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯脱臼・外傷性歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	散歩に出かけ昼食前に帰所する予定で食事のテーブル・椅子をセッティングしていたが急な雨で引き返した。アクシデントで目が行き届かなかった。	いつもと違うことが起きた時には、担任間で意識して声を掛け合い子どもの安全を確かめる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/月		食事用テーブル、椅子が出ているときには、子どもの動きに特に注意する。	3.個人活動中・見守りあり		個人活動中には、一人一人の動きに特に注意をする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じフロア内におり、転んだ瞬間は違う方向を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩帰りの他児の介助のためデッキにいた。		担任間で声を掛け合い子どもの安全を確かめる。	
10126	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	26									1	1	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	暑い日が続いており、疲れや眠気が出てくる時間帯であった。	静と動のバランスに配慮し、活動量を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもしている行動であったため、本児自身、特に意識はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の大縄跳びをしていた子どもたちについていたため、本児が転倒したことに気がつかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコや総合遊具等で遊ぶ子どもたちについていた。	特になし	ブランコや総合遊具だけでなく、丸太の近くでも子どもたちが遊んでいるときは、側についたり、声をかけたりして、安全に遊べるよう保育士の立ち位置に留意する。また、暑さが出てくる時期帯であるため、子どもたち一人一人の様子を見て、休憩が取れるよう声をかける。	
10127	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0	0	0	0	9	2	0		2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置		事故発生時の予防や対策についての外部研修に参加するなど、職員の危機管理に関する知識・認識を高め、周知・共有していく。	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊びと着替えのスペースが狭く、同じ所で行っていたため。	遊びと着替えの場所（空間）を分ける。	1.集団活動中・見守りあり		同時に２つの活動を並行して進めず、一つずつ活動を行う。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態も良好で、普段通り機嫌よく活動に参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当保育士は次の活動（昼食）の準備を行っており、本児との間に距離があった。そのため、本児のつまづき転倒に気が付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児のそばで保育を行っていたが、本児のつまづき転倒に気が付くことが出来なかった。	職員同士がコミュニケーションを図り、子どもの安全面確保を最優先に考えて行動するべきであった。また、室内の全体に目が行き届くよう、環境構成の見直しを行う。	職員同士の役割分担（リーダー・サブの動き）、コミュニケーションの欠如。	職員同士がコミュニケーションを図り、子どもの安全面確保を最優先に考えて行動するべきであった。また、室内の全体に目が行き届くよう、環境構成の見直しを行う。	
10128	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘内側骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		危機管理マニュアルの再確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊具の整理整頓を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		プールや外遊び等、体を動かして遊んだ後は、落ち着いて過ごせる活動を取り入れていく。移動の時は転倒を防ぐため、走らず歩くよう児童に指導する。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に遊んでいた時に、友達の足につまずき、足がもつれた。対象児が走っていた為、他の園児と接触し躓いて転んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びの様子をそれぞれの立ち位置で見守っていた。保育士2名での見守り対応であったが、保育士1人は他の園児の対応にあたっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの遊びの様子を見守っていた。他の園児の見守りの対応に追われていた。	保育士間での役割取りと打合せが不十分であった。	保育士間での役割取りと打合せが不十分であった。	児童の活動内容に合わせて、バランスよく保育士を配置し、見守れる立ち位置にいる。園児の見守りを職員同士が連携をとりながら見守りの強化を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10129	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									3		3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	担任の一人は子どもにリズム運動の指導、一人はピアノを弾きながら子どもに声を掛ける	リズム運動の取り組み方や事前に準備体操を行う等確認をする	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	毎日使用している遊戯室なのでハード面での問題点はないと思われる	使用前に十分な清掃を行う	1.集団活動中・見守りあり	日々取り組んでいる運動にも取り組み方により怪我を引き起こす	子どもの運動能力に合った取り組みをして安全を確保する	1.いつもどおりの様子であった	運動していて楽しい気持ちになり、体の動きをコントロールしきれなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見渡し、運動するグループや順番を待つグループの指導を行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	リズム運動のピアノを弾いていて、近くの子どもには、声をかけ指導していた	安全な活動をするためのグループの人数ではなかった	こどもの運動能力の把握、グループ人数の調整を行う	
10130	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11		6	5						3		2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	朝の打ち合わせ時間帯で２名不在であった。	打ち合わせの時間と参加する職員数の見直し。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	テーブルや棚など高いところに登ったりする。	危険個所の排除（事故発生前に棚は取り外している）	1.集団活動中・見守りあり	部屋の中に玩具が散乱していた（まぐさの食べ物・弁当箱・車・ペットボトル）	遊具や玩具の配置に気を付け安全な環境を確保し、歩行や遊びの障害にならないようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	いつもより顔色がさえず、普段より落ち着いた様子で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	顔色が悪く、兄の興奮ぶりがうっていないか、いつもより気を付けて見ていた。寝って車のおもちゃを動かし、ご迷惑いただが、横になり横に位き始めると、お隣が横いのかと思い、お隣をさすってあげるが一向に泣きはまない。もう一人の保育者の下へ歩いて移動し、その後も泣き続けるので、眼重稿病発を懸念し、母親へ連絡することになった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	新入園児を受け入れ、その子を中心に、他の園児を見ていた。	普段から上を向いて歩いたり、バランスが悪いため、職員は目を離さないようにしているが、見逃している部分があり、その時に捻る等、何らかの衝撃を受けたのではないか。	職員の立ち位置・声掛け・太児に一人つく	
10131	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	24									4		1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2　)回/年	1.基準以上配置	3歳児在籍25名中、配慮が必要なお子さんが3名在籍している。（うち1名が医務室にた本児）主担任の他に3名の保育補助がいるが、主担任以外の3名のうち2名は配慮が必要なお子さんに常時１対１でついており、もう1名はクラス全体の補助をしている。怪我もした本児は当時行為が日頃から多かったが、特定の保育者をつけており、他種の危険行為に対してすぐに対応ができる職員体制にはなっていなかった。	お子さんが3名在籍している。（うち1名が医務室にた本児）主担任の他に3名の保育補助がいるが、主担任以外の3名のうち2名は配慮が必要なお子さんに常時１対１でついており、もう1名はクラス全体の補助をしている。怪我もした本児は当時行為が日頃から多かったが、特定の保育者をつけており、他種の危険行為に対してすぐに対応ができる職員体制にはなっていなかった。	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	窓枠の棚は子どもが踏みけるのにちょうどよい高さで、毎朝登ってしまう園児が多い。窓枠の棚は段差式ステージの構造上見の取ぐことが不可能なため、登る場所ではないことを繰り返し伝え、指導している。窓枠部に子どもが登れないようなに工夫をすること先ヤリバット検証時に検討されたが熱本的解決には至っていなかった。	窓枠の上に、お花紙で作った花を置き、視覚的に上がってはいけない場所であるという意識づけをしていく。構造上窓枠部の撤去は難しいため（段差式ステージの構造上）窓枠に注意的に近に登ってはいけないことを伝えていく。子どもたちが高いところに登りたいという欲求を満たせるよう遊びの中に園児的に組み入れていく。（巧技台やゲームボックス等）	1.集団活動中・見守りあり	クラス担任4名全員が片付けに加わっており、片づけることに集中し、子どもの行動予測が十分にできていなかった。	子どもたちと共に片付けをすることも大切なため、片付けをする保育士、全体の流れを把握し、次の行動を指示する保育士と分担を明確化する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	片付けを切り上げ、仲の良い友達と遊戯室内を追いかけっこをしていた。自宅でも、机などの高いところに上ることが多く、気持ちが高ぶった状態で、高いところに上ることは想定ができる状況だった。	3.対象児の至近で対象児を見ていた	巧技台の片付けをしていた。次の活動に移る前に危険が生じる大きな平均台などを片づけておきたいという思いから、片付けを切り上げ遊び始めた本児の姿に気づくことが遅くなった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	積み木やボールなどを片付けていた。窓枠に登った本児をすぐに発見し、下ろすよう声をかけたが、声掛けをしたまま他の玩具の片づけを始め、窓枠からきちんと下りたかまで確認できていなかった。危ないのでジャンプをしないようにというところまで声掛けできていなかった。	気持ちが高ぶった際に、危険行動など行動に見境がなくなること が多い。また、友だちの行動に影響されやすいことや、大人の反応を試したい気をひくような行動も多く、そのような特性を十分に理解した上で、適切なかかわり方をしていくことが必要。	本児の行動の特性を理解し、危険な行動が見られた場合にはすぐに側で最後まで見届けるよう対応をする。大人の反応を見て、あえて危険なことをすることもあるため、声のかけ方や関わり方の工夫をする。また、周囲に刺激されやすいことから、クラス内で落ち着かない雰囲気がある際には ローダウンの時間を作るなど、危険の回避を行う。本児の特性を職員間で情報共有し、どの職員でも柔軟的な危険行動にも対応できるようにする。	
10132	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10									2		2	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3　)回/年	1.基準以上配置		降所後には、落ちついて帰るように指導していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年		周りに危険個所がないように、整備しておく。	7.その他	門扉前、園舎横のコンクリート部分だったため、スピードも出ていて強打する。	降所後は、遊ばないで落ちついて帰るように指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	父親の迎えで、嬉しくなり気分も高揚して走ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降所後で、見送り見えない場所で転倒していた。そのまま告げられずに帰ったため、次の日連絡を受ける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員も、引き渡した後気付かずに、降所していた。		降所後は遊ばないで落ちついて帰ること、走ると危険なことを日頃から園児に知らせていくよう、職員間で確認をする。	
10133	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1		1	17.5歳	1.男児	無	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園児自身の要因の為	十分な広さの保育環境にての活動であるが、子供の興奮状態を観察し気持ちの切り替えをする時間を作りながら活動を進めて行く方法を模索する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎　)回/年	園児自身の要因の為	十分な広さ、周囲にも障害物などはない保育環境にての活動であった。	1.集団活動中・見守りあり	園児自身もとても楽しんでおり、勢いがつきすぎたことが要因の為	15人一斉に行うのではなく人数制限をしながら行うようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	スポーツ教室が楽しく興奮していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ちょうどほかの子がトラブルになっていたのでそちらへ体を向けていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が外部講師の前を通り過ぎ、決めれれた範囲から出ていくのでそばに近づく。	園児自身、張り切って外部講師に見せようとしていたことが要因の為	注意事項をきちんと伝えて指導する	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10134	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設数地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44			14	15	15			3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙破折、	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	最近起こった小児に関する事故に対する情報が不十分である	色々な事故に関する情報収集と検証の機会を作る	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	ログハウス内の安全整備は適切であったか	ログハウスに敷いてあるマットが危険だと判断し撤去した	1.集団活動中・見守りあり	ログハウス内に許容範囲以上の人数の子どもはいなかったか、ログハウス内で走り回る等の不適切な行動はなかったか	転倒の原因分析を踏まえ、子どもたちに安全な遊び方の周知・徹底を行う	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであったが、手に木か石を持って遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	普段と変わりなく遊んでいたので、転ぶことは予想していなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていた	職員は子どもが転倒することを想定して保育していなかった	ログハウス内で安全に遊べるように、人数制限をしたり遊び方を指導する	
10135	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設数地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	0	0	0	5	11	6		3	3	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回程度/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	夕方の当番体制になり、保育士の見守りの中、気の合う友達と自由遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	柵にもたれ掛る姿を見つけ危ないと気付き声をかけたが、間に合わず転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応しており、対象児を見ていなかった。	特になし	事前に子ども達に柵にもたれ掛かると頭の重さで転落することがある事を知らせておいたり、子どもが柵等に近付く様子があれば、すぐに保育者が駆け寄ったり声をかけたりする等の対応を行う。	
10136	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	11		2	9					3	3	14.2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右膝関節捻挫	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	1．２歳児混合の保育の中で、11名が同時に走る場合のリスクの認識不足であった。	低年齢児の運動能力が未発達であることを認識し、少人数で、距離を考慮して活動すことを、職員で周知する。、	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室から、遊戯室に出ると広い空間で園児にとっては開放的になる。気持ちが高まって、走りまわりたくなる。	遊戯室で活動する場合は、滑らないように靴下は脱がせる。	1.集団活動中・見守りあり	年齢発達にあった活動をすべきであった。保育士が意図した走り方をしないことを先読みすべきであった。	遊戯室で運動遊びをする場合は、年齢発達に応じた活動と人数、距離感など配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	保育室から、遊戯室に出てくると広い空間を自由に走り出した。保育士が、かけっこを促すと、側に来てかけっこを楽しんだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士はスタートとゴール地点で子どもたちを誘導していたが、本児が他児と接触し転倒した際、保育士1はすぐ本児に駆け寄り怪我の有無を確認する。保育士2は、後から走ってくる子ども達が本児に接触しないように横へ誘導する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの後片付けがまだ終わっていない状態で、クラスの子どもが、保育士２人と遊戯室へ行ったが、そのまま保育室の片付けを続けていた。	当日３人の保育士がいたが、２人は、子どもの活動に付き添い遊戯室に来ていたが、もう１人の保育士は保育室の片付けをしていて、子どもの活動に間に合わなかった。	低年齢児が保育室以外の広い場所で活動する場合は、先を見通し、子どもの安全がしっかり見守る位置に保育士がそろっていること。	
10137	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設数地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	54	3	12	8	7	13	11		11	9	15.3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		水筒や通所カバンを手に持って歩くと危険なので、肩から斜めにかけて登降所するよう保育所だよりや玄関掲示で知らせていく。登降所時の約束をマニュアル化し、職員間で共通理解していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(/)回/年		玄関先や門扉の安全点検を定期的に行うようにする。	7.その他		門扉を出るまでは、事務室の職員を中心として危険のないよう、見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特に気になる様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降所後、園外にいたため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降所後のため。		水筒や通所カバンを手に持って歩いている子どもを見かけたら、肩から斜めにかけるよう、その都度声をかけていく。	
10138	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	13	1	6	6					4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指末節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故防止に向けた環境づくり、職員間のコミュニケーション、情報共有に留意する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)		子どもの特性を十分に理解し、事故の発生防止に係る行動の確認や事故に発展する可能性のある問題点を把握し改善する。	1.集団活動中・見守りあり		事故の生じやすい場所等を共有することで、事故への認識、危険に対する予知能力を高める。	1.いつもどおりの様子であった	乳児室へ戻ろうとしていたためドアの近くにいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児がドアの開閉をしているのに気付いたため、ドアを閉めるよう声をかけながらそばに行こうとした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちのそばにいた		ドアの開閉の際は、子どもがドアに手や身体をつけていないか、戸袋付近にいないかを注意確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10139	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92				51	41			7	7	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙破折、歯髄炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置		園庭にいる職員が死角がない様に立ち位置を考える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年		動きを想定して滑ったり、こけたりしないように見守る。高い場所は危険なので特に気を付ける。	3.個人活動中・見守りあり		動きを想定して、安全に見守る。人数が多い時は待たせたりする。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台の階段を上っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台下で他児とも一緒に遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの子ども達と滑り台付近で遊んでいた。	本児がつまずく予測が出来ていなかった。	滑り台、ぶらんこ、ジャングルジム、鉄棒などの遊具で遊んでいる時は傍で危険が無いか見守る。	
10140	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	0	0	7	6	7	0	0	3	3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置	ケガをした当該児のすぐそばに職員がいれば、手で支えることはできたと思う。	研修を受講してきたら、全員へ内容の報告をして、共通理解をする。日々の保育の中で、ヒヤリハットを記入し、職員会で報告し、共通理解していく。子どもの遊びの中では常に危険を予測して、いつでも動けるようにしておく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びを環境のなかで分散する。時間差を設ける。危険が予測される遊具・玩具は置かない。	仕切るなどして、遊びの空間をゆったりとる。子どもから目を離さない。	1.集団活動中・見守りあり	積み木の使い方を細かく伝えなかった為。	自分の身長よりは積まないことや、上に立って遊ばないことを遊ぶ前に毎回再確認していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	クラス替えにより新しい友だちだったこともあり本児のテンションも上がっていたように感じる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ソフト積み木で遊んでいる様子を近くで見守りながら一緒に遊んでいた。対象児が落下する直前危ないと声かけ近寄るも間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のコーナー遊びを危険がないよう見守りながら一緒にあそんでいたが、対象児が落下したことで１人はすぐにかけより担当職員と一緒に怪我の確認等おこない、もう一人の職員は全体を見ながら保育に当たっていた。	５歳児の為、積み木の遊び方をしっかり理解しているものだと軽視していた為。	５歳児でも怪我をするかもしれないとしっかり危険予測しておく	
10141	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27								4	3	17.5歳	2.女児	両眼弱視・調節性内斜視あり、眼鏡使用中。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第４指剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	本児は、両眼弱視・調節性内斜視あり。眼鏡使用中。	椅子は机と同じ場所に設置しているが、机の位置の横が通路となってしまっており、子どもが通る場所としては、狭かった。机の中にしまわれるはずの椅子がしまわれていなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	椅子の足は金属製で幅が狭いものだったので、打撲の際に足の指が挟まりやすかった。	椅子を定位置にしまうことを子どもたちに教育する。	1.集団活動中・見守りあり	本児は、弱視と調節性内斜視のため、眼鏡を使用中だった。	いつもと違うときには、緊張感をもって保育を行うこと。	1.いつもどおりの様子であった	いつもより、体調不良の欠席者が多かったため、職員の見守りは、いつもよりは緩くなってしまっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児は、ふだん行動がはげしくなくおとなしく過ごすこどもだったため、そばで見守りはしていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自由遊びの時で、コーナーに保育士が見守りに回っていた。本児は支援担当の保育士のそばにいた。	おとなしい児童なので、立って歩いて移動するだけけがをすると思わなかった。	弱視がある子どもなのでしっかりと見守りをすべきだった。	
10142	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30		2	4	1	23			5	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折・両肘関節骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	５歳児２３名・４歳児１名・３歳児４名・２歳児２名の計30名に対し職員５人で園庭で遊んでいた。	改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年		ロッカーのふちを保護するクッションをつける。	6.食事(おやつ)中	給食中の離席。前方不注意。	席に手をひいて戻すことをくり返す。	1.いつもどおりの様子であった	日常的に離席や退室をしてしまう園児である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	何度か近くに行き、着席するよう声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は昼休みの休憩に入っていた。		席に手をひいて戻すことをくり返す。	
10143	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28								1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置		改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年		改善策なし	3.個人活動中・見守りあり		目の行き届くように1つの部屋で4･5歳で合同保育を行っていく。もう一人職員が来てから支度をする。	1.いつもどおりの様子であった	朝の支度時にイスの上に立ち、ジャンプをする。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	4歳児の支援の対応をしていて、本児の動きが見えるところにいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人担任で他のクラスの担当者は見ることができません。		全体が見える場所で見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10144	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11								2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		事故の原因を分析し、再発防止に向けて職員間での情報共有、注意喚起を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	牛乳パックに話が敷き、て作成した長椅子（高さ15cm幅22cm長さ65cm重さ300g）は５個あり通常は壁際に並べてある。室内アエレーチの窓ガの際はその上を乗り歩く遊具として使用することもある。ビニールクロスで覆っているが特に滑りやすい素材でもなく、テープもしっかりと床まで貼り付けている。	ある程度の重量があるため、日常的にベンチとして使用している。中身は牛乳パックのため、劣化等には十分注意して使用する。	3.個人活動中・見守りあり	昼食後、午睡前の時間帯はちょうど雑多になりがちな時間帯のため、空いている職員がいる場合は補助に入るようにしている。担任１名は他児の排泄援助で離れたため、フリー保育士に片付けの補助をしてもらっていた。	運動遊びは保育士が側についていられる時に行うようにする。また、その際は長椅子を動かすなどの環境設定は保育士が行う。	1.いつもどおりの様子であった	活発な遊びを日常から好む本児であり、この遊びも日常の一つであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数名をみていた。また、本児の遊び方も日常であり、ジャンプすると か走り回るなどではなく歩いて渡っていたため特に本児の直近で寄り添う見守り方ではなかった。そのため、本児がバランスを崩した時に手が届かずすぐに手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助としてクラスに入っていたフリー保育士は、昼食の後片づけを行っていた。担任のもう一人は他児の援助でトイレにいた。	各場面での遊び方や危険に対する判断について職員で共有しあい、子どもへの働きかけや援助の仕方を同一にする。	担任１名は子どもたちが遊ぶ様子の見守りを行うが、子どもの活動に合わせて立ち位置に留意する。	
10145	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	1								1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕部打撲傷右肘関節部打撲傷右上腕骨内顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		今回の事故の事案を通して、再発防止策を職員で意識統一することが重要。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	玩具のスコップは破損もなく、通常子どもたちが使用しているものだった。	通常子どもたちが使用している玩具だったが、持って走ることで危険が生じることもあり、注意が必要だった。	1.集団活動中・見守りあり		広い園庭で活動するときは、保育士の立ち位置に気を付ける。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	職員は１人体制で、死角になっていた子どもの様子を確認できない場面があった。		１名体制で他の職員はいなかった。	右腕の痛みを訴えた直後は、本人が動揺し聞き取りが不明確で状況把握が十分ではなかった。	職員が全体の子どもが見守る位置で関わることが重要だが、死角になる位置でのアクシデントは把握できないこともあり、痛みを訴えた時点で本児や周りの子どもから聞き取るなど状況把握を行うことが重要。	
10146	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17								1	1	18.6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	過去に同様のケガは起きていない為、スロープをロープつたいに降り下まで来ていたので危険があるとは思っていなかった。	子どもの動きに注意していくとともに、総合遊具の下り口は複数あるため、一箇所ばかりでなく遊具全体を見守っていくことを申し伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり	事故前から遊具を使っておいかけっこ等をしていて、遊びに夢中になると危険を感じることがあった。	遊具の使用の使い方を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	特に普段と変わったことはなく元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	総合遊具を昇った場所で、子どもが集まりやすく危険な高い場所（滑り台滑り口付近等）を注意して見守っていたが、スロープをロープつたいに降り下まで来ていたため危険はないと思っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、外遊びをしていたクラスは年長児以外いなかった。	児にとって遊び慣れている遊具であることが危険を予測できなかった要因と思われる。	子どもの遊び方を確認しながら、常に注意して見守っていく。	
10147	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	81	3	11	13	16	17	21	0	18	18	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	怪我が起こるたびに職員間で状態を確認し何ができたか、反省点は何かを振り返るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	園庭の小さなくぼみがあった。	園庭のくぼみで危険だと感じられる箇所を直していく。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	引き続き安全点検を実施する。	1.いつもどおりの様子であった	おやつの時間になり、楽しい気分でスキップしながら保育室に向かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭にいる子どもたちに、おやつの時間であることを伝えながら後方から歩いてついていった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先に保育室に入り、おやつの準備を進めていた。	保育士が連携して全体を見ていたが広範囲のため、防ぐことができなかった。	怪我が起こるたびに職員間で状態を確認し何ができたか、反省点は何かを振り返るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	障害児	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10148	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13										3	3	15.3歳	2.女児	なし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員が環境に慣れておらず、複数担任間での連携が十分ではなかったと思われる。	職員同士声をかけ合い子どもたちの行動予測を細かくし、常に目が行き届くようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	6.食事(おやつ)中	進級し新しい環境になって過ごす5日目で、子ども・職員共に環境に慣れていなかった。	子どもの動きを見ながら危険がないか職員が注意し、その都度改善していく。	1.いつもどおりの様子であった	特に普段と変わったことはなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くにはいたが他の子の歯みがき等対応中であり、対象児が転倒する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他に2名職員がいたが、それぞれ子どもの対応をしており見ていなかった。	水道近くにタオル掛けや歯みがき用のコップ・歯ブラシを置く棚があったりと物が多くある状況であった。	水道周りの物を減らすなど物の配置を見直し間隔をあけるなど工夫をした。	
10149	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24										1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ関節部分骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	事故発生時において、「転倒して骨折する」事態を想定できず、子ども達の主体性の中で「遊び」を選ばせていた。	大型積み木での遊び方を、児童とともに再確認。2段以上積み重ねてその上に乗らない。押し合い等を行わない	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型積み木を床に並べ、上に乗って渡り歩く遊びを行っていたこと	上に乗った際に不安定な半割丸太の積み木を撤去	3.個人活動中・見守りあり	当該遊具を使っての遊びに習熟できていなかった	子ども達とともに、保育者の助言の中、「遊び方のルール作り」に取り組み、より安全で楽しい遊びになるよう取り組む	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	より危険と思われる遊具の近くで安全を見守り、本児の遊びは遠方より見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内には、他クラスの児童・担任はいなかった	保育士は「この遊び方によって転倒し骨折するかもしれないという見通し・予測を持っていなかった	児童の行動特性を個別に理解し、最悪の事態を想定して遊び環境を構成する	
10150	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7		2		5						3	3	15.3歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎挫創・下顎皮膚欠損（第一病による）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特記事項無し	職員会で事故報告をして、全職員で分析し、再発防止意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特記事項無し	環境面・人面的が要因と考えられるため、記載事項無し	7.その他	受け入れの職員がいつも通り声かけをして部屋に入ったのだが、毎日特に問題なかったので、心配ないと思い最後まで見届けなかった。	着脱の時には、止まって落ち着いて脱ぎ着するよう指導する。上着入れをテラスに置くようにする。（保育士と一緒にテラスで脱ぐ。）	1.いつもどおりの様子であった	部屋に入りながら、早く遊びたくてピョンピョンと飛び跳ねるようにして上着を脱いでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	テラスで、登所してきた他の親子の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は、室内で多動児に付き添い、もう一人は、持ち物の片付けが終り全体を見守りながら一緒に遊んでいた。	見守りの保育士が、持ち物の片付けが完了するまで付き添い補助する。	朝の受け入れ時の職員配置について、再度職員会で確認する。	
10151	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18										2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	鬼ごっこをするときは、遊具の上に逃げないという約束を常にしているので、気づいた時点ですぐに声をかけることを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	特になし。	引き続き安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをするときは、遊具の上に逃げないという約束が、遊びの夢中になってしまっていた部分もあるが、浸透していなかった。	再度戸外遊びでの危険性について話しをするとともに、保育士もしっかりと意識をして見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になってしまうと約束が抜けてしまう。つかまりたくないため遊具の上に逃げてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒に鬼ごっこをしていなかったため、他児と過ごしており見守りのみの状況だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外の離れたところで他児と遊んでいた。	年長児だからという思いから、遊びを任せていたところがあった。	遊びの様子を見ながら、危険だと感じることがある場合は、話をしたり活動を止める必要がある。	
10152	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23					7	16				2	0	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	眼球外側に外傷	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	怪我発生後の対応は的確だった。	担任2名が子どもに対して死角がないように立ち回ることを徹底する。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	活動場所を十分に下見する。	木の棒の取り扱い方について、子ども、スタッフ共に周知、徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	活動場所を十分に下見する。	担任2名が児童に対して死角がないように立ち回ることを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	特にかわったところはありませんでした。	4.対象児の動きを見ていなかった	活動場所が広範囲におよんだため、死角になる部分があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員のみ	死角をつくらないよう、常に意識する。	普段のミーティングで意識を徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10153	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14			2	7	5				1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左A歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度（48）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（48）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（240）回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	遅番の時間、部屋の中の畳がある場所で絵本を見るためズックを脱ぎ、靴下になった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児この内履きズックを段ようこ声を掛けていたが、対象児は思の外にいる友達が気になり絵本を持ってウロウロ歩いて行ってしまい、異年齢児が用でいることもあり対象児と距離が離れていた為、追いかけていくことができず転んでこけを打ってしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児は保育者の近くにいて絵本を読んでいたが、絵本を読んでいる途中で対象児は思の外にいる友達が気になり思の外ベランダこと靴下のままふらふらと歩いて行ってしまった。周りに異年齢児がいた為、その場を動くことができず追いかけていくことができなかったので対象児が転ぶ瞬間に受け止めることができなかった。	特になし	特になし	
10154	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	4									2	1	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		保育士だけでなく保育従事者にも危機管理の周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		危険なものがないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり		常に危機感を持ち保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	皆と一緒に走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	床にあった絵本を危ないと思い拾って棚に片付けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	掃除をしていた。	職員間で連携を持ち、声を掛け合う等目を離さない。	職員間の役割を明確にする。	
10155	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15									4	4	15.3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	降園時間の職員の動き方に決まりがなく、状況を見て互いに動いている。	保育士の配置の見直し。役割分担のマニュアル化。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		室内の異常はなく、床は発泡層付塩ビシートが敷かれている。	3.個人活動中・見守りあり	遊びのコーナーは子どもが落ち着いて過ごせるよう配置を考えてあるが、机のまわりを動き回る子がいる。	机の配置の見直し。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	保育士は全体を見守れる場所にいたが、その瞬間は他児の対応をしていて、本児が転んだことを背中越しの音で気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我発生直後に保育室に戻ってきた。	保育士の人数は揃っていたが、保護者の迎えのタイミングに合わせて部屋を離れ保育士が不規則で発生。保育士1人のときは、子どもから目が離れることがあった。	保育士の配置の見直し。保育室対応と保護者対応の役割分担を決め、安全な体制をとる。	
10156	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	66									4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	サンダルを履くことに慣れていなかった。	必要に応じてサンダルを脱ぐようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(６　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	指示が聞こえたので反応した。	4.対象児の動きを見ていなかった	至近距離で指示を出していたが転倒する瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分のクラスの子を見ていた。	特になし	落ち着いて行動するよう声をかけるようにした。	
10157	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18			5	7	6				1	1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特に登園時や降園時はホールでお迎えを待っている間、保育士がついているが、お迎えが輻輳した時に園児から目を離す恐れあり	特に登園、降園時の業務が輻輳する場面を抽出し、管理体制を整備	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	玄関での出迎え、ホールでの待機含めて、実場面で園児の監視が届かない場面が発生してしまう	遊具そのものだけでなく、使用環境や状況を加味した点検を検討	1.集団活動中・見守りあり	二階の保育室から1階ホールへ子どもを集めるため、保育士の人数確保が困難	特に登園、降園時の業務が輻輳する場面を抽出し、管理体制を整備	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなく遊具で遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りを行っていたが保護者のお迎え状況も気になり意識が分散していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホール内では担当職員一人のみであった	場面を考慮した職員配置体制に課題	特に登園、降園時の業務が輻輳する場面を抽出し、管理体制を整備	
10158	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20			5	10	5				3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	強い衝撃による骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットに加え、危険箇所などを共有できるチャットを作成し、毎月の事故防止委員会の話し合いにて、再度危険箇所の確認と周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年		園庭内に落ちている石や枝などを改めて取り除く。安全に飛び降りる遊びができる環境を整える。	1.集団活動中・見守りあり	いつもと飛び降りる場所が異なっていた。(高さは同じ)着地した場所はわずかな傾斜が見られた。着地の瞬間に傾斜に足を取られ骨折のきっかけとなった可能性が考えられる。	園庭活動時の保育者の配置は全体把握係が随時指示するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	年長児の兄弟がおり、年長児への憧れから、様々な事に挑戦する姿が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつもの意欲的に挑戦する子どもの姿として、子どもが土管から飛ぶ姿を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各職員の担当する場所が決まっており、別のエリアにいる子ども達を見ていた。		１人１枚ヒヤリハット記入の義務化（一時的）を行い危機管理意識を高める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10159	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10		8	2						3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前額部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	職員配置は充分であったが、声を掛け合っての子どもの安全確認が不十分であった。	臨時安全委員会を開き、今回の原因と対応策を話し合った。遅番時の保育者の役割の再確認をした。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし	子どもの月齢や日中の保育の状況に合わせて、各年齢での保育を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	子どもの月齢や日中の保育の状況に合わせて、各年齢での保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊具で一人遊びを楽しめた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児への対応をし、本児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は、担当保育者と他児の対応をしていた。もう一人は、周りにいた子どもたちを見ていたため本児を見ていなかった。	特記事項なし	子どもから目を離さない。目を離すときは、声掛けを掛け合い必ず誰かが子どもを見る。	
10160	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	8									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	2.基準配置	職員配置は充分であったが、マニュアルの内容を読み合わせる等の保育士への周知が足りなかった。	年度初めに、マニュアルを読み合う等、周知、安全確認をして安全面の意識を強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	かけっこレーンに、白線が引かれていなかった。	白線や、ゴール地点に色別コーンの目標物を設置して意識してレーン内を走ることができるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	今年度初のかけっこレーンを使用しての活動であることをもっと重視すべきだった。また、分けずに８人一斉スタートした点にも問題があった。	４歳児クラスになって初のかけっこであることを考慮し、園児に対しての走る前の分かりやすい意識づけや、準備運動をして体をほぐす。また、何回に分けて走るなどすることで、事故を防止できたのではないかと考えられる。	1.いつもどおりの様子であった	対象児はかけっこレーン第１コース側から第３番目に並び、８人で一斉スタートした。スタートして間もなく対象児の右側の子どもが寄ってきてしまい、対象児と衝突。対象児が頭と肩から地面に転んでしまった。衝突したもう一人は無事にゴールした	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人は、スタート側に付き、もう一人はゴール側で待機していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	５歳児クラスが室内に引き上げた後で、園庭に出ていたのは、４歳児クラスだけであった。	隣同士の衝突を予想していなかった。	どんな時も、様々な想定をし、想定に合わせた配慮や環境の構成を考えていく。	
10161	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	4									1	1	9.8か月	1.男児	事故の約２か月前、保育所降園時に母が抱っこしたまま転倒し左側頭部をぶつける。離れていたため翌日ムクニッを受診。嘔吐ない為様子を見る。その他、子ども救急ぶにも母が相談するがムクニッと同様。５日後、保育所登園して母より報告を受ける。事故当日、B病院でCTをとり約２か月の転倒で頭蓋骨にひび入り慢性硬膜下血腫が見つかった。その他数カ所に硬膜下血腫がみつかり急性の可能性有りと伝えられている。	2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	急性硬膜下血腫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	事故の約2か月前の転倒との関連を予想できずに通常の援助を行ってきた。	マニュアルを共通理解し頭部の打撲については急性期,48時間以外にも長期に起こりうることを予想し関わる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	フローリングと畳の境目に布団を敷いた（段差はないが素材が異なる）。	境目にはゴザ等を敷いたうえで布団を敷く。	5.睡眠(午睡)中	オムツ交換後布団にうつぶせで戻した。その後,背中側から寝返りをし厚さ4センチの布団からフローリング部分に移り。右側頭部をごつんとぶつけた。	寝返りなど移動を伴う動きは、広いマット等の中心部分や段差のない状態で遊べるように設定していく。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	午睡後オムツ交換も終え,遊びや姿勢の変換などを促すため布団にうつ伏せで戻した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	背中からの寝返りができるので引き出せるようにうつぶせにした。うつぶせからの寝返りをした際に右の側頭部をごつんとぶつけたので母にしんどつけた部分を確認し,仰向けで布団に戻した。通常はそばを離れると泣く子泣かなかったため様子を見るとぐったりしていた。事務所に内線で連絡をいれる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は会議に参加していた。	午睡中はSIDSチェックを行っているが,眠っていない状態でも随時確認していく事が必要である。	午睡から目覚めた時点で保育体制を強化していく。	
10162	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43	0	0	0	17	4	22	0		5	5	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	その都度実施	2.基準配置	配置基準は満たしているが、遊びの様子を伝達し合うなどが十分ではなかった。	戸外で遊ぶときの配慮点など、マニュアルを再確認をしたり、遊びの様子を他の職員にも伝達する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	遊ぶ前に体を動かしてウオーミングアップしておくと怪我が軽く済んだのではないかと考えられる。	戸外で遊ぶ前に、意識して足首や手首を動かす準備運動を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子がなく、元気に戸外で遊び出していた	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が遊んでいることは見ていたが、他児から声をかけられて対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わったり、他児の遊んでいる様子を見ていたため、見ていなかった。	この玩具で遊び始めた日から、まだ日数が経っておらず、遊び慣れていなかったことが考えられる。遊びの様子を観察しておく必要があった。	新しく玩具を出した時は、職員に周知し、遊び方をしっかり観ていくことが大切であるので、職員に周知するようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時期			発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
			施設・事業所種別			発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位																													
10163	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	16								2		2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	腓骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	各あそび場に職員が配置されるように配慮していたが、子ども達が上（シャボン玉）に夢中となり足元が見えない状況となってしまった。	出掛ける前や活動前に子ども達にも注意を促しながらルールや約束事についてしっかり伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回は当ではまらない	1.集団活動中・見守りあり	広い公園での活動、園内関係者以外との接触により子ども達の気持ちに開放感が生まれてしまった。	走る際の注意点や楽しすぎてテンションが上がってしまう子ども達の気持ちのコントロール	1.いつもどおりの様子であった	週末を開けの散歩ということで、お友達と一緒に遊べることが楽しく、シャボン玉を追いかけることに夢中で足元をみていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くに転びそうな段差などは見当たらなかったため、シャボン玉を追いかける姿を見守ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児がいる場所と分担していたため、当該事故先は見ていなかった。	週末明けということで、子ども達の気持ちの盛り上がりへの配慮が欠けていた。	行きなれた公園であっても、週末明けで集団生活の気持ちがリセットされていることを念頭に、約束事の繰り返しが必要だった	
10164	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23		8	15					4		4	14.2歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	A 外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/年	2.基準配置	休み明けや登降所時は気持ちが高揚しやすいので、子どもから目を離さないようにし、保護者と一緒に歩いて登降所してもらうことを折に触れて伝えていく。	登降所時にも事故が起こりうることを職員間でも把握し、保護者へもお便りや掲示などを活用し啓蒙する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	毎日	門の前が緩やかな傾斜になっているので、走ったりするとバランスを崩しやすい。	駐車場内を走ると転倒し、怪我につながることを施設周辺に掲示する。	3.個人活動中・見守りあり	車を降りた際、母親を置いて兄弟だけで行動させたため。	小さい年齢のうちは特に、保護者と手をつないで歩いて登降所してもらう。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	職員のいない場面での事故であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員のいない場面での事故であった。	登降所に子どもだけで行動したため。	登降所時は、保護者と手をつないで安全に登降所してもらう。	
10165	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9								1		1	15.3歳	2.女児	本児の身長約101cm、児童椅子の高さ約45cm	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	新年度でクラスの生活に慣れていなかった。	落ち着いた雰囲気を作ることができるようにする。また、自ら気を付けられるように繰り返し伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	着席している児童と児童との間が近かった。	集まりの際、児童と児童の椅子の間をできる限り十分な距離をとる。	1.集団活動中・見守りあり	新年度クラスで約1週間過したが、3歳以上児用の椅子や机の大きさに慣れていなかった。	引き続き子供の様子や全体の様子の見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	クラス全体で朝の集まりを行っていて、全体に対して話をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任はクラス活動中の時間。フリーが未満児クラスに補助に入っていた。	動きの大きい男児と違い普段落ち着いて行動していた児だったので、つい立ち上がって動いてしまう姿を予測できなかった。	引き続き全体への見守りを行い、子供の動きを予測しながら対応する。	
10166	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37			9	13	15			5		5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4～6)回/年	2.基準配置		年度初めや年央に、子どもの様子に応じて改めて遊びのルールの確認や見直しを行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年		引き続き、安全点検を行うとともに、施設、設備等に不備があった際は職員間で共有するとともに、速やかに修理、改善などの対応を行う。	3.個人活動中・見守りあり		園庭が乾いているときは、適宜水を撒くなどして、滑りにくくする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子ども達と一緒に別の遊びをしながら、全体的に子ども達の様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子ども達がそれぞれ園庭の好きな場所で遊んでおり、そこに職員が付きながら全体を確認、見守っていた。		園庭の中心を使って、子ども達が盛り上がって楽しめるような遊びを提供することで、子ども達も満足することができ、子ども達の把握や安全につながると考えた。	
10167	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	37								2		2	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	対象児はジャンプしてバーを握れるものと思いスタートバーからジャンプしたが握りそこねて落下。ジャンプすることを予測できなかった。	最初のバーを握ってぶら下がるように声がけを行いながら見守るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	雲梯には問題点は無いが、下に敷いている衝撃吸収マットが古く、硬くなっている。	業者による遊具点検の際、衝撃吸収マットについて確認を行う。	7.その他	年中２クラスの園児が一緒に園庭に出ており、３７名の園児を２名の保育教諭で見守っていた。	早番出勤者の退勤後の職員の補充を国に要望したい。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は危険度の高い雲梯の傍で見守りを行っていたが、雲梯では多数の園児が遊んでおり、対象児一人を見ている状況ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は出入り口ゲート、鉄棒付近の子どもたちを見ており、雲梯の方は見ていなかった。	子どもたちの集中力がとぎれやすい夕方の時間帯での事故	遊具の使い方、遊び方について再確認し、声かけ、見守りを注意深く行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10168	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25			7	11	7			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘内障及び右肘骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(7)回/年	1.基準以上配置		各遊具の使い方や見守りの仕方について、具体的なマニュアルを作成し、全職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年		バランスを崩して落下した場合に備え、クッション（マット等）を整備する。	1.集団活動中・見守りあり		遊具や運動用具を使った遊びでは、その都度必ずルールを説明し、ルールを守らないことが危険につながることを教え、ケガにつながらないよう意識を高める。	1.いつもどおりの様子であった	4歳児である対象児が5歳児と平均台でルールのある遊びをしていたところ、平均台から降りなければならない5歳児の児童が不意に本児の腕を取って降りた為、対象児は平均台よりバランスを崩しながら落ちた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の後ろにいた3歳児の児童の手を引きながら遊びを見守っていたが、平均台の反対側に落下した為、落下を止められず、また、床にぶつかるのを阻止できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お遊戯室内のクライミングウォールの遊び等他児の遊びを見守っていた。		活動場所のスペースに応じ、子ども達を自由に遊ばせる場合の立ち位置・見守りの方法を検討し、場所・状況ごとに職員間で共有する。	
10169	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	2	9					一時預かり1名		5	13.1歳	1.男児	一時預かり一か月に数回利用。保育園には慣れている。	6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員が多かったが故に、スタッフひとりひとりの責任感が欠如。	事故予防に関する研修会の実施回数を増やし、スタッフひとりひとりが責任感をもって取り組む体制を整える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	普段使用しているビニールプール（フチの高さ６cm）とは違うビニールプール（フチの高さ２５cm）を使用。	年齢に合った遊具（ビニールプール）の使用。（フチの高さが低いビニールプールを使用）	1.集団活動中・見守りあり	普段使用しているビニールプール（フチの高さ6cm）とは違うビニールプール（フチの高さ25cm）を使用。	年齢に合った遊具（ビニールプール）の使用。（フチの高さが低いビニールプールを使用）	1.いつもどおりの様子であった	一時預かりの園児だが、毎月数回利用しているため、保育園には慣れている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで、対象児を観ていたが、在園児と共に水遊びをしていた為、周りには他の園児もいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	在園児と共に、一時預かりの園児もみていた。	職員が多かったが故に、スタッフひとりひとりの責任感が欠如。（油断）	事故予防に関する研修会の実施回数を増やし、スタッフひとりひとりが責任感をもって取り組む体制を整える。	
10170	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	4	5	3					5	5	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下肢骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	1.基準以上配置		マニュアルの内容を繰り返し研修等で、職員に周知徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年		今後もこれまで同様に安全点検を行い、事故防止に努めていく。	1.集団活動中・見守りあり		今後更に丁寧に保育士が見守り、事故防止に努める	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	目の前（1メートル以内）に保育士がついていたので、すぐに事務室に連れてきた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児が、通常通りに遊べるよう、遊具にそれぞれつき、平常通りに保育をしていた。		今後も保育士が丁寧に見守りながら、更に子どもたちの行動を予測するように努め、全職員、共通理解のもと保育を行っていく。	
10171	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28				12	16			3	3	16.4歳	1.男児	無	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	勝敗で気持ちが高まっている事を踏まえて、スピード落としたり、運動用具に対して注意を払ったりしながら遊べるような声掛けが不十分だった。又、裸足ではなく靴を履いてのカーブを曲がる陣取りの走行道を作ってしまっていた。	走るスピードが落ちる動きや運動用具を陣取りの走行道に配置したり、滑りやすいカーブの多い走行道はかりではなく、大きめのカーブにし急に方向転換しなくていいような走行道を作るべきだった。又、選手しゃが見ているという思いで疲れがこの範囲まで来て、怪我防止に努めたり、声かけをしたりするかの役割をはっきりさせられていなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	走りに勢いがつきやすい走行道中央に平均台を置いていた。	勢いがつきにくいコースの初盤や中盤に平均台を設置したり、勝敗のある遊びの際は平均台での動き、間隔、他の用具への代用など考慮したりして怪我を回避する。	1.集団活動中・見守りあり	勝負ごとと走る行為に加えて運動用具（平均台）を組み合わせて行ったことで、転倒だけでなく平均台がロを当たる怪我に繋がってしまった。又裸足ではなく靴で走っている事で、滑りやす踏ん張りきれなかった。	勝敗のある遊びをするにあたって、転倒や衝突の回避を子ども達自身に伝えるだけでなく、気持ちが高まりも想定した運動用具の配置やそれを使った動きを決める必要である。	1.いつもどおりの様子であった	児童は、相手の陣地に早くいきたい、勝ちたいと思いがあり、走りに勢いがついていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応で、陣取りゲームをしている子たちから少し見守り場所から離れ、他の職員が少し離れたところ全体的に見守っていたが声かけや手の差し伸べるが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には3人配置していたが、他児の対応や保護者対応が重なり、陣取りする子ども達への目配りが大まかにしかできていなかった。	他児の対応や保護者対応を互いの職員が同時に行ってしまただけなく、そのことを声掛けせずに他の職員が察する形での動きになってしまった。またそのような状況にも関わらず職員一人ひとりの視野を十分に広げられていなかった。	職員の動き、声をかけあい互いに自分や他の職員の行動の確認を行う。又、配慮する箇所の再確認だけでなく時間帯や園庭で遊びだした時間や子ども達の遊び方等の状況踏まえ、その都度判断し遊びの内容も工夫し考えていく必要がある。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10172	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	0	0	0	4	7	11			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇小帯を切る 中切歯左側の根元が折れている	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		研修や事故の検証等を引き続き行っていく	1.定期的に実施	実施頻度(200回以上)/年	1.定期的に実施	実施頻度(201回以上)/年	1.定期的に実施	実施頻度(202回以上)/年		安全チェックは全職員交代で点検しているので、たくさんの目で確認している。引き続き行っていく	1.集団活動中・見守りあり		集団活動のみだけでなく、常に保育士は子どもたちの見守りを行っている。この事故が起きてから、夕方合同保育時の保育士の人数を増やした。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、お友だちと楽しそうに遊ぶ。	4.対象児の動きを見ていなかった	合同保育中という事もあり、全体をみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見ていたが、本児が転倒した時丁度見ていた。		園庭で遊ぶ時の職員の立ち位置をもう一度確認した。職員がその場を離れる時など声をかけ合う事を徹底する様にした。	
10173	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24	8	8	8						3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～３)回/年	2.基準配置		状況に応じて適切な処置がとれるよう、今後も安全面等の研修に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		保育室は定期的に点検しており、今後も月１回の点検を継続し、ケガや事故を防いでいく。	1.集団活動中・見守りあり		保護者や子どもの行き来が多くなる送迎時は、転倒や衝突などのケガに繋がりやすいことを想定しながら見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちを見送ろう、いつもより気持ちが高揚し興奮状態であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	降園時だった為、他の子どもの保護者対応をしながら廊下に出た子どもを少し離れたところから見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、それぞれ担当クラスの子どもの保育を行っていた。		子どもの動きを保育士が予想し、走りそうになる場面では早めに声をかけたり、興奮しそうな状況の子どもは目で追ったり、室内から出る前に声をかける等の対応をして、事故を未然に防いでいくようにする。	
10174	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				24	26				3	3	17.5歳	1.男児	特になし 事故発生時晴	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		保育士が声を掛け合い子どもを見守るよう再度確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年		園庭の異物のチェック、遊具・玩具等の安全確認を丁寧に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		保育士間で、子ども達の様子を十分に見守りながら声を掛けあい連携して対応出来るようにしていく	1.いつもどおりの様子であった	登園時から特に変わった様子もなく、いつも通りの姿だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の子ども達の様子を見守りをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の子ども達の様子を見守りをしていた		全員で全体を見守るようにしていたため、保育士が声を掛け合い、具体的にどの範囲の子どもたちを責任もって見守るのか、再度確認していく。	
10175	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折・裂傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	5歳児に限らず、順番を待つときの位置や立ち方。保育士の声掛け、見守り。	最悪の状況を考えておらず、保育士の見守り方の徹底や園児への声掛けなどや方を即日変えて対応できるようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		戸に衝撃吸収用の物がついていなかったので翌日工事依頼し、工事完了。	1.集団活動中・見守りあり	日ごろから待ち方などを伝えているものの、不十分であった。	再発防止のため、少人数ずつ排泄に行くように再検討。待つ場所も戸からできるだけ離した。再発防止のため、園児にもよく伝えた。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	トイレの中の子の見守りに入ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同じ声をかけつつも中の子たちの補助をしていた。	職員の行動について再検討。	サポートが必要な子に対しての保育士の声掛けや見守り方を再検討。これまでに起こったことがない事業に対する職員の確認が不足している面がないかを話し合う。その結果、戸から離れ整列して順番が待てるようになった。	
10176	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	34									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	園庭に新しい大型総合遊具が完成し、使用する前にマニュアルや研修を行っていたが、再度危険個所等を職員間で振り返り、見直した部分の確認、周知を徹底する。	見守る職員の配置場所、人数により遊ぶ遊具の使用制限をする	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	新しい遊具の使い方等について、全クラスから使用状況を確認し再度「見守り体制」「ケガや事故の防止策」を周知する	注意の必要な個所に標識を作成し、視覚化する・安全マットの設置（●月●日に設置済）	3.個人活動中・見守りあり	遊具の混むか所の対応として「止まる」「順番に待つ」などの園児の動きを事前に伝え、安全に遊べるようにする	ルールがわかる絵カード・標識を使い、遊びの前後で振り返り伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	自分ののペースで、好きな遊具、場所を見つけて遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊ぶ園児の人数を確認し、事前に遊ぶ遊具、場所の内容を確認、職員の7配置を決め声かけしながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャンプする場所が混んでいたため、混雑解消のため声をかけ、遊び方を伝えるために移動したとき	配置場所を離れる際の職員同士の声かけ、周囲への安全確認を徹底してする	多方面に目が届く場所に配置し、予想される行動を考慮して声をかける	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10177	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	33								2		2	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	活動の切れ目であり、保育教諭の特定がされて居なかった為 本児の行動から目を離しての事故となった。	全職員、どんな状況でも事故が起こるという危機管理意識を高めて保育に臨むようにする。（全園児の把握）	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日 1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日 1)回/年		園児同士の衝突による事故であったため、ハード面においては改善策は無し。	1.集団活動中・見守りあり	走ってきた園児は、前を確認せずに衝動的に走ったため、前方不注意であった。	該当園児だけでなく、他の園児にも注意喚起をした。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコ前で、遊びを見つけようと止まっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の遊びに気を取られ、本児の行動から目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くに職員がいたが、対象児の様子は目に入っていなかった。そのため衝突を止めることできなかった。	担任や補助員の危機管理意識が低かった。	子どもの衝動性や突発性という特有の動きを予測したうえで、常に全体を把握できる環境設定や保育を行う。	
10178	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13								3		3	13.1歳	1.男児	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足すね骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		安全対策マニュアルを全職員で再確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	木製ベビーチェアー	テーブル付き椅子を子どもに合わせて調整し、利用時の安全な使用法を職員間で再確認	1.集団活動中・見守りあり		室内での職員の立ち位置を子どもの死角ができないよう工夫	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	おやつの準備を並行して行ったことで、対象児の座る状態や動きを十分に把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の手洗いの補助や、おやつの準備などに対応していた。		通常保育から延長保育への移行時など職員間の連携と常にとり、声掛けなど咄嗟の行動にも対処できるようにする。	
10179	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28			6	9	13			2		2	16.4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		ヒヤリハットを収集しているが、事故に関わっていた保育者や他の保育者の自分のこととして捉える意識の低さが見られるため、定期的に指導を行う。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		施設全体も都度必要に応じて修理改善を行っている。遊具等は月1回の点検を実施している他、使用できる年齢も制限をしている。遊具についてはその都度修理改善を行っている。	1.集団活動中・見守りあり	滑り台の奥にソフト積み木が置いてあるが、積み重なっているため、普段はその場に行って遊ばない約束となっているが友達と追いかけっこになり、行ってしまった。	なぜ行っていけないのかを説明し、約束を繰り返し伝え守らせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ホールで遊んでいる際に追いかけっこが楽しくなってしまい、普段行ってはいけない場所に行ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたため、本人が痛いと訴えてきた際に気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもと関わっていたため、見ていなかった。	子どもが「痛い」と訴えてきたが、外傷が見られなかったため安易に判断をしてしまった。	外傷が見られない場合も安易な判断はせず病院受診をしたり、保護者にも病院受診を勧めたりする。	
10180	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5								3		3	5.4か月	1.男児	①0歳児(産休明け)保育の困難性。②慣らし保育期間中でお子様の情報がまだ十分ではなく、ミルクの吐き戻し、眠と当方のミルク漏れの違いに気づきにくかった。他の保護者様方からの改善要望は特になく、1件だけ3ヨ1休園の際の不満があり、園運営に緊張感が足りないとの苦情があった。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		3.火傷	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸部熱傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	0歳児のクラスは、5人すべてが慣らし保育の対象園児。2週目に入り昼食に提供（離乳食。ミルク）の段階になったが、当該児は月齢が低く不安定であった。0歳児担当は保育士Bが継続した経験者、保育士Aが新規担当者で、保育士A自らも経験を積む過程だったため。	0歳児保育、特に産休明けに近しめ子さんの保育は経験者でも難しい面があり、不慣れな中での安全確認の観点を防ぐために、オンザジョブトレーニングを繰り返しながら事故リスクを低減する改善策と考えます。当園では「授乳手順」を改善し、マニュアルに基づき、全職員が授乳時の安全確保の課題と向き合う研修を行いました。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年	温度設定が簡単にできるポットの不足。授乳温度の確認手段の不足。	①授乳温度が高温にならないような温度管理ができるポットの導入。②哺乳瓶の表面温度の視覚的確認が出来るように、温度チェック一を導入。①,②ともた直ちに配置しました。	6.食事(おやつ)中	環境面では、離乳食組とミルク組の間隔が狭く、慣れない保育士が調乳、授乳中に誤飲・誤嚥の危険性があり、ヒヤリハットが発生しやすかった。これを防ぐ環境面での工夫が十分ではなかった。	離乳食組とミルク組が相互に視野に入るような保育環境を設定する。保育士同士の確認が、やすい位置取りを工夫する。また授乳温度の複数人によるダブルチェックを行う。	1.いつもどおりの様子であった	よく吐き戻す癖あり。当日は機嫌が悪く泣き止まなかった、慣らし保育中で不安定であった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に授乳した）	1：1で授乳していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士Bと保育士Cが同室内、至近距離で離乳食を各々2名ずつに与えていた。	年度初め、慣らし保育期間、0歳児保育という リスク要因の多い時期であることに留意し、より一層の注意を払う必要が有ったが、経験とし て十分ではなかった。0歳児保育に求められる保育技術について、経験が少ない保育士が多い当園としての支援体制について保育士数という量的な対応だけではなく、質の面での配慮について思い を致すべきであった。	これを防ぐ為には、保育士個々の保育能力を高める必要がある。保育士としての職業的倫理の実践に加えて、同時に園運営では この事例を参考に全保育士が抱えの課題という認識を持ち、能動的に再発防止に取り組むことが改善策となる。施設長の職務として職員に十分な研修機会や心理学の相談に乗るなどの保育士支援等を通じて施設として保育の質の向上図り、合わせて改善策したい。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																									死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10181	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12				11	1				1	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		引き続き全職員でマニュアルを確認しながら事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回は遊具や玩具の使用はなかったが、引き続き安全点検に努める。	1.集団活動中・見守りあり	走り方、遊び方の指導を事前に徹底すればよかった。	普段の保育活動から、細やかに安全な遊び方や走り方の指導し、子どもたち自身が身につけていように援助する。	1.いつもどおりの様子であった	該当児は運動遊びを好んでおこなう。当日も最初から追いかけっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スピードを出して走ってはいなかったので、見守りに徹していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	乳児クラス、3歳児クラスは給食ため室内に入り、4,5歳児クラスのみ園庭で遊んでいた。	事故当日は休み明けで子どもたちの動きが鈍っていることがあることを考慮すればよかった。	休み明けは、いきなり走る活動ではなく準備体操をしたり、砂場遊びや集団ゲーム遊びでもよかった。	
10182	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	36				17	19				3	3	17.5歳	1.男児	発生2日前に雨が降っていたので、落ち葉の下は場所によってぬかるんでいた。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左頬部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員配置で基準は満たしていたが、さらにもう1名同行できる体制があると、子どもの動きにより一層対応できる。	公園での活動内容によって、職員配置の増員の検討、遊びの範囲の制限、使用遊具の限定を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	前日、前々日の雨により、土の部分に関してはぬかるみが多少あったが、危険とまでは判断せず、活動に移った。	より一層子どもの行動予測の範囲を広げ、事前に共有する。天候や状況等で迷いが生じた際は複数で確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	固定遊具に職員がつくことで全体把握が難しい一面もあった。	固定遊具を使用するときには職員配置の増員をする。（活動による体制調整）	1.いつもどおりの様子であった	さまざまな場所で追いかけっこなどの遊びをしている。	4.対象児の動きを見ていなかった	さまざまな場所で追いかけっこをしているのは確認、怪我をした場面は見られていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	さまざまな場所で追いかけっこをしているのは確認、怪我をした場面は見られていなかった。	追いかけっこという動きのある遊びの把握の難しさ。	危険個所があると判断した場合は子どもと共有し活動を制限して遊ぶ。	
10183	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									1	1	17.5歳	2.女児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		6.その他	1.頭部	診断不明	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	このような事例に対する予測が難しかった。	事故防止対応に関する研修を強化する。（事故事例検討を行う）	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	園児がゴザをいじる可能性の検討が足りなかった	午睡時に使用していたゴザの撤去を行った。ゴザは敷物、すのこの役割をしており湿気対策や保温、清潔を保つために使用していた。撤去により、キルトラグを使用している。	5.睡眠(午睡)中	午睡時で照明が消えていたため、室内が若干暗かった。	午睡時に使用していたゴザの撤去を行った。午睡時の明るさの確保について周知徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	以前より、入眠することが少なく午睡時に本児が手持ち無沙汰になりがちであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が静かに横になっていたため、離れたところで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡時のため、室外にて事務仕事を行っていた。	本児の午睡時の状況について、担当職員は把握していたものの、危険行動へ結び つく思ってあらず予測が難しかった。	本児が入眠できず午睡時間に対して不安を感じていたため、入眠ができない場合には本を読んで過ごすなど個別に対応を行う。	
10184	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	112	2	8	17	21	27	37			26	24	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折手術名:骨折観血的手術	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置		ソフト面において問題点が無く改善策なし（当該事案については職員会議及びクラス打合せで周知）	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	登り棒を登り、登り棒から2階に移る際に、足を2階足場に乗せてこない場下、落下途中に2階足場に右前腕が接触し骨折。遊具（登り棒、足場）が固定されている等の得る要因は無し。落下箇所には衝撃吸収材が敷かれており石などの障害物や危険物無し。登り棒の太さが適切かを遊具メーカーと改めて分析予定。	右腕が接触した足場に衝撃吸収材等で覆うなどの対策が必要かを検討するものの覆うことにより足場が不安定になり安全性を失うため、現時点で改善点は無し。但し、遊具メーカーの分析によっては、遊具の改善等を行う。	1.集団活動中・見守りあり	一緒に遊んでいた子供が先に登っている為、要因になっていないかを調査したが関係性無し。	環境面において問題点が無く改善策無し。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	進級による環境の変化に伴う疲れの蓄積、週の後半による疲れが見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児の活動を視界に入れつつ他の子どもに関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもに関わっていた。園庭の整備を行っていた。	登り方に不自然な様子は無し。	子どもの体調をよく観察し、高い場所での活動は声掛けにて注意を促す。必要に応じ活動の制限を行う。	
10185	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37			12	13	12				6	6	17.5歳	1.男児	17日後ﾚﾝｾﾟﾄを外す。24日後に診察し、ﾚﾝﾄｹﾞﾝを撮る。経過は順調だが、まだ完治とは言えず、38日後にﾚﾝﾄｹﾞﾝを撮ることになるため、全治30日以上となる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	職員配置は、十分ではあったが、本児が転倒した瞬間を見た保育士がいなかった。	園庭の保育士の定位置を再確認し、全体を把握できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	園庭がかぎ状になっており、死角になりやすい。	園庭の保育士の定位置を再確認し、全体を把握できるようにする。	4.個人活動中・子どものみ	今年度初めてのはだしの日で子どもたちの気持ちが高ぶっていた。	常に保育者同士、連携をとり声をかけあいながら保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	遊具のない園庭で一人で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応中（他児と近くの砂場で遊んでいた）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応中（少し離れた鉄棒付近にいた）	職員の配置は十分だったが、園庭がかぎ状になっているため、死角になる場所がある。	常に保育者同士、連携をとり声をかけあいながら保育を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10186	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								1		1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	簡単な遊具を使用する際にも、使用方法に留意する必要がある。	園内の事故防止対策係が中心となり、環境面での確認と研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	当時は園児１５名に対して、保育士１名の配置。遊んでいた場所も遊戯室で広さも十分にあり、床にも何も置いていなかったため特に無。	1.集団活動中・見守りあり	夢中になって遊んでいたため、お互いに前を見ずに走っていて衝突した。また、運動会が近くなってきたため、ひと一で使用するバトンに興味をもち、子ども達が危険ここでもバトンを使用して遊びたいということで、昨日から取り入れていたが、私人工間、手をつくことができなかった。	手にバトンをもって遊ぶことに危険性があることを話し合い、適切な遊び方をする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼役で他児にタッチしようと夢中になっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任が近くにいたが衝突を防ぐことができず、転倒の際手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くに他の職員がいなかった。	遊んでいる園児全体を見ていたため、声を掛けるのが遅れた。	危険と思われる場面では、迷わず声を掛けたり、立ち位置を配慮していく。	
10187	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8								2		2	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第５中足骨骨折、右下肢痛、右足打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	遊んだ後の片付けの時間に本児が歩いていたところ、足がもつれて転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもと一緒に玩具の片づけをしていたところ、本児が転倒したのですぐに対応した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもと一緒に片付けをしていた。	特になし	特になし	
10188	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	22								7		7	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左中指切断、左環指挫創	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	非常階段で誘導するための職員の立ち位置に配慮が欠けていた。	常に声を出して立ち位置確認の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(91)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	門の支柱部分に遊びがなく手をかけると巻き込まれやすくなっていた。	門を修理し手や指が挟まらないように改修した。	1.集団活動中・見守りあり	誰かが見ていると思い見守りに油断があった。	乳児は気になった物に目が行くので、その特性を把握し声を掛け合いながら見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	他児といっしょに階段を登っていたが、登りきったところで座り込み門に触っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	泣いている子の対応におわれていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋へ誘導する職員、最後の子につく等分担して全員階段を登りきるまでつく職員等分担していた。	職員同士が突発的に動く子を気にかけ動きを把握する必要があった。	声を掛け合い、職員全員が共有し子どもの動きに目を行き届かせるよう心がける。	
10189	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32								2		2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	慌てなくてもいいという注意する声掛けをしていなかったため、慌ててしまった。	遊びの内容を知らせ、慌てなくてもよいことを知らせ慌てて走らないようにし遊べるようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	園庭の草や、芝生が長くなっていて足が引っかかるなどの心配がなかったか等園庭の環境整備の確認をしていなかった。	園庭の整備、芝生の手入れをこまめに行う。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の芝生の伸びに注意し、芝が伸びすぎていないか芝の状態を見ていなかった。	芝生はすぐに伸びてしまうので定期的に芝を刈るなどし、常に安全な状態で戸外遊びができるようにしておく。	1.いつもどおりの様子であった	午後からの自由遊び中、園庭で集団で「はじめのいっぽ」を楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで対象児やその他の子を「はじめのいっぽ」に参加しながら活動を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子ども達と遊びを見守っていた。	戸外遊び中の保育士の立ち位置や遊びの説明は子どもに理解されていたかどうか。	どこの位置に立つのが、子ども達に声がかけやすく、子どもの様子が明確に見えるのかも一度担任同士で話し合い確認をしておく。	
10190	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	18								4		4	14.2歳	1.男児	Aセンターに通院。左足装具を着用。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折、打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	保育士は本児の予想される行動を多面的に考え、関われていたか。	子どもの遊びを把握し、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	子どもの遊びを把握し、滑り止めやマットを引いているが、砂がめり滑りやすくなっていなかったか。	朝の環境整備だけではなく、年齢に合わせた遊びの理解をしたうえで、戸外へ出る前、再度安全の確認をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	楽しさの表現方法を共感しながらも、足の装具が必要な園児のため、足元が不安定になる状況を想定していたが、滑ってしまい手を添えることができなかった。	遊びの様子を把握しながら、子どもの遊びの展開に合わせて環境作りをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	自分の遊びに夢中になり喜びをジャンプで表現してした.	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士と1対1で遊んでいた。傍につき、落ちないように手を添えながら遊んでいた。楽しさをジャンプで表現していた時、足を滑らせた。手をそえようとしたが間に合わず、ジャングルジムの棒でぶつけてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭の遊具ごと傍につき一緒に遊ぶ。	本児の動きを予測し、声をかけながら遊んでいたが対応ができなかった。	子どもの遊びをより広く予測し、様々な対応ができるようにしていく。	

No	概要					発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯		発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10191	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨と尺骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	低い竹馬だったので、担任のみで乗せていた。	食事の片付け等があり、十分な職員配置ができないので、今後はフリー保育士を1名配置することする。事故予防マニュアルの作成。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	園庭は広く、間隔をあけて竹馬に乗せていた。	園庭をほうきで掃き、地面の凹凸をへらすようにする。	1.集団活動中・見守りあり	個々で乗っている竹馬の高さが違っていたり、出発地点を明確に決めていなかった。	竹馬をするときは、園庭も広く子どもも注意が散漫になりやすいため、場所（スタート地点、ゴール地点）と時間を学年間で決めて把握し子ども同士の衝突や接触による事故を防ぐ。	1.いつもどおりの様子であった	昼食を終え、園庭で竹馬を持ち、のろうかどうか迷っている様子だった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	竹馬を持っている本児の様子を見て「のろうか、おさえるよ」と声をかけ補助をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食後の片付け、他児と一緒に掃除している職員と、ホールで遊んでいる子どもをみている職員がいた。	竹馬などの危険の予想される活動の共通認識が不十分で人員配置ができていなかった。	職員同士で活動の時間と人数配置の把握を必ず行い、子どもの状態についても情報共有を行う。	
10192	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70		15	20		19	16			9	9	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	落下しないよう身を守ろうとしての行動がケガにつながった。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回	特になし	落下しないよう身を守ろうとしての行動がケガにつながった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	落下しないよう身を守ろうとしての行動がケガにつながった。	1.いつもどおりの様子であった	普段の遊びの中で3段飛ばしで雲梯をしており、右手でつかむことができず、左手だけでぶら下がった状態となった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他園児の対応をしていたため、少し離れた場所で見ていた。その場で普通に着地をしたが、すぐに園児が痛みを訴えたため病院受診した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	普通に着地をしたが、園児が痛みを訴えたためすぐに対応。	特になし	落下しないよう身を守ろうとしての行動がケガにつながった。	
10193	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(約２０)回/年	2.基準配置	降園前の部屋移動の時間であった。本児の動きを細かく見ていなかった。	移動時間で園児を焦らすことなく、時間をゆっくりと取る。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	トイレには、シューズを脱ぎ、各自のロッカーに入れてから行くが、ロッカーの場所がトイレから遠く、ソックスのままで床を移動するようになっていたため	ソックスのまま床を移動しなくてもいいように、シューズを脱ぐ場所をトイレから出たところの近くにする。	3.個人活動中・見守りあり	対象児が室内を移動する際に走ってしまい、滑って転倒した。	室内の移動に当たっては、慌てたり、走ったりすることで危険が増すことを、しっかりと指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	部屋移動の時間帯であり、トイレを済ませるのが本児が最後となっていた。本児は急いで様子はないが、勢いよく走ってシューズを置いているロッカーの前まで行き、そこで、滑り転んで手を着いた。	4.対象児の動きを見ていなかった	部屋移動のために、他の園児を連れて廊下に並んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレの中に入り、本児が出るのを待っていた。本児が出たことを確認したが、その後、洗い物があったため、本児の動きを最後まで見ないで、トイレの中にとどまっていた。	園児がシューズを履いて、部屋移動をするまで見ていなかった。	園児の行動を最後まで見て、主担任に声をかけて引き渡すようにする。	
10194	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40				8	16	16			5	5	16.4歳	1.男児	特別支援のお子さんの為、A病院の障がい歯科治療部にて受診。激しく抵抗し、レントゲンを撮ることができず、経過観察となる。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎AA亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4～6)回/年	2.基準配置		特別支援保育の子どもの特性などを職員間で把握し、対応の仕方などを共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年		引き続き、安全点検を行行うとともに、施設、設備等に不備があった際は職員間で共有するとともに、速やかに修理、改善などの対応を行う。	3.個人活動中・見守りあり		子どもの人数と活動により、コーナーの設置数や場所（２か所に分かれるなど）を工夫し、それぞれの遊びを保障し遊びにめるよう、環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	遊びを転々としたり、探索が多いお子さんである。普段と変わらない様子ではあったが、動きを止められたことで苛立ったと思われる。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	特別支援のお子さんで、１対１での対応を要する為、担当は常に一緒に活動している。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児もホールへ移動して間もなくだったため、紙芝居を見せる職員、コーナーの準備をする職員、子どもにつく職員に分かれて動いていた。		子ども達がホールに入る前に、ある程度、遊びのコーナーを整えていくことと、遊び始めは騒々しくなるので、落ち着いたころに対象児が入室できるよう連携が取れるとよい。	
10195	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				10	13				3	1	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾基節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	ヒヤリハットだと思う基準が職員によって異なる。	事故の原因、改善策について話し合う場を持ち、職員全員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし。	その他に対する改善策なし。	7.その他	お昼で降園予定の子どもはズック履いていたが、その他お昼寝をする子どもは裸足の状態であった。	お昼寝時等裸足になる時間を全員同じ状態になるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	パジャマに着替えた後、トイレに行きその後絵本を読んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	部屋にいて、●●組室、●●組室のいる子どもの見届けをしていた。(0歳児担任保育士)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児のお昼寝の準備（ゴザ敷く、布団運び等）手伝っていた。（４歳児担当保育助手）ランチルームで給食の片づけをしていた。（５歳児担当保育助手）	職員が室内にいたため子どもの様子に気づけなかった。	４歳児で自分のことはできる年齢であるが、子どもの様子が確認できる職員配置をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10196	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11								3	2	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	跳び箱を跳べるようになったばかりだったため、少し不安もあった。	跳び箱をする時は、必ず側につく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	側につく保育者がすぐに体を支えられるような体勢で見守る。	1.いつもどおりの様子であった	跳び箱が跳べるようになり、挑戦していた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児に、跳んでもよいと合図し、側で待機し見守っていた。勢いもあったため、右手の小指に引っかかった時に、支えきれなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱が終わった子を誘導するためにマットの側に1人と、その他の子どもたちと一緒に本児を見ていた保育者が1人いた。	手を置く場所がいつもよりも外側になっていた可能性がある。	手を置く位置を表示する。	
10197	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								3	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置		職員配置は基準内で特に改善点はないと思われるが、今後の課題としては、事故防止に関する研修を実施することが必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		可動式のタイヤなので、危険がないように職員間で周知する。	3.個人活動中・見守りあり		環境面での改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	友達とタイヤの上に乗って遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くに保育士はいたが、対象児がタイヤから落下する瞬間を止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は遠くから対象児の位置を確認していたが、落下する瞬間は見ていなかった。	子どもの予期せぬ行動を想定できていなかった。	子どもと遊ぶ中であらゆる危険を想定しながら関わっていったり、職員同士連携を取り合いながら保育をしていく。	
10198	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11								2	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.基準以下		縄跳び等活動の前には児童たちと気をつける点を確認する。また、日々の保育で児童の体力の向上に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		遊具や玩具等安全点検を再度行う。	1.集団活動中・見守りあり		難しいことへ挑戦しようとする児童の心情を尊重しながらも、ケガを予防するために必要なサポートを実施していく。	1.いつもどおりの様子であった	元気に登園していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大縄飛びをしていた所にいて縄を回していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの動きや様子を見ていた	縄跳びができるようになり楽しくなって続けてやっていた	楽しくても長くやると疲れるので、途中で休憩を入れる	
10199	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12								2	2	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	肋骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特に無し	特に無し	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特に無し	プールの支柱の周りで遊ばない。支柱を柔らかい素材の物で保護する。	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	特に無し	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児が使っていた浮き輪を取ろうとして本児が押したところ、押し返されてバランスを崩す。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児と他児とのトラブルを見ていたが、バランスを崩したので本児に近寄り、対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	監視役の職員は、別の子どもの対応をしていたのでみていなかった。	特に無し	トラブルが起こった時点で、近くで見守るようにする。	
10200	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	事故発生時の活動は、クラス単位の活動中。衝突などへの注意は促していたものの、運動が「競争」になってしまい、ルールの徹底に欠けていた。	遊戯室の長辺を移動する運動の際には、「往復」の形を取らず、「一片ずつ」もしくは、「一片を運動とし、帰路を歩かせる」形態に変更する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無	現状維持	1.集団活動中・見守りあり	無	現状維持	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	活動の全体を把握できる場所から指示を出していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内には、他クラスの児童・担任はいなかった	保育士は「この遊び方によって転倒し骨折するかもしれない」という見通し・予測を持てていなかった	児童の行動特性を個別に理解し、最悪の事態を想定して遊び環境・遊びのルールを構成する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10201	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52	0	0	0	17	15	20			16	13	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨端発育線損傷（剥離骨折）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	子どもたちが、落ち着かなかったり、ふざけたりしての小さい怪我も多いので、場面を想定しての職員の危機管理能力の向上を図る事が必要。	安全会議の時間の中で、ヒヤリハットなどを使用し、現場に即した研修を行い、危機管理能力の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(300)回/年		今回の怪我に関しては、特にないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	安全会議で危険な場所はその都度全職員で把握するようにしているが、遊具の後ろの環境整備が適切であったのかの確認をしていく必要がある。	毎日の環境整備をしっかり職員同士で確認しながら行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	年長になり、活発な行動が増えてきた。友だちに誘われると、喜んで集団遊びに参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が友だちと元気に走り回り、おにごっこをしているのを把握し見守っていた。転んだ事を確認しすぐに駆け寄り、怪我の状況を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの遊具のそばに職員がついていた。	遊具の後ろという見えにくい場所をしっかり把握し、どのような対応をとっていくか、改めて検証、話し合いをしていく必要がある。	表側の配置だけでは、全体を見渡せる場所はないので、職員同士の声掛けや共通理解を図りながら、見えにくい場所もしっかり子どもの動きを把握できるような体制を取っていくこと。（死角を作らない）	
10202	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									2	2	17.5歳	2.女児	過去にも骨折の既往あり。転ぶことが多い。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置		明らかな外傷がなくても痛みを訴える児については、クラス内職員だけでなく管理者や看護師に報告し、複数の職員で状態観察する重要性を再度全職員で確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	地面の状況を確認したが、凸凹等も無くフラットの状態だった。	開始前には地面の状態確認をおこなう。	1.集団活動中・見守りあり	ドッジボールのコートの広さを検証したが、狭い等は無く適切であった。	無し	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒の場面も把握しており、転倒後は安静にして経過観察していた。その後の行動についてもしっかり確認できていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ドッジボールを担当者とはコートの反対側で見守る。	小児の骨折では腫れが少なかったり、骨折していない部位の痛みを訴えることがあり注意が必要であることを念頭に置く必要がある。	上記を踏まえ、転倒し痛みを訴えたときは、休憩し経過観察する段階から管理者や看護師にも連絡し状況を確認することを徹底する。	
10203	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				7	8	10			4	2	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右小指基節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園児25名保育士４名で保育。お盆中の保育で欠席が多い中だったが、通常の保育環境や職員配置で保育を行っていたため、配置に余裕がうまれた分、大きな動きが出てしまい、足を踏まれた可能性がある	子どもの人数に合わせた空間利用（遊びのスペース）をマニュアルに追加する	1.定期的に実施	実施頻度220回/年	1.定期的に実施	実施頻度220回/年	1.定期的に実施	実施頻度220回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	通りすがりに足を踏まれてしまったため通路が狭かった可能性がある。ボランティアの受け入れにより子どもが興奮ぎみだったかもしれない。	衝立を斜めにすることで通路の幅を確保し、通過することの歩行を安定させるよう改善した。ボランティアの受け入れ時間を17：00までにする。	1.いつもどおりの様子であった	大きな変動はないが、日常的に行動を共にしている友人の欠席が多く、遊ぶ相手は普段と違っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	1.5メートル内の空間で遊びを共有していたがその場面はみていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他スペースにおり対象時の動きはみていない	ボランティアの参加もあり、大人の目としては6名あったにも関わらず、その場面に気が付けることが出来なかった。環境の変化に伴う子どもの心境の変化、ボランティアの行動の把握が出来なかった。	こどもの心理、健康状態に合わせた環境作りの見直し、ボランティア（参加する側、受け入れる側）のマニュアルを徹底する。保育者間で、全体を漏れのないように見ていくよう、連携を継続していく。	
10204	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				11	17	8			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特に無し	園庭からつながる園舎入口付近では走らないように、保育者、園児共に注意喚起し、遊ぶ前の確認事項とする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭等に特に問題となる箇所は認められない	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ケガをした子どもはサッカーボールをもって園舎入口付近へ移動していた。保育者の後方で転んだため、転んだ場面を見ていなかった。	子どもたちは入り口付近では、走らないように注意喚起していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、園庭を走り回ったり、遊具で遊んだりいつもと変りない行動をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	アスレチック遊具で遊んでいる子どもがほとんどで、遊具遊びの見守り中で、広い場所で遊んでいる子どもを注視していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	アスレチック遊具で遊んでいる子どもがほとんどで、遊具遊びの見守り中で、広い場所で遊んでいる子どもを注視していなかった。	特に無し	特に無し	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10205	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	17									4	4	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨幹部骨折・橈骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	滑り台の上から下を覗き込んだ際、頭から落下した。	滑り台の横にも職員を配置する。滑り台の下にマットを敷く。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	滑り台の下にマットが無く、安全性に気づいていなかった。	滑降部だけでなく、階段の横にも保育士を配置する。	3.個人活動中・見守りあり	保育士の遊具の配置に配慮が足りなかった。	怪我をした際は、複数の職員で確認をする。遊具の下にマットを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り機嫌よく過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当保育士は、滑り台の滑降部で、滑り降りてくる園児の補助をしていた。そのすぐ後に被災児が落ちる様子に気付き、手を伸ばしたが間に合わず、落下してしまう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	被災児が落下した事に気付いた保育士も駆け寄り、二人で被災時の様子を見る。	頭から落ちた事に気を取られていた。多数の職員で身体の確認がおこなわれてなかった。	滑り台の階段の横側にも保育士がつき、安全に留意する。	
10206	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									3	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨端線損傷・右小指基節骨骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	先週から家で痛みを訴えていた事を家庭から連絡を受けておらず、跳び箱の練習をしてしまった。	家庭との連携を密にし、怪我予防につとめる。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年		跳び箱やロイター板のズレ等ないか安全面の確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	家庭で指の痛みを訴えていた事の連絡を受けておらず、いつも通り跳び箱の練習をおこなってしまった。	家庭との連絡を密にとり、再発防止につとめる。また、運動前にはしっかり柔軟体操や手指の曲げ伸ばしをおこなう。跳び箱の設置に不備がないかしっかり確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に過ごし、跳び箱をする前も、指の痛みを訴える事もなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当保育士は、跳び箱の近くで被災児が跳ぶ様子を見ていた。いつも通りきっと跳ぶ事ができていた。その直後に右手の第3指第4指の痛みを訴えたので、右手手の平を広げて確認するが、腫れもなく指の曲げ伸ばしもできていたため、そのまま様子を見た。間もなくお迎えだったので様子を保護者に伝えた。その間、保護者から先週から痛がっていたと報告を受けた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	加配児につきながら、被災児が跳ぶ様子を見ていた。	家庭との連携がしっかりできていなかった。被災児が痛みを訴えていた箇所と骨折した箇所が違っていたので、聞き取りがしっかりできていなかった。	事前に手首や指の曲げ伸ばしをしっかり行う事で、手の痛みに早く気付く事ができたと考えられる。痛みを訴えた際、聞き取りと受傷部の観察を丁寧に行う。	
10207	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	52									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ブランコを揺らしかたが激しくなってきていた。揺れに体が持っていかれて反動で手を離してしまった。	ブランコの乗り方、遊具の使い方などを再確認し子どもたちに伝えていく。また、遊びの様子をよく観察しその都度声をかけて確認し合っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	遊具及び、園庭の状態に不備はない。	遊具の不備はなかったが、今後も安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	各保育士が、園庭で遊ぶ園児全体の把握に不十分なところがあった。	保育士間で声をかけ合い、安全に遊んだり怪我に気付いたりすることができるように連携する。	1.いつもどおりの様子であった	一人でブランコを使用していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児から20m程離れた場所で、他児に対応していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年長担任保育士１名は、クラスの子どもたちと遊んでいた。年長加配保育士２名は、クラスの加配対象児と遊んでいた。	各保育士が、園庭で遊ぶ園児全体の把握に不十分なところがあった。	保育士間で声をかけ合い、安全に遊んだり怪我に気付いたりすることができるように連携する。	
10208	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30					14	16			2	2	17.5歳	1.男児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	事故防止に関する研修を月１回程度実施。●月の朝礼で外遊びが増える時期は怪我が起こりやすいことを周知していたため。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	特になし。	遊具や玩具の点検を定期的に実施。施設や遊具自体に特に問題はなかったため。	1.集団活動中・見守りあり	午前中に園の行事があり、日中の戸外遊びがなかった。そのため対象児は、延長保育時間の戸外遊びをいつも以上に楽しみにしていた。	保育園行事や悪天候で外に出られなかった時や夏が終わって運動遊びを多く始める時期は、事前に子どもたちに向けて遊び方やルールの確認を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	日中の戸外遊びがなかったため、対象児は、延長保育時間の戸外遊びを楽しみにしており、いつも以上に活発になっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	高さのある遊具（複合遊具・８人用ハントウ棒・雲梯・三連鉄棒等）を保育士同士の目線が重なるように立って見ていたが、対象児が落ちた時は離れた場所にいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	高さのある遊具（複合遊具・８人用ハントウ棒・雲梯・三連鉄棒等）を保育士同士の目線が重なるように立って見ていたが、対象児が落ちた時は離れた場所にいた。	特になし。	活発になっている園児の状況を職員間で把握・共有し、落ち着いて戸外遊びができるよう事前に声をかけていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷	診断名				実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
									異年齢構成の場合の内訳													死因	負傷状況	受傷部位																											
10209	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	13								2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	事故予防・発生時の対応について、口頭指導による対応基準の周知にとどまっていた。	事故予防・発生時の対応マニュアルを作成し職員への周知・共有をすると同時に、定期的な職員間での確認を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	園児の身体的成長・発達を促すため、屋外でのびのびと体を動かせるように、園舎から広い旧園舎園庭へ移動していることが多い。	現状考えられるハード面での改善について、今使用している移動ルートが最短で交通量が少ないため、ルート見直しも難しい。	1.集団活動中・見守りあり	小学校入学準備の教育段階にある年長児ではお昼寝を行っておらず、身体的精神的成長を促すべく、他学年の昼寝時間帯を何かしらの活動等にあてている。このため全学年での活動・移動と比較すると見守り等が限定される状況にある。	園舎外への移動に必要な人数は確保しており、事故発生時の保育士の対応については、人的面にて改善を行う。	1.いつもどおりの様子であった	事故直前、本児（怪我を負った園児）の前列の園児の靴が脱げたため靴の履きなおしでとどまったところ本児も停止し、先頭保育士が気づかず進行は続いていたため本児の前の間隔があいた。進むよう後方の保育士の指示があり歩き始めたが、本児が駆け出し転倒に至った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	口頭指導による対応基準に基づき、園児の隊列の先頭で、時折振り返って園児の様子を確認をしながら、前方及び園児の列に対する危険物の接近に対応していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	口頭指導による対応基準に基づき、園児の隊列の最後尾で、園児の隊列の様子を確認をしながら、後方及び園児の列に対する危険物の接近に対応していた。	園外散歩などで列をつくって歩く際、隊列の乱れ等が生じた場合に、前方職員と後方職員との連携で列の進行をまず止めることの仕組みがなかったこと。園児に対する突然のことへの対応の際に、「走らず」行動する指示がなかった。	園外散歩などで列をつくって歩く際、後方職員が隊列の乱れを把握した場合には、先頭職員に声掛けをして隊列を一旦止めることで整えるよう応とし、これをマニュアルにも記載すると同時に、園児には焦らず走らずに行動するように伝えていく。	
10210	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	18								2	1	15.3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼の疑い（上前歯2本）	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故予防に対する職員の意識をさらに上げていく必要がある。	クラスの園児の様子をヘルプに入る職員にも伝えておく。事故予防に対する話し合いを定期的に実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		危険な箇所、特に注意が必要な場面を全職員で共有しておく。	1.集団活動中・見守りあり	部屋の移動をする際の園児の誘導の仕方、見守り体制の見直しが必要である。	保育室からの飛び出しがないように、環境面を見直す。園児にもくり返し約束や指導をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午睡前に気の合う園児と興奮している様子だった。午睡をするために遊戯室に移動する際、遊戯室とは逆の方向に走っていった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	走っていく園児を追いかけ、抱いて遊戯室まで戻ってくる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	普段あまり３歳児クラスに入ることがなく、園児の動きに慣れていないところがあった。		園児の動き、一人一人の特性を職員間で共有し、保育をする。何かあった時に声をかけ合い、職員間で連携を取りながら保育をする。園児に対して優しく丁寧に関わることを常に意識する。	
10211	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11								3	3	13.1歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折/左肘痛	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	午睡時間の間に、交代で休憩をとるため配置人数が少なくなる場合がある。	休憩の取り方について話し合い、子どもが寝ている間も必ず２名が側にいることを決める。また、早く起きた子どもが多く大変な時はヘルプを事務室へ伝え対応をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約24)回/年	畳のスペースで布団を敷き寝ている為、起きた子どもは布団の側で過ごしていた。	設備面では安全を確保できていると考える。	5.睡眠(午睡)中	いつもより早く起きた子どもが多く落ち着かなかったのに、遊べるスペースなどを用意しなかった。	早く起きた子どもが落ち着いて過ごせる環境を、午睡スペースとは別に用意しておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午睡時間内であったが、早めに目覚めた子どもがいつもより多く起きて遊び始めていた。その中で、楽しんで追いかけ合いをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体制としては３名いたが、事故発生時には本児がいる場所には１名の保育士しかいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は他児を連れて保育室を出ていた。１名は、子ども達の動きをよく見ていなかった。	３名が交代で休憩時間をとるが、子ども達が起き始める時間に休憩に行くことになるのが保育士の人数が足りなくなる要因の一つになっている。	子ども達が起き始める時間には、複数人数で対応できるように休憩時間を早めて取る。	
10212	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首橈骨・尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.基準以上配置	特に問題はなかった。	園児の動きを常に把握し、危機意識を持つ。職員全員による事故予防研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特に問題はなかった。	今後も、危機管理をもって安全に過ごせる環境面に気を配る。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯で勢いよく一段飛ばしをしていた。	雲梯などでは、危険な事が起こりうると考え、体制を整える。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯で勢いをつけて一段飛ばしをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任保育士は、少し離れたところから見ていた。もう一人は、他の子どもたちと一緒に遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には担当職員のみで、他の職員は園舎内にいた。	勢いよくしていたので、危険と思い近くで補助する必要があった。	可能な限り、危機が起こる前に予見し、危機の回避を図る方策と体制（安全管理）を整えることが重要である。そうした安全管理・危機管理の視点に立って、子どもたちが安心して過ごせるように、また責任をもって保育していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10213	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28			9	9	10			3	2	15.3歳	1.男児	指しゃぶりの癖で上の歯が突出しており歯の根元が短くなっていること、指しゃぶりによって歯が揺れやすくなっていることもあり、固定しても小さな揺れが残る可能性があると医師から話があった。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の揺れ3本	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	バナナ鬼ごっこをしているループが２つあり、保育者が鬼ごっこにつくことができていなかった。	子どもの活動状況をみて遊びのグループを分けたりくっつけたりして整理し、職員がそれぞれの活動をしっかりと把握していけるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	水たまりや床濡れなど滑ったりブロックのがたつきなど躓いたりするような危険な箇所は無かったため特になし。	上記理由の為、特になし。	2.集団活動中・子ども達のみ	バナナ鬼ごっこをする中で当該児をタッチした力が強く当該児のバランスが崩れてしまった。	タッチをする際の力の強さなどを知らせ、押すようにタッチするのではなく、肩などに触れる形でタッチを行うよう話した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	バナナ鬼ごっこに参加し、公園内を走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見つつ、人数確認を行う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちの動きに合わせて動いていた。	子どもたちが年齢や遊びに関係なく入り乱れて活動をしていたため。	年齢ごとに活動空間を分けたり、活動内容を分けたりして、子どもの動きを把握しやすいようにする。	
10214	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	1								2	2	13.1歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指挫傷、中指末関節骨不全骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアル、職員配置などは問題なかったが、保育士の事故予防に対する意識が低かった。	職員全体で今回の事故に対する要因や再発防止などを話し合ったり、マニュアルを共有し、事故予防に対する知識や意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	扉を開閉する際に、意識しなければいけない	扉に「こどもがいます。声を掛けて返事があったら開閉します」という張り紙を付けて、万が一園児がいたとしても扉を開ける際は気を付けるように配慮する。	3.個人活動中・見守りあり	オムツ交換後、園児をその場で待機させオムツの処理をした為。	オムツ交換の際は(排泄物)、交換後は園児を保育室へ連れていきその後、オムツの(排泄物)の処理を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気な様子が見られた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	オムツ交換後(排泄物)、オムツをビニールに入れた際一瞬園児から目を離してしまう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	オムツ交換をしていた保育士が園児を見ていたと思い、確認をせず大人用のトイレの扉を開閉する。	職員間での確認や声掛けが足らなかった。	子どもがいるときには、大人用トイレは扉は開けない。緊急の際、扉を開けなくてはならないときは声をかけあって開閉する。オムツ交換の際は(排泄物)、交換後は園児を保育室へ連れていきその後、オムツ(排泄物)の処理を行う。	
10215	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	14								4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙打撲(歯根神経に傷)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準以上配置	三角巾を正常に付けていれば問題ないが、低年齢の場合については頭を触り、三角巾がずれ落ちる感覚を把握することに弱いことを認識するべきであった。	1歳児以下に三角巾を使用させる時は、常に緩んできていないか確認することを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	活動により机を移動させたい時に、机が大きく重いため、持ち運びが凡、辛い。	机を徐々に折り畳みのできる軽い物に交換していき、活動に合わせ保育室を設定していく。	1.集団活動中・見守りあり	木台にコーナークッションを施してはいたが、クッションが付いていない木台が保育室内で使用されていた。	コーナークッションが付いていない木台は部屋から排除する。	1.いつもどおりの様子であった	1歳児という年齢であれば、三角巾の緩みに本人が訴えてこないこともあることを承知しての見守りが必要であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の三角巾の結びが緩くなってきていることに、保育士たちが気づいていず、三角巾がずれ落ち顔に被ったことで急いで傍に寄ろうとしたが、台にぶつかり転倒することを防ぎきれなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士Aは対象児の一番近くにいたが、対象児の三角巾が顔に被った瞬間は視界に入っていず、水分補給をしていた保育士Dが友づき「危ない！」との声を出し、たこで保育士Aは振り返り対象児の身体を支えようとしたが、転倒を防ぐことが間に合わなかった。保育士Bは他のまこと遊び等していた子供に関わり、保育士Cは机上のパズル遊びの子供に関わっていた。	1歳児の子供の発育状況として、三角巾が緩んできてもそのことへの意識が弱く、また緩んだことによりズに起こり得る状況を想像することが未熟であること、さらに三角巾で目が塞がれても立ち止まらず前進してしまうという、子供の特性について保育士の把握認識の低さが要因として考えられる。	保育士は子供の特性や年齢に応じた発育を把握し、起こり得る危険を想像し、事前に回避できるよう意識を高めるよう努める。職員間で振り返りの時を設け、子供の特性や起こり得る危険を出し合い、自らの考えと他者の考えを聞き知識を増やし怪我を未然に防ぐことが出来るようにする。	
10216	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	22				12	10			4	4	16.4歳	1.男児	4歳児・5歳児合同での遠足の最中。下見は行っていたが、児童と一緒に散策するのは初めてだった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		人員配置やマニュアルには問題なしと判断のため、特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用時)回/年	事前の下見の際に該当遊具の対象年齢の確認が漏れていた。	事前下見の際に必ず対象年齢の確認を行い、使用方法を確認、職員間で共有を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	園の戸外活動としては初めて行く公園であったので、子どもたちも楽しみに思う気持ちが高まっていた。該当児はネットの遊具を気に入り、始めから終わりまでずっと上り下りしていたので、足が疲れていた可能性がある。	気持ちが高揚することは想定されていたので、落ち着いて遊びに入れるような導入を考える。ある程度の時間ごとに休憩を挟み、疲れた状態で遊ぶことのないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段行ったことのない公園だったので、目新しい遊具に気持ちが高ぶっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具に近い位置で複数の児童の見守り体制であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は別の遊具で遊ぶ児を見ている状況であった。	遊具のそばに立ち、子どもたちを見守る位置は適切であったが、一瞬の出来事だったため手が出せなかった。	遊具で遊ぶ人数が増えた際には近くの保育士に声を掛け、見守りの保育士を増やしたり、運動量の多い遊具なので適度に休息時間を設けるなどの配慮が必要だった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位			ソフト面の有無	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10217	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				11	8			2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右くるぶし外側骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	今回の事故は本児の突発的な行動の結果であったため、マニュアル改善や事故予防が難しいと判断したため、特に記載なし。	上記の理由により特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	今回の事故は本児が走って転んだことが理由だったため、ハード面には問題なし判断したため、特に記載なし。	上記の理由により特になし	4.個人活動中・子どものみ	5歳児であることや、いつも行っている活動の流れであったこともあり、その場を子どもたちに任せてしまった。	子どもたちが活動を終えるまで保育者が見守るか、その場を離れる場合はフロアに入る保育者に声を掛け、フロア全体で見守る状況を作るべきであった。	1.いつもどおりの様子であった	体調面では特に問題なかったが、クラスに戻ってきた時点で若干足を引きずる様子が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	いつもやっている活動であったこと・5歳児なので一人でもできるであろうという思いもあり、排泄が終わった後の活動準備を優先してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者は各自自分のクラスの活動をしており、他クラスの動きを気にしていなかった。		保護者のお迎えが来ていた状況であっても改めて痛みの場所を触って確認したり、冷却するなど、その場で出来る対応を行うべきであった。	
10218	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10			6	4				2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(都度)回/年	1.基準以上配置	保育者の連携が取れておらず、双方の動きを把握せず子どもから目を離していた。	職員同士連携をして声かけを行い、お互いの動きを把握して子どもの動向に注視できる職員を配置し、できる限り子どもから目を離さない。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用時)回/年	玩具の箱が固く、また角張っている。その場を目撃している保育者がいなかったが、聞き取りでは、足を箱にぶつけ、他児が上に乗ってきたとのことだった。	角張っている箇所にカバー等する。利用する際には、危険のないよう見守り、子ども達にも適切な使用方法を伝えていく。	1.集団活動中・見守りあり	自由に動いている子がいた。	片付けに参加するよう声かけをするなどして動いている子ども同士が交錯しないようにする。子どもにも危険周知、認知をさせるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	玩具の木箱に足を乗せていたと思われる。片付け終わり、好奇心から乗った、または他児が乗ったはずみで足が上がって箱にぶつかったことも考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	片付け終盤だったこともあり全体への指示出しが遅れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片付けの指示をしていたが、子どもたちをとりまとめで声掛けなどをその時点ではしていなかった。	他児が該当児の上にのしかかってしまったと思われる。保育士同士の連携が取れていなかった。	危険な行為は行わないように子どもたちに注意喚起、約束事の再確認と実施するように都度、声かけや援助を行う。子どもから目を離す場合には、必ず声かけをしてから動くことを再度確認、周知し徹底する。	
10219	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28			8	11	9			4	4	16.4歳	2.女児	普段は3.4.5歳児の異年齢で過ごしているが、今回は2.3.4歳児で出かけていた。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上下前歯の脱臼、下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	他園が来た際に雰囲気が変わった様子を意識し、子どもの様子に変化がないか注意して見守るようにしていた。	季節の変わり目で、暖かくなってきているが体が固まりやすくケガが起きやすいことも、改めて念頭に入れる。また、斜面など転びやすい場所では注意する。斜面で遊んでいるときの職員の配置を、子どもより下の位置で見守りつつの職員同士でも声を掛け合い、配置を移動しながら安全面を保つようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年	遊具の対象年齢の記載に対して、守る意識が薄かった。(今回使用はしていない)	遊具の使用対象年齢を確認し、保育士間で共有。どの遊具を使用するかを決定している。	1.集団活動中・見守りあり	斜面で遊ぶことに対して、ケガへの見通し・想定が甘かった。	他園が来た際に雰囲気が変わった様子を意識し、子どもの様子に変化がないか注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はない	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	坂道が確認できる位置についており、見守りもしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当していた場所があるので、本児をずっと目で追っていることはなかった為。	斜面で遊んでいるときの職員の配置を、子どもより上の位置で見守っていた。	斜面で遊んでいるときの職員の配置を、子どもより下の位置で見守ったり職員同士でも声を掛け合い、配置を移動しながら安全面を保つようにする。	
10220	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	22			7	7	8			2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし。	特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	通報のマニュアルを園外のリュックに入れて持っていけば正しい手順で対応を間違いなくできるのではないか。	事故対応マニュアルを園外のリュックに入れて園外へ出掛ける。	1.集団活動中・見守りあり	木の根があることや躓きやすい場所が落ち葉で見えなくなっていることを子どもに伝えるべきであった。	落ち葉で見えずらい木の根等の危険な箇所を遊ぶ前に子ども達と確認し危険性を伝え安全に遊べるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼から逃げる為、走って逃げていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に氷鬼をしていた。保育士Aは本児の先頭で逃げていた。本児が木の根に躓き転ぶ瞬間を見ていた為、すぐに本児を起こして怪我や痛みはあるか等の確認を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士Bはブランコに乗っている子どもに付いていた。	特になし。	特になし。	
10221	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				10	9			3	3	17.5歳	1.男児	4～5歳児、同じ保育室で過ごしていたため、合同で運動(ﾀﾞﾝｽ)を行った。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	普段から行っている活動で、職員間の連携が疎かになっていた部分もあった。	これまでは「お友だちにぶつからないように気を付けて」などの声かけをしていたが、「手を広げてぶつからない距離をとりましょう」など、具体的に伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	日頃から、ヒヤリとする場面がなかったか、見過ごしていなかったかの確認	保育室で行う中で、園児数と面積に無理はなかったかの確認。合同で行うには、手狭な部分もあったので、半分ずつの人数で行うなど、工夫をする。	1.集団活動中・見守りあり	ダンスの内容や人数から考えると、使用した保育室では狭かった。	園児の間隔を今まで以上にとることや、一度に行う人数を減らすなど、調整する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	やや激しいダンスであったため、いつも以上の動きをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	該当園児以外も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	写真撮影なども行っていた。	保護者用の写真や動画を職員が撮っており、園児に対する声かけなどの対応が遅れてしまった。	他児と極端に近くなってしまっている時など、園児の動きを見て、職員同士で声を掛け合い、園児同士の間隔を離したり、ダンスを中断するなどの対処を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10222	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯破折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		保育士は、子どもの行動を予想し十分に気を付け、危険のないように声をかけ、事前に防ぐ。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	広さを十分確保するように机を片付ける	1.集団活動中・見守りあり		降園前は、ゆったりと過ごす。	1.いつもどおりの様子であった	広いスペースで数人とくるくると繰り返し回り、バランスを崩してうずくまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子と一緒に体操をしていた。視界には本児が入っていたが、被災を防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児と一緒に3m離れていた。	降園前という時間帯に体操をしていた。子どもがふざけあう姿をすぐに止められなかった。	子どもの動きに目を向け危険につながる行為はすぐに止めるべきであり、子どもたちには、楽しいとふざけるのは違うことを伝える。	
10223	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	運動参観日の練習後で高揚している園児の気持ちを考慮し、危険を予測するべきであったが、見過ごし走らせてしまった。	集団で移動及び行動をする際に、少人数ずつのグループ分けをし、基本的には歩くように声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	所定の場所に旗を片付けに向かい、随分手前の位置で急に立ち止まった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体の動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々、担任の子ども達の保育をしていた。	子どもの行動、動きに対し危険予測が甘かった。	行動する際は少人数ずつに分け、目つ走らないように指導する。	
10224	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32	0	0	0	0	0	0	0		10	10	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外果骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルには巧技台の危険性や設置時の注意事項等が無い。また、職員会議でもそれを取り上げなかった。職員一人一人の認識違で判断するものであった。巧技台の正しい取り扱い方について職員間での統一がされていなかった。５歳児担任が運動会の４日前から欠勤し、園内で合計３名の職員が欠席していた。そのため、半日練習等で０人の職員配置が十分でなく、運動会当日の巧技台補助者が間もって練習に参加できていなかった。	年度始めの会議で「保育園における事故防止マニュアル」の読み合わせを行い、職員に周知する。また、巧技台の使用方法・注意事項を確認して全職員で共通理解する。（今年度については、事故後に事故防止マニュアルの確認、巧技台の扱い方について確認を行った。）人員のマイスが出た場合には、その分を少しでも埋めるよう 出入口の配置を再考して職員する。運動会当日の競技補助者については、練習時に補助ができる職員を配置する。それが無理な状況であれば競技名の内容を再検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	巧技台の固定は、日常の保育では、まりがれておらず、倒れる場合にもロープで縛るという形であった。固定の必要性は、ほぼその保育士の経験値で判断するものであった。競技前に器具後に固定についてのやり取りはあったが、指揮者は先陣を予知できて固定しなかった。運動会で使用する巧技台の数が園にあるものでは足りず、プログラムの合間に巧技台を組み替えなくてはいけなかった。そのため、５歳児の競技で使うり分を始めから組み立てて固定しておくことができなかった。	巧技台専用の安全ベルトを園で購入。巧技台を高く積む時、積んでジャンプをする時には、常に安全ベルトで固定をすることを職員に周知する。競技ごとに組み替えなくてはいけない場合には、競技内容を時刻に、園にある数ごとあらこを考える。組み換えができるという判断した場合にも、固定する方法を よく検討し、選び代の時間に固定するのかどいうことを参加職員で周知する。ジャンプした際に敷くマットについて、もっとクッション性のあるものがないのかどいうことを、子どもに経験させたい動きと の兼ね合いを考えて検討していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	巧技台の横につき、巧技台が揺らがないように上から抑えていたが、本児の当たりが強く、巧技台がずれてしまった。それをすぐに正常な位置に戻したのだが、本児はふらついており、巧技台から落ちている瞬間に手を差し伸べたが届かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	競技の指揮者だった保育士は、一瞬近寄ったが、本児が立ち上がったため、次に進めなくてはと思い遠ざかった。本児の当たりが強く、巧技台がずれてしまったため、本児の動きに目を向けて、駆け寄り、本児の体を観察、怪我の確認をした。本部から見ていた園長が、本児・職員のところに走っている。怪我の具合を聞きながら、本部へ連れてきた。	当日の競技指揮者は、５歳児担任が欠席することになり、急遽この競技の指揮者となった。本部から見ていた園長が、本児・職員のところに走っている。怪我の具合を聞きながら、本部へ連れてきた。	代替で指揮をすることになった保育士の体力的・精神的負担を軽減するために、別の職員を保育補助として配置する。競技の補助者は最低３回は当日運びに補助に つき、子ども達の状況を把握しろうえで当日を迎えるようにする。それができる補助者を固定するか、補助者が固定でつけないのであれば、競技自体を検討する。	
10225	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	23									2	2	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	遊戯室での活動を行う際に半数ずつに分け、必ず２人で見るようにする。	今回は男女で半数ずつに分けたが、前半チームの活動が終わって並べている時に後半チームの活動を始めてしまった。保育者２人でしっかり見れるように、前半チームが並んで座ってから後半チームの活動を始めるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	準備体操をしっかりと行い、特に手首足首の部分を重点的にほぐすようにする。	当日は準備体操に取り組んだが、手首足首の部分をもっと重点的にほぐしていき、怪我を防止する。	1.いつもどおりの様子であった	事故発生まではいつも通りの様子で、転んだ後も泣かずに自分で起き上がりまた走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児（後半チーム）が転ぶ姿を見たため、「大丈夫？痛い？」と声をかけ、転んだ箇所を確認した。対象児は「うん！」と言って起き上がり、また走り出した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	前半チームの子どもを並べて座らせてから後半チームの子どもを見ていた。	本児が転んだ後の観察が不十分で、骨折していることに気付けなかった。	自分で痛い と訴えることが出来ずに我慢してしまう子もいるため、総合的やつつの洗べ具合をよく見たり、様子をよく見ていかなければならない。また、転んだ時は全身をよく見てどこが痛いかを聞いたり、本児が言いやすいようこまめに声掛けをしていく必要がある。また、保育者２人でしっかり見れるように、前半チームが並んで座ってから後半チームの活動を始めるように する。	
10226	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29									3	3	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折 左肩打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向けての活動に楽しんで参加していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	走行中の園児を目で追いながら、転倒の際にはすぐに駆け付けた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	走行中の園児を目で追いながら、他児の走行準備の手伝いをしていた	天候等により戸外での活動が久々だったことも原因のひとつと考えられる	活動前の準備運動や体調確認を十分に行う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面														
							人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10227	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	157			32	51	29	45		19	19	17.5歳	1.男児	●年●月に●●市から引っ越してきた。●●市の１歳６か月、３歳児検診で指導を受けていたとの報告があり、面接をし加配保育士がいるクラスに在籍していた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	危機管理マニュアルを見直す。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年毎日	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年 毎日	震梯が観客側にあり、本児の動線上に震梯があったことで、震梯に興味を持った事が考えられる。	遊具の遊び方を検討し、安全面での配慮を確認し取り組む。	1.集団活動中・見守りあり	加配保育児で、突発的な行動に対応ができなかった。	職員間で子どもの動きを確認し連携を取ることを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	年中児の運動会の予行練習を担任保育士と一緒に椅子に座って機嫌良く見ていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	子どもと一緒に年中児の運動会の予行練習を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見守ったり、運動会の予行練習の補助についたりしていた。	側についていたが、子どもの突発的な動きに対応ができなかった。	子どもの予想される動きを想定しで危険を未然に防ぐ。	
10228	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25								2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折左肘打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	複数のクラスが遊び、所々で見守りをすることへの連携が十分に図れていなかった。	見守りのポイントとなる場所を確認し、その場を離れる時には声を掛け合い、見守りが不十分にならないようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５)回/週	安全マットは敷いてあるが、落下の仕方によって怪我に繋がるので、安全マットがあることで過信しないようにする。	一番低い鉄棒からの転落であったが、高さがあると、怪我の程度も大きくなることも考えられるので、適した高さで遊ぶことができるように確認する。	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒をする際には、保育士と一緒に行うようにすることが子どもたちに十分伝わっていなかった。	年上の子どもたちが運動会で鉄棒に取り組む様子に刺激を受け、戸外での遊びの際には、よく鉄棒に取り組んでいた。	1.いつもどおりの様子であった	年上の子どもたちが運動会で鉄棒に取り組む様子に刺激を受け、戸外での遊びの際には、よく鉄棒に取り組んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の側についていたが、他の子どもに呼ばれたため、その場を離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とかかわっていたため、本児が鉄棒から転落した状態になるまで、気づくことができなかった。	これまでも鉄棒で遊び、慣れてきている様子から、少しの間なら良いと思い、子どもに声をかけずに、他児の要求を優先して離れてしまった。	子どものやりたい気持ちを大事にしながらも、運動発達に合った遊びをしているかどうかを日頃から一人一人確認できるようにする。	
10229	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	34								2	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置		職員間の連携により、事故防止策に取り組むこと。また、事故に関する研修を実施することが必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		ドッジボールをするための広さの確保をする。	2.集団活動中・子ども達のみ		子どもの状況に合わせた活動を提供していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ドッジボール中で、夢中でボールを追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールからは離れていて、対象児が転倒する様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭での活動は年長児クラスのみであり、食事準備に支援員は移っていた。	子どもの予期せぬ行動を想定できていなかった。	子どもと遊ぶ中であらゆる危険を想定しながら関わっていったり、職員同士連携を取り合いながら保育をしていく。	
10230	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	1	1	4	2	2	2		4	3	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指亀裂骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回以上/年	2.基準配置		子どもの特性を十分に理解したうえで職員一人ひとりが事故予防に心がけ、気配りをしていくことで起こりうるリスクを減らしていく。所長とリスクマネージャーが一体となって、事故に発展する可能性のある問題点を把握して、事故予防に取り組んでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		可動式壁で仕切る場合は、可動式壁下部にクッション素材の安全ガードをつけるなど、安全対策を実施する。	3.個人活動中・見守りあり		室内を走って遊んでいる状況を改善するため、園児が興味をもって落ちついて遊べるようにコーナ遊び等を用意する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	土曜日の合同保育で担任も不在であったため、普段より落ち着かない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児（１歳児）と保育室内の別の場所でまま ごとをして遊びながら、対象児から離れた場所から全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	可動式壁で仕切られて反対側のスペースにいた。		常に子どもの動きに目を向け、保育室内では落ち着いて遊べるように声をかけたり、遊びを工夫したりする。	
10231	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36		9	13		14			5	5	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第５指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	障害物との接触はなく、園児自身の要因	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	障害物との接触はなし	障害物との接触はなく、園児自身の要因	1.集団活動中・見守りあり	箇の所に行こうと急いでいた	障害物との接触はなく、園児自身の要因	1.いつもどおりの様子であった	急いでみんなの所に行こうとして走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児以外にも子どもがいて全体を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	テラスにいた職員が対象児を見ていた	夕方は砂場で山を作るなどして遊んでいたので、異常に気付かなかった。	少しでも痛みが出てきたら、職員に伝えるようにお願いする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
							人数	異年齢構成の場合の内訳																死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10232	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				16	13			4	2	18.6歳	2.女児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし。（職員配置や事故に関する情報共有等を適切に実施できているため。）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし。（定期的に点検を行っているため。）	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし。（見守り自体は適切に行っていたため。）	1.いつもどおりの様子であった	痛みを我慢して普段通り振舞っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故後も食事や他の活動をいつも通りに過ごしていた為に気づかず発見が遅れた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員とともに見守っていた。	特になし。	特になし。（見守り自体は適切に行っていたため。）	
10233	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	35								3	3	17.5歳	1.男児	固定乗り物遊具のまたがる高さ(馬の背中)７５ｃｍ	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	遊具の使い方の周知が十分でなかったため	職員間で事故・ヒヤリハットについて話し合いや報告を受け、どの職員も危機意識を持つ。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５)回/週	乗り物遊具は、高さがあり落下の危険があるため、下にクッション材を敷いておくと良かった。	固定乗り物遊具の下部にクッション材を敷く。	3.個人活動中・見守りあり	他児と楽しく遊んでいたため、目を離していた。	乗り物には正常なまたがり方をし、降りる際は、片足ずつ、ゆっくり降りるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	仲の良い子どもと一緒にいることで、気持ちが高まり、羽目を外すような行動を取ることがある。安全面の配慮が欠けて、うまく降りらなかったことがりが元に繋がった。	4.対象児の動きを見ていなかった	転倒したことに、付近にいた保育士が気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で他児を見ていたので、遊び方の様子に気付かなかった。	乗り物遊具の乗り方について、子どもに確認して遊ぶようにしていく必要があった。危険が予測される行動を取っている時は、そばで見守り声をかける必要があった。	担任以外の保育士がクラスに入る時、普段と違った様子の子どもや注意点を丁寧に伝える。	
10234	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13							看護師	3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	落下が考えられる遊具で園児が怪ぶ場合、職員がすぐ近くにいるよう指導しているが、事故発生時は他児と遊び始めから、少し離れた所から見ている状態であった。研修に参加したり、マニュアル再周知していても、個人の安全管理に対する意識に違いがある。	安全管理やヒヤリハット・怪我・事故について、園内の研修を増やしたり対策について話し合う時間を増やしていく。個々の意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	遊具には問題はなかったが、落ちた時のことを考えて対応がしていなかった。	落下を考え、遊具の下にマットなど衝撃を吸収できるものを配置しておく。	3.個人活動中・見守りあり	クラスの園児のほとんどがバルーンに参加をしたため、当該園児を少し離れた所から見守る形になってしまった。	保育士が分散して、園児を見守るように する。特に落下が考えられる遊具で遊ばせる場合には、必ず近くで見守る。	1.いつもどおりの様子であった	遊具の網登りが好きなので、その日も兄と一緒に登るのを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動会後だったため、年長児のバルーンにクラスの子ども達が自由に参加していた。ほとんどの園児が参加していたため、職員の注意がそちらに偏った形となり、当該園児の事を離れた位置から見ている状態になった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児のバルーンに子ども達と一緒に参加していた。	保育士が分散していなかった。遊具で遊ぶ園児がいた場合の危機管理意識が低かった。	園児は色々な場所で遊ぶので、保育士は分散して園児を見守る。遊具の側には必ず保育士がいるようにする。	
10235	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				16	10	19		3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	クラス担任のうち１人が、園舎２階に上がって、こいのぼりの飾りである紐を緩めに行く。その際の保育のフォローの声掛けを行わなかった。	事故対応マニュアル等の再確認、読み合わせ。保育を進める職員と、全体を見守る職員の役割を認識して、活動を進める。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		今回の事故については、ハード面の不備等はなかったが、引き続き安全点検等に努める。	1.集団活動中・見守りあり	初めてのこいのぼりを出した日でもあったため、片付ける準備など、いつもと違う子どもの様子を予測できたことであったが、職員配置など確認が不十分であった。	子どもたちに、こいのぼりが降りてくるまでどこに待機したら良いのか、明確に伝える。園庭の見守りの職員の位置などを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	人数確認をする際に、離れたところにいる。保育者に声をかけられて集まる。こいのぼりを片付けるが始まってすぐに友だちと違う場所に遊びに行ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	人数確認をする際に、該当児が少し離れた所にいたため声をかけ、集まったことを見届ける。こいのぼりをはずすことをクラス全体に声かけをし、降りてくるこいのぼりが、子どもたちにぶつからないように見守る。該当児が転倒して泣いていることに気が付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの子どもを見ていた。事故が起きた後は、５歳児クラスの子どもの様子を見守る。	母集団から当該児童が離れていったことは目で追っていたが、転倒した瞬間を保育者が見ておらず泣き声で に転んだことに気付いた。	保育を進める職員と、全体を見守る職員の役割を認識して、活動を進める。園庭に出ている他クラスの職員を含め園庭遊びの職員の配置を確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死亡	負傷							実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						
																						死因	負傷状況	受傷部位																																		
10236	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	106				37	35	34			8		8	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端骨折・左肘関節痛	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		ありません	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	ブランコに不具合はなく、雨あがりで座面が濡れていたということもない。	ありません	1.集団活動中・見守りあり	ブランコを待っていた子がいた訳でもなく、急いで降りようとした様子もない。本人がバランスを崩したことが落下の原因と思われる。	ありません	1.いつもどおりの様子であった	ブランコ遊びを終わりにしようと、立ちこぎから座ろうとした時。ふり幅は緩やかになった時だったが、座ることができず落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにはいたが、危険な行為ではなかったため、見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年少児が入室の時間で、年少児の担任がブランコ前にいた。立ちこぎから座り損ねた瞬間を見た。	いつもやっている動きではあるが、その日に限り、上手に座ることができなかった	今後は座る姿勢になるまで手を離さないよう気をつけて乗ることを本人と約束	
10237	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16		0		5	8	3	0		4		4	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面挫創	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	土曜保育の為、いつもと違うクラス、担任保育士ではない。	土曜保育の為、いつもと違うクラス、担任保育士ではないので、遊びだす前には、活動の約束事を再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	園庭の半面としているが、広々としていて瞬時に園児を止めることはできない。	遊びに夢中になると、大きいスコップを使用するときの空間認知が十分でないので、危険につながることも指導していく。	1.集団活動中・見守りあり	遊び始めの時間帯で、園児の気持ちが開放的になっていたのではないか。保育士も完全に環境を準備して遊びを開始したかどうか。	活動前に、玩具を用いて遊ぶ距離間を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	平日より砂場は広々としていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含めた砂場・周辺を把握しながら保育していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れた園児と関わっていた。	園児が危険意識を持って遊ぶような声掛けをして活動するべきであった。	園児が危険意識を持って遊ぶような声掛けをして活動する。	
10238	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	0	0	3	1	5	1	0	0	2		0	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	楔状骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	遊具の正しい使い方ができていなかった。	遊び方でのケガが原因になっているため、遊び方の統一など実施済 み。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		壊れたものを放置しない、すぐに処理をする。	7.その他		正しい遊び方・過ごし方を再度ミーティングにて確認済み。	1.いつもどおりの様子であった	ソフトブロックを使っての遊びを普段あまりしないため、楽しくなって勢いよく運動 をしてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	楽しく延長保育を過ごしてもらうようにしていたが、遊具の使い方という面で間 違った使い方をしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別クラスでの業務おこなっている。また、他の園児を別部屋にて保育をしてい た。		先生方への正しい遊具の使い方の徹底。危険予測をするようにさせる。	
10239	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									2		2	18.6歳	1.男児	偏食のため乳製品は摂取しない。足から地面までが30cm位だがうまく着地できなかった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘 骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.基準以上配置	母と一緒にいたため、安全面の徹底が図りづらかった。	いつ事故が起きるかわからないという意識で母がいても安全対策に配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	普段は、雲梯を使用する際は安全マットを設置するが、今回は、雲梯を使用する予定がなかったため、設置していなかった。	雲梯を使用する際は、必ず安全マットを設置する。また、今回のように保護者の監視下で予定外の時に、雲梯を使用した場合、すぐに止める。	1.集団活動中・見守りあり	順番にボニーに乗ったため、待ち時間が長くなり待てなかった。	年長児を２グループに分け、待ち時間を短くする。	1.いつもどおりの様子であった	母がいることで、母に依存していた。(母は役員だが、役割はなかった)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児は母といたが、視野には入れていた。ただし、母が子どもを離すことができないため、無理に離さず見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１クラスで動くと待ち時間が生じたため、クラスの半分を受け持った。	雲梯にいたことは分かっていたが、母といたため止めなかった。	集団生活やクラスの半分を受け持った。	集団生活や安全な園生活のルールが分かるように母親にも伝えていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10240	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	0	0	0	11	8	7	0	7	5	17.5歳	1.男児	天候は晴れ。園庭で、3・4・5歳児（全員で26名）は合同で保育を行っていた。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右瞼打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		避難用滑り台には触らないように繰り返し伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		非常事態時にはすぐに外せるように現在はタイヤを避難用滑り台のふちの上に置き、子どもが手をのせないようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	こどもが触ることのできる位置にあるが、これまでは非常時にすぐに使えるように、置い等はしていなかった。	非常事態時にはすぐに外せるように現在はタイヤを避難用滑り台のふちの上に置き、子どもが手をのせないようにしている。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであったが、この時だけ友達から離れて一人で避難用滑り台付近に行く。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守っていたが避難用滑り台のふちに手をのせている姿に危険を感じたので、止めようとした瞬間に自らの重みで頭が下がりを瞼をぶつける。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	手を指し伸ばせる距離ではなかったが、他職員も見ていた。	砂場の中に着地点がある避難用滑り台だが、非常事態に使うことを考えると、危険防止のために覆ったりすることは、していなかった。	避難用滑り台なので、上らないようには伝えていたが、手をのせないようにとは伝えていなかった。避難用滑り台には触らないように繰り返し伝えていく。	
10241	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	44				23	21			8	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		今回の事例は、当日全職員に報告し、チーフ会やヒヤリハット報告会で今後の改善点を話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		事前の下見も行い、固定遊具や遊ぶ場所を決めて遊んでいたが、食事後の過ごし方について、具体的に本児に知らせるようにする。	1.集団活動中・見守りあり		遊んでいる時は、固定遊具に職員がついて安全を見守っていたが、本児に対する配慮を職員全体で行っていくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遠足というこ事でテンションが高く、珍しさもあり集団から離れて、遊具に行こうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見ながらも、本児が普段から活発に動くので、注意をして見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児がターザンロープをしようといいるところを他の職員も見ていたが、担任に抱かれ、落ちた瞬間は見ていなかった。		本児の体格や力などを考え、危険なことを知らせたり、注意する時は、抱っこから下に降ろした状態で伝えていくようにする。	
10242	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	10								3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左中指挫滅創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	加配対象児ということもあり、包丁を握っている間は手を添え続ける必要があった。	今回の事故を含め、怪我が起こるたびに職員間で状態を確認し何ができたか、反省点は何かを振り返るようにしている。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	包丁は子ども用包丁であったが、刃は切れやすいものであった。	刃の種類をより安全なものに変更可能か検討する。	1.集団活動中・見守りあり	包丁を使う時は必ず保育士が目を離さず見守り、配慮の必要な子は手を添えながら危険のないように経験させていく。	包丁を使うクッキングには慣れていないので、包丁の危険性を十分に知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	クッキングは特別行事であるため、喜んで参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	傍に付き、気を付けて対応していたが、一瞬目を離した瞬間の出来事であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クッキングの切削の時で、少人数保育包丁3人ピーラー3人ペンチで待機4人	配慮の必要な児童であるため、安全確保の徹底が必要であった。	今回の事故を職員間で振り返り包丁を使用する危険性の意識を高め、再発防止に努めていく。	
10243	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20								3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	石橋骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	加配の保育士が遊びの様子を近くで見守っていたため、マット付近に走ってきた際に、気を付けるよう声をかけたり、もっと園庭の広い場所で遊ぶよう誘導する必要があった。	子どもたちの動きと遊びの場所を考え安全に遊べるよう職員間で話し合いをした。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	マット付近に走ってきた際に、気を付けるよう声をかけたり、もっと園庭の広い場所で遊ぶよう誘導する必要があった。	マットが敷いてある場所は段差がなくなるように補修をした。また、子どもたちの動きと遊びの場所を考え安全に遊べるよう職員間で話し合いをした。	3.個人活動中・見守りあり	遊びに夢中になると周りがよく見えなくなるので、園庭の広い場所で遊ぶように誘導した方がよかった。	活動の様子を見守りながら、周りが見えなくなっている時には、声をかけ事前に事故防止をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友達と追いかけっこを楽しんでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	すぐ近くで遊びの様子を見守っていたが、予想しなかった場所で転倒してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の子どもたちの様子を見守っていた。	遊びに夢中になると周りがよく見えなくなるので、活動の様子をよくみて、危険になりそうな事は事前に声をかけていく。	活動をしっかり見守りながら、気を付けた方が良いことを分かりやすく事前に知らせ、自分でも気をつけることができるようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時期			発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
10244	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				5	24			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		改善を必要としない。職員配置基準を満たし、事故防止マニュアルのもと事故予防研修を行っているため	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		改善を必要としない。施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に実施しているため	1.集団活動中・見守りあり		改善を必要としない。防犯教室が終わり所庭から保育室に戻る際、下駄箱前が混雑しないよう保育士が一人ひとりに声をかけ、誘導を行っていたため	1.いつもどおりの様子であった	普段通りに靴を脱いで保育室に入ろうとしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	テラスで靴を脱ぎ、保育室に入る子どもたちを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内に入った子どもたちの対応をしていた	友だちと会話をしながら手を使わず、足だけで靴を脱こうとしていたため、注意力が低下していた。	靴を脱ぐ際はマジックテープは手で外すことや、必要に応じて座って脱ぐようにするなど、児童が一つひとつの動作に集中できるよう、場面・状況に応じその都度保育士が声をかける。	
10245	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	24								4	4	14.2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	運動器具で遊ぶときの子どもの姿を予測した環境構成や保育士間での連携について具体的な話し合いが足りなかった。	会議や指導案作成時に運動遊びでの子どもの姿を予測し、環境構成や保育士間の連携について定期的に話し合いを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	緩衝材のマットを使ったことで足元が不安定だったため転倒した。また、緩衝材マットのため足元が不安定であったにも関わらず、転倒した時を想定していなかった。	うまくバランスの取れない子もいるため、緩衝材等足元の不安定になるような素材のマットは遊びに使わないようにする。マットを新たに購入して、少しでも危険と感じられるような場所にはマットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が4人にも関わらず、遊具を4か所に設置し、それぞれの遊具に保育士を配置したため、全体を見守る人がおらず、子ども同士のトラブルに対応できなかった。	担任保育士の人数から保育士が必要である職員の数を考え、全体を見守るフリーの保育士を作り、子ども同士のトラブル時には対応できるようにする。また、遊具だけのサーキット遊びだけでなく、子どもが走ったり、跳んだりなど全身を使った遊びを考える。	1.いつもどおりの様子であった	後ろから他児がくるのが嫌で（逃んでいる場所を譲りたくない）後ろの子に向かって、傍に来ないように大声で威嚇した。特に普段と違う様子はなく、普段からよくみられる行動だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	マットの中央あたりで、とんでいる児に声をかけるなどして遊んでいる児を見ていた。本児の大声で泣いている子どもたちをも見たところ、本児の後ろから来た他児（相手方）が、本児の「来ないで」の言葉に怒って押す姿があり、とっさに手を伸ばして本児を支えようとしたが、間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各々の場所で子どもたちを保育していたため、様子に気付いて見ていた職員も今いる場所を離れることは出来なかった。	子どもの普段の様子から、行動を予測することが出来ていなかった。現状の子どもの姿や育ちを把握して、見通しを持って保育をする必要があった。	会議等の時間を使って定期的に子どもの姿を話し合う機会を持つようにした。職員の配置換えを行い、2歳児クラスには正職を3名（4名中）配置した。	
10246	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26								1	1	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	左外傷性角膜上皮びらん・左眼瞼外傷性腫脹	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置		保育士は子どもの様子をよく見て安全に留意しながら見守ることを再確認した	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		危険を予測し、子どもが手に持って遊んでいる様子を把握し、対処する	1.集団活動中・見守りあり	ごみをきちんとごみ箱に捨てているかの確認不足だった。	物を見つけたり、子どもが捨て持ってきたものは、保育者が預り、こちらで捨てるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	周りをよく見ており、細かなところにもよく気が付く。自らどうしたらよいか考え、積極的に動いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が消毒を拭いているのを、部屋から見ていたが、部屋の様子を見る為、一瞬目を離した際に起きたしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスで、保育を行っていた為、保育者が近くにいなかった。		常に子どもの様子を見ているという意識の改善を再度、保育園内でおこなう	
10247	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12				3	4	5		2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		現在までの「ひやりハット」報告を見直し、事故に関する意識・対策を再確認する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	対象園児の動きに関する認識の不足	事故に関する全職員への周知。こういう事故も起こりうるという意識を持って子どもたちを見守る	1.集団活動中・見守りあり		たくさんの子どもたちで走って遊ぶときは、人数が多くなりすぎないようにする。走る以外の運動遊びの環境もつくる。	1.いつもどおりの様子であった	「てつなぎおに」をしていたわけではなく、転倒前に偶然近くの友だちと手をつなぎ、走っていて転倒	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちから少し離れた全体が見れる場所で様子を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちから少し離れた全体が見れる場所で様子を見ていた		降園時は保護者対応等があるので、そのことも想定し、無理のない人員配置を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因		負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10248	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	ヒアリハット事例を毎月会議で取り上げ、改善策実施後どのように変わったか報告している。	引き続き研修会報告は全体会議の時に全体に周知。また、ヒヤリハット報告があった事例に関しては、毎月の会議で、事故後の取り組みについてうまく機能しているか検討。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		なし（安全な設備環境を保つための点検は確実に実施されているため）	1.集団活動中・見守りあり	床は濡れていない。室内の広さと画板の枚数から、狭すぎるという事はなかったが、自由な場所で描いていたため一時的に密接する可能性はあった。	密接している場合は十分に距離を取り、移動スペースを確保する。	1.いつもどおりの様子であった	絵を描き終わり、担任に見せようと保育室内を移動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該園児がこちらにやってくるのを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	連携しながら他の園児と関わっていた。	当該園児は昨年度も転倒した時に手が出にくく顔をケガする事が多かった。また、先日も黒板で脚段から転落する事など、ケガがしにくい体作りが不足していると思いの実感がある中で起きた事故であった。保護者は現在も思われる必要な体作りに必要な経験を控える時期にあり、家庭での体作りが不足している可能性がある。	歯根破折後も転倒が続いており、遊びの際は必ずそばに職員がつく。怪我をしにくい体作りや育ちに必要な経験が家庭でもできるように、保護者と密に情報交換していき、意識と行動の変容を促す。	
10249	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11			2	3	6			1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	①上口唇割創 ②外傷性歯の脱臼 ③顔面打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		危機管理マニュアルを見直し、棚の自由活動について、巧技台（直線はしご、一本橋、U字はしご）は使わないことを明記した。また、こどもの自主性や創作を尊べる環境は大切にし、その中でけがが起きないよう、保育教諭は常に視野を広く持ちながら、子どもたちを見守ることを職員間で確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	3.個人活動中・見守りあり		朝や夕方など、巧技台の横に見守り職員がつけない人数体制時に、巧技台（直線はしご、一本橋、U字はしご）は使わない。	1.いつもどおりの様子であった	はじめは、はしごの両端に足を乗せ、歩いていたが、途中からはしごの中に足を乗せ、あるいて踏み外した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室にいた保育教諭は、全体を見ていた。当該園児が足を踏み外した瞬間は、見ていなかったが、「ドン」という音がした瞬間、園児に駆け寄り、けがの確認をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	口から血が出ていたため、ティッシュ等を使い、止血した。救急車を要請した。		全てのクラスを対象に、遊戯室で巧技台を設定する場合、巧技台の横には保育教諭がつき、転倒防止をする。	
10250	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	5				3	2			14	14	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折・右橈骨遠位端尺骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	事故に直接繋がる要因は見当たらなかった。	職員に事故防止マニュアルの再徹底をする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	遊具には事故に繋がってしまうような異常は見受けられなかった。	日常的に施設・遊具・玩具等の点検を続ける。	3.個人活動中・見守りあり	自由遊び時間中も園児がとりでも園庭に出る際は職員が必ず見守り・見回りを行っているが、当該遊具の付近には職員が居なかった。	職員の人数によっては外遊びをしない等の対策をとる。	1.いつもどおりの様子であった	本児が太鼓橋で雲梯遊びをしていた際に、ぶら下がった状態から手を放して飛び降りようとしたところ、自身の脚どうしが絡まって正しく着地できずバランスを崩し、右手を地面に強くついた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ひとりでも園庭に出る際は職員が必ず見守り・見回りを行っているが、当該遊具の付近には職員が居なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもを見守っていた。それ以外の職員は、室内で子どもを見守ったり、それぞれの持ち場で仕事をしていた。	自由遊び時間中も園児がひとりでも園庭に出る際は職員が必ず見守り・見回りを行っているが、当該遊具の付近には職員が居なかった。	職員の人数によっては外遊びをしない等の対策をとる。	
10251	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	23								5	5	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	右母趾挫傷・右足皮膚細菌感染症・右足皮膚潰傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	テーブルの設置場所と遊びスペースの区分けがなく活動していた	保育室内でのテーブルの配置の仕方に配慮し、危険がないように日常より点検を実施する	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日 1	1.定期的に実施	毎日	テーブルの設置場所と遊びスペースの区分けがなく活動していた	活動前や活動時に点検を実施し、記録しておく。テーブルの置き場所を室内の隅に置くなど配慮をする	1.集団活動中・見守りあり	子どもの発達機能とリスクの予測が十分に至らなかった	危険リスクを考えた上で、テーブル設置スペースなど環境に整備しながら、園児の活動を行う	1.いつもどおりの様子であった	普段と同じように友達と活動する	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は、本児やクラスの園児の活動を見守り、本児にも気を付けるような声掛けをしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの活動をしている園児の様子を見守る、活動の片付けをする	子どもの発達機能と安全についての共有	職員の配置と役割を確認し周知しておく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10252	令和6年3月21日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	4	5	3						4	3	15.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1回/年)	1.基準以上配置	2歳児クラスの児童の激しい動きを、どこまで許容するかということについて職員同士の話し合いが不足していた。	上記の内容のすり合わせを行い、共通認識のもと保育者全員で児童と関わっていく必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	今回の事故はハード面に要因はないと考える	遊具の正しい使い方を伝えていく。	1.集団活動中・見守りあり	トイレ排泄介助に保育者が1名付き添い、人的に薄くなったタイミングで事故が起きた。	職員の出入りがある時、声掛けや人員配置の再確認	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	同年齢の他児と積極的に遊んでいた。普段はその活動を見ていることの方が多かった対象児童であったが、事故当日は積極的に活動していた。気持ちが高ぶり、はしゃいでいる様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	その様子を至近距離で見ていた。泣いている0歳児が複数名いて、職員は座位で両ひざに児童を抱えていた。対象児童には危ないことを知らせる声掛けをし見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	危ないことを知らせる声掛けを聞きながら、少し離れたところで遊んでいた複数名を見守っていた。	普段と違う遊ぶ方をしていて危ないと感じていながら、本児に直接働きかけをしなかったことが要因ではないかと分析する。	保育者全員で状況の判断をしっかり行い、状況を把握できていないと思われる職員がいた場合、速やかに情報の共有を行うようにする。	
10253	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11									3	3	14.2歳	2.女児	特になし	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	特になし	再発防止のため日頃から事故・ヒヤリハットの振り返りを行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	特になし	日常生活の中で、環境等で危険と感じることがあれば周知し、検討していく。必要に応じて速やかに対応する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	日頃から保育や環境等を通して危険と感じることがあれば周知し、検討していく。必要に応じて速やかに対応する	1.いつもどおりの様子であった	本児は園庭で遊んでいた時、ちょうどテラスの所に立っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の子どもたちも一緒に近くで遊んでいたため、4歳児担任は近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3歳児の職員が、衝突した3歳児と一緒に近くでいた	対象となる3歳児は支援の必要な子どもであり、保育者がM1対1で対応していた。子どもの行動は予測しながら対応するが、発現の動きには対応できないこともある。今回の場合は、2歳児が開閉に出てきた時に子の動きと揃やかさに心が落ち着かず正だは。、その想い切ちょっと目の前にいた本児を押し倒して進んでいったのではないか	支援の必要な子どもをその場から遠ざけたり、かかわりを持たないようにするなど、排除するのではなく少し落ちも着いた場所と力静かな空間を用意する。ぶつかって倒れた瞬間、3歳児も驚き「大丈夫」と心配する声も聞かれたので、相手の事も伝えていく	
10254	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		3.火傷	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	火傷 頭部～耳・右肩（一部Ⅰ度）・右膝下Ⅱ度の熱傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	応急手当について研修を行っていなかった。事故予防に関する研修を行っていなかった	救急ミニガイドブック配布、救命と応急手当を受講、月1回園内研修を行う、日常保育の見直し及び保育マニュアルの改定・事故予防に関する研修を行う	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎週月曜日	1.定期的に実施	毎日	ロッカー上には常に多くの物がおいてある為、湯沸かしケトルが常時保管されていることに気づかず、保育室内での取り扱いについて指導していなかった。	保育環境（保育室内・園庭・グラウンド）の見直し、整理整頓を行った。ロッカー上部に電源コードが通るようパでをかけた。コード類はまとめて、引っ掛かり・たわみが無いよう養生テープで止める。ロッカー上部に、落下するとケガをする危険性のあるものを置かない	1.集団活動中・見守りあり	ロッカー前の狭い範囲で、お道具箱の整理を行う子ども、給食の準備を行う子どもで混雑していた。湯を沸かした後、すぐにケトルを片づけずに、放置をしていた	お道具箱の整理（活動）は、ロッカー前ではなく机で行う。危険性があるものを保育室で使用しない。やむを得ず使用する場合は園児に注意喚起し、職員が必ずつき子どもが危険性のあるもののそばに近づかないようにするとともに、使用後すぐに片付ける。	1.いつもどおりの様子であった	ロッカー前で、床に座りお道具箱の整理を行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス全体の様子を見つつ、配膳準備を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	提供する餅の状態を確認していた為、対象児の動きは見ていなかった。	ロッカーの上で湯を沸かすことに対しての危険予知ができていなかった。保育終了後（園児降園後）に職員が使用するケトルが日常的に保育室内ロッカーの上に置かれていた。その為、事件発生前に保育室内ロッカーの上で湯を沸かす行為に職員が違和感を感じることができなかった	保育室内での湯沸かしケトルの使用は厳禁。保育に必要のないものは、保育室内に置かない	
10255	令和6年3月21日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									2	2	14.2歳	2.女児	全治3ヶ月	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	2.基準配置	適正配置	職員配置には問題なかった	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	遊具の配置	マット3枚（滑り台用）、マット3枚（跳び箱用）、跳び箱3段、ぬいぐるみ6体をだしていたが、破損もなく問題なかった。	1.集団活動中・見守りあり	環境設定	保育者が滑り台に1名、跳び箱に1名配置しており、全体を見渡せる方向を向いて保育していたため、発生時の保育者の位置は問題なかった。	1.いつもどおりの様子であった	他児が追いかけっこをしている姿をステージに座り見ていた。興味を示し混ざろうと歩いた時に転倒する	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転倒する様子はみていたが、ケガの状況にすぐに気付けなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体をみながら保育者間で声を掛け合っていた。	転倒状況はみていたが、ケガの発見が遅れた。	視診と触診を徹底し、その後は当該児のしぐさや様子の観察をする。さらに、衣服を脱がすなどして直接みて確認する。保育者間の情報共有を徹底する。異変に気付いたらすぐに周りに知らせるようにする。一人で判断せず、相談し指示を仰ぐ。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10256	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	17.5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	特になし	降園後、園庭に残らず帰るように担任は子どもたちに繰り返し伝えていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	特になし	ケガ発生場所には危険なものやケガの要因になるものはなかった。	7.その他	手作りの信号機と三輪車を園庭に出したままだったため、倉庫に片付ける必要があった。	降園後は園庭に残らず、すみやかに帰るようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保護者の下、安心から気分が高まっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児以外の保護者対応を保育室で行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保護者対応を行っていた。	降園時にも、園庭に目を向け、帰宅していただくよう声をかけていくようにする。	三輪車の使い方を子ども再確認する必要がある。	
10257	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	何度も繰り返し遊んでいた内容であったため、遊びに対して過信があり、事故が起きる予測ができなかった。	遊び慣れた内容であったとしても何が起きるか分からないことを意識し、取り組むようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	特になし	遊戯室には危険なものやケガの要因になるものはなかった。	1.集団活動中・見守りあり	隣り同士の距離が近かったため、距離を空ける必要があった。	１人１人が間隔を空けて座るようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夕涼み会という行事で、普段より興奮状態であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにいたが、ケームの結果発表の場面であったため、他児とうれしい気持ちを共感していて、対象児や隣の子の気持ちの変化に気付けなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児と離れていたため、ケガの瞬間は見ていなかった。	体操・集団遊びで集まる時や部屋から移動する時に並ぶ時は保育者の隣で一緒に行動するようにし、安全を確保する。	体操、集団遊びで集まる時や部屋からの移動時に並ぶ時は、保育者の隣で一緒に行動するようにし、安全を確保する。	
10258	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29					#	#			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端骨折、右手関節痛	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		声をかけ合い、保育が手薄にならないようカバーする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	うんていの高さが子どもの身長に対して高かった。	使用していた落下防止マットよりももっと大きいマットを使用する。	1.集団活動中・見守りあり		うんていをやる際には保育教諭がつけるように、園児と約束し、職員も注視する。	1.いつもどおりの様子であった	毎日うんていを練習中で、自分でマットを準備してやる気があった	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	最初は支えていたが、本児がもう少しでひとりでできそうだったためすぐ手が届くところで見ていた。落下した瞬間支えようとしたが、掴めなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝運動中で園庭に散らばって保育をしていた。	もっと早く病院へ行く判断をすべきだった。	遊具についた職員は、すぐに手助けができるように目を離さない。園児だけで遊具で遊ぶことの無いようにする。病院受診について的確な判断をする。	
10259	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	27									2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	aa歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1	2.基準配置		想定外の行動だった。今回の原因・行動について職員間で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			机・椅子等には、問題点なし	1.集団活動中・見守りあり	国の基準である１対３０では、一人ひとりの危険行動の防止は困難	国の基準を見直してほしい	1.いつもどおりの様子であった	椅子に座り、膝を立て、両ひざをTシャツの中に入れようとした際に転落	4.対象児の動きを見ていなかった	テーブル毎にベンダントを渡すため、全員椅子に座らせている状態で、１つめのグループを呼び、ベンダントを手渡していた。（保育室の前方）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ベンダントを渡す保育教諭の反対側（保育室の後方）で手渡していた。	椅子に座って順番を待っている時間なので、危険性は少ないと油断していた。	担当保育教諭は、座ってベンダントを園児へ手渡していたので、立って全体を見渡せる状態で手渡すべきだった。	
10260	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									2	2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	不完全脱臼・右上顎前歯部歯肉裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		事故内容を職員間で共有し、対策について再確認し、共通理解していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	１歳児クラスが工事のため、２階の部屋で過ごしていた。その部屋での絵本を読む場所や遊具のルール(絨毯の上に六角の椅子を置かない等）などをしっかりと考慮し、徹底することが出来ていなかった。	クラスでルール等を共通理解し、徹底していく。	3.個人活動中・見守りあり	普段は絵本を読んでいる場所にクッションや箱積み木で座る場所を作っていたが、その日は準備していなかったため、他児が椅子を持ってきている姿を見て本児も椅子を持ってくる。また、絵本を読んでいる場所の近くにコットを敷いていた。	絵本を読む場所を十分に広さがある場所に変更し、箱積み木やジャンボクッション等で座る場所を前もって準備する。また、コットをその時間にその場所に敷くことをやめ、転倒などを予測した上で危険のないような環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	体調に変わりはなく普段通りに登園し生活していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	もう１名の保育教諭が、子どもと絵本を見ていたので、その間に午睡用のコットを敷いていた。数きながらも子どもの様子を見ていたつもりだったが、コットを敷きながらだったので、しっかりと全体を見ることが出来ていなかった。また食事の時間がいつもより遅くなっていたため、気持ちに焦りが出てしまい、コットを敷くなどの準備に心残になってしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもに対して絵本を読んでいたため、全体的な子どもの様子を見ることはできなかった。		日課や保育教諭の動きを見直しながら、時間にそって動けるようにしていき、時間などに遅れが見られてもあせらずに、まずは子どもの様子をしっかりと見守っていく。１人が絵本を見ている時にはもう一人は全体を見るようにし、子どもの様子に合わせて対応できるようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10261	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				5	#	5			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故発生の可能性に対する意識と配慮が足りなかった	職員間の連携を図り、子どもの行動を予測し、遊び方次第で大きな事故に繋がるということを意識して保育に当たる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	プレイルームのすぐ側にトイレや手洗い場など生活スペースがあり、遊びの際に不必要なものが置かれている	活動する場合は不必要なものを寄せ、プレールームの広さを確保する。ぶつかる危険がないところに安全ガードをつける	1.集団活動中・見守りあり	遊びに夢中になり、周りが見えなかったことと、対象児が自分の身も守れなかった	遊びのルールを再確認することと、職員同士の声掛け、配置等を再度検討する	1.いつもどおりの様子であった	手を打ち付けたことや、痛みを訴えることなく、その後もドッチボールや制作を行い、食事も右手で食べていた	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもの遊びを見ていたが、登園してきた保護者から呼び止められ、保護者対応中だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児の受け入れをしており、遊びの場面をみていなかった	対象児の動きから事故に繋がることをを予測できなかった	早番の職員が保護者対応の場合は、事務室職員と6言葉を掛け合い、見守り、安全面に留意しています。	
10262	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	遊具の使い方について職員間で確認を行っていたが、園児への安全指導が徹底されていなかった。	園児への安全指導が、どの職員でも共通して行えるよう、遊具の使いマニュアルを見直し、再作成した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	２階園庭のコルクチップのクッション性について	２階園庭のコルクチップのクッション性に関して、設置業者に確認し、安全性を確認した。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びの活動範囲が遊具側と縄跳び側に分かれていたため、それぞれの場所で見守りが十分ではなかった。	年齢に応じて園児数と保育教諭の数により、見守りができる範囲に遊びの場所を限定する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊具に簡単に登れるため、油断をして、手を離した際、バランスが崩れた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びの範囲が遊具と縄跳びに分かれていたため、縄跳びをしている子の対応中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くに職員はいなかった。	５歳児は動きも活発になり、できることも増えてきた中、油断をして注意が散漫になることがある。	遊具で遊ぶときは、必ず保育教諭が１人近くにつくようにし、安全な遊び方を指導し、見守る。	
10263	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	99				#	#	#			7	6	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	ヒヤリハット事例が職員間で共有されていない。研修参加後の報告が全職員に周知されていない。	ヒヤリハット（一か月後の見直し）継続。研修後の職員全員周知方法の見直し。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	雨の後で、トンネル横の築山が濡れ、滑りやすくなっていた。	トンネルなどの硬い遊具の周囲を走っている園児がいるときは、いつも以上に注意する。	1.集団活動中・見守りあり	築山南側は園舎から死角になっており、そこに保育者1人は居るようにしているが、転んだ瞬間を確認できていない。	雨上がりの滑る危険のある場所を皆で共通理解して、注意する。また保育者間で、ほかの園児トラブルで動く際など声掛けしていく。魅力ある園庭を目指しているが、安全を保障できる園庭として築山の高さ等検討必要。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に園庭内をぐるぐる走りまわっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	築山側に保育者が１名いたが、本児の転んだところを確認できていなかった。滑りやすいところのポイントを確認しながら、園児のトラブルの対応をするときは、周りの職員に声をかけサポートしてもらう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が走っているのを確認しているが、転んだところは確認できておらず、その後も痛そうにしている様子は見られなかった。	園庭の築山・泥団子・登り木・池等魅力ある園庭を目指しているが、園児の安全を保障する職員の数が見合っているのか検討する。	保育者が築山側に必ず１名はつくことを徹底する。また今後も園庭の見直し、保育者の立ち位置検討継続する。	
10264	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				#	4				3	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	乳中切歯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	基準以上の職員で保育を行っており、職員配置上の問題はなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ハード面で破損等の危険な箇所はなかった。階段も縦上が9cmと特別高いものではないが、園児が躓くことがあることを意識しておく必要があった。	ハード面での修繕等が必要な箇所はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	自由に階段の上下りができる環境であった。	部屋の出入りについて事前に約束事を決めておく。	1.いつもどおりの様子であった	登園時より普段通りの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児のそばにいたものの、別方向の園児を見ていたため対象児の動きを正確に把握することはできていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	概ね部屋全体を見守ることができる位置で園児を見守っていた。	園児全員を見守ることができる状況であったが、転倒が予想される階段付近にすぐに手を差し伸べられる保育者がいなかった。また、危険を予測できていなかった。	段差や階段では、園児の転倒リスクが高いことを改めて職員全体で確認し、活動時はすぐに手を差し伸べられるよう立ち位置に留意する。	
10265	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	145				#	#	#			9	9	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	滑り台から飛び降りようとして、落下してしまう	高い所からのジャンプなど危険な遊びをしないようにする。職員の外遊びの立ち位置の見直しを行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	保育のある日は毎日	1.定期的に実施	12	総合遊具や、屋内外階段での落下	保育者の観察、指導、見守りの立ち位置などの確認をした。	1.集団活動中・見守りあり		遊具の遊び方、約束を子どもたちと一緒に確認した。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの友達と活発に滑り台を楽しんでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の至近にいて見守っていたが、他児の動きを見ていた時、滑り台を挟んで保育者の反対側へ飛び降り落下してしまう	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落下した際、気づいて、近くにいた保育者たちみんなで救護する		職員の外遊びの立ち位置の見直しを行った。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10266	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61				#	#				4	3	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右第Ⅱ肋骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	川の付近にいた保育教諭が片付けのため子ども達に声を掛けていて目を離した。	目を離すとき時には他の職員に声を掛け見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	川の付近には、石がある為安全に気を付ける。	滑らないように川の石のぬめりをとる。1週間に1度定期的に掃除整備を行う。	2.集団活動中・子ども達のみ	近くで見守る保育教諭が片づけ時に離れてしまったため。	目を離すとき時には他の職員に声を掛け見守る。	1.いつもどおりの様子であった	片づけ時に、川を跨いで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	片づける時に子ども達への声掛けのため場所を離れる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	川以外の危険性が予測される位置についている。	子ども達に水や石に危険性があることも伝える。	場所を離れる際は、別の職員に声掛けし、安全が確認出来るまで離れないようにする。	
10267	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39			6	9	8	#			5	5	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指末節骨骨折(●月●日診断)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	研修で行ったシミュレーションが実践に繋がっていない。場所を分けたシミュレーション研修を行っていたが遊具や物を使った怪我の想定が出来ていなかった。	遊具・物を使った怪我を想定した研修を取り入れていく。	2.不定期に実施	6	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	棚では、ない場所に子どもが片付けていた。怪我に繋がらないような環境設定（片付け場所）が整えられていなかった。	棚ではないところに置かず棚にしまうことや箱を用意して箱の中に入れるなど片付け方の徹底をする。園庭の環境設定をもう一度見直していく。子どもが片づけやすいように箱などを設置し、丸太などの置きうち倒れない置き方にする。	1.集団活動中・見守りあり	片付けをしていた本児と遊びたい欲求が強かった他児が同じ環境にいて職員の目が届いていなかった。保育者間で園庭での危機管理が足りていなかった。他職員の園庭での立ち位置を互いに把握して動くことが出来ていなかった。	遊び方の危険性を子ども、保育者が理解しておく必要がある。死角になりやすい場所の把握。片づけの方法を子どもにも伝えていく。考えられる怪我・事故の予測を立てる。見通しがわるい場所を死角とならない立ち位置の確認をし連携をとって保育にあたる。	1.いつもどおりの様子であった	段どおり他児と一緒に砂場等で遊び、その後木片などの片付け行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応をしていた為、事故発生時の瞬間は見ていなかった。本児がけがをした場所は、職員がいた場所から背中側の死角になっていたため、視界に入れることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園する児童もおり保護者に受け渡しをする職員、子どもたちを集めて室内に移動をする準備をする職員2名、配慮が必要な児童についている職員とそれぞれ対応をしていたが、主となる職員が全体を俯瞰できていなかった。	物を落とす等怪我に繋がる行動をしている児童に対して注意を向けることが出来ていなかった。	俯瞰し指示する職員と、子ども達に関わりながら対応する職員など、チームで活動することができるように、視野を広くする。怪我への予測を し危機感を持ち対策できるように行動する。研修内容を自分事としておとしこみ怪我に繋がらないように実践する。職員一人一人の保育の引き出し、視野を広げてとっさに危険察知ができるようにしていく。	
10268	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				#	4	4			4	4	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	職員をバランスよく配置し子どもたちの様子を見ていたが、タイヤにつまづいて転倒することへの予測が足りなかったと考える	職員会議で職員の言葉がけ、子どもたちの活動に対する危険予測など話し合う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	数回	雨などで園庭の土が流れて窪んでいる箇所があれば、つまづきやすくなり、転倒する可能性が大きくなる。	定期的に土をならすなど環境を整える	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	特記事項なし	1.いつもどおりの様子であった	特記事項なし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	特記事項なし	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特記事項なし	普段どおり遊んでいても、興奮状態では遊具等が障害物となることがある。	鬼ごっこではとっさに避けられないこともあるかもしれないので、障害物のある所ではスピードを落とす等の言葉がけで注意喚起をおこなう	
10269	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	27									3	3	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	なし	今後も事故防止研修を継続し職員間で共有	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今後も安全点検の実施を継続	1.集団活動中・見守りあり	なし	園児の列の間隔の調整、道路状況の安全確認の徹底	1.いつもどおりの様子であった	落ち着いて集団行動、園外保育で安全に気をつけて歩行ができる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の3列後方について近くの子供の動きを見ながら引率していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の歩行の状況を確認していた	なし	歩行時の園児の動きの把握の向上	
10270	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35				#	#	#			3	3	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨骨折。左環指爪損傷。	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		死角がなくなるように職員配置する	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	ほぼ毎日		園庭の整備（大きな石は撤去する等）	1.集団活動中・見守りあり		子ども同士で遊んでいる場合でも必要に応じて声掛け等していく	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友達と一緒に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	３名の保育教諭が、園庭を見渡せる位置で全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった		死角がなくなるように職員配置する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10271	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61				27	34				5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手第4指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		事故が起きた場合、どこでどのような事が起きたのかを情報共有していく。マニュアルは定期的に見直していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		月1回のチェック以外にも、特にケガが起きた場合にはその都度確認し改善していく。そしてそのことを情報共有していく。（打ち合わせの時や、月１回の研究会の時など）	1.集団活動中・見守りあり		職員の配置は、くるくる回る遊具やロープを渡る遊具には必ず職員がつくようにし、他は子どもの遊ぶ状況によりその都度考え、職員間で連携していく。危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段はそんなことはないが、たまたま指が挟まってしまった状況。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	視界には見えているが、離れたところで遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもたちを見守っていたため。		職員の配置は、子どもの遊ぶ状況によりその都度考え、職員間で連携していく。危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	
10272	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	26									5	5	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右趾第5趾MS関節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		事故が起きた場合、どこでどのような事が起きたのかを情報共有していく。マニュアルは定期的に見直していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		月1回のチェック以外にも、特にケガが起きた場合にはその都度確認し改善していく。そしてそのことを情報共有していく。	1.集団活動中・見守りあり		職員の配置は、支援が必要な子どもたちや、子どもの遊ぶ状況によりその都度考え、職員間で連携していく。危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりではあるが、支援が必要な子どもなので、多動的なところがあったりする。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援が必要な子どもであるので、マンツーとまではいかなくても、すぐそばに付き添いは意識していたが、走ってきた子どもが不意によろけてしまったので、防ぎきれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもたちを見守っていたため。		職員の配置は、子どもの発達状況や遊ぶ状況によりその都度考え、職員間で連携していく。危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	
10273	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	20									5	5	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		事故が起きた場合、どこでどのような事が起きたのかを情報共有していく。マニュアルは定期的に見直していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	床で足を滑らすが、特に滑りやすいという状態ではなかった。（起きたばかりで、足がもつれる？体がふらついた？）	布団はすぐに片付けるようにしたり、マットや子どもが使用する物は硬質の素材から軟質の素材に変更し、教員や玩具も安全に遊べるような凹凸がゆるやかな物ややわらかい素材の物等変更できるものは変更した。	7.その他		しっかりと目覚めてから移動させるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	体格のよい子どもであるため、転んだ際の負荷がよりかかったと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	不意に転んだため、防ぎようがなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	午睡後であるため、皆部屋にいる状態だった。		職員がそれぞれ役割分担して関わるようにし、連携していく。危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	
10274	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨顆部裂離骨折・右前腓靭帯損傷の疑い	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	担任が一人不在でありいつもより目が届かなくなるため、遊ばせ方や怪我が起きた時の体制の整備が不十分だった。	怪我（怪我ではなくても痛いと訴えて来た時）が起きた時は、看護師に必ず状況を伝え体を確認してもらい、医者に行くのか様子を見るなどの判断を看護師や職員の保育士、園長と相談し、園長が判断する。ということを全職員に知らせる。（一人で判断しない）少しでもん配な場合は受診する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	園庭の地面が乾燥していて、砂利によって滑りやすくなっていた。	地面が乾燥し、走ると滑って転びやすくなっている時は使用する前に水をまく。	1.集団活動中・見守りあり	園庭での自由遊びで担任一人で見届けられる人数は決まっているので、遊ぶ範囲を指定して遊んでいたが、ドッチボールの審判と固定遊具での遊びを見守ることを兼ねるのは難しかったのかもしれない。	園庭の自由遊びは、複数体制で行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボールの審判をしていたので近くにはいたが、他の見守りもあったので、ずっと対象児を見ていたわけではない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外には担任一名以外、いなかった。	ドッチボールの最中に痛がった時一見何もなってなかったが、他にも近くに職員がいれば相談したり、一人が持ち場を離れて室内にいる看護師に様子を見てもらうなどの対応が、やすかったのかと考える。	戸外に出て自由遊びをする時は複数体制で行い、園児が体の不調を訴えてきたときは、必ず看護師に診てもらい、安静にする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10275	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	28									4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	5.下肢(足・足指)	左上Aの歯の外傷、歯肉裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	各園外先に関するマニュアルがなかった	職員会議で園外保育での注意点について検討し、事故防止マニュアルに追加した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	1.集団活動中・見守りあり	日頃遊び慣れていない遊具の使用前の安全確認不足。	園外保育など、普段と異なる場所で遊ぶ時には、遊具等周辺環境の安全確認をすることを職員会議で周知した。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒にまねごと、砂や葉っぱ遊びをしようとした	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体での動きを把握しながら適所に配置をしていたが、本児の近くではなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体での動きを把握しながら適所に配置をしていたが、本児の近くではなかった	全体での動きを把握しながら適所に配置をしていたが、本児がバランスを崩した際に間に合わなかった。	普段と異なる状況下における子どもの感情や動きに注意し見守ることを職員間で確認した。	
10276	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				13	9	17	0		21	7	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	特になし	園内でヒヤリハット事例について報告、検証し、職員間で改善策を考え周知している。今後、事故予防等の研修も行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日消毒作業時に安全点検も実施している	園庭の状態も戸外活動に支障なく、障害物等もなかった。	引き続き、定期的な園庭の整備を実施していく。	3.個人活動中・見守りあり		進級間もない時期の活動内容として無理なく個々の状況に応じて選択できるような環境設定であった。	1.いつもどおりの様子であった	翌月に運動会を控えており、周りの状況や友達の姿に刺激を受け、走ったり競ったりしたくなっていた様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	自分から走りたくなっている姿や友達と一緒に楽しんでいる姿を認め励ましたり、周りに注意を向けるよう声をかけたりし見守る援助を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と同様に見守っていた。		興味、関心が広がり活動への意欲も増してくる年齢であることを踏まえ、担任間で活動の場を整えながら園児の動きや危険な行為について予見し共有していく。	
10277	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	69	#			#	#	#			11	9	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	地域の方も来園している行事の日時であったため、職員の配置は十分でも、園庭に出ている人数が全体的に多く、死角や手薄になりやすかった。	行事の日は園庭に出る人数を想定し、死角が増えないようクラスごとの動きを事前に話し、安全に見れる密度や職員の配置の連携を取るようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	特になし	引き続き、これまで通り安全点検を実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	行事前で他学年、地域の方（親子１３組）も来園し園庭に出ている人数が多かった。また、園庭工事中で通常より園庭が狭かった。	他学年と地域が来園、また園庭工事が重なり密が予測される時は、園庭に出ているイミングの工夫、遊具の選定をし安全に使用できる工夫が必要だった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒が得意な他児に刺激を受け、鉄棒に足を掛ける技に挑戦しようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	３つ鉄棒があるうちの、一番端と端に本児と職員がいたため、落ちる瞬間は視野に入っていたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児に対応していたため、視野に入っていなかった。	子どもの能力を把握する等が不十分で、不慣れな子への配慮が足りなかった。走るスペースが狭かったため多くの遊具を開放し遊べるようにしたが、補助が必要な子のそばにつくことができていなかった。	不慣れな子が遊具に挑戦している際は、職員間で声を掛け合い、補助できるようにしていく。子どもが習得し始めた頃が怪我が起こりやすいことを再確認し、ヒヤリハットを共有したり、遊具の選定や職員配置の仕方を子どもの状況に合わせて考えていく。	
10278	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	43									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	本児がまだのぼり棒の遊び方に慣れていなかったため、より至近距離ですぐに手が出せる状態で見守ることが望ましかったと思われる。	一人一人の園児の遊具の遊び方を十分把握し、職員が見守る時の位置や園児との距離感を考えるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友達が登り棒をしている様子に刺激を受け、自分も挑戦しようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の様子をすぐ側で見ていたが、落下の際にすぐには手が出せなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員がすぐ側で本児の様子を見ていたため、他の園児の様子を見ていた。	本児が腕の力だけで登ろうとして落下したと思われる。落下しくい登り方（腕だけでなく足にでしっかり棒をつかむようにする）の指導が必要であったと考えられる。	一人一人の園児の遊具の遊び方を十分把握し、安全な遊び方の指導を徹底していく。	
10279	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	10									3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	乳児は思わぬ行動をとるため、常に注意が必要	玩具の安全な遊び方、玩具で起こりうる事故について、改めて確認し、職員全員で気を付けていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		特になし	3.個人活動中・見守りあり	本来の遊び方ではない遊び方によって起きた事故	安全な遊び方について、気を付けてみる。危険だと思われた場合は直ちに別の遊び方に切り替える	1.いつもどおりの様子であった	ソフトフォーミングに覆いかぶさるようして遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ近くで一緒に遊べていたが、指をソフト積み木の下に入れ込んで自分の体重で怪我をするとは思わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びに一人職員がついていたため、他児の遊びに関わっていた	園児がソフトフォーミングに覆いかぶさっていたため、指先の部分が死角になっていた。	できるだけ園児の全身状態が分かるような立ち位置の工夫をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	診断名	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10280	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	69				#	#	#			15	7	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第2、第3中足骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特記事項なし	危機管理マニュアルを見直し、職員全員に再度周知する。	1.定期的に実施	230	1.定期的に実施	230	1.定期的に実施	230	特記事項なし	園外であったことで、職員の遊びや行動を見て行く意識を高められるよう、さらに危機管理意識をしっかりともっておく。	1.集団活動中・見守りあり	初めての場所で気持ちも高揚し、普段しないような行動をしたことにより身のこなしが十分できなかったと思われる。	遊具の難易度と年齢の発達状況を考えながら、職員の配置や声掛けに気を付けるように、職員全員で丁寧に検討していく。	1.いつもどおりの様子であった	園外保育で気分も高揚しており、自分でしようとする姿が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐに駆け付けられる距離にはいたが、飛び降りた着地の瞬間は見ておらず、泣き声に気づき駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集合の時間で、集まってくる子どもたちやまだ遊具の辺りにいる子どもたちに声を掛けに回っていた。	普段はあまり外遊びを好んですることはないが、初めての公園ということもあり、気持ちが高揚し、普段しないようなこともしてみようとし、身のこなしが十分できなかったと思われる。	その日の子どもの状態をしっかりと把握したかみわりや職員同士の連携の取り方の改善をしていく。	
10281	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									3	2	17.5歳	1.男児	漏斗胸の診断有り。健康診断で校医に姿勢が悪いと指摘を受け、普段の姿勢について意識して声掛けをするように指導があった。走る姿勢は前かがみになるため、態勢が不安定になる。また、体を動かすと疲れやすい。	2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部裂創、頭部外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	出窓の開閉やテラスの使用について、共通理解が図れていなかった。	同じテラスを共有している学級の職員と情報を共有し、園児たちがテラスを使用する場合は出窓をめず閉めるようにする。テラスを使用する際には、職員が出窓の確認を先に行ってから、園児たちが使用するようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	室内のテラス側には、縦軸回転窓（幅約60㎝）が床から約１mの高さに３か所と出入口の掃き出し窓が１箇所ある。縦軸回転窓の間に壁もあり、死角ができる。	普段から、日中は縦軸回転窓を開けないように徹底し、ブラインドを開けた状態にしておく。換気をする場合は掃き出し窓上部の窓を開けるようにする。また、出入口の隙間を開けておく場合は、職員の見守りする位置も意識していく。	3.個人活動中・見守りあり	本児のクラスは保育室に入っていたが、事故直前、隣組の園児と保育者が鯉のぼりを見に出てきていた。	テラスには危険な場所があるので、園児だけで出入りしないよう指導するとともに、共有している隣組とテラスの使い方について再確認したり、園児たちと一緒にきまりごとを話し合って、園児自身にも安全に対する意識をもたせていく。	1.いつもどおりの様子であった	テラスで声がするので何をしているのか気になり、開いていた掃き出し窓から出て行った。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内で園児たちの様子を見ながら、加配保育者と園児の支援などについて話し合っていて、本児がテラスに出て行ったことに気付けなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配保育者は、他児を目で追いながら、園児の支援について担任と話し合っていて、対象児は見ていなかった。補助員は、室内の隅で女児数人と過ごしていて、気付かなかった。	縦軸回転窓は、開閉しないことになっていたが、隣組の一箇所だけ全開（90度）になっていた。掃き出し窓を換気のため少し開けていたが、園児たちに対しては説明不足（出て行かないこと等）。	園児の方は見ていたが、意識が向いていなかった。テラスから室内に誘って戻ってきたとき、テラスに誰も残っていないことを確認し、窓を閉める か、開けておく場合は園児たちに声を掛けたり、窓際に保育者が行き、園児の目線で話をしたり、日頃から保育者間で話し合っておく。	
10282	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12			4		4	4			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	職員同士で、立ち位置等声を掛け合う連携がとれていなかった。	非常勤を含め全職員で、上記マニュアルの徹底を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	築山には、縄跳びを持って行ってはいけないルールが守れていなかった。	園庭でのルールの徹底と子ども達への指導。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、築山の階段を降りようとしていた所、縄跳びにひっかかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにいた職員が、他児とやりとりをしていた時に、担当職員の背中後方から落ちる音が流た。すぐに振り向き確認すると、本児が階段から落ちていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場で座って、乳児を見守っていた。背後で落ちる音がして振り向いた。	職員が、縄跳びを築山に持っていっていた姿への注意不足。職員間での園庭でのルールの徹底がされていなかった。	もう一度、園庭ルールの確認を職員間で話し合う。築山には、運動用具を持って行かないという確認。園児全体への指導。	
10283	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	31									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折（全治2ケ月）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	現状維持	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	現状維持	1.集団活動中・見守りあり	特になし	現状維持	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に活動に参加していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子供と一緒に活動していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	単独クラスでの活動中	特になし	現状維持	
10284	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	1	1	3						2	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指末節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	園児の月齢や人数に応じ、安全に遊べるよう設定する玩具の内容や量をよく吟味する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	特になし	引き続き毎日の遊具・玩具点検を実施し、その際それぞれを使用する際の想定される危険内容などを考え、職員間でその事柄を共有する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	高さのある玩具は、必ず保育教諭が支え持つようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り機嫌よく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ傍らで遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れた所から、全体の園児の遊びを見守っていた。	特になし	園児の動きをよく見て、危険要素が少しでも考えられる場合は保育教諭が必ず補助していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10285	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	95	4	#	#	#	#			24		21	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾末節骨骨端線隔離 右母趾爪下血腫 右母趾外傷性皮膚欠損創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	240	該当なし	該当なし	6.食事(おやつ)中	午前中の活動で使用した椅子を片付けていなかった。	保育で使用した物は使用後、元の場所に片付ける。	1.いつもどおりの様子であった	午睡明け、着替えを終わった子は保育者の絵本の読み聞かせを見ていたが、本児は一人で部屋を抜けて、おやつの部屋に移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は、本児がおやつの部屋に来たことは知っていたが隣の部屋で配膳を行っていた。また、本児が登った椅子が死角に置かれていた為、登っていたことに気付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員は、本児が部屋から出て行ったことは知っていたが、他児の対応をしていた為、止めることができなかった。	特になし	特になし	
10286	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23			6	8	9			3		3	17.5歳	1.男児	ﾀﾞｳﾝ症 事故の16日前に発熱(39.1℃)	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	小児頚椎環軸椎回旋位固定	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置		マニュアルの見直し。見直しに伴う職員研修の実施。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	使用前後	自由遊びの中で様々な玩具が混在していた。	遊びの設定を行い、室内を整理整頓しつつ、活動をできるように配置を見直す。	3.個人活動中・見守りあり	活動場所の周囲に玩具が広がっていた。	玩具や場所を整理し、遊んで遊ぶ場の工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	時折、移動しながらブラレールとミニカーで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室内全体の把握をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの動きに合わせながら見守りをしていた。	廊下や他教室においてあるものをとりに行ったり、トイレへ行くなど児童が移動している場面が多くあった。	見守る職員の立ち位置や関り方について見直し、職員会議で周知。	
10287	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	21								3		3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼(LA)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	一緒に活動は行うことが可能ではあるが、本児のペースが他児よりも時間がかかる状況。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くにいて、見守ってはいるが、すぐに手を出せる場所ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	主担任は全体の子どもたちの姿を見ていた。1名は別の加配児童（集団生活が難しい）を遊戯室内で見ていた。	特になし	遊戯室での活動時には転倒の恐れを考慮し、保育者が手が届く場所で見守るようにしていく。	
10288	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18				4	7	7		2		2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		当日の職員配置の中で、子どもの姿・発達を考えた立ち位置、寄り添い、職員同士の連携。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	毎回		事故発生との関連性はなかった。	3.個人活動中・見守りあり		幅広い視野をもって子どもの様子を観察し、必要に応じて仲介に入る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ブロックで遊んでいたが、楽しい気持ちが大きくなり、ブロックを投げて片付ける。周囲のｒやめて！！の声が届かない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園の受け入れをしていたこともあり、遠くから見守っている状況であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園の受け入れをしながら、子どもの身辺整理を手伝っていた。	「やめて！」と子ども同士で伝え合っているときに仲介できなかった。	幅広い視野をもって子どもの様子を観察し、必要に応じて仲介に入る。	
10289	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				#	#	#		2		3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	なし	職員配置も基準を満たしており特に改善は考えていない。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	毎日	なし	築山であるため転落する可能性はあるが、危険性の高い乳児は使っておらず、幼児の自由遊びでは自由に遊んでいた。幼児の年齢では注意もしながら協力することができると考えているため、特に改善は考えていない。	1.集団活動中・見守りあり	学生を含めた異年齢クラスでの活動時間であり、職員同士の見守りやそれに対する声掛け等が不足していたかもしれない。	特に夕方の時間は職員配置も流動的なので、声を掛けながら見守りをする。学生が入っている場合には、特に声を掛け合う。	1.いつもどおりの様子であった	危険予測や、状況にあわせた対応が難しかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	築山側にはついていたが、他児とサッカーをしていたため、築山の様子は見ていたが、瞬時に対応することはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の対応をしていたため、見ていなかった。	築山から転落することは大きな怪我に繋がるため、もう少し築山周辺の様子に目を向けるべきであった。	築山に子どもがいる際には目を向け、必要に応じて付き添うようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面													
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10290	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61					#	#			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上上腕部付け根骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	固定遊具の事故予測はしていが、雲梯ができる子どもが遊んでいる時に、自ら取り組む力を見守ったことが、危機感をもった見守りに繋がらなかった。	子どもの自ら取り組む育ちを支えながらも、固定遊具での様々な事故予測を行い、全職員で安全面の意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	毎月の固定遊具の確認は行っていたが、園児が園庭に出る前に、雲梯の棒が園児の手で握りにくい物になっていないか、滑りやすくなっていないなど、日々の確認や点検ができていなかった。	子どもの自ら取り組む育ちを支えながらも、固定遊具での様々な事故予測を行い、全職員で安全面の意識を高めていく。	1.集団活動中・見守りあり	毎月の固定遊具の確認は行っていたが、園児が園庭に出る前に、雲梯の棒が園児の手で握りにくい物になっていないか、滑りやすくなっていないなど、日々の確認や点検ができていなかった。	子どもが園庭に出る前に、固定遊具の確認や点検を行っていく。また、雲梯で遊ぶ子どもが、棒を握ることができるよう、確認をしたり持ち方を伝えたりしていく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭、登り棒で遊ぶ他児の遊びを見ていたため、見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	雲梯で見守りをしていたが、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べる距離にいなかった。	園児に手が届き、体を支えられる距離での見守りができなかった。また、職員を各コーナーに配置していたが、子どもの興味によって遊び方や、遊ぶ遊具、場所が変わることで、一人一人の具体的な遊びの動線の把握をすることが難しかった。	雲梯をする園児のすぐそばに寄り添い、体を支えられる距離での見守りをしていく。また、子どもの遊びを具体的に把握するために、子どもの遊びを把握したり、安全に遊んだりすることのできる距離をつくっていく。	
10291	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									2	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	加害児が最近習っている相撲を試してみたいという衝動。	児童に危険な行動についてわかりやすく丁寧に説明をし、事前の注意喚起を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6		危険を想定し、職員間で事故につながりそうな物品や場所がないか改めて確認する。	1.集団活動中・見守りあり	予想のできない動きが事故につながることを念頭に置いて注意を促す必要がある。	職員間で想定される危険な状況等をシミュレーションする。また、園児の動線を予測し、対応について職員同士で情報共有する。	1.いつもどおりの様子であった	登園し、遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の園児も含めて遊んでいる様子をすぐ近くで見ていたが、加害児が背中を押した瞬間には間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童も含めて遊んでいる様子を見ていた。	4歳児で動きが活発なため、固定の児童のみを注視できない。	危険に繋がりそうな動作について、児童にわかりやすく説明する。	
10292	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30									6	5	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	スポーツ教室という、通常保育と違う状況であることを職員全員が強く意識して保育を行う	児童に危険な行動についてわかりやすく丁寧に説明をし、事前の注意喚起を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	体育施設における活動であった。	普段と違う場所であることと、サッカーというスポーツの特性も考え、職員はケガの発生を考慮して指導体制をとる。	1.集団活動中・見守りあり	予想のできない動きが事故につながることを念頭に置いて注意を促す必要がある。	職員間で想定される危険な状況等をシミュレーションする。また、園児の動線を予測し、対応について職員同士で情報共有する。	1.いつもどおりの様子であった	登園し、いつもどおり元気に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の園児も含めて移動の様子を見ていたが、対象児が転倒する瞬間には間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童も含めて移動の様子を見たり、誘導していた。	5歳児で動きが活発なため、固定の児童のみを注視できない。	施設内の移動について危険となりうる箇所を事前に下見などでチェックし、職員でシミュレーションする。	
10293	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	5									1	0	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指（第三関節）骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	なし	職員会議や園内研修、ヒヤリハット確認と周知を行っている	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	なし	遊具点検を専門家が定期的に、職員が毎日行っている	7.その他	対象児が運んでいた食器が重たいものだった	こどもたちが運ぶ食器を軽いものにする	1.いつもどおりの様子であった	食器をしっかりと持って運んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を見ながら食器を持ち、一緒に運んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任は本児の部屋にいた	なし	運ぶ際、階段では、前方を確認しながらゆっくり進むよう、こどもたち全員に話をする	
10294	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	41									4	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	なし	職員会議や園内研修、ヒヤリハット確認と周知を行っている	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	なし	遊具点検を専門家が定期的に、職員が毎日行っている	1.集団活動中・見守りあり	自由あそびの為、場所の制限はせず、園庭全体に広がってあそんでいた	子どもたちに園庭の危険箇所、あそび方等を再度伝え、保育者がいる所であそぶように伝えた	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	連続逆上がりができたことがあり、何度もできるようになりたいとはりきってやっていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭での自由あそびで、全体的に見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭での自由あそびで、全体的に見守っていた	対象児の勢いが、普段より強かった	至近距離での見守りをする（補助ができるように）	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制																				事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事								死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10295	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	職員の周りにいる園児との関わりが中心となっており、広く園児の動きや遊びを把握できていなかった。	事故発生後の職員の動きについての共通理解を図った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日 1	1.定期的に実施	毎日 1	園庭の樹木は、剪定や毛虫の消毒は行っていたが、切り株の撤去は未実施。	危険を伴う切り株の撤去を行った。	3.個人活動中・見守りあり	園庭の隅に何本か樹木や切り株がある。虫を探したり追ったりする園児が好んでその場で遊ぶが、周りの危険に気付くことが難しい。	園児の遊びの把握を徹底すると共に、園児にも危険個所や遊び方について指導する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で、他の園児と共に虫を追いかけていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応していたため、転倒した様子は確認できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたり、落ち葉を掃っていたりして、見ていなかった。	園児の動きや遊びの把握が、しっかりとできていなかった。	園児の動きや遊びの把握の徹底、職員間での連携の強化。	
10296	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11									1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇・下唇の受傷、外傷性歯の亜脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	助走距離、手をつく位置など注意喚起が必要だった。	安全指導で全児童に周知した。職員に対してもしっかり見守りを行うよう周知した。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	着地点にマットを敷いておけばケガは防げたのではないかと考えられる。	跳び箱を行う場合は必ずマットを敷くこと、跳び箱の手をつく位置に目印等をつける等の工夫を施し再発防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	助走をつけすぎたため、両手をしっかりつくことができず滑ってしまったと思われる。	助走の距離や感覚を事前に周知する必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	室内で10名の児童と一緒にいつも通り遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同室内で11名の児童を1名の保育教諭(担任)が見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室で業務に当たっていた。		跳び箱を行う場合は保育者が補助に入り見守りを徹底する、また補助なしでは跳び箱を行わない等のルールを作り安全の強化を図る。	
10297	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	23									2	2	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左手指挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	実施頻度(140)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		走る活動は、けがに繋がるリスクが高いため、園児の動きに注意する。	1.いつもどおりの様子であった	登園時から健康面に問題はなく、いつも通りの様子だった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の転倒に気付き、外傷の有無を確認した。すぐに傷口を洗い、左手の傷は絆創膏で保護した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児以外の園児と活動に参加していた。		すぐに現場に養護教諭を呼び、手当て・対応をするべきだった。	
10298	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	26					3	2			6	6	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右瞼切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		今回の事故を全職員共有し、園児の動きをよく見ながら保育を行うよう、共通理解する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	実施頻度(140)回/年		事故原因が不明のため、改善策は特になし	1.集団活動中・見守りあり		今回の事故を全職員共有し、園児の動きをよく見ながら保育を行うよう、共通理解する	1.いつもどおりの様子であった	登園時から健康面に問題はなく、いつも通りの様子だった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児を注視ではいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を注視ではいなかった		危険な動き・遊びをしている園児を見つけた場合には、すぐに声を掛け、子どもたちが安全に過ごせるよう注意する	
10299	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	5									0	0	17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	降園後であったが、鬼ごっこをしていてテラスのコンクリート部分を走り段差につまづいて転倒する。テラスはコンクリートで危険なので、走ることはないよう園内でも約束する。	園庭のテラスでは走らない約束をし、走るとどんな危険があるかなど具体的に知らせる。降園後は、保護者が園児から目を離さないよう文書等で注意喚起する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		施設・遊具・玩具等に危険がないか毎月1回職員が点検し、保育中に危険な箇所があったら、その都度修理しながら、職員間で危険箇所を共有、注意喚起する。	7.その他	園庭開放は、保護者付き添いのもと遊ぶようになっていたが、園児が怪我をした際、保護者が目を離していて、他の保護者が気づく。	降園後に園庭開放は行うが、必ず保護者付き添いのもと、園児から目を離さず安全に遊べるよう注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	教育時間は元気に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園後なので担当職員はなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後なので特に職員はついていなかった。		降園後であっても敷地内で遊んでいる場合には、職員が園児の遊びや保護者の付き添いの状態など見守り、危険が感じられたときには、すぐに注意喚起・指導できるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10300	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29								3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2・3	2.基準配置	職員の立ち位置や子どもの身体の使い方に関する知識が不足していた。	けがの事例をふまえ、職員の危機管理意識の向上に努める。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	50		施設・設備としては特に問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	いつもしている手あそびだが、手をつないでいたことで転倒した時に咄嗟に手がつけず、けがにつながってしまった。	手をつないでいても危険と感じたら手を離すよう園児に指導をした。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり２人組になり手あそびを行なっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	主担任は前に立ち全体指導をしていた。全体を見ていたので本児が横に倒れる様子を見ていたが、距離が離れていたことで手を出すことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別の担任は本児の近くにいて本児が横に倒れる様子を見ていたが、咄嗟のことで手が出せなかった。	子どもは手をつなぐと、転倒時であっても離そうとしないことを想定しておく必要がある。	手をつないで歩いたり、手あそびをしたりしている時でも、危険を感じたら手を離さなくてはいけないと指導した。	
10301	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27								2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	子どもの危険な活動については怪我につながる恐れもあることを察することができなかった。	けがの事例やヒヤリハットの事例を参考に危険予知をして未然に防げるよう職員の資質を向上させる。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	芝生化しているが冬場とあり、地面が硬くなっていた。	芝生とはいえ硬さがあったり、石が落ちていたりするので怪我につながらないよう整備する。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの動きが激しくなったことに気が付かず、声掛けできなかった。	子どもの動きに注意し、危険な行為は早く気付けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも活動的な子どもであり、事故の直前は別の女児と衝突することもあり、落ち着きには少し欠ける。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が友達と回旋しており倒れたが、受け身の体制ができ、くるりと回転して倒れこんだことを見ている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な子どもの動きを注意して見ていた。	けがをした他児の対応をしていたため遊びの場に戻った際に、子どもの気分が高揚していることに気づくのが遅くなった。	他児の対応をする時は、代わりに保育できるものを配置する。	
10302	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	56								5	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	力量に応じた遊具ではなかった。	遊具の正しい使いかた、対象年齢などの周知徹底を行う。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	毎日	下は芝生であったが、手を離し落下してしまった。	さらに点検を徹底していく	3.個人活動中・見守りあり	対象児を見ながらも他の子どものことも気になりつつ見守っていた。	対象児の様子に応じてはやきる様子であれば「手を離さないで」「ゆっくりね」など落ち着いてできるように声をかける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	特異な鉄棒を担任に見てもらおうと、はりきっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の「見て」の声に応え、側で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その他の子どももいたので、対象児も見ながら、他の子ども見ていた。	近くにはいたが咄嗟に動けなかった。	職員が、こどものやりたい思いだけでなく、その子の発達状況と遊具が合っているのか、遊具の対象年齢等も合わせて判断する力をつける。	
10303	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	51								7	7	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	走るときは前をよく見る他、鬼遊びの約束ができていなかった。	遊具の正しい使いかた、対象年齢などの周知徹底を行う。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	毎日	走って遊んでよい範囲を決めていなかった。	さらに点検を徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	鬼遊びの参加者の人数把握ができていなかった。	遊びの内容や参加人数によって、遊びの範囲、人数調整をはかる。また、走るときは前をよく見るように声を掛ける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中に、外部との交流を含めた行事があり、気持ちが高ぶっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	その他の子どももいたので、対象児も見ながら、氷鬼（遊び）に参加していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その他の子どももいたので、対象児も見ながら、他の子ども見ていた。	午前と午後で保育体制に多少の変化があった。	職員が午前の保育から子どもの状況を把握し、落ち着いた雰囲気の中で午後の保育を迎えられるよう保育の流れを見直していく。	
10304	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	129				#	#	#		5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	7	1.基準以上配置	特になし	危険個所の周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	危険個所として認識がなかった。	危険個所として認識がなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員間の連携を図る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも道理元気に過ごす。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危機感がなく見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自分の周りにしか目が届かなかった。	職員間で連携をし声をかけながら危険を回避できるとよかった。	本児の動きに応じ的確な援助が必要だった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面							環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																					
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上	5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																				
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	更新年月日
10305	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首くるぶしの剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	適正な保育者を配置し、子どもの安全に配慮して保育を行っていた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	活動する上で、保育室や玩具に危険なと点は見られなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	通常の環境で活動を行っていて、特に問題は見られなかった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもの通りホールで遊んでいた。対象児に健康上の問題がなく、他児と楽しく遊んでいた。しかし、鬼ごっこで夢中になって走っている内にバランスを崩して転倒した。他児との接触は無かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体を見守っていた保育者は、転倒した対象児を見てすぐに駆け寄り声をかけた。少し痛いと訴えたが、大丈夫だから鬼ごっこを続けたいと言ったので、様子を見ることにした。前と変わらず鬼ごっこもしていたが、午後から腰痛に西川足の痛みを訴えたので、保護者に連絡し園の職員が医療機関に対象児を連れて行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児全体を見守っていた保育者が対象児童の対応を行っている間、他の職員はホールで活動する他の子ども達の活動を危険がないように見守りながら一緒に活動をしていた。	特になし	子どもの様子や訴えだけでなく、症状や患部の様子を確認して適切な対応を取る必要がある。	
10306	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	7									3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	4.上肢(腕・手・手指)	上唇小帯裂傷　歯茎損傷　陥入(歯がめり込み)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	０歳児７名に対し、職員は３名であった。	職員の配置については十分であると考える。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	伝い歩きで自由に動きたい事を優先し、ぶつかった時の衝撃が木製ベンチであると大きな怪我につながる事を一番に考えていなかった。	足元がまだ不安定な事、ぶつかった時の衝撃を一番に考えて、木製ベンチにつかまり立ちができない場所へ移動すべきであった。	1.集団活動中・見守りあり	本児の足元が不安定であり、つかまり立ちをしている状態であるため見守りは側にいた。しかし、本児の動きがしばらく止まった状態であった事で少しの安心感が見守る側に生じ、見守りながらも瞬時の助けができなかった。	本児の足元が不安定であり、つかまり立ちをしている状態であるため、瞬時の手助けができるように常に危機感をもって側にいるべきであった。	1.いつもどおりの様子であった	ハイハイと足元が不安定であるものの、つかまり立ちで活発に動き、いつも通りであった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	足元が不安定で、つかまり立ちを盛んに行うことから、本児の直ぐ側で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児以外の６名は、自由にハイハイや歩行をしているのを見守っていた。	職員２名が連携をもち、自由に歩いている子ども達の位置と状態を確認しあう声かけが少なかった。	職員２名が連携をもち、自由に歩いている子ども達の位置と状態を確認し、子どもの次の動きを予想しお互いに声を掛け合う意識、体制を構築しておくべきであった	
10307	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外踝剥離再骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	予測しきれない事態への対応を心がける	園庭で遊んでいる際の保育教諭の配置や事故発生時の対応を確認し共有する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭のくぼみや地面の盛り上がり等、事前の確認が必要だった	園庭の地面の状況を十分に確認する	1.集団活動中・見守りあり	園庭の地面の状況を説明していなかった	園庭の状況を子どもたちとともに確認し合う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	とても活発に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	足を捻ったことに気がつかなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1人の保育教諭は、室内で遊んでいる子を見ていた	足を捻るような箇所があることを把握していなかった	園庭に出た際、気分が高揚したり、広範囲に活動を展開することを予測し、複数の保育教諭で見守る必要がある	
10308	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16									2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	事故発生の場所、時間などを記録し、共有化する。	事故発生の場所、時間などを記録し、共有化する。事故防止、予防のための情報共有の場を設けていく。(週報・職員会議等で情報共有)	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊具の構造がアーチ状の階段から緩やかな坂道にかけてボコボコ細い丸太の入った道があり、上がり切ると平坦な床になるため、落ち着いて移動するように子どもたちに伝える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	現場検証を本児の回復を待ってから行い、次の対応に生かす。	1.いつもどおりの様子であった	前日「咳」で欠席し、病み上がりだったが、いつもと変わらず、給食も食べて元気があった。骨折の怪我をする数分前に転んで顔を擦りむいて手当をした。その後遊びに戻って起こった。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具から離れたところでクラスの他園児と何をして遊ぶか決めていた。他園児がデッキの階段にいたため、遊具を背にしてデッキの階段の子どもたちを見て話しをしている状況だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児が対象児が泣いているのを知らせてくれて、その場に駆け付けた。その後、担任に伝えた。		保育職員は、遊具に背を向けないように気を付ける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10309	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12									3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折、右尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	保育者の動きの確認	片付け等は子どもが室内に入り落ち着いてからにする	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	前回の事故で室内環境を安全にと色々見直してきた。この日は絵本を見るためのソフトマットだけが敷かれていた	室内では落ち着いて遊べる玩具の提供や環境の工夫をする	1.集団活動中・見守りあり	「ごちそうさま」の後、我先にと走り、保育者より先に入室する	あわてて走らないよう歩いて移動できるよう言葉掛けの工夫をする	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	●月の骨折からギプスが外れて自由に動けて機嫌が良い	2.対象児の至近で対象児を見ていた	６人に対して保育者１人でおやつを食べさせ、テーブルごと保育室に戻る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は他のテーブルを担当。他１名はサポートや片付けをする	保育者が子どもより数秒入室が遅れた	保育者は必ず子どもの先にいて動きの把握をするよう全職員で共通理解をした	
10310	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	椅子と椅子との間隔が狭く通りにくかった	机や椅子の間を広げ、通りやすい配置を心がける	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	おやつを配膳するために配膳机の前でおやつを取りに来る子ども達の様子と保育室全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トラブルになっていた子ども達の間に入って、話を聞いていた。	狭いところを通ろうとするときに、注意喚起をしなかった。	通りにくい場所の解消に努め、狭い場所を通ろうとする園児には注意を喚起する。	
10311	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				8	8	#			2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		行動をコントロールできない園児に対して、今まで以上に留意し活動する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎		ハード面には原因は無いと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり		活動時間、場所に対しての担当職員等の配置は適していたので、より一層安全に気を配るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から動きが活発な園児であり、発生時も他児を追いかけるなど、活発であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で様子をうかがっており、他児とのトラブルが見られたのですぐ止めに入った。転倒の際の体制が崩れることは予測ができず防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいて様子を見ていたが、担当職員が対応していたため、そのまま様子を見ていた。その後、本児が痛がる様子を見て担当職員とともに対応にあたる。	本児が日常的に動きが活発で、体の使い方をコントロールできていない部分がある。	本児をよく観察し、コントロールできるように指導を続けていくほか、動きを予測し制止するなどしていく必要がある。	
10312	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	34									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	下腿骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	築山の下方向に柱があったことによる事故	木の柱（円柱）の周囲に雪を盛り、チューブが方向転換できるように改善する	1.集団活動中・見守りあり		木の柱（円柱）の周囲に雪を盛り、チューブが方向転換できるように改善する。	1.いつもどおりの様子であった	保護者との関わりを楽しみながら遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近で見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が滑り降りるところを見ていた		チューブへは１名で乗るなどの安全確認をする。周囲への衝突がおこらないようチューブ乗り場には保育者を配置する。	
10313	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	14									5	4	0歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	来院時心肺停止	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	誤嚥の危険のあるおもちゃが保育室にある。保育室におもちゃが散らかっている。	子どもが誤嚥する恐れのあるおもちゃを撤去する。保育室を常に整理整頓する。子どもの些細な様子も見逃さないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	0歳児クラスの安全点検に誤嚥する恐れのあるおもちゃに対するチェック項目がなかった	クラスのチェック項目に入れ常に保育士が意識する	1.集団活動中・見守りあり	誤嚥の恐れのあるおもちゃが室内にある。保育士が全体を見ていなかった。	誤嚥の恐れのあるおもちゃを撤去する。保育士が全体を見ながら保育をする。	1.いつもどおりの様子であった	保育室では、ずりばいで移動し、気に入ったおもちゃで遊ぶ。掴まり立ちをしたり担当保育士と遊んだり絵本を読んでもらったりする。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べた後、本児を見ながら本児の連絡帳に食べた量や内容を記入していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当保育士以外保育士4人の内1名がランチコーナーの片付けをしている。他3名で14名の子どもの遊びの援助をしていた。	保育士が短時間作業をする時間もある	残った3人の保育士が、一人の子に関わるのでなく作業が終わるまでは、子ども全員を見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10314	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	5								4	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折(全治1ヵ月～1カ月半)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	素材を利用してバスや、車などに見立てて遊ぶことがあるが、バスとして箱に乗ると足元が見えにくく、段差に気づきにくかったと思われる。	上記の通り、段ボールで作成した乗り物などは、足元の確認がしにくい為、遊びの場所を確認する必要がある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	子ども達の遊びの範囲を認識し、遊びの環境について職員で話し合い、安全面についても再確認する必要がある。	子ども達の遊びの記録の中で、『どこでどんな遊びを行っているか』を職員で把握し、安全面での共通した声掛けをしていくように徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	保育教諭自身の遊びの行動範囲の把握と・安全面の配慮が足りなかった	子どもの遊びの興味を理解し、行動範囲や危険箇所について、事前に伝えると共に保育教諭が園児の行動を予測し危機感を持って対応すべきである。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びが盛り上がっており、行動する範囲が広くなっていた。段差のある場所は危険と伝えていたが、絵本コーナーの箇所は子ども達も夢中で段差に気づかなかったとみられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	段ボールの乗り物で楽しく遊ぶ様子を見守っていたが、絵本のコーナーの段差に近づいた時点で、止めるべきであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスは2階である為、クラス・ホール等の援助中心となっていた。	職員の配置を分担しているものの、遊びの様子と、子ども達の気持ちの高揚する面を捉え、予測できなかった。	分担しながら、子ども達の様子を見ているものの、遊びの様子と、子ども達の気持ちの高揚する面を捉え、予測しながら保育していく。	
10315	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42			#		#			5	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	５歳児担任は、ホールにて行われていた行事練習の手伝いに行き、その時間は他の保育士が外遊びを担当していた。	異年齢構成保育の時には特に全体を監視し、死角がないようにする	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	他児との追いかけっこ等中になり勢い余って衝突してしまった。	衝突の危険性を伝え、遊具の周りでは走らないよう注意した	1.集団活動中・見守りあり		集会終了後、自由遊び化になる前に注意事項を伝える	1.いつもどおりの様子であった	園庭を他児と追いかけっこをし、走っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が総合遊具の所でうずまっていたので、担当職員が声をかける。総合遊具に走った勢いでぶつかったとの事	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは入室していた	２歳児（●●組）と５歳児（△△組）の異年齢保育により２歳児に気をとられてしまった。	外遊びの際、職員配置（見守り場所）の工夫。遊具の近くには職員配置をする	
10316	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20								4	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		ヒヤリハット等を積極的に実践し、危険予知等に心がける。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年※専門業者による点検は年1回、その他、常駐する職員が随時、点検している。 市の施設のため、市が定期的に実施	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年※専門業者による点検は年1回、その他、常駐する職員が随時、点検している。 市の施設のため、市が定期的に実施	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年※専門業者による点検は年1回、その他、常駐する職員が随時、点検している。 市の施設のため、市が定期的に実施		事前に下見をして、遊具での遊び方や注意するところ、職員の配置などを検討しているが、改めて下見での安全管理を徹底したい。	1.集団活動中・見守りあり	普段遊び慣れていない遊具なので、子どもがうまく扱えなかった。	慣れていない遊具ということから、見守る際にはあらゆることを想定し、危険を察知していく。	1.いつもどおりの様子であった	園外保育で気もしも高ぶっていたと思われる。友だちと元気にタイヤの遊具で飛び移りを楽しんでいた。担任に見せることを喜んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	特別危険なことをしていたわけでもなく、怪我をしたこともわからない状況だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園外活動で公園の遊具で遊んでいたため、一つのところに集まらず分散して子どもの様子を見るようにしていた。		危険を常にイメージし、事前に回避できるように心がける。	
10317	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左とう骨遠位若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		ヒヤリハット等を積極的に実践し、危険予知等に心がける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		太鼓橋の位置等を確認し、近くにプランターやコンクリートブロック、三輪車等の遊具がないか確認し、安全な環境作りを心がける。	3.個人活動中・見守りあり		太鼓橋で遊んでいる園児がいる時には、職員はそちらへも意識を向け、なるべく目を離さないよう注意する。	1.いつもどおりの様子であった	運動会を経験して身体的にも自信を持つようになり、少し難しそうなことにも挑戦する気持ちがついてきたため「できる」という思いで取り組んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラスの他の子どもたちと園庭で鬼ごっこをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいる低年齢児の見守りをしていた。		職員はできる限りその場にいる全園児を意識して見守るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時期			発生時の体制									教育・保育等従事												ソフト面						ハード面							環境面			人的面									
			施設・事業所種別			発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷							実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10318	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	138				53	40	45			16	16	15.3歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆(がいか)骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	バスで降園する園児に対し、保育室を出た後は必ず定められたバス待機列に並んで待つように指導しているが、誘った友だちと当該児は守っていなかった。	保育室を出た後はまっすぐバス待機列に並び、他の所へは移動しないで待つように、園児に繰り返し話し、守るように指導する。誘った園児は、日によってバスで帰宅したり、預かり保育を利用したり異なる予定があるので、特に注意して行動を見守る必要がある。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	園バス●台と送迎用乗用車1台、計●台に乗る園児が、それぞれ園庭のデッキ部分や通路（園舎沿い）に置く(札の場所に並んで待機している。年度も後半に入り園児が慣れたことで、列が乱れていることもある。列が乱れると、本来居るべき園児が、ないことに気づきにくく、また、園児自身もきちんと並ぶ意識が薄れる可能性がある。	札の位置に、きちんと列に並んで待機させる。	3.個人活動中・見守りあり	園庭には、早クラス（1時間前に降園）ですでに保護者に引き渡した園児が自由遊んでいた。遅クラスで、幼稚園のお保育室から出て、預かり保育、保育園部門に向う園児がいた。園庭には園児・保護者・職員の数は多く、それぞれ異なる行動をしている状況で、当該園児のイレギュラーな行動に職員が気づくことが出来ていなかった。	札の位置に、きちんと列に並んで待機させる。また その意味を繰り返し話して園児が理解するように指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	同じクラスの児に誘われて、回転遊具に行った。当該児が中に乗り込み、Y ちゃんが外側からかなり速いスピードで回していた。一時的にかなり夢中だったと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は保育室で送り出しをしたのち、バス添乗に必要な名簿等の準備などで動いており、当該児とY ちゃんの動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	勤務時間外の補助教諭が、回転遊具で遊んでいるのを見て、注意を促し、チューリップから離れていのを見ていた。その後、転倒直後の様子も見ている。転倒の瞬間は見ていない。	降園時にクラスを出た後は、担任が異なる行動をするクラスの園児それぞれを見守る事は困難。主任や補助教諭を含め、園庭にいる保育者・園バス運転手で園庭全体の安全を見守っている。（門扉から出たり、園バス周辺で危険がないかなど。）	各職員が視野を広くし、また、荷物を持ったまま遊んでいる園児がいないか、より注意を払うようすにする。	
10319	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	87				39	48				10	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨尺骨(とうこつしゃっこつ)骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	自由遊びの前には、行進の練習をクラスで行っており、園児は適切にウォーミングアップした状態だった。職員は園庭内に適切に散らばって見守りをしていた。当該児は鬼ごっこの逃げ子だったが、慌てていた状況ではなく、落下の原因は不明。	鬼ごっこの際は遊具に登るのは無しにする、ほかの園児の多い所は避けて逃げるなど、ルールを設けることで事故予防につながることが考えられる。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	落下したすべり台は安全基準を満たし、日々清掃や点検を行っており異状はなかった。	引き続き、遊具の安全確認を欠かさず行い、園庭（地面）にも石ころなど異物がないよう安全な確認していく必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	無理な追いかけがあり慌てて逃げていた状況ではなかった。周囲にいた園児も通常通りの遊び方をしていた。当該児が何らかの単独の理由で身を乗り出すなどして落下したと思われる。	日頃から、遊具ではふざけたり身を乗り出すなどイレギュラーな行動をすると事故につながることを伝え、注意を促す。保育者分散してそれぞれの遊具について見守る。	1.いつもどおりの様子であった	もともと活発な園児で、この日も元気に動き回っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は同じ遊びをしていたが、離れた場所にいて事故発生の瞬間は目撃していない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2mほどの距離にいて、落下前の原因の場面は見ていないが、落下する姿は目撃したため、すぐに駆け寄り対処した。	鬼ごっこの特性上、当該児のすぐそばに担任がいることは考えにくい状況だった。鬼ごっこそのものとしては子どもたちを焦らせたり危険な動きを誘うようなことをしておらず、適切だった。	園庭にいる保育者の数や立ち位置は問題なかったと考えるが、より視野を広く持ち、事故を防止できるようしていきたい。	
10320	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71				18	22	31			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度3回/年	2.基準配置		遊具の遊び方を子どもたちと再確認する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎月	1.定期的に実施	毎日		遊具の下にクッション性のあるシートを敷く等の安全対策を図る。	1.集団活動中・見守りあり		遊具の遊び方に過度のものがないか注意する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、活発に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	5名の職員の立つ位置を見直し、園庭内に死角を作らない。時間帯によっては外遊びの範囲を限定する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員の立つ位置を見直し、死角を作らない。		のぼり棒、ジャングルジム、木登りなど子どもたちと安全な遊び方を考える。	
10321	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	特に鉄棒が原因ではないため、使う上での注意事項として、子どもたちへ話をする	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	3	特になし	鉄棒下にクッション材をひくことが望ましいが、費用面と予算を組んでから行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	鉄棒のための介助はしていなかったが、側にいたので、鉄棒を使用する前に子どもたちへ手を放さないなどの注意事項を伝えることで、防止ができる。	1.いつもどおりの様子であった	友だち数名で、鉄棒で遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は、子どもたちと他の遊びをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコと鉄棒の側にいてブランコに注意を払っていた。	特になし	鉄棒での遊びの際に、教諭・補助教諭をその場に充てる事は出来ないため、鉄棒で遊ぶための注意を伝えて見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上・5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																					
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10322	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	9									2	2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置		職員会議、各種ミーティングで検討を加える。	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10		安全点検において、遊具に危険がないか丁寧に点検する。	1.集団活動中・見守りあり		一人一人に目を配ることができるよう職員体制を検討する。	1.いつもどおりの様子であった	簡易設置の鉄棒から降りるときにバランスを崩す。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒横で見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭やサーキットなどで子どもと関わり遊ぶ。		子どものバランス感覚や体力の向上を促す。	
10323	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	3	4	5	3	3	4			3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置		危険個所の見直しと対策、環境整備を行う。子どもの発達や年齢を踏まえて危険な行動について職員間で検討し他の職員にも周知できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			引き続き定期的に点検を行い安全な環境整備を怠らない。	1.集団活動中・見守りあり		厚みのあるマットを敷く、遊びの中でバランス感覚や身体機能を高める遊びを工夫する。予測できにくい行動であっても常に危機意識を持って遊びを見守り、子どもから目を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びであり積極的にマット遊びを楽しんでいた。しかし段々ふざける様子が見られた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	マット遊びの直ぐ側で遊びを見守っていた。危険な遊びをした際は声掛けを行っていたが、その直後に事故が起こった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの職員は、他の遊具の側に立ち、危険がないようにと見守っていた。		回数を重ねる中少しふざけた様子が見られていた。注意を払うよう声掛けを行っている中、事故が起こった。遊び時中断し考えさせる時間をとったり、少しテンションを下げる等の工夫をすることが必要。	
10324	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	3	4	5	3	3	4			3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置		危険個所の見直しと対策、環境整備を行う。子どもの発達や年齢を踏まえて危険な行動について職員間で検討し他の職員にも周知できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		引き続き定期的に点検を行い安全な環境整備を怠らない。	1.集団活動中・見守りあり		配膳をする際の約束の徹底。机の安全点検を定期的に行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもは机を運ばない園児であった。また、現在骨折中であるため負荷のかかる行動は全て排除していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象園児に付き添っていた。対象園児の側にいたため、机を持った際直ぐ声を掛けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他の園児に給食の準備をするよう促していた。		とっさの園児の行動であっても危険な行動が回避できるよう立ち位置に工夫し、連携し合うよう心掛ける。	
10325	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置		マニュアルの共有を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		引き続き、安全点検を行う。	3.個人活動中・見守りあり		一人一人の遊びをしっかり見守ると共に、危険な環境がないよう注意する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりに遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じ保育室内におり、保育にあたっていた。けん玉練習をしているグループがいたことを把握し、応援をしながら遊ぶ様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びのグループの中に入り、保育をしていた。		子どもが道具を用いて遊ぶ場合はそこに職員が見守るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10326	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	身体機能に配慮が必要な子に対して、本人の意思を汲みながらも危険予測をした対応が出来なかった。	全体を見回し危険箇所を把握し、保育者が子どもの動きと共に流動的に動けるように遊具配置、職員配置を見直す。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	年長児に対してソフト積木の大きさ、形からバランスがとり難い箇所の有無、コースの組み合わせ方、距離等が適正であったかを検証した。	ソフト積木の形(大小・長短等)からバランスを崩しやすいもの、踏み外しそうなもの等を予想して、組み合わせの工夫や配置、遊具の数等を年齢に応じて、取り入れていく。それらについて使い方、危険性の確認として検討会議を開き、周知していく。	1.集団活動中・見守りあり	午睡はなく、午後おやつ後の時間帯で、身体的には疲れていることも考えられる。反面、気持ちの上では運動遊びをしたい。それらを考慮して今回の活動を設定したが、実際、夕方の運動遊びとしては無理があったことも考えられる。	Ｉ字ブロック箇所を減らす、または遊具設定の配置を組み換える等で見守り範囲に死角を作らないように徹していく。やりたい気持ちや出来ると信じた気持ちと、実際に備わっている発達機能との差がある場合にどのように意欲を維持しながら機能発達を促進していくかを考えサポートしていく。	1.いつもどおりの様子であった	繰り返し身体を動かす遊びをしてきたことにより、運動遊びが好きになり、今までは片足ずつブロックを跳び越えていたが初めて自ら両足跳びに挑戦した。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体の遊びを見守り、一番危険と判断した箇所に留まってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	主担任は個人面談がり、席を外していた。	全体を見ながら一本橋遊びの方に意識を向け過ぎ、一箇所に留まってしまった為、本児の動きへの対応に至らなかった。危険予測に欠けた。	一人で保育する場合、コースの範囲を狭めたり、死角を作らない設定にする等が必要であった。また、今回の形で活動するには全体を見渡す他職員が必要であったと考え、見守り対応の強化と職員間の声掛け等を通して、改善に向かう。	
10327	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29								2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	次の運動遊びをするために歩いて移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見渡しながら園児の様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	分散した位置にいた。	足元に物があることに気付かなかった。	ボール遊びをしている付近では、ボールが転がってくることがあり、転倒につながることを事前に話をし足元にも意識がいくようにする。	
10328	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	81				#	#	#		7	7	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足側背骨 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普通に歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	布団数のお手伝いをしている園児の様子を見ながら一緒に布団を数いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	分散した位置にいた。	特になし	特になし	
10329	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12								1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	5.下肢(足・足指)	熱性けいれん	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		当事案について対応の確認。関係職員に聞き取り、問題提起。今回の対応ついて全職員で見直しや確認をした。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施			特になし	3.個人活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	休み明けということもあり、様子は気にかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもの様子を全体的に把握できていたためすぐに発見し対応できた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐに駆け付け職員至への連絡　他児の対応	子どもたちの遊ぶ様子を全体的に捉え把握していたことですぐに異変に気付き迅速に対応することができた。また、マニュアル研修を行うことで緊張時にも落ち着いて対応することができた。	他クラスの職員の応援要請　他児の対応　など職員間で共有	
10330	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	25								2	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	近くの園児に気をとられていたため、ケガに気付けなかった。	配置場所に責任を持ち、全体の子どもの動きを意識して目視し、危険を予測していく。全職員へ事故発生について周知し再発防止に努めた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	外部の施設を利用しており、設備面での問題はなかったと思われる。	行事前にも器材の点検を行っているが、発生時に再度点検を実施した。	1.集団活動中・見守りあり	競技の性質上、カゴの周辺に玉が集まりやすく、そこに取りに来る子も多かったため。	１回で行う人数を減らし、他の子にぶつかりにくい状況をつくり、職員が子どもの動きを確認しやすくする。	1.いつもどおりの様子であった	競技に真剣に取り組み、たくさん玉を入れて勝ちたいという姿が見られる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	カゴの転倒に気をつけて、カゴの周辺にいたが、子どもの動きの予測ができていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	問題なし	職員同士で、どこを確認するかを伝え合い、見る範囲に集中して、子どもの変化をとらえることができなかったため。	周りにいる子に気をつけながら拾うなど、競技を始める前に危険なことを予測していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	状況		死因	負傷状況	受傷部位	診断名		アルの有無	実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10331	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指付け根部分の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	目前で指導する際に、周囲への配慮が必ずしも十分でなかったことが考えられる。	担任だけではなく、フリーの職員を活用して頻繁に巡回するようにする。また、事故につながるような動きがあった場合は事前に注意等を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	シート敷きの床であり、ハード面に特に問題は無かったと思われるが、そのような床でも骨折のような事故が起こり得るという認識が不足していた。	事故につながるような遊び等の行動が見られる場合は、事前に注意等喚起する。また、十分な柔らかさのないところで体操のようなことをさせないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	園児用机が並んでいたため、視界が十分ではなかったことが考えられる。	自由遊びの際は、職員が目を通しやすいような配置等の工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであったが、一緒に遊んでいた友達に見せたかったのか、ブリッジの姿勢をとった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は保育室内にいたが、発生当時は他の園児とのやりとりをしていたため、対象児の動きを十分把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者以外の職員はそれぞれの配置場所で保育をしており、見ていなかった。また、フリーの職員は当時別の保育室で対応すべきことを行っていた。	目の前の対応に気をとられ、対象児の動きに対する注意が必ずしも十分ではなかった。また、対象児の動きに特段危険を感じることができなかった。	園児全体の動きを把握するように努め、事故・トラブルが起こりそうな場面があった場合には事前に注意を促す等、園児への声かけを徹底する。	
10332	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	5	#							6	6	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	顔面打撲、二次感染を伴う湿疹（眼周囲）、右眼球打撲傷、右眼瞼挫傷、右外眼角部瘢痕拘縮、顔面皮脂欠乏症	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	職員のいた場所が本児にすぐ手の届く場所ではなかった。	すぐに対応できる位置に職員を配置するようにする。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	40	1.定期的に実施	毎回	転倒した場所の先に机があった為。	更に安全に過ごせるよう机等の配置に配慮していく。	3.個人活動中・見守りあり	当児はお気に入りの毛布がないと落ち着けず、保育士も気をつけながら当児の姿を見ていたが、移動する際に毛布を踏み転倒してしまった。	他児同様、午睡後はすぐに毛布を片付ける。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一瞬で転倒したのでその後すぐ手当をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自分の担当の子を見ながらも全体を見守っていた。	特になし	引き続き、当児が安心できる様に毛布の代わりに好きな玩具等を渡したり、気持ちが落ち着けるよう関わっていく。	
10333	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3					2	1			1	1	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	保護者と懇談をしていたため、子どもへの配慮が十分ではなかった。	子どもへの配慮をしながら、保護者と懇談するようにする。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	少人数で遊んでいたため、保育室が広く感じ走ってしまった。	保育室では走らない等子ども達に指導する。	7.その他	子どもの見守りが十分ではなかった。	保育室で走ると危険なことを伝えながら見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	姉と一緒で、いつもよりうれしくて気持ちが高ぶっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	母親と相談していたため、少し離れたところから見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時間外での業務を行っていた。	クラス担任は1名いたが、母親と話していたため子ども達への配慮が十分でなかった。	クラス担任が子どもへの配慮をしながら、保護者と懇談するようにする。	
10334	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	危機対応に関する研修にできるだけ参加するようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	点検時に念入りに点検するとともに、1年に1度点検確認表も見直す	1.集団活動中・見守りあり	イスをベットにみたてて遊んでいたが特に危険と感じなかったため止めなかった。	イスの使い方を改めて伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	特に普段と変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス全体の子どもたちを見守りながら、他の園児と遊んでいる時に、泣き声がしたのでそちらの方向を見ると本児が床に倒れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故時は担任ひとりがクラスにおり、他の職員はみていなかった。	園児と遊びつつ全体を見守っていたが、注意深さが必要だった。	注意深く園児を観察する必要がある。	
10335	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	32									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	職員の配置は基準を満たしていたが、園庭全体を見渡せている職員がいなかった。遊具毎に職員が配置できていなかった。	職員同士で声かけを行い、遊具毎に確実に保育者がつく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭が広く、遊ぶ遊具の数も多かった。	保育者の人数が少ない時は、運動遊びの遊具の数をはじめから少なくするなど確実に保育者が器具に着けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ふざけた様子もなく、雲梯での遊び方にも問題はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体的に目を配らせて園児の様子を観察していたが、他の遊具で遊んでいる子も同時に見ていたため、少し離れた場所で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上	職員間のコミュニケーションが不足しており、保育者がどこに居てどのように子どもを見ていくのか、共有する事ができていなかった。	運動遊びの器具の数を限定し、遊具毎に側について目を配れるようにする。	
10336	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	毎日、遅番が施設戸締りの際、安全を確認しており、不備があった場合、主任・副園長・園長に報告。	2.基準配置		こどもが危ない遊びをしている時は必ずクラス・学年・全体に知らせる。	1.定期的に実施	毎日、遅番が施設戸締りの際、安全を確認しており、不備があった場合、主任・副園長・園長に報告。	1.定期的に実施	毎日、遅番が施設戸締りの際、安全を確認しており、不備があった場合、主任・副園長・園長に報告。	1.定期的に実施	毎日、遅番が施設戸締りの際、安全を確認しており、不備があった場合、主任・副園長・園長に報告。	特になし。	遊具等の使い方の再指導。	1.集団活動中・見守りあり	運動会前で、ハイテンションによるものと考えられる。	担任が、危険なあそびを見つけたらクラス、学年、全体で共有し指導をする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	お迎え児の対応	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	合流前の為１クラスのみ 戸外遊び	保護者との対応のありかた。	送迎時の個別対応時間を検討する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10337	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		引続き、跳び箱の活動をする時の指導の仕方、子どもが跳ぶ時の補助の仕方・注意点・職員の配置について注意していけるよう周知していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	開園時は毎日実施	1.定期的に実施	開園時は毎日実施		引続き、定期的に実施していく。	1.集団活動中・見守りあり		引続き子ども達が、跳び箱を跳ぶ近くに立ちすぐ手助けできる位置に職員がつくようにする	1.いつもどおりの様子であった	落下し手を付いたにもかかわらず痛みを強く訴えず気丈であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	クラスの子ども達のとび箱の活動を進めていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		とび箱の横に立ち補助に入れるようにしていた		引続きとび箱の活動での注意点を職員で周知し	
10338	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		外遊びを行う前にどういう場所にはどのような点を注意すべきことがあるか子ども達と話し合ってから遊ぶ	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	開園時は毎日実施	1.定期的に実施	開園時は毎日実施		引き続き坂を降りる時はすべることもあるので、遊び方、降り方の注意点を子ども達や職員に周知していく	1.集団活動中・見守りあり		坂の近くで遊んでいる子どもがいる場合はどんな遊びや行動をしているか気にかけて見ていく	1.いつもどおりの様子であった	突いた指を痛がり、どのように指を痛めたかしっかり話してくれた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で遊ぶ子供たちを全体的に見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		園庭で遊ぶ子供たちを全体的に見ていた		坂の方で遊ぶ子ども達がいる時は、滑る危険があるので動きを気にかけ見たり声掛けする	
10339	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口唇外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		活動するにあたり、適切な職員配置を行っていましたが、職員の立ち位置や目ばせを指導していきたい	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	開園時は毎日実施	1.定期的に実施	開園時は毎日実施		日々、整理整頓をしているが、引き続き行っていきたい	1.集団活動中・見守りあり		日々、園児に対して声掛けをしているが、わかりやすく声掛けを行っていきたい	1.いつもどおりの様子であった	4歳児クラスにおいて水分補給後、自由遊びに移るタイミングで周囲を見ながら歩いていた所、机の脚につまずき、前の机の角にぶつけた。	4.対象児の動きを見ていなかった	4歳児●●組教室内の前（教卓）におり、対象児がいた反対方向から他児が来たのでその園児と話をしながら、全体的に目を向けていた。対象児が周囲を見ながら歩いていたのは、見ていたが転んでぶつけた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員のみで保育をしており、他の職員はいなかった。		机の配置の見直しやこどもたちが移動をする時に机の脚に引っかかってしまうことがあるので前を向いて歩けるように伝えていく。また、移動する前に予測をして注意を払えるよう日々の生活の中でも話をしていく	
10340	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5		2	1	2				2	1	16.4歳	2.女児	●月●日に保護者様よりお電話でお申し出がありましたが、●月●日・●日も通常通り園に通われており（事故があったかもしれないというのは●日と申告されていません）学校給食も問題なく食べられておりました。お電話にてお申し出があった際は、誰にやられた、など他の園児の名前は出ておりませんでした。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	AI 外傷性歯牙亜脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置		職員がトイレに行く際や保護者様のお迎えの対応の際、保育従事者が教室内に１人になることがあるので、保育従事者を増員する。	2.不定期に実施	2	3.未実施	0	2.不定期に実施	12	カメラにその現場が写っていれば、状況を説明できたかもしれない	各教室にある防犯カメラが故障した場合は修理を依頼する	1.集団活動中・見守りあり		園児の体の一部に血のようなものが見受けられた場合、園児の口腔内も確認する。目立った外傷が見受けられなくても保護者に伝える。口	1.いつもどおりの様子であった	事故があったと言われる当日も翌日も翌々日も痛みや事故に関する申し出が一切なかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	口の近くに血のようなものが微かについてたかもしれないことを記憶しているが、本人も全く痛がっていたりしていないため、口腔内までは確認しなかった。唇がかなり乾燥していたので、皮が剥けて少し血が出たのかもしれないと思った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員も現場は見ておらず、他の園児も何も言っていなかったため、怪我したかもしれないということさえ知らなかった。		血のようなものを見た時は、本人が痛がっていなくても保護者様に念のため伝える。	
10341	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	59	0	0	0	23	20	16		19	14	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折の疑い、鼻梁部皮下血腫、顔面擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	職員だけでなく園児にも自己防衛的な話をする。	研修時だけでなく日ごろのヒヤリハット事例をもとに対策を周知徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	園児の行動を想定しうる危険となりうる場所の確認。	2階の階段入り口に柵や階段角等にクッション材配置の検討。	1.集団活動中・見守りあり	麦茶のジャグが教室に置いてあり階段を上がらなければ飲むことが出来なかった。	麦茶のジャグを玄関に置き、外遊びの時間も飲めるように改善した。	1.いつもどおりの様子であった	朝の外遊びの時間	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児に対応していた為2階に上がった事に気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児に対応していた為2階に上がった事に気づかなかった。	外遊びの時間は全職員が園庭に出るのではなく玄関付近に見守り配置する。	目の前の子供だけでなく全体に注意を払うよう多角的視点での見守りの徹底。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの状況 | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
10348	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		会議等で、再度マニュアルを徹底し注意を促す	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365		引き続き、点検を注意しながら行う	1.集団活動中・見守りあり	一斉に動き出してしまったため、十分な間隔がとれなかった	こども達が動き出すときは十分間隔をとってから誘導する	1.いつもどおりの様子であった	健康面等に問題なく、元気であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭にて全体の子どもたちの動きをチェックしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭にて全体の子どもたちの動きをチェックしていた	こどもの動きに対する予測が不十分であった	安全に配慮し、誘導の仕方を工夫してゆく	
10349	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	運動会に向かって、いろいろな事に挑戦しようと意欲的な姿があった。	日常的に置いてある遊具なので、再度遊び方や危険について子ども達と確認し、保育士も事故発生の可能性を今まで以上に念頭に置くようにする。職員に周知する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	4		室内用の遊具（この日は、とび箱・鉄棒等）を何種類も出さず、行き届く範囲内にするようにする。	3.個人活動中・見守りあり	運動会に向かって、いろいろな事に挑戦しようと意欲的な姿があった。	日常的に置いてある遊具だが、保育士も事故発生の可能性を意識し、声がけ等更に意識していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は、跳び箱を何度も跳んで満足し、他の活動に自分で向かって行ったところだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任一人は、とび箱を跳んでいる園児の方を見ていた。本児が、満足してトランポリンの方へ行ったのは承知していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼寝からの目覚めが遅い園児と、布団等の片付けをしていた。	運動会に向かって、いろいろな事に挑戦しようと意欲的な姿があった。	怪我発生の可能性があることを再認識する。	
10350	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34			16	18				3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘 亀裂骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保育状況によって、使用する遊具や保育士の配置について、職員間での意思統一にあいまいな部分があった。	５0cm程度の高さから子どもが落下した場合、条件によっては骨折が発生する可能性があることを職員間で再確認し、遊具で遊ぶ 場合のルールを見直した。また、これまで同様に事故予防のための研修を定期的にうけることとした。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	3.未実施		遊具の下にクッション性のマットを敷いていた。厚みのうすいマットであるため、遊具の高さに対して衝撃を吸収できるレベルで無かった可能性がある。	遊具下の マットの見直し。	1.集団活動中・見守りあり	保育状況によって、使用する遊具や保育士の配置について、職員間での意思統一にあいまいな部分があった。	50cm程度の高さから子どもが落下した場合、条件によっては骨折が発生する可能性があることを職員間で再確認し、遊具で遊ぶ場合のルールを見直した。雲梯など幼児が使用するときに50cm以上の高さがでる遊具は、保育士が常で見守れる場合のみ使用することとした。また、これまで同様に事故予防のための研修を定期的にうけることとした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	対象児は、保育士に見守られる状況で、雲梯が一人で出来るようになったばかりであり、自分でやろうという意欲があった。意欲に対して、一人でやりきるという点で体力面がおいついていない面もあったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当時は、保育士3名で3-4歳クラスをみている状態であり、複数の遊具で子どもの遊びが見られた。雲梯のとなりのアスレチックにものぼり棒やブランコなど注意を要する遊具があり、遊具付近の保育士は、対象児だけでなく、他の園児にも注意をはらって保育をおこなっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が雲梯で遊んでいる様子は見ていたが、落下の瞬間は見ておらず、しりもちをついて、泣いている様子で事故の発生に気づいた。	注意が必要な遊具が複数ある状況で、自由遊びをおこなったため、注意に意識が分散している状況での保育であった。	雲梯やのぼり棒は、保育士人数が限られる状況ではおこなわない必要がある。高さ50cmをこえるものでは、条件次第で骨折などが発生するものと考え、そのような遊具では保育士が1名以上つける状況で遊びをおこなうことにした。	
10351	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23								3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		職員に事故について周知し注意を促した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	毎日		園児にあらためて遊具の使い方や注意点を指導した。	1.集団活動中・見守りあり	いつものように助走をつけ鉄棒に飛びついた際に手が外れ滑り落ちた。	そばには見守りの職員がいたが、滑り落ちた瞬間にヘルプは難しかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように友達と園庭を走り回っていた。その中で鉄棒に飛びつき前回りをした際に手が滑ったのか落下してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒のそばには職員を配置していたが、特別乱暴な行動ではなかった。滑ったのは一瞬のことでヘルプできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒やブランコ等の遊具のそばには職員はいた。		職員の見守りの配置位置等を再検討した。	
10352	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16								5	5	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		3.火傷	1.頭部	顔右側・胸部の火傷熱傷深度Ⅱ度	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	熱い物を園児に運ばせた。冷ますか職員が運ぶべきであった。	危険が伴う行動をする際には、大人1人は危険がないか全体を見る係をつくる。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52		なし	1.集団活動中・見守りあり	子どもが動きやすい動線が確保できていなかった。また、別の小さい鍋に移し冷ますなどをしていなかった。	手順を確認する中で、危険な部分はどこかを確認しあい、認識しあう。危険が伴う際は、必ず全体を見る職員をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	自分のカレーライスを配膳・運んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	1名はカレーライスの盛り付け、1名は写真係、1名は子どもの準備の補助で本児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当の子どもの配膳準備	全体に目を配る職員がいなかった。子どもを見る職員が他児に関わるや、写真係をして全体の様子を見られなかった。	事前準備で危険がある物を確認し、再認識をする。危険が伴う活動は、全体を把握し、予測外の行動にも対応できるようにする。時間の余裕を作るように計画を立てる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10353	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79				25	26	28		7	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折（骨端線損傷）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	大型遊具と樹木の間にいた本児が不意に足を捻った為、未然に防止することができなかった。	園児の状況を把握できるように職員配置を工夫する。戸外遊びの際に怪我防止の為の準備運動や体幹を整える活動を取り入れる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	48	事故のあった場所は段差等はなく、安全にも配慮していた為ハード面の要因は問題ないと判断する。	樹木と大型遊具のスペースもあり、地面にも凹凸はなかったため、安全な状況が保たれていた。	3.個人活動中・見守りあり	遊びを限定せず、個々が好きな遊びを楽しめるよう環境の設定を行う。	穏やかに好きな遊びを楽しめるよう環境の設定を行う。	1.いつもどおりの様子であった	樹木の下にアリの巣があり、探索活動を好んでする場所であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大型遊具で遊んでいた園児を向かい側から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所でその他の園児全体とみていた。	大型遊具により、死角ができる場所であった。	大型遊具により、死角となりやすい為、他方から園児を見守る必要があった。	
10354	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	17.5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足 5子基節骨折（先端から2?3目の元の角が少し欠けている）4～5週固定●/●完治	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		プール指導が始まる前に職員会議等で危険性やルールについて確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		事前に職員間で危険カ所の把握を行い、危険を予測し、理解してから指導に移る。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの人数や体調を考慮し、安全かつ余裕のある子どもと職員配置を行う。	1.いつもどおりの様子であった	プール再度でで、友達と遊ぶ中で接触	2.対象児の至近で対象児を見ていた	プールの中で、指示に従って	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	プールの中と、プールサイドに職員を配置して、水遊び活動に目を向けながら保育する。	他児との距離が近すぎてぶつかってしまった。	危険な行動には、声掛けをして安全を促す。	
10355	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	8								2	2	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折【治療に要する期間】４週間R●.●月●日完治	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	事故予防に関する研修の未実施	職員の共通理解、意識の向上の為、実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	普段通路として使用していて危険箇所はないので、改善策はない	1.集団活動中・見守りあり	芝生でない所で走らないように声掛けが必要だった。	転んだ場所が通路の為、人工芝を敷くのは難しいので、遊ぶ時は通路に入らないようにパイロンをおいて対応する。通路では走らないことを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらずいつも通りの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで見ていたが突然バランスを崩して転倒したので、転倒を防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見ていた。		何もない所での転倒は防ぎようがないので、特に改善策は見当たらない	
10356	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	17.5歳	2.女児	友達とドッジボール中、ボールをキャチする際、左手小指隔離骨折となった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折（左手小指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2~3	1.基準以上配置	何事に対しても危険を予測して臨むという面が生かされていない。	ヒヤリハット体験を共有し、危機管理能力を養う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊びに使用する際のボール選び（硬さや空気圧等）が年齢や遊びの内容に対して適切であるか確認不足であった。	ボールだけに限らず、遊びに使用する用具や玩具などが、年齢や遊びの内容に対して適切であるかどうか、事前に必ず確認し、適したものを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	新クラスになって初めて行ったドッジボール。ルール説明（ボールの受け方）を行ってから実施した。しかし個人個人の能力の違いや危険性に対する配慮に欠けていた。	ボール投げやボールの受け方等、基本的な運動を段階的に行ってから、遊びを展開し、安全に遊べるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつも活発に遊ぶ本児。新しい取り組みに対しては、より意欲的になり、張り切って行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども達に、怪我やトラブルがないように見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼前のクラス単位活動中。他クラスは昼食の為、室内におり、その瞬間は見ていなかった。	指にボールが当たったが、骨折に至る怪我をするとは思わなかった。	ルールや注意点等を説明してから行った。しかし、予想外の出来事もあるる為、あらゆる場面で、事故や怪我に繋がるかもしれないと想定しながら保育する。	
10357	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	41								3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折□	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		職員も園児も慣れてきたころに油断が生じる。定期的な研修が必要	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園外活動に関しての事故事例から対策を見直していく□	1.集団活動中・見守りあり		初めて行く場所は必ず下見をし、危険個所を把握。事故防止に努める	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	比較的運動が苦手なところはあるが、園外活動ともあっていつもより活動的ではあった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちの行動には目を向けていた危険と感じた時には忠告もしていた"□	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の子どもたちをみていた	一人ではジャンプを成功させていたため、大丈夫であろうと思ってしまった□	運動能力等を見極め、園児それぞれの安全確認をしていかなければならない	
10358	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	31			10	8	13			6	6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折治療に要する期間（１ヶ月程度）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	子どもの行動範囲が広く一定していない為、子どもの動き全てを見ることができなかった。	職員が連携を取りながら、注意が必要な遊具や場所を把握し職員配置を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		園外保育先（公園）の立地や遊具についても十分に把握した上で子どもの遊びやゲーム内容を考える。	1.集団活動中・見守りあり	・お買い物ゲームで、バケツを持って山の上り下りをしたためバランスを崩した。 ・くつをきちんと履いていなかった為転んでしまった。 ・いつもより早い時間の出発だった為体の動きが硬かった。	・ゲーム内容の工夫（手に何か持つ時には場所や方法を十分検討する） ・子どもたちにゲームをする上での注意事項を細かく説明する。 ・靴や衣服が活動に適しているか（靴のマジックテープ、袖やズボンの長さなど）活動前に再確認する。 ・準備体操をして体をほぐしてから活動を開始する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	お別れ遠足を楽しみにしていたため、いつもより気持ちが高揚していた。お買い物ゲームでは手を持つ時に声をあげ楽しんでいた。山の下で受付しバケツを持って頂上に行きバケツに小さいボールを入れ降りてきた。もう少しで平地につくところで転んでしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	山の下で受付をしながら、頂上から降りてくる子どもたちを見ていた。転んだ所が少し段差があったので瞬間手を出す事ができなかった。すぐに駆け寄りケガの有無を確認。本児が足を痛がり歩けない様子ではなかった為、安全な場所へ移動した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の子どもを見ていたため、1人ひとりの子どもの動きに細かな注意ができなかった。転んだ本児に気づいた職員は駆けり状況を確認した。	子どもたちがそれぞれのゲームで広がっていたため、一人ひとりの行動に対する把握と動きに対する声かけが出来ていなかった。何度か来ている公園で子どもたちも遊具や地形にも慣れているという過信があった。	山の上り下りで転ぶリスクがあるゲームだったので受付と子どもの動きを見る２人体制にする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10359	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				17	20	18			5	5	15.3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	ソフト面に起因しないため記載なし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24回/年（用務技師・保育士）1回/2年（業者）	1.定期的に実施	200	なし	ハード面に起因しないため記載なし	3.個人活動中・見守りあり	気温的に前日よりも急に低くなって、寒い日だった。	急に寒くなったので、寒さに慣れていなかったことを考慮して、特に3歳児だったので雲梯や固定遊具は休が温まってからとか、その日は考慮すべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子は朝から見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯を渡っている対象児を見ていたものの、落下した時に手を指し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の4人の職員は、それぞれ他の子どもたちと遊んだり、見守ったりしていた。	3歳児なので、落ちるかもしれないことを予測した介助が必要だった。	雲梯を渡っている児童が落ちそうな時に、すぐに介助できる位置に（もっと子どもの近くに）いればよかった。	
10360	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54	0	0	11	10	14	19	0		6	6	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	ソフト面に起因しないため、記載なし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24回/年（用務技師・保育士）1回/2年（業者）	1.定期的に実施	200	なし	ハード面に起因しないため記載なし	3.個人活動中・見守りあり	子どもの足に馴染みのない新しい靴だったことに配慮すべきだった。活動にあわせた準備運動を行っていく必要があった。	準備運動はいつも通りしてから遊びだしたが、内容によっては部分的な体のほぐしも必要だった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	新しい靴を履いてきたため気持ちに昂りがあった。また靴が足になじんでいなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	いったんしゃがむ様子があったもののその後変わった様子もなかったため見過ごしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由遊びの為保育士は、園庭に散らばりそれぞれの子どもたちの遊びに付き見守っていた。	見守りをしていた職員が本児の様子から独断で判断してしまったが、周囲へ状況を共有すべきだった。こどものケガについて学び合う事が必要だった。	新しい靴であるということにもっと注意を向け配慮すべきだった。また経過を見守る中で大きなけがである可能性も考えるべきだった。	
10361	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21						21			1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員の配置状況については事故発生時、1名の保育士が対応していた。本児は友達の輪に入らず、園庭花壇付近で１人で遊んでいたため目では確認していたが事故を未然に防ぐことはできなかった。	園庭全体の状況を把握し、園児の動きを注意深く見る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	今回はソフト面や環境面での要因が強くハード面での要因については問題ないと判断する	転倒した要因は本児がつまづいた際、手のつき方が悪かったことであり園庭のスペース、安全面については配慮ができていた	1.集団活動中・見守りあり	遊びを限定せず、それぞれの子どもが好きな場所で好きな遊びをしていた	午前の活動の疲れが出やすい午後の自由遊びの時間は、落ち着いた時間が過ごせるような環境の設定をおこなう	1.いつもどおりの様子であった	友達の輪から外れ、園庭隅の花壇付近で足をずって砂埃をあげながら小走りに東に向かって走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児と自由遊びをしてあり、本児の楽しそうに遊んでいる姿を確認していた事故を予測することができなかた	他職員なし	担当者1名で保育していたため、他の職員はなし		午後の戸外遊びは疲れが出たり、集中力が低下したりするので注意を払う。特に注意が必要な子どもに関しては保育士の目の届く距離で見守るようにする	
10362	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12						12			1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首 骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保育士が傍で補助をしていた中での事故であるが、難易度の高い技を練習している場面では、補助の複数体制がとれることが必要であったと思われる。また、補助の方法についてもあいまいな部分もあった可能性がある。	職員に対して、器械運動の補助についての研修(外部体育講師に依頼)をおこない、職員の技術理解について深める。また、個人であいまいになっている補助方法について意志統一を図る。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	3.未実施		人工芝の下にはクッション性の衝撃吸収用のシートが入っているが、今回の事故で骨折を防ぐことはできなかった。	人工芝の上で動作を伴う器械体操(側転や倒立など)を行うことを中止。複数の補助体制がとれる場面でのみ、難しい技の練習をおこなうことで共有した。	1.集団活動中・見守りあり	通常は、リズム遊びをおこなう場面で難易度の高い技を練習していた。(複数保育士の補助体制がとれるため)。しかし、今回の事案では、一人対応であったため、場面を限定するなど対応が必要であったと思われる。	難易度の高い技をおこなうときは、リズム遊びなど複数の補助体制がとれる場面に限定することで、職員間の認識を共有した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	発表会も近くなり、披露する技の練習に意欲的であった。ケガした際に練習していた技も2日前に出来るようになって、自分ひとりでも出来るようになりたい気持ちが強くなってきていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ケガをした該当児の練習要望もあり、事故当日に傍で練習に付き合っていた。技を見守るかたちで補助をしていた。子どもが手をひねって着地したところを、支えきれずにけがにつながってしまったのこと。以前から人工芝の上で技の練習をすることはあったが、対象児がケガ時の技を練習することはじめてであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	該当者はなし		難易度の高い技をおこなうときは、リズム遊びなど複数の補助体制がとれる場面に限定することで、職員間の認識を共有した。また、職員に対して補助に関する研修をおこなうことで、手法についての意識統一を図ることとした。	
10363	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	34									28	26	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	担当職員の経験年数が浅いため指導のポイントの習得が完全でない	マニュアルの再徹底をする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	自主練習なのでマットを使用していなかった	体操実施の際の準備品を２人でチェックする	1.集団活動中・見守りあり	入り口付近で自主トレーニングをした	自主トレは目立つ場所で行わせる	1.いつもどおりの様子であった	本児は体操ができる方で、普段でも熱心に練習しているため、友達が逆立ちができるようになって、同じようにでできるようになりたいと思った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	出来ない子どもがいたので、その子の指導をしていた。できるようになった子どもには、より上手に出来るよう自主練習の時間を設けていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	出来ない子どもがいたので、その子を優先で指導をしていた、本児は今指導している体操ができていたの自主練習をできない子どもを指導しながら見守っていた	できる方の子どもなので、自主練習をさせた	自主練習の子どもを一か所にまとめて必要に応じ補助する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷						実施頻度【回/年】		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位	診断名		アルの有無		【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10364	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11								2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置		加配もあり、配置は充分であったと思われる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4回/月	1.定期的に実施	4回/月		施設等の不備による事故ではないと思われる	1.集団活動中・見守りあり		教育保育としての活動に特に問題はなかったと思われる	1.いつもどおりの様子であった	トラックのコーナーを曲がるところで、縄が自分の足にかかり転倒してしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は順番に子どもが走っていく間隔を十分にあけるように声掛けをしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	声掛けをしていたが、目の前で転倒した		その時々の子どもの様子をしっかり把握し、子どもへの声掛けをより活発にしていく	
10365	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	2	0	1	1	0	0	0	0	2	2	13.1歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一趾指節間関節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	現時点ではっきりとした要因は不明	今回の事案に関しては発生時刻、発生場所、発生状況ともに不明なため改善点はないが、ほんの少しでも違和感を覚えた際はその時その時で保護者の報告し、また、職員が感じ取った違和感についても分析し、記録を残す様にしていく。	2.不定期に実施	2～3	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12		事故の有無に関係なく、常に子どもたちの生活に使われる物、場所の点検、整備が必要である。	今回はハード面に関わる事案ではなかったが、滑りや躓きを引き起こす可能性がある場合には対処していく必要がある。	7.その他	不明 強いて述べるのであれば、保護者がいつもより靴の履かせにくさを感じて、何度か足の入れ直しをしてやっと履かせた。	園児の送り出しの際にもしっかりと観察を行い、何か気になる、違和感がある場合にはその時点で保護者に声を掛け、一緒に状態確認をしてもらうよう、また、それらの一連について記録を残すよう職員に周知徹底を行う。	1.いつもどおりの様子であった	当日、お迎えが最後であったこともあり、ママが見えると嬉しそう(ママ～!!)と叫びながら、自分の荷物（通園リュック、お着替えカバン）を持って（引きずって）、歩行を引くことなく保護者のもとへ向かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	部屋の入口に立ち、当該児童が保育室からおよそ15cmの段差を降りて保護者のもとに行き、靴を履かせてもらう為に近距離で見守っていた。靴を履き終わり、児童が歩き出したところ、歩行の様子の異変（跛行）があったため、保護者に歩き方が気になる旨を伝える。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内にいたが、保育室の窓のカギ締めや、清掃をしており直接的には見ていなかった。	お迎えが最後になってしまっていた状況から、窓のカギ締めや清掃をしている様子を見た保護者が焦ってしまっていた事も考えられる。保護者がかどりを持って子どもを迎え入れられるよう、職員も最後の子どもをしっかりと送り出してから片付け業務にあたるべきであったと思う。	園児の送り出しの際にもしっかりと観察を行い、何か気になる、違和感がある場合にはその時点で保護者に声を掛け、一緒に状態確認をしてもらうよう、また、それらの一連について記録を残すよう職員に周知徹底を行う。	
10366	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20								2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	運動会に向けて、いろいろな事に挑戦しようと意欲的な姿があった。	毎年運動会で取り組んでいるが、保育士は慣例の意識を持たないようにし、毎回・その都度怪我の発生に留意する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	4		設置・至近での見守りなど、跳び箱の使用については適切であった。	1.集団活動中・見守りあり	運動会に向けて、いろいろな事に挑戦しようと意欲的な姿があった。	跳び箱での怪我について、クラスの子どもたちに知らせ、危険について共有する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	跳べるようになりたくて何度も集中して練習していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	運動会に向かって跳び箱の練習をしていて、跳べたり跳べなかったりしていたので、本児は何度も挑戦していた。母親が来ても帰ろうとせず、担任が最後の一回にしようと声をかけ見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	声をかけて見守っていた。	運動会に向けて、いろいろな事に挑戦しようと意欲的な姿があった。	適切な使用だったが、怪我発生の可能性があることを再認識する。	
10367	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故防止マニュアルでは遊具などの１つ１つの具体的なマニュアルはなし。	運動時、遊具使用の際の事故の具体的なマニュアルを考えていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	今回のケースではハード面での問題はないと考える。	跳び箱をする直前は破損がないか、ぐらぐらしていないかなど確認していた。	1.集団活動中・見守りあり	今回のケースでは職員がすぐそばについて介助していたので問題なしと考える。	研修をうけた保育士がそばにつき介助していた。今後も遊具、跳び箱など使用の際は必ず、そばにつき見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどうりに登園、元気にすごしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	一人づつ、跳び箱を跳ぶとき、保育士が横に付きそい補助してた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４歳児クラス２名でみていた。跳び箱が2台あり、対象児と別の跳び箱の園児のほうについて介助していたので、見ていなかった。	跳び箱を飛び越えるとき、とびこえられなそうだったので、少しお尻を、保育士が押したことで、変な姿勢で落下してしまった。跳べない園児が押されることで、こわさがでる場合もある。	跳び箱の補助は保育士が手をくわえず、見守ることにする。跳べない場合は、段を１段下げるなどの工夫をする。	
10368	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70				#	#	#		3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	大型遊具での職員配置が不十分だった	大型遊具への最低1名の職員配置	2.不定期に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	60	木製遊具の木の継ぎ目につまずいた。	安全基準承認の大型遊具のため改善点なし。点検は今後も行う。	3.個人活動中・見守りあり	保護者対応をする中だったので子どもへの見守り人数が不足だった。大型遊具遊具の上では走らない約束が守られていなかった。	その時間の担当保育士を一人増員。園児に遊びの約束を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りで過ごしていた。4時以降の外遊びに開放感があり、5人の友達と一緒に鬼ごっこを始める。盛り上がった遊びの中で大型遊具の回遊部分を走り回りより高揚感をもってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	大型遊具から少し離れたところで他の数人の子どもの遊びを見守っていたので本児の動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・お迎えに来た保護者に対応していたので本児の動きは見ていなかった・大型遊具から離れたところで他の子どもと共に一緒に遊んでいたので他の動きは見ていなかった。	園庭での合同保育のなかで保育士の意識不足・子どもの特性の理解不足	数人の遊びの中に保育士が混ざらず視野を広げて子どもの動きに気を配るなどのリスクコントロールを職員間で話し合い共有した。	
10369	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77				#	#	#		5	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	大人がお互いに声を掛けずにその場を離れてしまった	お互いに大人が声を掛け合い必ず危険な場所に立つようにする	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	鉄棒で遊ぶ際のルールが徹底されていなかった	鉄棒で遊ぶ際のルールを伝え周知する	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒を使用する際に声を掛けたり、大人がその場にいて子ども同士の関わり方に目を配ればよかった	鉄棒の使用の仕方を伝えながら、必ずその場に大人が立ち見守る	1.いつもどおりの様子であった	元々気になる子にしつこく付いて回ることがあった。この日も年長男児の傍に付きまとっていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒エリアで遊びを見守っていたが、物をとる為にその場を離れてしまった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具の場所を見守っていた為近くにいなかった	大人がお互いに声を掛け合いその場を離れないようにすべきだった	大人がお互いに声を掛け合いその場に必ず大人がいるよう配慮する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10370	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	28									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	室内での遊びの際に近くにいる友達の存在に気づけず、夢中になって走り回ってしまった。	室内での遊び方について丁寧に繰り返し指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施			定期点検を厳しい目で行い、異常があれば速やかに対応し、修理修繕を行う。	1.集団活動中・見守りあり		個人を見ているとき周囲に気を配り、必要に応じて注意喚起や指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人の職員が複数の園児を見ているため、その瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も近くにはいたが、複数の園児を見ていたため、その瞬間は見ていなかった。		常時園児から目を離さず、危険を感じさせる場面があれば、即止めさせる。	
10371	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左目上擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	遊びに夢中になり、逃げようとして目の前の鉄棒が視界に入らなかった。	園庭での遊び方について、様々な職員が随時話す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施			定期点検を厳しい目で行い、異常があれば速やかに対応し、修理修繕を行う。	1.集団活動中・見守りあり		個人を見ているとき周囲に気を配り、必要に応じて注意喚起や指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	複数の園児を見ていたため、事故の瞬間は他の園児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数の職員で複数の園児を見ていたため、周囲の職員も事故の瞬間は見ていなかった。		常時園児から目を離さず、危険を感じさせる場面があれば、即止めさせる。	
10372	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折 全治3か月	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	こどものやりたい気持ちに寄り添いながら保育する中で、どこで遊びを中断させて良いのか新任保育者が迷う。	職員全体で遊びの見直しを行う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	本来登る場所ではない所に入っていた。人工芝が砂で埋まっている。	隙間に入れないようにする。砂を掃き出す。	1.集団活動中・見守りあり	直前に行為を見ていた担任がそばを離れた。	危険な遊びや、危険個所をこどもと確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から、ままごと用の家の中での遊びを好みそこで遊ぶ事が多かったが、今まではそこに登る事はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児に「危ないよ。気を付けて」と声を掛け、他児に呼ばれ1メートル横に移動し、一緒に高い遊具に登っていた。その他の担任は他児の対応。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で遊ぶ子を見守っていた。	担任1名が休みだった為、フリーの保育教諭が他クラスと一緒に見守りをしていた。	新型コロナ感染関連で、通常より保育者の数が少なかったので、より注意深く見守る必要があった。	
10373	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	19									5	5	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	裸足での遊びの制限を見直す。	職員全体で遊びの見直しを行う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	滑り台の下に人工芝が敷いてあるが、硬さがある。	着地地点にクッション性のあるものを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	担任はそれぞれ近くにはいたが、他児の対応で着地場所にいなかった。	裸足で滑り台は滑らないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	何度も滑り台を楽しむ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の上から他児を見ながら滑り出しを援助。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で遊ぶ子をそれぞれ援助していた。	担任プラス1名で保育にあたっているが園庭に出てこどもたちが散らばってしまうと、援助がしきれなくなってしまう。	園庭に出ている職員全員で丁寧に見守る。	
10374	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									4	3	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節の剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	職員配置数を増やすべきであった。	園児と一緒に参加する職員と、見守り係の職員を配置する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭が滑りやすい箇所がある。	活動の前に園庭の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	集団で動くため密集しやすかった。	密集しないように声をかけたり、人数を減らすなどの工夫をすべきであった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこで開放的になり走ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と一緒に動いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の動きも見ていたが、ひどく痛がる様子は見られなかった。	痛みが徐々に現れ対象児の変化や訴えが無かったため、発見が遅くなってしまった。	活発に動く時はよく園児の様子を見ておく。	
10375	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									0	0	16.4歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	園児引き渡し後、母親が他の保護者と話をしていて本児を放任していた。	引き渡し後は速やかに降園するよう再度掲示し注意を促した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	植え込みを越えてフェンスに上った。	植え込みの中に入らないよう柵と看板を設置。	7.その他	降園中、母親が本児から目を離していた。	園児引き渡し後は速やかに帰るよう促している。	1.いつもどおりの様子であった	母親がほかの母親と話していたため、他の数人の降園中の園児と一緒に遊び始めた。			2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関内で保護者に園児を引き渡していた。		引き渡し後再度職員が見回りを実施する。	
10376	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3					1	2			1	1	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置		子どもの情緒やその時の状態に合わせて遊びの範囲を設定するなど、これまで以上に危機管理を意識した保育を心がける。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施			砂場の扉は子ども達が開閉できないようにに鍵を取り付け、外遊びの時間は開けた状態で施錠固定することとした。	3.個人活動中・見守りあり		–	–	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他児の相手をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者はその他2名いたのだが、1人はお漏らししてしまった園児の着替え介助をしており、もう1人はお迎えに来た他児の保護者に対応していた。	保育者はその他2名いたのだが、1人はお漏らししてしまった園児の着替え介助をしており、もう1人はお迎えに来た他児の保護者に対応していた。	・子どもの情緒やその時の状態に合わせて遊びの範囲を設定するなど、これまで以上に危機管理を意識した保育を心がける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他												実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10377	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20								2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	運動会に向けて例年この時期に取り組む活動だったが、それに向けての研修は行っていなかった。	直前に運動会に向けての活動に特化した研修を行う。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	取り組み始めたばかりの活動だったため、高さもまだなく、飛び方も安定していたが、着地の際にバランスを崩して手をついたようだ。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	１人ずつ行う活動だったため、本児が上る板を支えていた２名の保育士がおり、手が届く状態だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任２名以外は室内にはいなかった。	特になし	この活動を行う場合は、補助の職員をつけることとする。	
10378	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	0	0	0	19	3			3	3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	該当なし	怪我をさせない意識の改善が必要	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	着替えが済んだ子や着替えがない子の過ごし方が明確ではなかった。子どもたちが動き出す前に約束事や活動の話しがで来ていなかった。	着替えがない子は●●(1階ロッカー室)には降りず、室内遊びに入れるようにする。また、着替えが終わった子の待ち時間が自由時間にならないよう工夫する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	４歳児でお泊り保育に不参加だった数名が３歳児と一緒に着替えて●●(1階ロッカー室)に下りたが、本児が着替えがなく待ち時間になってしまっていた。座っておらず、座るよう声はかけていたが歩き回っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎えの時間とも重なっており、１名はエントランスで送り出しをしながら、もう１名が●●にいたが、着替えが済んでいない子の援助をしており、待っている子へ声はかけていたが、落ち着いて座って待っていられるよう促せていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他１名途中から援助に入った職員もいたが、着替えの援助の方に入ってしまった。	４・５歳児が園外保育に出ており、普段と違う状況だったため保育士の配置について詳細な打合せ不足だった。	事前に職員の配置や担当を打ち合わせる。着替えの流れを見直す。	
10379	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	0	1	0	4	0	0	0	4	4	15.3歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上開放骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	土曜日の受け入れ時間帯は、園児に保護者や保育士の目が届かない時間が発生しやすい。	土曜日の受け入れ時間帯は、特に保護者と保育士の間で園児の受け渡しの確認をしっかり行う。保育士や保護者の目が届かない時間帯をなくす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ジャングル滑り台（高さ７０cm、幅７０cm、長さ１３６cm木製で長方形）にネジのゆるみや破損はなかった。	ホールでは園児を一人で遊ばせない。落下の危険性のある遊具では大人の見守りが大事。大型遊具の点検を強化する。	4.個人活動中・子どものみ	土曜日の朝の受け入れ時間帯で、受入園児は少ないので、平日以上に園児に対する注意が必要だった。	登園時、保護者から園児の受け入れをしっかりと確認して、園児に保護者・保育士の目が行き届くようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	休み明けの久しぶりの土曜日保育で当該園児のテンションが高かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当保育士は、受け入れの準備等で当該園児の動きから目を離した時間帯があった。近くにいた保育士は大型遊具が死角になり目が行き届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールの近くにいた保育士は、他の園児の世話をしていたので、当該園児を見ていない時間があった。	特になし	受け入れをする段階で当該園児の様子が少しおかしい（テンションが高い）と感じた時点で、当該園児が見える場所に保育士がいるべきであった。視界には入れなかったら様子を見るべきであった。ホールの大型遊具での遊びは、落下の危険もあるので、保育士の目が届くようにする。死角にならないよう注意して、保育士の目が行き届くよう注意する。	
10380	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	1	0	11	0	0	0	0	3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	職員の危険予測や危機管理を高めるための情報共有、認識及び共通認識が不足していた。	年齢ごとの具体的な事例を挙げた「危機対応チェックリスト」を全職員が毎月各自でチェックし、共通認識のもと危機対応、事故防止ができるようにする。チェック後のリストの振り返りを職員会議時に行い、個々の危機管理意識の底上げと保育の基本の徹底の確認を行う。さらにクループでの園内研修や外部研修の機会をさがし参加し、事故防止への共通理解を深める。事故簿は月間の振り返りを各自で行い、園内で改善策の討議を行い、事故防止への取り組みをアップデートし、また、これまで発表、主任ガクスを巡回し、危険な場面等の、応援はその都度、現場にあわせて声を掛けて見たが、今後はさらに現場を見やっていく。保育中に気づいた情報は、事例の様式で記録を残しているが、改善点を洗出して、さらに？等に振り返りを行うとともに、ヒヤリハットの関連をあわ、再発防止に努める。職員の情報共有ツールとしてミーティングノートを使用し、事故等の注意喚起を行ってきたが、今後も継続し、こまめに情報をあげ、危機管理への意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭の地面の材質がかたい	材質については本部と検討中。（芝生などを検討中）	1.集団活動中・見守りあり	降雨の気配があり、園庭にいた０歳児、２歳児が同時に入室、片付けなどを行っている状況で、２歳児にランニングを促してしまっている。２歳児全員がまとまってランニングをしていたわけではなく、園庭に点在していた。加えて保育室にまだ戻っていない０歳児も園庭に１名おり、（０歳児担任は１名園庭に残っていた。保育室に戻るフォローを２歳児担任が行った）、広さに限りのある園庭において０歳児と２歳児が混在している中で２歳児が	園庭の使用時間をグループごとで決め、年齢ごとの遊びが職員の見守りの中で安全にできるようにするとともに、園庭にいるすべての職員が園庭にいるこどもの安全を見守る体制をつくる。異年齢児が混在する時間及びクラスの入れ替え時は遊びの内容を工夫し、異年齢児間で衝突などのけがや見失いなどが発生しないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児と仲の良い園児を手をつないで遊んでいた。両手をつないで遊んでいる姿もあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	２歳児が砂遊び後に園庭をランニングする予定であったが、全員が走っていた訳ではなく、こどもは点在していた。また、園庭遊びをしていた０歳児クラスの園児が１名園庭に残っており（０歳児担任は園庭にいた）、ランニングをしようとする２歳児との衝突を避けようと０歳児保育室に戻るフォローをしていた。０歳児のフォローに入る際、ほかの職員に声を掛けていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ランニングをしていなかった２歳児に話しかけられ、そちらの対応をしていた。また、もう一人の職員が０歳児が保育室に戻るフォローをしていることに気づいていなかった。		現時点では、職員が多くの、危険予測ができるように年齢ごとに予想される行動や安全の確保を定められるよう、また、常に園児全体を見守る意識を持つ。自分がその場から離れるときは声を掛けるなど保育の基本、連携の徹底を徹底するよう、形式（ソフト面）のチェックリストを用いて自己の保育の振り返りをし、後にスタッフからもよびかけるようにする。さらに、日々、保育室内で整頓、相談、連絡を意識した保育を徹底させる。職員の現点での見守りが実現できるような職員体制をやる。職員、主任のクラス巡回の機会をこれまでよりさらに増やし、危険な場面を発見した時点その都度職員に情報を提供し、その場で指導を行う。園内で発生したけがについては、「保育中の怪我の記録」に記録していくが、今後はけがに至る前の危険の、再発防止に努めるとともに、ヒヤリハットの積重ねとけがしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事				事故状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	負傷	診断名							実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
																						死因	負傷状況	受傷部位				アルの有無																										
10381	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	9	2.基準配置	子どもの特徴や起こりうる事故の予測を立てた上で、シミュレーションや危険な場面を想定し職員と意見交換し研修していく。	子どもの特徴や起こりうる事故の予測が足りなかった。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	今回の事故は 玩具や設備等に起因する事例ではなかったため事故の予測が不足していた。	机上の遊びではない遊びを室内でしている際は、スペースの確保や状況により違う遊びに誘い危険のないように声掛けや見守りを行う。	3.個人活動中・見守りあり	フリーの保育者であったため、本児の動きを予測しきれていなかった。危険は予測していたものの、“大丈夫だろう”と思い距離を取り見守っていた。	少しでも危険を予測できた際には、子どもに声掛けや注意を促す及び、手の届く位置に付く等の援助を行う。	1.いつもどおりの様子であった	遊び始めは子ども同士のじゃれ合いであったが、お互い気持ちが高揚したことで動きが大きくなり危険が伴う遊びとなった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども同士が近くで遊んでいることは把握していたが、5歳児であり、互いの距離や力加減をコントロールして遊べるだろうと予測し距離を置いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任は会議に参加しており、保育者は一人で保育に当たっていた。	担任ではなく、フリーの保育士が保育を担当していた。	担任以外が保育に携わる際は、子どもの特徴やクラスの様子など引き継ぐ。	
10382	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	26									3	2	16.4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	遊びの時の準備体操などを、よりしっかり行い遊びに入れるように出来ていたら防止に繋がると考えられる。	遊びに移る前の準備体操をしっかり行えること、遊びの際の注意事項は細かく伝えつつ、職員が声掛けで早めに危険を周知できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	2階ホールで運動時、ソフト積み木での遊ぶ際の注意や準備運動を入念に行うなどの対応を考慮する必要があった	遊ぶ際の転んだりなどの想定を踏まえた、手首足首など準備体操や遊ぶ前の運動を取り入れていく。	1.集団活動中・見守りあり	午後夕方という事もあり、疲れが出始める時間でもあったので、より注意が必要な時間帯だった。	夕方という時間帯を考慮して、準備体操や転倒予防の言葉がけを注意して行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	隣でソフトブロックに乗って遊んでいるグループを見て、やってみたくなった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児とは少し離れた場所（5mほど）にて他児と遊びつつ、集団を見ていたため対象児が転倒する際に手を差し伸べられなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児とは少し離れた場所（5mほど）にて他児と遊びつつ、集団を見ていたため対象児が転倒する際に手を差し伸べられなかった。	ソフトブロックで、乗って遊ぶという想定をしてみる場所を考慮することは出来たとは思われる。	もしもの危険への考慮を踏まえた中で遊びの展開が出来るように、職員同士の声掛けや立ち位置をふまえ保育にあたる。	
10383	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	26									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	毎日		保護者や園児に対する注意喚起が必要であった。	保護者に対し、自由行動中であっても安全な行動を心がけるよう注意を促す。また、上記事故防止マニュアル等は園外保育時の反映がされていないため、内容の反映について検討する。							設備に関する危険性は存在しなかったと思われる。	保護者に対し、自由行動中であっても危険な箇所への立ち入り等には気を付けるよう注意を促す。	7.その他	保護者への注意喚起が必要であった。	自由行動中に事故が発生したことを事例として取り上げ、保護者への注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	保護者と一緒に行動するバスに乗る前や乗っている間の様子,は特に普段と違う様子は見られなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	親子で自由行動中であり、保育士は見回りで牧場内を歩いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	親子で自由行動中であり、保育士は見回りで牧場内を歩いていた。	見回りで場内を確認していたものの、すべての親子の自由行動状況を把握することは困難であった。	職員も可能な限り見回りを行う。	
10384	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	24									3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	園外にでかけて行く際は、現地の下見も含めて行っているが思いもよらぬ状況があるということをこの経験からも伝えていきたい。	園外へ出かけて行く前に今一度危険個所の有無を子どもたちと一緒に考える。							該当なし	園外活動であるため該当なし。	1.集団活動中・見守りあり		園外保育で慣れぬ公園だった為、本児も遊具の扱いにも不慣れだったことにより思わぬバランスを崩したことによりなかに驚がってしまったと思われる。今後引率保育者もその点を踏まえより意識を高め見守っていくよう事前周知していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもとは違う園外活動だったので少し高揚感はあった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.5メートルほど離れたすべり台の下にいて本児の様子は視野に入っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの立ち位置で周辺児及び全体を見渡していた。		慣れぬ公園だった為、遊具の使い方など初めに説明しながら子どもたちと確認し合ったが起こりうる危険性をより具体的に伝える必要性を改めて感じました。	
10385	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	4	3	3	0	0	0	0		4	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(橈骨遠位端骨折)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	要保護児童であり、成長過程でのけがも想定されるが落ち着きのない行動があり、目を離せない。	研修時の個別事例検討に加え、職員の意識を高める。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	実施頻度：外出時	1.定期的に実施	毎日	フローリングのため、転倒時にケガがおきやすい。	フローリング上にパズルマットを敷く。	6.食事(おやつ)中	全員がおやつ終了までは着席させる。	おやつを食べ終わるまで離席させないスケジュール変更。	1.いつもどおりの様子であった	好きな絵本を取りに走っていった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	まだおやつが終了していなかったので、その対応をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離席後、走らないように声をかけたが間に合わず、転んでしまった。	他児の多くがおやつ中だったので、離席しても追うことができなかった。	全員でのおやつ終了の挨拶をしてから離席する・スタッフの増員の検討	
10386	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21	0	0	0	6	6	9	0		4	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	特になし。	今回の事例を周知し、ゴザやマットの使い方を職員間で検討する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	園庭でゴザを使用する時は靴を脱ぐことしていた。	園庭で複数のクラスが遊ぶ際は、それぞれの子どもたちの遊びを保障しつつ、危険がないよう環境を整える。	3.個人活動中・見守りあり	靴下で遊んでいたため、滑りやすくなっていた。	ゴザやマットの上は靴を脱いで遊ぶことになっていたが、今回のように靴下で滑ってしまうことや靴の着脱の際、リスクを考え靴を履いたままでよいこととした。	1.いつもどおりの様子であった	本児はいつもの遊びを、他児たちと一緒に楽しんでいた。じゃれあい遊びであり、戦いごっこのような動きの大きい遊びではなく、トラブルもなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭での自由遊びだったため、子どもたちが何をして遊んでいるのかを把握し、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの担任は、自分のクラスの子どもたちを見ていたり、送迎の保護者と対応をしていた。	送迎時間帯のため保護者対応などで子どもから目が離れてしまうことが多い。また子どもたちも人の出入りを気にする子で落ち着きがなくなる子もいる。	保護者対応をしている職員の位置を他の職員が把握し、対応できるように徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10387	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ 複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1，2	1.基準以上配置	なし	子どもたちに正しい遊具の使い方を伝える。鉄棒を使用する際には保育士がそばについていたが、勢いがつきすぎると危険ということを再度子どもたちにも伝え、遊具を使っている状態をよく把握する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鉄棒は高さが６５センチ程度。得意で普段からかかわっており、上手だったので、本児にも職員にも過信があったのではないかと考える。	勢いがつきすぎる際は止める。	3.個人活動中・見守りあり	普段から鉄棒は得意で良くかかわっており、警戒心が薄くなっていた。	過信せずに、常に注意深く援助をする。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り登園し、普段から活発な様子が多い	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒で遊ぶ園児をみていた。該当児の他にもう一人おり、２名をみているようなたいであった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒にいたが、勢いがつきすぎたようで止められなかった。	普段から遊んでいた遊具であったため、過信のためか勢いがつきすぎた。	鉄棒はしっかり棒をもってかかわることを伝え、少しでも危険が感じられたらすぐ止める。	
10388	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47	0	0	14	12	13	8	0	5	5	17.5歳	1.男児	健康状態は良好である。多動傾向がある。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	子どもの発達の特性に応じた適切な指導の徹底不足	保育士の立ち位置や言葉のかけ方(危険な行動を制止する等)等を見直し、全職員が共有する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	ブランコまわりの柵が簡易的な物(鉄製の杭8本に紐を張ったもの)であった。	柵を安全な物に変更する。	3.個人活動中・見守りあり	集中して遊べる環境が作れていない。	子どもの発達に応じた遊びの制約やルールの徹底等の安全管理、遊び環境の充実に努める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	外遊びの際、興味をもてるような遊びがなく、遊びの場を転々としていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコに乗っている子どもについていた。対象児が柵をまたいで遊び始めたが、制止できずそのまま転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ活動の場での出来事であったが、制止が間に合わなかった。	楽しめる遊びが見つけられず、いろいろな場所を探索している様子であった。	集中して遊べるような遊び、コーナーの充実に努める。	
10389	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	発表会のリハーサル後の為、子どもたちのテンションが高くなっていた上に、体は少し疲れていた。そのような状況で本児の注意力も散漫になっていた。	子どもたちの様子を見て、机上あそび等ゆっくりと落ち着いて遊べるようにしていく	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	その都度	1.定期的に実施	毎日	フラフープに欠陥はなかったが、遊び方や起こりうる危険についてを知らせていなかった	室内で使用する遊具に適しているか、子どもたちの様子も考えて、使用する時間帯を配慮する	1.集団活動中・見守りあり	室内を半分に分けた状態でフラフープ遊びをしており、十分なスペースを確保出来ていなかった。その近くで保育士が部屋の片付けをしていた。	室内での体を動かす遊具は、十分なスペースが確保できる場合にする。	1.いつもどおりの様子であった	本児は電車に見立てて一つのフラフープの中に入り、両手で持っていた。そのまま、床にフラフープで作られたケンケンパのコースと保育室の壁の間を小走りし、滑って転倒する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内にて、隣のクラスとの境のパーテーションを開けて発表会のリハーサルで使用した物品を片付けつつ見守っていたが、事故時は隣のクラスの職員と話していて見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任の他に、パート職員1名が、隣のクラスとの境にいたが、天井にクリスマス装飾の飾りつけをしていた為に見ていなかった	担任が片付けをしたり、他の職員との会話をしたり、子どもたちから目を離す時間があった。子どもたちの様子から、この時間帯に片づける必要がなかったと思われる。	常に全体を見渡し、危険と感じる遊びをしていたら声を掛けられるようにする。また職員間での共有や物品の片付けは、子どもたちの状況を見て、落ち着いている時間帯に行う。	
10390	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	なし	園の事故報告書を作成、職員に共有する。更に、園庭での約束や遊び方のマニュアルを職員会議にて改訂し周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	転んだ場所に大きな石や枝が落ちていなかったか確認したが、特になかった。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの中でタイヤの上でケンケンしてころんだ。	タイヤの上でケンケンは危険である事を子どもたちに周知し、注意して見ていく。	1.いつもどおりの様子であった	本児含め５名でかけっこをしていた。その後ウッドデッキで座って過ごす。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体が見まわせる場所で、見守りを行っていた。全体でどんな遊びが展開されていたか把握はできていたが、反対側から子どもに話しかけられ対応していた時だったため、転ぶ様子は見られていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他学年の入室対応を行っていた。（年長児に入室するよう声をかけて回っていた。）	他の対応に当たっていたため、見えていなかった。	見守りをする保育士は、特定の園児に関わっていたとしても全体への注意を怠らないようにする。	
10391	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15								2	2	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	内側楔状骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	該当なし	該当なし	7.その他	・子どもへの配慮不足（言葉掛け、予測） ・加害側の子どもが担任２名とも視野に入っていなかった	・子どもたちの歩く導線を改善する。 ・クラス内の配置を改善し、広く過ごせるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児：上履きをぬいで着替えのため待機していた。 他児：待機している本児のところへ遅れて小走りできて誤って踏んでしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児へ着替えを促している時に視野に入っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食後の清掃にかかっていたため視野に入っていなかった。	・園児同士の間隔が少し狭かった	・着替えの際、園児の間隔を広めにし、スペースに余裕を持つ ・保育士の立ち位置や体の向きなど広く見渡せるよう配慮する	
10392	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	14								3	2	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	この日は、誕生会で他クラスと合同での時間、座って会を見て参加することが主であった上に、次の活動も室内で発表会に向けての練習時間となった。遊びながらの練習とはいえ子どもたちにとっては開放的に遊べる環境がなかった。	子どもたちにとっての心身共に楽しく遊べる環境を確保する為 室内と園外や静と動の活動のバランスを取れるよう保育の質を確保していく。	1.いつもどおりの様子であった	興味・関心・好奇心が高く活発に行動をする姿があり、当日も同様。 ４０分程、誕生会に参加をし自由に遊びたい、動きたい欲が高まっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	マットに座り、保育士の話を聞き輪にいる子どもたちに保育者３人が付き他に興味を持ち動いている子に援助を行わず、目で追ったり、目を離してしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	マットに座り、保育士の話を聞き輪にいる子どもたちに保育者３人が付き他に興味を持ち動いている子に援助を行わず、目で追ったり、目を離してしまっていた。	子どもの特性や子どもたちが求めている活動内容の理解不足。また、見守りと言う援助の理解度。ヒヤリハット・危険箇所からの予測が立てられていないことが、保育に反映されてしまった。	園内外においてのヒヤリハット周知を再度行う。保育士としてのクラス運営、子どもたちの興味関心好奇心を満たせる保育の展開を含め、保育の質を高めていけるよう指導します。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10393	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13									3	3	14.2歳	2.女児	雨天により、室内遊び	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足人差し指、第2関節部骨折（かけた状態）他、爪の部分から膿が出ている（化膿）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置	事故発生予防に関するマニュアルがなかった	事故発生防止のための指針等を園内でまとめ周知していく保健衛生に関する研修を保育士も受講するクラス担任保育士は子どもの小さな変化に気づいたら声に出し周りへ発信していく	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	関連すると思われる要因なし	引き続き安全点検を行っていく	1.集団活動中・見守りあり	関連すると思われる要因なしおやつや活動中に人員を要する時は、フリー保育士や主任保育士等が保育に入り調整している本児にとって通常階段昇降、座登り、牛乳パックブロック（高さ約7cm）から下りる運動は年齢的に不適切ではない	子どもの出席状況、活動内容に合わせて引き続き人員調整していく	1.いつもどおりの様子であった	階段昇降、牛乳パックブロックの上り下り	2.対象児の至近で対象児を見ていた	階段昇降時は保育士が一対一で対応していた主任保育士が本児のすぐそばにおり、牛乳パックブロックから下りる様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	主任保育士以外の保育士は、おやつの介助を行っていた担任がおやつ介助中のため主任保育士と看護師で処置をしたが、情報が不足していた	保護者との情報共有不足職員間での情報共有不足	担任保育士は今回の受傷以前より受け入れ直後に全身を確認しているが、受け入れ時に怪我の部位を保護者と保育士で確認する自宅での受傷と関連性があるかは不明だが、休日の受傷時一緒にいた保護者（今回は父）に確認し、活動内容に配慮が必要かどうか保護者とも相談する	
10394	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足外くるぶし外骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	なし	園庭で遊ぶ場面ではなるべく二人体制にする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	12	なし	該当無し	1.集団活動中・見守りあり	なし	該当無し	1.いつもどおりの様子であった	・友達と機嫌よく鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・クラス全体の園児の動きを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他職員は自クラスの保育にあたっていた為。	なし	・事故の事例を園児にわかりやすく伝え定期的に事故予防の安全教育を行う。	
10395	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	0	0	0	0	5	10			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	地面に置いていたマーカーにのって足を取られたための転倒	マーカーの使い方の見直し	2.不定期に実施		1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	園庭が狭いため	園庭遊びの人数の制限	1.集団活動中・見守りあり	狭い園庭でのリレー遊びにはスペースが充分ではなかった	充分なスペースの確保	1.いつもどおりの様子であった	リレー遊びに意欲的だった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びの道具片付けに注意を向けていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児もいたのでそちらへ注意が向いていた	リレー遊びの園児の見守りが出来ない立ち位置になってしまっていた	全体を見渡せるように担当者の立ち位置の確認	
10396	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22									4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	－	・今後も継続してマニュアルの確認を行い、職員全員が内容を共有する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	その都度	－	施設、設備等が原因の事故を防止するため、今後も継続して点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	他児との距離が近く、ぶつかってもおかしくないような環境であった。	一斉に走り出す人数を調整し、ぶつかる危険性やつまずく可能性を低くする。	1.いつもどおりの様子であった	かけっこをするため、走る準備を友達と並びながらしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタート位置から少し離れた場所から、「よーいスタート」の合図の掛け声をかけた。転んだ瞬間は、すぐに本児に駆け寄りどこか痛いところがないか等を問う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士４名のうち２名は、保育室前の園庭で遊ぶ子どもの見守りを行っており、もう1名はかけっこの見守りを行っていた。他１名は保育室で給食の準備をしていた。	その場ですぐに目診を行ったが、特に痛みを訴えなかったため、流水で処置をした。また、事故当時は顔を側めた怪我のみの認識だったため、副園長や看護師にすぐに報告をしなかった。（園長不在のため副園長に報告する日だった）	転んだ際、いつもよりも長く泣いていた。そういった普段との小さな違いや変化に気づき対応する。また、副園長等に報告するとも に、保護者に連絡し受診の判断を仰ぐようにする。	
10397	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	18.6歳	2.女児	サッカーボールでキャッチボールをしたため。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左5指中筋骨々折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	保育士が遊具の選択と早期発見をしなかったため	子どもと遊具にはそれぞれ適したものがあることを確認。職員にも子ども達が適正な使い方をしているか、観察するように周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ボールの選別をしておく	保育計画時に用品を分別する	3.個人活動中・見守りあり	サッカーボールはキャッチボールには不向きであるので、特性を知ること	必要に応じて分別しておく	1.いつもどおりの様子であった	交通安全指導で園外にでていたため気持ちが高ぶっていたこともあり、そのため今回の負傷に繋がったのではないかと思います。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	４、５歳児のリレー遊びについていた。その場から対象児の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	個別な支援が必要な子どもについていた。時々周辺の子どもの対応をしていた。	園庭には2クラスのみだったので、広々と園庭を使っていた。そのため多少ボールを投げても他児にぶつかることはないと感じたのかもしれない。	無理な距離をとらないようにしボールの扱い方を考えるように指導する	
10398	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1，2	1.基準以上配置		子どもたちに正しい遊具の使い方を伝える。高さのある遊具を使用する際には保育者がそばにつくようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具がやや高さがあるが、年長児は日々その上に座って話をしたりままごとをしたりしている。	慎重に上り下りするよう に伝える。	3.個人活動中・見守りあり	普段から登っている遊具であったため、警戒心が薄くなっていた。	過信せずに、高さのある遊具で遊ぶ際には職員がそばにつく。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り登園し、園庭で友人と追いかけっこやままごとをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具に座った子の後ろ側に位置し、当該園児が座ろうとジャンプした際、勢いがつきすぎ、抱えられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄他児と追いかけっこなどして遊んでいた。	普段から遊んでいた遊具であったため、普段通りに登るつもりだったが勢いがつきすぎた。	上り下りは慎重に行うこと。保育士がそばに行き行うようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事			発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																												実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10399	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31				18	13		5	3	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節果外骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	職員は研修を受け、事故防止会議等、定期的に行い注意喚起を行っている。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	特になし	定期的に安全点検等を行っており、砂場内の異物もなく、砂も十分にあった。	1.集団活動中・見守りあり	周りに遊具等障害になるものはなく、友達が掘った穴が１５cmと深く、遊んでいたところバランスを崩して転倒した。	子ども達とも穴掘りで遊ぶ際には、自分たちも落ちて足を痛めたり、怪我に繋がることもあることを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	所庭で砂遊びをしていた。友達が掘った溝（深さ１５cm、幅１３cm、長さ５０cm）に自分の左足を入れて遊んでいたところ、左足を捻り負傷した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	発生時は、一番近くにいた職員は、砂場と所庭が見える場所にいて目視で確認するのみであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４歳児職員： 保育士A 鉄棒の援助をしていた 保育従事者B、子どもとボールけりをしていた ５歳児職員： 保育士C 子どもと鬼ごっこをしていた 保育従事者D 長縄を回していた	職員は充分にいたが、所庭全体を把握できるような配置の連携が取れていなかった。	担当クラスだけで見守るのでなく、職員同士で声を掛け合い、全体で子どもの様子が把握できるように職員の立ち位置を声に出して確認し合う。	
10400	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11							1	1	18.6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	保護者と一緒に行動していたため園として予測は困難であった。	ルールを細かく決める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	5	草刈り直後で地面も乾いており、段差などなくつまずく要因はなかった。	引き続き安全対策に努める。	1.集団活動中・見守りあり	体の動き	曲がる時には走るスピードを落とすように声をかける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保護者参加行事でいつもより興奮気味であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	危険な様子はなく、保護者も近くにいたため問題はなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	親子活動のコーナーの担当をしていた。	全体を見る職員が必要だったか。	役割分担をしっかり確認する。	
10401	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				9	6	8			16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通課骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	なし	研修の強化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	ウッドデッキ下（コンクリート）にゴムクッション材を使用していたが、ソフトクッション材に変更した。	1.集団活動中・見守りあり	滑り台の逆上りがなければ普段立たない転落した位置には行かなかった可能性がある。遊びのルールを伝え、守れるように説明する。	遊びのルールを守るように説明、指導する。転落場所にクッション材を必ず設置する。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離に保育士がいたが、転落時の瞬間はみれなかった（防犯カメラで確認した）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	４名の保育士が園庭の４か所に配置し見守っていたので配置位置は問題ないと考えられる。	なし	危険個所の注意喚起の強化	
10402	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	40							2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～5	2.基準配置	園庭で遊ぶ前のルール徹底不足周知不足	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン・園児を事故・災害から守る安全対策手引き	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	264	1.定期的に実施	12	環境に合わせた遊びの設定	環境設定の確認シートの作成周知	1.集団活動中・見守りあり	環境に合わせた遊びの設定	十分な広さ 安全性の確保 遊びの内容精査	1.いつもどおりの様子であった	体調不良なく7 時30 分に登園し、通常どおり保育をうけていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体が見える位置にはいたが、転倒を防ぐことが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいた。	中あてで遊ぶ子供の人数設定場所には多かった。	子供の状況をよくみる。遊びを見て危険予測をして見守る。人数設定の見直しをする。	
10403	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	7							2	2	14.2歳	1.男児	R●.● 左ひじ肘内障 R●.●.● 左ひじ肘内障	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	子どもから目を離していた 活動の切り替え時、自由に動ける状態だったビニールがな範囲にしかれていた。ほかの保育者が見ていると思ってしまった 走る柳の成る子供だった	活動切り替え時、子どもが座ってすごせるようにする 常に全体の動きを把握し、職員間で連携をとる	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	おしっこ漏れ等は消毒後に大きなビニールで覆っていた 今回は広範囲だったのでいつもと違う小さなビニールを使用する	消毒後はビニールで覆わない	1.集団活動中・見守りあり	一人は目の前でトラブルになりそうな子ども２名に目をむけていた もう一人は玩具を出すために一瞬背を向けていた	常に全体を見るようにする その時の子どもの動きを把握し互いに声をかける	1.いつもどおりの様子であった	大人の動きを見て走り出したりすることがある つねに動いていることがある	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士の背後にいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玩具を出すために一瞬目をはなしてしまった		走り出しそうなときは言葉の注意でなく行動を静止させるそれでも続く場合は保育士がそばにつき行動を静止させる	
10404	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13							2	2	16.4歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右瞼裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		社内の事故防止マニュアルを読んで理解し、これからも実行に努める。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	固定遊具なし	1.定期的に実施	1回/日	おままごと用のテーブルは木製で、角のないものであり保育室内の端に寄せていたが、出ている状態で衝撃があると怪我をする可能性があった。	どうしても片付けられない棚でぶつかる可能性があれば、クッション材の使用を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	職員２名が子どもと一緒に体を動かしており、危険個所にいることが出来なかった。	身体を動かす活動を保育室内で実施する時は、テーブルや椅子や棚は片付ける。片付けられない玩具棚がある場合は、職員を近くに配置して子どもがぶつからないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	保育室内を走り何かに躓いたのではなく、スピードを出して止まれなかった様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児全員が保育室内を走っていたため、近くにいたが本児の動きだけでなく他児の動きもみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス全体をみていたため、本児の動きも見えていたが距離はあった。	以前より、子ども達には走る際に気を付けるように声を掛けていたが、スピードの調整等の配慮が足りなかった。	子ども達には、引き続き走る際には気を付けるように具体的に声を掛けていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事			発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10405	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	0	0	0	1	0	1	0		2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A外傷性歯牙亜脱臼、上唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	走って滑り台を駆け下りた。保育士2名が室内を片付けながら子どもを見ていた。声をかけたが止まらなかった。その後止めるのが遅れた。乳児クラスと合同保育の時間が迫っており部屋を移動するので焦りがあった。	走って駆け下りたら危険なことを子どもに理解できるように伝える。 走っていたら片付けをやめ、子どもの動きを止める行動を取るようにする。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	子どもの人数も少なくなり広いスペースができ、走りやすい環境になっていた。 弟が姉を追いかけたくなった。楽しくて止まらなくなった。	走りやすい環境になっていたので、走らないルールをさらに徹底して子どもたちに伝えていく。	1.集団活動中・見守りあり	片づけをしつつ子どもを見ていたため、走ることを止めることが遅れた。すぐに止めなくても大丈夫という気の緩みがあった。	子どもが走ってしまった時は子どもの動きに集中し、危険なので走らないことを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	姉がいることで姉と関わりたくなり、追いかけたら楽しくなり走り回ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	人数も少なくなったので乳児クラスと合同保育に移行するため子どもを見ながら片づけをすることができると判断し片づけを始めた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	人数も少なくなったので子どもを見ながら片づけをすることができると判断し片づけを始めた。	片付けをしながら子どもを見ていたので走ると危険であることを知らせることが遅れた。	室内でけがにつながる行動は徹底して伝えていく。職員の気のゆるみ、慢心を徹底して取り除いていく。	
10406	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	5	2							2	2	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	完全脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	事故等の対策はとっていたが、お迎え時の対応についてもっと検討する必要がある。	一人ひとりの保護者への申し送りは大事だが、連絡帳も一日の様子の配信もしている為、申し送りに時間をかけず、子ども達を優先する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1回/日	遊具等による要因は考えられない。	今後も、施設の安全に配慮して活動する。	1.集団活動中・見守りあり	近くに職員はいたが、ジムの階段の下にはいなかった。	子どもの発達にもよるが、0歳児がジムを利用する際は保育者は階段の下に座る。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子もなく、いつも通りの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児より、50cm程度、部屋の入口近くに座っていたため、お迎えの保護者に挨拶をする際対象児に背を向ける形になった。その数秒での出来事だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	申し送りに出ている職員は、保護者対応をしていた。	対象児がジムの上り下りに対して、いつもはつかまりなども安定してできていたので、転倒の予測ができていなかった。以前は、段の下に座るようにしていたが、その日は横に位置してしまっていた。	朝夕の送迎時にはジムを閉鎖する。一人ひとりの発達をもう一度職員で確認する。	
10407	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				17	15	13			4	4	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	・園庭遊びにおけるマニュアルの中に、雲梯についての記載がない。 ・雲梯の使い方を子ども達に伝えていく働きかけが不十分であった。	・園庭遊びにおけるマニュアルを見直し、各固定遊具を含めた園庭遊びの見守り方、 （役割や責任範囲の明確化）、ルールなど具体的に記載した上、定期的に研修などで 職員全員が確認する。 ・日頃から、雲梯の危険性や使い方、ルールを子ども達自身に伝えていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	60	・雲梯にぶら下がろうと、ステップからバーを掴もうとした際、掴み損ねてバランスを崩し、 落下。ステップからバーまでの距離があり、本児の体の大きさに合っていなかった。 またバランスを崩した際に、掴まることができる支柱まで距離があった。 ・粉砕骨折に至った要因の一つとして、下に敷いていた衝撃吸収用マットの有効性に問題 があった。	・現在の雲梯の危険性を再検証し、より幼児期の子どもの体の大きさに合った安全性の 高いものに入れ替える。 ・衝撃吸収用マットもよりクッション性の高い素材のものに入れ替える。	3.個人活動中・見守りあり	・雲梯には一人保育士がついていたが、対象児との距離が離れており、手を差し伸べ、 落下を防ぐことはできなかった。また、対象児が雲梯を使用しようとしていた瞬間、 近くの状況 （使用不可なネットクライムに足を掛けようとしていた子ども）に気を取られ、 対象児に背を向け、目を離してしまった。	雲梯を使用している子ども達から目を離さず、万が一の際は手を差し伸べられるような距離で見守る。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯を何度か試みてい姿は把握はしていたが、本児が落下する瞬間を捉えられていない。落下後、「痛い」と声を上げ、左肘を右手で抑えていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	落下箇所から２メートルほど距離がある所で見守り、落下の瞬間は、雲梯近くのネットクライム （当時使用不可）に足を掛けようとしていた園児に注目しており、対象時からは目を離してしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の三方に１名ずつの保育士がおり、砂場、集団遊び等、付近の遊びを見守っていたが、本児が落下しそうな瞬間や雲梯についていた保育士が注目したネットクライムの子どもの様子に気付かなかった。	・雲梯の保育士が目を離してしまった要因となったネットクライムにいた子ども達に、 他の保育士達が気付かず、雲梯の保育士がその場に専念できるようなフォロー できなかった。 ・園庭に出ている子どもの人数が多かったことや園庭遊びのマニュアル内容が抽象的 だったこともあり、４人の保育士の役割、責任範囲が明確ではなかった。	・園庭遊びにおけるマニュアルを見直し、保育士の見守り方 （役割や責任範囲の 明確化）、立ち位置、各固定遊具における注意事項を園全体に周知する。 ・クラスごとに重複せず、完全な時間差で園庭に出ることで、人数を少なく、 保育士 同士が役割、責任範囲がより明確になり、連携が取りやすい環境をつくる。	
10408	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折 （若木骨折の状況）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	5歳児クラス内にて、戸外（園庭）活動児と幼児クラス縦割り活動（室内）に参加する園児に分かれていた状況で、職員間の横の連携と園児に対する園庭活動におけるルールの確認不足があった。	戸外における職員の横の連携及び立ち位置の見直し及び再確認。 園児への園庭活動におけるルール確認の徹底。	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	3	園庭が乾いて滑りやすい状況がある。	園庭の砂等の整備や園庭が乾燥している時のこまめな水撒き。	1.集団活動中・見守りあり	クラス内にて、戸外 （園庭）活動児と幼児クラス縦割り活動に参加する園児に分かれていた状況で、職員間の横の連携不足及び園児に対する園庭活動におけるルールの確認不足と滑りやすくなっている園庭の状態確認不足があった。	活動を開始する前に、幼児クラスにて園庭及び室内活動を行うにあたっての体制の確認、園庭のコンディションの確認をおこない必要に応じて水を撒く等の対策を行う。職員の見守り体制が不足している時には、活動の範囲や遊び方のルールを確認して活動を行う。	1.いつもどおりの様子であった	園庭活動チームで、園庭にでた際に男の子同士で鬼ごっこを始める。全力で走って転びそうになり体をかばった際に手に全体重が乗ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス職員は、男子が鬼ごっこを始めた事を認識していた。鬼ごっこ以外の園児も気にしながら園庭でのクラス園児の活動に気を配っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラス戸外遊びに出始めていた時間帯のため、主に自分の担当クラスの園児の援助にあたっていた。	子ども達の遊びの保障を大切にしているが、主に年長児が遊びだしたものの、他クラスは徐々に園庭に出始めている時間帯で、他クラスの担任を含めた職員の見守り、援助の体制が整っていなかった。	職員の見守り援助体制が整わない時間帯は、ケガ等のトラブルが起きても迅速に対処できない事を再確認し、ルールを理解しられる幼児クラスにおいては、職員体制が整うまで遊ぶ範囲を指定する事や遊びのルールの確認を行う。 職員が固まらないように意識しながら園庭における安全確保を行う。子どもの活動に伴い移動する時には互いに声を掛け合う配慮を引き続き行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10409	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									4	3	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右モンテジア骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	複数	1.基準以上配置		職員配置の再確認、マニュアルの再確認、職員研修を行い事故状況の確認	1.定期的に実施	毎日 1	1.定期的に実施	毎日 1	1.定期的に実施	毎日 1		跳び箱には異常はなかった	1.集団活動中・見守りあり	体操指導前に落ち着いて話しを聞き、跳び箱・平均台を行わないと怪我につながることを話した。跳び箱を飛べる子には優しくゆっくり飛んでね等の声掛けをし、気を付けられるようにすればよかった。	跳び箱にかかわらず、運動遊びの時は園児の心理状態を把握し子どもたちの気持ちを平常な状態で取り組めるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当日、母は保育園を休ませようとしていたが本人は体操指導をしたいから休まないと強り切っていた。平均台ではY字バランスが上手だと講師より褒められ喜んでいた。その後跳び箱練習で3段を飛ぶときに強り切って勢いよく高く飛び着地でバランスを崩して転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱のわきで介助（サポート）していた。対象児が着地でバランスを崩し手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	指導員と担任も離れた位置で見ていたため、手を差し伸べられなかった。	跳べる児は出来ることで強り切ってしまうのでその都度声掛けを行う必要がある。	跳べる児に対しては専門である体操指導員が直接介助を行う。	
10410	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	106									26	23	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	室内では跳び箱と鉄棒を行なっていた。跳び箱に走る子、跳び終わって歩いて戻る子、鉄棒に並んでいる子、鉄棒を行っている子、様々な動きがある中、本児がスピードのある走りでティッシュを取りに行く姿から、本児の危険認識の未熟さも原因であったと感じる。	日頃より「○○したらあぶない」「これをやったらどうなるのか」の問いかけをおこないイメージすることが出来るようにつなげていきたい。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	260	今回腕を打ったゴミ箱は、乳児がつかまり立ちをしても倒れないように、丈夫な物であった。それゆえ、腕への衝撃も強かった。	体操教室など運動量の激しい活動をするときには、倉庫にしまうかマットなどでカバーする。	1.集団活動中・見守りあり	梅雨時期でもあり、湿度はどうだったか。園児の運動による熱気もあり床が滑りやすくなっていなかったか。	エアコンを使用し床が滑らない様に気を配る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児の友だちを思う気持ちからの行動であったが、突発的であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スポンジ積み木の棚の前で、鉄棒の補助についていた。本児が走って来るのが見えたが、他児の動きもあり止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋中央で跳び箱指導をしていた。	子育て支援室での体操教室中であり、各園児の動きが活発であった。そこに、流れとは違う本児の行動があった。	部屋の中は走らないように指導。日頃より「○○したら危ない」「これをやったらどうなるのか」な問いかけを行い、イメージする力をつけていく	
10411	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	0	0	0	0	5	7	0		2	1	17.5歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第４、５中足骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	・合同保育中で、保育士が保護者対応や他児の対応をしている際に、一時的にそばについていない時に発生した事故であった。	・園児の取った行動の理由を読み取り、園児の気持ちに寄り添う形の対応、言葉がけを考えながら、約束を守ることの大切さを園児にわかりやすく、繰り返し伝えていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		合同保育の前に、使用可能な用玩具や現場について安全確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	ウレタン積み木は室内の入り口付近に積んで置いており、遊ぶときに運んでくることになっていたため、対象児がその場で積み木に上ることの予測ができなかった。	ウレタン積み木が崩れることの無いように積み木用の箱や棚を設置して片づけるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	事故発生時前は、保育者の気を引こうとするような行動がしばしばあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は園児全体の把握と保護者対応をしており、対象児のそばにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が遊んでいる場ではない位置で、他児の対応をしていた。	保育者は事故のあった場で対象児に積み木に上らないように注意をしていたが、そばに付いていなかった。	保育者は対象児にを他の遊びに誘うなどして、安全に遊びが継続できるように配慮する。	
10412	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	6									3	3	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	幼児クラスを中心に「お化け屋敷」があり、勇気を出して頑張った後だった。	特別な行事の後は興奮する事を様子して落ち着く遊びを心掛ける	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2		鉄棒の下にクッションマットを敷く	1.集団活動中・見守りあり	発表会練習と自由遊びに分かれていた為に遊びの範囲を制限すべきだった	鉄棒遊びを行う場合は保育士に声をかけて保育士と一緒に行うようにする事を伝えた。全体的に	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭の中央で全体的に見守りをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	雲梯の所と池周辺の見守りを行っていた。		鉄棒遊びの場面でいつもできているからと安心しないで必ず大人がそばに付くようにする。	
10413	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16									21	19	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	水遊びについて、戸外活動について水遊びは、活動前に看護師よりAEDの使用を含めた研修を（職員は消防署主催の救命講習を受講）園内で行い、プールマニュアルの読み合わせや、年齢に応じた危険性などを共有してから活動を開始する。戸外活動では、怪我が発生した際は状況を共有し、受診が発生した際は事故簿に記入しながら発生原因と再発防止策を検討。園研修にて園全体で再発動に努める。また、園外研修にも参加して予防に努める。	1.基準以上配置	A公園の雲梯は使用しない遊具としていたが、今年度園内にて周知徹底できていなかった。	毎年、戸外活動における公園の使い方の確認のため園内研修をしているが、時期として広範囲で散歩が多くなる秋前にしていた。●月に新しく職員も加わる度は入職オリエンテーション、及び在職職員は新年度に担当クラスが変わるため、●月末に再確認も含めて使用の公園と年齢や発達に応じた遊具の確認を行う。	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	2		使用不可とする	1.集団活動中・見守りあり	健康遊具は、雲梯として園児の発達や運動機能を判断して使用し、園児も保護者と公園にて使用していた為、当日も使用。健康遊具との認識ではなく、雲梯の認識で使用していた。	現在使用している公園の固定遊具の使用年齢ラベルを再度確認する。ラベルのない物は、区などにも確認し、確認が取れるまでは使用しない。また、使用年齢に合わせ使用しつつ、児の発達や運動機能等を考慮しながら使用を進める。また、固定遊具を使用する際は、側に付き目を離さず補助する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	前週にお楽しみ会があり、その話で月曜日から気持ちが高揚していた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	運動器具の雲梯を使用している際は、本児のすぐ横でついて動いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の活動を確認し、全体の動きを把握していた。	なし	なし	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面							改善策	環境面		人的面								改善策		
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項		
																						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】																									
10414	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16				9	7			2	2	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	職員への、事故防止に対しての指導がまだできていなかった。施設長に、行く公園の確認もされていなかった。	新年度間もない場合や、引率者の構成によって、行くる場所を選択する。場所によっての注意事項などを、引率者同士で確認をしてから、引率をする。事故防止マニュアルを再読し、周知徹底を行う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎回/日	1.定期的に実施	毎回/日	公園や使用する遊具の危険個所や、危険因子を把握していなかった。	事前に使用する公園の下調べをし、引率する職員で確認をする。使用開始前に、再度危険個所や注意する場所などを口頭で確認する。	1.集団活動中・見守りあり	保育者が、その時同じ方向に視線を向けてしまった。4,5歳児という異年齢保育の捉え方を理解する必要があった。公園の環境での、危険個所の把握や、子どもの動きの理解をしていなかった。職員同士の声によるお互いの確認作業が出来ていなかった。遊具の使い方をしっかりと子どもが理解できるまで伝えられていなかった。	保育士が遊具の危険因子の予測が出来る様にマニュアルを活用し、経験のある保育士が指導を行う。子どもの個性や特徴につて、職員同士共有する。	1.いつもどおりの様子であった	公園に到着後、4,5歳児で「鬼ごっこ」をする。また、「ターザンロープ」をした後に「船の遊具」に移動する。遊具の滑り台や遊具からの眺めを楽しむ姿があった。虹が出ているのを見ていた。その後、遊具で遊び始めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は船の遊具についており、移動しながら子どもたちを見ていた。船の遊具で一か所で見守るのではなく子どもの動きに沿って立ち位置を変えて見守っていたが、虹がかかっていることを子どもたちに伝え子どもたちと一緒に空を見上げていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具の補助に入っており、見守りが出来なかった。	新しく配置された職員で、公園自体に不慣れであった。子どもの性格や発達などの理解が出来ていなかった。	子どもの特徴や性格、発達などを把握できている職員が引率する。遊具で遊ぶ際は状況に応じてエリアを絞り、職員の立ち位置の確認をする。子どもたちの行動を予測し、行動の制限が必要な時には、その都度子どもたちに注意をし、子ども達自身にも危険について考えられるようにしていく。	
10415	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	84	8	15	12	18	9	22	0	21	15	18.6歳	2.女児	夏の間は室内遊びや水遊びを行っていた。暑い日が続いていたが、この日は涼しくて戸外遊びが可能だったため、久しぶりに戸外遊びをした。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		遊びの際に起こりうる事故について各自認識を新たにし、予防に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園庭のグラウンドにもの大きな凹凸など躓きやすいものがないかを確認する。	1.集団活動中・見守りあり		戸外自由遊びの時は十分なスペースを確保するようにしていく。戸外遊びの時に児童の動きを確認し、密集しないよう動線を提案していく。	1.いつもどおりの様子であった	体調もよく、元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこのグループ１名とボール遊びのグループ１名をそれぞれ２名で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこを見ていた職員は本児から２メートルほど離れたところにいた。	捕まった児がいた場所が狭く、密集しやすい環境だった。久しぶりの戸外遊びで身のこなしが鈍っていた。	児童の体の動きを観察するようにして、準備体操を行った上で遊びの設定をする。	
10416	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				5	8	16		9	7	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨内側上課骨折（右側）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		体幹を鍛えるような保育を取り入れていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		子どもが遊びはじめる前に、固定遊具等の安全点検(使用年齢を含め)をする。	1.集団活動中・見守りあり		複数人で乗っていて本児は背もたれのない部分に座っていたため、今後は背もたれのあるところに座って遊ぶようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発で好奇心旺盛な面があるが、小柄で華奢な体格で、体幹も弱くバランスを崩し転倒することが多い。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	複数人で遊具に乗っていたので、しっかりと座るように他児にも声を掛けながらそばに付いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員の声かけで気付き、そばで登り棒をしていた子どもには降りるように声をかけ本児のそばへ行く。抱いて状態を確認し痛がっていたので園に連絡を入れた。受診が必要と判断し、他児には帰るので集まるように伝えた。	転びやすい点は保護者とも確認し、気を付けていたが、新入園児ということもあり、通常であれば転落の可能性は低い状況であったため見守ってしまった。	当該児と関わりながら性格や運動能力の把握し、遊具など特に注意が必要なところは担任がけようにする。	
10417	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30	0	0	0	0	14	16	0	5	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2	1.基準以上配置	十分な人員配置と、転倒した様子も保育士が見ており声をかけているので、その他考えらえる要因はありません。	保育の中でも身体を使った遊びをもう少し取り組んでいき、体幹を鍛え身体全体を強くしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭土壌の状態、乾燥状態における転倒の予知。玩具等の放置がなかったか。小石等が埋まっていなかったか。	乾燥土壌であれば水の散布を要す。走り回る子どもがいる状態での玩具の提供について検討。	1.集団活動中・見守りあり	本児の靴底の状態。靴を履いた時の状態（ベルトの締め具合）。本児と一緒に走っていた他児、及び本児との間隔距離。	靴の履き方（かかとから入れてベルトがしっかりしめているか）を伝えていく。転倒場所の土壌の状態を把握。そこにほかにも転ぶ子はいなかったのか確認が必要。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子だった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くに数名職員はいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもと遊びながらも周りの様子をみていた	本児の動きとしては身体を動かすことが好きで、身体的には問題はない	保育の中でも身体を使った遊びをもう少し取り組んでいき、身体全体を強くしていく。活動の内容や子どもの動きを予測して保育環境を見直し、安全な園庭環境を提供する。	
10418	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	0	2	1	0	1	2	0	2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジア骨折疑い	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	可動式遊具の異年齢での遊び方を書面としてマニュアル化されていなかった	今回、ヒヤリハットを集め、異年齢での保育の留意点をマニュアル化した	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊具自体に不備はなかったが、使用方法が不適切だった	十分に危険予測を立てた上で、遊具を安全に使用する。ヒヤリハットを集める	1.集団活動中・見守りあり	日常的に5歳児の子どもたち自身の遊具の適切な使用方法を守ることや危険に繋がる遊び方を予測できる思考力を育む必要がある	5歳児クラスで、子どもたちと話し合い、遊び方を見直した	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	可動式遊具に足を乗せた瞬間に声をかけ、近寄ったが、転倒してしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5名の子ども、虫を発見し、観察ていた	積み木として遊んでいたはずの可動式遊具の上に乗ることを予測していなかった	適切な遊具の使用方法を子どもと一緒に考えていく	
10419	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	1	1	1	1	0	1	0	3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿部若木骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	17,18	1.基準以上配置	早朝の異年齢保育の時間であった。	異年齢保育中は特に、複数保育士が子どもが見える状況を作る。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	１２～４８	子どもの特性や状況に合わせてテラスの使用あり。	登園の子どもの月齢に合わせて、同一フロア内で２つの保育室使用。(主に０，１クラス)	3.個人活動中・見守りあり	成長過程での予想外の行動への対応	特に早・遅番に関わる子どもの特性、成長過程の把握と共有。	1.いつもどおりの様子であった	風邪気味ではあったが、動き自体はいつも通り。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士１名は、当該児童を抱っこしてテラスから入室し、座らせる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	早番担当は保育士は受け入れ準備を行っていた。保育士１名は、他児を見守っていた。	当該児童が至近距離だった為、視界に入らなかった状況が考えられる。	全体を見る、個人を見る等、職員の役割の明確化を図る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10420	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28	0	0	5	7	7	9	0		7	1	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	公園での遊び方について職員全員で再度確認する。引率リーダーがその日の公園の状況を記録する（他園の来園状況、込み具合、けがをした園児がいたかどうかなど）	外傷（打撲や骨折など）の場合は直接整形外科を受診する	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	公園の遊具に不備があったら●●区へ連絡する	危険物やつまづきやすいものがないか引き続き確認し、あれば除去する	1.集団活動中・見守りあり	当園の園児だけではなく、他の園や近所の子どもたちの動きにも目を配り、人数やどのように遊んでいるかなど注意深く観察し、園児たちの遊び方を工夫する	職員は園児たちとの遊びに夢中になりすぎないよう引き続きしっかり見守る。毎回公園遊びを始める前に公園での過ごし方、遊び方の注意をしているが、そのときに人が多いときの注意点として走り回って人とぶつからないように気を付けることを追加する。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	特になし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	公園に他の園児や近所の子供が多いときは走ってぶつからないように声掛けをする	園児が遊んでいて転倒した際もすぐ対応できるよう引き続きしっかり見守る	
10421	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16			2	7	7				3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顎皮膚裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり	安全確認と人数確認のため、普段から公園内外問わず手をつないで移動する決まりになっている。異年齢で手をつなぐことはお互いに注意し合う、意欲的に歩く、交通ルールをお互いに学べるなどのねらいがあるため、普段からおこなっていた。行き慣れた公園かつ幼児クラスの組み合わせだったこと、また職員間でもお互いに子どもの様子を把握しているふしてくれていると思い込み声に出して伝え合わなかった。	行き慣れた公園の道中、公園内の安全確認と危険個所は、図上訓練を行い全職員で把握している。それを踏まえたうえで、更に異年齢で手をつないでの散歩時には、配置される職員同士で出発前にお互いのクラスの配慮が必要な子どもを伝え合うことをルール化していく。	1.いつもどおりの様子であった	転倒した3歳児の勢いにつられ、つないだ手も離せずに引っ張られてしまった。転倒直後は泣いていたが、直ぐに泣き止んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	目の前で転倒した際に手が出せなかった。前方を見ながら園児の動きもどちらにも気をつけてみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	列に並び歩いている園児全体を見ながら進んでいた。	毎年図上訓練を実施して、よく利用している公園と道のりの危険個所を職員間で共有していた。また、散歩に行った日には必ずその日の気付きとして、変わったことがないかなどを クラス単位で記録している。しかし、行き慣れた公園内の平坦な歩道で、転ぶかもしれないという意識が薄れてしまった。また、5歳児と手をつないでいることに対し、少ながらず安心感を保育者が感じてしまっていたことも考えられる。	出発前には公園までの道のりの安全確認、危険個所をお互いに伝え合い確認する。公園に到着した時には子どもの人数確認と一緒に公園内の気を付けるポイントを伝え合う。子どもへの説明をしつつ、職員同士で改めて気を付け合う意識につながるようルール化していく。	
10422	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									3	3	14.2歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下前歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		マニュアルなどを見直し、保育中のリスクについて再度確認し共有する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	なし	日常の安全点検を定期的に行う。	1.集団活動中・見守りあり	こども11名、保育士1名、会計年度職員1名。会計年度職員が本児のそばにおり、本児が立ち上がった姿は確認していたが、周りの子に目を向けていて本児から目を離してしまった。転んだ音で、保育士、会計年度職員ともに気付いた。うつぶせで転んでいた	室内で遊ぶ際、こども同士の距離が近いときは、空間の保証をしていく。また、無理なく活動が行える計画を立て、難しい場合は計画の変更をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	横になり、転がる動きをしようとした際、周りの子がどんな動きをしているのか気になり立ち上がった本児だが、ほかの子がそばにいることに気付かず蹴いて転ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	会計年度職員のそばにいことは確認していたが、活動を行うため他児を見ていた。転んだ音で本児が転倒した事に気付いた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	会計年度職員が本児のそばにおり、本児が立ち上がった姿は確認していたが、周りの子に目を向けていて本児から目を離してしまった。	保護者対応の為、声をかけずに一人抜けてしまった。こどもの予想外な動きの予測が不十分だった。	こどもが安全に活動できる保育者の数を確保し、役割分担を明確にすることで連携を徹底する。	
10423	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40				15	10	15			7	6	17.5歳	2.女児	特になし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	（1）左足関節捻挫（2）左足関節外果骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1-2	2.基準配置		事故やヒヤリハットは必ず園全体に報告し、園全体で把握できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4		受傷に至るきっかけとなる様な危険物は置かない、配置を変える、危険な子どものあそび方へはその都度声掛けをしていき事故を予防する。	1.集団活動中・見守りあり	新年度が始まったばかりの時期であり、当日は本児が慣れている職員が少なかった事も発見が遅くなった要因と考える。	新年度や環境の変化が起きている時は職員間で情報共有を密にし、子ども達との関わりを増やしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当日午前中は公園に散歩に行き、走っている姿が見られていた。発見時は他児と活動せず、一人で入口の扉前に座っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	公園での担当保育士は少し走り方に違和感を感じていたが、担任では無かった為普段の本児の姿が分からず、痛みがあった事に気付く事が出来なかった。発見時はすぐに異変に気付き対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ別の活動をしている子どもたちを見ていた。	受傷の2か月前にも同部分を捻挫していた。	過去の受傷エピソードを職員間で共有していく。子どもが訴えやすいように日頃からコミュニケーションを積極的に取っていく。新年度等環境が変わる際は、職員間で子どもの様子を共有し、合い、子どもの訴えに早く気付けるようにしていく。痛みが続いている場合は速やかに園で受診をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10424	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10			3	3	4			4	3	16.4歳	2.女児	特記なし。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	「A歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1-2	2.基準配置	マニュアルや研修ではテラスでの事故防止に対する検討が少なかった。	保育室以外（テラス）の安全対策を再検討した。有期職員が保育にあたる場合の担当場所を再検討した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	テラスでは遊びを区切っておらず、10名の子どもが同じスペースで違う遊びをしていた。	遊びを区切る事が出来ない場所では、玩具の数を減らす。複数出す場合は遊ぶ場所を区切る。	1.集団活動中・見守りあり	テラスに出る子どもの人数が多かった。	遊びの内容によってはテラスに出る子どもの数を減らす。または職員人数を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	友人を共に活発にフラフープを回していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	テラスに出ている園児全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一名はテラスから続いている室内で保育をしていた。一名はテラスから死角の室内遊具の監視をしていた。もう一名は、お迎えに来た保護者への対応で室内と、一階を往復していた。	16時から出勤の有期職員1名でテラスの保育をしていた。園児のことはよく把握しているが、当日の様子・どこを注目して見るべきか詳細に連携が取れていなかった。	有期職員が保育にあたる場合は、遊びの見方を詳細に伝える。子どもの人数・遊びの内容によっては正規職員も保育にあたる。	
10425	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	17								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		定期的に事故予防研修を行っていく。	3.未実施		2.不定期に実施	実施頻度毎日	2.不定期に実施	毎日	滑り台上部の柵がない部分があったため、落下する可能性があった。	滑り台からの落下がないよう、設置した業者により遊具の踊り場に令和●年●月●日落下防止柵を取り付け済。	1.集団活動中・見守りあり		危険個所に必ず職員が付き、子どもから目を離すことのないよう保育を行う。 人数制限をして混雑を避ける。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台へのはしごをのぼる間、そばについていた。登りきったところで、滑るよう誘導する際に、滑る部分と距離があったため、一時的に目を離してしまうことになった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落ちる瞬間を見ていた。		危険箇所に必ず職員が付き、子どもから目を離すことのないよう保育を行う。 人数制限をして混雑を避ける。	
10426	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20				10	10			3	3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	創傷（切創・裂創等）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	2年前にも両側にあった机に手をつき体を浮かせた園児がバランスを崩して耳を机に強打し、裂傷を負った事故があった。事故発生後に入職した職員に十分に周知されていなかった。	過去の怪我報告書や事故記録簿をもとに園内(各保育室)のハザードマップを作成し、年度をまたいでも引き継がれるようにしていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	机の位置が園児が両手を広げて手をつくことができる距離に置かれていた。	机を園児が手をつくことができる距離には配置しない。	1.集団活動中・見守りあり		最後尾について保育者は全体を見るようにし、先頭の保育者も後方を確認し、感覚が空きすぎないようペースを調整していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児はオセロをしていた他児と言い合いになってしまい、同じタイミングで席を立った保育士にその状況を伝えようとして席を立ったと考えられる。言い合いになってしまったことは後に園児からの聞き取りで分かった。大きな声を出したり興奮した姿などはみられなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	内線対応で机上遊びをしている園児らから離れた瞬間に起きたが、児の転倒後すぐに駆け寄り対応し、すぐに他職員へ応援を要請する等、迅速に対応することができた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任から要請を受けた職員はすぐに事務所、看護師に伝えることができ、職員同士連携して動くことができた。	該当児は普段から机に手をついて体を浮かせる行為を行っているということはなく、児の様子も落ち着いていたことから事故発生の予想は難しかった。	職員配置に問題なく、事故発生時もそれぞれが迅速かつ適切に動くことができていた為、人的面での改善点はない。	
10427	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43			10	9	12	12		6	6	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	8	2.基準配置	事故発生時は2階ホールに職員4名で子どもたちを見ていた。発生時は看護師が2名とも不在であり、受傷の状況の把握が遅れてしまった。	転倒・転落など受傷した際には、怪我の状況を確認するために、早い受診が必要であると考えられる。	1.定期的に実施	360	1.定期的に実施	360	1.定期的に実施	360	ウレタン製の角が鋭利でないブロックを使用していた、破損はなかった。	施設・設備面では管理され安全が守られていると考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	ブロックの使用にはルールがあり、年齢に応じて高さや積み上げる段数を制限している。職員間で普段よりコミュニケーションを取り、要注意事項や危ない時にはその場ですぐに共有できる体制を取っており、今回も落下の可能性に備え、周囲の物は除去していた。	環境面ではルールを決め子ども達もそれを日頃より守っていた。職員間でも情報の共有は円滑で、周りのものを除去するなど環境を整えることができていたと考えられる。	1.いつもどおりの様子であった	ブロックを高く積むことはこれまでもしていたが、発生時はいつもより高く積み、構造も下の支えがなく少し揺れるような不安定なものであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れた場所で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員はいつもより高さがあり、構造が不安定であることは認識し、「危ないよ」と声をかけて注意を促していた。周囲の職員も落下の可能性を共有し注意して見ていて、近い距離に職員が1名いた。	積み上げたブロックを渡りきることに何度か成功していたが、いつもより高く、落下の可能性があることも職員間で認識していたため、周囲の危険なものは除去していた。落下の衝撃に対する職員の想定が甘かった。	落下や転倒の可能性がある際には、近くへ寄っていき、転倒転落の際には必ず手が出せるような状態で見守るべきであったと考えられる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面													
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他							死因		負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
10428	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	不定期に実施	1.基準以上配置	園児15名がドッヂボールを3階ホールで実施し、担任保育士が審判をしていた。フリー保育士は、難病(てんかん)児と他4名を保育室内で保育していた。	事故防止として、園児個々の成長に視点をおき、成長に合った活動内容や事故防止対策を検討する。また、成長過程にあるクラスの特性を捉え、保育の進め方、活動内容などを丁寧に検討・共有する。以前より担任同士で事故対策は共有し園長・主任に報告していたが、今後は同じ席上でミーティングをもち、シミュレーションやラウンド・ロビンなど話法を取り入れた話し合いを持つ。様々な視点で話し合い、事故防止対策、情報共有に努める。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		施設面では、床に異物や設備不良がないか使用前に確認する。また、活動に使用する道具を事前に点検し、不良がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり		・活動前にルール説明、活動中に痛みや体の不調があった場合、即時に保育者に伝えることを園児に丁寧に説明する。 ・活動後に、身体に異常がないか園児に聞き取りを行う。 ・引き続き、活動前のウォーミングアップも入念に行い、体の使い方を教え、怪我予防に努める。 ・準備運動の大切さを伝える。怪我に関する豆知識などを伝え、園児・職員全員でけが予防に努める。 ・活動時間中に身体的・精神的なクールダウンの時間を設ける。その時点で体に異常がないか確認をする。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好。いつも通り、友達とドッヂボールを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホール全体を使用してドッヂボールを行っていた。コートの中央に立ち審判をしていたため、対象児も含めボールのやり取りや全体の動きや異常の有無を確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・ドッヂボール以外の遊びをしたい園児で５名の思いを汲み取り、保育者と４階の保育室で在室していたため。		・ケガを予防のためのウォーミングアップ、整理体操を より丁寧に行っていく。活動中と活動終了後に体の異変がないか子どもたちから聞き取る時間を設ける。 ・活動中の職員の配置関係を徹底する。職員の目を活動に向け、危険な行動があれば注意し、直ちに改善するよう努める。 ・常に異物や遊具の点検をし、異変があればすぐに対応する。	
10429	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	6								1	1	16.4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯(右A)の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	不定期に実施	1.基準以上配置	保育士の定位置が死角になっていたこと、及び、午睡後の子どもと対する援助について職員間の連携が不十分であったこと。	ネットワークカメラの画像を確認し、事故の要因、問題点を洗い出し、検証会議を行う。午睡前後のホール職員、パート職員の配置、役割の再確認を行い再発防止に努める。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	毎日	布団マットの位置が棚のすぐ横になっていた。ホールのこじか組前のスペースからは対象児の布団マットは死角になっていた。	布団マットを敷く位置を棚の前から通路前のスペースに変更した。全園児の布団マットを棚から布団１枚分くらい離れたところに敷くようにした。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は周囲の様子に敏感で、中々眠りにつきにくい為、周囲の様子が視覚に入りにくいホールの角（棚の前）に日頃から布団を敷くようにしていた。	棚や扉の前を避け、対象児の様子がよく見える位置に布団マットを敷いた。	1.いつもどおりの様子であった	布団を片付ける時間に午睡時に入眠できていなかったため、布団を片付けるのを嫌がり、布団に寝転がっていた。まだ寝ていたい気持ちもあるが、布団でじっとしていることも難しく、次第に動き出した。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が起きていることを認識しつつ、他児を起こしたり、保育室に着替えの援助を行っており、対象児が走りだしたことに気づいていなかった。担任が他児を連れてホールから保育室に戻る際、ホールに残った対象児とその他の子どもに目を配らず部屋に入ろうとしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育補助職員が２名おり、対象児が起きた時に声をかけていた。他児を起こして布団を片付けたり、おやつの準備を行っており、対象児が走り出したことに気づいていなかった。	対象児以外の同クラスの園児も寝起きがゆっくりで、一人ひとりに片付けや着替えを次に移るタイミングに丁寧な関わりが必要だった為、対象児だけを見守ることができなかった。担任がホールから離れる際に残っている保育補助職員に対象児がホールにまだ残っていることを伝えていなかった。	対象児が午睡明けに起きている場合は、すみやかに布団を片付け着替えを促し、次の活動にスムーズに移れるようにするとともに、職員一人も必ず常に様子を見守り、何かあった時はすぐに対応できるようにしていく。対象児が起きたらすぐに部屋に誘導する。担任がホールから離れる際は残っている保育補助職員に対象児に目を配るよう指示する。	
10430	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								2	2	17.5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右上顎乳中切歯打撲、歯肉裂傷、左右上顎乳中切歯水平破折、左右上顎乳中切歯歯髄壊死	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	1.基準以上配置	シャワーを浴びた後の着替え後、部屋に帰る際の部屋の床面が水で少し濡れていた箇所があった。最後の確認不足だった。	並んで子どもたちが待っている場所に職員を配置する。子どもたちのタオルの巻き方を確認する。水遊び・プール遊びのマニュアルを使って再度危機管理研修を行い同じ事故がおきないようにする。水遊び/プール遊び終了後着替えの時も十分気を抜かず注意できるようにしていく。マニュアルに着替え後の床面が濡れていないか注意し、「園児が転倒する恐れがあるため濡れているようなら拭く」を追記する。	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	週1回	特になし。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	シャワー後に体を拭いて部屋に入っていたが、拭き切れていなかったのか床が濡れていて滑って転んでしまった。また、タオルの巻き方が肩から巻いていたため、転んだ際に手を十分に出すことができなかった。移動する前に床面が濡れていないかの確認が不十分だった。	移動する前に床が濡れていないかの確認をする。巻きタオルの位置の確認をし、手がちゃんと出ているかを確認する必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	約束事を守ろうとする性格。気持ちが舞い上がると室内を走り回ることもある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体を見ていたが、一人が4～5m程離れたところで他の園児の身体を拭いていた。一人が1m程離れたところで水遊びの片付けをしていた。このため、園児の転倒への咄嗟の対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の身体を拭く担当、室内で片付けをする担当に分かれていた。	滑ることの想定も考え、片づけを後回しにし子どもたちが並んでいるところに声掛けをし、注意して見るべきだった。	子どもたちが並んでいるところに職員を配置する。	
10431	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15								2	2	15.3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（下肢(足・足指)）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置		手すりにつかまる事を伝える事や保育者の立ち位置や声掛け等を再確認し対応していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		建築基準上必要な滑り止め（浅い溝）に躓いたことが原因だった為、設備的に改善することが困難な為、手すりにつかまる事を伝える事や保育者の声掛け等で対応していく。	1.集団活動中・見守りあり		本児の体力を考え、休息の時間も十分に設けていく。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	食事を食べるため、2階保育室から1階ランチルームまで年少児で移動中、手すりを持ちながら降りたところ最後の一段を踏み外して階段に足をぶつけた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	階段の中腹付近で子どもたちが下りるのを見ながら降りていた。他児が手すりを掴み滑る姿が見られたので近くに行き様子をみた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2階扉付近で他児が下りるまで扉を開けて、子どもが出たのを確認し施錠して降りてきていた。	散歩後で疲労が見られていた。	保育者の前より先に降りていかない事や、本児の姿に疲れが見られている場合は一緒に手を繋ぎ降りていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10432	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	1	0	2	5	6	4	0		10	6	17.5歳	2.女児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	脱臼・骨折（左手第5指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	3.基準以下	お迎えに来た保護者がシーツ交換などの作業に集中してしまい、子どもへの注意が十分でない場面が生じてしまった。	全クラス保護者への注意喚起を行う。在園児にもシーツ交換の場所で走ったり遊ぶことは控えるよう声をかける。2階ホールに注意喚起の掲示をする。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	24	ホール内に子ども用のいすが置いてあった。危険のないよう隅に置かれていたが転倒などの危険性を考慮し収納スペースに片付けておくべきだった。	ホール内の環境整備（シーツ交換以外に不要な椅子などは片付けておく）	7.その他	保護者がシーツ交換などの作業をしていて、子どもたちが走ったりしていたのを把握していたが、注意が十分ではなかった。	子どもが何もしないで親が作業し終わるのをただ待つのではなく、親子でシーツ交換をするように促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	お迎えに来た母親と帰る嬉しさと、シーツ交換の場所で同じクラスの友達2名と一緒になり、親がシーツ交換をしている間走って追いかけっこのような遊びが始まった。	4.対象児の動きを見ていなかった	通常の保育は別室で行っており、シーツ交換の場所（2階ホール）に職員は立ち会っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	毎週末のシーツ交換は、保護者も数回経験しているため、シーツ交換の手順や方法・場所など周知できていたので職員はホールに立ち会う必要がないと判断した。	シーツ交換には、3組の親子がホールにいた。シーツ交換の作業、保護者同士の会話などで子どもたちへの注意が散漫になっていたことの誘因と考える。	シーツ交換を親だけで行い、その間子どもを室内で待たせるのではなく、親子で一緒にシーツ交換を行い大人の目が子どもから離れないようにする。	
10433	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				9	5				2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	子どもへ安全な使い方について、事前に示すことを怠ってしまった	安全な使い方について周知をした	2.不定期に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	製作棚のものの配置	製作棚の中の配置について、重いものは下へ置き安全確保を図った	1.集団活動中・見守りあり	製作棚のものの配置	製作棚の中の配置について、重いものは下へ置き安全確保を図った	1.いつもどおりの様子であった	意欲的に製作に取り組んでいたときに、スズランテープをまとめて３本取った拍子に落下してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	三つ編みをするためにすずらんテープを取りに行き、３本その場でとる姿や、その後落下する様子まで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていたため、見ていなかった。	子どもへ安全な使い方について、事前に示すことを怠ってしまった	安全な使い方について周知をした	
10434	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	10									3	3	14.2歳	1.男児	2歳児の園庭に大きな木の切り株が残されていた。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口唇の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	開園間もなく、職員同士の保育体制や、施設内の危険予知が不足していた。	事故の検証や研修を行い、職員各自が子どもや環境の特性を把握し、保育内容や環境を適切なものにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	利用の都度	1.定期的に実施	毎日	以前から切り株の使用方法については議論が上がっていたが、具体的な対応策をとれていなかった。	危険個所だと認識した段階で使い方等を確定するまでその場を使うべきではなかった。切り株の撤去や窓のコーナーガードを行う。	1.集団活動中・見守りあり	クラスの前の園庭のみでは人数が多すぎた。人数を調整し、広いスペースを確保すべきだった。	転倒しやすい時期であることを考慮し、広い場所を用意することで転倒しても大きな事故に繋がらない環境を整えるべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	普段から興奮していしまうと気持ちを抑えられず、走り回ってしまう。また、まだ体や動きのバランスが安定しておらず、転倒してしまうことが多い。事故当日も戸外に出たことに興奮し走り回っていたが、足がもつれる様子があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故現場近くの切り株の近くで、切り株の上に乗っている子や付近で遊んでいる子の様子を見守り、必要に応じて援助していた。対象児が転倒し、すぐに駆け寄り側の様子を見て対応した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故現場から少し離れたところで他児を見守っており、転倒したことを遠目に確認していた。	対象児が転倒しやすいことを考慮し、転倒しても問題のない環境を整えるべきだった。また、切り株と窓の間の狭い所を通ら保育者がその位置に立つなど工夫をすべきだった。	危険個所を見直し、転倒しやすそうな場には必ず保育者を配置する。	
10435	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19				9	10				3	3	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	結膜裂傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	4～5	2.基準配置	突発的な行動であり予測できなかった。	園児の気持ちの変化にも対応できるよう、職員の情報共有を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	広い場所であり、職員の目が届きにくかった。	入念に下見を行ない危険箇所の把握をする。	1.集団活動中・見守りあり	突発的な行動であり予測できなかった。	園児の気持ちの変化にも対応できるよう、職員の情報共有を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良等なく、楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたち全体を見守っていた。突発的な行動のため、静止できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の動きを見守っていた	衝動的な性格の児童であり、突発的な行動に対応できなかった。	指を突いた児童には危害をしないよう約束をし、保護者とも協力して保育園、家庭で同じように対応していく。また、クラス全体でも「人を傷つけてはいけないよ」ということを繰り返し話をしていく。	
10436	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.5歳	1.男児	・事故当初の3週間は週２回の受診を行う。その後は2週間に1回の受診が３週間となり、●月●日にて最終受診での完治となる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨尺骨遠位性骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	午前に外部講師による体育指導があり、外部講師も一緒に園庭遊びを行う事で興奮していたのかも	午後の活動については、午前の活動を考慮した内容にする。落ち着かせる。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	木の横にベンチを置いてあったことで、校に届くかもとジャンプを行う事につながった	ベンチの場所移動	1.集団活動中・見守りあり		ベンチの居場所移動	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭の全体を見守りをしていた。（中央、砂場、滑り台）ベンチは塀沿いにあり見えなった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の全体を見守りをしていた。（中央、砂場、滑り台）ベンチは塀沿いにあり見えなった		園庭のベンチの場所を移動すること及び午前の活動を考慮しての午後活動を行う。	
10437	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				7	6	6			2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施		2.基準配置		安全管理など資料や注意喚起があれば、職員全員に周知し、安全管理の意識をもって保育にあたるよう徹底していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	12回/日		今後も毎月の安全点検で室内の環境については、危険がないか確認をしていく。	1.集団活動中・見守りあり		食事以外では、机が必要ない時は机をしまうなど、空間を広げる。また椅子も使用しない時は机にちゃんとしまうよう子どもにも声掛けをし、躓くリスクを減らす。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着かない児ではないので、普通に部屋の中を歩いているだけだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べている児、終わって下膳する児、部屋の奥で遊ぶ児、帰りの支度をする児それぞれだったが、いつもと変わらず皆落ち着いて行動・活動をしていたので、全体を見ながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が全体をみていたので、机を拭くなど片付けをしていた。		常時職員は2人体制なので、全体をみる職員、サブで動く職員と役割にそって動く。状況により役割を交代するなど、2人で声かけなど連携をしっかりとり子どもの動きを見守り、指導していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事			発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面				その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置			施設の安全点検	遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10438	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地内(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	27	0	0	0	0	13	14	0	2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨幹部膨隆骨折、左橈骨骨幹部亀裂骨折、全治3週間～4週間	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	4歳児担任が休みで、主任保育士が保育に入っていたこと。出かける直前に遅れて登園した4歳児の対応があり、10分程度出発が遅れた。他の園児は並んで待っており、早く遊びたい気持ちがあって落ち着かない雰囲気であったことも要因として考えられる。	今後は、担任以外が代替で入ることもあるので余裕をもって準備し、出発できるようにする。園児をあまり待たせることのないように早めの登園を保護者にもお願いしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	●●区民キャンパスが開放の時期で非常に広く、子どもの行動範囲も広い。危険な場所の確認を早く予測出来なかった。公園の状況を把握しきれていなかった。	遊びだす前に公園内に危険個所がないかどうか保育士が確認・点検をして、子ども達にも注意を促す。	1.集団活動中・見守りあり	出発が遅れたために早く遊ばせたいという気持ちが保育士にあった。	到着後は、丁寧に体をほぐして子ども達にも注意事項を伝えながらゆっくり遊びに移行していく。	1.いつもどおりの様子であった	クラスの他児の多くが、砂の広場から木々のある方に走って移動し、鬼ごっこを始めたり、虫探しをはじめ、本児も勢いよく駆け出した。木々のある方は斜面になっており、スピードが出やすい。走り下りた際に、木の根っこにつまづき転倒。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども達と一緒に走って移動。本児の近くにいたが、本児が転んだ瞬間は他児に関わっており、見ていなかった。転倒した後に気づき、うずくまる本児にに駆け寄り様子を聞き、園に連絡を入れる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児担当職員は、広場の反対側で遊び始めた園児を見守っていたため、本児が転倒した瞬間は見ていなかった。	保育士2名が他の子に気をとられて本児の動きを最後まで見ていなかった。	当日は職員の急な休みがあり、2名体制であったが、園外保育中は、緊急の事態に備えて保育士の人数を増やしていく。	
10439	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15								4	4	15.3歳	1.男児	●月●日に自宅で転倒し、床に上部前歯を打ち、救急で病院に通院。くちつきと出血があり、コーティング剤で固定していた。医師から抜歯の話もあった。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	2.基準配置	普段からおとなしい性格の児であり、事故が起きた時も座って静かに遊んでいたため、怪我の予測がつかなかった。	●月●日に自宅で歯をぶつけ通院をしていたため、同じ箇所をぶつけるとひどくなってしまうことを予測し、遊び方の工夫や本児の見守りなど何かしらの対応をとる必要があった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	車の玩具を床で走らせて遊ぶと滑って前に転倒することがある。	マットなど滑りにくいところで車の玩具を走らせる。園児にも気を付けて遊ぶよう声を掛ける。	1.集団活動中・見守りあり	室内での自由遊びで、床やマットの上で遊んでいる児等がいた。	車の玩具で遊ぶ際は、マットの上にコーナーを用意する。	1.いつもどおりの様子であった	6月に自宅で前歯上をぶつけていたが、気にする様子はなく、本児のお気に入りの車の玩具を走らせて友だちの近くで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が遊んでいるコーナーにつき、傍で見守っていたが、突然前に倒れたため、制止が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で、それぞれのコーナーの園児全体を見守っていた。	保護者と自宅での怪我の状況や園での対応について丁寧に詳細の聞き取りをし、保護者と情報共有する必要があった。	クラス及び乳児部門で改善策を話し合い、職員全体で本児の怪我の状況や対策を周知した。車の玩具を走らせる時にはマットの上ですることや、怪我が多い児であることを踏まえ動きを気を付けてみていくようにする。	
10440	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26	0	0	0	14	12	0	0	5	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	診断書提出待ち。	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置			1.定期的に実施	12	3.未実施	0	2.不定期に実施		誰でもステージに上がれるようになっていた。ステージ上は絨毯のため靴を脱いでいた。	ステージに上がるのはお誕生日会と発表会の時のみ。行ライベントによっては人数を制限する。	3.個人活動中・見守りあり	本人の意思を優先しステージ上に留まったが、ライブラリーや他の場所へ強く誘導する。	本人の意思を優先しステージ上に留まったが、ライブラリーや他の場所へ強く誘導する。	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	いつものように本児の感情の波に合わせて個別対応を取っていた。本児がゴロゴロしたり、まねっこするのを見守り、声をかけ、また散歩したりと1人の先生が本児にずっと付き添っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が職員を押したり、時中に乗ろうとしたりするのを言葉で説明し制止しながら、またジェットチャールはずれ止めていた。本児が繰り返そうとしたため場所を移動した。他の園児をまねっこしようと職員が声掛けー瞬目の逸った隙間に、本児が時中に乗ろうとしたのか、他さ者にこどしたのか職員に向けて手を伸ばしたが届かず、そのまま落下、ビキュリティカメラ見る間の、バランスを踏み外して落ちた様子。	本児の中で職員を捕まえられる、もしくは職員が絶対つかんでくれるという認識だったのではないか。	ステージ上で見るのではなく、遊ぼうという姿勢になった時点でステージからおり、場所を移動する。	
10441	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	31	0	0	0	0	16	15	0	4	4	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	頸椎回旋位固定	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	例年行われている活動の中の、例年通りに行われている動作のため特別安全面における検証を行ってこなかった。この動作を行う際に、パラバルーン内に保育者が不在（保育者の目が届かない）の状態で激しい動きが行われてしまっていたため、事故の直接的な原因を確認できなかった。	子どもたちの動きが確認できないような動きは控え、動作一つ一つの検証を行った上で活動を行った。運動的な活動を行う際は事前に準備運動を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		パラバルーンを広げるため、室内スペースを確保していた。特に改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり		保育者の人数は通常よりも多かったが、パラバルーン内を確認できなかったためパラバルーン内の子どもの様子を確認できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	パラバルーン内で片手をあげてジャンプをした。	4.対象児の動きを見ていなかった	パラバルーンの動きを見守った。パラバルーン内には職員不在。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	パラバルーンの動きを見守った。パラバルーン内には職員不在。		保育者の人数は通常よりも多かったが、パラバルーン内を確認できなかったため、パラバルーン内の子どもの様子を確認できるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10442	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第五中足骨先端骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		なし	1.定期的に実施	12	3.未実施	固定遊具なし	1.定期的に実施	1回/日	個人活動中の短縄の際に、机上遊び をしている子どももおり、机の配置を変えずに行ってい た。	机上遊びや、身体を動かして遊ぶ場合は机上遊びをする場所を玩具の置いてある棚の近くに設置し、使っていない机を片付け、身体を動かすことができる場所を広くとるようにする。	3.個人活動中・見守りあり	短縄遊びの際のルールとして、周りに友達がいないことを確認、人数が多い時は順番に行う、短縄をしている近くでは遊ばない約束を1度話していたが、全員に周知されておらず、遊びの中で縄が当たりそうになることがあった。	保育室内での短縄遊びをするときのルールを確認。子どもたちが見える所に約束事を掲示。人数を決めて保育者の見守りの中行う。	1.いつもどおりの様子であった	・短縄で前跳びに挑戦し、他児と会話を楽しみながら跳んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	・本児以外の短縄をしている他児の跳び回数を数えていた。お迎えの対応等を行い、縄跳びをしている子どもたちの距離が広い時や、他児が近くを通ろうとしているときのみ、声をかけ全体を見ていなかった。 ・他児の短縄がぶつかり転倒したと本児より訴えがあったが、園長、看護師に報告せず目撃のみの確認となり保護者への報告を怠っていた。 ・翌日登園時に母親から受け入れ担当の保育士に足の腫れについて報告有り。その際に足の腫れを確認していたが、園長、看護師への報告無し。様子を見ながら保育を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	不在		・子どもからの不調の訴えに関して、小さなことであっても園長、看護師に報告し、その時の様子を保護者に伝える。	
10443	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	21			6	8	7				2	1	17.5歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		改めて職員間で安全配慮マニュアルの周知徹底を行っていく。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施			子どもたちが過ごす空間や場所、道路等、危険個所の確認・把握を行い職員間で声を掛け合い周知をしていく。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの状況等で見守りが十分にできない際は直ぐに職員間で声を掛け合いフォロー出来るように周知する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児童は他児と比べると小さいころから歩き方など少し不安定な姿が見られていた(筋力があまりないように感じられる)	4.対象児の動きを見ていなかった	散歩先から園に戻る為子ども同士手を繋ぎ2列で歩いていた。先頭にいた保育士は前後を確認しながら子どもたちが最後尾の職員に声をかけながら歩いていたがちょうど前を向いていたタイミングで対象児童が後ろ向きで歩いていたことに気が付く事ができず、また転倒した瞬間を確認できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	最後尾について前後を確認しながら歩いていたが、1番後ろで歩いていた児童がガードレールにつかまりふざけてしまいその対応をしていた為、対象児童が後ろ向きで歩いていたことに気が付く事ができず、また転倒した瞬間を確認できなかった		移動中にはしっかりと前を向き歩くよう子どもたちに伝える。職員にも危険の無いように子どもたちに声を掛けながら歩くよう改めて周知徹底する。移動する際の列は長くなることが無いように(子ども同士の間隔が空きすぎる)歩くなど一つは子どたちに合わせ、時には立ち止まり落ち着いてから再度出発するよう注意する。また、やむを得ず歩行を止めて個別の対応をする際は必ず職員同士で声を掛け合い安全に立ちはまれるようにする。	
10444	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40	0	5	0	5	15	15	0		6	6	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マニュアルがあっても職員への周知不足。見守り方など具体的な事例検討が共有不足であった。	マニュアル周知と、より具体的な事例を踏まえた職員研修の実施。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	チェックリストはあったが、注意喚起に繋がっていなかった。建物について、面取りされていたが、駆け下りた際の衝撃時には骨にまで影響がある認識がなかった。ゴムチップに滑りやすい箇所があった。	改めて、チェックリストの意味合いを確認する。建物の角を覆うように土のうを設置する。砂が目詰まりしている箇所の洗浄を行う。	1.集団活動中・見守りあり	走る環境を防ぐために置いた土のうの位置が不適切であった。	躓く原因となった土のうの位置を変更。建物の角を覆うように改善。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	なりきり遊びに夢中となる状況で、いつもよりも勢いをつけてゴムチップの坂を駆け下り、土のうに躓いた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	駆け下りている様子は見ていたが、距離が離れており、静止することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守りをしていた。	事故前に土のうに躓くことを予測することができなかった	園庭内の危険箇所の確認とともに、起こりうるリスクを職員で確認。その際に取る行動や職員の立ち位置について確認する。	
10445	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									3	2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折（橈骨・尺骨遠位端骨折）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	事故発生時に職員3名で保育にあたっていたが、1名はオムツ替えを行っていた為、運動遊びではなく落ち着いて遊べるよう活動内容を考えるべきだった。	運動遊びは十分に職員の人数がいる時に取り入れるようにする。	1.定期的に実施	12			1.定期的に実施	12	電車コーナーが近くにあった為、そのコーナーを避けて平均台を作ったことで、玩具棚との距離が近くなっていた。	周囲に棚等が無いスペースを確保し、安全に行えるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	運動遊びを行った際に傍で付ける職員が1名しかいなかった。	職員の人数や子ども達の様子を見て活動内容を考え、安全に遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	他児がマルチバーツを平均台に見立てて遊んでいる様子を見て、順番に楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の前で他児が転倒し、そちらの支えに入っていたことで本児が転倒した際に防ぐことが難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名はままごとコーナと絵本コーナーの近くで遊びに加わりながら様子を見守っており、もう1名はオムツ替えを行っていた。	オムツ替えを行っている職員に遊びの状況を伝え、1度オムツ替えを停止して、部屋に入ってもらうべきだった。	運動遊びを取り入れる際は声を掛け合って複数の職員で見守り、安全に遊べるようにする。	
10446	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	4									3	2	12.11か月	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左頬咬傷	8.その他	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	職員が順番に休憩を取ったり、園児の食事の準備やおむつ替えなどする際、少人数で保育をせざるを得ないこともある。	食事の準備や保育中職員がフロアーから離れる場合において、必ず複数人で保育が継続できるように段取りや体制を考えていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	4	園児が十分満足のいくような遊具の準備、遊びの設定ができていたのか	遊具や遊びの設定の見直し	1.集団活動中・見守りあり	落ち着いて遊んでいるから園児A も噛むことはないだろうと思い込んでしまった。	落ち着いているから大丈夫と思いこまず、常に意識して見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	お昼寝から目覚めしばらく遊んでいた時の出来事で、特に不安定な状況でもなく、いつも通り落ち着いて過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当者は該当園児の至近距離で一緒に遊びながら見守っていたが、少し離れた所にいた他の園児の対応をするのに一瞬目を離したすきに起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	該当園児のそばに担当職員がいたので、他の園児についていたり、午後の食事の準備をしていた。	該当園児のそばに担当者がいるから大丈夫だろうと思って、その人任せにしてしまった。	園児から目を離す際などは、必ず声を掛け合い、見守りが必要な園児への配慮をクラスの担任全体で継続的にできるようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面												
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10447	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節前距腓靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		年齢や発達を考慮し、その時に起こりやすいけがの事故事例などを職員会議や幼児会議等で職員に周知していく	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	288		中庭から園庭に向かうところは斜面になっておりけがが多い場所であるため、安全点検を行っていく	1.集団活動中・見守りあり		中庭から園庭に向かうところは斜面になっておりけがが多い場所であるため、安全点検を行っていく	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児12名は園庭に出ており、他職員2名は非常勤職員だったため、正規職員1名も園庭に出つつ、0歳児テラスは視界に入れて対象児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児12名を保育していたため、対象児を見ていなかった。		幼児であり動きも大きいため、けがを防げる体づくりを行っていく	
10448	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	73				26	23	24	0		6	5	17.5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部橈骨、尺骨の骨折、左手第一指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	14	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	午睡中の出来事ではあったが、習い事の体操教室に行く児が２１名いて、先に起きて着替えなどの支度をしていた。そのため、習い事がないが起きている児が落ち着かない様子で過ごしていた。	寝ている児の妨げにならないよう、体操教室の児は午睡室ではなくクラス内（●●組）で着替えるようにし、1階に降りる際にも中央の階段を使用する。	1.いつもどおりの様子であった	午睡時間中に、自分の布団の上でゴロゴロしたり、隣に寝ている児にちょっかいをだしたりして、自分の布団から離れることもあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	体操教室に行く児の支度をしながら、全体を見ていた。本児のことは視界に入っていたが、助走をつけて走ろうとしたところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体操教室の児に声をかけお仕度を促していた。体操教室以外の児は、自分の布団で待っているように声かけていた。事務所にいた2名は体操教室の児が起きる時間だと認識していたが、クラスに戻るのが遅れた。	体操教室に行く児が支度をし始める時間で、人手が必要だったが、クラス職員が全員戻ってくる前に支度を始めてしまった。	・体操教室の子どもたちの対応は、職員がクラスに全員戻り、常勤職員が必ずつける状態になってから対応する。	
10449	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5～6	1.基準以上配置	特になし	担当が不在時の保育について、再度職員間で検討し、より細やかな対応が出来るよう引継ぎの仕方などを確認した。また事故の状況、対策について会議の場で全体共有し、再発防止のための保育について検討した。	1.定期的に実施	5～6	1.定期的に実施	5～6	1.定期的に実施	5～6	活動時、一人ひとりの子どもが自分の待機場所が分かるよう、椅子を使用し座って待つように声掛けしていた。椅子に座っていたこと、さらに手を服の中に入れていたことで体勢が戻せず、転倒時の衝撃が大きくなってしまった。	子ども同士のトラブル回避、活動時の安全配慮として椅子を使用しているが、子どもの状況を考慮しながら、椅子を使用しなくても静かに待つ、他児と頷り合って座るなど子ども自身の意欲、社会性を育てていくように保育を構成していく。	1.集団活動中・見守りあり	椅子を配置した場所、特に対象児が座っていた場所が伴奏している職員からも、体を動かしている職員からも死角になりやすい位置であった。	活動中の子どもに目が行きがちだが、待機している子どもの状況も把握できるよう、どの職員からも視界に入る配置に変更するなど、環境設定を見直していく。	1.いつもどおりの様子であった	リズムに参加していたものの、動きが複雑になってきたことで自信が持てず見学する選択をしていた。他児の様子を見ていたが、手持ち無沙汰から家庭でもよくけっている。両腕を洋服の中に入れる体制をとって包まれる安心感を感じていたと思われる。対象児自身に姿勢維持の難しさがあったため、バランスを崩した。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の側に行きリズムの参加を促したが、体全体で拒否したので座って待つように声をかけ、ピアノの方へと移る。目の前のピアノにより本児の姿は首から上しか見えていなかった。またピアノを弾いていたため、活動中の子どもに視線を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れた所で、全体を把握していた。対象児が着席しているのを確認リリズム活動を行っていたが、気になる子への対応や活動中の子どもの指導にあたっていたため、対象児の姿が視界から外れていた。	担当保育士が一人不在であり、充実保育士が入って行リリズム遊びは初めてであった。子どもたちの座り方も通常とは違う配置をしていた。リズム遊びはオーソドックスなものとクラスで創作して楽しんでいるものとを楽しんでいたため、充実保育士が動きを熟知していないものもあった。当日の流れについて共有していたものの、通常とは違う流れのため把握が行き届かなかった。	当日の打ち合わせだけでなく、事前の打ち合わせを取り入れるなど丁寧な引継ぎを心掛け、子どもの状況の把握と理解に努めていく。いつもと違う流れがいくつかある状況が重なるならないような保育の重視を意識していく。また他者に見てもらうことの嬉しさや年長児としての誇りを感じられるように他クラスと合同で行うなどの方法を取り入れ、子ども自身の意欲を引き出していく。	
10450	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	13									5	5	14.2歳	1.男児	児の発達に対し、異常の指摘なし	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顎部、前下歯肉の擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	頻度不定期	2.基準配置	特になし	職員会議等を通じ、事故発生時の対応を統一出来るよう周知する	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	事故が発生した時に、玩具や遊具は使用していない	特になし	1.集団活動中・見守りあり	坂道であり、１歳児には転倒しやすい道だった可能性あり	児に合わせた歩行ペースで歩くなど、工夫する	1.いつもどおりの様子であった	普段は、散歩の際に転倒することはなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育者-他児-本児（子ども計４人を両手で2人ずつに分けて）手を繋いで歩いていたため、転倒した際すぐに支えることが出来なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員も、子どもたちと手を繋いで歩いていたため、両手が塞がっており支えることが出来なかった	特になし	転倒した際にすぐに支えることができるように、保育士と３人つながりはやめ、児と直接手をつなぐのを一人にする。	
10451	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13									2	1	17.5歳	2.女児	熱性けいれんで2年前にも同じことようなことがあった。母によると、けいれん発作は今回で4回目とのこと。	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		1.意識不明		部分てんかん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置		持病による発作に対応できるよう予め児の疾患を確認し、職員へ周知する。発症前後の対応について、園長、主任、看護師、担任と役割分担をする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		持病の発症（転倒防止）に対応できるよう、クッション性のあるものを床に敷く。	1.集団活動中・見守りあり		持病が発症した場合、他児を速やかに別室へ誘導する。児が発作で転倒したときの想定を考慮して行動に注視し、安静にさせる。	1.いつもどおりの様子であった	室内に座りブロックで遊ぶ等、普段の昼食後の様子と変わらなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段と様子が変わらなかったため、通常の保育と変わらず近くで遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	普段と様子が変わらなかったため、通常の保育と変わらず近くで遊びを見守っていた。		持病による発作に対応できるよう、普段と変わった様子があれば連絡し合う。必要に応じて事務所に報告し、発作に備え体制を整える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10452	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28			15	13				2	2	16.4歳	2.女児	特記事項なし。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎の挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特記事項なし。	事故報告書やヒヤリハット報告書は職員で共有して事故への意識を高めて、継続する事でより安全な保育を提供出来るように努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	怪我をして数日後の園児の話（当該児）からトイレのドアの扉で怪我をした可能性も考えられたため、トイレの環境の保育における安全性を見直す必要がある。	トイレのドアの取っ手部分は金属製であり、安全のためクッション材にて保護を実施。	2.集団活動中・子ども達のみ	園児の年齢や性格的に大丈夫だろうと判断しても そうでない時もあり、保育中に目を離すという事はケガなどにつながる事もあるということ。	難しい状況の時もあるが、日常の保育で可能な限り目を離さないように努める。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもと変わった様子なし。	4.対象児の動きを見ていなかった	普段のトイレの際は可能な限り職員が付き添いや保育室から見守りをする場合もあるが、必ずではない。今回は付き添いはしておらず、トイレに行った事の見守りのみであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我の瞬間を職員は見ていないが、怪我をした後に廊下を通った職員が怪我をした園児に気付いて対応している。	・付き添いや見守りをして今回の事故が防げたかは不明であるが、普段から個人でトイレに行く事が為る年齢で あっても日常の中に大きな怪我のリスクが潜んでいる。また、ケガはケガなどが起こり易い時間帯であるリスクがある。 ・夕方の合同保育は職員数が限られているためトイレの時間を決められなければ しているものの、尿意などは生理現象 であるためレギュラーな対応が必要となる。	夕方の合同保育は担当職員が見守ることが困難な場合もあるという事を全職員が認識し、保育の担当ではなくても職員全体で子ども達をいつでも見守るという意識を今以上に持つ。	
10453	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	11				1	10				2	2	16.4歳	2.女児	多動的であるため、保育士がそばにつき見守りや声掛けなどの配慮が必要。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	担任2人のうち１人は13名の子どもたちを連れ４歳児室でおやつの準備、もう1人は午睡の片づけをしながら10名の子どもたちを5歳児室で保育していた。分かれて保育していた為、担任2人で全体を把握することができなかった。	布団を片付けた後の待機場所や流れを再度見直し、担任2人で全体を把握できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		布団を片付けた後の待機場所や流れを再度見直し、担任2人で全体を把握できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	布団収納庫から園児との位置が離れていた ため、片づけをしながら子どもの様子を把握できなかった。	布団をしまう際に、子どもから目を話さない位置に一時的に置き、子どもたちが移動をしてから、布団収納庫に収納する。また布団の畳み方を再度、伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	多動的でいつもおなじような行動をしているので注意をすべきであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児には目を向けていたが、布団を片付けていた位置と本児の位置に距離があった為、片づけをしながら子どもの様子を把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４歳児室でおやつの準備をしていた。	担任2人のうち1人は13名の子どもたちを連れ4歳児でおやつの準備、もう1人は午睡の片づけで5歳児室と、午睡後の流れが全体を把握できる立ち位置でなかった。	午睡後の後片付けの流れを見直し、全体を把握できる立ち位置で声を掛け合いながら保育していく。	
10454	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	0	6	12	10	5	0			6	6	15.3歳	1.男児	情緒面で配慮が必要な児童だった。身体的にバランスをとる事があまり得意ではないと本児も認識があり、慎重に行動する児童だった。当該児が初めて履く靴であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	配慮を必要とする児童への対応の在り方をどのように共有し、共通認識を持って対応するのか。また、職員の配置を工夫するも難しさがあり、自園だけで対応ができない場合どの様に考えていくのか。	職員間における情報共有の在り方を見直す。基本の配置では難しさがあった場合、行政と連携し対応していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	1.集団活動中・見守りあり		検討した結果、特に要因は考えられなかった。	1.いつもどおりの様子であった	雨や健診により園庭に出る事が久しぶりであった。スコップを両手に持っていた。対象児は体のバランスをとる事が不得意の為、慎重に行動する子どもの為、当時も思いきり走りだす等の様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員の伝達の行き違いがあり、送迎事業を利用しているお子さんの受け入れへ３歳児担当の職員が２名共行ってしまった。４歳児担当の職員が園庭に出て全体を見始めたところだった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に)	乳児と一緒に園庭へ出てきて２歳児の対応後に園庭全体を見て、誰が園庭責任がしているところだった。	もともと対象児は言葉や人との交流の面で配慮を必要としていることに併せ、体の使い方に未熟な面があった。しかし、対象児は体を上手に使えないということを自覚しており、何事も慎重に対応し他の児童に比べ転倒することも少ないことから、保育者側は運動面での配慮の必要性を感じていなかった。	今回の事故を基に、対象児に関わらず運動面に不安を感じる児童に関しては、これまでの経緯（転倒すること がない）にかかわらず職員間で情報を共有しできる限り配慮を行っていく。	
10455	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	17				5	6	6			2	1	16.4歳	1.男児	肘内障既往	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折、肘内障	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	クッション材は滑る事を意識し遊具の下は通らないように声を掛けるべきだった。	クッション材は滑る事を職員間で共通認識とする事が大事。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊具は使用していないため該当しない	1.集団活動中・見守りあり		本人が意識するよう声掛けをしていく（自分の動きに対して）	1.いつもどおりの様子であった	本児は色々な身体の動かしかたの経験が積めていない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走っていたわけではないので見守るだけだった。滑る事の認識が無かった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達の遊びについていた		色々な身体の動かし方の提案をして経験を積んでいく	
10456	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘 上腕骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.2	1.基準以上配置		園全体でマニュアルの読み合わせ及び事故内容の分析を実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎		保育室以外での環境設定について安全面、注意点を共有する。	2.集団活動中・子ども達のみ	屋上で自由に遊んでいた為、交通整理ができていなかった。45分間遊び疲れが出ていたのかもしれない。	鬼ごっこのスペースと他の遊びとのコーナーを分けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	急遽、職員の休みが2名が出ていて、非常勤の副担が他のクラスへカバーにいっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故箇所には、担任1名以外は、各クラスの保育中であった。		相撲やコーディネーションの遊びを取り入れる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制													発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位			ソフト面の有無	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10457	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	9									2	1	16.4歳	2.女児	●日傭の治りが悪い為、A皮膚科を受診。診断結果；擦過傷 痂皮状態は1週間程度ではがれてきれいになると思うが、赤みが消失するまでには6か月程度かかると予測される。早く治す為に抗菌薬（バラマイシン軟膏）が処方される。保護者から跡が残るのはと心配され形成外科を希望された。●日午後B病院（形成外科）を受診。処置：生食洗浄、ゲンタシン軟膏、カットバン皮膚科で処方されたバラマイシン軟膏とカットバンをし乾燥をさせないようにとの指示あり。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	耳鼻咽喉科：鼻骨骨折（1mm以下） 右側 （鼻のＣＴ検査）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	戸外活動時の園内ルールを具体的に決める必要がある。	園外、公園内のルールを職員間で話し合い共有、新職員にも分かりやすく明記する。定期的に事故防止について職員間で話し合い、研修を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1		休憩後、バラバラではなくメリハリをつけ、職員間でも声を掛け合い体制を整えてから遊びを再開させる。	1.集団活動中・見守りあり	公園内の注意事項は伝えていただが、水分補給で休憩を取った後、保育士が声をかける前にバラバラに遊び始めてしまった。	休憩後、遊びを始める前に再度危険個所を伝え、職員間の連携が取れるように体制を整えてから再開する。	1.いつもどおりの様子であった	本児は特に変わらずいつも通りであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は近くにいたが、他にも遊び始めた子もいたので全体を見守っていた。遊び始めが追いかけっこのようになってしまったので、すぐに怪我に繋がるとは予測できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにはいたが、遊具で遊び始めてしまった子もいた為、対象児の動きも見ていたが、怪我の予測にまでは至らなかった。	水分補給後バラバラに遊び始め、職員の目も分散されてしまった。視界には入っていたが、怪我の予測にまでいたらなかった。	休憩後、バラバラではなくメリハリをつけ、職員間でも声を掛け合い体制を整えてから遊びを再開させる。	
10458	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	夕方の時間帯で園児が少ないので職員も少なくなっていた。危ないという感覚はあったが、止めることができなかった。	危ないと思ったら遊びをそのまま続ける・全部止めるのではなく、どうしたら安全に遊ぶことが出来るかその都度アセスメントを行う。危ないと思ったら上司に報告し、安全に保育できる環境を整える。ほかのクラスからの応援は可能か相談する。各々遊ぶのではなくみんなで同じ遊びを楽しむ時間を作る等園児の行動が把握しやすい環境を作る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	園庭に凹凸が多い。水はけが悪く川のの流れのようなものができており躓きやすい。	園庭の整備	1.集団活動中・見守りあり	園庭遊びの前の点検にて、風が強いことを認識できていなかったため、事前に水まきをしなかった。	園庭遊び前の点検のﾁｪｯｸ項目に追加する。点検が難しいときは上司に必ず報告・相談を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は夏の暑い日以外園児がいる時間帯には水まきは行わないが、目に砂が入ったと話す園児がいたため、普段行わない水まきを行い、何名かの園児の気持ちが高ぶっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	水まきをしていた職員がクラス担任であった。水まきをする前に、園児には声をかけたが、ほかの職員に声掛けを行わなかった。担任は1m以内で本児をみていた。しかしほかの園児もいたので、ずっとは見ていられず視界に入る程度であった。転んだ際にすぐに本児を安全な場所に移動し応援要請をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に合計61名の園児がいたので、他の職員は見ておらず、ほかの職員のところには他児が教えに来たとのこと。すぐに気づき近くの園児を離れた場所へ誘導し安全を確保した。担任ではない職員は何が起きたか知らなかった。	他の職員に伝えなかったため水に近づく園児への見守りができず、園児も気持ちが高まり話をなかなか聞くことができなかった。	職員同士で連携をとる。園児にも事前に伝える。理解ができてから始める。	
10459	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	1.0歳児クラス	11									5	2	17.5歳	1.男児	事故発生時は天気が良く、公園の地面も乾いていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員同士で園児を見守る場所等の細やかな声の掛け合いができていなかった。	安全対策の再確認を行い、引率職員全員で園児を見きれるよう職員同士で声を掛け合って散歩中の見守りをしていく。	2.不定期に実施	10	2.不定期に実施	毎日	2.不定期に実施	毎日	公園到着時に園内の安全確認は実施していたが、細かい箇所のチェックまでできていなかった。	公園内で遊具や危険物等のチェックだけでなく、地面の滑りやすい箇所や転倒しやすい段差等の細かい所までチェックし、職員同士で情報共有する。	1.集団活動中・見守りあり	散歩中や散歩後の園児への声掛けが不足していた。表情や顔色、動きの細やかな確認が不足していた。	保育者が園児の異変に気づけるよう、帰園前の点呼の際に必ず園児1人1人に声を掛け、怪我や体調不良等の有無を確認していく。その際、普段と違う表情や動きをしていないか必ず観察を行う。転倒した際や身体に異変を感じた際は保育者に伝えてもらうよう、遊びの前に園児にも伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	楽しく鬼ごっこをしている様子であり、転倒後も泣くことなく他児と手つなぎで散歩から帰園した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡して、他児を含む3名で鬼ごっこで遊んでいる所は保育者が見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が転倒した瞬間は見ていなかった。	園児の動きをよく見て、注意して見守っていくことができていなかった。	担任でない保育者が散歩に引率することも多くあるため、子どもの性格や怪我の頻度等も普段から職員同士で申し送っていく。また、園児の動きをよく見て注意して見守っていく。	
10460	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									3	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	体幹の未発達が考えられる	多様な運動遊びを生活の中で取り入れ、体幹や反射能力を高めていく	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時		故障等については随時修理を行い、危険を排除していく。	1.集団活動中・見守りあり		保育環境については随時見直しを行い、危険を排除していく。	1.いつもどおりの様子であった	当日、保護者会があり、通常より保育時間をとても喜んでいたとのことが母親よりあった。うれしい気持ちから友達に抱き着くという行為に至った可能性がある。	4.対象児の動きを見ていなかった	散歩にいくために、トイレに行った子どもたちに目線がいっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩に行くために、並ぼうとしている子どもたちの誘導にあたっていた。		散歩準備などで園児が分散するタイミングには、通常より目が行き届かなくなることから、応援職員を呼ぶなど、体制強化を図っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位																											
10461	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									4（正2支1派1）	3（正2派1）	18.6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	角膜上皮びらん、前房出血、高眼圧症、外傷性虹彩症、眼球打撲	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	各1回以上	1.基準以上配置	保育中に使用する材料についての危険な面や安全な使い方についてマニュアルがなく、園内研修を実施していない。	保育中に使用する様々な材料や、これらを使用して活動に取り入れる際に必要な配慮やリスク回避の方法についてマニュルを作成し、園内研修をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	子供が作った手作り玩具について、使用する前に不備がないか点検を怠っていた。	作って遊ぶ製作物については、子供が使用前に不備がないか保育士が確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	手作り玩具を使って遊ぶ際の危険や起こりうる事故に対しての予測ができていなかった。少人数での対応であったが、予測をしていなかったことで安全な遊びの進め方、子供に対しての配慮ができなかった。	子供の人数に対しての適正配置だけではなく、活動内容の危険を予測した上での職員配置を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	射的グループ（本児含め6名）が、5歳児室から隣の遊戯室へ移動し、活動中。ペーパー芯で作った鉄砲で試し打ちをする。	4.対象児の動きを見ていなかった	正規職員1名が5歳児6名の1グループと一緒に遊戯室へ移動し、グループ毎に「縁日ごっこ」の設営や仕事の役割を確認していた。怪我発生時は、同グループ内の他児に鉄砲のゴムのかけ方を教えており、直接該当児の事故発生を見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	正規職員1名、派遣職員（一日）1名が5歳児室にて、5歳児17名の保育中。『縁日ごっこ』当日使用するスタンプやリボンを子供たちと選んでいた。	割り箸の先端部分の保護をしていなかった。割り箸の危険について子供に伝えきれていなかった。射的の扱い方、遊び方の確認が十分ではなかった。行事に使用する制作物の事前確認ができていなかった。	使用する素材が安全か、どのように安全を確保するのか事前に確認する。子供と一緒にどのような危険があるのか考え、一人一人が気を付けながら制作、使用できるようにする。	
10462	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	86	12	14	15	15	15	15			3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置		なし	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊び(に夢中になり周りが見ていなかった。	公園で走らない、遊ばないは出来ないので、遊びの内容や種類に応じて事前に子どもたちに気を付ける事やしてはいけない事を伝える。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。鬼ごっこの最中に他児とぶつかり前歯をぶつけていた様だが、直後には痛みの訴えなどは無かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応をしており当該児が衝突した瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	加配児担当職員で、担当児と遊んでいる目の前で衝突するところを目撃した。	当日は、加配児２名と合わせて１３名の園児を、職員３名で見守っていたが、全員で鬼ごっこをしていた分けではなく、他の遊びをしている園児の見守りも必要だった為、全体の見守りがやや手薄になった。	今後は、加配児や見守り職員の人数に合わせた遊びを提案したり、全員で参加する遊びなど状況によって遊び方を工夫する。	
10463	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	20									5	5	14.2歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	事故やケガが起こった際実施。	1.基準以上配置	職員は基準より多く配置していた。高さがある所からの遊びであったため、危険を予測し、児童の側に職員がおり、いつでも対応できるようにしていた。	職員配置は基準を満たしていたが、遊び方が児童の年齢や発達にあった遊び方かどうか確認を行い、危険がある場合は別の遊び方を提案していく。また、児童の足は負荷がかかると骨折に至ることがあることを再度、職員間で確認していく。	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		引き続き、チェックリストにてチェックする。	3.個人活動中・見守りあり	幼児クラスと一緒に遊んでおり、１歳児の当児童が遊ぶには、設定の高さが高かった。	飛べていても、体の大きさや児童の発達状況を考慮すると見守りだけでなく介助が必要だった。足に負荷がかかる遊びを設定する際は、年齢や児童の発達状況を考慮し、設定していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り3歳児クラスの姉と共にコンテナから飛んで楽しんでいた。怪我に至る前も数回飛んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	安定して飛べていたため、児童の跳んでいるすぐ横に付き添い、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの児童も園庭で遊んでおり、他職員はそれぞれの児童と関わっていた。	安定して飛べており、マットも敷いてあり、大丈夫であると思っていた。骨折に至るという意識が十分でなかった。	飛べていても、体の大きさを考慮すると見守りだけでなく介助が必要であった。児童の足に負荷がかかった場合、骨折に至ることもあることを職員間で再度、確認を行い、遊びの設定や年齢等、事前に職員間で話し合い、危険を予測した対応を共有していく。	
10464	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	14									4	4	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指ひび	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	遊びを見守る職員の配置。事故を未然に防ぐ意識の不足。	職員の配置（立ち位置の確認） 日頃の点検の際に危険を予測した危険だと感じた時に、即対策を取る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	毎日	危険を察知できるタイミングは多々あったが、認識の甘さから靴箱の使用を続けていた。	靴箱の撤去。（安全なものに買替）	1.集団活動中・見守りあり	クラスの保育士の配置人数は満たしていたが、4名中2名が清掃を行っており、実質2名が遊びを見守っていた。 見守っていた保育士1名は『シャボン玉』を子ども達に見せており、この時間に行うこととしては、適切ではなかった。	ベランダで過ごす設定をした際に、事故が予測されるものは子どもの手の届かない場所に移動するなどの配慮が必要だった。	1.いつもどおりの様子であった	良く動き回り、保育士の横を通り抜けて靴箱へ他児と移動し靴箱を揺らしたり、叩いたりして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	シャボン玉をしており、傍にいたにもかかわらず本児の動きから目を離してしまっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2名は清掃。もう1名はベランダにいたが、本児の動きに気付き声を掛けたが間に合わなかった。	靴箱は非常時に持ち運べるように固定されていなかった。	持ち運ぶからこそ軽くてソフトな素材にする。	
10465	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	9						9			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首腓骨剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		園庭の安全保育について再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ターザンロープの側の地面に他の遊具が置いてあった。	保育士が傍につけない時はターザンロープを設置しない。ターザンロープの側の地面に囲いを置き安全に使用できるようにする。	2.集団活動中・子ども達のみ	ターザンロープを使用する際は職員が側につく。日頃より児童にも伝えていく。 ターザンロープの周囲には他の遊具を設置しない。		3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ターザンロープにいる友達に気づかず、タイヤの付いた板からジャンプした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具の設定を保育士が確認していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの職員が設定したまま、その場を離れて保護者対応をしていた。		ターザンロープを使用しない時は、取り外すというルールがあることを再確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上	5歳	学童	その他																																						
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10466	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				6	8			2	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕手首橈骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	保育の環境整備を解除した時、室内が広々とした際に走る姿が見られた。また、保護者の迎えや職員の出入りが重なり、気持ちの昂りが見られていた。	保育安全マニュアルに室内を走る児童に対する危険性や配慮について追記・周知する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		特になし	1.集団活動中・見守りあり	職員がそれぞれ対応しており、走る子どもの姿に気付かなかった。	全体を見るよう立ち位置に注意し、走る児童がいる際にはすぐに静止できるよう周知する。遊びが終了した後もテーブルなどは片づけず、室内を走れない環境に設定した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	部屋を退出する職員を目掛けて走っていた。保護者の迎えや職員の出入りもあり、気持ちの昂りも見られていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応を行っている最中の出来事であり、走る児童を止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	水分補給のお茶を片づけていたため、児童の動きを見ていなかった。		職員同士の声掛けを行い、子どもの高揚状態を見極める力を培い、落ち着いて移動するように導いていく。	
10467	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	18				8	2	8		3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	口腔内裂傷、唇右脇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	各公園の注意する点はそれぞれの職員がわかっているが、声がけがおろそかになった。	A公園で遊ぶ際は、滑りやすいことをこの日も事前に注意するべきであった。	1.定期的に実施	1	3.未実施		1.定期的に実施	1回/日	A公園の地面は滑りやすいと思う。遊ぶ範囲が広い。	事前に子どもに声掛け。また公園によって遊びの内容や範囲を考えるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	付き添いの職員人数は適切だと思う。職員も動き出したため、一人一人への目配りがおろそかになった。	職員同士で見守りの配置を決め、確認し合う。それぞれが子どもに声掛けできるようにする。職員同士の役割もお互い確認し合う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気で活発に鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	離れた場所におり、全体を見渡していたが、その時は本児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊んでいる子や他の鬼ごっこをしている子に付き添い見守りしていた。	運動神経も良く活発な本児と理解し、本児への注意が不足した。	どの子でもけがをすることを予想し、子どもの位置などに細かく目配りできるようにする。事故報告、けが報告等を検討し、改善策を職員皆で周知共有する。	
10468	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	34				15	7	12		3	1	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第１中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	会計年度保育従事者のマニュアルはあるが、各自で読んでもらうのみになっている為、年度当初に「安全基準」など読み合わせを行っていなかった。	常勤職員と同様に安全基準や「事故防止と発生時の対応」は資料を配布し読み合わせなど行えるようにしていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	塗り絵を入れるカゴの位置と、水分補給用のコップ置きの場所が狭かった。	塗り絵を入れるカゴの位置を広い場所へ移動。コップ置きのテーブルの向きを変更した。レゴブロック用のゴザの撤去	1.集団活動中・見守りあり	対象児は机の上で塗り絵をしていた	塗り絵の紙を入れるカゴの場所を変更した	1.いつもどおりの様子であった	テーブルで塗り絵をしていた。塗り絵終えた紙を所定のカゴに置きに行った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の児の保育をしながら、本児が塗り絵の紙をカゴに入れに行くのはみていたが、転倒した瞬間は見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	塗り絵の紙をカゴに入れるため、自分の後ろを通ったのはわかっていた。ゴザの端でが、カゴに入れ自分の後ろを通った際、自分の踵につまずいたのは判らなかった。	保育補助員は本児に背中を向けた形で他の子どもの保育にあたっていた。ゴザの端で上履きのまま正座していたので、本児がつまずいたことに気づかなかった	子どもが後ろ倒を通った際は注意する。子どもに背を向けないような位置を確保し保育する	
10469	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17								1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上BA左上A歯の打撲、RU壊死	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	各保育室でのヒヤリの資料がなかった。	各保育室のヒヤリを書き出し、改善策を出す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	密にならないようにホールを保育室として使っているため、他クラスがホールを使用する際には荷物の移動が必要であった。	周りに園児がいない状況を確認したうえで、可能なものは園児が利用する前に移動させておく。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は次の活動を楽しみに動いていた。	気持ちが浮かれていることを予測し、荷物の移動距離を普段以上に確保する。	1.いつもどおりの様子であった	次の活動にむけ室内に入るため、手洗いを行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラスの他の子どもたちの動きにも目を向けながら、対象児と水道を挟んで向かい合い会話をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3歳児担任が、対象児の後ろを通り荷物を運ぼうとしていた。	荷物の移動を職員が1人で行っていた。	複数人で荷物を運ぶ、または周囲にいる職員が荷物移動時には子どもに対し動かずにいるように声をかけるなど、職員間の連携をとる。	
10470	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43				14	16	13		4	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	夕方の引き渡しの際に、保護者対応のため職員が子ども達から目を離す時間がある。	保護者対応の際に話す時には、室内が見える向きでの対応とする。会計年度職員の立ち位置にも気を付け、全体を見ていけるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	じっくり遊べるようにコーナーを設定しているが、死角になる部分でもあった。一か所に少し高めの本棚があり、子どもの様子も見づらかった。	怪我の原因は椅子の座り方なので、子ども達にも椅子の座り方について意識できるように声をかけをすることを周知した。また、死角となっていた本棚を移動した。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は同じクラスの友達と、電車やレールを組み立てて遊んでいた。	数人で遊んでいたので、その場に必要な玩具かの確認をし、環境を整備するように周知した。	1.いつもどおりの様子であった	同じクラスの友達数人と仲よく遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	引き渡し時の保護者対応をしながら全体を把握していたが、怪我の瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のコーナーの遊びを見ていた。	引き渡し時の保護者対応をしながら全体を把握していたため、死角になる所での怪我を止められなかった。	死角にになっていた場所の本棚の移動をし、保護者対応時に子どもの様子が見える立ち位置にしたり、他の職員への声掛けを行うようにした。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
10471	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根部の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	本児の行動が突発的なので、急な行動の危険性がある。	遊び始めや遊びと遊びの間の動きを見守っていったり、安全に遊べるように足元や周囲に注意を向けられるよう声を掛けたりしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	玩具（フープ）が多く設置されていた。	足元に置いてある玩具は片づけ、子どもの遊びの動きの妨げにならないようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は衝動的に動いていた。	本児の遊びに目を配り、次の行動に移る時には周りを見ていく事を伝える。	1.いつもどおりの様子であった	遊びが点々としていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士については、ビオトープで子どもと生き物を見ていた保育士と、全体を見ていた保育士がいた。本児が突発的に動いて転倒した場面は全体を見ていた保育士が見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ビオトープで子どもと生き物を見ていた保育士も、本児が突発的に動き出したので転倒を遠目で見ていた。	本児が日頃から突発的に動くことは予想されていたが、他の子ども達もいたので保育士自身が瞬時に動けなかった。	日頃から遊びが点々とし突発的に動くので、できる限り傍について一緒に遊べるようにしていく。	
10472	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	21								3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕橈骨若木骨折、右前腕尺骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置		・職員全体に園外保育を行う場合の引率人数の確認。 ・園外保育で受傷した場合の不安要素を書き出してもらい、改善点や保育での工夫等を話し合う場を設けた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ネット部分で起こり得る事故について改めて園内で共有し、今後の事故防止につなげる。	3.個人活動中・見守りあり	事故防止のため全体に遊具の使い方を知らせていた。	行動に注意が必要な児だったため、個別にも声をかけるなどの配慮が必要だった。	1.いつもどおりの様子であった	他児と同じ空間で、格子状のネット部分などで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が怪我をした遊具付近かつ全体が見守れる位置で子どもたちの安全確認をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所にある遊具付近かつ全体が見守れる位置で子どもたちの安全確認をしていた。	事故発生時、保育士の立ち位置が対象児は視界に入るが、手がすぐに届かない位置にいた。	公園内で最も高さのある遊具であったため、アクシデントが起きないようにすぐに子どもに手を差し伸べられる位置につくべきであった。	
10473	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								3	2	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		事故予防に関する研修については、回数や時間を増やすなどを行い、事故の振り返りの他、未然に防ぐことができるよう予防的な側面からの内容充実をはかっていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時		玩具の安全点検日を設定する。	1.集団活動中・見守りあり		トラブル時に手が出ることはほとんどなくなっているが、片付けのときなど距離も近くトラブルになりやすいので、傍で怪我にならないように見守り、手が出そうなときは止めていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	午睡用のコットを他の園児と一緒に運んでいた。本児たちが遊ぶ様子は確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の下膳のため保育室外にいた。トイレへ行く児の見守りをしていた。		給食の片付けから午睡準備と慌ただしくなる時間であるが、職員は子どもたちの見守りが不十分にならないようにしていく。	
10474	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12								1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	年長児ということもあり できることが多くあるが、遊び方として不向きな行動を抑止する為のマニュアルや職員間での認識の違いがあった。	事故報告をもとに園内での意見交換を行い遊び方の指導マニュアルを作成していく。	1.定期的に実施	月に１回	1.定期的に実施	園庭遊具雨天以外は毎日	1.定期的に実施	消毒時に点検	テラスと階段の距離や高さが、こどもができると考える設計である。	テラスは歩く、いったん降りて階段をあがるという動作の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり		築山から下るときには駆けない。また、周りに花壇を置いて、走れないようにした	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	その場所には本児一人が遊んでいたこと、普段はできていたことなので見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの子どもたちみていたので、園庭にはいない	普段から行ってる行動の為見守っていたが、危険が伴うことへの周知が足りなかった。	いつもできることがいつでもできることではない。遊びだのルールを伝える。どんなことがどんな怪我につながるのか伝えていく。	
10475	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17								1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4～5	2.基準配置	普段、おとなしい性格の児であり、室内で走り出すことを予測できなかった。	普段おとなしい園児でも、自由時間に友人とすきな遊びができることで、興奮しやすい状況にあった。園児の気持ちの変化にも対応できるよう、職員のスキルアップをはかる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室内では園児は上履きを履いているが、室内で走ると転倒や衝突の危険がある。 保育室の壁側にロッカーが設置されており、ロッカーに向かって走ると衝突の危険がある。	園児には引き続き室内での上履き着用の声かけをおこなうと共に、室内では走らないよう注意する。	3.個人活動中・見守りあり	室内での自由遊びで、椅子に座っている児や床に座って遊んでいる児等がいた。	椅子に座っている子、床に座っている子、立って遊んでいる子ようさまざまな姿勢の子がいたので、コーナー毎にスペースを分ける等して、環境設定をおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良等なく、自由時間に友人と好きな遊びをできることに嬉しい様子だった。ぬりえを片付けるために、友人と一緒に、楽しい気な様子で保育室の壁側にあるロッカーに向かった際に気分が高まり、突然短距離を走り、ロッカーにぶつかり受傷した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室内で、全体を見守っていた。本児がずっと走っていたわけではなく、急に走り出したため、静止することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を一人の職員が見ていた。	自由遊び中で、それぞれぬりえやブロック等、好きな遊びを楽しんでおり、気分が高まっていた。	子どもと共に、クラス全体でどうしたら怪我に繋がらずに遊べるかということを話し合い、室内は走らないことを確認した。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10476	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	不明								2	1	17.5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指付け根の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	本児が痛みを伝えなかったことと、保育者も異変に気づけなかった。	事例を定期的に共有し、職員への周知を徹底していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	使用の都度	2.不定期に実施	ソファの後ろに棚があった。	棚・ソファの配置等、環境設定を検討していく。	3.個人活動中・見守りあり	普段から健康チェックはしていたが本児が当時そこまで痛みを感じておらず、痛みの訴え等もなかったため発見が遅くなってしまった。	より一層意識を高め気を付けて見ていく。痛いところはないかなど直接聞く。子どもたちにも前からときやケガをしたときなど大人に伝えて良いことを知らせ、安心できる大人や環境の中で過ごせるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	痛みがなかったため、伝えることなく過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	登園児の受け入れをしながら室内の様子もみていたが、ぶつけた瞬間はみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園してきた子どもたちと一緒に遊んだり、周囲にも目を向けていたが、本児が棚に手をぶつけたことには気づかなかった。		クラス全体の把握と子どもたちの動きをより一層気を付けてみていくと共に、保育者の危険予知能力を高めていく。	
10477	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	5								1	1	14.2歳	1.男児	身長90.3㎝体重14.2kg座っていたが、突然ドアを閉めようとした。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第１指亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	換気の為、ドアを開けたままにしているが、本児が閉めてしまった。	ドアが閉まりきらないように、ドアストッパーをつけた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ドアのクッション材が剥がれたままになっていた。	ドアが閉まらないように、ストッパーをつけた。	1.集団活動中・見守りあり	1名だけまだ扉の前に居て部屋に入ってなかったから呼んでいたが、それを聞いた本児がドアを締めに行ってしまった。	動き出した瞬間に止めるべきだった。もしくは、ドアストッパーをつけておくべきであった。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	朝から機嫌があまり良くなくて、友達の顔をトンデでつかもうとする等の行為も見られていたので、気を付けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	日頃からドアを閉めることがあったので、大丈夫かと思い見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先に戻っていた補助職員が中で他の4名を見守りながら、本児の姿も見ていた。	日頃からドアを閉めることがあり怪我をしてなかったので、大丈夫だと思ってしまった。	動き出した瞬間に止めるべきであった。もしくは、開放用ストッパーをつけておくべきであった。	
10478	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	24								2	2	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	作り付け棚からの転落については過去にも発生していたが、マニュアルや事故防止チェックリストに棚上のリスクや使い方についての記載がなかった。／ヒヤリハット事例については、日々所定の書面で職員と情報共有しているが、再発防止策が事故防止チェックリストに反映されているかどうかを確認する仕組みが明確になっていなかった。	マニュアルや事故防止チェックリストについては、園長の責任の下、実際にあった事故やヒヤリハット事例を基に、随時情報を更新していく。また、事故防止チェックリストの内容改訂についての仕組みを明確に作る。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	２歳児クラスの保育室は２階にあり、作り付け棚の前に大きな窓ガラスがある。そこからは１階の玄関付近や人、車がよく見える作りとなっており、子ども達にとって魅力的な場所となっている。そのため、日常的に子どもが集まりやすい。	窓ガラスの上部のみに目よけ用のシートを貼っている。このシートを上から三分の二位の位置まで追加で貼り、座って見たほうが外の様子が分かるような環境にする。／棚上の左半分に道路等の絵が描かれたシートを貼り、棚を机代わりにして遊べるようにする。右半分は棚上から外を見ることができるスペースとして残す。	1.集団活動中・見守りあり	日常的に作り付け棚の上に子どもが集まることを認識していたが、棚の下にマットを敷いていなかった。／棚以外の場所でも遊びが展開するように、保育環境の見直しがもっと必要だった。	事故発生後、取り急ぎ、棚の下にマットを敷いた。マットのジョイント部分の浮き方が新たな転倒リスクにつながるため、雲に変更。（滑り止めを使用）／保育室内の遊びのコーナーを見直し、子どもの関心が１箇所に集中しないようにした。これにより、棚上以外の場所にも子どもが集まるようになり、棚上に乗ることが減った。	1.いつもどおりの様子であった	事故発生までは、該当児の体調に変化はなかった。保護者からも特別な引継ぎはなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	作り付け棚の右端に位置していたが、該当児が落下した時に届かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内には元々３名の保育者がいたが、この内の１名は牛乳を取りに室外に出ていた。もう１名は、棚上３名の子どもと担当職員、室内にいるもう１名の子どもを全体的に見ていた。	事故発生時現場にいた常勤保育者は、所属外からの臨時応援だった。該当児の特徴（転倒、けがし）が未消化だった。／は所日は、ある子が多いため、この時は常勤保育者が主体で保育を行う。職員配置については、職員がある時には、その情報を事前に伝達する。／棚上に限らず安全管理については、保育者間で役割を明確にするやり取りを必ず行う。／保育者は、棚の隙ではなく左右に速やかに動けるよう中央に位置する。／リスクの高い場所に、状況にある時には、子どもの気持ちよりも安全を必ず優先させる。／ノヤイイ期にある子どもへの声掛けや対応については、日頃から保育者間で打合せておく。	保育者間の情報共有を徹底。特に年度替わりや新しい保育者等が入った時には、丁寧に引継ぎを行う。（子どもの特徴、環境について）また、役割（リーダー、サブリーダー、常勤、非常勤）に関係なく、子どもの特徴や環境等を把握しつつ保育者がお互いで保育を行う。職員配置について、棚設置がある時には、その情報を事前に伝達する。／棚上に限らず安全管理については、保育者間で役割を明確にするやり取りを必ず行う。／保育者は、棚の隙ではなく左右に速やかに動けるよう中央に位置する。／リスクの高い場所に、状況にある時には、子どもの気持ちよりも安全を必ず優先させる。／ノヤイイ期にある子どもへの声掛けや対応については、日頃から保育者間で打合せておく。	
10479	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38			13	15	10			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左手首）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置		マニュアルの見直し。長年伝えられてきたルールに沿っているが、チェックリストなどを設け、確実に安全が守れるように修正する。	1.定期的に実施	3～5	1.定期的に実施	約10	1.定期的に実施	毎日		安全点検はこまめに行っているが、チェックリストで確認するなどして、徹底する必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	コロナ予防のために外遊びの機会を多くし、夕方にも外遊びを実施している。	コロナ予防のために行っている夕方の外遊びの方法、見守りについて再確認が必要。	1.いつもどおりの様子であった	朝は通常通り登園。夕方まで体調や言動等に、特にいつもと違った様子は見られなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢児の保育であることから、子どもたち全体を見るようにして見守っていた。園庭でスピードを出して走り回って追いかけっこをしたり、高さのあるアスレチックで遊んでいる子どもが多かった。鉄棒はアスレチックの裏側の中央から見づらい位置にあるが高さはそれほど高くなく、当該園児はまもなく年長になる最も大きな子どもであったことや、当該園児が積極的にできていたことから、鉄棒という高さのある器具ではあるものの、他と比べて危険性が大きいとは感じられなかったため、当該園児を特に注視していなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当するクラスや年長の園児を中心にみていた。やはり園庭で走る子どもたち、アスレチックでダイナミックに遊ぶ子どもに目が行きがちであった。特にアスレチックの裏側に一体化されて設置されている鉄棒は死角になり、見にくいこともあり、またそこで遊ぶ子どもは少ないことから、注視していなかった。	園庭が広く、死角が多い。鉄棒はアスレチックに付属しており、園庭の裏側にあって中央付近からは目視しくい。アスレチック等、ダイナミックな遊びに目が行きがちになり、鉄棒は高さがあり危険であるという認識が足りなかった。	園庭での見守りのための職員の立ち位置などを改めて決める。死角が多いから遊び方を考える。具体的には、鉄棒の見える位置に保育士が立つように会議で職員と共有した。	
10480	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	3								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	①左肘頭骨折②左橈骨遠位端骨折③左橈骨頸部骨折④左上腕骨内上顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	クラスでの事故原因の話し合いは行ったが、他クラス職員との検証は行わなかった。	他のクラスの職員も交えて速やかに原因と事故防止対策を話し合い、同じ事故が起きないように子ども達が安全に遊べる環境づくりを図る。	1.定期的に実施	1	3.未実施	遊具の定期的な安全点検は未実施であったが鉄棒をする際に保育士が安全確認をするほか高さ1Cの点検を実施	1.定期的に実施	12	「トレーニング鉄棒・折り畳み式A」107×147ｃｍ重さ8.0ｋｇ（高さ4段階82.89.108.128ｃｍ）「カラーマット（あい色）90×180ｃｍ厚さ5ｃｍ重さ10ｋｇ帆布（ナイロン）いずれも破損無	室内遊具の安全点検方法の検討を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちが落ち着かない状況の中で、当該園児に勢いがあった状態で鉄棒を続けたことも一因であった。	子どもたちの状況を考慮して、鉄棒実施の可否を判断していく。	1.いつもどおりの様子であった	室内でラキューで遊んだあと、友達2名と一緒に廊下に来て、設置した鉄棒を行う。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の側に立ち、対象児が回るのを見ていたが、勢いがあったため、落下する際に支えが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスでの遊びと廊下での活動を分けていたため、他の職員はクラスの子ども達の保育を行っていた。	一度落下していたことも踏まえ、鉄棒から落下するかもしれないことを想定し、落下しても下から支えられるように立膝の状態で補助すべきであった。	鉄棒を行う際は、子どもの状態に応じた適切な方法で補助を行う。また、子どもたちの状況を考慮して、鉄棒実施の可否を判断していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		発生時状況	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢					死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10481	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	27									3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	事故防止のための対応についてのシュミレーションが不足していた	定期的なマニュアルの読み合わせと対応のシュミレーションを行う。	1.定期的に実施	月1	1.定期的に実施	月2	1.定期的に実施	毎日	今回は園外のためなし	今回は園外のためなし	1.集団活動中・見守りあり	足をわざと引きずりながら歩いていた	正しく歩行できるよう指導する。転倒しないよう職員と手をつないで歩く。	1.いつもどおりの様子であった	公園で遊び終えた後、園に戻る道で気持ちが高揚していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転倒の可能性があるため、声掛けをし足を引きずらないよう伝えていた。加配についていたため、転倒への対応が遅れた。加配の職員でない職員があと１名引率していればよかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	列の先頭で全体を誘導していたため、後方の本児に気が付くのが遅れた。	遊び終えた後の高揚があり、注意されたことが逆に作用した。	落ち着かない時に一度足を止め、職員と手をつないで歩くなどして転倒を防ぐ	
10482	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マニュアルの確認が徹底されていなかった。事前に大きな石で遊ぶときの対応やリスクについての話を担当間で出来ていなかった。	職員会議や事故防止についての研修（園内研修）を行ったり、事故防止に関するマニュアルの見直しや確認を定期的に行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		安全保育について、共通認識を高める。	1.集団活動中・見守りあり	石で遊んでいる子どもがいたら石の大小に限らずすぐ傍で遊びを見守り、危険に繋がる遊びであれば違うもので代用して遊ぶよう声を掛けるべきだった。また、散歩先で整備がちゃんとされているか担当が確認せずに遊ばせてしまった。	子どもたちが遊んでいる環境を細かく把握し、子どもたちにも大きな石を運ぶ手指を挟んだり大きな怪我に繋がることもあるため、石を運ぶときに気をつけることなど子どもたちと遊び方について話し合い、安全に遊べるようにする。また、今回起きた事例の事故報告を用いて全職員に注意喚起をする。散歩に行く事前や着いた時点で危険箇所がないか確認した上で遊ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	小さい石や大きい石（２０センチぐらい）が沢山置いてある場所で他児と石を並べたり裏返してごっこ遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士１名は他児と鬼ごっこ、もう１名の保育士は他児と棒などで家作りをして遊んでいた。２人共、全体を見ながら時折、本児が石を並べている場所へ行き様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当保育士１名は他児と鬼ごっこ、もう１名の保育士は他児と棒などで家作りをして遊んでいた。２人共、全体を見ながら時折、本児が石を並べている場所へ行き様子を見守っていた。	保育士は本児が石で遊んでいたことはわかっていたが怪我に繋がる可能性があるという認識が薄かった。	子どもたちが遊んでいる環境を細かく把握し、子どもたちにも大きな石を運ぶ手指を挟んだり大きな怪我に繋がることもあるため、石を友達と運ぶ際は突然、手を離さないことを伝えたり、石の遊び方について子どもたちと話し合い、安全に遊べるようにする。子どもが分散して遊んでいる際は、特に怪我に繋がる遊び方をしていないか子どもの遊び方に意識を向ける。年に3回定期的に公園や神社の危険箇所点検と防止周知を行う。	
10483	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11									3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		職員会議で再度危機管理マニュアルの確認をし、安全について職員間で話し合い共有した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1～2回/日		安全だと思っている場所もけがに繋がる恐れがあるので、遊び場の安全点検を行い、木の枝を切る、段差の確認などを行った。	3.個人活動中・見守りあり		安全な場所であると思っていたため、目を離してしまったが、どこにでも危険があるということを常に考え園児の遊びを見守る。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は近くにいたが、朝の受け入れ等で、目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見守りつつ、対象児の動きも見てはいたが、怪我の予測にまでは至らなかった。		朝の受け入れ時も保育士は園庭に出て、全体も見ることを職員全体で確認した。	
10484	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18					10	8			2	2	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		なし	1.定期的に実施	1	3.未実施	固定遊具なし	1.定期的に実施	1回/日		なし	7.その他	上履きをいつもは履いてから部屋へ行くが本児は履き忘れていた。	上履きは履いてから廊下を歩くように子ども達に伝えたうえで、保育士も必ず確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもは集団の最後をゆっくりと来て上履きを履いて集団の最後の方に来る本児が、先頭集団に居た。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	「先生より先にお部屋に行かないよ」と子ども達に声を掛け、先頭で誘導。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	未だ玄関で靴を脱いでいた児の対応をしていた。	靴を履き替えた児から部屋に行く流れで、いつもより早く準備が出来た事に本児も張り切って前へ行こうとしたのかもしれない。	下駄箱の前で全員が靴を上履きに履き替える事を待ち、並んで部屋まで移動する。	
10485	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	22									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	裂離骨折（左踝）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		マニュアル、配置等には問題はなかったと考えられ、改善点はなかったと思う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎		今回の事故につながる要因ではなく、改善点はないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	集団あそびではなく、ひとりひとりが思い思いにあそぶことを見守っているが、範囲が広すぎて見守りきれていなかった。	確実にみることができるよう、保育者の立ち位置等、再度確認し合うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に走ってあそんでいた。特に何かにつまづいたということはなく、転倒はせず足をひねった様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	走っていた本児が、突然に足を止めたので様子を見ていたところ、足の痛みを訴えた。外傷もなかったため、様子をみることにした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児があそんでいる方向とは違う方向を向いていた。		確実にみることができるよう、保育者の立ち位置等、再度確認し合うようにする。	
10486	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	戸外遊び時に園児がケガをした際には、すぐに園に戻ることになっているが、本児が痛みを訴えず、普通に歩けていた為、園に戻らず公園に行き遊んでしまった。	園児がケガをした際には、遊びを継続せず、すぐに園に戻る。	1.定期的に実施	15	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	240	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	本児が他児と手を繋ぎ、会話をしながら歩いていた。	会話に夢中になっている時には声を掛け、落ちついて歩けるようにする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	久しぶりに行く公園の為、高揚していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児の列の最前列にいた為、本児が受傷した際には見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児の列の後方に付いていた職員が、本児が受傷して際の様子を見ていた。	受傷後、本児が「大丈夫」と言った事で大したケガではないと判断したこと	園児がケガをした際には、遊びを継続せず、すぐに園に戻る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上	5歳	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	アルの有無	実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10487	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	2										1	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上下涙小管断裂眼瞼裂傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	朝のおむつ交換のため職員が一人になる時間ができてしまう	おむつ交換のできる場所を保育室内に用意する。●●保育園安全基準の見直しを行う。点検チェックリストを年齢ごとの発達に合わせて作り直す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	受け入れ時、保育士が一人になると入口付近から死角になる所があった。原因と考えられるフックが目の高さにあった。	怪我の原因となる可能性の高いフックの使用を止め養生テープで固定しておき後日高さを変える工事を行う。室内配置の変更を行い受け入れ時の死角をなくした。棚の端にクッションを付けた。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は他の子とはかかわらずに一人でポーズを決めて遊んでいたので一緒に遊べるような仲立ちができる体制を作る	対象児は他の子とはかかわらずに一人で自分の世界でポーズを決めていた	1.いつもどおりの様子であった	他の子と関わることなく一人でポーズをしたりテーブルの周りを歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	受け入れ時の保護者対応をしながらクラス全体を把握していたが怪我の瞬間をみていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おむつ交換のために幼児トイレにいっていた	受け入れ時の保護者対応をしながら全体を把握していたため、死角になる所での怪我を止められなかった。	入口から死角になっていた場所の改善と排便時以外のおむつ交換を室内についてを用意して行うようにした。	
10488	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17										1	1	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		要因が考えられなかったため改善策の記載なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		要因が考えられなかったため、改善策の記載なし	1.集団活動中・見守りあり		要因が考えられなかったため、改善策の記載なし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	該当園児はもともと瞬間的に行動してしまう傾向がある。ゲームの台間で気持ちの高揚が継続していたため、いつもより強くその傾向があらわれた可能性がある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゲームの白線を置き直していたため園児が走り始めたことで担任と距離が離れてしまった。走っているところは確認したが一瞬目を離した際に2人がつかったため事故発生自体は確認できていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で園児17名を1名で保育していた。もう一人の担任はテラスで見守りをしていた。	午前中に卒園式があったこと、そのため通常は園庭にいる5歳児がおらず開放感があったことなども影響したと考えられる。	該当園児の動きの傾向を考え、中あての合間は座って待つようにする。	
10489	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17				13	4					2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第五指骨折、第四指打撲	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	職員1名が配膳をしながら子どもの様子を見ていたので、すぐに対処できなかった。	職員が2名になったところで、配膳を始める。	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週	絵本コーナーを落ち着ける空間にするため棚を使用して遊びのコーナーを分けていた。滑り止めは付けていたが、園児が棚に飛びつくことは想定していなかった。	棚を、壁側に配置し転倒防止を行う。	1.集団活動中・見守りあり	保育室間のパーテーションを開けて広い空間で子どもを見ていたので、隅々まで目が行き届かなかった。	保育士が1名の状況の時は、目が行き届くように空間を広げない。	1.いつもどおりの様子であった	本児は普段通り着替えを早く終え、本を読んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	配膳をしながら子どもたちの様子に目を配っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩後の報告のためクラスを離れていた。	棚を倒してしまった子どもも、いつも着替えが終わると静かに絵本を見ているので、棚に飛びつくという行動が予測できなかった。	場面の切り替わりでは特に、子どもが落ち着いて過ごす環境を整えてから行動する。子どもたちには怪我につながる危険な行動はしないように伝えていく。	
10490	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	121	10	16	25	24	23	23	0			23	20	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置		園児の動静を把握した見守りを徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		雨天後など園庭の形状が変化している場合があるので確認する	1.集団活動中・見守りあり	子どもの動静や遊びの状況人間関係などを考慮しても見守り	子ども同士の関係性、遊びの内容を把握しながら見守る	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	大きく気持ちが高揚する様子は見られなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数の園児が高さ1メートルのデッキから飛び降りて遊んでいる様子を手の届く位置で見守っていた。当該当児が他児に続いて複数回デッキから飛び降りる様子を見ていた	4歳からの入園だったため乳児からの発達をふまえた見守りが不十分だった。	乳児からの運動発達を入園時に保護者に丁寧に聞き取りを行う	
10491	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	34				14	20					2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左目尻裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		子どもの動性把握や事故予防に対する研修など実施出来ていなかったため、今後定期的に行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		子どもの動線を配慮し、机と椅子の配置を見直す。また、棚などの角がある家具には安全ガードをとりつける。	1.集団活動中・見守りあり		保育者は全体を見渡すことが出来る位置に立ち、見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも活発な園児であるが、その時は落ち着いて過ごせていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	降園が重なる時間帯で保護者対応を行っており、対象児から目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児の動性を把握出来ていなかった。		降園時間が重なる時間帯において、1人が保護者対応している際には、その場にいる他の職員が子どもから目を離さないようにし、動性把握を行うようにする	
10492	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				12	13					3	3	17.5歳	2.女児	午前の活動としてリズム体操を実施していた。その際、他児と衝突、転倒し左肘部を床に強打した様子。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	新年度で担任が園児の状況把握が完全ではなかった。また、ホールと保育室をつなげ広いスペースで実施していたが、1つのグループの人数が多かったため、担任の目が十分行き届かなかった。	担任には、園児個々の把握と理解を促し、臨時職員会議を設け、事故の周知と原因について話し合いを実施した。子どもの精神面や身体面にも気を配るよう全職員に周知した。また、事故予防マニュアルの再追記を実施した。実施時の1グループの人数の見直しを図った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	新年度で子どもたちの落ち着きがなかった。担任がクラスの子ども全員の身体面や精神面の把握が十分に出来ていなかった。	しっかり把握が出来るまで活動内容など十分配慮していく。子ども全体に目が届くような大人の配置を検討する。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に円になって走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	円の先頭を一緒に走っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ピアノを演奏していた職員1名と他の子どもを見守っていた職員が1名いた。	担任、他職員同士の連携が上手く図れていなかった。また、リズムに対しての過信と油断があった。	全職員が常に子どもの状態を把握し、安全面に配慮しながら活動を実施していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷	診断名				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか				
10493	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									3	1	17.5歳	2.女児	新しい補助職員が午睡明けから入ったので、テンションが高かった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	規定の人数は満たしているが、職員は年長の見守り経験が浅く、補助職員は園庭見守りが浅かった。	職員、補助職員共に事故防止マニュアルを再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭の土が削られて、特に本児が怪我した場所付近は凸凹している箇所だった。	現在、本児が遊ぶ場所はボール遊びをする所となっているが、凸凹していると、今後平らな場所をボール遊びの場所へ変更するよう提案。	1.集団活動中・見守りあり	補助職員2人とも園庭の見守りが浅かった	補助職員と改めて園庭の見守りについて確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は若いお兄さん、お姉さんに執着する特性があり、この日はベテラン補助職員がいなかったので、新人補助職員が手伝いに入ったことにテンションが高い状態であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	傍に新人補助職員がいたが、周りに子どもが群がっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス職員は園内にいて、別クラス年長担任が補助職員2名と合同で園庭を見守っていた。もう1人の補助職員も年長児の園庭見守りは浅かった。	新しい補助職員が入って、気持ちが高ぶっている子ども達が多かったので、園庭に出てからいつもより時間を掛けて説明して、落ち着かせるため子ども達に10秒ほど目を閉じさせたが、補助職員と共有していなかった。	職員3人で連携を取って、具体的にどう見守るか話し合うべきだった。もしくは補助職員の園庭見守り経験が浅いので、担任を早急に呼び戻すべきだった。	
10494	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									3	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	適切な配慮が必要とされる園児の突発的な行動への予測力が十分ではなかった。	園児一人一人の特性を十分把握するとともに、常に全体が把握できる位置についたり、安全な環境を整備することへの危機管理能力を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	扉には指はさみ防止のストッパーが付いていたが、事故の際にはかけられていなかった。	・ストッパーは扉の開閉に合わせ自動にかかるタイプのものではないので、常にかけておくことを徹底すると共に、テープで固定する。(不審者対応時には扉を完全に閉める必要があるため、テープで固定する) ・チェックリストを作成し、早番職員が各保育室を見回る際にストッパーがかけずかかっているかを確認する。	3.個人活動中・見守りあり	全ての児の登園が完了していない中で園児と共に室内清掃を始めたことで、遊んでいる児と清掃をする児両方に十分に目を向けることができていなかった。	園児の登園の完了を待ち、担任が揃った状態で清掃等の活動を行うように、一人一人に十分に目が届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	室内でラキューをしていたが、清掃をすることの声掛けで支度をしていないことを思い出し、廊下にあるキャスターからカバンを取り室内の口ッカーへ移動しようとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児と共に清掃を行うため二部屋の間にパケツを置き、園児が雑巾を絞った片付けす様子をる見守ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ちょうど登園してくる園児を視診するため、廊下から園庭側を向いて受け入れを行っていた。	適切な配慮が必要とされる園児には職員が付いていたが、活動の中で他の用事を済ませるために動き、目が離れる。	適切な配慮が必要とされる園児に付く際には常に見守る意識を持ち、他の場所に動くときには職員間で声を掛け合い必ず側につくようにする。	
10495	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	12									2	2	17.5歳	1.男児	日頃から動きが活発な児童であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	様々な子どもの姿を想定し、起こりうる事故に対しての予防策や実際に事故が発生した際の対応方法について考える機会となる研修等の実施が不足していた。	研修の機会を増やしたり、日々のヒヤリハットや事故簿の見直しのための話し合いを定期的に設けていく。また、職員配置が基準を満たしていたとしても職員間での連携が不足していれば事故に繋がるリスクが上がる為連携の取り方について考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎日	対象児はすべり台を好んで普段から繰り返し楽しんでいたが、今回事故が起きた、高さ150ｃｍ程の遊具についてはあまり使用をしていないため不慣れだった。	対象児が新たな遊具に取り組もうとする際はそばについて、本児が安全に安心して取り組めるように援助をする。	1.集団活動中・見守りあり	気持ちが高揚して遊びが盛り上がっている姿を把握しながらも、保育者がそばについていなかったため事故につながった。	・改めて戸外活動中の子どもの把握方法を見直す。・個々の特性を理解した上での声掛けを行えるように改善する。・子どもの行動の予測を行い、危険を察知出来るようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	特定の友だちとの遊びが盛り上がり気持ちが高揚していた。普段あまり使用しない遊具を使用して遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が誰とどのような遊びをしているのか、普段あまり使用しない遊具を使用していることを把握しながらもそばについての把握をせず5メートルほど離れた別の遊具から把握をしていた為、本児の転落の瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の遊びの様子は把握しながらも広場の範囲で、氷鬼を楽しむ子どもの把握をしていた為、転落の瞬間を見ていなかった。	保育者が対象児の日頃の活発な遊び方を把握しながらも、対象児から目を話したことが大きな要因として考えられる。	保育者間で声を掛け合い、その子どもの遊びに合わせての職員配置や場所の調整を行う。	
10496	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34				16	18				3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	運動遊びに関するマニュアルが無い	運動遊びについて職員会議を行い、共通認識をもつ	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	身体の大きさ対してやや長めの縄を使用していた	身体に合わせた縄を使用していく	1.集団活動中・見守りあり	・午前中雨天の為外に出ておらず、気持ちが高まっていた。 ・クラス活動の際定り縄跳びをしていたが、異年齢の時間に行うのは初めてだった	不測の事態をさらに考慮し、注意喚起していく	1.いつもどおりの様子であった	繰り返し行っていたが、縄が足に絡まり転倒した	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで他児の縄跳びの回数を数えていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の遊びを見守っていた	慣れた活動であった為、出来ると過信していた	慣れた遊びであっても、様々な事態を想定した補助をしていく	
10497	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22									5	2	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上下歯打撲 上唇挫創 オトガイ打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	側に保育士がついていたが、瞬間的な出来事で手が出なかった。	落下することも予想し、保育士が下で手を出して待っているようにする。	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	床に何も敷いてなかった。	床にマット等、クッションになるものを敷く。	1.集団活動中・見守りあり		踏み台を使用せずに、巧技台を低くするようにする。	1.いつもどおりの様子であった	揺れたことにびっくりしたようで手を離してしまったと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	踏み台を使用しており、その踏み台を外した直後であったため、手がでなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	順番を待っている他児と一緒に座って見た。		落下することも予想し、保育士が下で手を出して待っているようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他								死亡	負傷	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
																								死因	負傷状況	受傷部位																												
10498	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	11									2	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		危険を伴う遊びを子どもたちが始めた場合には制止し、事故を未然に防ぎ、安全に活動できるような声かけができるように、職員に対して園内研修を行い、学びを深めていくようにします。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	20回/月		記載なし（今回の事故はハード面に起因する事故ではありませんでした。）	1.集団活動中・見守りあり		危険をともなう遊びを子どもが始めた際は速やかに制止し、安全に遊べるように声かけを行うようにします。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの健康状態で登園し、同年齢の子どもたちと楽しく造形あそびの活動をしていた。新聞紙を使って遊んでいた子どもたちが別の児童が縄跳にみたてて新聞紙を飛ぶ様子を見て自分も真似して飛んでみようとして、足をかけてひっかり転倒してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	造形活動で新聞紙を使って遊んでいたが、別の園児が新聞紙を使って縄跳のように飛んでみせたのをみて、対象児がまねをしようとしている姿をみて、危ないなと感じたが見守るだけで制止はしなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	造形活動の講師は別の児童たちの造形の様子をみており、対象児童の動きはみていなかった。		新聞紙を使った活動で、子どもたちの見立てを大切にしたいと、いう思いが先行してしまい、新聞紙のような短いものを縄跳のように飛ぶことに対して危険を感じたにもかかわらず制止をしなかった。今後は危険を察知した際は速やかに声かけを行い事故を未然に防ぐように心がけたい。	
10499	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	0	0	0	6	7	7			2	2	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上Aの歯の脱臼、下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員は子どもの様子を見ながら必要に応じて声をかけていたが、子どもの気持ちが焦ってしまっていたため、転倒してしまった。	子ども達全体の様子が見える位置に職員は配置できるよう心掛けているが、その都度確認しながら保育に当たるようにする。	1.定期的に実施	4	3.未実施		1.定期的に実施	100	床の状態はいつもと変わりなく、つまづきやすいものが置いてあったわけでもなかった。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	着替えるときにシャツの袖に手がきちんと通っておらず転倒した際に手が付かなかった。	着替えを済ませてから向かうように声をかける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	早く次のところに行きたいという気持ちがあり焦っていたかもしれない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	周りの子どもたちの様子も見守りつつ、友だち同士で着替えの競争をしていることは確認しており、ちゃんと服を着ないと危ないよ、という声かけも行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの対応やひきつけを行っていた。	食事が終わり、午睡のためにパジャマに着替えていた。友だち同士でお着替えの競争をしており、上着の袖がきちんと通っていない状態で部屋を走り移動しようとしたため、足がもつれて転倒してしまった。	移動の際は着替えを済ませてから向かうように声をかける。活動が切り替わる際に気持ちが落ち着かない姿がみられたら必要に応じて声をかける。	
10500	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	2									0	0	15.3歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	保護者に引き渡した後であったため、職員がいる場所での事故ではなかった。	駐輪場、広報誌による保護者への注意喚起	1.定期的に実施	4	3.未実施		1.定期的に実施	100	自転車置き場のスペースが限られている。	園内の駐輪場に傾斜があるため、平らなところに駐輪するように呼びかけ、掲示をする。	7.その他	自転車に乗りたい気持ちが高まっていたと考えられる。	駐輪場でのケガが他の場所でも多発していることを広報誌・掲示物・保護者への直接説明で啓蒙する。	1.いつもどおりの様子であった	お迎えがきて、玄関で靴を履きいつも通り自転車に保護者と一緒に向かっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育は２階で行っており、引き渡した後は保護者と一緒に階段を降り、玄関から駐輪場へ向かうため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事務所の職員も玄関で挨拶をするのみで、駐輪場が混雑していない限りは、保育者も駐輪場に出ていかないため。	保護者も携帯に目が行き、サドルに登っている本児の姿から目を離してしまった。	自転車に乗る際には、お子様から目を離さないように注意喚起をしていく。	
10501	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									2	2	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頸部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2～3	1.基準以上配置		事故防止チェックリストやインシデントアクシデントレポートを活用し引き続き、事故防止や危険を予測する感覚を養い、安全確保に留意する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1		ハード面において特に問題はない。これまでどおり、毎日の園庭うバーの破損点検や整理整頓、修繕が必要になった場合の対応を適切に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が側に付く前に子どもが鉄棒を始めてしまった。	鉄棒遊びをするときには、必ず保育士が側に付いてから始めることを職員間で再確認し、子どもにも徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	最近、鉄棒が楽しく、休日も「鉄棒がしたい」と鉄棒で遊ぶことを楽しみにしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の近くにはいたが、三輪車に乗っている子どもを見ていた。突然、「鉄棒やりたい」と走り込んできたため、鉄棒の側に付くのが遅れた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒がある位置とは反対側にいてバレエごっこをする子どもについていた。	保育士が側に付く前に子どもが鉄棒を始めてしまった。	鉄棒遊びをするときには、必ず保育士が側に付いてから始めることを職員間で再確認し、園児たちとも安全に活動するためのルールとして、再度約束をする。	
10502	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				18	21				2	2	18.6歳	1.男児	身長　１１７．６cm 体重　２３．７kg	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左肩）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	7	2.基準配置	どのような状況で落下したのか、体のどの部分から落下したのか、保育者の位置関係などの事故検証を行い、原因・問題点とその後の改善策を話し合った。	固定遊具で起こりうる怪我等を予測して職員配置を見直し、園児には、遊び始める前に怪我に繋がる遊び方をわかりやすく知らせていく。	1.定期的に実施	294	1.定期的に実施	294	2.不定期に実施			特になし	3.個人活動中・見守りあり		事故検証をした結果、再発防止のための対応策を話し合い、全職員に周知し、確認した。また、再度子どもたちに遊び方を伝え危険性を知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が鉄棒で遊んでいることは把握していた。他児がトイレに行きたいと言い、玄関のドアを開けにその場を離れた時に起こった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもと一緒に大縄をしていた。		固定遊具使用時にはできるだけ近くで見守り、必要であれば補助をする	
10503	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地内(園外・保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	普段から頻繁に活動している場所であるため、危機感が低下していた。	リスクマネジメント会議（1回/月）の内容等を充実させていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鬼ごっこをしていた広場は緩やかな傾斜もあり草地でもあるため、滑ったり足がもつれたりしやすかった。	場所にふさわしい遊びかどうかを確認し、それを子どもに周知し注意を促す。	1.集団活動中・見守りあり	生活発表会の練習の後の戸外活動という事もあり、緊張感から解放されて子どもの気持ちが高ぶっていたかもしれない。	どの様な場面に於いても落ち着いて活動できるように、声を掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちといっしょに鬼ごっこで遊んでいた。普段の戸外活動と同じ様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者は他児と遊んでいて対象児を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記同様、他の職員も他児と遊んでいて対象児を見ていなかった	引率の保育士はそれぞれ、他児と別の遊びをしていた。	戸外活動で自由遊びをする際には、活動前に職員間で立ち位置や役割を確認していく。１名は全体を見守る役割とする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10504	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	不明								3	3	18.6歳	1.男児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折、右尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		遊具の見守りの仕方について、職員間で共有する。大まかなルールについては、共通理解をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	48	築山のチップと砂の間に、やや隙間があった。	今後築山のチップと砂の間が分かるように印をつける。	1.集団活動中・見守りあり	当日の朝、遊具の位置が変わったことで、園庭の見える走るルートが目視でしか確認できていなかった。	鉄棒の裏には走ることの無い様に目視できるようにコーンの目印を置いた。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の園児に呼ばれて築山付近から離れるが、別の職員に声を掛けて、築山、トランポリンに付近に見守りをお願いする。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員が移動したため、急遽、別の職員が入った。落ち着きが無い等の状況ではなかったが、いつもと違う配置であった。	当日、担任が不在だったため、築山付近の入移動。事故後、看護師や、園長の呼びかけ、説明をしている。	人数的環境は、足りていたが担任不在の事も考えると遊びの内容等絞ることを考えることができた。	
10505	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5		2	3					4	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		–	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	12		–	1.集団活動中・見守りあり		1.いつもどおりの様子であった	おもちゃ入れの箱に入りたがっていた。保育者にその行動を止められ嫌がっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	おもちゃ入れの箱に入りたがっていた本児からその箱を遠ざけたり、手の届かない場所へ移動させたりしていた。本児に左胴を数回噛まれてしまい、本児を寝転がせた際に胴を折ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩から帰ってきた直後で、散歩から帰ってきた他児のトイレと手洗いの対応をしていた。保護者対応をしており、対応を終えた後には本児が泣いていた。		園児が癇癪を起してしまっている場合は、無理に抱っこなどをしないようにし、落ち着ける場所に移動できるようにする。また、おもちゃの箱などに入りたがっている場合には、急に取り上げたりなどせずに、別のあそびに気を引くように対応する。	
10506	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	14								3	3	14.2歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎右側乳中切歯の外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	ヒヤリハット報告があまりされていないため活用、反省、研修の機会が少ない。	定期的にヒヤリハット報告や事故簿をもとに、事故予防研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	直接的要因がないため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	2歳児が、子ども同士で手をつなぐ歩き方をはじめて間もない。坂道で、間を詰めて歩くように子どもをせかした。	歩く練習をするときには児たちの発達の状況に合わせて又、環境やその他の要因を配慮できる環境下で実施する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	列の後ろから2番目を、他児と手をつないで歩いていたが前の児と間が空いてしまう。「間を詰めて」と声をかけられたことが楽しくなってしまった様子で、嬉しそうに笑って小走りになる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	14名の児を2列になるようにつながせ、3名の保育士が引率する。先頭の児とリーダー保育士が手をつないで、後ろの様子を気にかけながら先導する。対象児を含むペアが前との間が空いたため「間を詰めて」と声をかける。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	真ん中に保育士2がつき、最後尾には保育士3が最後尾の児と手をつなぎ全体を見ながら歩く。対象児が「詰めて」と声をかけられたことではしゃいで小走りになるのを見て、「危ないよ」と声をかける。	保育士のリスクアセスメントが不足していた。	日ごろからヒヤリハットを集め、危険を予知する力をつける。	
10507	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	11								2	2	18.6歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外顆剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	行き慣れた芝生の広場であり、その都度危険については伝えたうえで活動している。	芝生の下の地面が見えない為、芝生の下に凸凹があることも活動前に知らせる。								1.集団活動中・見守りあり	芝生の下の地面が見えない為、芝生の下に凸凹があることを活動前に知らせていなかった。	見えない凸凹があることを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	近隣の小学校の作品展に招待され、校内を案内していただき、作品展を楽しんだ後、晴天で活動時間もたくさん残っていたので広場によって身体を動かしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で一緒に遊んでいた為、転倒時の様子も見ていた。他児と走り回り、楽しんでいた中での転倒であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近い距離にはいたが、水分補給などに関わっていた。		危険な場所、遊び方を知り、見通しを持って遊べるよう日々伝えていく。また、転倒時に身を守れるよう体幹等を鍛えられるような遊びを取り入れていく。	
10508	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	58				18	20	20		10	8	17.5歳	2.女児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨・尺骨遠位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置		マニュアルを再度確認した。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施				7.その他	クラス以外の子どもと手を繋いでいた。	異年齢活動の配慮事項として職員と確認をした。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			事故の検証をし、職員で確認をした。	
10509	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	36	0	0	0	12	11	13	0	9	7	18.6歳	1.男児	・「特別な支援を要する児童」に該当（心理・発達・言語に療育が必要） ・アレルギー疾患はなし ・熱性けいれん（有） ・怪我や病気で現在までに4回入院したことがある	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	無し	今回の怪我を踏まえ、事故ケガ予防マニュアルに組み込み再発防止に努める。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		無し	今後も他施設を倣う前には事前の確認を全体で行い、保育園児にとって危険となる場所や物を把握し、立ち入り禁止区域にしたり、ロープや掲示、事前当日に保護者・子どもへ伝達していく。怪我事故防止に努めていく。	7.その他	無し	保護者に引き渡していたが、子ども同士で動き回っていたり、保護者同士で話をしていたりして子どもから目を離しがちな状況だったので、双方への約束・注意事項など事前に伝え意識を高められるようにしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会後ということで興奮ぎみであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	運動会後は、幼児クラスの写真撮影の準備・対応・片付け・整理・挨拶見送りなどの作業を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動会後は、写真撮影・片付け・清掃・退場案内・整理・挨拶見送りなどの作業を分担し対応を行っていた。	無し	気持ちの高ぶりで普段よりも静止が効かない状態を踏まえ、保護者にも子どもにもアナウンス（声掛け）と静止を行う役割の職員を複数配置していく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10510	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	2								2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	職員間の連携が取れていなかった。遅番時、残り園児が2名だったこともあり、気の緩みがあったのかもしれない。	遅番時の保育について話し合い、事故防止について確認し合う。その都度、職員同士で声の掛け合いをし、役割を明確にしていく。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	ほぼ毎日	2.不定期に実施	ほぼ毎日	敷物の段差につまずいて転倒することもある。	マット、カーペット等の段差につまずかない様、必要に応じて出し入れをしたり、目印をつけたりしている。	3.個人活動中・見守りあり	遊ぶ場所を明確にしていなかったこと。職員同士での声の掛け合い、役割分担が不十分であったこと。	仕切りをつくる等、送り迎えの際に当該児以外は、玄関付近に行かないようにすること。	1.いつもどおりの様子であった	突発的に動く。興味関心が旺盛で、一人でも平気で移動する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの動きを把握しきれていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来た保護者の方（他児）に、申し送りをしたり、帰り支度をしていた。	保育者の危機管理が不十分であったこと。子どもの動きを把握しきれていなかったこと。	職員の打ち合わせを密にする。園児が少なくなっても、子どもから目を離さないことを周知徹底していく。	
10511	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	0	0	0	9	5	2	0	1	1	16.4歳	2.女児	特に無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	約１０	2.基準配置	・物品の正しい使い方をせず事故につながった。 ・その日の保育活動のねらいと実態がずれており、なおかつ十分な安全配慮に欠けていた。	・園全体で物の正しい使い方を厳守する事。 ・当職員を含め、保育の見直しをする。	1.定期的に実施	12～	1.定期的に実施	12～	1.定期的に実施	12～	・施設内に不備はなかったものの、物品の使い方に誤りがあった。	・物の使い方や取扱説明書などを保管、保管場所を周知しいつでも見られるようにしておく。	1.集団活動中・見守りあり	・テーブルの上に乗って遊ぶということが保育として不適切であった。 ・運動遊びで活動を分けているが、他職員に応援を頼まなかった。	・テーブルは食事や机上遊び等をするものであって、運動遊びやその他の用途には使わない。 ・一人では見切れない活動内容であれば中止し、他の活動をするか他職員へ応援を頼む。	1.いつもどおりの様子であった	特に健康状態や情緒面には変わったところは見られず、本児から進んで活動に参加していた様子。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	飛び降りた先の本棚に衝突するリスクを下げるため、テーブルと本棚の間に位置していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	無し	・安全に関しての意識が低い。	・危険であると感じたなら、やめることも視野に周りと相談をして保育をする。 ・園長や主任など、他の職員と保育の見直しをする。	
10512	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	23								29	29	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上Ａ歯牙脱臼・左上Ａ歯牙打撲	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置		氷鬼など集団遊びでは、全体の動きがみられる位置と個別に対応が必要な状況に応じられるよう担任同士で確認しながら保育を実施する。	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200		三角コーン等を使い園児に視覚的にも、スロープ手すり階段付近に近づかないで遊ぶよう配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり		引き続き、鬼ごっこ等では、スロープ手すり階段付近には近づかないよう、視覚的にもわかりやすく配慮しながら園児へ注意喚起していく。	1.いつもどおりの様子であった	通常どおり、母と登園し活動に参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任職員１名で園庭に立ち、４歳児２０名全体の動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他１名は室内で受け入れをし、園庭に送り出しを行っていた。		園庭遊び一斉活動では、保育者２名体制で保育をする。	
10513	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	9								2	2	14.2歳	1.男児	令和●年●月●日の保育園お休み中に出先の石畳で右上A歯打撲し破折している。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	令和●年●月●日保育園をお休み中に出先の石畳で同様部位を打撲し破折する。	自宅や保育中にも転倒しやすいので、地面がコンクリートやアスファルト道路の時、主も小走りは避ける。子どもの歩く速さを把握し、慌てずに歩けるように保育者の歩スピードに気を付ける。	3.未実施	未実施	3.未実施	未実施	3.未実施	未実施	散歩先の地面の形状や硬さを認識する。	散歩先の地面の形状や硬さを認識し、歩く速さに気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	当該児との距離が少し離れ、急いで保育者の所に行こうと思って歩いてしまった。	子ども達との距離を取りすぎないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	当該児は、いつもどおりの様子で、走ってはいなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児の先を歩いて、当該児を2m先で待っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は４～5m後方から歩いていた。	保育者との距離があると慌てて急いでしまった。保育者との距離間に気を付ける。	保育者と適度な距離を保ち、慌てないように保育者との距離間に気を付ける。	
10514	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	4								2	2	13.1歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	保育者の油断と過信。他の園児の安全配慮へ意識が向いた。	階段をおろす担当園児の人数を保育者に合わせて決め、その保育者が責任をもって園児と移動する。担当の園児全員が地に足がついたことを確認してから、次の階段へ差し掛かる。 必ず、保育者よりも先に子どもを行かせないように徹底する。 階段を下りる前に職員1名が、危険なものがないか確認してから移動する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	3	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	長い階段を先に下りていた園児と保育者の間に距離を感じてしまい、危険と判断した、そちらに意識を向けてしまった。	階段移動の担当園児を決定し、最後まで責任をもって見届ける。	1.いつもどおりの様子であった	足の動きがややぎこちなく1歳児の歩行の不安定さは見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ後ろで対象児を見守っていたが、他の園児に意識が向いてしまい気が付いた時には転倒しかかっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	階段の切り替え地点のため、対象児は死角にあった。他児を階段から下ろしている最中で、そちらへ意識を向けていた。	職員同士の声かけが不十分であった。 階段を下りている園児と職員に距離があると感じた時点で、声に出して確認をする必要があった。	「何名見てます」「大丈夫です」という声出しをこまめに行う。	
10515	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				20	10			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	特に無し	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		事故予防に関する研修の徹底が必要	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1回/週	2.不定期に実施	48		遊具の配置の見直しなどを行う。	1.集団活動中・見守りあり		鬼ごっこの範囲等の話し合い（子どもの意見を取り入れる）	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	外用テントの重しの水を補充の作業をしながらの見守りだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大型遊具付近で全体を見守っていた。		作業しながらではなく、見守りに徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面							
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10516	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	8									2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	受け身の取り方や手の出し方を伝えていく	マット運動や逆立ち、鉄棒等で腕を使う遊びを増やしていく	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施				1.集団活動中・見守りあり	他の遊びの提供が出来ていなかった	子ども達が待つ際に、遊びのレパートリーがが増えるような提供をしていく	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見渡しながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		麦茶対応をしていた	クラスは同じでも、体格差や力の差があった	遊び方によっては、体格差や力の差を考慮していく	
10517	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	事故発生時、走るスペース、遊具で遊ぶスペースと遊びの環境を分けていたが、こどもたちが遊びに夢中になり、スペースを意識できていなかった。	こどもたちの遊び方を随時確認し、状況に応じて適切な環境を設定する。	1.いつもどおりの様子であった	手をぶつけた後、しばらくすると普段通りに遊び始め、鬼ごっこを楽しんでいた。 また、午後にはバラバルーンの活動に参加し、身体を大きく動かす姿が見られた。その際痛がる様子は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故発生場所から5メートルほど離れたところから鬼ごっこを楽しむ姿を見守っていた。（鬼ごっこに参加していたのは10名ほどであった。）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	特になし	普段から身体の状態の変化を伝えられるような関わり、環境づくりをする。	
10518	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	0	0	0	10	14	0			2	2	13.1歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	咬傷（噛み傷）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		外部研修に積極的に参加。ヒヤリハットの集計や改善事項を重視していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		幼児が使用するためのテーブルや椅子、ソファーがある。	本児の行動や思いを理解し行動予測を行う。高いところに登っている際は大人がすぐにそばにいくようにする。	1.集団活動中・見守りあり		朝や夕方、大人の人数が減り対象児を側で見守ることが難しい状況が発生しても、大人同士で連携を取り他児もまじえ一緒に遊んだり、見守りができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り室内を探索してまわっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は退勤していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児がソファーに登る直前まで離れたところから目で追っていたがソファーがある部屋に本児が素早く移動した際に目が途切れた。		大人の手が少ない状況でも、本児の動きを目で追えるよう連携をとる。対象児が室内で落ち着いて遊ぶよう工夫し大人が遊びに誘っていく。	
10519	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故簿、ヒヤリハット提出により、職員会議で日頃から事故防止の意識を高める。遊具の安全性の確認、事故発生時の対応を確認する。	マニュアル、研修を活かせるよう、日頃から事故防止、安全な保育環境の整備について職員間で話し合う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/週	大型遊具での遊びは冒険遊びの要素があり、事故につながらないよう園児に指導する。職員は園児の遊びの様子を気を付けて見守る。	子どもたちの興味、動きを考えつつ、職員は遊具等の使い方を丁寧に指導する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の大型遊具での遊びは転倒や事故のリスクがあるが、職員の園児に対する注意喚起が不十分だった。	全園児に対して大型遊具の安全な利用について指導する。具体的に絵、ワークショップ等の方法を利用して指導する。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びや体を動かす遊びが大好きであり、落ち着かない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊びの担当職員が場を離れる時は周りの職員に連絡、確認をする。23名の園児に3名の保育士配置している(女性1名、男性2名）。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外遊びのたてわりの保育の時は全職員が園児の遊びを見守ることになっている。	担当の職員が他児の動きの対応でその場を離れる必要があり、当該児の遊びの見守りが不十分になってしまった。	職員は当日の子どもの動きを考えながら、安全に遊べる保育環境を設定する。職員の朝の会では前日の遊び方の振り返りをする。	
10520	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43				21	22				5	5	15.3歳	1.男児	ボールを蹴ろうとして段差があり、ゆっくりと転んで右肩を痛める。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	園庭の一部に斜面があることは周知していたが、注意しようと言うだけであった。	視覚でも分かるようにタイヤを置いて、危険を知らせる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	芝生が生えている所が一部あり、その境界線で段差が出来ている。	芝生を無くしてしまうか相談中。現在は斜面が分かるようにタイヤを置いている。	1.集団活動中・見守りあり	転がったボールを蹴ろうとしたら、バランスを崩して転倒。グランドの段差でバランスを崩したようだった。	砂場の砂でならしていくが、倉庫裏の土でならした。芝生を無くしてしまうかは、相談中。現在は斜面が分かるようにタイヤを置いている。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じように動いていた。危なくないようにだい場所でボール遊び先していたが、本人はボールだけしか見ていなかったようなので、転がっていった先が斜面であることに気づいていなかったようだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対面でボール遊びをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭内でそれぞれ分かれて、遊びを見守っていた。	斜面に転がっていった時に、そこで蹴らないという事前の約束はしていなかった。	今後は斜面では蹴らないこと、反対に斜面で蹴れないようにタイヤを置く。	
10521	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	11									3	3	14.2歳	1.男児	＊靴のサイズが14センチで幅が広いタイプだが脱靴することはなかった。が、マジックテープの部分が規定より有り余るほど長く止められており、足のサイズと合っていない可能性が考えられる。＊転倒した際、片手で着地した可能性がある。＊発育・発達には特に問題の指摘なし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	上記ハンドブックやガイドラインだけでなく、1歳児の発達に応じた危険予測が必要である。	活動においての危険個所やヒヤリハット辞今などを保育者間で話し合い、職員配置を見直していく。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	200	1.定期的に実施	ほぼ毎日	なし	施設外での起因のため該当なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	今後も無理のない活動を設定する。走る時には足元の状態や広さにも配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	登園時は普段通り、機嫌・体調共に良好な状態であった。 転倒時：広場で保育者や他児と追いかけっこを行っていた。転倒時は手を前に着いた状態であった。保育者に抱きおこされ、自分で手やズボンの砂を払い、声が出り始めた。 手を振り払われた時：帰園しよう と他児と手を繋ごうと手を握った際、他児よりの振り払われその直後に泣き始めた。右手が動かせず顔段に違うのさ方だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	思い切り走って体力をつけるため広いスペース内での活動を設定。対象児や他児と走っている時に対象児が転倒したことに気付き脇に手を入れて抱き起こす。その時に対象児の様子を視診し、痛がる様子も出血もないことを確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者C;鳩のオブジェに乗って遊ぶ他児の対応をしていたため、みていなかった。	なし	転倒時に目立った怪我がない場合でも経過観察し、変化がないか注意してみていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
10522	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	57				21	16	20			4	4	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	廊下が狭い中走ったことによる怪我	走らないことを園児に都度知らせる	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		防火扉の衝突防止クッション等がない	クッションにより保護【実施済み】	3.個人活動中・見守りあり		保育室内から出る際には保育者に声をかけるよう伝え、一人きりになることがないようにする	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていたが、対象児が廊下に出たため、視界に入らなくなった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の片付け、各クラスへの園児の誘導、保護者受け入れなど	保育園としての怪我事故予測が不十分であり、危険予測と声掛けに不足がある	事例の共有をすると共に、安全対策として職員間の連携が図れるよう、内線の活用をしヘルプを出せるようにしていく。ヒヤリハットや事故事例をもとに危険予測教育を行う。また、園児に対する、声掛けの行い方に対しての見直しを行い、園児に対しての注意喚起を行うようにする。また、園内にて特性の高い園児の共有を行い、それぞれの特徴を共有していくことで、担当者以外も、働きかけられるようにする。	
10523	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	9									2	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	普段の安全・危機管理の中で想定していたことの範囲外のことだった。	安全・危機管理への意識を高めていけるように研修の回数や内容を再検討していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	48	施設設備や遊具事態に問題はなかった。	実施前の安全点検を今後も継続しておこなっていく。	1.集団活動中・見守りあり	2か所の遊具に介助者はついていたが、それ以外の遊具の場面で児童同士のトラブルが起こることや起きた場合の対応について想定ができていなかった。介助者がついていた跳び箱、鉄棒の他にフラーブやコーンなどもあり、想定外の子どもの動きが発生しやすい環境であった。	他児のトラブルなど万が一の事があった場合を想定し、遊具や道具を少なくし、いつでも対応出来る状況をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	週１回の活動内容で、普段よりも高揚感があり、気持ちを抑えられなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	離れたところの他児がトラブルになっていたため、本児には跳び箱に登らず待つように声掛けをして、他児の仲介のため、視線と姿勢を他児の方へ向けた。その間に本児が跳び箱に登ろうとしてバランスを崩し落下してしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員（体操教室講師）は鉄棒の介助についていた。	跳び箱に登らず待つように声掛けをした際、本児が応じて待機しているこの確認が不十分だった。他児のトラブルが大きくなった為、目線をトラブルの児に向けてしまい、本児が登ろうとする事に気づけなかった。	本児の性格やその日の様子（体調や気持ちの面）について、保育を進める職員同士で事前に共有し、活動の進め方を事前に確認する。補助をしている場所から離れる場合はお互いに声をかける。	
10524	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									4	2	15.3歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		今後も引き続き、安全に気を配りながら、保育を行っていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	360		引き続き、設備の安全点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	はしご渡り遊びを30分ほど続けていたこともあり、当該児の体力、握力が低下していた可能性が考えられる。	長時間に及ぶ巧技台遊びにならないように、時間を意識しながら遊ぶ。また、本児は上腕きを屈く際に、左右反対に腕していることが多く、今回も反対に腕いていた。正しい足の使い方を促すためにも、左右を正しく腕くことができているか確認していく。	1.いつもどおりの様子であった	朝から、いつもと変わらず機嫌よく過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	はしご渡りをする対象児ともう一人を見ていた。対象児が両膝を床につけ手を放したので、危ないと思ったが、手を差し伸べる間もなく、事故に至った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員の目が行き届かないところでの児童の保育にあたっていたため。	ゆっくり、焦らないでなどの声掛けはしていたものの、動作に関する具体的な声掛けが少なかった。	はしごをしっかりつかむ、離さないなどの声掛けをこまめにしていく。	
10525	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	7									3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲・欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置		園児の行動を予測できる能力を身につける	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		手洗い場の表面に傷がないかを点検する	1.集団活動中・見守りあり		園児の動きをよく観察する	1.いつもどおりの様子であった	クラス保育をしていたためいつもどうりであった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児がぶつけるのを防ぐことができなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ぶつけた後は看護師がすぐに対応できた		複数担任なのでコミュニケーションをとり園児を見守る	
10526	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									1	1	15.3歳	1.男児	病名は付いていないが検査により（DQ５２）認知-適応１歳７か月、言語-社会１歳、就寝時リスペリドン細粒１%服用中	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A打撲・亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置		園児の行動を予測できる能力を身につける	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園児が重なり合ったりする時は様子を見る	1.集団活動中・見守りあり		室内では走らないことを丁寧に繰り返し説明する	1.いつもどおりの様子であった	和室であそびは特に変わらなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員の人数配置はされていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ぶつけた後看護師がすぐに対応できた		園長が中心となり事故予防・発生における体制を確立	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
10527	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38			19	19				3	3	15. 3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右AA脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	危険予測が不十分	危険予知訓練を研修に取り入れる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	玩具入れが硬い上に重く、園児が扱うものとしては適していない	・玩具入れを柔らかく軽いものに代える。・移動する際は園児だけでなく職員と一緒に行う	1.集団活動中・見守りあり	カゴを押しながら走って片付けていた	カゴは持って片付けるよう、室内は走らないよう指導	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きは見ていたが支えられなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいたため見ていなかった	通常よりも長い時間合同保育をしており、通常どおりの一人ひとりの動きを把握し、有事の際に迅速に対応することが難しかった。	安全を十分に確保しながら落ち着いて遊べるよう、可能な範囲で合同時間の短縮を図る。	
10528	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22								3	3	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右AA外傷性破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	危険予測が不十分だった	危険予知訓練を研修に取り入れる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	階段上段で靴を脱ぎ、裸足で下駄箱があるテラス内まで移動する必要があること	テラスで靴を脱ぎ、階段からテラスまで移動しなくてもよいように動線を変更する。	1.集団活動中・見守りあり	園児（他児）は小走りをして周りを見ていなかった	階段やテラスは走らず周りを見るように指導	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きは見ていたが支えられなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	靴脱ぎ以外の園児を見ていたため、対象児や担当者は見ていない	他児はトイレに急いでいたため、小走りをして周りを見ていなかった	階段やテラスは走らず周りを見るように指導	
10529	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	10								2	2	14. 2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折　左肩関節打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	斜面の上方下方にはいたが、走っていく児童には走らない様に声を掛けたが聞こえなかった。	子どもの年齢や個々の発達、特性を全職員で共有し遊び方を工夫する。散歩先の危険個所や状況などは朝礼や会議などで随時共有している。（遊具の破損や蜂がいるなど）	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	使用の都度	1.定期的に実施	使用の都度		今後とも児童の生活エリア（保育室・トイレ・テラス・廊下・園庭）には目を配りその都度チェックをしていく。危険個所や死角など感じた事を情報共有する。	1.集団活動中・見守りあり	広い斜面で担任が見える範囲で遊ぶ様に促していた。斜面をかけ降りる事が楽しくなりすぎて思いがけずに前方に転びその勢いで手は出たが支えられなかった。	集団が大きくなればなるほど危険個所や死角など生まれやすい為その都度感じた事などを情報共有していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	斜面の上方下方と２か所にいたが本児の走りに声が届かなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	斜面の上方下方に職員はいた。勢いがでてしまう児に対してはブレーキ！ブレーキ！とその都度声を掛けていた。	斜面での遊びに対しての職員同士の周知が足りなかった。	声を掛けて伝わりにくい子には、個別に伝え方を工夫する。	
10530	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24			8	8	8			2	2	17. 5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	本児の当日のコンディションに合わせて丁寧に関わる必要があった	子どもの体の使い方について現状把握を増やし、活動時の注意点、配慮不足が無いよう研修での学びを増やす	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	着用の服、靴等も事前に家庭と連絡を取り合ってサイズに合っているものを用意していくようこまめに連絡を取り合う。	子どもの着用する服や靴のサイズ等の点検も丁寧に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	勢いづいて走っていた時に転倒し、自分の手で勢いづいてカが加わった体を支えきれず負荷がかかったと思われる。	活動内容に合わせて配慮を詳細に行い、実行していく。	1.いつもどおりの様子であった	朝の受け入れ時、母と気持ちよく離れることができずに30分程立く姿があったが、その後は気持ちも切り替えていた。週末であったためやや疲れが見られていたが大きく支障はなかった。園外活動中も大きく変わりなく過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	いつもと変わらない活動内容で一緒に動いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスでの散歩の為、担当職員２名が引率をした。子どもを把握できる立ち位置に別れ一緒に活動をしていた。	職員の位置関係、臨機応変な配慮ができる散歩計画の作成ができていたか検証する。	職員の役割分担を見直す。	
10531	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	18		3	8	7				3	3	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		散歩先からの救急搬送、子どもの服装、靴のサイズ等の確認についてもマニュアルの点検項目に追加し、万全を期していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	障害物のない広い原っぱであったため、危険を感じる場所ではないと思っていた。	今回の怪我を散歩先の注意点に明記し、今後の活動の気に掛ける点とし、安全確保を強化していく。	1.集団活動中・見守りあり	しっぽとりの際、広い原っぱで危険を感じる場所ではなかったが、他児と接触しバランスを崩して転倒した時の身体の打ち所により大怪我につながったと考えられる。	上記を踏まえ、事前にぶつからないように周囲を見ながら子どもとも確認し、遊んでいるときの配慮を深める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	年度最後の活動を楽しんでいた。靴等もサイズに合ったものを着用。担任、友達としっぽ取りに夢中になって遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	しっぽ取りを一緒に行っていた。動きの確認をしていたが、とっさに衝突を回避することはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	役割分担をして立ち位置を決めていた。担当職員と数名の子どもでしっぽ取りをしていることも視野にいれながら、違う遊びの子どもたちの傍に付いていた。	余裕をもった配置ではあったが、子どもの動きの予測が想定外であったこと、遊びの中で、担任が逃げる役であった。	職員間でしっかり目をかけ、あそびのペース配分も考慮した活動にしていく。	
10532	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								2	2	17. 5歳	1.男児	劇遊びの発表会に向けた総練習の時であった。普段の保育とは雰囲気が違い気持ちが高揚していた。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上B外傷性歯の脱臼。上A外傷性歯の破折、外傷性歯の脱臼。下CB外傷性歯の打撲。上顎歯肉裂傷。	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし。	マニュアルや研修、職員配置は区の基準に則っており適当であったため、改善策はなし。	1.定期的に実施	月 1	1.定期的に実施	月1	1.定期的に実施	毎日	テラスと室内の入口には数センチの段差がある。出入りには問題がないが、そこで転倒すると平面での転倒時よりぶつける衝撃が大きくなる。	施設の構造を変更することはできないため、段差且つサッシのサンがある場所の危険性を全職員に周知徹底し、リスクを十分理解して保育にあたる。	1.集団活動中・見守りあり	椅子を置いた場所のサッシ戸は閉めていたが、すぐ隣の椅子を置いていない場所のサッシ戸を開けていた。椅子に座り損ねた際、サッシ戸が開いていたことで、激しく倒れることとなった。また、カーテンは全て閉めていたことで怪我をした瞬間が見えなくなってしまった。	サッシ戸を開けておくのであれば、段差で転倒する可能性がある等の危険を予測し、保育士が必ず傍につく。また、カーテンを閉める際は、サッシ戸も閉めるように徹底する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段の練習とは違い気持ちが高揚していた。舞台で演技を終えて自席に戻ると安心して力を抜く。舞台側に注目し椅子の位置を確認しないまま座ろうとして転倒。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任保育士は、劇の背景を変えるため子どもに背を向ける行動をとっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各、係分担の位置に着いていた。	当該児は、事故1週間前までコロナ罹患等で１２日間欠席し、その間自宅内で過ごす生活を送っており、身体を動かす機会が少なくなっていた。	休み明けや、普段とは違う活動の際は、予測していなかったようなことが起こることも予想されるため、全体の様子を把握できる保育士を1名は確保する。また子どもの状況によっては傍につくなどの対応をとる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
10533	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設数地内(室内)	1.0歳児クラス	6								3	2	13.1歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第一足趾骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置		１歳過ぎた頃の児は時期的に小走りすることも多く、転倒・衝突への注意が必要。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300		引き続き上記対策を継続する。	1.集団活動中・見守りあり		園児全員が視野に入るように、後方に園児が移動したのであれば、すぐにその園児も視野に入る場所に職員が移動するべきであった。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児は児の近くにあった玩具で一人で遊んでいた。転倒前は対象児含め、園児全員が視野に入る位置で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の３名の園児と座って絵本を読んでいた。		園児全員が視野に入るように、後方に園児が移動したのであれば、すぐにその園児も視野に入る場所に職員が移動するべきであった。	
10534	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	6.午睡中	1.施設数地内(室内)	4.3歳児クラス	12								2	1	16.4歳	1.男児	保健師から療育を進められ、療育に通い始める。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	保育者の後ろに子どもがいる状態だった。	日頃から急に保育者を引っ張ったり飛び乗る行動がある為背後にいないようにする	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12		安全チェック表を使い確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが背後にいた	背後に子どもがいないようにする。クラスに一緒にいた保育者も本児が後ろにいることに気がつき声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	寝る前で布団の上で立ったり座ったりしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者の背後にいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	テーブルを出していた	保育者が全体を見ていなかった	布団に入り子どもたちが落ち着くまで保育者は目を離さない	
10535	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	3.昼食時・おやつ時	1.施設数地内(室内)	5.4歳児クラス	20								3	3	16.4歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左切歯陥入　右切歯不完全脱臼 歯茎の挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	配慮の必要な児だったため行動が予測できず、防ぎきれなかった。	突然の動きにも対応できる場所に職員がつくようにする。他児に向けても注意喚起を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	床が滑りやすかった。	事故後速やかに滑った箇所にテープを貼り、滑り止め処置をする。児童施設係に修繕要望をし、対策を検討してもらう。	6.食事(おやつ)中	いつもと違う行動をしたため、とっさの動きに職員が対応できなかった。	職員がそばにつくとともに狭いところでは、手をつなぐなどの配慮をする。	1.いつもどおりの様子であった	配慮の必要な児自身が転倒の際、手で衝撃を受け止めることが苦手な児だった。	1.対象児とマンツーマンの状態　(対象児に接していた)	いつもと違う方向に走っていったので転倒した際、職員の手が間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員２名は、他児に声をかけながら、配膳をしており、対応できなかった。	配慮の必要な児のため、必ず見守りはしているが、成長の中で、動きが素早くなってきていた。	予測がつかないながらも、できる限りそばにつくようにする。	
10536	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	9	7.午後	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	4	0	0	1	1	1	1		2	0	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	吊り輪に関しては、高さの調節が可能であるが、バランスドームに乗ってもぎりぎり届くかくらいだったため、バランスを崩しやすかった可能性がある。	職員配置の見直しを行い、遊具の使用方法のマニュアルも作成する。また、職員に対しては事故防止を意識した保育に関して自己採点を行い、その確認をしていくことで全体の意識を高めていく。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	安全性に関しての認識が甘い部分があった。	日々危険箇所がないかする点検するチェックシートを作成、実施。	1.集団活動中・見守りあり	吊り輪利用時のおける自由遊びをしている時、危険箇所を重点的に見守る姿勢が足りていなかった。	職員配置を危険度が高いところを重点的に見守るようにする。特に、動きの中でどのような危険があるかを理解するために全員の理解度を上げる。	1.いつもどおりの様子であった	みてみて！と声を出して保育者に声をかける様子で、特に変わったところはなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	みてみて！という声かけに対しての返答していたが、対象児の変化に対してすぐに対応できる距離にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ場所にはいたが、他児童の追いかけつこなどを見守っていた。	直近の利用時にも吊り輪を使った遊びを同じ状況で行なっており、その時と変わった様子はなく、とくに危険な遊び方をしていたわけではなかったので、危険の可能性を把握しきれていなかった。	職員に対する研修を行い、危険に対する理解を深め、対応できるようにする。	
10537	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設数地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	2								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		・危険な遊び方とまでは言えないためクラス全体で遊び方の注意を改めて確認した。 ・引き続き、高低差のある遊具の近くでの保育士の見守りを行い、子どもの注意が散漫になっていると感じた時や、危険な遊び方をしている時にはすぐに注意・補助できるよう注視していく。	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		2.不定期に実施			今回の事故は遊具の不備が起因ではなかったが、日々の安全点検を続けていく。	1.集団活動中・見守りあり	普段から本児も行っていた遊び方であったため、油断があったか。	気がはやってしまうなど、注意が散漫になるような状況と感じたらすぐに補助に入るようにする。継続的な声掛け・注意喚起は、引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく、とても元気であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・高低差のある遊具の近くに保育士が付くこととなっており、その通り実施していた。 ・「気をつけてね」等の注意喚起および声掛けをし、本児もそれに応答していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他の見守るべき所に付いて、他児の様子を見守っていた。	人員の配置、声掛け、本児の注意意識もあったと考えられるため、わずかな油断が要因の一つと考えられる。	該当クラスだけでなく、他クラスとも情報共有し、引き続き安全管理に務め、子どもへの声掛けや注意喚起を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10538	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	0	0	0	8	4	0		3	3	16.4歳	1.男児	入園前の1～2歳の時期に、自宅で前歯を2度ぶつけたことがあり、上前歯2本の神経は死んでしまっている状態だった。●月●日の歯科健診時には右上前歯の変色とその歯の根元の歯茎に水膨れが見られていた。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼上唇小帯裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	ヒヤリハットをもとに様々な事例から保育士の関わり方を学び全職員に周知していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	今後も通常通り安全点検を行う。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	保育の中で身のこなしが良くなるような運動遊びを意図的に取り入れいく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭を走っていたところ屈もうとした児童の背中に衝突した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で遊んでいる児童のあそびを把握していたところ、本児が追いかけっこをし他児にぶつかることが予測された。そばに行っての声掛けでは間に合う距離でなかったので制止の声掛けをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3歳児クラスの児童とフラフープ等で遊んでいたところ、担当職員の制止の声掛けを聞き、対象児の状況に気が付いた。	保育を担当する保育士間で、子どもの特性についての認識に差があった。	一人ひとりに合わせた対応の大切さを職員間で共有していく。	
10539	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	0	1	0	3	3	0		4	4	15.3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		本来は保育室入り口まで保護者に来てもらい、子どもを引き渡すフローになっていたが、、玄関に子どもを行かせてしまった。今後は保育室入口での受け渡しを徹底する。	1.定期的に実施	1回/月	1.定期的に実施	1回/月	1.定期的に実施	1回/日	担当職員がインターフォンの子機を保育室に置いたままにしていたため、先の保護者対応中にドア開錠のために保育室に戻り、そこで対象児にお迎えを伝えてしまった。	インターフォン子機は受け渡し担当職員が保護者対応中も持ち歩くようにする	1.集団活動中・見守りあり		保護者への受け渡しは、子どもだけで保護者の元に行かず、保育者が必ずついて行う。	1.いつもどおりの様子であった	対象児に特に変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	玄関にいる保護者のところに対象児が向かったが、ついていた保育者は他の保護者に話しかけられ、途中で立ち止まってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、廊下には担当職員のみ。残り3名のうち、1名は保育室で見守り、1名はトイレの片付け、1名は事務所で帳票作成を行っていた。	担当職員は他児の保護者に子どもを引き渡し後に連絡事項伝達途中で対象児の保護者が帰ってきたことを対象児に伝えてしまった。	保護者一人ずつ連絡事項伝達と子どもの引き渡しを行い、平行して複数の対応はしない。重なった場合は前の対応が終わるまで待っていただき、子どもだけが保護者のもとにいくことが無いようする。	
10540	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	24								4	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	子どもの運動能力の把握が甘かった為、鉄棒の高さや職員配置場所においての、配慮が足りなかった。	子ども一人一人の運動能力の把握を正確に行う。職員配置や運動遊具の選び方において、事前に配慮した上での環境設定を行う。子どもへの準備運動や約束事の確認を運動遊び前に行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鉄棒の高さが1番高い段になっていた。マットは敷いていたが、高さによる衝撃や落ち方が要因したとみられる。	一人一人の能力の把握をし、鉄棒や巧技台などの運動遊具の設定をする。	1.集団活動中・見守りあり	運動遊びでの約束事を、子ども達へ事前に丁寧に行えていなかった。	運動遊びをする時の約束事について、職員間で周知し、子ども達への確認を その都度行い、子ども達が安全に楽しく運動遊びができるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動遊びをする時に危険への意識が低く、遊び半分で行っており、ふざけてぶら下がっては落ちてを繰り返していた。その中で、着地に失敗し怪我に繋がってしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	職員は、対象児に対して鉄棒の補助にマンツーマンでついている状況だった。ふざけて鉄棒にぶら下がっている事を注意していたが、やめようとせずに受傷に至った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は、他の運動遊具の補助に入っていたため、対象児の動きは見ていなかった。	補助のつき方についての研修を行っていたが、その時に対象児についていた職員は補助職員だったため、研修を行っていなかった。職員間で対象児の状況を把握するための声掛けができていなかった。	補助職員対象で、運動遊びの補助のつき方の研修を運動会より早い段階で行い、周知すること。危険な動きをする子がいた時は職員間で声を掛け合いながら周知し、子どもに約束事を丁寧に伝えながら行う。	
10541	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	13								3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	全身打撲、上鼻甲介骨折、顔面擦過傷11/21診断 左目眼窩外側壁骨折、左上顎洞後壁骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	擁壁の上を子どもが通る場所として可能との不適切判断が職員にあったこと。一人の判断で危険な場所に上らせたこと。危険と思った職員が止められなかったこと。子どもたちのやりたいことを大事にする保育としていたが安全への認識の共有ができていなかった。	散歩を中止して、「安全の保障の無いチャレンジは成り立たないこと」を全職員で確認する研修を実施した。散歩で安全のために実施すべきことを明確にして●日より散歩の一部分を再開した。なお、事故の起きた現場のある周辺については●日の研修の後に散歩安全マニュアルの確認を行って、●月●日より散歩を再開する。散歩安全マニュアルは常に見直し、職員の内容理解と対応力を周知徹底していく。今回は●●日に確認した「散歩で安全のために実施すること（散歩基本マニュアル）」で示した内容を確実に実施していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		保育園においての職員の意識の向上を図る。	1.集団活動中・見守りあり	外での様々な危険について、また園内での危険についても職員の受け止め方に差があった。「これくらい平気」というとの内容を深め切れていなかったため、職員の安全感覚が職員により異なっていた。	すべての保育場面について、安全を見直す。一人で判断しない。保育の場所や内容を全職員が理解して共有・一致を深めていく。保護者に職員は誰でも説明できるよう研修を引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に散歩をしていた。高い擁壁にもみんなについて上り歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員が先頭で子どもたちの歩く場所を選定していた。普段の子どもの歩く力や過去にこの場所を歩いていたことから、十分に安全について確認せずに子どもが上がることを認めた。そして、高い場所から降りるところで子どもへの手助けを行いながら見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すすく児童や遅くなる子どもについていて当初は少し遅れて戻っていた。この二人が擁壁の下に来たときはすでに10人の子どもが上に上がっていた。危ないと担当者に伝えて判断したこと。②本来、3歳児が上るような場所ではないとの認識が欠如していたこと。③おくれていた職員を待たず担当者一人で判断して危険な場所にあがってしまったこと。④上った場所の金網の破損についても確認するという基本の安全確認をしなかったこと。これらが重なったこと。	①過去に、この場所を子どもが歩いてチャレンジしていたこと、子どもたちが上りたがったことから安易に判断したこと。②本来、3歳児が上るような場所ではないとの認識が欠如していたこと。③おくれていた職員を待たず担当者一人で判断して危険な場所にあがってしまったこと。④上った場所の金網の破損についても確認するという基本の安全確認をしなかったこと。これらが重なったこと。	今回の事故は、要因・分析・特記事項で述べたとおり、起こるべくして起きたと言える。徹底した安全認識の向上ができていなかったことが重要な点である。小さい命を預かる重さを改めて全職員で認識する必要があり、研修を重ねながら散歩の再開を行っていく。また、法人全体として最重要課題と位置づけて安全対策の保育場面に応じた具体的な内容のマニュアルの作成とその実効性のある研修を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10542	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腥骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特に問題なし。	園児の個々の特徴を全職員で情報共有する事と日々のミーティングにてヒヤリの共有をする	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	雲梯の下にクッションをひいて数日の事故であるが事から、園児への指導と職員の危機管理教育の問題だと感じる	雲梯の下にクッションを敷いている状態であった。	1.集団活動中・見守りあり	園庭での自由遊び中	保育士が安全確保できるように遊ぶ前に注意事項を伝える	1.いつもどおりの様子であった	一定時間雲梯遊びを他児と二人で楽しんでいた満足して2名とも雲梯から離れ、近くのベンチに座る	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯から離れたことを確認して砂場に移動する	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒近くの保育士、ヤギ小屋掃除の保育士、砂場で見守る保育士がいた	再度雲梯を始めたことにきずかなかった	雲梯や鉄棒遊びをすることは保育士と一緒にすることを何度も伝える	
10543	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	3									3	3	13.1歳	2.女児	歩き始めたばかりだった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腥腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1から2	2.基準配置		歩行開始時期の子どもが起こしやすい事故について、職員間で話し合いをおこなっていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	284		保育室で転倒した際に起きたけがであった。床にはおもちゃもなく、足に引っかかるものもなかった。今後も保育環境を整えていく。	1.集団活動中・見守りあり		歩行開始時期の児の側に付き、バランスを崩した際に受け止められるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、園庭の築山に歩いて上り下りしたり、自分から動いて遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児のおむつ交換をしながら、児の様子を目で追っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の手洗いに付き添っていた。テラスから入室するところで、窓から室内の様子を見ていた。		担任はそれぞれの役割をおこないながら、子どもたちを見守っていた。今後は担任１人が子どもたちの遊びの中に入り見守っていくようにする。	
10544	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10									2	2	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	Pul(歯髄炎）の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	怪我が予測された状況であったが、止めることができなかった。	言葉をかけるだけでなく、本児の好きな遊びを設定する、一緒に遊ぶ等落ち着いて遊べるようにする。	1.定期的に実施	13回	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		床にマット等、クッションになるものを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	トイレに行く前から、室内を小走りしていた。	本児の好きな遊びを用意し、集中して遊べる環境設定をする。	1.いつもどおりの様子であった	好きな友達が他の遊びをしていて、手持ち無沙汰のようで、室内でスライディング等の動きをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児が膝の上に座っていた。本児には、座って遊ぶように声を掛けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。	担当保育士に対して甘えたい気持ちもあり、この時間帯は日頃から担当保育士や他児たちとじゃれあうような姿があった。	スキンシップで甘えが満たされ落ち着いてあそべる、わらべうたやふれあい遊びを取り入れるなど、工夫して遊ぶ。	
10545	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16									3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり	ぐるぐる周回していた為にふらつきが出現、足のもつれもあり転倒。	棚やサークルでコーナーを設け走り回れるスペースをなくす。	1.いつもどおりの様子であった	一緒に走り回っていた友達を夢中になって追いかけていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りや、登園した他児の荷物の支度、次の活動の準備をしていたため本児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りや、登園した他児の荷物の支度、次の活動の準備をしていたため本児の動きを見ていなかった。	保育士各々がその時に思いついたことをしてしまい、保育士間の連携がとれていなかった。全体を見渡す保育士がいなかったため転倒に繋がる本児の行動と、転倒に気付くことができなかった。	保育士が互いの役割を場面が変わるごとに明確に意識するため、作業に入る際は他の保育士に声をかけてから入る。	
10546	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20	0	0	3	4	6	7			4	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施		1.基準以上配置		遊ぶ場所の植生や、季節によって状況が変わることを職員間で周知する	3.未実施		3.未実施		3.未実施			（野外保育のため毎回遊ぶ場所が異なるため）遊ぶ場所の植生や、季節によって状況が変わることを職員間で周知する	1.集団活動中・見守りあり	曼が前回遊びに来た時よりも伸びていた。	園児と季節によって曼が伸びることを共有し、注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	特に体調に変わったところはなく、元気に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	どこで誰があそんでいるかは把握していたが、事故の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上	事故のあった場所に職員がいなかったこと。	園児が遊んでいる場所に1名以上職員を配置するようにする。	
10547	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	5									2	2	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	部屋の構造において入り口付近は狭く、トイレとの間には扉もあって閉めてしまうと見通しはきかない。もう一人の保育士も片づけをしていた子を見ており、どちらも目が離れた時間を作ってしまったことが要因の一つと考えられる。	しっかりと子どもを見られる状況を先に作ってから子どもを集める。子どもだけで過ごす時間が無いようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	狭い場所に不安定な丸机を置き、早く集まった本児が伺らかの形で丸机に接触。丸机が結いた際に丸机の天板と床の間に右手薬指が挟まったため外傷と骨折を負った。と思われる。丸机の使い方についても間違っていたし、丸机の形状についても倒れやすものであるため業者とも相談して改善していく。●●より購入のままごと用丸机。	丸机は不安定なため、ままごと遊び等で保育士が側で見守れるとき以外は使用しないよう片づける。また使用する際も体重をかけると頻ことに十分留意して見守る。子どもにも使い方を知らせ危険のないように する。業者にも相談して、体重をかけてもひっくの返らないような工夫をしてもらう。	1.集団活動中・見守りあり	保育者の配置としては、子ども5人に対し、2人の保育士がおり十分だったが、1名はトイレで排泄の援助をしており、残った1名も片づけの仕上げをしていた。早く片づけを終えた本児らの動きをきちんと見ておらず、危険を回避できなかった。	子どもが（集合）移動する際には、まず前もってその場が安全であるかを必ず確認し、保育士が先にその場に移動してから子どもを動かすようにする。（事前の安全確認を行う）	1.いつもどおりの様子であった	クラスを移動することも理解し、自分の遊んだものは片づけてリュックを背負い集合場所に集まっていた。保育士が泣き声に気づいた時には座って患部から出血しており、どのようにして怪我をしてしまったのかははっきりとはわからないが、近くに丸机が倒れていたことから、机に手をついた時、傾いた机の天板と床の間に患部が挟まってしまい痛みで泣き声を上げたと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	自分の遊んだものを片付けた子から、リュックを背負っていつもの場所に集まるよう指示。まだ片づけをしていた子がいたのでその子の手伝いをしていたため、本児がリュックを背負って集まっていたことはわかっていたが、どのような動きで怪我につながったかは見ておらず泣き出したことで怪我に気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児1名が便意を訴えたためトイレの中に入って排泄の始末の援助をしており、本児も含めたその他4人の動きを全く見てなかった。	子ども5人に対し保育士2名が保育していたが、このような事故が起こるかもという想定ができておらず、1名が トイレで援助をしている時にもう一名も目が離れるような配置になってしまった。またこの日は人数も少なかったことで、油断が生まれたとも考えられる。	互いの動き（役割分担）を話し合い、2名いることを生かせるような動きにすれば事故を防げたかもしれないので、子どもを動かす前に連携についてしっかり話し合う必要がある。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位							実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
10548	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	7								2	1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼、左下口唇裂傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	ヒヤリハットをもとに怪我につながる行動についての対応策を確認し全職員に周知する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	今後も現状通り安全点検を行う。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童が落ち着いて遊ぶことができる遊具の設定を行う。	1.いつもどおりの様子であった	担当職員に抱き着く。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	職員に抱き着いてきた本児が咄嗟に体の向きを変えたため、職員が本児の背後からウエスト部分に手を回した。職員が腹部周辺をつかんだ際、本児が前のめりになり、そのまま床に顔を打ってしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ブロックで遊んでいる子に目を配りながら机上遊びのところに着いていた。	保育を担当する保育士同士の声の掛け合いが不足していた。	児童の行動を予測し対応していくことの大切さを全職員で確認し共有する。	
10549	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				8	8	7		2	2	16.4歳	2.女児	特に無し。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕 尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	特に問題なし。	特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に問題なし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯の危険性について配慮が足りなかった。	雲梯で怪我をしてしまう可能性があることを認識し、子ども達にも怪我をしてしまうことがあるので、気をつけるように伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。	職員の立ち位置の連携が取れていなかった。	子ども達と一緒に遊ぶ職員と全体を見る職員に分かれ、職員同士バランスよく立ち、子どもの様子や危険がないかなど、よく見ていく。	
10550	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	7		2		3		2		3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	戸外活動マニュアルに固定遊具について具体的なルールの記載がなかった。	戸外活動マニュアルの見直しを職員と共に行い、共通理解を持って再発防止に務める	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	48	●●公園のジャングルジムは通常よりも大きく、1段１段が高めに作られているため乳幼児への危険度が高い。	固定遊具のルールを明確にする。年齢や子どもの発達状況によっても配慮が必要であり、保育者の危機管理もより一層必要である。土曜日保育で、異年齢児保育ということも配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	公園は敷地も広く、近隣の保育園やご家庭も利用する	多くの子どもたちが利用するにあたり、公園内が混雑することも考えられるため、戸外活動の見直しが必要	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	楽しくて気持ちが高揚していたように見られた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジャングルジムに上っている園児が1名いたので、どちらも見ていた。本児が興奮している様子をみて危ないと感じ、下に降りてくるように声をかけた。下の方まで下りてきたので、もう一人の方に目を移した時に、本児が手を離し転落した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児が鉄棒とすべり台近くにいたので、それぞれ対応していた。	職員の認識不足、職員配置	共通認識の再確認、戸外活動の動きや配置の見直し	
10551	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	18								2	2	17.5歳	1.男児	前頭部をぶつけていたので園でA病院救急外来へ。その際はおそらく打撲、ただし鼻骨にひびが入っているかもしれない、とのことだった。保護者がB病院形成外科へ再度受診、●日にB病院耳鼻科に受診し、CT撮影し、骨折判明。ただし処置は特になく、経過観察のみとのことだった。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	擦り傷、鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	本児の体幹の弱さもあり、走り方に不安定さが見られる。鬼ごっこなど走るときは広場のみという約束の確認不足もあった。	遊具側では走り回るような遊びはしないという約束の徹底と職員同士の立ち位置の確認、見守る点の認識統一	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1				遊具側では走り回るような遊びはしないという約束の徹底	1.集団活動中・見守りあり		遊具側では走り回る遊びはしない。職員の立ち位置確認。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこを楽しんでいたが、すべり台付近まで鬼から逃げようとしていたことに気づくのが遅かった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の活動を見ていた	くぐろうとしゃがんでみたが自分の認識よりもすべり台支柱部分が低かった様子。体幹も強くなく、転びやすい子ではあった。	走り回っていい場所、危ない場所の子どもへの確認を細かく行っていく。	
10552	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57	7	26	24					15	11	15.3歳	1.男児	言葉の発達の遅れがみられ、昨年度より月に１回程度子ども発達支援センターに通っている。三語文はみられることもあるが母ねると、うなずきや単語で返答するというコミュニケーションが多く、質問への理解ができていない様子のまままうなずくこともある。運動面は登ったり走るなどはできる。発生時の天候は晴れ。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	その場での全身観察をしたが、担任への報告が不足していた。	予測不能の事故が起こる事や状況の把握、確認をする習慣と報告の周知徹底。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	園庭の線の上を歩けるようにした位置とボール遊びの範囲がぶつてしまっていた。	遊ぶ区域をわけるようにする。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	内科健診の時にはクラス単位で準備・待機し、職員が分散されにくいようにする。	1.いつもどおりの様子であった	園庭の中央に描かれた線の上を歩いて遊んでいたところ、走ってきた他児とぶつかって転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任保育士は、保育室に１名、園庭に２名いたがその他遊具や他児についており、当該児の近くにはいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭中央側を俯瞰して見る配置の職員が２名いた。当該児の近くにいた職員は他児を一人抱っこしながら見ていた。転倒時に近寄ったが、声をかけ腕を見たが外傷がなかったためその場を離れた。担任へは転倒があったことを報告しなかった。	特になし	保育士間でその場で声をかけあったり、情報を報告しあうようにする。	
10553	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9								2	2	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	転落した段差の使用に関して園としての決まりがなく、保育士の判断に委ねられていた	園として使用方法を決め、職員に周知徹底する	2.不定期に実施	6	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12		破損や危険な箇所がないか、引き続き安全点検につとめ、早期発見・対応する	1.集団活動中・見守りあり	通常の保育室内でなく、広いホールで遊んでいた。当該の段差について園としての取り決め、職員の意識統一がなかった	ホールの使用の仕方について取り決め、徹底することにした	1.いつもどおりの様子であった	２歳児の中でも月齢が低く、体幹は弱い。高さ３０cm幅３５cmの段差を平均台のようにして一人で歩いていたが、バランスを崩して転落。段差の右側が壁の為、左側に転落した際に自身の左手が身体の下に入ってしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が他児との関わりの中で噛みつきがある時期なので、近くで見ていた。段差に登って歩いていることは制止せず、大丈夫だろうと見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と少し離れたところでボール遊びをしていた	保育士の数と部屋の広さが見合っていない（ホールで保育士2人）	子どもの動きが把握でき、安全が確保できる保育者の配置と環境の設定をする	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																														
10554	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									3	3	13.1歳	1.男児	既往歴・アレルギー・持病はなし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	人員配置的に問題はなく、園児のそばに保育士もいた状況であった。保護者とのコミュニケーション不足、登園後のボディーチェックの不足。	保護者とコミュニケーションを密にとるよう関わっていく。また登園後のボディーチェックを徹底するようマニュアルを作成する。	1.定期的に実施	12	3.未実施	0	1.定期的に実施	12	今回、椅子と机の間に指を挟んでしまったと考えられる。椅子と机に指がはさまらないようにすべきであった。	椅子や机にスポンジをつけ挟んでも怪我をしないように工夫を施す。	6.食事(おやつ)中	椅子をがたがたとゆらしていたこと。壁側に園児がいたところ。	落ち着けるような環境づくり。また落ち着かない場合には危険がある為一度離席させること。園児は壁側に配置しない。	1.いつもどおりの様子であった	1歳10か月という年齢であり、活発な時期である。意思が少しずつでてくる年齢であり、嫌なことがあると癇癪を起こすこともある。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任はおやつをはじめるために園児10人を見ながらおやつの準備をしていた。絵本を1冊よんだりと注目をあつめていた。おやつの歌を歌い、園児全体をまとめていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の座っていた机付近に職員はいた。また園児が泣いた際にはそばにいたが、特に指をはさんだことには気付いていなかった。座るのがいやで癇癪をおこしていると思い、泣いた際椅子からおろし園児を落ち着かせ特に痛がる様子もなく泣き止んだためおやつを食べたがった本児を椅子にもどした。	まだ会話ができない年齢であり、何で泣いたのか本人も指を痛がっていなかったため職員が理解できていなかった。	泣いた際癇癪だと思わずなにがあったのか等声かけを行い、コミュニケーションを図っていく。また、泣く様子があればボディーチェックを行う。	
10555	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9	0	0	0	7	2	0	0	0	2	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎左乳歯中切歯脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3	2.基準配置	ウォータースライダーで遊ぶのは初めてだったので、注意事項の共有など改めてするべきだった。	マニュアルの作成を行う。そのマニュアルの活用の仕方を早急に共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ウォータースライダーで遊ぶのは初めてだったので、どのくらいのスピードができるものかなどの確認が不十分であった。	下見だけでなく、子どもが遊んでいる様子などをふくめて、保育に取り入れるかどうか検討する。	1.集団活動中・見守りあり	ブレーパーク内の遊具で、対象年齢などの設定はなかったが、子ども一人ひとりの発達にあった、遊具の選択がしきれてなかったのではないか。	下見だけでなく、子どもが遊んでいる様子などをふくめて、保育に取り入れるかどうか検討する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ブレーパーク内に新しい遊具があったためいつもより喜んではしゃいでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	安全に滑ってくるかを目視していたが、そのそばの登っている子の様子から、目を離してしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ウォータースライダー以外で遊んでいる子の見守りをしていた。	ウォータースライダーで遊ぶのは初めてだったので、保育者がつく場所は人数に配慮が必要であった。	坂を登る児がいるときは、そのそばに必ず1名つく。	
10556	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり	２列で小走りでの退場は何度も行っていたが、当日はリズムや歩幅が合わず子ども達同士が接近、接触した可能性がある。	子ども達が集団で走る場面では嬉しくて興奮している可能性があり、また周りに気を取られ注意力散漫になっていることを想定する。並走する子ども同士の距離の間隔を取るようにする、列全体のバランスや走る（歩く）スピードを考え誘導したり、声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	リレーは自分たちで順番を決めていることもあり期待が高く、一度リレーはしたが「もう一度走りたい」という子ども達からのリクエストから２回目の実施であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リレーを終え、子ども達側に顔を向けながら２列で退場する際の先導をしていた。対象児を含む子どもの様子を全体的にとらえていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	競技練習を裸足で行っており、足を拭いて入室するため園庭の水道で足ふきマットを準備していた。	担任は、子ども達の距離感には意識が行かず子ども達同士が接近、接触した可能性がある。	子ども達が集団行動（散歩時など）をする際、子ども同士の前後、左右の距離の取り方、安全確認などを職員が指導できるよう年度初めに職員研修をおこなう。	
10557	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13	1	6	6						5	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下顎左側A歯根破折、下顎右側BA外傷性歯の亜脱臼、下顎左側B歯冠破折、下顎歯肉裂傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保育室内で突然高くジャンプし落下、他児の後頭部にぶつかる。	4.対象児の動きを見ていなかった	破折部を直ぐに圧迫止血し怪我の対応にあたる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	破折した歯の保管や他児の後頭部全身状態の把握・観察する等怪我の対応補助、他の園児の保育や対応をする。		園児は予期せぬ行動をすることを常に念頭におき、再発防止に努める。	
10558	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		遊びの空間や人数と遊びの内容を保育者がしっかりと見守り精査していく。	1.定期的に実施	60	3.未実施		1.定期的に実施	日々		玩具は未使用のため	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこでタッチをする際	遊びの中でタッチの仕方を子どもたちに知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	子ども同士の鬼ごっこを楽しんでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている様子を遠くから見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった		園庭が全体的に見渡せる位置や必要に応じて場所を移動していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10559	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	68				24	23	21		6	6	18.6歳	1.男児	※約３か月の治療期間を経て●●年●月●日の受診にて完治となった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置		リレー練習に際し、子どもたちに安全に関して、無理や追い越さない、接触しないことなどのルール説明を丁寧に行う。	1.定期的に実施	4回/週	1.定期的に実施	4回/週	1.定期的に実施	4回/週		競技場内のトラックを走っていた為、危険な物はなかった。ハード面の改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり		競技場内には６名の保育士がおり、待機中の子どもを見守っていた。トラクを走っている該当児の付近も見守っていた為特になし。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リレーの練習中だった為、指定の位置で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	リレーの練習中だった為、指定の位置で見守っていた。		該当児も健康状態にあり、保育士体制にも問題がなかったと思う。	
10560	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	36				11	14	11		5	5	16.4歳	2.女児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A⊥A打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1-2	2.基準配置	特になし。	子どもたちの遊び方や様子を日々職員間で共有していく。危険予知トレーニング等の研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	高さのあるマット上で起こりうるリスクの認識が薄かった。	マット周囲で活動する場合、職員はマットの位置・遊び方に注意を払っていく。	1.集団活動中・見守りあり	近くにいた職員が本児たちの遊びの状況を認識しており、危険性について声をかけていたが、近くで別のトラブルがあり本児たちに背を向ける形となり、同様の遊びを続けている事に気付く事が出来なかった。	危険な遊び方となる事が予想される場合は、本人たちに声をかける。その場を一時的に目を離さなければならない状況の際は別の職員を呼ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに登園し活気があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで見守っていた。他児2名が本児の手足を持った際に危険性を伝えていたが、近くで他児のトラブルがあり目を離す状況となっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児の保育をしていた為本児たちを見ていなかった。	活動している子どもの人数、遊び方に対して職員の人数が少なかった可能性がある。	危険性を伝えた後に対象児たちの様子を確認するべきだった。危険を回避した事を確認出来ない場合は、他の職員に声を掛けていく。活動人数を減らしたり、遊び方を変更する等の調整が必要。	
10561	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19								1	1	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		職員の立ち位置など、その都度検討しながら保育をする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ハード面に関しては安全面では問題ない	他児が後方から接触して転倒したため、安全面では問題ない	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちの好きな遊びとして普段から活動していた。活動し始めで子どもたちの気持ちが高まっていた状況でもあった。	状況をよく見ながら活動を始める等、その都度子ども達の状況に合わせ活動内容を変更する配慮が必要だった。また、リズム遊びでの注意点を再度確認し注意喚起していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、意欲的にリズム遊びに参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ホール内にいる子供たちの動き全体を見守りながらピアノを弾いていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任職員１名のみだったため、他の職員はいなかった	担任１名で、リズム遊び中の子ども全員を見られる体制が確保できていなかった	リズム遊びなどの運動活動を行う際には何かあったときにすぐ対応できるよう、必ず保育士２名の体制で行う。	
10562	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20								3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	9	2.基準配置	日常の保育活動において、屋上は多く利用する場所でなかった。	子どもの特性を理解するとともに、日々の保育環境への留意等、職員間で共有していく事を会議で確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	屋上は地面がコンクリ―とであること。	コンクリート上で転倒した場合のリスクがより高いことを認識する。	3.個人活動中・見守りあり	数日後の遠足のために、「遠足ごっこ」と称して所内を歩き子どもたちは興奮気味だった。最後は屋上に行き、シャボン玉を飛ばしたことで、さらにうれしさが増し友だちを抱きかかえたことでバランスを崩し転倒につながった。	屋上で遊ぶことはそう多くないので、子どもたちにとっては魅力的で開放的な場所であることを認識する。	1.いつもどおりの様子であった	気持ちが高揚し、仲の良い友達と共感しながら抱き合っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	シャボン玉を飛ばしながら全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	シャボン玉を飛ばしながら全体を見ていた。	遠足が楽しみで、子どもたちが興奮気味な様子を把握しながらシャボン玉飛ばしをするべきだった。	３歳児という発達年齢を考慮し、慣れていない場所で遊ぶ時の配慮や保育者の立つ位置など、活動状況に合わせてさらにきめ細やかに対応する。子どもの事故は情緒の安定と関係が深いので、保育者や友だちと温かいつながりを持ちながら、日常の生活の中で、十分に身体を動かして遊ぶことを楽しみ、その中で危険な場所、事物、状況を知り、その時どうすればよいかを体験を通して身についていけるような保育を心掛けていく。	
10563	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17								3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	ボールで遊ぶ際のお約束を遊ぶ直前に園児伝えていなかった。	事前にボール遊びをする前に約束事を伝え、危険な遊びをしないように繰り返しつたえる。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	毎日	2.不定期に実施	毎日	ボールに不備はなかったが、ボール遊びについての注意事項を説明していなかった。	ボール遊びについての注意事項を説明すべきだった。	2.集団活動中・子ども達のみ	３階のホールは同じ階に声をかけてすぐに呼べる他の保育士がいなかった。	１名で見られない時には内線電話で他の階にいる保育士を呼ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	平時と同じく、活発であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士が他児とトイレに行っている間に事故が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名の保育士で６名を見ていたため、他の職員はいなかった。	活発な園児がホールに集まっていた。	活発な園児が集まっていたので、２名以上で対応すべきだった。ホールで保育する場合には職員が２名以上付き添うか、不測の事態を考慮し、すぐに呼ぶことができるよう、事前に他の保育士に声掛けしておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制												発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面				人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10564	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設数地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	19							3	2	16. 4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置		ガイドラインをもとに園の状況に合わせた事故防止マニュアルの作成、園外散歩マニュアルに沿った対応をする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1～2	1.定期的に実施	1～2		ガイドラインをもとに園に状況に合わせた事故防止マニュアルの作成、園外保育マニュアルに沿った対応をする。	1.集団活動中・見守りあり	地面がでこぼこしている所で鬼ごっこをしていた。木の側に倒れていたので、根が出ている所につまづいた可能性もある。	園外に出かけた際には、遊具の状態や段差等の危険個所を必ず確認し、子どもたちに伝えてから遊ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく過ごす。転倒した際に片手のみをつき、体重がかかってしまう。	4.対象児の動きを見ていなかった	少人数に分かれて追いかけっこや鬼ごっこをしていると様子を見ていたが、鬼ごっこをしている児に声を掛けられ、目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れた場所で、探索活動やだるまさんがころんだで遊ぶ子どもたちについていた。	各場所に職員が配置についていたが、遊ぶ範囲が広くなってしまった。また、転んだ時に両手が出ない事が出ないことが大きな怪我につながった。	子どもや職員の状況に合わせた活動範囲を設定、全体を見守る職員を配置し、お互いに声を掛け合う。手が出るように、遊びの中に遠い遠いや雑巾が対等を取り入れる。	
10565	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設数地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11							3	3	15. 3歳	1.男児	既往歴：熱性けいれん（・持病・アレルギーなし）、発育・発達状況、晴れ、気温29度、強風7m 母親は育児休業中（●月●日に弟誕生）好奇心旺盛で活発。視覚の刺激に敏感に反応する。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	指先切断（５mm）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	・園児の突発的な動き、個別配慮、保護者対応などの突発的な事象に臨機応変に対応する。	・安全対策委員会を毎月４日に行い、危険個所の点検、ヒヤリハット報告と改善計画を立案し、計画に従って速やかに改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育園にある環境について、日々の気づきをもとに改善することが重要だと気づいた。職員全員で各自が感じた危険を記録し、共有することが必須。	毎日ヒヤリハットマップに落とし込み、月一回の安全対策委員会で確認し改善した。	1.集団活動中・見守りあり	保育場面が切り替わるタイミングで、保育者が連携するためのコミュニケーションが不十分だった。（園庭から保育室の入室と遅刻した保護者対応が重なった）	職員の資質の向上に努めた。事故を振り返り、再発防止のためコミュニケーションと同僚性の向上を務めて安全な保育を行う園内研修を行った。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように視覚優位で高いところ・土・水に惹かれていた。保育士は強風に興味を持っていることに気づいていたが、個別に対応する視点が甘く、事故の瞬間を見過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・全体の動きを所定以上の保育士で担当していた。 ・1-2歳児の園庭遊びから保育室入室のタイミングで、１歳児がほぼ入室を完了。 ・担任２人が園庭で保育し、１人が遅刻して登園した保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者は対象児の動きを見ていたが、至近距離にはいなかった。フェンス土台（２８㎝）に上ったことも確認していたが、指を差し込む瞬間は誰も確認していなかった。	園長・主任、昨年度の担任などが対象児の特性と保育園で の様子について個別対応の必要について懸念していたが、具体化に至っていなかった。	個別対応の必要を職員全員で対応を共有するために、コミュニケーションを密にとる。	
10566	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	6.午睡中	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	12	0	0	0	8	3	1	0	1	1	16. 4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	1日通し2名の職員が保育をしており、事故発生時は1名が休憩をとるために部屋を出ている中での事故であった。職員配置の人数に問題はなく、保育可能であったがその日の子ども達の様子や環境に合わせ状況をしっかり判断した上で部屋を出るべきであった。	配置には問題ないので、子どもたちの状況やその時の部屋の環境に合わせ、職員が柔軟に動く必要がある。環境や人的な面での事故であったと考えている。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		1.定期的に実施	365	コットで午睡を摂ることに関しては問題なく行うことが出来ているが、午睡の前後でコットの上で過ごすことについては正しい使用方法とは異なり、実際そこで過ごすことで今回の事故が起きている。安全に過ごすことが出来る環境・スペースを確保して保育にあたるべきであった。	コットの使用を続けていく中で、危険の無いように過ごすことが必須であるため、動きのある環境の中にコットを出したままにしない事や、コットでの過ごし方の見直しを行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	本児が隣のコットにいる他児と関わり、バランスを崩す可能性のある体制を取っていたが、止めることが出来ていなかった。バランスが崩れた際に歯を強打することは予想できるため、気付いて事前に止めることが必要であった。	コットの上で絵本を読むことは衛生面や危険であるとの観点から止め、より安全でしっかりと見守ることのできる場所での保育を行うようにする。また、他の子ども達もコットの間を行き来するような状態であったため、他の事故が起きてもおかしくない状況であったため、コットを敷くタイミングから見直していくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	着替えを終えた後、コットの上で絵本を読むという流れになっていた。着替えを終えた本児も絵本を読もうとコットの上にいたが、動きのあることを楽しんでおり、隣のコットにいた他児へ声を掛けたり顔を寄せたりして過ごす様子があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	コットの傍にある0歳カー前で、食事を終えて着替えるために戻ってきていた子どもたちの援助を行っていた。 ロッカーの方に向いていることで、コットにいる子どもたちに背を向ける形となっていた。コットの近くにいた4歳児が本児の痛がる姿に気付き、職員へ声を掛けるまで気付くことはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	該当職員無し	子ども達が別室で昼食を摂り終え、全員保育室へ戻る1名職員が休憩に出るようにしていた。子どもたちの動きの中でも時間差が生まれ、着替えを行う子どももいれば寝るまでの時間を絵本を読んで過ごす子どももいる状況であった。十分1人で保育を行うことが出来る人数でもあるが、子どもたちの様子や状況により部屋を出るべきではないと判断するときには、2名での保育が必要であると考える。	着替えの援助を行うことは必要であるが、終えた子ども達の様子も視界に入れ見守ることのできるようにするべきであったため、見守ることのできる位置について保育にあたるようにする。また、お預かりする際に怪我がないか視診するようにし、その後の保育でも子どもたちの様子を把握して危険の無いようにする。午睡前の過ごし方については見直し、怪我に繋がりそうな動きが見られた際にはすぐに止められるようにする。	
10567	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	13				5	3	5		1	1	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷疑い→骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		保育士の危機管理意識の確認を徹底する（具体的に）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	無	無	1.集団活動中・見守りあり		環境面の改善はなく、保育士の行動そのものを見直す事が必要	1.いつもどおりの様子であった	室内の積み木コーナーで遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	夕方だったため、遊具棚に足をかけ室内のロールカーテンを閉めていた。足をかける時は本児の動きを確認したが、降りる時は後ろ向きだったため確認せずに降りてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	無し	棚から降りる時に下に子どもがいないかの確認を怠った	保育士の危機管理意識の確認を徹底する（具体的に）	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制													発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10568	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15（1登園時に体調不良で早退）								3	3	15. 3歳	1.男児	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左上眼瞼挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	・トイレ誘導を一斉に行ったため、園児が走り出した。	・トイレは狭い場所なので、小人数で落ち着いて行動できるように促す。 ・廊下は走らないことを知らせていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・廊下のフックには、水遊び使用後の膨らんだバッグが掛けてあった。さらに通園バッグを掛けるための荷物掛けが置いてあったため、廊下の幅が狭くなっていた。	・荷物掛けの置き場所を変更し、動線の安全を確保する。	3.個人活動中・見守りあり	・紙芝居を見た後にトイレ誘導を行っていたため、午睡誘導への動線が煩雑になっていた。 ・上履きを履いていないことを把握していなかった。	・午睡前のトイレ誘導を済ませてから紙芝居を見て、午睡に入れるように動線を整理する。 ・トイレに促す前に、上履きを履くよう促し、確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところで見ていたが、咄嗟に助けられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児に関わっていた。		・子どもの動きを予測し、子どもの状況に応じた声をかけるようにする。また、保育士同士で常にお互いの動きを確認し、連携を密にとりながら臨機応変に子どもに対応する。	
10569	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	106								26	23	17. 5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	朝からクラス全体が落ち着かない様子であった。活動の節目で、落ち着けるよう声掛けをしていた。夕方園庭に出ることにより少し発散できるのではないかと考えた。	クラス内が落ち着かない場合は園庭遊びをしない。園庭遊びをする場合は２クラスで出るなど監視の目を多くする。隣の部屋を開放し２Gに分れるなど落ち着く方法を考える。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	260	木登りは大人が必ず付いている時のみの使用であることを促す。	子どもたちに園庭遊具の使い方について指導はしているが、園庭に出たら最初に遊びの制限を説明してから遊び始めるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	夏季期間園庭内は裸足で遊んでいたが、４月月ぶりに靴着用だった。遊具や木に登る際もいつもとは違う感覚だったかもしれない。	遊ぶ前に、久しぶりに靴をはいての園庭遊びであることを子どもたちに認識させる。その日の遊び方(利用してよい遊具など）を職員と子ども間で確認してから遊び始める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児を含めた女児数名で乳児滑り台を繰り返し行っていた。興奮気味で危険であると感じた担当が「ゆっくり滑ろうね」と声をかける。本児が先頭でウッドデッキに走り、そのままの勢いで木に登り反対側に顔を出した。担当に声をかけられ降りようとして、足が引っ掛かりバランスを崩し1mぐらいの高さから右手をウッドデッキにつき落ちる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭中央に立ち、園児達の様子を全体的に見ていた。本児が園庭を走って横切る様子も目で追い、木に登ったため２．３m離れた所から近づきながら「○○ちゃん、そこはちょと・・・」と声をかけた。驚かせるといけないと思い、そっと声をかけたが、本児が落ちたためあわてて駆け寄る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトイレ対応からもとった所だった。	４歳児クラスは通常担当保育士常勤２名体制であるが、当日は担当保育士１名、パート職員１名で保育にあたっていた。午前中から園児達は落ち着かない様子であった。	保育体制、園児の様子によっては園庭遊びを中止する。園庭で設定保育をおこないクラス全体で動き子どもの行動を抑制する。	
10570	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18				18				2	2	16. 4歳	1.男児	生育下より右内反足にて同院で精査加療を行った。３歳まで夜間のみ装具着用し、その後は経過観察していた。現在、内反足は改善し集団活動での配慮は要しないが、稀に何もない所でつまずいて転ぶ等の様子があった。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上左乳切歯の脱臼、下唇溝の貫通創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	日頃より、あまり活動的ではない様子がみられ身体の使い方等、未熟な部分があった。	本児の特性をより把握するよう心掛けて環境整備を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1 -	2.不定期に実施		コロナ対策の目的で、昼食時の密を避けるためにテーブルを増やして対応していたために通路が狭くなっていた。	机の配置を変え、通路を広くした。	1.集団活動中・見守りあり	食後、緊張がゆるみやすい時間帯ということも考え、通路が狭いので個別にも声をかける必要があった。	通路の歩き方や机の配置を子どもと共に再度確認する。	1.いつもどおりの様子であった	元気だが、前夜、就寝が遅くなり寝不足ぎみだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	片付けを促しながら、近くで子どもの様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の個別対応をしていた。	本児の特性を把握はしていたが、歩き方や日々の状況による険性を予測できなかった	本児の特性をより把握するよう心掛けて環境整備を行う。	
10571	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	1								1	1	14. 2歳	1.男児	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		事故報告書・ヒヤリハットによる事例の振り返り、防止策についての情報共有を定期的に行っていく	2.不定期に実施	2	3.未実施		1.定期的に実施	293		当項目に関する要因なし	1.集団活動中・見守りあり		当項目に関する要因なし	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	周囲の片付けをする際、園児に背を向けてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を誘導し室内へ移動していた。	当該園児が、通常はバギーを降りてから靴・靴下を脱ぐが、この日は降りる前にバギー内に潜り込み脱ぎ始めた（通常と違った行動パターン）。	いかなる時も園児の姿を視界から外さない。	
10572	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	46				#	#	#		7	7	17. 5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指第一関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		子どもたちに椅子の取り扱いや座り方について確認し指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		椅子の並べ方や配置について検討する。	1.集団活動中・見守りあり		みんなが落ち着いて観られる雰囲気を作る。	1.いつもどおりの様子であった	他の児童と一緒に椅子に座っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	座っている児童達を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童、担当職員と同じ部屋で、発表会のための指導を行っていた。		発表会の指導にあたる職員と座席に座っているこどもを見る職員の配置を検討する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10573	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78				25	26	27			5	5	18.6歳	1.男児	天候：晴れ	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折（仮）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	通常６名配置の時間帯だが、当日は５名、片付け時間になり配慮児を先に入室させる職員１名が見守りを離れるなど、普段より見守り保育者が少ない状況	保育者が休む・見守りを離れる等で危険と感じる時は、職員室と連携して応援要請する	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	転倒場所は、夏は芝生エリアで靴を脱ぐ場所だった。冬は芝が枯れ、立ち止まらず走り抜けられる状態になっていた。	道幅が狭い場所をそのままのスピードで走り抜けないよう、動線上にプランターを置きスピード減を図り、今後グリーンカーテンで下をくぐる場所にするなどの環境改善予定	1.集団活動中・見守りあり	・遊びの経過：集団遊びを途中でやめ、園庭を広範囲に走る遊びを始める。 ・コアタイムでも、この場所を走っており、危険性を伝え、職員が注意していた。	・戸外遊びの前に、危険な場所の遊び方、約束を子ども達に確認する。 ・走るだけの遊びをしている時は、園庭中央を使ったルールのある遊びに誘う	1.いつもどおりの様子であった	園庭では、複数人で広く一方向に走る遊びを楽しむ姿がよく見かけられていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	年長担当職員は園庭中央でリレーゲームの見守りを行っていた。事故が起きた場所付近を走る姿を見かけ、注意の声はかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年少担当はエントランス前に年少児を集めていた。年中担当はビワの木付近で全体を見守るが、事故場所は死角の位置。フリー職員は事故場所を背に鉄棒の見守り。	コアタイム・長時間保育両時間帯で、走る遊びを注意することが続いており、危険と感じる職員は多かったが、遊びの変化はみられていなかった。	危険な遊びをしている情報やひやりはっとは、速やかに学年の話し合いや朝の会等で共有し、子どもの行動が変わる効果のある働きかけができるようにする	
10574	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4			1	2	1				2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	こどもの意向を汲むことと安全面に配慮することのバランスをさらに意 識する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	今回の事故は備品の不具合等によるものではないため、現状のチェック体制を続ける	3.個人活動中・見守りあり	保育室内には2名の保育士がいたが、そのうち１名が他のぐずついている１名の児童にかかりきりになっていた1、2分の間であった	場面により保育者が1名体制となる際により注意する	1.いつもどおりの様子であった	対象児童は何事も自らやってみたいという気持ちが強いので、園として普段からその気持ちを尊重し応対している。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児を含む幼児3名と至近距離で1名の保育士がついていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の1名の保育士は他のぐずついている児童につきっきりになっていたため、本児の動き等は見えなかった	特になし	場面により保育者が1名体制となる際により注意する	
10575	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	117	8	21	25	19	22	22	0		25	25	16.4歳	1.男児	運動遊びを行うため、巧技台を設置していた。テラスで遊ぶときには、保育士が子どもの動きや発達を踏まえて、巧技台を設定したり、縄跳びや跳び箱を設定する。当日は、巧技台を設定していた。	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A｜A 外傷性歯牙脱臼 下口唇裂創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	1.基準以上配置		テラスでの遊び方、設定の仕方、子どもに注意することなどを職員間で共有する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	毎日	特になし	テラスの床が滑りにくくないか、つまずきやすくなっていないかなどの確認を行ってから、遊具の設定を行う。	1.集団活動中・見守りあり	巧技台が設定してあることへの注意喚起が足りなかった。	テラスへ出る目的を事前に伝え、どのような危険があるかを子どもたちと話し合う等の教育の場を作る。	1.いつもどおりの様子であった	室内遊びの時間が長く、身体を動かしたいという欲求が強かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	巧技台が出ている中でかけっこが始まったため、声掛けを行おうとするときに起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラスには、担当職員1名であった。	特になし	テラスで保育を行うときは、子どもが活動的になっているため、意識して危険予測をしながら、全体を見るようにする。	
10576	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16	0	0	6	9	1	0	0		0	2	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷・打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	日頃より会議や朝礼などで園児の事や職員配置、１日の流れなどの情報は共有しているが、職員同士の連携がうまく取れていなかった	日頃より情報の共有と連携をとれるよう、互いに声を掛け合ったり、申し送りノートを活用したり、朝礼を行う等、情報共有の場や体制を作る	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	三輪車の周りには玩具を置いたりせず、十分な間隔をとれるようにする	1.集団活動中・見守りあり	園庭は芝の面が多く、三輪車はバランスを崩しやすいため、転倒につながったと考えられる。	三輪車の扱いや乗る場所、走る方向など子ども達が分かりやすいように知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で遊ぶことが分かると喜んで戸外に出る。好きな三輪車に乗れ、５人位の友達と連なり三輪車に乗っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の把握と事故予防に努め、見守りを行う。本児が三輪車に乗って遊んでいたこと、三輪車から降りようとしたのは確認しているが、バランスを崩し転倒して唇を三輪車のタイヤにぶつけた瞬間は見ておらず、本児が訴えてくるまでわからなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の把握を行いながら降園する子の保護者対応をしていた為、遊びの状況から目が離れてしまった。	水分補給ができるように、水筒を出したことを知らせた後だったので本児も水分を摂ろうと三輪車をおりる時に慌てたことが転倒につながったと考えられる。 １７：００で退勤をする保育士がおり、保育者の見守りの目が行き届いていなかった。	三輪車を使用する際の約束事を再確認する。乗り降りの際には落ち着いて行動できるように声をかける。保育士の退勤など十分な見守りが行えない場合は、遊具等の調整を行い、安全な活動と人員の配置を考えるようにする。	
10577	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13	0	0	0	0	0	0			3	3	15.3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯2本の根元が折れている	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	職員が、園児や園庭全体を見渡せる位置にいなかった。	乗用玩具のタイヤの回転速度が増すコンクリート部分に保育士が立ち、安全な速度で玩具遊びが行われるよう注意を払う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	定期的	こぐ力が強くなり前のめりになって転んだ。乗用玩具での遊びが本児の身体の成長に見合っていなかった。	児童の身体の成長に見合った玩具での遊びに移行する。同年代の児童については当該乗用玩具を使用させないこととする。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	園児が分散しているため、職員が全体を見渡せる位置に立ち保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	登園から降園まで園児はいつもどおりの様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員が見守っていたが、即座に手が届く距離にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見渡せる位置にいなかった。	特になし	職員を児童の園庭活動が見渡せる位置に配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面								ハード面								環境面					人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
																	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
10578	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39	0	0	0	0	16	23	0		2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	特になし	今回の例は根本改善策はないが今後も定期的にマニュアルを読み返し、改正を加える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	特になし	大ホールの床面などに剥がれや、突起などの異常が無いか使用前に確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	障害物の有無、活動に適した環境になっているか確認。活動中も全体を見渡し環境の変化に気付ける様に注意する。	1.いつもどおりの様子であった	何もない所で足ひねったとの本児の談。すぐに現場を確認するも、何も無い床面だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	片付けの声掛けをし、他児と共に玩具の片付けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスの子どもに片付けの指導、援助を行っていた。	特になし	常に全体を見渡しながら、すぐに子ども達の異変に気付くと共に、職員間で声を掛け合い対応出来るようにする。	
10579	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16				6	3	7			1	1	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	普段から、室内を走らないことを意識づけることができていなかった。狭い空間で走ったら危険であること室内は歩くことの徹底。	職員の危険予知能力の向上。	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	12	床暖房をつけていたため、床が乾燥していて滑りやすかった可能性がある。	走らない環境設定をする。玩具や机等の配置を工夫する。ある程度床が温まったら、床暖房は切る。	1.集団活動中・見守りあり	机を縦一列2台並べその境を2組作ってあった。その境の側に マットを敷いてブロック等の玩具で遊ぶ空間を作っていた。マットの周りに空間があり、歩く走るをする空間もあった。	マットの位置を壁際に変えて、走って遊ぶ空間をなくす。ある程度床が温まったら、床暖房を切りエアコンのみの使用にする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	マットの上で座って遊んでいたが、友だちとの遊びが発展していきそれに伴い動きも大きくなっていき、興奮気味になった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	換気のため窓を開けたり、椅子の出し入れをしながら全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	8時30分出勤で、普段は保育室内にいるが、子供が少なく落ち着いていたので、別室にて散歩の準備をしていたため見ていなかった。	子供たちの遊びの変化に早く気づけず、動き始めに声をかけるのが遅くなってしまった。	子供たちの遊びの展開が変わるときを注意して見ていくとともに、会話にも注意を向ける。早めの声掛けをする。	
10580	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	新しい装具の構造や形状の認識が浅く、他児との接触時のけが等への配慮が足りなかった。	職員間で情報共有に努め、様々な事態を想定して危険回避できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	職員の声かけにより子ども達が一斉に動き、装具をつけた子どもも同様に行動した。職員は近くにいなかったため、動きを止められなかった。	子どもに声をかけるときは、加配児のそばに職員がついていることを確認し、行動を把握できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	部屋を移動するため、他の子が並んでいた列に対象児が並ぼうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任職員が加配児や近くにいる子ども達が並ぶ援助をしていた。装具を付けた子どもには並ぶよう声をかけたが、一緒に行動していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう１名の担任職員は子ども達が並んでいる列の前にいたため、後方にいた対象児の足元が見えなかった。	並ぶ援助をしていた加配児1名に意識が集中しており、装具を付けている子どもの足元に注意が払えていなかった。	装具を付けている子どもの側につき、動きに留意する。周囲の子と距離をとり、装具が接触しないようにする。	
10581	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16	0	10	0	0	3	3	0		4	4	14.2歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	前頭骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	遊具につく職員の配置の仕方、遊具が年齢には適していなかった。	公園での遊具の遊ばせ方の見直し、安全に遊ばせるための職員の認識を共通にする。安全に遊ばせるための遊具の使い方を再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	定期的	年齢や体の大きさから考えると適さない遊具であり、遊ばせ方の共通認識がされていなかった。	子どもの年齢や体の大きさ、身体能力を考えて遊ばせていく。危険が察知できるようなものは未然に防ぐため、使用できないようにするなど工夫をする。	1.集団活動中・見守りあり	遊具（滑り台）への職員の配置の仕方が不足していた。遊具（滑り台）が年齢に適していなかった。	常に安全を確保できるような見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	登園から事故が起きるまではいつも通りだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台にはついていたが、子どもが３人上ってしまい、落ちてしまった時は当該児へ手が届かない場所にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	公園の他の遊具等で遊んでいる児童を対応していた。一人はブランコに付き、もう一人は水道のあたり、また別の一人は滑り台とかなり離れた柿の木の方にいた。水道近くの職員が、落ち始めた瞬間に気づき、服け付けたが間に合わなかった。	年齢や体の大きさから考えると適さない遊具であり、遊ばせ方の共通認識がされていなかった。	滑り台で遊ばせるときは、まだ体が小さいので、傍について対応する。対応がうまく出来ない時は、滑り台で遊ばせない。	
10582	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	3									1	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	お迎えの時間が近づき次々と降園する状況での不安定な気持ち	遊びが手につかずいる状況をくみ取り遊びに誘う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	動きが活発なので室内環境で危険な場所行為を把握しておくが動きが読めない状況	動きが活発な時期なので室内環境を注意してみる	3.個人活動中・見守りあり	飛んだり飛び越えたりが行動で多いので気持ち落ち着かなくさらに激しくなってしまった	本児の気持ちの動きを考えること気持ちに寄り添うこと遊びのルールを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	活発に動く男児室内を落ち着かずに時には走る行動が多い	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れたところから様子は見ていた。お迎えが待ち遠しい感じを読み取っていて遊びに集中できずにいたので声掛けしようとする直前に起きた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児が退園しており、事務室で事務作業をしていた。	本児の行動をよく見ていつも以上のことを認識があったのでそばに行き対応をすることが必要だった。	個々の行動をしっかりとみる。気持ちに寄り添う声掛けをする	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10583	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	0	0	0	16	15	19	0		4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	転倒する際に受け身を取らない児童が増加している	全体への周知を行い、職員の意識の向上に繋げていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	日常	屋上園庭はゴムチップが敷き詰めてあるが、クッション性は低く硬い	遊ぶ前に園庭の点検を欠かさず、転倒時のさらなる事故につながらぬよう安全確保をする	1.集団活動中・見守りあり	球技ではボールに意識が集中するが、周囲にも注意をするよう促す。	転倒から想像以上の怪我につながることを今まで以上に確認し、より一層気を付けて保育を実施する。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールに参加して、同じクラスの男児と左右に動き回っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童とともにドッジボールに参加する。対象児と同じ外野で、本児の右側付近にいて全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ドッジボールでは1名別の職員が内野で参加しており、他2名の職員は異なる遊具のコーナーにいた。	児童の動向や異変に際して迅速に対応できる配置を心掛ける。	全体把握をより一層行っていく。	
10584	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22									2	2	15.3歳	2.女児	・最初の１週間はシーネ装着で自宅で安静とのこと。１週間後からはギプスに切り替えて足に荷重をかけないように安静に過ごしていく。（完治までは５～６週間）保育園では事務室にて１日座って過ごし、今後も１週間ごとに通院して様子をみていく。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨 骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	12	2.基準配置	なし	グループに分かれて保育する際には一人で、全体を把握しながら状況判断できるように意識する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	玩具の破損や欠けているなど定期的な点検を再度強化している。	1.集団活動中・見守りあり	ブラレールの線路が床に広がりすぎていたことに気づけなかった。	保育室の面積を考えたうえで、玩具の種類を減らして遊ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	保育士に作ったブロックを見せるため、両手に持ち保育室内を移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象時の作ったブロックを見た後、傍にいた自由画遊びをしていた子どもに目を向けていたため、転倒に気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう１グループはホールに移動していたため、担当職員のみだった。	なし	・保育士１人に対して玩具の種類を出しすぎてしまった。・自由画は時間を決めたり、保育士の目が多い時に行うようにする。	
10585	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	7									3	2	14.2歳	2.女児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		1.意識不明		熱性けいれん	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	職員間での共通認識の必要性	病気ごとの対応策を会議、研修で周知し職員間で共通理解をする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	体を休める場所の確保の必要性	テント等を利用し日陰を多く設定し休憩場所をつくる。	5.睡眠(午睡)中	睡眠時の様子を細かく観察できる環境作り	睡眠時の様子をより丁寧に見守る。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	午前おやつ後に元気がなかったため検温する。39.1度	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	2歳児保育室にて布団に寝かせて、保育士が1名つき対応にあたる	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を戸外に連れ出し園庭で遊ばせていた	特になし	様子の変化に気づき適切に対応できるよう、個々の様子をより丁寧に観察し見守る	
10586	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	35					15	20			4	4	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨近位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	ローラー滑り台に同時に多くの子どもたちが滑ってしまった。事故後の対応として救急車を要請するべきであった。	遊具で遊ぶ子どもたちへの約束。子どもの容態により救急車の要請を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		事前に必ず遊具の対象年齢を確認する	1.集団活動中・見守りあり	保育士も一緒に滑っていて、滑っていた人数は4.5人だったが、次々に上から勢いよく滑ってくる子どもたちで着地付近に滞ってしまい、圧力がかかってしまった。	勢いがつく滑り台なので、次々に子どもたちが滑り出さないように、人数の制限などの配慮をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	大きな公園に行かれることで、とても楽しみにしてでかけた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と一緒に近くで滑っていたが、上のほうから次々に滑ってくる子どもたちで前のほうにいた子どもたちに圧力がかかり、対象児の右足が伸びていない状態だったことが確認できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで見てはいたが、止めることができなかった。	少人数ずつ滑り始めても、次々に勢いの付いた状態で滑ってくると、着地付近で滞ってしまい、圧力がかかってしまった。	次々に多くの子どもたちが滑ってくることのないように、保育士は上で順番を待っている子どもたちの状況を把握し、危険が及ばないように配慮する。	
10587	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13	0	0	0	0	0	0	0		3	3	13.1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	園児が立いた時の対応の周知・徹底の不足	転倒した際に勢いがなくても、必ず全身を細かく確認、怪我の有無に関わらず、状況報告の徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園児の人数に対し玩具が多めに用意されていた	必要以上に玩具が散乱しないよう、適宜整える	1.集団活動中・見守りあり	遊びの内容ごとに空間が確保されていなかった	遊びの内容に応じて分け、座ってゆったり遊ぶ空間と動いて遊ぶ空間を作り、それぞれに職員を配置する	1.いつもどおりの様子であった	好きな玩具を見つけて、遊んでいたが、動いていた他児に２度ぶつかる。１度めは尻もちをつく。２度めはバランスを崩し、ゆっくり、両腕から転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつもどおりの様子であったため、他児と関わりながら見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と関わりながら、見守っていたが該当児が泣いたため、至近距離で状況を見ていた職員がすぐに対応する	2度、他児にぶつかって転倒した衝撃による	動きの多い園児は危険のないよう職員が配慮し、他児とぶつかることがないようにする	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10588	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	28									5	5	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	後頭部裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	年齢的にまだ足や体のバランスが上手とれなかった	対応できる人数だけにする	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎	平面でなく、鴻曲しているので、バランスがとりにくい	子どもに手の届く範囲で見守る	1.集団活動中・見守りあり	立ち上がり次の動作を行おうとした	座るように早目に声をかけ、子どもの側から離れないようにする	1.いつもどおりの様子であった	友達と並んで座っていたが、次の遊びに行きたかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	もう一人の子が下を覗き込む様子を見せたため、その子に注意が行ってしまった。本児が立ち上がる素振りが見られ、声を掛けようとしたが間に合わず、手を伸ばしたが捕まえられず転落してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れて遊んでいたので、そちらの子を見ていた	土管の上に登りつくときに砂が上がっていて滑りやすくなっていたのではないか。	土管の上に砂等がないように、綺麗に掃くなどする。	
10589	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	68				21	24	23			4	4	17.5歳	2.女児	天候：晴れ 体調：良好	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	子ども一人一人の体力の把握が職員全体で出来ていない	職員会議等の話し合いの場で子どもの情報を共有する。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	50	2.不定期に実施	50	築山から降りてくる動線の先にデッキがあること。	築山の下に植樹をすることで動線を変更した。	3.個人活動中・見守りあり	本児の下半身の筋力不足。	日常的に外遊びの機会を設けて体力向上を図る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭の各所にて分散しながら子どもたちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の各所にて分散しながら子どもたちを見守っていた。	保育者の見守りが完全ではなかった。	園庭全体をくまなく見守れるように職員の配置を改善する。	
10590	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19							0		2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折 右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	他職員が、園児のトラブル対応をしており、全体を見る職員が1名になっていた。	職員同士で連携をとり、全体を見る事ができるように、目視、声掛けをする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	滑りやすい砂の状態であった	水などをまき、滑りにくくする	1.集団活動中・見守りあり	室内から、戸外への切り替えの時間帯で、園児の落ち着かない姿があった	落ち着かない姿がある時は、次の活動を予告したり、一度集合させて落ち着いてから遊ばせる	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊びに、他児と一緒に鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭の中心あたりで子どもたちを見ていた。対象児は園庭の倉庫近くで、鬼ごっこをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応していた為見ていなかった。	対象児らの行動を気に掛けてはいたが、転倒の予測に至らなかった	職員同士で、声をかけ合い、園児一人一人の動きを把握する	
10591	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12									1	1	16.4歳	2.女児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		1.意識不明		てんかん	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		緊急時の対応を日頃より学ぶ	1.定期的に実施	280	1.定期的に実施	280	1.定期的に実施	280	寝具の種類→コット睡眠チェックの方法（頻度など）→3歳児クラスの為記録未実施・観察は実施児童の発達状況→自由に動ける	今後も午睡時の観察・室内の照明の調整を実施していく。	5.睡眠(午睡)中	持病等（今回は特に持病はなかった）	午睡時の観察を今後も実施していく	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であり、発熱等の症状なし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象クラスの午睡チェックを実施していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の午睡中の園児のチェックをしていた為。	午睡時の観察を実施し、本児の咳のような呼吸の異変により気づくことができた。	顔色等が見えるように午睡時のベットの配置を行う	
10592	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11		2	3	3		3			2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足下腿骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1 重大事故が発生した場合はその都度	1.基準以上配置	特になし	職員へのマニュアル周知を徹底し、事故防止に努めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	特になし	定期点検、安全確認を今後も継続して行う。	1.集団活動中・見守りあり	年齢差の遊び方の違いから	遊ぶ前に遊び方についてお話をし、又その都度遊び方を子ども達に知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段関わりの少ないお兄さんに遊んでもらい、とても嬉しそうにしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	死角がないように子ども全体が見渡せる場所にいた。本児のいた所が離れていた為、事故の際手が届かず、受け止める事ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄の子の対応をして、部屋に戻るところだった。	危険が伴うことは子ども達にしっかりと指導をして知らせていく。しかし、全て禁止するのではなく、ある程度の見守りも必要。	子ども自身での判断が難しい時は、危険な行為の時には保育者が知らせていき、安全に遊べるようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10593	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25					11	14			2	2	17.5歳	2.女児	●月●日に熱性けいれんを家庭で起こし、脳波の検査を受けたが原因不明という診断だった。	1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明		無熱性けいれん	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		病気ごとの対応策を研修で細かく周知する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		日除を多く設定する。	1.集団活動中・見守りあり		走って遊んでいる時間を把握し、様子を見て水分補給等に誘う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中、時々元気がない様子が見られたが、全体的にはいつも通り変わらず過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走って遊んでいるのを見守っていて、本児が訴えてきてから事務室職員に引き継ぐまでは付き添っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員が本児の様子を訴えてから付き添う。	発熱がなく意識があるように感じられたので救急車を呼ぶタイミングが遅くなってしまった。	発熱しなくても保護者に連絡した時点で救急車を呼ぶことを確認する。	
10594	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37					20	17			3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置		他クラスと合同になる場合の職員配置の場所や現場での声掛けを確認する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		階段下の地面、砂などが凹凸や滑るような状態に無いか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭と玄関に子どもがおり、保育士も分かれてついていた。現場が見える場所には保育士もいた。	担任と他クラスの保育士との配置、子どもの情報共有をしっかり行う	1.いつもどおりの様子であった	靴に履き替え、一人でゆっくりと園庭に出た。速度も普段と変わり無く階段を降りた。	4.対象児の動きを見ていなかった	現場近くの職員は見える方向に居たが、発生時は別の子どもの対応で見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員1名は園庭の環境設定の為、他児と倉庫付近にいた。他1名は玄関や廊下など、まだ園舎内から園庭に向かう準備をしている子についていた。		移動中の出来事なので、声を掛けながら死角が少なくなるよう職員配置をする。	
10595	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置		園庭で遊ぶ園児が安全に遊べるよう職員の立ち位置や言葉がけに注意する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		花壇の段差を見直し、角にはコーナーガードをつける。	1.集団活動中・見守りあり	遊びのスペースごとに区分けが無かった。	遊びの種別ごとに、スペースの区分けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	４歳児５名で氷鬼を行っていた。本児は逃げる側で、他の園児が捕まっているのを助けに行こうとして、走って移動し、慌てていたため、段差で止まれずつまづいて転倒。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児とは、違う園児とままごとを行っていたが、付近で対象児が遊んでいたため、そちらも注視していた。転倒があった際は、本児に声をかけ、様子がおかしいため、他の職員に助けを求めて、対応。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	４～５歳児の職員３名が、全体に目を向けながら自由遊びを行う。至近距離ではないが、園庭でどんな遊びを行っているか、園児と遊びながらも周囲には気を配っていた。	遊びの特性を踏まえた環境構成と、事故に対する予測の配慮が足りなかった。	転倒や転落など、怪我のリスクのある遊びを行う際には、保育者が近くで見守り未然に防げるようにしていく。。	
10596	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左手人差し指の圧挫創	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	大型積み木の使い方、環境設定、見守りが出来ていなかった。	安全に遊ばせる為に、大型積み木の使い方を再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	定期的	重さがある積み木のため、使い方にはより注意が必要であった。	大型積み木の使い方の見直し、どのように使っていくかを話し合い事故防止をする。	1.集団活動中・見守りあり	普段はガムテープなどで積み木の固定をしていたが、この時は大型積み木の固定ができていなかった。	大型積み木で家を作る場合は屋根部分に段ボールを使用するなど、軽いものを使用し、固定をする。	1.いつもどおりの様子であった	積み木でごっこ遊びをして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	大型積み木を使用している時にすぐ近くにいなかった為、積み木が落下するのを防げなかった。	大型積み木を使用する際は使い方を確認し、必ず見守りをする。	
10597	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置		子どもの動きを想定し、注意と声掛けは行っていたので、環境設定を見直し周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		声掛けだけでは無理な時は太鼓橋を物理的にマットなどで塞ぎ、登れないようにするなどの対応をするように周知する	1.集団活動中・見守りあり		保育士が状況を判断しボールを出すときは太鼓橋を登れなくする、又は立ち位置を変えるなど声掛け以外も考慮する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から動きが激しいが、数日前からソワソワと落ち着かない様子が見受けられていた。禁止されている行為だがボールを持って太鼓橋に登り、投げた勢いで前のバーにぶつけた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児から1.5m程の距離にいたが、他児の対応をしており事故の瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の動きを気に留めており、視界に入るようにしていたが、園庭での職員配置上、離れた別の場所の危険個所についてい他児を保育していた。そのため、声を掛け近寄って止めようとしたが間に合わず、対象児の近くにいた職員よりも少し離れた所から事故の瞬間を目撃した。		職員同士が声を掛け合い状況を把握するとともに、臨機応変に環境設定を変化させ安全を確保する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事									事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
10598	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11									1	1	17.5歳	2.女児	完治するまでは、なるべく足が地面や床に着かないよう留意する。横になる際はギプスの下にやわらかいクッションや毛布などを置いて固定する。発生時天候：曇り	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	ケンケンやジャンプをしている等の園児の行動に対しての声掛けと怪我後の迅速な対応ができなかった。	園児一人一人に応じた状況の判断や危険行動を予測した関わり方をする。	1.定期的に実施	1日3回×１２ヶ月	1.定期的に実施	１日３回×１２ヶ月	1.定期的に実施	１週間に１回		戸外遊び時にかけっこや三輪車で遊ぶ園児と混合になってしまっているため、遊ぶ範囲や時間を決めて交互に行うなど、園児同士のぶつかり合いが起きないような対策をしていく。	1.集団活動中・見守りあり		日中の人員を確保し、園児の安全面を強化して怪我のないよう努める。	1.いつもどおりの様子であった	体調に変化等はなかったが、ケンケン・ジャンプをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員も一緒になり氷鬼ごっこに参加していたが、離れた場所から対象児を見ていたため、足を捻った瞬間に気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４歳児クラスは、日中、職員１人体制で保育をしていることが多い。	対象児が一度痛みを訴えてきたが、傷がなかったため処置をせずに様子を見てしまった。	園児が怪我をした際は、よく観察し迅速な対応・処置をする。	
10599	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明		前頭葉てんかん	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置		子どもの病気・症状についての理解を深める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52		誤飲の無いように小さい玩具は使用しない	1.集団活動中・見守りあり		興奮状態にある時は、別室で穏やかに過ごせるようにする	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	家で朝4時に数回発作を起こしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	毎日のように小発作があり、転倒防止を避けるため、1対1の個別配慮を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児は数名保育室で遊ぶが、1対1で保育士と保育室にいた		原因究明のための検査入院。投薬	
10600	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	99	8	16	18	20	17	20			30	21	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下肢遠位端骨折不全	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置		引き続き、職員に事故予防についての意識の徹底、予防対応についての具体的な保育体制の徹底を園全体へ意識化を図る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	年長児のみの活動時間であった。気候や準備体操も要因として考えられる。	年齢や活動内容等に応じての安全について児童としっかり確認を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	天候、気温、湿度変化の確認をおこない、園庭コンディションをアセスメントする。	今後も適切な職員配置を行い、活動状況に応じた安全性を見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	他児と共に鉄棒を楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児を含め、数名と鉄棒を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に他職員いなかった。	他児との間隔も十分であり着地がうまくいかず生じたために危険予測が十分に発揮できなかった。	活動への導入方法やルール決め、活動前の準備体操等実施していく。	
10601	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	4	4	10						6	6	14.2歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	特記事項なし	ヒヤリハットで検証を行う。遊戯室では自由に好きな遊びを行う子どもが多いので、それぞれの遊び方を確認しながら見守る必要がある。また、危険が予測される場合は声掛けをしていくことが必要である。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	他の園児も自由に遊んでいたり、特にトラブル等もなかったため、当該事故を予測できなかった。	走って遊ぶ時は周りをよく見る。広い場所では寝転んで遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	遊びの延長で寝転んでいたと考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と別の場所で遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に遊んでいた。	今までは好きな体制で遊んでいても特に事故は発生しなかったため、寝転んでいた当該児に気付いても声掛けなかった。	様々な遊びや動きをする子どもがいることを想定した見守りや、声掛けが必要である。また、死角を作らない職員配置を再度確認する。	
10602	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13			2	6	5				11	9	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	特記事項なし	ヒヤリハットで検証を行う。遊戯室では自由に好きな遊びを行う子どもが多いので、それぞれの遊び方を確認しながら見守る必要がある。また、危険が予測される場合は声掛けをしていくことが必要である。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	他の園児も自由に遊んでいたり、特にトラブル等もなかったため、当該事故を予測できなかった。	走って遊ぶ時は周りをよく見る。広い場所では寝転んで遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	遊びの延長で寝転んでいたと考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と別の場所で遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に遊んでいた。	今までは好きな体制で遊んでいても特に事故は発生しなかったため、寝転んでいた当該児に気付いても声掛けなかった。	様々な遊びや動きをする子どもがいることを想定した見守りや、声掛けが必要である。また、死角を作らない職員配置を再度確認する。	
10603	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14									3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側上顆骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置		ヒヤリハット検証時に運動時の安全について職員全体で検討する。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	木の床が貼ってあるが、その下がコンクリートのため転んだ時の衝撃はあったと思われる。	ふざけて転ばないように気を付けるように子どもにも伝え、床が硬いことに配慮し気を付けて保育する。	1.集団活動中・見守りあり	本児がふざけて転ぶ場面が何回かあった	転んでふざけるような姿があるとき、止めてもやめない時はすぐに手を伸ばせる距離にいる。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	月曜から水曜日まで風邪症状で欠席。まだ風邪症状が残ったまま登園。久しぶりの登園でふざけ気味にわざと転ぶ姿もあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児のわざと転ぶ姿を見ていたので、「わざと転ぶと危ないよ」と、声をかけながら、他児と一緒に走っていたが、転倒時は転倒を防げる距離にはいなかったため防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちと一緒に走っていたが、転倒時に防げる距離にいなかったため防げなかった。	痛めた部分が足と考え、腕にケガがあるか確認しなかった。	転んだあと、機嫌が直らない時は園長・副園長に報告し、複数の目で確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10604	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	8									2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		当該園児が遊びの中で頻繁に前転をする子とわかっていたが、安全に対する言葉がけが足りていなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48		運動マットがない状態で前転をしたことにより起こったため、前転等をする場合はマットを使用する。	1.集団活動中・見守りあり		全体で走る際の安全に対する子どもへの声掛け。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びの中でよく前転をしていたことから、おにごっこ中も気持ちが高ぶり、そのような行動になったと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	おにごっこで他の園児１名と鬼役をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたため、離れたところから見ていただけだが、防ぐことができなかった。		不意な事故も予想して動く必要性。	
10605	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									2	1	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右肘橈骨頭の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置	ヒヤリハット記録の分析を行い事例を共有し、大きな事故につながらないよう職員間で共通理解を図っていく必要がある。	事故防止に関する研修会を不定期ではなく、定期的に実施する。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	数	2.不定期に実施	数	ブロックは子供たちに人気もあり、昨年の卒園記念品としてさらに追加購入されて、片づけ時には高さが以前より高めに積み上げられていたが、園児が上って喜んで遊ぶことが常態化していた。	積み上げられているブロックの上には上らないよう指導するとともに、ブロックの近くで遊んでいる子供の動きに気を付け、危ない場面が見られたら注意をして止める。	3.個人活動中・見守りあり	当日は欠席者もなく24名全員がそろっていた。遊ぶ場所を3か所に分けて遊ばせていたが、走り回る子の所が一番危険が多いためそちらの方に注意を向けていて、ブロックで遊んでいる子の方に目を向けていなかった。	3か所に分けた遊び場所全てに注意を行き渡らせ、危険を感じる場面が見られたら早めにやめさせるなどの注意を怠らない。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室での自由遊びの時間（20分間）の終盤で、ブロックに乗ろうとした。落下した時も特に泣くことはなかったが、部屋に戻ろうとした時に腕を押さえて痛がっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室を、積み木で遊ぶ所、ブロックで遊ぶ所、走り回っていい所の３つに分けて遊ばせていたが、走り回れる所の子供たちを見ていたため、ブロックで遊んでいた対象児の方を見ていなかった。部屋に戻ろうとしたら対象児が痛がっていたので、聞いて分かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、「気になる子加配」の職員のため、自分がマンツーマンで見なければいけない子を見ており対象児の様子を見ていなかった。	遊戯室内は子供たちの遊ぶ声が飛び交っていて、落下した時点で音がしても気が付かなかった。	事故はいつどこで起きるか分からないため、子供たち全員を視野にとらえられるように遊戯室での保育士の立ち位置を工夫して、視野を広く見る。	
10606	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10				4	6				1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿部若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	事故予防に関する研修を定期的に行っていなかった。	事故予防に関する研修に積極的に参加する。月1回、職員会議で行っているヒヤリハットの検証で、引き続き子どもの様子から目を離さないよう職員全員に周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	天気が良く、園庭の土が乾いており滑りやすかった。	園庭の状態を考慮し活動を考えたり、子どもに必要な指導を行う。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこで子どもたちの気持ちが高ぶっていた。	鬼ごっこなど激しい動きのある活動の前には、子どもたちに周りを見るよう声をかけ、職員は子どもの動きから目を離さない。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこの鬼になっており、懸命に走り他児を追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	代替職員が当時担当していた。対象児の様子を見ながら、代替職員も子どもたち一緒に鬼ごっこに参加し他児を追いかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で次の活動のための準備をしていた。	普段から行っている活動であり、保育士1名で十分見守ることができると判断した。	子どもたちの様子を考慮し、加配の職員と二人で見守る。	
10607	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24				10	14				17	12	17.5歳	2.女児	積雪のある歩道を登園中、長靴でつまずいて転倒した。 送迎中の母親とは、手をつないでいなかった。	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		登降園時の安全な送迎について周知する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1回/月		園舎内のみでなく、周辺の安全点検の実施	7.その他	積雪	歩道の除雪	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	登園時、施設外で発生した事故のため、職員はいなかった。母親が園児と一緒にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			送迎時の安全確保について、保護者に周知する。	
10608	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20									3	1	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	トイレへの移動開始後、加配対象児が列から離脱したため、後尾の職員がフォローにまわった。その時点で、移動中の見守りが先頭、中間の職員２人体制になったため、後尾にいた対象児の離脱に気づくことができなかった。	見守りに関して職員3人体制を堅持する。ただし、クラス全体の雰囲気や各児童の様子から、必要に応じ、園内職員から追加の見守り人員を配置する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	48	保育室出入口の扉が開いていたため、自由に出入りすることができた。	対象児がクラスで孤立することがないよう、適宜、保育室出入口の扉を閉める。万一、児童が列から離脱し保育室に進入しようとしても、扉の開閉音によって見守り職員は異変に気づくことができる。	1.集団活動中・見守りあり	担任が、対象児の普段の様子から離脱行動はないと思い込んでいたため、突発的な行動を見落としてしまった。	今回の事件を踏まえ、園内でヒヤリハット研修を行い、見守り体制の再確認（児童の全体の把握及び目視確認の方法を含む）、思い込みによる保育をしないことなどを園内全職員で確認した。	1.いつもどおりの様子であった	朝の身支度をいつも通り済ませ、好きなブロックで遊び片付けも落ち着いて行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任保育士は、移動中及び児童のトイレ対応時において対象児の所在を見落とした。対象児の泣き声に気づいた保育補助職員の要請に基づき、保育室を確認。対象児が転倒し、ている状況を現認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		見守り職員が児童一人一人の所在確認を怠った。	保育士は、児童から目を離さず常に人数確保と見守りを徹底する。 また、その場から離れる必要があるときは、児童職員間で声を掛け合うことを、見守り人員に不足が生じぬよう代替職員を配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10609	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12								2	1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	以前のヒヤリハットから、ボール遊びの配慮点や転倒時の対応が園内で共有していたが、生かされていなかった。	事故の要因を分析し再発することのないよう、職員間での共通理解を徹底する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	48	施設、設備に特に問題はなし。	遊戯室の床はクッション性のある床材を使用している。床は乾いており、遊具も壁際に片付けていた。	1.集団活動中・見守りあり	・使用したボールの大きさが、普段とは異なり小さかったため、サイズ的に足が乗りやすかったと考えられる（普段は直径30cm、今回は23cmの物を使用） ・今まで同じ遊びをする中で、事故やケガがなく慣れが生じていたと考えられる。	・乗り上げる可能性の低い、大きめなボールを使用する。 ・コートの広さに対し、参加する人数を考慮するなど、慣れた遊びにも危険が伴うことを認識し、職員間で共有する。	1.いつもどおりの様子であった	・登園時は、休み明けのため母と離れにくそうにしていたが、すぐに気持ちを切り替える。 ・運動遊びを好み、活発なため積極的にゲームに参加。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・ルールを伝えたり、楽しさを共有したりしながら、子どもと一緒にゲームに参加。安全を考慮し、ボールは1個のみ使用。 ・スピードを考えながらボールを転がすよう働きかけていた。 ・他児に当たりボールの軌道が変わってしまったことで、声掛けが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		・職員の立ち位置を工夫し、安全にゲームが展開するように、より丁寧な声掛けが必要であった。 ・転倒の際の、頭部負傷の見立が甘かった。	・複数体制時の、職員の連携を徹底する。 ・危機管理意識を高める園内研修を実施する。	
10610	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19								3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	不明	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1,2	1.基準以上配置		状況を職員間で共有し、マニュアルを再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		今回同様、すぐにAED等を用意できるよう、機器の管理を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	午前の活動はいつも通りで、元気に遊んでいたが、昼食はいつもより食欲がなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	午前の活動はいつも通りで、元気に遊んでいたが、昼食はいつもより食欲がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			状況を職員間で共有し、今回同様、緊急事態に直ぐ対応できる体制を常に整える。	
10611	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10								2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし。	毎年、研修を実施していた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし。	掲示物で、園児にわかりやすく注意事項を伝える。	1.集団活動中・見守りあり	各園児が、各々の活動していた。	保育体制の人員配置は適切であった。	1.いつもどおりの様子であった	体調の変化なし。	4.対象児の動きを見ていなかった	教室出入口付近で対象児が他児と衝突したため、職員の目に入らなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			対象児と他児が、周囲をよく見ていなかった。	園児の目につきやすく、わかりやすい掲示物を設置。	
10612	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	25								2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	12	2.基準配置	特になし	事故発生の際には再発防止に向けた検討を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	他児が自由に走っていた為視界が遮られていた。	表示を増やし、走る際はなるべく進行方向を決めるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	多数の園児が走っていた為、見通しが悪くなっていた。	各部屋で改めて約束をして、表示も増やす。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	だるまさんが転んだで逃げる役をしていたため、いつもより興奮気味だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	だるまさんが転んだの鬼役で他児を追いかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		多数の園児が走っていた為、予測が難しかった。	遊戯室監視の職員を増やし、死角が無くなるよう配慮する。	
10613	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20								1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		事故予防に関する研修を実施する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり	準備体操を行わなかった	運動する前に準備体操を実施する	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールに興味を持ち始め喜んで遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールをしている子供たちの見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		子どもの運動能力、普段の動きから怪我を予測することが不十分だった	ボールの投げ方を指導事故発生を職員間で共有し、今後の事故防止に努める	
10614	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	43				22	21			12	6	16.4歳	1.男児	診断書（言語発達遅滞、自閉症スペクトラム障害疑い）	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	・保育士間の役割分担や伝達ができていない ・下見のマニュアルがないなど、下見不足	・全職員対象に、事故原因や対策会議を行い共通理解を図る ・危機管理マニュアルや保育士の意見をもとに、下見マニュアルを作成する	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	子どもの発達に合わない遊具の使用	下見の際には看板やホームページなどで対象年齢を見て、職員間で共通理解をする	3.個人活動中・見守りあり	運動公園の遊具は、どれでも遊べるという思い込みや保育士が側に付いているからという過信	いつもは大丈夫だからと思わず、もしもの場合を考えながら慎重に見守っていくことを職員会議で周知徹底する	1.いつもどおりの様子であった	前日まで、体調不良のため欠席していた。歩くことを拒むので、体調がスッキリしないのかと思い、バギーに乗って公園に行くが公園では、好きな遊具を見つけると一目散に走り出し遊び始める	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	滑り台を滑る際、後ろから抱きかかえるようにして一緒に滑る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園では、他児の様子を見ていたため見ていなかった	遊ぶ範囲が広すぎる・死角ができる・保育士の目が行き届かない	・子ども達と約束事を確認し、守って遊べているか常時目を離さない ・全体を見る保育士、子どもと一緒に遊ぶ保育士など分担をする	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10615	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	4								12	8	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置		職員の配置も不足なく、事故防止の研修やヒヤリハットの検証も行っているため改善点はなし。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	24（大型遊具なし）	1.定期的に実施	2回/月		施設の安全点検や遊具、玩具の安全点検は適切に行っているため改善点はなし。	1.集団活動中・見守りあり	広場には、3歳児4名しか園児はおらず、広い空間の中で鬼ごっこをしていた。鬼がタッチするために鬼ではない子に近づいた時に足が引っ掛かり転倒した。転倒したときに、手の平を下にしてしっかり手をつく(受け身をとる)ことができず、手の平を上にした状態で転倒した。	日頃から、転倒するときは手の平を下にしてしっかり手をついて体を支える(受け身をとる)ことを園児に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	広場を自由に走り回り友達と鬼ごっこを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が友達同士で鬼ごっこを楽しんでいる様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラス午睡の時間に入っていたためそれぞれの保育室にいた。そのため、広場には担任以外の職員はいなかった。		3歳児の保育士定数を参考にすると3歳児の園児数20：保育士1なので、事故発生時4：1となり職員は十分配置されており改善点はなし。広場に保育士が2名いたとしても鬼ごっこで走り回っていた本児を倒れないように支えることができた可能性は低いと考える。	
10616	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11								1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	両橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置		ズボンをきちんと履き、慌てずに出てくるように指導した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		配慮が必要な児について見守りだけでなく、声掛けや寄り添う。	1.集団活動中・見守りあり		ズボンをあげてから行動するよう伝える	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	数名がトイレに行っていた為、保育室の入り口からトイレと保育室を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で活動中だった。	対象児の行動の見守りができなかった。活動に早く戻りたくて急ぐことも考えておくひつようがあった。	ズボンをきちんと履き、慌てず出てくるように指導をする。	
10617	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		全体を見る職員、一緒に遊びに入る職員の役割分担をする。安全面に配慮し、危険を感じた時は、声をかけるなどする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	園庭の土山を崩して低くしたばかりだったので、柔らかく、凸凹していた。	凸凹を均してなだらかにする。	1.集団活動中・見守りあり	土山を鬼ごっこの陣地にしていた。	土山の所は、足を取られ転びやすいことを子供たちにも伝えるようにし、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこでタッチされそうになり、慌てていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭を広く使って鬼ごっこをしていたため、少し離れた場所から全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事準備のため、園舎内にいた。	慣れている園庭であり、土山を低くしたので、少しなら走っても大丈夫だと思ってまい、安全確認が甘くなっていた。	園庭に出る際は、濡れていないか、滑るところはないか、柔らかく足を取られるところはないかなど、子どもの活動や姿を思浮かべながら、毎回丁寧に確認する。	
10618	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17		6	#					4	4	13.1歳	2.女児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右側鎖骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		これからも子どもの人数や動き、発達、活動内容等に合わせ、職員のつく人数や位置を考えていく。	1.定期的に実施	毎日職員が安全点検を行う	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日消毒とともに職員が点検する		今後も安全点検を行いながら、危険個所があれば事前に対応できるようにする。	5.睡眠(午睡)中	布団の距離が近くなりすぎないよう、間をあけていたが、動いている園児が近くにいたのに、離す事なく見守ってしまった。	布団を敷き直している子がいる場合、今回のようにバランスを崩し倒れる事が予想される為、周りに他の子がいない場所で行えるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わった姿は見られず、仰向けで眠っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	動く子の様子を見守りながら他の子どもの寝かしつけを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子どもの寝かしつけを行っていた。	布団を敷き直している子どもの周りに寝ている子どもがいたが、広い場所に移動して布団を敷けるようにせず、その子が納得いくまできるよう見守ってしまい、バランスを崩した時にも支えられなかった。	午睡をしている子どもの周りで布団を敷いたり、眠くなくて移動したりしている子どもがいる際は、広い場所で行ったり、布団に入って眠れるよう関わっていく。	
10619	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	47			21	26				4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	手をつないでいたこともあり、転んだ際に手をつくことが出来ずにそのまま肘をついてしまった。	異年齢で手をつなぐ時には、手をつなぐ相手との身長差を考えたり、落ち着いて歩く様に声掛けしたり、転びそうになった時には手を離すなど日頃から話をしていく。	1.定期的に実施	使用の都度	1.定期的に実施	使用の都度	1.定期的に実施	使用の都度	園外の場所となるため、記載が出来ない	園外の場所となるため、記載が出来ない	1.集団活動中・見守りあり	園外の場所となるため、記載が出来ない。	園外の場所となるため、記載が出来ない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、手をつなぐ相手は異年齢であったが落ち着いて歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラスの先頭で子ども達を誘導し、歩いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	歩く道中は、職員が先頭に1人、列の中間に2人、一番後ろに1人がついていて子ども達の様子を見守りながら歩いていた。本児が転んだ時に、近くにいた職員がすぐに駆けつけ、本児の様子を確認をしている。	手をつないで歩いていたこともあり、転んだ際に手をつくことが出来ずに、そのまま肘をついてしまった。	クラスや異年齢児などで散歩、遊園に出かける時には子ども達の様子、荷の高さなどの状況も考慮し、手をつなぐ相手を考えたり、横断歩道、交差点、路地と交差する道路など横断する時には、慌てて走らない。グループを分けて混ざらず対応していく。また日頃から落ち着いて歩くことなど声をかけていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面									環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10620	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	21									4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左前歯脱臼 下口唇裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	現場の保育士の危機管理能力不足。用具の片付けの役割分担が決められていなかった。	事例に基づくヒヤリハット・事故対応の研修をクラス単位で行う。保育活動前には準備・片付けの担当者を決めておく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	事故の原因となったマット・棚には異常はなかった	マット等の用具を使用する際には点検をしてから使用する	1.集団活動中・見守りあり	使い終わったマットを室内に立て掛けてあり、対象児にとっては遊びの対象になった	使用後の道具はすぐに室外（こどもが触らない場所）に片付ける	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発で行動範囲が広く、何にでも興味を持つためマットに登ったと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児がマットの方へ近づいていき、「あっ」危ないと思った瞬間転倒してしまったため対応できなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の行動は気にしていたが、他児の見守りをしていたため咄嗟の対応ができなかった。	室内での運動遊びは普段以上にこどもが活発になることが予測された。	活動中、こどもの様子や行動を伝え合い職員間で情報共有をする。	
10621	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		保育者の立ち位置を見直した。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36		大人数で遊ぶときは、広いホール等を活用する。	1.集団活動中・見守りあり		活動の取り入れ方は、段階を踏んで考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	活動に意欲的に参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	活動の様子は確認していたが、転倒時の様子は確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児と関わっていた。		怪我の大小に関わらず、子どもの様子を見て、いつもとは違うと感じたり、判断が難しい時には、看護師や上司に怪我の状況を報告し確認していただく。	
10622	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	27									3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		遊び時の職員配置について具体的に検討すると共に職員間で共有し、子どもの行動を注意深く見守る体制を整える。	1.定期的に実施	毎日・1回/年	1.定期的に実施	毎日・2回/年（業者）	1.定期的に実施	毎日		今後も点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり		安全な遊具の使い方を職員間で再確認し、その都度子どもたちの様子を確認しながら指導する。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に鉄棒で遊んでいた。棒を握っていた手が滑って落下し、自身の体を支える為に地面に手をついた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が鉄棒で遊んでいるところは見ていたが、あっという間に手を滑らせて落ちた為、落ちる前に駆け寄ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこをしている子どもたちを見守っていたため、対象児の様子に気づかなかった。		子どもが活動している時の保育者の配置や連携の取り方について園全体で検討すると共に、遊具の使い方によっては事故につながることを意識して見守っていくようにする。	
10623	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21	2	3	2	10	3	1	0		14	9	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		6.その他	1.頭部	後頭部ヒビ 脳震盪	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	交通安全や約束ルールを繰り返し伝えていく。	降園前には、交通ルールや約束をクラスで話していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎日	降園時お迎えが嬉しく、テンションが上がり登ってしまった。特に、夕方なので、疲れが見えることもある。	約束事として、フェンスに登らないなど、保育室で繰り返し話したり、保護者にも貼紙掲示・園だよりなどで繰り返し周知していく。	7.その他	保育士の前と保護者の前では違い、はめをはずしてしまった。	フェンスに「登りません」など貼り紙をし啓発する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り明るく、体調も良かった。母と嬉しそうに降園した。		保護者への引き渡し後であった。		保護者への引き渡し後であった。		保護者、園児へ危険箇所にわかりやすく掲示を行うと共に、安全に登降園するよう園児への指導及び保護者への啓発を行った。	
10624	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9	2	2	2	1	1	1	0		9	9	17.5歳	2.女児	・●/●に母より連絡あり、●/●に手術。ボルトを入れ2か月固定。 ・●/●よりリハビリ開始。 ・●/●退院毎週土曜日にレントゲン、リハビリありとのこと。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	太鼓梯子には一人ずつ登るように事前に約束をしている。また、引っ掛かり防止として玩具等をもって登らない。フードやひも付き、フリルの服は保育園で使用を禁止している。	体幹が弱い園児が増えてきているので、小さいころから体幹を鍛える遊びなどを取り入れバランス感覚を養うようにする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	足が足りるように台をおいたり柔らかい砂などをおくとかえって怪我のもとになるため地面はそのままにする。太鼓梯子の下にはおもちゃなどもおかないようにしている。	現状で対応しているけがなどの予防策は今後も継続する。	3.個人活動中・見守りあり	太鼓梯子は一方方向からのみ使用する・一人が登っている時は登らないなどの約束を事前に園児たちに伝えているため使用時は一人のみが使用していた。	今までの対応に加え、着地する際には足元をみて着地をするよう声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも使用している遊具であったので、使い方は慣れていた。着地の時にバランスを崩してしまい左側に転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	固定遊具を使用する際には安全な位置で職員が見守っていた。遊具の使い方も安全に使用していることを確認。雲梯のようにバーを握っていたが、バーをつかみ損ねたためけではなく着地をするためにバーから手を放している。着地の瞬間は見ておらず着地後に痛がっていることを確認。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	順番をまもり固定遊具を使用していることを確認しており、近くで担任が見守っていることも確認する。	体幹が弱いこともあり、鉄棒は危ないと感じることがあったため、使用を控えていたが、太鼓梯子はスムーズに使用していた。着地の際の体幹が弱くバランスを崩してしまった。	体幹が弱い園児が増えてきたので、体幹を鍛えて全身の大きな動きを習得してから、腕に力を入れる遊びや手首や指先を使ったあそびという段階を踏んでいく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							診断名							実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10625	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	41			18		23			4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		引き続きマニュアルに基づき配慮する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		うんていの下にマット等のクッション性のあるものを敷き、怪我予防をする。	1.集団活動中・見守りあり		室内遊具の遊び方に関して園児と一緒に確認し、事故予防に努める。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしていたため、本児の動きをみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしていたため、本児の動きをみていなかった。		引き続き基準に応じて配置していく。	
10626	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	21								4	1	16.4歳	2.女児	特になし。	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	トランポリンを使用する前に園児への説明不足や個々の園児が安全に使用できるかの把握が欠如していたと考えられる。職員配置についても1名ずつ見ていれば防げたかもしれない。	上記要因、分析を実施していく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	今回の事故は園外施設であったが、園内においては各教室や園庭にて保育前の点検作業をルーティン化していく	上記の内容を実施すると共に、検証し点検作業が定着するようにしていく	1.集団活動中・見守りあり	トランポリンを使用する前に園児へ使い方の説明や準備体操ができていなかったこと	使い慣れない遊具を使用する場合、園児への事前説明や十分な職員配置をしていく	1.いつもどおりの様子であった	対象園児はトランポリンを使用できるとのことで、1人で跳んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象園児の他3名の園児が同様にトランポリンをしていたため、他児も含めて見ており、対象園児が痛みを訴えてから駆け付けた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と共に、他3名のトランポリンをしている園児や、順番待ちの園児を見ていた	遊ぶ前に遊び方を一人ずつ声を掛けて注意を促していれば防げたかもしれない	遊ぶ前に遊び方を一人ずつ声を掛けて注意を促す。	
10627	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	27								4	4	17.5歳	1.男児	無し。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A)歯牙脱臼・左上A)外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	13	1.基準以上配置	ソフト面での要因はないと思われる。	上記理由により該当なし。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	2	ハード面での要因はないと思われる。	上記理由により該当なし。	1.集団活動中・見守りあり	後ろを振り返りながら、歩いていた。散歩時のルールの確認ができていなかった。	後ろを振り返る必要がある時には、クラス全体で止まる。散歩の出発前、帰所前に公道を歩く時の約束事をクラス全体に話をして出発する。	1.いつもどおりの様子であった	見送ってくれている幼稚園児と職員に後ろを振り返りながら応えていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員A：列の後方で幼稚園児と職員の見送りに後ろを向いて応えている子どもたちを見ていた。本児が受傷する直前、逆U字の車止めにぶつかりそうになった他児に声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員B：列の先頭の他児と手を繋ぎ、保育所に向かって歩いていた。職員C：列の中程で配慮児と歩いていた。職員D：園長先生と挨拶をし、列に合流するところだった。	列の後方が後ろを振り返っていたが、先頭は先に進んでいた。その際に停止するなど職員間で声を掛け合っていなかった。障害物に対して、事前に起こる事故の予測ができていなかった。	後ろを振り返る場合は保育士間で連携して声を掛け合い、クラス全体で止まる。散歩中に道に障害物、危険物があれば避けるよう、保育士が事前に予測し子どもに声をかける。	
10628	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49	0	0	0	12	17	20	0	3	3	17.5歳	2.女児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特記事項なし	玄関付近では遊ばないように徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設面の問題はないが、玄関の柱の近くを走っていたことが問題であった	危険個所からは目をはなさないように徹底する	3.個人活動中・見守りあり	玄関付近では遊ばないようにしているが、その付近を走っていた。	玄関付近では遊ばないことを再度、園児に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとかわりなし。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児が泣いており、その対応のため、ホール前のテラスへ移動していた。そのことにより、対象児の動きをみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの見守りにあたっていた。	特記事項なし	全職員が危険個所を把握し、玄関付近では遊ばないように徹底する	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面				ハード面							環境面			人的面								掲載更新年月日
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷									実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
																							死因	負傷状況	受傷部位																											
10629	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	6								5	5	15.3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨、腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	15	1.基準以上配置	なし	なし	2.不定期に実施	児童遊園は市の管轄随時点検年１回程度	1.定期的に実施	1	3.未実施		なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	スプリング遊具からすべり台へ向かって走っていたが、途中でよろけてバランスを崩すが立て直した。その後Uターンする様に方向を変えて歩き始め、５歩程度進んだ所で倒れこむ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２歳児担任は砂場、ベンチ付近で遊んでいる子どもたちを見ていた。フリー保育士がすべり台の登り口にいて、本児がすべり台に向かって来るところや、途中でよろけた後、向きを変えて倒れていく姿を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すべり台の降り口や、スプリング遊具付近で遊んでいる子どもたちを見ていた。どの保育士も子どもたちに慣れていて、何度も散歩に同行しており、不慣れな様子はなかった。	子どもたちはそれぞれの場所で遊んでおり、本児は一人で次の場所に移動しているところ。本児が追いかけられる事や、衝突など、子ども同士のトラブルは無かった。十分な保育士体制であったが、固定遊具に視野が集中しやすかったと考えられる。遊具が無い広い場所では、子どもたちが自由に走り事もあるが、今回は走っている様子を保育士が見ており、走る速さや遊び方に危険が予測される様子では無かった。	全体を見渡せる場所にも職員が立ち、子どもの流動的な動きを見て、必要に応じて保育士間で声を掛け合う。 子ども達の遊び方にヒヤリとしたことがあればすぐに声をかける。	
10630	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39	0	0	0	24	7	8	0	0	0	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（肘）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	課外活動の指導者に対して、安全管理を重点とした指導をしてもらうこと。緊急事態が発生したときの適切な対応について話し合っておくことができなかったことが事故の要因と考えられる。事故が起こったあと、すぐ園に連絡すること。救急車を呼ぶなど医療機関に連携すること。保護者対応の必要性を認識してもら園の態勢具すぐに連絡すること。子どもの安全と適切な処置が続けるまで事故現場から離れないようにすることなど適切な対応ができるようにする。	課外活動の外部指導者に対して、安全管理を最重点とした指導ができるよう指導内容を十分に吟味し、適切なものになるようにする。 子どもの安全を第一に考えて、事故が起こるまでの過程を検証し、事故が起こるまでの間の事故の処置を終えた、園の職員が、保護者への対応をすることで、適切な処置が続けるまで事故現場から離れないようにすることを徹底するようにした。園の職員は、外部講師から連絡があった場合は、園長・副園長・主任に連絡をし、その指示のもと、それぞれの役割に応じて応急処置、救急対応、保護者への連絡等、組織対応を行うよう指示した。なお、今後の課外活動においては、園の職員が園児について見守るようにした。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	頻繁	なし	上記理由により改善策なし	7.その他	2人の外部指導者が、オオカミさんごっこをしたいと思っている子どもたちの方に気がとられ、全体の安全管理ができていなかったことが要因の1つである。また、体格の違う、年少さんから年長さんが、同じ場所で、個々にボールを蹴ったり、ボールを投げていたり、追いかけごっこをしていたり、ボールを手で抱えて歩いている子がいたりしており、安全配慮義務が果たされていなかったように思える。	課外活動の外部指導者に対して、安全管理を最重点にした指導ができるよう指導内容を十分に吟味し、適切なものになるようにする説論した。	1.いつもどおりの様子であった	女児だけが内部に安全ガッカホーボールをドリブルしていた所子児童は、年中であるが、かなりのスピードでドリブルできる子ども。課外活動の体育遊び内容はもう、事故対応にるまでクンドの動作指示内容をル一人でドリブルして回っていた。けが有と女子園児は年少で体も小さく、ボールを蹴ったり、投げたりするのではなく、ドリンドに転ぶ=いち ボールを両手で抱いたりと、無に無流ゆかてはんの調子。動へ進んでいっていることであった。その足下に、園児の蹴ったボールがあったり、園、ボールを蹴ったりと、ボールはなぜ=ボールを持ったよる園りたりて、持ったり=ボールがあったりと、園

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況								事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故状況	ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10632	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	3	6	6	0	0	0	0		4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亀脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4 園内2回/年	2.基準配置		口に玩具を加える子どもには、普段から注意して止めているが、一層気をつけていく。	1.定期的に実施	3回/週	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週		床は硬めではなく怪我をしにくい柔らかい素材のものを使用しているが、今後張替を行う場合も、怪我の防止のために継続してこのタイプのフロアシートを検討する。	1.集団活動中・見守りあり		朝の受入れ時間は登園が重なると、繁忙となる日もあるので、子どもを見守る目が手薄にならないよう努める。また、新たに支援員さんを雇用する。	1.いつもどおりの様子であった	気に入った動物の人形（レゴ）2体で初めは、床に座って遊んでいた。座って動物の人形で遊んでいたが膝立ちとなり玩具を加え動き始めたすぐ滑って転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を気にかけながら（少し成長が幼い為）、登園の受入や登園された園児の荷物把握など用もしていた。転倒した瞬間は一瞬の出来事の為、場面は見れていないが、側にいたのですぐ怪我（口）がないか確認。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	合同保育中なので皆で全体を見ていた。怪我の瞬間は誰も見れていないが、すぐ対象児の怪我を確認しつつ何故転倒したのか皆で状況場面も確認。	歯と歯茎の間から出血していた。歯が折れていないか指で確認、その後も「おやつ」「給食」を食べる様子も含め1日園児を皆で観察していた。	折れている様子はなかった為、お迎え時に保護者に説明（報告）したが、保護者は歯が歪んでるように見えると話され、怪我のあとすぐに保護者に連絡を入れるべきだった。	
10633	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	・腓骨近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	金具にクッションやカバーもあり、安心している部分があった。	園児にトランポリンの真ん中で跳ぶように話をする。※怪我発生直後に禁止し撤去する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施		トランポリンを端の方で跳んでしまい、バランスを崩して膝から着地する。	怪我発生直後にトランポリンの使用を禁止し、●/●に撤去する。	1.集団活動中・見守りあり	トランポリン使用のルール、職員の見守りの仕方	子どもたちに安全な遊び方を伝え、適切に見守る	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発で活動的である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	トランポリンの近くにいたが、他児の見守りもしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員はいなかった。	予期せぬ子どもの動きを予想し見守っていくようにする。	危険な行動や環境には常に意識しして気を付ける。	
10634	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				10	17				1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	・橈骨頸部骨折 ・尺骨LUCL付着部裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	毎日使っている遊具であり、使用については安心している部分があった。	園児たちにゆっくり階段を下りるよう話をする。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施		階段面に砂が少しあった。	遊ぶ前に砂を掃くようにする。	1.集団活動中・見守りあり	階段のある遊具の遊び方、職員の見守りの仕方	子どもたちに安全な遊び方を伝え、適切に見守る	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園庭をよく走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	予期せぬ子どもの動きを予想し見守っていくようにする。	全体を見れるようにし、危険な行動や環境には常に意識しして気を付ける。	
10635	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	72	0	0	11	17	23	21			3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		子どもたちには回ったりするとバランスを崩して転倒した時に骨折してしまうこともあるので気を付けるようにと話をしました。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			子ども自身がくるっとまわって転倒しているので、場所がどこであっても起こりうると考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	担任は同じ部屋にいたが、おやつを食べている子どもの対応していて転倒したところは見ていなかった。	子どもの動きを把握できるよう、クラス全体に目を配り見守れるようおやつの机の配置を見直した。	1.いつもどおりの様子であった	そのような行動をとることがよくある。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べている子どもたちについていて、たまたま転んだ瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋には担任1名のみだった。他クラスの職員は園庭か担当クラスにいた。	見ていなかったことで、子どもが手首を痛がっていることにすぐに気づけず、状況を子どもから聞き取るため、全容の把握や対応が遅れた。	クラス全体を見守れる配置にするとともに、常に全体に目を向けるよう意識する。	
10636	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	3									1	1	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	少人数に分かれての保育を行い落ち着いた環境の下保育を行っていた。子供がより遊びに集中できる環境を工夫する必要があった。	夕方の時間帯は送迎などがあり、子供が落ち着かなくなることが予想される。子供の行動をあらかじめ予想し十分見守ると共に職員間で安全保育のための環境について検討、改善を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室の床面などに異常はなかった。	子供の行動を予測し、椅子や机の向きなどについて改善する。	1.集団活動中・見守りあり	本児が座っていた机、椅子、床面などに異常はなかった。	子供の行動を予測し、十分に見守る。椅子や机の向きなどについて改善する。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は良好であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した子供の近くでお迎えに来た保護者に挨拶をしていた。とっさの子供の行動に反応出来ず転倒を防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の保育室で他児の保育を行っていた。	職員間の連携を深め、安全保育のための環境について検討しながら保育士自身の見守りの範囲を広げていくことが求められる。	職員間の連携を深め、保育士自身の見守りの範囲を広げていくために、職員間で意識の向上を図る。	
10637	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷（下唇・左上前歯）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		職員が一人一人の子どもの動きを把握しておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		十分な広さを確保して活動を行う。	1.集団活動中・見守りあり		動きのある活動を行う際には、部屋の広さに合った子どもの人数にする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ピアノを弾いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応をしていた。		他の職員と声をかけ合い、子どもの動きを把握する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10638	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18									3	3	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基部骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～3	1.基準以上配置	子どもが痛みを訴えていない場合でも、赤みが引かなければ、骨折などを疑い、病院を受診するようにする。怪我の状況がはっきりと分からない場合は、怪我をした所を含め、その後変化がないかしっかり見ておくようにする。	職員共通理解のもと、指の怪我にたいしては、赤みがあるか、痛みを訴えていないか、腫れていないか、確認をして、主任、園長への報告の上、受診をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3～5	1.定期的に実施	毎日		遊具の点検表を基に、毎日行う。	1.集団活動中・見守りあり		場面に応じた人的配置にする。	1.いつもどおりの様子であった	他児とおいかけっこを楽しみ、走り回っている。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と相手の子どもの動きを把握していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児達の動きがしっかり見える位置にそれぞれの職員を配置している。		一度、園児達の動きを静止するなど、勢いでぶつかり合わないように配慮していく。	
10639	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44									3	3	17. 5歳	2.女児	・5段跳び箱	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		跳び箱の注意点等を確認し、園児の手足の力や身体を浮かせる感覚を養うための運動（身体を腕で支えられるように鉄棒や登り棒をしたり、雑巾がけなどの運動）をして段階を踏んで進め、保育教諭が跳び箱の横で補助をしている。	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		跳び箱は点検し正しく積み、着地点にはマットを敷いている。	1.集団活動中・見守りあり		跳び箱の横で保育教諭が補助をし、順番に運動している。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子で、変わった様子はなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱担当の保育教諭が、跳び箱の横で補助をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員が担当者や対象児の様子を近くで見ていた。		対象児の体調や様子も変わったことはなく、いつもどおりに跳び箱をとび、バランスを崩したり飛びきれず引っかかったり、転倒することもなかった。	
10640	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9									1	1	15. 3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上前歯歯茎打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	職員が、足を洗う子どもと入室した子どもを一緒に見ていたので、子ども同士の距離が把握できていなかった。また、職員間で入室の際の援助の仕方や、マニュアルの共通確認をし周知徹底する。	全員の子どもが終わるまで待ち、子どもと職員が一緒に入室し活動をするようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		着替えをするときは机を移動するなど場所を広くする。	2.集団活動中・子ども達のみ	保育士が友達との距離に気付いていれば距離をあけるように言葉をかけることができた。	子どもが入室するときには保育士も一緒に入室し子どもの行動を把握するようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	足を洗う子ども、入室する子どもがいたので両方の子どもを見るために、部屋と外の間の入口の所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保育、シャワーの準備がありその場には他の職員はいなかった	入室する子ども、入室した子ども と別々の活動を見ていたため、子ども同士の距離が把握できていなかった。	別々の活動を一緒に見るのではなく、全員が足洗を終わってから子どもと職員が一緒に入室するようにする。	
10641	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9									2	2	14. 2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前頭部裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		職員会議にて子どもの発達や動きについて共有し、保育士の対応を確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室で走っていた際に転倒し、押し入れの桟で額を打ったため	押し入れの桟にクッションカバーを取り付け、床にはジョイントマットを敷き滑らないように固定した。	3.個人活動中・見守りあり	活動の切り替えが苦手で、嫌がって泣く姿がある。	落ち着いて活動が切り替えられるように、活動の流れや動線、保育士の関わり方などを再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	室内遊び後シャワーへと誘われると、活動が切り替わることを嫌がっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児をシャワーに送りながら、本児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はシャワーに取り掛かっていたため室内にはいなかった。	活動の切り替えの場面で、保育士の目が行き届いていなかった。	職員間で言葉を掛け合い、保育士の立ち位置や子どもの様子についてを確認することを周知した。	
10642	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	18. 6歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		お迎えが来たら、遊ぶのは終了し、待機させておく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		特になし。	1.集団活動中・見守りあり		お迎えが来たら、遊ぶのは終了し、待機させておく。	1.いつもどおりの様子であった	当該児は元より活発な児童で、運動も得意で、いつも雲梯あそびや鉄棒あそびを好んで行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児とは異なる園児に対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日、当該児のクラスのみ外に出ていた為、他の職員は見ていない。		状況により、職員配置を通常より増やす。お迎えが来た園児に対しては、活動を中断し、待機させておく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯		発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事								診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																						死因	負傷状況	受傷部位																												
10643	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12								1	1	17.5歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保護者のお迎えで、日頃よりお迎え後は速やかに降園頂くよう伝えているが、園児を引き渡した後の事故であった。	再度、降園時は遊ばず速やかに帰宅するよう注意喚起する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		特になし。	7.その他		再度、降園時は遊ばず速やかに帰宅するよう注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	事故発生時は、当人ができるようになった技を保護者に見せたかったのか、当園の職員が保護者に引き渡し、挨拶をした後、鉄棒をして事故が起きた。	4.対象児の動きを見ていなかった	上記のとおり、当園の職員が保護者に引き渡し、挨拶をした後の出来事であった為、事故発生時の様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎え時の出来事で、室内にて他の園児を保育していた。		再度、降園時は遊ばず速やかに帰宅するよう注意喚起する。	
10644	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64	0	0	5	19	23	17	0	7	7	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	コロナ禍にあり子供の活動量が減少しているのではないかと思われる。	戸外遊びや園外保育で日ごろから体を動かす遊びを行っていく。また活動的な遊びを行うときは、事前に柔軟性を高めておくよう配慮するとともに、遊んでいる子供の動きに十分注意を払う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	業者による園庭整備も行われており、園庭地面には特に凸凹等、転倒の要因となるものは見つからなかった。	週１回保育所職員が行っている園庭整備を今後も継続して行い、子供が安全に遊べるように十分注意する。	1.集団活動中・見守りあり	地面が乾いていたので、子供が足を滑らせないよう水を撒いてから遊びを始めた。	今後も、滑りにくくするために地面が乾いているときは、よりこまめに水を撒く。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は良好であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団遊びが行われているすぐそばに、子供たちの動きを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れた場所にいたため、事故が起きたときは目を離していた。	職員間の連携を深め、保育士自身の見守りの範囲を広げていくことが求められる。	職員間の連携を深め、保育士自身の見守りの範囲を広げていくために、職員間での声の掛け合いを増やしていく。	
10645	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	0	0	0	0	0	6	2	1	0	18.6歳	1.男児	持病やアレルギー等特になし（当園の入園日は令和●年●月●日ですが、●●●●からの転園です。平成●年●月●日～令和●年●月●日までA園、令和●年●月●日～令和●年●月●日までB園に通園していました。）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	3.未実施	0	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	大型ブロックに乗り、正しい遊び方が出来ていなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ルームで園児の様子を見ながらレポートを書いていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	低年齢児の寝かしつけに入っている職員と施設の掃除をしている職員がいた	遊びの際に危険についての声掛けが出来ていなかった	スタッフは園児が安全に遊べているか、ルールを守って遊んでいるかを見ながら保育にあたる。園児への声掛けを徹底する。	
10646	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6				2	2	2		1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼（右上AB、左上A）・口唇裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	事故発生時の園児は6名で、保育士1名が保育を行っている中、トイレに行きたい園児が出た為、どちらも見守れる場所へ移動はしたが、すぐに止められる状況ではなかった。	安全点検や落ち着いて遊べる環境の工夫。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	打った箇所が、ステージの角であった為、今後も同じような怪我が起きる可能性もあることを想定した対処が必要だと感じた。	打っても出来る限り衝撃が少なくなるよう、ステージの角にクッション材をつけた。	1.集団活動中・見守りあり	空間を区切る等、落ち着いて遊びが楽しめるような環境の工夫が必要だと感じた。	保育を行っていく上で、落ち着いて遊べる環境づくりと遊びの種類、保育室の安全点検。	1.いつもどおりの様子であった	午後からの遊びの時間、3歳児～5歳児、6名と少人数であった。3種類の遊びは用意していたが、怪我の園児を含めた2名は、度々、走って遊ぶ姿が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	怪我をした園児を含めた2名が、よく走る姿が見られた為、度々、声をかける等、個別に関わっていた。又、6名の内、2名が途中でトイレへ行きたいと伝えてきた為、ホールとトイレがある保育室の両方が見れる位置へ移動し見守りを行っていたが、ステージの近くで転倒した際に手を差し伸べることは出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我が起きた際、保育に必要な職員以外の職員は駆けつけ、園児の怪我の対応、保護者や病院連絡等、役割分担をして対応にあたる。	子どもたちが疲れている土曜日の午後の保育の遊びや環境の工夫等を考えていく必要があると感じた。	職員への情報共有を行い、改めて土曜日の午後の保育の遊びや環境、職員の連携について、又、子どもたちが、疲れている状態であることを意識しながら保育を行っていくこと等を話し合う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10647	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26									3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		ガイドライン内「事故防止に向けた環境づり」の取り組み強化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		引き継ぎ細部に渡る部分までの点検強化	1.集団活動中・見守りあり		保育者の見守り強化とマットを敷く	1.いつもどおりの様子であった	ソフトブロックの上に座り遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボール遊びとソフトブロック遊びの見守りや一緒に遊ぶなどの保育を行っていた。事故が起きた瞬間は（ポジショニングも流動的なので）助けられる距離にポジショニングを取っていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ボール遊びとソフトブロック遊びの見守りや一緒に遊ぶなどの保育を行っていた。事故が起きた瞬間は（ポジショニングも流動的なので）助けられる距離にポジショニングを取っていなかった。	子どもたちの年齢発達を理解し、各玩具の遊び方やリスクへの理解を深めておく必要がある。	ポジショニングや発達特性、玩具選定など保育者の研鑽強化。子どもたちへの安全教育強化。	
10648	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	48	2.基準配置		職員会議で事故の内容や再発防止策、今後の対策について、引き続き職員間で共有し話し合っていく。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	階段の段差が低く、自分の体の大きさに合った高さでなかった為、靴裏が上手く地面に着地しづらかったのではないかと考える。	自分の体に合った場所を考えたり知らせたりし、自分たちでも考えて行動できるよう促していく。	1.集団活動中・見守りあり	気温が低くなってきた為、足首や手首、全身などを十分に動かし、体が温まった状態で遊び始めるようにする。	足首や手首、全身などを十分に動かし、体が温まった状態で遊び始めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子で、元気に過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	帽子取り鬼ごっこや固定遊具(コンビネット)で遊んでいる子どもたちの様子を近くで見たり補助をしたりしていた為、本児の至近距離にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の近くに他クラスの子どもがおらず、クラスの子どもを中心に見守りをしていた為、本児の至近距離にはいなかった。	座って落ち着いて遊んでいる様子が見られた為、怪我やトラブルが起こりそうな遊びを中心に保育者が付くような体制になってしまった。	落ち着いて遊んでいる中でも、様子を気に掛けたり他クラスの職員との連携も密に取り、園全体でどのクラスの子どもも見ていけるようにする。	
10649	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									1	1	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	ＢＡＡＢ（上歯）亜脱臼／ ＡＡ（上歯）per	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	園庭が狭く、走るなど動く活動をする際はエリアを分けているが、友達を追いかけて砂場のエリアに行ってしまった	三角コーンとバーを増やし、エリアをしっかり分ける	1.いつもどおりの様子であった	普段から転びやすい。友達を追いかけて走っていってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は別の子どもへの対応をしており、本児が転んだところを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任が一人で見守っていた。補助の職員は別作業をしていた。	泣いている子どもへの対応をしていたため、本児がエリアを越えて友達を追いかけていったことに気が付いていなかった。	トラブル対応等で全体を見ることができない状況の時は、補助職員やフリーの職員に声をかける。	
10650	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	跳び箱を行う前に何回か手のつき方を確認してから行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	跳び箱の安全を点検する。	1.集団活動中・見守りあり		今後、不安になったりフラッシュバックにならないように心のケアを行う。	1.いつもどおりの様子であった	跳び箱に手をつくときに手が開ききっていなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱の横についていたのですぐ近くには保育士がいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任1名がクラス単位で動いていた為、他職員は他クラスを見ていた。		声掛けをより丁寧に行う。	
10651	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	6									2	2	18.6歳	2.女児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右手母指ＭＰ関節靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	跳び箱が跳べるようになり、勢いが速くなり、事故を防ぎきれなかった	跳ぶ前には跳び方を確認し、落ち着いた気持ちで取り組めるように伝えていく	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	跳箱に破損、欠損は見られない	なし	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱を始める前に、準備運動を行い、体を動かせるようにする。	跳び箱の跳び方や手のつき方など、子どもの状況や発達を把握し、取り組み方を職員で共有する	1.いつもどおりの様子であった	意欲的に跳び箱に取り組み、いつものように跳んでいた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱横につき、子どもの体を支える補助をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者が横につき、他の保育士1名は対象児や5歳児の他の子どもたちを見守っていた	跳ぶ前に気持ちを落ち着かせるようにする	跳ぶ前に落ち着いて、取り組めるように声をかける	
10652	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	配置基準は満たしているが、できるだけ複数の保育士で保育していくことも必要であったかもしれない。	子供の発達理解の研修を行う。また、事故の事例から学ぶため、職員間で話し合って確認していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	業者による園庭の土の入れ替えが11月にあり園庭も整備されており、施設面では問題がないように思われる。	園庭の整備 月1回	1.集団活動中・見守りあり	得意な遊びであっても、一人一人の動きに気を配り落ち着いて遊べるような声掛けをしていく必要があった。	寒い時期には室外に出たときは、まずゆっくりと体を動かす遊びから始め、手首足首もほぐせるような遊びを入れながら進めていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	「今日は調子が良いからたくさんとんだ。」という子供の言葉があった	4.対象児の動きを見ていなかった	遊んでいる様子は見ていたが、全体を見ていたので足首をひねった瞬間は見ていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士1名は保育室で5歳児の残り3名の保育をしていた。	継続して楽しんでいる得意な遊びであっても、ケガをするかもしれない注意しながら保育していくことが必要であったかもしれない。	常に落ち着いて遊べような言葉かけをおこなっていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5以上歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10653	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									2	2	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の外傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	全員が順番に並んでシャワーを待っていたため、待つ時間が子どもにとっては長く感じられ、その間に遊び始めてしまった。また、待っている子どもに背を向けて保育士は他児にシャワーをしたり、拭き取りにくい背中を拭く援助をしたりしていたため、遊び始めていたことに気付かず止めることができなかった。	子どもと、シャワーをするときの約束事を確認する。また、子どもに背を向けることがないように、保育士の位置を見直す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	シャワースペースがトイレの奥に設置されているため、排泄をするために他クラスの子どもも入ってくることがある。	シャワーをする子どもをグループに分けて、少人数ずつ入るようにし、子どもの動きが見えるようにする。	7.その他	準備のできた子どもから順番に並び、最終的には一クラス全員が並んで待っていた。	人数を制限することで一人一人の子どもの待つ時間が少なくなるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	全員が順番に並んでシャワーを待っていたため、待つ時間が子どもにとっては長く感じられ、その間に遊び始めてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	待っている子どもに背を向けて保育士は他児にシャワーをしていたため、遊び始めていたことに気付かず止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	拭き取りにくい背中を拭く等、援助をしたりしていたため		子どもに背を向けることがないように、保育士の位置を見直す。	
10654	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39					21	18			3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	サーキット遊びではマットの設置が約束されていたが5歳児は土のうの山で日常的に遊んでいたため敷かなくても大丈夫だと過信があった。	段差があるところで遊ぶ場合は必ずマットを設置することを職員間で確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		20ｃm以上の段差がある場合はマットを設置する	1.集団活動中・見守りあり	サーキット遊びをしている子供から意識が離れた。	子供の動きに合わせて危険を予測し保育士で連携しながら見守る体制を作る。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サーキット遊びを見守りながら他の遊びも見守り行き来していた。本児が何度かバランスを崩す場面があったので気を付けるよう声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団遊びをしていた他の児童についていた。	本児の様子を見て危険を予測しマットを敷くべきであった。	子供の動きに合わせて危険を予測し安全に遊べる環境を整える。	
10655	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	120				44	38	38			10	10	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		楽しそうに遊んでいた遊びの流れのなかでの出来事ではあったが、行き過ぎた様子にすぐ対応できるよう心がける。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	実施頻度 毎日		足元のグリーンマットについては安全で問題はないと考える。子どもの様子に十分気を付け、行き過ぎた様子にはすぐに対応できるよう心がける。	3.個人活動中・見守りあり		遊んでいる様子は、目で追っていた。子どもの育ちを理解し、無理な動きなどがないのかを判断してすぐに対応できるようにしたい。	1.いつもどおりの様子であった	登園時、またその後もいつもと変わることなく過ごしていた。仲の良い友達と二人で遊んでいた時の出来事だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	設定保育が終わり、いつものように3.4.5歳児の混合保育中、二人がテラスに行くのを見かけたので二人のことは気にしていた。遊んでいる様子から変化が見られたため、傍に行き声をかけ、患部を冷やす手当をしたが痛みが治まらないため事務所に報告に来た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離ではないが、その他の職員は二人の遊ぶ様子を把握していた。		他の職員もいつも通りの二人の動きには気づいており、安心はしていたがこのような事故につながることもあるということを肝に銘じて対応していきたい。	
10656	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	16									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～3	1.基準以上配置		日頃から子ども達にも遊ぶ際の注意点を繰り返し伝え、自分達でも安全に遊べるよう意識するような取り組みを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1～2回/日		子ども同士のぶつかり合いだが、今までどおり安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり		つまずきそうな箇所の点検を、行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	他児とおいかけっこを楽しみ、走り回っている。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス園児全員の遊びが見える位置で見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラス、担任一人で園庭あそびを見守る。	走り回っている時は、一度止めるなど、安全面に留意する。	テラスで走って遊ぶ際は、子ども同士の間隔を十分に見守り、危険な場面が見られたら別の遊びに誘導し、危険を回避していくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10657	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	11								11	10	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	約6	1.基準以上配置		・再発防止策の実施スケジュール ①ネット遊具で遊ぶ際のルール＝約束事を作る　8月中旬完了 ②抽出した危険性（リスク）を職員間で共有する　8月末完了	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1		今後も施設・遊具・玩具の安全点検を定期的に行い、事故の軽減に努める	1.集団活動中・見守りあり		ネット遊具で遊ぶ際のリスクについて（・衝突 ・転倒 ・転落 ・挟まる ・その他など）抽出を行う。	1.いつもどおりの様子であった	事故発生直前までにネット遊具で遊んでいる園児同士（特に対象児と隣りて来たA君）の間でケンカや小競り合いなどは見られなかった。 日頃から比較的穏やかな性格である。	4.対象児の動きを見ていなかった	・事故発生直前、2階でお茶を飲む園児がおり、その対応のため職員が目を離していた（ネット遊具に背を向けた状態）時に、対象児の泣き声が聞こえた。 ・対象時の泣き声を聞いて職員が振り返ると、ネット2階部分で対象児が泣きながらも胴を押さえているのを発見。 ・職員が速やかにネット遊具から外に誘導し事情を聞き、他の職員に見守りを頼み職員室へ降りた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、掃除や降園する園児の対応をしていた。	・見守りの職員がネット遊具内の園児から目を離したことが、最大の原因である。 これは単に人員配置の問題以前に、「遊具での見守り＝事故防止に直結」と「他の園児のお茶飲みの対応との優先順位づけ、重要性」の認識が不十分であったことによる。	・遊具内で遊んでいる園児の人数や位置に応じた適切な見守り担当の人数を検討。 ・遊具内で園児が遊んでいる際の死角をなくすために適切な立ち位置を考える。	
10658	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	28								4	4	15.3歳	2.女児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指中節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	午睡中の園児に気を取られており、午睡が終了している園児への配慮ができていなかった。	午睡が終了している園児や、午睡をしていない園児の行動の把握ができるように、職員同士で声掛けしながら、配置を考慮する。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	240	睡眠時に窓に近い所に、ベッドを配置していた。窓が外側から叩かれるとずれやすい状態になっていた。	睡眠時は窓に近い所にベッドを配置しない事。窓に落下防止金具を業者に依頼をし、設置した。	5.睡眠(午睡)中	内窓の落下防止対策を取っていなかったため。	内窓落下防止の金具を設置した。	1.いつもどおりの様子であった	午睡中	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の午睡中の子どもに声を掛けており、窓が落下する瞬間、手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	おやつの準備、寝具の片付けをしていた。	窓の近くにベッドを配置してしまった。	ベッドの配置場所を考慮する。	
10659	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左眼瞼部打撲挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	活動場面が多く、個々の把握ができにくい状況にあった。	全体が把握できるように努める。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	事故が発生しないように、引き続き点検整備に努める。	1.集団活動中・見守りあり	それぞれ好きな遊びをしており、対象児を見ていない場面があった。	全体が把握できるように努める。	1.いつもどおりの様子であった	友達数人と鬼ごっこをして慌てて滑り台を上ろうとしていた。手すりを持っておらず足を滑らせ転倒し、階段で顔面を打撲した。その際、左眼瞼及び眉毛部分を挫創し出血した。	4.対象児の動きを見ていなかった	泣き声で本児の異常に気付く。血を流しながら走ってきたため、怪我の患部を確認し止血する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児にかかわっていた。		遊具付近の見守りが必要であった。	
10660	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	33								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1～2	1.定期的に実施	使用の都度	1.定期的に実施	使用の都度	今回使用していたジョイントマットは厚みがあった（1.5ｃｍ）。床面との段差でつまづく可能性が、厚みが薄いものと比べると高い。	室内で使用しているジョイントマットを厚みの薄いものに変える。	3.個人活動中・見守りあり	食事が終わった子ども、まだ食べている子ども、食事後の片づけをしている子どもなど、様々な状況が重なる落ち着きにくい状況。	食事を食べ終わった後の活動や子ども、保育者の動きを整理し、少しでも落ち着いた状況となるように工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	登園時間が遅く、十分な活動ができていなかったため、体力が余っている様子で絵本コーナーのジョイントマットの上を飛び跳ねたり、隣のスペースのジョイントマットとの間を飛び移ったりしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	主担任は他児のトラブル対応で廊下に出ていた。サブ担任は、支援の必要な子どもの食事の介助をしていた。そのため当該児の傍には保育者がいない状態だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名で保育をしていたため、他の職員はいなかった。	担任が保育室を出る際の連携がうまく取れていなかった。	保育室を出る際には声掛け確認を徹底する。 子どもと話をする際、室外に出るのではなく、室内の様子が見えるところで行う。	
10661	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29								3	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	当日は遊戯室で活動していたが、人数の割には活動のスペースが狭い	グループごとに順番に活動する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	板の間の着地では、危険を伴う	馬跳びおいてもマットを使用する	1.集団活動中・見守りあり	馬跳びのほか、前転コーナー、腹筋・手押し車コーナーに分かれ、3ヶ所で運動を行っていた	運動別コーナーごとに保育教諭を配置するそれが不可能時は、運動別コーナーの数を減らす	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は、良好馬跳びを苦手としていた　跳ぶタイミングがあっていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外部講師は全体指導、２名の保育教諭は、2方向から園児の動きを全体的に観察しており、担当職員は馬跳びコーナーに注意を払っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他のコーナーを見ていた	対象児は馬跳びを苦手としていた	個別指導を行う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10662	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				9	33			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		事故報告、ヒヤリハット報告を即座に行い、保育教諭が危険個所を確実に把握できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		該当遊具を使用する場合は必ず保育教諭の見守りを行う。	3.個人活動中・見守りあり	異年齢同士で遊びに夢中になり、楽しさのあまりテンションが高くなっていた。戸外遊びに出ている子どもの人数は42名で、園庭は広く見渡せる状況であった。	遊びの環境設定について保育者間で確認しあい、落ち着いて遊べる空間づくりを行う必要がある。また、子どもへの安全指導を定期的に行い、遊びが事故に繋がらないように指導する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故の直前、大型遊具でを走って遊んでいる対象児を含むグループに「危ない」という声かけを行ったが、行動を止めるまでには至ってなかった。また、転落の瞬間を見ることはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため、対象児を見ることはできなかった。	危険が予測される遊び方をしており、注意を促していたが、その行動を止めるまでには至っていなかった。また、その場で見守りをしている保育教諭同士で「危ない遊びをしている」という情報共有の声かけができていなかった。	怪我につながる危険な遊び方はその場で行動を止め、子どもたちと共に考える機会を作る。保育者間で、見守り位置の確認をしあい、また、子どもの遊びの様子を共有し、声を掛け合えるようにする。	
10663	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13								0	3	13.1歳	1.男児	織維性骨異形症のため、A病院がかかりつけであり、経過観察中である。骨折はしやすいものの運動制限は特になし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腥腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	・エバーマットからの転倒の際、危険がないよう周囲にマットを敷いていたが、本児にとっては床よりもマットの上での移動は安定しにくかった。	・年齢や発達、使用用途に合わせたマットの使い方を確認し、使用するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	好きな運動遊びを選んで、繰り返し楽しんでいた。鉄棒からエバーマットの方へ移動中に転倒する。	4.対象児の動きを見ていなかった	コーナーごとに職員を配置する。鉄棒についており、主に鉄棒へきた子の対応をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	エバーマットのコーナーに2人の職員がつく。1人はあそびながら全体を見る。1人は、子どもと一緒にエバーマットでの遊びを行いながら危険のないよう見守る。	・本児が線維性骨異形成症であることを把握していたが、運動制限がないという意識でいた為、本児の動きを見てはいたが、運動面においての配慮が欠けていた。	・活動の際には、危険などがないか職員間で声を掛け合ったり、本児の動きに対し連携を取りながら安全に遊べるようにする。 ・年齢や発達、子どもの状態に合わせたマットの使用の仕方や危険性を検討していく。	
10664	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12								1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特記事項無し	引き続き月に1回安全衛生委員会を行い、ヒヤリハットの報告、予防対策検討会を実施。今回の事故に対して全職員に報告を行い、職員間で検証と対策を行って今後の事故防止に努めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	全員で片づけを行っていたが、走る子への迅速な対応ができず事故が起きてしまった。	片付けの際は園児の位置や空間を把握し安全に活動できるようにする。	3.個人活動中・見守りあり	全体を見ていたが走る園児に対し声掛けのみで傍に行き制止させる対応ができていなかった。	保育室内の環境構成を見直し、机等の配置を検討する。また、全体を把握していく中でも危険を感じる場面では声掛けだけではなく、その場所へ行き対応する。また机等の配置が適切であったかなど環境を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	床に座った体勢で遊具の片づけをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児から３mほど離れた場所で見守りを行いながら、走る園児の注意を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人で保育を行っており、片付けの見守りをしていた。走る子が2名ありそちらの注意を行っていた。	特記事項無し	全体を見守りながら一人一人の動きに注意を払い、危険行為と判断した場合、迅速に対応する。	
10665	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13								2	2	15.3歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	プール遊びや水遊び前後の子どもの誘導の仕方や事前準備等について、話し合いを持つ機会が少く、職員の共通理解が足りなかった。	研修・話し合いの機会を持ち、職員間で共通理解し安全保育を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	濡れた芝生を走っており、遊び方についての安全性を深く考える必要があった。	濡れた芝生を走る際は、事前に芝生の状態や地面にへこみ等がないか十分に確認する。	1.集団活動中・見守りあり	水量、水質確認等の準備途中で子どもたちをプールサイドに集合させ、入水までの待ち時間があった。その為、芝生の上で水遊びを行う事になり、子どもたちの気持ち が高揚した状態で走らせてしまった。	プール遊びをする際は事前に準備し、子どもたちを待たせないよう確認してからプールサイドに集まる。また、子どもの気持ちが高揚した状態で走らせる事の危険性や、子どもの動きを予測して保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	保育士や友だちと一緒に芝生の上を走っていた。また、園庭中央部で水を撒く職員に注目しながら走る瞬間もあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員2名。1名は、園庭中央部で水を撒き、1名は対象児から少し離れたところで、一緒に走っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2歳児担当職員2名。園舎側の園庭で、水遊びをしていた。9名の園児とたらいに水を入れペットボトルシャワー等を使い水遊びをしながらクラスの子どもたちを見守っていた。	前方以外に注目して走る瞬間があり、バランスを崩しやすかった。子どもの動きや事故に対する予測が足りなかった。	子どもの遊び方や動きを把握し、事故を予測し未然に防ぐ事が出来るよう、職員で共通理解していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面								環境面				人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																							
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所												年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10666	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	0	7	8	14	13	11	0		13	8	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨鉤状突起骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		園庭での職員の立ち位置や声掛けの再確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		事故発生時は、玩具遊具等は使用していない。	1.集団活動中・見守りあり	なし	園庭使用時は、子ども一人一人に目が行き届くようにする。引き続き、毎日の園庭点検、月1回に芝刈り等、安全な環境作りに努める。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びから部屋に戻ろうとして、テラス方向へ走り始めた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばで一緒に部屋に戻ろうとした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の各々の箇所で他の園児の保育をしていた。	なし	園庭での職員の立ち位置や声掛けの再確認をする。	
10667	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77	6	4	21	21	25				11	10	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上前歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	それぞれの担任が自分のクラスの子どものみを見ていた。	職員配置人数には問題はないが、連携がとれておらず偏った見守りとなった。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	物理的環境に問題はない	1.集団活動中・見守りあり	飛び上がり損ねて鉄棒に口を打ち付ける	個々の特性を把握し、個別に対応し安全に遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で前まわりをしようと飛び上がったが、鉄棒との距離が近すぎたため口を打ち付けてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	雲梯をしていた他児の介助をしており、本児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年齢ごとで遊ぶ範囲を決め、その範囲での自分のクラスの子どもの見守りをしていた。	いつもは上手にしているので危機感はなかった。	他クラスの職員とも連携をとり、自分のクラスだけでなく全体を把握しながら子ども達の安全を見守っていく。	
10668	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右拇指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	レゴブロックを手に持ち机の上の箱に片付けようとしていたことで、足元がよく見えていなかった。本児の不注意によるもの。環境面においては、間隔を開けて机を配置していた為、特に不備は見られなかった。	日頃から周りをよく見て歩くよう知らせる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	・特になし	・特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	活発で部屋の中を小走りする時も見られる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	歩いてブロックを箱の中に返しに行くだけだった為、特に声掛けなどはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時間外保育中のため当番1名のみ	特になし	特になし	
10669	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	牛乳パックの箱を用途とは違う使い方をして遊んだこと。また、保育士が危険を予測できずそのまま遊ばせてしまったこと。	遊びに使わないものは子どもの手の届くところに置かない。危険を予測しながら遊びを見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	・特になし	・特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	たくさん体を動かして遊び、疲れて床に寝転がっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室の遊びのコーナーを回りながら、保育室全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時間外保育中のため当番1名のみ	特になし	特になし	
10670	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2			1				1		1	1	25.学童(認可外)	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	歯の一部が欠損	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施		2.基準配置	鉄棒前に怪我をしないよう声掛けをしていなかった。	怪我が考えられる遊びの前には、危険な場面を想定し注意喚起をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ケガが予測される遊具使用の場合は、遊ぶ前の注意喚起と、下にマットなど落下しても軽減できるよう工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	怪我をした児童は４年生だったが、２歳のお子様とのやりとりに集中し、児童への鉄棒使用時の注意喚起を怠ったことが要因として考えられる。	異年齢のお預かり時はどうしても小さいお子様に意識が集中しがちになるので、鉄棒などの大きな怪我につながる遊具は異年齢保育の時間だけ片づけておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	同年齢の児童（保育者のこども）がたまたま一緒におり、一緒に楽しんでいたため。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で鉄棒で遊んでいる姿は観察していたが、異年齢保育で２歳児とのやりとりに集中し、落下する瞬間はみていなかった。落下した時の状況は、本人と、本人と一緒に遊んでいた児童に確認を取り、照合した。	他職員なし		異年齢保育時に、全員を常に見守れる体制ではないのに大きな怪我につながる遊具を使用していたこと。	全員で楽しめる遊びを提供できるよう準備したり、それぞれ別の遊びをする場合は怪我につながる遊具は控え、全員を見守れる体制をとれるよう心掛ける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事										事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10671	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				10	6	11			3	3	15.3歳	1.男児	本児には突発的な行動が見られ、集団での活動が難しい。他にも配慮が必要な園児が数名いる為、本児を含む数名に加配人員として必ず一人保育士が付いている状況。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		職員全員に周知徹底し、事故防止に努める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		引き続き安全点検を実施	1.集団活動中・見守りあり		突発的な事が起きても冷静に判断し、危険を回避する	1.いつもどおりの様子であった	運動能力は高いので、よく一番上まで登っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一人はケガの処置、一人は園児を集めていた、一人は全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遠くから全体を見守っていた	事故直前のトラブル（噛みつき）により、処置を行う為人員が欠如していた	職員の声掛け連携により、遊具の傍に付けるようにする	
10672	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		・今回の事故について全職員で共有した。発生後の対応等について確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		・今回はハード面が要因ではないが、安全点検の定期的な実施を行うことを確認した。	1.集団活動中・見守りあり	室内を本児が走った	・室内での過ごし方について園児と確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内を走っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走った直後に他児とぶつかり、左足親指を痛がる。担任と看護師で患部を確認し、冷やす。負傷、変容は見られなかった。その後の変容もなく、保護者にも伝え、確認してもらった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内の他児の見守りを行っており、発生に気付かなかった。		・室内での過ごし方について園児と確認する。	
10673	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	109	9	14	14	23	24	25			17	17	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折、脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		今回の事故について全職員で共有した。子どもが上に上がっていなくても、その場を離れている時に上がる可能性があるので、必ず他の職員に声をかけ、代わりの職員がついてから離れるようにすることを確認した。他の遊具についても注意すべき点、気づき等を全職員で出し合い、それを整理しまとめたものを職員間で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具の下に敷いていたマットの上に土が被さっていた。マット自体も古く、硬くなっていた。	マットの上に土が被らないように常に気を付ける。マットが古く硬くなっているので、更新を検討している。	3.個人活動中・見守りあり	太鼓橋の下で本児が遊んでいたため、登らないよう声をかけ、職員がその場を離れた。	職員がいないときには、太鼓橋等には登らないことをこどもと再度確認する。	1.いつもどおりの様子であった	太鼓橋の下にいたが上の方に伝って上がり、両手でつかみぶら下がった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	太鼓橋について見守っていたところ、他児から声がかかった。子どもが太鼓橋の下にいることを確認し、登らず下にいるよう声をかけてから、その場を離れて声がかかった他児のところへ行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ別の遊具で遊ぶ子どもを見守っていたため、太鼓橋の様子に気が付かなかった。	子どもは遊具の上には上がっておらず下方にいたため、他児に呼ばれ行く必要があったので、その場を離れてしまった。	必ず他の職員に声をかけ、代わりの職員がついてから離れるようにする。	
10674	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35				10	25				2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（左足首）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	お遊戯室での室内遊びの危険予測を怠らない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		特になし	ハード面の不備等に係る事故ではない。	1.集団活動中・見守りあり	園児の突発的な行動によるものではあるが、ボールの追いかけ方の指導不足も考えられる。	職員配置は正常で、全体を見ることができていたが、今後は危険予測をより一層心掛け、子どもの急な動きにも対応し声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、意欲的に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体的に指示を行いながら見守っていた。該当児がボールを取りにいき他児とぶつかった様子を目にした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体的に指示を行いながら見守っていた。該当児が足が痛いと泣いたので、マットへ移動して患部を冷やした。	他児とぶつかった拍子に足を捻ったので、ぶつかって泣いていると思い込んでしまった。	室内で活動を行う時には、人数の調整、危険な走り込みなどに十分注意し、危険予測を怠らないようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10675	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49	2	7	5	14	13	8	0		32	25	17.5歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腥骨骨折 左足部捻挫 左足部打撲傷 右肩関節打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	・事故予防マニュアルはないため、今後検討していきたい。	・事故後、園内に設置してある監視カメラで事件検証を行い、事故につながった　内容を話し合い、改善を行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・施設に防寒対策の為、設置したビニールがあり、通りにくい状態だった。	・防寒用のビニール設置場を、通過しやすいように幅を広げた。	1.集団活動中・見守りあり	・移動する際に、同じタイミングで移動させた事で、一度に走ってしまう環境だった。	・集団で一度に移動させず、少人数づつ移動を促すようにする。	1.いつもどおりの様子であった	・TVを見たい衝動から、靴を移動させる時に、急いで走って移動してまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・近くに当番職員と、クラス職員引継ぎ中であり。近くで見守りしており、声かけはしたが、行動の抑制にはつながらなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他の当番職員は、他クラスに入っており、対象児の動きを見れなかった。	・引継ぎ中でもあり、職員数は多い。しかし、移動、引継ぎ中という事もあり、しっかりと子供達を見守れていなかった可能性あり。	・クラス移動に担当職員付き添う事はこれまで通り行う。クラスに子供達を移動させた後、引継ぎを行うようにした。	
10676	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	88	5	11	20	18	15	19			15	14	17.5歳	2.女児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		3.火傷	4.上肢(腕・手・手指)	左腕火傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保育士が他の職員に協力を告げずに現場を離れてしまった。	保育士が子どもの行動を把握し、対応できるように必ず複数２名以上で見る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	救急処置の判断不足で症状を悪化させてしまった。	緊急事態、救急処理対応についての正確な判断認識を改める。	1.集団活動中・見守りあり	温度調節、蛇口の確認、水遊びでの約束ができていなかった。	温度調節点検は低温設定、蛇口の交換等対処し安全策を行う。子どもたちと安全な水遊びでの約束を視覚でも表示し再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	水遊びを楽しんでいるとき	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の職員に呼ばれて、１．２分現場から離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの子どもと近くの場所にいた。	現場での職員配置不足、安全確認不足	必ず職員２名以上で安全面を重視し、現場を離れる際は他の保育士に協力をお願いする。	
10677	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17		10	7				0		6	4	13.1歳	1.男児	一人で歩行できるが不安定さがある。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前頭部切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	４当初で、職員体制も変わり、子どもも保育室が変わったことで、動きを把握することができなかった可能性がある。	子どもが慣れていない状況では、子どもの動線を少なくする(簡単にする）などの保育内容の見直しと保育環境(玩具類）は、使っていない物は片づけるなどの対応をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	床用のマットを敷く場所を考える(歩行が安定しない時期は、少しの段差で怪我につながることを理解し、危険個所のピックアップを行う。	危険個所を記載した園内危険マップを作成し、危険個所の把握を職員全体で認知する。	3.個人活動中・見守りあり	室内活動の時、出していた玩具の片づけがきちんとできていなかった。マットを窓側に敷いていた。	子どもが転んでも頭を打たないことを考えて、敷く場所を決める。子どもの歩行の状態を職員間で把握する。	1.いつもどおりの様子であった	４で担任や担当保育者が変わったこともあり、慣れ親しんだ職員の後を追っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもの姿を捉えてはいたが、他児を見ていたため、離れる事ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭から室内に入った時、子どもへの視線がオムツの濡れている子どもや着替えの必要な子どもなどに行きがちになるので、その時々で担当を決めるなどの対応をする。	新年度初めての土曜日で、子どもの動きや職員間の連携が十分できていないときに園庭活動を入れたので、子ども一人ひとりの動きの把握ができなかった。	子どもの状態や職員間の連携を確認し、状況によって動く者や担任の動きなどについて打ち合わせなどができる時間を作り、職員間の連携を深める。	
10678	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				12	25	16			4	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	夕方の戸外活動時に事故が多発する。定期的に見守り強化の声掛けを行っていたが、事故以前は声掛けをしていなかった。	日々の戸外活動の危険予測を怠らない。気を引き締めるよう声を掛ける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		施設・設備上は問題ないと考えられるが、鉄棒下のマットが弾力性がないものだった。	鉄棒下マットの仕様変更。	1.集団活動中・見守りあり	園児の突発的な行動によるものではあるが、危険な遊び方の指導不足が考えられる。	職員配置は正常で、全体を見まわしていたが、今後は危険予測をより一層心掛け、気づいたらすぐに声掛けを行うよう徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、意欲的に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	落下の瞬間は目撃しているが、助走をつけている段階で気付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りつつ、トラブル回避に努めていた。	年中の年度最終で、鉄棒への意欲が増しており鉄棒での活動が増えていた。助走をつける行動は以前からあったが注意できていなかった。	夕方の戸外活動時の職員配置を通常より多くできないか、考える。不可能な場合は、戸外活動の時間を調整する。危険な遊び方への注意喚起を定期的に行う。	
10679	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2									2	2	16.4歳	2.女児	第2報：骨折は治ったが、爪がはがれた為再度●/●受診。来週も受診するよう医師から言われる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置		今一度、職員間で周知し、危険個所を把握する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		壊れている等はなかったが、重い玩具などは保育士が持って行くよう今一度気を付けていく。	1.集団活動中・見守りあり		全体把握に努め、保育士を一緒に持って行くなど対応を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	1.人でプレイルームまで玩具を運んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎えの子の対応をしていた為玩具を落とした瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた為見ていなかった。		他児の対応をしながらも全体把握ができるようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面							環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		アルの有無	実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10680	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	18									3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第一中足骨骨折 ・右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		保育士が子どもの様子をしっかりと把握するように再度、確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	25		飛び降りたりする高さに注意し着地する場所はマットがずれたりしていないか気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの色々な行動を予測し、子どもの様子に一層の注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りで好きな遊具であそんでいた。この時は５才児の兄のあとをついていっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達の方の様子をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子どもを中心に見ていた。		子どものいろんな行動を予測して保育士が子どもの姿をしっかりと把握しながら運動機能が発達するあそびを多く取り入れるようにする。	
10681	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯根破折・歯の亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置		今後も、園内研修等を聞き、改善点があればその都度マニュアルを見直していくようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		日頃から危険な箇所がないかを点検時以外にも意識をして確認し、危険個所が見つかった場合には、報告・改善するようにしている。	1.集団活動中・見守りあり		生活や遊びのマナーを身につけ、危険な行動をしないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊びを見守っていた。		前を向いて人にぶつからないよう行動する事を伝える。	
10682	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	3	11							3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下腿部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	なし	玩具が床に落ちていた場合は保育士がその都度整理、片付けをする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	毎日	なし	玩具が床に落ちていた場合は保育士がその都度整理、片付けをする	1.集団活動中・見守りあり	なし	安全性の高い玩具を選定する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員３名でお迎え時の保護者対応、園児の保育を実施。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員３名でお迎え時の保護者対応、園児の保育を実施。	なし	合同保育中はできるだけ少人数単位で保育する	
10683	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	特になし	子どもの動きを注意して見ていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	各保育室で適宜行う	特になし	遊具の遊び方を子どもに丁寧に話していく。	3.個人活動中・見守りあり	年長児であり、動きも活発な面があるので走りながらの出来事であった。	危険性を常に感じながら、活動を見守る必要性と危険回避のために園児の動き等、とっさに判断できるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊具に立ち上がる等の動きは普段見せないため、この日は鬼ごっこに夢中になっており、早く鬼から逃げるために活発になっていたと考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭では園児が好きな遊びをしていたため、園庭全体を見渡しながら見守っていた中で起きた。対象児が遊具より転落した際も予想しない動きを見せたため、声かけによる制御ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保育中であった。	滑り台から立ち上がり降りる他児の姿を見たことがあったのかもしれない。	園庭の遊具についての危険な行動、遊具の使用の仕方を園児に話し伝える必要がある。	
10684	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21									1	1	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	保護者に本日の様子を報告している時であり、園児への注意が十分できなかった	より具体性のある研修会を目指して事故の現場での研修会を実施する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊具などの点検が役目すましにならないよう、職員の意識を高めていきたい	7.その他	保護者との話に夢中になり、子どもへの見守りに集中力を欠いた	担任が見守る位置を再検討する	1.いつもどおりの様子であった	特に 変化は見られなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は園児の近くにいたが保護者と会話中だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士は見ていなかった		降園時はほっとして気が緩みがちなので、保護者へお渡しするまで油断しないこと。また、保護者とお話しする際も見守りの位置に気をつけることを共通理解	
10685	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9		2		3	2	2			4	3	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節打撲傷、右手関節打撲傷、右上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	安全マニュアルの整備に努め、職員配置は適正であったと考える。	職員会議などを活用し、情報共有をおこなう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ハード面の不備等に係る事故ではない。	1.集団活動中・見守りあり	少人数ではあったが、目の行き届いていないところがあったのではないかと考える。	保育者同士が連携をとり、子どもたちに目を配るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	リュックをからおうとした時に、腕を捻る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象園児の帰宅の身支度	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	在留園児の対応		本件の様な事故で怪我をすることを子ども達、職員に伝え、事故防止に努める	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10686	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29								2	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指中節骨骨折、左環指打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		職員会議等を活用し、情報の共有及び活動前の準備運動などの徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ハード面の不備等に係る事故ではない。	1.集団活動中・見守りあり		運動活動を行う上で怪我は想定できる事を職員が認知し、準備運動などを行い、事故防止につなげる。	不明	職員退職のため、不明	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員退職のため、不明	不明	職員退職のため、不明		柔軟体操を行ったあとの、怪我や痛みがないか、確認をするべきであった。	
10687	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	30								1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		職員会議等を活用し、情報の共有及び活動前の準備運動などの徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ハード面の不備等に係る事故ではない。	1.集団活動中・見守りあり		運動活動を行う上で怪我は想定できる事を職員が認知し、準備運動などを行い、事故防止につなげる。	不明	職員退職のため、不明	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員退職のため、不明	不明	職員退職のため、不明		・怪我(転倒や捻挫、突き指)など、様々な怪我が生じることを把握し、危険な遊びにならないよう都度声かけていく。 ・今後も中あてドッヂボールを行う際に、様々な怪我をする恐れもあることを子どもたちに伝えつつ、危険のないよう楽しく遊べるよう配慮する。	
10688	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12						0		3	2	15.3歳	2.女児	歩行開始年齢が遅く、歩く・走るなどの運動面が気になっていたが、●初めに運動会を経験したことで友だちと一緒に体を動かすことに関心を持ち一緒にやってみようとする姿が見られていた。健診などでは、身体発達についての特記事項はない。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置	天窓のコシの高さを利用して、4名の女児が手をつないで登ったり飛び降りたりしていた。	高さのある場所を使っての遊び方と子どもの人数、状況による危険意識をもつ。手をつないだ状態で動作を行うことで、起こりうる事故等についての園内研修を行い、危険意識を職員間で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12～48	子どもの遊びに合わせた援助や補助などを行いながら、状況によっては止めるなど必要な対応不足。	遊ぶ場所（屋内・戸外）に応じた援助や補助などの配慮事項をその場の職員と共有する。また、状況によっては職員間で危険に対する声を掛け合い怪我につながる遊び方を把握するとともに意識して見守る。	3.個人活動中・見守りあり	屋上園庭は、雨水などの水はけを確保するため、普段の遊びの中では分からない程度の傾斜がある。その傾斜に身体機能が発達していない状況で対応できなかったことも要因として考えられる。	遊びの状況を把握し、手をかすなどの援助をすると共に、状況によっては止めることも必要。	1.いつもどおりの様子であった	運動遊び等を苦手にしていたが、運動会を経験して体を動かすことを喜ぶようになっていた。友だちと一緒に同じ遊びを強雨有することで満足感を味わえるようになていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの遊びを近くで見守りながら一緒に遊んでいた、コシの部分から飛び降りることで起こりうる事故に対する予測ができていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	12名の園児が屋上で遊んでおり、子どもの遊びをそれぞれの場所で見守っていた。他の保育者2名も対象児の遊びの様子に気ついていたが、近くの保育者の見守りに任せていた。	屋上園庭での遊びについて、配慮事項等を職員間で共有できていなかった。運動会を経験した子どもたちが、体を動かすことに興味や関心を持ち進んで挑戦してみようとする意識が高まっていることを意識した上での危険認知度が低かった。	園内の子どもの遊びを想定した保育者の配慮事項や援助、支援を見直し、計画などに記載し、職員間で共有する。 園内環境を見直し、職員間でどのような危険が潜んでいるのかを具体的に洗い出す。	
10689	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43	8	11	12	3	7	2	0	0	2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	子どもたちのそれぞれの活動、動きを把握する必要があった	職員会議の議題で取り上げヒヤリハットを活用しながら危険個所の情報共有を行う(滑りやすい箇所等)	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	滑りやすい床に加え新しい玩具だった	玩具の状態や滑りやすい床材ということを踏まえ、遊ぶ範囲を狭めたり滑り止めにマットを用いることとする	1.集団活動中・見守りあり	数名の子どもが部屋を走り回っていた。床にブロックが広範囲に広がっていた	走らないことを口頭で伝えると共に、突発的な動きがあることも予測し、全体に目を向けるべきであった	1.いつもどおりの様子であった	対象児は座って遊んでいたが、他児が走り出したことにつられて急に走り出す	2.対象児の至近で対象児を見ていた	部屋では走らない、ブロックの時は座って遊ぶということを常に声掛けしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の様子の確認、走る子たちの対処が不十分だった	園児が急に走り出すことも考えられたが、玩具が広範囲に広がったままでブロックを踏んで転倒してしまった	園児のどのような行動が怪我に繋がるか遊び方について情報を共有する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項			施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10690	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		午後の自由遊びで、多少の疲労感や気の緩みがあると予想されるので、怪我がないよう声掛けを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		転倒した際に右足首を打った家形の固定遊具は、破損や突起等も無く、危険性は低いと思われるものの、今回怪我が起きているので、更なる安全性の向上を図る。	安全性の向上を図る為、接触した遊具にクッション材等の取り付けを検討する。	1.集団活動中・見守りあり		転びにくいように園庭をならす。大きな遊具の周りでは走らないように声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で外遊びを行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	年長児計２１名で外遊びをしていた為、全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長児以外は、午睡中である為、他の職員は、午睡のチェックや他の業務、職員の休憩にそれぞれがあたっていた為、１人で保育をしていた。定数上も問題はない。		遊ぶ前に、園児へ人や物にぶつからないように気を付けて遊ぶようにと声掛け等の注意喚起を行う。	
10691	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特に問題はない。	ケガした際の状況によって、看護師の意見を訊くことを	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に問題はない。	点検は万全だったので問題はない。	1.集団活動中・見守りあり	雨上がりで園庭が平らではなかった	転びにくいように園庭をならす靴のサイズが合っているか確認をする	1.いつもどおりの様子であった	特に問題はない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	リレーをしていたので、外周のところから応援したり、ルールを守るよう声掛けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任しているクラスの園児の保育をしていた。	バトン替わりのスコップの材質が堅いので、骨折につながった。	転倒することも考えて、材質の柔らかいものにする。	
10692	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14								1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置		事故防止マニュアルを職員一人一人が徹底周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		当時の園庭の状況としては、凹凸もなく問題はなかった。引き続き、安全点検を実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	内野の人数が一気に増え、コート内が少し密集していた。事故発生時のコートの広さ：縦９ｍ、横５ｍ１０㎝（これで敵と味方の２面分）	ドッヂボールを実施るる際は、対象年齢に応じてコートの広さを十分にとり、園児ぶつかりにくく、園児が密集しにくい環境をつくるようにしていきたい。なお、広さについては、年齢等に応じて、検証していく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	本児は、体調も良くドッヂボールに参加。内野にいた本児やその他の園児（内野人数6人）全員がボールをよけるため、後ろ向きに下がりながら、行動した。その際に本児の後方にいた園児が倒れ、その園児につまづき、本児も勢いよく倒れ、さらに本児の前方にいた園児も本児に倒れこんだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は同じチームの外野におり、少し距離があった。事故の瞬間も見てはいたが、一瞬の出来事で助けに行く時間はなかった。倒れてすぐに駆け付け応急処置をするため、本児を職員室に連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		次の活動の準備のため、室内にいた。		ドッヂボールの内野は、後ろ向きに下がりながら逃げる傾向にあるため、職員は、外から園児に対して声かけをするなどの対応をしていきながら、事故を予防していきたい。	
10693	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31			9	#	#			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外側靭帯断裂 裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		ヒヤリハット報告の他、事故・傷病等の様々なケースがあることを学ぶ機会を設ける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊びの中で子どもが掘ってできた小さな穴であったが、ケガや事故につながる可能性があることを予見すべきであった。	穴や石など園庭で考えられる危険や要因を認識し、全職員で共有する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭における危機管理を徹底し、保育者のチェック体制を強化する。	園庭に出る際に危険個所がないかチェックする。片付けの際にも点検する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友だち数名と鬼ごっこをして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこをしているのは把握していたが、継続して対象児を見守ることはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守っているが転んだ瞬間は誰も見ていなかった。		子どもを見守る時には、様々なことを想定をして危険がないか見極める必要がある。今回の件について他の職員とも周知徹底を行い、同じことを繰り返すことのないようにする。	
10694	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	38								2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右母趾打撲、右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	1.基準以上配置	職員はいつものようにきちんとかけっこの見守りをしていた。	職員の配置・対応等、問題はなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	3～4	床にはジョイントマットを敷いていた。	毎の点検に加え、使用時には職員が危険なところがないか確認をしているが、再度ジョイントマットが外れかけたりしていないか確認してから、活動する。	1.集団活動中・見守りあり	いつもと同じようにかけっこをしていた。	環境面での問題点はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	体育館内で全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	体育館内で全体を見守っていた。	いつもやっていることでも、慣れや油断が怪我につながることがある。	ふざけたり、気が緩んで怪我につながりそうな子には、声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10695	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	1									1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	当該事故に関する要因との関連性がないと思われる	改善点は別の項目にあるため	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	当該事故に関する要因との関連性がないと思われる	改善点は別の項目にあるため	1.集団活動中・見守りあり	当該事故に関する要因との関連性がないと思われる	改善点は別の項目にあるため	1.いつもどおりの様子であった	3・4人のグループで、倒立歩行の練習中。試技が終わり自分のグループの列に戻る際、つまずいて足首をひねった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転んだ瞬間は見ていなかった。過去にも痛めたことがある箇所で、痛みを訴える程ではなかったせいか、気づいてあげられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった	当該事故に関する要因との関連性がないと思われる	改善点は別の項目にあるため	
10696	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14									2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	子供達もメリハリがなく、ざわざわした状態のままホールを走ってしまっていた。	走る前にメリハリが持てるような声掛けを行ったり、体操前に朝の会などを入れ子供達が落ち着いて次の活動に迎えるようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ホールという広い環境の中だったが、新学期始まったばかりなので、人数を分けて走るなどの工夫をしていなかった。	走る人数を半分に分けるなどし、さらに目が行き届くようにする。	1.集団活動中・見守りあり	カラーコーンを2つしか設置しておらず、方向転換をする際に子供同士がぶつかりやすくなっていた。	コーンを配置する数や場所を増やし、怪我を未然に防ぐ環境を作る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに元気に登園し体操を楽しんでいたが、わざと転ぶことを楽しむ事もあった子で、当日もそういう様子が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体に対しての声掛けをしててたため、本児が転んだ際に手が届く場所ではなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	死角を作らないよう全体が見渡せる場所にいたが、他の園児に対しての声掛けを行っていた。	わざと転ぶことを楽しむ子もおり、それを把握していたのならば、それが怪我につながるということを事前に子供達に話し、意識づけしておくべきだった。	どのような走り方で走るのか毎日の体操の始まりに伝えることで意識づけしていく。	
10697	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32				14	9	9			3	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	真皮に達する顔面挫創・術後感染症・術後創傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	特にさわいでるわけでもなく、それぞれに遊んでいた。本児がピアノと壁の隅の方に行き、前をよく見ず額をぶつける	改めて、子どもの動きを先読みし、予測して行動するよう職員に再度周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		壊れている等の要因がなかったので、改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり		土曜日のクラスを合同しての保育であり、食事が終わった子どもから自由遊びをさせていた。改善点は、本を読むなど座って他の子が食べ終わるまで待たせるように工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	自由遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見守りながら対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見守りながら対象児を見ていた		子どもの行動を予測して保育士が子どもの姿をしっかりと把握する。	
10698	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折、左手指挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	自身の転倒による怪我につき、事故要因はないと考えます。	日頃よりケガについての話を子どもたちと話し合っていたが、再度話をして気を付けるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		壊れている要因はないため、改善策は特にありません。	1.集団活動中・見守りあり		日頃よりケガについての話を子どもたちと話し合っていたが、再度話をして気を付けるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活発で活動的であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見守りながら対象児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見守りながら対象児を見ていた		いつもより興奮している、様子が違う子などいた場合は声をかける ・周りの職員と共有するなどして注意して見守るようにする。	
10699	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内受傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置	子どもによる雑巾の絞りがゆるく、床が濡れてしまった。	職員にて、こどもが絞った後の雑巾の状態を確認を行い、雑巾がけを行い、活動前に必ず職員が床の状態を確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり		全体の子どもの様子を常に把握しておくこと	1.いつもどおりの様子であった	登園し、自分の持ち物の整理をして、マッサージ、雑巾がけを済ませ、縄跳びを始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児を見守ったり、雑巾がけを一緒にしたりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ロールマットで他のこどもの体をほぐしていた。		全体の子どもの様子を見て、危ないと感じた時は声をかける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10700	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	2	2	3	2	2	5	4		5	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置		マニュアルはあるものの、研修においては不定期実施のため、定着に至っていない面があるので、定期的実施を心がけていく必要がある。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52		ブランコ周辺に囲い（移動式）を設け、出入口を明確にするとともに、ブランコを使用する際のルールを再度見直し、園児に定着するよう伝えていくこととした。	1.集団活動中・見守りあり		保育士が確実に見守り、安全な場が提供できるように、ブランコ使用の開閉表示を作り、園児にもわかりやすいように提示することとした。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	戸外へ移動中のため、室内に残っている園児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外へ移動中のため、戸外にいる園児を見守っていた。	室内から戸外への移動中に起こった事案であるため、動きの速い子、遅い子に差が生じてしまう。今一度、どのような管理体制をとるか職員間で話し合うことが必要である。	保育士の配置位置を工夫し、職員間で声掛けをしながら連携を取っていく。	
10701	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘軟骨部分の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		鉄棒にぶら下がる時は園児のそばで見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		「鉄棒にぶら下がる時は園児のそばで見守る、そばを離れない」事を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	他の子どもへの声掛けのため担任がその場を離れた	高い所にぶら下がってあそんでいる時は、離れない	1.いつもどおりの様子であった	活発に動き回って遊ぶ	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場にいて他児の片付けを手伝ったり、声掛けをしながら見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場にいて他児と遊んでいた	他児への声掛けのため、その場を離れた	高い所にぶら下がってあそんでいる時は、離れない	
10702	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	18									2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員を配置していたにもかかわらず、事故現場には保育教諭が1名しかいなかった	保育教諭が部屋全体を見渡すことができない場所へ離れ、死角ができるときは、必ず声を掛け合い、手が必要なときは他の職員にお願いをする	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	毎日	環境面では毎週確認をしているが子どもが走るようなスペースがあった室内遊具の下のマットでよく躓いていたのに、職員がいなかった。	子どもに室内では走らないと声をかけていたが、何度も声をかけるべきだった走りこまない環境にすべきだった。保育教諭は子どもから目を離してはいけない。	7.その他	全体を見渡せる位置に職員を配置していたが、他園児に注意をするために全体が見渡すことができない位置に移動をした	遊戯室は保育室と違い椅子に座ってするあそびだけではないため、職員が１名で子どもを見るのではなく、２名以上で見るべきであった	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児に呼ばれ、走って遊具に向かい、そのままの勢いで階段を登ろうとして怪我をした 事故当時、遊戯室内は走る空間があったため、子どもが走りたくなるような環境であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児に玩具の使い方で注意を行っており、対象児が見えない位置にいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担任は保育室にてパソコン業務を行っていた	危険箇所である大型遊具に職員がついていなかった	大型遊具の登り口には必ず職員を配置する	
10703	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	14									2	2	15.3歳	1.男児	転びやすい	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	いつもとは違う職員配置での保育だった。	日頃と違う職員配置になる時は、いつも以上に配慮をしていくようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	使用時	使用している人工芝は上靴を履いている子どもにとっては、つまづきやすいことも考えられる。	子ども達の行動を想定しながら安全点検を心がける。	1.集団活動中・見守りあり	室内での主活動後、少しでも外の空気をとの思いで時間を設けた。	時間に余裕を持っての活動を心がける。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好。走る様子も普段との変化は感じられなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	該当園児の近くを一緒に走りながら、全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒に走りながら、子ども達が楽しく走る様子全体を見守っていた。	子どもたちがより楽しめるよう、職員も一緒になって楽しんでいた。	楽しさの中にも、落ち着いた活動ができるよう心掛けていく。	
10704	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	11									5	5	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指甲骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	本児の体重への配慮不足	本児の体重も起因しての今回の事故で、ありそばに保育士がついていたものの防げていない。改善策としてマットをより衝撃が吸収できるものにする他、月齢に対して体重が重めの子については、より保育士が介助してサークル活動を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	敷設マットの厚さ	マットをより厚くクッション性のあるものに変える（但し効果のほどは小さいと結論できる）	1.集団活動中・見守りあり	本児の体重への配慮不足	サーキット遊びの際、月齢（ほふくする、歩く等成長段階の意味を含む）だけでなく、活動する乳幼児の体重にも配慮し、重い子の場合にはより保育士が近くにつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、サーキット遊びの一環として低段平均台歩き遊びを含めて、サーキット活動を楽しんでいた。これまでも尻もちや前倒れの転倒はあったがマットで十分対応できる状況であり、怪我につながる転倒は無かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	各サーキットに１人と伺敏職員1名を配置しており、当該転倒の際もサーキット対応職員は転倒にすぐ気が付いており、不適切であったは言えない。普段の転倒を全て事前に止める事は、この月齢の子の成長において適切な対応と言えるかは検討の余地があり、少なくとも普通に転倒しても怪我をせず安全に遊べる環境に配慮してある状況で、保育士が手を先に出す行為は難しいと言える。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれがそれぞれの持ち場のサーキット活動の園児を注視していたため。	本児の体重への配慮不足	サーキット遊びの際、月齢（ほふくする、歩く等成長段階の意味を含む）だけでなく、活動する乳幼児の体重にも配慮し、重い子の場合にはより保育士が近くにつくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10705	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								1	1	17.5歳	1.男児	負傷した日に手術を行う（ボルト挿入）	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		年長児（２０名）クラスに対する人員配置は規定通り	2.不定期に実施		1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			今回使用のブランコについての不具合なし	3.個人活動中・見守りあり	ブランコの座る部分を飛び越えることは危険であることを認識することが難しかった	遊具の使用について再度指導する	1.いつもどおりの様子であった	ブランコ遊びを終え、他の遊びに移ろうとしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	年長児クラスの子供達にケガやトラブルがないよう園庭全体を見渡せる位置での見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りをしていた担当職員以外の職員は、他の持ち場を担当して保育をしていたため、その場にいなかった。		年長児（２０名）クラスに対する人員配置は規定通り	
10706	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18				4	14			1	1	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	園庭遊びに対しての細かいマニュアルが不足していたと思う。	このような時こそ職員２名を配置しなければならない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	36	2.不定期に実施		雲梯の高さが高すぎた１９３㎝と雲梯遊びを一方通行にするべきだった。ゴムマットは敷いていた	雲梯の高さ１９３㎝を撤去し、１５０㎝の低い雲梯に設置しなおした	1.集団活動中・見守りあり		広い園庭なので、遊ぶ場所を限定したり、保育室での活動に変更する	1.いつもどおりの様子であった	校区外の５歳児６名が残り、いつもの通りではないうれしい気持ちが、思い切った雲梯遊びになったかもしれません。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児に気を取られていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３時のおやつを準備をするために、保育室にあがったばかりであった。	担任ではない保育士が見守っていた。当日は園の所在する校区内の小学校で体験入学があってあり、担任、主任が引き中で不在であった。園には４構児１１名と他校区の年長児６名が残り、１４時１０分から園庭遊び有保育士２名で見守っていた。１４時３５分保育士１名が保育室に戻った直後、事故発生。年長組２名が両方向から雲梯遊び有けい。当該園児がバランスを崩し手を放し左側に、最地時に遊具の鉄骨部分（ゴムマットを敷いていた）に頭をつき転倒。	保育士の配置は基準通りではあったが、担任以外の見守りは、プラス１名の配置にする。	
10707	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17								1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首周辺２ヶ所の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		必要職員数より多く配置していても事故が起こってしまった。サポートに出ることのできる他のクラスの先生にも声掛けしてサポートに出てもらうようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12		園庭も広いが届く範囲、少人数でスタート等、職員や指導者がしっかりサポートできる範囲で教えて頂くようにする	1.集団活動中・見守りあり		皆が同じ内容では無理をする子供がいるかもしれないので個々の能力や性格に応じた関わり、取り組みをそれぞれのﾍﾟｰｽで進める様にしていく	1.いつもどおりの様子であった	運動が好きなおこさんで、個人でサッカーや体操教室を習っていることもありこの体操教室は楽しみにして参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	体操教室の外部講師が活動内容を見ていたが転倒時に手を出す等は間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同時期に他の子供が泣いていたのでそちらに気をとられていた		配置できる職員を増やしたいが、現状どうにもできない部分もある。決して子供だけにはならないようには努めてきているが事故は起こってしまった	
10708	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手第4指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特記する事項なし	引き続きマニュアル等に基づき配慮していく	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	1	ボールが接触しての事故なので、今回はハード面に原因はなかったのではないかと考える。	引き続き、安全点検を定期的に行い、活動中も危険な場所が無いか、安全に活動できているかを見守る。	1.集団活動中・見守りあり	年長児クラスでの活動中。年長児になるとボールを投げるスピードも早くなっているため、受け止める際の衝撃も大きかったと考える。	子どもの動きに気を付け、ケガの無いように声掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	同じクラスの友だちとドッチボールを楽しんでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象園児と一緒にドッチボールに参加、審判をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で、他の遊びをしていた園児を見ていた	配置基準は満たしており、通常の活動中として環境面において問題があったとは考えにくい。	なし	
10709	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78	4	14	13	15	17	15		14	11	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘内骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置		うんていでの遊び方について、職員で再度周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日		園庭開放時に遊具の点検をし、危険箇所の早期発見に努める。	1.集団活動中・見守りあり		園庭で遊ぶ子が多い時は、違う遊びに誘う遊び方を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	危険な遊びはしていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	うんていが死角になるところで、見守りをしていた。		他の職員が子どもの対応をしている時は、見守る場所を移動する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10710	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	21								4	4	15.3歳	1.男児	持病・アレルギー無し 発育発達状況良好	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	脳震とう	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	マニュアル再確認・職員配置	マニュアルを保育室の戸棚、事務所靴箱上のファイルたてに設置していることを再度職員と確認し、いつでもチェックできるようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	園内研修やランチミーティングで日頃の保育の中で起きたヒヤリハットを全職員で共有し、常日頃から安全、危機管理についての意識づけをしていく。	事故が起きる前、起きた後の適切な対応を職員で共通理解していく。	1.集団活動中・見守りあり	本児お気に入りのブランケットは滑りやすく、大きさが大きかった。	午睡時のみ持ち出しを許可し、危険はないか見守りながら使用する。	1.いつもどおりの様子であった	お気に入りのブランケットをマントのようにして歩き回っていた。普段から好んでブランケットを持つことが多く、ブランケットを持つことで本児の気持ちが落ち着くことから持たせていたが事故に繋がってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	コーナーで遊ぶ子を見守りながら交代ずつで食事をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	食事を見守る職員。着替えを見守る職員がいた。自身の食事を行う職員がいた。	本児お気に入りのブランケットは滑りやすく、大きさが大きかったので自由に出し入れするのではなく、午睡の時間のみ出す様、職員同士でも決まり事を決めるべきであった。	午睡時のみブランケットの持ち出しを許可し、安全に気を付け見守っている。	
10711	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14								2	2	16.4歳	1.男児	37.5度ある場合には保護者連絡。	2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明		熱性けいれん、ＲＳウイルス（+）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1回/日・月	1.定期的に実施	1回/日・1回/月（業者）	1.定期的に実施	1回/日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	熱性けいれん	保育士の近くで着替え、食事、午睡等を行う。外遊び時間の調整等、健康観察を細目に行う。	1.いつもどおりの様子であった	保育活動中はいつもどおりの様子だった。その後、着替えの最中に座った状態でおもらしをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員が声を掛けるが、保育士と目線が合わず、反応がなかった。その後看護師、看護師主任呼び出し、体調・状況確認。救急搬送となる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児への着替え介助を行う。その後、他児を別室へ移動させる。	既往歴：熱性けいれん	日々の健康観察をしっかり行う。体温37.5度あり、元気がなければお迎え要請。元気があれば30分程様子を見て再度検温。37.5度から下がらない場合は保護者へ連絡。保護者からは今後の活動制限は無し。	
10712	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26			17					4	4	17.5歳	1.男児	令和●年●月●日、園保育室にて、けいれん発作を起こす。A病院に救急搬送後のことについて、母親より以下の通り報告がある。けいれん発作の頻度が高いので、●日に脳波検査を行う。●日検査結果報告のため同病院を受診。てんかん疑いと診断された。成長したら7割は、おさまる可能性があるが、3年間与薬を続け、様子を見て量の調整、変更等検討する。朝、夕服用のため園での与薬はない。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		1.意識不明		てんかん疑いと診断	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	本児通院及び与薬が決まった。保護者と連絡を密にとり、発作の予兆等の情報を共有し、発作に伴うケガ等を予防する。	保護者と連絡を密にする。職員全員で本児の情報及び対応策を共有し、発作に伴うケガの防止に努める。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	転落防止対策がとられた椅子の使用を検討。	転落防止対策がとられた椅子に変更。	7.その他	活動内容によっては、一対一の対応を取る。	発作の状態が安定するまでの間は、水遊び、食事中、睡眠中、園外活動等で重大事故が起きやすと推測されるときは、さらに保育者を配置し見守る。	1.いつもどおりの様子であった	午睡前までいつもと変わりなく過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	おやつ配膳後、本児から離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	コロナの影響で2歳児クラスと合同保育を行っており、5歳児クラス担当保育士（支援児加配保育士）以外の2歳児クラス担当保育士3名は、2歳児のテーブル近くにいたため本児の様子を見ていなかった。	コロナの影響で職員がいつもより少なかった。	保育者全員で本児の情報を共有し、見守りを強化する。救急要請児の手順や本児の情報は、緊急連絡簿につづり、誰でも対応ができるようにする。	
10713	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	8	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	8	1	2	5					2	2	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	経過観察月に１度の通院検査	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		交通関係に関する事故予防研修を行う	2.不定期に実施	1～4	2.不定期に実施	1～4	2.不定期に実施	1～4		職員の視界確保の為にも散歩カートに付けられているパラソルを閉じておく	1.集団活動中・見守りあり		子どもが少人数であっても職員の人数を増やす	1.いつもどおりの様子であった	園児は散歩カートに立った状態で乗り移動する	2.対象児の至近で対象児を見ていた	信号を確認、止まっている車を確認して散歩カートを押しながら、横断歩道を渡る	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ベビーカーを押しながら散歩カートの左斜め後ろを歩く		職員人数を増やし横断するときには、必ず職員が先に横断歩道に出て、散歩カートを誘導する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10714	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	8	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設数地外(園外・公園等)	7.異年齢構成	8	1	2	5						2	2	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	経過観察（骨折）月に１度の通院検査	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		交通関係に関する事故予防研修を行う	2.不定期に実施	1～4	2.不定期に実施	1～4	2.不定期に実施	1～4		職員の視界確保の為にも敷歩カートに付けられているパラソルを閉じておく	1.集団活動中・見守りあり		子どもが少人数であっても職員の人数を増やす	1.いつもどおりの様子であった	園児は敷歩カートに立った状態で乗り移動する	2.対象児の至近で対象児を見ていた	信号を確認、止まっている車を確認して敷歩カートを押しながら、横断歩道を渡る	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ベビーカーを押しながら敷歩カートの左斜め後ろを歩く		職員人数を増やし横断するときには、必ず職員が先に横断歩道に出て、敷歩カートを誘導する	
10715	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	8	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設数地外(園外・公園等)	7.異年齢構成	8	1	2	5						2	2	14.2歳	1.男児	アレルギー・・・卵、小麦粉 喘息あり	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	経過観察(肝損傷)月に１度の通院検査	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		交通関係に関する事故予防研修を行う	2.不定期に実施	1～4	2.不定期に実施	1～4	2.不定期に実施	1～4		職員の視界確保の為にも敷歩カートに付けられているパラソルを閉じておく	1.集団活動中・見守りあり		子どもが少人数であっても職員の人数を増やす	1.いつもどおりの様子であった	園児は敷歩カートに立った状態で乗り移動する	2.対象児の至近で対象児を見ていた	信号を確認、止まっている車を確認して敷歩カートを押しながら、横断歩道を渡る	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ベビーカーを押しながら敷歩カートの左斜め後ろを歩く		職員人数を増やし横断するときには、必ず職員が先に横断歩道に出て、敷歩カートを誘導する	
10716	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設数地内(室内)	1.0歳児クラス	3									3	3	13.1歳	2.女児	持病・アレルギー 無し 発育・発達状況 良好	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右小指指尖部損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	マニュアル再確認・職員配置	マニュアルを保育室の戸棚、事務所靴箱上のファイルたてに設置していることを再度職員と確認し、いつでもチェックできるようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	園内研修やランチミーティングで日頃の保育の中で起きたヒヤリハットを全職員で共有し、常日頃から安全、危機管理についての意識づけをしていく。	事故が起きる前、起きた後の適切な対応を職員で共通理解していく。	1.集団活動中・見守りあり	テーブルと椅子を固定しているベルトの緩み。	テーブチェアを使用する際はベルトに緩みがないか必ず確認する。	1.いつもどおりの様子であった	起床後だったため少しボーっとしている様子、体制を変えたことで足でテーブルが浮き、ベルトの緩みやテーブル調整することに気を取られ本児の指の位置把握まで至らなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	起床後で少しウトウトしている本児の体勢を戻したところ、テーブル付きチェアのテーブルが少し浮いており、本児の指が入っている事に気づかずテーブルを戻してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１人は本児を含めた園児のそばにつき１人は調乳室でおやつの準備、１人は畳間で玩具の片付けをしていた。	折りたためるチェアだったので収納の際、折りたたむことでベルトがゆるくなってしまいテーブルが浮いてしまっていたこと。子どもの行動を予測し安全の確認、他の職員との声かけ不足で事故が起こってしまった。	椅子を畳んで収納棚に置いていたが、改善として椅子を畳まず、組み立てベルトをしっかり締めてテーブルと椅子に隙間ができないようにに配置し、手足などがはさまっていないかしっかり確認する。子ども一人一人のペースに合わせたおやつ時間を過ごせるよう再確認する。	
10717	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設数地内(室外・園庭・校庭等)	1.0歳児クラス	14									6	5	12.11か月	1.男児	ずり這い、四つ這いは日頃からせず、お尻歩きをして移動する。座った体制から前に倒れる時、先に手を出すことができない。	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘内障	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	乳児保育の事故例や過去に法人で起きた事例を参考に定期的にマニュアル化・研修を行わなければならない。	マニュアルや研修で乳児保育について定期的に研修を行う。	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	1.定期的に実施	292	発達を促すため、障害物を設置し、乳児に必要な運動ができる環境を日頃から取り入れている。	月齢や成長に応じて、保育環境を設置する。部屋を分けて月齢を合わせた環境づくりや援助を行う。	1.集団活動中・見守りあり	合同保育時は転倒、怪我などに繋がるものは可能な限り避け、安全に過ごせる環境を提供する。	日頃から整理整頓・環境を整え、少しでもケガしにくい環境構成が必要となる。	1.いつもどおりの様子であった	抱っこする際に保育者がしっかり脇に手を入れて抱っこする。子ども同士の玩具の奪い合いは保育者が仲立ちする。	4.対象児の動きを見ていなかった	17時からお迎えの17時40分まで、他児とのトラブル、転倒などのケガに繋がる場面を担当保育士が目視してなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	17時からお迎えの17時40分まで、他児とのトラブル、転倒などのケガに繋がる場面を担当保育士・他の職員も目視してなかった。	保育者や他児が腕を引っ張った当時は痛がってなくてものちに腕が外れたり、痛みを伴うことがある。	丁寧な保育、予測する保育を行わなければならない。	
10718	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設数地内(室内)	5.4歳児クラス	13									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	全体を一人で見守る中、危険な時には、側に行き声かけし知らせているが、危険予測をもっとする必要があった。	危険な行動があった時の状況を他職員とも共有し危険予測意識をより高めていけるようにしていく。	1.定期的に実施	270	1.定期的に実施	270	1.定期的に実施	270	休み明けという事もあり、気持ちが高まっていた。あそびに慣れすぎて、ふざけがすぎた。	自分で気をつけてあそぶことができるように、日頃から声かけしながら見守っているが、再度、安全にあそぶ為にどうしたら良いか話をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	コロナ禍の中、経験不足で子どもたちにあっていない環境であった。	子どもたちの姿をみて、今の子どもたち今の遊具があっているか見極めながら、その子どもたちにあった環境、遊具にしていく。	1.いつもどおりの様子であった	高さ90㎝の所で、友だちとジャンプをしてあそんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一度そばにいき、高さがある所でジャンプすると危険な事を知らせ、全体が見える位置に戻った。引き続き本児の姿を見守っていたが、落下してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	現場には、他職員はいなかった。	一人で全体をみていく中、危険な事をしている時には、そばに行き安全にあそぶように約束事を確認し、それでも姿が変わらない際は、あそぶ範囲を制限するか、子どもが聞く耳を持たず危険な行動が続く場合は、あそばせずそばでみててもらったりと対応していく。	子どもたち同士でも危険な行動が見られた際は、声かけ合える環境をつくっていく。また、子どもの危機管理状況を把握し、それに応じた職員の声かけや、関わりをしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故状況	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			マニュアルの有無	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10719	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	7	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	4	3	0	7	1	0	0		2	1	4.3か月	1.男児		3.睡眠中(うつぶせ寝)	2.死亡	不明				0. 死亡	2.なし	3.未実施		3.基準以下	園の事故予防・分析、特記事項	園の事故予防マニュアルを作り、全職員と共通理解します。	2.不定期に実施	6	遊具無し	毎日	1.定期的に実施	48		ベビーベッドについて、全面から、ベッド内の様子が見れるものを使用します。	5.睡眠(午睡)中	ベビーベッドについて、横が4面のうち、2面がメッシュのため、外側から、ベッド内の様子が見えるが、2面がナイロンになっていて、外側から見えません。	ベビーベッドについて、全面から、ベッド内の様子が見れるものを使用します。	不明	本児の受入は2回目せすが、初めて本児を対応しました。小さいと感じ、弱々しいという印象でした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	10分ごと、触診していました。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児室にいる子どもたちの対応していました。	乳児のSIDSチェックについて、月契約児童のみで、一時預かり児童のSIDSチェックはしていませんでした。	乳児全員のSIDSチェックを職員と共にすべきでした。	
10720	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23	0	0	0	0	13	10			2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	なし	全職員毎日のミーティングでのヒヤリハットについて共通理解	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	毎朝のミーティングで報告し、改善策の共通理解を図る	1.集団活動中・見守りあり	遊具に対しての握力の低さ、汗をかいての滑り、補助の必要性	普段から体力づくり、子どもに合わせた危険予測	1.いつもどおりの様子であった	ロープを使っての渡り遊びから、うんていへの移動。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	子どもの側に付きながら写真撮影もしつつ見守る。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた）	１人は全体把握、引率のお父さん達も各遊具遊びで側に付く。	１人で遊具に付く際は撮影を控える。	危険を予測し、手を添えたりと対応する。	
10721	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕関節の骨折。	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	男の子同士で戦いごっこをすることがあり、年齢児的にも力がついてきているが、力加減が難しくおもいきり叩いてしまった。	強く相手を押したり叩いたら怪我につながることを話す。戦いごっこを行っていたら別の遊びに誘い、別の遊びで楽しめるようにする。	1.定期的に実施	毎日1回	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日1回	人間が人間に対して危害を加えていたため、施設、設備等に要因はないと思われる。	要因はないと思われるため改善策はない。	1.集団活動中・見守りあり	男の子が戦いごっこをして遊ぶことがあり、力加減が難しく激しく遊ぶことがある。	怪我につながりそうな激しい遊びを行っている場合は声をかけ、力加減等話をし、場合によっては別の遊びへ変更する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児と活発に遊んでおり、戦いごっこがエスカレートした。	4.対象児の動きを見ていなかった	戦いごっこをしているのをみており、しかし、危害を加えたその瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内と保育室側にあるデッキで分かれて遊んでおり、室内の園児をみる保育士とデッキにいる園児を見る保育士とで担当を分けていた。	数名の園児をみて保育しており、どのような遊びをそれぞれ行っている把握して遊びを見守っていたが、戦いごっこで強く叩いた瞬間を見逃してしまった。	怪我につながりそうな激しい遊びを行っている場合は声をかけ、力加減等話をし、場合によっては別の遊びへ変更する。	
10722	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	額裂傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	危機管理マニュアルの内容が十分ではない 事故予防に関する研修の回数が少ない	危機管理マニュアルの見直し、加筆修正をする 事故予防に関する研修や訓練の実施回数を増やす	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週	2.不定期に実施		跳び箱内側の角が鋭角になっている。最上段を外した跳び箱を園児の近くに置くことを想定していなかったため、ガード等は取り付けられていない。	跳び箱の角にゴム等のガードを取り付ける。ガードを取り付けることで各段がうまくはまらなくなる場合はそれが新たなケガにつながる恐れがあるので、ガードの種類や取り付け方を検討する。または、角を削り丸くする。	1.集団活動中・見守りあり	１名の保育士が不在となったことで３種類の遊具を２名の保育士で見守る状況となってしまった。トイレへ連れて行く前に、運動遊具の数を減らすなどの対応をする必要があった。 また、２歳児という年齢を考えると、保育士３名に対し運動遊具３種類は数が多かったとも考えられる。トイレへ行く等で保育士が１名不在になるのは予想できることだった。	運動遊具の種類は、保育士の人数－１とする。 例えば、３名の保育士がいる場合は運動遊具は２種類にする。運動遊具１台につき保育士１名を配置。残り１人の保育士は全体を見守る、トイレへ連れて行く等の役割を担う。	1.いつもどおりの様子であった	片付けをしようとしていることに気付かず、走りこんで跳び箱に近づき手をつこうとした	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が担当職員の後ろから回り込んできたことで、対象児の動きが見えなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任Bは他児をトイレへ連れて行っていたため現場には不在 フリー保育士は遊戯室後方（少し離れた場所）で鉄棒の見守り、介助を行っていた	跳び箱を片付ける際に、全園児が安全な場所にいることを確認しないまま最上段を外してしまった	片付けは全園児が安全な場所にいることを確認してから行う。安全な場所に集めることが難しい場合はその場で片付けず、午睡時等に片付けを行う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事				発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10723	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				14	18			4	4	17.5歳	1.男児	発生時の天候はくもり、その他特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	研修やマニュアル、会議を通しての安全管理に対する意識啓発を促す。	事故防止に関する意識を啓発する為、情報を職員・保護者で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	なし	これまで通り必要な点検を行う	1.集団活動中・見守りあり	年下の友達と一緒にでかける際には、年下の友だちと手をつなぎリードして歩いていた。転倒の後、膝を痛がったので確認したところ、膝を少し擦りむき、少し血がにじむ程度であった。念のため、自分で両手首を動かしたり回したりができるかの確認も行ったが普通に動かし「痛くない」との返答であった。その為、傷の手当をして様子をみる判断をしてしまった。	経過観察をし、保育の中で異常が早期発見できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	4歳児と手を繋いでリードする等、いつもの行動であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員４名が安全確保ため、必要な配置について見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転倒にすぐに気づき、園児の様子や怪我の具合を2人の職員で確認した。	医師の診断で「軽い骨折」と言われたが、「素人では わかりにくい」とも言われた。本児の近くにいたが、転倒を防げなかった。	会議や研修を通して、保育者の危機管理意識を高める	
10724	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49				16	18	15		4	4	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	・園内研修では実際園で起きた具体的な事例等をあげて、予防策や危険予測（保育者の立ち位置と見守るポイントト）、事故後の適切な対応を共通理解し危機管理の意識を高められるようにしたい。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	特になし	お部屋内の環境について、床が濡れていないか玩具が落ちていないか、転倒の原因となるようなものを作らないよう配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動の合間は子どもたちや職員も次の活動へ向けて一斉に動くので、安全面への配慮が薄れてしまう。合間の時間の立ち位置や見守り方を再認識し、事故防止の意識を高める。	1.いつもどおりの様子であった	朝の集会が終わり、トイレタイム後は指定の場所に集合することになっていたが、他児同士追いかけっこをして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	トイレの出口付近にて、本児が追いかけっこをしている様子は見ていた。その後泣き声に気づき目を向けると本児が転倒しているのを発見した。側にいた他児に話を聞くと、他児が後ろから抱き着いた状態で倒れたとのことだった。左腕を押さえて泣いていたことや上げ下げや曲げ伸ばしができないことから、保護者に連絡し付き添って病院を受診する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄している子の見守る保育士、次の活動の準備を行う保育士、おたより帳の片付けしている保育士、全体を見守る保育士、それぞれの立ち位置から、子どもたちの動きに対する見守りに死角が生じていた。走り回っている子を確認しながらも声かけ不足もあった。	特になし	・子どもの動線に保育士が必ず配置され、死角や子の動きの見落としをなくす ・活動の準備は、子どもたちが定位置につき動きが落ち着いた時に準備する ・走り回ったり危険な行動が確認されれば声をかけ事故の防止を図る	
10725	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18	0			7	6	5		4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	特になし	園庭あそびでの保育士の立ち位置を確認する	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	木の裏手で地面がでこぼこしている場所	人工芝を敷き、転倒防止を改善する	1.集団活動中・見守りあり	狭い場所を通りぬけようとして足を踏み外して転んだ	遊びに入る前に安全に遊ぶルールを伝える	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で園庭を歩いていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から少し離れたところで対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が歩いているのは見たが転んだのには気づかなかった	対象児は狭い場所を通りぬける行動をよくするので好む場所である	人工芝を敷いててこぼこの地面を転んでもけが防止できるようにした	
10726	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				23	22			3	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	鉄棒の握り方（親指と他４指で鉄棒を囲むように握りしめる）については日頃から指導に含めており、鉄棒遊びの際にも、握り方の確認を行うようにしていた。	子どもへの様々な対応が生じた場合でも、常に安全面を確保できるような職員の立ち位置や連携の仕方等についても明確にし、昼礼等での周知、共有化を図り防止策に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎週	特になし	本件に関しては、鉄棒の配置や設置状況による事故とは考えにくいため、ハード面での改善というよりも、ソフト面及び人的面の改善を図り再発防止に繋げる必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	迎えに来た園児を保護者に引き渡している最中は、至近距離での見守りが手薄になっていた。	降園する園児と挨拶を交わす際には、鉄棒で遊ぶ子に待つように指示をしておくことで、咄嗟の出来事にも対応できることがあるので、事故防止としての保育者の動きとして、見守り方・対応の仕方を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒にぶら下がるなどして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体が見渡せる配置につき、子どもの遊びの様子や安全面を見守り、適宜指導を行っていた。対象児近くには別の担当職員がいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒付近で子ども達の安全面を見守り、適宜指導を行う。ただし、お迎えに来た園児と帰りの挨拶を交わし保護者に引き渡す対応も行っていた。	鉄棒の握り方など、遊具での遊び方についての指導や見守り方について安全意識をさらに高めていく必要がある。	安全対策として、常に子どもの動きだけでなく職員同士の動きも視野に入れ、いつでも連携が図れるような意識を常にもっておくべきである。職員への指導と共に、定期的な周知確認を行い再発防止に努める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								掲載更新年月日
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10727	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			13	17				3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	コロナ渦、遊びなれていない事と年齢による把握力が未発達なところ	子どもの特徴にあった声かけや誘導、配慮を工夫していく。	1.定期的に実施	270	1.定期的に実施	270	1.定期的に実施	270		事故が起きないよう、適切な対応を職員で共通理解していく。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は活発な事から、危ないと感じることが多く、園での状況を保護者にも情報共有している。家庭において、本人にも気をつけるように伝えてもらっている。	保護者に、本児の特性をより把握、危険予測が育つように関わってもらうために本児の危険行動がある場合は毎回保護者に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	心身共にいつもと変わりはないようす	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつもと変わらず、配置基準で子どもたちの様子を見守りながら必要に応じて声かけ、手助けをおこなっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	配置場所付近の他児の状況の把握た配慮や手助けを行っていた。		子どもの危機管理状況等を把握してそれに応じた職員配置等を心がけていく。	
10728	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14								3	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12		なし	3.個人活動中・見守りあり	全体に声を掛けてしまった事で、全員が一度にトイレへ向かってしまった。	個別に声を掛ける等、一斉に子どもたちが動く場面を少なくする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員①は、壁にくっついて座っている子どもの前にお前り、トイレの声かけを行った。（全体が見える場所にいた）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員②は、トイレの前で子どもたちが来るのを待っていた。職員③は、個別に子どもの対応を行っていた。		なし	
10729	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	102	10	16	20	16	21	19	0	16	13	17.5歳	1.男児	日頃から目に入ったものを触る・やりたい気持ちがあると急に駆け出す、高い所に登るなどの行動は見られるので室内外でも安全に関しては支援が必要である	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	唇左上裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置		これまで同様配置基準の徹底・マニュアルの読み合わせで共有する	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	遊道教室の講師のアドバイスをありブランコは低いと未満児も乗れてしまい怪我に繋がることから本園のブランコは年長児に合わせた高さになっている。	その高さと形状が怪我に繋がったので使っていない時に柵を置く・角を削る対応を行う	1.集団活動中・見守りあり		本児は急に駆け出す、高い所に登るなどの危険な行動が見られるので随時目を離さず居場所を確認する事は継続していく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	兄とのけんかの後でなぜ叱られたのか？兄も自分を叩いたのにと不公平感を感じ不満に思っている状況の中走ってしまう	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	怒った状況で離れていったので気にはなったが泣いている兄の方の対応をしていて追うことはしなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	配置場所の近くで遊んでいる園児を見ていた	コロナ中になり朝の受け入れ時に家族に健康確認の声かけの役割りが増え保育教諭が忙しくなっている	園庭遊びの時の職員の立ち位置（見守り監視）の確認と気になる園児の行動パタンの共有	
10730	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	105	12	18	18	23	20	14			25	21	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	遊具の遊び方。	ゆっくり階段を登る事。事故を想定した見守り。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	急いで登っていた。	階段を登る時は急いで登らない事を確認する。	3.個人活動中・見守りあり	すべり台を滑ろうとして足を踏み外した。	子どもの靴のサイズの再確認。	1.いつもどおりの様子であった	職員はいつも通り、見守り箇所についていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の側で見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すべり台側ではなく、シーソー側について他の子の見守りをしていた。	ゆっくり階段を登る事の声かけを行う。	子どもの体を遊びを通して育てていく。	
10731	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20								2	2	16.4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性耳炎	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	・4月で生活の流れに慣れてない状況とおやつ後の落ち付かない状況の時、保育士も片付け中だったので玩具を出すタイミングが悪かった	全クラスで話し合い玩具の使い方と危険性についてクラス別に共有しとヤリハットの確認をし、遊具を出すときのタイミングと保育士の配慮の確認する。	1.定期的に実施	毎日1	1.定期的に実施	毎日1	1.定期的に実施	毎日	・新しいクラスになって10日目の事故で担任同士の話し合いも充分できなかったことから保育士間の連携不足であった。	安全な玩具であるかなどのチェックを毎日行い故障や破損がないか確認し先のとがったおもちゃ等は常に保育士同士で意識しながら遊ばせる（約束をする）	1.集団活動中・見守りあり	●月で生活の流れに慣れてない状況と週初めということもあり、ハイテンションになっていた。玩具も使い慣れてなかったと考えられ、玩具の使い方について話し合いをする。	安全に遊べる環境作りをして常に意識は子供たちに向け保育士同士こえをかけ合い必ず一人は全体を見守る	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	4月で生活の流れに慣れてない状況とおやつ後の落ち付かない状況の中で、保育士も片付け中だったので玩具を出すタイミングが悪かった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・対象児の至近距離にいたが、他児とかかわっていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・もう一人の担任はおやつの片づけの後、降園時の片づけをしていた。	子どもの行動は予測のつかない場合が多いのでこの玩具はこうすると危ないという見通しを使う前に予測する	必ず声を掛け合い一人は全体を見守り、危ないと思う玩具を出すときは約束をしてから出すようにする。目を離さないこと、保育士間の連携が必要である。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10732	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設数地内(室外・園庭・校庭等)	1.0歳児クラス	5									3	2	13.1歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	内出血	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	コンセントカバーでケガをするという想定ができていなかった。	戸外活動時の保育者の立ち位置について研修を行う。園庭で起こりうる事故を想定し、対応策を確認し合う。	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1)回/週	2.不定期に実施	1回/週	コンセントカバーには1円玉等で回して閉めることができるカギがついているが、それを把握している職員がいなかった。	カギが付いていることを職員へ周知し、使用後は必ず閉めるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	職員の配置人数は満たしていたが、個々の園児の対応をしているうち、保育者の立ち位置に偏りが出ていた。	一人一人の保育者が危険な場所を把握し、適切な立ち位置を知っておく。	1.いつもどおりの様子であった	いろいろなものに興味を示す年齢なので、コンセントカバーにも興味をもち、開けてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の要求に応えるため、少し目を離している時に事故が起こってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていた職員がいたが、コンセントカバーが本児の体で死角になっていたため、開けるところは見えていなかった。	コンセントカバーを開けてしまうという想定ができていなかった。個の対応のためその場を離れた際に、他の保育者との連携が十分にとれていなかった。	その年齢の子がやりそうな動きを想定できるように、子どもの発達の理解に努める。園庭の危険箇所を把握し、職員全体で共有する。持ち場を離れる際は、他職員へ声をかける。また、職員同士適切な距離を保ち、できるだけ死角がないように見守るなど、個々の園児の対応をしつつも常に周りの状況把握に努め、臨機応変に動けるようにする。	
10733	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設数地内(室内)	3.2歳児クラス	14									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保育士はいつでも子どもから目を離さずに保育する。	子どもたちを事故から守るためにはどうしたらいいのかを職員全体で話し合いを持ち改善していくこと。	1.定期的に実施	1回/毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	数回/毎日	床が滑らなかったかを確認する	子どもたちが走らないよう危険なものがないように声掛けと配慮をする。	3.個人活動中・見守りあり	事故当時保育士1名がコロナ対応で事務所へ向かったため、保育士2名いたが、片づけに走る子を止めることができなかった。	他児との衝突もあったので、個々への声掛け、保育士の立つ位置を考える。	1.いつもどおりの様子であった	お片付け時、絵本を棚へ戻そうとして走り転んでしまう	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	尿意を感じている子をトイレへ連れて行き、トイレ入り口に立ち、見守っていたが、素早い本児を止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちと一緒に玩具の片づけをしていた	室内では走ると友達にぶつかり危ないということをきちんと伝えておくと良かった。	トイレに促すより先に、全体の子どもたちを見て、お片付けを終えてから排泄を促すと良かった。	
10734	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設数地内(室内)	5.4歳児クラス	34									2	2	16.4歳	1.男児	・甲殻類アレルギー	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	後頭部裂創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	・子どもの危険な行動の把握。予測が不十分だった。	・テンションが高すぎる場合は、落ち着かせる必要性を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	50	・ロッカーの前でふざけていた為、友達に押された際にぶつかってしまった。	・ロッカーの前には近づかないように口頃から指導する。	1.集団活動中・見守りあり	・待たせる時間が長くなり、退屈していた為ふざけがエスカレートしていった考えると。	・退屈しないよう環境を考えるべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	・普段と変わらず友達と関わり遊ぶ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・全体把握する為に近くにはいたが事故を防ぐ事が出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・職員が同じ作業をしていた為、子どもの動きを把握出来なかった。	・押した園児は、友達を押したりする事で先日も注意したばかりであったが、年齢的に咄嗟の行動を防ぐ事の難しさを感じる。	・今回は、本児が先に手を出してしまった為咄嗟に押してしまったが、押したりしないことを全園児に指導していく。	
10735	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設数地内(室内)	2.1歳児クラス	6									8	6	14.2歳	1.男児	事故と因果関係なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	子ども達の遊びが室内にもかわらず、ふざけたり、走ったりしている。	室内での遊び方を工夫する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		施設内や園庭などで遊び方など、ルールを作り保育士が目配り、気配りで接する。	日頃より、遊具の正しい使い方、ルール教え声かけする。	1.集団活動中・見守りあり	おもちゃの片付け、子供同士の遊びにルール作りや、自分の思いや考えを相手に伝えることが大事。	保育士が子どもの遊び、ルールに対し耳を傾け、ｻﾎﾟｰﾄ声かけをしながら仲良く遊べるように、見守りつつ関わること。	1.いつもどおりの様子であった	お友達とブロック遊びをしたり、おもちゃで遊んだり絵本を見たりいつもと変わりがなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児の行動に対応が出来るように接しながら、言葉かけなどを行って対応している。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内を一望できる場所、園児の行動が見れる距離での対応。	お友達の中で何かが起こる、おもちゃの奪い合いになったり、又、仲よく遊んでいる中ふざけたりして事故が起こる可能性がある。	子ども達の中で何かが起こるを気にかけ、見守り声かけ等で予防に繋げる。	
10736	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設数地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	12									4	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	3～5歳児は体力測定30mを順番に行っており、おわったクラス、測定待ちのクラスは園庭で他クラスと一緒に遊んでいた。	測定についた職員を4人にしたが、ヘルプで増やす調整をしていく。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	園前道路にカラーコーンを置き、測定場所にしているので慣れていた。	慣れている場所でおこってしまったので、測定場所を変更するか検討する。	1.集団活動中・見守りあり	園前道路で測定していたので、転んだ時の衝撃が強かった。	30m走を測定する場所を検討していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	30m走のタイム測定後、待機場所へ移動するとき、足がもつれてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	待機場所と少し離れたスタート地点にいて、次のタイムを測る園児の名前を呼び並ばせていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	タイムを測ったり、ゴール後に走り過ぎないようにとめる役割をしていた。	待機場所は目が届く場所で、自分たちでこれまでも並んでいた。	待機場所へも職員を配置し、安全に移動できるよう促していく。	
10737	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設数地内(室内)	5.4歳児クラス	11									4	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	3～5歳児はとび箱練習で順番よく跳び、終わった子は並んでいた。	とび箱の側に保育者が2人ついていたが、体制をくずした時はすぐに動けるようにする。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	本児がいつも跳んでいる高さであり、跳ぶことも出来ていた。	跳べる高さではあるが、着地の仕方を再度全員にくり返し教えていく。	1.集団活動中・見守りあり	マットに着地したが、バランスをくずした時にサポートに入っている保育者がすばやく動くようにする。	着地の仕方、バランスをくずした時にサポートに入っている保育者がすばやく動くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	とび箱を跳んだあと、着地の時にバランスをくずして転んでしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	とび箱の側についていたが、跳べていたので、次の園児をスタートさせる準備に入ろうとしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	終わった子を並ばせたり、スタートする子を呼んだりしていた。	いつも跳ぶことが出来る高さで、これまでスムーズだった。	跳んだあとでもしっかり園児の安全を確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面									環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																															
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																									
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所											教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10738	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	43	0	0	6	17	8	12			5	5	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置	普段遊びなれている行動で安心して見ていた。その時の子どもの状態も把握しなければならない。	事故防止マニュアルの確認を再度職員間で行い共通理解をした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	今回の床の状態は濡れてなく滑る要因はなかったが、垂直飛びでの着地の失敗で骨折につながる事故となった。	平面でのジャンプでも大きなケガにつながることを認識していくことを職員間で共通理解した。	1.集団活動中・見守りあり	ケガする前の数日間対象児落ち着きがなかった。	遊びなれている場でもいろんな想定をして活動に誘う。	1.いつもどおりの様子であった	運動能力が高く活発な子である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの動きを確認できる距離で見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの動きを確認できる距離で見守っていた	子どもの心理状態（実習生との関わりで本人のテンションが普段より上がっていたと思われる。普段遊びなれた事、床からの垂直飛びでも、骨折する場合がある。	その子どもの心理状態を配慮して対応していく。	
10739	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設数地内(室内)	1.0歳児クラス	10									4	4	13.1歳	1.男児	入園当初（1歳0か月）はハイハイやつかまり立ち、伝え歩き。入園2か月後（●月）には歩行が安定し、行動範囲が広がる。事故当時は歩行も確立し、走れるようになっていた。（転倒も多いが通常通り）	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	なし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	事故当時、保育士4名配置。1人は排泄処理で場を離れており、実際は保育士3人で園児8名を見てた。	自由遊びをする際は、子ども が思わぬ動きに対応できるように保育士3人体制で対角線の体制で行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びを始めようとしていた時で、畳の上で玩具などを出す前であった為、園児が走りやすい環境であった。	走りやすい環境（開放的になる）を作ってしまったので、玩具などで興味を引き付けたり、絵本の読み聞かせなどで、座って落ち着かさせる環境作りが大切であった。	1.いつもどおりの様子であった	●／●朝の検温36.4℃・おやつ後(15：00)37.2℃で鼻水あり、発熱なし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士Aと当該児の距離1.2m／保育士B・Cと対象児との距離1.5m程度	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士Dは他児の排泄処理中	普段は死角を作らず全体を把握出来るように、また子どもの動きに対応できるように保育士同士対角線で配置し、見守るようにしていたが、当時は保育士Bがつかまり立ちし始めた園児の動きに合わせ対応していたので、保育士AとB・Cが横並びになってしまった。	自由遊び等の動きが活発になる遊びの際は、保育士4人態勢で見守るようにする。また、つかまり立ちすると子や歩行が確立している子を同時に保育する際は、保育士同士で分担を決め、分けて見るようにする。	
10740	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	37			10	8	13	6			4	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯（右側）乳歯のぐらつき	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		・園内研修では実際園で起きた具体的な事例等をあげて、予防策や危険予測（保育者の立ち位置と見守るポイント）、事故後の適切な対応を共通理解し危機管理の意識を高められるようにしたい。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日		お部屋内の環境について、床が濡れていないか玩具が落ちていないか、転倒の原因となるようなものを作らないよう配慮する。	1.集団活動中・見守りあり		夕方の自由遊び、特に室内では５時以降になると遊びに飽きて落ち着かない状況になる傾向がある。子どもたちが落ち着いて安全に遊べるように、玩具を変える、園庭に出て遊ぶ、読み聞かせや体操を行う等、遊びの展開をパターン化し臨機応変に対応できるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	席についてレゴブロックで遊んでいたが、あそびに飽きたのか席を立って動き回る姿があった	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	レゴブロックで遊んでいた本児を見守っているなか、遊びに飽きたのか席を立って動き回ったので、カルタ等の他の遊びに誘った。本児がそれもやらないと言ったので、「乗って頂ぎり」と提案し、場所を移してマットに座り込んで

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	障害児	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項		
																								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10743	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	0	0	0	2	5	6			8	7	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	足首捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	なし	年度初めにクラスごとにマニュアルの読み合わせを行う	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	活動の前に使う用具・箇所の点検をしっかり行う	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ遊びをしていたため、逃げ回ることに夢中になった	子ども達の遊びへの、高ぶる気持ちを静めるような声かけをして移動を促す。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ遊びを、お友達と楽しんでおこなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児らが鬼ごっこ遊びをしている様子を少し離れた場所からは見ていて、遊び夢中になっている子ども達にその都度、安全確認のため、声かけ「スピードおとして」「スキップで逃げるよ」など、しながら見守るが、転んだ際は、別の園児の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児らが鬼ごっこ遊びをしている様子を確認していたが、他の園児らが遊ぶ場所で見守りを行っていた。	特になし。	遊び夢中になり、気持ちも高揚しすぎる前に、ブレイクタイムをもうけて水分補給をするなどする。	
10744	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									22	2	18.6歳	1.男児	持病・アレルギー　無し 発育・発達状況　良好	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足薬指の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	マニュアル再確認・職員配置・事故後の適切な対応	事故当時の状況を振り返り、同じ事故が起きないよう改善し職員と共有する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	園内研修やランチミーティングで日頃の保育の中で起きたヒヤリハットを全職員で共有し、常日頃から安全、危機管理についての意識づけをしていく。	事故が起きる前、起きた後の適切な対応を職員で共通理解していく。	1.集団活動中・見守りあり	お部屋からトイレへの曲がり角はお部屋の構造上見えずらくなっている。	【走らない】文字とイラストが書かれているポスター等を保育室数に貼り対応していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児、接触する直前まで曲がり角を見ずよそ見をしながら走ってトイレへ移動。走ってトイレから戻ってきた子と出会い頭で接触。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	おやつ後で、片付け、掃除をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	おやつ後で、片付け、掃除をしていた。	トイレへ向かうまでの曲がり角は見えずらくなっている事を子どもたちと日頃から確認しておくべきだった。	移動する際は走らないこと、特に見えずらい曲がり角は危険という事を子どもたちと確認し 子ども自身が危険予測の意識をもてるようにする。	
10745	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3	1	2							1	1	14.2歳	1.男児	病院受診後、帰宅途中に車内で嘔吐があり、引き返し再度病院を受診。医師と相談しCTを撮り、医師からは異常は見られず大丈夫そうと言われたとの事です。その後、3日間は自宅で様子観察のため家庭保育でお休みをしていました。休みの間は電話連絡を入れ、本児の様子確認をおこなっていました。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	異常なし	8.その他	1.あり	3.未実施		2.基準配置		事故予防に関する研修を行い、職員全員で共通理解し危機管理の意識を高めたい。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日		散歩車の正しい使い方を考えて、事故のないようにする。保育中は遅番の保育士2名を配置する。	1.集団活動中・見守りあり		散歩車の正しい使い方を考えてあげ、楽しく過ごせるようにする。 お迎え時間は必ず保育士2名がついて見守る。	1.いつもどおりの様子であった	おとなしい性格で着脱やお支度が上手である。活発に走る事が多いので、見守りが必要。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	降園時間でお迎えを待っている自由時間、保育士1名（遅番が見守る中）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の動きを見ていましたが、散歩車を横へずらした時対象児がまた、壁に手をのばし散歩車から転倒する。		散歩車は０歳児のお散歩、避難訓練等に使用するもの職員全員で把握し 安全に使用するお迎えの時間は 17：30以降保育士2名で見守る。	
10746	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21				10	11				2	1	15.3歳	1.男児	児童身長（９６．６cm）・体重（１５．６ｋｇ　） 発育状況良好・天候晴れ	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨にひび	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	体操の活動中に担任も場所を離れない。	事故後全体反省会ミーティングをひらき骨折時の緊急対処法を確認しました。職員全体にて救急蘇生法講習へ行く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	体操教室の持ち込み遊具の配置を担任と確認する。	体育の内容に応じてより一層安全な配慮をし子どもから目を離さない	1.集団活動中・見守りあり	準備運動中の子ども同士の距離間に声掛け配慮が必要	取り組み内容に応じてより一層安全な配慮を確認しお子さんから目を離さない	1.いつもどおりの様子であった	運動靴がいつもより少し大きいサイズであったので少し走りにくそうにしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体操の先生と生徒２１名の準備運動中対象児から離れたところで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任がものを置きに場所を少し離れたが園児は体操の先生といつも通り一緒であった。	一人のお友達が対象児の動きを止めようと足で接触した。	走っているお友達を急に止めたりしないように クラス内で園児に指導	
10747	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				11	18	13			4	3	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左前距腓靭帯付着部剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	事故後すぐに対応している。また、園庭での職員配置に関しては問題なかった。しかし、十分な怪我の確認や把握が足りなかった。	あそびの内容の把握や予測、園児の発達段階を踏まえた声かけの必要性。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ピロティと園庭に10cm程の段差がある。あそびの内容に応じて、ピロティ、園庭と場所を分けていたが、今回は自由にあそんでいた。	常に段差がある事を意識したり、あそびの内容や場所に応じてスロープを設置。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの発達段階や、あそびの興味を把握し、危機意識をもつ事が不十分であった。	あそびの中で、子どもの危機管理能力を把握し、伝えたり、予測した働きかけを行う。主体的なあそびや保育を展開、保証しながら、危ない場所や環境を予測していく。	1.いつもどおりの様子であった	フラフープを回しながら移動することに挑戦中の出来事だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども全体が視野に入るよう立ち位置はとっていたが、本児の動きを見逃してしまった。また、直後に歩行出来たと判断し、骨折に至る怪我を見落としてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員との連携の下、全体を見守る体制をとっていたが、他児の対応をしており、本児の動きは見逃してしまった。	事故発生時、発生後の状況を把握。しかし、応急処置や怪我の確認（骨折）が不十分であった。	あそびの内容や、園児の動きの予測の必要性。また、細部にわたる怪我の確認が必要であった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面												
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事						死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10748	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	20								5	4	14.2歳	2.女児	・難治性てんかんトラベ症・曇りで少し肌寒い	1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明		服薬等による血糖値低下	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		職員の人数・配置については問題ない。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり	元々持病があり、熱はないが鼻水があったり体調がすぐれなかったりもしれない。いつもより歩く距離が長かった。	熱はなくても気温の変化で体調が崩れる事もあるので、散歩の時間を短くして本児と担任は先に帰園するなど臨機応変に対応する。	1.いつもどおりの様子であった	持病があるので、職員と手をつないで歩く。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	帰り道で疲れたように見えたので抱っこする。すぐにぐったりした様子が見られたので急いで帰園。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児対応のため、5分～10分程遅れて帰園。	前列を歩いていた職員は、ペース配分ができていなかった。	散歩中も立ち止まって本児の体調や顔色を細目に確認して、ペース配分に気を付ける必要があると感じた。	
10749	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	18.6歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置		ベランダでの遊び方や遊具の使い方について、子ども達と一緒に考え確認する。	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施		2.不定期に実施			大型遊具で遊ぶ際は踏み外しや転倒等もあることを念頭におき、周りから危険物となるようなものを除去したり、またはクッション材を設置したりする。	3.個人活動中・見守りあり		自由遊びや子どもたち同士の遊びの際は、大型遊具は使用しないこととする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児はお友達とベランダで上遊んでおり、担任は室内で給食の準備をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はそれぞれ担当クラスの給食の世話をしといた。		年長児だから危ない事とかは分かるだろうと過信せず、事故の発生に繋がりそうな遊具を使用する場合は側につく。	
10750	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	18								3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	ベランダにいた園児１８名に保育士３名だったので、職員配置は基準に満たしていたが、お漏らし対応の保育士１名がその場にはいなかった	職員配置は満たしていたが、その場から抜ける保育士がいるときは、フリー保育士に声をかけ、入ってもらうようにする	1.定期的に実施	2回/日	1.定期的に実施	2回/月	1.定期的に実施	1回/日	数名が走るスペースはあるが、あそぶ前に危険がないかを確かめていなかた	安全点検は、定期的に実施しているが、あそぶ前に危険がないかを再度点検する	1.集団活動中・見守りあり	友だちと走る事で気持ちが高ぶり焦ってしまう	スペースを考え、人数を分けてかけっこしていたが、子どもたちが興奮することを考慮し、走る前に気を付けて走るよう声かけも必要	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動があまり得意ではない対象児だが、グループに分かれ数名ずつで走り始めたため、はしゃいでいつもより興奮気味であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタート地点で「よーいドン」の合図をしていた。対象児を見ていたが、転倒した場所までは手が届かず、転倒を防ぐことができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児のグループ以外の園児についており、次スタートの準備やゴールした園児の対応をしていたため、見ていなかった。	遊具等がない状態のため、安心して走らせていたが、そのような場でも転倒の可能性がある事を考慮しておく必要があった。	職員は走っている途中の転倒などに備え、待機中の園児のところにつくだけでなく、走っている園児のところにも１名配置する	
10751	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足踝の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	友達と活発に行動していた。降園まで異常なく、痛みの訴えも無かった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見る立ち位置で活動を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の保育士で全体を見ていた	降園前に子どもと個別に一日のお話をする時間もあるが、担任に対して訴えが無く、体調不良をくみ取れなかった	違和感や痛みなど体調不良について聞き取りを行うなど丁寧に対応する	
10752	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21								3	3	18.6歳	2.女児	・アレルギー無し、身長114㎝、 体重20kg、 持病無し、 発育・発達問題無く良好	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	自由あそび中で、部屋を出て廊下でのことで、職員の目が届かなかった。	室内を走らない等の約束をクラス全体で話し合う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	部屋や廊下に危険な物が無いか確認点検を行う	部屋や廊下に危険な物が無いか確認点検を行う	1.集団活動中・見守りあり	自由あそび中で、部屋を出て廊下でのことで、職員の目が届かなかった。	室内を走らない等の約束をクラス全体で話し合う。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の練習等で気持ちが高ぶっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	部屋から廊下に出た時に起こった事だが、部屋からこどもは見えていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任3人のうち一人は他児とのやり取り、もう一人は事務作業を行っていた。	運動会前で気持ちも高ぶっていた。	室内を走らない等の約束をクラス全体で話し合う。こどもが落ち着いて活動できるよう次の活動に移るときは声かけし落ち着かせる	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10753	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	0	0	0	2	5	6		8	7	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	足首外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	なし	年度初めにクラスごとにマニュアルのふみ合わせを行う	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	活動の前に使う用具・箇所の点検をしっかり行う	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ遊びをしていたため、逃げ回ることに夢中になった	子ども達の遊びへの、高ぶる気持ちを静めるような声かけをして移動を促す。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ遊びを、お友達と楽しんでおこなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児らが鬼ごっこ遊びをしている様子を少し離れた場所からは見ていて、遊びに夢中になっている子ども達にその都度、安全確認のため、声かけ「スピードおとして」「スキップで逃げるよ」など、しながら見守るが、転んだ瞬間は、別の園児の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児らが鬼ごっこ遊びをしている様子を確認していただが、他の園児らが遊ぶ場所で見守りを行っていた。	特になし。	遊び夢中になり、気持ちも高揚しすぎる前に、ブレイクタイムをもうけて水分補給をするなどする。	
10754	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				7	12			3	3	18.6歳	1.男児	当日の天気は曇り。事故発生場所のピロティーは軒下となっており、地面は乾いた状況だった。砂埃も乾いてサラサラの状態だったため、足が滑りやすい状況になっていた。本児はピロティーにある栽培物を見た後に走り出そうとして足を滑らせた。ピロティーは死角になる為、普段の戸外遊び時には使用していない為、職員の目が行き届いていなかった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	ピロティーは目が行き届きにくく、普段の戸外遊びでは使用していない為、職員の目が届かなかった。	ピロティーは使用できないことを園児と再度確認するが、園児がいることを想定して職員配置を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1回/日	栽培物を置いていた。乾いた地面に砂埃がたまってしまった為、当該園児が足を滑らせてしまった。	栽培物の撤去。普段から掃き掃除はしているが、日誌の安全点検チェック項目にピロティーも追加し、日々の清掃、安全管理を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	走り出そうとした際に足を滑らせてしまった。	ピロティーは使用できないことを園児と再度確認する。職員はピロティーに園児が入っていないか目視で確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から危険な行動を取ったり、安全確認を怠ったりする園児ではない。今回の事故も走り出そうとした際に滑ってしまい尻を地面に打ち付けたもので、本児の動きは普段通りだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が一人でピロティの栽培物を見に行き、園庭に戻る際の事故だったが、保育者の死角に入ってしまっていた為、状況把握に時間が掛かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の安全管理や遊びに関わっていた。	ピロティーに園児がいることを想定していなかった。	普段、園児がピロティーで遊ぶことが無いため、自が行き届かなかった。園児がいる事を予想して安全管理を行う。	
10755	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	18								2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	発達障害児のかかわり方マニュアルの必要性。	発達障害児のかかわり方マニュアル作成。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	テーブルの高さが45cmあり足がしっかりと床についてない状態。	しっかりと足がつくテーブルやイスに座らせる。	1.集団活動中・見守りあり	加害児（発達障害）が連日落ち着きがなく、情緒不安定な日が続いていた。	職員の配置場所及び子ども（発達障害の子）との距離をもっと詰める。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は椅子に座り、リハーサルの見学をしていたが、後から きた加害児（発達障害）が対象児の後ろに来て前が見えないとの理由で突き落とした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	椅子にしていたテーブルの手前と奥とで対象児及び他の児童を見ていたが、あとから来た加害児が対象児を突き飛ばして落下する瞬間に保護が間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの動きを確認できる距離で見守っていたが、とっさの行動で保護対応が間に合わなかった。	加害児の心理状況及び発達状況（他害行為や自害行為に加え、衝動性がありいつ何時加害行為に及ぶか予測が困難）。定期的に療育センター受診している。	職員による加害児の様子の観察及びトラブルになりそうな行為・状況の事前判断及び回避。	
10756	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23	0	0	4	7	8	4		4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		園内研修では実際園で起きた具体的な事例等をあげて、予防策や危険予測（事故の傾向）、事故後の適切な対応を共通理解し危機管理の意識を高められるようにしたい。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日		うんてい棒の遊具の下にマットなどを敷くなどケガ防止の対策を考える	1.集団活動中・見守りあり		夕方は16時ごろから園庭で遊んでいるので、事故の起きた時間帯は子どもたちの疲れも予測される。ぶら下がりや走ったりする遊びなどケガが起こりやすいことを予測して見守る必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	うんてい棒に興味があり、挑戦して楽しんでいるところだった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	うんてい棒の遊具につき、ひとりひとり見守っている状況のなか、落下・転倒の事故が起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は、他の遊具につき遊びを見守ったり、お迎えに来た保護者の対応を行っていた。		うんてい棒の遊びを見守る中で、年齢や発達に応じて対応する必要がある。場合によっては発達に合わない園児の場合は別の遊びを促したり、体を支えたりなど安全面に十分な配慮が必要。また、見守りが出来ない場合は遊びを制限して危険がないような園庭あそびを行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10757	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58					#	#			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	・穴掘りをしている他児の様子、穴の大きさの確認をしていなかった。	・穴は、すぐに埋める。 ・穴掘りに適している場所を考慮する。	2.不定期に実施	2～3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・片付けを促している時間で、子どもたちのそれぞれの様子が把握できていなかった。	・片付けの時間でも、見守りの保育教諭をしっかりと配置する。	7.その他	穴掘りの場所。	穴掘りを楽しめる場所を考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	機嫌よく過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	怪我が完治し、お友達と身体を思いっきり動かして、追いかけっこや遊具で遊んでいた。しかし、サッカーへ遊びが移行したのを、見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者、児童への声かけ。	片付けや降園時の声かけで保育教諭の見守りが不足していた。	全体を見守る保育教諭を職員同士で声かけし、分担する。	
10758	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	別のあそびをしている子との間隔が不十分だった 周りを見ながらあそぶ様にという声掛けの不足	あそびの様子を見守り、少しでも危険な場所が見られたら声掛けを行い、注意を促す	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	あそびの内容（鬼ごっこ）には場所が適さなかったかもしれない。年齢に合わせると広さが不十分。また、参加人数が多かったかもしれない。あそびが1つではなく、別のあそびの子もいたため、視界が狭まった状態を生み出したかもしれない。	屋上では鬼ごっこを控える（園庭にて行うあそびとする） もしくは、広さと人数の関係をよく考えてから見極める。	3.個人活動中・見守りあり	いつもとは違った午後だった。スイミングの後で疲れがあったのかもしれない。	スイミングの後は、室内あそびを行う等、落ち着いて過ごせるよう配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	複数名で鬼ごっこを行い、夢中になって逃げていた為、視界が狭まっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	屋上にてあそびを見守っていたが、他児の対応でその場面を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員1名は、室内あそびの見守りを行っていた。	屋上あそびで、子どもの対応をする時間が長くなりすぎないようにしたり、クラス全員で話をする等、全体が見れる状態を作る等の工夫が必要。	少しでも子どもから訴えがあった場合には冷やすなどの対応をすぐにとる。また、保護者への伝達も確実に行い、その後自宅でも様子を見て頂く。	
10759	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20					#				12	10	18.6歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	全職員でマニュアル確認を行い、事故防止につなげる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	安全点検を全職員で確認し、施設内（園庭含む）を整備する。	1.集団活動中・見守りあり	用具の確認や個人の能力によって、やり方の指導を行っていく。	用具の確認と使用の仕方や職員の補助の仕方など、検証していく。また、正しい跳び箱の指導を、くり返し行い知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	生活発表会ということで、張り切って登園してきていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	生活発表会の場で、発表の内容に跳び箱があり、担任は跳び箱の傍に立ち補助していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	生活発表会の会場で、対象児のクラスの発表を見ていた。	練習時から対象児の運動が得意な面を受け止めながらも、安全面への配慮、援助を行っていく。バランスを崩し、前のめりで着地しようとしているのに対して手を差し伸べるなどの補助が出来ていなかった。	練習と本番では気持ちが違い、保護者を前に高揚することもあると予想し、事前に適切な言葉をかけるなど対応する。万が一の時に備えての職員の補助の仕方について再度、研修等で確認していく。	
10760	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	楽しい行事で子ども達の気持ちが浮足立っていた	事故等の事例になるヒヤリハットを充実させ、職員間で共有し事故防止に努める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	ハード面の問題はない	気持ちの面に対する配慮が必要なため	1.集団活動中・見守りあり	体を動かしたことで、次の活動への期待感で気持ちが高ぶる姿が全体にあった	期待感をもたせつつも、クールダウンするための時間や活動内容も確保しながら活動を進める	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	楽しい行事を前に、ダンスや体操をした後、楽しい気持ちのまま近くのお友だちに飛びつこうとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	流していた音楽を止めるためCDデッキのほうを向いており、子どもに背を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援児や気持ちの高ぶっている子の対応をしていた。	前週に大きな行事（生活発表会）が終わり、解放感もあり、楽しい行事でもあったため全体的に気持ちが浮足立っていた。	子ども達の気持ちが浮足立っている時には、いつも以上に気を配り声掛けを増やしたり、落ち着ける遊びを活動の合間に取り入れるよう配慮し、担任間で落ち着いた状況を確認する。	
10761	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									9	14	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	本児が病院でお腹がすいたと報告があり、朝食を食べずに登園していてお腹がすいている状態で幼児体育をやっていたことや側転をする際には曲がらないように若干腕に力を入れるが、力が入らなかったのが要因ではないかと思う。	幼児体育を実施する前の園児の体調管理の方法や補助者や担任の指導方法を幼児体育を行う３～５歳児クラス担任と補助者リーダーみんなで再検証し、二度と同じような怪我が起きないように話し合い、進め方を変えていきます。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ハード面は要因ではないと想定しています。	特にありません。	1.集団活動中・見守りあり	同じ	同じ	1.いつもどおりの様子であった	朝食を食べずに登園していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任の見守り立ち位置も確認したが、全体を見渡せる場所で注意を促しながら指導してました。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長クラスで担任のみであったが、補助職員も必要に応じて配置していきます。	子ども達一人ひとりの体調管理をしっかり行い、活動内容を考慮する	体育など怪我が起きやすい活動は配置人数を考慮していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10762	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24								2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外顆剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	2.基準配置	走っている際に、よそ見をしていて、まわりの状況が見えていなかった。まわりの様子が気になることが多かった。	まわりの状況等が気になり、予測不可能な子どもの状況確認をする。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	まわりの状況を確認せず、固定遊具等の近くを走ったこと。	園庭内を走る際には、固定遊具等の近くは走らないよう、子どもと共通認識をする 滑りやすい箇所を点検し、土を入れるなど改善する。	1.集団活動中・見守りあり	見守りが不十分であった。	状況を見守りながら必要な声掛けやサポートを丁寧に行う。	1.いつもどおりの様子であった	一人で活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにはいたが、急な転倒に対し、支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちと遊んでいた。	思い付きで行動してしまうことがあり、本児の行動を予測できなかった。	保育士間で声を掛け合い、見守りと配慮を徹底する。	
10763	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14								2	2	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙打撲、歯折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	友達と手をつないだまま、ふざけてしまったこと。	手をつないだまま動くことのリスクを丁寧に知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	「なべなべそこぬけ」の遊びが上手にできるようになり、友達と楽しめることが嬉しく遊び方が激しくなってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内で好きな遊びを楽しんでいたので、担任は少し離れたところで全体の遊びを観ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内遊び中だったので、他の職員は見ていなかった。	ふざけてぐるぐる回りだしたところで声を掛けていなかった。手をつないだまま遊ぶ時の怪我のリスクに、意識が向いてなかった。	わらべ歌の遊び方について、担任とは確認した。子どもの遊び方が激しくなっていく前に声を掛けたり、止めて気付かせる。	
10764	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37			4	11	11	11		6	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	雨の日の危険箇所の把握が出来ていなかった。	研修や会議等で危険箇所の周知を徹底していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	雨天後、人工芝が濡れて滑りやすくなっていた。	人工芝が濡れているときは人工芝を使わないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	行事後ということで気分が高揚しており、いつも以上に全体的にテンションがあがっていた。	行事後は静かに過ごすことができるような保育内容を考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由記載)	一人で人工芝の上で走った途端、滑ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる位置に立って園庭全体を見ていた。人工芝とは離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の活動をしている子どもたちの対応をしていた。	今まで人工芝で滑った事例がなかったので特に問題視していなかった。	濡れた人工芝は危険ということを周知し、遊び方や職員配置を考えるように会議で話し合った。	
10765	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23	1	1	2	8	5	6		7	4	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足甲・骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	研修は行っている。	今後も研修や日頃の保育の中での気付きなど、職員全員で事故を防ぐことができるよう周知・情報の共有をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	砂場の砂の柔らかさもあり、事故には至らないと考えていた。砂が少し減っていたこと・対象児がジャンプした箇所が1番高さのある場所だったことは改善点だと考える。	砂場の砂を追加で入れて、地面の高さを上げて、地面を柔らかく改善した。対象児がジャンプした箇所を花壇にし、花を植えたことと児童が立ち入りできないようにし、今後同様の事故が起きないように改善した。	3.個人活動中・見守りあり	保護者が迎えに来る時間にも少しずつ重なってくるため、人の出入りが多くなる時間となる。	見守りと保護者対応と職員の業務が多くなるが、危険のないように見守りは今後も徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	走る・飛ぶ・ジャンプするなど体を大きく動かしたい衝動が日頃からある児童である。この日に限らず、以前から同じ場所でジャンプをしたり、遊ぶ姿が見られ、普段と変わった様子は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の児童も外遊びをしており、園庭全体を見守りながら動いていた。下記の他の職員が事故時にすぐに気付き、対応を引き継いだ。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くでの職児を抱っこしながら、対象児も見守っていた。1回目のジャンプも見ており、対象児も楽しく遊ぶ姿から危険は感じてはいなかった。2回目のジャンプで着地を失敗したことにもすぐに気づき声をかけた。	対象児は、いつもと変わらない様子であり、職員も対象児のことは事故前から把握し、事故後もすぐに対応した。	今後も、園庭での活動での職員の動きは、担当児童に限らず、近くにいる児童をしっかりと見守っていく。	
10766	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10								2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上A外傷性歯の亜脱臼・外傷性歯髄炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	2.基準配置	遅番保育を開始した後、子ども本人に落ち着きがなく、常に動いていることが多かった。座って遊ぶよう伝えるが、すぐに動いてしまう。	遊びが落ち着くまで見守りを丁寧にする。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	ジュータン等を利用し、保育室内を走らないようにする。	整理整頓をし玩具の配置を見直す。	1.集団活動中・見守りあり	見守りの位置。	遊びを見守りながら必要な声掛けやサポートを丁寧に行う。	1.いつもどおりの様子であった	一人で活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにはいたが、急な転倒に対し、支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子供と遊んでいた。	新年度になったばかりで、行動に落ち着きがないことを感じていたが、それ以上の配慮が足りなかった。	保育士間で声を掛け合うこと等、丁寧な見守りと配慮をする。	
10767	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19								2	2	15.3歳	1.男児	要支援児であり、週１回児童発達支援事業所に並行通園している。	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足５趾剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	保護者という子どもの動きに対しての危険予測が不十分だった。	事故発生時の状況を職員間で共有・周知をし、送迎時の安全についてどの職員も意識ができるようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	200	特になし	室内では転倒等を想定し、今まで通り常に整理整頓を意識していく。	7.その他	送迎時の子どもの把握について、保護者への安全確認の周知不足も要因であった。	登降園時の子どもの安全確認について再度保護者に周知し、職員と共に把握ができるように確認した。	1.いつもどおりの様子であった	朝の受け入れ前の時間帯で、母親がその場にいたため一緒に登園した兄弟とともに気持ちが高まっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	早番の時間帯ではが発生場所とは違う部屋で保育していたため、職員はその場にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	早番職員は全員他の部屋にいたため、事故発生時はその場にいなかった。	事故発生時に職員が把握できなかったため、すぐに対応ができなかった。	早番職員は子どもの受け入れを丁寧に行うと同時に、できる限りの全体把握も意識していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
10768	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指中節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	今年度に入り初めての運動内容だったため、子どもにとって適切かどうか状態を予想できなかった。	運動内容については、事前に職員間で共有し、適切かどうか確認し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	200	動きやすいよう広いホールを使って活動していたが、子ども同士の距離は近く密接していた。	適切な間隔が保たれるような声掛けをし、把握しやすいようにする。	1.集団活動中・見守りあり	リズム活動終盤でもあり、子どもの疲れもあった。	無理のない活動設定を行うとともに、リズム運動以外でも身体づくりを行い、大きな怪我につながらないようにしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	リズム運動活動の終盤であったが活動を通して、活発な動きがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の傍でそのほかの子の活動の補助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子の補助をしていたため、担当職員以外は対象児の動きを見ていなかった。	活動補助に目が向けられていたため、すぐに対応ができなかった。	活動補助に注力するのではなく、全体を把握していく。	
10769	令和6年6月10日	1.認可	10.事業所内保育事業（認可）	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	26									5	5	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	・左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員間の連携が足りなかった。	保育士の配置は基準を満たしていたが職員間の声掛けが必要だった。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	・棚の中に入って遊んでいたことは確認していたが、他児の対応のためその場を離れ、職員の見守りが不十分になった。 ・子どもが棚の中に自由に入れる状態だった。	・転落の可能性がある場所では、近くで見守りをする。 ・棚の中に仕切りをつけるなどして棚の使い方を見直す。	1.集団活動中・見守りあり	近くでの見守りがなかった。	転落の危険がある場合は近くで見守る。その場を離れなければいけない状況のときは、職員間で声を掛け合う。	1.いつもどおりの様子であった	棚の中に入る姿は以前からあり、事故当日も他児と一緒に入って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	棚の中に入っていることは確認していたが、他児の対応のために目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に他の保育士もいたが、受け入れや他児の保育を行っていた。	見守りの必要な場所から離れること。	見守りが必要な場所から離れるときは職員間で声を掛け合う。	
10770	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	28									22	22	16.4歳	1.男児	1歳の時に家で転倒し歯をぶつけ、ぐらついた歯を固定していた。その後、ぐらつくことなく、普通に食事を摂っていた。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	歯の神経損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	職員の人数は基準内。ひとりは子どもたちの遊びでいる様子をみていた。ひとりは園庭に落ちていた猫の糞を片付けていた。	気を付けて遊ぶように声をかけながら子どもたちの様子を見守る。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	総合遊具は縄の網や、木のつり橋など変化にとんだ遊び場である。足がもつれるかもしれない。	子どもの発達には有意義な遊具である。危険な個所は改善し、安全に遊べるようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の遊び方については、常日頃から、子どもたちに説明している。	再度、遊具の遊び方について確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発な子。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	咄嗟の出来事であり、転倒を止める事は出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に落ちていた猫の糞を片付けていて、十分に目が行き届かなかった。が、他のクラスの職員も監視している。	普段から動きが活発で、夢中になって遊ぶ子。遊ぶ事に一生懸命だった。咄嗟の事故で手を出す事ができなかった。	子どもの特性を理解して、声を掛けながら注意してみていく。	
10771	令和6年6月10日	1.認可	10.事業所内保育事業（認可）	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	外踝成長軟骨板損傷の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	縄はしごの幅が狭いので、上り下りが同時になり園児が密集したこと	子ども同士が密集している場所、落下しやすい場所は職員が目を配り、傍で見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	縄はしごの下から上がってきている他児に気づいていないようであった。近くにいたことに気づいた時にはびっくりしてとっさに態勢がとれず転落してしまった様子。	4.対象児の動きを見ていなかった	戸外遊びを終了し室内に入る前であった。戸外の玩具を職員が片づけながら対応していた為、目を離してしまう瞬間があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの保育士は園庭にいない状態であった。	片付け中の職員配置	片付けをする際に、職員配置が十分に対応できない時は、遊具から園児が下りるのを確認してから片付けをする。他職員へ声掛けをし安全を確保する対策を図る。	
10772	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				8	6	8			3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじの骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	広場への移動のため、子どもたちが並んでいる所から保育士が離れて保護者対応をしている間に子ども同士のトラブルが発生した。	子どもの所を離れて保護者対応しない。広場への移動の際は子どもを待たせないで保育士がついてすぐに移動する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	子どもが並んでいるとこから離れて、保護者の対応をしていた。	保護者への連絡がある場合は、子どものそばを離れず、トランシーバーで他の保育士に連絡して伝えてもらう。	2.集団活動中・子ども達のみ	子どもたちが並んでいたが、保育士が保護者対応のためその場を離れた。	子どもの所を離れて保護者対応しない。広場への移動の際は子どもを待たせないで保育士が先頭に立ってすぐに移動する。	1.いつもどおりの様子であった	広場へ移動の際の手順はいつもの通りであったが、順番をめぐって並ぶときにトラブルになった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもが並んでいるとこから離れて、保護者の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４．５歳児が広場に移動し、３歳児は園庭で遊んでいたので、他の担当者は３歳児を中心に保育に当たっていた。	子どもの移動の際は子どもから離れず、保育士が先頭に立つことになっていたが、それが徹底されていなかった。	子どもの所を離れて保護者対応しない。広場への移動の際は子どもを待たせないで保育士が先頭に立ってすぐに移動する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10773	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	7	1	6						2	2	14.2歳	1.男児	●●市要支援児童認定を受けている。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕部の左ひじ付近の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	戸外に出るまでに普段と変わった様子はなかった。日頃からの危機管理が薄れていた可能性がある。	重大事故の対応に関して、保育者全体での確認を定期的に行う。	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	240	1.定期的に実施	240	散歩時に使用している立ち乗りで使用するカートについては、使用前に整備確認を行っている。園児の特性を保育者が把握していたが、突発の行動が予測できていなかった。散歩カートから園児が出ようとすることや出てしまうことが想定されていなかった。	散歩カートに園児を乗せる際の注意事項を追加し、可能性の想定を出来るようにしていく。	7.その他	３名の保育者を配置していたが、帰園後の動きをスムーズにしようと先に帰園していたことで保育者が２名になり散歩カートに乗せる際に死角が発生した。	園児が安全にカートに乗車してから戻ることを徹底する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	楽しく遊んでいた様子だったが、帰る声かけに対して納得が出来ていない様で、もっと遊びたいと興奮気味だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	なだめながら立ち乗りカートに乗せた後、他に同乗している園児同士がもめ始めたので、間に入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一台のカートに園児を乗せていたので、対象児のカートには背を向けていたので見ていない。	対象児が興奮気味だったにも関わらず、落ち着くまで見守ることが出来ていなかった。保育者が１名先に戻ったことで、一台ずつに保育者が園児を乗せており、カート内のトラブル対応で他が見えておらず、もう一台を受け持っていた保育者も背を向けていたので死角が発生した。	散歩カートを置く位置や園児を乗せる際、対応の仕方を確認し合い周知する。保育者が先に戻ることがないように役割を明確にする。	
10774	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	2.基準配置	体操をしていた際に足を捻った。	常に子どもの状況確認をする。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	園庭内の土壌の状況等の問題はなかった。	定期的に園庭内の環境整備を行う。	1.集団活動中・見守りあり	登園後まもなく、体が硬かったことも予測される。	体を動かす前には、手首・足首等を動かし、必要な声掛けやサポートを丁寧に行う。	1.いつもどおりの様子であった	一人で活動（体操）していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで体操をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいたり見守っていたりしたので見ていなかった。	本児の行動を予測できなかった。	保育士間で声を掛け合い、見守りと配慮が必要。	
10775	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	11	3	4	4					4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	普段の保育場所とは異なる連携施設での運動会総練習であり、職員の目が行き届かない状況で、本児の動きを制止しきれなかった。	担任が誘い掛けて傍にいる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	普段の保育場所とは異なる場所で、多くの園児がいる中、職員の目が行き届かない状況となり、本児の動きを制止しきれなかった。	たくさんの子ども、職員が一同に集まった場所でも、自分の担当の子どもから目を離さない。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会の総練習、いつもと異なる広いホールで興奮気味だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動会の総練習で、職員のやるべきことが多く、一人ひとりの子どもに完全に目が行き届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広いホールでたくさんの職員がいたため、自分の担当の子どもの把握がしっかりできていなかった	一斉の活動で目が行き届かない場面があった。	たくさんの子ども、職員が一同に集まった場所でも、自分の担当の子どもから目を離さない。	
10776	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	20								4	4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	対象児に対する職員の見守りの位置について十分に話し合いがされていなかった。	本児の特性についての理解を共有し、配置を工夫して対応できるよう周知していく。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	240	落下した場合の対策が取れていなかった。	周りに危険なものがないか再度点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	対象児の近くでの見守り、補助が不十分だった。	バランスを崩し落下しやすいことを把握し、必ず保育士が側につく。	1.いつもどおりの様子であった	遊具に興味を持ち、高い所まで登ろうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守っていたが落下する場面で受け止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所で遊んでいる子たちを見守っていた。	職員同士の連携が不十分だったかもしれない。	お互いに声を掛け合い、それぞれの場所で遊ぶ子どもたちの把握に努める。	
10777	令和6年6月10日	1.認可	10.事業所内保育事業（認可）	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	19								5	5	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	保育士の配置場所	保育士の配置は基準を満たしていたが、職員は常に子どもを見守れるように配慮して動く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	・砂場と砂場を囲む枠の段差が大きかった。 ・片付けを行っていたため職員の見守りが不十分だった。	・砂場の砂を足し、段差が小さくなるように対処した。 ・子どもの動きを見守りながら、片づけを行う。	1.集団活動中・見守りあり	視線を外したこと。	視線は子どもに向け、子どもの動きを見守りながら片づけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に玩具の片づけをしようとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	玩具の片づけをしようとしているのは確認しているが、職員自身も片づけを行っており子どもたちに視線を向けていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少人数で室内に戻っており最後のグループだったため、他職員はいなかった。	見守りの体制	視線は子どもに向け、子どもの動きを見守りながら片づけを行う。また、危険を予測できる場合は注意を促す声かけを行う。	
10778	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	6	3						3	3	13.1歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母子末節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	早番の動きの確認については周知はしているが、子どもの全体把握の意識が薄かった。	時間帯によっての職員間の動きについて、再度確認していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	240	早番登園児で部屋の環境に慣れてはいるが、大人が把握してすぐに対応できる位置にいなかった。	子どもの動きについてはすぐに対応できるような部屋の使い方を考える。	1.集団活動中・見守りあり	合同保育時の朝の受け入れ時間帯で遊び場所が広がっていた。	遊びを分散しながらも玩具設置等把握しやすい環境設定を行う。	1.いつもどおりの様子であった	早番の時間帯での登園後落ち着いて室内遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児の傍で他の子の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の受け入れ等の保護者対応のため、対象児の動きは見ていなかった。	他の子の対応をしており、怪我の把握が遅れてしまった。	常に全体把握を意識しながら保育をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10779	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2									1	1	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右手肘 ひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	当該児とも一人の4歳児は、常日ごろから戦いごっこをしてふざけて取っ組み合いをすることが多い。今回の事故においては、担任が席をはずしたわずかな時間に戦いごっこを始めた。	今回の事故に伴い、職員会議等で意識を共有し、戦いごっこはケガの原因となり危険という意識を改めて共有した。自由保育時間には職員は全クラスのこどもたちの行動に注意し、危険のないよう声掛けをするよう周知した。また日々の保育においても、戦いごっこはしないことを園児たちに繰り返し知らせていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	2	手洗い場の前に敷かれたタオルが滑った。	各クラスの手洗い場前に敷かれたタオルは、足を取られて転倒することがあるため、撤去することとした。	1.集団活動中・見守りあり	担任が場を離れたことで、子供同士で戦いごっこが始まった。	できるだけ目を離さずに見守るようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児は、4歳児でもあるが他の子との関りがまだ未熟だったり、自由遊びの時は、保育士が他の児との関わりを注意して見ている必要がある。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐに近くにいた担任保育士が受傷の状況を確認し、応急処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外に出ている子供たちを見ていた。	なし	なし	
10780	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	狭い場所で鬼ごっこをするとどのような危険が考えられるのか予測し、職員の見守りの位置について十分に話し合いがされていなかった。	危険を予測し、安全にあそべるルールを考え実施する。また、職員全員が把握しているようにする。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	200	遊具や木の裏側に入りあそぶ子供もいるが、狭いため危険であった。	特に鬼ごっこの際は、狭い場所に入り込まないように柵を置くなど工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	対象児に対しての見守りや声掛けが不十分だった。	危険な箇所を把握し、必ず保育士が側につく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	集合の声を掛けられても、あそび続けていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちに声を掛け見守っていたが危険な行動を止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員以外いなかった。	狭い箇所で走らないというルールが子どもたちに伝わっていなかった。	本児の特性(衝動的であること)を理解し、見守り声掛けが必要。また、ルールを徹底する。	
10781	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	66				21	20	25			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	周りを見ることが完全には身についていないように思う	自然と周りを注意できるよう、毎日体操の中で動きながら遊ぶゲームを重点的に取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった	対象児、他児とともに周囲の確認が、しきれなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭あそびでは他クラスも一緒にあそぶため、全体に目を通せるよう、職員が広がって見守っている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見ていた。	天気もよく、遊んでいて気持ちが昂り、周囲への注意が足りなくなっていた。	山の近くを走り回ったり、山を下りる等の動きがある際は周りをよく見てからにするなど、職員がより注意深く見守りを行うようにしていく。	
10782	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			12	13		5			3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	走り回る本児を注意する職員がいなかった。	園児が走り回っていたら注意をする。デッキは基本素足で移動する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	デッキは園庭を囲むようにあり、職員は園庭側を見ていてデッキを走り回っている園児に気が付かなかった。デッキの高さは25cm、その下に芝生が生えている	職員が園内を広く見渡し、デッキにいる園児にも気が付けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	デッキを登ったり降りたりを日常的に行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	落下したところを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落下したところを見ていなかった。	靴下を履いたままデッキを走り回っていた。	登園したら、靴下を靴の中に入れる様に習慣づけをして、職員で共通認識をする。デッキは走り回らないこと。	
10783	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	76				28	25	23			4	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨と尺骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		全職員で事故一覧を検証し、状況を把握する。内容を共有し危機管理意識を高めている。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	アスファルトの所で遊んでいた為、転んだ時に骨折してしまった。	アスファルトの所では、遊ばないようにしていく。	3.個人活動中・見守りあり	後ろから走ってきた子がぶつかってきたので、バランスを崩して転んでしまった。	転んだ時に大けがにつながるため、アスファルトの所では、遊ばないようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と変わらない児であった。ただ、「けいどろ」の仲間に加わった直後の出来事だったので、まだ体が十分な準備がされていなかったと考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児からは少し離れたところで遊んでいた子ども達を見ていたが、ぶつかった状況に気が付きすぐに二人の様子を確認しに行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊んでいる子ども達を見ていた。	アスファルトの所で転ぶと大きな怪我につながることを、保育者全員が十分に想定できず遊びを見守りしまったこと、ただ走り回っている子に対して集中できる遊びを提供出来ていなかった。	夕方の子どもの人数や子どもの動き、職員の人数などを把握したうえで、どのようなおもちゃを出したら子ども達が集中して遊べるのか、保育者は見守りとともに必要に応じて早めの声掛けをしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
10784	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17		9	8					4	4	13. 1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	軽い脳震盪であろう、前歯死活の可能性あり	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	友だちや保育者の様子が気になり、遊具から身をのり出した。	職員の身長より高い位置にいたため、身体を支えたり、危ないと感じた際にはこまめに声をかけ、目を離さない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	子どもが好きな遊びや遊具を自由に選択でき、自由に遊べる環境であった。	子どもがどこで何をしているのか職員間で常に声を掛け合い、把握する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、遊具にのぼり遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具に付き、対象児付近で見守っていたが、他職員から声をかけられ一瞬目を離したすきに、落下した。すぐに気付き手を伸ばしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員が対象児付近に２人いたが、落下することはないと過信し、伝達のため声をかけ話をした。	自分たちの危機管理能力の低さから、危険をあらかじめ予知できなかった。	歩行が安定している為、落下はしないと思い込まずこまめに声をかけたり、子どもから目を離さないようにする。	
10785	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28								2	2	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨にヒビが入る	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	片付け時であった為、まだ遊びたいという思いから、ソフトブロックに乗った。	まだ遊んでいる園児もいた為、全体を見つつ、声を掛けていく。ソフトブロックは転びやすいことを頭に入れておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	自由に遊びを選べる環境。ホールは広々としている為、気持ちが高ぶってしまう様子もある。	子どもの人数やその時の状況に合わせて、使う玩具の数も考えていく。	1.集団活動中・見守りあり	片付けの時間であったが、まだ遊びたいという思いから、遊んでいる子もいた。	職員間で声を掛け合い、子どもの様子や動きを見守る。必要に応じて声を掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	ソフトブロックに乗っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	次の活動の準備を行っていて、対象児を見ていなかった。	他職員なし	近くにいなかった	自分たちの危機管理能力の低さから、危険をあらかじめ予知できていなかった。	次の活動の準備をしながらも、必ず子どもに目を向ける。	
10786	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15				10	5			2	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	なし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	卒園前の登園が最終日で、気持ちが高揚していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところにいて、全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児から見てと声を掛けられ、目の前で見ていた。	登り棒と自分の距離を見誤り、棒をつかみ損ねてしまった。	落ち着いて行動するよう伝える。	
10787	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	17								2	2	15. 3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	子供の行動予測	子供の突発的な行動を予測する。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	園外保育時の安全確認	園外保育の行先や歩く道等危険がないか確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	一緒に手を繋いでいた男児が、後ろから来た年長クラスの子たちに追い越されたくなくて急に走り出したため。	手を繋いだまま走ると危険なことを子供たちに繰り返し伝える。	1.いつもどおりの様子であった	今年度、７月幼稚園より転園し散歩の経験が少なく３月生まれということもあり他児より体力がなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児と手を繋いでいた男児と３人で手を繋いで歩いていた。男児が急に走り出したが咄嗟のことで止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	列の先頭を引率していたが、列の後方から年長児が歩いてきたのが見えたので止まって子どもたちの様子を見守っていた。	職員配置と声のかけ方。	歩くことが苦手な子や疲れやすい子など、子供の様子に合わせて職員配置を考える。職員間で声を掛け合い列の広がりや子どもの状況について共有を図る。	
10788	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23								2	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		全職員で事故一覧を検証し、状況を把握する。内容を共有し危機管理意識を高めている。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	グランドの状態は安全だったが、スライディングをしてボールを取ったことが危険だったと考えられる。	ボールの安全な取り方について本人と話していく。グランドの状態も整えておく。	1.集団活動中・見守りあり	ボールを取ろうと、張り切っていた。	ボールの安全な取り方を説明する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、活発だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども達の活動の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は対象児の動きを見ていた。もう一人は他の子ども達の動きを見ていた。	転んだ時には痛がったのですぐに確認をしたところ指も動き、腫れていないため膝の痛だけだと思い手を洗って傷の手当だけ行った。本児も再びドッジボールをやりたいと言って元気よく参加しに行ったため大丈夫だと思いすぐには通院しなかった。	怪我の具合をその後も気に掛け、度々怪我の確認をしていくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10789	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80				#	#	#			8	6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右肘あたりの骨にひびが入っている疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	園児数に対する人員配置は適正であったが、登園時の受け入れが数名重なった、園児が保護者から離られないでいる場合など、そこに職員の手を取られてしまうことがあり、数分間 職員が園児から離れることもあったかと感じる。	朝など登園児の受け入れが重なる時間帯には職員を多く配置したり、受け入れを素早く行うようにしていく。また遊んでいる園児に背中を向けず、見えるような方法で受け入れを行っていなどの点を周知していく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	240	遊具は適正に配置されている。	・遊具自体には改善点はないが、段違いの鉄棒ではないので、園児がバーに座るには危険を伴うことがあることを踏まえ、園児には使い方を知らせるとともに、園児が難しいことに挑戦したい時には保育者が必ずついてみるようにして、園児の意欲や達成感が満足できるようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	保育士の見守りの位置。	・朝夕の園児の引き渡しや保護者対応のために、遊んでいる他の園児から離れる際には必ず職員同士で声を掛け合い、見守りの位置に配慮していく。 ・鉄棒など、比較的危険度の高い遊具で遊んでいる際には、保育者が近くで見守りをすることを徹底する。また年齢に合わないような危険な遊び方をしている判断をしっかり行い、園児にきちんと伝えていくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	活発で鉄棒も得意なため、今回も自信をもってこれまで同様に行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつも通りの光景であったため、少し離れた辺りで他児にかかわりながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他にも園児が園庭で遊んでいたため、それぞれが分かれて園児の遊びにかかわったり見守ったり、登園してきた園児を受け入れていた。	職員の見守りの位置。	・受け入れや保護者対応のために園児から離れる際には職員同士で声を掛け合い、見守りの位置に配慮していく。 ・鉄棒など、比較的危険度の高い遊具で遊んでいる際には、保育者が近くで見守りをすることを徹底する。	
10790	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32				7	#				1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	1つの部屋にいる人数が多かった。	隣の3才の部屋に職員と子どもとおもちゃを分け、、クラス人数を減らす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ロフトの降り口の落下対策	4歳児クラスのロフトの降り口に広いすのこを敷き、子どもがジャンプしたり、転んだりしても振動を吸収できるようにした。	1.集団活動中・見守りあり	本児がロフトから降りようとしていたが、早く降りてほしかった3才の他児が、両手で押してしまった。	ロフト等の高い所に登っている園児に注意を払うようにする	1.いつもどおりの様子であった	高さ90㎝のところからジャンプし降りる遊びを日常的に行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ロフト部分から降りるところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故が起こった部屋には、職員は1人だった。	3歳児クラスの他児が、本児がロフトから降りようのしているのを見て、後ろから押してしまった。	押してしまった他児に、自分で降りようとしている子を押さないように伝えた。ロフトを見守るために職員を1名増員した。	
10791	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	25				#		#			3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	13	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	歩行中に、車が通過した為、停止していた。再び歩こうとして側溝に転落してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員は列の先頭、中間、後尾と園児の動きを見守りながら歩いていた。先頭よりで歩いていた本児は、年長児と手をつなぎ側溝側を歩いていた。急な転落に職員が止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	後尾の職員も転落に気付き、転落の対応をした。先頭にいた職員は、伝達を聞いて、他の園児見守りをしていた。	２列歩行が危険な箇所があった。	２列歩行が危険な箇所は１列歩行をしていくようにする。園児にも、声掛けをしながら、転落しないように保育教諭も気を付けて歩行を見守る。	
10792	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	121	#	#	#	#	#	#			21	14	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顎の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	事故発生場所近くに保育者はいたが、発生時は背を向けてしまっていた。	保育者は子どもの危険な行動にすぐに気付き対応していく。保育中の立ち位置に配慮する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	本児の行動の把握ができていなかった。	保育者は、常に連携し園庭全体を見守れるよう分散して配置につく。	1.いつもどおりの様子であった	親子ひろばの部屋の前のまくら木に乗って、転倒しまくら木に頭をぶつけた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者は、砂場にいた本児に体操が始まっていることを知らせたが、本児のその後行動まで意識していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守りや体操をしていたため、気付いていなかった。	本児の行動の把握ができていなかった。	保育者は、常に連携し園庭全体を見守れるよう分散して配置につく。	
10793	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58				#	#	#			4	4	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	園庭あそびで雲梯を渡ろうとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	午後の活動では他クラス（以上児）も一緒に外に出ているため、他クラスの保育教諭と協力し、全体に目を通せるようにしている。他児のお迎えなどの対応もしている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他児の様子も見たり、お迎えの対応もしていたが、怪我をし、痛がっている園児の様子を確認していたため、どのように着地したかなど、説明することができた。	受け身の取り方や、身体の使い方などが未熟であった。	落下や転倒の際に身を守る動きができるよう、体操の中で近い動きを取り入れていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制														発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	状況	死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10794	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	24				#					3	3	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	事故事例をもとに研修を行っているが、自分事として捉えられておらず、保育に活かすことができなかった。	様々な事故発生場面、保育の場面等を想定し、事故を未然に防げるよう研修等を実施していく。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	今回は園外保育で出かけた先の公園で発生したため、遊具の安全点検等の頻度は把握できていない。また、遊具の不具合ではないため自治会にも報告はしていない。子どもがあそび始める前に遊具の安全点検は実施した。	園内の遊具以外であそぶ時の注意点を全職員が把握できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	普段と違う遊具なため、あそび慣れていなかった。園外保育で子ども達の気持ちが高まっていた。	園外保育に出かけるときには、いつも以上に子どもの動きを予想し必ず遊具のそばにつき安全管理に気をつけていく。	1.いつもどおりの様子であった	元気に登園し、普段と変わらない様子だった。ジャングルジムであそんでいるときに、足をかける場所がわからず手を滑らせ落下してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもが公園内でばらばらに散らばってしまったため、全体が見える位置から見守っていた。遊具から離れた位置だったため、事故を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人は全体が見える位置にいた。もう1人は他児が多数あそんでいる他の遊具のそばで見守っていたため、落下時すぐに動けなかった。	保育者の数より遊具が多く、全部の遊具のそばについて見守ることができなかった。	子ども達とあそぶ遊具を一緒に決め、あそびはじめるようにする。遊具には必ず保育者が付きあそびを見守りながら事故防止に努める。	
10795	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	9									21	18	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	不意に友だちに腕を引っ張られたことにより体制を崩した。	友達同士、声をかけてから移動していくようにする。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	友達同士、声をかけてから移動していくように前もって子どもたちに話しておく。	一度子供達が集中して話を聞いているかどうかを確認してから対応をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	室内に戻る前の整列及び移動時だった為、子供自身も集中していなかった。	集中して行動できる相手同志で手を繋いでいく必要性があった。	1.いつもどおりの様子であった	集中力散漫になりやすい子であり、降園時間に近づいていることもあり、興奮しやすい。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	落ち着いて行動できるように、いつも以上に声をかけていく必要性があった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	落ち着いて行動できるように、いつも以上に声をかけていく必要性があった。	なし	なし	
10796	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首にある尺骨茎状突起部分の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	３歳児の担任となる新規採用の職員が、●月の途中で急に退職するなとして職員体制が十分ではなかった。	職員募集を行い、職員の補充に努めた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	グランドの外周はキックバイク用にアスファルトになっているため転ぶと大きな怪我につながる。	グランドの外周部分はアスファルトのため、走らないなどのルールを決めた。走る場合は土の部分のトラック内とした。	3.個人活動中・見守りあり	安全な場であるため、子どもたちの興味や要求に合わせた自由な行動や遊びの選択を大切にしたが見守りが不十分であった。	職員は２名体制ではあったが個別に子どもと関わりすぎてしまい、全体的に見守り動きを把握する配慮に欠けていた。	1.いつもどおりの様子であった	その日に限らず、戸外に出るとテンションが高くなる傾向がある。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児は他児と遊ぶなど楽しく過ごしていたため、職員も他児と遊びながら様子を見ていた。転んだ時の状況は見ていなかったが、泣いている姿を見かけ転んだことに気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド内で他児と遊んでいたため見ていなかった。	楽しくてはしゃぎすぎると羽目を外し過ぎる所がある。注意力もなくなり怪我につながりやすいタイプである。	本児の特性も分かっていたため、様子を見ながら行動を見守り注意を促す支援が必要であった。	
10797	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	6									1	1	15.3歳	1.男児	発語がないことや、多動傾向があり、令和●年●月に小児科で『言語発達遅延』と診断されている。一語文が少しずつ出てくるようになってきた。突発的に走り出してしまうことがある。	8.その他	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	特になし	安全点検を丁寧に行い、不具合があれば、すぐに対策を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童を先頭で率いていたため、ケガを防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	次の活動の準備をするため離れていた。。	移動の際、児童の前には保育士がついていたが、後にはついていなかった。	個々の特性を理解し、それぞれに応じた対応を行う。特に、移動などの時は注意し、児童の前後に保育士がつき、見守るようにする。ヒヤリハットを職員に周知し、対策を考え、事故を未然に防ぐようにしていく。	
10798	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.上肢(腕・手・手指)	骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし。	2.不定期に実施	10	2.不定期に実施	10	2.不定期に実施	10	特になし	安全点検実施しているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	3段ボックスがしっかりと固定されていなかった。子どもに遊ぶ場所の周知徹底がされていなかった。	職員間で、所内の安全点検を再度行い、3段ボックスを含むおもちゃ棚を固定する。また、決められた場所で遊ぶことを子どもと約束し、徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	本来なら机上で遊ぶはずのおもちゃ(プリズム）を、床で座って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任Aは、全体を気にかけながらも、保育室内での運動会に向けての打ち合わせに参加していたため、当該児童がけがをする場面を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任Bは別室で休憩中であったため、当該児童がケガをした場面にいなかった。	担任Bが休憩中で担任Aしかいないにも関わらず、同保育室内で運動会に向けての打ち合わせをしたため、児童の見守りが不十分だった。	保育中に打ち合わせをする際は、全体を見守る職員をしっかり確保した中で行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10799	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	2								2	2	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折・脱臼(右手)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保育士の危機管理意識が低かった。	「保育中はこどもから離れない」ということを全職員が再確認する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	施設・遊具・玩具の安全点検は定期的に実施しているため、特になし。	2.集団活動中・子ども達のみ	延長保育時間帯はこどもの数が減るため、保育士に気のゆるみがあった。	こどもが全員無事に降園するまで、見守りに空白の時間が生じないよう、全職員に周知し、徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	積み木を高く積んで遊んでいた。（積み木は牛乳パックで作った手作りの物）	4.対象児の動きを見ていなかった	戸じまりを行うため、１名が保育室から出ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう１名の保育士も、保育室の隣にあるトイレのゴミ袋を交換するため、保育室から出ていた。	保育士２人とも、こどもから離れていたため、事故を防ぐことができなかった。	全職員に、こどもを保育室に残すことがないよう厳重に周知した。	
10800	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10								2	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	特になし	施設・遊具・玩具の安全点検は定期的に実施しているため	1.集団活動中・見守りあり	対象児がパズルを運んでいた際に、転倒した可能性があるが、職員が見ていなかったため不明。パズルは紙製のA4より大きなサイズで、通路は児童が物を持って歩くには少し狭かった。	児童が歩くスペースを広くする。保育者は全体を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は机上遊びをしようとパズルを運んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	朝のおやつの用意をしていたので、対象児に背を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下で登園児の受け入れをしていた。	全体を見守る保育士がいなかった。	保育中、背を向けないようにし、常に全体を見て保育する。廊下に出ている保育士が部屋に戻ってから準備をする。	
10801	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折、右肩関節症	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	保育士の事故防止に対する意識が低かった	いろんな場面を想定した事故防止に関する園内研修を行う事で保育士の事故防止の意識をより高める	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	園庭のへこみなどの補修をしていたが十分ではなかった	園庭で安全に過ごせるように安全点検の時に園庭のへこみなどをしっかりと補修する	1.集団活動中・見守りあり	保育士が園庭全体を見ず、１つの遊びを重点的に見ていた	見守り人数が少ないときは、遊べる遊具をしぼり保育士が安全に見守れるようにする	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこが楽しくて、気持ちが高揚していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところにおり、本児が転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にも子どもがいたため、室内の子どもを見守っていた。	保育士がケガを未然に防ぐという意識で子どもたちを見ていなかった	戸外での活動中は特定の場所だけでなく全体を見渡し、ケガやトラブルの原因をなりそうな行為を行っている場合、声を掛け未然に防げるようにする	
10802	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	26				14	12			4	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　第5指中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	1.定期的に実施	2	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	転んだ場所は平たんだが、凸凹ある形状のコンクリートが敷いてある場所で、つまづきやすかった可能性がある。	集合場所の見直しをおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	帰園の声かけをした時に、公園の出入口付近に子どもたちが集まるようになっており、対象時も駆け寄ってきた。	4.対象児の動きを見ていなかった	主担は、他の児童を対応しており、対象時の動きは見てはいなかった。（場面切り替えが難しい児童がいるため。）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、対象児の動きは見ており、転んだ際にすぐ対応した。	職員は4人体制で万全を期していたが、場面切り替えが難しい児童が複数いる。	個別サポートがいる児童、全体の安全確認をおこなう職員の動きを明確にして、しっかり連携をはかっていく。また、今回は、掃り傷等の応急処置ならびに観察をはかっていたが、受傷後すぐに腫れが見られず、受診が夕方になった。打撲の際は、骨折の可能性もあることを考慮して、処置ならびに受診判断をおこなう。	
10803	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	27				14	13			2	2	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	本児が遊びの中で移動する際に慌てないようにと声掛けをするのが遅くなった。	遊びの中で移動する際に慌てず、ゆっくりと歩く様に声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	机上でブロック遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が見える近くにいたが他児の対応をしており、移動して転倒した瞬間は見れていない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任よりは本児と離れたところにいて他児の対応をしていた。	保育者が分散して園児の対応にあたっていなかった。	保育者全員が園児の対応に当たらず、1人は全体を見渡せる状態にする。保育中の安全確認を行い、事故防止につなげる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10804	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									2	1		17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折・右尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1000	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	4月から竹馬で遊び始め、乗れる児童が増えてきたことで、当該児童を含む児童や職員にも油断や過信があった。 特になし	活動前に、安全面への注意を促すとともに、職員体制によっては活動人数を制限し、児童の様子を丁寧に把握する。	1.いつもどおりの様子であった	所庭に水線で順路が書かれており、その上を自分で竹馬で歩き終え、竹馬から降りようとしていた。当該児童は随分スムーズに竹馬に乗れるようになり自信をつけていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童のすぐ近くに居り、当該児童が水線のコースを歩き終え、竹馬から降りようとしているところは確認している。その後、補助が必要な児童に目を向けた瞬間、竹馬が地面にぶつかる音がして、視線を向けると当該児童が倒れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで、他の児童の補助をしていた。	担任や会計年度任用職員それぞれが個別に児童の補助をしており、全体把握する職員がいなかった。	全体把握する職員を配置し、危険を事前にキャッチできるようにする。	
10805	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									4	4		17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手　中指、薬指骨折（ひび）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	12	跳び箱の位置関係。	2台の置き方は無理がないように思われたが、2台で交互に跳ぶなどして複数の保育者が見守れるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱を跳ぶときの手のつき方が丸くなっていた。	跳ぶ前に手を大きく開けてしっかりつくことを再確認し意識づける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じように跳ぼうとしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱の補助ができる範囲でついていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と対象側にいて、いつでも声をかけられる位置にいた。	本人も保育者も跳び箱を跳ぶことに慣れてきていた。	体育道具を使うこと、危険が伴うことをもう一度再確認し、緊張感をもって参加できるように子どもに声をかけたり保育者自身がすぐに動ける体制を取る。また広い視野を持ち子どもの様子を見守るよう常に意識する。	
10806	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	26									2	2		16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上右前歯の歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施		2.不定期に実施		特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	両手で雑巾を抑え、手を少し前に進め、続いて片足ずつ前に動かす方法で拭き掃除を行っていた。床の拭き掃除は落ち着いたペースで行っていたが、慣れてきていたために慎重さに欠けていた。	手を進行方向（縦）に進め動かすのではなく、雑巾を持った腕を左右（横）に動かして拭き掃除をする方法に変更した。	1.いつもどおりの様子であった	他の児童と一緒に雑巾で床の拭き掃除をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は、子どもたちの対面に立ち、拭き掃除の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・絵本を見ていた一部の児童がトラブルになり、その対応を行っていたため見ていなかった。	特になし	特になし	
10807	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43				23	20				4	2		17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	皮下血腫	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	所庭が広いため、保育士から死角になる部分はあった。気づいても止めに行くまでに距離がある。	遊具や花壇などの危険な場所では走らない、走ってよいところと遊ぶところを区切る。これらのことを毎回、遊ぶ前に子どもたちと確認し、習慣付けていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具自体に不備はなかったと考えられる。自由に走っていた児童に対して危険につながる予測を怠っていた。	遊具やその周りで起こりうるケガや事故について職員と考える必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	急に走り出した児童をみたものの、危険の予測や声掛けができていなかった。	走ることを禁止するのではなく、集団で身体を動かすルールのある遊びにシフトするなど、走ってもケガや事故が起きにくい環境の見直しをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良もなく、普段道理の様子であった。滑り台の横でしゃがんで、他児の様子を見ていたりしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	走っていた児童、滑り台横でしゃがんでいた児童、どちらも把握はしていたが、ずっと2人に注視していたわけでは無かった。走っていた児童が滑り台横の児童に気づいていないことの把握もしづらかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士同様、他の児童の要求に答えたり、いろんな場所に目配りはしていた。	急に走り出した動きが危険につながると予想できなかった。職員みんながなんとなく全体を見ており、どこを中心に見ているのかを声掛けできていなかった。	自由あそびの時は開放的になりやすいため、遊具とそれ以外の場所と主に見守る場所の分担を声掛けしておくべきであった。	
10808	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13									2	2		16.4歳	1.男児	・発達面で、注意散漫な様子や、気持ちがたかぶると自制することができにくいところが見られる。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯根破折・右下B歯冠破折・下唇裂傷・左上A外傷性歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1000	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	こけた原因は不明だが、子ども用の椅子が机の中に入れられておらず、机から出た状態になっている椅子が複数あった。	机から飛び出した椅子に躓き、転倒することも考えられる。席を立った際には、必ず椅子を机の中に入れるように指導し、徹底して行えるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	遊びを決められず、室内を歩き回る姿があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きに気付き、声をかけようとしたところに、他の児童から声をかけられ、一瞬目を離した際にケガをしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と遊んでおり、当該児童の動きを見ていなかった。	全体把握をできている職員がいなかった。	複数の職員で保育している時は、全体把握をする職員を決め、その職員が中心となって児童の動きを正しく把握する。また、職員間で連携し、児童が安全に生活できるよう努める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10809	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	軽量マットを主に使用。	マットを落下した時に衝撃を吸収しやすい、より安全なものを購入する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児童はいつも通りであったが見本を見せるにあたり嬉しくなり気持ちが高ぶっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児が並んで座り、当該児童の逆上かりを見ていたため、他児を囲むように端と端に座って見守る	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	体育指導員は当該児童の逆上かりを至近距離で補助	指導員の油断	子どもはとっさに何をするかわからない上、まさかの事を想定し、いつでも補助ができる体制を取っておく事と、見本を見せる時、再度「しっかりと鉄棒を持ち手を離さない」などの約束を伝える等の指導が必要である。	
10810	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									2	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右顔面挫創	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	280	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	所庭での保育において、倉庫前が死角になることが、今回の事故でわかった。	死角になる所は、入れないように安全コーンを設置することもに、子どもたちにも倉庫前では遊ばないように伝える。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童は、所庭で5～6人の子どもたちと一緒に虫探しなどをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	3歳児クラスの児童が、所庭の広範囲で遊んでおり、他の児童が遊んでいるのを見守っていたため、当該児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助職員は、別の場所で子どもを見守っており、当該児童の動きを見ていなかった。	普段は遊びに行かない場所だったため、倉庫前付近で子どもが遊んでいることに気づかなかった。	全体を把握できるように、職員の立ち位置に気をつける。	
10811	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	10									2	2	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の外傷、歯の破折 外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	活動場所の選定のしかたについては、クラス担任の裁量が大きい。	クラスの状況に応じて、屋外活動場所ごとに配置人員のめやすをつくる。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	毎日	転倒した箇所近くがブロック敷きの歩道で、隆起や排水溝があった。それにつまずいた可能性がある。本児から離れた場所にいたこともあり、危険箇所としての認識ができていなかった。園庭ではないため、細かい危険箇所のチェックが難しかった。	こどもが遊ぶ（通る）場所として適しているかどうか、今まで使ってきた公園や遊び場所・散歩のコースについて、あらためて安全点検・検証をおこなう。また、定期的にこれらの点検をくりかえし行う。	1.集団活動中・見守りあり	年齢的には、こどもが自分の好奇心のままに保育士の手が届かないところにいってしまうことがある。クラス内児童の発達の傾斜も大きい。	そのクラスの児童の発達状況に合わせ、見守りの人員を増やしたり、安全性の高い活動場所を選ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	声かけで集団のほうに戻ってきていたので、途中で本児らに近づくのを止め、ふりかえって残っている8名の集団のほうをみた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者の周りにいるこどもたちの見守りを行っていた。	ちがう場所に走り出した本児らを見た時に、どちらの保育士が追いかけるべきか、と一瞬のためらいが生じたため、手の届かない範囲に行くことを止められなかった。	人員を増やしたり安全性の高い活動場所を選び、子どもとの距離が離れすぎないように気をつけて見守りを行う。	
10812	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第一中足背骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	事故予防に対しての1年に１度の研修のみであった。	園内のヒヤリハットを通して、月に一度スタッフミーティング時に園内研修を行い、全員で確認する。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	数	2.不定期に実施	数	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	じゅうたんの部屋で保育していたため上靴を履いていなかった。床に使用した後の玩具は落ちていた。	使用していない物は片づけ、動線を整理する。使い終わった物や使用したものは片づけてから次の活動に向かうように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	女児と一緒に保育室内の棚やクラスで作っている段ボールの家の後ろなどを利用してかくれんぼをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児の活動に加わりながら、本児たちの動きを見守り、時には「先生(僕たちは)どこだ？」と聞かれたので、何度か見つけて一緒に遊んでいた。	ー	無し	新年度クラスの生活体制になっており、5歳は唯一空いている0歳児の部屋で工作遊びをして過ごしていた。	1人担任なので何かあった時、すぐに他の職員が対応できるような態勢や連携を取る。	
10813	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26		3	6	9	8				3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊具のまわりには安全マットは置いていたが、入れ替えを検討していた。	転倒した場合などを考え、遊具のまわりの安全マットの入れ替えを行った。	1.いつもどおりの様子であった	通常遊んでいた遊具だった。その遊具に集中して遊ぶ子どもたちが多かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具について子どもたちを見守っていたが、保護者の対応に気をとられ、他の職員に声をかけなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児に対応していた。一瞬のことで転倒することを止めることはできなかった。	人気のある遊具であったため、集中して子どもたちが遊んでいた。	子どもたちが遊具に登っている場合は、必ず見守りをし、離れる場合にはよりも他の職員に声をかけ、交替して見守る、遊具に子どもたちが集中した場合は人数制限をし、子どもたちにも順番に登ることをも伝える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																													
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他																																						
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10814	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	36	19	0	0	0	17	0	0		2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	走り出す時の子ども同士の間隔が狭かった。	子ども同士がぶつかり合わないよう，人数を少なくしたり，間隔を広くとったりする。	1.いつもどおりの様子であった	走ることが好きなので，いつも通り走り始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタート地点でスタートの合図を出していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴール地点で本児が走ってくるのを見守っていた。	特になし	特になし	
10815	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18				6	6	6			2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	本児がスリッパで遊んでいたが危険性を認識できていなかった	スリッパの片付けを確認し、危険性を理解できるよう子どもたちに繰り返し伝える。保育室の環境に合うよう、その都度環境を見直し危険のないようにする	1.いつもどおりの様子であった	スリッパを気にして遊ぶことがあった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の対応に当たっていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の対応に当たっていた	保育室やテラスに出て自由に行き来していたので、目が届いていなかった	職員がどの位置からでも子どもを把握できるようにしていく。	
10816	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41	0	0	10	11	9	11	0		6	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫 左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	チャイルドハウスの窓枠は、地面から４５cmの高さで、時々、窓から出入りする子どもがいたが、子ども達に約束ごとを知らせていなかった。	チャイルドハウスの窓からは出入りしないよう、定期的に言葉をかけたり視覚でわかるようなものも掲示するなどし、子どもたちにわかるよう知らせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	修了祝う会を終え、就学前で気持ちが高ぶっている状況で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見守っていたが、当該児童を含む５歳女児数名が気持ちが高ぶった様子でごっこ遊びをしていたことや、当該児童がチャイルドハウスの窓枠から入ろうとしている様子に気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ながら児童と一緒に追いかけっこや虫探しをしたり、砂遊びのそばについておいたが、当該児童の様子に気付かなかった。	職員同士で、児童の様子、状況について、声を掛け合い見守ってはいたが、立ち位置の連携ができていなかった。	子どもの動静把握をし、遊具付近に子どもがいる時には、保育士同士で声を掛け合い、そばに職員がつき見守るようにする。	
10817	令和6年6月10日	1.認可	8.家庭的保育事業	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		3	3						3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A1A外傷性歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	安全な保育環境について職員の意識が統一できていなかった。	全員で安全対策について話し合い、自園のマニュアル作成をする。	2.不定期に実施	随時	3.未実施		1.定期的に実施	24	環境の見直しが出来ていなかった。	安全な教育・保育環境を確保するため、室内遊びの見直し、棚や机の位置の検討をして改善する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	おもちゃの片づけを急いでしようと走り出した時に足が引っ掛かり転倒	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童が楽しそうに遊んでいるのを見守っていたが、突然の事で対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のコーナーで他児の見守りをしていた。	保育者と一緒に遊ぶ中で子どもの気持ちが高ぶっていた。	子どもが興奮状態の時は、声をかけて気持ちを落ち着かせる。	
10818	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27				2					2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	0	2.基準配置	マニュアルを会議等で職員全員で確認できていなかった。	今回のケガを通して今後は職員全体で共有できるように検討していく。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	走って遊んでいたときに前方にこけて左腕をついて転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見守っており、転倒した本児のそばにすぐにかけつけて、園児の訴えをきいて事務所へ行った	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児の見守りを行った。	一定の方向を走るようするなど、遊びのルールを決めていなかった	走る方向など遊びのルールを確認して遊ばせるようにしていく。	
10819	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43				10	19	14			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯２本脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	夕方の疲れて体力のなくなる時間帯にフープを使い跳んで遊んだ。また、その側にカゴが置いてあった。	夕方における遊び方の見直しと物の置き場所の見直しを行う	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来られた保護者の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応を行っていた。	広範囲での見守りができていなかった。	夕方遊ぶときの玩具の制限、遊びの制限をする。職員の役割分担の見直しをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10820	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52				14	16	22			7	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	修了を祝う会の前日で児童が落ち着かない状況の中、鬼ごっこ（走る遊び）をするべきではなかった。	特に行事前の落ち着かない状況では、遊びの内容や遊び方を考え工夫する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保護者が普段より早くに迎えにきて担任と話していた為、落ち着かない状況で所庭で鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	所庭と保育室を行き来しており、当該児童がケガをした場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と遊んでいたため、本児が転倒したことに気付いていなかった。	所庭で鬼ごっこをしている児童を見守る職員（担任B）は児童の安全面を見守るという、事前に決めた役割分担を徹底し、児童から離れる時は他の職員に声をかけるなど、児童の安全を最優先に保育を行うようにする。	担任Aは修了を祝う会の準備（結果的には保護者対応となる）、担任Bは児童の安全面を見守るという、事前に決めた役割分担を徹底し、児童から離れる時は他の職員に声をかけるなど、児童の安全を最優先に保育を行うようにする。	
10821	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20				6	8	6			3	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折、擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	120	1.定期的に実施	280	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	「だるまさんがころんだ」は、振り向いて後ろを確認せずに走ったり、至近距離にいる鬼から逃げるために勢いよく走ったりするため、所庭が狭く異年齢の合同保育の時間で遊ぶには安全な遊びではなかった。	狭い所庭で、かつ異年齢の合同保育の時間であっても安全に遊べるよう、遊びの内容や遊び方を考え、工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	３歳児5、6人で、「だるまさんがころんだ」をして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの様子を把握できるよう、全体を見渡せるところに立っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	所庭の端にある砂場等で遊んでいる子どもや、トイレに行っている子ども等に対応していたため、離れた場所にいた。	特になし	特になし	
10822	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具等定期的に点検を行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	片付けの時間帯に急な雨で、短時間ではあるが注意が逸れ、プールと柱の間を走っている子どもを止めることができなかった。	事故が起こった場所は、普段から「入らない」という約束をしているが、再度子どもたちに注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	急な雨と、片付けの時間帯が重なり、遊びを切り上げることが出来なかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	急に雨が降ってきたため、子どもたちが総合遊具から安全に降りることが出来るよう援助していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	障がい児に付き、遊びを切り上げるよう対応していた。	片付けの時間帯と急な雨で、総合遊具から子どもたちを安全に降ろすため、短時間ではあるが注意が逸れた。	子どもたちを落ち着かせ、余裕をもって片付け～屋内へと移動する。	
10823	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	2	2	3	1	4	0			2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	立って踊っているところを見守っていたが、声掛けをしていなかった。	室内遊びの時は、ゆったりと過ごせるよう座って遊ぶように伝えていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	裸足であったが、フローリングで滑りやすかったと考えられる。	室内での遊び方について、危険がないよう見直しをする。	3.個人活動中・見守りあり	初めての土曜日保育で、本児も他児もいつもと違う環境で気持ちが高ぶっていた。	座って集中できる遊びを提供するなど、危険のないように配慮する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	子どもの人数が少なく、いつもと違う保育室のため気持ちが高ぶっている姿があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故の予測が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の環境整備（片付け等）をしていた。	好きな遊びを楽しみながら過ごす中でも、危険な行動がないか等細心の注意を払うことができていなかった。	子どもの状況を見ながら、予測できる事態にすぐに対応できるよう、職員同士が声を掛け合う。	
10824	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									2	1	15.3歳	1.男児	特になし	4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足趾親指付け根の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	子どもが小走りしたことを止めることができなかった。	室内は走らずに歩くことを徹底する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具等を定期的に安全点検を行っているため特になし	5.睡眠(午睡)中	入口の扉が開いたままであった。	扉は開けたままにせず、閉める。	1.いつもどおりの様子であった	登園時からいつもと変りなく、元気に過ごしていた。13:15入口の扉が開いていたため、当該児童が閉めに行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児の午睡準備の援助をしながら、当該児童の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の午睡準備の援助をしながら、当該児童の様子を見守っていた。	当該児童が泣き続けている姿を見て「甘えている」と思い込んだことで、怪我の判断や確認が不十分となり、対応が遅れた。	泣いている理由を丁寧に見極める（甘えなのか、怪我をしていないか、痛む箇所はあるのか等）	
10825	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	25									3	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕橈・尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	公園の遊具が児童の発達に合っているか把握できていなかった。。	散歩マップを作成中。道中、公園等での危険個所及び注意点を洗いだし、職員全体で共有する。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	100	1.定期的に実施	300	特記事項なし	公園での事故であるため公園管理事務所所管	1.集団活動中・見守りあり	それぞれの遊具で遊ぶことに対して見守りが不十分であった。	遊べる遊具の数を制限し、見守り可能な範囲にとどめる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	平均台を端から端まで歩くことをとても楽しんでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	担当職員は本児ともう一人の園児を左右の手で一人ずつ繋いで平均台を歩かせていた。段を降りる時にバランスを崩し、つないでいた手が離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の２人の職員は、それぞれ別の遊具で遊ぶ子どもたちの見守りをしていた。	一人ずつ手をつないで歩かせるという安全確保が出来ていなかった。	遊べる遊具の数を制限し、見守り可能な範囲にとどめる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事			発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上 5歳	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
10826	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	23								3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	園児の混雑を避けるために2クラスを分け、職員も二手に分かれて見守っていたが、広範囲になると目が届かない箇所が発生していた。	遊具によっては2クラスが合流し、職員数を増やして見守るようにする	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	外部施設内の「●●」は改修され事故現場となった遊具も比較的新しく欠損などは見られなかった。その他の場所では老朽化し欠損している箇所が見られた。	危険な箇所は使用しない、また使用時には子ども達に注意を促すなどを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具で遊ぶ前に約束事を伝えていなかった。	事前に安全に遊ぶためのルールを知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	ネット遊具【山の岩】で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児と少し離れたネット遊具で他児と遊びながら見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具の分かれ道についており、事故の様子を見ていた。すぐに本児の状態を確認し、別の職員へ引き継いだ。	走っていて、足をとられた。	走らずに足元をしっかりと確認しながら、手を添えて渡るよう遊び方を知らせる。	
10827	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26			6	6	9	5		2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の点検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	他児から話しかけられたため、一瞬その場を離れ目を離してしまい、危険な状況に気づけなかった。	鉄棒から目を離す状況になる際は、遊びを中断する。または、他の職員に対応を依頼し、見守りが途切れないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもより積極的に鉄棒に挑戦していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児から話しかけられたため、一瞬その場を離れ目を離してしまい、危険な状況に気づけなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離により、担当者・対象児の動きを把握しながら他児の安全を見守っていた。	他児から話しかけられたことで目を離してしまい、危険な状況に気づけなかった	職員間の連携・子どもが遊んでいる状況の把握・大型遊具には必ず大人が傍について見守り遊び方を知らせる。見守りが途切れないようにする。	
10828	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				13	18	7		4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ脱臼、成長軟骨の池み	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具等の安全点検も定期的に行っているため、特になし	3.個人活動中・見守りあり	屋上園庭の遊具（玩具）のタイヤ（計６個）の置き場や遊ぶ範囲が明確に決まっておらず、他児が遊び終わった後タイヤが園庭に点々と置いてあった。	園庭内のタイヤの置き場所やタイヤを使って遊ぶ範囲を決め、職員間で共有し、児童にも知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	友達と追いかけっこをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体が見える位置で、対象児を含め全ての児童が遊んでいる様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の様子を気にしつつ、他児と一緒に遊んだり加配が必要な児童を見守ったりしていたため、対象児の事故が起きた瞬間は見ていなかった。	他児がタイヤを転がして遊んだ後、園庭に点々とタイヤが置かれていたが、片付けたり移動をさせず、そのままにしてしまっていた。	タイヤで遊んでも良い範囲や置き場、追いかけっこ等で走って遊べる範囲を決めて職員間で共有し、ルールとして児童にも伝える。また、事故につながりかねない場面があればその都度、児童に声かけをする。玩具が無造作に置かれていたら片付けるなど常に児童の動き及び環境を意識し、怪我のないよう見守る。	
10829	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20								2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	1.定期的に実施	毎日	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	転んだところに机があった。	室内の生活環境や子どもの動線を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなく、元気に過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	「危ないから止まりなさい。」と注意した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。	走らないように声をかけたが、転んで転倒した。	慌ただしい時間なので、子どもが興味を持つような落ち着いてあそべる工夫をする。また、注意するだけでなく、他のあそびに誘う等気分転換を図っていく。	
10830	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26				7	7	12		2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右 第2趾骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具等の安全点検も定期的に実施しているので、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	1日を機嫌よく過ごし、部屋移動の前に座ってお茶を飲んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	部屋移動するために整列している子どもたちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降所準備の確認や他の子どもたちの様子を見ていた。	担任が休みで、別の保育士（普段から関わりがある職員）が担当していた。いつもと違う状況で、言い出しづらかったかもしれない。	普段、関わりのある保育者でも、担任が不在時の不安や心細さを埋めきれないことはあるので、より気にかけて見たり、声をかけたりして、変化に気づくよう努める。	
10831	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28								2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯2本の陥入	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	特になし	今後もミーティングや研修により、日頃から全職員が事故予防に対する心構えや知識の習得に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	設備面での要因は無し	破損箇所や気になる箇所をこまめにチェックする。	1.集団活動中・見守りあり	裸足で走ると、滑るということを想定していなかった。	滑ることがあるという旨を子どもに伝え、注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	友達4人で「しっぽ取り」を行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	追いかけられていた時でもなく、ゆっくりとした動きのなかで1人で転倒したため、受け止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒に遊び、ゲームの進行をしながら、ルールの説明等を行っていた。	特になし	特になし。（今後も全体をしっかり見守っていく）	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面							改善策	環境面			人的面							改善策		
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項		
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
10832	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設数地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28				9	10	9			2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の動揺	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に実施しているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中,見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	築山の周辺を走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所で大縄を回して遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応をしていた。	時間差で屋外に行くなど、工夫や配慮が足りなかった。	屋上での過ごし方について職員で話し合いを行い、子どもたちに遊びのルールを丁寧に伝えていく。	
10833	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設数地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘橈骨頭圧迫骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	職員配置に問題は無いが、今後はより注意して見守り、危険を予測した際は、児童に適切に声を掛け注意喚起を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	300	特になし	施設・遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊具の配置を見直す。活動前に児童へ遊びのルールや注意点を伝える。例に大人が付いて見守り、必要に応じて補助ができるような体制を取る。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない姿であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	給食を食べ終えた児童が遊ぶ姿を見守っていたが、跳び箱からは少し離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食を食べている児童の援助を行っていた。	職員が、跳び箱から少し離れたところで見守っていた。	傍に大人が付いて、適切に補助できるようにする。	
10834	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	3.施設数地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	40				12	15	13			6	6	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～2	1.基準以上配置	初めて訪れる、慣れない環境であった。	事故発生時の対応を中心とした研修を主にしていたため、安全管理や事故予防も研修内容に組み込んでいく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の点検を定期的に行っているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	自然物を入れる袋を持ち、少し坂になっていた公園内道路の植え込み部分を歩いていた。	自然物を拾うことを楽しむ時間と歩く時の区別をつける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遠足ということで気持ちはいつもより高ぶっている状態であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団の前方を歩きながら、全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていた。	自然が只山ある環境で、周りに興味を持っていた。本児は散策に夢中になりながら、前の集団に追いつこうとする焦りもあった。	遠足での時間設定、活動内容、職員同士の連携方法等について、子どもの姿を踏まえて検討する。	
10835	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設数地内(室内)	7.異年齢構成	41	0	0	0	19	0	22	0		4	3	15.3歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	綿帳を束ねている紐が緩んでおり、その紐に足をかけて登ろうとした。	綿帳をしっかり束ね、壁際に留め、登れないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	職員の目が行き届いていなかった。	職員間で事故の情報共有・見守り体制の確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他児の着替えを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児におやつの提供を行っていた。	日頃から色々なところに登らないよう伝えているが、綿帳に登ったりぶら下がったりすることを止められなかった。	危険性を理解できるよう繰り返し伝える。傍について見守るようにする。	
10836	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	1.施設数地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	担任1名が休みのため、担任以外の保育者が担当していた。	担任の代理を配置する際、可能な限り同じ保育者が担当し、こどもの姿の把握や担任との連携をスムーズにする。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	本児の周りに落下物等はなく、床も濡れていなかった。	何もないところでも転倒する可能性があるということを全職員で認識しておく。	1.集団活動中・見守りあり	参加人数が多かった。	安全が確保できるよう、参加人数を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、ゲームに参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ゲームの審判をしていたが、事故が起きた瞬間は別の子どもの方を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の保育室で保育をしていた。	危険予測が不足していた。	ポールやこどもの動きをよく見て、密集していないか、こどもが疲れていないかなど事故のリスクを予測して、未然に防ぐ。	
10837	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	3.施設数地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20				11	9				5	5	15.3歳	2.女児	実年齢よりも体幹が弱く、日頃から転倒しやすい。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	ビッグバン施設内のでの事故であり、公的な安全点検等が行われているため、施設全体の問題はないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	普段走り回っている園庭との接地面の違いや、保育士が「問題がない」と考えていた段差（約20cm。ワニの遊具の出口）に引っかかって転倒し、事故に繋がったと考えられる。	職員同士で安全面、危機管理について、再確認する。状況に応じた職員間の連携を強化する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外保育ということもあり、普段より気持ちの高ぶりはあった。行きなれていない場所であり、目に入るものがいろいろと気になり注意力が散漫になっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	駆けつけることのできる距離にはいたが、本児は保育士の死角になるところにいた。事故が起きた場所は、大きな段差ではなく、問題がないと思っていたため、他の場所を優先的に見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	駆けつけることのできる距離にはいたが、本児は保育士の死角になるところにいた。事故が起きた場所は、大きな段差ではなく、問題がないと思っていたため、他の場所を優先的に見守っていた。	日頃から転倒は多いものの、今まで大ケガにはつながっていなかったため、体幹の弱さに対する個別配慮の意識が薄くなっていた。	人的環境を整えるためには、個々に応じた支援・配慮を常に念頭に置き、広い視野と高い意識を持って、チームとして行動することを職員全員が共通認識する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
10838	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51				18	14	19			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具等の安全点検も定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	勢いよく走っていたため、コンクリート部分で滑ってしまった。	渡り廊下、コンクリートの部分は滑りやすいことを子どもたちに常に知らせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	大好きな鬼ごっこをしていたので気持ちが高揚していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	３，４，５歳児で園庭遊び中。死角を作らないよう保育者で園庭全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他2名の職員も同様に役割分担し、死角を作らないように園庭全体を見守っていた。	特になし	職員が連携して死角がないように見守りを行っていたため特になし。	
10839	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	3.施設敷地内(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23					13	10			4	4	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修も定期的に行い、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	52	2.不定期に実施	随時	1.定期的に実施	300	特になし	●●公園での事故であり、公的な安全点検が行われているため、施設全体での問題点はなかったと考えられる。また、公園で遊具を使用する際には保育士が点検を行っている。	1.集団活動中・見守りあり	年齢と発達に即した遊具の選択ができていなかった。	年齢と発達に即した遊具を選択する。	1.いつもどおりの様子であった	散歩が楽しみで、足取りも軽く機嫌もよかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・雲梯の到達先に子どもを補助しながら支えていた。 ・本児に対しては、背中を向けた状況で台の上にて待機させていた。「待っててね」と声かけをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児担任（2名ども）は、どんぐり拾いをしたため、5歳児のいた場所に背を向ける状況だった。	公園での見守りが不十分であった。	重大事故につながる箇所を共通認識し、保育士を配置する。	
10840	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	15									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲の部分骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	一度に複数の活動を入れた事で、子ども達への配慮が足りなかった。	次の活動に移る時は、手順通りにし、時間に余裕を持って進める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	設備に不備はなし。	設備に不備は無し。	1.集団活動中・見守りあり	玩具が散らばった状態でトイレ、手洗いに行かせた。	次の活動に移る時の安全面の確認をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	手洗い後、戸外遊びに早く行きたい様子があった。 あわてて走ってしまい、下を見ず玩具につまづいてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任３名で保育中。１名はトイレの付き添い、１名は洗面台に付き添い、１名は玩具の傍にいて所児と共に声かけしながら片付けをしていた。本児には走らない様声掛けをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	手を洗って玩具の所に戻る本児をみていた。転びそうになったので手を出したが間に合わなかった。	遊んでいた玩具が散らばった状態で、トイレ、手洗いに行かせた。	子ども達の動きに合わせた無理のない設定保育。 安全な環境設定。	
10841	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端剝離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、定期的に研修実施、職員基準配置を満たしているため特になし。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	特になし	定期的に安全点検を実施しているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	寒い時期でしっかり身体がほぐれていないと怪我をしやすい状況であることに留意できていなかった。	外遊びの前は体操を行うなど、手首や足首も含めてしっかり身体をほぐしてから遊び始めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールで遊んでいた時、相手ボールに当たったため、外野に出ようとしたところ足を捻いた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッジボール、鬼ごっこ、なわとび、砂遊びに遊びが分散しており、担任は砂場の児童につきながら全体を見守っていたが、当該児童が左足を捻いた場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担任は休憩中であったため、他に当該児童の動きを見ていた職員はいなかった。	特になし	全体を見守っている職員がおり、不慮の事故であるため、特になし。	
10842	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	19									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員基準配置のため、特になし。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は行われているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	散歩先で遊んだ後の帰園時のため、疲れが原因とも考えられる。	疲れも考慮し、余裕のある散歩計画を立て、安全なペースで帰園する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	散歩先ではよく走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	帰園時のため、列の先頭で見守りをおこなっていた。対象児から離れていたため、転倒の際援助できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	列の最後尾で見守りをおこなっていた。対象児から離れていたため、転倒の際、援助できなかった。	段差につまずいて転倒した可能性がある。	事故につながる可能性がある箇所は、声をかけ、注意を促す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10843	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47			11	12	15	9			3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の破折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	300	特になし	転倒した場所はゴムチップ舗装にしており、クッション性の高い地面であった。これ以上の改善策は見当たらない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	大好きな鬼ごっこを友だちと楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	そばで見ていたが、泣き声で気付いた。当初は外傷もなく、主任保育士に報告し一緒に具合を見てからその後すぐに迎えにきた保護者に報告。お母さんにも一緒に見てもらい、大丈夫とのことでしたが何か異変があれば知らせてもらうように伝える。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他2名の職員も役割分担しながら、園庭で遊ぶ子どもたちを見守っていた。	全体的に見守る中での自由遊び中であったため、対象児の鬼ごっこだけを見ているわけではなく、指摘されて引っ張ったことに対する勘違いから押してしまう一瞬の出来事を止めることはできなかった。	更に園児の動きをよく見て保育にあたる	
10844	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	3	5							2	2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	28	2.基準配置	特になし	今後も研修等を通じ、一人一人の危機管理意識のより一層の向上に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	約120	1.定期的に実施	約300	特になし	定期的に安全点検を実施することに加え、ヒヤリハットなど職員の気づきを共有し、事故防止に取り組む。	1.集団活動中・見守りあり	・遊びのスペースが広くなってしまい、見守りの目が行き届きにくかった。	・衝立を利用し、活動に合わせた遊びのスペースを作り、子どもをしっかりと見守るようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	朝のおやつの時間となり保育士と片付けを行っていたが、途中でおもちゃを持っている友達のところに移動した。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童が友達のところに移動する様子は見ていたが、他の子どもの片付けの方に目を向けた一瞬の隙にケガをしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1歳児の子どもたちと一緒に片付けを行っていたため、片付けに気が向いており、当該児童がケガをした場面を見ていなかった。	2人の職員の目線が同じ方向をむいており、全体を見守ることができていなかった。	保育士の立ち位置を確認し、声をかけあい、全体を把握するよう意識する。	
10845	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12									2	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	所庭が乾燥して滑りやすくなっていたことや、多少の起伏がある為転びやすかった部分もあるのではないか。	子どもが活動する際に、少し水を撒く等して滑りにくくすることや、気付いた時に起伏を整地するなどして、所庭の環境改善を図る。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこで逃げる際に、向きを変えようとして自分で転倒した。	日々の遊びの中で身体の使い方や、体幹運動などを行う。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ逃げる際に、方向転換をしようとして転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもと一緒に鬼ごっこをしながら全体に目を配っていた。本児が転倒した際、は、離れてみていたが、すぐに駆け寄り、けがの状態を確認した。また隣所まで、本児に痛くないが確認をし、様子を観察していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で、配慮のいる子どもへの対応を行っていた。	気になるケガがあった場合、所長・主任に報告し、複数で確認するべきであった。	保護者対応が必要なケガがあった場合は、所長・主任に報告し様子を確認する。	
10846	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲による歯茎動揺	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	基準配置人数ではあったが、取り合いをしないというルールの内容をもっと細かく決めるべきだった。	ゲーム開始時に子どもにルールを再確認し、ゲーム中ルールが守れていない時は、早めに声かけをする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	毎日	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に実施しているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	外野にいた2人が競い合うように慌ててボールを取りに行き、本児は勢いよく走り、手をつかずに転倒し、地面で歯を打った。	子どもたちと危ない行動の話合いをし、怪我をしないようなルールの再確認を行う。ボールを譲り合うルールも追加する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ドッジボール大会に向けて真剣に取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールを審判しながら、外野で追いかける本児を見守っていたが、。転倒したので駆け寄ってケガの状態を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任のもう1人は加配児童の対応をしていた。	本児はボールを他児と競い、取り合いをしないというルールが守れていなかった。	ルールを守っているかしっかり見て、声かけをしていく。	
10847	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	随時	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	戸板のぼりの取組みに対して、乗り越えることが出来つつあり、意欲的に取り組み始めたが、思うように跳びつけず悩む姿があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	戸板を支えながら、園児が戸板の上に来た時には、背中側の服を持つなどの補助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任2人での取り組みの為、他の職員はいなかった。	戸板のぼりの取組みを保育士2名で行っていた。保育者の取組みに対する慣れがあったように感じる。補助に徹する職員を配置していなかった。	戸板のぼりの取組みをする際は、必ず3～4名の保育者がつき、子どもの落下等を瞬時に防ぐような体制を整える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	以上5歳	学童	その他							死因		負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
10848	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10								2	2	15.3歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	マットがあるからという安心感があり、油断した可能性がある。	マットの点検を確実に行う。いつでも怪我が起こりうる意識を持ちながら見守る。	1.いつもどおりの様子であった	トイレの後、マットの上で片足で跳んでいて転倒し、腕をマットにぶつける。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の動きは担任が見ていた。お迎えの対応やトイレの援助でマットで座って待つように声をかけていた。怪我発生時は担任が患部を触診した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	行事準備、子どもを保育する等、分かれて従事していた。	マットで座って待つよう等声をかけたため、座って待っていると思い込んでいた。	色々な危険を想定して見守り、職員で声を掛け合って対応する。	
10849	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	41				21	20			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.2	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具等の点検は行っているが、今後も点検をこまめに行う	3.個人活動中・見守りあり	4・5歳で交代でホールで遊んでおり、混雑等ははなかった	今後も安全面に配慮したホールの使い方をする	1.いつもどおりの様子であった	大縄跳びをして遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と一緒に遊んでいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児と一緒に遊んでいた	保護者と連携しながら経過観察はしていたが通院までに時間がかかった。	けがをした可能性がある時の経過観察についての徹底を行う	
10850	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34			13	10	11			3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨末端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	12	階段、スロープは走らない、慌てない追い越しなどをしないというルールが徹底できていなかった。	階段、スロープは走らない、慌てない追い越しなどをしないようにするなど、あらかじめ指導することを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具で遊ぶことに気持ちが高揚していることから、我先に走り出す	子どもたちの年齢や当日の状況で公園の遊具、遊び方を選択する。玉出西公園では階段、スロープでの危険性等意識する。職員の誘導の下で移動を開始する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本人の動きには特に問題はなく、後ろから走ってきた他児にぶつかられてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任が先頭にいなかったので、子ども達の走るスピードを管理できず衝突を止めることができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスを見ていた（3歳児、5歳児）	遊具で遊ぶことに気持ちが高揚していることから、我先に走り出した。	活動の場面、場所を移動するときは、子どもたちに気を付けることを伝える。保育士が先頭で追い越さない、スロープは走らない等。走る時は、前につく保育士が速さを制限しながら安全を保てる速度で走る。また、職員間でも注意点や見守り方を共有し、連携を図っていく。	
10851	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24								2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第二中足骨基部裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検も定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	椅子の配置や間隔に問題があった可能性がある。	走るなど動きの大きな活動をする際には、もっと広い遊戯室などを活用する	1.いつもどおりの様子であった	椅子取りゲームを楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びに参加していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びに参加していた	転倒の際に子どもに十分な聞き取りをできていなかった。また降園時に保護者へ遊びの中で転倒したということを伝えていなかった。	転倒や危険な場面では、傷や痛めたところがないか丁寧に確認し、適切に対応するようにする。また、職員間の情報共有・遊びの中の役割確認を行う。	
10852	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17								2	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯右側 歯髄壊死（歯の神経損傷）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に実施しているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	カリキュラムや使用アイテムは講師のオリジナルであり、当園の保育士が本児の行動を予測しづらかった。外部講師と活動内容の連携が取れていなかった。	子どもたちが動くことを考慮して、椅子の間隔を今より広げる。密集する状態にならないように見守り、ぶつかったり、転倒するような危険を感じた場合は声掛けをしたり、制止したりする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	パペットを使ったカリキュラムが楽しく、飛び跳ねるほど気分が高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	カリキュラムを遂行中。パペットを使い、子ども達を楽しませていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当園担任保育士が1名、補助についていた。	講師は日本語が堪能ではなく、保育士とも英語は堪能ではないゆえ、互いの細かな意思疎通が困難であった。外部講師であるため、環境や子どもの特性を詳細には把握できていなかった。	英会話講師へも子どもの姿を伝え対策を共有する。危険を感じたり、園児が興奮しているときは落ち着くような言葉掛けや、カリキュラムの変更などの対応を依頼する。また、補助の保育士も危険を感じた時は子どもたちに声をかける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
10853	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				18	10	14			3	2	18.6歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく登園し、友だちと一緒に園庭で元気に遊んでいた。その後ハンカチがなくなったことに気づき、探していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童がハンカチを探しているところを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他2名の保育士は入室した子どもの保育をしていた。	小走りで戻ってきた。	日常的に移動時は歩くよう伝えていく。	
10854	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64			7	10	23	24			6	6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っていたため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事前確認・声掛けをしていたが、最終の確認を再度声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り木登りを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	（主担任は不在）副担任は園庭に出て全体を見ていた。（本人の近くにはいなかった）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児のそばにいたが、とっさのことで対応出来なかった。	とっさのことで対応できなかった。	木登りの援助について いる際には、適宜、声かけを行う。	
10855	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	95		10	17	17	24	27			12	12	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	他クラス・職員含め、補助や見守りを行う中での活動であったため、特になし。	1.いつもどおりの様子であった	登り棒に対して意欲的に臨んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	登り棒につき、児童の援助や声かけを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・登り棒の補助。 ・各担任はクラスの子どもと一緒に見ていた。	当該児童がどこまで登ることができるか、見極めきれなかった。	普段の様子から、どこまでできるのか見極め、子どもの状態を考慮した声掛けや介助を考え、担任が他の職員・子どもに対して適宜声を掛けていく。	
10856	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									3	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準は満たしているため、特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	子どもの目線で行動を予想しながら安全点検をする。	園庭の安全点検をクラス担任に任せず、違った目で実施するシステムを構築する	1.いつもどおりの様子であった	丸太を所定の場所に片付けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名の保育士は保育室に入った子どもたちの対応をしていた。もう１人は門のところにいる警備員で、子どもに声をかけていた。	木は大人が片付けるという話を聞いておらず、事故が起きてしまった。	子どもの行動が危険と感じた時は、 子どもの側に行って伝える。	
10857	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	25									2	2	17.5歳	2.女児	牛乳やスキムミルクを飲まない。ご家族と相談してお茶で対応。カルシウム接種が難しい。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に点検しているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	当該児童は一度に複数の動き（走る止まる落とす）をすることが難しい	ハンカチ落としの時は走らない、というルールのもと行う。	1.いつもどおりの様子であった	楽しそうに走っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちがハンカチ落としをしている様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちがハンカチ落としをしている様子を見守っていた。	気分が高揚すると危機意識が低くなり、動きを止められない姿がある。	安全を考え、 歩くというルールを決め伝える。	
10858	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	14				6	5	3			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	安全マニュアル、安全計画を整備し、且つ職員配置が適正である。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	安全チェックシートを基にして施設設備の点検を実施しているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし（マットがめくれている等の不備なし）	1.いつもどおりの様子であった	園庭外側に敷いているマットの上を歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が園庭外側に敷いているマットの上を歩いている姿を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の見守りを行いながら担当者と対象児の動きを見ていた。	特になし	適正な職員配置で教育、 保育を実施して見守っているため、特になし。	
10859	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	3			1	1	1				1	1	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	7.その他	雨でバスの階段が濡れていた	雨天時のバスでは、乗降の度に濡れている部分を雑巾等で拭き、事故を未然に防ぐ。	1.いつもどおりの様子であった	寝ており、保育者に抱っこされていた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	当該児童が起きなかったため、抱っこして降車した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	運転手は運転席にいた。	当該児童は眠っていたため、受け身を取ることができず、保育者とともに転倒した。	バスの降車時はバス停に着く前に起こし始め、しっかりと目が覚めた状態で自分でバスを降り、横から保育者が援助するようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面							環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
10860	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	50				#	#	#		3	3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	第一足趾基節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	普段の子どもの行動から、事故を未然に防ぐことができるよう撤数の職員で丁寧に見守る。また、遊びの内容や落ち着いて過ごせるような環境を整える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	桟の下部に隙間があり、足が引っかかったり、ぶつかったりしやすくなっていた。	引っかかったり、ぶつかったりしないよう、桟の下部にクッション材を付けた。	1.集団活動中・見守りあり	事故の予測ができなかった。	事故予防を意識し、保育環境を整備する。	1.いつもどおりの様子であった	足をぶつけた直後で泣いていたが、泣いている理由を数人の職員が聞き取りをしたものの、本児からの返事がはっきりしないまま母親のお迎えの時間と重なり、そのまま帰宅することとなった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児と離れたところから、全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えの時間帯であるため1名の保育者は保護者対応をしていた。	事故の予測ができなかった。	子どもの行動や環境から事故を予測し、防止する意識を高める。	
10861	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19		#	8					4	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右拇指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に実施しているため特になし	1.集団活動中・見守りあり	活動中、見守り体制があったため特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段通りに遊んでおり、ケガをした際に泣いたり痛みを訴えたりすることがなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	該当児の近くには他職員がいたため他の遊具付近で遊ぶ園児を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児の近くで様子を見守っていた。		遊具で遊んでいる時は、事故が起こりやすいため、職員同士で連携して様子を見守る。	
10862	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18								3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に実施しているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	ゆっくりと歩き始める、前の人から順番に歩くよう声をかけるなどの配慮が無かった。	全体的にゆっくり、子ども達の様子を見ながら歩くよう配慮する。また、いつでも手の届く範囲に保育者を配置し、援助できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	18名の子ども達の先頭におり、前を向いた瞬間に当該児童が転んだため、転んだ瞬間は確認できていない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいたが、援助は間に合わず、転んだ後すぐに駆け寄った。	保育者が手の届く場所にいなかった。	何かあった時にすぐに援助できるよう、保育者が付く位置を工夫する。	
10863	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12								2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	60	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具等の安全点検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	マットは敷いていたが着地点にはマットを敷いていなかった。	着地点にもマットを敷くようにする。援助方法の見直しをする。	1.いつもどおりの様子であった	平均台での活動には自信をもって取り組んでおり、若干緊張感のない様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児には平均台のスタート地点から声かけをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補助的な動きをしながら児童の安全を見守っていたが、本児がゴール地点に到着したため、次の子の補助につこうとしていた。	「いつもできるから大丈夫」という思い込みがあった。	落ち着いて着地するよう声をかける。着地するまで個々に応じた補助を心がける。	
10864	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30					#	#		3	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	●●●●の周囲には芝マットが敷かれている。	ケガ防止のために敷いている芝マットの砂を取り除き、クッション性が損われないように定期的にチェックをする。	1.集団活動中・見守りあり	滑る際に、友だちと右手をつないでいたため左手に体重がかかった。	再度、滑り台を滑る際は、友だちと手をつないで滑らないことや、飛び乗るように滑って過度にスピードを出さないように注意点を児童に伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	園庭遊び中、●●●●の滑り台を滑っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	●●●●全体を保育者が見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	うんていや他の遊具の補助についていた（全体が見渡せる場所にいた）。	危険な滑り方をしていたが、保育者が注意できていなかった。	危険な遊び方をしていないかを観察し、事故が予防できるように適宜声掛けをする。	
10865	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	0	5	5	3	4	5	0	5	2	18.6歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	怪我の対応が不十分であった	事故対応マニュアルを再度確認し職員が共通理解できるようにしていく	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	定期的に遊具・玩具等の点検は行っているが、予期せぬ行動をすることがある。	引き続き安全点検を行うとともに、園児にも危険予測をして行動できるよう話していく。	7.その他	本児が一人で外で待っていて、周りに見守る人がいなかった	保護者に、登降園時に園児から目を離さないように掲示や園だよりで伝える。上の兄弟から保育室に預け、乳児の支度は子どもを預けた後に行うようにするよう声掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった	4.対象児の動きを見ていなかった	幼児組の保育室に受け入れ前だったため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児組の保育室に受け入れ前だったため	受け入れ前でも園児が、一人でいると危険であるとの認識が不足していた。	保護者に、園児から目を離さないように声掛けをしたり、保育士の目の届く安全な場所で待てるよう配慮をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																								
10866	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	6									2	2	14. 2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内顆骨折、右上肢痛、左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	その都度実施	1.基準以上配置	園児の人数が少なかったため、職員の気の緩みがあった。	園児の様子に気を付け、お互いに児の様子を声に出しながら伝える。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	48	少人数のため、園庭が広く大人も走りやすくなっていた。	子どもの様子を見ながら大人が走る場所を限定するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	当日の出席人数が少なく、園庭で遊ぶには広すぎた。	人数に応じて遊ぶ場所を移動するなど、お互いに子の動きが把握でき臨機応変に準備する。	1.いつもどおりの様子であった	保育士と追いかけっこをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	初めは、他児もいたが、事故当時は、対象児と保育士のみであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児数人の砂場遊びに関わっていた。	追いかけっこが対象児のみだったため、走りながら全体も見ていた。	職員が2人のため、互いの動きを意識し、声を掛け合いながら死角のないようにする。	